

日本医科大学研究業績年報

第 53 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 53



平成 18 (2006) 年度

April 2006 March 2007

日本医科大学研究業績年報

第 53 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 53

平成 18 (2006) 年度

April 2006—March 2007

まえがき

学長 荒木 勤

いつも日本医科大学研究業績年報をみるのが待ち遠しい。教職員の業績に一喜一憂する今日この頃である。

本年も医学研究の最先端で、量的にも質的にも充実した研究が成し遂げられたであろうか……。

この年報を通して世界の医学の分野で評価され得る論文等の業績をみることができる。やはり日本医科大学の研究能力は国際的な場でリーダーシップを発揮し、多様な知的活動が展開されていると考えたい。

このことは医学研究の最先端で世界をリードするコアとなる優れた医学研究者が育成されつつあることを物語っている。

医学研究はもとより純粋な基礎医学研究であってもいい、またリサーチマインドを持った優れた患者指向型臨床研究でもいい。

基礎医学の振興やサイエンティフィックマインドをもった優れた臨床医師の育成につながる医学研究業績等が望まれる。

いま、大学における医学研究は低迷的な時代を迎えつつある。新臨床研修医制度のあおりをくって、医学部の卒業生がすぐ大学院、医局等に入って、若いうちから研究に没頭することは困難になった。この制度は大学の研究体制という環境に必ずしも良い影響を与えていない。本学でも医師不足による影響もあって研究への関与が時間的に困難になってきた。臨床面での過重労働が医学研究への興味を薄くしている。

本来は、主なる目的を基礎医学に専念する基礎系大学院の充足率は定員の25%とさびしい。

また、国の研究費の相次ぐ不正流用や不正経理がマスコミに報じられるほど、全く不正などに関与しない研究者でも、研究に対する意力が損害されることにもなりかねない。

このように医学研究環境は厳しくなった。しかし、わが大学の研究文化は健全である。本年同様、来年も研究の活性は期待できる。

終わりに、この業績年報の編集にご尽力ご指導下さった佐久間康夫研究委員会委員長ならびに大学院課の各位に深謝する。

目 次

〔1〕基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[心理学]	1
[歴史学]	2
[文化人類学]	2
[経済学]	3
2. 自然科学	4
[数 学]	4
[物理学]	4
[化 学]	6
[生物学]	7
3. 外国語	10
[英 語]	10
[ドイツ語]	11
4. スポーツ科学	12
[スポーツ科学]	12

〔2〕基礎医学

1. 解剖学第一講座	17
2. 解剖学第二講座	21
3. 生理学第一講座	25
4. 生理学第二講座	29
5. 生化学第一講座	32
6. 生化学第二講座	35
7. 薬理学講座	40
8. 病理学第一講座	44
9. 病理学第二講座	52
10. 微生物学・免疫学講座	61
11. 衛生学・公衆衛生学講座	65
12. 法医学講座	69
13. 医療管理学講座	74
14. 基礎医学共同研究利用施設	78
[実験動物管理室]	78
[中央電子顕微鏡研究施設]	79
[情報科学センター]	82

〔3〕臨床医学

1. 内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門).....	87
[付属病院第1内科(一般内科,循環器内科,肝臓内科)]	87
[付属病院老人科]	103

	[武蔵小杉病院内科 (内科, 循環器科, 神経内科)]	108
	[多摩永山病院内科, 循環器内科]	110
2.	内科学講座 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)	117
	[付属病院第2内科 (神経内科, 腎臓内科)]	117
	[付属病院リウマチ科]	131
3.	内科学講座 (血液・消化器・内分泌代謝部門)	134
	[付属病院第3内科 (血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)]	134
4.	内科学講座 (呼吸器・感染・腫瘍部門)	155
	[付属病院呼吸器内科]	155
5.	精神医学講座	168
	[付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科]	168
	[付属病院東洋医学科]	172
6.	小児科学講座	176
	[付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	176
7.	放射線医学講座	189
	[付属病院放射線科, 放射線治療科]	189
	[武蔵小杉病院放射線科]	203
	[多摩永山病院放射線科]	205
	[千葉北総病院放射線科]	205
8.	皮膚科学講座	208
	[付属病院皮膚科]	208
	[武蔵小杉病院皮膚科]	214
	[多摩永山病院皮膚科]	216
	[千葉北総病院皮膚科]	217
9.	外科学講座 (消化器・一般・乳腺・移植部門)	219
	[付属病院第1外科 (消化器外科, 乳腺外科, 一般外科, 移植外科)]	219
	[多摩永山病院外科 (消化器外科・乳腺外科・一般外科)]	252
	[千葉北総病院外科]	256
10.	外科学講座 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門)	264
	[付属病院第2外科 (内分泌外科, 心臓血管外科, 呼吸器外科) ・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]	264
	[武蔵小杉病院外科 (外科, 心臓血管外科)]	277
11.	脳神経外科学講座	280
	[付属病院脳神経外科]	280
	[武蔵小杉病院脳神経外科]	299
	[多摩永山病院脳神経外科]	302
	[千葉北総病院脳神経外科]	304
12.	整形外科科学講座	312
	[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]	312
13.	産婦人科学講座	320

	[付属病院女性診療科・産科]	320
	[武蔵小杉病院女性診療科・産科]	328
	[多摩永山病院女性診療科・産科]	331
	[千葉北総病院女性診療科・産科]	336
14.	耳鼻咽喉科学講座	338
	[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・ 多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]	338
15.	泌尿器科学講座	350
	[付属病院泌尿器科]	350
	[武蔵小杉病院泌尿器科]	353
	[多摩永山病院泌尿器科]	353
16.	眼科学講座	355
	[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]	355
	[千葉北総病院眼科]	360
17.	麻酔科学講座	361
	[付属病院麻酔科]	361
	[武蔵小杉病院麻酔科]	368
	[多摩永山病院麻酔科]	370
	[千葉北総病院麻酔科]	370
18.	救急医学講座	374
	[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・ 多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック]	374
	[武蔵小杉病院救命救急センター]	389
	[多摩永山病院救命救急センター]	391
	[千葉北総病院救命救急センター]	393
	[成田国際空港クリニック]	402
19.	形成外科学講座	404
	[付属病院形成外科・美容外科]	404
	[武蔵小杉病院形成外科]	418
	[千葉北総病院形成外科]	421
20.	付属病院付置施設等	424
	[付属病院遺伝診療科]	424
	[付属病院集中治療室]	425
	[付属病院病理部]	430
	[付属病院中央検査部]	437
	[付属病院薬剤部]	438
	[付属病院生理機能センター]	440
	[付属病院看護部]	442
	[付属病院放射線科技師室]	445
	[付属病院ME部]	447
	[ワクチン療法研究施設]	449

[健診医療センター]	449
21. 武蔵小杉病院付置施設等	451
[武蔵小杉病院消化器病センター]	451
[武蔵小杉病院中央検査室]	458
[武蔵小杉病院薬剤科]	458
[武蔵小杉病院看護部]	459
[武蔵小杉病院放射線科技師室]	460
22. 多摩永山病院付置施設等	461
[多摩永山病院消化器科]	461
[多摩永山病院病理部]	473
[多摩永山病院中央検査室]	477
[多摩永山病院薬剤科]	479
[多摩永山病院看護部]	481
[多摩永山病院放射線科技師室]	482
23. 千葉北総病院付置施設等	483
[千葉北総病院内科]	483
[千葉北総病院集中治療室]	489
[千葉北総病院リハビリテーション科]	492
[千葉北総病院病理部]	493
[千葉北総病院中央検査室]	496
[千葉北総病院薬剤科]	498
[千葉北総病院中央画像検査室]	500
[千葉北総病院歯科]	501
[千葉北総病院看護部]	502
〔4〕 付置研究施設	
1. 老人病研究所	507
[病理学部門]	507
[生化学部門]	510
[免疫部門]	513
[疫学部門]	515
[分子生物学部門]	516
[生体応答学部門]	517
〔5〕 その他	
1. 教育推進室	521
付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況	527
1. 平成18年度科学研究費補助金交付決定一覧	527
2. 平成18年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況	534
3. 平成18年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕	535
4. 平成18年度補助・委託一覧	536
5. 平成18年度学術賞受賞一覧	554
6. 平成18年度知的財産一覧（特許権）	560

1. 人文科学・社会科学

[心理学]

研究概要

本年度はコラージュ療法と投映描画法テストバッテリーの基礎的研究と臨床的研究、啓蒙活動に加えて「医師と看護師のバーナウト」についての研究を行った。

1. 創元社「心理査定実践ハンドブック」のワルテック描画法を執筆した。
2. 日本医科大学基礎科学紀要に原著論文「医師と看護師のバーナウトについて」を共著で発表した。
3. 学事出版「生徒指導」と「学校教育相談」にコラージュ療法について発表した。
4. 日本心理臨床学会において「投映描画法テスト・バッテリーの読み方 その3」を鈴木康明氏と金丸隆太氏と共同で発表した。
5. 2005年度に医療管理学教室高柳和江助教授と行った共同研究意の成果を、心理学教室報告書に「高齢者における脳の活性化研究 - イコノロジー・笑い療法士・能楽鑑賞による精神活動の変化の検討 - 」としてまとめ上げた。
6. 東京コラージュ療法研究会を5回行った。担当者は1) 杉浦京子(日本医科大学), 2) 第2回は全国大会(於 京都文教大学)を充てた, 3) 鈴木康明(国土館大学), 4) 今村友木子(東海学園大学), 5) 入江 茂(入江クリニック)であった。

その他、長野県・青森県教育センター、相模原市青少年センター、東京鑑別所八王子支部、全国学校教育相談研究会東京大会、神奈川県保健協会、京都府看護協会、海上自衛隊幹部学校、法務総合研究所などで研修の講師を務めた。

7. 学生相談室が開室以来12年目となった。新入生全員に相談室長、専任カウンセラー、非常勤カウンセラー、および精神科医2名の協力でUPI(学生健康調査)検査とFFI(5因子性格検査)を実施し1分面接を行った。2005年度の学生相談室報告書第11号を発行した。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 杉浦京子: 怒りをうまく表現できる子・できない子。児童心理 2006; 60(13): 23-27.
- 2) 杉浦京子¹⁾, 石 迪¹⁾(¹⁾早稲田大学文学研究科): 医師と看護師におけるバーナウトについて。日本医科大学基礎科学紀要 2006; (36): 53-61.
- 3) 杉浦京子: コラージュ療法について。学校教育相談 2007; (増刊号): 98-103.
- 4) 杉浦京子: コラージュ療法について。生徒指導 2007; (増刊号): 98-103.
- 5) 杉浦京子, 近藤育代¹⁾, 平田まり子²⁾, 高柳和江³⁾(¹⁾アーツセラピー研究所, 早稲田大学教育学部, ²⁾アーツセラピー研究所, ³⁾日本医科大学医療管理学・特定非営利活動法人21世紀癒しの国のアリス): 高齢者における脳の活性化研究: イコノロジー・笑い療法士・能楽鑑賞による精神活動の変化の検討。日本医科大学心理学教室平成18年度報告書 2007; 1(1): 1-31.

著書

- 1) 杉浦京子: [分担]ワルテック描画法(WZT)。心理査定実践ハンドブック(氏原 寛, 岡堂哲雄, 亀口憲治, 西村洲衛男, 馬場禮子, 松島恭子), 2006; pp349-352, 創元社。

学会発表

(1) ワークショップ:

- 1) 杉浦京子: コラージュ療法の理論と実際. 第1回 コラージュ療法全国研修・研究会, 2006. 9.

(2) ポスターセッション:

- 1) 杉浦京子, 鈴木康明¹⁾, 金丸隆太²⁾ (¹⁾ 国士舘大学文学部, ²⁾ 茨城大学大学院): 投映描画法テスト・バッテリーの読み方 その3 パウムテストを中心として . 日本心理臨床学会 第25回大会, 2006. 9.

[歴史学]

研究概要

平成13(2001)年6月より『南北朝遺文』関東編(1333年12月~1395年12月までの関東およびその西に接する伊豆・駿河・甲斐・信濃・越後・佐渡に関する古文書を編年順に収めた史料集,全6巻の予定)の編纂作業を行っている(佐藤和彦・帝京大学教授(平成18年5月死去),山田邦明・愛知大学教授,伊東和彦・本学非常勤講師,角田朋彦・駒澤大学非常勤講師)。

諸般の事情で大幅に遅れていたが,平成18(2006)年度には,ようやく第一巻(1333年12月~1338年12月)の刊行目前にまでこぎ着け(2007年5月末刊行予定),また並行して第二巻(1339年1月~1345年12月)の校正作業を引き続き行っている。

また平成18(2006)年1月に出版予定であった『暦を知る事典』が,同年5月にやっと出版された。

研究業績

著書

- 1) 岡田芳朗¹⁾, 後藤晶男²⁾, 松井吉昭³⁾ (¹⁾ 女子美術大学教授, ²⁾ 時の資料館館長・元帝塚山天文台台長, ³⁾ 都立江北高等学校教諭): [共著] 第3章 暦の内容・暦を知る事典, 2006 ; pp74-127, 東京堂出版。

[文化人類学]

研究概要

日本の精神の原点,日本の精神の歴史の変容,現代社会における宗教的精神性の意義,生活の豊かさの本質,理想的社会像,文化・文明の構造と機能,人間の行動原理と文化・文明との関連性等について究明している。

研究業績

論文

(1) 研究ノート:

- 1) 伊藤末博: 我が国のあらまほしき心と姿: 先人から引き継ぎたいもの. 日医大基礎科学紀要 2006 ; (36): 97-105.

[経済学]

研究概要

従来の研究を引き継ぎ、経済理論研究および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し、発展させてきた。日本経済・世界経済の現状把握のための研究では、東アジアの経済発展とりわけ中国の躍進に焦点を当て、その現状と背景について研究してきた。今回は中国の国内に目を向け、ミクロの視点から中国進出日系企業の人材管理上の課題について検討を行った。また、日本経済に関しては、再び注目され始めた日本型経営を日本型福祉国家の一側面としてとらえ、戦後日本の福祉国家化の特色との関連で明らかにした。成果は論文にまとめて発表したところである。

また、電子マネーに関する研究では、最近の動向とその理論的位置づけについて論じた。入校済みの論文（「情報通信技術の発達と貨幣：電子決済と電子マネー」）が、編集上の都合で刊行の遅れを来していたが、補遺を追加して2007年夏には発刊の運びである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 三輪春樹：日本型福祉国家としての日本の経営と移転可能性。AJ Journal 2007；(2)：63-75。

2. 自然科学

[数学]

研究概要

平坦トーラスの任意の三角形分割に対して，Wilson fermionのchiral anomalyが0となるかどうか，考察を続けている。(渡辺)

class A operatorに関する，residual spectrum や essential spectrumの，principal functionによる特徴付けをおこなった．特に，operatorがpureな場合についての性質も調べた。(儀我)

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Giga M, Cho M¹⁾, Huruya T²⁾, Yamazaki T³⁾(¹⁾ Kanagawa University, ²⁾ Niigata University, ³⁾ Kanagawa University): A Remark on support of the principal function for class A operators. Integral Equations and Operator Theory 2007 ; 57 (3): 303-308 .

(2) 綜説：

- 1) 渡辺 浩：現代物理学のことば．数理科学 2006 ; 515 : 5-11 .
- 2) 渡辺 浩：使うための確率論入門その1 航空事故の統計．数理科学 2006 ; 516 : 71-77 .
- 3) 渡辺 浩：使うための確率論入門その2 待ち時間のパラドックス．数理科学 2006 ; 517 : 63-70 .
- 4) 渡辺 浩：使うための確率論入門その3 確率とは何か．数理科学 2006 ; 519 : 69-75 .
- 5) 渡辺 浩：使うための確率論入門その4 部分と全体．数理科学 2006 ; 520 : 69-75 .
- 6) 渡辺 浩：使うための確率論入門その5 サイコロ遊びの意味するもの．数理科学 2006 ; 522 : 77-83 .
- 7) 渡辺 浩：使うための確率論入門その6 見分けがつかない粒子たち．数理科学 2007 ; 523 : 74-80 .
- 8) 渡辺 浩：使うための確率論入門その7 階乗の大きさを見積もる．数理科学 2007 ; 525 : 72-77 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Giga M, Cho M¹⁾, Kim An H²⁾(¹⁾ Kanagawa University, ²⁾ Changwon National University): Spectrum and principal function of operators. The 17th International Workshop on Operator Theory and Applications (Seoul National University, Korea), 2006 . 8 .
- 2) 渡辺 浩：4次元階層的スピン系の連続極限について．東海大学談話会，2006 . 12 .
- 3) 儀我真理子：確率論の講義におけるビデオの利用．数学教育学会春季年会，2007 . 3 .

[物理学]

研究概要

1)(1) ミオシンによるATP加水分解の初期過程について分子軌道法と分子動力学法により研究を行っている。(2) リン脂質リポソームの相転移についても同じ手法により研究を行っている。[香川]

2)(1) HIV外被糖タンパク質gp160に特異的な細胞傷害性T-Cell Receptorの3次元構造を，Homology Modelingによって予測した．その結果，ペプチドを提示しているMHCとの認識特異性に対して新たな知見を見出した。(2) 哺

乳類とバクテリア由来のキサンチン脱水素酵素の3次元構造は非常に似ているが、阻害剤に対する応答には大きな差異がある。このことは、タンパク質の機能が3次元構造で決まるという従来の考え方では説明がつかないことを意味しているので、タンパク質の動的構造に着目した。それぞれに対して、粗い近似の下で規準振動解析を行った。研究は、2つの酵素の機構の違いの解明を目指して継続中である。[菊地]

3)(1) 2007年夏に打ち上げられる日本初の大型月探査機SELENEに搭載されるガンマ線分光計の開発に携わっている。月の起源・進化、さらには地球や太陽系の起源の解明につながる観測データが期待される。(2) この他放射線物理・計測技術を応用した、自然の成り立ちの解明につながるような観測・実験を進めている。[小林]

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kobayashi S¹⁾, Hasebe N¹⁾, Hosojima T¹⁾, Ishizaki T¹⁾, Iwamatsu K¹⁾, Mimura M¹⁾, Miyachi T¹⁾, Miyajima M¹⁾, Pushkin K¹⁾, Tezuka C¹⁾, Doke T¹⁾, Kobayashi M²⁾, Shibamura E³⁾, Ishizuka A⁴⁾(¹⁾Waseda Univ., ²⁾Japan Aerospace Exploration Agency, ³⁾Saitama Prefectural Univ., ⁴⁾Japan Atomic Energy Agency): Ratio of Transverse Diffusion Coefficient to Mobility of Electrons in High-Pressure Xenon and Xenon Doped with Hydrogen. Jpn J Appl Phys 2006; 45 (10A): 7894-7900.
- 2) Miyachi T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Kuraza G¹⁾, Fujii M¹⁾, Nagashima A¹⁾, Hasebe N¹⁾, Kobayashi M N¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Miyajima M¹⁾, Mori K¹⁾, Okudaira O¹⁾, Yamashita N¹⁾, Shibata H²⁾, Murakami T³⁾, Uchihori Y³⁾, Okada N⁴⁾(¹⁾Waseda Univ., ²⁾Kyoto Univ., ³⁾National Inst. for Radiology and Sciences, ⁴⁾Honda Electronics Co. Ltd): Acoustic signals generated in piezoelectric lead zirconate titanate elements by direct bombardment with xenon ions. Nucl Instrum Meth A 2006; 568 (2): 760-766.
- 3) Kagawa H: Quantum Chemical Studies of the Myosin ATPase Mechanism. J Nippon Med Sch 2007; 74 (1): 4-10.

著書

- 1) Akano M, Kagawa H: [共著] Unified Theory of Masses and Interactions, 2007; pp1-66, Tokyo-Kyogakusha Co., LTD. .

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Kagawa H: ミオシンとMgATPの相互作用の量子化学研究. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.

(2) 一般講演:

- 1) Kagawa H, Gao Q¹⁾, Tamura Y²⁾, Mori K³⁾(¹⁾Tokyo Inst. of Tech., ²⁾SGI Japan, Ltd., ³⁾WCSC): Theoretical Study of the Myosin ATPase Mechanism. Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (Okinawa), 2006. 11.
- 2) Ogihara T¹⁾, Kagawa H, Takamoto T²⁾, Gao Q³⁾, Tamura Y⁴⁾, Ohe C⁵⁾(¹⁾Azabu Univ., ²⁾Sapporo Holdings, Ltd., ³⁾Tokyo Inst. of Tech., ⁴⁾SGI Japan, Ltd., ⁵⁾Waseda Univ.): Theoretical Study of Phospholipid Liposome. Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (Okinawa), 2006. 11.
- 3) Kikuchi H, Watanabe N, Okamoto K, Leimkuler S¹⁾, Nishino T (¹⁾Technical Univ. Braunschweig, Germany): Dynamic structure of xanthine oxidoreductase by normal mode analysis. Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (Okinawa), 2006. 11.

[化学]

研究概要

菅原：

アルカリ金属 - ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成および、不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカルボン酸の合成

- (1) 生理活性を有するラクトン類の合成
- (2) カンファーなどの天然物ケトンを用いた不斉合成配位子の合成

田中：

質量分析計を用いた金属錯体の溶液内反応の研究

(1) 金属錯体で観測された選択的溶媒和に伴うプロトン，電子移動反応
中性子放射化分析等による生体内微量元素等の研究

- (1) 生体内微量元素等と疾患，環境等との関連

永井：

2,2'-ビピリジンまたは1,10-フェナントロリンを持つルテニウム(II)混合配位子錯体の溶液化学

- (1) 錯体の合成
- (2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離およびその機構
- (3) 錯体イオンの溶媒和に関する研究
- (4) 錯体イオンの溶液内反応および平衡に関する研究

武田：

弱酸性陽イオン交換体を用いる無機イオンのクロマトグラフィーに関する研究

- (1) 塩類水溶液系におけるアルカリ土類金属元素および希土類元素の吸着挙動と分離
- (2) イットリウムの特異的分離とその機構の解明
- (3) ジルコニウム(IV)，ハフニウム(IV)，および他の金属の三成分分離

貴金属元素の分離および定量に関する研究

- (1) 種々の陰イオン交換樹脂に対する貴金属元素の吸着および脱着挙動とその機構
- (2) 陰イオン交換樹脂を用いる貴金属元素の分離および定量

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Tanaka M : Trace Elements in Gallstones and Bile, and their Clinical Significance in the Comparative Study of Chromium Content in Thais (Chiang Mai and Bangkok) and Japanese . 40th Anniversary of Academic Collaboration between Nippon Medical School and Faculty of Medicine, Chiang Mai University (Chiang Mai, Thailand), 2006 . 7 .

[生物学]

研究概要

本教室では、アフリカツメガエルをモデル動物として、消化管の分子発生生物学的研究を進めている。この他に、微生物生理学、植物生態学の分野で個別に独創的な研究が行われている。今年度の各研究の概要は下記の通りである。

1) 両生類幼生の器官は、甲状腺ホルモンを引き金として哺乳類の基本型となる器官へと再構築されることから、器官再生の研究に格好のモデル系を提供している。われわれは、甲状腺ホルモン応答遺伝子の発現および機能解析を進めることにより、消化管再生の分子機構の解明を目指している。平成18年4月より長谷部孝講師が着任し、遺伝子の機能解析のためにトランスジェニックカエルの作製を本格的に開始した。幹細胞を制御することが予想される Shh や BMP などのシグナル分子、細胞外マトリックスを変化させる MMP などに注目し、それらの過剰発現や発現抑制によって引き起こされる消化管上皮の変化を免疫組織化学および分子生物学的手法を用いて解析中である。また、両生類の初期胚では遺伝子導入が容易なことを利用し、血管形成に関わる遺伝子の機能解析も進めている（老人病研究所・藤原正和助手、川並汪一教授との共同研究）。（長谷部，岡）

2) ゲノム塩基配列が決められたシアノバクテリアを中心にカロテノイドの同定と生合成遺伝子の機能、紅色光合成細菌の色素分析と色素の生理学的性質、新規細菌の色素同定などを、国内外の人と共同研究している。NEDOの分担者としてカロテノイドを用いた重金属検出微生物センサーの開発を進めている（学外共同研究）。新規細菌の抗酸化作用の強いカロテノイド配糖体に関して、特許出願をした（学外共同研究）。生理活性脂質データベースのカロテノイド部門責任者としてデータの追加・更新をしている。他大学の大学院学生などに研究指導も行っている。（高市）

3) 変動環境への植物の適応について、極域や高山に生育する多年生植物をモデルとして研究している。発芽特性の変異やフェノロジー（生物季節）を中心に、データの解析を行っている。また、冬緑性草本を材料とした生理生態学的な研究も進めており（国内共同研究）、特に、葉の存在しない季節における根の活性を評価するために、根の呼吸や窒素の吸収に関する測定を行っている。（西谷）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takaichi S, Maoka T¹⁾, Akimoto N²⁾, Khan ST³⁾, Harayama S³⁾ (¹⁾Research Inst. Production Develop. , ²⁾Kyoto Univ. , ³⁾National Inst. Technol. Evaluation): Major carotenoid isolated from *Paracoccus schoinia* NBRC 100637^T is adonixanthin diglucoside . J Nat Prod 2006 ; 69 (12): 1823-1825 .
- 2) Ishizuya-Oka A, Hasebe T, Shimizu K¹⁾, Suzuki K²⁾, Ueda S³⁾ (¹⁾Hiroshima Prefec. Inst. , ²⁾Hiroshima Univ. , ³⁾Dokkyo Univ.) : Shh/BMP-4 signaling pathway is essential for intestinal epithelial development during *Xenopus* larval-to-adult remodeling . Dev Dyn 2006 ; 235 (12): 3240-3249 .
- 3) Hasebe T, Hartman R¹⁾, Fu L¹⁾, Amano T¹⁾, Shi Y-B¹⁾ (¹⁾Natl. Inst. Health): Evidence for a cooperative role of gelatinase A and membrane type-1 matrix metalloproteinase during *Xenopus laevis* development . Mech Develop 2007 ; 124 (1): 11-22 .
- 4) Shindo K¹⁾, Mikami K¹⁾, Tamesada E¹⁾, Takaichi S, Adachi K²⁾, Misawa N²⁾, Maoka T³⁾ (¹⁾Japan Women's Univ. , ²⁾Marine Biotechnol. Inst. , ³⁾Research Inst. Production Develop.) : Diapolycopenedioic acid xylosyl ester, a novel glyco-C₃₀-carotenoid acid produced by a new marine bacterium *Rubritalea squalenifaciens* . Tetrahedron Lett 2007 ; 48 (15): 2725-2727 .
- 5) Sorokin DY^{1, 2)}, van Pelt S²⁾, Tourova TP¹⁾, Takaichi S, Muyzer G²⁾ (¹⁾Russian Academy Sciences , ²⁾Delft Univ. Technol.) : Acetonitrile degradation under haloalkaline conditions by *Natronocella acetinitrilica* gen. nov., sp. nov . Microbiology 2007 ; 153 (4): 1157-1164 .

(2) 綜説 :

- 1) Ishizuya-Oka A : Regeneration of the amphibian intestinal epithelium under the control of stem cell niche .
Dev Growth Differ 2007 ; 49 (2): 99-107 .

著 書

- 1) 高市真一 : [分担] 光合成微生物の色素 : カロテノイド (分布と生合成) . 光合成微生物の機能と応用 (監修・上原 赫), 2006 ; pp56-63 , シーエムシー出版 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 高市真一 : 細菌のカロテノイド生合成経路と酵素・遺伝子 . 第3回カロテノイド若手研究者の会 , 2006 . 11 .

(2) 招待講演 :

- 1) Hasebe T , Kajita M¹⁾ , Ishizuya-Oka A (¹⁾ Inst. Gerontology, Nippon Medical School): Thyroid hormone-upregulated expression of hedgehog interacting protein suggests its involvement in amphibian intestinal remodeling . 4th International Symposium on Amphibian and Reptilian Endocrinology and Neurobiology (California), 2007 . 3 .

(3) ワークショップ :

- 1) 岡 敦子 : アフリカツメガエルの消化管再構築を制御する上皮・結合組織相互作用 . 日本発生生物学会第39回大会 , 2006 . 5 .

(4) 一般講演 :

- 1) Maeda I¹⁾ , Takaichi S , Yagi K²⁾ (¹⁾ Utsunomiya Univ. , ²⁾ Osaka Univ.): Colorimetric whole cell sensors using purple bacterium, *Rhodovulum sulfidophilum*, based on conversion of intrinsic carotenoid pigments . 12th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Pau), 2006 . 8 .
- 2) Mochimaru M¹⁾ , Masukawa H²⁾ , Takaichi S (¹⁾ Komazawa Univ. , ²⁾ Kanagawa Univ.): Identification of some carotenogenesis genes in *Anabaena* sp. PCC 7120 . 12th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Pau), 2006 . 8 .
- 3) Gall A¹⁾ , Herbert RA²⁾ , Cogdell RJ³⁾ , Maoka T⁴⁾ , Takaichi S , Robert B¹⁾ (¹⁾ Centre D'Etudes de Saclay , ²⁾ Univ. Dundee , ³⁾ Univ. Glasgow , ⁴⁾ Research Inst. Production Develop.): Preliminary characterisation of the light-harvesting antennae from the " Heat Engines " in the South Andros Black Hole, The Bahamas . 12th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Pau), 2006 . 8 .
- 4) Nabeta M¹⁾ , Harada J²⁾ , Takaichi S , Misawa N³⁾ , Nagashima KVP¹⁾ , Matsuura K¹⁾ , Shimada K¹⁾ (¹⁾ Tokyo Metropolitan Univ. , ²⁾ Ritsumeikan Univ. , ³⁾ Marine Biotechnol. Inst.): Functional evaluation of cyclic carotenoids expressed in the purple bacterium, *Rubrivivax gelatinosus* . 12th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Pau), 2006 . 8 .
- 5) Okada M¹⁾ , Taniuchi Y¹⁾ , Murakami A²⁾ , Takaichi S , Ohtake S¹⁾ , Ohki K¹⁾ (¹⁾ Fukui Pref. Univ. , ²⁾ Kobe Univ.): Abundance of picocyanobacteria in the halocline of the meromictic lake, Lake Suigetsu, Japan . 12th International Symposium on Phototrophic Prokaryotes (Pau), 2006 . 8 .
- 6) Hasebe T , Fu L¹⁾ , Ishizuya-Oka A , Shi Y-B¹⁾ (¹⁾ Natl. Inst. Health): Cooperation of gelatinase A and membrane type-1 matrix metalloproteinase during *Xenopus* development . 11th International Xenopus Conference (Chiba), 2006 . 9 .
- 7) 高市真一 , 持丸真里¹⁾ , 眞岡孝至²⁾ (¹⁾ 駒澤大・自然 , ²⁾ 生産開発研): *Anabaena variabilis* ATCC 29413 はミクソールと水酸化ミクソールを合成し , ミクソール配糖体を合成できない . 日本光合成研究会年会 , 2006 . 5 .

- 8) 土屋 徹¹⁾, 井上英俊¹⁾, 高市真一, 三沢典彦²⁾, 眞岡孝至³⁾, 佐藤壮一郎⁴⁾, 金子貴一⁵⁾, 田畑哲之⁵⁾, 田中歩⁶⁾, 宮下英明¹⁾, 三室 守¹⁾(¹⁾京都大院・地球環境, ²⁾海洋バイオテクノロジー研, ³⁾生産開発研, ⁴⁾北海道大学・理, ⁵⁾かずさDNA研, ⁶⁾北海道大学・低温研): *Gloeobacter violaceus* PCC 7421に見出される特異な光合成系の解析. 日本光合成研究会年会, 2006. 5.
- 9) 山岡到保¹⁾, 高市真一 (¹⁾産総研・バイオマス): 瀬戸内海から単離されたゴールドニア菌の色素生産. 日本海水学会第57年会, 2006. 5.
- 10) 高市真一: シアノバクテリアのカロテノイド生合成を巡る諸問題. 第14回光合成の色素系と反応中心に関するセミナー, 2006. 6.
- 11) 高市真一, 眞岡孝至¹⁾, 秋元直茂²⁾, Khan ST³⁾, 原山重明³⁾(¹⁾生産開発研, ²⁾京都大院・薬, ³⁾製品評価技術基盤機構): 海洋細菌 *Paracoccus schoinia* NBRC 100637^Tの主成分カロテノイド: アドニキサンチン・ジグルコシド. 第20回カロテノイド研究談話会, 2006. 9.
- 12) 前田 勇¹⁾, 高市真一, 八木清仁²⁾(¹⁾宇都宮大学・農, ²⁾大阪大院・薬): 紅色細菌 *Rhodovulum sulfidophilum* のスフェロイデン酸化酵素遺伝子 *crtA* をレポーター遺伝子とした生細胞型バイオセンサーの開発. 第20回カロテノイド研究談話会, 2006. 9.
- 13) 新藤一敏¹⁾, 菊田加南¹⁾, 鈴木敦子¹⁾, 笠井宏明²⁾, 勝田麻津子²⁾, 三沢典彦²⁾, 高市真一 (¹⁾日本女子大・家政, ²⁾海洋バイオテクノロジー研): 新種海洋バクテリアからの希少カロテノイドの探索, 及びその生理活性の検討. 第20回カロテノイド研究談話会, 2006. 9.
- 14) 高市真一, 持丸真里¹⁾(¹⁾駒澤大学・自然): リコペン・シクラーゼを巡る諸問題. 日本植物学会第70回大会, 2006. 9.
- 15) 持丸真里¹⁾, 増川 一¹⁾, 高市真一 (¹⁾駒澤大・自然, ²⁾神奈川大・理): *Anabaena* sp. PCC 7120におけるミクソール・フコシド生合成経路の解析. 日本植物学会第70回大会, 2006. 9.
- 16) 有馬宏美¹⁾, 堀口法臣¹⁾, 石田健一郎²⁾, 高市真一, 坂本敏夫¹⁾(¹⁾金沢大院・自然, ²⁾筑波大院・生命環境): *Nostoc*属ラン藻におけるカロテノイドの多様性と分子系統解析. 日本植物学会第70回大会, 2006. 9.
- 17) 村井陽介¹⁾, 横野牧生¹⁾, 秋本誠志¹⁾, 村上明男²⁾, 高市真一, 樋口倫也³⁾, 三室 守³⁾(¹⁾北海道大院・工, ²⁾神戸大学・内海域センター, ³⁾京都大院・地球環境): 溶液中におけるシフォナキサンチンの励起緩和過程. 日本化学会北海道支部2007年冬季研究発表会, 2007. 2.
- 18) 高市真一, 眞岡孝至¹⁾, 秋元直茂²⁾, 山岡到保³⁾(¹⁾生産開発研, ²⁾京都大院・薬, ³⁾産総研・バイオマス): 放線菌 *Gordonia terrae* のカロテノイド: カロテノイド・グルコシド・ミコール酸エステル. 日本農芸化学会2007年度大会, 2007. 3.
- 19) 持丸真里¹⁾, 増川 一²⁾, 眞岡孝至³⁾, 高市真一 (¹⁾駒澤大・自然, ²⁾神奈川大・理, ³⁾生産開発研): *Anabaena* sp. PCC 7120におけるフコースシンターゼ破壊株の作成. 第48回日本植物生理学会年会, 2007. 3.
- 20) 前田 勇¹⁾, 高市真一, 八木清仁²⁾(¹⁾宇都宮大・農, ²⁾大阪大院・薬): 紅色細菌 *Rhodovulum sulfidophilum* のカロテノイド・ケト化酵素の遺伝子 *crtA* をレポーター遺伝子とした生細胞型バイオセンサーの開発. 第48回日本植物生理学会年会, 2007. 3.
- 21) 西谷里美, 中村敏枝¹⁾, 可知直毅¹⁾(¹⁾首都大院・生命科学): 冬緑性草本ヒガンバナにおける窒素の動態. 第54回日本生態学会, 2007. 3.

3. 外国語

[英語]

研究概要

During the 2006 academic year the English Department continued to provide the first- and second-year students with training in the four major language skill areas, and we were able to increase the number of seminars offered by the Department to five. One important event in the 2006 academic year was the establishment of a new committee (The Committee for the Promotion of Medical English Education) tasked with providing NMS students and staff with increased and enhanced opportunities to learn English. Naturally, the English Department has been playing an active role in this committee's activities. One innovation directly affecting the 1st-year syllabus is the requirement from the 2007 academic year that all entering students achieve a score of 450 on TOEFL-ITP (a mock TOEFL exam) during their first year. The test was given on a voluntary basis to around 30 NMS students in November last year to confirm its suitability for our students.

New materials were developed for the introductory academic writing course for the first-year students (English B) and the students' writing was analyzed in an attempt to clarify the transfer process from Japanese-style writing into English. A paper on this topic was published in The Bulletin of Liberal Arts & Sciences, Nippon Medical School. Pedagogical research was also carried out into the use of literary materials in general education programs.

The identification and classification of the mistakes that commonly occur in Japanese students' English writing was again the main focus of our linguistic research ; part of this is scheduled for publication in June this year. The Department was involved in the revision of a previously published high school oral communication textbook (the revised version was published in time for use during the 2007 academic year) and in the production of a high school writing textbook to be published next year. We also assisted in the compiling and editing of materials from the American Heart Association's annual conference in Chicago, Illinois in November, 2006 for the benefit of Japanese researchers unable to attend the conference.

Literary research continued into " Body, Medicine and Culture, " with a focus on the theme of old age. A study was also carried out on Maria Edgeworth's depiction of the ideal landlord in her Irish novels, as was further research into the genre of the Big House novel.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) 中村哲子 : 英語教育と戯曲の関係 : 頼れる12人の怒れる男 . 『英語青年』 2006 ; 152 (8) : 478-480 .
- 2) 中村哲子 , 西川純恵 : Academic English Writingへの視座 : 教養教育における英語教育のあり方 . 『日本医科大学基礎科学紀要』 2006 ; (36) : 63-83 .

(2) 研究報告書 :

- 1) 中村哲子 : 地主に求められる Nature と Nurture : エッジワースの教育論と小説に関する一考察 . 『日本医科大学基礎科学紀要』 2006 ; (36) : pp85-96 .

(3) 書評 :

- 1) 中村哲子 : 石井美樹子著 『図説ヨーロッパの王妃』 (河出書房新社 2006年) . 『神奈川大学評論』 2006 ; (55) : 163-163 .

著 書

- 1) 山口俊治, Minton T (¹元日本医科大学): [問題作成] 英文法 Try Again 問題集, 2006 ; pp1-425, 語学春秋社 .
- 2) 竹村日出夫, Minton TD, 増山久一郎, 今井孝之, 岩井 淳, 吉田悦子, 本田厚子 (¹工学院大学, ³埼玉県立桶川西高等学校, ⁴郁文館高等学校, ⁵文京学院大学女子高等学校, ⁶三重大学, ⁷専修大学): [共著] *Revised True Colors Oral Communication I*, 2007 ; pp1-103, 数研出版 .
- 3) 竹村日出夫, Minton TD, 増山久一郎, 今井孝之, 岩井 淳, 吉田悦子, 本田厚子 (¹工学院大学, ³埼玉県立桶川西高等学校, ⁴郁文館高等学校, ⁵文京学院大学女子高等学校, ⁶三重大学, ⁷専修大学): [共著] *Revised True Colors Oral Communication 1, Teacher's Book for JLT and ALT*, 2007 ; pp1-103, 数研出版 .
- 4) 竹村日出夫, Minton TD, 増山久一郎, 今井孝之, 岩井 淳 (¹工学院大学, ³埼玉県立桶川西高等学校, ⁴郁文館高等学校, ⁵文京学院大学女子高等学校): [共著] *Revised True Colors Oral Communication 1, Teacher's Manual* (データCD-ROM 付), 2007 ; pp1-287, 数研出版 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 中村哲子 : 戯曲の活用法 : Reginald Rose の *Twelve Angry Men* (英語教材としての文学の使い方). 東京若手の会 (現日本英文学会関東支部), 2006 . 4 .

(2) 一般講演 :

- 1) 中村哲子 : Maria Edgeworth の思い描く地主像 . 日本アイルランド協会, 2006 . 7 .

[ドイツ語]

研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に習得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性をもたせながら、「教えやすく、習得しやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。1つには「文法・講読分離型」、もう1つには外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートをはじめ、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。とくに数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く“Kommunikativer Sprachunterricht”が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめ、「外国語」、敷衍すれば「ことばに対するセンスを養うことに重点を置いている。

なお、教室員の個別活動についていえば、安藤は日独文化交流史研究を主眼として、とくに幕末・明治における来日外国人の事歴とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳をおこなっている。横内は初級ドイツ語教育および日独交流史における諸問題について調べている。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) 安藤 勉 : クルト・グラウザー拾遺 . 日本独学史学会, 2006 . 9 .
- 2) 安藤 勉 : 明治末の豪雨災害など ドイツ人旅行者の目から . 日本独学史学会, 2006 . 12 .

4. スポーツ科学

[スポーツ科学]

研究概要

三上：以下の項目についての研究を行った。1) 留学先のスペイン，マドリッドのCajal Institute, Laboratory of NeuroendocrinologyのIgnacio Torres-Aleman教授の研究室で行った実験の追加実験を行い，一過性のトレッドミル走後には海馬へのIGF-1の取り込みと，IGF-1 receptorのリン酸化が増加することを明らかにした（Ignacio Torres-Aleman教授との共同研究）。2) 抗酸化物質摂取が精神的ストレスによる記憶学習能力の低下抑制をもたらすか否かについて検討した。抗酸化物質としてはメロンより注出したSuperoxide dismutaseを大量に含むオキシカインを用いた。オキシカイン投与は独自に作成した拘束ケージと飼育ケージを用いて精神的ストレスを負荷したマウスの記憶学習能力の低下を抑制した（日本体育大学との共同研究）。

武藤：以下の項目について研究を行った。1) 発展途上の国にこそ次世代を担う青少年に対する健全なる体育・健康教育が必要と考え，カンボディア・シムリアップにおいて青少年の体格および体力，生活習慣等の調査研究を継続的に行っている。今年度は過去4年間にわたる測定結果から，体格・体力の各項目の男女別年齢別の標準値，および年齢群別の評価表を作成し公表した。2) 「健康運動教室」に参加する高齢者を対象に，体格・生活活動力等を継続的に調査している。運動習慣を持つことにより身体組成の改善，握力や歩行能力などの生活活動力の向上がみられた。3) 日本における健康づくりに貢献しているラジオ体操が，高齢者の生活活動力にどのような影響を与えるのかを検討した。その結果，「ラジオ体操講習会」参加の高齢者は体力年齢が実年齢より10歳程度低い傾向がみられた。生活活動力では起居能力に優れていることが明らかになった。

研究業績

論文

(1) 総説：

1) 三上俊夫：スポーツと酸化ストレス．臨床病理レビュー 2006；137：105-109．

(2) Brief Paper：

1) Muto M, Watanabe R¹⁾, Sakurai N¹⁾, Kawamorita C¹⁾, Yamaguchi Y¹⁾, Watanabe T¹⁾(¹⁾ Kanagawa University of Human Service): Radio Exercise and Capacity for Daily Living Activity. Journal of Physical Exercise and Sports Science 2006；12(1): 15-20.

著書

1) 武藤三千代：〔分担〕運動能力テスト（運動能力構造，走能力テスト，跳能力テスト，投てき能力テスト，歩行能力テスト）．最新スポーツ科学事典（（社）日本体育学会），2006；pp65-66，平凡社．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 武藤三千代，渡部隼¹⁾，櫻井典子¹⁾，川守田千秋¹⁾，山口由子¹⁾，渡部月子¹⁾(¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学)：ラジオ体操と生活活動力について．日本運動・スポーツ科学学会第13回大会，2006．6．
- 2) 武藤三千代，渡部隼¹⁾，平田大輔²⁾，木村寿一³⁾，山田力也⁴⁾(¹⁾ 神奈川県立保健福祉大学，²⁾ 専修大学，³⁾ 国際武道大学，⁴⁾ 西九州大学)：カンボディアにおける青少年の体格・体力の標準値について．日本体育学会第57回大会，2006．8．

- 3) 三上俊夫：定期的な身体運動は心理的ストレスにより生ずる記憶力の低下を抑制する．第74回日本医科大学総会（海外留学者講演），2006．9．
- 4) 武藤三千代，渡部隼二¹⁾，若山葉子²⁾（¹⁾神奈川県立保健福祉大学，²⁾日本医科大学衛生学・公衆衛生学）：高齢者における健康運動教室参加の効果について．第65回日本公衆衛生学会総会，2006．10．
- 5) 若山葉子¹⁾，伊藤博子¹⁾，川田智之¹⁾，武藤三千代，渡部隼二²⁾（¹⁾日本医科大学衛生学・公衆衛生学，²⁾神奈川県立保健福祉大学）：中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績（II）．第65回日本公衆衛生学会総会，2006．10．
- 6) 渡部隼二¹⁾，武藤三千代，若山葉子²⁾，山口由子¹⁾，渡部月子¹⁾（¹⁾神奈川県立保健福祉大学，²⁾日本医科大学衛生学・公衆衛生学）：高齢者の生活活動力テストと健康関連QOL尺度との関係．第65回日本公衆衛生学会総会，2006．10．
- 7) 若山葉子¹⁾，伊藤博子¹⁾，川田智之¹⁾，武藤三千代，渡部隼二²⁾（¹⁾日本医科大学衛生学・公衆衛生学，²⁾神奈川県立保健福祉大学）：中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績（III）．第77回日本衛生学会総会，2007．3．

〔 1 〕 基 礎 科 学

〔 2 〕 基 礎 医 学

1. 解剖学第一講座

研究概要

今年度の解剖学第一講座は、下記分子解剖学的研究を行った。

(1) 胎盤の分子解剖学：a) 新規のIgG輸送体と考えられる、ヒト胎盤胎児血管内皮細胞内のIIb型Fc受容体-小胞の解析, b) 栄養膜細胞層の解析, c) 栄養膜合胞体に発現している胎児型Fc受容体の解析を進めた。形態学的解析(森助手, 研究生・倉澤)と共に, 細胞の単離培養(石川朋子助手, 羅助手, 後藤助教授), PCR(羅助手, ポストドクター・三嶋, 石橋講師), プロテオミクス解析(石川朋子助手, 石橋講師)を行った(産婦人科学講座・竹下俊行教授, 石川 源助手, 生化学第一講座・西野武士教授, 片山 映助手, 米国オハイオ州立大学医学部生理細胞生物学講座・John M. Robinson教授, 自治医科大学産婦人科学講座・松原茂樹教授, 鈴木光明教授, 解剖学講座・屋代隆教授, 宮崎大学医学部病理学第二講座・片岡寛章教授との共同研究)。

(2) パイオイメージング・組織細胞化学法の開発と応用：生きた細胞でのFc受容体-小胞やカベオラの可視化および解析を行うために, 石橋講師, ポストドクター・三嶋, 小菅技術員が中心となり, GFP融合分子発現ベクター作製, トランスフェクション, 細胞培養を行った。

(3) microRNAの分子解剖学的研究：三嶋, 羅, 瀧澤敬美)助手, 大学院生・川東, 大学院生・神田, 外科学講座助手・水口が, 生殖腺, 胎盤, 消化器系臓器において, microRNAの大量クローニング&シークエンス解析を行った(外科学講座・田尻 孝教授, 産婦人科学講座・竹下俊行教授との共同研究)。

(4) 生殖細胞特異的分子TEX101の解析：森が組織化学的解析, 石川朋子, 三嶋, 小菅が培養細胞のTEX101発現解析, RNAiベクター作製等を行った(順天堂大学大学院環境医学研究所・荒木慶彦助教授との共同研究)。

平成18年5月より小菅拓治が研究技術員として, 10月より新潟大学大学院医歯学総合研究科細胞機能制御学分野の石橋 宰が講師として採用され, メンバー加わった。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tsukamoto H¹⁾, CTakizawa T, Takamori K¹⁾, Ogawa H¹⁾, Araki Y¹⁾(¹⁾ Inst. Environmental and Gender-Specific Med., Juntendo Univ. Grad. Sch. Med.): Genomic organization and structure of the 5'-flanking region of the TEX101 gene : alternative promoter usage and splicing generate transcript variants with distinct 5'-untranslated region. *Molecular Reproduction and Development* 2006 ; 74 (2) : 154-162 .
- 2) Mori M, Ishikawa G¹⁾, Takeshita T¹⁾, Goto T, Robinson J, M²⁾, Takizawa T (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch. , ²⁾ Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ.): Ultrahigh-resolution immunofluorescence microscopy using ultrathin cryosections : subcellular distribution of caveolin-1alpha and CD31 in human placental endothelial cells. *Journal of Electron Microscopy (Tokyo)* 2006 ; 55 (2) : 107-112 .
- 3) Tsukamoto H¹⁾, Yoshitake H¹⁾, Mori M, Yanagida M¹⁾, Takamori K¹⁾, Ogawa H¹⁾, Takizawa T, Araki Y¹⁾(¹⁾ Inst. Environmental and Gender-Specific Med., Juntendo Univ. Grad. Sch. Med.): Testicular proteins associated with the germ cell-marker, TEX101 : involvement of cellubrevin in TEX101-trafficking to the cell surface during spermatogenesis. *Biochemical and Biophysical Research Communications* 2006 ; 345 (1) : 229-238 .
- 4) Jin H¹⁾, ²⁾, Yoshitake H¹⁾, Tsukamoto H¹⁾, Takahashi M¹⁾, Mori M, Takizawa T, Takamori K¹⁾, Ogawa H¹⁾, Kinoshita K²⁾, Araki Y¹⁾(¹⁾ Inst. Environmental and Gender-Specific Med., Juntendo Univ. Grad. Sch.

- Med. , ²⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Juntendo Univ. Facul. Med.): Molecular characterization of a germ-cell-specific antigen, TEX101, from mouse testis . *Zygote* 2006 ; 14 (3): 201-208 .
- 5) Mori M , Ishikawa G¹⁾ , Luo Shan-S , Mishima T , Goto T , Robinson J, M²⁾ , Matsubara S³⁾ , Takeshita T¹⁾ , Kataoka H⁴⁾ , Takizawa T (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch. , ²⁾ Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ. , ³⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Jichi Med. Univ. , ⁴⁾ 2nd Dept. Pathol., Facul. Med., Univ. Miyazaki): The cytotrophoblast layer of human chorionic villi becomes thinner but maintains its structural integrity during gestation . *Biology of Reproduction* 2007 ; 76 (1): 164-172 .
- 6) Luo Shan-S , Sugimoto K , Fujii S , Takemasa T¹⁾ , Fu Song-B²⁾ , Yamashita K (¹⁾ Instit. Health and Sports Sci., Univ. Tsukuba , ²⁾ Lab. Medical Genetics, Harbin Medical Univ., Harbin, China.): Role of Heat Shock Protein 70 in Induction of Stress Fiber Formation in Rat Arterial Endothelial Cells in Response to Stretch Stress . *Acta Histochemica et Cytochemica* 2007 ; 40 (1): 9-17 .
- 7) Mizuguchi Y¹⁾ , Yokomuro S¹⁾ , Mishima T , Arima Y¹⁾ , Shimizu T¹⁾ , Kawahigashi Y¹⁾ , Takizawa T , Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Dept. Surgery, Nippon Med. Sch.): Therapeutic use of short hairpin RNA in acute liver failure . *Journal of Nippon Medical School* 2007 ; 74 (1): 74-76 .
- 8) Mishima T , Mizuguchi Y¹⁾ , Kawahigashi Y , Takizawa T , Takizawa T (¹⁾ Dept. Surgery, Nippon Med. Sch.): RT-PCR-based analysis of microRNA (miR-1 and -124) expression in mouse CNS . *Brain Research* 2007 ; 1131 (1): 37-43 .
- 9) Mishima T , Kurasawa G , Ishikawa G¹⁾ , Mori M , Kawahigashi Y , Ishikawa T , Luo Shan-S , Takizawa T , Goto T , Matsubara S²⁾ , Takeshita T¹⁾ , Robinson J, M³⁾ , Takizawa T (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch. , ²⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Jichi Med. Univ. , ³⁾ Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ.): Endothelial expression of Fc gamma receptor IIb in the full-term human placenta . *Placenta* 2007 ; 28 (2-3): 170-174 .
- (2) 研究報告書 :
- 1) 後藤 忠 , 石川朋子 , 羅 善順 , 森 美貴 , 瀧澤敬美 , 志村俊郎¹⁾ , 瀧澤俊広 (¹⁾ 教育推進室): 日本医科大学における分子解剖学の学生による授業評価 : アンケート調査から . *解剖学雑誌 (Kaibogaku Zasshi)* 2006 ; 81 (9): 89-94 .
- 2) 後藤 忠 , 羅 善順 , 森 美貴 , 瀧澤敬美 , 石川朋子 , 瀧澤俊広 : 肉眼解剖学実習における上下肢横断標本を用いたチュートリアル教育の試み . *解剖学雑誌 (Kaibogaku Zasshi)* 2006 ; 81 (12): 125-128 .
- (3) その他 :
- 1) 後藤 忠 , 石川朋子 , 羅 善順 , 森 美貴 , 瀧澤敬美 , 瀧澤俊広 : 携帯電話を用いた学生による授業評価の有用性について . *日医大医会誌* 2006 ; 2 (2): 121-123 .

著 書

- 1) Takizawa T , Robinson J, M¹⁾ (¹⁾ Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ.): [分担] Correlative microscopy of ultrathin cryosections in placental research . *Methods in Molecular Medicine, Vol 121 : Placenta and Trophoblast : Methods and Protocols Vol 1 (Soares MJ, Hunt JS)* , 2006 ; pp351-369 , Humana Press, Totowa (NJ, USA) .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Takizawa T , Mori M , Ishikawa G¹⁾ , Takeshita T¹⁾ , Goto T , Robinson J, M²⁾ (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch. , ²⁾ Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ.): Comparison of the z-axis resolu-

tions achieved by immunofluorescence microscopic imaging of tissue sections of different thicknesses : usefulness of ultrathin cryosections for ultrahigh-resolution immunofluorescence microscopy . The 7th Joint Meeting of the Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry and the Histochemical Society (Waikoloa Village, HI, USA), 2006 . 7 .

- 2) Mori M , Ishikawa G¹⁾ , Takeshita T¹⁾ , Goto T , Robinson J, M²⁾ , Takizawa T (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch. , ²⁾ Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ.): Quantitative Analysis of Endothelial CD31 in the Full-term Human Placenta by Ultrahigh-resolution Immunofluorescence Microscopy Using Ultrathin Cryosections . The 16th International Microscopy Congress (Sapporo, Japan), 2006 . 9 .
- 3) Luo Shan-S , Mishima T , Kawahigashi Y , Kanda T¹⁾ , Mizuguchi Y¹⁾ , Ishikawa T , Mori M , Takizawa T , Ishikawa G²⁾ , Goto T , Takeshita T²⁾ , Takizawa T (¹⁾ Dept. Surgery, Nippon Med. Sch. , ²⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch.): Cloning of Micro-rnas from Full-term Human Placenta . The 12th International Federation of Placenta Associations Meeting (Kobe, Japan), 2006 . 9 .
- 4) Takizawa T , Mori M , Tsukamoto H¹⁾ , Araki Y¹⁾ (¹⁾ Inst. Environmental and Gender-Specific Med., Juntendo Univ. Grad. Sch. Med.): Interaction between TEX101 and cellubrevin revealed by ultrahigh-resolution immunofluorescence microscopy using ultrathin cryosections . The 16th International Microscopy Congress (Sapporo, Japan), 2006 . 9 .
- 5) Ishikawa G¹⁾ , Isozaki T¹⁾ , Mori M , Matsubara S²⁾ , Robinson J, M³⁾ , Takeshita T¹⁾ , Takizawa T (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch. , ²⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Jichi Med. Univ. , ³⁾ Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ.): Analysis of the distribution and expression of albumin in the first-trimester human placenta . 12th International Federation of Placenta Associations Meeting (Kobe, Japan), 2006 . 9 .
- 6) Kurasawa G , Mori M , Ishikawa T , Ishikawa G¹⁾ , Goto T , Takeshita T¹⁾ , Takizawa T (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch.) Immunohistochemical localization of cdc42 and rac1 in human placental villi . The 12th International Federation of Placenta Associations (Kobe, Japan), 2006 . 9 .
- 7) Mishima T , Ishikawa G¹⁾ , Kawahigashi Y²⁾ , Kanda T²⁾ , Ishikawa T , Mori M , Luo Shan-S , Goto T , Takeshita T¹⁾ , Matsubara S³⁾ , Robinson J, M⁴⁾ , Takizawa T (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch. , ²⁾ Dept. Surgery, Nippon Med. Sch. , ³⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Jichi Med. Univ. , ⁴⁾ Dept. Physiol. and Cell Biol., Ohio State Univ.): Real-time PCR analysis of the expression of Fc gamma receptors in the human placenta . 12th International Federation of Placenta Associations Meeting (Kobe, Japan), 2006 . 9 .
- 8) Takizawa T , Mori M , Ishikawa G¹⁾ , Goto T , Kataoka H²⁾ , Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Dept. Obstet. and Gynecol., Nippon Med. Sch. , ²⁾ 2nd Dept. Pathol., Facul. Med., Univ. Miyazaki): Subcellular distribution of hepatocyte growth factor activator inhibitor type 1 (HAI-1) in the full-term human placenta as revealed by ultrahigh-resolution immunofluorescence microscopy (UHR-IFM) . 12th International Federation of Placenta Associations Meeting (Kobe, Japan), 2006 . 9 .
- 9) 瀧澤俊広 , 石川 源¹⁾ , 松原茂樹²⁾ , 竹下俊行¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学 , ²⁾ 自治医科大学産婦人科学): ヒト正常胎盤絨毛の栄養膜細胞層に関する構造解析 : 特にその連続性について . 第57回日本産婦人科学会総会 , 2006 . 4 .
- 10) 石川 源¹⁾ , 竹下俊行¹⁾ , 松原茂樹²⁾ , 瀧澤俊広 (¹⁾ 日本医科大学産婦人科学 , ²⁾ 自治医科大学産婦人科学): ヒト初期胎盤絨毛におけるアルブミンの局在解析 . 第57回日本産婦人科学会総会 , 2006 . 4 .
- 11) 高山 剛¹⁾ , 松原茂樹¹⁾ , 大口昭英¹⁾ , 鈴木光明¹⁾ , 瀧澤俊広 (¹⁾ 自治医科大学産婦人科学講座): マウス精巢に発現する新規蛋白質 TEX101 は発生段階の卵巣にも発現している . 第57回日本産婦人科学会総会 , 2006 . 4 .
- 12) 後藤 忠 , 石川朋子 , 羅 善順 , 森 美貴 , 瀧澤敬美 , 瀧澤俊広 : 学生による解剖学授業評価Ⅰ : 携帯電話の導入 . 第94回日本解剖学会関東支部学術集会 , 2006 . 10 .

- 13) 瀧澤俊広, 森 美貴, 石川 源¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 松原茂樹²⁾, 荒木慶彦³⁾ (¹⁾日本医科大学産婦人科学講座, ²⁾自治医科大学産婦人科学講座, ³⁾順天堂大学大学院医学研究科・環境医学研究所): 生殖細胞の細胞化学的解析のための超高分解能蛍光顕微鏡法: 雄性生殖細胞に特異的な GPI 蛋白分子, TEX101 の局在解析. 第21回日本生殖免疫学会総会・学術集会, 2006. 12.
- 14) 羅 善順, 三嶋拓也, 川東 豊, 水口義昭¹⁾, 石川 源²⁾, 竹下俊行²⁾, 瀧澤俊広 (¹⁾外科学第1, ²⁾産婦人科学): ヒト満期胎盤における microRNA 発現プロファイル解析. 第112回日本解剖学会総会, 2007. 3.
- 15) 後藤 忠, 羅 善順, 森 美貴, 瀧澤敬美, 石川朋子, 瀧澤俊広: 学生による解剖学授業評価II: 携帯電話の有用性の検討. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2007. 3.
- 16) 瀧澤敬美, 三嶋拓也, 小菅拓治, 川東 豊, 水口義昭¹⁾, 瀧澤俊広 (¹⁾外科学第1): MicroRNA の in situ hybridization. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2007. 3.

2. 解剖学第二講座

研究概要

教室の主たる研究テーマは「脳とホルモン、特に神経内分泌系における機能形態解析」である。具体的な研究内容は以下の通りである。

- 1) 摂食制御神経ネットワークの構築とステロイドホルモンの影響：視床下部領域には摂食制御に関わる多数の神経細胞が存在するが、神経細胞間のネットワークを3次的に解析し、神経細胞の形態変化、機能発現について、ステロイドホルモンの関与の観点から解析している。
- 2) 摂食制御神経ネットワークとストレス応答系とのクロストーク：摂食調節がストレス誘導あるいはストレス緩和にどのような機序で関わるかについて、神経形態学的アプローチによって解明を行っている。さらにこの複雑なクロストークが視床下部にフィードバックされ、神経内分泌学的調節機構に反映して、ホルモンバランス調節の上でどのような影響を及ぼすかについて研究展開する。
- 3) 思春期発現とエネルギー代謝調節の連動に関する神経学的、神経内分泌学的解析：思春期発現には視床下部領域のGnRH (gonadotropin-releasing hormone：性腺刺激ホルモン放出ホルモン)ニューロンの機能発現が重要な因子となるが、GnRHニューロンの機能発現には様々な因子が関わる事が報告されており、特に近年、エネルギー代謝調節機構との関連が注目されている。そこで、摂食制御やエネルギー代謝調節に関わる神経機構とGnRHの機能発現の相関関係について形態科学的に解析を進め、さらにこのエネルギー代謝調節と思春期発現の神経機構解明を目指している。
- 4) 超高压電子顕微鏡を用いた神経細胞の微細形態の3次元化：愛知県岡崎市の生理学研究所および大阪大学超高压電子顕微鏡センターとの共同研究作業として、神経細胞やグリア細胞の微細構造を超高压電子顕微鏡を用いてトモグラフィ観察し、完全立体化するプロジェクトを進行中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Saito T, Yoshimoto M, Yamamoto Y, Miyaki T¹⁾, Itoh M¹⁾, Shimizu S²⁾, Oi Y²⁾, Schmidt W³⁾, Steinke H³⁾, (¹⁾ Department of Anatomy, Tokyo Medical University, ²⁾ Department of Anesthesia, School of Dentistry, Hihon University, ³⁾ Institute of Anatomy, University of Leipzig, Leipzig, Germany): The medial branch of the lateral branch of the posterior ramus of the spinal nerve. Surgical and Radiologic Anatomy 2006; 28 (3): 228-234.
- 2) Kokawa T¹⁾, Saigusa H¹⁾, Aino I¹⁾, Matsuoka C¹⁾, Nakamura T¹⁾, Tanuma K, Yamashita K, Niimi S²⁾ (¹⁾ Department of Otolaryngology, ²⁾ Department of Speech /Language Pathology, and Audiology, International University of Welfare and Health, Tochigi): Physiological studies of retrusive movement of the human tongue. Journal of Voice 2006; 20 (3): 414-422.
- 3) Kinoshita M¹⁾, Ito E¹⁾, Urano A¹⁾, Ito H, Yamamoto N (¹⁾ Hokkaido University): Periventricular efferent neurons in the optic tectum of rainbow trout. The Journal of Comparative Neurology 2006; 499 (4): 546-564.
- 4) Xue H-G, Yang C-Y, Ito H, Yamamoto N, Ozawa H: Primary and secondary sensory trigeminal projections in a cyprinid teleost, carp (*Cyprinus carpio*). The Journal of Comparative Neurology 2006; 499 (4): 626-644.

- 5) Nagae M¹⁾, Ikeda T¹⁾, Mikami Y¹⁾, Hase H¹⁾, Ozawa H, Matsuda KI²⁾, Sakamoto H²⁾, Tabata Y³⁾, Kawata M²⁾, Kubo T¹⁾ (¹⁾ Department of Orthopaedics, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine , ²⁾ Department of Anatomy and Neurobiology, Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine , ³⁾ Department of Biomaterials, Field of Tissue Engineering, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto University): Intervertebral disc regeneration using platelet-rich plasma and biodegradable gelatin hydrogel microspheres . *Tissue Engineering* 2007 ; 13 (1): 147-158 .
- 6) Xue H-G , Yang C-Y , Yamamoto N , Ozawa H : Fiber connections of the periventricular pretectal nucleus in a teleost, tilapia (*Oreochromis niloticus*) . *Neuroscience Research* 2007 ; 57 (2): 184-193 .
- 7) Han F¹⁾, Ozawa H , Matsuda KI¹⁾, Lu H¹⁾, De Kloet ER²⁾, Kawata M¹⁾ (¹⁾ Department of Anatomy and Neurobiology, Kyoto Prefectural University of Medicine , ²⁾ Division of Medical Pharmacology, Leiden/Amsterdam Centre for Drug Research, The Netherlands.): Changes in the expression of corticotrophin-releasing hormone, mineralocorticoid receptor and glucocorticoid receptor mRNAs in the hypothalamic paraventricular nucleus induced by fornix transection and adrenalectomy . *Journal of Neuroendocrinology* 2007 ; 19 (4): 229-238 .
- 8) Shibata M^{1, 2)}, Fujihara H¹⁾, Suzuki H²⁾, Ozawa H , Kawata M³⁾, Dayanithi G⁴⁾, Murphy D⁵⁾, Ueta T¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu , ²⁾ Department of Otorhinolaryngology, School of Medicine, University of Occupational and Environmental Health, Kitakyushu , ³⁾ Department of Anatomy and Neurobiology, Kyoto Prefectural University of Medicine , ⁴⁾ U-583 Inserm, L'Institut des Neurosciences de Montpellier, Hopital Saint Eloi, Montpellier, France , ⁵⁾ Molecular Neuroendocrinology Research Group, The Henry Wellcome Laboratories for Integrative Neuroscience and Endocrinology, University of Bristol, Bristol, UK.): Physiological studies of stress responses in the hypothalamus of vasopressin-enhanced green fluorescent protein transgenic rat . *Journal of Neuroendocrinology* 2007 ; 19 (4): 285-292 .
- 9) Vinh VQ¹⁾, Ogawa R¹⁾, Iwakiri I¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Tanuma K (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery): Clinical and anatomical study of cervico-pectoral (CP)" super- thin flap " . *Plastic and Reconstructive Surgery* 2007 ; 119 (5): 1464-1471 .
- 10) 鈴木俊彦¹⁾, 田沼久美子, 三枝英人²⁾, 浅川光夫, 薛 昊罡 (¹⁾ 日本医科大学医学部学生 , ²⁾ 耳鼻咽喉科学): 腹腔動脈の破格を認めた1例 . *日医大医会誌* 2006 ; 2 (3): 164-168 .
- (2) 綜説 :
- 1) Ito H , Ishikawa Y¹⁾, Yoshimoto M , Yamamoto N (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences): Diversity of brain morphology in teleosts : Brain and ecological niche . *Brain, Behavior and Evolution* 2007 ; 69 (2): 76-86 .
- 2) Ishikawa Y¹⁾, Yamamoto N , Yoshimoto M , Yasuda T¹⁾, Maruyama K¹⁾, Kage T¹⁾, Takeda H²⁾, Ito H (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences , ²⁾ University of Tokyo): Developmental origin of diencephalic sensory relay nuclei in teleost . *Brain, Behavior and Evolution* 2007 ; 69 (2): 87-95 .
- 3) Yamamoto N , Ishikawa Y¹⁾, Yoshimoto M , Xue H-G , Bahaxar N , Sawai N , Yang C-Y , Ozawa H , Ito H (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences): A new interpretation on the homology of the teleostean telencephalon based on hodology and a new eversion model . *Brain, Behavior and Evolution* 2007 ; 69 (2): 96-104 .
- 4) 益田律子¹⁾, 田沼久美子 (¹⁾ 千葉北総病院麻酔科): 神経ブロックの最前線 : 神経ブロックに関する最近の解剖学的知見 . *ペインクリニック* 2006 ; 27 (6): 691-703 .

著 書

- 1) 小澤一史：〔監訳〕トートラ解剖学（小澤一史，千田隆夫，高田邦昭監訳），2006；丸善（東京）。
- 2) 田沼久美子，益田律子¹⁾，三枝英人²⁾（¹⁾千葉北総病院麻酔科，²⁾耳鼻咽喉科学）：〔監修〕しくみと病気がわかるからだの事典。しくみと病気がわかるからだの事典，2006；成美堂（東京）。
- 3) 小澤一史：〔分担翻訳〕トートラ人体の構造と機能，第2版（大野忠雄，黒沢美重子，高橋研一，細谷安彦，他共訳），2007；丸善（東京）。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 山本直之，吉本正美，小澤一史：サカナに扁桃体は存在するのか？：真骨魚類の嗅覚および味覚系。低脳シンポジウム：生命の基本を司る脳機構の生物学。第77回日本動物学会，2006。9。
- 2) 山本直之，小澤一史：サカナに海馬はあるのか？。第112回日本解剖学会総会・全国学術集会，2007。3。
- 3) 田中雅樹¹⁾，渡邊義久¹⁾，小澤一史（¹⁾京都府立医科大学老化研細胞生物学）：Relaxin3 ニューロン系。第112回日本解剖学会総会・全国学術集会，2007。3。

(2) 一般講演：

- 1) Kobe K¹⁾，Ogawa R¹⁾，Vinh VQ¹⁾，Uysal CA¹⁾，Hyakusoku H¹⁾，Tanuma K（¹⁾Department of Plastic and Reconstructive Surgery）：Anatomical study of perforators in cervical area and clinical study of cervico-pectoral (CP)“super-thin flaps” using the perforators。10th International Course on Perforator Flaps (Ankara, Turkey)，2006。9。
- 2) Masuda R¹⁾，Tanuma K，Tanuma Y²⁾，Inoue T¹⁾（¹⁾Department of Anesthesiology, Chiba-Hokuso Hospital，²⁾Department of Anatomy, Teikyo University）：Meningeal structures of cervicothoracic subarachnoid space。XXV Annual ESRA (European Society of Regional Anaesthesia) Congress (Monte Carlo)，2006。9。
- 3) Yamamoto N，Ozawa H：Fiber connections of the rostralateral region of the lateral preglomerular nucleus in cyprinid teleosts。Society for Neuroscience (Atlanta, USA)，2006。10。
- 4) 吉本正美，山本直之，楊 春英，伊藤博信，小澤一史：スズキ型魚類テラピアの下葉内側部は終脳へ一般臓性感覚情報を伝える。第29回日本神経科学大会，2006。7。
- 5) 山本直之，薛 昊翌，石川裕二¹⁾，岡 良隆²⁾，小澤一史（¹⁾放射線医学総合研究所，²⁾東京大学）：メダカの終神経GnRH細胞への入力源。第29回日本神経科学大会，2006。7。
- 6) 小澤一史，山本直之，澤井信彦，薛 昊翌：コルチコステロイドの変動に伴う海馬領域アストログリアの機能形態変化。第29回日本神経科学大会，2006。7。
- 7) 石川裕二¹⁾，山本直之，吉本正美，保田隆子¹⁾，丸山耕一¹⁾，景 崇洋¹⁾，武田洋幸²⁾，伊藤博信（¹⁾放射線医学総合研究所，²⁾東京大学）：硬骨魚の間脳感覚中継核の発生学的起源：脊椎動物の間脳構成は共通である。第29回日本神経科学大会，2006。7。
- 8) 青木伸峰¹⁾，田沼久美子，利根川均²⁾，小澤一史，百束比古¹⁾（¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾博慈会記念総合病院形成外科）：動脈造影と組織所見を併用した腓腹皮弁の血行に対する1考察。第74回日本医科大学医学会総会，2006。9。
- 9) 青木伸峰¹⁾，田沼久美子，利根川均²⁾，小澤一史，百束比古¹⁾（¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾博慈会記念総合病院形成外科）：動脈造影と組織所見を併用した腓腹皮弁の血行に対する1考察。第15回日本形成外科学会基礎学術集会，2006。10。
- 10) 大木琴美¹⁾，村上正洋¹⁾，田沼久美子，百束比古²⁾（¹⁾武蔵小杉病院形成外科学，²⁾形成外科学）：狭茎胸部肋間穿通枝皮弁についての血管解剖学的検討。第15回日本形成外科学会基礎学術集会，2006。10。
- 11) 青木伸峰¹⁾，百束比古¹⁾，水野博司¹⁾，岩切 致¹⁾，利根川均²⁾，田沼久美子，小澤一史（¹⁾日本医科大学形成

- 外科学, ²⁾ 博慈会記念総合病院): 遠位茎腓腹皮弁における腓腹神経温存の解剖学的検討. 第33回マイクロサージャリー学会, 2006. 10.
- 12) 薛 昊罡, 加藤昌克¹⁾, 山本直之, 楊 春英, 佐久間康夫¹⁾, 小澤一史 (¹⁾生理学第1): ラットの視索前野GnRHニューロンの全景描出. 第33回神経内分泌学会, 2006. 10.
- 13) 山本直之, 薛 昊罡, 石川裕二¹⁾, 岡 良隆²⁾, 小澤一史 (¹⁾放射線医学総合研究所, ²⁾東京大学): メダカの中脳から終神経GnRH細胞への神経入力. 第33回日本神経内分泌学会, 2006. 10.
- 14) 小澤一史, 楊 春英, 澤井信彦, 松本恵介, 有井達夫¹⁾ (¹⁾自然科学研究機構生理学研究所): コルチコステロイドの変動に伴う海馬領域グリア細胞の形態変化と機能について. 第33回日本神経内分泌学会, 2006. 10.
- 15) 吉本正美, 山本直之, 小澤一史: マウス三叉神経の3つの枝の感覚線維の数と大きさ. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2007. 3.
- 16) 三枝英人¹⁾, 田沼久美子, 田沼 裕²⁾ (¹⁾日本医科大学耳鼻咽喉科学, ²⁾帝京大学医学部解剖学): 咽頭の神経支配についての比較解剖学的研究. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2007. 3.
- 17) 青木伸峰¹⁾, 田沼久美子, 百束比古¹⁾, 小澤一史 (¹⁾形成外科学): 動脈造影と組織所見を併用した腓腹皮弁の血行に対する考察. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2007. 3.
- 18) 澤井信彦, 小澤一史: ラット脳におけるオレキシンニューロンの生後発生と老化に関する免疫組織化学的解析. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2007. 3.
- 19) 薛 昊罡, 山本直之, 加藤昌克¹⁾, 楊 春英, 佐久間康夫¹⁾, 小澤一史 (¹⁾生理学第1): GnRH-EGFPトランスジェニックラットを用いた視索前野GnRHニューロンの形態解析. 第112回日本解剖学会総会・全国学術集会, 2007. 3.

3. 生理学第一講座

研究概要

平成16年度に発足した文部科学省特定領域研究「性分化機構の解明」は2年が経過し、中間評価を受けた。幸い成果が評価され、平成20年度まで継続が認められた。10月には第33回日本神経内分泌学会（横浜）を主催した。また、同月第77回日本動物学会の折に「性分化の分子機構」と題する国際シンポジウム（松江）を組織し、脳の性分化研究領域における旧知の研究者3名を招請した。この他第41回脳のシンポジウム（前橋）、北里大学ハイテクリサーチセンター研究会（十和田）、第16回神経科学の基礎と臨床（大阪）などで招待講演を行った。学部教育では依然、系統講義と充実した実習が学生から支持されている。博士研究員に新規に2名を採用し、新たな方向への研究の発展を目指している。科学研究費については基盤研究（B）1件、（C）2件、萌芽研究1件の計4件が新規採択され、継続の特定領域研究1件、基盤研究（C）3件をあわせて計8件が採択された。研究の内容は生殖生理学を中心とする神経内分泌学であって、思春期の発動機序や思春期の問題行動の中枢機序の解明を進めている。キーワードにはGnRH、イオンチャンネル、トランスジェニックラット（Tg）、エストロゲン、受容体、性差、転写調節、性行動などが挙げられる。Tg法によりGnRHニューロンを標識したラットを用いた細胞生理学的研究では、興奮性に関わる各種のイオンチャンネルの同定が進んだ。エストロゲンによる転写調節により脳の性差の成立に関わる遺伝子カスケードをDNAマイクロアレイを用いて解析している。エストロゲン受容体陽性ニューロンをTg法により標識したラットもエストロゲンによる脳の性分化・性行動の調節の解明に貢献している。今年度は論文発表の数がいささか少なかったが、年度末時点で3編が投稿中で、多くの学会発表に見られるように新たな知見も得て明年度は従来に勝る成果を報告できると考える。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kato M, Tanaka N, Usui S, Sakuma Y : SK channel blocker apamin inhibits slow afterhyperpolarization currents in rat gonadotropin-releasing hormone neurones . *Journal of Physiology* 2006 ; 574 (2) : 431-442 .
- 2) Satoshi O, Go A, Shumei K, Tomoko S, Yasuo S, Ishwar S P : Immunoneutralization of gonadotropin-releasing hormone type-III suppresses male reproductive behavior of cichlids . *Neuroscience Letters* 2006 ; 403 (3) : 201-215 .
- 3) Urakawa S, Hida H¹⁾, Masuda T¹⁾, Misumi S¹⁾, Kim T-S¹⁾, Nishino H¹⁾(¹⁾ Department of Neurophysiology and Brain Science, Nagoya City University) : Environmental enrichment brings a beneficial effect on beam walking and enhances the migration of doublecortin-positive cells following striatal lesions in rats . *Neuroscience* 2006 ; 144 : 920-933 .
- 4) Takenoya F¹⁾, Guan JL¹⁾, Kato M, Sakuma Y, Kintaka Y¹⁾, Kitamura Y¹⁾, Kitamura S¹⁾, Okuda H¹⁾, Takeuchi M¹⁾, Kageyama H¹⁾, Shioda S¹⁾ : Neural interaction between galanin-like peptide (GALP) and luteinizing hormone-releasing hormone (LHRH) containing neurons . *Peptides* 2006 ; 27 (11) : 2885-2893 .
- 5) Takenoya F¹⁾, Guan Jian-L¹⁾, Kato M, Sakuma Y, Kintaka Y¹⁾, Kitamura Y¹⁾, Kitamura Shinji¹⁾, Okuda H¹⁾, Takeuchi M¹⁾, Kageyama H¹⁾, Shioda Seiji¹⁾(¹⁾ Showa University School of Medicine) : Neural interaction between galanin-like peptide (GALP) and luteinizing hormone-releasing hormone (LHRH) containing neurons . *Peptides* 2006 ; 27 (11) : 2885-2893 .
- 6) Oriyasa C, Kondo Y, Sakuma Y : Transient transcription of the somatostatin gene at the time of estrogen-

dependent organization of the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area . Endocrinology 2006 ; 148 (3): 1144-1149 .

(2) 綜説 :

- 1) Hamada T , Sakuma Y : In vivo visualization of estrogen receptor gene promoter activity . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (3): 114-115 .
- 2) 佐久間康夫 : 内分泌調節に見る脳と身体との相互作用 . 科学 2006 ; 76 (3): 273-279 .
- 3) 佐久間康夫 : 脳の構築に見る雌雄差 . 細胞工学 2006 ; 25 (4): 383-387 .
- 4) 佐久間康夫 : GnRH の構造と生理作用 . 日本臨床増刊号臨床分子内分泌学 4 : 生殖内分泌系 (通巻 892 号) 2006 ; 64 (4): 7-12 .
- 5) 佐久間康夫 : 脳の性分化 . 日本生理学雑誌 2006 ; 68 (10): 355-367 .

著 書

- 1) Ryoiti K¹⁾ , Yuko Wada-K (¹⁾ Signaling Molecules Research Laboratory, National Institute of Advanced) : [共著] Periodic bent DNA : A functional component of genomic DNA and chromatin . DNA Structure, Chromatin and gene Expression , 2006 ; pp55-70 , Transworld Research Network .

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Sakuma Y : Physiological and behavioral consequences of the depletion of hypothalamic orexin . Rockefeller University Meeting (USA) , 2006 . 12 .
- 2) 佐久間康夫 : エストロゲンと脳 . 北里大学獣医畜産学部 ハイテク・リサーチ・センター報告会 , 2006 . 9 .
- 3) 佐久間康夫 : 視床下部の性分化の機構 . 第 16 回神経科学の基礎と臨床 , 2006 . 12 .

(2) 教育講演 :

- 1) 佐久間康夫 : 「 ホルモンがつくる脳・動かす脳 : 性ホルモンによる脳の性分化と行動の調節 」 . 日本母性衛生学会 , 2006 . 11 .

(3) シンポジウム :

- 1) 佐久間康夫 : フェロモンと生殖研究のフロンティア (比較内分泌学の新世紀) . 第 31 回日本比較内分泌学会 , 2006 . 12 .

(4) ワークショップ :

- 1) 近藤保彦 : 性成熟後に見られる雄ラット性指向性の柔軟性 . 日本動物心理学会第 66 回大会 , 2006 . 10 .
- 2) 近藤保彦 : 心理学における神経内分泌学 . 日本心理学会第 70 回大会 , 2006 . 11 .

(5) 一般講演 :

- 1) Kato M , Sakuma Y : Presence of slow afterhyperpolarization current and its function in rat GnRH neurons . 6th International Congress of Neuroendocrinology (Pittsburgh, USA) , 2006 . 6 .
- 2) Tanaka N , Watanabe M , Yin C , Sakuma Y , Kato M : GABA Increased the Intracellular Calcium Concentration of GnRH Neurons Isolated from Adult GnRH-EGFP Transgenic Rats . 6th International Congress of Neuroendocrinology (Pittsburgh, USA) , 2006 . 6 .
- 3) Orikasa C , Kondo Y , Sakuma Y : Sexually Dimorphic Expression of Somatostatin Gene in the Developing Rat Preoptic Area . Society for Behavioral Neuroendocrinology (Pittsburgh, USA) , 2006 . 6 .
- 4) Kondo Y , Sobukawa A¹⁾ , Katou M¹⁾ , Sakuma Y , Toru R S¹⁾ (¹⁾ Department of Comparative and Behavioral Medicine, Nippon Veterinary and Animal Science University) : Olfactory Conditioning of Copulatory Behavior in Male Mice . Society for Behavioral Neuroendocrinology (Pittsburgh, USA) , 2006 . 6 .

- 5) Yamada K¹⁾, Horibe S²⁾, Kondo Y (¹⁾Department of Psychology&Behavioral Neuroscience, University of Tsukuba , ²⁾ Department of Psychology, Mejiro University): Effects of Opiate Antagonist on Mating-Induced Conditioned Place Preference in Female rats . Society for Behavioral Neuroendocrinology (Pittsburgh, USA), 2006 . 6 .
- 6) Tomohiro H , Yasuo S : Estrogen receptor alpha gene promoter activity is a marker for the sexually dimorphic nucleus of the preoptic area . The 6th Congress of the Federation of Asian and Oceanian Physiological Societies (Soul, Korea (ソウル・韓国)), 2006 . 10 .
- 7) 加藤昌克 , 佐久間康夫 : 緩徐後過分極はラットGnRHニューロンの放電パターンを規定する . 第29回日本神経科学大会 , 2006 . 7 .
- 8) 佐久間康夫 : Recent Progress in the Study of Molecular Mechanisms of Sex Differentiation in the Brain 「 脳の性分化の分子メカニズムに関する研究の進展 」 . 社団法人日本動物学会第77回大会 , 2006 . 9 .
- 9) Urakawa S , Kondo Y , Nishino H¹⁾ , Sakuma Y (¹⁾Dept. Neuro-physiol. &Brain Sci., Nagoya City University): Enriched rearing environment decreases social interaction during mating in male rats . 第84回日本生理学会大会 , 2007 . 3 .
- 10) Xu Q , Hamada T , Wada-Kiyama Y , Kiyama R¹⁾ , Sakuma Y (¹⁾RIBRF, AIST, Ibaraki, Japan): Estrogen-regulated genes in the sexually dimorphic area of female rat brain during the critical periods . 第84回日本生理学会大会 , 2007 . 3 .
- 11) Orikasa C , Sakuma Y : Transient transcription of of the somatostatin gene in the sexually dimorphic nucleus of the rat preoptic area . 第84回日本生理学会大会 , 2007 . 3 .
- 12) Hamada T , Sakuma Y : In vivo visualization of the sexually dimorphic nucleus of the preoptic area . 第84回日本生理学会大会 , 2007 . 3 .
- 13) Dhungel S , Urakawa S , Kondo Y , Sakuma Y : Differential roles of the medial amygdala and the medial preoptic area in control of conspecific oder preference in male rats . 第84回日本生理学会大会 , 2007 . 3 .
- 14) Hiraizumi Y , Nishimura I , Kato M , Sakuma Y : Expression of BK channels and their functional analysis in rat Gonadotropin-releasing hormone neurons . 第84回日本生理学会大会 , 2007 . 3 .
- 15) 有吉恭子¹⁾ , 佐々木靖²⁾ , 佐藤亜弥³⁾ , 藤野武彦³⁾ , 上坂伸宏 , 丸山 徹⁵⁾ (¹⁾九州大学・病態修復内科 , ²⁾福岡和白病院・内科 , ³⁾レオロジー機能食品研究所 , ⁴⁾九州大学・健康科学センター): 冷え性女性における赤血球変形能 : OPCSの効果 . 日本膜学会第28年会 , 2006 . 6 .
- 16) 折笠千登世 , 近藤保彦 , 佐久間康夫 : ラット視索前野性的二型核に発現するソマトスタチンの性差 . 第29回日本神経科学大会 , 2006 . 7 .
- 17) 濱田知宏 , 佐久間康夫 : 視索前野性的二型核特異的新規マーカーとしてのエストロゲン受容体遺伝子プロモーター活性 . 第29回日本神経科学大会 , 2006 . 7 .
- 18) 尹 成珠 , 田中伸幸 , 加藤昌克 , 佐久間康夫 : GABA は成熟ラットから単離したGnRHニューロンを脱分極する . 第29回日本神経科学大会 , 2006 . 7 .
- 19) 西村一路 , 加藤昌克 , 佐久間康夫 : エストロゲンはエストロゲン受容体 を介してGnRHニューロン株細胞GT1-7のBK電流を増強する . 第29回日本神経科学大会 , 2006 . 7 .
- 20) 西村一路 , 加藤昌克 , 佐久間康夫 : エストロゲン受容体 を介するGnRhニューロン株細胞におけるBK電流の増強効果 . 下垂体研究会第21回学術集会 , 2006 . 8 .
- 21) 佐久間康夫 : ラット脳の性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析 . 特定領域研究「性分化機構の解明」第3回領域会議 , 2006 . 9 .
- 22) 浦川 将 , 近藤保彦 , 佐久間康夫 : 豊かな飼育環境によってもたらされる雄ラット社会行動の変化 . 日本動物心理学会第66回大会 , 2006 . 10 .

- 23) 近藤保彦, 曾布川亜弓¹⁾, 加藤雅裕¹⁾, 佐久間康夫, 斉藤 徹¹⁾(¹⁾日本獣医生命科学大学): 雄マウス性行動における嗅覚条件付け. 日本動物心理学会第66回大会, 2006. 10.
- 24) 堀部 晨¹⁾, 近藤保彦, 岩崎庸男¹⁾, 山田一夫²⁾(¹⁾目白大学, ²⁾筑波大学): 雌ラットの性行動による条件性場所選好に及ぼすナロキソン投与の効果. 日本動物心理学会第66回大会, 2006. 10.
- 25) 濱田知宏, 佐久間康夫: in vivoにおける視索前野性的二型核の可視化. 第33回日本神経内分泌学会学術集会, 2006. 10.
- 26) 平泉良枝, 西村一路, 加藤昌克, 佐久間康夫: ラットGnRHニューロンにみられるカルシウム・膜電位依存性カリウム. 第33回日本神経内分泌学会学術集会, 2006. 10.
- 27) 薛ホウガン¹⁾, 加藤昌克, 山本直之¹⁾, 楊 春英¹⁾, 佐久間康夫, 小澤一史¹⁾(¹⁾日本医科大学大学院医学研究科・生体制御形態科学): ラットの視索前野GnRHニューロンの全景描出. 第33回日本神経内分泌学会学術集会, 2006. 10.
- 28) 肖 凱¹⁾, 近藤保彦, 佐久間康夫(¹⁾筑波大学大学院人間総合科学研究科): ラット性指向性におけるエストロゲンの二相性作用. 第33回日本神経内分泌学会学術集会, 2006. 10.

4. 生理学第二講座

研究概要

当講座ではストレス反応機構，エネルギー代謝調節機構，てんかん発症機構，神経情報伝達機構の解明に向けて研究を進めている．今年度に発表された主な研究内容は以下の点である．

エネルギー代謝調節機構の解明ではグレリンの役割に注目し，グレリン受容体発現抑制トランスジェニックラットを用いた研究が進行中であるが，グレリンが視床下部弓状核のGHRH発現に促進的に作用していることを明らかにした．さらにグレリンは同核内のNPY発現に促進的作用を示すこと，NPYがGHRHの発現に抑制的に作用することも明らかにした (Endocrinology 2006)．ストレス反応機構に関する解析では，CRFファミリーペプチドであるUrocortin 2 (Ucn2) が下垂体に発現していることを明らかにしているが，今年度はその分泌とmRNA発現の調節を検討し，下垂体前葉のUcn 2発現はCRFによって促進的に，グルココルチコイドによって抑制的に調節され，中葉のUcn 2発現はCRFによって促進されることを明らかにした (J. Endocrinol 2007)．

てんかん発症機構の研究では，遺伝性自然発症てんかんラット (SER) の海馬興奮性シナプス電位が正常ラットのそれと比べて非常に小さく，長期増強の誘発率も有意に低いことを明らかにし，さらなる検討を進めている．

神経情報伝達機構に関する研究では，成動物と異なり幼弱動物でみられる頻回刺激に対するシナプス応答の脆弱性が，シナプス前終末からの伝達物質放出の失敗のみでなく，後膜の受容体の脱感作によることを見出した．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Wang N, Sugama S, Conti B¹⁾, Teramoto A²⁾, Shibasaki T (¹⁾Neurological Research Center, The Scripps Research Institute, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Interleukin-18 mRNA expression in the rat pituitary gland . Journal of Neuroimmunology 2006 ; 173 (1-2): 117-25 .
- 2) Mano-Otagiri A, Shibasaki T : Expression of growth hormone secretagogue receptor on growth hormone-releasing hormone neurons and neuropeptide Y neurons in the arcuate nucleus of rat hypothalamus . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4): 176-177 .
- 3) Mano-Otagiri A, Nemoto T, Sekino A, Yamauchi N, Shuto Y¹⁾, Sugihara H¹⁾, Oikawa S¹⁾, Shibasaki T (¹⁾Department of Medicine): Growth hormone-releasing hormone (GHRH) neurons in the arcuate nucleus (Arc) of the hypothalamus are decreased in transgenic rats whose expression of ghrelin receptor is attenuated : evidence that ghrelin receptor is involved in the up-regulation of GHRH expression in the Arc . Endocrinology 2006 ; 147 (9): 4093-4103 .
- 4) Kim Y¹⁾, Choi DH, Block ML¹⁾, Lorenzl S¹⁾, Yang L¹⁾, Kim YJ, Sugama S, Cho BP¹⁾, Hwang O¹⁾, Browne SE, Kim SY, Hong JS, Beal MF¹⁾, Joh TH¹⁾ (¹⁾Department of Neurology and Neuroscience, Weill Medical College of Cornell University): A pivotal role of matrix metalloproteinase-3 activity in dopaminergic neuronal degeneration via microglial activation . FASEB J 2007 ; 21 (1): 179-187 .
- 5) Nemoto T, Iwasaki-Sekino A, Yamauchi N, Shibasaki T : Regulation of the expression and secretion of urocortin 2 in rat pituitary . J. Endocrinol 2007 ; 192 (2): 443-452 .
- 6) Fujita M¹⁾, Sugama S, Nakai M¹⁾, Takenouchi T, Wei J¹⁾, Urano T, Inoue S, Hashimoto M¹⁾ (¹⁾Department of Chemistry and Metabolism, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience): alpha-Synuclein stimu-

lates differentiation of osteosarcoma cells : relevance to down-regulation of proteasome activity . J Biol Chem 2007 ; 282 (8) : 5736-5748 .

(2) 綜説 :

- 1) 根本崇宏, 芝崎 保 : 摂食調節因子の異常-基礎 . ホルモンと臨床 2006 ; 54 (4) : 319-327 .
- 2) 新井桂子, 芝崎 保 : CRF ファミリーペプチドと摂食障害 . 脳と神経 2006 ; 58 (5) : 371-378 .
- 3) 芝崎 保 : 中枢性摂食異常症 . 日本臨床 新領域別症候群シリーズ No. 1 2006 ; 8-11 .

(3) 研究報告書 :

- 1) 芝崎 保, 眞野あすか, 関野あずさ, 根本崇宏, 大畠久幸 : ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討 . 平成 17 年度喫煙科学研究財団研究年報 2006 ; pp865-870 .
- 2) 眞野あすか, 根本崇宏, 関野あずさ : エネルギー代謝調節機構におけるグレリンおよびその受容体の機能の解明 . 成長科学協会研究年報 2006 ; (29) : pp257-262 .
- 3) 根本崇宏, 関野あずさ, 山内直子, 芝崎 保 : 初代培養下垂体における Urocortin 2 分泌および mRNA 発現の調節 . ACTH RELATED PEPTIDES 2006 ; 17 : pp51-58 .
- 4) 芝崎 保, 大畠久幸 : ストレス性食欲抑制における CRF の作用部位 : 神経性食欲不振症の病態における CRF に関する考察 . 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 中枢性摂食異常症に関する調査研究 2007 ; pp12-14 .

著 書

- 1) 芝崎 保 : [分担] 先端巨大症 (末端肥大症) ・下垂体性巨人症 . 内科学 (金澤一郎ら), 2006 ; pp2143-2146 , 医学書院 .
- 2) 芝崎 保 : [分担] ニコチンのエネルギー代謝調節機構への作用機序に関する内分泌学的考察 . 喫煙科学研究の歩み 1996 年から 2005 年 (財団法人喫煙科学研究財団), 2007 ; pp187-189 , 財団法人喫煙科学研究財団 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) Shibasaki T : Role of ghrelin in growth hormone secretion and energy metabolism . 2006 年度韓国内分泌学会 (ソウル, 韓国), 2006 . 4 .
- 2) 眞野あすか, 根本崇宏, 関野あずさ, 大畠久幸, 芝崎 保 : グレリンのエネルギー代謝調節機構における役割 . 第 79 回日本内分泌学会学術総会 , 2006 . 5 .

(2) セミナー :

- 1) 丸 栄一 : 神経の興奮と抑制 : GABA 性シナプス伝達は興奮か抑制か ? (第 1 回てんかん学研修セミナー) . 第 40 回日本てんかん学会 , 2006 . 9 .

(3) 一般講演 :

- 1) Nemoto T , Mano-Otagiri A , Shuto Y¹⁾ , Sugihara H¹⁾ , Oikawa S¹⁾ , Shibasaki T (¹⁾ Dept. of Medicine, Nippon Medical School) : Ghrelin Receptor Is Involved in the Up-Regulation of GHRH Expression in Arcuate Nucleus of the Hypothalamus . The endocrine society's 88th annual meeting (Boston, MA, USA), 2006 . 6 .
- 2) 関野あずさ, 眞野あすか, 稲田詩乃, 山内直子, 芝崎 保 : ストレス下における雌ラットの性周期に伴う視床下部室傍核および扁桃体中心核の corticotropin-releasing factor (CRF) mRNA 発現の変化 . 第 79 回 日本内分泌学会学術総会 , 2006 . 5 .
- 3) 根本崇宏, 眞野あすか, 山内直子, 芝崎 保 : グレリンは成長ホルモン放出ホルモンの発現調節に促進的に関与する . 第 79 回日本内分泌学会学術総会 , 2006 . 5 .
- 4) 大畠久幸, 芝崎 保 : ストレスによる摂食抑制における分界条床核および外側中隔の CRF 受容体の役割に関する

- る検討．第79回日本内分泌学会学術総会，2006．5．
- 5) 大畠久幸，芝崎 保：ストレスによる摂食抑制における背側縫線核，分界条床核および外側中隔のCRF受容体の役割に関する検討．第2回日本摂食障害学会，2006．9．
 - 6) 岩寄あずさ，眞野あすか，芝崎 保：ニコチンの視床下部室傍核と扁桃体中心核におけるCRF発現と褐色脂肪細胞でのNA分泌への影響．第33回 日本神経内分泌学会，2006．10．
 - 7) 大畠久幸，芝崎 保：ストレスによる摂食抑制における背側縫線核分界条床核および外側中隔のCRF受容体の役割に関する検討．第18回CRH・ACTH研究会，2007．3．
 - 8) 原田嘉夫：幼若ラットにおける脊髄単シナプス性反射電位の高頻度刺激に対する応答．第84回日本生理学会大会，2007．3．

5. 生化学第一講座

研究概要

本教室では、近年情報伝達や病態などに広くかかわっている活性酸素種などの生成と制御機能を中心として、タンパク質の構造と機能、蛋白質相互作用、翻訳後修飾、先天性代謝異常の原因などに取り組んでいる。それらの中心は金属やフラビンなど補欠分子族をもつ蛋白質であり、分子生物学的手法、分光学やX線結晶解析をふくむ物理化学的手法、たんぱく質化学、反応速度論など様々な手法を用いて総合的に取り組んでいる。

1) 低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素/脱水素酵素についてはX線結晶解析による3次元構造の解析結果を基に、発現系を用い種々の変異酵素を作成し、酵素の構造と反応機構、脱水素酵素型から酸化酵素型への変換機構、スーパーオキシド生成機構、阻害剤の開発などの研究を行っている。X線結晶解析ではさらに高分解能および種々の阻害剤との複合体、および様々な変異酵素の解析を行って特異な反応機構の解析を進めている。

2) 細胞内酸化ストレス抵抗性タンパク質と予想されるパーオキシレドキシシン(HBP23)に関して、酵素の10量体の酵素を作成し、そのX線結晶構造とともにその過酸化水素分解反応につき反応速度論的解析を進めた。またALSトランスジェニックモデルマウスを用いて本蛋白質の病理・生理的役割とともにALSの成因との関係、治療薬の開発をめざし解析を進めている。

3) 上記以外のタンパク質をプロテオミクス法を用いて新しいタンパク質の網羅的検索を行っている。また、タンパク3000プロジェクトの一環として、それらの中で重要な蛋白質の発現、精製、結晶化、構造解析を行った。また、好熱菌由来の特異な鉄イオウ蛋白質の物理化学的性質の解析も進めている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Mine K¹⁾, Katayama A, Matsumura T, Nishino T, Kuwabara Y¹⁾, Ishikawa G¹⁾, Murata T¹⁾, Sawa R¹⁾, Otsubo Y²⁾, Shin S³⁾, Takeshita T¹⁾ (¹⁾ Dept. of Obstetrics and Gynecology, Nippon Medical School, ²⁾ Omiya Chuo Sogo Hospital, ³⁾ Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital): Proteome Analysis of Human Placentae: Pre-eclampsia Versus Normal Pregnancy. Placenta 2006.
- 2) Iwasaki T, Kounosu A, Samoilova RI¹⁾, Dikanov SA²⁾ (¹⁾ Russian Acad of Science, ²⁾ Univ. of Illinois at UC): ¹⁵N HSCORE characterization of the fully deprotonated, reduced form of the archaeal Rieske [2Fe-2S] center. J Am Chem Soc 2006; 128: 2170-2171.
- 3) Iwasaki T, Kounosu A, Kolling DR¹⁾, Lhee S¹⁾, Crofts AR¹⁾, Dikanov SA¹⁾, Uchiyama T²⁾, Kumasaka T²⁾, Ishikawa H³⁾, Kono M³⁾, Imai T³⁾, Urushiyama A³⁾ (¹⁾ Univ. of Illinois at UC, ²⁾ Tokyo Inst of Tech, ³⁾ Rikkyo Univ.): Resonance Raman characterization of archaeal and bacterial Rieske protein variants with modified hydrogen bond network around the [2Fe-2S] center. Prot Sci 2006; 15: 2019-2024.
- 4) Iwasaki T, Kounosu A, Ohmori D¹⁾, Kumasaka T²⁾ (¹⁾ Juntendo Univ., ²⁾ Tokyo Inst. of Tech.): Crystallization and preliminary X-ray diffraction studies of a hyperthermophilic Rieske protein variant (SDX-triple) with an engineered rubredoxin-like mononuclear iron site. Acta Crystallograph Sect F Biol Cryst Commun 2006; 62: 993-995.
- 5) Kato M¹⁾, Kato S²⁾, Ohama E²⁾, Abe Y, Nishino T, Aoki M³⁾, Itoyama Y³⁾ (¹⁾ Tottori University Hospital, ²⁾ Tottori University, ³⁾ Tohoku University): Histological recovery of the hepatocytes is based on the

redox system upregulation in the animal models of mutant superoxide dismutase (SOD) 1-linked amyotrophic lateral sclerosis . *Histol. Histopathol* 2006 ; 21 : 729-742 .

- 6) Asai R , Nishino T , Matsumura T , Okamoto K , Igarashi K¹⁾ , Pai E F²⁾ , Nishino T (¹⁾ The University of Tokyo , ²⁾ University of Toronto): Two Mutations Convert Mammalian Xanthine Oxidoreductase to Highly Superoxide-Productive Xanthine Oxidase . *Journal of Biochemistry* 2007 .
- 7) Yamaguchi Y¹⁾ , Matsumura T , Ichida K¹⁾ , Okamoto K , Nishino T (¹⁾ Jikei University School of Medicine): Human Xanthine Oxidase Changes Its Substrate Specificity to Aldehyde Oxidase Type upon Mutation of Amino Acid Residues in the Active Site : Roles of Active Site Residues in Binding and Activation of Purine Substrate . *Journal of Biochemistry* 2007 .
- 8) Nagahara N¹⁾ , Yoshii T¹⁾ , Abe Y , Matsumura T (¹⁾ Dept. of Environmental Medicine, Nippon Medical School): Thioredoxin-dependent enzymatic activation of mercaptopyruvate sulfurtransferase : an intersubunit disulfide bond serves as a redox switch for activation . *J. Biol. Chem.* 2007 ; 282 (3): 1561-1569 .
- 9) 岡本 研 , 西野武士 : XORによる活性酸素生成機構 : レドックスシグナル発生の分子基盤 . *実験医学* 2006 ; 24 (12): 1724-1730 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 西野武士 : モリブドプテリン含有フラビン酵素であるキサンチン酸化還元酵素の構造・反応機構・調節機構と生理的意義 . 第20回プテリジンコンファレンス & 第14回サイトカイン・ネオプテリン研究会 第2回連合研究発表会 , 2006 . 7 .
- 2) 西野武士 : タンパク質の形と創薬 . 日本生化学会関東支部例会 , 2006 . 10 .

(2) 招待講演 :

- 1) Nishino T : The Mammalian Xanthine Oxidoreductase : Mechanisms of Hydroxylation Reaction and Dehydrogenase/Oxidase Conversion . 武田科学振興財団シンポジウム (Kyoto, Japan) , 2006 . 4 .
- 2) 西野武士 : キサンチン脱水素酵素・酸化酵素 : 構造 , 反応機能 , 調節機構と生理機能 . 北里大学 理学部セミナー , 2006 . 9 .
- 3) 西野武士 : 新旧尿酸血症の治療薬 . 第40回日本痛風・核酸代謝学会 , 2007 . 2 .

(3) ワークショップ :

- 1) 西野武士 : 複合反応中心を持つ複合金属フラビン酵素の発現と精製と結晶化 . 第6回蛋白質科学会年会 , 2006 . 4 .

(4) 一般講演 :

- 1) Okamoto K , Matsumoto K¹⁾ , Yamaguchi Y²⁾ , Hille R³⁾ , Eger B T⁴⁾ , Pai E F⁴⁾ , Nishino T (¹⁾ Fuji Yakuhin Co. Ltd. , ²⁾ Jikei University School of Medicine , ³⁾ The Ohio State University , ⁴⁾ University of Toronto): Mechanism of Hydroxylation Reaction of Mammalian Xanthine Oxidoreductase . 第20回国際生化学・分子生物学会議 (Kyoto, Japan) , 2006 . 6 .
- 2) Nishino T , Okamoto K , Kawaguchi Y , Asai R , Matsumura T , Hori H¹⁾ , Pai E F²⁾ , Nishino T (¹⁾ Ehime University , ²⁾ University of Toronto): The mechanisms of Xanthine Dehydrogenase/Oxidase Conversion . 第20回国際生化学・分子生物学会議 (Kyoto, Japan) , 2006 . 6 .
- 3) Kusano T , Nishino T , Okamoto K , Nishino T : Xanthine dehydrogenase/oxidase converting activity of milk . 第20回国際生化学・分子生物学会議 (Kyoto, Japan) , 2006 . 6 .
- 4) Kato S¹⁾ , Kato M²⁾ , Ohama E¹⁾ , Abe Y , Nishino T , Aoki M³⁾ , Itoyama Y³⁾ , Hirano A⁴⁾ (¹⁾ Tottori University , ²⁾ Tottori University Hospital , ³⁾ Tohoku University , ⁴⁾ Montefiore Medical Center, Bronx): Immunohistochemical dynamics of the redox system in the motor neurons in ALS : self-survival mechanism

- under ALS stress . XVIth Intenational Congress of Neuropathology (San Franncisco, USA), 2006 . 9 .
- 5) Kikuchi H¹⁾, Watanabe N²⁾, Okamoto K , Leimkuhler S³⁾, Nishino T (¹⁾ Dept. of Physics, Nippon Medical School , ²⁾ Center for Information Sciences, Nippon Medical School , ³⁾ Dept. of Plant Biol., Technical Univ. Braunschweig, Germany): Dynamic structure of xanthine oxidoreductase by normal mode analysis . Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (Okinawa, Japan), 2006 . 11 .
- 6) Kato S¹⁾, Kato M²⁾, Ohama E¹⁾, Abe Y , Nishino T , Aoki M³⁾, Itoyama Y³⁾, Hirano A⁴⁾ (¹⁾ Tottori University , ²⁾ Tottori University Hospital , ³⁾ Tohoku University , ⁴⁾ Montefiore Medical Center, Bronx): Redox system up-regulation in ALS motor neurons : A servival mechanism under stress . 17th International Symposium on ALS/MND (Yokohama, Japan), 2006 . 11 .

6. 生化学第二講座

研究概要

1. 分子遺伝学部門では遺伝子治療の基盤技術の開発を中心に、遺伝子解析、細胞治療、遺伝子診療も含めた、ゲノム医学の包括的トランスレーショナルリサーチを目指している。

造血幹細胞へのベクターとして最も期待されているレンチウイルスベクターについて、挿入変異を定量的に検出するアッセイ法を開発し、各エレメントの最適化を図っている。安全性の高いアデノ随伴ウイルス (AAV) ベクターについて、1型から12型の様々な血清型のベクターの作製、濃縮、精製法を確立するとともに、発現高率の高い Self complementary 型のベクターの開発も進めている。

異染性白質ジストロフィー (MLD) をモデルとして遺伝性神経変性疾患に対する遺伝子治療の可能性を検討している。HOXB4 遺伝子を導入した造血幹細胞移植の有効性を確認した。リソゾーム酵素の受容体を利用した新しいリソゾーム酵素補充療法を開発した。

優性遺伝病である血管型 Ehlers-Danlos 症候群をモデルとして RNAi と転写因子を組み合わせた新規の遺伝子治療法を開発した。

血管新生抑制物質や MDA-7/IL-24 を用いた全身性の癌遺伝子治療の開発を行っている。これらの物質を発現する AAV ベクターを筋注或いは静注することにより、原発巣とともに転移巣にも効果のある治療法を、マウス担癌モデルを用い示した。

2. 栄養学部門ではヒト組織非特異型アルカリホスファターゼ (TNAP) 遺伝子の分子生物学的研究を進めており、活性型ビタミン D による転写後調節機構を明らかにした。骨芽細胞様細胞株を使い、TNAP 活性と石灰化の関係を検討した。骨密度と関連する TNAP 多型の酵素化学的性質を研究した。医科栄養学教育について、全国調査を行い実態を報告するとともに、米国の現状と比較し、今後の日本における医科栄養学教育のあり方を考察した。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kawabata K¹⁾, Migita M¹⁾, Mochizuki H²⁾, Miyake K, Igarashi T, Fukunaga Y¹⁾, Shimada T (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Neurology, Juntendo University): Ex vivo cell-mediated gene therapy for metachromatic leukodystrophy using neurospheres. *Brain Res.* 2006 ; 1904 (1): 13-23 .
- 2) Orimo H, Shimada T : Posttranscriptional modulation of the human tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene expression by 1, 25-dihydroxyvitamin D₃ in MG-63 osteoblastic osteosarcoma cells. *Nutr. Res.* 2006 ; 26 : 227-234 .
- 3) Orimo H, Shimura T¹⁾, Shimada T (¹⁾ Center for Educational Development): Nutrition education in medical schools in Japan : results from a questionnaire survey. *Asia Pac. J. Clin. Nutr.* 2006 ; 15 : 323-328 .
- 4) Fujii I^{1, 2)}, Matsukura M^{1, 2)}, Ikezawa M²⁾, Suzuki S, Shimada T, Miike T²⁾ (¹⁾ Department of Pharmaceutical Sciences, Faculty of Pharmaceutical Sciences, Sojo University, ²⁾ Department of Child Development, School of Medicine, Kumamoto University): Adenoviral mediated MyoD gene transfer into fibroblasts : Myogenic disease diagnosis. *Brain Dev.* 2006 ; 28 : 420-425 .
- 5) Sakuraba H¹⁾, Chiba Y²⁾, Kotani M¹⁾, Kawashima I¹⁾, Ohsawa M^{1, 3)}, Tajima Y¹⁾, Takaoka Y²⁾, Jigami Y²⁾, Takahashi H, Hirai Y, Shimada T, Hashimoto Y⁴⁾, Ishii K⁴⁾, Kobayashi T⁴⁾, Watabe K⁵⁾,

Fukushige T⁶⁾, Kanzaki T⁶⁾ (¹⁾ Department of Clinical Genetics, Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, ²⁾ Research Center for Glycoscience, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, ³⁾ CREST, JST, ⁴⁾ Supra-Biomolecular System Research Group, RIKEN Frontier Research System, ⁵⁾ Department of Molecular Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, ⁶⁾ Department of Dermatology, Kagoshima University Graduate School of Medical and Dental Science): Corrective effect on Fabry mice of yeast recombinant human alpha-galactosidase with N-linked sugar chains suitable for lysosomal delivery . J. Hum. Genet. 2006 ; 51 : 341-352 .

- 6) Su S, Watanabe A, Yamamoto M, Nakajima E, Miyake K, Shimada T : Mutations of the p53 cDNA sequence introduced by the retroviral vector . Biochem. Biophys. Res. Commun. 2006 ; 340 : 567-572 .
- 7) Johan F¹⁾, Aspesi A^{2,3)}, Bailey JC²⁾, Miyake K, Caffrey JM³⁾, Karlsson S¹⁾, Ellis SR³⁾ (¹⁾ Department of Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund Stem Cell Center, Lund University Hospital, Lund, Sweden, ²⁾ Dipartimento di Scienze Mediche, Università del Piemonte Orientale, Novara, Italy, ³⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology, University of Louisville, KY): Human RPS19, the gene mutated in Diamond-Blackfan anemia, encodes a ribosomal protein required for the maturation of 40S ribosomal subunits . Blood 2007 ; 109 (3): 980-986 .
- 8) Watanabe A¹⁾, Kosho T²⁾, Wada T²⁾, Sakai N, Fujimoto M³⁾, Fukushima Y²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学付属病院遺伝診療科, ²⁾ 信州大学付属病院遺伝子診療部, ³⁾ 自治医科大学皮膚科): Genetic aspects of the vascular type of Ehlers-Danlos syndrome (vEDS, EDSIV) in Japan . Circ. J. 2007 ; 71 (2): 261-265 .
- 9) Kitagawa R, Miyachi S^{1,2)}, Hanawa H, Takada M^{1,2)}, Shimada T¹⁾ (¹⁾ Department of System Neuroscience, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, ²⁾ CREST, Japan Science and Technology Corporation): Differential Characteristics of HIV-based vs. SIV-based lentiviral vector systems : gene delivery to neurons and axonal transport of expressed gene . Neuroscience Res. 2007 ; 57 : 550-558 .
- 10) Kurai T, Hisayasu S, Kitagawa R, Migita M, Suzuki H¹⁾, Hirai Y, Shimada T (¹⁾ Department of Pharmacology): AAV1 mediated co-expression of formylglycine-generating enzyme and arylsulfatase A efficiently corrects sulfatide storage in a mouse model of metachromatic leukodystrophy . Mol. Ther. 2007 ; 15 : 38-43 .
- 11) Miyake K, Miyake N, Shimada T : Development of targeted gene transfer into human primary T lymphocytes and macrophages using high-titer recombinant HIV vectors . J. Biotech. 2007 ; 129 : 532-538 .
- 12) Yasuda T¹⁾, Miyachi S²⁾, Kitagawa R, Wada K³⁾, Nihira T³⁾, Ren Y-R³⁾, Hirai Y, Ageyama Y⁴⁾, Terao K⁴⁾, Shimada T, Takada M²⁾, Mizuno Y^{1,3)}, Mochizuki H^{1,3)} (¹⁾ Research Institute for Disease of Old Ages, Juntendo University School of Medicine, ²⁾ Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, ³⁾ Department of Neurology, Juntendo University School of Medicine, ⁴⁾ Tsukuba Primate Research Center, National Institute of Biomedical Innovation): Neuronal specificity of α -synuclein toxicity and effect of Parkin co-expression in primates . Neuroscience 2007 ; 144 : 743-745 .
- 13) 鈴木由美¹⁾, 渡辺裕子¹⁾, 千葉弘子¹⁾, 渡邊 淳, 浅野ありさ²⁾, 右田 真²⁾, 島田 隆 (¹⁾ 付属病院看護部, ²⁾ 小児科): 大学病院遺伝診療部における遺伝看護実践 . 小児看護 2006 ; 29 (2): 158-163 .

(2) 綜説 :

- 1) 折茂英生 : 医科大学・大学医学部における栄養学教育の現状 : アメリカの新しい潮流と比較して「臨床栄養のあらたな潮流を求めて」. 医学のあゆみ 2006 ; 218 (5): 360-364 .
- 2) 折茂英生 : サプリメントと保健機能食品 . 日医大医学会誌 2006 ; 2 (4): 218-218 .
- 3) 島田 隆 : 遺伝子治療 : 遺伝病遺伝子治療の最近の進歩と課題「先天代謝異常症 : 日常診療で必須の知識」. 小児科診療 2006 ; 69 (11): 1760-1766 .

- 4) 右田 真¹⁾, 渡邊 淳, 浅野ありさ¹⁾, 島田 隆 (¹⁾小児科学): 一般小児科医にも必要な周産期の知識 6 出生前診断 遺伝カウンセリング . 小児科 2006 ; 47 : 1611-1616 .
- 5) 渡邊 淳, 島田 隆 : 小児臨床における遺伝問題とその対応 . 小児看護 2006 ; 29 (2): 201-206 .
- 6) 島田 隆 : ウイルスペクターの進歩と遺伝子治療研究の現状 「 in vivo/ex vivoでの遺伝子導入に役立つウイルススペクターの最新動向 : 遺伝子治療に向けた開発の最前線」 . バイオテクノロジージャーナル 2007 ; 7 (2): 154-157 .

(3) 症例報告 :

- 1) Watanabe A¹⁾, Yamamasu S²⁾, Shinagawa T³⁾, Suzuki Y¹⁾, Miyake H¹⁾, Takeshita T³⁾, Orimo H, Shimada T¹⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院遺伝診療科, ²⁾大阪市立大学, ³⁾日本医科大学付属病院女性診療科・産科): Prenatal genetic diagnosis of severe perinatal (lethal) hypophosphatasia . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1): 65-69 .

著 書

- 1) Ogawa R¹⁾, Fujimura J²⁾, Mizuno H¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Shimada T (¹⁾Department of Plastic and Cosmetic Surgery, ²⁾Department of Pediatrics): [共著] Tissue engineering using adipose-derived stem cells harvested from GFP transgenic animals . " New developments in stem cell research "(Grier, E. G., ed.), 2007 ; pp149-172 , Nova Science Publishers, Inc., New York .

学会発表

(1) ワークショップ :

- 1) 島田 隆 : 日本の遺伝子治療研究の推移と展望 . 「 遺伝子治療の現状とこれからの課題」 . 第51回日本人類遺伝学会, 2006 . 10 .

(2) 一般講演 :

- 1) Tahara I , Miyake K , Hirai Y , Uchida E¹⁾, Shimada T (¹⁾Department of Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): Adeno-associated viral (AAV) vector-mediated systemic delivery of mda-7/IL24 inhibits tumor growth by antitumor bystander effect . 9th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (Baltimore, MD, USA), 2006 . 5 .
- 2) Miyake N , Miyake K , Hisayasu S , Karlsson S¹⁾, Shimada T (¹⁾Molecular Medicine and Gene Therapy, Lund University, Sweden): Enforced HoxB4 expressed hematopoietic stem cells transdifferentiate into oligodendrocytes in adult mouse brain . 9th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (Baltimore, MD, USA), 2006 . 5 .
- 3) Isotani M , Miyake K , Miyake N , Hirai Y , Shimada T : Direct comparison of adeno-associated virus (AAV) serotypes for muscle expression of secreted proteins . 9th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (Baltimore, MD, USA), 2006 . 5 .
- 4) Uchida N , Hanawa H , Yamamoto M , Shimada T : Optimization of the Lentivirus Vector Containing the MSCV-U3 and EF1 Double Internal Promoters . 9th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (Baltimore, MD, USA), 2006 . 5 .
- 5) Hanawa H , Shimada T : The MSCV-U3 Internal Promoter Strongly Activates Surrounding Cellular Promoter in Combination with Self-Inactivating (SIN)-MSCV Vector Backbone . 9th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (Baltimore, MD, USA), 2006 . 5 .
- 6) Evans-Galea MV¹⁾, Wielgosz MM¹⁾, Hanawa H , Nienhuis A¹⁾ (¹⁾Experimental Hematology, St. Jude Children's Research Hospital, Memphis TN, USA): Suppression of Clonal Dominance in Cultured Human Lym-

- phoid Cells by Addition of the 5'chs4 Insulator to a Lentiviral Vector . 9th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (Baltimore, MD, USA), 2006 . 5 .
- 7) Kurai T , Hisayasu S , Hirai Y , Migita M , Suzuki H¹⁾ , Shimada T (¹⁾ Department of Pharmacology): A single unilateral injection of AAV1-ASA and AAV1-FGE vectors into the hippocampus results in bilateral expression and widespread distribution of ASA and prevention of sulfatide storage in the whole brain of MLD model mice . 9th Annual Meeting of the American Society of Gene Therapy (Baltimore, MD, USA), 2006 . 5 .
 - 8) Orimo H , Shimada T : Effects of phosphates on the expression of tissue-nonspecific alkaline phosphatase gene in short-term cultures of human osteosarcoma cell lines . The 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (Kyoto, Japan), 2006 . 6 .
 - 9) Kurai T , Hisayasu S , Hirai Y , Migita M , Shimada T : Co-injection of AAV1-ASA and AAV1-FGE vectors into the hippocampus results in wide spread distribution of ASA and correction of metachromatic leukodystrophy in the mouse model. . The 10th International Congress of Inborn Errors of Metabolism (Makuhari, Japan), 2006 . 9 .
 - 10) Miyake K , Tahara I , Isotani M , Miyake N , Shimada T : Adeno-Associated Viral (AAV) Vector Mediated Systemic Cancer Gene Therapy Using Anti-angiogenic Gene . 2006 International Society for Cell and Gene Therapy of Cancer Japan Conference (Makuhari, Chiba, Japan), 2006 . 10 .
 - 11) Shimada T : Local and systemic gene therapy for metachromatic leukodystrophy . 3rd annual world symposium of Lysosomal disease network (Orlando, USA), 2006 . 12 .
 - 12) Uchida N , Hanawa H , Yamamoto M , Shimada T : Optimizeed double gene vector to circumvent attenuation of gene expression by the promoter interference . 第12回日本遺伝子治療学会 , 2006 . 8 .
 - 13) Hanawa H , Shimada T : The elongation factor 1 alpha promoter in self-inactivating retroviruses causes less insertional gene activation compared to retrovirus promoter . 第12回日本遺伝子治療学会 , 2006 . 8 .
 - 14) Tahara I , Miyake K , Hirai Y , Kurai T , Uchida E¹⁾ , Tajiri T¹⁾ , Shimada T (¹⁾ Department of Surgery): Adeno-associated viral (AAV) vector-mediated systemic delivery of mda-7/IL24 inhibits tumor growth by antitumor bystander effect . 第12回日本遺伝子治療学会 , 2006 . 8 .
 - 15) Ogawa K , Hirai Y , Zenri K , Fukunaga Y¹⁾ , Shimada T (¹⁾ Department of Pediatrics): AAV1 mediated gene therapy of neonatal Fabry mice . 第12回日本遺伝子治療学会 , 2006 . 8 .
 - 16) Kurai T , Shimada T : Correction of metachromatic leukodystrophy in a mouse model by AAV1 mediated co-expression of ASA and FGE . 第12回日本遺伝子治療学会 , 2006 . 8 .
 - 17) 渡邊 淳 , 浅野ありさ¹⁾ , 三宅秀彦¹⁾ , 右田 真¹⁾ , 平井幸彦 , 志村俊郎²⁾ , 島田 隆 (¹⁾ 付属病院遺伝診療科 , ²⁾ 教育推進室): 医学部における臨床遺伝教育 : 日本医科大学の試み . 第30回日本遺伝カウンセリング学会 , 2006 . 5 .
 - 18) 渡邊 淳 , 鈴木由美¹⁾ , 前田美穂²⁾ , 及川真一³⁾ , 小林圭子⁴⁾ , 佐伯武頼⁴⁾ , 島田 隆 (¹⁾ 日本医科大学付属病院看護部 , ²⁾ 同小児科学 , ³⁾ 同内分泌・代謝内科 , ⁴⁾ 鹿児島大学生化学): シトルリン欠損症の遺伝カウンセリング : 保因者診断で同定された未発症成人II型シトルリン血症のケースを通して . 第30回日本遺伝カウンセリング学会 , 2006 . 5 .
 - 19) 浅野ありさ¹⁾ , 都甲明子¹⁾ , 千葉弘子²⁾ , 星真真由美¹⁾ , 島田 隆 (¹⁾ 付属病院遺伝診療科 , ²⁾ 付属病院看護部): 精神発達遅滞の家族の遺伝カウンセリングにおける病診連携の可能性について . 第30回日本遺伝カウンセリング学会 , 2006 . 5 .
 - 20) 三宅秀彦 , 山田浩子 , 山本晃人 , 横田明重 , 中井章人 , 佐藤久美子 , 尾山裕美 , 吉田温子 , 竹内千恵美 , 島田 隆 : 妊娠22週以降で診断された羊水過少シーケンスの経験 . 第30回日本遺伝カウンセリング学会 , 2006 . 5 .
 - 21) 鈴木由美¹⁾ , 渡邊 淳 , 三宅秀彦²⁾ , 伊藤 博 , 岡野喜史 , 島田 隆 (¹⁾ 付属病院看護部 , ²⁾ 同遺伝診療科):

- 無症候で見つかった多発性動脈瘤の遺伝カウンセリング．第30回日本遺伝カウンセリング学会，2006．5．
- 22) 折茂英生，島田 隆：活性型ビタミンDによる骨肉腫細胞株における組織非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子発現の調節．第60回日本栄養・食糧学会大会，2006．5．
- 23) 折茂英生，島田 隆：ヒト骨肉腫細胞株SaOS-2におけるリン酸による組織非特異型アルカリホスファターゼと石灰化の調節．第24回日本骨代謝学会学術集会，2006．7．
- 24) 五関-曽根正江¹⁾，曾我部夏子¹⁾，織田公光²⁾，中村浩之³⁾，折茂英生，細井孝之⁴⁾(¹⁾日本女子大学大学院・栄養学研究室，²⁾新潟大学大学院・口腔生命科学専攻・生化学，³⁾学習院大学・理学部・化学科，⁴⁾国立長寿医療センター・先端医療部)：骨密度と関連する臓器非特異型アルカリホスファターゼ遺伝子多型における酵素化学的性質，生合成および3次元モデルの比較．第24回日本骨代謝学会学術集会，2006．7．
- 25) 渡邊 淳，島田 隆：医学教育における患者会講演導入の試み．第38回日本医学教育学会，2006．7．
- 26) 渡邊 淳，島田 隆：遺伝子倫理や遺伝医療をどのように医学教育に取り入れるか：日本医科大学の試み．第25回医学哲学・倫理学会大会，2006．9．
- 27) 田原一郎，三宅弘一，平井幸彦，倉井年幸，内田英二¹⁾，田尻 孝¹⁾，島田 隆(¹⁾外科学第1)：mda-7/IL24を発現するアデノ随伴ウイルスベクターによる全身性癌治療の検討．題65回 日本癌学会学術総会，2006．9．
- 28) 渡邊 淳，島田 隆：血管型Ehlers-Danlos 症候群を巡る遺伝診療の課題．第1回臨床遺伝研究会，2006．10．
- 29) 渡邊 淳，桑原健太郎¹⁾，右田 真¹⁾，渡辺裕子²⁾，藤野 修¹⁾，福永慶 ¹⁾，山田裕一，島田 隆(¹⁾小児科学，²⁾付属病院看護部)：レット症候群様症状を伴いサブテロメア染色体異常を呈した一男児例．第29回日本小児遺伝学会，2006．10．
- 30) 埴 秀樹，島田 隆：オンコレトロウイルスベクターとHIV1ベクターの挿入変異原性の比較検討．第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会，2006．10．
- 31) 内田直也，埴 秀樹，猪口孝一¹⁾，檀 和夫¹⁾，島田 隆(¹⁾血液内科)：HIV1ベクターを使用したマウス骨髄移植モデルによるb2a2 p210 BCR/ABLの白血病原性の検討．第68回日本血液学会総会・第48回日本臨床血液学会総会，2006．10．

7. 薬理学講座

[薬理学]

研究概要

当講座では、精神神経疾患病態の解明を通して、新しい作用機序に基づいた薬物開発の基盤を探索することを大きなテーマとして掲げ、多様な研究手法を駆使し、幅広く研究している。18年度の研究成果は以下のとおりである。

1. 動物を用いた研究

a) 中枢神経系に多く発現する酵素CaMKIIのヘテロノックアウトマウスの解析を行った。海馬神経細胞の膜特性、シナプス伝達を詳細に検討した結果、このマウスにおいては海馬歯状回の顆粒細胞が未成熟な状態にあり、通常の顆粒細胞に見られる特徴的機能が著しく障害されていることが明らかになった。また、共同研究者によって、このマウスは精神疾患様行動異常を示すことが明らかにされており、顆粒細胞の発達障害が精神疾患の病態に関与する可能性が示された。

b) 小脳の最終出力系細胞である小脳核細胞において、セロトニン受容体を介した修飾作用が見出され、この作用は発達依存的に変化することがわかった。

c) 細胞接着因子であるNCAMがグリア細胞株由来神経栄養因子による神経因性疼痛緩和作用に必須であることを明らかにした。また、急性侵害刺激に伴う痛覚過敏時に、 K^+ -Cl⁻共輸送体KCC2の発現が脊髄後角の表層において減少していることを見出した。

d) 放射線医学総合研究所と共同研究を行い、PET用NK-1受容体リガンド[¹⁸F]FE-SPA-RQを開発し、in vivoで小動物脳NK-1受容体の画像化に成功した。

e) 神経細胞分化関連核内分子p21を細胞質に局在させる分子Brap2を同定した。神経系の発生におけるBrap2分子の機能を解明するために遺伝子ターゲティングを行っている。

2. ヒトを対象にした研究

気分障害や統合失調症に伴う認知機能障害に対する治療薬の効果を解明することを最終目標として、健常人を対象に服薬に伴う機能的MRI実験を行い、臨床適用される薬物が認知機能に及ぼす影響を定量的に評価する研究手法を確立した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nomura H¹⁾, Sakai A, Nagano M, Umino M¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Tokyo Medical and Dental University) : Expression changes of cation chloride cotransporters in the rat spinal cord following intraplantar formalin . Neurosci Res 2006 ; 56 : 435-440 .
- 2) Kawana S¹⁾, Liang Z¹⁾, Nagano M, Suzuki H (¹⁾ Dept. of Dermatology) : Role of substance P in stress-derived degranulation of dermal mast cells in mice . J Dermatol Sci 2006 ; 42 (1) : 47-54 .
- 3) Koeda M¹⁾, Takahashi H²⁾, Yahata N, Matsuura M¹⁾, Asai K³⁾, Okubo Y⁴⁾, Tanaka H¹⁾ (¹⁾ Tokyo Medical and Dental University , ²⁾ National Institute of Radiological Sciences , ³⁾ Asai Hospital , ⁴⁾ Dept. of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Language processing and human voice perception in schizophrenia : a functional magnetic resonance imaging study . Biol Psychiatry 2006 ; 59 (10) : 948-957 .
- 4) Takahashi H¹⁾, Matsuura M²⁾, Yahata N, Koeda M²⁾, Suhara T¹⁾, Okubo Y³⁾ (¹⁾ National Institute of Radiological Sciences , ²⁾ Tokyo Medical and Dental University , ³⁾ Dept. of Neuropsychiatry, Nippon Medical

- School): Men and women show distinct brain activations during imagery of sexual and emotional infidelity . Neuroimage 2006 ; 32 (3): 1299-1307 .
- 5) Koeda M¹⁾, Takahashi H²⁾, Yahata N, Asai K³⁾, Okubo Y⁴⁾, Tanaka H¹⁾(¹⁾ Tokyo Medical and Dental University , ²⁾ National Institute of Radiological Sciences , ³⁾ Asai Hospital , ⁴⁾ Dept. of Neuropsychiatry, Nippon Medical School): A functional MRI study : cerebral laterality for lexical-semantic processing and human voice perception . Am J Neuroradiol 2006 ; 27 (7): 1472-1479 .
- 6) Kobayashi K , Ikeda Y , Suzuki H : Locomotor activity correlates with modifications of hippocampal mossy fibre synaptic transmission . Eur J Neurosci 2006 ; 24 : 1867-1873 .
- 7) Zhou Z¹⁾, Kawana S¹⁾, Aoki E¹⁾, Katayama M¹⁾, Nagano M , Suzuki H (¹⁾ Dept. of Dermatology): Dynamic changes in nerve growth factor and substance P in the murine hair cycle induced by depilation . J Dermatol 2006 ; 33 (12): 833-841 .
- 8) Fujimura J¹⁾, Ogawa R²⁾, Fukunaga Y¹⁾, Suzuki H (¹⁾ Dept. of Pediatrics , ²⁾ Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery): Neural Induction of Adipose-Derived Stem Cells . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 : 360-361 .
- 9) Kurai T¹⁾, Hisayasu S¹⁾, Kitagawa R¹⁾, Migita M¹⁾, Suzuki H , Hirai Y¹⁾, Shimada T¹⁾(¹⁾ Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): AAV1 mediated co-expression of formylglycine-generating enzyme and arylsulfatase A genes in the hippocampus efficiently corrects sulfatide storage and neural dysfunction in a mouse model of metachromatic leukodystrophy . Molecular Therapy 2007 ; 15 (1): 38-43 .
- 10) Kobayashi K , Suzuki H : Dopamine selectively potentiates hippocampal mossy fiber to CA3 synaptic transmission . Neuropharmacology 2007 ; 52 : 552-561 .
- 11) Haneda E , Higuchi M¹⁾, Maeda J¹⁾, Inaji M¹⁾, Okauchi T¹⁾, Ando K¹⁾, Obayashi S¹⁾, Nagai Y¹⁾, Narazaki M¹⁾, Ikehira H¹⁾, Nakao R¹⁾, Zhang M-R¹⁾, Suzuki K¹⁾, Suzuki H , Sahara T¹⁾(¹⁾ National Institute of Radiological Sciences): In vivo mapping of substance P receptors in brains of laboratory animals by high-resolution imaging systems . Synapse 2007 ; 61 : 205-215 .
- 12) 笹井妙子¹⁾, 伊藤滋朗²⁾, 八幡恵明, 大久保善朗³⁾, 松浦雅人¹⁾, 須原哲也²⁾(¹⁾ 東京医科歯科大学, ²⁾ 放射線医学総合研究所, ³⁾ 日本医科大学精神医学): 側頭葉てんかん患者脳における[¹¹C]WAY-100635-PETを用いた5-HT_{1A}受容体の検討 . 臨床神経生理学 2006 ; 34 (2): 75-81 .

(2) 綜説 :

- 1) 八幡恵明, 大久保善朗¹⁾(¹⁾ 精神医学): 画像から見た不安 . こころの科学 2006 ; 128 : 31-35 .
- 2) 大久保善朗¹⁾, 八幡恵明 (¹⁾ 精神医学): 神経症圏障害の今日的な理解 神経症圏障害の脳画像 . 臨床精神医学 2006 ; 35 (6): 657-663 .
- 3) 藤村樹里¹⁾, 小川 令²⁾, 福永慶隆¹⁾, 鈴木秀典 (¹⁾ 小児科学, ²⁾ 形成外科学): 脂肪組織由来幹細胞の神経分化誘導 . 分子脳血管病 2006 ; 5 (4): 421-428 .
- 4) 小川 令^{1,2)}, 水野博司¹⁾, 藤村樹里³⁾, 飛田護邦¹⁾, 糸井由里恵¹⁾, 鈴木秀典, 島田 隆²⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 形成外科学, ²⁾ 生化学第2, ³⁾ 小児科学): 脂肪組織由来幹細胞を用いた治療戦略 . 形成外科 2006 ; 49 (10): 1113-1123 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Fujimura J¹⁾, Ogawa R^{2,3)}, Sugihara H⁴⁾, Mizuno H²⁾, Hyakusoku H²⁾, Shimada T³⁾, Suzuki H (¹⁾ Dept. of Pediatrics, Nippon Medical School , ²⁾ Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School , ³⁾ Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School , ⁴⁾ Nippon Kayaku Co Ltd): Charac-

- terization of adipose-derived stem cells using Hoechst staining . The 4th International Fat Applied Technology Society (Baton Rouge), 2006 . 10 .
- 2) Kobayashi K , Ikeda Y , Suzuki H : Locomotor activity is associated with the hippocampal mossy fiber synaptic transmission . 29th Japan Neuroscience Meeting Satellite Symposium. Mouse genetical manipulations as tools for understanding brain functions , 2006 . 7 .
 - 3) 小林克典 , 池田裕美子 , 鈴木秀典 : Locomotor activity is associated with the hippocampal mossy fiber synaptic transmission . 第28回日本生物学的精神医学会 第36回日本神経精神薬理学会 第49回日本神経化学会大会合同年会 , 2006 . 9 .
 - 4) 池田裕美子 , 小林克典 , 鈴木秀典 : 自発運動と海馬苔状線維シナプス伝達に対する飼育環境の影響 . 第29回日本神経科学大会 , 2006 . 7 .
 - 5) 坂井 敦 , 浅田 穰 , 妹尾直樹¹⁾ , 鈴木秀典 (¹⁾協和発酵工業): NCAMはGDNFの神経因性疼痛緩和作用に関与する . 第29回日本神経科学大会 , 2006 . 7 .
 - 6) 村野光和 , 齋藤文仁 , 鈴木秀典 : 小脳核におけるセロトニン受容体を介したシナプス伝達機構 . 第29回日本神経科学大会 , 2006 . 7 .
 - 7) 小林克典 , 池田裕美子 , 鈴木秀典 : ドパミンによる海馬シナプス修飾とマウスの活動量調節の関係 . 第10回活性化アミンに関するワークショップ , 2006 . 8 .
 - 8) 坂井 敦 , 浅田 穰 , 妹尾直樹¹⁾ , 鈴木秀典 (¹⁾協和発酵工業): GDNFの神経因性疼痛の緩和作用に対するNCAMの関与 . 第115回日本薬理学会関東部会 第34回薬物活性シンポジウム , 2006 . 9 .
 - 9) 羽田栄輔 , 樋口真人¹⁾ , 前田 純¹⁾ , 稲次基希¹⁾ , 丸山将浩¹⁾ , 岡内 隆¹⁾ , 安東 潔²⁾ , 須原哲也¹⁾ , 鈴木秀典 (¹⁾放射線医学総合研究所 , ²⁾実験動物中央研究所): 新規NK₁受容体トレーサー[¹⁸F]SPA-RQを用いたサルおよびげっ歯類でのPET評価 . 第115回日本薬理学会関東部会 第34回薬物活性シンポジウム , 2006 . 9 .
 - 10) 藤村樹里¹⁾ , 小川 令²⁾ , 鈴木秀典 , 百束比古²⁾ (¹⁾小児科学 , ²⁾形成外科学): 脂肪組織由来幹細胞を用いた神経細胞への分化誘導 . 第74回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
 - 11) 小川 令^{1,2)} , 藤村樹里³⁾ , 水野博司¹⁾ , 飛田護邦¹⁾ , 糸井由里恵¹⁾ , 小野真平¹⁾ , 鈴木秀典 , 島田 隆²⁾ , 百束比古¹⁾ (¹⁾形成外科学 , ²⁾生化学第2 , ³⁾小児科学): 脂肪組織由来幹細胞を用いた治療戦略 . 第74回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
 - 12) 福田 一^{1,3)} , 鈴木正泰²⁾ , 伊藤逸生³⁾ , 八幡憲明 , 館野 周¹⁾ , 荒川亮介¹⁾ , 奥村正紀¹⁾ , 鈴木秀典 , 松島英介⁴⁾ , 小島卓也⁵⁾ , 浅井邦也³⁾ , 大久保善朗¹⁾ (¹⁾日本医科大学精神医学 , ²⁾日本大学 , ³⁾浅井病院 , ⁴⁾東京医科歯科大学 , ⁵⁾大宮厚生病院): 統合失調症における , 探索眼球運動と脳体積との関連について . 第26回日本精神科診断学会 , 2006 . 10 .
 - 13) 小川 令^{1,2)} , 藤村樹里³⁾ , 杉原英光⁴⁾ , 水野博司¹⁾ , 鈴木秀典 , 島田 隆²⁾ , 百束比古¹⁾ (¹⁾日本医科大学形成外科学 , ²⁾同生化学第2 , ³⁾同小児科学 , ⁴⁾日本化薬): Hoechst染色による脂肪組織由来幹細胞の解析 . 第15回日本形成外科学会基礎学術集会 , 2006 . 10 .
 - 14) 小川 令¹⁾ , 藤村樹里²⁾ , 水野博司¹⁾ , 福永慶隆²⁾ , 鈴木秀典 , 百束比古¹⁾ (¹⁾形成外科学 , ²⁾小児科学): タイムラプス顕微鏡を用いた脂肪組織由来幹細胞の神経系細胞への分化誘導の観察 . 第15回日本形成外科学会基礎学術集会 , 2006 . 10 .
 - 15) 坂井 敦 , 浅田 穰 , 妹尾直樹¹⁾ , 鈴木秀典 (¹⁾協和発酵工業): 神経因性疼痛の発症維持におけるNCAMの関与 . 第80回日本薬理学会年会 , 2007 . 3 .
 - 16) 池田裕美子 , 伊藤逸生¹⁾ , 八幡憲明 , 永野昌俊 , 豊田倫子²⁾ , 大久保善朗³⁾ , 鈴木秀典 (¹⁾浅井病院 , ²⁾理化学研究所 , ³⁾日本医科大学精神医学): 統合失調症における血清中脳由来神経栄養因子と上皮成長因子量の低下 . 第80回日本薬理学会年会 , 2007 . 3 .
 - 17) 羽田栄輔 , 樋口真人¹⁾ , 前田 純¹⁾ , 岡内 隆¹⁾ , 稲次基希¹⁾ , 安東 潔²⁾ , 鈴木秀典 , 須原哲也¹⁾ (¹⁾放射線

医学総合研究所，²⁾ 実験動物中央研究所)：高解像度イメージングシステムを用いた実験動物における脳内NK₁受容体の *in vivo* 定量解析．第80回日本薬理学会年会，2007．3．

- 18) 高須久望子¹⁾，坂井 敦，原 諭吉¹⁾，吉岡耕一²⁾，鈴木秀典 (¹⁾ 東京医科歯科大学，²⁾ 国士舘大学)：神経因性疼痛時におけるDRGニューロンでのstathminの発現上昇．第80回日本薬理学会年会，2007．3．
- 19) 小野弓絵¹⁾，富永貴志²⁾，齋藤文仁，小西史朗²⁾ (¹⁾ 神奈川歯科大学，²⁾ 徳島文理大学)：小脳プルキンエ細胞へのGABA作動性伝達に対するP2Yプリン受容体で仲介される長期増強の作用機構．第84回日本生理学会大会，2007．3．
- 20) 藤村樹里¹⁾，小川 令²⁾，杉原英光³⁾，水野博司²⁾，福永慶隆¹⁾，鈴木秀典 (¹⁾ 日本医科大学小児科学，²⁾ 同形成外科学，³⁾ 日本化薬)：Hoechst 33342染色を用いた脂肪組織由来幹細胞の同定の試み．第6回日本再生医療学会総会，2007．3．

8. 病理学第一講座

研究概要

基礎的な研究としては、肺、腎、心、眼、消化器、移植の病理を中心に行なわれた。肺では、間質性肺炎と血管新生・リンパ管新生、間質性肺炎とMMP inducer, DADの筋線維芽細胞、腎では、糸球体上皮のネスチン発現、腎移植、糸球体腎炎と血管障害、腎虚血後再灌流傷害とMMP-2、腎内リンパ路、糖尿病性腎症、心では、心房細動と左心耳の変化、心弁膜疾患のリンパ管、眼では、実験的角膜傷害における羊膜被覆、角膜内皮障害とフリーラジカル、消化器では、結腸癌におけるCOX2と膜型MMP-1発現、移植では、実験的心移植、実験的腎移植、実験的胸線移植、免疫寛容誘導の試みなどが報告された。

診断病理学に関しては、呼吸器学会誌に「薬剤性肺障害」のガイドラインが発表された。また、近年問題となっている各種薬剤による薬剤性肺障害の病理を啓発の意味もこめ取りまとめた。肺の非腫瘍性疾患である間質性肺炎などのびまん性肺疾患の特集号が組まれた。また、特発性間質性肺炎の標準化、びまん性肺疾患病理診断の問題点、腎病理診断向上のための提言、腎糸球体病変と血管修復、糸球体腎炎、尿細管病変、アミロイドーシス、腎移植、医学教育における病理学、乳線MRI、特発性肺線維症、肺気腫などが総説、特別講演などで発表された。これらは、社会的ニーズに沿ったものであり、今後、ますます病理医の参加が必要となる分野である。

学内外の臨床各科との共同研究による臨床病理学的研究も行われた。カルチノイド、血管周皮腫、腎癌甲状腺転移、膿胸関連リンパ腫、多発性筋炎、多中心性キャスルマン病、ANCA関連血管炎、感染性心内膜炎、LCH、肥大型心筋症、子宮頸部CIN、各種細胞診、各種糸球体腎炎、糖尿病性腎炎、腎移植と血栓、尿細管性アシドーシス、自己免疫性膵炎などの報告が行われた。また、臨床各科との症例検討会が行われ、報告としてまとめられた。

研究業績

論文

〔2005年度追加分〕

原著：

- 1) 居来提托乎提, 中山智子, 石崎正通, 福田 悠: びまん性肺胞傷害における線維化と筋線維芽細胞. 日医大医学会誌 2006; 2(1): 18-24.

(1) 原著：

- 1) Nobori S¹⁾, Samelson-Jones E¹⁾, Shimizu A, Hisashi Y¹⁾, Yamamoto S¹⁾, Kamano C¹⁾, Teranishi K¹⁾, Vagefi PA¹⁾, Nuhn N¹⁾, Okumi M¹⁾, Wong B¹⁾, Houser S¹⁾, Sachs DH¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, USA): Long-term acceptance of fully allogeneic cardiac grafts by cotransplantation of vascularized thymus in miniature swine. Transplantation 2006; 81(1): 26-35.
- 2) Yamamoto S¹⁾, Teranishi K¹⁾, Kamano C¹⁾, Samelson-Jones E¹⁾, Arakawa H¹⁾, Nobori S¹⁾, Okumi M¹⁾, Houser S¹⁾, Shimizu A, Sachs DH¹⁾, Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/ Harvard Medical School, Boston, US): Role of the thymus in transplantation tolerance in miniature swine : V. Deficiency of the graft-to-thymus pathway of tolerance induction in recipients of cardiac transplants. Transplantation 2006; 81(4): 607-613.
- 3) Ishizaki M, Ishiwata T¹⁾, Adachi A²⁾, Tamura N, Ghazzizadeh M²⁾, Kitamura H³⁾, Sugisaki Y²⁾, Yamanaka N⁴⁾, Naito Z²⁾, Fukuda Y (¹⁾ Department of Pathology II, ²⁾ Central Institute for Electron Micro-

- scopic Research , ³)Clinical Research Center, Chiba-East National Hospital , ⁴)Tokyo Kidney Research Institute): Expression of nestin in rat and human glomerular podocytes . J Submicrosc Cytol pathol. 2006 ; 38 (1-2): 115-122 .
- 4) Guo H¹) , Tatsuguchi A , Shinji S²) , Fujimori S¹) , Tanaka S¹) , Gudis K¹) , Sugisaki Y³) , Furukawa K²) , Tajiri T²) , Fukuda Y , Kishida Y¹) , Sakamoto C¹) (¹)内科学第3 , ²)外科学第1 , ³)付属病院病理部): Cyclooxygenase-2 expression correlates with membrane-type-1 matrix metalloproteinase expression in colorectal cancer tissue . Dis Colon Rectum 2006 ; 23 : 1184-1192 .
- 5) Nobori S¹) , Shimizu A , Okumi M¹) , Samelson-Jones E¹) , Griesemer A¹) , Hirakata A¹) , Sachs DH¹) , Yamada K¹) (¹)Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/ Harvard Medical School, Boston, USA): Thymic rejuvenation and the induction of tolerance by adult thymic grafts . Proc Natl Acad Sci USA 2006 ; 103 (50): 19081-19086 .
- 6) Shimizu A , Yamada K¹) (¹)Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/ Harvard Medical School, Boston, USA): Pathology of renal xenograft rejection in pig to non-human primate transplantation . Clin Transplant 2006 ; 20 Suppl 15 : 46-52 .
- 7) Odajima N¹) , Betsuyaku T¹) , Nasuhara Y¹) , Itoh T²) , Fukuda Y , Senior RM³) , Nishimura M¹) (¹)北海道大学医学部内科 , ²)同病理 , ³)Department of Internal Medicine, Washington University): Extracellular matrix metalloproteinase inducer in interstitial pneumonia . Human Pathol 2006 ; 37 : 1058-1065 .
- 8) Saito T¹) , Tamura K²) , Uchida D¹) , Saito T¹) , Togashi M , Nitta T³) , Sugisaki Y²) (¹)Nippon Medical School , ²)Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School , ³)Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School): Histopathological features of the resected left atrial appendage as predictors of recurrence after surgery for atrial fibrillation in valvular heart disease . Circulation Journal 2007 ; 71 (1): 70-78 .
- 9) Takahashi H¹) , Igarashi T¹) , Fujimoto C¹) , Ozaki N¹) , Ishizaki M (¹)Department of Ophthalmology): Immunohistochemical observation of amniotic membrane patching on a corneal alkali burn in vivo . Jpn J Ophthalmol. 2007 ; 51 : 3-9 .
- 10) 清水 章 , 福田 悠 , Sachs DH¹) , Yamada K¹) , Colvin RB²) (¹)Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/ Harvard Medical School, Boston, USA , ²)Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/ Harvard Medical School, Boston, USA): (グラビア) 超急性拒絶反応 : プタ臓器を用いたヒヒへの異種移植 . 日医大医学会誌 2006 ; 2 (2): 68-69 .
- 11) 清水 章 : 腎生検所見の鑑別と臨床へのフィードバック : 管内増殖性病変の鑑別 . 腎と透析 2006 ; 61 (3): 349-358 .
- 12) 持丸 博¹) , 川本雅司 , 福田 悠 , 工藤翔二¹) (¹)内科学第4): 急性好酸球性肺炎と慢性好酸球性肺炎の臨床病理的相違 . 日呼吸会誌 2007 ; 45 : 223-232 .
- (2) 綜説 :
- 1) 中山智子 , 福田 悠 : 日本における薬剤性肺障害 病理からみた薬剤性肺障害 . 日本胸部臨床 2006 ; 65 (11): 979-989 .
- 2) 杉崎祐一^{1,2}) , 清水 章 (¹)付属病院病理部 , ²)中央電子顕微鏡施設): 日本の腎病理医に内在する問題点 : 腎病理診断向上のために . 医学のあゆみ 2006 ; 219 (8): 555-559 .
- 3) 小橋陽一郎¹) , 福田 悠 (¹)天理よろず総合病院病理): 特集 , 肺の疾患 : 非腫瘍性病変をどうみるかI. 間質性肺炎 . 病理と臨床 2006 ; 24 (8): 791 .
- 4) 福田 悠 : 通常型間質性肺炎の病理 . 特集 , 肺の疾患 : 非腫瘍性病変をどうみるかI. 間質性肺炎 . 病理と臨床 2006 ; 24 (8): 814-820 .

- 5) 福田 悠, 小橋陽一郎¹⁾(¹⁾天理よろず総合病院 病理): 特集, 肺の疾患: 非腫瘍性病変をどうみるか: II. 間質性肺炎以外のびまん性肺疾患. 病理と臨床 2006; 24(9): 903.
 - 6) 福田 悠: 肺気腫, COPDの病理と病態. 特集, 肺の疾患: 非腫瘍性病変をどうみるか: I. 間質性肺炎以外のびまん性肺疾患. 病理と臨床 2006; 24(9): 957-962.
 - 7) 福田 悠: 薬剤性肺障害の病理. 特集: 薬剤性肺障害のすべて. 成人病と生活習慣病 2006; 37: 295-300.
 - 8) 中山智子, 福田 悠: びまん性肺疾患-病態に基づいた最新治療: びまん性肺疾患の分類と診断: びまん性肺疾患の病理診断の問題点. 内科 2007; 99(2): 208-217.
- (3) 研究報告書:
- 1) 中山智子, 小野美紀子, 山元滋樹, 福田 悠: 間質性肺炎線維化巣における血管新生とリンパ管新生の検討. 厚生労働科学研究費補助金. 難治性疾患克服研究事業. びまん性肺疾患調査研究班. 平成17年度研究報告書 2006; pp73-77.
- (4) 症例報告:
- 1) Futagami A¹⁾, Aoki M¹⁾, Iwakiri I¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Kawamoto M, Kawana S¹⁾(¹⁾Department of Dermatology): Infantile hemangiopericytoma -case report and literature review. Pediatr Dermatol. 2006; 23(4): 335-337.
 - 2) 根井貴仁¹⁾, 大岩健満¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 阿部信二¹⁾, 茂木 孝¹⁾, 臼杵二郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 平井恭二²⁾, 小泉 潔²⁾, 中山智子, 刃刀しのぶ, 福田 悠(¹⁾内科学(呼吸器・感染・腫瘍内科部門), ²⁾外科・呼吸器外科): びまん性嚢胞性変化を呈した多中心性キャスルマン病の1例. 日本呼吸器学会雑誌 2006; 44(6): 468-473.
 - 3) 緒方清行¹⁾, 水越元気²⁾, 田村浩一³⁾, 加藤貴雄⁴⁾, 岸田 浩⁴⁾, 清野精彦⁴⁾, 駒場祐一²⁾, 吉村明修⁵⁾, 福間長知⁴⁾, 工藤翔二⁵⁾, 福田 悠, 坂本静樹²⁾, 津久井拓¹⁾, 本間 博⁴⁾, 刃刀しのぶ, 弦間昭彦⁵⁾, 藤野鉄平²⁾(¹⁾内科学第3, ²⁾内科学第2, ³⁾病理部, ⁴⁾内科学第1, ⁵⁾内科学第4): 感染性心内膜炎の発症後, 脳梗塞を合併しびまん性肺胞傷害にて死亡した1例. 内科 2006; 98(2): 357-368.
 - 4) 大岩健満¹⁾, 阿部信二¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 根井貴仁¹⁾, 瀬尾宜嗣¹⁾, 守屋敦子¹⁾, 森本泰介¹⁾, 藤田和恵¹⁾, 茂木孝¹⁾, 臼杵二郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 中山智子, 福田 悠(¹⁾内科学(呼吸器・感染・腫瘍部門)): 抗リウマチ薬(methotrexate, infliximab)による薬剤性肺炎の検討. 間質性肺疾患研究会討議録 2006; 74: 38-46.
 - 5) 小野啓資¹⁾, 根井貴仁¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 山岸茂樹²⁾, 平井恭二²⁾, 小泉 潔²⁾, 田島廣之³⁾, 川本雅司, 工藤翔二¹⁾(¹⁾内科学(呼吸器・感染・腫瘍部門), ²⁾呼吸器外科学, ³⁾放射線医学): 気管支動脈造影及びAngio CTで濃染し, 血管性病変との鑑別が困難であった肺カルチノイドの1例. 気管支学: 日本呼吸器内視鏡学会雑誌 2006; 28(7): 521-525.
 - 6) 徳留さとり¹⁾, 宇都宮保典¹⁾, 小池健太郎¹⁾, 横尾 隆¹⁾, 小比木英男¹⁾, 伊藤順子¹⁾, 宮崎陽一¹⁾, 川村哲也¹⁾, 細谷龍男¹⁾, 河上牧夫¹⁾, 清水 章, 水入苑生²⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学腎臓・高血圧内科, ²⁾東邦大学医療センター大森病院腎臓センター): ANCA関連血管炎を合併した糖尿病性腎症の1例. 腎と透析 2006; 61(5): 725-735.
 - 7) 坂本静樹¹⁾, 竹内純子²⁾, 塚田克也³⁾, 猪口孝一²⁾, 北村光信⁴⁾, 中山智子, 川本雅司, 勝又俊弥, 杉崎佑一(¹⁾神経内科, ²⁾血液内科, ³⁾付属病院病理部, ⁴⁾循環器内科): 膿胸関連リンパ腫の1例. 内科 2006; 98(6): 1091-1102.
 - 8) 神宮亜希子¹⁾, 阿部信二¹⁾, 瀬尾宜嗣¹⁾, 国保成暁¹⁾, 齋藤好信¹⁾, 臼杵二郎¹⁾, 吾妻安良太¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 中山智子, 福田 悠(¹⁾内科学(呼吸器・感染・腫瘍部門)): 肺病変が先行しdiffuse alveolar damage(DAD)と筋炎が同時発症した多発性筋炎の1剖検例. 日本呼吸器学会雑誌 2006; 44(12): 938-943.
 - 9) 浅川一恵¹⁾, 川本雅司, 村瀬幸宏¹⁾, 横山宗伯²⁾, 杉崎佑一¹⁾, 清水一雄³⁾(¹⁾日本医科大学付属病院病理部,

2) 東京警察病院病理部, 3) 日本医科大学内分泌外科学): 明瞭な核内封入体を認めた腎癌甲状腺転移の1例. 日臨細胞会誌 2007; 46(1): 39-42.

(5) ガイドライン:

- 1) 社団法人日本呼吸器学会薬剤性肺障害ガイドライン作成委員会編集, 福田 悠, 中山智子: 薬剤性肺障害の評価, 治療についてのガイドライン. 日本呼吸器学会誌 2006; 44(3): 221-300.

著 書

- 1) 清水 章, 三井亜希子, 藤田恵美子, 益田幸成: [分担] VEGF による糸球体硬化症の制御. 細胞増殖因子と再生医療 (松本邦夫, 田畑泰彦), 2006; pp298-303, メディカルレビュー社.
- 2) 川本雅司, 福田 悠: [共著] 臨床と病理のための乳腺 MRI アトラス: 画像と組織像の完全対比(り), 2006; 医療科学社.
- 3) 福田 悠, 中山智子: [共著] 薬剤性肺障害の評価, 治療についてのガイドライン (社団法人日本呼吸器学会薬剤性肺障害ガイドライン作成委員会編集), 2006; メディカルレビュー社.

学会発表

[2006 年度追加分]

一般講演:

- 1) 小野啓資¹⁾, 楠 裕司¹⁾, 根井貴仁¹⁾, 弦間昭彦¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 山岸茂樹²⁾, 平井恭二²⁾, 小泉 潔²⁾, 館野展之³⁾, 田島廣之³⁾, 川本雅司 (¹⁾内科学第4, ²⁾外科学第2, ³⁾放射線医学): 気管支血管造影で濃染を示し, 血管性病変との鑑別が困難であった肺カルチノイドの1例. 第116回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2006. 3.

(1) 特別講演:

- 1) 清水 章: 慢性糸球体腎炎の遷延と毛細血管網の修復不全, および, その積極的な治療. 第52回日本病理学会秋期特別総会, 2006. 11.

(2) 招待講演:

- 1) 清水 章: 糸球体毛細血管傷害と糸球体腎炎の進展, および, その積極的な治療. 第18回 栃木腎フォーラム [日本医師会生涯教育講座], 2006. 5.

(3) 教育講演:

- 1) 清水 章: アミロイドーシスの病理学的検討. 第36回腎臓学会東部学術大会, 2006. 11.
- 2) 清水 章: 間質尿細管病変の捉え方と診断への反映 (組織所見の読みと表現: 用語統一へ向けて). 第5回 日本腎病理協会研究会, 2007. 1.

(4) シンポジウム:

- 1) 中山智子, 小野美紀子, 山元滋樹, 川本雅司, 福田 悠: 間質性肺炎におけるリンパ管新生の検討. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.

(5) セミナー:

- 1) 清水 章: 異種移植における拒絶反応の病理像. 第42回日本移植学会総会, 2006. 9.
- 2) 福田 悠: 特発性間質性肺炎, 病理診断の標準化にむけて. 第52回日本病理学会秋期特別総会, 2006. 11.

(6) ワークショップ:

- 1) 井内康輝¹⁾, 樋野興夫²⁾, 阪本晴彦³⁾, 小谷泰一⁴⁾, 川本雅司, 瀧澤俊広⁵⁾ (¹⁾ 広島大学大学院医歯薬学総合研究科病理学, ²⁾ 順天堂大学医学部病理学, ³⁾ 香川大学医学部炎症病理学, ⁴⁾ 京都大学総合解剖センター, ⁵⁾ 日本医科大学解剖学第1): 医学教育の中での病理学各論のあり方 (病理学各論教育のあり方). 第95回日本病理学会総会, 2006. 5.

(7) 一般講演 :

- 1) Shimizu A , Yamada K¹⁾ , Robson SC²⁾ , Sachs DH¹⁾ , Colvin RB³⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Boston, MA , ²⁾ Center for Immunobiology, Beth Israel Deaconess Medical Center/Harvard Medical School, Boston, MA , ³⁾ Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA) : Thrombotic microangiopathic glomerulopathy of kidney xenografts from alpha1, 3-galactosyltransferase gene-knockout (GalT-KO) pigs in baboons . World Transplantation Congress 2006 (Boston, USA) , 2006 . 7 .
- 2) Hirakata A¹⁾ , Shimizu A , Griesemer A¹⁾ , Okumi M¹⁾ , Sachs D¹⁾ , Colvin R²⁾ , Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA , ²⁾ Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA) : Transplanted kidney is more sensitive to hyperglycemic injury than naive kidney in diabetic miniature swine . World Transplantation Congress 2006 (Boston, USA) , 2006 . 7 .
- 3) Griesemer A¹⁾ , Moran S¹⁾ , Okumi M¹⁾ , Shimizu A , Hirakata A¹⁾ , Iorio J¹⁾ , McMorrow I¹⁾ , Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA) : Gal knockout miniature swine produced anti-Gal antibodies and demonstrate accommodation to Gal positive kidneys . World Transplantation Congress 2006 (Boston, USA) , 2006 . 7 .
- 4) Yamada K¹⁾ , Nobori S¹⁾ , Shimizu A , Okumi M¹⁾ , Griesemer A¹⁾ , Hirakata A¹⁾ , Moran S¹⁾ , Sachs D¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA) : Thymic rejuvenation I : Factors extrinsic to the thymus determine thymic structure and function . World Transplantation Congress 2006 (Boston, USA) , 2006 . 7 .
- 5) Yamada K¹⁾ , Nobori S¹⁾ , Okumi M¹⁾ , Griesemer A¹⁾ , Hirakata A¹⁾ , Moran S¹⁾ , Iorio J¹⁾ , Shimizu A , Sachs D¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA) : Thymic rejuvenation II : Aged vascularized thymic lobe grafts are capable of inducing tolerance in juvenile miniature swine across a class I MHC mismatch . World Transplantation Congress 2006 (Boston, USA) , 2006 . 7 .
- 6) Okumi M¹⁾ , Griesemer A¹⁾ , Hirakata A¹⁾ , Nobori S¹⁾ , Madsen J¹⁾ , Shimizu A , Sachs D¹⁾ , Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA) : Successful transfer of tolerance by adoptive transfer in miniature swine . World Transplantation Congress 2006 (Boston, USA) , 2006 . 7 .
- 7) Griesemer A¹⁾ , Okumi M¹⁾ , Hirakata A¹⁾ , Shimizu A , Sachs D¹⁾ , Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA) : Linked suppression across an MHC-mismatched barrier in a miniature swine kidney transplantation model . World Transplantation Congress 2006 (Boston, USA) , 2006 . 7 .
- 8) Okumi M¹⁾ , Griesemer A¹⁾ , Hirakata A¹⁾ , Nobori S¹⁾ , Shimizu A , Sachs D¹⁾ , Yamada K¹⁾ (¹⁾ Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA) : Effect of sensitization and persistence of donor antigen on the maintenance of tolerance to renal allografts in miniature swine . World Transplantation Congress 2006 (Boston, USA) , 2006 . 7 .
- 9) Mii A , Shimizu A , Masuda Y , Fujita E , Takano H , Ishizaki M , Iino Y¹⁾ , Katayama Y¹⁾ , Sugisaki Y²⁾ , Fukuda Y (¹⁾ 内科学第2 , ²⁾ 附属病院病理部) : Renoprotective effect of angiotensin II receptor blockade (ARB) in the active glomerular lesions in mesangioproliferative glomerulonephritis (GN) . Renal Week 2006 (American Society of Nephrology) (San Diego, USA) , 2006 . 11 .
- 10) Mii A , Shimizu A , Masuda Y , Fujita E , Ishizaki M , Iino Y¹⁾ , Katayama Y¹⁾ , Fukuda Y , Sugisaki Y²⁾

- (¹内科学第2,²付属病院病理部): Glomerular capillary injury in the endocapillary proliferative lesions in various glomerulonephritis (GN). Renal Week 2006 (American Society of Nephrology)(San Diego, USA), 2006 . 11 .
- 11) Fujita E, Shimizu A, Masuda Y, Mii A, Ishizaki M, Iino Y¹), Katayama Y¹), Fukuda Y, Sugisaki Y²) (¹内科学第2,²付属病院病理部): Endothelial cell injury contributes to the formation and development of extracapillary lesions in crescentic glomerulonephritis . Renal Week 2006 (American Society of Nephrology)(San Diego, USA), 2006 . 11 .
- 12) Takano H, Shimizu A, Masuda Y, Mii A, Fujita E, Ishizaki M, Iino Y¹), Katayama Y¹), Fukuda Y, Sugisaki Y²) (¹内科学第2,²付属病院病理部): Endothelial cell injury in the acute active and chronic progressive lesions in IgA nephropathy . Renal Week 2006(American Society of Nephrology)(San Diego, USA), 2006 . 11 .
- 13) Shimizu A, Masuda Y, Mii A, Fujita E, Takano H, Ishizaki M, Sugisaki Y¹), Fukuda Y (¹付属病院病理部): Inhibitor of matrix metalloproteinases reduces ischemia reperfusion tubular injury in a mouse model of ischemic renal injury . Renal Week 2006 (American Society of Nephrology)(San Diego, USA), 2006 . 11 .
- 14) 清水 章, Kumagai N¹), 益田幸成, 福田 悠, Sachs DH¹), Colvin RB²), Yamada K¹) (¹Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, ²) Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA): ミニブタにおける移植腎の糖尿病性腎症 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
- 15) 中山智子, 福田 悠, 田村浩一¹), 塚田克也¹), 杉崎祐一¹) (¹付属病院病理部): 陳旧性中膜内血腫による動脈瘤を認めた肥大型心筋症の1例 . 日本病理学会, 2006 . 3 .
- 16) 清水 章: 病理学的解析からみたミニブタからヒヒへの臨床応用を目指した異種移植の現状 . 第17回千駄木感染免疫アレルギー研究会, 2006 . 3 .
- 17) 藤田恵美子, 清水 章, 三井亜希子, 高野秀樹, 藤田有子¹), 金子朋広¹), 飯野靖彦¹), 益田幸成, 石崎正通, 福田 悠, 杉崎祐一²) (¹内科学第2,²付属病院病理部): 腎機能低下を認めた尿細管性アシドーシスの1例 . 第95回病理学会総会, 2006 . 4 .
- 18) 高野秀樹, 清水 章, 藤田恵美子, 三井亜希子, 益田幸成, 石崎正通, 杉崎祐一, 福田 悠: CD34免疫染色による糸球体毛細血管傷害の同定 . 第95回病理学会総会, 2006 . 4 .
- 19) 喬 炎¹), 杉崎祐一²), 大秋美治³), 藤原ゆり¹), 藤原宗彦¹), 横山宗伯⁵), 海津聖彦⁵), 前田美穂⁵), 福永慶隆⁵), 川本雅司, 内藤善哉¹) (¹日本医科大学病理学第2,²)同付属病院病理部,³)同千葉北総病院病理部,⁴)東京警察病院病理部,⁵)日本医科大学小児科学): 新生児に発生した Langerhans cell histiocytosis (LCH) の一剖検例 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 5 .
- 20) 村瀬幸宏¹), 川本雅司, 清水一雄²), 田村浩一¹), 土屋眞一¹), 杉崎祐一¹) (¹付属病院病理部,²)内分泌外科): 著明な乳頭状構造を示した腺腫様甲状腺腫の1例 . 第47回日本臨床細胞学会総会 (春期大会), 2006 . 6 .
- 21) 中山智子, 小野美紀子, 山元滋樹, 川本雅司, 福田 悠: 間質性肺炎におけるリンパ管新生の検討 . 日本呼吸器学会, 2006 . 6 .
- 22) 益田幸成, 清水 章, 石崎正通, 杉崎祐一¹) (¹付属病院病理部): 腎内リンパ流および間質圧変化のメサンギウム流路に及ぼす影響 . 第49回日本腎臓学会学術総会, 2006 . 6 .
- 23) 高野秀樹, 清水 章, 益田幸成, 藤田恵美子, 三井亜希子, 石崎正通, 飯野靖彦¹), 片山泰朗¹), 杉崎祐一²) (¹内科学第2,²付属病院病理部): IgA 腎症における糸球体内皮細胞傷害 (CD34免疫染色を用いた検討) . 第49回日本腎臓学会学術総会, 2006 . 6 .
- 24) 三井亜希子, 清水 章, 益田幸成, 藤田恵美子, 高野秀樹, 石崎正通, 飯野靖彦¹), 片山泰朗¹), 杉崎祐一²) (¹内科学第2,²付属病院病理部): 管内増殖性病変と糸球体内皮細胞傷害 (CD34免疫染色を用いた検討) .

第49回日本腎臓学会学術総会, 2006. 6.

- 25) 藤田恵美子, 清水 章, 益田幸成, 三井亜希子, 高野秀樹, 石崎正通, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 杉崎祐一²⁾
(¹⁾内科学第2, ²⁾付属病院病理部): 管外増殖性病変における糸球体内皮細胞傷害 (CD34免疫染色を用いた検討). 第49回日本腎臓学会学術総会, 2006. 6.
- 26) 阿曾亮子¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 吉村明修¹⁾, C.S. Lab運営委員 (川本雅司他)^(¹⁾教育推進室): 日本医科大学クリニカル・シミュレーション・ラボにおける利用促進の取組み. モデル&シミュレーション医学教育研究会 第1回学術発表会, 2006. 8.
- 27) 浅川一恵¹⁾, 川本雅司, 横山宗伯^{1, 2)}, 土屋眞一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院病理部, ²⁾東京警察病院病理部): 尿細胞診における良性・悪性不一致例の検討と解析. 第45回日本臨床細胞学会秋期大会, 2006. 11.
- 28) 松原美幸¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 川本雅司(¹⁾付属病院病理部): 臨床的に悪性が疑われた Diabetic mastopathy の1例. 第45回日本臨床細胞学会秋期大会, 2006. 11.
- 29) 清水 章, Yamada K¹⁾, Sachs DH¹⁾, Colvin RB²⁾(¹⁾Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA, ²⁾Department of Pathology, Massachusetts General Hospital/Harvard Medical School, Boston, MA): 糖尿病ミニブタにおける移植腎の糖尿病性腎症. 第49回日本腎臓学会学術総会, 2006. 11.
- 30) 上田佳恵¹⁾, 木嶋祥一郎¹⁾, 藤田恵美子, 三井亜希子, 金子朋広¹⁾, 内海甲一¹⁾, 清水 章, 杉崎祐一²⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾(¹⁾内科学第2, ²⁾付属病院病理部): 心移植後に慢性腎臓病を合併した1例. 第36回日本腎臓学会東部学術大会, 2006. 11.
- 31) 藤田恵美子, 清水 章, 三井亜希子, 高野秀樹, 鎌田有子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 益田幸成, 石崎正通, 杉崎祐一²⁾(¹⁾内科学第2, ²⁾付属病院病理部): 末期腎不全に至った低カリウム性遠位尿管性アシドーシスの1例. 第36回日本腎臓学会東部学術大会, 2006. 11.
- 32) 鎌田有子¹⁾, 金子朋広¹⁾, 内海甲一¹⁾, 高田大輔¹⁾, 木嶋祥一郎¹⁾, 上田佳恵¹⁾, 藤田恵美子, 三井亜希子, 清水 章, 杉崎祐一²⁾, 葉山修陽¹⁾, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾(¹⁾内科学第2, ²⁾付属病院病理部): 自己免疫性膀胱炎治療3年後に発症した尿細管間質性腎炎の1例. 第36回日本腎臓学会東部学術大会, 2006. 11.
- 33) 揖斐孝之¹⁾, 窪倉浩俊¹⁾, 吉野直之¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 三上 巖¹⁾, 平田知己¹⁾, 川本雅司, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 胸腺への浸潤を認めた悪性リンパ腫の1例. 第141回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2007. 2.
- 34) 康 徳東, 山元滋樹, 小野美紀子, 中山智子, 石崎正通, 福田 悠: びまん性肺泡傷害 (DAD) における筋線維芽細胞 (MF) の出現部位とコラーゲン沈着. 第96回日本病理学会総会, 2007. 3.
- 35) 高野秀樹, 清水 章, 益田幸成, 三井亜希子, 藤田恵美子, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 石崎正通, 杉崎祐一²⁾, 福田 悠(¹⁾内科学第2, ²⁾付属病院病理部): 糸球体毛細血管網傷害からみた IgA 腎症の進展. 第96回日本病理学会総会, 2007. 3.
- 36) 三井亜希子, 清水 章, 益田幸成, 藤田恵美子, 高野秀樹, 石崎正通, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 福田 悠(¹⁾内科学第2, ²⁾付属病院病理部): 管内増殖性病変における糸球体内皮細胞傷害の検討. 第96回日本病理学会総会, 2007. 3.
- 37) 藤田恵美子, 清水 章, 益田幸成, 三井亜希子, 高野秀樹, 石崎正通, 飯野靖彦¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 杉崎祐一²⁾(¹⁾内科学第2, ²⁾付属病院病理部): 管外増殖性腎炎の壊死性病変の形成や糸球体硬化の進展と糸球体毛細血管網傷害. 第96回病理学会総会, 2007. 3.
- (8) ポスター提示:
- 1) 富樫真由子, 田村浩一¹⁾, 新田 隆²⁾, 石崎正通, 杉崎祐一¹⁾, 福田 悠(¹⁾付属病院病理部, ²⁾外科学第2): 心臓弁膜の myxomatous change に対する matrix metalloproteinase (MMPs) とその inhibitor (TIMPs) の役割. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.

- 2) 水谷康彦¹⁾, 田村浩一²⁾, 秋元直彦¹⁾, 富樫真由子, 浅川一枝²⁾, 並松茂樹²⁾, 杉崎祐一²⁾(¹⁾医学部学生,
²⁾付属病院病理部): 各種心臓弁膜疾患における弁膜内リンパ管の動向. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 3) 横澤裕美¹⁾, 田村浩一²⁾, 浅川一枝²⁾, 並松茂樹²⁾, 塚田克也²⁾, 杉崎祐一²⁾(¹⁾医学部学生,²⁾付属病院病理
部): 子宮頸部CIN病変におけるD2-40発現の検討. 第96回日本病理学会総会, 2007. 3.

(9) 一般口演:

- 1) 村野奈緒, 石崎正通, 佐藤 茂²⁾, 松井洋法¹⁾, 鈴木久晴¹⁾, 福田 悠, 高橋 浩¹⁾(¹⁾眼科学,²⁾中央電子顕
微鏡研究施設): phacoemulsificationによる角膜内皮細胞障害の超微形態的観察. 第110回日本眼科学会総会,
2006. 4.
- 2) 鈴木久晴¹⁾, 佐藤 茂²⁾, 村野奈緒, 松井洋法¹⁾, 小原澤英彰¹⁾, 佐佐木喜弘²⁾, 安達彰子²⁾, 高橋 浩¹⁾
(¹⁾眼科学,²⁾中央電子顕微鏡研究施設): オゾンによる角膜内皮障害の超微形態的観察. 第110回日本眼科学
会総会, 2006. 4.
- 3) 小野美紀子, 山元滋樹, 中山智子, 福田 悠: 間質性肺炎(IP)の早期腔内線維化巣における血管進入像. 第
95回日本病理学会総会, 2006. 5.
- 4) 村野奈緒, 石崎正通, 松井洋法¹⁾, 鈴木久晴¹⁾, 佐藤 茂²⁾, 高橋 浩¹⁾, 福田 悠(¹⁾眼科学,²⁾中央電子顕
微鏡研究施設): 超音波水晶体乳化吸引術による角膜内皮障害: フリーラジカルの関与. 第74回日本医科大学
医学会総会, 2006. 9.
- 5) 松井洋法¹⁾, 鈴木久晴¹⁾, 村野奈緒, 小原澤英彰¹⁾, 佐藤 茂²⁾, 佐佐木喜弘²⁾, 安達彰子²⁾, 高橋 浩¹⁾
(¹⁾眼科学,²⁾中央電子顕微鏡研究施設): 電子顕微鏡下でのオゾンによる角膜内皮細胞障害の観察. 第38回日
本臨床分子形態学会総会, 2006. 9.
- 6) 小野美紀子, 山元滋樹, 中山智子, 石崎正通, 福田 悠: 間質性肺炎(IP)の線維化巣におけるリンパ管新生.
第96回日本病理学会, 2007. 3.

9. 病理学第二講座

研究概要

統御機構・腫瘍病理学講座（旧病理学第二講座）では消化器腫瘍を中心とした消化器疾患につき、有効な診断法と新たな治療法の開発を目的とした研究を継続的に行なっている。

1) 消化器腫瘍の増殖，転移機序の研究と治療への応用：膵臓癌と消化管の癌（食道，胃，大腸癌）について培養癌細胞，実験動物モデル，ヒト病理組織標本などを用いて検討を行なっている。特に腫瘍細胞と間質細胞における細胞外基質，細胞増殖因子と受容体の発現を免疫組織化学染色法や *in situ hybridization* 法と *real-time PCR* 法，*siRNA*，遺伝子導入法などの分子病理学的手法を併せて総合的に研究している。細胞増殖因子では線維芽細胞増殖因子（*FGF*）ファミリーの *FGF-7/KGF* とその受容体の *KGFR*，細胞外基質では小型ロイシンリッチプロテオグリカンのファミリーの *lumican* について主に研究を行っている。これら細胞外基質や増殖因子の作用機構について，細胞骨格や細胞内シグナル伝達系との関連に注目し，細胞内における情報発現の調節機構の解明を試みている。さらに細胞増殖因子と細胞外基質の相互関連，相互作用についての検討も行なっている。

2) 膵炎の発症，進展における細胞増殖因子の役割の研究：急性および慢性膵炎の病態の増悪と，組織の再生による回復過程に関与する細胞増殖因子と細胞外基質の発現と局在を，形態学的また遺伝子レベルで解析し，それらの発現の制御や膵臓幹細胞同定・分化誘導による治療の可能性について検討している。

3) 腫瘍，炎症性疾患，変性疾患における血管，リンパ管の増殖機序の検討：腫瘍の増殖，転移や肉芽組織の形成における血管，リンパ管の増殖，分化や動脈硬化症の進展には細胞外基質や細胞増殖因子が関与しており，その制御について研究を行っている。

本年度は大腸癌において新たな新生血管マーカーとして *nestin* が有用であること，*lumican* 発現がリンパ節転移，予後の増悪と関連すること，膵臓癌では *KGF/KGFR* の共発現が *VEGF* 産生を誘導し，脈管侵襲を引き起こしやすいこと，間質に局在する *lumican* が間質浸潤を惹起しやすいことを報告してきた。今後も消化器疾患の有効な診断，治療法の開発をめざして，一層の努力を続けるつもりである。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Aimoto T¹⁾, Uchida E¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Chou K, Kawamoto M, Tajiri T¹⁾, Naito Z (¹⁾Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Clinicopathologic study on pancreatic groove carcinoma . *Pancreas* 2006 ; 33 (3): 255-259 .
- 2) Shinji S¹⁾, Naito Z, Ishiwata T, Tanaka N¹⁾, Furukawa K²⁾, Suzuki H²⁾, Seya T¹⁾, Matsuda A²⁾, Katsuta M²⁾, Tajiri T¹⁾ (¹⁾Dept. of Surgery, Chiba Hokuso Hospital , ²⁾Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Ubiquitin-specific protease 14 expression in colorectal cancer is associated with liver and lymph node metastasis . *Oncol Rep* 2006 ; 15 (3): 539-543 .
- 3) Ishiwata T, Kudo M, Onda M, Fujii T, Teduka K, Suzuki T, Korc M¹⁾, Naito Z (¹⁾Department of Medicine, Dartmouth-Hitchcock Medical Center, Lebanon, New Hampshire, USA): Defined localization of nestin-expressing cells in L-arginine-induced acute pancreatitis . *Pancreas* 2006 ; 32 (4): 360-368 .
- 4) Seya T¹⁾, Tanaka N¹⁾, Shinji S¹⁾, Yokoi K¹⁾, Koizumi M¹⁾, Teranishi N, Yamashita K¹⁾, Tajiri T²⁾, Ishiwata T, Naito Z (¹⁾Dept. of Surgery, Chiba Hokuso Hospital , ²⁾Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Lumican expression in advanced colorectal cancer with nodal metastasis correlates with poor

prognosis . Oncol Rep 2006 ; 16 (6) : 1225-1230 .

- 5) Shinji S¹⁾, Naito Z, Ishiwata T, Tanaka N¹⁾, Furukawa K²⁾, Suzuki H²⁾, Seya T¹⁾, Kan H²⁾, Tsuruta H²⁾, Matsumoto S²⁾, Matsuda A²⁾, Teranishi N, Ohaki Y³⁾, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, ³⁾ Division of Pathology, Chiba Hokuso Hospital): Neuroendocrine cell differentiation of poorly differentiated colorectal adenocarcinoma correlates with liver metastasis . Int J Oncol 2006 ; 29 (2) : 357-364 .
- 6) Ueda J¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Kanda T¹⁾, Akimaru K¹⁾, Teranishi N, Naito Z, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Successful emergency enterectomy for bleeding ileal varices in a patient with liver cirrhosis . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4) : 221-225 .
- 7) Miyashita M¹⁾, Makino H¹⁾, Katsuta M¹⁾, Nomura T¹⁾, Shinji S, Kashiwabara M¹⁾, Takahashi K¹⁾, Kudo M, Ishiwata T, Naito Z, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Cyclo-oxygenase-2 over-expression is associated with human esophageal squamous cell carcinoma . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 308-313 .
- 8) Kato S¹⁾, Matsukura N¹⁾, Matsuda N¹⁾, Tsukada K²⁾, Naito Z, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation, ²⁾ Division of Pathology): *Helicobacter pylori* eradication therapy modulates acidity and interleukin-1beta mRNA levels in un-operated stomach and in remnant stomach after gastrectomy in gastric cancer patients . Aliment pharmacol Ther 2006 ; Suppl (4) : 278-284 .
- 9) Shinji S¹⁾, Naito Z, Ishiwata T, Tanaka N²⁾, Furukawa K¹⁾, Suzuki H¹⁾, Kan H¹⁾, Tsuruta H¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Matsuda A¹⁾, Teranishi N, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ Dept. of Surgery, Divisions of Gastroenterology, General, Breast and Transplant, ²⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokuso Hospital): Clinical and biological significance of lymph node micrometastasis in colorectal cancer . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 77-88 .
- 10) Shinji S¹⁾, Naito Z, Ishiwata T, Nakazawa N, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Koizumi M¹⁾, Teranishi N, Ohaki Y²⁾, Tajiri T³⁾ (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Division of Pathology, Chiba Hokuso Hospital, ³⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Pathological and biomolecular analyses of colorectal endocrine carcinoma . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 87-88 .
- 11) Teranishi N, Naito Z, Ishiwata T, Tanaka N¹⁾, Furukawa K²⁾, Seya T¹⁾, Shinji S²⁾, Tajiri T²⁾ (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Identification of neovasculature using nestin in colorectal cancer . Int J Oncol 2007 ; 30 : 593-603 .
- 12) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 細根 勝¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 多摩永山病院病理部): 中皮腫の臨床病理-体腔液細胞診によるびまん性悪性中皮腫の確定診断方法を中心に- . 診断病理 2006 ; 23 (3) : 167-176 .

(2) 症例報告 :

- 1) Fukunaga M¹⁾, Fujiwara Y, Naito Z (¹⁾ Department of Pathology, Jikei University School of Medicine, Tokyo): Hepatoid carcinoma with serous component of the fallopian tube : a case report with immunohistochemical and ultrastructural studies . Int J Gynecol Pathol 2006 ; 25 (3) : 233-237 .
- 2) Shimizu T¹⁾, Tajiri T¹⁾, Akimaru K¹⁾, Arima Y¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kawahigashi Y¹⁾, Naito Z (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Cholecystitis caused by infiltration of immature myeloid cells : A Case Report . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (2) : 101-105 .
- 3) Shimizu T¹⁾, Tajiri T¹⁾, Akimaru K¹⁾, Arima Y¹⁾, Yoshida H¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Mamada Y¹⁾, Tani ai N¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kawahigashi Y¹⁾, Naito Z (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Com-

bined neuroendocrine cell carcinoma and adenocarcinoma of the gallbladder : report of a case . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (2): 101-105 .

- 4) Aimoto T¹⁾, Uchida E¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Cho K, Tajiri T¹⁾, Naito Z (¹⁾Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Autoimmune pancreatitis associated with idiopathic retroperitoneal fibrosis : a case report . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4): 235-239 .
- 5) Aimoto T¹⁾, Uchida E¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Cho K, Tajiri T¹⁾, Naito Z (¹⁾Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Malignant afferent loop obstruction following pancreaticoduodenectomy : report of two cases . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4): 226-230 .
- 6) 浅川一恵¹⁾, 川本雅司²⁾, 村瀬幸宏¹⁾, 横山宗伯, 杉崎祐一¹⁾, 清水一雄³⁾ (¹⁾付属病院病理部, ²⁾病理学第1, ³⁾外科学 (内分泌・心臓血管・呼吸器部門): 明瞭な核内封入体を認めた腎癌甲状腺転移の1例 . 日本臨床細胞学会雑誌 2007 ; 46 (1): 39-42 .

(3) グラビア :

- 1) 工藤光洋, 石渡俊行, 恩田宗彦, 藤原ゆり, 内藤善哉 : 抗癌剤による乳癌細胞の形態変化 ; マルチモード顕微鏡の観察から . 日医大医会誌 2007 ; 3 (1): 4-5 .

(4) 解説 :

- 1) 前田昭太郎¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 片山博徳¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾多摩永山病院病理部): 乳癌と臨床検査 乳腺細胞診の検体処理法 (吹き出し法, 剥がし法, すり合わせ法, 圧挫法, オートスミア法) の検討 . 臨床検査 2006 ; 51 (1): 61-69 .

(5) 短報 :

- 1) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 工藤光洋, 内藤善哉 (¹⁾多摩永山病院病理部): 乳癌細胞診標本を用いたCISH法によるHER2/neu遺伝子検出の基礎的検討 . 臨床検査 2006 ; 51 (1): 116-117 .

著 書

- 1) 進士誠一, 内藤善哉, 石渡俊行, 松田明久, 鈴木英之, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝 : [分担] 第3章 大腸癌におけるmicrometastasis 3 微小転移を知るための工夫 (2) 抗CK20抗体免疫染色 . 大腸疾患NOW 2006, 2007 ; pp103-109, 日本メディカルセンター .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Katayama H¹⁾, Maeda S¹⁾, Higo M¹⁾, Suzumura K¹⁾, Kudo M, Naito Z, Shinagawa T²⁾ (¹⁾Dept. of Pathology, Tama Nagayama Hospital, ²⁾St. Marianna Univ, Yokohama-City Seibu Hospital, Pathology): Chromogenic in situ hybridization to Detect HER-2/neu gene amplification in breast carcinoma fine-needle cytology specimens. . The 13th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Bangkok, Thailand), 2007 . 1 .

(2) セミナー :

- 1) Naito Z, Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Tuchiya S²⁾ (¹⁾Dept. of Pathology, Tama Nagayama Hospital, ²⁾Division of Pathology): Case presentation from countries, Japan : Were the cytological diagnosis and the radiological-imaging diagnosis useful in this Breast tumor? . The 4th Asian Breast Diseases Association Teaching Course (Thailand, Chiang Mai), 2006 . 11 .
- 2) 内藤善哉 : スライドセミナー「消化器」. 第45回日本臨床細胞学会秋期大会, 2006 . 11 .
- 3) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 細根 勝¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾多摩永山病院病理部): 胸腔中皮腫の1例 : 体腔液細胞診による中皮腫の確定診断法 . 第96回日本病理学会総会, 2007 . 3 .

(3) ワークショップ:

- 1) Hosone M¹⁾, Maeda S¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Naito Z (¹⁾Dept. of Pathology, Tama Nagayama Hospital , ²⁾ Division of Pathology): Small B-cell Lymphomas in lymph nodes, bone marrow and spleen : Case presentaion IV-22 . The 13th Meeting of the European Association for Haematopathology (Vienna, Austria), 2006 . 10 .
- 2) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 勝田美和子²⁾, 内藤善哉 (¹⁾外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾千葉北総病院外科): 食道扁平上皮癌の発癌における Von Hippel Lindau (VHL) 遺伝子蛋白と hypoxia inducible factor (HIF) 1- 遺伝子蛋白の発現 . 第17回日本消化器癌発生学会総会 , 2006 . 9 .
- 3) 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 山下直行¹⁾, 松田範子¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 奥田武志¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 内藤善哉, 田尻孝¹⁾(¹⁾外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): *H. pylori*感染による粘膜性状 (Sydney System Score) や , ペプシノーゲン法による胃発癌リスク評価とリスクマーカーとしての胃粘膜サイトカイン遺伝子発現との関連 . 第17回日本消化器癌発生学会総会 , 2006 . 9 .
- 4) 渡辺昌則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 石渡俊行, 内藤善哉, 田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター , ²⁾外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門): 消化管癌における Keratinocyte growth factor receptor (KGFR) と ligands の役割 . 第17回日本消化器癌発生学会総会 , 2006 . 9 .
- 5) 内藤善哉, 石渡俊行, 恩田宗彦, 内田英二¹⁾, 中泉明彦²⁾, 前田昭太郎³⁾(¹⁾日本医科大学付属病院外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾大阪府立成人病センター臨床検査科, ³⁾日本医科大学多摩永山病院病理部): 膵臓の細胞診; 膵疾患の良悪病態診断と治療との関わり . 第96回日本病理学会総会 , 2007 . 3 .

(4) 一般講演:

- 1) Liu A¹⁾, Hosone M¹⁾, Maeda S¹⁾, Naito Z, Sugisaki Y²⁾(¹⁾Dept. of Pathology, Tama Nagayama Hospital , ²⁾ Division of Pathology): Gastrointestinal Stromal Tumors (GISTs): An Immunohistochemical and Ultrastructural Study on 17 Cases . 95th Annual Meeting, United States and Canadian Academy of Pathology (Atlanta, GA), 2006 . 2 .
- 2) Teranishi N, Ishiwata T, Tanaka N¹⁾, Furukawa K²⁾, Seya T¹⁾, Kan H²⁾, Tsuruta H²⁾, Matsumoto S²⁾, Akiya Y²⁾, Shinji S²⁾, Matsuda A²⁾, Cho K, Sasaki J²⁾, Tajiri T²⁾, Naito Z, Kawamoto M, Matsunobu T, Fujiwara Y (¹⁾Dept. of Surgery, Chiba Hokuso Hospital , ²⁾Dept. of Surgery, Divisions of Gastroenterology, General, Breast and Transplant): Nestin, a novel angiogenesis marker correlates with poor prognosis of colorectal cancer patients . Digestive Disease Week 2006 (Los Angeles), 2006 . 5 .
- 3) Ishiwata T, Cho K, Ishiwata S¹⁾, Suzuki T, Teduka K, Kawamoto Y, Fujii T, Kawahara K, Nakazawa N, Uchida E²⁾, Tajiri T²⁾, Naito Z (¹⁾ Faculty of Pharmaceutical Science, Kinki University , ²⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Ubiquitin specific protease 14 induced pancreatic cancer cell growth inhibition and apoptosis . Digestive Disease Week 2006 (Los Angeles), 2006 . 5 .
- 4) Shinji S¹⁾, Tanaka N¹⁾, Seya T¹⁾, Yokoi K¹⁾, Ishikawa N¹⁾, Horiba K¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Shirakawa T¹⁾, Ohkawa K¹⁾, Kudo H¹⁾, Koizumi M¹⁾, Yoshioka M¹⁾, Katsuta M¹⁾, Teranishi N, Yamashita K¹⁾, Ohaki Y²⁾, Ishiwata T, Naito Z, Tajiri T³⁾(¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokuso Hospital , ²⁾ Division of Pathology , ³⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Neuroendocrine cell differentiation of poorly differentiated colorectal adenocarcinoma correlates with liver metastasis . 14th United European Gastroenterology Week 2006 , 2006 . 10 .
- 5) Ishiwata T, Cho K, Ishiwata S¹⁾, Fujiwara Y, Fujii T, Suzuki T, Kawahara K, Nakazawa N, Uchida E²⁾, Tajiri T²⁾, Naito Z (¹⁾ Faculty of Pharmaceutical Science, Kinki University , ²⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Expression and Role of Type 1 and 2 Isoforms of Ubiquitin-Specific Protease 14

- in Human Pancreatic Cancer . 2006 Joint Meeting of the American Pancreatic Association & International Association of Pancreatology (Chicago, Illinois, USA), 2006 . 11 .
- 6) Cho K , Tajiri T¹⁾, Ishiwata T , Uchida E¹⁾, Aimoto T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Kawamoto M , Fujiwara Y , Teduka K , Nakazawa N , Naito Z (¹⁾Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Keratinocyte Growth Factor and its Receptor Correlate with Venous Invasion via Matrix Metalloproteinase-9 (MMP-9) in Pancreatic Cancer . 2006 Joint Meeting of the American Pancreatic Association & International Association of Pancreatology (Chicago, Illinois, USA), 2006 . 11 .
 - 7) Kawamoto M , Tajiri T¹⁾, Ishiwata T , Uchida E¹⁾, Aimoto T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Katsuno A¹⁾, Cho K , Fujiwara Y , Kawamoto Y , Naito Z (¹⁾Surgery for Organ Function and Biological Regulation): Expression of Nestin in Pancreatic Cancer Cell lines and Nerve Fibers Close to Pancreatic Cancer . 2006 Joint Meeting of the American Pancreatic Association & International Association of Pancreatology (Chicago, Illinois, USA), 2006 . 11 .
 - 8) Yanagino M¹⁾, Kawai K¹⁾, Shimizu A¹⁾, Kameyama K , Machida M²⁾, Naito Z (¹⁾Department of Engineering, Soka University, Tokyo, Japan , ²⁾Research Center for Cancer Prevention and Screening, National Cancer Center, Tokyo Japan): Characteristics of bovine type IV collagen unfolding under various pH conditions . 5th East Asian Biophysics Symposium and 44th Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (EABS & BSJ 2006), 2006 . 11 .
 - 9) Kawai K¹⁾, Yanagino M¹⁾, Shimizu A¹⁾, Kameyama K , Machida M²⁾, Naito Z (¹⁾Department of Engineering, Soka University, Tokyo, Japan , ²⁾Research Center for Cancer Prevention and Screening, National Cancer Center, Tokyo Japan): Structure stability of collagen type IV . 5th East Asian Biophysics Symposium and 44th Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (EABS & BSJ 2006), 2006 . 11 .
 - 10) Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Higo M¹⁾, Suzumura K¹⁾, Naito Z (¹⁾Dept. of Pathology, Tama Nagayama Hospital): A definitive diagnosis of mesothelioma by body fluid cytology -the utility of cell transfer method and cell block method for immunocytochemical staining- . The 13th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Bangkok, Thailand), 2007 . 1 .
 - 11) Fujiwara Y , Terashima K¹⁾, Liu A²⁾, Yokoyama M , Shimizu N³⁾, Yamamoto N¹⁾, Sugisaki Y⁴⁾, Naito Z (¹⁾Dept. of Molecular Virology, Tokyo Medical and Dental Univ. , ²⁾Central Institute of Electron Microscopic Research , ³⁾Dept. of Virology, Div. of Medical Science, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental Univ. , ⁴⁾Division of Pathology): Fine needle aspiration cytology of follicular dendritic cell sarcoma : a case report with unusual electron microscopic findings . The 13th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Bangkok, Thailand), 2007 . 1 .
 - 12) Nakamura S¹⁾, Fujiwara Y , Watarai Y²⁾, Shimizu K³⁾, Sugisaki Y²⁾, Naito Z (¹⁾NMS, 5th year , ²⁾Division of Pathology , ³⁾Dept. of Surgery, Div. of Endocrine, Cardiovascular and Surgery): Incidence of Thyroid Disease after the Chernobyl nuclear accident in Belarus. 4-year-study of Fine Needle Aspiration . The 13th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Bangkok, Thailand), 2007 . 1 .
 - 13) Hara E¹⁾, Fujiwara Y , Yokoyama M , Sugisaki Y²⁾, Naito N (¹⁾NMS, 5th year , ²⁾Division of Pathology) Langerhans cell histiocytosis in lymph nodes : A case report with fine needle aspiration findings . The 13th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytopathology (Bangkok, Thailand), 2007 . 1 .
 - 14) Hosone M¹⁾, Liu A²⁾, Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Naito Z (¹⁾Dept. of Pathology, Tama Nagayama Hospital , ²⁾Central Institute of Electron Microscopic Research): An electronmicroscopic analysis of a newly described plasmacytoid dendritic cell tumor - " CD4+/CD56+ Hematodermic Neoplasm " . 96th Annual Meeting. United States and Canadian Academy of Pathology (San Diego, California, USA), 2007 . 3 .
 - 15) Liu A¹⁾, Maeda S²⁾, Hosone M²⁾, Katayama H²⁾, Naito Z , Sugisaki Y¹⁾ (¹⁾Central Institute of Electron Mi-

- croscopic Research, ²⁾ Dept. of Pathology, Tama Nagayama Hospital): A definitive diagnosis of malignant mesothelioma based on body fluid cytology combined immunocytochemistry and electron microscopy. 96th Annual Meeting. United States and Canadian Academy of Pathology (San Diego, California, USA), 2007. 3.
- 16) 進士誠一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾千葉北総病院外科学, ²⁾同病理部, ³⁾臓器病態制御外科学): 上部・下部直腸癌pT3症例における腫瘍浸潤距離の臨床病理学的意義. 第64回大腸癌研究会, 2006. 1.
- 17) 吉野雅則¹⁾, 石渡俊行, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 松本光司²⁾, 田尻 孝³⁾, 松信哲朗¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾同病理部, ³⁾臓器病態制御外科学): 食道癌における Keratinocyte growth factor receptor (KGFR) の発現と局在. 第106回日本外科学会総会, 2006. 3.
- 18) 町田 稔¹⁾, 亀山孝二, 清水昭夫²⁾, 田島廣之³⁾, 内藤善哉, 森山紀之¹⁾(¹⁾国立癌予防検診研究センター, ²⁾創価大工学部環境共生工学科, ³⁾日本医科大学放射線科学): 光感受性物質による変性IV型コラーゲンに対する作用の検討 病変部間質の評価に対する基礎研究. 第65回日本医学放射線学会総会, 2006. 4.
- 19) 松信哲朗¹⁾, 石渡俊行, 藤原ゆり, 川本聖郎, 張 一光, 寺西宣央, 工藤光洋, 喬 炎, 恩田宗彦, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 松本光司²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝³⁾, 内藤善哉 (¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾同病理部, ³⁾臓器病態制御外科学): Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) と KGF の胃癌における役割の検討. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 20) 工藤光洋, 石渡俊行, 中澤南堂, 川原清子, 藤井雄文, 手塚 潔, 河本陽子, 鈴木妙子, 内藤善哉: KGF Gene-Transfected Colorectal Cancer Cells Induced Cell Adhesion to Extracellular Matrix. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 21) 寺西宣央, 田中宣威¹⁾, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 進士誠一¹⁾, 張 一光, 川本聖郎, 松信哲朗²⁾, 藤原ゆり, 喬 炎, 工藤光洋, 恩田宗彦, 横山宗伯, 石渡俊行, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾(¹⁾臓器病態制御外科学, ²⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 大腸癌組織における nestin による新生血管の評価と予後の検討. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 22) 藤原ゆり, 寺島一夫¹⁾, 片野晴隆²⁾, 横島一彦³⁾, 中溝宗永³⁾, 劉 愛民⁴⁾, 横山宗伯, 恩田宗彦, 石渡俊行, 八木聡明³⁾, 杉崎祐一⁵⁾, 内藤善哉 (¹⁾東京医科歯科大学大学院医学部ウイルス制御学分野, ²⁾国立感染症研究所感染病理部, ³⁾日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, ⁴⁾同中央電子顕微鏡研究施設, ⁵⁾同付属病院病理部): 濾胞樹状細胞肉腫に認めた MTRS と ER の意義. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 23) 喬 炎, 杉崎祐一¹⁾, 大秋美治²⁾, 藤原ゆり, 恩田宗彦, 横山宗伯, 海津聖彦³⁾, 前田美穂³⁾, 福永慶隆³⁾, 川本雅司⁴⁾, 内藤善哉 (¹⁾付属病院病理部, ²⁾千葉北総病院病理部, ³⁾付属病院小児科, ⁴⁾病理学第1): 新生児に発症した Langerhans cell histiocytosis (LCH) の一剖検例. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 24) 張 一光, 石渡俊行, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 川本聖郎, 中澤南堂, 横山宗伯, 恩田宗彦, 工藤光洋, 喬 炎, 藤原ゆり, 松信哲朗²⁾, 寺西宣央, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉 (¹⁾臓器病態制御外科学, ²⁾武蔵小杉病院消化器病センター): ヒト肝癌における KGF/KGFR, VEGF の発現と肝転移に関する検討. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 25) 三樹いずみ¹⁾, 中村壮香¹⁾, 原絵津子¹⁾, 里村克章²⁾, 劉 愛民³⁾, 藤原ゆり, 喬 炎, 恩田宗彦, 石渡俊行, 内藤善哉 (¹⁾医学部, ²⁾内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ³⁾中央電子顕微鏡研究施設): 慢性C型肝炎の巨大ミトコンドリア内クリスタル結晶の出現に関する臨床病理学的検討. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 26) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 田村浩一²⁾, 松本光司³⁾, 柳本邦雄³⁾, 大秋美治⁴⁾, 新井 悟⁴⁾, 福田悠⁵⁾, 内藤善哉 (¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾付属病院病理部, ³⁾千葉北総病院病理部, ⁴⁾武蔵小杉病院病理部,

- 5) 病理学第1): 体腔液細胞診でいかに中皮腫の確定診断をすべきか. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 27) 細根 勝¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 劉 愛民³⁾, 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾ 付属病院病理部, ³⁾ 中央電子顕微鏡研究施設): CD7+ and CD56 + Myeloid/NK cell Precursor Acute Leukemia と考えられる1例. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 28) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾多摩永山病院病理部): Liberate Antibody Binding Solution を用いた抗原賦活化の検討. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 29) 寺西宣央, 田中宣威¹⁾, 古川清憲²⁾, 鈴木英之²⁾, 瀬谷知子¹⁾, 菅 隼人²⁾, 鶴田宏之²⁾, 松本智司²⁾, 進士誠一²⁾, 張 一光, 川本聖郎, 藤原ゆり, 石渡俊行, 内藤善哉, 田尻 孝²⁾, 松信哲朗³⁾, 喬 炎, 工藤光洋, 恩田宗彦, 横山宗伯⁽¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾ 外科学第1, ³⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 大腸癌における nestin による新生血管の評価と予後の検討. 第95回日本病理学会総会, 2006. 5.
- 30) 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)) 超音波造影剤レボピストR胆管内注入による術中膵内胆管の同定と瘰生検. 第37回日本膵臓学会大会, 2006. 6.
- 31) 清水秀樹¹⁾, 森 修^{1,2)}, 大秋美治¹⁾, 小黒辰夫¹⁾, 前田昭太郎³⁾, 内藤善哉⁽¹⁾日本医科大学千葉北総病院病理部, ²⁾ 初石病院, ³⁾ 日本医科大学多摩永山病院病理部): 脳腫瘍圧挫標本における反応性変化の細胞像. 第47回日本臨床細胞学会春期大会, 2006. 6.
- 32) 岩瀬裕美¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 磯部宏昭¹⁾, 柳田裕美¹⁾, 日吾美栄子¹⁾, 平田知己²⁾, 木村 祐³⁾, 内藤善哉⁽¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾ 同呼吸器外科, ³⁾ 同消化器科): 体腔液細胞診で確定した中皮腫の2症例: 細胞転写法の有用性. 第47回日本臨床細胞学会春期大会, 2006. 6.
- 33) 渡会泰彦¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 横山宗伯, 田村浩一¹⁾, 内藤善哉, 杉崎祐一¹⁾(¹⁾ 付属病院病理部): 乳腺細胞診報告様式(2): 「悪性の疑い」非浸潤性乳管癌の検討. 第47回日本臨床細胞学会春期大会, 2006. 6.
- 34) 葉山葉子¹⁾, 佐竹あかね¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 内藤善哉, 横山宗伯, 田村浩一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾(¹⁾ 付属病院病理部): 乳腺細胞診報告様式の検討 (1): 検体不適性について. 第47回日本臨床細胞学会春期大会, 2006. 6.
- 35) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 高橋 健¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 勝田美和子²⁾, 柏原 元³⁾, 笹島耕二³⁾, 内藤善哉⁽¹⁾臓器病態制御外科学, ²⁾ 千葉北総病院外科, ³⁾ 多摩永山病院外科): 炎症に関連する下部食道癌における血管新生関連蛋白, 特にp53, VEGF 発現と消化器発癌. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 9.
- 36) 進士誠一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 大秋美治²⁾, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 同病理部, ³⁾ 臓器病態制御外科学): 小腸穿孔により汎発性腹膜炎を呈したクローン病の1例. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 37) 松田範子¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 真々田裕宏¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 内藤善哉, 松倉則夫¹⁾, 田尻孝¹⁾(¹⁾ 外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 肝組織内 COX-2, HGF, VEGF, HIF-1 mRNA 発現からみた肝癌治療法選択の妥当性. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 38) 川本聖郎, 石渡俊行, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 張 一光, 進士誠一¹⁾, 寺西宣央, 藤原ゆり, 内藤善哉, 田尻 孝¹⁾(¹⁾ 外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 膵癌における nestin の発現とその役割. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 39) 張 一光, 石渡俊行, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 寺西宣央, 川本聖郎, 中澤南堂, 工藤光洋, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉⁽¹⁾ 外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): ヒト膵癌における KGF/KGFR, VEGF の発現と臨床病理学的及び肝転移に関する検討. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 40) 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 山下直行¹⁾, 松田範子¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 奥田武志¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 内藤善哉, 田尻孝¹⁾(¹⁾ 外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 胃粘膜切除ESD後や残胃の適正な内視鏡スクリーニング: 背景粘膜や発癌サイトカイン遺伝子発現の個体差と胃発癌リスクの個別評価. 第65回日本癌学会学術総会,

2006 . 9 .

- 41) 寺西宣央, 内藤善哉, 石渡俊行, 田中宣威¹⁾, 古川清憲²⁾, 鈴木英之²⁾, 瀬谷知子¹⁾, 進士誠一²⁾, 勝田美和子²⁾, 張一光, 川本聖郎, 藤原ゆり, 田尻孝²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 大腸癌組織における新生血管マーカーとしてのnestinの検討. 第65回日本癌学会総会, 2006 . 9 .
- 42) 成田宏介¹⁾, 石渡俊行, 内藤善哉, 川原清子, 鈴木妙子, 河本陽子, 藤井雄文, 手塚潔(¹⁾医学部): 大腸癌細胞におけるKGF-KGFR autocrine loopとVEGF産生, 腫瘍増殖の関連. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
- 43) 鈴木香奈芽¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 東敬子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 劉愛民²⁾, 内藤善哉(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾中央電子顕微鏡研究施設): 体腔液細胞診で確定診断した腹膜中皮腫の1例: 細胞転写法の有用性. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
- 44) 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 工藤光洋, 内藤善哉(¹⁾多摩永山病院病理部): 乳癌細胞診標本におけるChromogenic In Situ Hybridization法を用いたHER2遺伝子検出の基礎的検討. 第74回日本医科大学総会, 2006 . 9 .
- 45) 小原信¹⁾, 角田美佐子¹⁾, 鈴木一成¹⁾, 山下直子¹⁾, 猪狩吉雅¹⁾, 鈴木達也¹⁾, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 藤原ゆり, 恩田宗彦, 内藤善哉, 岡崎優²⁾, 田上素子²⁾, 橋本雅夫²⁾(¹⁾付属病院老人科, ²⁾付属病院研修医): 血痰を主訴に受診した高齢者解離性大動脈瘤の1例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
- 46) 町田稔¹⁾, 亀山孝二, 清水昭夫²⁾, 内藤善哉, 森山紀之¹⁾(¹⁾国立癌予防検診研究センター, ²⁾創価大工学部環境共生工学科): 間質. 特に基底膜の主成分であるIV型コラーゲンの構造変化とヘマトポルフィリン(HP)の親和性. 第47回日本脈管学会総会, 2006 . 10 .
- 47) 亀山孝二, 町田稔¹⁾, 清水昭夫²⁾, 手塚潔, 恩田宗彦, 内藤善哉(¹⁾国立癌予防検診研究センター, ²⁾創価大工学部環境共生工学科): 動脈硬化の粥種破壊に關する基底膜成分IV型コラーゲンと脂質の会合異常の検討: 酸可溶状態モデルの近赤外分光法による解析. 第47回日本脈管学会総会, 2006 . 10 .
- 48) 張一光, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野暁¹⁾, 寺西宣央, 川本聖郎, 田尻孝¹⁾, 石渡俊行, 中澤南堂, 内藤善哉(¹⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): ヒト痔癌静脈侵襲におけるKGF/KGFRとVEGFの関与. 第48回日本消化器病学会大会, 2006 . 10 .
- 49) 真々田裕宏¹⁾, 吉田寛¹⁾, 谷合信彦¹⁾, 高橋翼¹⁾, 水口義昭¹⁾, 柿沼大輔¹⁾, 石川義典¹⁾, 神田知洋¹⁾, 田尻孝¹⁾, 内藤善哉(¹⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 門脈の不整な分枝異常に伴う門脈圧亢進症の1例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006 . 10 .
- 50) 葉山綾子¹⁾, 佐竹あかね¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 内藤善哉, 横山宗伯, 田村浩一¹⁾, 杉崎祐一¹⁾(¹⁾付属病院病理部): 乳腺穿刺細胞診報告様式の検討(2): 検体不適性について. 第45回日本臨床細胞学会秋期大会, 2006 . 11 .
- 51) 永井祥子¹⁾, 土屋眞一¹⁾, 横山宗伯, 内藤善哉, 田村浩一¹⁾, 杉崎祐一(¹⁾付属病院病理部): 非定型的な腫瘤像を形成した乳腺metaplastic carcinomaの細胞像. 第45回日本臨床細胞学会秋期大会, 2006 . 11 .
- 52) 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 細根勝¹⁾, 平田知己²⁾, 内藤善哉(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾同呼吸器外科): 体腔液細胞診による中皮腫の確定診断: 細胞転写法, セルブロック法を中心に. 第45回日本臨床細胞学会秋期大会, 2006 . 11 .
- 53) 石崎晃¹⁾, 杉原仁¹⁾, 加納稔子¹⁾, 田村秀樹¹⁾, 石井新哉¹⁾, 岡島史宜¹⁾, 中島泰¹⁾, 谷村恭子¹⁾, 及川眞一¹⁾, 田尻孝²⁾, 清水一雄³⁾, 内藤善哉, 芝崎保⁴⁾, 片上秀喜⁵⁾(¹⁾内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門), ²⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門), ³⁾外科学(内分泌・心臓血管・呼吸器部門), ⁴⁾生理学第2, ⁵⁾宮崎大学医学部第三内科): GHRH産生膵腫瘍を伴った多発性内分泌腺腫瘍(MEN)1型. 日本内分泌学会雑誌, 2006 . 11 .
- 54) 飯田信也¹⁾, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 内藤善哉, 田尻孝¹⁾(¹⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾付属病院病理部): 小児S状結腸腸間膜囊腫の一切除例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 2 .
- 55) 細根勝¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 片山博徳¹⁾, 劉愛民²⁾, 内藤善哉(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾中央電子顕微鏡研

究施設): 無治療で経過中に白血化した plasmacytoid dendritic cell tumor “blastic NK-cell lymphoma” の 1 例. 第 96 回日本病理学会総会, 2007. 3.

56) 横山宗伯, 鈴木恒道¹⁾, 藤原ゆり, 恩田宗彦, 石渡俊行, 杉崎祐一²⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 東京警察病院病理部, ²⁾ 日本医科大学付属病院病理部): 病院・大学連携研修プログラムによる後期研修医募集の試み, 病院から病理医を育てるために. 第 96 回日本病理学会総会, 2007. 3.

57) 劉 愛民¹⁾, 杉崎祐一¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 細根 勝²⁾, 片山博徳²⁾, 東 敬子²⁾, 内藤善哉 (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾ 多摩永山病院病理部): 電顕検索の併用が中皮腫の確定診断に有用であった 4 症例. 第 38 回日本臨床分子形態学会総会, 2007. 9.

10 . 微生物学・免疫学講座

研究概要

当微生物学・免疫学講座では「生体防御システムの解明ならびにその制御」を主目的とし、感染症学および感染免疫学・腫瘍免疫学あるいはアレルギー・膠原病学などに関連した研究を展開し、将来の医学への応用をめざしている。感染症学および感染免疫学：

[A]HIV に対する免疫応答の検討と感染伝播機構の解明：(1) HIV の CTL エピトープの抗原決定の鍵を握るアミノ酸は従来想定されていた T 細胞レセプターの CDR3 領域よりも CDR1 領域によって認識されることを見出した。(2) HIV の重要な標的である NKT 細胞が感染拡大に強く関与する細胞群であることを見出した。(3) 粘膜組織における HIV 感染樹状細胞の制御には CD1a のみならず CD1d 分子拘束性の免疫応答が重要であることを見出した。(4) BCG 由来の脂質抗原は CD1 分子拘束性キラー T 細胞のみならず抗体の標的でもあることを明らかにした。以上の事実から、HIV 感染制御には感染樹状細胞ならびに NKT 細胞などの自然免疫系を対象とすることの重要性が推測される。

[B]皮膚・粘膜組織における免疫系の活性化：(1) ピロリ菌由来のウレアーゼがマウスのみならずヒト粘膜内に局在する B-1 細胞を活性化させ、リウマチ因子 (RF) や抗 DNA 抗体を放出させる事を明らかにした。(2) 経口免疫による免疫寛容状態を誘導する際には抗原が消化管内で分解されることが重要であることを見出した。

腫瘍免疫学：

[A]粘膜免疫を介した抗腫瘍免疫の誘導：腫瘍抗原を粘膜アジュバントであるコレラ毒素とともに経口投与すると、全身免疫のみならず粘膜内に腫瘍特異的 CTL が誘導され、特に粘膜内で誘導された CTL に強力な抗腫瘍活性が存在することを見いだした。

研究業績

論文

[2005 年度追加分]

原著：

- 1) Terabe M¹⁾, Swann J¹⁾, Ambrosino E¹⁾, Sinha P¹⁾, Takaku S, Hatakawa Y¹⁾, Godfrey D I¹⁾, Ostrand-Rosenberg S¹⁾, Smyth M J¹⁾, Berzofsky J A¹⁾ (¹⁾ Vaccine Branch, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, National Institute of Health): A nonclassical non-Valpha14Jalpha18 CD1d-restricted (type II) NKT cell is sufficient for down-regulation of tumor immunosurveillance. . J. Exp. Med. 2005 ; 202 (12): 1627-1633 .

(1) 原著：

- 1) Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Suzuki K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Wada K¹⁾, Miyake K¹⁾, Ohashi K¹⁾, Shimizu M, Takahashi H, Gudis K¹⁾, Kato S¹⁾, Tsukui T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine): T cells increase with gastric mucosal interleukin (IL) 7, IL-1beta, and Helicobacter pylori urease specific immunoglobulin levels via CCR2 upregulation in Helicobacter pylori gastritis . J. Gastroenterol. Hepatol. 2006 ; 21 (1): 32-40 .
- 2) Wakabayashi A, Utsuyama M¹⁾, Hosoda T¹⁾, Sato K¹⁾, Takahashi H, Hirokawa K¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology and Immunology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University): Induction of immunological tolerance by oral, but not intravenous and intraportal, administration of ovalbumin and the difference between young and old mice . J. Nutr. Health Aging 2006 ; 10 (3): 183-191 .

- 3) Watanabe Y , Watari E , Matsunaga I¹⁾ , Hiromatsu K²⁾ , Christopher CD³⁾ , Kawashima T⁴⁾ , Norose Y , Shimizu K⁴⁾ , Takahashi H , Yano I⁵⁾ , Sugita M¹⁾ (¹⁾ Laboratory of Cell Regulation, Institute for Virus Research, Kyoto University , ²⁾ Department of Infectious Diseases, Miyazaki Medical College , ³⁾ Department of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School , ⁴⁾ Department of Surgery , ⁵⁾ BCG Laboratory): BCG vaccine elicits both T-cell mediated and humoral immune responses directed against mycobacterial lipid components . *Vaccine* 2006 ; 24 (29-30): 5700-5707 .
- 4) Wakabayashi A , Kumagai Y , Watari E , Shimizu M , Utsumiya M¹⁾ , Hirokawa K¹⁾ , Takahashi H (¹⁾ Department of Pathology and Immunology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University): Importance of gastrointestinal ingestion and macromolecular antigens in the vein for oral tolerance induction . *Immunology* 2006 ; 119 (2): 167-177 .
- 5) Nakagawa Y , Kikuchi H , Takahashi H (¹⁾ Department of Physics): Molecular analysis of TCR and peptide/MHC interaction using P18-110-derived peptides with a single D-amino acid substitution . *Biophysical J.* 2007 ; 92 (7): 2570-2582 .

(2) 総説 :

- 1) 新谷英滋 , 大脇敦子 , 高橋秀実 : DsRed2を用いたエイズウイルス nef 遺伝子産物と脂質抗原提示分子CD1a相互作用の解析 . *日医大医学会誌* 2006 ; 2 (3): 134-135 .
- 2) 高橋秀実 : 体表面に配置された自然免疫システムと体内を循環する獲得免疫システム . *炎症と免疫* 2006 ; 14 (4): 449-450 .
- 3) 高橋秀実 : 粘膜組織における HIV の拡散と制御 . *炎症と免疫* 2006 ; 14 (4): 479-485 .
- 4) 飯泉 匡 , 熊谷善博 , 高橋秀実 : *Helicobacter pylori* 由来 urease の酵素活性を増強させる特異的抗体 . *臨床免疫・アレルギー科* 2006 ; 46 (2): 205-207 .
- 5) 新谷英滋 , 高橋秀実 : ヒト免疫不全ウイルス Nef による免疫抑制の機序 . *臨床免疫・アレルギー科* 2006 ; 46 : 222-225 .
- 6) 高橋秀実 : 免疫システムの新たな実態 : 基本免疫と獲得免疫 . *日本感染症学会雑誌* 2006 ; 80 (5): 463-468 .
- 7) 高橋秀実 : HIV-1 と nef . *炎症と免疫* 2006 ; 14 (6): 816-821 .
- 8) 山西慎吾 , 神谷 茂¹⁾ , 高橋秀実 (¹⁾ 杏林大学感染症): ピロリ菌ウレアーゼによる B-1 細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性 . *日本ヘリコバクター学会誌* 2007 ; 2 (8): 22-26 .

(3) 研究報告書 :

- 1) 高橋秀実 : 粘膜組織における CD8alpha alpha⁺CD4⁺T 細胞を介した HIV 感染拡大の可能性 . 厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV 感染予防に関する研究班 平成 17 年度 総括・分担研究報告書 2006 ; pp69-74 .
- 2) 高橋秀実 : HIV 感染細胞を制御する細胞性免疫の解明とその賦活法の開発 . 平成 17 年度科学研究費補助金特定領域報告書「感染の成立と宿主応答の分子基盤」 2007 ; pp308-309 .
- 3) 高橋秀実 , 中川洋子 : D-体のアミノ酸を含むペプチドを用いた新たな性状を持つ CTL 誘導の試み . 厚生労働省科学研究費補助金エイズ対策研究事業 HIV 感染予防における経粘膜ワクチンの開発研究班 平成 18 年度 総括・分担研究報告書 2007 ; pp27-31 .

著 書

- 1) Ohkuni H¹⁾ , Todome Y , Takahashi H , Nagamune H²⁾ , Abe J³⁾ , Otsuka H , Hatakeyama H (¹⁾ メデカジャパン ラボ , ²⁾ 徳島大学工学部ソシオテック , ³⁾ 国立成育センター): [分担] Antibody titers to *Streptococcus mitis*-derived human platelet aggregation factor (Sm-hPAF) in the sera of patients with Kawasaki disease . *Streptococci New Insights into Old Enemy* , 2006 ; pp71-74 , Elsevier Science Health Science Div .

- 2) 高橋秀実：〔分担〕持続感染症としての未病．未病医学入門，2006；pp108-112，金芳堂．
- 3) 高橋秀実：〔分担〕特異免疫およびその賦活法に関する基本原理．ブラック微生物学（林 英生，岩本愛吉，神谷 茂，高橋秀実），2007；pp495-533，丸善出版．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高橋秀実：HIV 感染細胞の制御をめざしたワクチンの開発．第10回日本ワクチン学会学術集会，2006．10．
- 2) 高橋秀実：脂質と粘膜免疫．第12回癒しの療法研究会，2006．12．
- 3) 高橋秀実：漢方と免疫．第7回東京大学実践漢方セミナー，2007．2．

(2) ワークショップ：

- 1) Shinya E, Hidaka C, Owaki A, Watanabe E, Shimizu M, Takahashi H：Down-regulation of CD1s by HIV-1 Nef in immature dendritic cells：implications for lipid antigens as AIDS vaccine candidates．1st Joint Meeting of European National Societies of Immunology & 16th European Congress of Immunology (France)，2006．9．
- 2) Takahashi H：CD1d-NKT system and HIV．7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (Japan)，2006．12．

(3) 一般講演：

- 1) 山西慎吾，神谷 茂¹⁾，高橋秀実⁽¹⁾杏林大学感染症学)：ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性．第12回日本ヘリコバクター，2006．6．
- 2) 古賀実芳¹⁾，日高千鶴乃，廣田 薫²⁾，平馬直樹¹⁾，高橋秀実⁽¹⁾東洋医学科，²⁾ワクチン療法施設)：玉屏風散の合方が奏功した3例．第57回日本東洋医学会学術総会，2006．6．
- 3) 高橋秀実，日高千鶴乃，廣田 薫²⁾，古賀実芳¹⁾，平馬直樹¹⁾(¹⁾東洋医学科，²⁾ワクチン療法施設)：ウイルス感染症における解表作用の意義に対する一考察．第57回日本東洋医学会学術総会，2006．6．
- 4) 日高千鶴乃，古賀実芳¹⁾，廣田 薫²⁾，平馬直樹¹⁾，高橋秀実⁽¹⁾東洋医学科，²⁾ワクチン療法施設)：腸管ペーチェット病に対する発熱，下血に対し生薬治療を試みた1例．第57回日本東洋医学会学術総会，2006．6．
- 5) 大國壽士¹⁾，留目優子，長宗秀明²⁾，高橋秀実，阿部 淳³⁾，野村裕一⁴⁾，大塚広樹¹⁾(¹⁾メデカジャパン ラボ，²⁾徳島大工学部ソシオテク，³⁾国立成育センター，⁴⁾鹿児島大小児科)：川崎病患児における *Streptococcus mitis*由来ヒト血小板凝集因子(Sm-hPAF)に対する抗体の検討．第15回ランスフィールドレンサ球菌研究会，第39回レンサ球菌感染症合同研究会，2006．6．
- 6) 高橋秀実，山西慎吾，飯泉 匡¹⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾第3内科)：ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化を介した自己免疫疾患誘導．第48回日本消化器病学会大会，2006．10．
- 7) 山西慎吾，高橋秀実：ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性．多摩小児アレルギー臨床懇話会，2006．10．
- 8) 大國壽士¹⁾，留目優子，安田 正²⁾，深沢隆治³⁾，小川俊一³⁾，阿部 淳⁴⁾(¹⁾メデカジャパン ラボ，²⁾大宮医師会病院小児科，³⁾小児科，⁴⁾国立成育センター)： *Streptococcus mitis*由来ヒト血小板凝集因子の抗原性に関する検討．第26回日本川崎病研究会，2006．10．
- 9) 高橋めぐみ，渡理英二，新谷英滋，高橋秀実：麻疹ウイルス変異株の持続感染に關与する宿主因子・その2．第54回日本ウイルス学会総会，2006．11．
- 10) 渡理英二，高橋めぐみ，高橋秀実：Nordihydroguaiaretic acid (NDGA) の麻疹ウイルス感染グリオーマ細胞におけるウイルス増殖とサイトカイン産生．第54回日本ウイルス学会総会，2006．11．
- 11) 斉藤尚紀¹⁾，高橋めぐみ，清水真澄，伊吹謙太郎¹⁾，速水正憲¹⁾，三浦智行¹⁾，高橋秀実⁽¹⁾京都大学ウイルス研究所)：SIV/SHIV感受性IL-2 independentアカゲザル細胞株MT-IL2Iの樹立とその性状解析．第20回日本

エイズ学会学術集会, 2006 . 11 .

- 12) 新谷英滋, 清水真澄, 大脇敦子, 渡邊恵理, 日高千鶴乃, 高橋秀実: HIV-1 Nef down-regulates lipid antigen presentation by CD1a on immature dendritic cells : implications for the lipid antigen as AIDS vaccine candidates . 第20回日本エイズ学会学術集会, 2006 . 11 .
- 13) 日高千鶴乃, 渡邊恵理, 清水真澄, 山西慎吾, 新谷英滋, 高橋秀実: NKT細胞による X4-type HIV-1 の感染拡大 . 第20回日本エイズ学会学術集会, 2006 . 11 .
- 14) 中川洋子, 清水真澄, 野呂瀬嘉彦, 樋口智江, 高橋めぐみ, 高橋秀実: Effect of antigenic peptide on CD8⁺ HIV-1 gp160-specific CTLs in vivo . 第36回日本免疫学会総会, 2006 . 12 .
- 15) 山西慎吾, 渡邊恵理, 清水真澄, 小林史子, 竹内穂高, 飯泉 匡, 熊谷善博, 高橋秀実: Activation of B-1 cells by *Helicobacter pylori* urease : implications for induction of autoimmunity via *Helicobacter pylori* infection . 第36回日本免疫学会総会, 2006 . 12 .
- 16) 熊谷善博, 山西慎吾, 飯泉 匡¹⁾, 野呂瀬嘉彦, 渡邊恵理, 福永慶隆²⁾, 高橋秀実 (¹⁾第3内科, ²⁾小児科学): Local immune response to *H. pylori* infection in murine lymph nodes adjacent to the stomach . 第36回日本免疫学会総会, 2006 . 12 .
- 17) Katakura T¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Shimizu M, Harimoto H¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Tamura H¹⁾, Takahashi H, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾Department of Medicine): Ribavirin interfered the inhibitory activity of human CD4⁺CD25⁺ T-regulatory lymphocytes mainly in a cytokine dependent manner . 第36回日本免疫学会総会, 2006 . 12 .
- 18) 日高千鶴乃, 渡邊恵理, 清水真澄, 山西慎吾, 根岸靖幸, 小宮暢子, 新谷英滋, 高橋秀実: Expansion of T-cell tropic X4-type HIV-1 infection via CD4⁺positive NKT cells . 第36回日本免疫学会総会, 2006 . 12 .
- 19) 若林あや子, 熊谷善博, 渡理英二, 清水真澄, 守屋慶一, 宇津山正典¹⁾, 廣川 勝¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾東京医科歯科大学分子免疫病理): Importance of gastrointestinal ingestion and macromolecular antigens in the vein for oral tolerance induction . 第36回日本免疫学会総会, 2006 . 12 .
- 20) 新谷英滋, 大脇敦子, 清水真澄, 渡邊恵理, 八木幸恵, 日高千鶴乃, 高橋秀実: HIV-1 Nef down-regulates both CD1a and CD1d surface expression in immature dendritic cells . 第36回日本免疫学会総会, 2006 . 12 .
- 21) 野呂瀬嘉彦, 青砥泰二¹⁾, 高橋秀実 (¹⁾中央検査部): 細菌 DNA 型別解析における RAPD-PCR 法の基礎的検討 . 第22回日本環境感染学会総会, 2007 . 2 .
- 22) 大國壽士¹⁾, 留目優子, 高橋秀実, 長宗秀明²⁾ (¹⁾メディカジャパン ラボ, ²⁾徳島大工学部ソシオテク): *Streptococcus mitis*由来ヒト血小板凝集因子の抗原性の解析 . 第80回細菌学会総会, 2007 . 3 .

11. 衛生学・公衆衛生学講座

研究概要

衛生学・公衆衛生学あるいは環境医学領域から社会医学に寄与する研究テーマを選んで調査研究をすすめている。ラボとフィールドの両面から「人」を最終的な対象とした予防医学研究を志向し、疫学研究の成果も生まれている。教室の共通研究テーマとして、環境アメニティーの改善にともなう免疫能の高まりを「森林浴」をキーワードとして継続的に検討しておりその成果も着実に増えている。その他、研究分担者として、学外との共同研究もすすめている。

長期的な視点で「研究目的」を設定し成果を積み重ねているが、各自の研究をすすめるために引き続き外部研究資金の獲得を求めている。

各スタッフの主な研究内容を以下に示す。

- ・携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究（平成18年度科学研究費補助金基盤研究（C））（川田智之）
- ・シアンの解毒酵素であるメルカプトピルビン酸硫黄転移酵の構造と機能の研究（永原則之）
- ・肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察（平成18年度科学研究費補助金基盤研究（C））（若山葉子）
- ・免疫系酵素グランザイム3に対するモノクローナル抗体の作製（稲垣弘文）
- ・森林浴の健康に及ぼす影響に関する研究（平成18年度農林水産省高度化研究事業）（李 卿）
- ・コチニンを指標にした喫煙のバイオロジカルモニタリングと地域における禁煙介入研究（勝又聖夫）
- ・生体の免疫系におけるグランザイム3の役割（検出方法と基質特異性の検討）（平田幸代）
- ・鉛中毒で活性が低下するポルフォビリノーゲン合成酵素の活性化機序に関する研究（澤田典里）
- ・環境要因による呼吸器疾患の発症・増悪リスク、および環境被害で観察される呼吸器障害の個体差（李 英姫）

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Li Q, Nakadai A, Matsushima H¹⁾, Miyazaki Y²⁾, Krensky AM³⁾, Kawada T, Morimoto K¹⁾ (¹⁾ Osaka University Graduate School of Medicine, ²⁾ Forestry and Forest products research institute, ³⁾ Stanford University School of Medicine): Phytoncides (wood essential oils) induce human natural killer cell activity . Immunopharmacol. Immunotoxicol. 2006 ; 28 (2): 319-333 .
- 2) Kawada T, Otsuka T, Katsumata M, Suzuki H : Association between components of the metabolic syndrome and serum levels of C-reactive protein in Japanese workingmen . J Cardiometabolic Syndrome 2006 ; 1 (3): 168-172 .
- 3) Kawada T, Suzuki S¹⁾, Tsukioka T²⁾, Iesaki S²⁾ (¹⁾ Gunma Occupational Health Promotion Center, ²⁾ Gunma Medical Association): Factors associated with perceived health of very old inhabitants of Japan . Gerontology 2006 ; 52 (4): 258-263 .
- 4) Inagaki H, Minami M, Hirata K, Kawada T : A monoclonal antibody to hippuric acid : an improved enzyme-linked immunosorbent assay for biological monitoring of toluene exposure . J Immunoassay Immunochem 2006 ; 27 (3): 213-223 .
- 5) Nakadai A, Li Q, Kawada T : Chlorpyrifos induces apoptosis in human monocyte cell line U937 . Toxicology 2006 ; 224 (3): 202-209 .
- 6) Kawada T, Okada K : The Metabolic Syndrome : Prevalence and Associated Lifestyles in Japanese Work-

ingmen . J Cardiometabolic Syndrome 2006 ; 1 (5): 313-317 .

- 7) Matsumoto A¹⁾, Hiramatsu K¹⁾, Li Y-J, Azuma A¹⁾, Kudoh S¹⁾, Takizawa H²⁾, Sugawara I³⁾(¹⁾Fourth Department of Internal Medicine, ²⁾Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo, ³⁾Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis): Repeated exposure to low-dose diesel exhaust after allergen challenge exaggerates asthmatic responses in mice . Clin Immunol 2006 ; 121 (2): 227-235 .
- 8) Nagahara N, Yoshii T, Abe Y¹⁾, Matsumura T¹⁾(¹⁾Department of Biochemistry and Molecular Biology): Thioredoxin-dependent enzymatic activation of mercaptopyruvate sulfurtransferase : An intersubunit disulfide bond serves as a redox switch of activation . J Biol Chem 2007 ; 282 (3): 1561-1569 .
- 9) Kawada T, Katsumata M, Suzuki H, Shimizu T : Actigraphic predictors of the depressive state in students with no psychiatric disorders . J Affect Disord 2007 ; 98 (1-2): 117-120 .
- 10) Li Q, Morimoto K¹⁾, Nakadai A, Qu T¹⁾, Matsushima H¹⁾, Katsumata M, Shimizu T, Inagaki H, Hirata Y, Hirata K, Kawada T, Lu Y¹⁾, Nakayama K¹⁾, Krensky AM²⁾(¹⁾Osaka University Graduate School of Medicine, ²⁾Stanford University School of Medicine): Healthy lifestyles are associated with higher levels of perforin, granulysin and granzymes A/B-expressing cells in peripheral blood lymphocytes . Prev Med 2007 ; 44 (2): 117-123 .

(2) 綜説 :

- 1) Li Q, Kawada T : The mechanism of organophosphorus pesticide-induced inhibition of cytolytic activity of killer cells . Cell Mol Immunol 2006 ; 3 (3): 171-178 .
- 2) Li Q : New mechanism of organophosphorus pesticide-induced immunotoxicity . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1): 70-73 .

著 書

- 1) 川田智之, 鈴木庄亮¹⁾(¹⁾群馬産業保健推進センター): [共著] 保健・医療・福祉のための論文のまとめ方と書き方 . 第2版, 2006 ; pp1-117, 南江堂 .
- 2) 川田智之: [分担] 産業保健 . シンプル衛生公衆衛生学2007 (監修: 鈴木庄亮, 久道 茂, 編集: 小山 洋, 辻 一郎), 2007 ; pp261-271, 南江堂 .

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Sasazawa Y¹⁾, Kawada T, Suzuki S²⁾(¹⁾University of the Ryukyus, ²⁾Gunma Occupational Health Promotion Center): The relationship between variety of community noise and sleep disturbance in Japanese . The 35th International Congress and Exposition on Noise Control Engineering (INTER-NOISE 2006)(Honolulu), 2006 . 12 .
- 2) 永原則之: レドックス分子スイッチを介する酵素活性機能: チオレドキシンのもう1つの働き . 京都大学医学部附属病院探索医療センター, 2007 . 1 .

(2) シンポジウム :

- 1) Li Q, Kawada T : The new mechanism of organophosphorus pesticides-induced inhibition of cytolytic activity of killer cells (International Symposium on Immune Effects of Work Environment). The 16th International Congress of Agricultural Medicine and Rural Health (Lodi), 2006 . 6 .
- 2) 李 卿: 森林浴が生体免疫機能を高める (科学的視点から森林浴の癒し効果を検証する). 第77回日本衛生学会総会, 2007 . 3 .

(3) 一般講演 :

- 1) Sawada N , Nagahara N , Minami M , Kawada T : Histidine¹³¹ involves in catalysis of human porphobilinogen synthase . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress in conjunction with 79th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society and 29th Annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Kyoto) , 2006 . 6 .
- 2) Hirata Y , Inagaki H , Shimizu T , Li Q , Kawada T : Characterization of recombinant human granzyme 3 . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress in conjunction with 79th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society and 29th Annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Kyoto) , 2006 . 6 .
- 3) Inagaki H , Hirata Y , Shimizu T , Li Q , Kawada T : Expression, purification and characterization of recombinant human granzyme A . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress in conjunction with 79th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society and 29th Annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Kyoto) , 2006 . 6 .
- 4) Nagahara N , Yoshii T , Abe Y¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology) : Redox regulation of the enzymatic activity of mercaptopyruvate sulfurtransferase . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress in conjunction with 79th Annual Meeting of the Japanese Biochemical Society and 29th Annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (Kyoto) , 2006 . 6 .
- 5) Li Q , Nakadai A , Inagaki H , Katsumata M , Shimizu T , Hirata Y , Hirata K , Suzuki H , Miyazaki Y¹⁾ , Kagawa T¹⁾ , Koyama Y²⁾ , Krensky AM³⁾ , Morimoto K⁴⁾ , Kawada T (¹⁾ Forestry and Forest Products Research Institute , ²⁾ Nagano Prefecture Forest Research Center , ³⁾ Stanford University School of Medicine , ⁴⁾ Osaka University Graduate School of Medicine) : A forest bathing trip enhances human natural killer activity . 28th International Commission on Occupational Health (ICOH) (Milan) , 2006 . 6 .
- 6) Li Q , Nakadai A , Matsushima H¹⁾ , Miyazaki Y²⁾ , Krensky AM³⁾ , Kawada T , Morimoto K¹⁾ (¹⁾ Osaka University Graduate School of Medicine , ²⁾ Forestry and Forest Products Research Institute , ³⁾ Stanford University School of Medicine) : Effect of phytoncide on human NK activity and intracellular perforin, granzyme and granzyme in NK cell . The 15th World Congress of Pharmacology (Beijing) , 2006 . 7 .
- 7) Li Y-J , Takizawa H¹⁾ , Azuma A³⁾ , Matsumoto A³⁾ , Kawada T , Sugawara I²⁾ , Kudoh S³⁾ (¹⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Teikyo University , ²⁾ Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis , ³⁾ Department of Pulmonary Medicine/Infection and Oncology) : Mouse Strain Differences in Airway Inflammatory Responses Caused by Long Time Low-Dose Diesel Exhaust Exposure . 11th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (APSR) (Kyoto) , 2006 . 11 .
- 8) Hirata K , Sakaguchi M¹⁾ (¹⁾ Asakusa Pharmaceutical Association) : Activities and Roles of “ Medicine and Health Week ” Conducted by a Local Pharmaceutical Association . 21st Congress of Federation of Asian Pharmaceutical Association (Yokohama) , 2006 . 11 .
- 9) 李 卿 , 中台亜里 , 屈 田力¹⁾ , 松島弘樹¹⁾ , 勝又聖夫 , 清水孝子 , 稲垣弘文 , 平田幸代 , 平田紀美子 , 川田智之 , 呂 玉泉¹⁾ , 中山邦夫¹⁾ , Krensky AM²⁾ , 森本兼曩¹⁾ (¹⁾ 大阪大学医学部 , ²⁾ Stanford University School of Medicine) : ライススタイルによるヒトNK , T細胞及びリンパ球内 Granulysin, Perforin, Granzyme A/Bへの影響 . 第79回日本産業衛生学会 , 2006 . 5 .
- 10) 李 英姫 , 松本亜紀¹⁾ , 滝澤 始²⁾ , 吾妻安良太¹⁾ , 菅原 勇³⁾ , 川田智之 , 工藤翔二¹⁾ (¹⁾ 呼吸器感染腫瘍内科 , ²⁾ 帝京大学第四内科 , ³⁾ 結核研究所レファレンスセンター) : 低濃度DEP曝露によるマウス炎症性サイトカインの系統差 . 第46回日本呼吸器学会学術講演会 , 2006 . 6 .

- 11) 大塚俊昭, 雪吹周生¹⁾, 石井健輔¹⁾, 吉田博史¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科・循環器科): 高感度CRPは冠動脈疾患発症リスク評価に有用か?: 健常中年男性における検討. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
 - 12) 勝又聖夫, 平田紀美子, 伊藤博子, 高橋修和¹⁾, 深澤幸枝²⁾, 上田美穂²⁾, 川田智之(¹⁾社会福祉法人考慈会, ²⁾山梨県早川町): 唾液中ニコチン・コチニン濃度および呼気中一酸化炭素濃度と喫煙習慣との関連性. 第65回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.
 - 13) 伊藤博子, 勝又聖夫, 川田智之: サリン事件被害者検診とその臨床検査データの解析. 第65回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.
 - 14) 平田紀美子, 勝又聖夫, 川田智之: 薬剤師会が行っている「薬と健康週間」の活動と役割. 第65回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.
 - 15) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾(¹⁾スポーツ科学, ²⁾神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の調査成績(II). 第65回日本公衆衛生学会総会, 2006. 10.
 - 16) 李 英姫, 松本亜紀²⁾, 吾妻安良太²⁾, 滝澤 始¹⁾, 川田智之, 菅原 勇³⁾, 工藤翔二²⁾(¹⁾帝京大学第四内科, ²⁾呼吸器感染腫瘍内科, ³⁾結核研究所レファレンスセンター): 低濃度ディーゼル排気粒子の長期曝露がアレルギー性喘息発症に及ぼす影響. 第10回アレルギー・気道上皮細胞学術大会, 2006. 12.
 - 17) 李 卿, 小林麻衣子, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 平田 紀美子, 鈴木博子, 李 英姫, 若山葉子, 川田智之, 宮崎良文¹⁾, 香川隆英¹⁾, 森本兼曩²⁾(¹⁾森林総合研究所, ²⁾大阪大学医学部): 森林浴がヒトNK活性, NK細胞数及び細胞内抗がんタンパクを増加させる. 第6回分子予防環境医学研究会, 2006. 12.
 - 18) 澤田典里, 永原則之, 圓藤陽子¹⁾, 中嶋義明¹⁾, 南 正康, 川田智之(¹⁾東京労災病院産業中毒研究センター): デルタアミノレブリン酸脱水酵素のHis¹³¹は遠位亜鉛を結合するのか. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 19) 李 卿, 小林麻衣子, 川田智之: 森林率とがんの標準化死亡比(SMR), 死因別死亡確率及び平均余命との関連性. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 20) 李 英姫, 滝澤 始¹⁾, 吾妻安良太²⁾, 松本亜紀²⁾, 川田智之, 菅原 勇³⁾, 工藤翔二²⁾(¹⁾帝京大学第四内科, ²⁾呼吸器感染腫瘍内科, ³⁾結核研究所レファレンスセンター): 低濃度ディーゼル排気粒子の長期曝露によるマウスアレルギー性気道炎症病態への影響. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 21) 若山葉子, 伊藤博子, 川田智之, 武藤三千代¹⁾, 渡部隼二²⁾(¹⁾スポーツ科学, ²⁾神奈川県立保健福祉大学人間総合・基礎): 中高年を対象とした「運動教室」参加者の健康調査成績(III). 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 22) 小林麻衣子, 李 卿, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 平田幸代, 平田紀美子, 伊藤博子, 李 英姫, 若山葉子, 川田智之: 森林浴によるリラックス効果 一般旅行との比較. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
 - 23) 平田幸代, 稲垣弘文, 川田智之: リコンビナントヒトPro-granzyme 3の発現. 日本薬学会第127年会, 2007. 3.
 - 24) 稲垣弘文, 平田幸代, 川田智之: 抗ヒトGranzyme 3部分ペプチド抗体の作製とその応用. 日本薬学会第127年会, 2007. 3.
 - 25) 平田紀美子, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 坂口眞弓¹⁾, 川田智之(¹⁾浅草薬剤師会): 浅草薬剤師会が行っている『薬と健康の週間』の活動及び役割. 日本薬学会第127年会, 2007. 3.
- (4) 受賞講演:
- 1) 李 卿: 有機リン農薬による免疫毒性のメカニズム. 第79回日本産業衛生学会, 2006. 5.
 - 2) 李 卿: 有機リン農薬による免疫毒性の新しい機序. 平成18年度日本医科大学医学会総会, 2006. 9.

12. 法医学講座

研究概要

1. 臨床法医中毒学

急性薬物中毒の疑われる救急患者の緊急薬物分析法を開発し、GC/MS、LC/MS等を用いた高精度の分析システムの開発に取り組んでいる。また毛髪からの覚醒剤・パラコート等の分析、LC/MSを用いたTetrodotoxin等の微量毒物検出法の開発にも取り組んでいる。

2. トリカプト毒に関する研究

トリカプト毒について、急性中毒のみならず長期投与における生体内での代謝、心機能への影響等についても実験的研究を行っている。同時にLC/MS、GC/MSによる毒物および代謝物の微量定量法について開発、検討している。フグ毒との複合作用の解明に取り組んでいる。

3. アルコール代謝

アルコール (Alc) の代謝と生体に及ぼす影響を研究している。Alc脱水素酵素AlcADH1, ADH3の寄与とその調節機構を分子生物学・生化学・薬物動態学的に検討し、さらにAlc感受性の性差・個体差、Alc関連障害の機序を、培養細胞、ノックアウトマウス、人における飲酒実験で検討している。また培養心筋細胞を用いてAlcの心臓への影響を細胞内小器官および分子レベルで検討している。

4. NMRを用いた研究

共同利用施設のNMR装置を用いて死体の筋肉や臓器中のリン化合物・有機酸・アミノ酸などのNMRによる分析値と死後硬直などの死体現象の発現との関連を検索し、本法の死後経過時間の推定法としての応用をめざしている。また、形成外科学・救急医学等と共同研究を行っている。

5. 法医学実務的研究

平成15年6月より千葉県警察の司法解剖を受託している(法医学解剖室が本学に整備されるまで、当分の間日本大学医学部法医学解剖室を借用)ので、剖検例にかかわる具体的問題を研究・検討している。また、死後変化の病理組織学的検討、死後経過時間推定に関する実務的研究等を行っている。さらに、剖検例以外の刑事・民事事件についても依頼があれば積極的に対応している。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Wada K, Nihira M, Ohno Y: Effects of chronic administrations of aconitine on body weight and rectal temperature in mice. *Journal of Ethnopharmacology* 2006; 105: 89-94.
- 2) Wada K, Mizuguchi Y²⁾, Wada Y³⁾, Ohno Y, Iino Y²⁾ (¹⁾Dept. of Internal Medicine, Social Insurance Central General Hospital, ²⁾Dept. of Medicine, Nippon Medical School, ³⁾The Fourth Dept. of Internal Medicine, Tokyo Women's Medical University): Hyperlipidaemia, lack of sleep, and smoking as risk factors for proteinuria among high altitude mountain trekkers. *Nephrology* 2006; 11 (2): 131-136.
- 3) Kawahara S¹⁾, Hyakusoku H¹⁾, Ogawa R¹⁾, Ohkubo S¹⁾, Igarashi H²⁾, Hirakawa K (¹⁾Department of Plastic and Reconstructive Surgery, ²⁾2nd Internal Medicine): Clinical Imaging Diagnosis of Implant Materials for Breast Augmentation. *Ann Plast Surg* 2006; 57 (1): 6-12.
- 4) Haseba T, Mashimo K, Sugimoto J¹⁾, Sato S¹⁾, Ohno Y (¹⁾Institute for Production Reserch and Development, Nikka Wisky Distilling Co. Ltd., Ciba): Maturation of Wisky Changes Ethanol Elimination Kinetics

and Neural Effects by Increasing Nonvolatile Congeners . Alcoholism : Clinical and Experimental Research 2007 ; 31 (S1): 77s-82s .

- 5) 大野曜吉 : アコニチン毒に関する法医中毒学的検証実験 . 日本法医誌 2006 ; 60 : 101-109 .
- 6) 崔 范来, 大野曜吉, 早川秀幸¹⁾, 仁平 信, 長谷場健, 林田眞喜子, 富田ゆかり, 平川慶子, 真下啓子, 植草協子, 飯酒盃勇²⁾ (¹⁾ 筑波剖検センター, ²⁾ 日本大学医学部法医学): A-1394 コンピュータスーパーインボーズにより受傷部位から成傷器を特定し得た轢過事故剖検例 . 法医学の実際と研究 2006 ; 49 : 107-110 .
- 7) 河原理子¹⁾, 百束比古²⁾, 平川慶子, 大野曜吉 (¹⁾ 神栖済生会病院形成外科, ²⁾ 日本医科大学形成外科学): NMR分光法を用いた美容医療材料および生体内埋入異物の化学分析 . 日本美容外科学会会報 2006 ; 28 (4): 46-50 .

(2) その他 :

- 1) 大野曜吉 : 日本における薬物乱用の現状 . リスクマネジメントセミナー : 乱用薬物と企業防衛 2006 ; 1-2 .
- 2) 大野曜吉 : 故 渡邊日章名誉教授を偲んで . 日医大医会誌 2006 ; 2 (4): 182 .

(3) 症例報告 :

- 1) 魯 峰¹⁾, 小川 令¹⁾, 青木伸峰¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 百束比古¹⁾, 植草協子, 平川慶子, 大野曜吉, 下池田勇一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学形成外科学, ²⁾ 日本電子): テフロンによる隆鼻術によって異物反応を生じた症例の検討 . 日本美容外科学会会報 2006 ; 28 (1): 32-35 .

著 書

- 1) 大野曜吉, 仁平 信 : [著書] 抗精神薬類の急性中毒 . シリーズ・暮らしの科学27 アルコール, タバコ, 覚醒剤, 麻薬 薬物依存 Q & A, 2006 ; pp176-177, ミネルヴァ書房 .
- 2) 仁平 信, 大野曜吉 : [著書] 抗精神薬類の代謝と排泄 . シリーズ・暮らしの科学27 アルコール, タバコ, 覚醒剤, 麻薬 薬物依存 Q & A, 2006 ; pp178-179, ミネルヴァ書房 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 大野曜吉 : アコニチン毒に関する法医中毒学的検証実験 . 第90次日本法医学会総会, 2006 . 4 .

(2) 招待講演 :

- 1) 大野曜吉 : 法医鑑定例紹介 . Workshop on Latest Technology of Forensic Science (杭州), 2006 . 11 .
- 2) 平川慶子 : NMRメタボローム解析技術を用いた疾患解明システム 臨床応用をめざして . 第1回日本医科大学医用磁気共鳴分析施設公開セミナー, 2006 . 8 .
- 3) 平川慶子 : NMRメタボローム解析技術を用いた疾患解明システム クリニカルメタボロミクスとしての技術確立をめざして . 2006年度 JEOL DATUM メタボロミクス技術懇談会, 2006 . 9 .
- 4) 平川慶子 : omics science とメタボロミクスの基礎 . 第2回日本医科大学医用核磁気共鳴分析施設公開セミナー, 2007 . 2 .
- 5) 平川慶子 : NMRメタボロミクスの実際 (法医学への応用例を用いて). 第2回日本医科大学医用核磁気共鳴分析施設公開セミナー, 2007 . 2 .

(3) シンポジウム :

- 1) Takahashi H ¹⁾, Hirakawa K, Uekusa K, Fukino K¹⁾, Yamaguchi F²⁾, Adachi K²⁾, Ohno Y, Teramoto A²⁾, Yuta K³⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Hospital, ³⁾ 4Bio-IT Group, Fujitsu Co. Ltd.): Usefulness of NMR based metabolomics for the prognostic factor of meningioma . International Congress on Meningiomas and Cerebral Venous System, 2006 . 11 .

- 2) 大野曜吉：『過労死・過労自殺をめぐって』「過労自殺の医学上の問題点」．日本賠償科学会第48回研究会，2006．6．
- 3) 増野智彦¹⁾，小野寺謙吾¹⁾，平川慶子，植草協子，佐野哲孝¹⁾，相星淳一²⁾，小池 薫³⁾，大野曜吉，山本保博¹⁾ (¹⁾日本医科大学救急医学，²⁾東京医科歯科大学災害救急医学，³⁾京都大学初期診療・救急医学)：多臓器不全の新しい見方：NMRメタボロミクスを用いた出血性ショック後臓器組織代謝の網羅的解析．第34回日本集中治療医学会学術集会，2007．3．

(4) ポスター：

- 1) Hayashida M：Concentrations of tetrodotoxin and aconitine using a column-switching LC-ESI-MS method in mouse serum．The International Association of Forensic Toxicologists (TIAFT) 44th International Meeting (スロベニア，リュブリアナ)，2006．8．
- 2) Haseba T，Sugimoto J¹⁾，Sato S¹⁾，Abe Y²⁾，Ohno Y (¹⁾The Nikka Whisky distilling Co., Ltd.，²⁾Brewing Reserch &Development, Asahi Breweries, Ltd., Japan)：Phenolic aldehydes and acids in whisky, vanillin, syringaldehyde, caffeic acid and ellagic acid, depress ethanol metabolism through inhibition of ADH (class I) to lower the level of blood acetaldehyde．ISBRA 2006 World congress on Alcohol Reserch (Sydney)，2006．9．
- 3) Hirakawa K，Uekusa K，Koike K¹⁾，Yuta K²⁾，Ohno Y (¹⁾Department of Primary Care & Emergency Medicine, Kyoto University，²⁾Bio-IT Group, Fujitsu Co. Ltd.)：An NMR metabolomic investigation of metabolic disturbances after death in the rat tissues．The 45th Annual Meeting of the NMR Society of Japan (kyoto)，2006．11．
- 4) Hyakusoku H¹⁾，Okuda T¹⁾，Kawahara S¹⁾，Hirakawa K (¹⁾形成外科学)：Complication of non-absorbable fillers for cosmetic purpose．10th Oriental Society of Asthetic Surgery (上海)，2006．11．
- 5) Hyakusoku H¹⁾，Okuda T¹⁾，Kawahara S¹⁾，Hirakawa K (¹⁾形成外科学)：Picture diagnosis based on chemical analysis of mammary implant．10th Oriental Society of Asthetic Surgery (上海)，2006．11．
- 6) Okuda T¹⁾，Hyakusoku H¹⁾，Hirakawa K，Uekusa K，Ohno Y (¹⁾形成外科学)：Chemical analysis of polyacrylamide gel for facial contouring by liquid state NMR．10th Oriental Society of Asthetic Surgery (上海)，2006．11．
- 7) 林田真喜子，仁平 信，大野曜吉，栗崎恵美子¹⁾，平岩幸一¹⁾，寺田 賢²⁾，滝埜昌彦³⁾(¹⁾福島医大法医学，²⁾東邦大法医学，³⁾横河アナリティカルシステムズ)：外来精神科患者尿中エチゾラムとトリアゾラム及び代謝物のLC/TOF-MS分析．第90次日本法医学会総会，2006．4．
- 8) 崔 范来，大野曜吉，早川秀幸¹⁾，仁平 信，長谷場健，平川慶子，富田ゆかり，飯酒盃勇²⁾(¹⁾聖マリアンナ医科大学法医学，²⁾日本大学医学部法医学)：コンピュータ処理により受傷部位を特定し得た轢過事故剖検例．第90次日本法医学会総会，2006．4．
- 9) 赤石諭史¹⁾，小川 令¹⁾，百束比古¹⁾，平川慶子，植草協子，秋元正宇²⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科，²⁾千葉北総病院形成外科)：ケロイド・肥厚性瘢痕に対するシリコンジェルシートの作用機序に関する考察．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 10) 奥田貴久¹⁾，小野真平¹⁾，小川 令¹⁾，百束比古¹⁾，平川慶子，植草協子，大野曜吉 (¹⁾付属病院形成外科・美容外科)：豊胸術で使用される補填材料のMRI画像とMRS法による成分分析．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 11) 小野寺謙吾¹⁾，平川慶子，相星淳一²⁾，小池 薫³⁾，植草協子，有福和紀⁴⁾，湯田浩太郎⁵⁾，大野曜吉，山本保博¹⁾(¹⁾日本医科大学救急医学，²⁾東京医科歯科大学救急災害医学，³⁾京都大学初期診療・救急医学分野，⁴⁾(株)日本電子データム，⁵⁾(株)富士通)：蘇生輸液による出血性ショック後の腸管組織代謝変化に関する研究 NMRメタボロミクスによる網羅的解析．第34回日本磁気共鳴医学会大会，2006．9．
- 12) 奥田貴久¹⁾，小野真平¹⁾，河原理子¹⁾，百束比古¹⁾，平川慶子，植草協子，大野曜吉 (¹⁾形成外科学)：豊胸術

で使用される補填材料のMRI画像とMRSによる成分分析．第34回日本磁気共鳴医学会大会，2006．9．

- 13) 赤石諭史¹⁾，平川慶子，植草協子，秋元正宇²⁾，小川 令¹⁾，百束比古¹⁾(¹⁾形成外科学，²⁾千葉北総病院形成外科): ケロイド・肥厚性癬痕に対するシリコンジェルシートの作用機序に関する考察．第1回癬痕・ケロイド治療研究会，2006．9．
- 14) 大野曜吉：NMRメタボローム解析技術を用いた疾患解明システム．イノベーションジャパン 大学見本市，2006．9．
- 15) 高橋 弘¹⁾，平川慶子，植草協子，吹野晃一¹⁾，山口文雄²⁾，足立好司²⁾，大野曜吉，寺本 明²⁾，湯田浩太郎³⁾(¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院 脳神経外科，²⁾同付属病院 脳神経外科学，³⁾富士通バイオIT事業開発本部): 髄膜腫の予後判定におけるNMRメタボロミクス(メタボローム解析)の有用性．第65回 社団法人日本脳神経外科学会総会，2006．10．
- 16) 奥田貴久¹⁾，百束比古¹⁾，佐藤和夫¹⁾，小川 令¹⁾，平川慶子，植草協子，大野曜吉，鴨 修²⁾(¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾日本電子): NMR法によるシリコンバッグプロステシスの外殻の成分分析．第15回日本形成外科学会基礎学術集会，2006．10．
- 17) 崔 范来，大野曜吉，早川秀幸¹⁾，長谷場健，林田真喜子，富田ゆかり，平川慶子，加藤美保，飯酒盃勇²⁾(¹⁾筑波剖検センター，²⁾日本大学医学部法医学): 焼死体の表皮剥離による身元確認．第75回日本法医学会関東地方会，2006．11．
- 18) 藤村樹里¹⁾，小川 令²⁾，平川慶子，植草協子，湯田浩太郎³⁾，水野博司²⁾，大野曜吉，福永慶隆¹⁾(¹⁾日本医科大学小児科学，²⁾同形成外科学，³⁾富士通バイオIT事業開発本部): 核磁気共鳴法を用いたメタボロミクスによる，脂肪組織由来幹細胞の代謝解析．第6回日本再生医療学会総会，2007．3．

(5) 口演：

- 1) Fujimura J¹⁾，Ogawa R²⁾，Hirakawa K，Uekusa K，Yuta K³⁾，Mizuno H²⁾，Ohno Y，Hyakusoku H²⁾，Fukunaga Y¹⁾，(¹⁾Department of Pediatrics，²⁾Department of Plastic and Reconstructive Surgery，³⁾Bio-IT Group, Fujitsu Co. Ltd.): Metabolic Analysis of Adipose-Derived Stem Cells and Bone Marrow Mesenchymal Stem Cells using Nuclear Magnetic Resonance Metabolomics．International Fat Applied Technology Society 2006，2006．10．
- 2) 植草協子，平川慶子，下池田勇一¹⁾，奥田貴久²⁾，小川 令²⁾，河原理子³⁾，百束比古²⁾，崔 范来，大野曜吉(¹⁾日本電子(株)分析機器本部 応用研究グループ，²⁾日本医科大学形成外科学，³⁾神栖済生会病院形成外科): 海外施術後本学にて摘出した体内埋入異物の成分分析例．第90次日本法医学会総会，2006．4．
- 3) 奥田貴久¹⁾，百束比古¹⁾，小川 令¹⁾，河原理子²⁾，平川慶子(¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾神栖済生会病院): 埋入異物の臨床像と化学分析(1．シリコン系物質について)．第49回日本形成外科学会，2006．4．
- 4) 奥田貴久¹⁾，百束比古¹⁾，小川 令¹⁾，河原理子²⁾，平川慶子(¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾神栖済生会病院): 埋入異物の臨床像と化学分析(2．ハイドロジェル系物質について)．第49回日本形成外科学会，2006．4．
- 5) 野本俊一¹⁾，百束比古¹⁾，岩切 致²⁾，青木 律¹⁾，平川慶子(¹⁾形成外科学，²⁾武蔵小杉病院形成外科): 最近増加している美容外科後遺症．第49回日本形成外科学会，2006．4．
- 6) 林田真喜子：アコニチン・テトロドトキシン混合投与マウス血中濃度と混合毒性の及ぼす心臓への影響．第28回日本中毒学会総会，2006．7．
- 7) 長谷場健，杉本淳一¹⁾，佐藤茂生¹⁾，阿部裕子²⁾，大野曜吉(¹⁾ニッカウヰスキー(株)，²⁾アサヒビール(株)酒類研究所): ウイスキーの熟成によって増加しアルコールの代謝を抑制する樽由来ADH阻害成分．第41回日本アルコール・薬物医学会総会，2006．7．
- 8) 小野真平¹⁾，小川 令¹⁾，奥田貴久¹⁾，平川慶子，百束比古¹⁾(¹⁾形成外科学): 治療に難渋している顔面注入異物の1例．第29回日本美容外科学会，2006．10．
- 9) 奥田貴久¹⁾，百束比古¹⁾，河原理子²⁾，野本俊一¹⁾，佐藤和夫¹⁾，小川 令¹⁾，小野真平¹⁾，平川慶子，植草協

- 子, 大野曜吉 (¹) 日本医科大学形成外科学, ²) 神栖済生会病院): 液体法を用いた Nuclear Magnetic Resonance 法による顔面注入用のポリアクリラマイド含有製品の成分分析. 第29回日本美容外科学会, 2006. 10.
- 10) 小川 令¹), 藤村樹里²), 平川慶子, 植草協子, 湯田浩太郎³), 水野博司³), 百束比古¹) (¹) 日本医科大学形成外科学, ²) 同小児科学, ³) 富士通バイオIT事業開発本部): NMRメタボロミクスによる脂肪組織由来幹細胞と骨髄間葉系幹細胞の代謝像の分析. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 11) 阿部裕子¹), 河野克典¹), 柴田和憲¹), 長谷場健, 大野曜吉 (¹) アサヒビール株式会社酒類研究所): ウイスキーの熟成がヒトのアルコール代謝及び生体効果に及ぼす影響. 平成18年度日本醸造学会大会, 2006. 10.
- 12) 林田真喜子, 小野滝幸¹), 加藤美保²), 仁平 信, 早川秀幸³), 和田健太郎⁴), 大野曜吉 (¹) 嬉泉病院, ²) 山田病院, ³) 筑波剖検センター, ⁴) 社会保険中央総合病院内科): アコニチン・テトロドトキシン混合投与マウスの心拍数・呼吸数・酸素飽和度などの生理的指標について. 第75回日本法医学会関東地方会, 2006. 11.

13. 医療管理学講座

研究概要

医療管理学 (Health Care Administration) は、かつては本教室が日本全国に先駆けて提唱した新概念であったが、「与えられた資源を定まった規則に従って適正に執行する」ことを意味し、医療業界の経営、政策環境の大きな変化と共にむしろ「需要に対応して限られた資源を効果的かつ効率的に使う」ための即ち医療マネジメント (Health Care Management) の学問体系が必要となりつつある。

マネジメントもシステムのレベルによって幾層かに分けられる医療提供者と患者の「臨床レベル」から医師や看護師との専門職との共同作業、即ち「病棟レベル」、そして「病院レベル」での病院経営や、診療所病院の連携システムである「地域レベル」、これらを統合して「国レベル」の医療制度となっている。さらに各国のシステムが集合して「地球レベル」の国際保健システムが存在している。

本教室では、医療システムの其々6レベルでの医療マネジメントのあり方や評価の研究を中心に行ってきた。

理念や評価に基づいたあるべき論は「政策の研究」であり、実行のための様々な工夫は「経営の研究」であり、それらを執行した後の結果は「評価の研究」の対象でありこれらの研究を推進して来た。

また本教室では、医療システムの各部分、医療人材、たとえば医師の確保や医療費の適正化などの「資源」の分析や医療の標準化等の「過程」の研究、医療の質、満足等の「結果」の研究を行ってきた。

さらには疾病の自然史に沿って「予防ケア」、「急性期ケア」、「長期ケア」そして「末期ケア」のあり方に関する研究も行ってきた。

今後は医学教育の核をなす臨床マネジメント (Clinical Management) の研究、近年立ち去り型サボタージュを生み出す元凶としての病棟経営 (Ward Management) の研究に力点を置いていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Takayanagi K, Hagihara Y: Can individual order-made pleasing picture be cost effective?. Japanese J Mibyou System Association 2005; 11(2): 242-246.
- 2) Takayanagi K, Hagihara Y: To Extend Health Resources in a Forested Hospital Environment-A Comparison Between Artificial and Natural Plants. Japanese J Mibyou System Association 2005; 11(2): 247-259.
- 3) Takayanagi K, Hagihara Y: SUNFLOWER-SHELL convenient model - an analysis tool to ensure advance-events factor analysis and followed by patient safety strategy. Japanese J Hospitals 2007; 25: 13-20.
- 4) Takayanagi K, Hagihara Y: Brand Strengthening Decision Making Delved from Brand-Contacts in Health Services Organizations. Japanese J Hospitals 2007; 25: 21-27.
- 5) 石川雅彦¹⁾, 長谷川敏彦⁽¹⁾ (国立保健医療科学院): 迅速根本原因分析法 (Rapid Root Cause Analysis) によるインシデント・アクシデント報告の活用. 医療マネジメント学会雑誌 2006; 7(2): 352-356.
- 6) 高柳和江: DPC時代における顧客満足. medical forum CHUGAI 2007; 11(1): 2-8.
- 7) 雑賀公美子¹⁾, 大野ゆう子¹⁾, 田中英夫²⁾, 長谷川敏彦, 津熊秀明²⁾, 大島 明²⁾ (¹⁾大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻, ²⁾大阪府立成人病センター): 胃がん, 肺がんにおける術後5年までの外科技術集積性に関する検討. ITヘルスケア 2007; 1(2): 42-49.

(2) 綜説:

- 1) 高柳和江: 理性と共感. アポロニア21 2006; 148(4): 104-105.

- 2) 高柳和江：患者学としての「癒し」とは．文化連情報 2006；(337): 10-12．
- 3) 高柳和江：痛みとNBM．アポロニア21 2006；149(5): 104-105．
- 4) 高柳和江：産婦人科医逮捕への陳情．アポロニア21 2006；150(6): 104-105．
- 5) 高柳和江：日本の医療に癒しの環境を届けたい 全国に活動の輪広がる「笑い療法士」．がん治療最前線 2006；6(3): 65-68．
- 6) 高柳和江：黄金比．アポロニア21 2006；151(7): 104-105．
- 7) 高柳和江：将来．アポロニア21 2006；152(8): 104-105．
- 8) 高柳和江：Empowered Patient Project．日本医事新報 2006；(4295): 1-1．
- 9) 高柳和江：廃棄物講座．アポロニア21 2006；153(9): 104-105．
- 10) 高柳和江：既成の手法に対する新たな挑戦：患者の様態にふさわしい環境を考える．癒しのトイレ研究会雑誌 2006；4(1): 4-9．
- 11) 高柳和江：コミュニケーション能力の鍛錬．アポロニア21 2006；154(10): 104-105．
- 12) 高柳和江：色聴．アポロニア21 2006；155(11): 104-105．
- 13) 高柳和江：子どもの権利と癒しの環境．日本小児がん学会教育講演集 2006；53-56．
- 14) 高柳和江：すこやかさをはぐくむ緑．緑市緑化技術雑誌 2006；(61): 5-5．
- 15) 高柳和江：生きる喜びを求めて．癒しの環境研究会 2006；11(2): 1-1．
- 16) 高柳和江：社会医療法人．アポロニア21 2006；156(12): 104-105．
- 17) 高柳和江：メンター・プロジェクト．アポロニア21 2007；157(1): 104-105．
- 18) 高柳和江：限りなく白に近い真っ白．アポロニア21 2007；158(2): 104-105．
- 19) 高柳和江：障害について．アポロニア21 2007；159(3): 104-105．
- 20) 高柳和江：きれいな病室で寝かせてくれ．癒しの環境研究会 2007；12(1): 1-1．
- 21) 長谷川敏彦：世界の医療制度改革-健康変革の潮流．保健医療科学 2007；55(4): 308-315．
- 22) 石原明子，長谷川敏彦：疾病管理とその周辺：医療費適正化のために．保健医療科学 2007；55(4): 316-325．
- 23) 高柳和江：免疫力を高める緑の効果．環境情報科学 2007；35(4): 37-41．

(3) 研究報告書：

- 1) 杉浦京子¹⁾，近藤育代²⁾，平田まり子³⁾，高柳和江⁽¹⁾日本医科大学心理学，²⁾アーツセラピー研究所，現所属：早稲田大学教育学部，³⁾アーツセラピー研究所)：高齢者における脳の活性化研究：イコノロジー・笑い療法士・能楽鑑賞による精神活動の変化の検討．日本医科大学心理学教室平成18年度報告書 2007；pp1-31．

著 書

- 1) 長谷川敏彦¹⁾，松本邦愛²⁾(¹⁾国立保健医療科学院，²⁾東邦大学公衆衛生学教室)：〔編集〕医療を経済する質・効率・お金の最適バランスをめぐって，2006；pp1-325，医学書院．
- 2) 長谷川敏彦¹⁾(¹⁾国立保健医療科学院)：〔編集〕医療安全管理事典，2006；pp1-391，朝倉書店．
- 3) 高柳和江：〔分担〕未病と癒しの環境．未病医学臨床，2006；pp223-227，金芳堂．
- 4) 長谷川敏彦：〔編集〕醫院経営策略，2007；pp1-391，合記書局(台湾)．
- 5) 高柳和江：〔自著〕第1章癒しの環境とは 癒しの環境を作る．生きる喜び アゲイン，2007；pp2-15，医歯薬出版株式会社．
- 6) 高柳和江：〔共著〕第2章安心する(安全)患者の視点からみた癒しの病室．生きる喜び アゲイン，2007；pp38-42，医歯薬出版株式会社．
- 7) 高柳和江：〔共著〕第4章元気になる パッチアダムスとのみこまずに語る医療．生きる喜び アゲイン，2007；pp195-199，医歯薬出版株式会社．

8) 高柳和江：〔編集〕生きる喜び アゲイン，2007；医歯薬出版株式会社。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 高柳和江：看護スタッフの癒し．愛知県看護協会特別講演会，2006．8．
- 2) 高柳和江：生き方，死に方，笑い方．東京都看護協会東部地区支部主催教育講演会，2006．9．
- 3) 高柳和江：癒しの環境と患者の権利．第55回共済医学会，2006．10．
- 4) 高柳和江：生き方，死に方，笑い方．第40回旭川女医の会学術講演会，2006．10．
- 5) 高柳和江：医療安全管理者のコミュニケーション能力の向上．東京都病院学会，2006．10．
- 6) 高柳和江：医療安全管理者のコミュニケーション能力の向上．東京都病院学会，2006．12．
- 7) 高柳和江：癒しと笑い．第2回脳神経市民講座，2007．1．
- 8) 高柳和江：免疫力を高める癒しとは：笑い療法が目指す医療．第2回琉球医療ルネッサンス研究会，2007．1．
- 9) 高柳和江：医療安全管理者のコミュニケーション能力の向上．東京都病院学会，2007．2．
- 10) 高柳和江：21世紀の癒しと沖縄．第3回琉球医療ルネッサンス研究会，2007．3．

(2) 基調講演：

- 1) 長谷川敏彦：医療政策からみた地域連携のポイント．日本医療マネジメント学会第1回東京地方会例会，2006．10．
- 2) 長谷川敏彦：医療安全の最新トレンド．平成18年度第1回医療安全分科会「カルテレビューと安全ラウンドの実践」(日本医療マネジメント学会)，2006．11．

(3) シンポジウム：

- 1) 高柳和江：生きる喜びを求めて．第33回癒しの環境研究会，2006．9．
- 2) 高柳和江：きれいな部屋で寝かせてくれ．第34回癒しの環境研究会，2006．12．
- 3) 高柳和江：笑い療法士見参．第7回癒しの環境研究会全国大会，2007．3．

(4) 一般講演：

- 1) Hasegawa T：Priority Setting for Health Policy based on Scientific Evidence. Is it Possible?. Global Forum for Health Leaders 2006 (台湾)，2006．12．
- 2) 高柳和江：自然環境が患者に及ぼす影響．屋上緑化研究会，2006．6．
- 3) 石川雅彦¹⁾，長谷川敏彦¹⁾(¹⁾国立保健医療科学院)：院内死亡率の低下をめざして：Rapid Response Team (RRT)の可能性．第8回日本医療マネジメント学会学術総会，2006．6．
- 4) 塚田紀子¹⁾，長谷川敏彦²⁾，種田憲一郎²⁾(¹⁾京都きづ川病院，²⁾国立保健医療科学院)：医療事故の開示．第8回日本医療マネジメント学会学術総会，2006．6．
- 5) 宮地真希子¹⁾，石川雅彦²⁾，長谷川敏彦²⁾(¹⁾医療法人財団大樹会総合病院回生病院看護部，²⁾国立保健医療科学院)：シュミレーショントレーニングを活用した危機管理システム整備 医療事故発生を想定した模擬記者会見を開催して．第8回日本医療マネジメント学会学術総会，2006．6．
- 6) 柚木園隆¹⁾，井本貴子²⁾，一ノ瀬いつ子²⁾，新実絹代³⁾，高柳和江(¹⁾石心会川崎奇病院，²⁾日赤医療センター，³⁾社会保険横浜看護専門学校)：糖尿病性腎症の増加を抑制するための質的研究．第56回日本病院学会，2006．7．
- 7) 高柳和江，齊藤卓弥¹⁾，飯野靖彦²⁾，志村俊郎³⁾，吉村明彦³⁾，阿曾亮子³⁾(¹⁾精神医学，²⁾内科学第2，³⁾教育推進室)：少人数グループワークショップによる English Shower 後の学生のモチベーションの変化．第9回日本医学英語教育学会，2006．7．
- 8) 新実絹代¹⁾，高柳和江(¹⁾社会保険横浜看護専門学校)：顧客価値把握のためのプロセス調査の構築と展開<第1報 顧客プロセス調査の基本構想>．第37回日本看護学会，2006．7．
- 9) 高柳和江，志村俊郎¹⁾，飯野靖彦²⁾，吉村明彦¹⁾，阿曾亮子¹⁾，熊田朝子(¹⁾教育推進室，²⁾内科学第2)：模擬患者(SP)養成教育によるSPの生きがいの変化．第38回日本医学教育学会，2006．7．

- 10) 高柳和江, 齊藤卓弥¹⁾, 飯野靖彦²⁾, 志村俊郎³⁾, 吉村明修³⁾, 阿曾亮子³⁾(¹⁾精神医学,²⁾内科学第2,³⁾教育推進室): English Shower教育による学生の変化. 第38回日本医学教育学会, 2006. 7.
- 11) 高柳和江, 熊田朝子: 学生主体のシンポジウムによる患者中心の医学教育. 第38回日本医学教育学会, 2006. 7.
- 12) 高柳和江, 正木幸善¹⁾, 星 和夫¹⁾(¹⁾青梅市立創業病院): 脊髄損傷患者におけるQOL向上強制排便手術のトレードオフ. 第44回日本病院管理学会, 2006. 10.
- 13) 森田健太郎¹⁾, 加藤匡人¹⁾, 志貴知彦¹⁾, 金子貴久¹⁾, 松本早栄子¹⁾, 高柳和江(¹⁾日本医科大学3年生): 患者マニュアルの構築. 第12回日本臨床死生学会, 2006. 11.
- 14) 高柳和江: 壁に対して斜めのベッドでの精神安寧. 第13回未病システム学会, 2006. 12.
- 15) 高柳和江, 星 和夫¹⁾(¹⁾青梅市立総合病院): 科学的根拠のある癒しの環境: 授乳室の色環境による授乳量の差を中心に. 第6回日本総合医療学会, 2006. 12.
- 16) 高柳和江: エンパワメントを高めるがん患者マニュアルの構築を目指して. 第7回癒しの環境研究会全国大会, 2007. 3.
- 17) 石原明子, 長谷川敏彦: 職業別健康状態の分析. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
- 18) 千種あや, 長谷川敏彦: 安全に対する患者 医療者間の認識の相違. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
- 19) 浅野雅彦, 石原明子, 長谷川敏彦: 医療計画策定支援のための都道府県現状値のベンチマーク分析. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
- 20) 長谷川敏彦: 日本の患者数の将来推計. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
- 21) 畠山洋輔¹⁾, 石原明子, 長谷川敏彦(¹⁾東京大学大学院): 日本における言説としての「信頼」と「医療」. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
- 22) 平尾智広¹⁾, 佐藤敏彦²⁾, 長谷川敏彦(¹⁾香川大学医学部医療管理学教室,²⁾北里大学医学部衛生学・公衆衛生学教室): わが国におけるDALY推定法の比較: 肺がん. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.
- 23) 平尾智広¹⁾, 辻よしみ²⁾, 鈴江 毅³⁾, 長谷川敏彦(¹⁾香川大学医学部医療管理学教室,²⁾香川県立保健医療大学看護学科,³⁾香川大学医学部): 地方公共団体経営の急性期病院の生産性. 第77回日本衛生学会総会, 2007. 3.

14. 基礎医学共同研究利用施設

[実験動物管理室]

研究概要

実験動物管理室では、新しい疾患モデル動物の開発や特性の解析を行い、人の疾患モデルとしての有用性の検討や生物学的検定に応用している。

WBN/Kob ラットの雄は3ヶ月齢で肺炎を、9ヶ月齢で糖尿病を発症する非肥満の2型糖尿病モデル動物である。このラットに肥満遺伝子を導入して確立したコンジェニック系肥満2型糖尿病モデルWBN/Kob -fattyラットの糖尿病発症機構および糖尿病性合併症の病態について、検討を行っている。

スナネズミはてんかん、脳虚血あるいはピロリ菌や寄生虫感染のモデル動物として知られている。人獣共通感染症の一種として動物由来の回虫が人に寄生して起こるトキソカラ症があり、様々な症状を引き起こす。本年は、スナネズミに感染が成立したイヌ・ブタ・アライグマ・クマおよびヒトの回虫について、幼虫の移行経路を明らかにし、ヒトと同様な症状を発現することを示した。特にヒトに重篤な神経障害を起こすアライグマ回虫は、スナネズミにおいても脳に移行し、致死的な中枢神経症状を呈したことから、病態解析や薬物治療のモデル動物として、有用性を明らかにした。

現代日本では生活習慣病が増加の一途をたどり、高騰する医療費を抑制するために予防の強化を打ち出したことから、漢方や機能性食品など補完代替医療が注目されている。しかし、食品の医学的効果あるいは薬理作用は経験的に知られている要素が強く、客観的なデータが必要とされている。抗糖尿病作用があるといわれる桑の葉や木酢液について、モデル動物を用いて検討し、予防的投与により糖尿病発症抑制効果があることを示した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Cho S¹⁾, Egami M²⁾, Ohnuki H²⁾, Saito Y¹⁾, Chinone S¹⁾, Shichinohe K, Suganuma M, Akao N²⁾ (¹⁾Dept. of Veterinary Parasitology, Azabu Univ., ²⁾Dept. of Environmental Parasitology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental Univ.): Migration behaviour and pathogenesis of five ascarid nematode species in the Mongolian gerbil (*Meriones unguiculatus*). Journal of Helminthology 2007 ; 81 : 43-47 .

著書

- 1) Sato K¹⁾, Suganuma M, Shichinohe K (¹⁾Dept. of Food Sciences and Nutritional Health, Kyoto Prefectural Univ.): [共著] Potential anti-cancer effects of shark cartilage . Anti-angiogenic functional and medicinal foods (Taylor and Francis), 2007 ; pp615-624, CRC Press .
- 2) 七戸和博, 菅沼眞澄 : [共著] 体のはたらき, 2007 ; pp1-86, メディカグループ .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 菅沼 (清水) 眞澄, 友田弥里¹⁾, 井口佳代²⁾, 森川温子²⁾, 浅田忠利²⁾, 七戸和博 (¹⁾東京医科歯科大学大学院・国際環境寄生虫病学, ²⁾日本獣医生命科学大学・動物栄養学): 木酢液の糖尿病に対する作用 . 第60回日本栄養・食糧学会大会, 2006 . 5 .
- 2) 秋山隆志¹⁾, 赤尾信明¹⁾, 林 栄治¹⁾, 菅沼眞澄, 七戸和博, 太田伸生¹⁾ (¹⁾東京医科歯科大学大学院・国際環

境寄生虫病学): 眼トキソカラ症における眼内液抗体測定 of 診断的意義-モデル動物を用いた検討. 第75回日本寄生虫学会大会, 2006. 5.

- 3) 菅沼(清水)眞澄, 友田弥里¹⁾, 浅田忠利²⁾, 七戸和博⁽¹⁾東京医科歯科大学大学院・国際環境寄生虫病学,²⁾日本獣医生命科学大学・動物栄養学): 桑葉抽出物の糖尿病に対する作用. 第3回獣医内科学アカデミー, 2006. 8.
- 4) 秋元敏雄, 澤井信彦¹⁾, 仲間一雅²⁾(¹⁾日本医科大学解剖学第2,²⁾静岡実験動物): WBN/Kob-fatty ラット雌の育成期における制限給餌の糖尿病発症抑制効果について. 第142回日本獣医学会学術集会, 2006. 9.
- 5) 菅沼(清水)眞澄, 友田弥里¹⁾, 浅田忠利²⁾, 七戸和博⁽¹⁾東京医科歯科大学大学院・国際環境寄生虫病学,²⁾日本獣医生命科学大学・動物栄養学): 桑葉抽出物の抗糖尿病作用. 第9回日本補完代替医療学会学術集会, 2006. 10.
- 6) 秋元敏雄, 仲間一雅¹⁾(¹⁾静岡実験動物): WBN/Kob-fatty コンジェニック系ラットの育成期における耐糖能の推移について. 第21回日本糖尿病動物研究会年次学術集会, 2007. 2.
- 7) 菅沼(清水)眞澄, 友田弥里¹⁾, 鈴木晟幹²⁾, ミランガ・ムワナタンブエ³⁾, 浅野伍朗⁴⁾, 七戸和博⁽¹⁾東京医科歯科大学大学院・国際環境寄生虫病学,²⁾臨床福祉専門学校,³⁾キンシャサ大学,⁴⁾日本医科大学名誉教授): 糖尿病に対する桑葉抽出物の有効性. 第36回日仏獣医学会, 2007. 3.
- 8) 川崎恵美¹⁾, 山形孝太郎¹⁾, 川崎優花¹⁾, 小島奏恵¹⁾, 緑川貴之¹⁾, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, 飯野正昭¹⁾(¹⁾千葉工業大学生命環境科学科): ヒスタミン誘発皮膚反応に及ぼす分子量の影響II. 第36回日仏獣医学会, 2007. 3.
- 9) 山形孝太郎¹⁾, 川崎恵美¹⁾, 河原井英樹¹⁾, 緑川貴之¹⁾, 菅沼(清水)眞澄, 七戸和博, 飯野正昭¹⁾(¹⁾千葉工業大学生命環境科学科): 超音波封入法による赤血球内封入物質の in vitro 漏れ特性. 第36回日仏獣医学会, 2007. 3.

[中央電子顕微鏡研究施設]

研究概要

本研究施設には本来病院病理部に属すべき電顕診断業務と, 中央電子顕微鏡研究施設本来の機能である共同利用研究施設としての業務が混在している. この様な施設の置かれた状況の下, 電顕診断に関わる研究と, 電顕試料の技術開発, 共同研究, および研究支援の形で進行する研究がある. また, 電子顕微鏡技術演習も行っている.

1. 電子顕微鏡診断: 平成18年度は付属4病院から164症例の検体を依頼されており, その対象は腎臓86症例, 心臓29症例, 肝臓27症例, 脳11症例, 腫瘍4症例, 骨髄2症例, その他4症例であり, 内科・小児科・脳神経外科・耳鼻咽喉-頭頸部外科・胸部外科・皮膚科等ほぼ全科からの依頼を受けている. これらの中から今年は腎臓の病変や消化管腫瘍に関して報告がなされた.
2. 独自の研究: 臨床に役立つ電顕診断学の発展を目指し, 生検材料や実験動物を用いて診断のための新しい電顕的指標を見出す研究を継続している. ヒト腎生検材料の検討から, タコ足細胞内に出現する二種類の autophagy を見つけ, I, II型と命名した.
3. 電顕技術開発: 低真空低温度による走査型電顕を用いてX-線回析することにより微量な軽金属の検出を可能にした.
4. 共同研究ならびに技術指導: 学内より平成18年度は106症例(224検体)の試料作製に関わった.

技術提供は機能する共同利用研究施設を自負する本施設の特徴の1つであり, 基礎・臨床を問わず, 依頼があれば試料作製から電顕所見までの研究補助をするシステムをとっている. 年度により異なるが, 今年度は基礎医学で病理学(解析人体病理学), 解剖学(分子解剖学), 微生物・免疫学, 臨床では小児科学, 眼科学, 皮膚科学, 形成外科学, 内科学(2内・4内)等と付属病院病理部への技術提供と共同研究を行った.

5. 教育: 本研究施設の電子顕微鏡を学生教育または講義のために使用している.

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Takezaki S¹⁾, Omi T²⁾, Sato S, Kawana S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Dermatology, ²⁾ Dept. of Dermatology, Queen's Square Medical Center): Light-emitting diode phototherapy at 630 ± 3nm increases local levels of skin-homing T-cells in human subjects . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (2): 75-81 .
- 2) Sato S, Matsui H¹⁾, Sasaki Y, Oharazawa H¹⁾, Nishimura M²⁾, Adachi A, Nakazawa E²⁾, Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Dept. of Ophthalmology, ²⁾ Application Technology Dept., Techno Res. Lab., Hitachi Science Laboratory): The efficiency of X-ray microanalysis in low-vacuum scanning electron microscope : deposition of calcium on the surface of implanted hydrogel intraocular lens (IOL). J Submicrosc Cytol Pathol 2006 ; 38 (1): 1-4 .
- 3) Takezaki S¹⁾, Omi T²⁾, Sato S, Kawana S¹⁾ (¹⁾ Dept. of Dermatology, ²⁾ Dept. of Dermatology, Queen's Square Medical Center): Ultrastructural observations of human skin following irradiation with visible red light-emitting diodes (LEDs): A preliminary *in vivo* report . Laser Ther 2006 ; 14 (4): 153-160 .
- 4) Sato S, Kitamura H¹⁾, Adachi A, Sasaki Y, Ghazizadeh M (¹⁾ Division of immunopathology, Clinical Res. Center, Chiba-East National Hosp.): Two types of autophagy by the podocytes in renal biopsy specimens : ultrastructural study . J Submicrosc Cytol Pathol 2006 ; 38 (2-3): 107-114 .
- 5) Ishizaki M¹⁾, Ishiwata T²⁾, Adachi A, Tamura N¹⁾, Ghazizadeh M, Kitamura H³⁾, Sugisaki Y, Yamanka N⁴⁾, Naito Z²⁾, Fukuda Y¹⁾ (¹⁾ Dept. of Pathology I, ²⁾ Dept. of Pathology II, ³⁾ Clinical Res. Center, Chiba-East National Hosp., ⁴⁾ Tokyo Kidney Res. Inst.): Expression of nestin in rat human glomerular podocytes . J Submicrosc Cytol Pathol 2006 ; 38 (2-3): 115-122 .
- 6) Sasaki Y, Norose Y¹⁾, Adachi A, Sato S (¹⁾ Dept. of Microbiology and Immunology): Electron microscopic specimen preparation from low concentration of cell suspension using cytospin technique . J Submicrosc Cytol Pathol 2006 ; 38 (2-3): 123-126 .
- 7) 尾見徳弥¹⁾, 川名誠司²⁾, 佐藤 茂, 沼野香世子¹⁾ (¹⁾ 付属病院皮膚科学・クイーンズスクエアメディカルセンター, ²⁾ 付属病院皮膚科学): レチノール封入ナノカプセルの皮膚への作用 . 皮膚と美容 2006 ; 38 (2): 26-31 .
- 8) 佐藤 茂 : 肺サーファクタントの現在とこれからの課題 : 超微形態的立場より . 日本界面医学会雑誌 2006 ; 37 : 7-13 .

(2) Photogravure :

- 1) Sato S, Adachi A, Sasaki Y, Dai W¹⁾ (¹⁾ School of Basic Medicine, Peking Union Medical Collage): Autophagy by podocytes in renal biopsy specimens . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (2): 52-53 .

学会発表

(1) セミナー :

- 1) 佐藤 茂, 安達彰子, 佐佐木喜広 : デジタル画像はフィルムに代われるか? : 腎生検材料を用いて (解像度とコスト面について). 第 38 回日本臨床分子形態学会, 2006 . 9 .
- 2) 佐藤 茂 : フィルムレス時代にあたっての電顕観察法 アナログとデジタルの比較検討 . 第 7 回 Bio 電顕セミナー, 2007 . 3 .

(2) 一般講演 :

- 1) Liu AM, Maeda S¹⁾, Hosone M¹⁾, Katayama H¹⁾, Naito Z²⁾, Sugisaki Y (¹⁾ Division of Surgical Pathology, Tama Nagayama Hosp., ²⁾ Dept. of Pathology II): A definitive diagnosis of malignant mesothelioma based on body fluid cytology, combined immunocytochemistry and electron microscopy . United States and Canadi-

- an Academy of Pathology (San Diego (USA)), 2007 . 3 .
- 2) Hosone M¹⁾, Liu AM, Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Sugisaki Y, Naito Z²⁾(¹⁾ Division of Surgical Pathology, Tama Nagayama Hosp., ²⁾ Dept. of Pathology II): An electronmicroscopic analysis of a newly described plasmacytoid dendritic cell tumor - " CD4+/CD56+hematodermic neoplasm ". United States and Canadian Academy of Pathology (San Diego (USA)), 2007 . 3 .
 - 3) 三樹いずみ¹⁾, 中村壮香¹⁾, 原絵津子¹⁾, 里村克章²⁾, 劉 愛民, 藤原ゆり³⁾, 喬 炎³⁾, 恩田宗彦³⁾, 石渡俊行³⁾, 内藤善哉³⁾(¹⁾日本医科大学医学部, ²⁾内科学第1, ³⁾病理学第2): 慢性C型肝炎の巨大ミトコンドリア内クリスタル結晶の出現に関する臨床病理学的検討 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
 - 4) 藤原ゆり¹⁾, 寺嶋一夫⁴⁾, 片野晴隆⁵⁾, 横島一彦²⁾, 中溝宗永²⁾, 劉 愛民, 横山宗伯⁶⁾, 恩田宗彦¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 八木聡明²⁾, 杉崎祐一³⁾, 内藤善哉¹⁾(¹⁾日本医科大学病理学第2, ²⁾同付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, ³⁾同付属病院病理部, ⁴⁾東京医科歯科大学大学院医学部ウィルス制御学分野, ⁵⁾国立感染症研究所感染病理部, ⁶⁾東京警察病院病理部): 濾胞樹状細胞肉腫に認めたMTRS と ER の意義 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
 - 5) 細根 勝¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 劉 愛民, 片山博徳¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 内藤善哉³⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾付属病院病理部, ³⁾病理学第2): CD7+ and CD56+ myeloid/NK cell precursor acute leukemia と考えられる1例 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
 - 6) 村野奈緒¹⁾, 石崎正通¹⁾, 福田 悠¹⁾, 高橋 浩²⁾, 鈴木久晴²⁾, 松井洋法²⁾, 佐藤 茂 (¹⁾病理学第1, ²⁾付属病院眼科学): 超音波水晶体乳化吸引術による角膜内皮細胞障害: フリーラジカルの関与 . 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
 - 7) 鈴木香奈芽¹⁾, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 東 敬子¹⁾, 岩瀬裕美¹⁾, 劉 愛民, 内藤善哉²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾病理学第2): 体腔液細胞診で確定診断した腹膜中皮腫の1例: 細胞転写法の有用性 . 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
 - 8) 佐藤 茂, 柳原 剛¹⁾, 安達彰子, 佐佐木喜広, 杉崎祐一 (¹⁾小児科学): タコ足細胞に出現するI型 autophagy は予後不良の指標となりえるか . 第38回日本臨床分子形態学会, 2006 . 9 .
 - 9) 劉 愛民, 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 片山博徳¹⁾, 東 敬子¹⁾, 内藤善哉²⁾, 杉崎祐一 (¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾病理学第2): 電顕検索の併用が中皮腫の確定診断に有用であった4症例 . 第38回日本臨床分子形態学会, 2006 . 9 .
 - 10) 佐佐木喜広, 佐藤 茂, 野呂瀬嘉彦¹⁾, 安達彰子, 杉崎祐一 (¹⁾微生物学・免疫学): サイトスピン法による微量遊離細胞の電顕観察 . 第38回日本臨床分子形態学会, 2006 . 9 .
 - 11) 松井洋法¹⁾, 佐藤 茂, 鈴木久晴²⁾, 村野奈緒²⁾, 小原澤英彰¹⁾, 佐佐木喜広, 安達彰子, 高橋 浩²⁾(¹⁾武蔵小杉病院眼科, ²⁾付属病院眼科学): 電子顕微鏡下でのオゾンによる角膜内皮細胞障害の観察 . 第38回日本臨床分子形態学会, 2006 . 9 .
 - 12) 松村豪一¹⁾, 小口幸輝¹⁾, 椎橋幸太郎¹⁾, 森元貴子¹⁾, 佐藤 茂, 永田元春²⁾, 武井恒知³⁾, 高橋常男⁴⁾, 上田眞太郎⁵⁾(¹⁾聖学院大学人間福祉学科, ²⁾サンショウウオ研究所, ³⁾徳島大学分子酵素学研究センター酵素分子化学部門, ⁴⁾神奈川歯科大学人体構造学, ⁵⁾上田老年医学研究所): メキシコサンショウウオの発生学的・形態学的研究 . 第42回日本界面医学会学術研究会, 2006 . 10 .
 - 13) 佐藤 茂, 安達彰子: II型肺胞上皮細胞におけるラメラ構造体形成過程の電子顕微鏡観察: ラット胎児および新生児期 . 第42回日本界面医学会学術研究会, 2006 . 10 .

[情報科学センター]

研究概要

H18年度は校舎の建て替えも開始された。センターは工事現場の防音壁よりも高く、現場からの騒音を直接受けるという、試練に満ちた年であった。

大きな仕事としては、新校舎におけるIT環境の再構築、設計、研究を進めていた年でもあった。19年度の完成時には、新たな学生PC環境として、ディスクレスのシンクライアントPCの稼動が実現する筈であり、その基盤として高速ネットワークが隅々まで行き渡り、また、無断接続によるトラブルを予防する監査システムも運用開始される。

こうした整備は、本学の医学教育の高度化に情報技術をもって貢献する事への強い期待により行われており、センターも期待に応えることがH19年度の大きな責務であろう。

医学教育学会、情報処理教育研究集会等への参加は、地味ではあるが、今後大きな意義がある。

これら、大学教育へのインフラ充実の為の調査、研究のほか、純粋に生命科学探求としてのバイオインフォルマティクスへ足がかりも付けつつある。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kokubo H¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kawano K (¹⁾International Research Institute) : Standard Evaluation Method of Non-contact Healing Using Biophotons . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2007 ; 25 (1) : 30-39 .
- 2) Kokubo H¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kawano K (¹⁾International Research Institute) : Aging Develops a Person's Spiritual Healing Ability for Pain : Application of Standard Evaluation Method of Non-contact Healing Using Biophotons . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2007 ; 25 (1) : 40-62 .

(2) 研究報告書：

- 1) 佐々木豊文¹⁾, 植田一博²⁾, 加藤正晴³⁾, 河野貴美子, 藤巻則夫⁴⁾(¹⁾NBS日本速読教育連盟, ²⁾東京大学, ³⁾東京女子医科大学, ⁴⁾情報通信研究機構) : 高次精神機能の開発と速読脳。「日韓における教育の伝統と革新」報告集 2006 ; pp1-5 .

(3) 症例報告：

- 1) Kokubo H¹⁾, Yamamoto M¹⁾, Kawano K (¹⁾International Research Institute) : Evaluation of Non-contact Healing Using Biophotons . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2006 ; 24 (2) : 320-327 .
- 2) Kawano K : Theories of Healings/Therapies and their Authenticities . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2006 ; 24 (2) : 398-401 .
- 3) Nakamura Y¹⁾, Kawano K (¹⁾Showa University) : Scientific Study on the Healing Power of Prayer . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2006 ; 24 (2) : 402-405 .
- 4) Nakamura Y¹⁾, Kawano K (¹⁾Showa University) : Study on Prayer (Meditation on Oneness) . J. Intl. Soc. Life Info. Sci 2007 ; 25 (1) : 96-102 .

著書

- 1) 河野貴美子：〔共著〕気功・未病医学 臨床，2006；pp202-205，金芳堂。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 河野貴美子：ヒーリング・セラピーの理論と実際。第22回生命情報科学シンポジウム，2006。9。

(2) パネルディスカッション :

- 1) 伊藤高司, 渡部 昇, 高柳和江¹⁾, 志村俊郎²⁾(¹⁾医療管理学, ²⁾教育推進室): 市民参加型医学教育の実現へLMSとマルチメディアの活用. 日本医学教育学会, 2006. 7.

(3) 一般講演 :

- 1) Kikuchi H¹⁾, Watanabe N, Okamoto K²⁾, Leimkule S³⁾, Nishino T²⁾(¹⁾Dept. of Physics, ²⁾Dept. of Biochem., ³⁾Dept. of Plant Biol., Technical Univ. Braunschweig, Germany): Dynamic structure of xanthine oxidoreductase by normal mode analysis. Fifth East Asian Biophysics Symposium & Forty-Fourth Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (Okinawa Japan), 2006. 11.
- 2) Kawano K: Qigong Lesson in a High School and its Effects for Students. The Fifth International Qigong Conference, 2006. 11.
- 3) 植田理彦¹⁾, 小松かつ子²⁾, 河野貴美子(¹⁾帝国ホテルタワー内幸町診療所, ²⁾富山大学・和漢医薬学総合研究所): 甘松香の芳香成分のストレス鎮静効果. 第57回日本東洋医学会学術総会, 2006. 6.
- 4) 渡部 昇, 河野貴美子, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司: コンピュータと情報科学の教育目標と授業構成. 日本医学教育学会, 2006. 7.
- 5) 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 河野貴美子(¹⁾国際総合研究機構): 極微弱生物光による非接触ヒーリング作用の評価法の研究. 第22回生命情報科学シンポジウム, 2006. 9.
- 6) 中村泰治¹⁾, 河野貴美子(¹⁾昭和大学): 祈りによるヒーリングの科学的検討. 第22回生命情報科学シンポジウム, 2006. 9.
- 7) 渡部 昇, 河野貴美子, 滋野恭子, 奥重秀彦, 伊藤高司: 現時点で医学生に望まれる情報教育の内容. 情報教育研究集会, 2006. 11.
- 8) 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 河野貴美子(¹⁾国際総合研究機構): バイオフィトン(極微弱生物光)による非接触ヒーリングの研究. 人体科学会, 2006. 11.
- 9) 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 河野貴美子(¹⁾国際総合研究機構): 自由応答型推測における脳血流. 超心理学会, 2006. 12.
- 10) 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 河野貴美子(¹⁾国際総合研究機構): バイオフィトンによる非接触ヒーリング評価法の開発. 日本統合医療学会, 2006. 12.
- 11) 小久保秀之¹⁾, 山本幹男¹⁾, 河野貴美子(¹⁾国際総合研究機構): 加齢によって向上する痛み抑制のスピリチュアルヒーリング能力: 極微弱生物光による非接触ヒーリング標準評価法の応用). 第23回生命情報科学シンポジウム, 2007. 3.
- 12) 中村泰治¹⁾, 河野貴美子(¹⁾昭和大学): 祈り(統一)の科学的測定と考察. 第23回生命情報科学シンポジウム, 2007. 3.

〔 3 〕 臨 床 医 学

1. 内科学講座（循環器・肝臓・老年・総合病態部門）

[付属病院第 1内科（一般内科，循環器内科，肝臓内科）]

研究概要

内科学第一教室では循環器病学，肝臓病学ならびに糖尿病学を中心に臨床的，基礎的研究を行った．

循環器病学では，不整脈に関する研究として，1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法，自律神経系と不整脈，突然死発生との関連の検討，2) 抗不整脈薬の電気生理学的作用，3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療，4) 加算平均心電図法を用いた不整脈発生機序の検討．

虚血性心疾患，心筋疾患に関する研究として，1) 薬剤負荷心エコー図法による viable myocardium，心筋虚血の検出，2) 虚血性心疾患における圧受容体反射，3) 急性心筋梗塞後の左室リモデリング，4) 虚血性心疾患における血管反応性と自律神経機能との関連，5) 虚血心筋保護法の検討，6) 虚血性心疾患，心筋疾患における成長因子，細胞増殖因子の検討，7) 慢性心不全における進行性心筋障害の病態と治療法の検討．

肝臓病学では，1) 門脈圧亢進症の病態，薬物療法に関する検討，2) 門脈圧亢進症における血管作動物質の動態，3) SSM（丸山ワクチン）によるサイトカイン産生，4) 慢性肝疾患における肺循環異常，5) 2次性胆汁性肝硬変動物モデルで動脈血酸素化とNOの関係．

糖尿病学では，1) 冠動脈疾患とインスリン抵抗性，2) 糖尿病患者における自律神経機能，3) 無症候性心筋虚血の病態，を検討している．

再生医学の臨床応用は2002年より開始され，首都圏で初めて「骨髄細胞移植を用いた末梢性血管疾患（慢性閉塞性動脈硬化症，ピュルガー病・糖尿病性壊疽）への血管再生療法」の臨床応用に成功した．また重症心不全，虚血性心筋症の心臓へ骨髄細胞を移植する心筋再生療法も2003年より始まった．2007年2月までに血管再生療法は40例，心筋再生療法は10例行い，その有用性を確認している．さらに日本獣医生命科学大学との共同研究で免疫抑制剤不要の夢の治療法となるバイオ人工臓の開発も研究中である．

研究業績

論文

[2005 年度追加分]

総説：

- 1) 高木 元，高木郁代，清野精彦：3. 心臓 Q20急性冠症候群の予知マーカーについて教えて下さい．血栓と循環 2005；13：81-85．
- 2) 高木 元，清野精彦：新しい心筋マーカーの有用性．総合臨床 2005；2499-2500．
- 3) 高木 元，宮本正章，安武正弘，水野博司，高木郁代，高野仁司，加藤浩司，太良修平，高野照夫：難治性虚血肢に対する自己骨髄幹細胞移植血管再生治療．リウマチ科 2006；35（2）．
- 4) 高木郁代，清野精彦：1. 心臓，心原性浮腫．Vascular Lab 2006；3：58-62．

(1) 原著：

- 1) Otsuka T¹⁾，Ibuki C¹⁾，Suzuki T¹⁾，Ishii K¹⁾，Kodani E¹⁾，Atarashi H¹⁾，Kishida H，Takano T（¹⁾Tama-Nagayama Hospital）：Vasodilatory effect of subsequent administration of fasudil, a rho-kinase inhibitor, surpasses that of nitroglycerin at the concentric coronary stenosis in patients with stable angina pectoris．Circ J 2006；70（4）：402-408．
- 2) Kawashima S，Takano H，Iino Y¹⁾，Takayama M，Takano T（¹⁾Second Departments of Internal Medi-

- cine): Prophylactic Hemodialysis Does Not Prevent Contrast-Induced Nephropathy After Cardiac Catheterization in Patients with Chronic Renal Insufficiency . *Circ J* 2006 ; 70 (5): 553-558 .
- 3) Seimiya K¹⁾, Inami S¹⁾, Takano M¹⁾, Ohba T¹⁾, Sakai S¹⁾, Takano T , Mizuno K¹⁾(¹⁾ Cardiovascular Center, Chiba-Hokuso Hospital): Significance of Plaque Disruption Sites in Acute Coronary Syndrome . *J Nippon Med Sch* 2006 ; 73 (3): 141-148 .
 - 4) Kato K¹⁾, Sato N¹⁾, Fujita N , Yamamoto T¹⁾, Iwasaki Yu-ki¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Takayama M , Tanaka K¹⁾, Takano T (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit): Combined Therapy with Percutaneous Coronary Intervention and Percutaneous Aortic Valvuloplasty under Mechanical Support for an Elderly Patient with Cardiogenic Shock . *J Nippon Med Sch* 2006 ; 73 (3): 158-163 .
 - 5) Maruyama M , Kobayashi Y , Miyauchi Y , Iwasaki Yu-ki , Morita N , Miyamoto S¹⁾, Tadera T¹⁾, Ino T¹⁾, Atarashi H¹⁾, Katoh T , Takano T (¹⁾ Tama Nagayama Hospital): Mapping-guided ablation of the cavotricuspid isthmus : A novel simplified approach to radiofrequency catheter ablation of isthmus-dependent atrial flutter . *Heart Rhythm* 2006 ; 3 (6): 665-673 .
 - 6) Sato N¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Akutsu kohichi , Fujita N , Asai K , Takayama M , Takano T , Tanaka K¹⁾(¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit): Arterial baroreflex sensitivity is a good predictor of inotropic responses to a phosphodiesterase inhibitor in human heart failure . *Clin Cardiol* 2006 ; 29 (6): 263-267 .
 - 7) Pak HN¹⁾, Kim YH¹⁾, Lim HE¹⁾, Chou CC²⁾, Miyauchi Y , Fang YH¹⁾, Sun K¹⁾, Hwang C³⁾, Chen PS¹⁾(¹⁾ Korea University Cardiovascular Center, Seoul ROK , ²⁾ Division of Cardiology, Department of Medicine, Cedars-Sinai Medical Center and David Geffen School of Medicine, UCLA, LA , ³⁾ Utah Valley Medical Center, Provo, Utah): Role of the posterior papillary muscle and purkinje potentials in the mechanism of ventricular fibrillation in open chest dogs and swine : effects of catheter ablation . *J Cardiovasc Electrophysiol* 2006 ; 17 (7): 777-83 .
 - 8) Hayashi M , kobayashi Y , Iwasaki Yu-ki , Morita N , Miyauchi Y , Kato T , Takano T : Novel mechanism of postinfarction ventricular tachycardia originating in surviving left posterior purkinje fibers . *Heart Rhythm* 2006 ; 3 (8): 908-918 .
 - 9) Yamamoto T¹⁾, Sato N¹⁾, Yasutake M , Takagi H¹⁾, Morita N¹⁾, Akutsu K¹⁾, Fujii M¹⁾, Fujita N¹⁾, Tanaka K¹⁾, Takano T (¹⁾ Intensive and Coronary Care Unit): B-type natriuretic peptide as an integrated risk marker in non-ST elevation acute coronary syndromes . *J Cardiol* 2006 ; 111 (2): 224-230 .
 - 10) Ono T , Saitoh H , Itakura S¹⁾, Tateoka K , Ono I , Hnatkova K²⁾, kobayashi Y , Takayama M , Atarashi H³⁾, Katoh T , Takano T , Malik M²⁾(¹⁾ Musashi-kosugi Hospital , ²⁾ St George's University of London , ³⁾ Tama-nagayama Hospital): Characteristics of a New Repolarization Descriptor Substituted for T-Wave Morphology Analysis in Patients with Cardiomyopathy and Myocardial Infarction . *Circ J* 2006 ; 70 (10): 1322-1326 .
 - 11) Yamashita T , Ogawa S , Aizawa Y , Atarashi H , Inoue H , Ohe T , Okumura K , Ohtsu H , Kato T , Kamakura S , Kumagai K , Kurachi Y , Kodama I , Koretune Y , Saikawa T , Sakurai M, Sugi K, Nakaya H, Hirai M, Hirayama A, Fukatani M, Mitamura H, Yamazaki T, Watanabe E : Randomized Study of Angiotensin II Type 1 Receptor Blocker vs Dihydropyridine Calcium Antagonist for the Treatment of Paroxysmal Atrial Fibrillation in Patients with Hypertension : The J-RHYTHM II Study Design for the Investigation of Upstream Therapy for Atrial Fibrillation . *Circ J* 2006 ; 70 : 1318-1321 .
 - 12) Kamei Shin-ichiro , Katoh T , Ohara T , Kanemura M , Kuroki Shin-ichi , Takano T : Acute Effects on Signal-Averaged Electrogram Parameters and Suppressing Premature Ventricular Contractions in Single or Combined Use of Class I Antiarrhythmic Drugs . *J Arrhythmia* 2006 ; 22 (3): 155-160 .

- 13) Shimizu Y¹⁾, Kumita Shin-ichiro¹⁾, Cho K¹⁾, Toda M¹⁾, Mizumura S¹⁾, Tanaka K²⁾, Takano T, Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Clinical Radiology, ²⁾ Department of Functional Pathophysiology for Human Organs): Evaluation of No-Reflow Phenomenon Using ²⁰¹TlCl/¹²³I-BMIPP Dual-isotope Myocardial SPECT . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (5): 258-264 .
- 14) Takase B¹⁾, Kusama Y, Nishizaki M²⁾, Koide Y³⁾, Li S⁴⁾, Kawakubo K⁵⁾, Saito S⁶⁾, Tanabe T⁷⁾, Kodama K⁸⁾, Kishida H (¹⁾ National Defense Medical College Research Institute, Division of Biomedical Engineering and Internal Medicine-1, ²⁾ Yokohama Kyosai Hospital, ³⁾ Kyorin University Medical School, Internal Medicine, ⁴⁾ Fukui Medical School, Internal Medicine, ⁵⁾ Tokyo University post Graduate School of Health Science, ⁶⁾ Nippon University School of Medicine, Internal Medicine, ⁷⁾ Tokai University School of Medicine, ⁸⁾ Osaka Metropolitan Police Hospital): Detecting Restenosis after Percutaneous Coronary Intervention Using Exercise-Stress Electrocardiogram Findings Including QT Dispersion . J Arrhythmia 2006 ; 22 (4): 209-214 .
- 15) Ohno T, Honma H, Takayama M, Munakata K, Takano T, Matsuzaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Physiological Examination): Utility of Combined Assessment of Coronary Flow Velocity and Myocardial Perfusion During Low-dose Dobutamine Stress Echocardiography in the Detection of Left Anterior Coronary Artery Disease . J Echocardiogr 2006 ; 4 (3): 69-77 .
- 16) Takagi I, Nejima J, Kiuchi K, Takagi G, Takano T : Chronic Direct Stimulation of Adenylyl Cyclase Induces Cardiac Desensitization to Catecholamine and Beta-Adrenergic Receptor Downregulation in Rabbits . J Cardiovasc Pharmacol 2006 ; 48 (5): 223-230 .
- 17) Iwasaki Yu-ki, Yamashita T¹⁾, Sekiguchi A¹⁾, Hatano S¹⁾, Sagara K¹⁾, Iimura H¹⁾, Fu Long-tai¹⁾, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T (¹⁾ The Cardiovascular Institute, Tokyo): A method for the simultaneous analysis of mRNA levels of multiple cardiac ion channels with a multi-probe RNase protection assay . Europace 2006 ; 8 (11): 1011-1015 .
- 18) Ogawa A, Seino Y, Yamashita T, Ogata Ken-ichi, Takano T : Difference in elevation of N-terminal Pro-BNP and Conventional Cardiac Markers Between Patients with ST Elevation vs Non-ST Elevation Acute Coronary Syndrome . Circ J 2006 ; 70 (11): 1372-1378 .
- 19) Yodogawa K, Morita N, Kobayashi Y, Takayama H, Ohara T, Katoh T, Takano T : High-frequency potentials developed in wavelet-transformed electrocardiogram as a novel indicator for detecting Brugada syndrome . Heart Rhythm 2006 ; 3 (12): 1436-1444 .
- 20) Ikeda T¹⁾, Yoshino H¹⁾, Sugi K²⁾, Tanno K³⁾, Shimizu H⁴⁾, Watanabe J⁵⁾, Kasamaki Y⁶⁾, Yoshida A⁷⁾, Kato T (¹⁾ Second Department of Internal Medicine, Kyorin University, ²⁾ Division of Cardiology, Toho University, ³⁾ Third Department of Internal Medicine, Showa University, ⁴⁾ First Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine, ⁵⁾ Division of Cardiology, Tohoku University, ⁶⁾ Second Department of Internal Medicine, Nihon University, ⁷⁾ Division of Cardiology, Kobe University): Predictive Value of Microvolt T-Wave Alternans for Sudden Cardiac Death in Patients With Preserved Cardiac Function After Acute Myocardial Infarction . J Am Coll Cardiol 2006 ; 48 (11): 2268-2274 .
- 21) Tara S, Miyamoto M, Asoh S¹⁾, Ishii N¹⁾, Yasutake M, Takagi G, Takano T, Ohta S¹⁾ (¹⁾ Department of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Development and Aging Sciences): Transduction of the anti-apoptotic PTD-FNK protein improves the efficiency of transplantation of bone marrow mononuclear cells . J Mol Cell Cardiol 2007 ; Epub .
- 22) Shirakabe A, Takano H, Nakamura S, Kikuchi A, Sasaki A, Yamamoto E, Kawashim S, Takagi G, Fujita N, Aoki S, Asai K, Yoshikawa M¹⁾, Kato K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Takayama M, Takano T (¹⁾ Coro-

nary Care Unit): Coronary Perforation During Percutaneous Coronary Intervention . Int Heart J 2007 ; 48 (1): 1-9 .

- 23) 仁ノ内絵里¹⁾, 長田和士¹⁾, 金子貴俊²⁾, 鈴木聡子²⁾, 櫻田大也¹⁾, 佐藤信範¹⁾, 岸田 浩, 上田志朗¹⁾(¹⁾千葉大学大学院薬学研究院 医薬品情報学研究室, ²⁾データインデックス株式会社): 薬剤性QT延長症候群に関するデータベースの構築 . 医薬品情報学 2006 ; 7 (4): 66-70 .
- 24) 緒方清行¹⁾, 水越元気²⁾, 田村浩一³⁾, 加藤貴雄, 岸田 浩, 清野精彦, 駒場祐一²⁾, 吉村明修⁴⁾, 福間長知, 工藤翔二⁴⁾, 福田 悠⁵⁾, 坂本静樹²⁾, 津久井拓¹⁾, 本間 博, 刃刀しのぶ⁵⁾, 弦間明彦⁴⁾, 藤野鉄平²⁾(¹⁾内科学第3, ²⁾内科学第2, ³⁾付属病院病理部, ⁴⁾内科学第4, ⁵⁾病理学第1): 感染性心内膜炎の発症後, 脳梗塞をい合併しびまん性肺胞障害にて死亡した1例 . 内科 2006 ; 98 (2): 357-368 .
- 25) 水野博司¹⁾, 赤石論史¹⁾, 小池幸子¹⁾, 百束比古¹⁾, 宮本正章 (¹⁾形成外科学): 虚血性難治性皮膚潰瘍に対する骨髄単核球導入コラーゲンマトリックスの臨床応用 . 日本形成外科学会誌 2006 ; 26 (11): 726-732 .

(2) 綜説 :

- 1) 清野精彦, 小川晃生, 山下照代, 藤田進彦, 緒方憲一 : バイオマーカー : マルチ・バイオマーカーアプローチの構築 . 日本臨床 2006 ; 64 (4): 691-699 .
- 2) 高山守正 : (閉塞性肥大型心筋症 state of art) 経皮的中隔心筋焼灼術 (PT SMA) の治療効果と臨床的意義 . 心臓 2006 ; 38 (4): 330-334 .
- 3) 山本 剛¹⁾, 高野照夫 (¹⁾集中治療室): 診断・治療法の進歩 . 日本臨床 2006 ; 64 (4): 617-623 .
- 4) 宮内靖史, 小林義典, 谷口宏史, 堀江 格, 丸山光紀, 平澤泰宏, 阿部純子, 館岡克彦, 上野 亮, 岡崎怜子, 小鹿野道雄, 篠田暁与, 加藤貴雄, 高野照夫, 淀川賢司¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾, 新 博次²⁾(¹⁾集中治療室, ²⁾多摩永山病院内科): Electrical stormのトリガーとなる心室性期外収縮のElectroanatomical Mapping . 臨床心臓電気生理 2006 ; 29 : 157-164 .
- 5) 牛島明子, 福間長知, 馬淵浩輔 : 外用薬の効果と使い方, その特徴, 作用機序と副作用 1) 貼付剤 a) 狭心症 (特集 : 高齢者におけるドラッグデリバリーシステム : 特に外用薬を中心に). Geriat Med 2006 ; 44 (5): 619-624 .
- 6) 福間長知, 高山守正 : 運動負荷試験 (特集 : 慢性心不全治療の進歩). 日本臨床 2006 ; 64 (5): 890-895 .
- 7) 小林義典 : 重症心室性不整脈と電気生理学的検査 : その意義と治療への応用 . Med Practice 2006 ; 23 (5): 799-802 .
- 8) 平山悦之, 高野照夫 : 狭心症 . 実践 救急医療 2006 ; 135 (1): 308-309 .
- 9) 清野精彦 : 新しい心筋マーカーにより明らかにされてきたこと : minor myocardial damageとongoing myocardial damage . 東京都医師会雑誌 2006 ; 59 (6): 696-702 .
- 10) 清野精彦 : マルチバイオマーカー・ストラテジー . 心臓 2006 ; 38 (7): 665-665 .
- 11) 清野精彦 : 急性心筋梗塞の発症から収容, 診断過程における性差 . 性差と医療 2006 ; 3 (9): 27-33 .
- 12) 吉川雅智¹⁾, 高山守正 (¹⁾集中治療室): 急性冠症候群 (ST 上昇型): 急性心筋梗塞 . medicina 2006 ; 43 (9): 1448-1453 .
- 13) 宮内靖史 : フローチャートで理解する3次元心臓内マッピング法 . Heart Nursing 2006 2006 ; 19 (9): 68-74 .
- 14) 岸田 浩 : 無症候性心筋虚血 . 内科学 2006 ; 1 : 812-813 .
- 15) 上野 亮, 加藤貴雄 : 頻脈性不整脈の治療 頻脈性不整脈の薬物療法 : 心室性不整脈を中心に . クリニカ 2006 ; 33 (5): 19-27 .
- 16) 上野 亮, 丸山光紀, 小林義典, 宮内靖史, 林 明聡, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 阿部純子, 谷口宏史, 堀江 格, 淀川賢司, 館岡克彦, 岡崎怜子, 山本哲平, 村田広茂, 小原俊彦, 平山悦之, 高山守正, 加藤貴雄, 高野照夫, 新 博次¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科): 閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術後にみられたHV時間

の交互現象および第4相ブロックと 遮断薬の効果．心臓 2006；38(4): 95-102．

17) 高山守正：ガイドライン2005 4.胸痛．日内誌 2006；95(12): 64-72．

18) 高野仁司，川嶋修司，山本英世，清野精彦：腎機能障害患者に対する経皮的冠動脈インターベンション．Angiology Frontier 2006；15(4): 333-338．

19) 清野精彦：心筋梗塞生化学マーカー．臨床と研究 2007；84(1): 27-33．

20) 清野精彦：慢性心不全における中枢型睡眠時無呼吸について．日医大医学会誌 2007；3(1): 34-38．

21) 保坂純郎¹⁾，日高史貴¹⁾，小野澤志郎¹⁾，高木郁代，汲田伸一郎¹⁾(¹⁾放射線医学)：EVLТ (endovenous laser treatment)：出力の血管閉塞率と合併症に及ぼす影響．静脈学 2007；18(1): 7-11．

22) 吉田明日香，清野精彦：心疾患患者の予後決定におけるCKDの重要性．治療学 2007；41(2): 65-69．

(3) 症例報告：

1) Ogano M, Iwasaki Yu-ki, Takano H, Takayama M, Takano T, Fukuda Y¹⁾(¹⁾ First Department of Pathology)：Successful colectomy for the treatment of repetitive bleeding from colonic angiodysplasia in a patient with Heyde syndrome．Intern Med 2006；45(6): 355-358．

2) Muramatsu H¹⁾，Takayama M，Takano T (¹⁾ Department of Internal Medicine, Kasugai Rehabilitation Hospital)：Rate-Responsive Pacemaker Mode Benefits Stroke Rehabilitation Patients with Orthostatic Hypotension：Two Cases of Cardiogenic Cerebral Infarction．Jpn J Clin Physiol 2006；36(5): 213-222．

3) Kamiya M, Nakagomi A, Tokita Y, Yasutake M, Kusama Y, Takayama M, Takano T：Type ICD36 Deficiency Associated With Metabolic Syndrome and Vasospastic Angina：A Case Report．J Cardiol 2006；48(1): 41-44．

4) 藤本啓志，宮本正章，高木 元，山下照代，水野博司¹⁾，小池幸子¹⁾，高野照夫(¹⁾形成外科学)：医療用ウジを用いた多剤耐性緑膿菌(MDRP)感染糖尿病性壊疽の治療．糖尿病 2006；49(7): 517-521．

5) Yamamoto T¹⁾，Terajima K¹⁾，Kato K¹⁾，Iwasaki Yu-ki¹⁾，Miyagi Y¹⁾，Sato N¹⁾，Takeda S¹⁾，Tanaka K¹⁾，Takano T (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit)：Transient Leukocytopenia Associated with a Steep Surge of Proinflammatory Cytokines in a Patient with Severe Cardiogenic Pulmonary Edema．Intern Med 2006；45(20): 1153-1155．

6) 新真理子¹⁾，山本 剛¹⁾，小串聡子¹⁾，村井網児¹⁾，吉川雅智¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，佐藤直樹¹⁾，田中啓治¹⁾，高野仁司，高山守正，高野照夫，中澤 賢²⁾，田島廣之²⁾，隈崎達夫²⁾，神谷仁孝³⁾(¹⁾日本医科大学付属病院集中治療室，²⁾同放射線科，³⁾稲田登戸病院循環器科)：肺癌様の肺陰影を呈した肺梗塞の1例．Therapeutic Research 2006；27(6): 1017-1019．

7) 小澤明子¹⁾，水谷康彦¹⁾，秋元直彦¹⁾，北嶋俊寛¹⁾，横澤裕美¹⁾，田村浩一²⁾，杉崎祐一²⁾，新田 隆³⁾，岡崎怜子，清野精彦(¹⁾医学部学生，²⁾付属病院病理部，³⁾外科学第2)：心房細動根治術で切除された左心耳組織所見から心臓サルコイドーシスの診断に至った1例．診断病理 2006；23(3): 208-211．

8) 宮地秀樹¹⁾，雪吹周生¹⁾，加藤浩司¹⁾，吉田博史¹⁾，石井健輔¹⁾，小谷英太郎¹⁾，草間芳樹¹⁾，新 博次¹⁾，坏宏一，山本 剛，田中啓治，田島廣之²⁾(¹⁾多摩永山病院内科，²⁾放射線医学)：静脈血栓塞栓症にて発症し，下大静脈フィルター直下の難治性大量血栓を血管内インターベンションにて治療し得た先天性アンチトロンピン欠損症の1例．心臓 2006；38(8): 796-803．

(4) 症例報告と総説：

1) Yamamoto E, Takano H, Takayama M：Percutaneous Coronary Intervention Under the Rigid Restriction of Contrast Media dose in Patients with Chronic Renal Insufficiency．J Invasive Cardiol 2006；18(6): 169-172．

著 書

- 1) 清野精彦, 高野照夫: [分担] 急性心不全の薬物療法. 心不全: 診断・治療・管理 (堀 正二), 2006 ; pp136-148, メジカルビュー社.
- 2) 高野照夫: [監修] ESC POCKET GUIDLINES (高野照夫, 清野精彦), 2006 ; ヘスコインターナショナル.
- 3) 高山守正: [分担] 経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSDA). 心臓カテーテル (百村伸一), 2006 ; pp136-143, メジカルビュー社.
- 4) 宮内靖史: [分担] (心房性および心室性) 反復性興奮とは? . よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp25-29, 中外医学社.
- 5) 宮内靖史: [分担] 洞機能不全の診断 (1) 洞房伝導時間測定について. よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp32-35, 中外医学社.
- 6) 宮内靖史: [分担] 洞機能不全の診断 (2) 洞結節自動能評価法について. よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp36-39, 中外医学社.
- 7) 宮内靖史: [分担] Triggered activityとは? . よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp86-88, 中外医学社.
- 8) 宮内靖史: [分担] 心房粗動: 通常型について. よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp117-119, 中外医学社.
- 9) 宮内靖史: [分担] Incisional リエントリー性頻拍とは? . よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp129-132, 中外医学社.
- 10) 宮内靖史: [分担] Supernormal conductionとは? . よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp171-173, 中外医学社.
- 11) 宮内靖史: [分担] T Wave alternansとは? . よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp188-191, 中外医学社.
- 12) 宮内靖史: [分担] Torsades de pointesとは? . よくわかる臨床心臓電気生理 (沖重 薫), 2006 ; pp192-194, 中外医学社.
- 13) 宮本正章: [分担翻訳] 糖尿病フットケアハンドブック (内村 功), 2006 ; シュプリンガー・ジャパン.
- 14) 横山広行, 高野照夫: [分担] 循環動態のモニタリング. 内科学 (金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男), 2006 ; pp656-658, 医学書院.
- 15) 高野仁司, 清野精彦: [分担] 心臓カテーテル検査, 冠動脈造影. 虚血性心疾患 (井上 博, 増山 理, 川名正敏), 2006 ; pp87-98, 南江堂.
- 16) 清野精彦: [分担] 虚血性心疾患の生化学的指標 特に急性冠症候群について. 虚血性心疾患 (井上 博, 増山理, 川名正敏), 2006 ; pp79-86, 南江堂.
- 17) 坂本哲也¹⁾, 高山守正⁽¹⁾ 帝京大学医学部救命救急センター): [監修] 上級救命再講習テキスト (坂本哲也, 高山守正), 2006 ; 東京救急協会.
- 18) 坂本哲也¹⁾, 高山守正⁽¹⁾ 帝京大学医学部救命救急センター): [監修] 応急手当普及員再講習テキスト (坂本哲也, 高山守正), 2006 ; 東京救急協会.
- 19) 高山守正: [編集] ECC (救急心臓血管治療) ハンドブック 2005 (岡田和夫, 笠置 宏, 中澤 誠, 宮坂勝之), 2006 ; 中山書店.
- 20) 高山守正: [自著] AED 自動体外式除細動器, 2007 ; メディカルフロントインターナショナルリミテッド.
- 21) 清野精彦: [分担] 急性心不全. 2007 今日の治療指針 (山口 徹, 北原光夫, 福井次矢), 2007 ; pp274-276, 医学書院.
- 22) 高山守正: [分担] 経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSDA). 心筋症 (松森 昭), 2007 ; pp317-325, メジカルビュー社.

- 23) 高山守正：〔分担〕閉塞性肥大型心筋症における僧帽弁逆流へのアプローチ．弁膜症を解く（山本一博，別府慎太郎），2007；pp303-305，文光堂．
- 24) 小林義典：〔翻訳監修〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 25) 上野 亮：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 26) 岡崎怜子：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 27) 小野卓哉：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 28) 小原俊彦：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 29) 平山悦之：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 30) 丸山光紀：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 31) 宮内靖史：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 32) 村田広茂：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 33) 八島正明：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 34) 山本哲平：〔翻訳協力〕イラストで学ぶ心臓ペースメーカー（庄田守男，小林義典，新田 隆），2007；医学書院．
- 35) 高山守正：〔分担〕Highlights from the American Association for the Surgery of Trauma．ReSS Report 2006（岡田和夫，笠貫 宏），2007；pp33-38，協和企画．
- 36) 加藤貴雄：〔分担〕心臓の働きとしくみ．心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），2007；pp6-9，医薬ジャーナル社．
- 37) 小林義典：〔分担〕不整脈とは 1) 徐脈性不整脈 2) 頻脈性不整脈．心臓ペースメーカー・植込み型除細動器（田中茂夫），2007；pp10-17，医薬ジャーナル社．

学会発表

〔2006 年度追加分〕

一般講演：

- 1) Takagi I, Takagi G, Yasutake M, Takano H, Katoh K, Miyamoto M, Takano T : Improvement of Endothelial Dysfunction Indicated Early Phase Recovery after Bone Marrow Vascular Regenerative Therapy in Human . 第70回記念日本循環器学会学術集会，2006 . 3 .

(1) 特別講演：

- 1) 加藤貴雄：Brugada 症候群における異常高周波電位の検出とその意義．第3回電話伝送心電図日中国際シンポジウム，2006 . 10 .

(2) 教育講演 :

- 1) 高山守正 : 日本版心肺蘇生ガイドライン「救急蘇生の指針」の立場を示す . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 2) 清野精彦 : 無性冠症候群のリスク層別化と初期治療 : multi biomarker approachの導入 . 第141回日本循環器学会東北地方会, 2006 . 2 .
- 3) 宮内靖史 : QT時間計測方法 . 第26回ホルター心電図研究会, 2006 . 6 .
- 4) 宮内靖史 : 孤立性心房細動に外科治療を行うか . 第21回日本不整脈学会学術大会・第23回日本心電学会学術集会 合同学術集会, 2006 . 7 .
- 5) 宮本正章, 水野博司¹⁾, 多川政弘²⁾, 米田正始³⁾, 田畑泰彦⁴⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾日本獣医生命科学大学獣医外科, ³⁾京都大学大学院医学研究科心臓血管外科, ⁴⁾京都大学再生医科学研究所生体材料学): 重症難治性PADに対する総合的治療戦略 : 血管新生療法からマゴットセラピーまで . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .

(3) シンポジウム :

- 1) Miyamoto M : Current Situation of Maggot Therapy in Japan (Forensic&Therapeutic Diptera). 6th International Congress of Dipterology (Fukuoka, Tokyo), 2006 . 9 .
- 2) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T, Chen PS¹⁾, Karagueuzian H (¹⁾Korea University Cardiovascular Center, Seoul ROK): Heterogeneous pulmonary vein myocardial cell repolarization : implications for reentry and triggered activity . 2nd Asia-Pacific AF Symposium2006 (Tokyo, Japan), 2006 . 11 .
- 3) 宮内靖史, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫, Karagueuzian HS, Chen PS¹⁾ (¹⁾Korea University Cardiovascular Center, Seoul ROK): 肺静脈心筋細胞の再分極特性と不整脈原性 . 第21回日本不整脈学会学術大会・第23回日本心電学会学術集会 合同学術集会, 2006 . 7 .
- 4) 宮本正章, 水野博司¹⁾, 百束比古¹⁾, 高木 元, 太良修平, 多川政弘²⁾, 田畑泰彦³⁾, 高野照夫 (¹⁾日本医科大学付属病院美容外科・形成外科, ²⁾日本獣医生命科学大学獣医外科, ³⁾京都大学再生医科学研究所): 重症難治性虚血肢に対する総合的治療戦略 : 骨髄幹細胞及び徐放化蛋白による血管新生療法と医療用ウジ治療 (再生医療 : 臨床・先進医療への展望) . 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 5) 高野仁司, 高山守正, 安武正弘, 高野照夫 : 冠動脈新規病変出現に対するマルチブルリスクファクター症候群の影響 (メタボリックシンドロームを如何に予防するか) . 第43回日本臨床生理学会総会, 2006 . 11 .
- 6) 宮本正章, 水野博司¹⁾, 多川政弘²⁾, 田畑泰彦³⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾日本獣医生命科学大学獣医外科, ³⁾京都大学再生医科学研究所生体材料学): 重症PADに対する総合的治療戦略-血管新生療法からマゴットセラピーまで : 末梢動脈閉塞性疾患PADのすべて 集学的治療の実際 . 日本医工学治療学会第23回学術大会, 2007 . 2 .

(4) パネルディスカッション :

- 1) 保坂純郎¹⁾, 日高史貴¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 高木郁代, 隈崎達夫¹⁾ (¹⁾放射線医学): 出力の血管閉塞率と副作用に及ぼす影響 (EVLT (endovenous laser treatment)). 第26回日本静脈学会総会, 2006 . 6 .
- 2) 佐藤直樹¹⁾, 高山守正, 田中啓治¹⁾, 高野照夫 (¹⁾集中治療室): 自動体外式除細動器への過信は禁物? . 第34回日本集中治療医学会学術集会, 2007 . 3 .

(5) 一般講演 :

- 1) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Nitta T, Maruyama M, Iwasaki Y, Horie T, Taniguchi H, Ueno A, Okazaki R, Hayashi M, Ishii Y, Ohmori H, Yamamoto T, Murata H, Katoh T, Takano T : The mechanisms and radiofrequency catheter ablation of atrial tachycardia following surgery for atrial fibrillation . Heart Rhythm 2006 (Boston, USA), 2006 . 5 .
- 2) Yodogawa K, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh K, Iwasaki Y, Yamamoto T, Taniguchi H, Horie T, Hi-

- rasawa Y , Morita N , Hayashi M , Maruyama M , Satoh N , Tanaka K , Katoh T , Takano T : The activation pattern of the premature ventricular contractions triggering an electrical storm in a patient with remote myocardial infarction . Heart Rhythm 2006 (Boston, USA) , 2006 . 5 .
- 3) Horie T , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Yamamoto T , Murata H , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Taniguchi H , Hirasawa Y , Yodogawa K , Iwasaki Y , Hayashi M , Maruyama M , Ohara T , Katoh T , Takano T : Three subtypes of the reentrant circuit of typical atrial flutter as revealed by three-dimensional post-pacing interval mapping . Heart Rhythm 2006 (Boston, USA) , 2006 . 5 .
 - 4) Fujimoto H , Ohno T , Higashi H , Matsuzaki T , Honma H , Takano T : Developing Atrial Fibrillation During Dobutamine Stress Echocardiography and Maintaining Sinus Rhythm . World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (Seoul, Korea) , 2006 . 5 .
 - 5) Morisawa T , Takano H , Kato koji¹⁾ , Taniguchi H¹⁾ , Yoshida A , Yamamoto E , Yoshikawa M , Takahashi Y , Iwasaki Y¹⁾ , Yamamoto T¹⁾ , Fujita N , Takagi G , Aoki S , Asai K , Takayama M (¹⁾ Coronary Care Unit): Reappraisal of percutaneous balloon aortic valvuloplasty as an alternative in octogenarians declining surgical treatment . Complex Catheter Therapeutics2006 (Kobe, Tokyo) , 2006 . 9 .
 - 6) Miyamoto M , Takagi G , Tara S , Ohtsubo H , Mizuno H¹⁾ , Takano H , Takano T (¹⁾ Cosmetic and Plastic Surgery): Excellent Combination Therapy of Maggot Debridement Therapy (MDT) and Bioartificial Dermis with Therapeutic Angiogenesis and /or Autograft Skin Transplantation . 6th International Congress of Dipterology , 2006 . 9 .
 - 7) Takano H : Blood Pressure Lowering Effect of Valsartan in Uncontrolled Hypertension with Multiple Anti-Hypertensive Agents . The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Fukuoka, Japan) , 2006 . 10 .
 - 8) Kusama Y , Shinoda A , Yoda S , Ogata K , Kodani E , Tadera T , Nakagomi A , Ibuki C , Atarashi H , Takano T : Left Ventricular Diastolic Dysfunction in Hypertensive Patients Which Category of Antihypertensive Drug Prevents Development of left Ventricular Diastolic Dysfunction (Ca channel blocker vs ACE inhibitor or ARB)? . The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension(Fukuoka, Japan) , 2006 . 10 .
 - 9) Takano H , Takayama M , Yamamoto E , Kawashima S , Fujita N , Takagi G , Aoki S , Asai K , Yasutake M , Takano T : Reduced Coronary Flow Reserve is a Predictor of Cardiac Events in Patients with Non-Ischemic Cardiomyopathy as well as in those with Cardiac Amyloidosis . American Heart Association Scientific Sessions2006 (Chicago, USA) , 2006 . 11 .
 - 10) Iwasaki Y , Yamashita T¹⁾ , Sekiguchi A¹⁾ , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T (¹⁾ The Cardiovascular Institute): Glucocorticoid Induces Atrial Arrhythmogenesis via Modification of Ion Channel Gene Expression in Rats . 2nd Asia-Pacific AF Symposium2006 (Tokyo, Japan) , 2006 . 11 .
 - 11) Miyauchi M , Miyauchi Y , Kobayashi Y , Takano T : Chronic Nicotine Administration Induces Atrial Fibrillation in Normal Rats : Implication for Atrial Fibrillation in Smokers . 2nd Asia-Pacific AF Symposium2006 (Tokyo, Japan) , 2006 . 11 .
 - 12) Okazaki R , Iwasaki Y , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T , Sekiguchi A¹⁾ , Yamashita T¹⁾ (¹⁾ The Cardiovascular institute): Lipopolysaccharide Induces the Down-regulation of L-type Ca²⁺ Channel Genes in Rat Atria . 2nd Asia-Pacific AF Symposium2006 (Tokyo, Japan) , 2006 . 11 .
 - 13) Takagi G , Miyamoto M , Yasutake M , Takagi I , Takano H , Kato K , Tara S , Ohtsubo H , Komeda M , Marui A , Tabata Y , Takano T : A Novel Therapy Using Control-Released Basic Fibroblast Growth Factor in Patients with Peripheral Artery Disease : Comparison with Bone Marrow Mononuclear Cell Implantation .

- American Heart Association Scientific Sessions2006 (Chicago, USA), 2006 . 11 .
- 14) Kobayashi Y , Shimizu A¹⁾ , Nitta T¹⁾ , Murakawa Y²⁾ , Hayakawa H³⁾ (¹⁾Committe of ICD , ²⁾Pacemaker Survey , ³⁾Strategic Planning): Pacing and ICD Survey in Japan with Introduction of ICD Registry System . Cardio Rhythm 2007 (HongKong, China), 2007 . 2 .
 - 15) Yodogawa K¹⁾ (¹⁾Chiba Hokuso Hospital): Non-invasive Detection of Latent Cardiac Sarcoidosis Using Signal Averaged Electrocardiogram . The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure (Kyoto, Japan), 2007 . 3 .
 - 16) Seino Y : Ongoing Myocardial Damage and Cardio-Renal Burden in Patients with Hypertensive Heart Disease with Preserved LV Systolic Function . The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure (Kyoto, Japan), 2007 . 3 .
 - 17) Nakagomi A¹⁾ , Seino Y , Tokita Y¹⁾ , Kodani E¹⁾ , Kusama Y¹⁾ , Atarashi H¹⁾ , Takano T (¹⁾Tama Nagayama Hospital): Upregulation of Monocyte Chemokine Production by C-reactive Protein Contributes to the Exacerbation of Chronic Heart Failure . The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure (Kyoto, Japan), 2007 . 3 .
 - 18) Miyamoto A , Zhang Xue-J , Ohsuga M , Shimizu S , Komeichi H , Kato Y , Satomura K , Akimoto T¹⁾ , Katsuta Y (¹⁾Department of Laboatory Animal Science): Chronic Administration of Methylene Blue Safely Improves Arterial Oxygenation in a Rat Model of Hepatopummonary Syndrome . Asian Pacific Association for the Study of the Liver 2007 (Kyoto, Japan), 2007 . 3 .
 - 19) Ohsuga M , Zhang Xue-J , Miyamoto A , Kato Y , Shimizu S , Komeichi H , Satomura K , Katsuta Y : Long-term follow-up of patients with nonalcoholic steatohepatitis (NASH). Asian Pacific Association for the Study of the Liver (Kyoto, Japan), 2007 . 3 .
 - 20) 山本英世 , 高野仁司 , 菊池 有史 , 北村光信 , 小杉宗範 , 中村俊一 , 佐々木朝子 , 川嶋修二 , 藤田進彦 , 高木元 , 青木 聡 , 浅井邦也 , 安武正弘 , 高山守正 : Percutaneous coronary intervention under the rigid restriction of the dose of contrast media for patients with chronic renal insufficiency . 第15回日本心血管インターベンション学会学術集会 , 2006 . 6 .
 - 21) 高山守正 , 北村光信 , 佐々木朝子 , 川嶋修司 , 藤田進彦 , 高木 元 , 高野仁司 , 青木 聡 , 浅井邦也 , 藤本啓志 , 大野忠明 , 山本 剛¹⁾ , 佐藤直樹¹⁾ , 安武正弘 (¹⁾集中治療室): Remote stage regression of LVH after repeat procedure for unsatisfactory result of percutaneous septal alcohol ablation in patients with HOCM . 第15回日本血管インターベンション学会学術集会 , 2006 . 6 .
 - 22) 安武正弘 , 宮本正章 , 加藤浩司¹⁾ , 高木 元 , 高野仁司 , 高山守正 , 高野照夫 (¹⁾集中治療室): Assesment of neovascularization after autologous bone-marrow cell implantation by Technetium-99m macroaggregated albumin scintigraphy in patients with severe coronary artery disease . 第15回日本血管インターベンション学会学術集会 , 2006 . 6 .
 - 23) Nakagomi A¹⁾ , Seino Y , Tokita Y¹⁾ , Kodani E¹⁾ , Atarashi H¹⁾ , Takano T (¹⁾多摩永山病院内科): Metabolic syndrome increases the incidence of heart failure associated with subclinical inflammation in patients with acute coronary syndrome . 第10回日本心不全学会学術集会 , 2006 . 10 .
 - 24) Seino Y , Ogawa A , Yamashita T , Fukushima M , Fukumoto H , Setsuta K¹⁾ , Arao M¹⁾ , Takano T (¹⁾Department of Cardiology, Tokyo Metoropolitan Komagome Hosopital, Tokyo): Ongoing Myocardial Damage and Cardio-Renal Burden in Patients with Hypertensive Heart Disease wth Preserved LV Systolic Function . 第71回日本循環器学会総会・学術集会 , 2007 . 3 .
 - 25) Takayama M , Kitamura M , Yoshikawa M¹⁾ , Kawashima S , Yamamoto T¹⁾ , Fujita N , Fujimoto H , Takahashi Y , Yamamoto E , Takagi G , Ohno T , Aoki S , Asai K , Takano T (¹⁾CCU&ICU): Favorable Oc-

- currence of Procedure Related PTSCMA Complication in Consecutive 100 Cases : NMS Single Center Experience . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 26) Nakata J¹⁾, Sato N¹⁾, Takayama M, Tanaka K¹⁾, Takano T (¹⁾ Intensive&Cardiac Care Unit): Importance of Appropriate Pad Positioning of an AED . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 27) Sato N¹⁾, Takayama M, Nakata J¹⁾, Takano T, Tanaka K¹⁾ (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit): All Physicians are Reminded That an Automated External Defibrillator is not Perfect . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 28) Nakagomi A¹⁾, Aoki A¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Munakata R¹⁾, Tokita Y¹⁾, Uemura R¹⁾, Kodani E¹⁾, Yasutake M, Kusama Y¹⁾, Takayama M, Seino Y, Atarashi H¹⁾, Takano T (¹⁾ Tama Nagayama Hospital): Metabolic Syndrome Increases the Incidence of Heart Failure Associated with Subclinical Inflammation in Patients with Acute Coronary Syndromes . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 29) Takagi G, Miyamoto M, Yasutake M, Takagi I, Takano H, Katoh K¹⁾, Tara S, Ohtubo H, Tabata Y²⁾, Takano T (¹⁾ Coronary Care Unit , ²⁾ Department of Biomaterials, Institute for Frontier Medical Sciences, Kyoto): Protein Therapy Using Control-Released b-FGF in Patients with Ischemic Limbs : a Possible Alternative to Bone Marrow Mononuclear Cell Implantation . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 30) Munakata R¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Aoki A¹⁾, Shibui T¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Tokita Y¹⁾, Uemura R¹⁾, Takano H, Kodani E¹⁾, Asai K, Yasutake M, Kusama Y¹⁾, Takayama M, Atarashi H¹⁾, Takano T (¹⁾ Tama Nagayama Hospital): Peak White Blood Cell Count and Fasting Glucose are Independent Predictors of Cardiac Events in Patients with Acute Myocardial Infarction . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 31) Hosokawa Y¹⁾, Nakagomi A¹⁾, Aoki A¹⁾, Shibui T¹⁾, Tokita Y¹⁾, Munakata R¹⁾, Uemura R¹⁾, Takano H, Kodani E¹⁾, Aoki S, Asai K, Yasutake M, Kusama Y¹⁾, Takayama M, Atarashi H¹⁾, Takano T (¹⁾ Tama Nagayama): Peak White Blood Cell Count and Fasting Glucose are Independent Predictors of Left Ventricular Remodeling in Reperfused Acute Myocardial Infarction . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 32) Okazaki R, Iwasaki Y, Miyauchi Y, Kobayashi Y, Katoh T, Takano T, Sekiguchi A¹⁾, Yamashita T¹⁾ (¹⁾ The Cardiovascular Institute, Tokyo): Lipopolysaccharide Induces the Down-regulation of L-type Ca²⁺ channel Genes in Rat Atria . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 33) Fukuma N, Miura K, Ushijima A, Kanazawa H, Kimura Y, Tsuchida T, Aisu N, Mabuchi K, Miyatake Y, Kishida H, Takano T : Long Term Administration of Ascorbic Acid Induces to Decrease in Lactic Acid Production during Exercise in Patients after Myocardial Infarction . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 34) Miyauchi Y, Kobayashi Y, Horie T, Maruyama M, Iwasaki Y, Hirasawa Y, Taniguchi H, Tateoka K, Ueno A, Okazaki R, Murata H, Yamamoto T, Ohara T, Katoh T, Takano T : Electroanatomical Mapping and Catheter Ablation of Atrial Tachycardia Following Mitral Valve Surgery . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 35) Setsuta K¹⁾, Arai M¹⁾, Seino Y, Takano T (¹⁾ Department of Cardiology and Clinical Laboratory, Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Tokyo): Diabetes Mellitus is Related to Development of Ongoing Myocardial Damage and Poor Prognosis in Patients with Chronic Heart Failure . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 36) Nakagomi A¹⁾, Aoki A¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Munakata R¹⁾, Tokita Y¹⁾, Ishii K¹⁾, Otsuka T¹⁾, Uemura R²⁾, Kodani E¹⁾, Ibuki C²⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Takano T (¹⁾ Tama-nagayama Hospital , ²⁾ Chiba Hoku-so Hospital): Exercise Stress Myocardial Perfusion Scintigraphy Predicts Cardiac Events in Patients with

Vasospastic Angina . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .

- 37) Iwasaki Y , Yamashita T¹⁾, Sekiguchi A¹⁾, Tsuneda T¹⁾, Kato T¹⁾, Miyauchi Y , Kobayashi Y , katoh T , Takano T (¹⁾ The Cardiovascular Institute, Tokyo): Long-term Treatment with Olmesartan Reduced Aging-Related Interstitial Fibrosis of Rat Atria Inhomogeneously . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 38) Ueno A , Kobayashi Y , Murata H , Yamamoto T , Okazaki R , Tateoka K , Taniguchi H , Horie T , Abe J , Hirasawa Y , Yodogawa K , Iwasaki Y , Maruyama M , Miyauchi Y , Ohara T , Katoh T , Takano T : A Prospective Study on the Risk Stratification for Patients with Non-sustained Ventricular Tachycardia Using a Novel Algorithm . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 39) Iwasaki Yu-ki¹⁾, Miyauchi Y , Hirasawa Y¹⁾, Yodogawa K¹⁾, Katoh K¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Satoh N¹⁾, Tanaka K¹⁾, Kobayashi Y , Katoh T , Takano T (¹⁾ Cardiac Care Unit& Intensive Care Unit): Characteristics of Premature Ventricular Contractions Initiating Ventricular Tachyarrhythmia in Patients with Ischemic Heart Disease as Revealed by 12-Lead ECG Monitoring . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 40) Horie T¹⁾, Atarashi H¹⁾, Miyauchi Y , Kobayashi Y , Murata H , Yamamoto T , Okazaki R , Ueno A , Taniguchi H , Hirasawa Y , Iwasaki Y , Maruyama M , Katoh T , Takano T , Ohmori H²⁾, Nitta T²⁾ (¹⁾ Tama Nagayama , ²⁾ Department of Cardiovascular Surgery, Nippon Medical School): Post-operative Atrial Tachycardia Following Mitral Surgery via the Superior Transseptal Approach . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 41) Maruyama M , Kobayashi Y , Miyauchi Y , Yamamoto T , Murata H , Okazaki R , Ueno A , Tateoka K , Taniguchi H , Hirasawa Y , Iwasaki Y , Ohara T , Yashima M , Hirayama Y , Katoh T , Takano T , Horie T¹⁾, Miyamoto S¹⁾, Tadera T¹⁾, Ino T¹⁾ (¹⁾ Tama Nagayama Hospital): The Differential Overdrive Pacing : A Novel Diagnostic Method of Atrial Tachycardia Irrespective of Retrograde VA Conduction . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 42) Yodogawa K¹⁾, Ohara T , Morita N , Takayama H , Ohno N¹⁾, Miyauchi Y , Ibuki C¹⁾, Kobayashi Y , Mizuno K¹⁾, Katoh T , Takano T (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital): Detection of Latent Conduction Abnormalities in Right Ventricular Outflow Tract Tachycardia Using High Resolution Electrocardiogram . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 43) Yodogawa K¹⁾, Seino Y , Ohara T , Takayama H , Ohno N¹⁾, Ibuki C¹⁾, Kobayashi Y , Mizuno K¹⁾, Katoh T , Takano T (¹⁾ Chiba Hokusoh Hospital): Therapeutic Monitoring of Corticosteroids in Patients with Cardiac Sarcoidosis : Application of Signal Averaged Electrocardiography . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 44) Kamiya M¹⁾, Sato N¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Hirasawa Y¹⁾, Kato K¹⁾, Yoshiakwa M¹⁾, Murai K¹⁾, Takano T , Tanaka K¹⁾ (¹⁾ Intensive&Cardiac Care Unit): Management of Cardiorenal Syndrome in Acute Heart Failure with A-type Natriuretic Peptide -Prospective Study Compared to Conventional Therapy- . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 45) Nakagomi A¹⁾, Aoki A¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Munakata R¹⁾, Tokita Y¹⁾, Ishii K¹⁾, Otsuka T¹⁾, Uemura R¹⁾, Kodani E¹⁾, Ibuki C²⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Takano T (¹⁾ Tama Nagayama Hospital , ²⁾ Chiba Hokusoh Hospital): Inflammatory Reaction Plays Significant Roles in the Pathogenesis and Instability of Vasospastic Angina . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 46) Yamamoto T¹⁾, Murai K¹⁾, Kamiya M¹⁾, Yoshikawa M¹⁾, Kato K¹⁾, Hirasawa Y¹⁾, Iwasaki Yu-ki¹⁾, Sato N¹⁾, Tanaka K¹⁾, Tajim H²⁾, Takano T (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit , ²⁾ Department of Radiology): Thrombolysis with a Novel Modified t-PA, Monteplease, in Combination with Catheter Interven-

- tion for High-risk Patients with Acute Pulmonary Embolism . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 47) Murata H , Miyuchi Y , Kobayashi Y , Ohara T , Maruyama M , Iwasaki Y , Abe J , Hirasawa Y , Yodogawa K , Taniguchi H , Horie T , Tateoka K , Ueno A , Okazaki R , Ogano M , Yamamoto T , Katoh T , Takano T : The Incidence and Characteristics of Focal Atrial Tachycardia Resulting in Tachycardia-Induced Cardiomyopathy . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 48) Kato Y , Fukuma N , Takayama M , Kato K , Ushijima A , Aisu N , Tsuchida T , Mabuchi K , Manabe H , Takano T : Ventilatory Response during Exercise is Less Affected by Chemoreflex Sensitivity in HOCM Patients with Preserved LV Systolic Function . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 49) Nakagomi A¹⁾, Aoki A¹⁾, Hosokawa Y¹⁾, Munakata R¹⁾, Tokita Y¹⁾, Ishii K¹⁾, Otsuka T¹⁾, Uemura R²⁾, Kodani E¹⁾, Ibuki C³⁾, Kusama Y¹⁾, Atarashi H¹⁾, Takano T (¹⁾Tama Nagayama Hospital , ²⁾Chiba Hokuso Hospital): Exercise Stress Myocardial Perfusion Scintigraphy Predicts Cardiac Events in Patients with Vasospastic Angina . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 50) 安武ひろ子, 大野忠明, 藤本啓志, 東 春香, 松崎つや子¹⁾, 本間 博, 高野照夫 (¹⁾生理機能センター): 関節リウマチ患者におけるドプタミン負荷心エコーの有用性と特徴 . 第17回日本心エコー図学会学術集会, 2006 . 4 .
- 51) 藤本啓志, 大野忠明, 川中秀和, 東 春香, 安武ひろ子, 伊藤恵子, 松崎つや子¹⁾, 本間 博, 高野照夫 (¹⁾生理機能センター): 冠攣縮性狭心症に対するドプタミン負荷心エコーの検討 . 第17回日本心エコー図学会学術集会, 2006 . 4 .
- 52) 藤田進彦, 川嶋修司, 田中古登子, 宮本正章, 太田眞夫, 橋本英洋, 高野照夫, 渡邊恭子¹⁾, 古山景子¹⁾ (¹⁾看護部): 経口糖尿病薬と持効型インスリン・グラルギン併用療法の臨床効果 (経口糖尿病薬にてコントロールできない症例の場合). 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 2006 . 5 .
- 53) 手塚晶人¹⁾, 高山守正, 滝沢憲一²⁾, 安藤岳史³⁾, 中村 隆⁴⁾, 五十嶋一成⁵⁾ (¹⁾日本医科大学4年, ²⁾横浜市立大学市民医療センター, ³⁾日本医科大学麻酔科学, ⁴⁾中村病院, ⁵⁾山岳医学研究会): 中高年登山者における登山プロセスが標高2300mでの動脈血酸素化・脈拍数に及ぼす影響 . 2006年度日本登山医学会総会・第26回日本登山医学シンポジウム, 2006 . 5 .
- 54) 太良修平, 宮元亮子, 清水秀治, 高野仁司, 古明地弘和, 里村克章, 勝田悌実: 原発性胆汁性肝硬変に多発筋炎の合併が疑われる1例 . 第289回日本消火器病学会関東支部例会, 2006 . 5 .
- 55) 安武ひろ子, 大野忠明, 藤本啓志, 東 春香, 松崎つや子¹⁾, 本間 博, 高野照夫 (¹⁾生理機能センター): 関節リウマチ患者におけるドプタミン負荷心エコーの有用性と特徴 . 第79回日本超音波医学会学術集会, 2006 . 5 .
- 56) 岩崎雄樹, 宮内靖史, 小林義典, 林 明聡, 丸山光紀, 村田広茂, 岡崎怜子, 堀江 格, 谷口宏史, 上野 亮, 平澤泰宏, 淀川顕司, 加藤貴雄, 高野照夫, 新田 隆¹⁾, 新 博次²⁾ (¹⁾外科学第2, ²⁾多摩永山病院内科): 心内膜切除後の心外膜側残存心筋と心室瘤内残存心筋を含むマクロリエンリー性心筋梗塞後心室頻拍の1例 . 第36回臨床心臓電気生理研究会, 2006 . 5 .
- 57) 加藤浩司¹⁾, 山本 剛¹⁾, 藤田進彦¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 宮下正夫²⁾, 高野照夫 (¹⁾集中治療室, ²⁾外科学第1): 心嚢液貯留で発見された心臓血管肉腫に対して, 放射線療法, 免疫療法が著効し経過良好な1例 . 第200回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006 . 6 .
- 58) 吉田明日香, 宮内靖史, 小原俊彦, 清野精彦, 小林義典, 高野照夫, 竹永清人¹⁾, 永山 寛²⁾, 山崎峰雄²⁾, 田村浩一³⁾, 杉崎祐一³⁾ (¹⁾武蔵小杉病院内科, ²⁾内科学第2, ³⁾病理部): 持続性心室頻拍を伴う心筋炎を合併した多発性筋炎の1例 . 第200回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006 . 6 .
- 59) 宮本正章, 安武正弘, 水野博司¹⁾, 高野仁司, 高木 元, 加藤浩司, 太良修平, 多川政弘²⁾, 田畑泰彦³⁾, 高野照夫 (¹⁾日本医科大学形成外科学, ²⁾日本獣医畜産大学獣医外科, ³⁾京都大学再生医科学研究所): 重症難治性虚血肢に対する血管新生療法: 骨髄細胞, 徐放化蛋白による総合的治療戦略 . 第31回日本外科系連合学会学

術集会, 2006 . 6 .

- 60) 宮本正章, 高木 元, 高野仁司, 太良修平, 加藤浩司, 高木郁代, 安武正弘, 大坪春美, 水野博司¹⁾, 高野照夫⁽¹⁾形成外科学): 医療用無菌ウジ治療(マゴットセラピー)+自己骨髄幹細胞移植による血管新生療法+同種培養真皮+自家皮膚移植術併用療法により救肢しえた高齢者難治性糖尿病性壊疽の1例. 第23回糖尿病足病変研究会, 2006 . 6 .
- 61) 中込明裕¹⁾, 清野精彦⁽¹⁾多摩永山病院内科): CRPは炎症反応の鋭敏な指標であるが心血管系疾患の発症に直接関与している. 第27回日本炎症・再生医学会, 2006 . 7 .
- 62) 田中古登子, 清野精彦, 福本裕子, 太田眞夫, 猪口孝一¹⁾, 高野照夫⁽¹⁾内科学第3): 循環器疾患における凝固機能評価の重要性と各種凝固因子低下症に対する対策. 第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2006 . 8 .
- 63) 小原賢司¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 村井網児¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 宮内靖史, 丸山光紀, 谷口宏史, 岡崎玲子, 村田広茂, 山本哲平, 小林義典, 高野照夫, 新田 隆¹⁾, 副島京子³⁾, 谷本耕司郎³⁾(¹⁾日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾同外科学第2, ³⁾慶應義塾大学呼吸循環器内科): 薬剤抵抗性難治性心室頻拍に対しカテーテルアブレーションおよび開胸クライオアブレーションが奏功した1例. 第201回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006 . 9 .
- 64) 宮元亮子, 古明地弘和, 清水秀治, 里村克章, 勝田悌実: C型肝硬変, 肝細胞癌に門脈下大静脈シャントを合併し, コイルによるシャント塞栓術を施行した1例. 第13回日本門脈圧亢進症学会総会, 2006 . 9 .
- 65) 中込明裕¹⁾, 清野精彦, 宗像 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 石井健輔¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 高野照夫⁽¹⁾多摩永山病院内科): CRP 刺激時の単球上ケモカイン発現亢進は慢性心不全患者の心不全悪化に関与する. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 66) 宗像 亮¹⁾, 中込明裕¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 石井健輔¹⁾, 吉田博史¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾, 高野照夫⁽¹⁾多摩永山病院内科・循環器内科): メタボリックシンドロームは冠動脈硬化症の範囲と心事故を増やす. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 67) 中込明裕¹⁾, 山本英世, 宗像 亮¹⁾, 時田祐吉¹⁾, 石井健輔¹⁾, 小谷英太郎¹⁾, 草間芳樹¹⁾, 高山守正, 精野精彦, 新 博次¹⁾, 高野照夫⁽¹⁾多摩永山病院内科): メタボリックシンドロームは急性冠症候群患者の心不全発症に関与する. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 68) 松崎つや子¹⁾, 本間 博, 藤本啓志, 東 春香, 安武ひろ子, 横島友子, 伊藤恵子, 大野忠明, 高野照夫⁽¹⁾生理機能センター): ドブタミン負荷による心筋虚血誘発時の収縮期strainパターン, 特に収縮早期の心筋伸展の意義. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 69) 佐藤直樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 村井網児¹⁾, 高野照夫, 田中啓治¹⁾(¹⁾集中治療室): 急性心不全治療におけるA型ナトリウム利尿ペプチドの腎保護効果に影響を与える因子の検討. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 70) 板倉潮人¹⁾, 小野卓哉, 佐藤直樹, 小林義典, 田中啓治²⁾, 加藤貴雄, 高野照夫⁽¹⁾同愛記念病院循環器内科, ²⁾日本医科大学付属病院集中治療室): 時間的QT変動は心房細動を有する心疾患の予後に貢献するか?. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 71) 加藤浩司¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高野照夫⁽¹⁾集中治療室): 軽度腎障害患者の造影剤腎症に対するシスタチンCの有用性. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 72) 菅谷寿理¹⁾, 福岡長知, 加藤政利¹⁾, 加藤和代, 土田貴也, 馬淵浩輔, 斉藤公一¹⁾, 本間 博, 岸田 浩, 高野照夫⁽¹⁾生理機能センター): 軽症心筋梗塞患者における抑うつが自律神経機能および酸化ストレスに及ぼす影響. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 73) 淀川顕司, 清野精彦, 小原俊彦, 高山英男, 小林義典, 加藤貴雄, 高野照夫: サルコイドーシス患者における潜在性心筋病変の検出. 第54回日本心臓病学会学術集会, 2006 . 9 .
- 74) 加藤浩司¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 山本 剛¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高野照夫⁽¹⁾集中治療室): 軽度

- 腎障害患者の造影剤腎症に対するシスタチンCの有用性．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 75) 山本英世，高野仁司，田島廣之¹⁾，菊池有史，北村光信，吉田明日香，佐々木朝子，川嶋修二，高橋保裕，田辺潤²⁾，高木元，藤田進彦，青木聡，浅井邦也，横山広之²⁾，安武正弘，高山守正，高野照夫（¹⁾放射線科，²⁾静岡医療センター循環器科）：経皮的腎血管形成術の血圧及びBNPに与える影響．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 76) 真鍋宏美，福間長知，牛島明子，加藤和代，加藤祐子，愛須紀子，土田貴也，馬淵浩輔，高野照夫：圧受容体反射感受性の差異による運動負荷時血圧応答の変化．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 77) 上野亮，小林義典，加藤貴雄，高野照夫：新たなアルゴリズムを用いた突然死リスク評価とその有用性：非持続性心室頻拍での検討．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 78) 小野卓哉，板倉潮人¹⁾，藤田進彦，田中古登子，本間博，宮本正章，小林義典，太田眞夫，加藤貴雄，高野照夫：Pioglitazoneの心筋再分極過程に対する経時的変化の検討．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 79) 牛島明子，福間長知，真鍋宏美，加藤和代，加藤祐子，愛須紀子，土田貴也，馬淵浩輔，高野照夫：圧受容体反射を介した交感神経興奮異常による運動耐容能障害．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 80) 北村光信，高山守正，菊池有史，吉田明日香，佐々木朝子，藤本啓志，山本英世，川嶋修司，高橋保裕，高木元，藤田進彦，高野仁司，青木聡，浅井邦也，佐藤直樹，安武正弘，高野照夫：左室内圧較差の著明でない症候性閉塞性肥大型心筋症へのニトログリセリン静注負荷試験の有用性．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 81) 佐藤直樹¹⁾，山本剛¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，平澤泰宏¹⁾，加藤浩司¹⁾，吉川雅智¹⁾，神谷仁孝¹⁾，村井網児¹⁾，高野照夫，田中啓治¹⁾（¹⁾集中治療室）：急性心不全治療におけるA型ナトリウム利尿ペプチドの腎保護効果に影響を与える因子の検討．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 82) 加藤政利¹⁾，福間長知，菅谷寿理¹⁾，牛島明子，真鍋宏美，加藤祐子，愛須紀子，斉藤公一¹⁾，本間博，高野照夫（¹⁾生理機能センター）：運動負荷中に測定された経皮炭酸ガス分圧変動の意義．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 83) 大野忠明，藤本啓志，東春香，安武ひろ子，横島友子，福間祐美子，伊藤恵子，松崎つや子¹⁾，本間博，高野照夫（¹⁾生理機能センター）：ドブタミン負荷心エコー中に出現する心房細動に対するアンジオテンシンII受容体拮抗薬の検討．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 84) 山本剛¹⁾，田島廣之²⁾，村井網児¹⁾，神谷仁孝¹⁾，吉川雅智¹⁾，加藤浩司¹⁾，平澤泰宏¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，佐藤直樹¹⁾，田中啓治¹⁾，高野照夫（¹⁾集中治療室，²⁾放射線科）：急性広範性および亜広範性肺塞栓症に対する一時期型下大静脈フィルターの有効性．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 85) 福間長知，菅谷寿理¹⁾，加藤和代，牛島明子，真鍋宏美，加藤祐子，愛須紀子，土田貴也，馬淵浩輔，宮武佳子，岸田浩，高野照夫（¹⁾生理機能センター）：心筋梗塞後の酸化ストレスが増大した状況におけるアスコルビン酸摂取とPentosidine増加の関係．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 86) 太良修平，高木元，高木郁代，大坪春美，安武正弘，高野仁司，加藤浩司¹⁾，田畑泰彦²⁾，宮本正章，高野照夫（¹⁾日本医科大学付属病院集中治療室，²⁾京都大学再生医科学研究所生体組織工学研究生体材料学）：末梢血管疾患に対する徐放化basic FGFを用いた蛋白治療の安全性と有効性の検討．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 87) 宮本正章，高木元，太良修平，加藤浩司，高野仁司，安武正弘，高野照夫，水野博司¹⁾，田畑泰彦²⁾，小守忍³⁾，多川政弘⁴⁾，工藤圭介⁴⁾（¹⁾日本医科大学付属病院美容外科・形成外科，²⁾京都大学再生医科学研究所，³⁾岩手大学小動物外科，⁴⁾日本獣医生命科学大学獣医外科）：自己骨髄幹細胞及び徐放性b-FGFハイドロゲル浸透人工真皮による組織再生療法．第9回日本組織工学会，2006．9．
- 88) 中込明裕¹⁾，山本英世，宗像亮¹⁾，時田祐吉¹⁾，石井健輔¹⁾，小谷英太郎¹⁾，草間芳樹¹⁾，高山守正，清野精彦，新博次¹⁾，高野照夫（¹⁾多摩永山病院内科）：メタボリックシンドロームは急性冠症候群患者の心不全発

- 症に關与する．第54回日本心臓病学会，2006．9．
- 89) 加藤浩司¹⁾，佐藤直樹¹⁾，山本 剛¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，吉川雅智¹⁾，田中啓治¹⁾，高野照夫^{(1)集中治療室}): 軽度腎障害患者の造影剤腎症に対するシスタチンCの有用性．第10回日本心不全学会，2006．10．
- 90) 高木 元，宮本正章，安武正弘，高木郁代，高野仁司，加藤浩司，太良修平，米田正始，田畑泰彦，高野照夫: 末梢動脈閉塞性疾患に対する徐放化basic-FGF血管再生臨床研究: 有効性と安全性の検討．第47回日本脈管学会，2006．10．
- 91) 加藤政利¹⁾，福岡長知，菅谷寿理¹⁾，牛島明子，加藤裕子，愛須紀子，齊藤公一¹⁾，本間 博，高野照夫^{(1)生理機能センター}): 安静及び運動負荷時の過換気負荷に対する経皮炭酸ガス分圧の変化．第43回日本臨床生理学会総会，2006．11．
- 92) 菅谷寿理¹⁾，福岡長知，加藤政利¹⁾，真鍋宏美，加藤和代，土田貴也，馬淵浩輔，齊藤公一¹⁾，本間 博，清野精彦，高野照夫^{(1)生理機能センター}): 睡眠時無呼吸症候群における経皮炭酸ガス分圧測定の有用性．第43回日本臨床生理学会総会，2006．11．
- 93) 小橋啓一¹⁾，加藤浩司¹⁾，山本 剛¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，平澤泰宏¹⁾，吉川雅智¹⁾，神谷仁孝¹⁾，村井網児¹⁾，佐藤直樹¹⁾，田中啓治¹⁾，浅井邦也，高野照夫^{(1)集中治療室}): 動脈管開存症を合併した非マルファン産褥期大動脈解離の1例．第202回日本循環器学会関東甲信越地方会，2006．12．
- 94) 岡崎怜子，山本哲平，小杉宗範，平澤泰宏，岩崎雄樹，丸山光紀，高野仁司，宮内靖史，小林義典，加藤貴雄，高野照夫: 下壁および前胸部誘導でJ波を伴うST上昇と頻回の多形性心室頻拍を認めたBrugada症候群の1例．第202回日本循環器学会関東甲信越地方会，2006．12．
- 95) 太良修平，丸山光紀，小林義典，藤本啓志，小鹿野道雄，平澤泰宏，大野忠明，高木 元，高野仁司，安武正弘，本間 博，加藤貴雄，高野照夫: QT延長を伴った心筋緻密化障害の1例．第202回日本循環器学会関東甲信越地方会，2006．12．
- 96) 岩崎雄樹¹⁾，吉川雅智¹⁾，加藤浩司¹⁾，平澤泰宏¹⁾，山本 剛¹⁾，佐藤直樹¹⁾，田中啓治¹⁾，小林義典，加藤貴雄，高野照夫^{(1)集中治療室}): 当院集中治療室における抗不整脈薬の使用状況．第34回日本集中治療医学会学会，2007．3．
- 97) 神谷仁孝¹⁾，佐藤直樹¹⁾，山本 剛¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，加藤浩司¹⁾，平澤泰宏¹⁾，吉川雅智¹⁾，村井網児¹⁾，高野照夫，田中啓治¹⁾，^{(1)集中治療室}): 急性心不全における腎尿細管障害マーカー測定の意義．第34回日本集中治療医学会学会，2007．3．
- 98) 坂本幸子¹⁾，佐藤直樹²⁾，村井網児²⁾，山本 剛²⁾，岩崎雄樹²⁾，加藤浩司²⁾，平澤泰宏²⁾，吉川雅智²⁾，高野照夫，田中啓治²⁾，^{(1)治験推進室}，^{(2)集中治療室}): 循環器集中治療入室患者の腎機能悪化に關与する背景因子の検討．第34回日本集中治療医学会学会，2007．3．
- 99) 山本 剛¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，佐藤直樹¹⁾，竹田晋浩¹⁾，田中啓治¹⁾，高山守正，安武正弘，清野精彦，高野照夫，田島廣之²⁾，^{(1)集中治療室}，^{(2)放射線医学}): 血栓溶解療法が相対的に禁忌な重症急性肺塞栓症に対する血栓溶解薬投与法の検討．第34回日本集中治療医学会学会，2007．3．
- 100) 村井網児¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，神谷仁孝¹⁾，吉川雅智¹⁾，加藤浩司¹⁾，平澤泰宏¹⁾，山本 剛¹⁾，佐藤直樹¹⁾，田中啓治¹⁾，高野照夫^{(1)集中治療室}): 集学的な循環器治療によって救命しえたElectrical Stormの1例．第34回日本集中治療医学会学会，2007．3．
- 101) 加藤浩司¹⁾，山本 剛¹⁾，岩崎雄樹¹⁾，平澤泰宏¹⁾，吉川雅智¹⁾，神谷仁孝¹⁾，村井網児¹⁾，佐藤直樹¹⁾，田中啓治¹⁾，高野照夫^{(1)集中治療室}): 閉塞性肥大型心筋症による重症急性循環不全に対して急性期心房同期心室ペーシングを行い救命できた二症例．第34回日本集中治療医学会学会，2007．3．
- 102) 太良修平，高木 元，加藤浩司¹⁾，高野仁司，高木郁代，安武正弘，宮本正章，高野照夫^{(1)集中治療室}): 自己骨髓幹細胞移植による血管再生治療後の下肢切断予測因子の検討．第6回日本再生医療学会総会，2007．3．
- 103) 川中秀和，安田文彦，田中古登子，高木 元，古明地弘和，宮本正章，勝田悌実，高野照夫: チャーグストラ

ウス症候群に合併した下腿潰瘍に徐放化b-FGFハイドロゲル浸透人工真皮による血管再生治療が有効であった1例．第543回日本内科学会関東地方会，2007．3．

(6) 症例報告：

- 1) 高野仁司，高山守正，菊池有史，北村光信，吉田明日香，佐々木朝子，山本英世，川嶋修司，藤田進彦，高木元，青木 聡，浅井邦也，安武正弘，高野照夫：左冠動脈主幹部分岐部病変に対するステント留置術症例の検討 比較的大きな中間枝をどう処理するか？．第28回日本インターベンション学会関東甲信越地方会，2006．5．

(7) Morning Session：

- 1) Takano H, Taniguchi H, Asai K, Yoshikawa M, Iwasaki Y, Takayama M : Successful Balloon Valvuloplasty in Conjunction with Intra-Aortic Balloon Pumping in an Octogenarian who Developed Cardiogenic Shock due to Severe Aortic Valve Stenosis . Transcatheter Cardiovascular Therapeutics2006 (Washington, DC, USA), 2006 . 10 .

[付属病院老人科]

研究概要

高齢者の糖尿病，動脈硬化，脂質代謝異常，肥満，高血圧症，自律神経機能および認知症などに関する臨床的研究を行った．糖尿病に関して，1) コレスチミドの血糖降下作用がアカルボ - スに匹敵することおよび内臓脂肪の減少効果を明らかにした．2) 食後血糖値の指標としての1,5 AGの有用性を頸動脈超音波所見との関連から明らかにした．3) 住民健診によるOGTTの耐糖能異常発症予測因子としての有用性を経年観察結果により検討した．4) 厚生労働省長寿科学総合研究「高齢者糖尿病に対する総合診療体制確立のための総合研究 - 無作為化比較研究 (J-EDIT) を中心に」の経年観察を行った．5) SU薬の低血糖からみた安全性および投与法を製剤間で比較検討した．6) 自律神経機能の評価法としてのウエーブレット解析の有用性を細小血管障害との関連から検討した．

動脈硬化に関して，1) ハイリスク高齢者の脳梗塞型別の頸動脈超音波所見を比較し，その特徴を明らかにした．2) 超高齢者のIMT測定の臨床的意義を検討した．脂質代謝異常に関して，1) 高齢者におけるプラスタチンの心血管病変発症抑制効果を明らかにした (PATE Study)．2) 後期高齢者の頸動脈超音波所見と脂質代謝異常との関連を検討した．肥満に関して，コレステミドの内臓脂肪減少効果と各種サイトカインの変動を明らかにした．

高血圧症に関して，1) 高齢者高血圧コホート研究：高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度，高血圧合併症との関連臨床コホート研究 (J-CHEARS) を行った．2) ARBと利尿薬およびCa拮抗薬とARBの併用療法 (J-SUC-CESS) の有用性を明らかにした．自律神経機能に関して，高齢者のウエーブレット解析の臨床的有用性を検討した．認知症に関して，専門施設における認知症タイプ別の死因調査を行った．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shimamoto K¹⁾, Kita T²⁾, Mabuchi H³⁾, Matsuzaki M⁴⁾, Matsuzawa Y⁵⁾, Nakaya N⁶⁾, Oikawa S⁷⁾, Saito Y⁸⁾, Sasaki J⁹⁾, Itakura H¹⁰⁾, the J-LIT Study G (¹⁾ Sapporo Medical University School of Medicine , ²⁾ Kyoto University Graduate School of Medicine , ³⁾ Kanazawa University Graduate School of Medicine , ⁴⁾ Yamaguchi University Graduate School of Medicine , ⁵⁾ Osaka University Graduate School of Medicine , ⁶⁾ Nakaya Clinic , ⁷⁾ Nippon Medical School , ⁸⁾ Chiba University Graduate School of Medicine , ⁹⁾ International University Graduate School of Health and Welfare , ¹⁰⁾ Ibaraki Christian University) : The risk of cardiovascular events in Japanese hypertensive patients with hypercholesterolemia : Sub-analysis of the Japan Lipid Intervention Trial (J-LIT) Study, a large-scale observational cohort study . Hypertens Res 2005 ; 28

(11): 879-887 .

- 2) Watanabe K , Suzuki T , Nakano H , Oba K : Usefulness of carotid parameters measured by ultrasonography as a marker of atherothrombotic infarction and lacunar infarction in high-risk elderly people . *Geriatr Gerontol Int* 2006 ; 6 (1): 87-93 .
- 3) Ouchi Y¹⁾ , Ohashi Y²⁾ , Ito H³⁾ , Saito Y⁴⁾ , Ishikawa T⁵⁾ , Akishita M¹⁾ , Shibata T⁶⁾ , Nakamura H⁷⁾ , Orimo H⁸⁾ , for the PATE I (¹⁾ Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine, University of Tokyo , ²⁾ Department of Biostatistics/Epidemiology and Preventive Health Sciences, School of Health Sciences and Nursing, University of Tokyo , ³⁾ Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital , ⁴⁾ Department of Clinical Cell Biology, Graduate School of Medicine, Chiba University , ⁵⁾ Wellness Center, Sony Corporation , ⁶⁾ Statistics and Cancer Center Control Division, Research Center for Cancer Prevention and Screening, National Cancer Center , ⁷⁾ Mitsukoshi Health and Welfare Foundation , ⁸⁾ Health Science University): Influence of age, sex, and LDL-C change on cardiovascular risk reduction with pravastatin treatment in elderly Japanese patients : a post hoc analysis of data from the Pravastatin Anti-atherosclerosis Trial in the Elderly (PATE). *Current Therapeutic Research* 2006 ; 67 (4): 241-256 .
- 4) Dan K¹⁾ , Kimura Y²⁾ , Usui N³⁾ , Okamoto S⁴⁾ , Sugihara T⁵⁾ , Takai K⁶⁾ , Masuda M⁷⁾ , Mori M⁸⁾ , the Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study G (¹⁾ Department of Hematology , ²⁾ First Department of Medicine, Tokyo Medical University , ³⁾ Department of Hematology/Oncology, The Jikei University School of Medicine , ⁴⁾ Department of Hematology, Keio University School of Medicine , ⁵⁾ Department of Hematology, Kawasaki Medical School , ⁶⁾ Department of Hematology, Niigata City General Hospital , ⁷⁾ Department of Hematology, Tokyo Women ' s Medical University , ⁸⁾ Department of Hematology, Tokyo Metropolitan Geriatric Hospital): Clinical features of polycythemia vera and essential thrombocythemia in Japan : retrospective analysis of a nationwide survey by the Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group . *Int J Hematol* 2006 ; 83 (7): 443-449 .
- 5) Suzuki T , Oba K , Furtami S , Suzuki K , Ouchi M , Igari Y , Matsumura N , Watanabe K , Kigawa Y , Nakano H : Blood glucose-lowering activity of colestimide in patients with type 2 diabetes and hypercholesterolemia ; A case-control comparing colestimide with acarbose . *J Nippon Med Sch* 2006 ; 73 (5): 277-284 .
- 6) Oba K , Inuzuka U , Yamashita-Onodera N , Watanabe K , Matsumura N , Igari Y , Suzuki T , Nakano H : Lower occurrence of low blood glucose level in elderly type 2 diabetic patients treated with gliclazide versus glibenclamide . *Geriatr Gerontol Int* 2007 ; 7 (1): 91-93 .
- 7) 二見章子 , 伊藤公亮 , 鈴木一成 , 野呂瀬準 , 三村成巨 , 山下直子 , 松村典昭 , 鈴木達也 , 中野博司 : 大腸癌を合併した高齢中枢神経系原発悪性リンパ腫の疑診例 . *老年者造血管器疾患研究会会誌* 2005 ; 14 (2): 3-7 .
- 8) 中野博司 , 渡邊健太郎 , 松村典昭 , 猪狩吉雅 , 鈴木達也 , 大庭建三 : 高齢者高血圧患者におけるバルサルタン 80mg錠からロサルタン 50mg錠とヒドロクロロチアジド錠 12. 5mgの併用療法への変更による降圧効果の検討 . *血圧* 2006 ; 13 (12): 1361-1365 .

(2) 綜説 :

- 1) Suzuki T , Oba K , Futami-Suda S , Suzuki K , Ouchi M , Igari Y , Matsumura N , Watanabe K , Kigawa Y , Nakano H : The effect of colestimide on blood-lowering activity and body weight in patients with type 2 diabetes and hypercholesterolemia . *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (1): 81-84 .
- 2) 大庭建三 , 大内基司 , 山下直子 , 松村典昭 , 渡邊健太郎 , 猪狩吉雅 , 中野博司 : 高齢化社会の高脂血症 エビデンスからみた高脂血症の診療の実際 . *Prog Med* 2006 ; 26 (5): 1092-1101 .
- 3) 中野博司 : 高齢者のアルツハイマー病の治療と対応 . *日医大医学会誌* 2006 ; 2 (3): 145-147 .

- 4) 中野博司：認知症と糖尿病．CDEJ News Letter 2006；(11)：7-7．
- 5) 大庭建三，加島直人¹⁾(¹⁾医療連携室)：臨床医にとってのセカンドオピニオン；提供する立場から；大学病院におけるセカンドオピニオンの問題点．医学のあゆみ 2006；21(7-8)：703-706．
- 6) 中野博司，大庭建三：メタボリック・シンドローム．都薬剤誌 2006；28(9)：10-15．
- 7) 大庭建三：耐糖能異常合併高脂血症．Medicament News 2006；(1882)：10-11．
- 8) 中野博司：「後期高齢者」について．日医大医会誌 2007；3(1)：46-46．

(3) 研究報告書：

- 1) 大内耐義¹⁾，大橋靖雄²⁾，小島太郎¹⁾，桑島 巖³⁾，島田和幸⁴⁾，宗像正徳⁵⁾，山科 章⁶⁾，J-CHEARS study グループ (¹⁾東京大学加齢医学講座，²⁾東京大学疫学予防保健学，³⁾東京都老人医療センター内科，⁴⁾自治医科大学循環器内科，⁵⁾東北労災病院勤労者予防センター，⁶⁾東京医科大学第二内科)：高齢者高血圧コホート研究 (J-CHEARS Study)．公益信託日本動脈硬化予防研究基金平成17年度研究報告集 2006；pp75-76．
- 2) 大庭建三，犬塚有紀，鈴木達也，中野博司：高齢糖尿病患者におけるグリベンクラミドとグリクラジドの血糖コントロールに対する安全性の比較検討．平成18年度厚生労働科学研究費補助金；長寿科学総合研究事業「高齢者糖尿病に対する総合診療体制確立のための総合的研究 無作為化比較研究 (J-EDIT) を中心に」平成18年度総括研究報告書 2007；pp74-84．
- 3) 大庭建三，木川好章，鈴木達也，中野博司：グリベンクラミドおよびグリクラジドの投与方法に関する検討 1回および2分割投与時の血糖日内変動からの比較．平成18年度厚生労働科学研究費補助金；長寿科学総合研究事業「高齢者糖尿病に対する総合診療体制確立のための総合的研究 無作為化比較研究 (J-EDIT) を中心に」平成17年度 18年度総合研究報告書 2007；pp90-98．

著 書

- 1) 大庭建三，松村典昭，中野博司：〔分担〕高齢者におけるインスリン分泌促進薬の使い方．インスリン分泌促進薬；SU薬とグリニド (清野 裕)，2006；pp84-87，フジメディカル出版．
- 2) 中野博司：〔分担〕高齢者の肥満治療を必要とした症例．症例から学ぶ肥満症治療：専門医が教える25のチェックポイント (武城英明)，2006；pp92-97，診断と治療社．
- 3) 下門顕太郎¹⁾，大庭建三，中野博司ほか (¹⁾東京医科歯科大学内科学)：〔編集〕老年医学update 2006-07 (日本老年医学会雑誌編集委員会)，2006；メジカルビュー社．
- 4) 大庭建三，中野博司：〔分担〕内分泌・代謝疾患．老年学テキスト (飯島 節，鳥羽研二)，2006；pp127-138，南江堂．

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 松村典昭：自律神経機能検査の臨床への応用．第3回千駄木高齢者疾患研究会，2006．4．
- 2) 鈴木達也：メタボリックシンドロームにおける高脂血症，糖尿病治療．第3回千駄木高齢者生活習慣病研究会，2006．4．
- 3) 鈴木達也：高コレステロール血症を有する2型糖尿病患者におけるコレステミドの血糖低下および抗肥満作用について．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．

(2) シンポジウム：

- 1) Nakano H，Watanabe K，Oba K：Carotid artery intima-media thickness in 65-100 years old．14th International Symposium on Atherosclerosis (Rome)，2006．6．
- 2) 大内基司，鈴木達也，中野博司：高齢者と生活習慣病；食後高血糖の指標としての1,5AG加齢変化について．第9回Geriatric Medical Frontier Forum，2006．10．

(3) セミナー :

- 1) 大庭建三: 耐糖能異常合併高脂血症患者の治療. 第48回日本老年医学会学術集会, 2006. 6.

(4) ワークショップ:

- 1) 大田雅嗣¹⁾, 高德正昭²⁾, 村井善郎³⁾, 竹内 誠⁴⁾, 佐分利能生⁵⁾, 鈴島 仁⁶⁾, 辰巳陽一⁷⁾, 松島孝文⁸⁾, 伊藤良和⁹⁾, 森真由美¹⁰⁾, 高齢者血液腫瘍研究会 (¹⁾ 東京都老人医療センター血液科, ²⁾ 自治医科大学血液科, ³⁾ 多摩北部医療センター血液科, ⁴⁾ 国立病院機構南岡山医療センター血液内科, ⁵⁾ 大分県立病院血液内科, ⁶⁾ NTT西日本九州病院免疫血液科, ⁷⁾ 近畿大学血液内科, ⁸⁾ 群馬大学大学院生体統御内科学, ⁹⁾ 東京医科大学血液内科, ¹⁰⁾ 多摩北部医療センター): 白血病 (臨床試験): 高齢者 AML128 症例に対する BHAC/IDR, BHAC/DM 寛解導入療法の無作為比較多施設共同研究 (JELLSG, E-AML-01). 第68回日本血液学会総会・第48回日本臨床血液学会総会合同総会, 2006. 10.

(5) 一般講演:

- 1) Otsuka K¹⁾, Watanabe Y¹⁾, Yatagai S²⁾, Sakamoto T³⁾, Watanabe K, Sudo H⁴⁾, Kurai A⁵⁾, Nakatu T⁶⁾, ad hoc working group (¹⁾ Department of Medicine, Tokyo Women's Medical University Medical Center East, ²⁾ Yatagai Clinic, ³⁾ Sakamoto Clinic, ⁴⁾ Johoku Medical Clinic, ⁵⁾ Kurai Clinic, ⁶⁾ Department of Cardiology, Kagawa Saiseikai Hospital): Study of usefulness of combination therapy of Ca antagonist and angiotensin II receptor antagonist in essential hypertensive patients (J-SUCCESS). The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Fukuoka), 2006. 10.
- 2) Watanabe K, Nakano H, Matsumura N, Igari Y, Oba K : The efficacy and safety of the combination therapy of losartan with low-dose hydrochlorothiazide in elderly hypertensive patients . The 21st Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Fukuoka), 2006. 10.
- 3) 鈴木達也, 二見章子, 鈴木一成, 松村典昭, 猪狩吉雅, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 木川好章, 奥山 裕, 中野博司, 大庭建三: 高コレステロール血症を有する糖尿病患者の脂肪肝, 内臓脂肪および各種サイトカインに対するコレステミドの影響の検討. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会 2006. 5.
- 4) 松村典昭, 猪狩吉雅, 澗瀧由美子, 斉藤好史, 二見章子, 関水憲一, 山本祐子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: ウエーブレット解析を用いた自律神経機能と年齢および糖尿病性細小血管症との関係. 第103回日本内科学会講演会, 2006. 4.
- 5) 犬塚有紀, 渡邊健太郎, 斉藤好史, 関水憲一, 野呂瀬準, 中谷千瑞子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 1, 5-Anhydroglucitol (1. 5 AG) と頸動脈超音波所見との関連: 非糖尿病患者の断面調査による検討. 第103回日本内科学会講演会, 2006. 4.
- 6) 渡邊健太郎, 奥山 裕, 澗瀧由美子, 犬塚有紀, 大内基司, 安岡比呂子, 吉松寛臣, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 地域住民健診にて75gOGTTを用いた正常耐糖能群における耐糖能障害移行の予測因子. 第103回日本内科学会講演会, 2006. 4.
- 7) 山下直子, 鈴木一成, 吉松寛臣, 大内基司, 渡邊健太郎, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 後期高齢者の頸動脈超音波所見の経年変化: 脂質代謝異常との関連からの検討. 第103回日本内科学会講演会, 2006. 4.
- 8) 松村典昭, 山本祐子, 関水憲一, 野呂瀬準, 森下千瑞子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: ウエーブレット解析による心拍変動解析の臨床的有用性. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 2006. 5.
- 9) 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 吉松寛臣, 安岡比呂子, 大内基司, 山下直子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 1, 5-Anhydroglucitol (1, 5AG) と頸動脈超音波所見との関連: 非糖尿病患者の断面調査による検討. 第49回日本糖尿病学会年次学術集会, 2006. 5.
- 10) 渡邊健太郎, 関水憲一, 二見章子, 山下直子, 澗瀧由美子, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三: 高齢者の1, 5-Anhydroglucitol (1, 5AG) と頸動脈超音波所見との関連. 第48回日本老年医学会学術集会, 2006. 6.
- 11) 中野博司, 山下直子, 渡邊健太郎, 犬塚有紀, 森下千瑞子, 鈴木一成, 鈴木達也, 大庭建三: 超高齢者の頸動

- 脈内中膜複合体厚：関連因子の年代別の検討．第48回日本老年医学会学術集会，2006．6．
- 12) 松村典昭，山本祐子，野呂瀬準，吉松寛臣，大内基司，鈴木達也，中野博司，大庭建三：ウエーブレット解析による心拍変動の臨床的有用性の検討．第48回日本老年医学会学術集会，2006．6．
 - 13) 野呂瀬準，鈴木達也，倉辻公美，二見章子，大内基司，中野博司，大庭建三，村田雄一¹⁾，鯉淵 仁¹⁾，木川好章⁽¹⁾ 飯能好友病院)：重度高齢認知症患者のタイプ別死因についての検討：断面調査による検討．第48回日本老年医学会学術集会，2006．6．
 - 14) 鈴木達也，中野博司，大庭建三：高コレステロール血症を有する2型糖尿病患者におけるコレステミドの血糖および肥満に及ぼす影響．第4回東日本胆汁酸研究会，2006．7．
 - 15) 鈴木達也：コレステミドによる2型糖尿病患者の血糖低下効果および肥満改善効果についての研究．第7回老年疾患研究会，2006．7．
 - 16) 寺本民生¹⁾，LIVES Study G⁽¹⁾ 帝京大学内科)：ピタバスタチンの使用成績調査(LIVES Study)第1報．第38回日本動脈硬化学会総会・学術集会，2006．7．
 - 17) 小原 信，角田美佐子，鈴木一成，山下直子，猪狩吉雅，鈴木達也，中野博司，大庭建三，藤原ゆり¹⁾，恩田宗彦²⁾，内藤善哉¹⁾，岡崎 優²⁾，田上素子²⁾，橋本雅夫⁽¹⁾ 病理学第2，²⁾ 研修医)：血痰を主訴に受診した高齢者解離性大動脈瘤の1例．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
 - 18) 須田章子，森下千瑞子，山本裕子，渡邊健太郎，鈴木達也，中野博司，大庭建三：胃食道逆流症により胃食道吻合部の高度狭窄をきたした1例．第44回日本老年医学会関東甲信越地方会，2006．9．
 - 19) 角田美佐子，野呂瀬準，大内基司，山下直子，鈴木達也，中野博司，大庭建三：発熱のみを臨床症状とした高齢者亜急性甲状腺炎の1例．第44回日本老年医学会関東甲信越地方会，2006．9．
 - 20) 安岡比呂子，関水憲一，松村典昭，犬塚有紀，鈴木達也，中野博司，大庭建三：呼吸困難で発症した高齢高カルシウム血症の1例．第44回日本老年医学会関東甲信越地方会，2006．9．
 - 21) 伊藤 民，鈴木達也，中野博司，大庭建三：インスリンとSU剤の併用療法が有効と思われた高齢者2型糖尿病の2例．第44回日本老年医学会関東甲信越地方会，2006．9．
 - 22) 小原 信，猪狩吉雅，松村典昭，鈴木達也，中野博司，大庭建三，田村浩一¹⁾，横尾英明²⁾(¹⁾ 日本医科大学病理部，²⁾ 群馬大学病理学第一)：プリオン蛋白遺伝子codon180の点変異(V180I)とcodon129の正常多型を認めたCreutzfeldt-Jacob病(CJD)の1例．第44回日本老年医学会関東甲信越地方会，2006．9．
 - 23) 大塚邦明¹⁾，渡辺尚彦¹⁾，谷田貝茂雄²⁾，坂本俊雄³⁾，渡邊健太郎，須藤秀明⁴⁾，倉井 亮⁵⁾，中津高明⁶⁾，Ad Hoc Working G⁽¹⁾ 東京女子医科大学東医療センター，²⁾ やたがいくリニック，³⁾ 坂本クリニック，⁴⁾ 城北診療所，⁵⁾ 倉井内科医院，⁶⁾ 香川県済生会病院循環器科)：Ca拮抗薬とアンジオテンシンII受容体拮抗薬併用治療の総合的な機能評価による有用性の検討 J-SUCCESS (Study of the Usefulness of Combination therapy of Ca antagonist and AT1 antagonist in the Essential hypertensive patients)．第29回日本高血圧学会総会，2006．10．
 - 24) 定 明子¹⁾，松井利充¹⁾，奥山 慎²⁾，仲田秀史³⁾，嶋田裕稔⁴⁾，森真由美⁵⁾，高齢者血液腫瘍研究会(¹⁾ 神戸大学血液・腫瘍内科，²⁾ 秋田大学第三内科，³⁾ 高知大学血液・呼吸病態内科学，⁴⁾ 九州大学第三内科，⁵⁾ 多摩北部医療センター)：好酸球増多症候群の病態と診断；JELLSG全国調査による後方視的解析とFIP1L1/PDGFR融合遺伝子検査．第68回日本血液学会総会・第48回日本臨床血液学会総会合同総会，2006．10．
 - 25) 安岡比呂子，松村典昭，吉松寛臣，須田章子，渡邊健太郎，鈴木達也，中野博司，大庭建三：Amantadineにより急激に意欲の向上をみた高齢パーキンソン病の1例．第45回日本老年医学会関東甲信越地方会，2007．3．
 - 26) 角田美佐子，大内基司，野呂瀬準，鈴木一成，猪狩吉雅，鈴木達也，中野博司，大庭建三：1年間でサンゴ状結石を形成した高齢者の1例．第45回日本老年医学会関東甲信越地方会，2007．3．
 - 27) 小原 信，小野寺直子，山下英俊，関水憲一，犬塚有紀，鈴木達也，中野博司，大庭建三：再燃を繰り返した高齢発症腸管ペーチェット病の1例．第45回日本老年医学会関東甲信越地方会，2007．3．

[武蔵小杉病院内科 (内科 , 循環器科 , 神経内科)]

研究概要

循環器病学, 腎臓病学, 呼吸器病学および神経病学において研究が行われている。循環器病学ではRIにおける独自のプログラムを使用して, 心不全における拡張能障害の研究を行い, アメリカ心臓病学会において発表した。腎臓病学では血液浄化療法を中心とした研究が行われ, 特に血液浄化が不整脈や体内水分量に及ぼす影響についての研究やLDLアフェレーシスについての研究が継続的に行われている。また, On-Line HDFに特に必要な透析液の清浄化やHUS症候群につき発表が行われた。呼吸器病学では慢性心不全と睡眠時無呼吸症候群(SAS)との関係について研究, 調査, 発表し肺癌と化学療法について, 当科独自のレジメを用いてのその成果を検討し, 発表している。また, 緩和ケアチームを立ち上げ積極的に活動を始めている。神経内科学では認知症について早期発見から介護までの臨床的研究を行っている。SPECTによる脳血流とMRIによる側頭葉内側の萎縮についての統計学的解析を行い, アルツハイマー型認知症の診断について臨床的研究を行っている。

研究業績

論文

[2005 年度追加分]

原著:

- 1) Ishiwa A¹⁾, Sakayori O¹⁾, Minoshima S¹⁾, Mizumura S¹⁾, Kitamura S, Katayama Y¹⁾(¹⁾Department of Neurology, NMS Hospital): Preclinical evidence of Alzheimer changes in progressive mild cognitive impairment: a qualitative and quantitative SPECT study. . Acta Neurol Scand 2006; 114 (2): 91-96 .

(1) 原著:

- 1) Ohno T¹⁾, Honma H¹⁾, Takayama M¹⁾, Munakata K, Takano T¹⁾, Matsuzaki T¹⁾(¹⁾First Internal Medicine): Utility of Combined Assessment of Coronary low Velocity and Myocardial Perfusion During Low-dose Dobutamine Stress Echocardiography in the Detection of Left Anterior Coronary Artery Disease. Journal of Echocardiography 2006; 4 (3): 69-77 .
- 2) Yamamoto A¹⁾, Hosoya T, Takahashi N, Iwahara Shin-ichiro²⁾, Munakata K (¹⁾Department of Radiology, ²⁾第一ラジオアイソープ): Quantification of left ventricular regional functions using ECG-gated myocardial perfusion SPECT-Validation of left ventricular systolic functions. Annals of Nuclear Medicine 2006; 20: 449-456 .
- 3) Yamamoto A¹⁾, Takahashi N, Munakata K, Hosoya T²⁾, Shiiba M¹⁾, Okuyama T¹⁾, Abe K¹⁾, Kaneshiro T¹⁾, Tsuruta H¹⁾, Takama T¹⁾, Satou M¹⁾(¹⁾Department of Radiology, ²⁾第一ラジオアイソトープ研究所): Global and regional evaluation of systolic and diastolic left ventricular temporal parameters using a novel program for GCG-gated myocardial perfusion SPECT-Validation by comparison with gated equilibrium radionuclide angiography and speckle tracking radial from echocardiography. Annals of Nuclear Medicine 2007; 21: 115-121 .
- 4) Nishimura T¹⁾, Hashikawa K²⁾, Fukuyama H²⁾, Kubota T¹⁾, Kitamura S, Matsuda H³⁾, Hanyu H⁴⁾, Nabatame H⁵⁾, Oku N⁶⁾, Tanabe H⁷⁾, Kuwabara Y⁸⁾, Jinnouchi S⁹⁾, Kubo A¹⁰⁾(¹⁾Kyoto Prefectural University of Medicine, ²⁾Graduate school Medicine, Kyoto University, ³⁾National Center Hospital, ⁴⁾Tokyo Medical University, ⁵⁾Shiga Medical Center for Adults, ⁶⁾Graduate School of Medicine Osaka University, ⁷⁾Ehime University School of Medicine, ⁸⁾Graduate School of Medical Sciences, Kyusyu University, ⁹⁾Miyazaki Medical College, ¹⁰⁾Keio University of Medicine): Decreased cerebral blood flow and progn-

sis of Alzheimer ' s disease : a multicenter HMPAO SPECT study . Annals of Nuclear Medicine 2007 ; 21 (1): 15-23 .

(2) 綜説 :

- 1) 竹永清人, 宗像一雄 : 第IV章 主な救急疾患 : 心筋炎 . 日本医師会雑誌 2006 ; 135 (1): 317-318 .
- 2) 北村 伸 : 着衣失行 . Clinical Neuroscience 2006 ; 24 (7): 794-795 .

著 書

- 1) 須貝祐一¹⁾, 北村 伸 (¹⁾ 浴風会病院): 脳血管性認知症 . からだの科学 認知症のすべて , 2006 ; pp22-26 , 日本評論社 .
- 2) 北村 伸 : [分担] 認知症と未病対策 . 未病医学 臨床 日本未病システム学会編 , 2006 ; pp213-217 , 金芳堂 .

学会発表

[2005 年度追加分]

一般講演 :

- 1) 阿部純子, 寺田秀人, 村澤恒男, 宗像一雄 : 運動後急性腎不全を再燃した低尿酸血症の1例 . 第23回川崎市医師会医学会 , 2006 . 2 .

(1) セミナー :

- 1) 北村 伸 : 認知症と地域連携 . 第29回日本pos医療学会大会 , 2007 . 3 .

(2) 一般講演 :

- 1) Takahashi N , Yamamoto A¹⁾ , Miwa Y , Kojima M , Tezuka S , Ishikawa M , Takenaga K , Amitani K , Kawaguchi N , Uchida T , Munakata K (¹⁾ Department of Radiology) : The relationship between left ventricular dyssynchrony a diastolic dysfunction in hypertension . American Heart Association Scientific Sessions 2006 , 2006 . 11 .
- 2) Takahashi N , Yamamoto A¹⁾ , Zyu CanZ , Tezuka S , Hanaoka D , Iwamoto M , Ishikawa M , Abe junko , Takenaga K , Amitani K , Yamaguchi T , Kawaguchi N , Uchida T , Munakata K (¹⁾ Department of Radiology) : The relationship between left ventricular Systolic Dyssynchrony and wall stress in Patients with Hhypertension and Preserves Ejection Fraction . 第71回日本循環器学会総会・学術集会 , 2007 . 3 .
- 3) Ishikawa M , Yamamoto A¹⁾ , Takahashi N , Zhu C , Tezuka S , Hanaoka D , Iwamoto M , Abe J , Takenaga K , Amitani K , Yamaguchi T , Kawaguchi N , Uchida T , Munakata K (¹⁾ Department of Radiology) : The Dyssynchrony Assessed by a Novel Program " cardioGRAF " for Tc99m-sestamibi-Gated-SPECT in the Development of Heart Failure . 第71回日本循環器学会総会・学術集会 , 2007 . 3 .
- 4) 山本 彰¹⁾ , 直人 , 金城忠志¹⁾ , 阿部和也¹⁾ , 佐藤雅史¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 心電図同期SPECTの解析プログラム cardioGRAF による心不全における左室内同期不全の検討 . 日本医学放射線学会総会 , 2006 . 4 .
- 5) 山本 彰¹⁾ , 直人 , 金城忠志¹⁾ , 阿部和也¹⁾ , 佐藤雅史¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 同期SPECTの解析プログラム cardioGRAF における心不全におけるフーリエ近似次数の左質機能指標再現性に及ぼす影響 . 日本医学放射線学会総会 , 2006 . 4 .
- 6) 山本 彰¹⁾ , 直人 , 金城忠志¹⁾ , 阿部和也¹⁾ , 佐藤雅史¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 同期SPECTの解析プログラム cardioGRAF における心不全におけるフーリエ近似次数の時間指標再現性に及ぼす影響 . 日本医学放射線学会総会 , 2006 . 4 .
- 7) 直人 , 山本 彰¹⁾ , 石川昌弘 , 竹永清人 , 阿部純子 , 網谷賢一 , 山口朋禎 , 川口直美 , 内田高浩 , 星野公彦 , 宗像一雄 (¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科) : 心電図同期SPECTの解析プログラム " cardioGRAF " を用いた左

室壁運動同期性と年齢の関連についての検討．第48回日本老年医学会学術集会，2006．6．

- 8) 村澤恒男，酒井行直，小野卓也¹⁾，網谷賢一，原田英博，大塚智之，宗像一雄⁽¹⁾内科学第1): 維持透析患者の血液透析に伴う加算平均心電図とARI dispersion の変動は，RA系と心拍数の変動に関連する．第51回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2006．6．
- 9) 網谷賢一，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄，門松 豊¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院血液浄化療法室): 血液透析前後の細胞内外水分量変化と，ANP，BNP，不整脈や主要心事故との関連．第51回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2006．6．
- 10) 大塚智之，手塚信吾，藤堂紗織，大野 大， 直人，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄，松本光司¹⁾，尾崎傑²⁾，磯野友昭²⁾，市川 匠²⁾，門松 豊²⁾(¹⁾武蔵小杉病院病理部，²⁾同血液浄化療法室): TTPとの鑑別に難渋した成人発症のD()HUSの1症例．第51回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2006．6．
- 11) 門松 豊¹⁾，尾崎 傑¹⁾，磯野友昭¹⁾，市川 匠¹⁾，藤堂紗織，大塚智之，大野 大，酒井行直，村澤恒男，宗像一雄⁽¹⁾武蔵小杉病院血液浄化療法室): 消毒方法の違いにおける透析液の清浄化．第51回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2006．6．
- 12) 磯野友昭¹⁾，尾崎 傑¹⁾，市川 匠¹⁾，門松 豊¹⁾，酒井行直，藤堂紗織，大塚智之，大野 大，村澤恒男，宗像一雄⁽¹⁾武蔵小杉病院血液浄化療法室): ネフローゼ症候群に対するLDLアフェレーシスによる抗炎症作用の検討．第51回(社)日本透析医学会学術集会・総会，2006．6．
- 13) 荒木久美¹⁾，山賀節子¹⁾，越谷美由紀¹⁾，隠岐和美¹⁾，荒井誠一¹⁾，大塚紀子，高久貴子¹⁾，井上雅則¹⁾，新宅孝征¹⁾，勝部康弘¹⁾，山本 彰²⁾， 直人，内田高浩，内田拓実，宗像一雄，西島美輝子¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院中央検査室，²⁾同放射線科): 収縮能が保たれた高血圧患者における拡張機能とBNPとの関連：経胸壁心エコーによる検討．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 14) 山口朋禎，佐藤雅史¹⁾，宗像一雄⁽¹⁾武蔵小杉病院放射線科): 刺青後に発症したレフグレン症候群の1例．第26回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会，2006．10．
- 15) 岩本将人，北村 伸，宗像一雄：塩酸ドネペジル投与後の脳血流の変化．第10回Neurology SPECT 定量検討会，2006．11．
- 16) 藤堂紗織，酒井行直，大野 大，村澤恒男，宗像一雄：大動脈炎症症候群にANCA関連腎炎を合併した1例．第24回川崎市医師会医学会，2007．2．
- 17) 花岡大資，南部弘太郎¹⁾，水谷 聡¹⁾，南 史朗，宗像一雄⁽¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 糖尿病の急性増悪で発症し自然寛解した自己免疫性膵炎の1例．第17回臨床内分泌代謝Update，2007．3．
- 18) 春原紗織，網谷賢一，南 史朗，宗像一雄，片山美鈴¹⁾，青木見佳子¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院皮膚科): 糖尿病性壊疽・腎症に重症のアレルギー性紫斑病を合併した1例．第17回臨床内分泌代謝Update，2007．3．

[多摩永山病院内科，循環器内科]

研究概要

循環器専攻の内科医により構成されているが，多摩地区の中核病院としての機能を維持するため内科全般を診療対象とする体制をとっている．臨床研究が主体となるが，実験的研究にも積極的に従事している．

- 1) 虚血性心疾患に関して，経皮的カテーテルインターベンションならびに非観血的評価法による治療効果ならびに予後判定に関する研究．
- 2) 臨床電気生理学的検査を中心とした不整脈の診断，治療に関する研究．
- 3) 心房細動を中心とした不整脈薬物治療に関する研究：特に発作性心房細動例におけるアンギオテンシン受容体拮抗薬の効果に関する研究．
- 4) ブルガダ症候群に関連した全国的な多施設共同研究．

- 5) 抗不整脈薬の全国規模臨床治験への参加 .
- 6) 高血圧症, 糖尿病例における心臓超音波検査所見に関する研究 .
- 7) 糖尿病例に対する外来インスリン治療および内服治療に関する研究 .
- 8) 高血圧症, 糖尿病, メタボリックシンドローム例における血糖降下薬, アンギオテンシン受容体拮抗薬の効果, 抗炎症作用, 抗動脈硬化作用に関する研究 .
- 9) 救急疾患に対する各種血液マーカーに関する研究 .
- 10) J-TRACE, J-CARE-CARD, J-CHF などの日本循環器学会認定多施設共同研究への参加 .

など

上記の循環器領域における虚血, 不整脈, メタボリックシンドロームといった中心的研究テーマにつき重要な研究活動を行っている . また, 当院薬剤部, 近隣院外薬局との協力により慢性肺疾患, 心疾患患者の QOL 改善を目的とした臨床課題についても積極的に取り組んでいる .

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Maruyama M¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Morita N¹⁾, Miyamoto S, Tadera T, Ino T, Atarashi H, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾(¹⁾ First Department of Internal Medicine.) : Mapping-guided ablation of the cavotricupid isthmus : A novel simplified approach to radiofrequency catheter ablation of isthmus-dependent atrial flutter . Heart Rhythm 2006 ; 3 (6) : 665-673 .
- 2) Okishige K¹⁾, Fukunami M²⁾, Kumagai K³⁾, Atarashi H, Inoue H⁴⁾, for the Pilsicainide Suppression Trial for Persistent Atrial Fibrillation III (¹⁾ Yokohama City Bay Red Cross Hospital , ²⁾ Osaka General Medical center , ³⁾ Fukuoka University Hospital , ⁴⁾ Second Department of Internal Medicine University Toyama, School of Medicine) : Pharmacological conversion of persistent atrial fibrillation into sinus rhythm with oral pilsicainide : pilsicainide suppression trial for persistent atrial fibrillation II . Circ J 2006 ; 70 (6) : 657-661 .
- 3) Kamiya M¹⁾, Nakagomi A, Tokita Y, Yasutake M¹⁾, Kusama Y, Takayama M¹⁾, Takano T¹⁾(¹⁾ First Department of Internal Medicine.) : Type I CD36 Deficiency Associated With Metabolic Syndrome and Vasospastic Angina : A Case Report . J Cardiol 2006 ; 48 (1) : 41-44 .
- 4) Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Okada K, Horiguchi Y¹⁾, Abe S¹⁾, Kusama Y, Atarashi H (¹⁾ Sanai Hospital , ²⁾ National Defense Medical College Research Institute) : Effects of music therapy on heart rate variability in elderly patients with cerebral vascular disease and dementia . J Arrhythmia 2006 ; 22 (3) : 161-166 .
- 5) Ono T¹⁾, Saitoh H¹⁾, Itakura S¹⁾, Tateoka K²⁾, Ono I²⁾, Hnatkova K³⁾, Kobayashi Y²⁾, Takayama M²⁾, Atarashi H, Katoh T²⁾, Takano T²⁾, Malik M³⁾(¹⁾ Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital , ²⁾ First Department of Internal Medicine , ³⁾ St George's University of London Cardiological Sciences) : Characteristics of a new repolarization descriptor substituted for T-wave morphology analysis in patients with cardiomyopathy and myocardial infarction . Circ J 2006 ; 70 (10) : 1322-1326 .
- 6) Yamashita T¹⁾, Ogawa S¹⁾, Aizawa Y¹⁾, Atarashi H, Inoue H¹⁾, Ohe T¹⁾, Okumura K¹⁾, Ohtsu H¹⁾, Katoh T¹⁾, Kamakura S¹⁾, Kumagai K¹⁾, Kurachi Y¹⁾, Kodama I¹⁾, Koretsune Y¹⁾, Saikawa T¹⁾, Sugi K¹⁾, Nakaya N¹⁾, Hirai M¹⁾, Hirayama A¹⁾, Fukatani M¹⁾, Mitamura H¹⁾, Yamazaki Y¹⁾, Watanabe E¹⁾ on behalf of the J-RHYTHM II I (¹⁾ on behalf of the J-RHYTHM II Investigators) : Randomized study of angiotensin II type 1 receptor blocker vs dihydropyridine calcium antagonist for the treatment of paroxysmal atrial fibrillation in patients with hypertension : The J-RHYTHM II study design for the investigation of upstream therapy for atrial fibrillation . Circ J 2006 ; 70 (10) : 1318-1321 .

- 7) Nagai R¹⁾, Atarashi H, The Japanese Coronary Artery Disease (JCAD) Study (¹Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, University of) : Current status of the background of patients with coronary artery disease in Japan : The Japanese Coronary Artery Disease Study (The JCAD Study). Circ J 2006 ; 70 (10): 1256-1262 .
- 8) Minami M¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Matumoto Y¹⁾, Atarashi H, Atarashi K¹⁾(¹Tohma Health Evaluation and Promotion Center) : Three-minute ECG recording and arrhythmia detection in the evaluation and promotion of health . Intern Med 2007 ; 46 (5): 201-205 .
- 9) Atarashi H, Ogawa S¹⁾, Inoue H²⁾, Hamada C³⁾, for the Flecainide Atrial Fibrillation Investigators (¹Cardiopulmonary Division, Department of Medicine, Keio University School of Medicine, ²Second Department of Internal Medicine University Toyama, School of Medicine, ³Department of Management of Science, Faculty of Engineering, Tokyo University of Science,) : Dose-response effect of flecainide in patients with symptomatic paroxysmal atrial fibrillation and/or flutter monitored with trans-telephonic electrocardiography : a multicenter, placebo-controlled, double-blind trial . Circ J 2007 ; 71 (3): 294-300 .
- 10) 西崎光弘¹⁾, 杉 薫¹⁾, 泉田直己¹⁾, 鎌倉史郎¹⁾, 杉原直彦¹⁾, 青沼和隆¹⁾, 新 博次¹⁾, 高木雅彦¹⁾, 中沢 潔¹⁾, 横山泰廣¹⁾, 金子睦雄¹⁾, 須藤二朗¹⁾, 犀川哲典¹⁾, 岡本 登¹⁾, 小川 聡¹⁾, 平岡昌和¹⁾(¹日本心電学会Brugada症候群自動診断ワーキンググループ) : 本邦におけるBrugada症候群に対する心電図自動診断基準 . 心電図 2006 ; 26 (5): 758-767 .
- (2) 綜説 :
- 1) 新 博次 : Brugada症候群の最新知見 . 医学のあゆみ 2006 ; 217 (6): 636-640 .
- 2) 石井健輔, 新 博次 : 心電図の読み方 不整脈 房室ブロック . 診断と治療 2006 ; 94 (9): 1743-1749 .
- 3) 堀江 格, 新 博次 : ブルガダ症候群・QT延長症候群の治療戦略 . Modern Rhysician 2006 ; 26 (10): 1581-1586 .
- 4) 新 博次 : Brugada症候群の予後 : 欧米の登録研究成績 . Heart View 2007 ; 11 (2): 178-182 .
- (3) 症例報告 :
- 1) Ishii K, Kodani E, Miyamoto S, Hosone M¹⁾, Ogata K, Sato W, Matsumoto S, Tadera T, Ibuki C, Kusama Y, Atarashi H (¹Division of Surgical Pathology, Tama-Nagayama Hospital) : Pacemaker contact dermatitis : the effective use of a polytetrafluoroethylene (PTFE) sheet . PACE 2006 ; 29 (11): 1299-1302 .
- 2) 宮内靖史¹⁾, 小林義典¹⁾, 谷口宏史¹⁾, 堀江 格¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 阿部純子¹⁾, 館岡克彦¹⁾, 上野 亮¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 小鹿野道雄¹⁾, 篠田暁与, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 岩崎雄樹, 宮城泰雄, 山本 剛, 田中啓治, 新 博次 (¹内科学第1) : Electrical Stormのトリガーとなる心室性期外収縮のElectroanatomical Mapping . 臨床心臓電気生理 2006 ; 29 : 157-164 .
- 3) 宮地秀樹, 雪吹周生, 加藤浩司, 吉田博史, 石井健輔, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 坪 宏一¹⁾, 山本 剛¹⁾, 田中啓治¹⁾, 田島廣之²⁾(¹付属病院内科学第1, ²同放射線科) : 静脈血栓塞栓症にて発症し, 下大静脈フィルター直下の難治性大量血栓を血管内インターベンションにて治療し得た先天性アンチトロンピン欠損症の1例 . 心臓 2006 ; 38 (8): 796-803 .

著 書

- 1) 新 博次 : [分担] III . 不整脈の治療法 2 . 抗不整脈薬の使い方 . 「エキスパートをめざす循環器診療2 . 不整脈」(井上 博), 2006 ; pp81-93, 南江堂 .

学会発表

(1) 一般講演 :

- 1) Kusama Y, Shinoda A, Yoda S, Ogata K, Kodani E, Tadera T, Nakagomi A, Ibuki C, Atarashi H, Takano T¹⁾(¹⁾First Department of Internal Medicine): Left Ventricular Diastolic Dysfunction in Hypertensive Patients. Which Category of Antihypertensive Drug Prevails Development of Left Ventricular Diastolic Dysfunction (Ca channel blocker vs ACE inhibitor or ARB)? . The 21th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension (Fukuoka), 2006 . 10 .
- 2) Nakagomi A, Seino Y¹⁾, Tokita Y, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H, Takano T¹⁾(¹⁾First Department of Internal Medicine): Upregulation of Monocyte Chemokine Production by C-reactive Protein Contributes to the Exacerbation of Chronic Heart Failure . The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure (Kyoto), 2007 . 3 .
- 3) Nakagomi A, Seino Y¹⁾, Tokita Y, Kodani E, Atarashi H, Takano T¹⁾(¹⁾First Department of Internal Medicine): Metabolic Syndrome increases the incidence of heart failure associated with subclinical inflammation in patients with acute coronary syndrome . 第10回日本心不全学会学術集会, 2006 . 10 .
- 4) Nakagomi A, Aoki A, Hosokawa Y, Munakata R, Tokita Y, Ishii K, Otsuka T, Uemura R, Kodani E, Ibuki C¹⁾, Kusama Y, Atarashi H, Takano T²⁾(¹⁾Department of Cardiology, Chiba Hokusyo Hospital, ²⁾First Department of Internal Medicine): Inflammatory Reaction Plays Significant Roles in the Pathogenesis and Instability of Vasospastic Angina . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 5) Nakagomi A, Aoki A, Hosokawa Y, Munakata R, Tokita Y, Uemura R, Kodani E, Yasutake M¹⁾, Kusama Y, Takayama M¹⁾, Seino Y¹⁾, Atarashi H, Takano T¹⁾(¹⁾First Department of Internal Medicine): Metabolic Syndrome Increases the Incidence of Heart Failure Associated with Subclinical Inflammation in Patients with Acute Coronary Syndromes . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 6) Nakagomi A, Aoki A, Hosokawa Y, Munakata R, Tokita Y, Ishii K, Otsuka T, Uemura R, Kodani E, Ibuki C¹⁾, Kusama Y, Atarashi H, Takano T²⁾(¹⁾Department of Cardiology, Chiba Hokusyo Hospital, ²⁾First Department of Internal Medicine): Exercise Stress Myocardial Perfusion Scintigraphy Predicts Cardiac Events in Patients with Vasospastic Angina . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 7) Munakata R, Nakagomi A, Aoki A, Shibui T, Hosokawa Y, Tokita Y, Uemura R, Takano H¹⁾, Kodani E, Asai K¹⁾, Yasutake M¹⁾, Kusama Y, Takayama M¹⁾, Atarashi H, Takano T¹⁾(¹⁾First Department of Internal Medicine): Peak White Blood Cell Count and Fasting Glucose are Independent Predictors of Cardiac Events in Patients with Acute Myocardial Infarction . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 8) Hosokawa Y, Nakagomi A, Aoki A, Shibui T, Tokita Y, Munakata R, Uemura R, Takano H¹⁾, Kodani E, Aoki S¹⁾, Asai K¹⁾, Yasutake M¹⁾, Kusama Y, Takayama M¹⁾, Atarashi H, Takano T¹⁾(¹⁾First Department of Internal Medicine): Peak White Blood Cell Count and Fasting Glucose are Independent Predictors of Left Ventricular Remodeling in Reperfused Acute Myocardial Infarction . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 9) Uemura R, Atarashi H: Bone Marrow Stem Cells Directly Promote Cell Survival Signaling in Ischemic Heart . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .
- 10) Horie T, Atarashi H, Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Murata H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Okazaki R¹⁾, Ueno A¹⁾, Taniguchi H¹⁾, Hirasawa Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Maruyama M¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾, Ohmori H²⁾, Nitta T²⁾(¹⁾First Department of Internal Medicine, ²⁾Department of Cardiovascular surgery): Post-operative Atrial Tachycardia Following Mitral Surgery via the Superior Transseptal Approach . 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007 . 3 .

- 11) Tokita Y, Kusama Y, Munakata R, Fukushima M, Matsumoto S, Satoh W, Uemura R, Kodani E, Tadera T, Nakagomi A, Atarashi H: Utility of Rapid D-dimer Measurement for Screening of Supracute Phase of Acute Coronary Syndrome in Emergency Setting. 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007. 3.
- 12) Okada K, Kurita A¹⁾, Takase B²⁾, Kodani E, Kusama Y, Atarashi H (¹⁾Sanai Hospital, Hachioji, ²⁾National Defense Medical College Research INstitute, Division of Biomedical Engineering): Effects of Music Therapy on Autonomic Nerve Activities, Heart Failure Events and Plasma Proinflammatory Cytokine Levels in Elderly Patients. 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007. 3.
- 13) Maruyama M¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Murata H¹⁾, Okazaki R¹⁾, Ueno A¹⁾, Tateoka K¹⁾, Taniguchi H¹⁾, Hirasawa Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Ohara T¹⁾, Yashima M¹⁾, Hirayama Y¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾, Horie T, Miyamoto S, Tadera T, Ino T, Atarashi H (¹⁾First Department of Internal Medicine): The Differential Overdrive Pacing: A Novel Diagnostic Method of Atrial Tachycardia Irrespective of Retrograde VA Conduction. 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 2007. 3.
- 14) 福島正人, 篠田暁代, 加藤活人, 宗像 亮, 小谷英太郎, 田寺 長, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: 脚ブロック患者における背景疾患と心エコー所見の特徴. 第103回日本内科学会講演会, 2006. 4.
- 15) 栗田 明¹⁾, 岡田 薫¹⁾, 堀口祐司¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾三愛病院, ²⁾防衛医科大学): 脳血管障害を合併する後期高齢者に対する音楽療法の心血管系におよぼす影響. 第103回日本内科学会講演会, 2006. 4.
- 16) 緒方憲一, 篠田暁与, 新 博次, 井上 博¹⁾, 相澤義房²⁾ (¹⁾富山大学医学部第二内科, ²⁾新潟大学大学院医歯学総合研究科循環器学分野): ピルジカイニド静注によるBrugada型心電図誘発試験: 不完全右脚ブロック症例における検討. 第3回不整脈薬物治療フォーラム, 2006. 4.
- 17) 岩崎雄樹¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 小林義典¹⁾, 林 明聡¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 村田広茂¹⁾, 岡崎怜子¹⁾, 堀江 格¹⁾, 谷口宏史¹⁾, 上野 亮, 平澤泰宏¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 新田 隆²⁾, 新 博次 (¹⁾内科学第1, ²⁾外科学第2): 心内膜切除後の心外膜側残存心筋と心室瘤内残存心筋を含むマクロリエントリー性心筋梗塞後心室頻拍の1例. 第36回臨床心臓電気生理研究会, 2006. 5.
- 18) 時田祐吉, 草間芳樹, 中込明裕, 新 博次: 急性心血管疾患の初期診断におけるD dimer 迅速測定の有用性: 年齢による差異の検討. 第48回日本老年医学会学術集会, 2006. 6.
- 19) 田寺 長, 井野 威, 篠田暁与, 堀江 格, 宮本新次郎, 佐藤 越, 松本 真, 緒方憲一, 野村敦宣, 新 博次: 左側副伝導路を介する室房伝導時にCS内より記録される心房電位のバリエーション: LA-CSconnection様式の推定. 第16回多摩不整脈研究会, 2006. 6.
- 20) 岡田 薫, 栗田 明¹⁾, 堀口祐司¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 草間芳樹, 新 博次 (¹⁾医療法人社団愛有会三愛病院, ²⁾防衛医科大学校研究センター): 脳血管障害を合併する後期高齢者に対する音楽療法と心血管系におよぼす影響. 第26回ホルター心電図研究会, 2006. 6.
- 21) 石井健輔, 中込明裕, 大塚俊昭, 小谷英太郎, 雪吹周生, 草間芳樹, 新 博次: メタボリックシンドロームの発症・進展には軽妙な炎症と肥満, 脂質異常が関与する Abdominal Obesity and Dyslipidemia Associated with Subclinical Inflammation Play Significant Roles in the Pathogenesis and Development of Metabolic Syndrome. 第38回日本動脈硬化学会総会, 2006. 7.
- 22) 龜山幹彦¹⁾, 宮地秀樹¹⁾, 岩本将人¹⁾, 金村應文¹⁾, 篠田暁与, 佐藤 越, 松本 真, 緒方憲一, 田寺 長, 新 博次 (¹⁾北村山公立病院内科): Coved型Brugada型心電図リスク層別化法: Pilsicainide 負荷下におけるST上昇のdispersionの検討. 第21回日本不整脈学会 / 第23回日本心電学会合同学術大会, 2006. 7.
- 23) 中込明裕, 清野精彦¹⁾ (¹⁾内科学第1): CRPは炎症反応の鋭敏な指標であるが, 心血管系疾患の発症に直接関与している. 第27回日本炎症・再生医学会, 2006. 7.
- 24) 中込明裕, 清野精彦¹⁾, 宗像 亮, 時田祐吉, 石井健輔, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 高野照夫¹⁾

- (¹)内科学第1): CRP刺激時の単球上ケモカイン発現亢進は慢性心不全患者の心不全悪化に關与する。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 25) 中込明裕, 山本英世¹⁾, 宗像 亮, 時田祐吉, 石井健輔, 小谷英太郎, 草間芳樹, 高山守正¹⁾, 清野精彦¹⁾, 新博次, 高野照夫¹⁾(¹)内科学第1): メタボリックシンドロームは急性冠症候群患者の心不全発症に關与する。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 26) 時田祐吉, 草間芳樹, 宗像 亮, 福島正人, 石井健輔, 吉田博史, 佐藤 越, 松本 真, 緒方憲一, 小谷英太郎, 田寺 長, 中込明裕, 新 博次: 救急外来での急性冠症候群の初期診断におけるD dimer迅速測定の有効性。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 27) 宗像 亮, 中込明裕, 時田祐吉, 石井健輔, 吉田博史, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次, 高野照夫¹⁾(¹)内科学第1): メタボリックシンドロームは冠動脈硬化症の範囲と心事故を増やす。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 28) 緒方憲一, 篠田暁与, 佐藤 越, 松本 真, 田寺 長, 草間芳樹, 新 博次: メタボリックシンドローム合併発作性心房細動と血管内皮機能。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 29) 雪吹周生¹⁾, 安掛美紀²⁾, 大塚俊昭³⁾, 小谷英太郎, 田寺 長, 草間芳樹, 新 博次, 森川正子²⁾, 寺澤孝明²⁾(¹)日本医科大学千葉北総病院内科, ²⁾東京薬科大学薬学部総合医療薬学講座, ³⁾日本医科大学衛生学・公衆衛生学): 軽症糖尿病患者におけるPioglitazoneの心肥大退縮効果は血中Adiponectin値に關係する。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 30) 大塚俊昭¹⁾, 雪吹周生²⁾, 石井健輔, 吉田博史, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次(¹)衛生学・公衆衛生学, ²⁾千葉北総病院内科): 高感度CRPは冠動脈疾患発症リスク評価に有用か?: 健常中年男性における検討。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 31) 雪吹周生¹⁾, 栗矢勝宏²⁾, 大塚俊昭, 小谷英太郎, 田寺 長, 草間芳樹, 新 博次, 森川正子²⁾, 寺澤孝明²⁾(¹)日本医科大学千葉北総病院内科, ²⁾東京薬科大学薬学部総合医療薬学): 高血圧患者の認知機能に影響する因子: アンギオテンシン受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬併用の意義。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 32) 岡田 薫, 栗田 明¹⁾, 堀口祐司¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 小谷英太郎, 草間芳樹, 新 博次(¹)三愛病院, ²⁾防衛医科大学研究センター): 脳血管障害を合併する後期高齢者に対する音楽療法の心血管系におよぼす影響。第54回日本心臓病学会学術集会, 2006. 9.
- 33) 堀江 格, 緒方憲一, 篠田暁与, 佐藤 越, 松本 真, 小谷英太郎, 田寺 長, 中込明裕, 草間芳樹, 新 博次: Pilsicanide 静注により興味深い心電図変化を観察し得たQT短縮傾向を有する心電図異常の1例。第201回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006. 9.
- 34) 竹山聡美¹⁾, 小谷英太郎(¹)多摩永山病院看護部): 糖尿病専門医がいない施設での外来療養指導の実際。第11回日本糖尿病教育・看護学会, 2006. 9.
- 35) 藤木直美¹⁾, 四田千穂美¹⁾, 廣川尚美¹⁾, 相澤泰与¹⁾, 久保田久子¹⁾, 菊地英子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 草間芳樹, 新博次(¹)中央検査室): 入浴中に記録可能なホルター心電計FM-180における検討。第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 36) 四田千穂美¹⁾, 廣川尚美¹⁾, 相澤泰与¹⁾, 藤木直美¹⁾, 久保田久子¹⁾, 菊地英子¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 草間芳樹, 新博次(¹)中央検査室): 血圧脈波検査装置HEM-9000AIの基礎的検討。第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 37) 手島浩恵¹⁾, 酒井貴史¹⁾, 水谷行伸¹⁾, 林 綾子¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 草間芳樹, 新 博次(¹)中央検査室): 頸動脈エコーを用いたスティフネスパラメータ値の検討: 特に動脈硬化性疾患について。第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 38) 高頭文隆¹⁾, 北山由里香¹⁾, 岩崎梨沙¹⁾, 吉川佳奈²⁾, 亀山明美³⁾, 村田和也³⁾, 小谷英太郎, 田寺 長, 草間芳樹, 新 博次, 荒井宏昭⁴⁾, 佐々木敬子⁵⁾, 大川玲子⁶⁾(¹)ミネ薬局永山駅前タワー店, ²⁾ミネ薬局中野坂上店, ³⁾多摩永山病院薬剤科, ⁴⁾龍生堂薬局永山店, ⁵⁾なのはな薬局, ⁶⁾マルベリー薬局): 薬薬連携の実際:

吸入指導調査実施における考察．第39回日本薬剤師会学術大会，2006．10．

- 39) 亀山明美¹⁾，村田和也¹⁾，小谷英太郎，田寺 長，草間芳樹，新 博次，北山由里香²⁾，岩崎梨沙²⁾，高頭文隆²⁾，吉川佳奈³⁾，荒井宏昭⁴⁾，佐々木敬子⁵⁾，大川玲子⁶⁾(¹⁾多摩永山病院薬剤科，²⁾ミネ薬局永山駅前タワー店，³⁾ミネ薬局中野坂上店，⁴⁾龍生堂薬局永山店，⁵⁾なのはな薬局，⁶⁾マルベルー薬局)：薬業連携による吸入指導試験のシステム構築．第39回日本薬剤師会学術大会，2006．10．
- 40) 亀山明美¹⁾，村田和也¹⁾，小谷英太郎，田寺 長，草間芳樹，新 博次(¹⁾多摩永山病院薬剤科)：日本医科大学多摩永山病院における吸入指導の実態調査：メプチンクリックヘラーとエアロゾン製剤との比較．第56回日本アレルギー学会総会，2006．11．
- 41) 松本 真，小谷英太郎，宗像 亮，時田祐吉，中込明裕，草間芳樹，新 博次：高度な冠動脈石灰化を認めた偽性偽性副甲状腺機能低下症の1例．第202回日本循環器学会関東甲信越地方会，2006．12．
- 42) 小谷英太郎，西端こずえ¹⁾，細川雄亮，岡田 薫，新 博次(¹⁾明治薬科大学)：Warfarin と Aspirin の併用：院内薬剤疫学的調査にみる特徴．第33回抗不整脈薬併用療法研究会，2006．12．
- 43) 小谷英太郎，竹山聡美¹⁾，田寺 長，雪吹周生²⁾，草間芳樹，新 博次，長澤紘一(¹⁾多摩永山病院看護部，²⁾千葉北総病院内科)：2型糖尿病に対するピオグリタゾン単独療法の有用性．第41回日本成人病(生活習慣病)学会学術集会，2007．1．
- 44) 上村竜太，松本 真，福島正人，時田祐吉，宗像 亮，細川雄亮，青木亜佐子，渋井俊之，堀江 格，小谷英太郎，中込明裕，草間芳樹，新 博次：多量の肺動脈血栓による多発性肺梗塞を合併したKlinefelter症候群の1例．第203回日本循環器学会関東甲信越地方会，2007．2．

(2) Special Session :

- 1) Atarashi H : Brugada Syndrome in Japan . Heart Rhythm Society 27th Annual Scientific Sessions (Boston) , 2006 . 5 .

(3) ファイアーサイドシンポジウム :

- 1) 新 博次：不整脈治療最前線：心不全は心房細動にどのように関わっているか？(心房細動と心不全：臨床の立場から)．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．

2. 内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門）

[付属病院第 2内科（神経内科，腎臓内科）]

研究概要

内科学第二講座は，神経内科学および腎臓内科学を主たる診療科目としております．神経内科では脳血管障害，特に脳梗塞の病態解明および治療を主要テーマとして取り組んでおります．

実験的研究では免疫抑制薬，フリーラジカルスカベンジャーおよびそれらと軽微低体温療法の併用による脳の保護効果やそれらの治療薬や治療法の抗アポトーシス・アポトーシス誘導遺伝子への影響について検討を行っている．さらに，脳虚血モデルにて脳保護蛋白の導入による治療や骨髄幹細胞移植による再生医療も試みている．また，近年，抗高脂血症薬であるスタチンの脳卒中予防作用に注目が集まっているが，われわれの教室では脳卒中易発症高血圧自然発症ラット（SHRSP）を用いてその予防効果について検討を行っている．

臨床的には，SCU（Stroke Care Unit）が設立され，脳卒中急性期の超早期診断・治療に取り組んでおり，MRIを用いた Diffusion W. I., Perfusion Image による診断法の開発に力を注いでいる．また，これらの撮影法を用いて rt-PA 投与の決定に役立てている．その他，脳血管性痴呆やアルツハイマー型痴呆等の痴呆性疾患に対し，PET・MRI・SPECT 等の画像診断機器を利用した研究を活発に行なっている．

腎臓内科では，従来から行なわれてきた透析を中心とした研究に加え，糸球体腎炎に対するサイトカインの役割や ARB およびスタチンの投与の影響についても研究を進めている．

また，腎クリニックや千葉北総病院内科および脳卒中センター（SCU）に教室員の派遣を行い，各施設での診療・研究に貢献している．

以上，当教室では神経および腎臓内科学領域において，国内外の関係学会で幅広く活発な活動を行い，多くの優れた論文を発表している．

研究業績

論文

[2005 年度追加分]

綜説：

- 1) 大 太郎¹⁾，黄田常嘉²⁾，木村通宏¹⁾，水村 直³⁾，松田博史⁴⁾，根本清貴⁵⁾，長尾毅彦，館野 周⁶⁾，石渡明子，久慈一英⁴⁾，本間 昭⁷⁾，新井平伊²⁾ (¹⁾ 順天堂東京江東高齢者医療センターメンタルクリニック，²⁾ 順天堂大学医学部精神医学教室，³⁾ 日本医科大学放射線医学，⁴⁾ 埼玉医科大学国際医療センター 核医学，⁵⁾ 筑波大学附属病院精神神経科，⁶⁾ 日本医科大学リウマチ科，⁷⁾ 同精神医学)：[99mTc] ECD-SPECT を用いた早発性および晩発性アルツハイマー病局所脳血流の比較検討．老年精神医学会雑誌 2007；18 (1)：61-67．

症例報告：

- 1) Usuda K, Sakamaki M, Arai Y, Ishiwata A, Arii K, Arii T, Fukuchi T, Komaba Y, Kitamura S, Katayama Y : A case of headache attributed to otitis media chronica cholesteatomatosa with cerebral sigmoid sinus thrombosis . Cephalalgia 2005 ; 25 (10) : 931-931 .

(1) 原著：

- 1) Utsumi K, Seta T, Katsumata T, Komaba Y, Igarashi H¹⁾, Katsura K, Iino Y, Katayama Y (¹⁾ 新潟大学脳研究所付属統合脳機能研究センター) : Effect of selective LDL-apheresis in a Fabry patient with recurrent strokes . Eur J Neurol 2006 ; 13 (4) : 429-432 .

- 2) Okada T¹⁾, Uchibori R¹⁾, Iwata-Okada M¹⁾, Takahashi M²⁾, Nomoto T, Nonaka-Sarukawa M¹⁾, Ito T¹⁾, Liu Y¹⁾, Mizukami H¹⁾, Kume A¹⁾, Kobayashi E²⁾, Ozawa K¹⁾(¹⁾自治医科大学遺伝子治療研究部, ²⁾同臓器置換研究部): A histone deacetylase inhibitor enhance recombinant adeno-associated virus-mediated gene expression in tumor cells. . Mol Ther 2006 ; 13 (4): 738-746 .
- 3) Nomoto T, Nagao T, Hirabayashi K¹⁾, Seta T, Yokochi M¹⁾, Katsura K, Katayama Y (¹⁾保健医療公社荏原病院神経内科): Cerebral arteriopathy with extracranial artery involvement in a patient with ulcerative colitis . J Neurol Sci 2006 ; 243 (1-2): 87-89 .
- 4) Mizukoshi G, Katsura K, Watanabe M, Katayama Y : Evaluation of therapeutic efficacy of free radical scavenger in patients with ischemic stroke . 脳循環代謝 2006 ; 18 (2) : 53-60 .
- 5) Ishiwata A, Sakayori O, Minoshima S, Mizumura S, Kitamura S, Katayama Y : Preclinical evidence of Alzheimer changes in progressive mild cognitive impairment : a qualitative and quantitative SPECT study . Acta Neurol Scand 2006 ; 114 (2) : 91-96 .
- 6) Ueda K, Takada D, Mii A, Tuzuku Y, Saito K, Kaneko T, Utsumi K, Iino Y, Katayama Y : Severe thiamine deficiency resulted in Wernicke ' s encephalopathy in a chronic dialysis patient . Clin Exp nephrol 2006 ; 10 (4) : 290-293 .
- 7) Nishimura T, Hashikawa K, Fukuyama H, Kubota Y, Kitamura S, Matsuda H, Hanyu H, Nabatame H, Oku N, Tanabe H, Kuwabara Y, JInnoui S, Kubo A : Decreased cerebral blood flow and prognosis of Alzheimer ' s disease : a multicenter HMPAO-SPECT study . Annals of Nuclear Medicine 2007 ; 21 (1) : 15-23 .
- 8) Matsuda H, Mizumura S, Nagao T, Ota T, Iizuka T, Nemoto K, Kimura M, Tateno A, Ishiwata A, Kuji I, Arai H, Homma A : An easy Z-score imaging system for discrimination between very early Alzheimer ' s disease and controls using brain perfusion SPECT in a multicentre study . Nucl Med Commun 2007 ; 28 (2) : 199-205 .
- 9) Okubo S, Igarashi H¹⁾, Kanamatsu T²⁾, Hasegawa D³⁾, Orima H³⁾, Katayama Y (¹⁾新潟大学脳研究所脳機能研究センター, ²⁾創価大学工学部環境共生工学科, ³⁾日本獣医生命科学大学獣医学部獣医放射線学): FK-506 extended the therapeutic time window for thrombolysis without increasing the risk of hemorrhagic transformation in an embolic rat stroke model . Brain Res 2007 ; 1143 (27) : 221-227 .
- 10) 土居 浩¹⁾, 朝本俊司²⁾, 三須恭典¹⁾, 福井康二¹⁾, 長尾毅彦, 井田正博³⁾(¹⁾財)東京医療公社荏原病院脳神経外科, ²⁾自治医科大学付属大宮医療センター, ³⁾財)東京医療公社荏原病院放射線科): 髄膜炎の原因としての脊椎椎体炎の検討 . 日本神経救急医学会雑誌 2006 ; 19 (1) : 34-36 .
- 11) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之¹⁾(¹⁾財)東京都保健医療公社荏原病院): 心原性脳塞栓症の1次, 2次予防 . 脳卒中 2006 ; 27 (4) : 536-540 .

(2) 綜説 :

- 1) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之¹⁾(¹⁾財)東京都保健医療公社荏原病院): 急性期および慢性期における抗凝固薬の有用性と今後の展望 . 循環器科 2006 ; 59 (1) : 63-66 .
- 2) 大鳥達雄, 片山泰朗: 脳虚血と虚血性脳浮腫の臨床画像 . 神経研究の進歩 2006 ; 50 (2) : 233-239 .
- 3) 長尾毅彦, 片山泰朗: CTかMRIか . Medicina 2006 ; 61 (2) : 226-229 .
- 4) 大鳥達雄, 片山泰朗: 脳梗塞治療における rt-PA 治療の実際 . 分子脳血管病 2006 ; 5 (3) : 34-40 .
- 5) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之¹⁾(¹⁾財)東京都保健医療公社荏原病院): 血栓溶解療法のためのトリアージ . Vascular Lab 2006 ; 3 (3) : 35-38 .
- 6) 福地孝明, 片山泰朗: 脳梗塞急性期血栓溶解療法を中心に . Medicament News 春期特集 = 各科治療の話題 2006 ; 4 (1868) : 1-4 .

- 7) 坂本静樹, 片山泰朗: もの忘れ診療の現状. 日医大医学会誌 2006; 2(2): 148-151.
- 8) 片山泰朗, 桂研一郎, 神谷達司¹⁾, 五十嵐博中²⁾, 大久保誠二⁽¹⁾ 岡山大学神経病態内科学, ²⁾新潟大学脳研究所脳統合機能センター): 脳梗塞急性期の脳保護療法 基礎および臨床の面から (講演会 report). 分子脳血管病 2006; 5(4): 131-134.
- 9) 井田正博, 吉廣昭子, 大垣光太郎, 長尾毅彦: MR 拡散強調画像と造影灌流画像: 脳虚血超急性期の血栓溶解療法を前提として. 臨床画像 2006; 22(4): 52-67.
- 10) 桂研一郎, 片山泰朗: 脳虚血の分子機構: 分子病態に基づいた脳保護療法の開発. 血管医学 2006; 7(2): 149-154.
- 11) 卜部貴夫¹⁾, 豊田一則²⁾, 木村和美, 長尾毅彦⁽¹⁾ 順天堂大学神経学, ²⁾国立循環器病センター脳血管内科部門): 脳梗塞超急性期治療の最前線: t-PA による血栓溶解療法の時代を迎えて. 内科 2006; 97(5): 879-890.
- 12) 金子朋広, 大園英一¹⁾, 飯野靖彦⁽¹⁾ 大袋クリニック): 全身の老化に与える腎臓の影響: 蛋白尿と生活習慣病. 腎と透析 2006; 60(6): 1004-1008.
- 13) 山崎峰雄, 片山泰朗: Alzheimer 病と脳血管性認知症の鑑別. Mebio 特集: Alzheimer 病の診断 Update 2006; 23(6): 90-97.
- 14) 長尾毅彦, 片山泰朗: 急性期脳梗塞治療. 内科 2006; 97(6): 1252-1253.
- 15) 長尾毅彦, 片山泰朗: 慢性期脳梗塞治療. 内科 2006; 97(6): 1254-1255.
- 16) 長尾毅彦, 土居 浩¹⁾(¹⁾財)東京都保健医療公社 荏原病院 放射線科): 脳内出血. 内科 2006; 97(6): 1256-1257.
- 17) 西山康裕, 片山泰朗: 脳卒中予防に関連する事項 1. 1次予防における抗血小板療法について. Progress in Medicine 2006; 26(6): 1223-1226.
- 18) 北村 伸: 着衣失行. Clinical Neuroscience 2006; 24: 794-795.
- 19) 雨宮志門, 片山泰朗: 妊娠・分娩時の中枢神経血管系アクシデント「特集 周産期のクリティカルケア」. 周産期医学 2006; 36(7): 853-856.
- 20) 桂研一郎, 片山泰朗: 虚血性神経細胞死の分子機構と脳保護療法: 新機能保護薬への期待. 脳循環代謝 2006; 18(2): 73-77.
- 21) 上田雅之, 片山泰朗: 脳卒中中の病型診断のための TOAST 分類の特徴, 評価. 日本臨床 インターベンション時代の脳卒中(上): 超急性期から再発予防まで 2006; 64(7増刊号): 56-60.
- 22) 荻田あづさ¹⁾, 二神綾子¹⁾, 下田貴子¹⁾, 内海甲一, 川名誠司¹⁾(¹⁾皮膚科学): Fabry 病. 皮膚科診療 2006; 28(6): 1091-1094.
- 23) 福地孝明¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): Stroke Care Unit (SCU) の現状と将来の展望. 日集中医誌 2006; 13(4): 411-416.
- 24) 大久保誠二, 片山泰朗: 急性めまい. 成人病と生活習慣病 2006; 36(10): 1164-1168.
- 25) 勝又俊弥, 片山泰朗: 脳血管障害治療薬 第3部治療における最近の新薬の位置付け: 新薬の立場. 医薬ジャーナル 新薬展望2006 増刊号 2006; 42(S-1): 314-319.
- 26) 片山泰朗, 五十嵐博中¹⁾, 駒場祐一, 大鳥達雄, 中村秀紀, 萩原 浩⁽¹⁾新潟大学脳研究所統合脳機能研究センター): 画像検査による脳虚血の超早期診断 (シンポジウム2-2 Brain Attackupdate). 臨床神経学 2006; 46(11): 836-839.
- 27) 藤田有子, 金子朋広, 飯野靖彦: 酸塩基平衡障害. 腎と透析 2006; 61(増刊号): 54-57.
- 28) 大鳥達雄, 片山泰朗: 高血圧, 高脂血症, 糖尿病合併症例における脳梗塞の再発予防. メディカルネットニュース 2006; 1(1892): 1-3.
- 29) 葉山修陽: 1. 症候と検査への対応の仕方 (診断) 16. 知覚障害. 腎と透析 2006 臨時増刊号 (腎・尿路疾患の診療指針'06) 2006; 61: 69-71.

- 30) 三品雅洋¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター): 脳梗塞診療における留意点と頭蓋内動脈狭窄例でのプレタール使用経験. Medicament News 2007; 1896 (1896): 8-9.
- 31) 大久保誠二, 片山泰朗: t-PA 静注療法の therapeutic window の拡大は可能か? 脳保護薬前投与の実験的検討からの予測について. 神経治療学 2007; 24 (1): 47-54.
- 32) 長尾毅彦: 神経内科領域(脳血管障害)の止血系検査. Medical Technology 2007; 35 (2): 140-145.
- 33) 葉山修陽: ANCA 関連腎炎の治療ガイド. 腎と透析 特集: エビデンスに基づく腎疾患治療ガイド 2007; 62 (3): 510-512.
- 34) 桂研一郎, 片山泰朗: 脳虚血病態と糖代謝障害. 分子脳血管病 2007; 6 (1): 45-50.
- (3) 症例報告:
- 1) 緒方清行¹⁾, 水越元気, 田村浩一²⁾, 加藤貴雄³⁾, 岸田 浩³⁾, 清野精彦³⁾, 駒場祐一, 吉村明修⁴⁾, 福間長知³⁾, 工藤翔二⁴⁾, 福田 悠⁵⁾, 坂本静樹, 津久井拓¹⁾, 本間 博⁶⁾, 刃刀しのぶ, 弦間昭彦, 藤野鉄平(¹⁾内科学第3, ²⁾病理部, ³⁾内科学第1, ⁴⁾内科学第4, ⁵⁾病理学第1, ⁶⁾生理機能センター): (Conference Room) 感染性心内膜炎の発症後, 脳梗塞を合併しびまん性肺胞傷害にて死亡した1例. 内科 2006; 98 (2): 357-368.
- 2) 角南英子, 永山 寛, 山崎峰雄, 勝又俊弥, 片山泰朗: 両側難聴で発症した脳幹・小脳梗塞の1例: 聴性脳幹反応の経時的観察による難聴の責任病巣の考察. 脳と神経 2006; 58 (9): 791-795.
- 3) 猪口孝一¹⁾, 北村光信²⁾, 臼杵二郎³⁾, 田村浩一⁴⁾, 内藤善哉⁵⁾, 藤田和恵³⁾, 工藤翔二³⁾, 片山泰朗, 辰口篤志⁶⁾, 福間長知²⁾, 中山智子⁷⁾, 川本雅司⁷⁾, 勝又俊弥, 杉崎祐一⁴⁾(¹⁾血液内科, ²⁾循環器内科, ³⁾呼吸器内科, ⁴⁾病理部, ⁵⁾病理学第2, ⁶⁾消化器内科, ⁷⁾病理学第1): 膿胸関連リンパ腫の1例. 内科 2006; 98 (6): 1091-1102.
- (4) 翻訳:
- 1) 石渡明子, 片山泰朗: 抗コリン作動薬の認知機能への影響. Mainichi Medical Journal 2006; 2 (7): 612-613.

著 書

- 1) 大鳥達雄, 片山泰朗: [分担] ペナンブラと神経細胞機能. よくわかる脳卒中のすべて, 2006; pp299-304, 永井書店.
- 2) 長尾毅彦, 橋本洋一郎: [分担] Stroke Unit における治療の実際. 脳梗塞急性期医療の最前線(橋本洋一郎), 2006; pp17-23, Medical Tribune.
- 3) 片山泰朗: [自著] よくわかる脳卒中患者さんの退院時必携書. よくわかる脳卒中患者さんの退院時必携書, 2006; pp1-67, ヴァンメディカル.
- 4) 北村 伸: [分担] 脳血管性認知症. からだの科学 認知症のすべて(須貝祐一編), 2006; pp22-26, 日本評論社.
- 5) 山崎峰雄: [分担] アルツハイマー病診断 早期発見・早期介入のために. 脳血管障害性認知症(村山繁雄編), 2006; pp199-213, 真興交易(株)医書出版部.
- 6) 有井孝子, 片山泰朗: [分担] 6) 脳循環改善薬 a. ニセルゴリン, イブジラスト, 酒石酸イフェンプロジル. インターベンション時代の脳卒中学(改訂第2版)上巻, 2006; pp602-605, 日本臨床社.
- 7) 坂本静樹, 片山泰朗: [分担] インターベンション時代の脳卒中学(改訂第2版) x-3. 脳卒中の直後と脳卒中後の諸症状とその管理. 脳卒中とめまい(増刊号), 2006; pp441-444, 日本臨床社.
- 8) 勝又俊弥: [自著] かかりつけ医のための脳卒中治療. かかりつけ医のための脳卒中治療, 2006; pp1-34, 大塚製薬.
- 9) 勝又俊弥, 片山泰朗: [分担] 脳循環代謝改善薬療法. インターベンション時代の脳卒中学 増刊号8, 2006; pp81-84, 日本臨床社.
- 10) 西山康裕, 片山泰朗, 子島 潤: [分担] 歯科で注意すべき他科の疾患. 歯科におけるくすりの使い方 2007-

2010, 2006 ; pp222-223, デンタルダイヤモンド社 .

- 11) 北村 伸 : [分担] 認知症と未病対策 . 未病医学臨床 (日本未病システム学会編), 2006 ; pp213-217, 金芳堂 .
- 12) 長尾毅彦, 片山泰朗, 横地正之¹⁾(¹⁾財) 東京都保健医療公社 荏原病院神経内科): [分担] 2. 進行性脳梗塞にヘパリン治療は有効か . EBM 神経疾患の治療 (岡本幸市, 棚橋紀夫, 水澤英洋), 2007 ; pp7-9, 中外医学社 .

学会発表

[2004 年度追加分]

一般講演 :

- 1) Nagao T, Nemoto K, Mizumura S, Ota T, Oyama M : Changes in Cerebral Blood Flow in Patients with Dementia Alzheimer's Type : Multicenter Clinical Study Using Easy Z-Score Imaging System . 7th International Conference of Alzheimer's and Parkinson's Disease (Sorrento, Italy), 2005 . 3 .

(1) 特別講演 :

- 1) 長尾毅彦 : 当院での超急性期脳梗塞の診断と治療 経静脈的血栓溶解療法を中心に . 第 153 回宮城県脳卒中治療研究会 , 2006 . 4 .
- 2) 片山泰朗 : 脳卒中と危険因子 . 第 8 回埼玉脂質代謝研究会 , 2006 . 6 .
- 3) 坂本静樹 : 生活習慣病と認知症 : 血圧・脂質管理を含めて . 第 5 回日本医科大学生活習慣病・医療連携推進会 , 2006 . 7 .
- 4) 長尾毅彦 : 脳梗塞における血栓溶解療法 MR を基準とした新しい診断指針の提案 . 第 9 回 C. C. カンファレンス , 2006 . 7 .
- 5) 勝又俊弥 : 脳梗塞と誤謬性肺炎 . 脳と肺疾患フォーラム , 2006 . 7 .
- 6) 片山泰朗 : 脳卒中の危険因子とそのマネジメント . 第 6 回脳卒中セミナー , 2006 . 9 .
- 7) 片山泰朗 : 脳卒中と危険因子 : EPA および Statin を含めて . 脳血管障害セミナー in 秋田 , 2006 . 9 .
- 8) 片山泰朗 : 脳梗塞の後遺症について : PSD 及び誤嚥性肺炎を中心に . Fighting Vascular Events in Nagoya 2006 Prevention of Post-stroke Syndrome , 2006 . 10 .
- 9) 片山泰朗 : 脳卒中と危険因子 . KYORIN Brain Forum '06 in Kumamoto , 2006 . 10 .
- 10) 櫻澤 誠, 西山康裕, 駒場祐一, 勝又俊弥, 桂研一郎, 片山泰朗 : 慢性期入院患者における simvastatin の血中脂質および ADMA に対する影響 : 第 1 報 . 第 3 回 Brain Protection Forum , 2006 . 10 .
- 11) 葉山修陽 : 慢性腎臓病 (CKD) を識る , 診る , 治す 蛋白尿 , 腎機能検査とそのコツ . 日本医科大学日本医師会 , 2006 . 10 .
- 12) 三品雅洋^{1, 2)}(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, (²⁾東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ): アデノシン A_{2A} 受容体とパーキンソン病 . 第 10 回 Neurology SPECT 定量検討会 , 2006 . 11 .
- 13) 長尾毅彦 : 24 時間救急 MRI 体制での脳梗塞血栓溶解療法の実際 . 第 4 回 Vascular Events 研究会 , 2006 . 11 .
- 14) 片山泰朗 : 脳梗塞急性期の脳保護療法 . 第 9 回京都脳梗塞セミナー , 2006 . 11 .
- 15) 片山泰朗 : 神経内科の立場から . Expert Meeting 2006 -The ARB with Evidence- , 2006 . 12 .
- 16) 長尾毅彦 : 日本人のエビデンスを日常診療にどう活かすか 神経内科専門医の立場から . CASE-J サミット , 2007 . 1 .
- 17) 片山泰朗 : 脳卒中患者の意欲低下と QOL . クオリティ・オブ・ライフ (QOL) を考える 睡眠障害と意欲低下 , 2007 . 1 .
- 18) 長尾毅彦 : 内頸動脈閉塞に対する経静脈的血栓溶解療法 : 2 例の経験から . 第 1 回 Tokyo Stroke Intervention Forum , 2007 . 1 .
- 19) 片山泰朗 : 脳梗塞後の後遺症について : PSD 及び誤嚥性肺炎を中心に . 学術講演会 (大塚製薬主催), 2007 . 2 .

- 20) 片山泰朗：脳梗塞後のマネジメント：再発予防・うつ・誤嚥性肺炎．岐阜サアミオン学術講演会（田辺製薬 主催），2007．2．
- 21) 上田雅之，島崎久仁子¹⁾，片山泰朗，Thaddeus S，Nowak J（¹⁾自治医科大学脳神経生理学）：脳虚血基礎研究の進歩：虚血耐性現象の治療への応用．第2回Stroke Prevention Forum，2007．2．
- 22) 片山泰朗：脳梗塞急性期の脳保護療法．第2回山梨県 脳・血管セミナー（持田製薬主催），2007．2．
- 23) 飯野靖彦：移植腎長期生着を目指した移植後メタボリックシンドロームの予防．第40回日本臨床腎移植学会，2007．2．
- 24) 長尾毅彦：脳梗塞急性期のt-PA治療の実際．東邦大学医療センター佐倉病院総合診療救急カンファレンス，2007．2．
- 25) 片山泰朗：脳梗塞急性期の脳保護療法．ブレインフォーラム2007，2007．3．
- 26) 片山泰朗：PSD脳卒中後うつ状態の病態と治療．第43回日本リハビリテーション医学会学術集会，2006．6．
- (2) 教育講演：
- 1) 飯野靖彦：腎臓と脂質．第49回日本腎臓学会学術総会，2006．6．
- (3) シンポジウム：
- 1) 長尾毅彦，井田正博，元良健一，新井健史，吉澤 寿：脳梗塞急性期におけるSWI（Susceptibility-Weighted Image）の有用性．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 2) 豊田一則，矢板正弘，長田 乾，長尾毅彦，坂本知浩：抗血栓溶解療法中に発症した脳出血の臨床的特徴：多施設後ろ向き研究（循委15公 1）．第31回日本脳卒中学会総会，2006．3．
- 3) 長尾毅彦，濱本 真，片山泰朗，横地正之¹⁾（¹⁾財）東京都保健医療公社荏原病院）：脳梗塞急性期血栓溶解療法に関わる血栓止血学的背景．第9回日本栓子検出と治療学会サテライトシンポジウム「血栓溶解療法の現状と今後」，2006．9．
- (4) パネルディスカッション：
- 1) 長尾毅彦：脳卒中拠点病院の現状と問題点．第2回日本脳卒中協会東京支部市民公開セミナー「脳卒中急性期の現状と問題点」，2006．10．
- 2) 長尾毅彦：神経救急にDPIが果たす役割．第10回臨床MR脳機能研究会 シンポジウム「perfusion MRI その現状と可能性」，2007．3．
- (5) ランチョンセミナー：
- 1) 西山康裕：PSD：Post Stroke Depressionその病態と治療について．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 2) 北村 伸：認知症と地域連携．第29回日本POS医療学会大会，2007．3．
- (6) 海外留学者講演：
- 1) 石渡明子：脳機能統計画像を用いたアルツハイマー病初期の病態生理：米国における「物忘れ外来」の現状．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- (7) 一般講演：
- 1) Mishina M^{1, 2)}，Ishii K²⁾，Kitamura S³⁾，Kimura Y²⁾，Naganawa M²⁾，Hashimoto M^{2, 4)}，Suzuki M^{2, 4)}，Oda K²⁾，Hamamoto M⁵⁾，Kobayashi S¹⁾，Katayama Y（¹⁾Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital，²⁾Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology，³⁾The Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital，⁴⁾Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine，⁵⁾Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital）：Distribution of adenosine A_{2A} receptors in de novo Parkinson's disease using TMSX PET：a preliminary study．Targeting Adenosine A_{2A} Receptors in Parkinson's Disease and other CNS Disorders (Boston)，2006．5．
- 2) Mishina M^{1, 2)}，Ishii K²⁾，Kitamura S³⁾，Kobayashi S¹⁾，Kiichi I²⁾，Katamaya Y（¹⁾Neurological Institute,

- Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , ³⁾ The Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Drawing task in ADAS-cog and MMSE : A FDG PET study . The 10th International Conference on Alzheimer's Disease and Related Disorders (Madrid), 2006 . 7 .
- 3) Yamazaki M , Hashimoto T¹⁾ , Nagasao J¹⁾ , Mori O²⁾ , Tsuchiya K³⁾ , Murayama S⁴⁾ , Katayama Y , Oyanagi K²⁾ (¹⁾ 東京都神経科学総合研究所神経病理 , ²⁾ 初石病院病理部 , ³⁾ 都立松沢病院検査科 , ⁴⁾ 東京都老人総合研究所老化ゲノム) : Coexistence of both 3-repeat tau and 4-repeat tau in glia of tauopathies . XVIth Congress of the International Society of Neuropathology (SanFrancisco, CA), 2006 . 9 .
- 4) Sakiyama Y¹⁾ , Saito Y¹⁾ , Hasegawa M²⁾ , Yamazaki M , Sengoku R¹⁾ , Ikemura M¹⁾ , Hatsuta H¹⁾ , Sawabe M³⁾ , Kanemaru K⁴⁾ , Mori H⁵⁾ , Tsuji S⁶⁾ , Murayama S¹⁾ (¹⁾ 東京都老人総合研究所老化ゲノム , ²⁾ 東京都精神医学研究所分子神経生物学 , ³⁾ 東京都老人医療センター病理科 , ⁴⁾ 同神経内科 , ⁵⁾ 大阪市立大学医学部脳神経科学 , ⁶⁾ 東京大学神経内科) : Accumulation of four-repeat tau precedes Alzheimer-type phosphorylation of tau in pigmented neurons of substantia nigra in progressive supranuclear palsy (PSP) . Society for Neuroscience (Atranta, America), 2006 . 10 .
- 5) Nagao T , Ishikawa M , Kanazawa K , Ida M , Yokochi M : ¹²³I-MIBG myocardial scintigraphy uptake decline is irrelevant to duration of illness in Parkinson disease . 10th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Kyoto, Japan), 2006 . 11 .
- 6) Nagao T , Ishikawa M , Kanazawa K , Ida M , Yokochi M : ¹²³I-MIBG Myocardial scintigraphy in patients with mild Parkinson disease with hallucinations . 4th International Workshop on DLB and PDD (Yokohama, Japan), 2006 . 11 .
- 7) Mishina M^{1,2)} , Ishii K²⁾ , Kitamura S³⁾ , Kimura Y²⁾ , Naganawa M²⁾ , Hashimoto M^{2,4)} , Suzuki M^{2,4)} , Oda K²⁾ , Hamamoto M⁵⁾ , Kobayashi S¹⁾ , Katayama Y , Ishiwata K²⁾ (¹⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , ³⁾ The Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital , ⁴⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine , ⁵⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Relationship between dopamine D₂ and adenosine A_{2A} receptors in drug naive Parkinson's disease using TMSX PET . The Movement Disorder Society's 10th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Kyoto), 2006 . 11 .
- 8) Suzuki M^{1,2)} , Hashimoto M^{1,2)} , Mishina M^{2,3)} , Kawasaki K²⁾ , Inoue K²⁾ , Ishii K²⁾ (¹⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine , ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , ³⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital) : Imaging of the dopaminergic system in Lewy body disease with PET . The Movement Disorder Society's 10th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Kyoto), 2006 . 11 .
- 9) Oyanagi K¹⁾ , Nagasao J¹⁾ , Yamazaki M , Okamoto K²⁾ , Aoki M³⁾ , Watanabe K⁴⁾ , Wada M⁵⁾ , Morita T⁶⁾ , Takahashi H⁷⁾ , Mizutani T⁸⁾ , Hayashi H⁹⁾ (¹⁾ 東京都神経総合研究所神経病理 , ²⁾ 群馬大学神経内科 , ³⁾ 東北大学神経内科 , ⁴⁾ 東京都神経総合研究所分子神経病理 , ⁵⁾ 山形大学第三内科 , ⁶⁾ 信楽園病院病理 , ⁷⁾ 新潟大学脳研究所病理 , ⁸⁾ 東京都神経病院検査科 , ⁹⁾ 同神経内科) : Protein synthesizing system in the motor neurons in the spinal cord in amyotrophic lateral sclerosis : pursuing the begining of the alterations . 17th International Symposium on ALS/MND (横浜 , 神奈川), 2006 . 12 .
- 10) Nagao T , Komine-Kobayashi M , Kanazawa K , Ida M , Katayama Y , Yokoichi M : FLAR Perfusion Map : Detecting perfusion abnormality using intraarterial signal on FLAR MRI in hyperacute cerebral ischemia . 9th International Symposium on Thrombolysis and Acute Stroke Therapy (Hong Kong, China),

2006 . 12 .

- 11) Toyoda K , Yasaka M , Minematsu K , Bleeding with Antithrombotic Therapy Study G , Nagao T : Dual anti-thrombotic therapy doubles life-threatening bleeding in patients with cardiovascular diseases and stroke : Prospective multicenter study. . 2007 International Stroke Conference (SanFrancisco, CA) , 2007 . 2 .
- 12) Ishiwata A : Which is correlated with clinical features, severity or extend of lesion in alzheimer ' s disease in spect? . 8th International Conference AD/PD 2007 (Salzburg, Austria) , 2007 . 3 .
- 13) 内海甲一 , 藤田有子 , 高田大輔 , 勝又俊弥 , 桂研一郎 , 飯野靖彦 , 片山泰朗 : 尿沈渣の異常により発見し得た Fabry病患者 . 第 103 回日本内科学会講演会 , 2006 . 4 .
- 14) 坂本静樹 , 山崎峰雄 , 大鳥達雄 , 片山泰朗 : アルツハイマー病治療薬の使用開始時期に関する検討 . 第 103 回日本内科学会講演会 , 2006 . 4 .
- 15) 石渡明子 , 北村 伸 , 片山泰朗 , DJ C¹⁾ , 蓑島 聡¹⁾ (¹⁾ワシントン大学放射線科) : 早期アルツハイマー病における脳代謝低下部位の広がり と統計画像診断 . 第 103 回日本内科学会講演会 , 2006 . 4 .
- 16) 田口志保 , 西山康裕 , 駒場祐一 , 勝又俊弥 , 桂研一郎 , 片山泰朗 : 脳梗塞患者における血中 Malonaldehyde-modified LDL (MBA-LDL) 濃度の検討 . 第 103 回日本内科学会講演会 , 2006 . 4 .
- 17) 西山康裕 , 田口志保 , 阿部 新 , 桜沢 誠 , 駒場祐一 , 片山泰朗 : 脳梗塞患者における血中 asymmetric dimethylarginine (ADMA) へのスタチンの影響 . 第 103 回日本内科学会講演会 , 2006 . 4 .
- 18) 中嶋信人 , 熊谷智昭 , 駒場祐一 , 水越元気 , 大鳥達雄 , 山口 博 , 上田雅之 , 勝又俊弥 , 片山泰朗 : 片頭痛様症状を繰り返した両側椎骨動脈解離による脳梗塞の 1 例 . 第 5 回東京 Stroke フロンティア , 2006 . 4 .
- 19) 三品雅洋^{1, 2)} , 石井賢二²⁾ , 北村 伸³⁾ , 石渡喜一²⁾ , 小林士郎¹⁾ , 片山泰朗 (¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター , ²⁾東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ , ³⁾日本医科大学武蔵小杉病院内科) : アルツハイマー病における描画機能と脳ブドウ糖代謝の関係 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 20) 熊谷智昭¹⁾ , 三品雅洋¹⁾ , 武井健吉²⁾ , 福地孝明¹⁾ , 水成隆之¹⁾ , 松本 尚²⁾ , 益子邦洋²⁾ , 小林士郎¹⁾ , 片山泰朗 , 赫 彰郎 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター , ²⁾同救命救急センター) : 脳神経センターにおけるドクターヘリ利用状況 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 21) 三谷和子^{1, 2)} , 石井賢二²⁾ , 三品雅洋^{2, 3)} (¹⁾東京都老人医療センター神経内科 , ²⁾東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ , ³⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 痴呆を伴うパーキンソン病における黒質線条体ドパミン系機能 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 22) 橋本昌也^{1, 2)} , 川崎敬一²⁾ , 鈴木正彦^{1, 2)} , 井上聖啓¹⁾ , 三谷和子^{2, 3)} , 三品雅洋^{2, 4)} , 織田圭一²⁾ , 木村裕一²⁾ , 石渡喜一²⁾ , 石井賢二²⁾ (¹⁾東京慈恵会医科大学神経内科 , ²⁾東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ , ³⁾東京都老人医療センター神経内科 , ⁴⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター) : 多系統萎縮症における黒質線条体ドパミン機能障害の検討 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 23) 野本達也 , 瀬田健博 , 野村浩一 , 塚本和久 , 國本健太 , 鎌塚栄一郎 , 金村應文 , 桂研一郎 , 片山泰朗 : 脳梗塞発症時の症状 , 責任病巣の左右差についての検討 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 24) 渡辺めぐみ , 桂研一郎 , 高橋久美子 , 水越元気 , 桜沢 誠 , 片山泰朗 : 虚血耐性現象への選択的ミトコンドリア KATP チャンネル開口薬の影響 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 25) 坂本静樹 , 山崎峰雄 , 大鳥達雄 , 片山泰朗 : 塩酸ドネペジルの使用開始時期に関する検討 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 26) 大久保誠二 , 濱本 真 , 山口 博 , 熊谷智昭 , 片山泰朗 : 高齢者における髄液循環障害の検討 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 27) 水越元気 , 桂研一郎 , 渡辺めぐみ , 櫻沢 誠 , 片山泰朗 : 脳梗塞急性期における体温の影響 : S100 index による評価 . 第 47 回日本神経学会総会 , 2006 . 5 .
- 28) 勝又俊弥 , 西山 穰 , 大鳥達雄 , 中村秀紀 , 田中紀子 , 片山泰朗 : インスリン抵抗性の有無による脳梗塞の差

- 異．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 29) 桂研一郎，渡辺めぐみ，水越元気，桜沢 誠，片山泰朗：前脳虚血再灌流時の高血糖，高炭酸ガス血症の脂質代謝に及ぼす影響．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 30) 石渡明子，水村 直¹⁾，北村 伸，片山泰朗^(¹放射線医学)：3D-SSPによるアルツハイマー病の経時的評価：count base referenceによる再現性の検討．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 31) 山崎峰雄，橋本智代¹⁾，長竿 淳²⁾，森 修³⁾，土谷邦秋³⁾，片山泰朗，小柳清光⁴⁾^(¹産業医大神経内科，²長寿振興財団，³初石病院神経内科，⁴東京都神経研究所神経病理)：3/4リピートタウ：パーキンソンニズム痴呆症では同一グリア細胞内に共存する．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 32) 齋藤祐子，崎山快夫，山崎峰雄，金丸和富，村上喜生，加藤貴行，石井賢二，村山繁雄：小脳症状が前景となった進行性核上性麻痺の臨床病理学的特徴．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 33) 崎山快夫，齋藤祐子，山崎峰雄，金丸和富，沢辺元司，辻 省次，村山繁雄：進行性核上性麻痺（PSP）の isoform 病理．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 34) 吉村菜穂子，長尾毅彦，平林久吾：脳梗塞機能回復予後に対する拡散テンソル画像の有用性．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 35) 石川みずき，長尾毅彦，横地正之，井田正博：パーキンソンニズム症例におけるMIBG心筋シンチグラフィの経時的測定の診断意義．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 36) 笠井陽介，金澤俊郎，長尾毅彦，横地正之：椎骨動脈解離によるWallenberg症候群の臨床的特徴．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 37) 小林美紀，長尾毅彦，井田正博：梗塞サイズの予見におけるIA signの有用性について．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 38) 長尾毅彦，井田正博，有馬留志，石川みずき：胸部MRを用いた塞栓源検索の試み．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 39) 上田雅之，神谷達司¹⁾，片山泰朗^(¹岡山大学神経病態内科学)：Double priming modelを用いた虚血耐性獲得における脱分極の意義の検討．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 40) 雨宮志門，神谷達司¹⁾，稲葉俊東，上田雅之，加藤健吾，須田 智，片山泰朗^(¹岡山大学神経病態内科学)：ラット局所脳虚血モデルにおけるFK506の神経保護作用および抗アポトーシス効果に関する検討．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 41) 加藤健吾，島崎久仁子¹⁾，神谷達司²⁾，横田英典³⁾，小黒恵司³⁾，稲葉俊東，上田雅之，雨宮志門，西山康裕，須田 智，渡辺英寿³⁾，片山泰朗^(¹自治医科大学脳神経生理学，²岡山大学神経病態内科学，³自治医科大学脳神経外科)：局所脳虚血における骨髄幹細胞移植の投与方法による細胞分布と脳梗塞縮小効果の比較．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 42) 神谷達司¹⁾，上田雅之，加藤健吾，稲葉俊東，雨宮志門，西山康裕，須田 智，島崎久仁子²⁾，片山泰朗^(¹岡山大学神経病態内科学，²自治医科大学 脳神経生理学)：ラット局所脳虚血モデルにおけるRho-kinase阻害薬の神経保護効果の検討．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 43) 永山 寛，濱本 真，上田雅之，角南英子，熊谷智昭，中嶋信人，片山泰朗：レポドーバ動態における加齢の影響．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 44) 西山康裕，駒場祐一，阿部 新，田口志保，神谷達司¹⁾，上田雅之，加藤健吾，雨宮志門，須田 智，片山泰朗^(¹岡山大学神経病態内科学)：血中asymmetric dimethylarginine（ADMA）の脳梗塞患者に対するスタチン投与の影響．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- 45) 山崎峰雄，橋本智代，長竿 淳，森 修，土谷邦秋，片山泰朗，小柳清光：タウオパチーでは3/4リピートタウが同一グリア細胞内に共存する．第47回日本神経病理学会学術研究会総会，2006．5．
- 46) 崎山快夫，齋藤祐子，山崎峰雄，金丸和富，沢辺元司，辻 省次，村山繁雄：進行性核上性麻痺（PSP）のス

クリーニングに， isoform 特異抗体を用いた黒質の評価は有用である．第47回日本神経病理学会学術研究会総会，2006．5．

- 47) 藤田有子，内海甲一，金子朋広，高田大輔，木嶋祥一郎，上田佳恵，山崎峰雄，勝又俊弥，飯野靖彦，片山泰朗：自己免疫性膵炎治療後に発症した尿管間質性腎炎の1例．第535回日本内科学会関東地方会，2006．5．
- 48) 雨宮志門，濱本 真，三品雅洋，西山 穰，片山泰朗：広範なMRI拡散強調画像異常を呈し，¹²³I-iomazenil-SPECTが有用であった78歳女性てんかん重積発作の1例．第177回日本神経学会関東地方会，2006．6．
- 49) 大久保誠二，片山泰朗：危険因子を持つ無症候症例の頸動脈超音波検査所見．第15回日本脳ドック学会総会，2006．6．
- 50) 雨宮志門¹⁾，濱本 真¹⁾，三品雅洋²⁾，西山 穰¹⁾，片山泰朗（¹⁾千葉北総病院内科，²⁾同千葉北総病院脳神経センター）：広範なMRI拡散強調画像異常を呈し，¹²³I-iomazenil-SPECTが有用であった78歳女性てんかん重積発作の1例．第177回日本神経学会関東地方会，2006．6．
- 51) 瀬田健博，野本達也，石原 力，宮地秀樹，岩本将人，亀山幹彦，佐伯和則，金村應文，片山泰朗：超高齢者正常圧水頭症に対し，髄液摂取にて歩行改善を認めた1例．第179回日本内科学会東北地方会，2006．6．
- 52) 大久保誠二，片山泰朗：血栓溶解療法後の出血性梗塞に対する赤血球およびその分解産物の影響．第1回脳浮腫・頭蓋内圧フォーラム2006，2006．6．
- 53) 大鳥達雄，坂本静樹，水村 直¹⁾，勝又俊弥，駒場祐一，片山泰朗（¹⁾放射線医学）：脳梗塞慢性期におけるシルニジピンの血圧，脳血流量および自律神経に対する効果：24時間心電圧計，頭部SPECT 3D-SSP解析を用いた検討．第48回日本老年医学会総会，2006．6．
- 54) 西山康裕，駒場祐一，神谷達司¹⁾，片山泰朗（¹⁾岡山大学大学院神経病態内科学）：脳梗塞慢性期患者における血清 Malondialdehyde-modified LDL (MDA-LDL)濃度の検討について．第48回日本老年医学会総会，2006．6．
- 55) 石渡明子，水村 直¹⁾，北村 伸，片山泰朗（¹⁾放射線医学）：3D-SSPによるアルツハイマー病のintrasubjectの再現性の検討；最大値参照法を用いて．第48回日本老年精神医学会総会，2006．6．
- 56) 内海甲一，加瀬良一¹⁾，藤田有子，高田大輔，飯野靖彦，片山泰朗：Fabry病の酵素補充療法における臨床的及び生化学的検討．第49回日本腎臓学会学術総会，2006．6．
- 57) 金子朋広，原 啓子，上田佳恵，木嶋祥一郎，藤田有子，高田大輔，内海甲一，飯野靖彦，片山泰朗：IgA腎症に対する扁桃摘除術+ミソリピン療法の短期治療効果．第49回日本腎臓学会学術総会，2006．6．
- 58) 上田佳恵，原 啓子，木嶋祥一郎，藤田有子，高田大輔，金子朋広，内海甲一，飯野靖彦，片山泰朗：早期腎機能障害のマーカーとしての血清シスタチンCの有用性．第49回日本腎臓学会学術総会，2006．6．
- 59) 葉山修陽，齋藤サビーネ京子，飯野靖彦：血液透析患者におけるDalteparin Sodium (DS)の抗炎症作用について．第49回日本腎臓学会学術総会，2006．6．
- 60) 葉山修陽，齋藤サビーネ京子，飯野靖彦：抗凝固薬Dalteparin Sodium (DS)の抗炎症作用について．第51回日本透析医学会学術集会，2006．6．
- 61) 藤田有子，金子朋広，内海甲一，高田大輔，木嶋祥一郎，上田佳恵：2重膜濾過血漿交換療法が有効であった自己免疫性水泡症の3症例．第51回日本透析医学会学術集会?総会，2006．6．
- 62) 岡村正哉，角南英子，永山 寛，有井一正，山崎峰雄，坂本静樹，片山泰朗：頭部MRI拡散強調画像で左海馬に可逆的な高信号を認めた一過性全健忘の1例．第536回日本内科学会関東地方会，2006．6．
- 63) 大久保誠二，片山泰朗：血栓溶解療法後の出血性梗塞に対する赤血球およびその分解産物の影響．脳浮腫・頭蓋内圧フォーラム2006，2006．6．
- 64) 瀬田健博，野本達也，塚本和久，石原 力，水村 直¹⁾，西山 穰，勝又俊弥，桂研一郎，片山泰朗（¹⁾放射線医学）：脳梗塞患者におけるメタボリックシンドロームと頸動脈エコーとの関連について．第24回日本神経治療学会総会，2006．7．
- 65) 坂本静樹，大鳥達雄，片山泰朗：脳梗塞慢性期におけるシルニジピンの血圧，自律神経および脳血流量に対す

- る効果(第2報).第24回日本神経治療学会総会,2006.7.
- 66)大垣光太郎,長尾毅彦,井田正博:MR selectionによる超急性期脳虚血血栓溶解療法の有用性.第24回日本神経治療学会総会,2006.7.
- 67)宮宮志門,濱本 真,三品雅洋,西山 穰,片山泰朗:広範なMRI拡散強調画像異常を呈し,¹²³I-iomazenil-SPECTが有用であったてんかん重積発作の1例.第24回日本神経治療学会総会,2006.7.
- 68)角南英子,岡村正哉,熊谷智昭,永山 寛,山崎峰雄,勝又俊弥,坂本静樹,片山泰朗:脊髄前根から馬尾に造影効果を認め,治療に難渋した抗GalNAc-GD1a抗体陽性ニューロパチーの1例.第537回日本内科学会関東地方会,2006.7.
- 69)上田雅之,大久保誠二,神谷信雄,五十嵐博中¹⁾,片山泰朗(¹⁾新潟大学脳研究所付属統合脳機能研究センター):神経内科領域におけるMRI技術の実験的研究:疾患モデル動物を用いて.第1回日本医科大学医用磁気共鳴分析施設公開セミナー,2006.8.
- 70)大鳥達雄,中嶋信人,駒場祐一,勝又俊弥,片山泰朗:片頭痛様症状を呈した両側椎骨動脈解離による脳梗塞の1例.第25回Mt. Fuji work shop on CVD,2006.8.
- 71)水越元気,桂研一郎,渡辺めぐみ,桜澤 誠,片山泰朗:生化学的マーカーによる脳梗塞重症度の判定;edaravone,体温の影響.第25回Mt. Fuji work shop on CVD,2006.8.
- 72)駒場祐一,水越元気,久松めぐみ,野村浩一,大鳥達雄,片山泰朗:脳梗塞に対するt-PA投与により悪化を来した僧房弁形成術後症例.第25回Mt. Fuji work shop on CVD,2006.8.
- 73)三品雅洋,熊谷智昭,福地孝明,水成隆之¹⁾,小林士郎¹⁾,武井健吉²⁾,松本 尚²⁾,益子邦洋²⁾,片山泰朗(¹⁾千葉北総病院脳神経センター,²⁾同救命救急センター):当院脳神経センターにおけるドクターヘリ利用状況に関する検討.第25回Mt. Fuji work shop on CVD,2006.8.
- 74)大久保誠二,片山泰朗:脳梗塞急性期における脳血流検査と予後の検討.第25回Mt. Fuji work shop on CVD,2006.8.
- 75)阿部 新,植田敏浩,野越慎司,西山康裕,片山泰朗:内頸動脈狭窄に対する頸動脈ステント留置術:対側内頸動脈閉塞・狭窄症を合併した症例における脳血流動態.第25回Mt. Fuji work shop on CVD,2006.8.
- 76)三品雅洋^{1,2)},石井賢二²⁾,北村 伸³⁾,木村裕一²⁾,長縄美香³⁾,織田圭一²⁾,橋本昌也⁴⁾,濱本 真⁵⁾,小林士郎¹⁾,片山泰朗,石渡喜一²⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター,²⁾東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ,³⁾日本医科大学武蔵小杉病院内科,⁴⁾東京慈恵会医科大学神経内科,⁵⁾日本医科大学千葉北総病院内科):未治療パーキンソン病におけるドパミントランスポーター・ドパミンD₂受容体分布の左右差とアデノシンA_{2A}受容体分布の関係:[C-11]TMSX PETを用いた検討.第6回パーキンソン病フォーラム,2006.8.
- 77)中嶋信人,駒場祐一,山崎峰雄,勝又俊弥,片山泰朗:特異的眼球運動障害を呈した脳幹梗塞の1例.第178回日本神経学会関東地方会,2006.9.
- 78)神谷信雄,五十嵐博中¹⁾,片山泰朗(¹⁾新潟大学統合脳機能研究センター臨床機能神経科学分野):脳梗塞急性期におけるMRIを用いた自己骨髄細胞移植のモニタリング.第74回日本医科大学医学会総会,2006.9.
- 79)原 啓子,金子朋広,片山泰朗:血漿交換が有効であったHELLP症候群の1例.第74回日本医科大学医学会総会,2006.9.
- 80)田中紀子,勝又俊弥,大鳥達雄,西山 穰,中村秀紀,片山泰朗:SHRSPを用いたAtorvastatinの長期投与による脳卒中予防の検討:脳動脈の血管壁肥厚に及ぼす効果.第74回日本医科大学医学会総会,2006.9.
- 81)野本達也,瀬田健博,石原 力,亀山幹彦¹⁾,佐伯和則¹⁾,金村應文¹⁾,片山泰朗(¹⁾北村山公立病院内科):脳梗塞入院患者における病巣の左右差について.第79回日本神経学会東北地方会,2006.9.
- 82)中嶋信人,塚本和久,永山 寛,平間章郎,鎌田有子,上田雅之,山崎峰雄,駒場祐一,飯野靖彦,片山泰朗:PTHrP産生腫瘍に伴う高カルシウム血症によりReversible Posterior Leukoencephalopathy syndrome

- (RPLS)をきたした1例．第539回日本内科学会関東地方会，2006．10．
- 83) 原 啓子，小林美紀，平林久吾，横地正之，高橋 学：アトピー性皮膚炎より髄膜炎を発症し，急死した43歳男性例．第179回日本神経学会関東地方会，2006．11．
- 84) 中嶋信人，上田雅之，山崎峰雄，駒場祐一，片山泰朗：高カルシウム血症によると考えられるReversible Posterior Leukoencephalopathy Syndrome (RPLS)を認めた58歳男性の1例．第179回日本神経学会関東地方会，2006．11．
- 85) 雨宮志門¹⁾，濱本 真¹⁾，三品雅洋²⁾，西山 穰¹⁾，有井一正¹⁾，片山泰朗 (¹⁾千葉北総病院内科，²⁾同脳神経センター)：広範囲の¹²³I-iodozepamの可塑性取り込み低下を認めたてんかん重発作の1例．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 86) 福地孝明¹⁾，三品雅洋¹⁾，水成隆之¹⁾，小南修史¹⁾，渡辺 玲¹⁾，寺尾 健¹⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：当センターにて経験したrt-PA投与症例7例の報告．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 87) 大鳥達雄，坂本静樹，水村 直¹⁾，勝又俊弥，駒場祐一，片山泰朗 (¹⁾放射線医学)：脳梗塞慢性期におけるシルニジピンの血圧，脳血流量および自律神経に対する効果：24時間心電圧計，頭部SPECT 3D-SSP解析を用いた検討．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 88) 渡辺めぐみ，桂研一郎，大澤郁朗¹⁾，太田成男¹⁾，片山泰朗 (¹⁾大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野)：無酸素無糖条件による初代培養神経細胞の耐性獲得とミトコンドリアKATPチャネルの役割．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 89) 坂本静樹，山崎峰雄，大鳥達雄，片山泰朗：認知機能障害に対するドネペジル投与開始時期に関する検討．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 90) 勝又俊弥，西山 穰，大鳥達雄，大久保誠二，片山泰朗：インスリン抵抗性の有無による脳梗塞患者の差異．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 91) 桂研一郎，渡辺めぐみ，水越元気，桜沢 誠，内海甲一，片山泰朗：エリスロポエチンの一過性局所脳虚血モデルにおける脳保護効果．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 92) 瀬田健博，野本達也，石原 力，塚本和久，西山 穰，勝又俊弥，桂研一郎，片山泰朗：慢性期脳梗塞患者におけるメタボリックシンドロームの危険因子と頸動脈エコーとの関連について．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 93) 石渡明子，水村 直¹⁾，北村 伸，片山泰朗 (¹⁾放射線医学)：アルツハイマー病の臨床症状とSPECTによる重症度と病変の広がりの相関の検討．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 94) 上田雅之，片山泰朗，Thaddeus S，Nowak J：虚血耐性獲得における反復性非致死性虚血の影響：double priming modelを用いた脱分極時間による検討．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 95) 齋藤敬子，石井麻紀，西山康裕：構成失書を呈した1例．第30回日本高次機能障害学会，2006．11．
- 96) 石井麻紀，齋藤敬子，西山康裕：右被殻出血により失算を呈した1例．第30回日本高次機能障害学会，2006．11．
- 97) 白田和弘，酒巻雅典，水越元気，熊谷智昭，田中紀子，有井孝子，福地孝明，駒場祐一，北村 伸，片山泰朗：高血圧および緊張型頭痛の経過中，頭痛のみを呈した椎骨動脈解離の1例．第34回日本頭痛学会総会，2006．11．
- 98) 瀬田健博，野本達也，石原 力，桂研一郎，片山泰朗：後頭部痛を伴い，両側小脳に異常所見を認めた悪性リンパ腫の1例．第34回日本頭痛学会総会，2006．11．
- 99) 野本達也，長尾毅彦，桂研一郎，横地正之¹⁾，片山泰朗 (¹⁾財)東京都保健医療公社荏原病院神経内科)：潰瘍性大腸炎の経過中，脳血管炎を合併したと考えられた1例．第34回日本頭痛学会総会，2006．11．
- 100) 大鳥達雄，中嶋信人，大久保誠二，駒場祐一，片山泰朗：片頭痛様症状を呈した両側椎骨動脈解離による脳梗塞の1例．第34回日本頭痛学会総会，2006．11．

- 101) 須田 智, 櫻澤 誠, 上田雅之, 駒場祐一, 勝又俊弥, 桂研一郎, 高木 亮¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 付属病院放射線科): 原因として特発性内頸動脈解離が疑われた若年性脳梗塞の1例. 第34回日本頭痛学会総会, 2006. 11.
- 102) 藤田有子, 金子朋広, 内海甲一, 高田大輔, 木嶋祥一郎, 上田佳恵, 葉山修陽, 飯野靖彦, 片山泰朗: 自己免疫性膵炎治療後3年後に発症した尿細管間質性腎炎の1例. 第36回日本腎臓学会東部学会大会, 2006. 11.
- 103) 三品雅洋^{1, 2)}, 石井賢二²⁾, 北村 伸³⁾, 木村裕一²⁾, 長縄美香²⁾, 橋本昌也^{2, 4)}, 鈴木正彦^{2, 4)}, 織田圭一²⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗, 石渡喜一²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ²⁾ 東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ, ³⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院内科, ⁴⁾ 東京慈恵会医科大学神経内科): [¹¹C]TMSX PET を用いた未治療パーキンソン病におけるアデノシン A_{2A} 受容体結合能: a preliminary study. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 104) 大久保誠二, 五十嵐博中¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 新潟大学脳研究所付属統合脳機能研究センター): MRI を用いた進行性脳梗塞の診断. 第6回オザゲレル学術講演会, 2006. 11.
- 105) 西山康裕, 阿部 新, 片山泰朗: 一過性黒内障を認め, 診断に苦慮した1例. 第6回オザゲレル学術講演会, 2006. 11.
- 106) 阿部 新, 西山康裕, 上山博康, 北畑功雄, 小松大介, 萩原 浩, 片山泰朗: テニス競技中に生じた中大脳動脈および内頸動脈解離の1例. 第1回 Tokyo Stroke Intervention Seminar (TSIS), 2007. 1.
- 107) 宮地秀樹, 富田和憲, 亀山幹彦, 佐伯和則, 金村應文, 野本達也, 石原 力, 瀬田健博: 筋萎縮性側索硬化症の経過中に心不全を発症し, 拡張型心筋症と診断し得た1例. 第181回日本内科学会東北地方会, 2007. 2.
- 108) 中嶋信人, 水越元気, 瀬田健博, 石原 力, 野本達也, 片山泰朗: 抗 MuSK 抗体/抗 AChR 抗体陰性の重症筋無力症が疑われた1例. 第3回山形重症筋無力症学術講演会, 2007. 2.
- 109) 福地孝明, 三品雅洋, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 渡辺 玲¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 日本医科大学千葉北総病院で経験した rt-PA 投与症例14例について. 第3回東京脳卒中診断治療研究会, 2007. 2.
- 110) 野本達也, 水越元気, 中嶋信人, 塚本和久, 瀬田健博: 脳梗塞発症で見つかった成人発症セントラルコア病の1例. 第3回東京脳卒中診断治療研究会, 2007. 2.
- 111) 大久保誠二, 五十嵐博中¹⁾, 長尾毅彦, 井田正博²⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 新潟大学脳研究所付属統合脳機能研究センター, ²⁾ 保健医療公社荏原病院神経内科): 脳梗塞急性期における Diffusion-Perfusion MRI を用いた予後予測. 第3回東京脳卒中診断治療研究会, 2007. 2.
- 112) 大鳥達雄: 日本医科大学 SCU における9症例の rt-PA 使用成績. 第3回東京脳卒中診断治療研究会, 2007. 2.
- 113) 有井孝子, 大鳥達雄: 当科におけるイブジラストの臨床研究 (OASIS) の中間報告. 第3回東京脳卒中診断治療研究会, 2007. 2.
- 114) 櫻澤 誠, 片山泰朗: Trihexyphenidyl が著効した舌ジストニアの1例. 第16回お茶の水 Visual Neurology, 2007. 3.
- 115) 神谷信雄, 五十嵐博中¹⁾, 大久保誠二, 酒巻雅典, 片山泰朗 (¹⁾ 新潟大学脳研究所付属統合脳機能研究センター): 大梗塞病変での, グリセロール投与による抗浮腫作用と mass effect 悪化の可能性の MRI を用いての検討. 第19回臨床 MR 脳機能研究会, 2007. 3.
- 116) 福地孝明, 三品雅洋, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 渡辺 玲¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター): 当センターにて経験した rt-PA 投与11症例の報告. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 117) 渡辺めぐみ, 桂研一郎, 大澤郁朗¹⁾, 太田成男¹⁾, 片山泰朗 (¹⁾ 大学院医学研究科加齢科学系専攻細胞生物学分野): 初代培養神経細胞を用いた耐性現象とミトコンドリア膜電位: ミトコンドリア KATP チャンネルの役割. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 118) 神谷信雄, 五十嵐博中¹⁾, 西山康裕, 上田雅之, 須田 智, 片山泰朗 (¹⁾ 新潟大学脳研究所 付属統合脳機能研究センター): ラット局所脳虚血モデルにおける急性期自己骨髄単核球細胞投与の脳保護効果の検討. 第32回

- 日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 119) 水越元気，桂研一郎，渡辺めぐみ，片山泰朗：脳梗塞急性期における体温の影響．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 120) 阿部 新，西山康裕，五十嵐博中¹⁾，萩原 浩，片山泰朗⁽¹⁾新潟大学脳研究所)：early CT signは何をあらわしているのか？．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 121) 熊谷智昭，雨宮志門，濱本 真，三品雅洋，福地孝明，小林士郎¹⁾，片山泰朗⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：脳梗塞における延髄性高血圧の検討．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 122) 勝又俊弥，西山 穰，大鳥達雄，田中紀子，大久保誠二，瀬田健博，片山泰朗：インスリン抵抗性の有無による脳梗塞患者の差異．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 123) 桂研一郎，渡辺めぐみ，水越元気，桜沢 誠，内海甲一，片山泰朗：ラット中大脳動脈閉塞再灌流モデルにおけるエリスロポエチンの脳保護効果．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 124) 瀬田健博，野村浩一，西山 穰，勝又俊弥，駒場祐一，坂本静樹，桂研一郎，野本達也，水村 直¹⁾，片山泰朗⁽¹⁾放射線医学)：メタボリックシンドロームと慢性期脳梗塞患者についての検討．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 125) 三品雅洋，太組一朗¹⁾，福地孝明，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗⁽¹⁾千葉北総病院脳神経センター)：気候と脳梗塞発症の関係．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 126) 大鳥達雄，坂本静樹，水村 直¹⁾，大久保誠二，野村浩一，勝又俊弥⁽¹⁾放射線医学)：脳梗塞慢性期におけるシルニジピンの血圧，脳血流量および自律神経に対する効果第2報．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 127) 西山 穰，勝又俊弥，大鳥達雄，大久保誠二，野村浩一，片山泰朗：脳梗塞患者における頸動脈狭窄度とレムナント様リポ蛋白コレステロールの関連の検討．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 128) 長尾毅彦，原 啓子，小林美紀，平林久吾，片山泰朗，横地正之：血液凝固検査は血栓溶解療法の効果を予測できるか？．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 129) 長尾毅彦，小林美紀，横地正之：総合脳卒中センター開設による急性期脳卒中入院患者診療状況の変化．第32回日本脳卒中学会総会，2007．3．
- 130) 永山 寛：パーキンソン病の診断と治療．第5回ROD21研究会，2007．3．
- 131) 大久保誠二，五十嵐博中¹⁾，片山泰朗⁽¹⁾新潟大学脳研究所 統合脳機能研究センター)：脳塞栓モデルRatに対する血栓溶解療法とFK506の併用効果の検討．第6回東京stroke フロンティア 2007，2007．3．
- 132) 瀬田健博，野本達也，石原 力，水越元気，中嶋信人，片山泰朗：後頭部痛を伴い，両側小脳に異常所見を認めた悪性リンパ腫の1例．第80回日本神経学会東北地方会，2007．3．
- 133) 三井亜希子，清水 章¹⁾，益田幸成¹⁾，藤田恵美子，高野 香¹⁾，石崎正通¹⁾，飯野靖彦，片山泰朗，河内裕²⁾，杉崎祐一³⁾，福田 悠¹⁾(¹⁾日本医科大学大学院解析人体病理学，²⁾新潟大学付属腎研究施設分子病態学分野，³⁾日本医科大学付属病院病理部)：Thy1腎炎急性活動性病変におけるAT1 receptor blocker (ARB)の腎保護作用に関する検討．第96回日本病理学会総会，2007．3．
- (8) イブニングセミナー：
- 1) 石渡明子：フィルムリーディングセッション．第47回日本神経学会総会，2006．5．
- (9) 市民公開講座：
- 1) 飯野靖彦：1. 腎臓の働きと腎臓病のサイン．第47回日本腎臓学会総会，2006．6．

[付属病院リウマチ科]

研究概要

リウマチ科ではリウマチ性疾患（関節リウマチ，全身性エリテマトーデス，変形性関節症など）の臨床的・基礎的研究を進めております．具体的には，臨床研究として，内科的・外科的治療・リハビリテーション・精神的指導などを含めたトータルマネージメントを行うべく，1) リウマチ性疾患に対する神経・内分泌・免疫系の役割について，2) 生物学的製剤の有効性の検討，3) 人工関節の長期成績・耐久性のよい人工膝関節の開発について，4) 人工関節置換術の合併症，手術後の肺塞栓症と深部静脈血栓症の予防と治療，5) リウマチ肺の臨床的研究，6) 関節リウマチによる脊椎病変の臨床的検討 などを行っております．

一方，基礎的研究では，1) 関節リウマチの遺伝子治療，2) 関節リウマチにおける血管増殖因子と抑制因子の制御，3) 疾患修飾性抗リウマチ薬の薬剤耐性機構の解明，4) 膠原病発症の分子機構の解明とその制御，5) リウマチ肺の基礎的研究，6) 関節リウマチの骨・関節破壊の機構解明と骨粗鬆症の病態解明について研究を行っています．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Tanno M¹⁾, Nakamura I¹⁾, Ito K¹⁾, Tanaka H²⁾, Ohta H³⁾, Kobayashi M⁴⁾, Tachihara A, Nagashima M, Yoshino S, Nakajima A (¹⁾ Department of Rheumatology, Yugawara Kosei-Nenkin Hospital, ²⁾ Department of Rheumatology, Tokyo Metropolitan Rehabilitation Hospital, ³⁾ Department of Health Service Administration, Nippon Medical School, ⁴⁾ Crecom Research and Consulting Inc.) : Modeling and cost-effectiveness analysis of etanercept in adults with rheumatoid arthritis in Japan- A preliminary analysis. . Mod Rheumatol 2006 ; 16 (2): 77-84 .
- 2) Nagashima M, Tachihara A, Saito K, Matsuoka T, Koyama T : Continuation rates and efficacy in a long-term treatment with low-dose methotrexate, sulfasalazine and bucillamine in 1358 Japanese patients with RA. . Clin Exp Rheum 2006 ; 24 (3): 260-267 .
- 3) Tachihara A, Jin E¹⁾, Matsuoka T, Ghazizadeh M¹⁾, Yoshino S, Takemura T²⁾, Atravis DW³⁾, Kawana-mi O¹⁾ (¹⁾ Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, ²⁾ Department of Surgical Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, ³⁾ Department of Pathology, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center) : Critical Roles of Capillary Endothelial Cells for Alveolar Remodeling in Nonspecific and Usual Interstitial Pneumonias . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4): 203-213 .
- 4) Kamijo SE¹⁾, Nakajima A, Ikeda K²⁾, Aoki K²⁾, Ohya K²⁾, Akiba H¹⁾, Yagita H¹⁾, Okumura K¹⁾ (¹⁾ 順天堂大免疫, ²⁾ 東京医科歯科大・歯薬理) : Amelioration of bone loss in collagen-induced arthritis by neutralizing anti-RANKL monoclonal antibody . Bioch Biophys Res Com 2006 ; 347 (1): 124-132 .
- 5) Nakajima A : Application of cellular gene therapy in rheumatoid arthritis . Mod Rheumatol 2006 ; 16 (5): 269-334 .
- 6) Kamata K¹⁾, Kamijo S¹⁾, Nakajima A, Koyanagi A¹⁾, Kurosawa H²⁾, Yagita H¹⁾, Okumura K¹⁾ (¹⁾ 順天堂大免疫, ²⁾ 順天堂大整形外科) : Involvement of TNF-like weak inducer of apoptosis in the pathogenesis of collagen-induced arthritis . J. Immunol. 2006 ; 177 (9): 6433-6439 .
- 7) Nakajima A, Kamijyo S¹⁾, Yoshioka T (¹⁾ 順天堂大 免疫) : Visualization of antigen-specific T cell in living arthritic mice . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6): 298-299 .
- 8) Nakamura H, Masuko K¹⁾, Yudoh K¹⁾, Kato T¹⁾, Kamada T²⁾, Kawahara T³⁾ (¹⁾ Institute of Medical Sci-

ence, St. Marianna University, ²⁾ Hara Orthopedic Hospital, ³⁾ Kawahara Clinic): Effects of glucosamine administration on patients with rheumatoid arthritis. Rheumatol Int 2007; 27 (3): 213-218.

9) Nagashima M, Kato K, Miyamoto Y, Takenouchi K: A modified Hohmann method for hallux valgus and telescoping osteotomy for lesser toe deformities in patients with rheumatoid arthritis. Clin Rheumatol 2007; 26 (1): 39-43.

10) Nakamura H, Masuko K¹⁾, Yudoh K¹⁾, Kato T¹⁾, Nishioka K¹⁾ (¹⁾ Medical Science St. Marianna University): Effects of celecoxib on human chondrocytes: enhanced production of chemokines. Clin Exp Rheumatol 2007; 25 (1): 11-16.

(2) 研究報告書:

1) 中島敦夫: 「生物学的製剤の関節リウマチに対する効果ならびに副作用(特に肺合併症)に関する研究. 平成17年度厚生労働科学研究費補助金免疫アレルギー疾患予防・治療研究事業研究報告書分冊2 2006; 1(1): pp139-141.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 中島敦夫: 関節リウマチ患者における生物学的製剤使用の現状. Biological summit in Tama, 2006. 5.
- 2) 中島敦夫: 寛解を目標とした生物学的製剤による治療. 新時代を迎えた関節リウマチ治療最前線, 2006. 9.
- 3) 中島敦夫, 関根清美, 谷越由理子: エンブレル自己注射移行へのシステム作り. エンブレルTV講演会, 2006. 10.

(2) 教育講演:

- 1) 中村 洋: グルコサミンと関節疾患. グルコサミン研究会 第1回研修会, 2006. 8.
- 2) 中村 洋: 変形性膝関節症に対するサプリメント療法 基礎的エビデンス. 第23回膝関節フォーラム, 2006. 12.

(3) シンポジウム:

- 1) 中村 洋, 遊道和雄¹⁾, 増子佳代¹⁾, 加藤智啓¹⁾, 西岡久寿樹¹⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター): Celecoxib と軟骨代謝 (COX-2 阻害剤と軟骨代謝). 第11回日本関節症研究会, 2006. 5.
- 2) 中村 洋, 橋本三四郎¹⁾ (¹⁾ ハシモトクリニック): グルコサミン臨床試験の最新情報. 第20回キチン・キトサンシンポジウム, 2006. 8.

(4) ワークショップ:

- 1) 竹之内研二, 角本土幸, 岩川賀世, 高橋 央, 中島敦夫, 永島正一: 多関節手術を行った関節リウマチ患者のADL評価. 第50回日本リウマチ学会総会, 2006. 4.
- 2) 中村 洋, 増子佳世¹⁾, 遊道和雄¹⁾, 加藤智啓¹⁾, 西岡久寿樹¹⁾ (¹⁾ 聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター): ラットOAモデルにおけるOAパンスの運命: SCIDマウスを用いた検討. 第50回日本リウマチ学会総会, 2006. 4.
- 3) 永島正一, 中島敦夫, 石神 伸, 角本土幸, 岩川賀世, 竹之内研二: 関節リウマチ患者に対する各種bisphosphonateと vitamin K2 併用群の骨形成および骨吸収抑制効果の比較: 1年経過時の臨床成績. 第50回日本リウマチ学会総会, 2006. 4.
- 4) 高橋 央, 立原章年, 石神 伸, 松崎 剛, 角本土幸, 竹之内研二, 岩川賀世, 永島正一, 中島敦夫: タクロリムスの短期臨床成績. 第50回日本リウマチ学会総会, 2006. 4.
- 5) 中島敦夫, 岩川賀世, 竹之内研二, 永島正一, 石神 伸, 高橋 央: 関節リウマチに対するインフリキシマブとエタネルセプトの1年成績の比較. 第50回日本リウマチ学会総会, 2006. 4.

(5) 一般講演:

1) Kato K¹⁾, Dezawa A¹⁾, Nagashima M (¹⁾ Teikyo University Hospital Mizonokuchi): 9 Cases of Lower Ex-

tremity Reconstruction by Multiple Operations at the same time in Rheumatic Patients . JSRAS meets ASO 9th Combined Meeting Symposium (Wiesbaden), 2006 . 10 .

- 2) Yudoh K¹⁾, Dai Sheng-M¹⁾, Shi Y¹⁾, Nakamura H, Masuko K¹⁾, Kato T¹⁾, Nishioka K¹⁾(¹⁾ St. Marianna University): Catabolic stress Induces Chondrocyte Aging Through the Acceleration of Caveolin - 1 Expression in Osteoarthritis ; Angiogenic Growth Factors Inhibit the Caveolin - 1 Expression and Chondrocyte Aging . 70th American College of Rheumatology Annual Scientific Meeting (Washington, DC), 2006 . 11 .
- 3) 小山泰朗, 吉岡太郎, 永島正一, 立原章年, 高橋 央, 石神 伸, 岩川賀世, 竹之内研二, 中島敦夫: インフリキシマブ投与開始後に膝関節炎が憎悪し鏡視下両膝関節滑膜切除術を行った1例 . 第47回関東リウマチ研究会, 2006 . 6 .
- 4) 吉岡太郎, 中村 洋, 石神 伸, 立原章年, 小山泰朗, 岩川賀世, 竹之内研二, 坂根 学, 行徳興基, 中島敦夫: タクロリムスの治療成績 . 第2回プログラム研究会, 2006 . 10 .
- 5) 小山泰朗, 中島敦夫, 中村 洋, 吉岡太郎, 高橋 央, 岩川賀世, 竹之内研二, 行徳興基, 田村浩一¹⁾, 永島正一 (¹⁾病理部): 線維筋異形成により急性動脈閉塞をきたした関節リウマチの1例 . 第34回日本リウマチ・関節外科学会, 2006 . 11 .
- 6) 吉岡太郎, 中村 洋, 石神 伸, 立原章年, 小山泰朗, 岩川賀世, 竹之内研二, 坂根 学, 行徳興基, 中島敦夫: 人工股関節置換術後にポリエチレン摩耗粉誘発性の両股関節炎を発症した1例 . 第9回東京リウマチ膠原病研究会, 2006 . 11 .

(6) ポスター :

- 1) Nagashima M, Shu G, Takenouchi K, Yamamoto K : Osteoclast formation at proximal and distal tibial osteoporosis differs in rats with adjuvant arthritis ; Inhibitory effects of bisphosphonate . 2006 National Meeting of American College of Rheumatology (Washington DC), 2006 . 11 .
- 2) Nagashima M, Tachihara A, Takenouchi K, Shu G, Yamamoto K : Effects of vitamin K₂ alone or in combination with bisphosphonates on osteoporosis in patients with rheumatoid arthritis . 2006 National Meeting of American College of Rheumatology (Washington DC), 2006 . 11 .
- 3) 岩川賀世, 竹之内研二, 石神 伸, 高橋 央, 中島敦夫: 当科におけるインフリキシマブの治療成績の有効例と無効例の背景因子の検討 . 第50回日本リウマチ学会総会, 2006 . 4 .
- 4) 立原章年, 中島敦夫, 高橋 央, 松崎 剛, 竹之内研二, 永島正一: 関節リウマチ患者に対する各種 bisphosphonate と vitamin K₂ 併用群の骨破壊および破骨細胞誘導抑制の比較 : 1年経過時の臨床成績 . 第50回日本リウマチ学会総会, 2006 . 4 .
- 5) 石神 伸, 竹之内研二, 中村 洋, 吉岡太郎, 立原章年, 小山泰朗, 行徳興基, 中島敦夫: 大転子切離アプローチ人工股関節再置換術におけるインテグラルGTRプレートロングの有用性 . 第37回日本人工関節学会, 2007 . 2 .

3. 内科学講座（血液・消化器・内分泌代謝部門）

[付属病院第 3内科（血液内科，内分泌代謝内科，消化器内科）]

研究概要

【血液内科】

血液病学の基礎的研究では，昨年度に引き続き急性白血病，慢性骨髄性白血病，骨髄異形成症候群など重要な造血器腫瘍性疾患の発症機序，病態解析などに関して分子生物学，細胞生物学，腫瘍免疫学などの方法論を駆使して検討を行い，また真性多血症，本態性血小板血症などの骨髄増殖性疾患の発症機構，病態についても解析をすすめた．また骨髄不全症候群の発症機序の解析も行なった．臨床的研究では，真性多血症および本態性血小板血症の臨床病態解析，急性白血病の臨床病態解析を行い，造血幹細胞移植では臍帯血移植，骨髄非破壊的移植の治療成績改善に関する治療研究を行った．

【内分泌代謝内科】

内分泌代謝病学の基礎的研究では成長ホルモン分泌機構・食欲調節に関する研究が継続されている．新たに，脂肪組織の代謝（特に成長ホルモンの作用）についての研究が開始された．臨床研究ではカイロミクロンレムナントの構造蛋白であるアポ蛋白B48に着目し，糖尿病における動脈硬化，あるいはメタボリックシンドロームとの関連性（第49回日本糖尿病学会シンポジウムで発表）について研究が継続されている．京都大学との協同研究では糖尿病患者の基礎代謝を測定し，患者の実際のエネルギー消費量から食事療法の根拠を探っている．基礎研究では単球の接着が過酸化リン脂質で誘発され，その機序について，細胞内シグナル伝達の面から検討を行っている．さらに原発性高脂血症調査研究（厚生労働省科学研究分担）・糖尿病合併症の発症進展に関する研究（JDCS）（長寿科学総合研究分担）・高齢者糖尿病を対象とした前向き大規模臨床介入研究（長寿科学総合研究分担）が継続的に行われている．

【消化器内科】

消化器病学は，（1）逆流性食道炎，食道運動機能異常に対する病態生理学的検討，（2）上部消化管疾患に対する *Helicobacter pylori* 感染の意義，（3）慢性炎症性腸疾患の病態生理に関する検討，（4）大腸腺腫，癌の病態に関する検討，（5）大腸癌の診断法に関する研究，（6）門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術およびその全身におよぼす影響に関する検討，（7）慢性活動性C型肝炎の治療と免疫能，など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進め，（8）消化管粘膜の分子機構に関する研究，COX-2の消化管癌に対する役割，など基礎的研究も実施されている．

研究業績

論文

（1）原著：

- 1) Tanaka S, Tatsuguchi A, Futagami S, Gudis K, Wada K, Seo T, Mitsui K, Yonezawa M, Nagata k, Fujimori S, Tsukui T, Kidshida T, Sakamoto C : Momocyte chemoattractant protein-1 and macrophage cyclooxygenase-2 expression in colonic adenoma . Gut 2006 ; 55 : 54-61 .
- 2) Sugano S, Ota N, Sasaki S, Takahashi Y, Yoshida T, Tsukui T, Osawa Y, Sakurai J, Yoshino Y, Mizokami T, Mine T, Arakawa H, Huwayama K, Saigenji K, Yakabi T, DW K, Seo T, Kubota T, Terano A, Sakamoto C : Case-control study on the association of upper gastrointestinal bleeding and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Japan. . Eur J Clin Pharmacol 2006 ; 62 : 765-772 .
- 3) Inami M, Inokuchi K, Yamaguchi H, Nakayama K, Watanabe A, Uchida N, Tanosaki S, Dan K : Oral administration of imatinib to P230 BCR/ABL-expressing transgenic mice changes clones with high BCR/ABL

- complementary DNA expression into those with low expression . International Journal of Hematology 2006 ; 84 (4) : 346-356 .
- 4) Nagata K , Wada K , Tatsuguchi A , Futagami S , Gudis K , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : Heregulin-alpha and heregulin-beta expression is linked to a COX-2-PGE2 pathway in human gastric fibroblasts . Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2006 ; 290 : G1243-1251 .
- 5) Satoh C¹⁾ , Ogata K (¹⁾ 老人病研究所疫学部門) : Hypothesis : myeloid-restricted hematopoietic stem cells with self-renewal capacity may be the transformation site in acute myeloid leukemia . Leukemia Research 2006 ; 30 (4) : 491-495 .
- 6) Higuchi O¹⁾ , Nakagawa K¹⁾ , Tsuzuki T¹⁾ , Suzuki T¹⁾ , Oikawa S , Miyazaki T¹⁾ (¹⁾ Food and Biodynamic Chemistry Laboratory, Graduate School of Agricultural Science, Tohoku University) : Aminophospholipid glycation and its inhibitor screening system : A new role of pyridoxal 5'-phosphate and pyridoxal as lipid glycation inhibitor . J. Lipid Res 2006 ; 47 (5) : 964-974 .
- 7) Tanabe A¹⁾ , Yanagiya T¹⁾ , Iida A¹⁾ , Saito S¹⁾ , Sekine A¹⁾ , Takahashi A¹⁾ , Nakamura T¹⁾ , Tsunoda T¹⁾ , Kamohara S²⁾ , Nakata Y³⁾ , Kotani K^{3, 4)} , Komatsu R⁵⁾ , Itoh N⁶⁾ , Mineo I⁷⁾ , Wada J⁸⁾ , Funahashi T⁴⁾ , Miyazaki S⁹⁾ , Tokunaga K¹⁰⁾ , Hamaguchi K¹¹⁾ , Shimada T¹²⁾ , Tanaka K³⁾ , Yamada K¹⁴⁾ , Hanafusa T¹⁵⁾ , Oikawa S , Yoshimatsu H¹³⁾ , Sakata T¹²⁾ , Matsuzama Y⁴⁾ , Kamatani N¹³⁾ , Nakamura Y¹⁷⁾ , Hotta K¹⁾ (¹⁾ Laboratories for Obesity, Pharmacogenetics, SNP Analysis, SNP Genotyping, Statistical Analysis, and Medical Informatics, SNP Research Center, RIKEN , ²⁾ Medicine and Health Science Institute, Tokyo Medical University , ³⁾ Institute of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba , ⁴⁾ Department of Internal Medicine and Molecular Science, Graduate School of Medicine, Osaka University , ⁵⁾ Rinku General Medical Center , ⁶⁾ Toyonaka Municipal Hospital , ⁷⁾ Otemae Hospital , ⁸⁾ Department of Medicine and Clinical Science, Okayama University Graduate School of Medicine and Dentistry , ⁹⁾ Tokyo Postal Services Agency Hospital , ¹⁰⁾ Itami City Hospital , ¹¹⁾ Department of Community Health and Gerontological Nursing, Faculty of Medicine, Oita University, ¹²⁾ Department of Health Sciences, School of Nursing, and Oita University, ¹³⁾ Department of Anatomy, Biology, and Medicine, Faculty of Medicine, Oita University, ¹⁴⁾ Division of Endocrinology and Metabolism, Department of Medicine, Kurume University, ¹⁵⁾ First Department of Internal Medicine, Osaka Medical College, ¹⁶⁾ Laboratory for Molecular Medicine, Human Genome Center, The Institute of Medical Science, University of Tokyo) : Functional Single-Nucleotide Polymorphisms in the Secretogranin III (SCG3) Gene that Form Secretory Granules with Appetite-Related Neuropeptides Are Associated with Obesity . J Clin Endocrinol Metab 2006 ; 92 (3) : 1145-1154 .
- 8) Oikawa S , Kita T¹⁾ , Mabuchi H²⁾ , Matsuzaki M³⁾ , Matsuzawa Y⁴⁾ , Nakaya N⁵⁾ , Saito Y⁶⁾ , Sasaki J⁷⁾ , Shimamoto K⁸⁾ , Itakura H⁹⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University , ²⁾ Department of Lipidology, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University , ³⁾ Division of Cardiology, Department of Medicine and Clinical Science, Yamaguchi University Graduate School of Medicine , ⁴⁾ Sumitomo Hospital , ⁵⁾ Nakaya Clinic , ⁶⁾ Department of Clinical Cell Biology, Chiba University Graduate School of Medicine , ⁷⁾ International University of Health and Welfare Graduate School of Clinical Trial Management , ⁸⁾ Second Department of Internal Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine , ⁹⁾ Department of Food Science, Ibaraki Christian University) : Risk of coronary events in Japanese patients with both hypercholesterolemia and type 2 diabetes mellitus on low-dose simvastatin therapy : Implication from Japan Lipid Intervention Trial (J-LIT) . Atherosclerosis. 2006 ; 191 (2) : 440-446 .
- 9) Nagata K , Wada K , Tatsuguchi A , Futagami S , Gudis K , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : Heregulin-alpha and heregulin-beta expression is linked to a COX-2-PGE2 pathway in human gastric fibroblasts .

Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2006 ; 290 : G1243-1251 .

- 10) Tanaka S , Mitsui K , Shirakawa K , Tatsuguchi A , Nakamura T , Hayashi Y , Sakamoto C , Terano A : Successful retrieval of video capsule endoscopy retained at ileal stenosis of Crohn's disease using double-balloon endoscopy . J Gastroenterol Hepatol 2006 ; 21 : 922-923 .
- 11) Kosugi M¹⁾ , Ono T¹⁾ , Yamaguchi H , Sato N¹⁾ , Dan K , Tanaka K¹⁾ , Takano T¹⁾ (¹⁾ Coronary Care Unit, NMS): Successful treatment of primary cardiac lymphoma and pulmonary tumor embolism with chemotherapy . In J Cardiol 2006 ; 111 (1): 172-173 .
- 12) Sasaki J¹⁾ , Kita T²⁾ , Mabuchi H³⁾ , Matsuzaki M⁴⁾ , Matsuzawa Y⁵⁾ , Nakaya N⁶⁾ , Oikawa S , Saito Y⁷⁾ , Shimokado K⁸⁾ , Kono S⁹⁾ , Itakura H¹⁰⁾ , The J-LIT Study G (¹⁾ International University of Health and Welfare Graduate School of Clinical Trial Management , ²⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Graduate School of Medicine, Kyoto University , ³⁾ Department of Lipidology, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University , ⁴⁾ Division of Cardiology, Department of Medicine and Clinical Science, Yamaguchi University Graduate School of Medicine , ⁵⁾ Sumitomo Hospital , ⁶⁾ Nakaya Clinic , ⁷⁾ Department of Clinical Cell Biology, Chiba University Graduate School of Medicine , ⁸⁾ Second Department of Internal Medicine, Sapporo Medical University School of Medicine , ⁹⁾ Department of Preventive Medicine, Kyushu University Faculty of Medical Sciences , ¹⁰⁾ Department of Food Science, Ibaraki Christian University): Gender difference in coronary events in relation to risk factors in Japanese hypercholesterolemic patients treated with low-dose simvastatin . Circ J 2006 ; 70 (7): 810-814 .
- 13) Iwakiri K , Tanaka Y , Kawami N , Kotoyori M , Hayashi Y , Kawakami A , Makino H¹⁾ , Nomura T¹⁾ , Miyashita M¹⁾ , Takubo K , Sakamoto C (¹⁾ 外科学第1): Esophageal motility and gastric acid secretion in patients with Barrett's esophagus . Esophagus 2006 ; 3 : 151-154 .
- 14) Arai H¹⁾ , Yamamoto A²⁾ , Matsuzawa Y³⁾ , Saito Y⁴⁾ , Yamada N⁵⁾ , Oikawa S , Mabuchi H⁶⁾ , Teramoto T⁷⁾ , Sasaki J⁸⁾ , Nakaya N⁹⁾ , Itakura H¹⁰⁾ , Isikawa S¹¹⁾ , Ouchi Y¹²⁾ , Horibe H¹³⁾ , Shirahashi N¹⁴⁾ , Kita T¹⁵⁾ (¹⁾ Department of Geriatric Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine , ²⁾ National Cardiovascular Center Research Institute , ³⁾ Sumitomo Hospital , ⁴⁾ Department of Clinical Cell Biology, Chiba University Graduate School of Medicine , ⁵⁾ Department of Internal Medicine, Endocrinology and Metabolism, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba , ⁶⁾ Department of Lipidology, Graduate School of Medical Science, Kanazawa University , ⁷⁾ Department of Internal Medicine, Teikyo University School of Medicine , ⁸⁾ International University of Health and Welfare Graduate School of Clinical Trial Management , ⁹⁾ Nakaya Clinic , ¹⁰⁾ Department of Food Science, Ibaraki Christian University , ¹¹⁾ Faculty of Health Sciences, Kobe University School of Medicine ¹²⁾ Department of Geriatric Medicine, Graduate School of Medicine and Faculty of Medicine, the University of Tokyo , ¹³⁾ Keisen Clinic , ¹⁴⁾ Department of Preventive Medicine and Environmental Health, Osaka City University , ¹⁵⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine): Prevalence of Metabolic Syndrome in the General Japanese Population in 2000 . J Atheroscler Thromb 2006 ; 13 (4): 202-208 .
- 15) Guo Tatsuguchi Shinji S¹⁾ , Fujimori S , Tanaka S , Gudis K , Sugisaki Y²⁾ , Furukawa K¹⁾ , Tajiri T¹⁾ , Fukuda Y³⁾ , Kishida T , Sakamoto CH , Tatsuguchi A , Shinji S¹⁾ , Fujimori S , Tanaka S , Gudis K , Sugisaki Y²⁾ , Furukawa K¹⁾ , Tajiri T¹⁾ , Fukuda Y³⁾ , Kishida T , Sakamoto C (¹⁾ Department of Surgery (I) , ²⁾ Division of Surgical Pathology , ³⁾ Department of Pathology): Cyclooxygenase-2 expression correlates with membrane-type-1 matrix metalloproteinase expression in colorectal cancer tissue . Dis Colon Rectum 2006 ; 49 : 1184-1192 .
- 16) Ogata K , Kishikawa Y¹⁾ , Satoh C , Tamura H , Dan K , Hayashi A¹⁾ (¹⁾ 三菱科学BCL): Diagnostic appli-

cation of flow cytometric characteristics of CD34+ cells in low-grade myelodysplastic syndromes . Blood 2006 ; 108 (3): 1037-1044 .

- 17) Mano-Otagiri A¹⁾, Nemoto T¹⁾, Seiko A¹⁾, Yamauchi N¹⁾, Shuto Y, Sugihara H, Oikawa S (¹⁾ Department of Physiology): Growth hormone-releasing hormone (GHRH) neurons in the arcuate nucleus (Arc) of the hypothalamus are decreased in transgenic rats whose expression of ghrelin receptor is attenuated : Evidence that ghrelin receptor is involved in the up-regulation of GHRH expression in the arc . Endocrinology 2006 ; 147 (9): 4093-4103 .
- 18) Gotoh A, Ohyashiki K, Oshimi K, Usui N, Hotta T, Dan K, Ikeda Y : Lung injury associated with bortezomib therapy in relapsed/refractory multiple myeloma in Japan : a questionnaire-based report from the “ Lung injury by bortezomib ” joint committee of the Japanese society of Hematology and the Japanese Society of Clinical Hematology . In J Hematol 2006 ; 84 (5): 406-412 .
- 19) Ishikawa M¹⁾, Okajima F, Inoue N¹⁾, Motomura K¹⁾, Kato T¹⁾, Takahashi A¹⁾, Oikawa S, Yamada N¹⁾, Shimano H¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Endocrinology and Metabolism, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba): Distinct Effects of Pravastatin, Atorvastatin, and Simvastatin on Insulin Secretion from a beta-cell Line, MIN6 Cells . J Atheroscler Thromb 2006 ; 13 (6): 329-335 .
- 20) Tatsuguchi Kishida T, Fujimori S, Tanaka S, Gudis K, Shinji S¹⁾, Furukawa K¹⁾, Tajiri T¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Fukuda Y³⁾, Sakamoto C, A, Kishida T, Fujimori S, Tanaka S, Gudis K, Shinji S¹⁾, Furukawa K¹⁾, Tajiri T¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Fukuda Y³⁾, Sakamoto C (¹⁾ Department of Surgery (1), ²⁾ Department of Pathology , ³⁾ Division of Surgical Pathology): Differential expression of cyclo-oxygenase-2 and nuclear beta-catenin in colorectal cancer tissue . Aliment Pharmacol Ther 2006 ; 24 : 153-159 .
- 21) Uchida E, Aimoto T, Nakamura Y, Katsuno A, Chou M, Ono S, Ishii N, Miyake K, Fujimori S, Sakamoto C, Tajiri T : Pancreatic arteriovenous malformation involving adjacent duodenum with gastrointestinal bleeding . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6): 346-350 .
- 22) Miyashita M¹⁾, Nomura T¹⁾, Makino H¹⁾, Hagiwara N¹⁾, Takahashi K¹⁾, Sakata Y¹⁾, Nagata K, Iwakiri K, Tajima H²⁾, Tajiri T¹⁾ (¹⁾ 外科学第1, ²⁾ 放射線医学): Computed Tomography-guided mediastinal drainage for iatrogenic perforation of the esophagus . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6): 337-340 .
- 23) Takubo K¹⁾, Arai T²⁾, Iwakiri K, Kato M³⁾, Goda K⁴⁾ (¹⁾ 東京都老人総合研究所高齢者臓器, ²⁾ 東京都老人医療センター病理部門, ³⁾ 北海道大学光学診療部, ⁴⁾ 東京慈恵会大学内視鏡科): Squamous dysplasia and carcinoma in situ of the esophagus in Japan . Digestive Endoscopy 2006 ; S13-15 .
- 24) Takubo K¹⁾, Arai T²⁾, Sawabe M³⁾, Iwakiri K, Vieth M⁴⁾ (¹⁾ 東京都老人総合研究所高齢者臓器, ²⁾ 東京都老人医療センター病理部門, ³⁾ 東京都老人総合研究所高齢者臓器, ⁴⁾ Institute of Pathology, Klinikum Bayreuth): Columnar-lined esophagus, Barrett ' s esophagus and adenocarcinoma : differences between east and west . Digestive Endoscopy 2006 ; 18 (1): S16-20 .
- 25) Yokoyama M¹⁾, Origasa H²⁾, Matusaki M³⁾, Matsuzawa Y⁴⁾, Saito Y⁵⁾, Isikawa Y⁶⁾, Oikawa S, Sasaki J⁷⁾, Hishida H⁸⁾, Itakura H⁹⁾, Kita T¹⁰⁾, Kitabatake A¹¹⁾, Nakaya N¹²⁾, Sakata T¹³⁾, Shimada K¹⁴⁾, Shirai K 15, for the Japan EPA lipid intervention study (JELIS) I (¹⁾ Division of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine, ²⁾ Division of Clinical Epidemiology and Biostatistics, Toyama University, ³⁾ Division of Cardiology, Department of Medicine and Clinical Science, Yamaguchi University Graduate School of Medicine, ⁴⁾ Sumitomo Hospital, ⁵⁾ Department of Clinical Cell Biology, Chiba University Graduate School of Medicine, ⁶⁾ Department of Preventive Medicine and Environmental Health, Osaka City University, ⁷⁾ International University of Health and Welfare Gradu-

- ate School of Clinical Trial Management , ⁸⁾ Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine , ⁹⁾ Department of Food Science, Ibaraki Christian University , ¹⁰⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Kyoto University Graduate School of Medicine , ¹¹⁾ Showa Hospital , ¹²⁾ Nakaya Clinic , ¹³⁾ Nakamura Gakuen University , ¹⁴⁾ Division of Cardiovascular Medicine, Department of Medicine, Jichi Medical University School of Medicine , ¹⁵⁾ Saito Hospital): Effects of eicosapentaenoic acid on major coronary events in hypercholesterolaemic patients (JELIS): a randomized open-label, blinded end-point analysis . The Lancet 2007 ; 369 (9567): 1090-1098 .
- 26) Futagami S , Suzuki K , Hiratsuka T , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Kusunoki M , Miyake K , Gudis K , Tsukui T , Sakamoto C : Chemopreventive effect of celecoxib in gastric cancer . Inflammopharmacology 2007 ; 15 : 1-4 .
- 27) Dan K , Yamada T , Kimura Y , Usui N , Okamoto S , Sugihara T , Takai K , Masuda M , Mori M , JELLSG : Clinical features of polycythemia vera and essential thrombocythemia in Japan : Retrospective analysis of a nationwide survey by the Japanese Elderly Leukemia and Lymphoma Study Group . Int J Hematol 2007 ; 83 (5): 439-442 .
- 28) Futagami S , Suzuki K , Shindo T , Hamamoto T , Tatsuguchi A , Ueki N , Shinji Y , Kusunoki M , Wada K , Miyake K , AGudis K , Tsukui T , Sakamoto C : Celecoxib Inhibits Cdx2 Expression and Prevents Gastric Cancer in *Helicobacter pylori* Infected Mongolian Gerbils . Digestion 2007 ; 74 : 187-198 .
- 29) 金沢秀典 : 食道静脈瘤治療における薬物療法の位置付け . Modern Physician 2006 ; 10 : 1078-1082 .
- 30) 脇田知志 , 山口博樹 , 岡部雅弘 , 竹内純子 , 玉井勇人 , 中村恭子 , 田近賢二 , 猪口孝一 , 檀 和夫 : 特発性骨髄線維症の白血化に合併した難治性胸水に対する低線量放射線照射 . 臨床血液 2006 ; 47 (6): 526-530 .
- 31) 進藤智隆 , 二神生爾 , 三宅一昌 , 津久井拓 , 岩切勝彦 , 坂本長逸 : Functional dyspepsia患者における¹³C-acetate呼気試験法を用いた胃排出能の検討 . 日本臨床生理学会雑誌 2006 ; 36 : 149-153 .
- 32) 平塚哲郎 , 坂本長逸 : 胃潰瘍におけるプロトンポンプ阻害薬の適応と処方の実際をみる . 実地診療のためのプロトンポンプ阻害薬ハンドブック 2006 ; 107-115 .
- 33) 後藤明彦 , 大屋敷一馬 , 押味和夫 , 薄井紀子 , 堀田知光 , 檀 和夫 , 池田康夫 : 日本における再発・難治性多発性骨髄腫に対する個人輸入ボルテゾミブ治療に関連した肺障害 : 日本血液学会・日本臨床血液学会アンケート調査に基づく「ボルテゾミブ肺障害調査委員会」よりのレポート . 臨床血液 2006 ; 47 (12): 1521-1527 .
- 34) 坂本長逸 : ヘリコバクターピロリ時代における防御因子増強剤の役割について . Clinician 2007 ; 556 : 86-91 .
- (2) 綜説 :
- 1) 猪口孝一 : 骨髄増殖性疾患の白血病移行 : 自然経過か2次性変化か . 血液・腫瘍化 2006 ; 52 (5): 486-491 .
- 2) 小竹英俊¹⁾ , 及川眞一⁽¹⁾ (仙台赤十字病院): 糖尿病の動脈硬化診療ガイドライン . 日本臨牀 2006 ; 64 (11): 2074-2080 .
- 3) Inokuchi K : Chronic myelogenous leukemia : from molecular biology to clinical aspects and novel targeted therapies . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4): 178-192 .
- 4) Ogata K : Myelodysplastic syndromes : recent progress in diagnosis and understanding of their pathophysiology . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6): 300-307 .
- 5) Tamura H : Expression and function of B7 family molecules on blasts of patients with myelodysplastic syndromes . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1): 85-86 .
- 6) 塩井由美子 , 檀 和夫 : 貧血と赤血球指数 . Current Therapy 2006 ; 25 (3): 60-60 .
- 7) 及川眞一 : 科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン . Vascular Medicine 2006 ; 2 (2): 162-165 .
- 8) 檀 和夫 : 本態性血小板血症の診断と治療 . 血液・腫瘍科 2006 ; 52 (5): 507-511 .
- 9) 小竹英俊 , 及川眞一 : メタボリックシンドロームと腎障害 . 臨床栄養 2006 ; 108 (6): 761-766 .

- 10) 中島 泰, 及川眞一: リンパ球と動脈硬化. 循環器科 2006; Suppl. 3: 66-72.
- 11) 金沢秀典: 門脈圧亢進症の薬物療法. 肝硬変, 沖田 極編(最新医学社) 2006.
- 12) 高橋陽子, 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 田中 周, 間宮康貴, 辰口篤志, 中塚雄久, 岸田輝幸, 坂本長逸, 真々田裕宏¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 門脈圧亢進性腸症の1例. Prog. Dig. Endosc 2006; 68: 134-135.
- 13) 岩切勝彦, 坂本長逸: NERDの病因解析, 治療のための新しい試み. Mebio 2006; 23: 128-135.
- 14) 三宅一昌, 坂本長逸: NSAIDs潰瘍における *Helicobacter pylori* 除菌の意義 国内外のコンセンサスをもとに. Helicobacter Research 2006; 10(3): 59-66.
- 15) 榎原義之, 金沢秀典, 中塚雄久, 坂本長逸: 食道静脈瘤治療における薬物療法の位置付け. 内視鏡治療のup-to-date 2006; 7: 1078-1082.
- 16) 三井啓吾, 田中 周, 瀬尾継彦, 藤森俊二, 坂本長逸: OGIBの診断とその治療. 内視鏡治療のup-to-date 2006; 7: 1112-1115.
- 17) Sakamoto C, Sugano N, Ota S, Sasaki N, Takahashi S, Yoshida Y, Tsukui T, Osawa H, Sakurai Y, Yoshino J, Mizokami Y, Mine T, Arakawa T, Kuwayama H, Saigenji K, Yakabi K, Chiba T, Shimosegawa T, JE S, S. P G, Yamaguchi T, Kaufman DW, Sato T, Kubota k, Terano A: Case-control study on the association of upper gastrointestinal bleeding and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Japan. Eur J Clin Pharmacol 2006; 62: 765-772.
- 18) 猪口孝一: JAK2遺伝子異常と骨髄増殖性疾患. 臨床血液 2006; 47(8): 693-700.
- 19) 奥田武志¹⁾, 藤田逸郎¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾外科学第1): 食道・胃粘膜下腫瘍-見つけたらどうするか?内視鏡で発見される小さな食道・胃粘膜下腫瘍の実態. 新薬と臨床 2006; 55(8): 1271-1273.
- 20) 三宅一昌, 坂本長逸: 食道・胃・十二指腸疾患・治療 急性胃炎と慢性胃炎の実地診療指針. Medical Practice M. P 2006; 23: 1393-1398.
- 21) 小竹英俊¹⁾, 及川眞一(¹⁾仙台赤十字病院): 高脂血症・低HDL血症. Medical Practice 2006; 23(9): 1527-1532.
- 22) 檀 和夫: 診断へのアプローチ; 初診で多血症を診た場合. 日本内科学会雑誌 2006; 95(10): 2000-2004.
- 23) 金沢秀典: 腹水および難治性腹水. 肝胆膵疾患の治療と看護 2006; 116-121.
- 24) 檀 和夫: 血液系障害 無顆粒球症(顆粒球減少症), 再生不良性貧血(汎血球減少症), 血小板減少症, 血栓性血小板減少性紫斑病. 成人病と生活習慣病 2006; 36(12): 1492-1496.
- 25) 岩切勝彦, 林 良紀, 坂本長逸: マルチチャンネル食道内圧カラーマッピング. Medico 2006; 23: 128-135.
- 26) 岩切勝彦, 田中由理子, 川見典之, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸: 食道運動機能からみたNERDの病態. 消化器科 2006; 43: 202-205.
- 27) 江原彰仁, 田中 周, 辰口篤志, 三井啓吾, 坂本長逸: 目で見る症例 小腸癌. 内科 2007; 99: 129-133.
- 28) 田久保海誉¹⁾, 相田順子¹⁾, 本間尚子¹⁾, 岩切勝彦, 沢辺元司²⁾, 新井富士²⁾, 田中康夫³⁾, 紀 健二³⁾(¹⁾東京都老人総合研究所, 老年病のゲノム解析チーム, ²⁾東京都老人医療センター病理部門, ³⁾東京都老人医療センター内視鏡科): 病理学からみたBarrett食道. 臨床消化器内科 2007; 22: 17-211.
- 29) 及川眞一: 加齢とメタボリックシンドローム. 日老医誌 2007; 44(2): 168-170.
- 30) 小林 剛, 田中 周, 山田祐希江, 江原彰仁, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 藤森俊二, 坂本長逸: 小腸内視鏡の基本. 臨牀消化器内科 2007; 22: 267-271.
- 31) 金沢秀典: 食道静脈瘤の薬物療法. 肝胆膵 2007; 54: 63-70.
- 32) 田久保海誉¹⁾, 相田順子¹⁾, 岩切勝彦, 沢辺元司²⁾, 新井富士²⁾(¹⁾東京都老人総合研究所老年病のゲノム解析チーム, ²⁾東京都老人医療センター病理部門): 食道-胃接合部の化性変化とその発生病態. Helicobacter Re-

search 2007 ; 11 : 19-23 .

- 33) 曾根博仁¹⁾, 石橋 俊²⁾, 及川眞一, 山崎義光³⁾, 山田信博¹⁾(¹⁾筑波大学大学院医学研究院内分泌代謝糖尿病内科, ²⁾自治医科大学内分泌代謝内科, ³⁾大阪大学大学院医学系研究科病態情報内科): JDCSにおける脂質代謝異常と動脈硬化疾患との関連. 内分泌・糖尿病科 2007 ; 22 (3): 326-331 .
- 34) 長尾元嗣, 及川眞一: 遺伝性脂質代謝異常におけるスタチンの適応. Heart View 2007 ; 11 (3): 300-305 .
- 35) 坂本長逸: 選択的COX-2阻害薬の安全性と効果. 消化器疾患 最新の治療 2007 ; 5-9 .

(3) 症例報告 :

- 1) Yokose N¹⁾, Shioi Y, Sugisaki Y²⁾, Ohaki Y³⁾, Ogata K, Dan K (¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾付属病院病理部, ³⁾千葉北総病院病理部): CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma with an unusual phenotype : Cytoplasmic CD20 (+), surface CD20 (-). Leukemia and Lymphoma 2006 ; 47 (7): 1415-1417 .
- 2) Shimoda T¹⁾, Aoki M¹⁾, Takezaki S¹⁾, Futagami A¹⁾, Inokuchi K, Sugusaki Y²⁾, Kawana S¹⁾(¹⁾皮膚科学, ²⁾付属病院病理部): A case of erythrodermic-CTCL. Leukemia and Lymphoma 2006 ; 47 (8): 1708-1710 .
- 3) Tamura H, Okamoto M, Yamashita T¹⁾, Satoh C²⁾, Watanabe A, Kondo A, Tatsuguchi A, Tsuji T¹⁾, Ogata K, Dan K (¹⁾東京理科大学基礎工学部, ²⁾日本医科大学老人病研究所疫学): Pure white cell aplasia : report of the first case associated with primary biliary cirrhosis. Int J Hematol. 2007 ; 85 (2): 97-100 .
- 4) 田野崎栄, 岡部雅弘, 北村由里, 兵働英也, 山田 隆, 田近賢二, 緒方清行, 猪口孝一, 檀 和夫: 再発性, ATRA 抵抗性の急性前骨髄球性白血病に対する三酸化砒素による分化誘導療法. 日医大医会誌 2006 ; 2 (3): 152-156 .
- 5) 高橋陽子, 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 田中 周, 間宮康貴, 辰口篤志, 中塚雄久, 岸田輝幸, 坂本長逸, 真々田祐宏¹⁾, 吉田 寛¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾消化器外科): 門脈圧亢進症性腸症の1例. 第81回日本消化器内視鏡学会関東地方会論文集 2006 ; 68 : 134-135 .
- 6) 森瀬景子¹⁾, 堀 純子²⁾, 平岡美紀²⁾, 志和利彦²⁾, 高橋 浩²⁾, 杉崎祐一³⁾, 檀 和夫 (¹⁾金沢文庫病院眼科, ²⁾日本医科大学眼科学, ³⁾同病理学): 結膜のmucosa associated lymphoid tissueリンパ腫の1例. 眼科臨床医報 2006 ; 100 (10): 751-753 .
- 7) 北村由梨, 田村秀樹, 加納稔子, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 石井新哉, 周東祐仁, 亀谷 純¹⁾, 杉原 仁, 清水一雄²⁾, 及川眞一 (¹⁾うみがめクリニック, ²⁾日本医科大学外科学第2): 副腎腺腫によるCushing症候群手術9年後にACTH単独欠損症を診断した1例. 日本内分泌学会雑誌: 第16回臨床内分泌代謝UpdateProceeding 2006 ; 82 (Supple): 5-8 .
- 8) 加納稔子, 中島 泰, 今城麻美, 谷村恭子, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 及川眞一, 岡島史宜, 青木雅代¹⁾, 佐野和史¹⁾, 百束比古¹⁾(¹⁾形成外科学): 糖尿病足壊疽の改善に伴ってIGF-1の上昇を認めた先端巨大症の1例. 日本内分泌学会雑誌: 第16回臨床内分泌代謝UpdateProceeding 2006 ; 82 (Supple): 88-90 .
- 9) 松下洋子¹⁾, 吉澤徹哉¹⁾, 柴田善明¹⁾, 斉藤浩一¹⁾, 佐野弘仁¹⁾, 百名祐介²⁾, 大倉史典²⁾, 下位洋史²⁾, 長尾美智子²⁾, 小嶋幸一郎²⁾, 長友俊郎²⁾, 川西輝貴²⁾, 菊池友允²⁾, 岡田 夢³⁾, 伊藤雄二³⁾(¹⁾東京都保険医療公社 多摩北部医療センター 消化器科, ²⁾東京都保険医療公社 多摩北部医療センター 外科, ³⁾東京都保険医療公社 多摩北部医療センター 臨床病理科): 早期胃癌EMR後の遺残再発に対し長期観察を行い得た5症例. 多摩消化器シンポジウム誌 2006 ; 5-11 .
- 10) 松下洋子, 吉澤徹哉, 柴田善明, 斉藤浩二, 佐野弘仁, 松下洋子, 永井俊彦¹⁾(¹⁾東京都保健医療公社多摩北部医療センター臨床病理科): 早期胃癌EMR後の遺残再発に対し長期観察を行い得た5症例. 多摩消化器シンポジウム誌 2007 ; 21 : 5-11 .
- 11) 田野崎栄, 猪口孝一, 檀 和夫: Microangiopathic hemolytic anemiaで再発した早期胃癌患者. 臨床血液 2007 ; 47 (3): 165-165 .
- 12) 田野崎栄, 猪口孝一, 檀 和夫: 肝細胞癌を合併した サラセミア. 臨床血液 2007 ; 48 (3): 181-181 .

著書

- 1) 田野崎栄, 檀 和夫: [分担] 赤血球増加症. 内科外来診療実践ガイド (Medical Practice 編集委員会編), 2006; pp258-262, 文光堂.
- 2) 藤森俊二: [分担] プレバイオティクスと炎症性腸疾患. CC-Japan, 2006; pp31-33.
- 3) 平塚哲郎, 坂本長逸: [分担] 消化性潰瘍の合併例にはどのように使用すればよいですか?. ファーマナビゲーター COX-2阻害薬編, 2006; p354, メディカルビュー社.
- 4) 緒方清行: [分担] 骨髄異形成症候群 REAB型. Medicina, 2006; pp1164-1166, 医学書院.
- 5) 檀 和夫: [分担] 溶血性貧血. 看護のための最新医学講座 [第2版] 第9巻 血液・造血管器疾患 (日野原重明, 井村裕夫監修), 2006; pp143-153, 中山書店.
- 6) 檀 和夫: [分担] 発作性夜間ヘモグロビン尿症. 看護のための最新医学講座 [第2版] 第9巻 血液・造血管器疾患 (日野原重明, 井村裕夫監修), 2006; pp153-157, 中山書店.
- 7) 猪口孝一: [分担] biphenotypic leukemia の診断がついた. 治療はどうしよう?. 造血管器腫瘍治療: これは困ったぞ, どうしよう!, 2006; pp24-26, 中外医学社.
- 8) 猪口孝一: [分担] 妊娠2ヶ月の女性がAMLとわかった. さてどうしよう?. 造血管器腫瘍治療: これは困ったぞ, どうしよう!, 2006; pp34-36, 中外医学社.
- 9) 平塚哲郎, 坂本長逸: [分担] 胃潰瘍におけるプロトンポンプ阻害薬の適応と処方の実際をみる. 実地診療のためのプロトンポンプ阻害薬ハンドブック, 2006; pp107-115, 先端医学社.
- 10) 平塚哲郎, 坂本長逸: [自著] Celecoxib Inhibits Cdx2 Expression and Prevents Gastric Cancer in Helicobacter pylori-Infected Mongolian Gerbils. ファーマナビゲーター COX-2阻害薬編, 2006; p354, メディカルレビュー社.
- 11) 檀 和夫: [分担] 造血幹細胞異常総論. 内科学 (金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男編), 2006; pp1923-1925, 医学書院.
- 12) 檀 和夫: [分担] 再生不良性貧血. 内科学 (金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男編), 2006; pp1925-1927, 医学書院.
- 13) 檀 和夫: [分担] 発作性夜間ヘモグロビン尿症. 内科学 (金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男編), 2006; pp1932-1933, 医学書院.
- 14) 杉原 仁: [分担] プロラクチノーマの合併症と予後, 第5章合併症・予後. 新しい診断と治療のABC (43) 内分泌3機能性下垂体腺腫 (千原和夫), 2006; pp183-186, 最新医学社.
- 15) 緒方清行: [分担] 骨髄異形成症候群 (MDS) におけるCD34陽性細胞の性状: 診断への応用. 血液・腫瘍科, 2006; pp651-655, 科学評論社.
- 16) 檀 和夫: [分担] 特発性血小板減少性紫斑病. 今日の治療指針2007 (山口 徹, 北原光夫編), 2007; pp486-487, 医学書院.
- 17) 藤森俊二, 坂本長逸: [分担] カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡を併用した小腸内視鏡診断, 治療の現状と将来. 医学のあゆみ, 2007; pp243-247, 医歯薬出版株式会社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 三宅一昌: 知っておきたいNSAID/アスピリン潰瘍に関する国内外の最新のEvidence; 予防薬は必要か: *H. pylori*胃炎との関連は?. 第2回玉川医師会学術講演, 2006. 4.
- 2) 岩切勝彦: 逆流性食道炎とNERDの病態と治療. 大分県医師会学術講演会, 第6回大分ARD研究会, 2006. 7.
- 3) 岩切勝彦: 食道運動機能からみた逆流性食道炎の病態と治療. 第9回 no Side GI Conference, 2006. 8.
- 4) 三宅一昌: NSAID潰瘍に対する抗潰瘍薬の有効性と限界について. 第6回薬物性消化管病変研究会, 2006. 10.

- 5) 岩切勝彦：逆流性食道炎とNERDの病態と治療．ジュピター会・学術講演会，2007．3．
- (2) 招待講演：
- 1) Ogata K：Flow cytometry in MDS：Current status and future perspectives．Standards and Standardization in Myelodysplastic Syndromes：A working Conference in Vienna (Vienna, Austria)，2006．6．
- (3) 教育講演：
- 1) 藤森俊二：カプセル内視鏡検査の実際と将来への展望．第33回日本小児内視鏡研究会，2006．7．
- 2) 岩切勝彦：胃酸逆流のメカニズムと食道運動機能からみた逆流性食道炎の病態．第8回北関東・甲信越「GUTフォーラム」，2006．11．
- (4) シンポジウム：
- 1) 二神生爾，坂本長逸，Sheila C¹⁾(¹⁾バージニア大学消化器内科)：H. pylori感染刺激により指導されるAPE (apurinic/apyrimidinic endonuclease) 発現の検討．第92回日本消化器病学会総会，2006．4．
- 2) 二神生爾，鈴木健二，平塚哲郎，進藤智隆，濱本達彦，楠 正典，植木信江，進士陽子，三宅一昌，Gudis K，津久井拓，坂本長逸：選択的COX-2阻害剤celecoxibを用いたH. pylori感染胃癌モデルにおける腸上皮化生および胃癌発生抑制の検討．第38回胃病態機能研究会，2006．7．
- 3) 榎原義之，金沢秀典，坂本長逸：難治性腹水治療におけるTIPSと腹水穿刺との比較検討．第36回日本肝臓学会東部会，2006．4．
- 4) 谷村恭子，山下静也¹⁾，小竹英俊²⁾，及川眞一(¹⁾大阪大学医学研究科分子制御内科，²⁾仙台赤十字病院)：糖尿病におけるアポB48の変化．第49回日本糖尿病学会年次学術総会，2006．5．
- 5) 藤森俊二，瀬尾継彦，江原彰仁，小林 剛，三井啓吾，永田和弘，田中 周，辰口篤志，関田祥久，米澤真興，柴田喜明，岸田輝幸，坂本長逸：原因不明消化管出血の診断，治療の検討．第82回 日本消化器内視鏡学会関東地方会，2006．6．
- 6) 三宅一昌，楠 正典，進藤智隆，濱本達彦，植木信江，進士陽子，平塚哲郎，二神生爾，和田 謙，津久井拓，坂本長逸：関節リウマチ患者における長期NSAIDs関連消化性潰瘍に対するヒスタミンH2受容体拮抗薬の予防効果とその限界．第38回胃病態機能研究会，2006．7．
- 7) 金沢秀典，滝 保彦，榎原義之，中塚雄久，坂本長逸：長期予後成績からみた門脈圧亢進症治療におけるTIPSの位置づけ．第13回日本門脈圧亢進症学会総会，2006．9．
- 8) 進藤智隆，二神生爾，坂本長逸：FD患者における腹部症状と十二指腸粘膜局所の炎症細胞浸潤の解析．第14回日本消化器関連学会週間(第48回日本消化器病学会大会)，2006．10．
- 9) 二神生爾，鈴木健二，平塚哲郎，進藤智隆，濱本達彦，楠 正典，植木信江，進士陽子，三宅一昌，Gudis K，坂本長逸：選択的COX-2阻害剤celecoxibを用いたH. pylori感染胃癌モデルにおける腸上皮化生および胃癌発生抑制の検討．第3 回日本消化管学会総会，2007．2．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 榎原義之，金沢秀典，中塚雄久，坂本長逸：肝腎症候群に対するterlipressinによる治療．第13回日本門脈圧亢進症学会総会，2006．9．
- 2) 山口博樹，猪口孝一，塙 秀樹¹⁾，澤口和宏，三田村佳勇，内田直也，稲見光春，島田 隆¹⁾，檀 和夫(¹⁾生化学第2)：白血病発症機構におけるMLL-AF4キメラ遺伝子とFlt3遺伝子異常．第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会，2006．10．
- 3) 内田直也，塙 秀樹¹⁾，猪口孝一，檀 和夫，島田 隆¹⁾(¹⁾生化学第2)：HIV1ベクターを使用したマウス骨髄移植モデルによるb2a2p210BCR/ABLの白血病原性の検討．第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会，2006．10．
- 4) 稲見光春，山口博樹，小坂文子，三田村佳勇，澤口和宏，渡邊綾子，猪口孝一，檀 和夫：真正多血症・本態性血小板血症におけるJAK2V617F変異とCISH，SOCS 1，SOCS 3遺伝子の発現．第68回日本血液学会・

第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.

- 5) 竹内純子, 山口博樹, 小坂文子, 澤口和宏, 三田村佳勇, 渡邊綾子, 五味聖二, 猪口孝一, 檀 和夫: 本邦の骨髄不全症における TERC・TERT 遺伝子異常の検索. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 6) 岡本宗雄, 山口博樹, 水木太郎, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 血球貪食症候群の診断ならびに重症度の評価における中性脂肪値の有用性の検討. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 7) 田野崎栄, 岡本宗雄, 澤井美佐子, 岡部雅弘, 脇田知志, 竹内純子, 玉井勇人, 内田直也, 渡邊綾子, 稲見光春, 山口博樹, 埴 秀樹, 猪口孝一, 檀 和夫: 造血器疾患における Men1 遺伝子発現解析. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 8) 平塚哲郎, 二神生爾, 坂本長逸: Overlap syndrome における胃粘膜萎縮および胃排出能の解析. 第14回日本消化器関連学会週間(第48回日本消化器病学会大会), 2006. 10.
- 9) 三宅一昌, 楠 正典, 坂本長逸: 長期 NSAIDs 使用している関節リウマチ患者における消化性潰瘍の実態調査からみる潰瘍予防の治療戦略; H2RA の効果と *H. pylori* 感染の影響. 第14回日本消化器関連学会週間(第72回日本消化器内視鏡学会), 2006. 10.
- 10) 江原彰仁, 田中 周, 三井啓吾, 小林 剛, 山田祐希江, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: 小腸内視鏡検査のルーチン化に向けて. 第83回 日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.

(6) セミナー:

- 1) 岩切勝彦: 消化管緊急内視鏡診断と処置. 第30回埼玉県消化器内視鏡講習会, 2006. 4.
- 2) 岩切勝彦: 食道運動機能からみた逆流性食道炎の病態. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 3) 岩切勝彦: 食道運動機能からみた逆流性食道炎の病態と治療. 第45回日本消化器がん検診学会総会, 2006. 6.
- 4) 岩切勝彦: 第61回日本消化器外科学会定期学術集会. 第61回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006. 7.
- 5) 岩切勝彦: 逆流性食道炎と非びらん性胃食道逆流症の病態と治療. 23回東京内科医会セミナー, 2006. 10.
- 6) 岩切勝彦: 消化管運動機能からみた逆流性食道炎. 第23回東京内科医会セミナー, 2007. 2.
- 7) 岩切勝彦: 逆流性食道炎の病態と治療. 第237回消化管研究会, 2007. 3.

(7) ワークショップ:

- 1) Tanaka S, Mitsui K, Kobayashi T, Ehara A, Sakamoto C: Current Status of DBE “ Indication, Choice of the insertion route, sedation, complication and Technical matter ”. 1st International Workshop on Double-Balloon Endoscopy, 2006. 8.
- 2) 二神生爾, 鈴木健司, 坂本長逸: 選択的 COX-2 阻害剤 celecoxib を用いた *H. pylori* 感染胃癌モデルにおける腸上皮化生および胃癌発生抑制の検討. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 3) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: 術後消化管に対する内視鏡診断と治療: 術後腸管に対するダブルバルーン内視鏡の有用性. 第71回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 5.
- 4) 田中由理子, 岩切勝彦, 坂本長逸: NERD 症例の胃酸逆流のメカニズムと食道運動機能. 第71回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 5.
- 5) 神田善伸, 檀 和夫: 慢性期慢性骨髄性白血病に対するイマチニブ投与の安全性, 至適投与量, 有効性を検討する多施設共同臨床試験. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 6) 山口博樹, 猪口孝一, 檀 和夫: 本邦における 11q23/MLL 遺伝子再構成をもつ成人急性白血病の特徴と予後. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 7) 岩切勝彦: 酸逆流のメカニズムと GERD/NERD の病態. 第22回日本耳鼻咽喉科漢方研究会, 2006. 10.
- 8) 岩切勝彦, 田中由理子, 川見典之, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸: 逆流性食道炎患者における過剰な食道内胃酸曝露のメカニズム. 第3回日本消化管学会総会学術集会, 2007. 2.

(8) 一般講演 :

- 1) Nagata K , Wada K , Tatsuguchi A , Futagami S , Gudis K , Sakamoto C : Heregulin-alpha and heregulin-beta expression is linked to a COX-2-PGE2 pathway in human gastric fibroblasts . The 16th International Symposium on Regulatory Peptides (PEGPEP ' 06) , 2006 . 8 .
- 2) 岩切勝彦 , 川見典之 , 田中由理子 , 林 良紀 , 琴寄 誠 , 川上明彦 , 坂本長逸 : 逆流性食道炎患者の重症度の違いによる一過性LES弛緩時の胃酸逆流パターン . 第48回日本平滑筋学会 , 2006 . 7 .
- 3) 加納稔子 , 田村秀樹 , 石井新哉 , 石崎 晃 , 杉原 仁 , 及川眞一 , 亀谷 純¹⁾(¹⁾うみがめクリニック) : obestatinによるラットの摂食, 体重へ及ぼす影響 . 第33回日本神経内分泌学会 , 2006 . 10 .
- 4) Tanaka S , Mitsui K , Tatsuguchi A , Ehara A , Kobayashi T , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : Usefulness of Double-Balloon Endoscopy for Diagnosis and Treatment of the Post-operative Gastrointestinal Tract . Digestive Disease Week 2006(New Orleans , USA) , 2006 . 5 .
- 5) Mitui K , Tanaka S , Ehara A , Kobayashi T , Sekita Y , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Tatsuguchi A , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : Impact of Double-Balloon Endoscopy on Clinical Management of Obscure Gastrointestinal Bleeding . Digestive Disease Week 2006 (New Orleans, USA) , 2006 . 5 .
- 6) Mitsui K , Tanaka S , Ehara A , Kobayashi T , Sekita Y , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Tatsuguchi A , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : Double-Balloon Endoscopy for Small Intestinal Diseases- Experience of 200 Consecutive Examinations . Digestive Disease Week 2006 (New Orleans, USA) , 2006 . 5 .
- 7) Seo T , Tatsuguchi A , Wada K , Yonezawa M , Mitsui K , Nagata K , Tanaka S , Fujimori S , Gudis K , Shinji S , Tajiri T¹⁾ , Kishida T¹⁾ , Sakamoto C (¹⁾First Department of Surgery) : Clinical Significance of Prostaglandin E Synthase Expression in Colorectal Cancer . Digestive disease week 2006 (New Orleans, USA) , 2006 . 5 .
- 8) Futagami S , Suzuki K , Hiratsuka T , Shindo T , Hamamoto T , A Tatsuguchi A , Ueki N , Shinji Y , Kusunoki M , Wada K , Gudis K , Tsukui T , Sakamoto C : Chemoprevention of Gastric Cancer by Celecoxib in *H. pylori*-infected Mongolian Gerbils . Digestive Disease Week 2006 (CA, Los Angeles) , 2006 . 5 .
- 9) Iwakiri K , Kotoyori M , Hayashi Y , Tanaka Y , Kawakami N , Sakamoto C , Holloway R¹⁾(¹⁾Royal Adelaide Hospital) : Control of Transient Lower Esophageal Sphincter Relaxations (TLESRs) and Reflux By a Histamine H2 Receptor Antagonist (H2RA) Nizatidine (NIZ) in Healthy Subjects . Digestive Disease Week 2006 (CA, Los Angeles) , 2006 . 5 .
- 10) Sugano K , Ota S , Perez S , Kaufman D , Sato T , Kubota K , Terano A : Association of Upper Gastrointestinal Bleeding and Nonsteroidal Anti-Inflammatory Drugs in Japan : A Case-Control Study . Digestive Disease Week 2006 (CA, Los Angeles) , 2006 . 5 .
- 11) Miyake K , Kusunoki M , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Suzuki K , Shinji Y , Hiratsuka T , Nishigaki H , Futagami S , Wada K , Gudis K , Tsukui T , Nakajima A , Sakamoto C : Concomitant Bisphosphonate Use Tends to Peptic Ulcer Formation in Rheumatoid Arthritis Patients Taking Long -Term Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs . Digestive Disease Week 2006 (CA, Los Angeles) , 2006 . 5 .
- 12) Miyake K , Kusunoki M , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Suzuki K , Shinji Y , Hiratsuka T , Nishigaki H , Futagami S , Wada K , Gudis K , Tsukui T , Nakajima A¹⁾ , Sakamoto C (¹⁾Department of Rheumatism, Nippon Medical School) : Regular Or Half-Dose, Not High-Dose Histamine-H2 Receptor Antagonists can Prevent NSAID-Associated Peptic Ulcers in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis . Digestive Disease

Week 2006 (CA, Los Angeles), 2006 . 5 .

- 13) Kusunoki M , Miyake K , shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Suzuki K , Shinji Y , Hiratsuka T , Nishigaki H , Futagami S , Wada K , Gudis K , Tsukui T , Nakajima A¹⁾ , Sakamoto C (¹⁾ Department of Rheumatism, Nippon Medical School): Pathophysiological Features in Locational Type of Peptic Ulcer Formation in Japanese Rheumatoid Arthritis (RA) Patients Receiving Non- Steroidal Anti-Inflammatory Drugs (NSAIDs) Treatment . Digestive Disease Week 2006 (CA, Los Angeles), 2006 . 5 .
- 14) Iwakiri K , Hayashi Y , kotoyori M , Kawami N , Tanaka S , Kawakami A , Sakamoto C : Pattern of Acid Reflux During Transient Lower Esophageal Sphincter Relaxations (TLESRs) Differ Among Patients With Mild and Severe Reflux Esophagitis and Healthy Subjects . Digestive Disease Week 2006 (CA, Los Angeles), 2006 . 5 .
- 15) Hiratsuka T , Futagami S , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Suzukio K , Shinji Y , Kusunoki M , Wada K , Miyake K , Gudis K , Tsukui T , Iwakiri K , Sakamoto C : Correlation of Plasma Ghrelin Levels and Delayed Gastric Emptying Time in FD Patients with Loss of Emptiness Feeling . Digestive Disease Week 2006 (CA, Los Angeles), 2006 . 5 .
- 16) Shindo T , Futagami S , Hiratsuka T , Hamamoto T , Ueki N , Shinji Y , Kusunoki M , Wada K , Miyake K , Gudis K , Tsukui T , Iwakiri K , Sakamoto C : Comparison of Gastric Emptying Time and Plasma Ghrelin levels in Patients with Functional Dyspepsia and Non-Erosive Reflux Disease . Digestive Disease Week 2006 (CA, Los Angeles), 2006 . 5 .
- 17) Futagami S , Hiratsuka T , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Suzuki K , Kusunoki M , Wada K , Miyake K , Gudis K , Takahashi H , Tsukui T , Sakamoto C : *Helicobacter Pylori* Infection Induces Accumulation of 1 T Cells Via CCR2 Upregulation . Digestive Disease Week (CA, Los Angeles), 2006 . 5 .
- 18) Iwakiri K , Hayashi Y , Kotoyori M , Kawami N , Tanaka Y , Kawakami A , Sakamoto C , Halloway RH¹⁾ (¹⁾ Royal Adelaide Hospital): Control of transient lower esophageal sphincter relaxations (TLESRs) and reflux by a histamine H2 receptor antagonist (H2RA) nizatidine (NIZ) in healthy subjects . Digestive Disease Week 2006 , 2006 . 5 .
- 19) Ishii S , Tamura H , Shimizu T , Kano T , Sugihara H , Oikawa S , Kamegai J : Triiodothyronine (T3) stimulates food intake via enhanced hypothalamic AMP-activated protein kinase activity (AMPK) . Endocrine society's 88th annual meeting Boston (Boston), 2006 . 6 .
- 20) Kyoko T , Momoyo K , Fumitaka O , Yasushi N , Shinichi O : Lipopolysaccharide enhances matrix metalloproteinase-9 activetiy in human coronary artery smooth muscle cell (CAS) . XIV International Symposium on Atherosclerosis (Rome), 2006 . 6 .
- 21) Fumitaka O , Yasuhi N , Kyoko T , Hitoshi S , Shinichi O : Serum adiponectin concentration and metabolic syndrome . XIV International Symposium on Atherosclerosis (Rome), 2006 . 6 .
- 22) Yasushi N , Kyoko T , Fumitaka O , Hidetoshi K¹⁾ , Hitoshi S , Shinichi O (¹⁾ Japanese Red Cross Sendai Hospital): Inhibitory effect of T cells on ApoA1-mediated cholesterol efflux through ATP-binding cassette transporter A1 . XIV International Symposium on Atherosclerosis (Rome), 2006 . 6 .
- 23) Fujimori S , Seo T , Ehara A , Kobayashi T , Mitsui K , Yozezawa M , Tanaka S , Tatsuguchi A , Sekita Y , Nagata K , Shibata Y , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : Capsule endoscopy can guide use of the double-balloon endoscopy for optimal diagnosis and treatment of obscure gastrointestinal bleeding . The 5th International Conference on Capsule Endoscopy (ICCE)(Paris, France), 2006 . 6 .
- 24) Tanaka S , Mitsui K , Tatsuguchi A , Ehara A , Kobayashi T , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : Double-Balloon Endoscopy for the Treatment of Small In-

- testinal Diseases 2006 . The American Society of Gastrointestinal Endoscopy Meeting (New Orleans, USA), 2006 . 7 .
- 25) Fujimori S , Seo T , Gudis K , Ehara A , Kobayashi T , Mitsui K , Tanaka S , Tatsuguchi A , Sekita Y , Nagata K , Shibata Y , Kishida T , Sakamoto C : Double-Balloon Endoscopy Preceded by Capsule Endoscopy for Optimal Diagnosis and Treatment of Obscure Gastrointestinal Bleeding . 12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006 第12回潰瘍学会 , 2006 . 7 .
- 26) Futagami S , Suzuki K , Hiratsuka T , Shindo T , Hamamoto T , Tatsuguchi A , Ueki N , Shinji Y , Kusunoki M , Wada K , Miyake K , Gudis K , Tsukui T , Sakamoto C : Chemoprevention of Gastric Cancer by Celecoxib in *H. pylori*-infected Mongolian Gerbils . 12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006 第12回潰瘍学会 , 2006 . 7 .
- 27) Tanaka S , Mitsui K , Tatsuguchi A , Ehara T , Kobayashi T , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Fujimori S , Kishida T , Gudis K , Sakamoto C : The Preventive Effect by Regular or Half-Dose, Not Half-dose Histamine-H2 Receptor Antagonists for NSAID- Associated Peptic Ulcer in Japanese Patients with Rheumatoid Arthritis . 12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006 第12回潰瘍学会 , 2006 . 7 .
- 28) Hiratsuka T , Futagami S , Shindo T , Hamamoto T , Ueki N , Suzuki K , Shinji Y , Kusunoki M , Wada K , Miyake K , Gudis K , Tsukui T , Iwakiri K , Sakamoto C : Correlation of Plasma Ghrelin Levels and delayed gastric Emptying Time in FD Patients with Loss of Emptiness Feeling . 12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006 第12回潰瘍学会 , 2006 . 7 .
- 29) Nagata K , Wada K , Tatsuguchi A , Futagami S , Gudis K , Miyake K , Tsukui T , Sakamoto C : Heregulin - and heregulin- expression is link to a COX-2/PGE-2 pathway in human gastric fibroblasts . The 16th International Symposium on Regulatory Peptide (REGPEP '06)(Hakone, Japan), 2006 . 8 .
- 30) Narahara Y , Kanazawa H , Osada Y , Taki Y , kimura Y , Atsukawa M , Katakura T , Kidokoro H , Harimoto H , Fukuda T , Shinji Y : Effects of thelipressin on hepatic and renal artery hemodynamics in patients with cirrhosis . 57th AASLD (Boston, USA), 2006 . 10 .
- 31) Junko T , Ly H , Beauchamp A , Koiti I , Fumiko K , Kazuhiro S , Yoshio M , Ayako W , Seiji G , Hiroki Y , Kazuo D : Identification and Functional Characterization of Telomerase RNA Variant Alleles in Japanese Patients with Aplastic Anemia or Myelodysplastic Syndrome . 48th Annual Meeting of the American Society of Hematology (Orlando, Florida), 2006 . 12 .
- 32) Hayato T , Hiroyuki H , Humiharu Y , Masami B , Takeshi K , Hideki A , Hisashi S , Satoshi T , Arinobu T , Ken O , Keiya O , Hirokazu O , Shinji N , Ayako A , Kazuo D , Osamu M , Shigeo T , Seiji G , Yoshiro M , Noriko U , Keisuke M , Kazuma O , Naoto T , Kenichi S , Atsushi K , Kazuo O , Koiti I : Clinical Analysis of Adult Acute Leukemia with Rearrangements of the 11q23/MLL : Multicenter Co-Operative Study . 48th Annual Meeting of the American Society of Hematology (Orlando, Florida), 2006 . 12 .
- 33) Koiti I , Hideki H , Kazuhiro S , Yoshio M , Naoya U , Mituharu I , Takashi S , Kazuo D : MLL-AF4 and FLT3 Activation Synergize To Induce Multi Step Leukemogenesis . 48th Annual Meeting of the American Society of Hematology (Orlando, Florida), 2006 . 12 .
- 34) Mitsui K , Tanaka S , Ehara A , Kobayashi T , Sekita Y , Seo T , Yonezawa M , Nagata K , Shibata Y , Tatsuguchi A , Fujimori S , Kishida T , Gudis k , Sakamoto C : Clinical Advances in Intestinal Disorders . Digestive Disease Week (CA, Los Angeles), 2006 . 5 .
- 35) kanazawa H , Osada Y , Taki Y , Kimura Y , Atsukawa M , Katakura T , Kidokoro H , Harimoto H , Fukuda T : Effects of thelipressin on hepatic and renal artery hemodynamics in patients with cirrhosis . 57th

AASLD (Boston, USA), 2006 . 10 .

- 36) 小林 剛, 田中 周, 三井啓吾, 辰口篤志, 江原彰仁, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 藤森俊二, 岸田輝幸, Katya G, 坂本長逸: Usefulness of double-balloon endoscopy for diagnosis and treatment of the post-operative gastrointestinal tract . The 5th Japan - Korea Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy (Tokyo, Japan), 2006 . 5 .
- 37) Fujimori S, Seo T, Gudis K, Ehara A, Kobayashi T, Mitsui K, Tanaka S, Tatsuguchi A, Sekita Y, Nagata K, Shibata Y, Kishida T, Ohaki Y, Sakamoto C : Double-balloon endoscopy preceded capsule endoscopy for optimal diagnosis and treatment of obscure gastrointestinal bleeding . 12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006 , 2006 . 7 .
- 38) Tatsuguchi A, Miyake K, Gudis K, Sakamoto C : Effect of *Helicobacter pylori* infection on ghrelin expression in human gastric mucosa . The 16th International Symposium on Regulatory Peptides (PEGPEP ' 06), 2006 . 8 .
- 39) 辰口篤志, 田中 周, 三井啓吾, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: 8年にわたる高度な貧血の出血源として同定された空腸Lymphangiomaの1例 . 第23回文京消化器内視鏡研究会, 2006 . 9 .
- 40) 石崎 晃, 杉原 仁, 加納稔子, 田村秀樹, 石井新哉, 岡島史宜, 中島 泰, 谷村恭子, 田尻 孝¹⁾, 清水一雄²⁾, 内藤善哉³⁾, 芝崎 保⁴⁾C片上秀樹⁵⁾, 及川真一 (¹⁾外科学第1, ²⁾外科学第2, ³⁾病理学第2, ⁴⁾宮崎大学医学部第三内科): GHRH産生腫瘍を伴った多発性内分泌腫瘍 (MEN) I型 . 第10回日本内分泌病理学会, 2006 . 11 .
- 41) Katakura T, Nakatsuka K, Shimizu M, Harimoto H, Atsukawa M, Tamura H, Takahashi H, Sakamoto C : Ribavirin interfered the inhibitory activity of human CD4+CD25+T-regulatory lymphocytes in a cytokine dependent manner. . 第37回日本免疫学会・学術集会, 2006 . 12 .
- 42) Narahara H, Nakatsuka K, Shimizu M, Harimoto H, Atsukawa M, Tamura H, Takahashi H, Sakamoto C : Effects of terlipressin on hepatic and renal artery hemodynamics in patients with cirrhosis . 17th APASL , 2007 . 3 .
- 43) Kanazawa H, Narahara Y, Nakatsuka K, Sakamoto C : The long-term outcome of TIPS in Patients with hepatocellular Carcinoma . 17th APASL Conference , 2007 . 3 .
- 44) Kanazawa H, Taki Y, Atsukawa M, Katakura T, Kidokoro H, Harimoto H, Fukuda T, Matsushita Y : Effects of terlipressin on hepatic and renal artery hemodynamics in patients with cirrhosis . 17th APASL , 2007 . 3 .
- 45) 藤森俊二, 関田祥久, 篠沢 功, 琴寄 誠, 吉澤吉澤, 岸田輝幸, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 血清葉酸値は大腸腺腫を有する男性で低値を示す . 第92回日本消化器病学会総会, 2006 . 4 .
- 46) 三井啓吾, 田中 周, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: 原因不明の消化管出血における小腸内視鏡検査陰性症例の検討 . 第92回日本消化器病学会総会, 2006 . 4 .
- 47) 榎原義之, 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 城所秀子, 水口淳子, 片倉玲樹, 厚川正典, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: Terlipressin による肝硬変の全身および肝, 腎血行動態の変化 . 第92回日本消化器病学会総会, 2006 . 4 .
- 48) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 林 良紀, 川上明彦, 坂本長逸: 逆流性食道炎患者と健常者での一過性LES弛緩 (TLESR) 時の空気逆流パターンの違い . 第92回日本消化器病学会総会, 2006 . 4 .
- 49) 平塚哲郎, 二神生爾, 進藤智隆, 植木信江, 鈴木健司, 楠 正典, 進士陽子, 和田 謙, 三宅一昌, 津久井拓,

- 岩切勝彦, 坂本長逸: FD (Functional dyspepsia) 患者に対する¹³C-acetate-を用いた胃排出能の検討. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 50) 滝 保彦, 金沢秀典, 城所秀子, 水口淳子, 張本滉智, 福田 健, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 榎原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久: 蛋白尿を伴う慢性腎不全および難治性腹水を合併した肝硬変に対しTIPSを施行した2例. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 51) 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 水口淳子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: Terlipressinによる肝硬変の全身および肝, 腎血行動態の変化. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 52) 金沢秀典, 張本滉智, 福田 健, 松下洋子, 城所秀子, 水口淳子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 榎原義之, 長田祐二, 中塚雄久: “蛋白尿を伴う慢性腎不全および難治性腹水を合併した肝硬変に対しTIPSを施行した2例”. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 53) 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 水口淳子, 城所秀子, 片倉正則, 滝 保彦, 木村 祐, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: Terlipressinによる肝硬変の全身および肝, 腎血行動態の変化. 日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 54) 林 良紀, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 田中由理子, 川見典之, 川上明彦, 坂本長逸: アカラシア症例におけるバルーン拡張術有効例の特徴. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 55) 琴寄 誠, 岩切勝彦, 川見典之, 田中由理子, 林 良典, 川上明彦, 坂本長逸: 逆流性食道炎患者と健常者での一過性LES弛緩 (TLESR) 時の空気逆流性食道炎のパターンの違い. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 56) 及川真一, 北 徹¹⁾, 齋藤 康²⁾, 佐々木淳³⁾, 島本和明⁴⁾, 中谷矩章⁵⁾, 松崎益徳⁶⁾, 松澤祐次⁷⁾, 馬淵 宏⁸⁾, 板倉弘重⁹⁾(¹⁾ 京都大学大学院医学研究科循環器内科, ²⁾ 千葉大学大学院医学研究院病態制御治療学, ³⁾ 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科, ⁴⁾ 札幌医科大学内科学第二内科, ⁵⁾ 脂質生活習慣病研究所, ⁶⁾ 山口大学大学院医学研究科器官病態内科学, ⁷⁾ 住友病院, ⁸⁾ 金沢大学大学院医学研究科脂質研究, ⁹⁾ 茨城キリスト教大学生生活科学): 高コレステロール血症患者治療中における新規糖尿病発症の危険因子. 第49回 日本糖尿病学会年次学術集会, 2006. 5.
- 57) 谷村恭子, 今城麻美, 中島 泰, 加納稔子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 山下静也¹⁾, 及川真一 (¹⁾ 大阪大学大学院医学研究科分子制御内科): 糖尿病におけるアポB48 の変化. 第49回日本糖尿病学会年次学術総会, 2006. 5.
- 58) 岡島史宜, 田邊義博, 近藤麻加, 松谷 毅, 飯泉 匡, 中島 泰, 谷村恭子, 杉原 仁, 及川真一: 糖尿病性神経障害における自覚症状と他覚的所見. 第49回日本糖尿病学会年次学術総会, 2006. 5.
- 59) 加納稔子, 近藤秀士, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 幣憲一郎¹⁾, 津田謹輔²⁾, 及川真一 (¹⁾ 京都大学医学部附属病院疾患栄養治療部, ²⁾ 京都大学人間環境学): 糖尿病患者におけるエネルギー消費量の検討. 第49回日本糖尿病学会年次学術総会, 2006. 5.
- 60) 田村秀樹, 石井新哉, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川真一, 亀谷 純¹⁾(¹⁾ うみがめクリニック): Peptide YY (3-36) によるGH分泌調節作用における迷走神経の役割. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 5.
- 61) 石井 新哉, 田村秀樹, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川真一, 亀谷 純¹⁾(¹⁾ うみがめクリニック): 甲状腺ホルモンによる摂食促進作用におけるAMPKの役割. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 5.
- 62) 石崎 晃, 江本直也: 甲状腺中毒症の鑑別診断における^{99m}TcO₃-甲状腺取り込み率測定の限界. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 5.
- 63) 杉原 仁, 加納稔子, 田村秀樹, 石井新哉, 谷村恭子, 中島 泰, 石崎 晃, 及川真一: 成長ホルモン, インスリン様成長因子, アディポネクチンが脂肪細胞のTNF- α に与える影響. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 5.
- 64) 高橋陽子, 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 永田和弘, 米澤真興, 柴田喜明,

- 田中 周, 辰口篤志, 山門 進, 吉田 豊, 岸田輝幸, 坂本長逸: カプセル内視鏡で診断し, ダブルバルーン内視鏡で確認し得た小腸膜様狭窄の1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 65) 瀬尾継彦, 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 関田祥久, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 岸田輝幸, 坂本長逸: 当院におけるカプセル内視鏡の有用性とダブルバルーン内視鏡とのコラボレーション. 第71回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 5.
- 66) 田中由理子, 林 良紀, 琴寄 誠, 岩切勝彦, 坂本長逸: 20年の経過にて診断し得たVigorous achalasiaの1例. 第289回日本消化器病学会 関東支部例会, 2006. 5.
- 67) 平塚哲郎, 二神生爾, 進藤智隆, 濱本達彦, 鈴木 健司, 植木信江, 進士陽子, 楠 正典, 飯泉 匡, 三宅一昌, 津久井拓, 岩切勝彦, 坂本長逸: 当科におけるFunctional dyspepsia (FD) 患者の検討 抗うつ傾向に焦点をあてて. 第289回日本消化器病学会 関東支部会, 2006. 5.
- 68) 松谷 毅, 平塚哲郎, 川見典之, 濱本達彦, 進藤智隆, 鈴木健司, 植木信江, 進士陽子, 楠 正典, 飯泉 匡, 二神生爾, 三宅一昌, 津久井拓, 坂本長逸: 早期胃癌が原因となったと考えられる膜性腎症の1例. 第289回日本消化器学会関東支部例会, 2006. 5.
- 69) 松田 健¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 柏原 元¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 木村 祐²⁾, 林 良紀²⁾, 江上格³⁾, 笹島耕二³⁾, 田尻 孝⁴⁾, 坂本長逸 (¹⁾多摩永山病院消化器外科, ²⁾同消化器科, ³⁾同外科, ⁴⁾外科学第1): 潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着除去療法の検討. 第289回日本消化器病学会 関東支部例会, 2006. 5.
- 70) 永田和弘¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 岡田憲明¹⁾, 坂本長逸 (¹⁾博慈会記念総合病院第二内科): アスベスト暴露後に発症した腹膜悪性中皮種の1例. 第289回日本消化器病学会 関東支部例会, 2006. 5.
- 71) 松下洋子, 福田 健, 長田祐二, 張本滉智, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正典, 滝 保彦, 木村 祐, 榎原義之, 中塚雄久, 金沢秀典, 坂本長逸: 空腸静脈瘤破裂に対してBRTOが奏効した1例. 第289回日本消化器病学会 関東支部例会, 2006. 5.
- 72) 榎原義之, 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 水口淳子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正典, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸: 肝硬変の全身および肝, 腎血行動態へ及ぼすterlipressinの影響. 第42回日本肝臓学会総会, 2006. 5.
- 73) 厚川正典, 片倉玲樹, 張本滉智, 中塚雄久, 金沢秀典, 津久井拓, 高橋秀実, 坂本長逸: Ribavirinが慢性C型肝炎患者CD4陽性細胞表面の補助刺激分子Ligand発現に及ぼす影響とTh1/2バランス変動の関連. 第42回日本肝臓学会総会, 2006. 5.
- 74) 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川真一: 糖尿病教育入院における血清アディポネクチン値の変化について. 第49回日本糖尿病学会年次学術総会, 2006. 6.
- 75) 小林 剛, 田中 周, 江原彰仁, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: 小腸狭窄に対する内視鏡的アプローチ. 第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 6.
- 76) 江原彰仁, 辰口篤志, 小林 剛, 関田祥久, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 柴田喜明, 永田和弘, 田中 周, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡で診断し得た小腸リンパ管腫の1例. 第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 6.
- 77) 田中 周: 小腸内視鏡の新たな展開: ダブルバルーン内視鏡とカプセル内視鏡. 第103回七尾消化器カンファレンス, 2006. 6.
- 78) 平川経晃, 兵働英也, 山口博樹, 中村恭子, 田村秀人, 田野崎栄, 田近賢二, 緒方清行, 檀 和夫: 経過中に赤芽球癆, 悪性リンパ腫を合併した治療抵抗性AIHA. 第156回日本臨床血液学会例会, 2006. 7.
- 79) 谷村恭子, 川原百代, 岡島史宜, 中島 泰, 浅井 明, 及川真一: Lipopolysaccharide enhances matrix metalloproteinase-9 activity in human coronary artery smooth muscle cell (CAS). 第38回日本動脈硬化学会総会, 2006. 7.

- 80) 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 杉原 仁, 小竹英俊¹⁾, 及川眞一 (¹⁾ 仙台赤十字病院): ABCA1 を介したコレステロール逆転送系における T リンパ球の影響について . 第 38 回日本動脈硬化学会総会, 2006 . 7 .
- 81) 岡島史宜, 田邊義博¹⁾, 中島 泰, 谷村恭子, 杉原 仁, 及川眞一 (¹⁾ 筑西市民病院): LPL 欠損症例における ApoB48 の日内変動について . 第 38 回日本動脈硬化学会総会, 2006 . 7 .
- 82) 今城麻美, 中島 泰, 谷村恭子, 岡島史宜, 田村秀樹, 石井新哉, 亀谷 純, 杉原 仁, 小竹英俊¹⁾, 及川眞一 (¹⁾ 仙台赤十字病院): インスリン抵抗性症例の TG 代謝に対する塩酸ピオグリタゾンの影響 . 第 49 回日本糖尿病学会年次学術総会, 2006 . 7 .
- 83) 岩切勝彦, 田中由理子, 川見典之, 林 良紀, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸 : 第 92 回日本消化器病学会総会 . 第 48 回日本平滑筋学会, 2006 . 7 .
- 84) 藤森俊二, 瀬尾継彦, 江原彰仁, 小林 剛, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸 : 原因不明消化管出血に対するカプセル内視鏡の有用性 . 潰瘍病態研究会第 15 回フォーラム, 2006 . 8 .
- 85) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸 : カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡の比較? 原因不明の消化管出血症例を中心に? . 第 24 回日本大腸検査法学会総会, 2006 . 8 .
- 86) 藤森俊二, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 田中 周, 辰口篤志, 岸田輝幸, 坂本長逸 : 緩解期潰瘍性大腸炎の QOL に対するプロバイオティクス, プレバイオティクス, および同時摂取 (シンバイオティクス) のランダム化比較試験 . 第 61 回日本大腸肛門病学会総会, 2006 . 9 .
- 87) 滝 保彦, 金沢秀典, 福田 健, 張本滉智, 松下洋子, 城所秀子, 水口淳子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 榎原義之, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸 : TIPS の早期合併症についての検討 . 第 13 回日本門脈圧亢進症学会総会, 2006 . 9 .
- 88) 金沢秀典, 松下洋子, 城所秀子, 片倉玲樹, 厚川正則, 木村 祐, 滝 保彦, 榎原義之, 長田祐二, 中塚雄久, 坂本長逸 : 肝細胞癌合併肝硬変例における TIPS の治療成績 . 第 13 回日本門脈圧亢進症学会総会, 2006 . 9 .
- 89) 江原彰仁, 岩切勝彦, 田中由理子, 川見典之, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠, 川上明彦, 坂本長逸 : 第 48 回日本平滑筋学会 . 第 291 回日本消化器病学会関東支部例会, 2006 . 9 .
- 90) 岡部雅弘, 稲見光春, 山口博樹, 小坂文子, 猪口孝一, 檀 和夫 : 慢性骨髄性白血病治療中に JAK2V617F 変異を有する多血症を呈した 1 例 . 第 68 回日本血液学会 . 第 48 回日本臨床血液学会合同総会, 2006 . 10 .
- 91) 近藤麻加, 田村秀人, 山下泰史, 小坂文子, 佐藤千香子, 塩井由美子, 兵働英也, 中村恭子, 辻 孝, 緒方清行, 檀 和夫 : 骨髄異形成症候群芽球における補助刺激・接着分子の発現 . 第 68 回日本血液学会 . 第 48 回日本臨床血液学会合同総会, 2006 . 10 .
- 92) 稲見光春, 山口博樹, 小坂文子, 三田村佳雄, 溝口和宏, 渡邊綾子, 猪口孝一, 檀 和夫 : 真性多血症・本態性血小板血症における JAK2V617F 変異と CISH, SOCS-1, SOCS-3 遺伝子の発現 . 第 68 回日本血液学会 . 第 48 回日本臨床血液学会合同総会, 2006 . 10 .
- 93) 内田直也, 埴 秀樹, 猪口孝一, 檀 和夫, 島田 隆 : HIV-1 ベクターを使用したマウス骨髄移植モデルによる b2a2 p210 BCR/ABL の白血病原性の検討 . 第 68 回日本血液学会 . 第 48 回日本臨床血液学会合同総会, 2006 . 10 .
- 94) 竹内純子, 山口博樹, 小坂文子, 溝口和宏, 三田村佳雄, 渡邊綾子, 五味聖二, 猪口孝一, 檀 和夫 : 本邦の骨髄不全症における TERC・TERT 遺伝子異常の検索 . 第 68 回日本血液学会 . 第 48 回日本臨床血液学会合同総会, 2006 . 10 .
- 95) 田近賢二, 水木太郎, 兵働英也, 塩井由美子, 山口博樹, 中村恭子, 田野崎栄, 田村秀人, 山田 隆, 檀 和夫 : ATG 療法不応性の重症再生不良性貧血患者に対する臍帯血移植の試み . 第 68 回日本血液学会 . 第 48 回日本臨床血液学会合同総会, 2006 . 10 .
- 96) 田村秀人, 緒方清行, 近藤麻加, 脇田知志, 稲見光春, 水木太郎, 兵働英也, 塩井由美子, 中村恭子, 檀 和夫 : 当科で経験した小腸原発悪性リンパ腫症例の検討 . 第 68 回日本血液学会 . 第 48 回日本臨床血液学会合同総会, 2006 . 10 .

- 97) 岡本宗雄, 山口博樹, 水木太郎, 田近賢二, 猪口孝一, 檀 和夫: 血球貪食症候群の診断ならびに重症度の評価における中性脂肪値の有用性の検討. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 98) 脇田知志, 山口博樹, 玉井勇人, 塩井由美子, 水木太郎, 中村恭子, 山田 隆, 田近賢二, 檀 和夫: 難治性急性GVHD症例における Mycophenolate mofetil (MMF) の使用経験. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 99) 山口博樹, 猪口孝一, 塙 秀樹, 澤口和宏, 三田村佳勇, 内田直也, 稲見光春, 島田 隆, 檀 和夫: 白血病発症機構における MLL-AF4キメラ遺伝子とFlt3遺伝子異常. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 100) 田野崎栄, 岡本宗雄, 澤井美佐子, 岡部雅弘, 脇田知志, 竹内純子, 玉井勇人, 内田直也, 渡邊綾子, 稲見光春, 山口博樹, 塙 秀樹, 猪口孝一, 檀 和夫: 造血器疾患における Men1 遺伝子の発現解析. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 101) 塩井由美子, 水木太郎, 兵働英也, 山口博樹, 中村恭子, 田野崎栄, 田村秀人, 山田 隆, 田近賢二, 檀 和夫: 同種移植後にGVL効果を認めた peripheral T cell lymphoma (PTCL) 2症例. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 102) 横瀬紀夫, 大秋美治, 檀 和夫: 末血で染色体異常を認め clonal な増殖が疑われる T細胞増多症を伴った T-cell rich B-cell lymphoma (TCRLBCL). 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 103) 岡部雅弘, 稲見光春, 山口博樹, 小坂文子, 猪口孝一, 檀 和夫: 慢性骨髄性白血病 (CML) 治療中に JAK2V617F 変異を有する多血症を呈した1例. 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 104) 長尾元嗣, 岡島史宜, 田邊義博¹⁾, 首藤真理子, 加納稔子, 原田太郎, 中島 泰, 谷村恭子, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一⁽¹⁾筑西市民病院): 糖尿病性神経障害における自覚症状と他覚的所見. 第21回糖尿病合併症学会, 2006. 10.
- 105) 首藤真理子, 長尾元嗣, 近藤秀士, 中島 泰, 加納稔子, 谷村恭子, 岡島史宜, 幣憲一郎¹⁾, 津田謹輔²⁾, 及川眞一⁽¹⁾京都大学医学部付属病院疾患栄養治療部, ²⁾京都大学人間環境学): 糖尿病患者におけるエネルギー消費量の検討. 第27回日本肥満学会年次学術総会, 2006. 10.
- 106) 田村秀樹, 石井新哉, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一, 亀谷 純¹⁾(¹⁾うみがめクリニック): obestatinによるラットのGH分泌へ及ぼす影響. 第33回日本神経内分泌学会, 2006. 10.
- 107) 石井新哉, 田村秀樹, 加納稔子, 石崎 晃, 杉原 仁, 及川眞一, 亀谷 純¹⁾(¹⁾うみがめクリニック): 甲状腺ホルモンによる摂食促進には脂肪酸合成経路が関与する. 第33回日本神経内分泌学会総会, 2006. 10.
- 108) 三井啓吾, 田中 周, 坂本長逸: 小腸内視鏡による小腸GIST症例の検討. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 109) 三井啓吾, 田中 周, 坂本長逸: 原因不明消化管出血の内視鏡的ストラテジー. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 110) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: ダブルバルーン内視鏡検査普及のための工夫. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 111) 瀬尾継彦, 藤森俊二, 坂本長逸: カプセル内視鏡による良好な全小腸観察のための患者背景, 前処置の検討. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 112) 藤森俊二, 関田祥久, 篠沢 功, 平塚哲朗, 琴寄 誠, 吉沢雅史, 岸田輝幸, 江原彰仁, 小林 剛, 瀬尾継彦, 三井啓吾, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 田中 周, 辰口篤志, 坂本長逸: 大腸腺腫の危険性を増加させる血清葉酸濃度. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 113) 小林 剛, 田中 周, 江原彰仁, 関田祥久, 三井啓吾, 瀬尾継彦, 米澤真興, 永田和弘, 柴田喜明, 辰口篤志, 藤森俊二, 岸田輝幸, 坂本長逸: ダブルバルーン内視鏡 (DBE) 偶発症である膵ダメージの検討: 膵酵素上昇

- と挿入条件について．第72回日本消化器内視鏡学会総会，2006．10．
- 114) 江原彰仁，三井啓吾，田中 周，小林 剛，関田祥久，瀬尾継彦，米澤真興，柴田喜明，永田和弘，辰口篤志，藤森俊二，岸田輝幸，坂本長逸：ダブルバルーン内視鏡による全小腸観察の可否と挿入困難因子の検討．第72回日本消化器内視鏡学会総会，2006．10．
- 115) 植木信江，三宅一昌，進藤智隆，濱本達彦，鈴木健司，楠 正典，進士陽子，平塚哲郎，二神生爾，和田 謙，津久井拓，坂本長逸：メトロニダゾールとアモキシシリンを用いた *Helicobacter pylori* 2次除菌におけるクラリスロマイシンの付加的効果の検討．第14回日本消化器関連学会週間，2006．10．
- 116) Gudis K，辰口篤志，和田 謙，平塚哲郎，二神生爾，三宅一昌，坂本長逸，木山輝郎，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1)：胃癌におけるプロスタグランジンE合成酵素 (PGES) の発現．第14回日本消化器関連学会週間，2006．10．
- 117) 奥田武志¹⁾，藤田逸郎¹⁾，水谷 崇¹⁾，木山輝郎¹⁾，加藤俊二¹⁾，田尻 孝¹⁾，三宅一昌，岩切勝彦，坂本長逸(¹⁾外科学第1)：内視鏡で偶然発見される小さな食道・胃粘膜下腫瘍の検討．第14回日本消化器関連学会週間，2006．10．
- 118) 長田祐二，辰口篤志，和田 謙，米澤真興，榎原義之，中塚雄久，金沢秀典，坂本長逸，相本隆幸¹⁾，内田英二¹⁾，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1)：膵癌における膜型Prostaglandin E合成酵素 (mPGES) の発現．第48回日本消化器病学会大会 (DDW-Japan2006)，2006．10．
- 119) 金沢秀典，福田 健，張本滉智，水口淳子，城所秀子，片倉玲樹，厚川正則，滝 保彦，木村 祐，長田祐二，中塚雄久，坂本長逸：難治性腹水におけるTIPSと腹水穿刺の治療成績の比較．第48回日本消化器病学会大会 (DDW-Japan2006)，2006．10．
- 120) 城所秀子，滝 保彦，金沢秀典，張本滉智，福田 健，松下洋子，片倉玲樹，厚川正則，榎原義之，長田祐二，中塚雄久，坂本長逸：ドップラー超音波検査によるpropranolol non-responderの検出．第14回日本消化器病学会大会，2006．10．
- 121) 福田 健，松下洋子，張本滉智，城所秀子，片倉玲樹，厚川正則，木村祐二，榎原義之，長田祐二，中塚雄久，坂本長逸：小腸静脈瘤破裂の2例．第14回日本消化器病学会大会，2006．10．
- 122) 長田祐二，辰口篤志，和田 謙，米澤真興，榎原義之，中塚雄久，坂本長逸，相本隆幸¹⁾，内田英二¹⁾，田尻孝¹⁾(¹⁾外科学第1)：膵癌における膜型Prostaglandin E合成酵素 (mPGES) の発現．第14回日本消化器病学会大会，2006．10．
- 123) 榎原義之，金沢秀典，福田 健，張本滉智，水口淳子，城所秀子，片倉玲樹，厚川正則，滝 保彦，木村 祐，間宮康貴，長田祐二，中塚雄久，坂本長逸：難治性腹水に対するTIPSの長期治療成績．第8回肝不全治療研究会，2006．10．
- 124) 田中由理子，岩切勝彦，川見典之，林 良紀，琴寄 誠，川上明彦，坂本長逸：Nizatidine (NIZ) の一過性LES弛緩 (TLESR) に及ぼす影響．第48回日本消化器病学会大会，2006．10．
- 125) 川見典之，岩切勝彦，田中由理子，林 良紀，琴寄 誠，川上明彦，坂本長逸：逆流性食道炎の重症度の違いによる一過性LES弛緩時の胃酸逆流パターン．第48回日本消化器病学会大会，2006．10．
- 126) 近藤麻加，田村秀人，山下泰史¹⁾，佐藤千香子²⁾，塩井由美子，兵働英也，中村恭子，辻 孝¹⁾，緒方清行，檀和夫(¹⁾東京理科大学基礎工学部，²⁾日本医科大学老人病研究所疫学)：骨髓異形成症候群 (MDS) 芽球における補助刺激・接着分子の発現．日本血液学会・日本臨床血液学会合同総会，2006．10．
- 127) 田村秀人，緒方清行，近藤麻加，脇田知也，稲見光春，水木太郎，兵働英也，塩井由美子，中村恭子，檀和夫：当科で経験した小腸原発悪性リンパ腫症例の検討．日本血液学会・臨床血液学会合同総会，2006．10．
- 128) 平川経晃，田近賢二，稲見光春，山口博樹，中村恭子，山田 隆，檀 和夫：寛解7年後にEvans syndrome，HPSを合併したHodgkin lymphomaの1例．第157回日本臨床血液学会例会，2006．11．
- 129) 山田祐希江，藤森俊二，瀬尾継彦，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，田中 周，辰口篤志，岸田輝幸，坂本長逸：カプセル内視鏡，ダブルバルーン内視鏡で術前診断し得た小

- 腸癌の1例．第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2006．12．
- 130) 高橋陽子，藤森俊二，山田祐希江，瀬尾継彦，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，田中 周，辰口篤志，岸田輝幸，坂本長逸：カプセル内視鏡を用いた小腸GIST 診断経験．第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2006．12．
- 131) 高橋陽子，藤森俊二，近藤千紗，江原彰仁，小林 剛，三井啓吾，米澤真興，田中 周，辰口篤志，坂本長逸：Crohn病との鑑別に時間を要した腸結核の1例．第292回日本消化器病学会関東支部例会，2006．12．
- 132) 北村由梨，岡島史宜，首藤真理子，長尾元嗣，石崎 晃，中島 泰，谷村恭子，田村秀樹，石井新哉，杉原仁，及川眞一：長期間の2型糖尿病治療経過中，1型糖尿病を発症した後期高齢者の1例．第44回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，2007．1．
- 133) 長尾元嗣，中島 泰，首藤真理子，加納稔子，谷村恭子，岡島史宜，田村秀樹，石井新哉，杉原 仁，及川眞一：知能低下を背景とした2型糖尿病の1例．第44回日本糖尿病学会関東甲信越地方会，2007．1．
- 134) 田中 周，三井啓吾，山田祐希江，江原彰仁，小林 剛，坂本長逸：当院におけるDBEの現状，OGIBを中心に．第6回大腸画像アカデミー(CIA)，2007．1．
- 135) 北村由梨，杉原 仁，石井新哉，田村秀樹，加納稔子，石崎 晃，芝崎 保¹⁾，寺本 明²⁾，相川隆司³⁾，及川眞一(¹⁾日本医科大学生理学第2，²⁾同脳神経外科学，³⁾至誠会第二病院神経内科)：Tolosa-Hunt症候群に合併した下垂体機能低下症(診断，治療の難しかった症例 悪性腫瘍，炎症性疾患)．第17回日本間脳下垂体腫瘍学会，2007．2．
- 136) 谷村恭子，中島 泰，竹内純子，首藤真理子，長尾元嗣，加納稔子，石崎 晃，岡島史宜，田村秀樹，石井新哉，亀谷 純¹⁾，杉原 仁，田野崎栄，檀 和夫，及川眞一(¹⁾うみがめクリニック)：再生不良性貧血を合併した多発性内分泌腺腫症(MEN)1型が疑われる症例．第7回日本内分泌学会関東甲信越支部学術集会，2007．2．
- 137) 藤森俊二，山田祐希江，江原彰仁，小林 剛，関田祥久，瀬尾継彦，三井啓吾，米澤真興，永田和弘，柴田喜明，田中 周，辰口篤志，岸田輝幸，坂本長逸：潰瘍性大腸炎のQOLに対するprobiotics，prebiotics，synbioticsのランダム化比較試験．第3回日本消化管学会，2007．2．
- 138) 藤森俊二，辰口篤志，田中 周，米澤真興，瀬尾継彦，三井啓吾，小林 剛，江原彰仁，岸田輝幸，坂本長逸：大腸癌におけるシクロオキシゲナーゼ2と膜型マトリックスメタロプロテアーゼ1の発現．第3回日本消化管学会，2007．2．
- 139) 山田裕希江，江原彰仁，三井啓吾，小林 剛，田中 周，関田祥久，瀬尾継彦，米澤真興，柴田喜明，永田和弘，辰口篤志，藤森俊二，岸田輝幸，坂本長逸：ダブルバルーン内視鏡による全小腸観察の可否と挿入困難因子の検討．第3回日本消化管学会，2007．2．
- 140) 濱本達彦，二神生爾，鈴木健二，平塚哲郎，進藤智隆，楠 正典，植木信江，進士陽子，三宅一昌，Gudis K，津久井拓，坂本長逸：選択的COX-2阻害剤celecoxibを用いたH. pylori感染胃癌モデルにおける胃癌発生抑制とMCP-1，CCR2発現の検討．第3回日本消化管学会総会，2007．2．
- 141) 楠 正典，三宅一昌，進藤智隆，濱本達彦，植木信江，平塚哲郎，二神生爾，津久井拓，坂本長逸：ESD前後における凝固線溶系の変動について．第3回日本消化管学会総会，2007．2．
- 142) 田中由理子，岩切勝彦，川見典之，佐野弘仁，林 良紀，琴寄 誠，川上明彦，坂本長逸，野村 務¹⁾，牧野浩二¹⁾，宮下正夫¹⁾，田尻 孝¹⁾(¹⁾消化器外科)：アカラシア症例におけるバルーン拡張術有効例の特徴．第3回日本消化管学会総会学術集会，2007．2．
- 143) 川見典之，岩切勝彦，田中由理子，佐野弘仁，林 良紀，琴寄 誠，川上明彦，坂本長逸：NERD，逆流性食道炎患者の2次蠕動波を含めた食道運動機能．第3回日本消化管学会総会学術集会，2007．2．
- 144) 稲見光春，田野崎栄，田近賢二，猪口孝一，檀 和夫：汎血球減少症で発症し，2-cdA間歇投与法にて完全寛解を得たヘアリーセル白血病の1例．第158回日本臨床血液学会例会，2007．3．
- 145) 加納稔子，首藤真理子，長尾元嗣，石崎 晃，中島 泰，谷村恭子，田村秀樹，石井新哉，杉原 仁，及川眞

- 一, 芝崎 保⁽¹⁾生理学第2): 尿崩症とGH分泌不全症の合併例: 負荷試験による反応性について. 第17回臨床内分泌代謝: Update, 2007. 3.
- 146) 長尾元嗣, 首藤真理子, 加納稔子, 石崎 晃, 中島 泰, 谷村恭子, 田村秀樹, 石井新哉, 杉原 仁, 山崎峰雄¹⁾, 田原重志²⁾, 寺本 明²⁾, 及川眞一⁽¹⁾神経内科,²⁾脳神経外科学): 先端巨大症と副腎腫瘍, 多発性硬化症の合併例. 第17回臨床内分泌代謝: Update, 2007. 3.
- 147) 城 正樹, 田村秀樹, 梅澤真理子, 首藤真理子, 長尾元嗣, 北村由梨, 加納稔子, 石崎 晃, 中島 泰, 谷村恭子, 石井新哉, 杉原 仁, 及川眞一: グリチルリチンによる低K血症に, 甲状腺機能低下を生じた症例. 第17回臨床内分泌代謝: Update, 2007. 3.
- 148) Kanazawa H, Narahara Y, Nakatsuka K, Sakamoto C: The long-term outcome of TIPS in Patients with hepatocellular Carcinoma. 17th APASL Conference, 2007. 3.
- 149) 田中由理子, 岩切勝彦, 川見典之, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠, 坂本長逸: バルーン拡張術が有効であるアカラシアの特徴. 第7回東京UGI研究会, 2007. 3.
- (9) ライブデモ:
- 1) 田中 周, 三井啓吾, 坂本長逸: カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡の比較: 原因不明の消化管出血(OGIB)を中心に. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.

4. 内科学講座（呼吸器・感染・腫瘍部門）

[付属病院呼吸器内科]

研究概要

【炎症】厚生労働科学研究を軸としてHIPsの治療研究（NAC, pirfenidone, CyA）ならびに活動性評価（KL-6, SP-D, ANCA など）、予後評価（歩行試験, 呼吸機能など）を検討している。付随する感染症評価, 治療, またDPB難治例を対象とした治療研究を展開。サルコイドーシスは全国疫学調査, 突然死の調査研究を施行。一方基礎的研究においては, 線維化病態を対象として急性肺障害機序の研究, メカニカルストレス研究, 組織再生に関する研究を *in vitro*, *in vivo* にて研究している。マクロライド療法の作用機序と新規化合物（EM703, EM900）の評価を行っている。また大気環境関連健康障害に関する研究において, ディーゼル排気粒子の喘息病態に対する影響について検討している。

【呼吸生理】COPD, 睡眠時無呼吸症候群（SAS）を主たるテーマとして臨床研究およびこれに関する基礎的研究を進めてきた。環境省委託研究として新しい包括的呼吸ケアのあり方を英国プリマス大学グループと共同研究を推進, 成果を単行本として出版した。環境省大気汚染の研究プロジェクトに参画し疫学研究を進めた。基礎的研究ではCOPDの発症原因に関わるSNP, 大気汚染と呼気NOとの関係の研究, COPDにおける呼気NOに関する研究, 咳嗽音の音響学的研究, 咳嗽カウンターの開発などの研究を国際学会で発表し論文文化した。

【癌】新薬を含む併用療法, 有合併症症例の治療, 個別化治療（イレッサ感受性に関する変異解析やCPT-11の副作用に関する遺伝子多型解析等を研究）、抗癌剤感受性と遺伝子発現データに基づいたレジメン開発（初回化学療法不応例でのCBDCA + PTX）、副作用対策等を行っている。副作用に関してイレッサ肺障害での臨床研究の中心的施設として参加している。CPT-11の副作用対策として腸管循環抑制や遺伝子多型による予測等の研究を行っている。個別化治療の基礎的研究として感受性, 副作用予測の研究を展開している。肺癌の発癌, 増殖に関わる研究を遺伝子レベルで行ない, 発癌の母地として特発性間質性肺炎に注目し, 特殊な発癌機構の理解と予防法の開発を目指している。

研究業績

論文

[2006 年度追加]

原著：

- 1) 奥村昌夫¹⁾, 岩井和郎²⁾, 尾形英雄¹⁾, 吉山 崇¹⁾, 吉森浩三¹⁾, 水谷清二³⁾, 杉田博宣⁴⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (¹⁾ 結核予防会複十字病院呼吸器内科, ²⁾ 結核予防会結核研究所, ³⁾ 水谷内科呼吸器科クリニック, ⁴⁾ 結核予防会第一健康相談所): 肺 *Mycobacterium avium complex* (MAC) 症の結核類似空洞型と結節性気管支拡張型, その発症要因ならびに予後因子に関する臨床的検討. 日本呼吸器学会誌 2006 ; 44 (1): 3-11 .
- 2) 奥村昌夫^{1,7)}, 岩井和郎²⁾, 矢野郁也³⁾, 高橋光良⁴⁾, 鹿住祐子²⁾, 田中さゆり⁵⁾, 吉山 崇¹⁾, 尾形英雄¹⁾, 中島由槻⁶⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (¹⁾ 結核予防会複十字病院呼吸器内科, ²⁾ 結核予防会結核研究所, ³⁾ 日本BCG研究所, ⁴⁾ 前結核予防会結核研究所, ⁵⁾ 結核予防会複十字病院病理検査科, ⁶⁾ 同呼吸器外科): 肺 *Mycobacterium avium complex* 症の結核類似空洞型と結節性気管支拡張型, その発症要因に対する基礎的立場からの検討. 日本呼吸器学会誌 2006 ; 44 (2): 91-98 .

(1) 原著：

- 1) Li YJ¹⁾, Azuma A, Usuki J, Abe S, Matsuda K, Sunazuka T³⁾, Shimizu T²⁾, Hirata Y¹⁾, Inagaki H¹⁾, Kawada T¹⁾, Takahashi S²⁾, Kudoh S, Omura S³⁾ (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health, ²⁾ Institute of Basic Medical Science, University of Tsukuba, ³⁾ Kitasato Institute for Life Sciences, Kitasato Univer-

- sity): EM703 improves bleomycin-induced pulmonary fibrosis in mice by the inhibition of TGF-beta signaling in lung fibrosis . *Respir Res* 2006 ; 7 (1) : 16 .
- 2) Okano T , Gemma A , Hosoya Y , Hosomi Y , Nara M , Kokubo Y , Yoshimura A , Shibuya M , Nagashima M¹⁾ , Harris CC¹⁾ , Kudoh S (¹⁾ Laboratory of Human Carcinogenesis, National Cancer Institute, National Institutes of Health): Alternations in novel candidate tumor suppressor genes, ING1 and ING2 in human lung cancer . *Oncol Res* 2006 ; 15 (3) : 545-549 .
 - 3) Murata Akira , Ohta N¹⁾ , Shibuya A¹⁾ , Ono H , Kudoh S (¹⁾ Department of Clothing, Japan Women's University, Tokyo): New non-invasive automatic cough counter based on 6 types of classified cough sounds . *Internal Medicine* 2006 ; 45 (6) : 391-397 .
 - 4) Seo Y , Abe S , Kurahara M , Okada D¹⁾ , Saito Y , Usuki J , Azuma A , Koizumi K²⁾ , Kudoh S (¹⁾ Aizu Chuo Hospital , ²⁾ Second Department of Surgery): Beneficial Effect of Polymyxin B-immobilized Fiber Column (PMX) Hemoperfusion Treatment on Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis. . *Internal Medicine* 2006 ; 45 (18) : 1033-1038 .
 - 5) Gemma A , Li C , Sugiyama Y , Matsuda K , Seike Y , Kosaihiro S , Minegishi Y , Noro R , Nara M , Seike M , Yoshimura A , Shionoya A¹⁾ , Kawakami A¹⁾ , Ogawa N¹⁾ , Uesaka H²⁾ , Kudoh S (¹⁾ Genetic Lab Co., Ltd , ²⁾ MediBic): Anticancer drug clustering in lung cancer based on gene expression profiles and sensitivity database . *BMC Cancer* 2006 ; 30 (6) : 174-174 .
 - 6) Katakami N¹⁾ , Takiguchi Y²⁾ , Yoshimori K³⁾ , Isobe H⁴⁾ , Bessho A⁵⁾ , Yoshimura A , Niitani H⁶⁾ (¹⁾ Kobe City General Hospital , ²⁾ Division of Pulmonary Medicine, Chiba University Hospital , ³⁾ Division of Pulmonary Medicine, Anti-Tuberculosis Association Fukujuji Hospital , ⁴⁾ Division of Pulmonary Medicine, Hokkaido Cancer Center , ⁵⁾ Division of Pulmonary Medicine, Shikoku Cancer Center , ⁶⁾ The Tokyo Cooperative Oncology Group): Docetaxel in Combination with Either Cisplatin or Gemcitabine in Unresectable Non-small Cell Lung Carcinoma : A Randomized Phase II Study by the Japan Lung Cancer Cooperative Clinical Study Group . *J Thorac Oncol* 2006 ; 1 (5) : 447-453 .
 - 7) Okano T^{1, 4)} , Kondo T¹⁾ , Kakisaka T¹⁾ , Fujii K¹⁾ , Yamada M¹⁾ , Kato H^{2, 3)} , Nishimura H²⁾ , Gemma A , Kudoh S , Hirohashi S¹⁾ (¹⁾ Proteome Bioinformatics Project, National Cancer Center Research Institute , ²⁾ Clinical Proteome Center, Tokyo Medical University , ³⁾ Department of Surgery, Tokyo Medical University): Plasma proteomics of lung cancer by a linkage of multi-dimensional liquid chromatography and two-dimensional difference gel electrophoresis (2D-DIGE) . *Proteomics* 2006 ; 6 (13) : 3938-3948 .
 - 8) Matsumoto A , Hiramatsu K , Li YJ¹⁾ , Azuma A¹⁾ , Kudoh S , Takizawa H²⁾ , Sugawara I³⁾ (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health , ²⁾ Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo , ³⁾ Department of Molecular Pathology, Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis): Repeated exposure to low-dose diesel exhaust after allergen challenge exaggerates asthmatic responses in mice . *Clin Immunol* 2006 ; 121 (2) : 227-235 .
 - 9) Akashiba T¹⁾ , Akahoshi T¹⁾ , Kawahara S¹⁾ , Uematsu A¹⁾ , Katura K¹⁾ , Sakurai S²⁾ , Murata A , Sakakibara H³⁾ , Chin K⁴⁾ , Hida W⁵⁾ , Nakamura H⁶⁾ (¹⁾ Respiratory Medicine, Nippon University School of Medicine, Tokyo , ²⁾ Department of Internal Medicine, Iwate Medical University, School of Medicine, Morioka , ³⁾ Division of Respiratory, Medicine and Clinical Allergy, Fujita Health University School of Medicine, Toyoake , ⁴⁾ Respiratory Medicine, Kyoto University School of Medicine, Kyoto , ⁵⁾ Health Administration Center, Department of Informatics on Pathophysiology, Tohoku University School of Medicine, Sendai , ⁶⁾ Nakamura Sleep Clinic, Urazoe): Clinical Characteristics of Obesity-hypoventilation Syndrome in Japan : a Multi-center Study . *Internal Medicine* 2006 ; 45 (20) : 1121-1125 .

- 10) Noro R , Gemma A , Kosaihira S , Kokubo Y , Chen M , Seike M , Kataoka K , Matsuda K , Okano T , Minegishi Y , Yoshimura A , Kudoh S : Gefitinib (IRESSA) sensitive lung cancer cell lines show phosphorylation of Akt without ligand stimulation . *BMC Cancer* 2006 ; 6 : 277-277 .
- 11) Fang Q : Thrombin and TNF-alpha/IL-1 beta synergistically induce fibroblast-mediated collagen gel degradation . *Am J Respir Cell Mol Biol* 2006 ; 35 (6) : 714-721 .
- 12) Kida K¹⁾ , Wakabayashi R¹⁾ , Mizuuchi T¹⁾ , Murata A¹⁾ (¹⁾Respiratory Care Clinic & Department of Internal Medicine, Divisions of Pulmonary Medicine, Infectious Diseases, and Oncology, Nippon Medical School, Tokyo): Screening for Suspected Chronic Obstructive Pulmonary Disease with an Eleven-Item Pre-Interview Questionnaire (11-Q). *Internal Medicine* 2006 ; 45 (21) : 1201-1207 .
- 13) Gemma A , Seike M , Kosaihira S , Minegishi Y , Noro R , Nara M , Hosomi Y , Okano T , Kokubo Y , Yoshimura A , Shibuya M¹⁾ , Kudoh S (¹⁾Respiratory Division of Internal Medicine, Tokyo Metropolitan Cancer and Infectious Diseases Center- Komagome Hospital): Phase I/II study of Paclitaxel + Carboplatin for refractory or recurrent non-small cell lung cancer . *Anticancer Res* 2006 ; 26 (4B) : 3083-3087 .
- 14) Hino M¹⁾ , Kobayashi K^{2,3)} , Yoshimura A , Takeda Y⁴⁾ , Hisakatsu S⁵⁾ , Yoneda S²⁾ , Gemma A , Moriya H⁶⁾ , Kudoh S , The East Japan Chesters Group (EJCG) (¹⁾Division of Internal Medicine, Chiba-Hokuso Hospital , ²⁾Respiratory Section, Saitama Cancer Center , ³⁾Department of Respiratory Medicine, Saitama Medical School , ⁴⁾Department of Respiratory Medicine, International Medical Center of Japan , ⁵⁾Respiratory Section, Hakujuikai Memorial Hospital , ⁶⁾Department of Radiology, Fukushima Medical University , the East Japan Chesters Group (EJCG) : Weekly administration of irinotecan (CPT-11) plus cisplatin for non-small cell lung cancer . *Anticancer Res* 2006 ; 26 (6C) : 4697-4703 .
- 15) Okano T¹⁾ , Kondo T¹⁾ , Fujii K²⁾ , Nishimura T²⁾ , Takano T³⁾ , Ohe Y³⁾ , Tsuta K⁴⁾ , Matsuno Y⁵⁾ , Gemma A , Kato H^{2,3)} , Kudoh S , Hirohashi S¹⁾ (¹⁾Proteome Bioinformatics Project, National Cancer Center Research Institute , ²⁾Clinical Proteome Center, Tokyo Medical University , ³⁾Department of Surgery, Tokyo Medical University , ⁴⁾Department of Internal Medicine, National Cancer Center Hospital , ⁵⁾Clinical Laboratory Division, National Cancer Center Hospital): Proteomic signature corresponding to the response to gefitinib (Iressa, ZD1839), an epidermal growth factor receptor (EGFR) tyrosine kinase inhibitor, in lung adenocarcinoma . *Clin Cancer Res* 2007 ; 13 (3) : 799-805 .
- 16) Murata A , Kida K , Hasunuma H¹⁾ , Kanegae H¹⁾ , Ishimaru Y¹⁾ , Motegi T , Yamada K , Yoshioka H , Yamamoto K , Kudoh S (¹⁾The Center for Environmental Information Science, Tokyo): Environmental influence on the measurement of exhaled nitric oxide concentration in school children : Special reference to methodology . *J Nippon Med Sch* 2007 ; 74 (1) : 30-36 .
- 17) Fuse E¹⁾ , Tateda K¹⁾ , Kikuchi Y¹⁾ , Matsumoto T²⁾ , Gondaira F³⁾ , Azuma A , Kudoh S , Standiford TJ⁴⁾ , Yamaguchi K¹⁾ (¹⁾Department of Microbiology and Infectious Diseases, Toho University School of Medicine , ²⁾Department of Microbiology, Tokyo Medical University , ³⁾Denkaseiken Co. Ltd , ⁴⁾Pulmonary and Critical Care Medicine, University of Michigan Medical School): Role of Toll-like receptor 2 in recognition of Legionella pneumophila in a murine pneumonia model . *J Med Microbiol* 2007 ; 56 (3) : 305-312 .
- 18) Omata M , Wakabayashi R , Kudoh S , Kida K : Correlation between Bronchodilator Responsiveness and Quality of Life in Chronic Obstructive Pulmonary Disease . *Allergol Int* 2007 ; 56 (1) : 15-22 .
- 19) Kakisaka T^{1, 2)} , Kondo T¹⁾ , Okano T¹⁾ , Fujii K¹⁾ , Honda K³⁾ , Endo M⁴⁾ , Tsuchida A⁴⁾ , Aoki T⁴⁾ , Itoi T⁵⁾ , Moriyasu F⁵⁾ , Yamada T³⁾ , Kato H^{6, 7)} , Nishimura T⁶⁾ , Todo S²⁾ , Hirohashi S¹⁾ (¹⁾Proteome Bioinformatics Project, National Cancer Center Research Institute , ²⁾Department of General Surgery, Hokkaido University Graduate School of Medicine , ³⁾Chemotherapy Division and Cancer Proteomics Project, National

Cancer Center Research Institute, ⁴⁾ Third Department of Surgery, Tokyo Medical University, ⁵⁾ Fourth Department of Internal Medicine, Tokyo Medical University, ⁶⁾ Clinical Proteome Center, Tokyo Medical University, ⁷⁾ Department of Surgery, Tokyo Medical University): Plasma proteomics of pancreatic cancer patients by multi-dimensional liquid chromatography and two-dimensional difference gel electrophoresis (2D-DIGE): Up-regulation of leucine-rich alpha-2-glycoprotein in pancreatic cancer. Journal of Chromatography B Analyt Technol Biomed Life Sci 2007; 852 (1-2): 257-67.

- 20) 齊藤好信, 阿部信二, 森本泰介, 藤田和恵, 茂木 孝, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: マクロライド療法が無効であった難治性気道感染症に対する tiotropium の使用経験. Ther Res 2006; 27 (7): 1364-1365.
- 21) 茂木 孝, 山田浩一, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患の急性増悪による入院医療費とこれに関与する因子の検討. 日本呼吸器学会雑誌 2006; 44 (11): 787-794.
- 22) 瀬尾宜嗣, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: 特発性肺線維症急性増悪に対する PMX-DHP の効果. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2006; 10 (1): 57-59.
- 23) 持丸 博^{1,2)}, 川本雅司¹⁾, 福田 悠¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾日本医科大学解析人体病理学, ²⁾船堀内科クリニック): 急性好酸球性肺炎と慢性好酸球性肺炎の臨床病理学的相違. 日本呼吸器学会雑誌 2007; 45 (3): 223-232.
- 24) 石井健男, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患: 最近の動向治療 筋炎治療の現状と将来展望. 最新医学 2007; 62 (3): 418-423.
- 25) 木田厚瑞: COPD. 暮らしと健康 2007; 62 (3): 32-35.

(2) 総説:

- 1) 岡野哲也, 弦間昭彦: 「かぜ症候群」と鑑別を要する疾患 かぜと肺癌. 成人病と生活習慣病 2006; 36 (1): 57-60.
- 2) 吾妻安良太: 薬剤性肺障害の遺伝性素因と人種差. 日本医師会雑誌 2006; 134 (11): 2111-2115.
- 3) 清家正博, 弦間昭彦: 肺癌と転移におけるプロテオミクス研究の現状と展望をみる. 分子呼吸器病 2006; 10 (2): 5-9.
- 4) 瀬尾宜嗣, 吾妻安良太, 工藤翔二: 難治性呼吸器疾患 病態解明と治療の最前線 特発性肺線維症. モダン・フィジシャン 2006; 26 (3): 361-366.
- 5) 藤田和恵, 吾妻安良太, 工藤翔二: 間質性肺炎のガイドライン: 特発性間質性肺炎 (IIPs) 第4次改訂診断基準による診断と治療. 呼吸器科 2006; 9 (3): 256-265.
- 6) 弦間昭彦: 肺線維症と肺癌. 総合臨床 2006; 55 (3): 533-534.
- 7) 茂木 孝, 木田厚瑞: 日本のプライマリ・ケア よくある健康問題100III. 疾患編 2. その他 ちょっと気になる疾患 20 3. 慢性閉塞性肺疾患. 総合臨床 2006; 55 (増刊): 963-968.
- 8) 村田 朗: COPD 臨床 Q&A パルスオキシメータは何をはかっているのですか?. COPD FRONTIER 2006; 5: 130-131.
- 9) 村田 朗: COPD 臨床 Q&A 吸入療法とはどのようなものですか?. COPD FRONTIER 2006; 5: 132-133.
- 10) 村田 朗: COPD 臨床 Q&A COPDに必要な栄養管理法は?. COPD FRONTIER 2006; 5: 134-134.
- 11) 村田 朗: COPD 臨床 Q&A 急性増悪を予測することはできますか?. COPD FRONTIER 2006; 5: 135-135.
- 12) 村田 朗: COPD 臨床 Q&A COPDの病診連携のポイントを教えてください. COPD FRONTIER 2006; 5: 136-137.
- 13) 村田 朗: 図解クリティカルケアに必要なモニタリングQ & A 1. 呼吸器系のモニタリング 3. パルスオキシメータ. 救急・集中治療 2006; 18: 271-276.
- 14) 工藤翔二: びまん性肺疾患: 診断と治療の進歩 III. 最近の話題 4. 日本人にとっての薬剤性肺障害. 日本内

科学会雑誌 2006 ; 95 (6) : 1058-1062 .

- 15) 茂木 孝, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) COPD と合併症 . Med Pract 2006 ; 23 (6) : 1007-1008 .
- 16) 茂木 孝, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 医療経済からみた COPD . Med Pract 2006 ; 23 (6) : 1000-1004 .
- 17) 村田 朗: 実践 救急医療 第3章 初期診療における指針 , 2 . 症候に対する初期対応と転送タイミング 呼吸困難 . 日本医師会雑誌 2006 ; 135 (3) : 136-140 .
- 18) 松本亜紀, 吾妻安良太: 特集 インターフェロン治療学 : 特発性肺線維症 . 日本臨床 2006 ; 64 (7) : 1354-1360 .
- 19) 松本亜紀, 吾妻安良太: 治療法の進歩 - 効果 , 成績 - 特発性肺線維症 . 日本臨床 2006 ; 64 (7) : 1354-1360 .
- 20) 工藤翔二, 吉村明修: 抗癌剤による肺障害 : その現状と問題点 . 癌と化学療法 2006 ; 33 (7) : 881-886 .
- 21) 阿部信二, 工藤翔二: 呼吸器疾患の新治療 呼吸器疾患の PMX 治療 . 呼吸 2006 ; 25 (7) : 703-708 .
- 22) 藤田和恵, 吾妻安良太: 【新しい肺線維症治療法とその可能性】ピルフェニドン 期待される新規抗線維化薬 . 医学のあゆみ 2006 ; 218 (9) : 765-768 .
- 23) 吾妻安良太, 神尾孝一郎¹⁾, 土方美奈子¹⁾, 慶長直人¹⁾ (¹⁾ 国立国際医療センター研究所呼吸器疾患研究部): 特集 呼吸器疾患と遺伝子多型 : びまん性汎細気管支炎の疾患感受性遺伝子 . 呼吸と循環 2006 ; 54 (8) : 801-805 .
- 24) 木田厚瑞: COPD の発症と増悪予防の戦略 : 喫煙がもたらす問題点 . アレルギー 2006 ; 55 (8/9) : 1012-1012 .
- 25) 吾妻安良太: 特集 間質性肺炎の病態と治療 : 薬剤性肺障害の現状と問題点 . 呼吸と循環 2006 ; 54 (10) : 1071-1076 .
- 26) 平松久弥子, 臼杵二郎: 特集 呼吸器疾患に対する日本人の遺伝的感受性 : 薬剤性肺障害 . THE LUNG perspectives 2006 ; 14 (4) : 404-408 .
- 27) 吾妻安良太: 特発性肺線維症の治療最前線 . 日医大医会誌 2006 ; 2 (4) : 192-201 .
- 28) 茂木 孝, 木田厚瑞: COPD : 診療の実際とこれからの治療 COPD の新たな指標 : BODE の問題点と将来展望 . 総合臨床 2006 ; 55 (10) : 2461-2466 .
- 29) 吾妻安良太, 工藤翔二: 薬剤起因性間質性肺炎 : 薬剤起因性間質性肺炎に人種差はあるのか . 治療学 2006 ; 40 (11) : 1226-1230 .
- 30) 弦間昭彦: 抗腫瘍薬の薬剤性肺障害 . 日本医師会雑誌 2006 ; 134 (11) : 2143-2146 .
- 31) 工藤翔二: 日本における薬剤性肺障害 : 日本人にとっての薬剤性肺障害 . 日本胸部臨床 2006 ; 65 (11) : 963-970 .
- 32) 酒井文和¹⁾, 上甲 剛²⁾, 楠本昌彦³⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 東京都立駒込病院放射線診療科 , ²⁾ 大阪大学医学部機能画像医学 , ³⁾ 国立がんセンター中央病院放射線科): 日本人の薬剤性肺障害 : 画像診断の面から . 日本胸部臨床 2006 ; 65 (11) : 971-978 .
- 33) 村田 朗, 木田厚瑞: 気管支拡張症 . medicina 2006 増刊号 2006 ; 43 : 288-290 .
- 34) 村田 朗, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患 (慢性気管支炎・肺気腫) . medicina 2006 増刊号 2006 ; 43 : 284-287 .
- 35) 村田 朗, 木田厚瑞: 気管支喘息 . medicina 2006 増刊号 2006 ; 43 : 280-283 .
- 36) 平松久弥子: 特集 2006-2007 インフルエンザ対策 : インフルエンザ治療薬の薬理と使い方 ザナミビル . 総合臨床 2006 ; 55 (12) : 2871-2876 .
- 37) 茂木 孝, 木田厚瑞: COPD の最新の話 非薬物療法の最近の話 . 日本胸部臨床 2006 ; 65 (12) : 1099-1114 .
- 38) 奈良道哉, 弦間昭彦, 工藤翔二: 職業性肺疾患の画像診断 : アスベスト関連呼吸器疾患を中心として : 職業性肺疾患 総論 . 臨床画像 2007 ; 23 (1) : 6-13 .

- 39) 石井健男, 木田厚瑞: レビューでわかる! いまどき診療エビデンス 15 COPDの長期治療. JIM 2007; 17 (1): 72-75.
- 40) 藤田和恵, 吾妻安良太, 工藤翔二: 【症例からみる肺疾患のCT画像】肺疾患をCTで診る 気道病変 びまん性汎細気管支炎 (DPB). Medicina 2007; 44 (2): 336-337.
- 41) 工藤翔二: 感染症学総論 VII. 抗菌薬 抗菌薬, 治療法の功罪 マクロライドのびまん性汎細気管支炎 (DPB) への応用. 日本臨床 2007; 65 (増刊号2): 554-558.
- 42) 工藤翔二: 薬剤性肺障害の診断と治療. 日本内科学会雑誌 2007; 96 (3): 552-556.
- (3) 症例報告:
- 1) Murata A, Kouno A, Yamamoto K, Yoshioka H, Kida K, Kudoh S: The Treatment of the Refractory Pneumothorax in Diffuse Panbronchiolitis by Intravenous Administration Therapy with Coagulation Factor XIII Concentration. J Nippon Med Sch 2006; 73 (2): 89-92.
 - 2) 根井貴仁, 大岩健満, 齋藤好信, 阿部信二, 茂木 孝, 白杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 平井恭二¹⁾, 小泉潔¹⁾, 刃刀しのぶ²⁾, 中山智子²⁾, 福田 悠²⁾(¹⁾付属病院胸部外科, ²⁾解析人体病理学): びまん性嚢胞性変化を呈した多中心性キャスルマン病の1例. 日本呼吸器学会雑誌 2006; 44 (6): 468-473.
 - 3) 守屋敦子, 森本泰介, 茂木 孝, 村田 朗, 工藤翔二, 小野美紀子¹⁾, 田村浩一¹⁾, 福田 悠¹⁾(¹⁾解析人体病理学) CPC日常臨床から学ぶ この症例の新しい意義は? 瘻孔の自然閉鎖後に再増悪した有瘻性膿胸の1例. The Lung perspectives 2006; 14 (3): 250-256.
 - 4) 小野啓資, 根井貴仁, 弦間昭彦, 山岸茂樹¹⁾, 平井恭二¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 田島廣之²⁾, 川本雅司²⁾, 工藤翔二(¹⁾付属病院胸部外科, ²⁾放射線医学, ³⁾解析人体病理学): 気管支動脈造影及びAngio CTで濃染し, 血管性病変との鑑別が困難であった肺カルチノイドの1例. 気管支学 2006; 28 (7): 521-525.
 - 5) 森本泰介¹⁾, 坂本 徹¹⁾, 太田啓介¹⁾, 安藤常浩¹⁾, 生島壮一郎¹⁾, 折津 愈¹⁾, 武村民子²⁾(¹⁾日本赤十字社医療センター呼吸器内科, ²⁾同病理科): 器質性肺炎を伴った慢性壊死性肺アスペルギルス症の剖検例. Jpn J Antibiot 2006; 59 (5): 391-396.
 - 6) 坂本静樹¹⁾, 竹内純子¹⁾, 塚田克也¹⁾, 猪口孝一²⁾, 北村光信³⁾, 白杵二郎, 田村浩一⁴⁾, 内藤善哉⁵⁾, 藤田和恵, 工藤翔二, 片山泰朗¹⁾, 辰口篤志²⁾, 福間長知³⁾, 中山智子⁴⁾, 川本雅司⁴⁾, 勝又俊弥⁴⁾, 杉崎祐一⁴⁾(¹⁾内科学第2, ²⁾内科学第3, ³⁾内科学第1, ⁴⁾病理学第1, ⁵⁾病理学第2): 膿胸関連リンパ節の1例. 内科 2006; 98 (6): 1091-1102.
 - 7) 神宮亜希子, 阿部信二, 瀬尾宜嗣, 国保成暁, 齋藤好信, 白杵二郎, 吾妻安良太, 中山智子¹⁾, 福田 悠¹⁾, 工藤翔二(¹⁾病理学第1): 肺病変が先行しdiffuse alveolar damage (DAD)と筋炎が同時発症した多発性筋炎の1剖検例. 日本呼吸器学会雑誌 2006; 44 (12): 938-943.
 - 8) 榎原桂太郎¹⁾, 岡野哲也, 倉根修二²⁾, 工藤翔二(¹⁾博慈会記念病院第1内科, ²⁾文京クリニック): 治療中に結核性動脈瘤を併発した粟粒結核の1例. 結核 2007; 82 (2): 111-114.
- (4) editorial:
- 1) Niederman MS¹⁾, Hiramatsu K (¹⁾Respiratory and Critical Care Medicine, Winthrop-University Hospital): Health-care-associated pneumonia: a new therapeutic paradigm. Chest 2005; 128 (6): 3784-3787.
- (5) Invited Review:
- 1) Azuma A, Kudoh S: Diffuse Panbronchiolitis in East Asia. Respirology 2006; 11 (3): 249-261.
- (6) トレーニング問題:
- 1) 吾妻安良太: 特発性肺線維症の新しい治療. 日本内科学会雑誌 2006; 95 (6): 1069-1075.
- (7) 研究報告書:
- 1) 吉村明修¹⁾, 矢野 侃²⁾(¹⁾教育推進室, ²⁾荒川区がん予防センター): 革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究: CT肺がん検診有効性コホート研究・喀痰細胞診有効性症例対照研究

都市部での住民対象CT検診の感度分析．厚生労働省班会議報告 2006；pp34-36．

著書

- 1) Ohara K¹⁾, Takahashi T²⁾, Azuma A²⁾, Kudoh S²⁾ (¹⁾ Department of Ophthalmology, ²⁾ Fourth Department of Internal Medicine): [分担] Ocular Sarcoidosis . Sarcoidosis (Robert P Baughman), 2006 ; pp553-570, Taylor & Francis, Marchal Dekker .
- 2) 吉岡央子, 木田厚瑞 : [分担] 疾患の理解 . LINQ による包括的呼吸ケア セルフマネジメント力を高める患者教育 (木田厚瑞), 2006 ; pp56-60, 医学書院 .
- 3) 本橋典久, 吾妻安良太 : [分担] 第4章サルコイドーシスの診断と検査所見 2-(5) 気管支・肺胞洗浄液 . サルコイドーシスとその他の肉芽腫性疾患 (安藤正幸・四元秀毅 監修日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会編集), 2006 ; pp170-174, 克誠堂出版 .
- 4) 村田 朗, 工藤翔二 : [分担] COPD . 在宅酸素療法 改訂第2版 (谷本晋一), 2006 ; pp172-181, 克誠堂出版 .
- 5) 吾妻安良太 : [分担] 特発性肺線維症 (特発性間質性肺炎の慢性型). 今日の治療指針 2007 (山口 徹総編集, 北原光夫総編集, 福井次夫総編集), 2007 ; pp220-221, 医学書院 .
- 6) 吾妻安良太 : [分担] インターフェロン : 特発性肺線維症治療における最近の知見 . Annual Review 呼吸器 2007 (工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 大田 健編集), 2007 ; pp59-64, 中外医学社 .
- 7) 石井健男, 木田厚瑞 : [分担] レビューでわかる！いまだき診療エビデンス ; COPD の長期治療 . JIM ., 2007 ; pp72-75, 医学書院 .
- 8) 弦間昭彦 : [監修] II 肺癌の分子生物学 3. 癌の1生物学と臨床応用の現状 . 呼吸器 common disease の診療 肺癌のすべて (工藤翔二監修, 江口研二, 横井香平, 弦間昭彦編集), 2007 ; 文光堂 .
- 9) 弦間昭彦 : [分担] 疾患の病因と病態 7. 肺の線維化と発癌 . Annual Review 呼吸器 2007 (工藤翔二, 土屋了介, 金沢 実, 大田 健編集), 2007 ; pp117-121, 中外医学社 .
- 10) 村田 朗, 工藤翔二 : [分担] その他の分泌液・穿刺液 胸水 . 臨床検査ガイド2007-2008 (和田 攻・大久保昭行・矢崎義雄・大内尉義), 2007 ; pp264-267, 文光堂 .
- 11) 村田 朗 : [分担] 呼吸器疾患の治療手技 酸素吸入の流量決定と投与方法 . 呼吸器疾患 最新の治療2007 2009 (工藤翔二, 中田紘一郎, 貫和敏博), 2007 ; pp120-124, 南江堂 .
- 12) 石井健男, 木田厚瑞 : [分担] 禁煙治療の現状と将来展望 . 最新医学, 2007 ; pp418-423, 最新医学社 .
- 13) 阿部信二, 工藤翔二 : [自著] DAD型肺障害の治療 (薬剤性肺障害のすべて). 成人病と生活習慣病, 2007 ; pp284-287, 東京医学社 .
- 14) 阿部信二, 工藤翔二 : [自著] 肺の再生と幹細胞 . 別冊・医学のあゆみ 呼吸器疾患 ver. 5-state of arts (北村 諭・工藤翔二・石井芳樹), 2007 ; pp64-66, 医歯薬出版株式会社 .
- 15) 岡野哲也, 弦間昭彦 : [分担] 診断法-現況と最近の進歩 肺癌診療におけるDNA診断 . 医学のあゆみ 呼吸器疾患 : state of arts Ver. 5 (北村 諭, 工藤翔二, 石井芳樹編集), 2007 ; pp97-99, 医歯薬出版株式会社 .
- 16) 弦間昭彦 : [分担] 発見・診断 : 肺癌を合併しやすい呼吸器疾患 . MOOK 「肺癌の臨床 2007-2008 疫学・病理・発見・診断・治療」 (加藤治文, 西條長宏, 福岡正博, 小林紘一, 海老原善郎, 井内康輝, 早川和重編集), 2007 ; pp113-118, 篠原出版社 .
- 17) 篠田欣也, 弦間昭彦 : [分担] 薬物療法 E. 抗癌薬 . 呼吸器専門医テキスト (工藤翔二・中田紘一郎・永井厚志・大田 健編集), 2007 ; 南江堂 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 工藤翔二 : マクロライド療法の新たな展開 . 日本小児呼吸器疾患学会, 2006 . 11 .

- 2) 阿部信二：間質性肺炎の急性増悪病態に対するPMX療法．東北DAD・血液浄化研究会，2007．2．
- 3) 阿部信二：間質性肺炎の急性増悪病態に対するPMX療法の試み．第10回 Tokyo Lung Conference U40，2007．2．
- (2) 招待講演：
- 1) 村田 朗：寝ている間に病気が作られる：睡眠時無呼吸症候群．平成18年度第1回医学講座プログラム 日本医科大学日本医師会生涯教育講座，2006．6．
- (3) 教育講演：
- 1) 村田 朗：血液ガス・酸素投与のアセスメント．第46回日本呼吸器学会学術講演会呼吸ケアカンファレンス，2006．6．
- 2) 村田 朗：わが国における慢性呼吸器疾患の展望「COPD」．日医生涯教育協力講座セミナー「慢性呼吸器疾患講座」，2006．6．
- 3) 村田 朗：長引く咳をどうするか．第6回日本医科大学生活習慣病・医療連携推進会議，2007．2．
- (4) シンポジウム：
- 1) 根井貴仁：ARDSを呈し救命しえた Legionella肺炎の1例．第38回臨床呼吸器カンファレンス，2006．3．
- 2) 吾妻安良太：「薬剤性肺障害への対応」 日本人に多い薬剤性肺障害：抗癌剤，抗リウマチ薬を中心に．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 3) 吉村明修：肺癌の分子標的薬：臨床におけるその後の展開：4. 分子標的薬の副作用とその対策．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 4) 阿部信二：肺障害修復とstem/progenitor細胞（Stem cellを用いた呼吸器細胞への分化と機能）．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- (5) パネルディスカッション：
- 1) Yoshioka H：Correlation between fat-free mass with low attenuation area on HRCT and serum biomarkers in patients with COPD．Asian Pacific Society of Respiratory (Kyoto, Japan)，2006．11．
- 2) 吉村明修：呼吸器病学をいかに教育するか 1. 学部教育．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- (6) ランチョンセミナー：
- 1) 阿部信二：特発性間質性肺炎の急性増悪症例に対する新たな治療戦略：エンドトキシン吸着療法（PMX-DHP）．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- (7) ワークショップ：
- 1) 吾妻安良太：肺損傷・線維化の疾患標的分子とその制御へのアプローチ 肺線維症とTGF- β ．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- (8) 一般講演：
- 1) Okano T, Seike M, Gemma A, Kokubo Y, Kataoka K, Kudoh S, Kondo T¹⁾, Hirohashio S¹⁾(¹⁾Proteome Bioinformatics Project, National Cancer Center Research Institute): Proteomic analysis of lung cancer cells with natural resistance to gefitinib (IRESSA). AACR (Washington DC, USA), 2006. 4.
- 2) Takahito N, Yoshitsugu S, Taisuke M, Yoshinobu S, Kazue F, Shinji A, Jiro U, Arata A, Shoji K: Clinical Features of Interstitial Lung Disease in Polymyositis and Dermatomyositis. Annual Congress of European Respiratory Society (Munich, German), 2006. 9.
- 3) Murata A, Kudoh S: A development of a new cough monitoring system using wireless accelerometer. the 31st International Lung Sound Association Conference (Greece), 2006. 9.
- 4) Kuribayashi H¹⁾, Kondo T¹⁾, Fujii K¹⁾, Gemma A, Kudoh S, Hirohashi S¹⁾(¹⁾Proteome Bioinformatics Project, National Cancer Center Research Institute): Proteomic signatures corresponding to the histological differentiation in lung cancer. Human Proteome Organization, 2006. 10.
- 5) Hiramatsu K¹⁾, Castiller F¹⁾, Feuerman M¹⁾, Niederman Michael S¹⁾(¹⁾Winthrop-University Hospital):

Why does healthcare-associated pneumonia lead to worse outcomes than community-acquired pneumonia? . CHEST 2006 (Salt Lake City), 2006 . 10 .

- 6) Fujita K , Seo Y , Nei T , Saito Y , Abe S , Usuki J , Azuma A , Kudoh S : Extrapulmonary Tuberculosis (EPTB): Clinical and Epidemiologic Spectrum in Our University Hospital . Asian Pacific Society of Respiriology (Kyoto), 2006 . 11 .
- 7) Li YJ¹⁾ , Takizawa H²⁾ , Azuma A , Matsumoto A , Kawada T¹⁾ , Sugawara I³⁾ , Kudoh S (¹⁾ Department of Hygiene and Public Health , ²⁾ Department of Respiratory Medicine, University of Tokyo , ³⁾ Department of Molecular Pathology, Mycobacterial Reference Center, The Research Institute of Tuberculosis): Mouse strain differences in airway inflammation responses caused by long-time low-dose diesel exhaust exposure . Asian Pacific Society of Respiriology (Kyoto), 2006 . 11 .
- 8) Motohashi N , Ishii T , Yamada K , Motegi T , Yoshioka H , Wakabayashi R , Murata A , Kudoh S , Kida K : Close Correlation between Increased Low Attenuation Area on High Resolution CT and Deteriorated QOL in Patients with Chronic Obstructive Pulmonary Disease . The 11th Congress of the APSR (Kyoto, Japan), 2006 . 11 .
- 9) Saito Y , Abe S , Morimoto T , Fujita K , Motegi T , Usuki J , Azuma A , Kudoh S : Tiotropium decreased massive sputum in diffuse panbronchiolitis resistant to macrolide . Asian Pacific Society of Respiriology (Kyoto), 2006 . 11 .
- 10) Okano T , Gemma A , Hosoya Y , Hosomi Y , Nara M , Kokubo Y , Yoshimura A , Shibuya M , Nagashima M¹⁾ , Harris C¹⁾ , Kudoh S (¹⁾ Laboratory of Human Carcinogenesis, National Cancer Institute, National Institutes of Health): Alterations in novel candidate tumor suppressor genes, ING1 and ING2 in human lung cancer . Asian Pacific Society of Respiriology (Kyoto, Japan), 2006 . 11 .
- 11) Kuribayashi H¹⁾ , Kondo T¹⁾ , Fujii K¹⁾ , Gemma A , Kudoh S , Hirohashi S¹⁾ (¹⁾ Proteome Bioinformatics Project, National Cancer Center Research Institute): Proteomic signatures corresponding to the histological differentiation in lung cancer . The First JCA-AACR Special Joint Conference , 2007 . 3 .
- 12) 岡野哲也 , 弦間昭彦 , 清家正博 , 小久保豊 , 片岡清子 , 近藤 格¹⁾ , 広橋説雄¹⁾ , 工藤翔二 (¹⁾ 国立がんセンター研究所): プロテオーム解析を用いた肺癌細胞株の gefitinib 感受性に関わる因子の検索 . 日本内科学会 , 2006 . 2 .
- 13) 李 英姫^{1,2)} , 川田智之¹⁾ , 松本亜紀²⁾ , 菅原 勇²⁾ , 吾妻安良太 , 工藤翔二 , 滝澤 始³⁾ (¹⁾ 日本医科大学衛生学・公衆衛生学 , ²⁾ 結核予防会結核研究所 , ³⁾ 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻器官病態内科学呼吸器内科学分野): 低濃度 DEP 曝露によるマウス炎症性サイトカインの系統差 . 日本衛生学会 , 2006 . 3 .
- 14) 王 春艶 , 阿部信二 , 吾妻安良太 , 愈 昌赫 , 李 英姫 , 松田久仁子 , 白杵二郎 , 青山昭徳 , 工藤翔二 : マウス放射線肺傷害におけるゲフィチニブの作用に関する検討 . 日本呼吸器学会学術講演会 , 2006 . 3 .
- 15) 小野啓資 , 楠 裕司 , 根井貴仁 , 弦間昭彦 , 工藤翔二 , 山岸茂樹¹⁾ , 平井恭二¹⁾ , 小泉 潔¹⁾ , 館野展之²⁾ , 田島廣之²⁾ , 川本雅司³⁾ (¹⁾ 付属病院胸部外科 , ²⁾ 放射線医学 , ³⁾ 解析人体病理学): 気管支血管造影で濃染を示し, 血管性病変との鑑別が困難であった肺カルチノイドの1例 . 日本呼吸器内視鏡学会関東地方会 , 2006 . 3 .
- 16) 峯岸裕司 , 竹中 圭 , 弦間昭彦 , 吉村明修 , 坪井栄孝¹⁾ , 工藤翔二 (¹⁾ 慈山会研究所坪井病院): 間質性肺 合併肺癌の治療の現場 : 当院における最近の連続20例について . 間質性肺疾患研究会 , 2006 . 4 .
- 17) 弦間昭彦 , 峯岸裕司 , 野呂林太郎 , 片岡清子 , 竹中 圭 , 植松和嗣 , 吉村明修 , 工藤翔二 : 特発性肺線維症における発癌機序 . 間質性肺疾患研究会 , 2006 . 4 .
- 18) 上村なつ¹⁾ , 横村浩一¹⁾ , 安部 茂¹⁾ (¹⁾ 帝京大学医真菌研究センター): LAMP (loop-mediated isothermal amplification) 法による Pseumocystis 症遺伝子診断の開発 . 第80回日本感染症学会総会 , 2006 . 4 .
- 19) 武内 進 , 瀧美健一郎 , 根井貴仁 , 齋藤好信 , 阿部信二 , 白杵二郎 , 吾妻安良太 , 工藤翔二 : 成人 T 細胞性白

- 血病 (ATL) に合併した難治性気道病変の一剖検例. 第169回日本呼吸器学会関東地方会, 2006. 5.
- 20) 小野啓資, 楠 裕司, 根井貴仁, 弦間昭彦, 山岸茂樹¹⁾, 平井恭二¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 館野展之²⁾, 田島廣之²⁾, 川本雅司³⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 外科学第2, ²⁾ 放射線医学, ³⁾ 病理学第1): 気管支血管造影で濃染を示し, 血管性病変との鑑別が困難であった肺カルチノイドの1例. 気管支学会, 2006. 5.
- 21) 藤田和恵, 瀬尾宣嗣, 守屋敦子, 根井貴仁, 森本泰介, 齋藤好信, 茂木 孝, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: 大学病院における肺外結核の検討. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 22) 吉岡央子: COPDにおけるFat-free mass index (FFMI) の意義に関する研究. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 23) 吉岡央子: COPDにおけるFat-free mass index (FFMI) による栄養評価と問題点に関する研究. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 24) 北村和広¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 小斉平聖治, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 奈良道哉, 岡野哲也, 清家正博, 野村浩一郎²⁾, 弦間昭彦, 吉村明修, 日野光紀³⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 慈山会医学研究所附属坪井病院内科, ²⁾ 静岡医療センター呼吸器科, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター): 進展型小細胞癌および癌性胸膜炎合併限局型小細胞癌に対するカルボプラチン+エトポシドと分割シスプラチン+塩酸イリノテカン交代化学療法の第II相試験. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 25) 山名一平¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 北村和広¹⁾, 瀧美健一郎¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 慈山会医学研究所附属坪井病院): 非小細胞肺癌におけるイレッサ不応例に対する後治療の検討. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 26) 土方美奈子¹⁾, 松下育美¹⁾, 本間 栄²⁾, 田口善夫³⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二, 慶長直人¹⁾ (¹⁾ 国立国際医療センター研究所, ²⁾ 東邦大呼吸器内科, ³⁾ 天理よろづ相談所病院呼吸器内科): びまん性汎細気管支炎の疾患感受性遺伝子の研究. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 27) 松本亜紀, 李 英姫¹⁾, 平松久弥子, 宇田川忠²⁾, 菅原 勇²⁾, 滝沢 始³⁾, 吾妻安良太, 工藤翔二 (¹⁾ 衛生学・公衆衛生学, ²⁾ 結核予防会結核研究所抗酸菌レファレンスセンター, ³⁾ 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻器官病態内科呼吸器内科学分野): 低濃度ディーゼル排気曝露が喘息発症に及ぼす影響. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 28) 守屋敦子, 根井貴仁, 瀬尾宣嗣, 森本泰介, 齋藤好信, 藤田和恵, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: びまん性肺疾患に対してステロイド投与後に発症した肺炎球菌感染症の検討. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 29) 大岩健満, 武内 進, 小斉平聖治, 峯岸裕司, 野呂林太郎, 岡野哲也, 弦間昭彦, 吉村明修, 工藤翔二: 当施設におけるGefitinib投与症例の臨床的検討. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 30) 李 英姫¹⁾, 川田智之¹⁾, 松本亜紀, 吾妻安良太, 工藤翔二, 滝澤 始²⁾, 菅原 勇³⁾ (¹⁾ 衛生学・公衆衛生学, ²⁾ 東京大学大学院医学系研究科内科学専攻器官病態内科呼吸器内科学分野, ³⁾ 結核予防会結核研究所抗酸菌レファレンスセンター): 低濃度DEP曝露によるマウス炎症性サイトカインの系統差. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 31) 瀬尾宣嗣, 阿部信二, 齋藤好信, 藤田和恵, 茂木 孝, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: ALI/ARDS症例に対するPMX-DHPの好中球吸着効果. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 32) 藤田和恵, 瀬尾宣嗣, 守屋敦子, 根井貴仁, 森本泰介, 齋藤好信, 茂木 孝, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: 大学病院における肺外結核の検討. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 33) 齋藤好信, 阿部信二, 森本泰介, 藤田和恵, 瀬尾宣嗣, 根井貴仁, 茂木 孝, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二: マクロライド療法が無効であった難治性気道感染症におけるtiotropiumの有効性. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 34) 根井貴仁, 齋藤好信, 藤田和恵, 阿部信二, 臼杵二郎, 吾妻安良太, 工藤翔二, 園部一成¹⁾, 青砥泰二¹⁾ (¹⁾ 付属病院中央検査部細菌科): 当院の抗酸菌培養で分離された好気性放線菌と肺疾患の検討. 第46回日本呼

吸器学会学術講演会，2006．6．

- 35) 峯岸裕司，竹中 圭，吉村明修，安藤真弘¹⁾，坪井栄孝¹⁾，工藤翔二⁽¹⁾ 慈山会研究所坪井病院内科): 間質性肺炎合併肺癌の臨床的検討．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 36) 岡野哲也，弦間昭彦，清家正博，小久保豊，片岡清子，宮永晃彦，小斉平聖治，野呂林太郎，峯岸裕司，奈良道哉，工藤翔二: プロテオーム解析を用いた肺癌細胞株の gefitinib 感受性に関わる因子の検索．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 37) 小斉平聖治，松田久仁子，峯岸裕司，野呂林太郎，奈良道哉，岡野哲也，弦間昭彦，吉村明修，塩野谷亜紀¹⁾，尾川直樹¹⁾，上坂美花²⁾，工藤翔二⁽¹⁾ Genetic Lab Co. Ltd.，²⁾ MediBic): 肺癌における遺伝子発現プロファイルと感受性データベースを用いた化学療法戦略デザイン．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 38) 野呂林太郎，弦間昭彦，小斉平聖治，奈良道哉，岡野哲也，清家正博，片岡清子，松田久仁子，小久保豊，吉村明修，工藤翔二: 肺癌細胞株における Iressa (Gefitinib) 感受性因子の検討．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 39) 宮永晃彦: Gefitinib 治療を行った術後再発もしくは手術不能進行非小細胞肺癌における EGFR 遺伝子変異及び腫瘍組織免疫染色の検討．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 40) 本橋典久，山田浩一，茂木 孝，村田 朗，木田厚瑞，工藤翔二: HRCT による肺気腫の形態学的重症度に関する研究．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 41) 本橋典久，臼杵二郎，吾妻安良太，工藤翔二: 東京都サルコイドーシス公費助成中断患者の実態調査に関する研究．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 42) 坪井永保¹⁾，吉村邦彦¹⁾，吾妻安良太，工藤翔二，中田紘一郎²⁾ (¹⁾ 虎の門病因呼吸器センター内科，²⁾ 中田クリニック): 特発性間質性肺炎患者に対するトレッドミル定速歩行試験の妥当性に関する検討．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 43) 坪井永保¹⁾，高谷久史¹⁾，宮本 篤¹⁾，坂本 晋¹⁾，川畑雅照¹⁾，岸 一馬¹⁾，吾妻安良太，工藤翔二，吉村邦彦¹⁾，中田紘一郎²⁾ (¹⁾ 虎の門病因呼吸器センター内科，²⁾ 中田クリニック): 特発性間質性肺炎患者に対するトレッドミル定速歩行試験の妥当性に関する検討: 6分間歩行試験とのクロスオーバー試験．日本呼吸管理学会，2006．6．
- 44) 上村なつ¹⁾，榎村浩一¹⁾，工藤翔二，安部 茂¹⁾ (¹⁾ 帝京大学医真菌研究センター): LAMP (loop-mediated isothermal amplication) 法による Pseumocystis 症遺伝子診断の開発．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 45) 与那嶺弘子¹⁾，若林律子¹⁾，山田浩一¹⁾，茂木 孝¹⁾，吉岡央子¹⁾，本橋典久¹⁾，村田 朗¹⁾，木田厚瑞¹⁾，工藤翔二⁽¹⁾ 呼吸ケアクリニック): COPD における気流制限可逆性テストに関する研究: 努力肺活量の意義．日本呼吸管理学会，2006．6．
- 46) 若林律子，村田 朗，山田浩一，吉岡央子，本橋典久，工藤翔二，木田厚瑞: COPD のアウトカムに関する患者アンケート調査．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 47) 小侯雅稔¹⁾，楠 裕司¹⁾，上田有香¹⁾，上原隆志¹⁾，田中庸介¹⁾，小野 靖¹⁾，日野光紀¹⁾，工藤翔二，木田厚瑞⁽¹⁾ 千葉北総病院呼吸器センター内科): COPD の重症度と気道閉塞可逆性試験の関連性に関する研究．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 48) 立花てる夫¹⁾，木田厚瑞，長島 修²⁾，高橋和久²⁾，倉島篤行³⁾，永井英明³⁾，坂谷光則⁴⁾，林 清二⁴⁾，井上義一⁴⁾ (¹⁾ 大阪簡易保険総合健診センター，²⁾ 順天堂大学医学部呼吸器内科，³⁾ 国立病院機構東京病院，⁴⁾ 国立病院機構近畿中央胸部疾患センター): 80才以上の高齢者サルコイドーシス症例の臨床的，病理学的検討．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 49) 柚 知行^{1,2)}，日野光紀¹⁾，木田厚瑞，工藤翔二⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター，²⁾ 埼玉医大総合医療センター呼吸器内科): 急性喘息発作患者に対する non-invasive positive pressure ventilation (NPPV)

- による治療効果に関する研究．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 50) 若林律子，村田 朗，山田浩一，吉岡央子，本橋典久，工藤翔二，木田厚瑞：COPDにおけるBODE indexに関する研究．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 51) 村田 朗，工藤翔二：ワイヤレス3軸加速度センを用いた新しい咳嗽モニタリングシステムの開発．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 52) 村田 朗，山本和男，木田厚瑞，工藤翔二：呼気NO測定における大気汚染の短期的な影響．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 53) 柳生久永¹⁾，松岡 健²⁾，壇原 高³⁾，吉村明修⁴⁾，工藤翔二（¹⁾東京医大霞ヶ浦病院総合診療部，²⁾東京医大内科学第五，³⁾順天堂大総合診療科）：日本呼吸器学会認定施設における卒後臨床研修教育の現状について．日本医学教育学会大会，2006．7．
- 54) 吉村明修¹⁾，志村俊郎¹⁾，阿曾亮子¹⁾，国信浩洋¹⁾，瀧澤俊広²⁾，明樂重夫³⁾，寺本 明⁴⁾（¹⁾教育推進室，²⁾解剖学第1，³⁾産婦人科学，⁴⁾脳神経外科学）：学生による授業評価の妥当性・信頼性に関する研究．日本医学教育学会大会，2006．7．
- 55) 岡野哲也¹⁾，近藤 格¹⁾，藤井清永¹⁾，高野利実²⁾，大江裕一郎²⁾，蔦 幸治²⁾，松野吉宏²⁾，弦間昭彦，西村俊秀³⁾，加藤治文⁴⁾，工藤翔二，広橋説雄¹⁾（¹⁾国立がんセンター研究所 プロテオームバイオインフォマティクスプロジェクト，²⁾国立がんセンター中央病院，³⁾東京医科大学臨床プロテオームセンター，⁴⁾同外科学第一）：プロテオーム解析を用いた肺腺がんにおける gefitinib の奏効性や EGFR 遺伝子変異に関わるタンパク質の探求．第二回日本臨床プロテオーム研究会，2006．7．
- 56) 野呂林太郎，弦間昭彦，峯岸裕司，小斉平聖治，岡野哲也，清家正博，片岡清子，小久保豊，吉村明修，工藤翔二：Gefitinib 感受性肺癌細胞株は ligand stimulation のない Akt のリン酸化に相関する．日本癌学会学術総会，2006．8．
- 57) 野呂林太郎，吉村明修，峯岸裕司，奈良道哉，岡野哲也，清家正博，弦間昭彦，野村浩一郎¹⁾，安藤真弘²⁾，日野光紀³⁾，工藤翔二（¹⁾国立病院機構静岡医療センター，²⁾慈山会坪井病院内科，³⁾日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター）：進展型小細胞癌，癌性胸膜炎合併限局型小細胞癌に対する CBDCA+VP-16，CDDP+CPT-11 交替化学療法の第二相試験．日本癌治療学会，2006．9．
- 58) 大岩健満，阿部信二，斎藤好信，根井貴仁，瀬尾宜嗣，守屋敦子，森本泰介，藤田和恵，茂木 孝，臼杵二郎，吾妻安良太，工藤翔二，中山智子¹⁾，福田 悠¹⁾（¹⁾解析人体病理学）：抗リウマチ薬（methotrexate, infliximab）による薬剤性肺炎の検討．間質性肺疾患研究会，2006．10．
- 59) 森本泰介，阿部信二，臼杵二郎，吾妻安良太，工藤翔二，折津 愈¹⁾，杉崎勝教²⁾（¹⁾日赤医療センター呼吸器内科，²⁾西別府病院内科）：2004年サルコイドーシス全国疫学調査．サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会，2006．10．
- 60) 弦間昭彦，吉村明修，酒井文和，上甲 剛，楠本昌彦，福田 悠¹⁾，栗原 稔，工藤翔二（¹⁾病理学第1）：TS-1 特定使用成績調査（間質性肺炎）の検討結果について TS-1 特定使用成績調査（間質性肺炎） 間質性肺炎判定委員会．日本癌治療学会 第46回総会，2006．10．
- 61) 上村なつ¹⁾，横村浩一¹⁾，安部 茂¹⁾（¹⁾帝京大学医真菌研究センター）：LAMP（loop-mediated isothermal amplification）法による Pseudocystis 症遺伝子診断の開発．第50回日本医真菌学会総会，2006．10．
- 62) 根井貴仁，高久多希朗，瀬尾宜嗣，森本泰介，平松久弥子，齋藤好信，藤田和恵，阿部信二，臼杵二郎，吾妻安良太，工藤翔二：Sjogren 症候群に合併した間質性肺炎に発症した抗 EJ 抗体陽性の多発性筋炎の1例．第172回日本呼吸器学会関東地方会，2006．11．
- 63) 須藤淳子，峯岸裕司，竹中 圭，弦間昭彦，吉村明修，坪井栄孝¹⁾，工藤翔二（¹⁾慈山会研究所坪井病院）：間質性肺炎合併肺癌の臨床的検討．日本肺癌学会，2006．11．
- 64) 小斉平聖治，弦間昭彦，野呂林太郎，峯岸裕司，奈良道哉，岡野哲也，吉村明修，田中知明¹⁾，宮澤仁志¹⁾，

- 小林国彦¹⁾, 萩原弘一¹⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 埼玉医科大学病院呼吸器病センター呼吸器内科): 当科における肺癌臨床検体のEGFR 遺伝子変異についての検討 . 日本肺癌学会, 2006 . 11 .
- 65) 宮永晃彦, 弦間昭彦, 小斉平聖治, 野呂林太郎, 峯岸裕司, 片岡清子, 奈良道哉, 岡野哲也, 吉村明修, 安藤真弘¹⁾, 長井良昭²⁾, 宮澤仁志²⁾, 田中知明²⁾, 小林国彦²⁾, 萩原弘一²⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 慈山会坪井病院内科, ²⁾ 埼玉医大病院呼吸器病センター呼吸器内科): Gefitinib 治療を行った術後再発非小細胞肺癌におけるEGFR 遺伝子変異及び腫瘍組織免疫染色の検討 . 日本肺癌学会, 2006 . 11 .
- 66) 峯岸裕司, 弦間昭彦, 宮永晃彦, 小斉平聖治, 野呂林太郎, 奈良道哉, 岡野哲也, 吉村明修, 工藤翔二 : プロテオーム解析を用いた肺癌細胞株におけるTGF- 関連因子の検討 . 日本肺癌学会, 2006 . 11 .
- 67) 葛 伸一¹⁾, 野村浩一郎¹⁾, 野呂林太郎, 小斉平聖治, 峯岸裕司, 奈良道哉, 岡野哲也, 清家正博, 弦間昭彦, 吉村明修, 北村和広²⁾, 安藤真弘²⁾, 日野光紀³⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 静岡医療センター呼吸器科, ²⁾ 慈山会坪井病院, ³⁾ 日本医科大学千葉北総病院呼吸器病センター): 進展型および癌性胸膜炎合併限局型小細胞癌に対するCBDCA+VP-16, 分割CDDP+CPT-11 交替化学療法の第2相試験 . 日本肺癌学会, 2006 . 11 .
- 68) 一瀬幸人¹⁾, 坪井正博²⁾, 加藤治文²⁾, 横田総一郎³⁾, 中川和彦⁴⁾, 福岡正博⁴⁾, Jiang H⁵⁾, Nyberg F⁵⁾, 西脇裕⁶⁾, 中田紘一郎⁷⁾, 工藤翔二 (¹⁾ 国立病院九州がんセンター, ²⁾ 東京医大病院, ³⁾ 刀根山病院, ⁴⁾ 近畿大学医学部病院, ⁵⁾ アストラゼネカ, ⁶⁾ 国立がんセンター東病院, ⁷⁾ 東邦大学医学部病院): ゲフィチニブのコホート内ケースコントロールスタディ : ILDの相対リスクおよび危険因子の検討 . 日本肺癌学会, 2006 . 11 .
- 69) 村田 朗 : ワイヤレス3軸加速度センサを用いた新しい咳嗽モニタリングシステムの開発 . 第31回肺音 (呼吸音) 研究会, 2006 . 11 .
- 70) 中山富雄¹⁾, 鈴木隆一郎¹⁾, 曾根修輔²⁾, 長尾啓一³⁾, 望月輝一⁴⁾, 吉村明修, 新妻伸二⁵⁾, 西井研治⁶⁾, 中川徹⁷⁾, 岡本直幸⁸⁾ (¹⁾ 大阪府成人病センター, ²⁾ 長野県厚生連安曇総合病院, ³⁾ 千葉大保健管理センター, ⁴⁾ 愛媛大医学部放射線医学, ⁵⁾ 新潟県労働衛生医学協会プラーカ健康増進センター, ⁶⁾ 岡山県健康づくり財団病院, ⁷⁾ 日立健康管理センター, ⁸⁾ 神奈川県がんセンター研究所): 低線量CTを用いた肺がん検診の有効性評価研究班の進捗状況 . 日本CT検診学会学術集会, 2007 . 2 .

5. 精神医学講座

[付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科]

研究概要

生物学的研究，脳画像研究，時間生物学的研究の領域のほか，コンサルテーション・リエゾン精神医学に関する研究についても多くの業績をあげてきた。

脳画像研究では，独立行政法人放射線医学総合研究所，スウェーデンのカロリンスカ研究所など国内外の多岐に渡る施設との協力体制のもと，ニューロイメージングを用いて，統合失調症や気分障害の病態診断に関する研究や抗精神病薬や抗うつ薬の薬効評価に関する臨床研究を積極的に行っている．脳機能画像を用いた他の研究としてファンクショナルMRIを用いた研究では，統合失調症患者と健康人を対象に，聴覚・視覚刺激による情動反応の評価を行い，統合失調症患者における情動障害の神経基盤について検討し，SPECTによる脳機能画像を用いた研究では，疼痛性障害，うつ病と認知機能の関連が検討されている．また，救命救急や他診療科とのリエゾン精神医学に関する臨床研究では自殺者の問題とその予防の観点から研究をおこなっている，血管性うつ病に関する研究では脳卒中後のうつ病を含む血管性うつ病に対し拡散テンソル画像，治療など様々な検討を行った．思春期青年期精神医学および分子精神医学的研究，事象関連電位を用いた臨床生理学的研究をそれぞれ継続，発展させつつある．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Honma F, Kimura M, Endo S, Ohtsu M¹⁾, Okada T¹⁾, Satoh T¹⁾ (¹⁾ Clinical Center of Psychosomatic Dentistry, Nippon Dental University): Oral cenesthopathy examined by Rorschach test . Psychiatry Clin Neurosci 2006 ; 60 (2): 154-159 .
- 2) Tanaka Y¹⁾, Obata T²⁾, Sassa T³⁾, Yoshitome E²⁾, Asai Y³⁾, Ikehira H²⁾, Suhara T²⁾, Okubo Y, Nishikawa T¹⁾ (¹⁾ 東京医科歯科大学精神科, ²⁾ 放射線医学総合研究所, ³⁾ 浅井病院): Quantitative magnetic resonance spectroscopy of schizophrenia. Relationship between decreased N -acetylaspartate and frontal lobe dysfunction . Psychiatry Clin Neurosci 2006 ; 60 (3): 365-372 .
- 3) Koeda M, Takahashi H¹⁾, Yahata N²⁾, Asai K³⁾, Okubo Y, Tanaka H⁴⁾ (¹⁾ 放射線医学総合研究所, ²⁾ 日本医科大学薬理学, ³⁾ 浅井病院, ⁴⁾ 日本医科歯科大学難治疾患研究所): A functional MRI study : Cerebral laterality for Lexical-Semantic processing and human voice perception . Am J Neuroradiol 2006 ; 27 (7): 1472-1479 .
- 4) Takahashi H¹⁾, Matsuura M²⁾, Yahata N³⁾, Koeda M⁴⁾, Suhara T¹⁾, Okubo Y (¹⁾ 放射線医学総合研究所, ²⁾ 東京医科歯科大学保健衛生学科, ³⁾ 日本医科大学薬理学, ⁴⁾ 東京医科歯科大学生命情報学): Men and women show distinct brain activations during imagery of sexual and emotional infidelity . Neuroimage 2006 ; 32 (3): 1299-1307 .
- 5) Koeda M, Takahashi H¹⁾, Yahata N²⁾, Matusura M³⁾, Asai K⁴⁾, Okubo Y, Tanaka H⁵⁾ (¹⁾ 放射線医学総合研究所, ²⁾ 日本医科大学薬理学, ³⁾ 東京医科歯科大学保健衛生学科, ⁴⁾ 浅井病院, ⁵⁾ 東京医科歯科大学難治疾患研究所): Language processing and human voice perception in schizophrenia ; A functional magnetic resonance imaging study . Biol Psychiatry 2006 ; 59 (10): 948-957 .
- 6) Takano A¹⁾, Suhara T¹⁾, Yasuno F¹⁾, Suzuki K¹⁾, Takahashi H²⁾, Morimoto T¹⁾, Lee Young-J³⁾,

- Kusuhara H³⁾, Sugiyama Y³⁾, Okubo Y (¹⁾放射線医学総合研究所, ²⁾浅井病院, ³⁾東京大学大学院薬学系分子薬物動態学): The antipsychotic sultopride is overdosed - A PET study of drug-induced receptor occupancy in comparison with sulpiride. *Int J Neuropsychopharmacol* 2006 ; 9 (5): 539-545 .
- 7) Talvik M¹⁾, Nordstrom Anna-L¹⁾, Okubo Y, Olsson H¹⁾, Borg J¹⁾, Halldin C¹⁾, Farde L¹⁾(¹⁾Karolinska Institute, Department of Clinical Neuroscience): Dopamine D2 receptor binding in drug-naïve patients with schizophrenia examined with raclopride-C11 and positron emission tomography. *Psychiatry Res* 2006 ; 148 (2-3): 165-173 .
- 8) Koeda M, Takahashi H¹⁾, Yahata N²⁾, Matuura M³⁾, Asai K⁴⁾, Okubo Y, Tanaka H⁵⁾(¹⁾放射線医学総合研究所, ²⁾日本医科大学薬理学, ³⁾東京医科歯科大学保健衛生学科, ⁴⁾浅井病院, ⁵⁾東京医科歯科大学難治疾患研究所): Neural responses to human voice and hemisphere dominance for Lexical-semantic processing : An fMRI study. *Methods Inf Med* 2007 ; 46 (2): 247-250 .
- 9) Matsuda H¹⁾, Mizumura S²⁾, Nagao T³⁾, Ota T⁴⁾, Iizuka T⁵⁾, Nemoto K⁶⁾, Kimura M⁷⁾, Tateno A, Ishiwata A⁸⁾, Kuji I¹⁾, Arai H⁴⁾, Homma A⁹⁾(¹⁾埼玉医科大学核医学診療科, ²⁾日本医科大学放射線医学, ³⁾都立荏原病院神経内科, ⁴⁾順天堂大学精神科, ⁵⁾複十字臨床核医学科, ⁶⁾筑波大学精神神経科, ⁷⁾順天堂東京江東高齢者医療センターメンタルクリニック科, ⁸⁾日本医科大学内科学第2, ⁹⁾東京都老人総合研究所): An easy Z-score imaging system for discrimination between very early Alzheimer's disease and controls using brain perfusion SPECT in a multicentre study. *Nucl Med Commun* 2007 ; 28 (3): 199-205 .
- 10) 高島知子¹⁾, 志宮優子¹⁾, 村上順子¹⁾, 中村菜央, 横田雅実, 近喰ふじ子¹⁾, 下田健吾, 木村真人 (¹⁾東京家政大学大学院文学研究科): 中高年の男性うつ病患者における遊離テストステロン値の検討. *心療内科* 2006 ; 10 (3): 202-206 .
- 11) 中山菜央, 鈴木千賀子¹⁾, 江本直也¹⁾, 奥部愛子, 下田健吾, 橋口英俊²⁾, 木村真人 (¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾ルーテル学院大学大学院): 糖尿病患者に関する臨床心理学的研究: Stress Coping Inventory (SCI) を中心とする検討. *心療内科* 2006 ; 10 (3): 186-190 .
- 12) 坂本博子, 木村真人, 葉田道雄, 藤渡辰馬, 大久保善朗, 坂本篤裕¹⁾(¹⁾麻酔科学): 電気けいれん療法 (ECT) の治療経験-症例を中心に: 外来で継続・維持ECTを施行し有効であった難治性うつ病の2症例. *臨床精神医学* 2006 ; 35 (9): 1321-1328 .
- (2) 座談会:
- 1) 大久保善朗, 本橋伸高, 栗田主一, 奥川 学, 土井永史: 電気けいれん療法 (ECT) をめぐって. *臨床精神医学* 2006 ; 35 (9): 1163-1180 .
- (3) 綜説:
- 1) 下田健吾, 木村真人: 成人病・生活習慣病とうつ病: 誤診と見逃しを避けるために 慢性疲労症候群とうつ病. *成人病と生活習慣病* 2006 ; 36 (3): 284-288 .
- 2) 大久保善朗: パーシャルアゴニストの画像評価. *臨床精神医学* 2006 ; 35 (4): 389-394 .
- 3) 伊藤敬雄: 救急医療における自傷. *こころの科学* 2006 ; 127 : 24-29 .
- 4) 伊藤敬雄: 救急病棟での自殺未遂者への精神医療. *日本医事新報* 2006 ; 4277 : 89 .
- 5) 木村真人: 現代のうつ病: うつ病診療の患者世代別考察 高齢者のうつ病: 血管性うつ病に対する milnacipran の有効性. *臨床精神薬理* 2006 ; 9 (4): 796-804 .
- 6) 大久保善朗: オグメンテーション療法か, 多剤併用療法か-PET 研究の結果から. *精神医学* 2006 ; 48 (6): 629-634 .
- 7) 大久保善朗, 八幡憲明¹⁾(¹⁾薬理学): 神経症圏障害の今日的理解: 神経症圏障害の脳画像. *臨床精神医学* 2006 ; 35 (6): 657-663 .
- 8) 木村真人: 血管性うつ病 / 精神医学用語解説. *臨床精神医学* 2006 ; 35 (7): 1028-1029 .

- 9) 伊藤敬雄：自殺防止を目指した薬物療法；救急医療の立場からみた自殺企図の現状と課題．臨床精神薬理 2006；9(8)：1535-1544．
 - 10) 木村真人：気分障害の生物学：卒中後／血管性うつ病．脳と精神の医学 2006；17(3)：231-241．
 - 11) 端山央理，齊藤卓弥，大久保善朗：緊張病症状．臨床精神医学 2006；35：254-259．
 - 12) 木村真人：うつ病に罹患する患者に医師が通院を継続させ患者が自殺した事例：自殺危険のあるうつ病患者のケアには家族との意思疎通も重要．医療判例解説 2006；4：149-152．
- (4) 巻頭言：
- 1) 木村真人：血管障害とうつ病．精神医学 2007；49(2)：116-117．
- (5) 症例報告：
- 1) Ishiwata K¹⁾，Oda K²⁾，Sakata M³⁾，Kimura Y¹⁾，Tawamura K¹⁾，Oda K¹⁾，Sasaki T¹⁾，Naganawa M¹⁾，Chihara K³⁾，Okubo Y，Ishii K¹⁾(¹⁾ 東京都老人総合研究所，²⁾ 東京医科歯科大学，³⁾ 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科)：A feasibility study of [11C]SA4503-PET for evaluating sigma 1 receptor occupancy by neuroleptics. The binding of haloperidol to sigma1 and dopamine D2-like receptors．Ann Nucl Med 2006；20(8)：569-573．
 - 2) 鈴木博子，坂本篤裕¹⁾，木村真人，葉田道雄，藤渡辰馬，大久保善朗(¹⁾ 麻酔科学)：外来で継続・維持ECTを施行し有効であった難治性うつ病の2症例．臨床精神医学 2006；35(9)：1321-1328．
 - 3) 端山央理，齊藤卓弥，館野 周，大久保善朗：修正型電気けいれん療法およびベンゾジアゼピンの併用が有効であった悪性緊張病の1症例．臨床精神医学 2006；35(9)：1215-1222．
 - 4) 肥田道彦，齊藤卓弥，大久保善朗：摂食障害を伴ったFahr病の1例について．日医大医学会誌 2006；2(4)：202-205．
- (6) 翻訳：
- 1) 大久保善朗：薬剤開発におけるPET・神経伝達イメージングの役割．臨床精神医学 2006；35(10)：1489-1498．

著 書

- 1) 伊藤敬雄：〔分担〕腎機能障害・腎不全．これから始める向精神薬療法スペシャル(保坂 隆)，2006；pp225-234，診断と治療社．
- 2) 伊藤敬雄：〔分担〕腎透析科．これから始める向精神薬療法スペシャルテクニック(保坂 隆)，2006；pp235-242，診断と治療社．

学会発表

- (1) 特別講演：
- 1) 大久保善朗：PETによる抗うつ薬の薬効評価．北総精神科医会，2006．7．
 - 2) 大久保善朗：脳画像を用いた抗うつ薬の評価．東京都精神科診療所協会第三回例会，2006．10．
 - 3) 大久保善朗：PETによる新規抗精神病薬の薬効プロファイルの検討．第16回日本臨床精神薬理学会，2006．10．
 - 4) 大久保善朗：脳画像による抗精神病薬の薬効評価．第52回岡山統合失調症研究会，2006．11．
 - 5) 大久保善朗：PETによる抗精神病薬の薬効評価．石狩学術講演会，2006．11．
- (2) 招待講演：
- 1) 大久保善朗：統合失調症の新たな薬物療法-分子イメージングからみた抗精神病薬．第1回札幌DPA研究会，2006．4．
 - 2) 大久保善朗：精神疾患の脳画像研究．玉川大学COEセミナー，2006．7．

(3) シンポジウム :

- 1) 鈴木博子, 伊藤敬雄, 大久保善朗: 自殺未遂者の長期フォローアップ. 第19回日本総合病院精神医学会総会, 2006. 12.

(4) ランチョンセミナー :

- 1) 木村真人: 脳血管障害とうつ病. 第47回日本神経病理学会総会, 2006. 5.
- 2) 木村真人: 脳血管障害とうつ病 卒中後/血管性うつ病の臨床. 第34回日本精神科病院協会精神医学会, 2006. 11.

(5) 一般講演 :

- 1) Koeda M, Takahashi H¹⁾, Yahata N²⁾, Matsuura M³⁾, Asai K⁴⁾, Okubo Y, Tanaka H⁵⁾(¹⁾放射線医学総合研究所, ²⁾日本医科大学薬理学, ³⁾東京医科歯科大学保健衛生学科, ⁴⁾浅井病院, ⁵⁾東京医科歯科大学難治疾患研究所): Cerebral laterality for Lexical-Semantic processing in non-right-handed subjects; An fMRI study. The 12th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Florence), 2006. 6.
- 2) Tateno A, Mizumura S¹⁾, Okubo Y (¹⁾付属病院放射線科): Regional cerebral blood flow in depressed patients with cognitive impairment. International College of Geriatric Psychoneuropharmacology 6th Annual Scientific Meeting (Hiroshima), 2006. 10.
- 3) Ito T, Tateno AM, Okubo Y: Sleep disturbance in suicide attempters in Japan. Academy of Psychosomatic Medicine 53rd Annual Meeting (Tucson), 2006. 11.
- 4) Tateno A, Ito T, Okubo Y: Awareness and management of depression and delirium among non-psychiatrist physician in Japan. 53rd Academy of Psychosomatic Medicine Annual Meeting (Tucson), 2006. 11.
- 5) Koeda M, Takahashi H¹⁾, Yahata N²⁾, Matsuura M³⁾, Okubo Y, Tanaka H⁴⁾(¹⁾放射線医学総合研究所, ²⁾日本医科大学薬理学, ³⁾東京医科歯科大学保健衛生学科, ⁴⁾同難治疾患研究所): Cerebral response to recognition of the inflexion in human voice: An fMRI study. British Neuropsychiatry Association, 2007 Annual Meeting (London), 2007. 2.
- 6) 丸山裕子¹⁾, 大塚理恵子¹⁾, 富崎加奈子, 中山菜央, 横田雅実, 益田律子²⁾, 木村真人 (¹⁾東京成徳大学大学院, ²⁾日本医科大学千葉北総病院麻酔科): 疼痛性障害患者に対する心理学的検討. 第109回日本心身医学会関東地方会, 2007. 3.
- 7) 富崎加奈子, 中山菜央, 横田雅実, 馬場俊吉¹⁾, 下田健吾, 木村真人 (¹⁾千葉北総病院耳鼻咽喉科): 突発性難聴患者の心理学的特性 (第2報). 第11回千葉総合病院精神科研究会, 2006. 4.
- 8) 中山菜央, 古山めぐみ¹⁾, 藤岡久恵¹⁾, 三浦剛史²⁾, 山田岳史³⁾, 益田律子⁴⁾, 吉澤一巳⁵⁾, 木本陶子⁵⁾, 橋口英俊⁶⁾, 木村真人 (¹⁾日本医科大学千葉北総病院看護部, ²⁾同泌尿器科, ³⁾同外科, ⁴⁾同麻酔科, ⁵⁾同薬剤科, ⁶⁾ルーテル学院大学大学院): 当院における疼痛緩和チームの活動状況と心理士の役割. 第11回千葉総合病院精神科研究会, 2006. 4.
- 9) 一宮哲哉, 荒川亮介, 奥村正紀, 館野 周, 伊藤敬雄, 齊藤卓弥, 高野晶寛¹⁾, 伊藤 浩¹⁾, 須原哲也¹⁾, 大久保善朗 (¹⁾放射線医学総合研究所): PETを用いたSNRI・milnacipranのセロトニントランスポーター占有率の測定. 第3回うつ病学会, 2006. 7.
- 10) 荒川亮介, 伊藤 浩¹⁾, 奥村正紀, 大久保善朗, 須原哲也¹⁾(¹⁾放射線医学総合研究所): ペロスピロンによるドーパミンD2受容体占有率の経時変化. 第28回日本生物学的精神医学会, 2006. 9.
- 11) 吉村梢恵¹⁾, 油木絵理²⁾, 横田雅実, 近喰ふじ子¹⁾, 山田恵美子³⁾, 木村真人 (¹⁾東京家政大学大学院, ²⁾埼玉医科大学かわごえクリニック, ³⁾金地病院): 甲状腺機能障害に対する心理学的検討 (第2報): 甲状腺機能障害患者の抑うつ傾向について. 第107回日本心身医学会関東地方会, 2006. 9.
- 12) 石塚利恵¹⁾, 佐久間香子¹⁾, 高林夏樹¹⁾, 宇津木孝正¹⁾, 伊藤 幸, 横田雅実, 近喰ふじ子¹⁾, 木村真人 (¹⁾東京家政大学大学院): パニック障害患者の心理学的特性 (第2報): 認知的評価尺度を用いた心理学的検討. 第107回日本心身医学会関東地方会, 2006. 9.

- 13) 吉村梢恵¹⁾, 油木絵理²⁾, 横田雅実, 近喰ふじ子¹⁾, 山田恵美子³⁾, 木村真人 (¹⁾東京家政大学大学院, ²⁾埼玉医科大学かわごえクリニック, ³⁾金地病院): 甲状腺機能障害の治療中に認められる精神症状の心理学的検討. 第15回北総精神科医会, 2006. 9.
- 14) 石塚利恵¹⁾, 佐久間香子¹⁾, 高林夏樹¹⁾, 宇津木孝正¹⁾, 伊藤 幸, 横田雅実, 近喰ふじ子¹⁾, 木村真人 (¹⁾東京家政大学大学院): パニック障害に対する認知的評価の試み. 第15回北総精神科医会, 2006. 9.
- 15) 河野美貴子, 岩本美樹, 石井民子, 宮崎文兵, 田村良敦, 小林 岐, 池森紀夫, 小西俊一, 下田健吾, 木村真人: 頭部異常感覚を示したセネストパチーにミルナシプランが奏効した1例. 第15回北総精神科医会, 2006. 9.
- 16) 館野 周, 小林 岐, 伊藤滋朗¹⁾, 中村佳子²⁾, 小峯由貴子²⁾, 清田英樹³⁾, 岩口 翔³⁾, 大久保善朗 (¹⁾浅井病院, ²⁾三宅島中央診療所, ³⁾NTTレゾナントコミュニケーション事業本部): 精神科遠隔診療の可能性. 第26回日本精神科診断学会, 2006. 10.
- 17) 関根瑞保, 福田 一, 奥村正紀, 川島義高, 館野 周, 齊藤卓弥, 松島英介¹⁾, 小島卓也²⁾, 大久保善朗 (¹⁾東京医科歯科大学心療緩和医療学分野, ²⁾大宮厚生病院): 探索眼球運動と精神科診断; 気分障害圏における誤判別例の検討. 第26回精神科診断学会, 2006. 10.
- 18) 福田 一, 鈴木正泰¹⁾, 伊藤逸生²⁾, 八幡憲明³⁾, 館野 周, 荒川亮介, 奥村正紀, 鈴木秀典³⁾, 松島英介⁴⁾, 小島卓也⁵⁾, 大久保善朗 (¹⁾日本大学精神神経学, ²⁾浅井病院, ³⁾日本医科大学薬理学, ⁴⁾東京医科歯科大学心療緩和医療分野, ⁵⁾大宮厚生病院): 統合失調症における探索眼球運動と脳体積の関連. 第26回日本精神科診断学会, 2006. 10.
- 19) 澤谷 篤, 川島義高, 端山央理, 小川耕平, 館野 周, 伊藤敬雄, 山本正浩, 西川律子, 大久保善朗: コンサルテーション・リエゾンサービスによるせん妄症例の対応; 日本医科大学付属病院での取組. 第19回日本総合病院精神医学会, 2006. 12.
- 20) 野上 毅, 館野 周, 藤渡辰馬, 川島義高, 伊藤敬雄, 大久保善朗: 大学病院における精神科救急外来の現状と問題点. 第19回日本総合病院精神医学会, 2006. 12.
- 21) 廣橋 愛¹⁾, 江口佐和子¹⁾, 中山菜央, 横田雅実, 宍倉洋美²⁾, 野口 素²⁾, 木村真人 (¹⁾聖心女子大学大学院文学研究科, ²⁾日本医科大学千葉北総病院看護部): 月経前症候群と月経前不快症候群に関する心理学的検討: 第1報. 第109回日本心身医学会関東地方会, 2007. 3.
- 22) 中山ひとみ¹⁾, 赤松蓉子¹⁾, 小松智賀¹⁾, 松本麻里¹⁾, 吉村梢恵¹⁾, 富崎加奈子, 伊藤 幸, 横田雅実, 近喰ふじ子¹⁾, 水成隆之²⁾, 木村真人 (¹⁾東京家政大学大学院文学研究科, ²⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経外科): 当院の脳卒中センターに入院した患者の抑うつ傾向について. 第109回日本心身医学会関東地方会, 2007. 3.

[付属病院東洋医学科]

研究概要

生薬が作用する部位は粘膜, 特に小腸の粘膜組織であろうとのこれまでの仮説に基づき, さらに研究を展開している. こうした小腸の粘膜部位には従来末梢血中に認められた異物に対する記憶形成能を有する獲得免疫系を構築する細胞群のみならず, 自然抗体を産生するB-1細胞やNKT細胞, そしてランゲルハンス細胞に代表される樹状細胞群などが局在する. こうした粘膜局在型細胞群が細菌群由来の物質によって活性化するか否かを確認する目的で検討を重ねた結果, 胃粘膜などの粘膜組織に局在する自己免疫との関連が指摘されているB-1細胞が, ピロリ菌のウレアーゼという酵素によって活性化しリウマチ因子を産生することを見いだした (Infect. Immun., 74 : 248-256, 2006). また, 経口投与された抗原の一部が分解されずに粘膜から吸収され門脈中に散見されること, そして, こうした粘膜吸収抗原が免疫寛容状態を誘導するために食事などを通じて体内に取り込まれた様々な抗原に対して過剰な応答が起こりにくくなっていることを発見した (Immunology, 119 : 167-177, 2006). ところが, こうした抗原がコレラ毒素などととも経口的に取り込まれた場合には, 粘膜局所を中心に強い免疫応答が誘発され, その免疫力によって粘膜が

ら発生した腫瘍の成長が抑制されることを明らかにした (J. Immunol., submitting, 2006). こうした事実は, 粘膜投与型の生薬群がある時には体内免疫応答を抑制し, また逆に亢進させる可能性があることを示唆している. もし多くの症状が生体の応答性に起因するならば, 様々な生薬群を組み合わせ経口投与することによって, 小腸に局在する粘膜免疫システムが調節され, その結果体内の応答性を正常化する医学の必要性は大であり, 生薬を用いた漢方治療はこのようなタイプの物ではないかと考え今後さらに研究を進めていく予定である.

研究業績

論文

[2005 年度追加分]

綜説:

- 1) 高橋秀実: 癌の免疫療法: 丸山ワクチンの作用機序に関する一考察. 日医大医学会誌 2006 ; 2 (1): 65-66 .
- 2) 三浦於菟: 中国医学. 季刊民族学 2006 ; 30 (1): 54-54 .

(1) 原著:

- 1) Yamanishi S¹⁾, Iizumi T¹⁾, Watanabe E¹⁾, Shimizu M¹⁾, Kamiya S²⁾, Nagata K³⁾, Kumagai Y¹⁾, Fukunaga Y⁴⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology , ²⁾ Department of Infectious Disease, Division of Medical Microbiology, Kyorin University School of Medicine , ³⁾ Department of Bacteriology, Hyogo College of Medicine , ⁴⁾ Department of Pediatrics): Implications for induction of autoimmunity via activation of B-1 cells by Helicobacter pylori urease . Infect Immun 2006 ; 74 (1): 248-256 .
- 2) Wakabayashi A¹⁾, Utsuyama M²⁾, Hosoda T²⁾, Sato K²⁾, Takahashi H , Hirokawa K²⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology , ²⁾ Department of Pathology and Immunology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University): Induction of immunological tolerance by oral, but not intravenous and intraperitoneal, administration of ovalbumin and the difference between young and old mice . J Nutr Health Aging 2006 ; 10 (3): 183-191 .
- 3) Watanabe Y¹⁾, Watari E¹⁾, Matsunaga I²⁾, Hiromatsu K³⁾, Christopher CD⁴⁾, Kawashima T⁵⁾, Norose Y¹⁾, Shimizu K⁵⁾, Takahashi H , Yano I⁶⁾, Sugita M²⁾ (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology , ²⁾ Laboratory of Cell Regulation, Institute for Virus Research, Kyoto University , ³⁾ Department of Infectious Diseases, Miyazaki Medical College , ⁴⁾ Department of Rheumatology, Immunology and Allergy, Brigham and Women's Hospital and Harvard Medical School , ⁵⁾ Department of Surgery , ⁶⁾ BCG Laboratory): BCG vaccine elicits both T-cell mediated and humoral immune responses directed against mycobacterial lipid components . Vaccine 2006 ; 24 (29-30): 5700-5707 .
- 4) Wakabayashi A¹⁾, Kumagai Y¹⁾, Watari E¹⁾, Shimizu M¹⁾, Utsuyama M²⁾, Hirokawa K²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology , ²⁾ Department of Pathology and Immunology, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University): Importance of gastrointestinal ingestion and macromolecular antigens in the vein for oral tolerance induction . Immunology 2006 ; 119 (2): 167-177 .
- 5) Nakagawa Y¹⁾, Kikuchi H²⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology , ²⁾ Department of Physics): Molecular analysis of TCR and peptide/MHC interaction using P18-110-derived peptides with a single D-amino acid substitution . Biophysical J 2007 ; 92 (7): 2570-2582 .
- 6) Takahashi M¹⁾, Watari E¹⁾, Shinya E¹⁾, Shimizu T¹⁾, Takahashi H (¹⁾ Department of Microbiology and Immunology): Suppression of virus replication via down-modulation of mitochondrial short chain enoyl-CoA hydratase in human glioblastoma cells . Antiviral Res 2007 .
- 7) 三浦於菟, 高岡直子¹⁾ (¹⁾ 東邦大学医療センター大森病院東洋医学科): 有効判定に ARD (自動反射診断装置)

が有用であった五積散の1例．東方医学 2006；21（4）：17-21．

8) 三浦於菟：疼痛の東洋医学的病態論．漢方の臨床 2006；53（4）：608-614．

9) 新谷英滋¹⁾，大脇敦子¹⁾，高橋秀実（¹⁾微生物学・免疫学）：DsRed2を用いたエイズウイルス nef 遺伝子産物と脂質抗原提示分子CD1a相互作用の解析．日医大医学会誌 2006；2（3）：134-135．

(2) 綜説：

1) 沼田健裕¹⁾，三浦於菟（¹⁾日本医科大学医学部）：漢薬記憶法（4）．漢方研究 2006；2：50-51．

2) 三浦於菟：高齢者疼痛疾患の漢方治療．Pain Clinic 2006；27（4）：446-454．

3) 沼田健裕¹⁾，三浦於菟（¹⁾日本医科大学医学部）：漢薬記憶法（5）．漢方研究 2006；4：143-145．

4) 平馬直樹：中医学で難治性疾患に挑む「乾癬」．中医臨床 2006；127（2）．

5) 高橋秀実：体表面に配置された自然免疫システムと体内を循環する獲得免疫システム．炎症と免疫 2006；14（4）：449-450．

6) 高橋秀実：粘膜組織における HIV の拡散と制御．炎症と免疫 2006；14（4）：479-485．

7) 三浦於菟：当帰六黄湯加減が有効であった盗汗症例．漢方の臨床 2006；53（7）：143-145．

8) 飯泉 匡¹⁾，熊谷善博¹⁾，高橋秀実（¹⁾微生物学・免疫学）：*Helicobacter pylori*由来 urease の酵素活性を増強させる特異的抗体．臨床免疫・アレルギー科 2006；46（2）：205-207．

9) 新谷英滋¹⁾，高橋秀実（¹⁾微生物学・免疫学）：ヒト免疫不全ウイルス Nef による免疫制御の機序．臨床免疫・アレルギー科 2006；46：222-225．

10) 高橋秀実：免疫システムの新たな実態：基本免疫と獲得免疫．日本感染症学会雑誌 2006；80（5）：463-468．

11) 福島 厚¹⁾，三浦於菟（¹⁾東邦大学医療センター大森病院東洋医学科）：ヘルペス性口内炎の治験：黄耆の再発予防効果について．漢方と最新治療 2006；15（4）：279-284．

12) 山西慎吾¹⁾，神谷 茂²⁾，高橋秀実（¹⁾日本医科大学微生物学・免疫学，²⁾杏林大学感染症学）：ピロリ菌ウレアーゼによる B-1 細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性．日本ヘリコバクター学会誌 2007；2（8）：22-26．

13) 高橋秀実：母乳を介しての HIV 感染．日本エイズ学会誌 2007；9（1）：11-16．

著 書

1) 高橋秀実：〔分担〕持続感染症としての未病．未病医学入門，2006；pp108-112，金芳堂．

2) 廣田 薫，大橋和史，湯地和歌子，湯地晃一郎：〔共著〕服薬指導に役立つ治療薬ガイド．ナース専科 BOOKS（大橋和史），2006；pp1-215，アンファミエ．

3) 古賀実芳：〔分担〕2. 女性の全般的診療に役立つ漢方臨床 7. 身体痛の漢方治療．産婦人科治療 第92巻増刊（2006増刊）「女性医療と漢方医療」，2006；pp116（580）-119（583），永井書店．

4) 高橋秀実：〔分担〕特異免疫およびその賦活法に関する基本原理．ブラック微生物学（林 英生・岩本愛吉・神谷 茂・高橋秀実），2007；pp495-533，丸善出版．

学会発表

〔2006 年度追加分〕

特別講演：

1) 高橋秀実：漢方と免疫．第7回東京大学実践漢方セミナー，2007．2．

教育講演：

1) 菅沼 栄：瀉下剤．東京中医学研究会，2006．1．

2) 日高千鶴乃：鳥インフルエンザについて．温知会，2006．1．

3) 平馬直樹：弁証論治の進め方．日本東洋医学会中四国分科会，2006．2．

- 4) 菅沼 栄：和解剤．東京中医学研究会，2006．2．
- 5) 日高千鶴乃：鳥インフルエンザについて．伊豆漢方研究会，2006．2．
- 6) 平馬直樹：痰飲の病証と治療．神奈川実践漢方勉強会，2006．3．
- 7) 古賀実芳：病人を診る漢方 大学漢方外来診療室から．大学勤務医のための漢方医学セミナー，2006．3．
- 8) 菅沼 栄：和解剤．東京中医学研究会，2006．3．

一般講演：

- 1) 平馬直樹：東洋医学から見たアンチエイジング．阿蘇漢方シンポジウム，2006．3．

(1) 特別講演：

- 1) Takahashi H：CD1d-NKT system and HIV. Japan-US Cooperative Medical Science Program．The 19th Joint Scientific Meeting of AIDS. (Kagoshima)，2006．12．
- 2) 古賀美芳：市民講座「漢方でいきいき美しく」つらい痛みを漢方を！肩こりや腰痛を我慢していませんか？．第57回日本東洋医学会学術総会，2006．6．
- 3) 高橋秀実：HIV感染細胞の制御をめざしたワクチンの開発．第10回日本ワクチン学会学術集会，2006．10．
- 4) 高橋秀実：脂質と粘膜免疫．第12回癒しの療法研究会，2006．12．

(2) 教育講演：

- 1) 菅沼 栄：和解剤．東京中医学研究会，2006．4．
- 2) 菅沼 栄：和解剤．東京中医学研究会，2006．5．
- 3) 平馬直樹：弁証論治の実際．神奈川実践漢方勉強会，2006．6．
- 4) 菅沼 栄：理血剤．東京中医学研究会，2006．6．
- 5) 古賀実芳：女性診療における漢方薬の役割．2006東京都女性薬剤師会・夏季研修会漢方講座，2006．7．
- 6) 古賀実芳：女性診療における漢方薬の役割 痛み治療を中心に．第103回県北漢方医学研究会，2006．7．
- 7) 菅沼 栄：理血剤．東京中医学研究会，2006．7．
- 8) 菅沼 栄：理血剤．東京中医学研究会，2006．9．
- 9) 古賀実芳：女性と漢方．平成18年度日本東洋医学会関東甲信越支部第1回東京都部会，2006．10．
- 10) 平馬直樹：弁証論治の実際．神奈川実践漢方勉強会，2006．10．
- 11) 平馬直樹：弁証論治，消化器疾患．福岡医師漢方勉強会，2006．10．
- 12) 菅沼 栄：温裏剤．東京中医学研究会，2006．10．
- 13) 平馬直樹：弁証論治，呼吸器疾患．福岡医師漢方勉強会，2006．11．
- 14) 菅沼 栄：温裏剤．東京中医学研究会，2006．11．
- 15) 平馬直樹：弁証論治，生活習慣病．福岡医師漢方勉強会，2006．12．

(3) 一般講演：

- 1) 古賀実芳，日高千鶴乃，廣田 薫，平馬直樹，高橋秀実：玉屏風散の合方が奏功した3例．第57回日本東洋医学会学術総会，2006．6．
- 2) 高橋秀実，日高千鶴乃，廣田 薫，古賀実芳，平馬直樹：ウイルス感染症における解表作用の意義に対する一考察．第57回日本東洋医学会学術総会，2006．6．
- 3) 日高千鶴乃，古賀実芳，廣田 薫，平馬直樹，高橋秀実：腸管パーチエット病に対する発熱，下血に対し生薬治療を試みた1例．第57回日本東洋医学会学術総会，2006．6．
- 4) 日高千鶴乃，平馬直樹，高橋秀実：未治療の多発性硬化症に対する東洋医学的治療の検討．日中伝統医学学術交流会，2006．10．

6. 小児科学講座

[付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

研究概要

小児科学教室は、付属4病院小児科の連携のもとに、臨床研究そして基礎的研究を行っており、研究業績は一括して報告する。

主な研究内容は、1) 造血幹細胞の研究、2) 白血病治療後患児(者)の晩期障害の検討、3) 抗癌剤耐性の機序の解明、4) 川崎病の病態と血管炎リモデリング機序の解明、5) 肺音スペクトル解析、6) 動物モデルを用いた痙攣の病態解析などである。

研究業績

論文

[2005 年度追加分]

(1) 原著：

- 1) Hamada H, Ohkubo T, Maeda M, Ogawa S : Evaluation of cardiac reserved function by high-dose dobutamine-stress echocardiography in asymptomatic anthracycline-treated survivors of childhood cancer . *Pediatr Int.* 2006 ; 48 (3) : 313-320 .
- 2) 深澤隆治¹⁾, 渡辺美紀¹⁾, 池上 英¹⁾, 内木場庸子¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 小川俊一¹⁾, 山内仁紫²⁾, 落 雅美²⁾(¹⁾ 付属病院小児科, ²⁾ 同外科学第2) : 川崎病既往児の冠動脈瘤における早期動脈硬化・血管老化所見の検討 . *日本小児循環器学会雑誌* 2005 ; 21 (5) : 553-558 .
- 3) 高瀬真人¹⁾, 今井丈英¹⁾, 白井潤二¹⁾(¹⁾ 多摩永山病院小児科) : 喘息児の肺胞音スペクトル解析における背景雑音処理に関する検討 . *薬理と臨床* 2005 ; 15 (5) : 543-550 .

(2) 綜説：

- 1) 高瀬真人 : 知っておきたい診療上の留意点 : なぜそうするのか, そうしてはいけないのか : I 身体所見 総論 呼吸音の聴き方 . *小児科* 2005 ; 46 (5) : 643-647 .
- 2) 高瀬真人 : 知っておきたい診療上の留意点 : なぜそうするのか, そうしてはいけないのか : I 身体所見 各論 呼吸器疾患 . *小児科* 2005 ; 46 (5) : 666-670 .
- 3) 高瀬真人 : 呼吸機能検査 小児の呼吸機能検査法 . *呼吸* 2005 ; 24 (7) : 591-596 .
- 4) 高瀬真人 : 呼吸機能 (スパイログラム, ピークフロー) . *小児科* 2005 ; 46 (別冊) : 61-63 .
- 5) 高瀬真人 : 呼吸数 . *小児科* 2005 ; 46 (別冊) : 59-60 .
- 6) 今井丈英¹⁾, 高瀬真人¹⁾(¹⁾ 多摩永山病院小児科) : そこが知りたい 小児臨床検査のポイント VIII. 血液生化学検査 2. 蛋白, 膠原反応および関連物質 KL-6 および肺サーファクタント蛋白質 (SP-A, SP-D) . *小児内科* 2005 ; 37 (増刊) : 207-210 .
- 7) 島 義雄 : 難産から生まれた新生児のケア . *周産期医学* 2006 ; 36 (1) : 115-119 .
- 8) 伊藤保彦 : NSAIDs : 小児リウマチ医の立場から . *日本小児臨床薬理学会雑誌* 2006 ; 19 (1) : 72-76 .
- 9) 川上康彦¹⁾, 羽鳥誉之²⁾, 藤野 修²⁾(¹⁾ 多摩永山病院小児科, ²⁾ 千葉北総病院小児科) : 意識障害の治療と管理 : 意識障害に関する知識 : 長期に持続する意識障害の治療・管理 . *小児内科* 2006 ; 38 (2) : 338-341 .
- 10) 西巻 滋, 中島瑞恵, 新藤史子 : Fetal inflammatory response syndrome (FIRS) と標的臓器 . *日本周産期・新生児医学会雑誌* 2006 ; 42 (3) : 577-581 .

11) 福永慶隆：小児耳鼻咽喉科の将来展望：小児科医の立場から．小児耳鼻咽喉科 2006；27(3)：230-232．

(3) 症例報告：

1) Fujimura J, Shima Y, Arai H, Ogawa R, Fukunaga Y：Management of a suprasellar arachnoid cyst identified using prenatal sonography．J Clin Ultrasound 2006；34(2)：92-94．

2) 中島瑞恵，島 義雄，新藤史子，布山裕一：超低出生体重児の羊膜破裂シークエンスの1例．日本周産期・新生児医学会雑誌 2006；42(1)：92-95．

(4) 研究報告書：

1) 大木由加志，岸 恵，折茂裕美：当科における小児・思春期2型糖尿病児に対するメトフォルミンの有効性と安全性の検討，平成17年度厚生科学研究・効果的医療技術の確立推進臨床研究事業「小児2型に関する経口血糖降下薬のエビデンスの確立：特にメトフォルミンの至適投与量，有効性と安全性の研究」．平成17年度厚生科学研究報告書 2006；(3)：pp27-30．

(1) 原著：

1) Kawakami Y^{1,2)}，Monobe M³⁾，Kuwabara K²⁾，Fujita T²⁾，Maeda M²⁾，Fujino O²⁾，Kojima S³⁾，Fukunaga Y²⁾(¹⁾Department of Pediatrics, Ageo Central General Hospital, ²⁾Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ³⁾Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokyo University of Science)：A comparative study of nitric oxide, glutathione, and glutathione peroxidase activities in cerebrospinal fluid from children with convulsive diseases/children with aseptic meningitis．Brain&Development 2006；28(4)：243-246．

2) Kuramochi Y：Rapid electrical stimulation induces early activation of kinase signal transduction pathways and apoptosis in adult rat ventricular myocytes．Exp Physiol 2006；91(4)：773-780．

3) Kuramochi Y：Neuregulin activates erbB2-dependent src/FAK signaling and cytoskeletal remodeling in isolated adult rat cardiac myocytes．J Mol Cell Cardiol 2006；41(2)：228-235．

4) Saito K¹⁾，Suzuki H²⁾，Kawakami Y³⁾(¹⁾Faculty of Applied Life Science, Nippon Veterinary and Life Science University, ²⁾Department of Veterinary Physiology, Nippon Veterinary and Life Science University, ³⁾Department of Pediatrics, Tama Nagayama Hospital)：Power Spectrum Density of EEGs of Sleeping Epilepsy-Prone EI Mice and Their Non-epileptic Mother Strain．The Journal of Physiological Sciences 2006；56(4)：313-316．

5) Matsunaga S, Asano T, Tsutsuda A, Fukunaga Y：Indomethacin overcomes doxorubicin resistance by inhibiting Multi-drug resistance protein 1 (MRP1)．Cancer Chemother Pharmacol 2006；58(3)：348-353．

6) Matsumoto T, Watanabe A¹⁾，Migita M, Gocho Y, Hayakawa J, Ogawa S, Shimada T²⁾，Fukunaga Y¹⁾(¹⁾Division of Clinical Genetics)：Transient Cardiomyopathy in a Patient with Congenital Contractural Arachnodactyly (Beals Syndrome)．J Nippon Med Sch 2006；73(5)：285-288．

7) Nishizawa Y, Fujita T, Matsuoka K, Nakagawa H：Contact pressure distribution features in Down Syndrome analyzed by photoelastic Methods．Pediatrics International 2006；48(5)：484-488．

8) Hisamitsu H, Ohkubo T, Maeda M, Ogawa S：Evaluation of cardiac reserved function by high-dose dobutamine-stress echocardiography in asymptomatic anthracycline-treated survivors of childhood cancer．Pediatrics International 2006；48(3)：313-320．

9) Ohkubo T, Fukazawa R, Ikegami E, Ogawa S：Reduced shear stress and disturbed flow may lead to coronary aneurysm and thrombus formations．Pediatrics International 2007；49(1)：1-7．

10) Kikuchi A, Maeda M, Hanada R, Okimoto Y, Ishimoto K, Kaneko T, Ikuta K, Tsuchida M(¹⁾Saitama Children's Medical Center, ³⁾Saitama Children's Medical Center, ⁴⁾Chiba Children's Hospital, ⁵⁾Junten-do University, ⁶⁾Kiyose Children's Hospital, ⁷⁾Yokohama Medical University, ⁸⁾Ibaragi Children's Hos-

pital): Moyamoya syndrome following childhood acute lymphoblastic leukemia. *Pediatric Blood and Cancer* 2007; 48 (3): 268-272.

- 11) 西巻 滋, 中島瑞恵, 新藤史子, 布山裕一: 早産児の疾患における胎内での侵襲応答と有核赤血球数動態. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 2006; 42 (1): 12-16.
- 12) 浅野 健, 高木篤史, 羽鳥誉之, 濱田久光, 今井大洋, 藤野 修: 日本医科大学千葉北総病院における小児のペニシリン耐性肺炎球菌の検出状況と薬剤感受性の最近4年間の検討. *日本小児耳鼻咽喉科研究会誌* 2006; 27 (1): 37-40.
- 13) 白井潤二, 高瀬真人, 今井丈英, 飛田正俊: 小児気管支喘息における肺炎マイコプラズマ特異IgM抗体陽性率. *日本小児呼吸器疾患学会雑誌* 2006; 17 (1): 11-17.
- 14) 新藤史子¹⁾, 豊島勝昭²⁾, 猪谷泰史²⁾, 安達昌功³⁾(¹⁾日本医科大学多摩永山病院小児科, ²⁾神奈川県立こども医療センター新生児未熟児科, ³⁾同内分泌代謝科): 新生児遷延性肺高血圧症を合併した新生児Graves病の1例. *こども医療センター医学誌* 2006; 35 (3): 111-115.
- 15) 浅野由美, 前田美穂: 再生不良性貧血長期生存例のQOLについて. *日本小児血液学会雑誌* 2006; 20 (4): 240-242.
- 16) 中島瑞恵: 胎便吸引症候群. *小児科* 2006; 47 (11): 1725-1730.
- 17) 深澤隆治¹⁾, 菌部友良²⁾, 濱本邦洋³⁾, 濱岡建城⁴⁾, 渡邊美紀¹⁾, 池上 英¹⁾, 初鹿野美春¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 小川俊一¹⁾(¹⁾日本医科大学小児科学, ²⁾日本赤十字医療センター小児科, ³⁾福岡大学医学部小児科, ⁴⁾京都府立医科大学大学院医学研究科発達循環病態学): MCP-1, CCR2遺伝子多型が川崎病の各病態に及ぼす影響. *日本循環器学会雑誌* 2007; 23 (2): 120-125.

(2) 綜説:

- 1) 小川俊一: 小児の治療指針「川崎病の心血管合併症」. *小児科診療* 2006; 69 (増刊号): 396-398.
- 2) 高瀬真人: 小児の肺音・呼吸音. *小児耳鼻咽喉科* 2006; 27 (1): 64-70.
- 3) 前田美穂: 貧血検診. *小児科臨床* 2006; 59 (4): 851-856.
- 4) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 若年性特発性関節炎におけるメトトレキサートの使い方と問題点. *小児科* 2006; 47 (4): 511-516.
- 5) 浅野 健: 鎮痛薬・解熱薬・各論 薬効および副作用とその対策6. *小児科* 2006; 47 (5): 760-767.
- 6) 小川俊一: 特集: 学校定期健康診断で見つかった異常への対応: 専門医からのアドバイス: 「不整脈」. *小児科* 2006; 47 (6): 897-910.
- 7) 伊藤保彦: 血管炎症候群. *小児科診療* 2006; 69 (増刊): 327-330.
- 8) 小川俊一: 特集: 川崎病を総合的に科学する: V. 心血管後遺症の治療「巨大冠動脈瘤の治療・管理」. *小児科診療* 2006; 69 (7): 1033-1038.
- 9) 大木由加志, 折茂裕美: インスリン抵抗性試験(負荷試験の実際 2006年版). *小児内科* 2006; 38 (8): 1312-1314.
- 10) 大木由加志, 折茂裕美: ブドウ糖負荷試験(負荷試験の実際 2006年版). *小児内科* 2006; 38 (8): 1309-1311.
- 11) 前田美穂: 鉄欠乏性貧血. *小児科臨床* 2006; 59 (8): 1715-1722.
- 12) 大木由加志, 折茂裕美: 小児肥満検診の意義(小児肥満とメタボリックシンドローム). *小児内科* 2006; 38 (9): 1558-1561.
- 13) 浅野 健: SAPHO症候群の病因・病態. 感染・炎症・免疫 2006; 36 (3): 245-247.
- 14) 高瀬真人: 乳児の喘鳴, 小児の長引く咳 III. 小児の遷延性咳嗽 小児の遷延性咳嗽: 診断の進めかた. *小児科診療* 2006; 69 (10): 1473-1478.
- 15) 大木由加志, 折茂裕美: 思春期遅発症(小児疾患の診断治療基準(第3版)IV. 内分泌疾患. *小児内科* 2006;

38 (11): 200-201 .

- 16) 福永慶隆：小児における耳鼻咽喉科疾患への小児科と耳鼻咽喉科との連携．小児科臨床 2006 ; 59 (59): 2449-2450 .
- 17) 前田美穂：小児癌の晩期障害．メデイカル朝日 2006 ; 35 (12): 78-80 .
- 18) 島 義雄：正常新生児における検査の進め方，検査値の見方．ネオネイタルケア 2006 ; 19 (増刊): 8-11 .
- 19) 高瀬真人：小児の気道感染症：基礎と臨床 粘液線毛輸送系．小児内科 2007 ; 38 (1): 11-15 .

(3) 症例報告：

- 1) Asano T , Koizumi S , Okada T , Hatori T , Kuwabara K , Hamada H , Imai T , Fujino O : Transient thrombocytopenia after incompatible red blood transfusion in an infant girl with autoimmune hemolytic anemia . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (2): 93-96 .
- 2) Fukumi D , Ogawa S : Intrauterine Hemodynamics of Tricuspid Valve Dysplasia in a Growth-Restricted . Arch Gy and Ob 2006 ; 273 (6): 366-369 .
- 3) Asano T , Seya T , Tanaka N , Ooaki Y , Fujino O : A 13-year-old girl with a preoperatively diagnosed solid cystic tumor of the pancreas . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4): 231-234 .
- 4) Hajikano M^{1,2)} , Katsube Y^{1,2)} , Takita Y^{1,2)} , Okada T^{1,2)} , Asai M^{1,2)} , Fujimatsu M^{1,2)} , Nishizawa Y^{1,2)} , Kamisago M^{1,2)} , Fujita T^{1,2)} , Shioya T³⁾ , Tokunaga A³⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School Graduate School of Medicine , ²⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musasikosugi Hospital , ³⁾ Institute of Gastroenterology, Nippon Medical School Musasikosugi Hospital): *Helicobacter Pylori* Infection with a Duodenal Ulcer in a 6-year-old Boy . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (5): 292-296 .
- 5) Asano T , Abe M , Asai M , Imai T , Kamisago M , Kuwabara K , Nakajima M , Murakami M , Fujino O : Urinary tract malformation and infection developed hyperkalemia with decreased fractional excretion of potassium in an infant . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (5): 289-291 .
- 6) Hayakawa J , Fujino O , Murakami M , Fukunaga Y : Unusual findings in single-photon emission computed tomography in a 1-year-old boy with acute necrotizing encephalopathy . Pediatric International 2007 ; 49 (1): 94-96 .
- 7) Asai M , Katsube Y , Takita Y , Okada T , Hajikano M , Fujimatsu M , Kamisago M , Nishizawa Y , Fujita T (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Intravenous Atropine Treatment in Hypertrophic Pyloric Stenosis : Evaluation by Clinical Course and Imaging . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1): 50-54 .
- 8) Kawakami Y¹⁾ , Matsumoto Y²⁾ , Hashimoto K¹⁾ , Kuwabara K¹⁾ , Hirata K³⁾ , Fujita T¹⁾ , Fujino O¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, Tama Nagayama Hospital , ²⁾ Department of Clinical Pharmacokinetics, College of Pharmacy Nihon University , ³⁾ Department of Pharmacy, Nippon Medhical School): Treatment with flunitrazepam of continuous spikes and waves during slow wave sleep (CSWS) in children . SEIZURE 2007 ; 16 (2): 190-192 .
- 9) 初鹿野見春，田北裕子，浅井牧子，藤松真理子，西澤善樹，上砂光裕，藤田武久，勝部康弘 (¹⁾ 武蔵小杉病院小児科): 低力価寒冷凝集素症の1例．小児科臨床 2006 ; 59 (8): 1795-1799 .
- 10) 浅井牧子¹⁾，岡田拓也¹⁾，初鹿野見春¹⁾，西澤善樹¹⁾，藤田武久¹⁾，勝部康弘¹⁾，小原澤英彰²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院小児科，²⁾ 同眼科): 口唇口蓋裂を伴った Aicardi 症候群の1例．小児科臨床 2006 ; 59 (10): 2209-2214 .

(4) 研究報告書：

- 1) 前田美穂：貧血検査の実施成績．東京都予防医学協会年報2007年度版 2007 ; 36 : pp51-54 .

著 書

(1) 綜説：

- 1) 前田美穂：〔分担〕トロンボテスト，ヘパラスチンテスト，PIVKA-II．小児臨床検査ガイド（五十嵐隆，水口 雅），2006；pp93-96，文光堂．
- 2) 大木由加志：〔分担〕8．代謝性疾患，栄養障害．今日の小児治療指針・第14版，2006；pp204-204，医学書院．
- 3) 高瀬真人：〔分担〕気管狭窄症，気管軟化症．今日の小児治療指針 第14版（大関武彦 古川 漸 横田俊一郎），2006；pp314-314，医学書院．
- 4) 高瀬真人：〔分担〕嚢胞性線維症．新しい小児慢性特定疾患治療研究事業に基づく小児慢性疾患診療マニュアル（加藤忠明），2006；pp159-160，診断と治療社．
- 5) 前田美穂：〔分担〕2次性貧血．今日の治療指針14版（大関武彦，古川 漸，横田俊一郎），2006；pp407-408，医学書院．
- 6) 伊藤保彦：〔分担〕アレルギー性紫斑病．今日の小児治療指針．第14版（大関武彦，古川 漸，横田俊一郎），2006；pp350-351，医学書院．
- 7) 小川俊一：〔分担〕心内臓腺維弾性症．今日の小児治療指針・第14版（大関武彦，古川 漸，横田俊一郎），2006；pp386-387，医学書院．
- 8) 福永慶隆：〔分担〕第3章 17．嘔吐・下痢・発熱．水・電解質がわかる 輸液ケアQ & A（飯野靖彦），2006；pp164-167，中山書店．
- 9) 西澤善樹，藤松真理子⁽¹⁾ 武蔵小杉病院小児科）：〔分担〕特集：一般小児科医にも必要な周産期の知識・基礎疾患をもった妊婦からの胎児・新生児の管理．B型肝炎，C型肝炎．小児科，2006；pp1681-1685，金原出版．
- 10) 高瀬真人：〔分担〕間質性肺炎．小児疾患の診断治療基準 第3版（小児内科第38巻増刊号）（「小児内科」「小児外科」編集委員会共編），2006；pp458-459，東京医学社．
- 11) 前田美穂：〔分担〕晩期障害．よく理解できる子どものがん（別所文雄，横森欣司），2006；pp141-149，永井書店．
- 12) 福永慶隆：〔分担〕小児と未病：未病対策は子供の時から．未病医学 入門（日本未病システム学会），2006；pp150-153，金芳堂．
- 13) 小川俊一：〔分担〕EBMに基づく川崎病後遺症としての冠動脈病変は？．EBM小児疾患の治療（五十嵐隆，石井正浩，滝田順子，平岩幹男，水口 雅，横田俊平，横谷 進，渡辺とよ子），2007；pp123-127，中外医学社．

学会発表

〔2004 年度追加分〕

(1) 一般講演：

- 1) 深澤隆治¹⁾，菌部友良²⁾，濱本邦洋³⁾，坂田耕一⁴⁾，濱岡建城⁴⁾，渡邊美紀¹⁾，池上 英¹⁾，上砂光裕¹⁾，勝部康弘¹⁾，小川俊一¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院小児科，²⁾日本赤十字医療センター小児科，³⁾福岡大学医学部小児科，⁴⁾京都府立医科大学大学院医学研究科発達循環器病態学）：ICAM-1，MCP-1，CCR2 遺伝子の遺伝子多型が川崎病の各病態に及ぼす影響．第41回日本小児循環器学会，2005．3．

〔2005 年度追加分〕

(1) 招待講演：

- 1) 深澤隆治：成人期に達した川崎病症例のQOL：冠動脈手術を受けた症例のQOL．川崎病治療懇話会，2005．9．

(2) 一般講演：

- 1) Kawakami Y¹⁾，Kuwabara K²⁾，Fujita T³⁾，Fujino O⁴⁾，Kojima S⁵⁾，Fukunaga Y²⁾（¹⁾Department of Pediatrics, Tama Nagayama Hospital，²⁾Department of Pediatrics, Nippon Medical School Hospital，³⁾Department of Pediatrics, Second Hospital，⁴⁾Department of Pediatrics, Chiba Hokuso Hospital，⁵⁾Faculty of Phar-

maceutical Sciences, Tokyo University of Science): Antioxidative scavengers and biopterin in cerebrospinal fluid in children with neurological diseases. Congress of Asian Society of Pediatric Research, 2005. 11.

- 2) 矢代健太郎¹⁾, 竹田幸代¹⁾, 林 美雪¹⁾, 榎崎秀彦¹⁾, 飛田正俊¹⁾, 藤田武久²⁾, 稲葉八興³⁾(¹⁾日本医科大学多摩永山病院小児科, ²⁾同第二病院小児科, ³⁾稲葉キッズクリニック): チャイルドシートの不適切使用によると推測された脳梗塞の乳児例. 第108回日本小児科学会学術集会, 2005. 4.
- 3) 川上康彦¹⁾, 桑原健太郎²⁾, 羽鳥誉之²⁾, 藤松真理子²⁾, 高石康子²⁾, 藤田武久²⁾, 藤野 修²⁾, 福永慶隆²⁾(¹⁾上尾中央総合病院小児科, ²⁾日本医科大学付属病院小児科): 髄液中炎症細胞の処理機構: 髄腔内に出現した細胞はアポトーシスにより消失する. 第47回日本小児神経学会総会, 2005. 7.
- 4) 深澤隆治¹⁾, 菌部友良²⁾, 濱本邦洋³⁾, 坂田耕一⁴⁾, 濱岡建城⁴⁾, 渡邊美紀¹⁾, 池上 英¹⁾, 内木場庸子¹⁾, 初鹿野美春¹⁾, 上砂光裕¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 小川俊一¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院小児科, ²⁾日本赤十字医療センター小児科, ³⁾福岡大学小児科, ⁴⁾京都府立医科大学小児疾患研究施設内科): 川崎病における ICAM-1, MCP-1, CCR2 遺伝子多型1. 第25回日本川崎病研究会, 2005. 10.
- 5) 川上康彦¹⁾, 桑原健太郎²⁾, 羽鳥誉之³⁾, 藤松真理子⁴⁾, 岡田一芳²⁾, 高石康子²⁾, 藤田武久⁴⁾, 藤野 修¹⁾(¹⁾多摩永山病院小児科, ²⁾付属病院小児科, ³⁾千葉北総病院小児科, ⁴⁾第二病院小児科): 痙攣患児における脳脊髄液中内因性好酸化物質の測定. 第39回日本てんかん学会, 2005. 11.
- 6) 今井丈英¹⁾, 高瀬真人¹⁾, 飛田正俊¹⁾(¹⁾多摩永山病院小児科): 深頸部リンパ節および周囲軟部組織の腫脹により上気道閉塞をきたした女児例. 第50回小児耳鼻咽喉科研究会, 2005. 12.
- 7) 白井潤二¹⁾, 深澤隆治¹⁾, 飛田正俊¹⁾(¹⁾多摩永山病院小児科): 1ヶ月時に著しいチアノーゼ, 呼吸障害で発症したVSDを伴うRS肺炎の1例. 第536回日本小児科学会東京都地方会講話会, 2006. 2.
- 8) 飛田正俊¹⁾, 竹田幸代¹⁾, 矢代健太郎¹⁾(¹⁾多摩永山病院小児科): 乳児期の food (milk) induced colitis 寛解後潰瘍性大腸炎を発症した幼児例. 第18回多摩小児アレルギー臨床懇話会, 2006. 3.

(1) 宿題講演:

- 1) 高瀬真人: 日本人小児におけるスパイログラム基準値の作成. 第39回日本小児呼吸器疾患学会, 2006. 11.

(2) 招待講演:

- 1) 浅野 健: 「小児科医が伝えたいこどもの病気」. 日本医科大学千葉北総病院市民公開講座, 2006. 7.
- 2) 浅野 健: 乳幼児のパパとママのための救急講座. 印西市社会福祉協議会講演会, 2006. 11.

(3) シンポジウム:

- 1) 藤田武久: てんかん発作とその対応(てんかんの介助とサポート). 第3回保育・教育職てんかん講座, 2006. 7.
- 2) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 小児自己免疫性疲労症候群における成長ホルモンの関与と治療の可能性について(小児慢性疲労症候群). 第2回日本疲労学会, 2006. 7.
- 3) 西澤善樹: 小児科医よりママ達へメッセージ(子供と楽しく向きあうために). 2006年度川崎市民自主学級, 2006. 9.
- 4) 今井丈英: 当科での小児睡眠時無呼吸症候群: 診断方法および手術前後のSpO2変化に関する検討と考察. 第39回日本小児呼吸器疾患学会, 2006. 11.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 前田美穂, 小原 明, 小島勢二, 矢部みはる, 笠原善仁, 鬼頭敏幸, 杉田憲一, 高木一孝, 永利義久, 田中里江子, 呉 彰¹⁾, 麦島秀雄²⁾(¹⁾鳥取大学医学部小児科, ²⁾日本大学医学部小児科): Dyskeratosis Congenita 全国調査報告. 第48回日本小児血液学会, 2006. 11.

(5) ワークショップ:

- 1) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: 抗U1-RNP抗体を伴う自己免疫性疲労症候群の4例(小児膠原病). 第50回日本リウマチ学会総会, 2006. 4.

- 2) 大久保隆志：乳児早期に発症した百日咳症例の検討．第39回日本小児呼吸器疾患学会，2006．11．
- 3) 山西未穂，前田美穂，浅野 健，右田 真，植田高弘，濱田久光，海津聖彦，小林史子，牛腸義宏，福永慶隆：造血器腫瘍の治療における輸血と鉄過剰の検討．第22回日本小児がん学会，2006．11．
- 4) 石田也寸志¹⁾，前田美穂，大園秀一²⁾，松下竹次³⁾，石井栄三郎⁴⁾，有瀧健太郎⁵⁾，岡 敏明⁶⁾，吉成みやこ⁷⁾，堀 浩樹⁸⁾，浅見恵子⁹⁾，栗山貴久子¹⁰⁾，石本浩市¹¹⁾，堀部敬三¹²⁾(¹⁾愛媛大学，²⁾久留米大学，³⁾国立国際医療センター，⁴⁾長野こども病院，⁵⁾国立成育医療センター，⁶⁾札幌徳州会病院，⁷⁾東北大学，⁸⁾三重大学，⁹⁾新潟がんセンター，¹⁰⁾京都府立医科大学 ¹¹⁾順天堂大学 ¹²⁾名古屋医療センター)：小児がん長期フォローアップの問題点 成人医療への移行は可能か？．第22回日本小児がん学会，2006．11．
- (6) 一般講演：
- 1) Asano T：Indomethacin decreased glutathione content in doxorubicin leukemia cell line．Proceedings of the American Association of Cancer Research，2006．4．
- 2) Itoh Y，Igarashi T，Fukunaga Y：Autoantibodies generating fatigue long before the onset of the diseases in children．The American Association of Immunologists 2006 (Boston, MA, USA)，2006．5．
- 3) Maeda M，Kaizu K，Kobayashi F，Migita M，Asano T，Fukunaga Y：Immunosuppression in patients with hematologic malignancy after completion of therapy．9th International Conference on Long-Term Complications of Treatment of Children & Adolescents for Cancer (Niagara-on-the Lake, Canada)，2006．6．
- 4) Takase M：Bronchodilator makes breath sounds louder and lower in asthmatic children．7th International Congress on Pediatric Pulmonology，2006．7．
- 5) Imai T：Normative data of airway resistance using interrupter technique (Rint) in pre-school Japanese children．7th International Congress on Pediatric Pulmonology，2006．7．
- 6) Ogawa S，Fukazawa R，Ohkubo T，Kamisago M，Ikegami E，Hajikano M，Watanabe M，Katsube Y：Angiotensin II type I receptor blocker prevents coronary stenosis in patients with coronary aneurysm after Kawasaki disease．World Congress of Cardiology 2006 (Barcelona, Spain)，2006．9．
- 7) Maeda M，Fukunaga Y，Asano T，Migita M，Ueda T，Hamada H，Kaizu K，Gotyo Y，Kobayashi F，Yamanishi M：Iron Status in Children After Therapy for Hematological Malignancy．38th Congress of the International Society of Paediatric Oncology (Geneva, Switzerland)，2006．9．
- 8) Ogawa R¹⁾，Ono S¹⁾，Fujimura J，Mizuno H¹⁾，Hyakusoku H¹⁾(¹⁾Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery)：Cardiomyocyte differentiation using adipose-derived stem cells．The 4th International Fat Applied Technology Society (Baton Rough)，2006．10．
- 9) Fujimura J，Ogawa R^{1,3)}，Sugihara H⁴⁾，Mizuno H¹⁾，Hyakusoku H¹⁾，Shimada T³⁾，Suzuki H²⁾(¹⁾Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery，²⁾Dept. of Pharmacology，³⁾Dept. of Biochemistry and Molecular Biology，⁴⁾Tumor Stem Cell Team, Biological Reseach Group, Pharmaceutical Research Laboratories, Research&Development Group, Nippon Kayaku Co. Ltd, Tokyo, Japan)：Characterization of adipose-derived stem cells using Hoechst staining．The 4th International Fat Applied Technology Society (Baton Rough)，2006．10．
- 10) Fujimura J，Ogawa R¹⁾，Hirakawa K²⁾，Uekusa K²⁾，Yuta K³⁾，Mizuno H¹⁾，Ohno Y²⁾，Hakusoku H¹⁾，Fukunaga Y(¹⁾Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery，²⁾Dept. of NMR Laboratory, Dept of Legal Medicine，³⁾BioIT Business Development Group, Fujitsu Ltd..)：Metabolic analysis of adipose-derived stem cells and bone marrow mesenchymal stem cells using NMR-based metabolomics．The 4th International Fat Applied Technology Society (Baton Rough)，2006．10．
- 11) Hiromi M¹⁾，Ogawa S²⁾，Iemura M¹⁾，Ayusawa M³⁾，Suda K¹⁾，Matsuishi T¹⁾，Ishii M⁴⁾(¹⁾Department of Pediatrics, Kurume University，²⁾Department of Pediatrics, Nippon Medical School，³⁾Department of Pedi-

- tarics, Nihon University , ⁴⁾ Department of Pediatrics, Kitasato University): Long-term follow-up results of catheter intervention and coronary artery bypass grafting for stenotic lesions after Kawasaki disease ; Multi-Center Collaborative Study . American Heart Association Scientific Sessions 2006 (Chicago, USA), 2006 . 11 .
- 12) Yamanishi S , Itho Y , Takahashi H , Fukunaga Y : Activation of B-1 cells by *Helicobacter pylori* Urease : Implication for Induction of Autoimmunity via *Helicobacter pylori* Infection . 2nd Asian Society for Pediatric Research (Japan), 2006 . 12 .
- 13) Hajikano M : Developmental changes of the left and right ventricular function : Evaluation by using color tissur Doppler and strain echocardiography . 2nd Congress of Asian Society for Pediatric Research , 2006 . 12 .
- 14) Katsube Y : Endothelin-1 inhibits K⁺ current of cultured neonatal resistance pulmonary vascular smooth muscel cells . 2nd Congress of Asisan Society for Pediatric Research Abstract Submission , 2006 . 12 .
- 15) Kuwabara K , Surasak B¹⁾ , Koga K²⁾ , Fukunaga Y (¹⁾ Department of Family Medicine, Faculty of Medicine, Chiangmai University , ²⁾ Department of Infectious Disease, Faculty of Medicine, Tokai University): *Helicobacter pylori* infection in Thai childern . 2nd Congress of Asian Society for Pediatric Research , 2006 . 12 .
- 16) Kuramochi Y , Sawyer DB : Rapid electrical stimulation induces early activation of kinase signal transduction pathways and apoptosis in adult rat ventricular myocytes . The 2nd Congress of Asian Society for Pediatric Researtrch (Yokohama), 2006 . 12 .
- 17) Itoh Y , Igarashi T , Fujino O , Fukunaga Y : The target antigen of anti-Sa and an ELISA system using recombinant antigen as a diagnostic tool for CFS. 2nd. Congress of Asian Society for Pediatric Research . 2nd. Congress of Asian Society for Pediatric Research (Tokyo, Japan), 2006 . 12 .
- 18) Kaizu K , Maeda M , Fukunaga Y : Growth hormone provocation test poorly predicts final height of childhood leukemia survivors who received cranial irradiation 2nd ASPR 2006. 12 Yokohama . 2nd Congress of Asian Society for Pediatric Research , 2006 . 12 .
- 19) Suda K¹⁾ , Kudo Y¹⁾ , Matsumura M¹⁾ , Ogawa S²⁾ , Matsuishi T¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics Kurume University , ²⁾ Department of Pediatrics Nippon Medical School): Warfarin Treatment in Patients With Giant Coronary Aneurysms Caused by Kawasaki Disease . 56th Annual Scientific Session of the American College of Cardiology (New Orleans, USA), 2007 . 3 .
- 20) Fukazawa R : How MCP-1 and CCR2 Gene Polymorphism Affect Clinidal Course of Kawasaki Disease? . 第71回日本循環器学会 , 2007 . 3 .
- 21) Fukazawa R : The expression of Macrophage Chemoattractant Protein-1 In Remote Phase Kawasaki Disease Aneurysm . 第71回日本循環器学会 , 2007 . 3 .
- 22) 新藤史子 , 豊島勝昭 , 川滝元良 : 冠動脈奇形を合併した三尖弁膜様閉鎖・肺動脈弁欠損・右室異形成の胎児診断の1例 . 第12回胎児心臓病研究会 , 2006 . 2 .
- 23) 藤松真理子 , 田北裕子 , 岡田拓也 , 浅井牧子 , 初鹿野見春 , 西澤善樹 , 上砂光裕 , 藤田武久 , 勝部康弘 : 意識障害を契機に発見された胆道閉鎖症の一乳児例 . 第275回川崎市小児科医会症例検討会 , 2006 . 4 .
- 24) 岡田拓也 , 田北裕子 , 浅井牧子 , 初鹿野見春 , 藤松真理子 , 西澤善樹 , 上砂光裕 , 藤田武久 , 勝部康弘 : 胸部巨大血管腫の1乳児例 . 第275回川崎市小児科医会症例検討会 , 2006 . 4 .
- 25) 初鹿野見春 , 勝部康弘 , 上砂光裕 , 渡邊美紀 , 池上 英 , 深澤隆治 , 小川俊一 : 健常小児の左・右心機能の推移 ; カラー組織ドプラー , ストレイン心エコー法による評価 . 第109回日本小児科学会学術集会 , 2006 . 4 .
- 26) 五十嵐徹 , 伊藤保彦 , 福永慶隆 : 抗リボゾーマルP抗体が高値を示した抗核抗体陰性IgA腎症の1例 . 第50回日本リウマチ学会 , 2006 . 4 .
- 27) 初鹿野見春 , 田北裕子 , 岡田拓也 , 浅井牧子 , 藤松真理子 , 上砂光裕 , 西澤善樹 , 藤田武久 , 勝部康弘 : 黒色便で気付かれた *Helicobacter pylori* 感染症による十二指腸潰瘍の一幼児例 . 第275回川崎市小児科医会症例検討

- 会, 2006 . 4 .
- 28) 山本裕一, 島 義雄, 中島瑞恵, 新藤史子: 新生児仮死後一過性に Triangular cord sign を認めた極低出生体重児の1例. 第109回日本小児科学会学術集会, 2006 . 4 .
- 29) 岸 恵, 大木由加志: 成長ホルモン補充療法3年間の Th1, Th2, Th1/Th2 に対する影響の検討. 第109回日本小児科学会学術集会, 2006 . 4 .
- 30) 池上 英, 小川俊一, 勝部康弘, 深澤隆治, 上砂光裕, 大久保隆志, 内木場庸子, 渡邊美紀, 初鹿野見春, 福永慶隆: 川崎病既往者の微小冠循環動態の検討. 第109回日本小児科学会学術集会, 2006 . 4 .
- 31) 深澤隆治, 池上 英, 渡邊美紀, 内木場庸子, 勝部康弘, 上砂光裕, 初鹿野見春, 小川俊一: 川崎病後の冠動脈瘤の早期動脈硬化進展への組織学的考察. 第109回日本小児科学会学術集会, 2006 . 4 .
- 32) 初鹿野見春, 勝部康弘: 早期新生児から学童期にかけての右心・左心機能の推移; Tissue velocity, Strain による評価. 第17回日本心エコー図学会学術集会, 2006 . 4 .
- 33) 西巻 滋, 島 義雄, 佐藤美保, 安ひろみ, 横田俊平, 立石 格, 関 和男: 尿中 2-microglobulin を用いた未熟児慢性肺疾患の管理. 第109回日本小児科学会学術集会, 2006 . 4 .
- 34) 西澤善樹, 浅井牧子, 上砂光裕, 藤田武文, 勝部康弘: 病原大腸菌の検出状況. 第109回日本小児科学会学術集会, 2006 . 4 .
- 35) 大園秀一¹⁾, 石田也寸志²⁾, 栗山貴久子³⁾, 浅見恵子⁴⁾, 松下竹次⁵⁾, 前田美穂, 有瀬健太郎⁶⁾, 石井栄三郎⁷⁾, 吉成みやこ⁸⁾, 石本浩市⁹⁾ (¹⁾ 久留米大学, ²⁾ 愛媛大学, ³⁾ 京都府立医科大学, ⁴⁾ 新潟がんセンター, ⁵⁾ 国際医療センター, ⁶⁾ 成育医療センター, ⁷⁾ 長野こども病院, ⁸⁾ 東北大学, ⁹⁾ 順天堂大学): 日本小児白血病リンパ腫研究グループ (JPLSG) 長期フォローアップ委員会 JPLSG 長期フォローアップ委員会施設アンケート報告: 小児がん長期フォローへの提言. 第109回日本小児科学会学術集会, 2006 . 4 .
- 36) 伊藤保彦, 五十嵐徹, 福永慶隆: サラゾスルファピリジンによるネフローゼ症候群を併発した多関節型 JIA の1男児例. 第1回 千葉小児膠原病懇話会, 2006 . 5 .
- 37) 山西慎吾, 神谷 茂, 高橋秀美: ピロリ菌ウレアーゼによる B-1 細胞活性化作用と自己免疫疾患誘導の可能性. 第12回日本ヘリコバクター学会学術集会, 2006 . 6 .
- 38) 中川道子, 鈴木伸子, 島 義雄, 中島瑞恵, 安藝 薫, 右田 真: 一過性胎児腹水貯留を呈した先天性サイトメガロウイルス感染症の1例. 第42回日本周産期・新生児医学会総会, 2006 . 6 .
- 39) 安藝 薫, 五十嵐徹, 黒田奈緒, 伊藤保彦, 福永慶隆: 運動後急性腎不全と考えられた一男子例. 第41回日本小児腎臓病学会, 2006 . 6 .
- 40) 桑原健太郎, 安藝 薫, 前田美穂, 羽鳥誉之, 川上康彦, 高石康子, 藤田武久, 藤野 修, 福永慶隆: 血液凝固第 XIII 因子低下のため非外傷性の反復性脳内出血を認めた一男子例. 第48回日本小児神経学会, 2006 . 6 .
- 41) 初鹿野見春, 田北裕子, 岡田拓也, 浅井牧子, 藤松真理子, 上砂光裕, 西澤善樹, 藤田武久, 勝部康弘: 黒色便で気付かれたヘリコバクター・ピロリ感染に伴う十二指腸潰瘍の6歳男児例. 第281回日本小児科学会神奈川県地方会, 2006 . 6 .
- 42) 五十嵐徹, 福永慶隆, 清水 章¹⁾, 伊藤保彦, 安藝 薫, 黒田奈緒 (¹⁾ 病理学第1): 発症11年後に扁桃摘出とステロイドパルス療法を施行し尿所見が改善した IgA 腎症の1症例. 第41回日本小児腎臓病学会学術集会, 2006 . 6 .
- 43) 池上 英, 深澤隆治, 初鹿野見春, 渡邊美紀, 内木場庸子, 大久保隆志, 上砂光裕, 勝部康弘, 小川俊一: Anthracycline 経薬剤による心筋障害と活性酸素スカベンジャー edaravone によるその抑制効果. 第42回日本小児循環器学会学術集会, 2006 . 7 .
- 44) 松岡瑠美子, 小穴慎二, 市田露子, 小川俊一, 上砂光裕, 中西敏雄, 森 克彦, 山岸敬幸, 吉永正夫: Down 症候群に認められる心血管疾患の特徴. 第42回日本小児循環器学会学術集会, 2006 . 7 .
- 45) 倉持雪穂, 須藤真里子, 菅野華子, 守田利貞: Invasive Streptococcus Myositis . 第35回静岡県東部臨床小児

懇話会，2006．7．

- 46) 藤田武久，藤村樹里，川上康彦，飛田正俊，小沢 浩：MECP2 遺伝子異常がみつかった重度発達遅滞の3歳女児例．第38回神奈川小児神経懇話会，2006．7．
- 47) 倉持雪穂，ダグラスソーヤー：ラット心筋高頻度ペーシングに伴うシグナル変化と細胞死．第42回日本小児循環器学会学術集会，2006．7．
- 48) 上砂光裕，池上 英，渡邊 誠，大久保隆志，初鹿野見春，深澤隆治，勝部康宏，小川俊一：拘束型心筋症の2例．第42回日本小児循環器学会学術集会，2006．7．
- 49) 山内仁紫¹⁾，八巻重雄²⁾，藤井正大¹⁾，大森裕也¹⁾，丸山雄二¹⁾，神部 将¹⁾，小川俊一，落 雅美¹⁾，清水一雄¹⁾(¹⁾日本医科大学外科学第2，²⁾日本肺血管研究所)：高度肺高血圧症を伴った先天性心疾患の手術適応と術後の薬物治療．第42回小児循環器学会学術集会，2006．7．
- 50) 渡邊 誠，池上 英，勝部康弘，深澤隆治，上砂光裕，渡邊美紀，初鹿野見春，山内仁紫¹⁾，小川俊一(¹⁾心臓血管外科)：進行性の異常増殖した両側巨大乳頭筋および異郷腱索束により左室流出路狭窄，左室二腔症および重篤な僧帽弁逆流をきたした1例．第42回日本小児循環器学会学術集会，2006．7．
- 51) 西澤善樹，浅井牧子，藤田武久，小西英喜，朝倉啓文：正常産児における新生児一過性多呼吸による入院率—帝王切開予定日の設定．第42回日本周産期・新生児医学会総会，2006．7．
- 52) 浅井牧子，西澤善樹，藤田武久，小西英喜，朝倉啓文：正常産児における胎便吸引症候群による入院率．第42回日本周産期・新生児医学会総会，2006．7．
- 53) 初鹿野見春，勝部康弘，上砂光裕，渡邊美紀，池上 英，深澤隆治，小川俊一：川崎病 グロブリン治療前後での右心機能の変化 カラー組織ドプラ心エコー法による検討．第42回日本小児循環器学会学術集会，2006．7．
- 54) 渡邊美紀，池上 英，上砂光裕，深澤隆治，内木場庸子，勝部康弘，小川俊一：川崎病による冠動脈障害に対しCABGを施行した患者の予後の検討．第42回日本小児循環器学会学術集会，2006．7．
- 55) 深澤隆治，池上 英，渡邊美紀，勝部康弘，上砂光裕，初鹿野見春，渡邊 誠，小川俊一：川崎病遠隔期の冠動脈瘤組織におけるMCP1発現とその意義．第42回日本小児循環器学会学術集会，2006．7．
- 56) 安藝 薫，高木篤史，島 義雄，中島瑞恵，鈴木伸子：早期グルカゴン持続静注を選択した新生児遷延性高インスリン血症性低血糖の1例．第42回日本周産期・新生児医学会総会，2006．7．
- 57) 中島瑞恵，島 義雄，菅野華子，鈴木伸子，安藝 薫，高木篤史，羽鳥誉之，熊坂 栄，布山裕一，右田真：早産で出生した先天性筋緊張性ジストロフィーの臨床像．第42回日本周産期・新生児医学会総会，2006．7．
- 58) 島 義雄，中島瑞恵，熊坂 栄，安藝 薫，鈴木伸子，羽鳥誉之：胎内侵襲に対する侵襲耐性獲得機構と胎児発育．第42回日本周産期・新生児医学会総会，2006．7．
- 59) 布山裕一，外岡俊樹，島 義雄，中島瑞恵，林 良寛：乳幼児腸内細菌の動態解析(第2報)．第42回日本周産期・新生児医学会総会，2006．7．
- 60) 川上康彦，村島善也，桑原健太郎，藤松真理子，岡田一芳，高石康子，藤田武久，藤野 修：てんかん原性獲得過程におけるレドックスの関与：ELマウス海馬におけるGSH(グルタチオン)活性．第40回日本てんかん学会，2006．9．
- 61) 勝部康弘，初鹿野見春，田北裕子，岡田卓也，浅井牧子，藤松真理子，西澤善樹，上砂光裕，藤田武久：健常小児の右心・左心の収縮ならびに拡張機能の発達に伴う変化 カラー組織ドプラ，ストレイン心エコー法による評価．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 62) 浅井逸子，小伊藤保雄，野本恵子，新宅孝征，勝部康弘：健診における血清ペプシノーゲン検査の有用性について．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 63) 桑原健太郎，山西未穂，右田 真，前田美穂，藤野 修，福永慶隆：腰椎穿刺後に低髄液圧症を発症した小児白血病経験者の1例．第45回日本小児神経学会関東地方会，2006．9．
- 64) 荒木久美：収縮能が保たれた高血圧患者における拡張機能とBNPとの関連：経胸壁心エコーによる検討．第74

回日本医科大学医学会総会，2006．9．

- 65) 井梅和美：当日直時の輸血業務の現状．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 66) 田北裕子，岡田拓也，浅井牧子，初鹿野見春，藤松真理子，上砂光裕，西澤善樹，藤田武久，勝部康弘，上岡克彦：反復する尿路感染を契機に発見された後部尿道弁の1例．第282回日本小児科学会神奈川県地方会，2006．9．
- 67) 小川 令^{1,2)}，藤村樹里，杉原英光⁴⁾，水野博司¹⁾，鈴木秀典³⁾，島田 隆²⁾，百束比古¹⁾(¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾同生化学第2，³⁾同薬理学，⁴⁾日本化薬株式会社研究開発本部医薬研究所生物グループ)：Hoechst染色による脂肪組織由来幹細胞の解析．第15回日本形成外科学会基礎学術集会，2006．10．
- 68) 北爪 勉¹⁾，鈴木淳子¹⁾，武村 濃¹⁾，勝又庸行¹⁾，稲葉利佳子¹⁾，小川俊一(¹⁾東京通信病院小児科)：MRIによる川崎病ACバイパス術後の経過観察の有用性について．第26回日本川崎病研究会，2006．10．
- 69) 小川 令¹⁾，藤村樹里，平川慶子²⁾，植草協子²⁾，湯田浩太郎³⁾，水野博司¹⁾，百束比古¹⁾(¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾同法医学NMR研究施設，³⁾富士通バイオIT事業開発本部)：NMRメタボロミクスによる脂肪細胞由来幹細胞と骨髄間葉系幹細胞の代謝像の分析．第15回日本形成外科学会基礎学術集会，2006．10．
- 70) 大国寿士¹⁾，留目優子²⁾，安田 正³⁾，深澤隆治，小川俊一，阿部 淳⁴⁾(¹⁾メディカジャパン・ラボ，²⁾日本医科大学微生物学・免疫学，³⁾大宮医師会病院，⁴⁾国立成育医療センター)：Streptococcus mitis由来ヒト血小板凝集因子の抗原性に関する検討．第26回日本川崎病研究会，2006．10．
- 71) 藤田武久，田北裕子，岡田拓也，浅井牧子，初鹿野見春，藤松真理子，西澤善樹，上砂光裕，勝部康弘：アスペルガー症候群 来院するきっかけは？．第280回川崎市小児科医会症例検討会，2006．10．
- 72) 浅野 健：インドメタシンはドキシルピシン耐性白血病細胞内のグルタチオン産生を抑制する．第68回日本血液学会，2006．10．
- 73) 小川 令¹⁾，藤村樹里，水野博司¹⁾，福永慶隆，鈴木秀典²⁾，百束比古¹⁾(¹⁾形成外科学，²⁾薬理学)：タイプラプス顕微鏡を用いた志望組織由来幹細胞の神経系細胞への分化誘導の観察．第15回日本形成外科学会基礎学術集会，2006．10．
- 74) 大久保隆志，勝部康弘，深澤隆治，上砂光裕，池上 英，渡邊美紀，初鹿野見春，阿部正徳，渡邊 誠，小川俊一：冠動脈のズリ応力の低下や乱流は，冠動脈瘤や血栓形成を惹起する．第26回日本川崎病研究会，2006．10．
- 75) 渡邊 誠，勝部康弘，深澤隆治，上砂光裕，大久保隆志，池上 英，初鹿野見春，阿部正徳，鈴木伸子，山内仁紫¹⁾，落 雅美¹⁾，脇本博子²⁾，土井庄三郎²⁾，小川俊一(¹⁾日本医科大学心臓血管外科，²⁾東京医科歯科大学小児科)：巨大瘤壁のvasa vasorumを介して灌流されていた前下行枝にCABGを，また回旋枝の巨大瘤に対し縫縮術を施行した1例．第26回日本川崎病研究会，2006．10．
- 76) 初鹿野見春，勝部康弘，鈴木伸子，渡邊 誠，阿部正徳，上砂光裕，深澤隆治，小川俊一：健常小児の右心・左心の収縮ならびに拡張機能の発達に伴う変化 カラー組織ドプラー，ストレイン心エコー法による評価．第26回日本小児循環動態研究会，2006．10．
- 77) 五十嵐徹，伊藤保彦，黒田奈緒，安藝 薫，福永慶隆，清水 章¹⁾，杉崎祐一²⁾(¹⁾病理学第1，²⁾付属病院病理部)：抗DNA抗体陽性，抗リン脂質抗体陽性，補体C9低下を父親にも認めた全身性エリテマトーデスの一男児例．第16回日本小児リウマチ学会，2006．10．
- 78) 白井潤二：小児気管支喘息における肺炎マイコプラズマ特異IgM抗体陽性率．第19回多摩小児アレルギー臨床懇話会，2006．10．
- 79) 牟田広美¹⁾，小川俊一，鮎澤 衛²⁾，家村素史¹⁾，須田憲治¹⁾，石井正浩³⁾(¹⁾久留米大学小児科，²⁾日本大学小児科，³⁾北里大学小児科)：川崎病冠動脈病変に対するカテーテル治療の遠隔期予後：多施設による検討．第26回日本川崎病研究会，2006．10．
- 80) 荻野広太郎¹⁾，浅井利夫²⁾，長嶋正實³⁾，小川俊一，今田義夫⁴⁾，原田研介⁵⁾(¹⁾関西医科大学小児科，²⁾東京女子医科大学東医療センター，³⁾あいち小児保健医療総合センター，⁴⁾日本赤十字医療センター小児科，⁵⁾日本大学小児科)：「川崎病急性期カード」についてのアンケート調査結果．第26回日本川崎病研究会，2006．10．

- 81) 渡邊 誠, 池上 英, 島 義雄¹⁾, 勝部康弘, 深澤隆治, 上砂光裕, 大久保隆志, 初鹿野見春, 阿部正徳, 鈴木伸子, 山内仁紫²⁾, 小川俊一⁽¹⁾ 葛飾赤十字産院小児科, ²⁾ 日本医科大学心臓血管外科): 胎児期より心臓腫瘍と診断され, 心嚢液貯留による頻回の心タンポナーデを認め, 心膜開窓術を施行した Hemangioma の1例. 第15回関東小児心筋疾患研究会プログラム, 2006. 10.
- 82) 浅井牧子, 田北裕子, 岡田拓也, 初鹿野見春, 藤松真理子, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘: 当院における過去3年間の川崎病症例. 第280回川崎市小児科医会症例検討会, 2006. 10.
- 83) 藤松真理子, 田北裕子, 岡田拓也, 浅井牧子, 初鹿野見春, 西澤善樹, 上砂光裕, 藤田武久, 勝部康弘: 免疫グロブリン大量静注療法によると思われる無菌性髄膜炎の1例. 第280回川崎市小児科医会症例検討会, 2006. 10.
- 84) 今井丈英, 高瀬真人, 白井潤二, 飛田正俊: MicroRintによる日本人幼児の気道抵抗値の検討: 身長に基づく予測式の検討と国際比較. 第39回日本小児呼吸器疾患学会, 2006. 11.
- 85) 中島瑞恵, 島 義雄, 熊坂 栄, 羽鳥誉之, 安藝 薫: MRSA 定着防止対策における手袋着用の効果. 第51回日本未熟児新生児学会, 2006. 11.
- 86) 西澤善樹, 浅井牧子, 藤田武久: NICUにおける Infection Control Team (ICT) の活動. 第51回日本未熟児新生児学会, 2006. 11.
- 87) 清水希和子, 白井潤二, 渡邊 誠, 池上 英, 高瀬真人, 小川俊一, 福永慶隆: RSウイルスに罹患し, 重症化した先天性心疾患児3例の検討. 第39回日本小児呼吸器疾患学会, 2006. 11.
- 88) 牛腸義宏, 清水希和子, 今井丈英, 高瀬真人, 福永慶隆: アデノイド口蓋扁桃摘出術後4年を経て耳管扁桃肥大によるOSAS再発を認めた症例. 第39回日本小児呼吸器疾患学会, 2006. 11.
- 89) 高木篤史, 島 義雄, 安藝 薫, 中島瑞恵, 羽鳥誉之: アミノ酸調節粉末により腸性肢端皮膚様皮疹をきたした新生児遷延性高インスリン血症性低血糖の1男児例. 第51回日本未熟児新生児学会, 2006. 11.
- 90) 浅野 健: インドメタシンはドキシソルピシン耐性白血病細胞内のグルタチオン産生を抑制する. 第47回日本小児血液学会, 2006. 11.
- 91) 羽鳥誉之, 島 義雄, 中島瑞恵, 高木篤史, 安藝 薫: まれな不均衡転座 (46, XY, der (9) t (9; 10) (p23; p13)) の兄弟例. 第51回日本未熟児新生児学会, 2006. 11.
- 92) 白井 潤二, 今井丈英, 高瀬真人, 飛田正俊: 炎症反応の上昇なく経過した重症マイコプラズマ肺炎の一男児例. 第39回日本小児呼吸器疾患学会, 2006. 11.
- 93) 安藝 薫, 桑原健太郎, 前田美穂, 福永慶隆: 血液凝固第XIII因子活性低下を認めた反復性脳内出血の1男子例. 第48回日本小児血液学会, 2006. 11.
- 94) 白井潤二, 深澤隆治, 池上 英, 大久保隆志, 小川俊一: 湿性咳嗽を契機に発見された乳児期発症拡張型心筋症の4例. 第39回日本小児呼吸器疾患学会, 2006. 11.
- 95) 熊坂 栄, 中島瑞恵, 渡邊 誠, 島 義雄: 新生児期早期に後負荷不適合により心不全に陥った単純型大動脈縮窄症の3例. 第51回日本未熟児新生児学会, 2006. 11.
- 96) 浅井牧子, 岡田拓也, 田北裕子, 初鹿野見春, 藤松真理子, 上砂光裕, 西澤善樹, 藤田武久, 勝部康弘: 先天性嚢胞状腺腫様肺奇形が疑われた新生児の1例. 第39回日本小児呼吸器疾患学会, 2006. 11.
- 97) 島 義雄, 中島瑞恵, 熊坂 栄, 羽鳥誉之, 安藝 薫: 母体環境と胎児の侵襲適応. 第51回日本未熟児新生児学会, 2006. 11.
- 98) 海津聖彦, 前田美穂, 小林史子, 喬 炎, 安達彰子, 佐藤 茂, 杉崎祐一, 福永慶隆: 進行性の全身播種により死亡した Langerhans Cell Histiocytosis の新生児例. 第22回日本小児がん学会, 2006. 11.
- 99) 安藝 薫, 桑原健太郎, 前田美穂, 福永慶隆: 血英凝固第XIII因子活性低下を認めた反復性のない出血の1男子例. 第48回日本小児血液学会, 2006. 11.
- 100) 外松 学¹⁾, 小原 明¹⁾, 真部 淳¹⁾, 金子 隆¹⁾, 前田美穂, 中館尚也¹⁾, 福島 敬¹⁾, 熊谷昌明¹⁾, 三浦信之¹⁾, 加藤陽子¹⁾, 生田孝一郎¹⁾, 林 泰秀¹⁾, 花田良二¹⁾, 土田昌宏¹⁾ (¹⁾ 東京小児がん研究グループ): 急性

リンパ性白血病標準危険群：中間危険群に対する6MP/MTX漸増間歇維持療法の有効性の検討．第48回日本小児血液学会，2006．11．

- 101) 今井由生，小松祐美子，村林督夫，宇佐美等，梁 茂雄，松林みのる，飯島禎貴，池野 充，向江智昭，有井直人，倉持雪穂，牛腸義宏，菅野華子，守田利貞：多様な経過をたどった保育園での腸管出血性大腸炎O157集団発生．第31回静岡県小児保健学会，2006．12．
- 102) 藤田武久，勝部康弘：虹彩色素異常と難聴を伴ったKlinefelter症候群の1例．第39回神奈川小児神経懇話会，2007．1．
- 103) 初鹿野見春，勝部康弘，上砂光裕，鈴木律子，渡辺 誠，阿部正徳，深澤隆治，小川俊一：Speckle tracking心エコー法を用いた川崎病急性期の心機能評価．第2回7神奈川県川崎病研究会，2007．2．
- 104) 白井潤二，高瀬真人，今井丈英，飛田正俊：小児気管支喘息における肺炎マイコプラズマ特異IgM抗体陽性率．第13回多摩小児感染免疫研究会，2007．2．
- 105) 助川 玄¹⁾，小野正恵¹⁾，北爪 勉¹⁾，小川樹里，鈴木淳子¹⁾(¹⁾東京通信病院小児科)：親子間で血液型不一致を呈した症例．第545回日本小児科学会東京都地方会講話会，2007．2．
- 106) 藤村樹里：組織幹細胞のNMRメタボロミクス．第2回日本医科大学医用磁気共鳴分析施設公開セミナー，2007．2．
- 107) 浅井牧子，田北裕子，岡田拓也，初鹿野見春，藤松真理子，西澤善樹，上砂光裕，藤田武久，勝部康弘：当院における過去3年間の川崎病症例の検討．第24回川崎市医師会医学会，2007．2．
- 108) 桑原健太郎：タイ国小児の*H. pylori*感染について．第15回千駄木感染免疫研究会，2007．3．
- 109) 桑原健太郎，Surasak B¹⁾，古賀泰裕²⁾(¹⁾チェンマイ大学家庭医学科，²⁾東海大学医学部感染症学)：タイ国小児の*H. pylori*感染率の推移について．第11回日本小児*H. pylori*研究会，2007．3．
- 110) 山西慎吾^{1,2)}，小林史子^{1,2)}，神谷 茂³⁾，福永慶隆²⁾，高橋秀実¹⁾(¹⁾日本医科大学微生物学・免疫学，²⁾同小児科学，³⁾杏林大学医学部感染症学教室)：ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化を介した自己免疫疾患誘導への関与．第11回日本小児*H. pylori*研究会，2007．3．
- 111) 三村成巨，桑原健太郎，右田 真，福永慶隆：リステリア菌髄膜炎の11か月の乳児例．日本小児科学会東京都地方会，2007．3．
- 112) 須藤真里子，桑原健太郎，高石康子，前田美穂，藤野 修：多発性硬化症で非典型的な画像所見であった1例．第46回日本小児神経学会関東地方会，2007．3．

(7) ポスター発表：

- 1) 小川 令^{1,2)}，藤村樹里，水野博司¹⁾，飛驒護邦¹⁾，糸井由里恵¹⁾，小野真平¹⁾，鈴木秀典³⁾，島田 隆²⁾，百束比古¹⁾(¹⁾形成外科学，²⁾生化学第2，³⁾薬理学)：脂肪組織由来幹細胞を用いた治療戦略．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 2) 藤村樹里，小川 令¹⁾，鈴木秀典²⁾，百束比古¹⁾(¹⁾形成外科学，²⁾薬理学)：脂肪組織由来関西病を用いた神経細胞への分化誘導．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 3) 藤村樹里，小川 令¹⁾，杉原英光³⁾，水野博司¹⁾，福永慶隆，鈴木秀典²⁾(¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾同薬理学，³⁾日本化薬株式会社研究開発本部医薬研究所生物グループ評価第二チーム)：Hoechst 33342染色を用いた，脂肪組織由来幹細胞の同定の試み．第6回日本再生医療学会総会，2007．3．
- 4) 藤村樹里，小川 令¹⁾，平川慶子²⁾，植草協子²⁾，湯田浩太郎³⁾，水野博司¹⁾，大野曜吉²⁾，福永慶隆(¹⁾日本医科大学形成外科学，²⁾同法医学NMR研究施設，³⁾富士通パイオIT事業開発本部)：核磁気共鳴法を用いたメタボロミクスによる，脂肪組織由来幹細胞の代謝解析．第6回日本再生医療学会総会，2007．3．

7. 放射線医学講座

[付属病院放射線科，放射線治療科]

研究概要

付属病院放射線科の研究分野は放射線診断部門，核医学部門，血管造影・血管内治療部門，放射線治療部門の4分野に大別される．

(放射線診断)

CT部門では最新型多列検出器型CTを使用した非侵襲的3次元CTの分野では国内外の指導的立場にある．冠動脈CTによる血管狭窄・血管壁性状評価，3次元血管造影法，脳灌流画像，腫瘍病変の血行動態解析を開発し，研究を進めている．MRI部門では最新型3テスラMRI装置を用いた臨床研究が行われており，特に血液疾患や位相画像の基礎研究および高速撮像法に関する研究は高く評価されている．一般撮影部門ではCRによる下肢静脈造影およびフラットパネルを用いたデジタル撮影による乳房撮影の診断精度向上の研究が行われている．その他，造影剤に関する研究やCT・MRIを中心とする画像ネットワークの研究も行われている．

(核医学)

3次元動態解析法を用いた虚血性心疾患の病態解析やモバイル型半導体検出器の研究など循環器核医学領域において国内外で高く評価されている．中枢神経領域では認知症の画像統計学的診断や脳虚血性疾患に関する解析プログラムの開発が進んでいる．PETに関しては，医療検診センターに導入された最新のPET/CTを用いた腫瘍核医学領域に対する研究や画像フュージョンなどの画像処理に関する研究が行われている．

(血管造影・IVR)

血管性病変や悪性腫瘍に対する治療および救急疾患に対するIVR治療では国内外での評価は高く，中心的存在である．肺動脈血栓塞栓症・深部静脈血栓症に対する血栓破砕吸引療法や動脈内ステント療法や腹部悪性腫瘍に対する閉鎖循環下超高濃度抗癌剤治療などの基礎および，臨床研究が行われている．その他，CTガイドによる生検法やラジオ波治療，下肢静脈瘤に対する血管内レーザー照射による静脈閉塞療法の研究も行われている．

(放射線治療)

頭頸部腫瘍・肺癌における化学療法併用療法はその良好な治療成績が注目されている．また頭頸部腫瘍における治療計画や治療効果判定についての超音波検査の研究は高く評価されている．さらに，皮膚良性疾患に対する放射線治療や前立腺癌小線源療法の研究も進んでいる．

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) Tsuboi E, Kato H, Nomura M, Nomura H : Application and Validation of Constant Speed Treadmill Walking Test in Patients with Idiopathic Pulmonary Fibrosis . ATS 2006 International Conference 2006 ; 19-24 .
- 2) Shimizu Y, Kumita S, Cho K, Toba M, Mizumura S, Tanaka K¹⁾, Takano T¹⁾, Kumazaki T¹⁾(¹⁾ Department of Functional Pathophysiology for Human Organs Nippon Medical School): Evaluation of no-reflow phenomenon using 201TlCl/123I-BMIPP dual-isotope myocardial SPECT . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (5): 258-264 .
- 3) 新真理子¹⁾, 山本 剛¹⁾, 小串聡子¹⁾, 村井鋼児¹⁾, 吉川雅智, 岩崎雄樹¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高野仁司²⁾, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾, 中澤 賢, 田島廣之, 隈崎達夫, 神谷仁孝³⁾(¹⁾日本医科大学集中治療室, ²⁾同内科学第1, ³⁾稲田登戸病院循環器科): 肺癌様の腫瘍陰影を呈した肺梗塞の1例 . Therapeutic Research

2006 ; 27 (6) : 1017-1019 .

- 4) Murata S , Tajima H , Fukunaga T , Abe Y , Niggemann P¹⁾ , Onozawa S , Kumazaki T , Kuramochi M²⁾ , Kuramoto K³⁾ (¹⁾ Department of Radiology, RWTH Aachen University Hospital , ²⁾ Department of Radiology, Hitachi General Hospital , ³⁾ Department of Diagnostic Radiology, National Disaster Medical Center) : Management of pancreaticoduodenal artery aneurysms. Results of Superselective Transcatheter embolization . AJR 2006 ; 187 : 290-298 .
- 5) Murakami R : Cutting ballon-associated hemodialysis fistula rupture after failed standard ballon angioplasty . Kidney International. 2006 ; 70 : 825 .
- 6) Miyashita M¹⁾ , Nomura T¹⁾ , Makino H ¹⁾ , Hagiwara N¹⁾ , Takahashi K¹⁾ , Sakata Y¹⁾ , Nagata K²⁾ , Iwakiri K²⁾ , Tajima H¹⁾ , Tajiri T (¹⁾ Surgery for Organ Function and Biological Regulation , ²⁾ Department of Gastroenterology) : Computed tomography-guided mediastinal drainage for iatrogenic perforation of the esophagus . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 337-340 .
- 7) Murakami R , Tajima H , Kumita S : Cutting balloon-associated hemodialysis fistula rupture after failed standard balloon angioplasty . Kidney Int. 2006 ; 70 : 825 .
- 8) Uchiyama N¹⁾ , Moriyama Noriyuki ¹⁾ , Kitagawa Mayumi ¹⁾ , Gomi Shiho ¹⁾ , Nagai Yuichi ²⁾ (¹⁾ 国立がんセンター がん予防・検診研究センター , ²⁾ 同中央病院 放射線診断部) : Clinical Optimization of Filters in Direct a-Se FFDM (Full Field Digital Mammography) System . Splinger-Verlag 2006 ; 315-323 .
- 9) Uchiyama Nachiko ¹⁾ , Moriyama Noriyuki ¹⁾ , Yamada Takayuki ²⁾ , Ohuchi Noriaki ³⁾ (¹⁾ 国立がんセンター がん予防・検診研究センター , ²⁾ 東北大学・大学院医学系研究科・腫瘍外科分野 , ³⁾ 東北大学・大学院医学系研究科・病態制御学講座・放射線診断学分野) : The Impact of Integration of Computer-Aided detection and Human Observers . Splinger-Verlag 2006 ; 105-110 .
- 10) Kuroki Yoshifumi¹⁾ , Nawano Shigeru¹⁾ , Kobatake Hidefumi²⁾ , Uchiyama Nachiko³⁾ , Shimura Kazuo⁴⁾ , Matan Kouji ⁵⁾ (¹⁾ 国立がんセンター 東病院 放射線診断部 , ²⁾ 東京農工大学院生物システム応用科学研究所 , ³⁾ 国立がんセンター がん予防・検診研究センター , ⁴⁾ 富士フィルム , ⁵⁾ 富士フィルムメディカル) : Computer-Aided detection of Breast Cancer Using an Ultra-Resolution Liquid Crystal Display : Reading Session Analysis . Splinger-Verlag 2006 ; 92-96 .
- 11) Amano Y , Kumazaki T : Differences in null points between the left and right ventricles in contrast-enhanced inversion-recovery MR imaging in patients with cardiac diseases . Comput Med Imag Graph 2006 ; 30 : 147-151 .
- 12) Hayashi H , Hidaka F , Kumazaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Cardiovascular Surgery) : Serial assessment of the development of inflammatory abdominal aortic aneurysm from ordinary abdominal aortic aneurysm using multidetector-row computed tomography . Heart Vessels 2006 ; 21 : 334-337 .
- 13) Hayashi H , Yoshihara H , Takagi R , Kumazaki T : Minimally invasive diagnosis of persistent sciatic artery by multidetector-row computed tomography . Heart Vessels 2006 ; 21 : 267-269 .
- 14) Takahashi Y , Mori Shinichiro , Kozuka Takuyo , Gomi Kotaro , Nose Takuyuki , Tahara T , Oguchi M , Yamashita T : Preliminary Study of Correction of Original Metal Artifacts due to I-125 Seeds in Postimplant Dosimetry for Prostate Permanent Implant Brachytherapy . Radiation Medicine 2006 ; 24 (2) : 133-138 .
- 15) Koizumi M , Koyama M , Yamashita T , Tada K , Nishimura S , Takahashi K , Makita M , Iwase T , Yoshimoto M , Kasumi F : Experience with intradermal injection and intradermal-plus-deep Injection in the radioguided sentinel node biopsy of early breast cancer patients . EJSO 2006 ; 32 : 738-742 .
- 16) Koizumi M , Koyama M , Yamashita T , Tada K , Nishimura S , Takahashi K , Makita M , Iwase T , Yoshimoto M , Kasumi F : Experience with intradermal injection and intradermal-plus-deep Injection in the ra-

- dioguided sentinel node biopsy of early breast cancer patients . EJSO 2006 ; 32 : 738-742 .
- 17) Kasumi F , Takahashi K , Nishimura S , Iijima K , Miyagi U , Tada K , Makit M , lwase T , Oguchi M , Yamashita T , Akiyama F , S : Experience with Breast-Conserving Surgery without Radiotherapy : 6. 5 Year Follow-Up Results of 1462 Patients . The Breast Journal 2006 ; 12 : 181-190 .
- 18) Nose T , Komoike Y , Yoshida K , Koizumi M , Motomura K , Kasugai T , Inaji H , Nishiyama K , Koyama H , Kozuka T , Gomi K , Oguchi M , Takahashi Y , Sumida I , Yamashita T : A Pilot Study of Wider Use of Accelerated Partial Breast Irradiation Intraoperative Margin-directed Re-Excision Combined with Sole High-dose-rate interstitial Brachytherapy . Breast Cancer 2006 ; 13 : 289-299 .
- 19) Takahashi Y , Ito A , Sumida I , Kozuka T , Gomi K , Nose T , Yamashita T : Dosimetric consideration of individual I-125 source strength measurement and the large-scale comparison of measured with nominal value in permanent prostate implant brachytherapy . Radiat Med 2006 ; 24 (10) .
- 20) 田島廣之¹⁾ , 村田 智¹⁾ , 中澤 賢¹⁾ , 市川和雄¹⁾ , 福永 毅¹⁾ , 小野澤志郎¹⁾ , 村上隆介¹⁾ , 林 宏光¹⁾ , 隈崎達夫¹⁾ , 山本 剛²⁾ , 高山守正²⁾ , 田中啓治²⁾ , 高野照夫²⁾ (¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター , ²⁾付属病院第一内科・集中治療室) : 急性塊状肺血栓塞栓症に対するハイブリット血管内治療 : 血栓溶解・破碎・吸引療法 . 日本血管内治療学会誌 2006 ; 7 (1) : 39 .
- 21) 山本 鼎 : 高速らせんCTを加えた自治体主催肺癌1次健診の経験 (第4報) : 5年間の成績 . CT健診 2006 ; 13 (2) : 143-154 .
- 22) 新 真理子¹⁾ , 山本 剛¹⁾ , 小串聡子¹⁾ , 村井鋼児¹⁾ , 吉川雅智¹⁾ , 岩崎雄樹¹⁾ , 佐藤直樹¹⁾ , 田中啓治¹⁾ , 高野仁司²⁾ , 高山守正²⁾ , 高野照夫²⁾ , 中澤 賢 , 田島廣之 , 隈崎達夫 , 神谷仁孝³⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院集中治療室 , ²⁾同内科学第1 , ³⁾稲田登戸病院循環器科) : 肺癌様の腫瘍陰影を呈した肺梗塞の1例 . Therapeutic Research 2006 ; 27 (6) : 1017-1019 .
- 23) 篠原義智¹⁾ (¹⁾多摩南部地域病院放射線科) : CTガイド下肺針生検 . 気管支学 2006 ; 28 (8) : 566-571 .
- 24) 村田 智 : 骨盤部悪性腫瘍動注療法 . 臨床放射線 2006 ; 51 (11) : 1629-1634 .
- 25) 福永 淳¹⁾ , 五十嵐誠治²⁾ (¹⁾栃木県立がんセンター画像診断部 , ²⁾同臨床検査部病理) : 膵・胆道周囲の腫瘍性病変 後腹膜を中心に 膵・胆道周囲の腫瘍性病変 "後腹膜奇形腫" . 消化器画像 2006 ; 8 (6) : 746-750 .
- 26) 小野啓資¹⁾ , 根井貴仁¹⁾ , 弦間昭彦¹⁾ , 山岸茂樹¹⁾ , 平井恭二²⁾ , 小泉 潔²⁾ , 田島廣之 , 川本雅司³⁾ , 工藤翔二¹⁾ (¹⁾呼吸器内科 , ²⁾外科学第2 , ³⁾病理学第1) : 気管支動脈派造影及びAngio CTで濃染し , 血管性病変との鑑別が困難であった肺カルチノイドの1例 . 気管支 2006 ; 28 (7) : 521-525 .
- 27) 坪井永保 , 宮本 篤 , 高谷久史 : 運動療法を含む呼吸リハビリテーションを行ったCOPD症例のBODE indexに関する検討 . 臨床呼吸生理 2006 ; 38 (1) : 27-30 .
- 28) 西村哲夫 , 山下 孝 , 広川 裕 , 井上武宏 , 築山 巖 , 渋谷 均 : わが国における小線源治療に関する事故調査報告 . 日本放射線腫瘍学会誌 2006 ; 18 : 35-38 .
- 29) 大西 洋 , 永田 靖 , 平岡真寛 , 白土博樹 , 五味光太郎 , 山下 孝 , 有本卓朗 , 唐澤克之 , 新部 譲 , 早川和重 , 高井良尋 , 木村智樹 , 武田篤也 , 大内 敦 , 晴山雅人 , 小久保雅樹 , 原 竜介 , 伊丹 純 , 山田和成 : I期非小細胞肺癌に対する定位放射線治療 日本多施設共同研究 グループの14施設300症例の成績臨床放射線 . 臨床放射線 2006 ; 51 (10) .
- 30) 堀内淳一 : 私の研究履歴書 : 放射線治療 , 特に小線源治療と歩んだ道 . 老人病研究記要 2006 ; 15 (1) : 54-59 .
- 31) 小野澤志郎¹⁾ , 田島廣之¹⁾ , 村田 智¹⁾ , 古川一博¹⁾ , 中澤 賢¹⁾ , 福永 毅¹⁾ (¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター) : IX 泌尿器科疾患とIVR : 腎外傷を含んで . 臨床透視 2007 ; 23 (1) : 85-92 .
- 32) 小林宏之 , 村上隆介 , 黒田大介 , 増山桂一 , 土橋俊男 , 汲田伸一郎 : ここまで来たFPDシステム IV アプリケーション・レポート : マンモグラフィ 2. マンモグラフィ6年の使用経験と今後の期待 . Innervision 2007 ; 22 (2) : 78-80 .

- 33) 坪井永保：呼吸リハビリテーションにおける 運動療法．Modern Physician 2007；27(1)：149-153．
- (2) 綜説：
- 1) Kumita S：Clinical application of ECG-gated myocardial perfusion SPECT．J Nippon Med Sch 2006；73(5)：248-257．
 - 2) Amano M²⁾, Okuda T³⁾, Amano Y¹⁾, Tajiri T³⁾, Kumazaki T²⁾(¹⁾Radiology, ²⁾Center for Advanced Medical Technology, ³⁾Surgery)：MR imaging of gastrointestinal tumor in the abdomen and pelvis．Clinical Imaging 2006；30：127-131．
 - 3) 山下 孝, 小塚拓洋, 五味光太郎, 福井 巖, 米瀬淳二, 大久保雄平：前立腺癌の小線源治療．日本医事新報 2006；1277．
 - 4) 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 市川和雄¹⁾, 福永 毅¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 佐藤英尊¹⁾, 村上隆介¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター)：深部静脈血栓症のIVR治療(特集：血管系の良性疾患のIVR)．Radiology Frontier 2006；9(2)：91-94．
 - 5) 古川一博, 天野康雄, 田島廣之, 汲田伸一郎, 林 宏光, 町田 幹, 隈崎達夫：4．組織, 画像, 遺伝子診断 2)腎疾患の画像診断 腎疾患の画像診断．臨床検査 2006；50(5)：551-558．
 - 6) 内山菜智子：国際的なデジタル技術の普及．乳癌の臨床 2006；250-255．
 - 7) 内山菜智子：実践デジタルマンモグラフィ 基礎から診断まで．モニタ診断 2006；29-38．
 - 8) 篠原義智¹⁾(¹⁾多摩南部地域病院放射線科)：CTガイド下肺針生検．気管支学 2006；28(5)：387-392．
 - 9) 館野展之, 田島廣之：胸部 胸部疾患 肺血栓塞栓症, 気胸, 心筋梗塞, 肺水腫, 大動脈解離, 食道破裂特集・救急画像・検査の選択, 診断, そして次の一手(特集：救急画像・検査の選択, 診断, そして次の一手)．レジデントノート9月号 2006；8(9)：821-830．
 - 10) 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 福永 毅¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 佐藤英尊¹⁾, 山本 剛²⁾, 田中啓治²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾集中治療室)：Interventional Radiology のコツ 胸部 急性肺血栓塞栓症．臨床放射線 2006；51(11)：1396-1404．
 - 11) 内山菜智子：デジタルマンモグラフィの有用性とモニタ診断．新医療 2006；122-124．
 - 12) 汲田伸一郎, 福嶋善光, 鳥羽正浩, 石原圭一：PET/CTの心臓領域への応用；Heart fusionを含めた今後の進化を考える．新医療 2006；34：58-60．
 - 13) 高木 亮：CT perfusion．画像診断 2006；22(4)：28-37．
 - 14) 高木 亮：脳・頭頸部領域におけるマルチスライスCTの臨床応用．日独医報 2006；51(2)：22-35．
 - 15) 天野康雄, 松村善雄¹⁾, 竹下俊行²⁾(¹⁾放射線技師室, ²⁾女性診療科・産科)：妊娠中のMRI 安全性と有用性．産婦人科の世界 2006；58：879-886．
 - 16) 林 宏光：血管疾患の診断における画像診断の重要性：マルチスライスCTを中心に．外科 2006；68：1241-1250．
 - 17) 早川克己¹⁾, 鳴海義文²⁾, 林 宏光, 桑鶴良平³⁾(¹⁾京都私立病院放射線科, ²⁾大阪府成人病センター放射線科, ³⁾東京女子医科大学放射線科)：造影剤の適正使用推進ガイド：造影剤添付文書の考え方．臨床画像 2006；22：1400-1408．
 - 18) 林 宏光：血管疾患の診断における画像診断の重要性：マルチスライスCTを中心に．外科 2006；68：1241-1250．
 - 19) 林 宏光, 隈崎達夫：循環器：MDCT．Vascular Lab 2006；3：151-158．
 - 20) 林 宏光, 隈崎達夫：臨床医学の展望：臨床放射線医学(診断面)．日本医事新報 2006；4267：46-53．
 - 21) 宮内雅人, 山本保博, 宮下次廣, 田島廣之：救急画像カンファレンス．Q & A．連載8回目．救急医学 2006；30：861-863．
 - 22) 田島廣之：致死的深部静脈血栓症に対する血栓溶解破砕吸引療法の基礎並びに臨床応用に関する研究．IN-

NERVISION 2006 ; 21-31 .

- 23) 田島廣之: 職業性肺疾患の画像診断: アスベスト関連呼吸器疾患を中心として: 序説. 臨床画像 2006 ; 23 (5) .
- 24) 田島廣之: 下肢静脈瘤のIVR: 序説. 臨床画像 2006 ; 23 : 215 .
- 25) 能勢隆之, 山下 孝: 婦人科癌放射線治療? Adjuvantの適応, 要約の整理, Palliativeな治療の適応と照射方法. 産婦人科の世界 (別冊) 2006 ; 58 (2): 11-15 .
- 26) 能勢隆之, 菰池佳史, 吉田 謙, 元村和由, 稲治英生, 小山博記, 山下 孝: 新しい放射線照射法: 小線源放射線治療を中心に. Mamma 2006 ; 53 .
- 27) 山下 孝, 能勢隆之, 隅田伊織: 特集 乳癌患者への適切な対応 5) 放射線治療の進め方. 臨床腫瘍プラクティス (別冊) 2006 ; 2 (2): 170-173 .
- 28) 大城佳子, 山下 孝, 小口正彦, 五味光太郎, 能勢隆之, 小塚拓洋, 熊田まどか, 田原誉敏: 特殊な方法: がん性疼痛に対する放射線治療. ペインクリニック 2006 ; 27 : 221-227 .
- 29) 山下 孝, 五味光太郎, 小塚拓洋: 前立腺癌に対する放射線治療の現況. 日本医師会雑誌 (別冊) 2006 ; 135 (4): 858-859 .
- 30) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 古川一博¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 福永 毅¹⁾ (¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター): 【各論】IX 泌尿器科疾患とIVR: 腎外傷を含んで (特集: 透析患者における Interventional radiology). 臨床透析 2007 ; 23 (1): 85-92 .

(3) 研究報告書:

- 1) 猪原則行¹⁾, 甲斐敏弘¹⁾, 山田公雄¹⁾, 渡部英之¹⁾, 漆原 彰¹⁾, 姉崎千津子¹⁾, 後藤綾乃¹⁾, 小川めぐみ¹⁾, 鈴木秀子¹⁾, 小口和子¹⁾, 吉田 稔¹⁾, 出口淳子¹⁾ (¹⁾大宮共立病院緩和ケアチーム): がん緩和ケア: 一般病棟における緩和ケアチームの関わり. 日本医事新報 2006 ; (306): pp68-73 .
- 2) 猪原則行¹⁾, 渡部英之¹⁾, 漆原 彰¹⁾ (¹⁾大宮共立病院): 一般病棟における癌緩和ケアチーム. 埼玉県医学会雑誌 2006 ; 41 (3) .

著 書

- 1) 天野康雄: [分担] 臨床と病理のための乳腺MRIアトラス. 画像と組織像の完全対比 (土屋真一, 隈崎達夫監修, 草間 律, 高山文吉編), 2006 ; 医療科学社 .
- 2) 田島廣之, 天野康雄: [分担] 画像と組織像の完全対比. 臨床と病理のための乳腺MRIアトラス (隈崎達夫, 土屋真一監修), 2006 ; pp1-271, 医療科学社 .
- 3) 坪井永保: [自著] II. 在宅酸素療法の準備と実施「治療効果と評価」. 在宅酸素療法改訂第2版, 2006 ; 克誠堂出版 .
- 4) 坪井永保: [自著] III. 各疾患における在宅酸素療法の実際「1. 肺結核後遺症」. 在宅酸素療法改訂第2版, 2006 ; 克誠堂出版 .
- 5) 林 宏光: [分担] IV. 大動脈疾患を診る 2. 大動脈解離 1). MDCTで診る. 新・心臓病診療プラクティス (栗林幸夫 (編)), 2006 ; pp233-239, 分光堂 .
- 6) 林 宏光: [分担] 偽腔開存型大動脈解離における遅延血流と血栓との鑑別. 大動脈瘤・大動脈解離診療のコツと落とし穴 (田林暁一, 栗林幸夫 (編)), 2006 ; p69, 中山書店 .
- 7) 林 宏光: [分担] 血栓閉塞型大動脈解離とulcer-like projection. 大動脈瘤・大動脈解離診療のコツと落とし穴 (田林暁一, 栗林幸夫 (編)), 2006 ; pp72-73, 中山書店 .
- 8) 天野康雄, 伊藤研一, 伊藤勅子, 田島廣之: [共著] 総論. 第1章. 乳腺MRIのbasic science. 臨床と病理のための乳腺MRIアトラス: 画像と組織像の完全対比 (土屋真一・隈崎達夫監修, 草間 律・高山文吉編集), 2006 ; pp3-28, 医療科学社 .
- 9) 天野康雄, 伊藤研一, 伊藤勅子, 田島廣之: [共著] 総論. 第2章. MRIをみるための乳腺病理. 臨床と病理の

ための乳腺MRIアトラス-画像と組織像の完全対比(土屋眞一・隈崎達夫監修, 草間 律・高山文吉編集), 2006; pp29-58, 医療科学社.

- 10) 天野康雄, 伊藤研一, 伊藤勅子, 田島廣之: [共著] 総論. 第3章. 乳腺診療の実際とそのフローチャート. 臨床と病理のための乳腺MRIアトラス: 画像と組織像の完全対比(土屋眞一・隈崎達夫監修, 草間 律・高山文吉編集), 2006; pp59-70, 医療科学社.
- 11) 天野康雄, 伊藤研一, 伊藤勅子, 田島廣之: [共著] 総論. 第4章. 乳腺MRI診断の進め方. 臨床と病理のための乳腺MRIアトラス: 画像と組織像の完全対比(土屋眞一・隈崎達夫監修, 草間 律・高山文吉編集), 2006; pp71-95, 医療科学社.
- 12) 天野康雄, 伊藤研一, 伊藤勅子, 田島廣之: [共著] 各論. 第5章. 組織型別にみたMRI画像. 臨床と病理のための乳腺MRIアトラス: 画像と組織像の完全対比(土屋眞一・隈崎達夫監修, 草間 律・高山文吉編集), 2006; pp96-271, 医療科学社.
- 13) 坪井永保: [自著] 呼吸器疾患の治療手技「肺理学療法」. 呼吸器疾患最新の治療2007, 2007; 南江堂.
- 14) 田島廣之, 市川和雄: [共著] Body Packer. マルチスライスCTによる腹部救急疾患の画像診断(坂本 力, 早川克己, 中島康雄, 水沼仁孝編), 2007; pp111-112, 秀潤社.
- 15) 町田 幹, 田島廣之: [共著] 骨盤損傷/骨折. マルチスライスCTによる腹部救急疾患の画像診断(坂本 力, 早川克己, 中島康雄, 水沼仁孝編), 2007; pp158-159, 秀潤社.
- 16) 中澤 賢, 田島廣之: [共著] 針生検後の合併症. 肺. マルチスライスCTによる腹部救急疾患の画像診断(坂本 力, 早川克己, 中島康雄, 水沼仁孝編), 2007; pp158-159, 秀潤社.

学会発表

[2006 年度追加分]

特別講演:

- 1) 林 宏光, 栗林幸夫¹⁾, 陣崎雅弘¹⁾, 天沼 誠²⁾, 飯野美佐子³⁾, 大瀧 誠⁴⁾, 木村文字⁵⁾, 黒木一典⁶⁾, 小林泰之⁷⁾, 佐久間亨⁸⁾, 似鳥俊明⁹⁾, 横山健一⁹⁾, 原田潤太¹⁰⁾, 氷見和久, 星 俊子, 山口敏雄, 山田哲久⁽¹⁾ 慶應義塾大学医学部放射線診断科, ²⁾ 群馬大学医学部附属病院放射線部, ³⁾ 東海大学医学部基盤診療学系画像診断学, ⁴⁾ 東海大学医学部八王子病院・放射線科, ⁵⁾ 埼玉医科大学放射線科, ⁶⁾ 聖マリアンナ医科大学東横病院放射線科, ⁷⁾ 聖マリアンナ医科大学放射線医学, ⁸⁾ 東京慈恵会医科大学放射線医学, ⁹⁾ 杏林大学医学部放射線医学, ¹⁰⁾ 東京慈恵会医科大学附属柏病院放射線科, 日本大学医学部附属板橋病院放射線科, 埼玉県立循環器・呼吸器病センター放射線科, 東京労災病院放射線科): 心臓CT検査の現状: Tokyo Heart Imaging Clubにおけるアンケート調査報告. 第62回心臓血管放射線研究会, 2006. 1.

一般講演:

- 1) 林 宏光, 日高史貴, 鳥羽正浩, 高木 亮, 隈崎達夫, 佐々木孝¹⁾, 新田 隆¹⁾, 落 雅美¹⁾ (¹⁾ 心臓血管外科): MDCTによる左室心筋内脂肪種の評価: 局在診断から質的診断まで. 第16回日本心血管画像動態学会, 2006. 1.
- 2) 林 宏光, 高木 亮, 高浜克也, 貝津俊英, 清水康弘, 館野展之, 福嶋善光, 栗林茂彦, 日高史貴, 佐藤英尊, 桐山智成, 箱崎謙太, 隈崎達夫: CEV-CPRを利用した新しい血管狭窄病変の自動診断: Color mapによる定性評価と狭窄部径の定量評価. 第11回3次元CT・MRI研究会, 2006. 2.

(1) 特別講演:

- 1) Hayashi H: Clinical usefulness of use of high-concentration contrast media in patients with diverse cardiovascular disease. First adversary board meeting of contrast media on multislice CT. (Osaka), 2006. 1.
- 2) Hayasi H: Contrast induced nephropathy. Prevention and management (Carlo Briguori MD, PhD), 2006. 6.

- 3) Hayashi H : Clinical usefulness of use of high-concentration contrast media in patients with diverse cardiovascular disease. . First adversary board meeting of contrast media on multislice CT, 2007 . 1 .
 - 4) 林 宏光 : マルチスライスCTによる心臓・脈管疾患の低侵襲的診断 : 大動脈から冠動脈・Adamkiewicz動脈まで . 第22回奈良血管疾患研究会, 2006 . 2 .
 - 5) 高木 亮 : CT灌流画像 : 現状と今後の展望 . 第四回金沢MDCT講演会, 2006 . 3 .
 - 6) 中澤 賢¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 市川和雄¹⁾, 福永 毅¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 隈崎達夫¹⁾, 山本 剛²⁾, 田中啓治²⁾, 高野照夫³⁾ (¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾集中治療室, ³⁾内科学第1) : 急性塊状肺血栓塞栓症に対する血栓溶解・破砕・吸引療法 : 70例の検討 . 第65回日本医学放射線学会学術大会, 2006 . 4 .
 - 7) 汲田伸一郎 : 心不全症例に対する核医学診断の実際と将来展望 . 第27回 心臓核医学研究会, 2006 . 5 .
 - 8) 汲田伸一郎 : 心不全における画像診断とその治療 . 心臓核医学研究会, 2006 . 5 .
 - 9) 林 宏光 : マルチスライスCTによる消化器疾患の画像診断 : volumetric visualization and analysis . 第24回小石川消化器病フォーラム, 2006 . 6 .
 - 10) 林 宏光 : Contrast media : clinical questions . Midsummer seminar : 造影剤適正使用推進会議, 2006 . 7 .
 - 11) 汲田伸一郎 : 臨床に即した心臓核医学 ; 今後の展望を含めて . 第2回 セとうち心臓核医学研究会, 2006 . 8 .
 - 12) 汲田伸一郎 : 治療に即して進化する心臓核医学 . 第43回 兵庫県核医学研究会, 2006 . 9 .
 - 13) 汲田伸一郎 : PET/CT診療の実際と今後の展望 . 第1回明葉大・日医大 連携公開講座, 2006 . 9 .
 - 14) 田島廣之 : 急性肺血栓塞栓症に対する血管内治療 . 第12回山口血流障害治療研究会, 2006 . 9 .
 - 15) 田島廣之 : 泌尿器科領域における画像診断とInterventional Radiologyの進歩 . 第23回東京泌尿器科医会学術集会, 2006 . 9 .
 - 16) 林 宏光 : MDCT進化論 : 循環器領域における進歩を中心に . 最先端技術セミナー, 2006 . 10 .
 - 17) 汲田伸一郎 : 心臓核医学の臨床的有用性 ; J-ACCESSについて . 第25回 臨床画像診断懇話会 (群馬), 2006 . 10 .
 - 18) 林 宏光 : MDCT進化論 : 循環器領域における進歩を中心に . 最先端技術セミナー, 2006 . 10 .
 - 19) 汲田伸一郎 : 冠動脈疾患の非侵襲的診断はCT/MRIか心筋シンチか? . 循環器病学の論点, 2006 . 11 .
 - 20) 汲田伸一郎 : 心臓核医学の実際と今後の展望 . 第820回 放射線診療研究会, 2006 . 12 .
 - 21) 田島廣之 : 静脈血栓塞栓症におけるインターベンション . 第7回千葉臨床生理学セミナー, 2006 . 12 .
 - 22) 田島廣之 : 救急疾患のIVR . 第22回東海IVR研究会, 2006 . 12 .
- (2) 招待講演 :
- 1) 村田 智 : 難治性がんに対するIVR . 第14回鹿児島IVR研究会, 2006 . 7 .
- (3) 教育講演 :
- 1) 林 宏光 : Multislice CT in Cardiac Imaging : 検査の基礎からその特徴を活かした活用法まで . 第1回札幌ハートイメージングクラブ, 2006 . 5 .
 - 2) 林 宏光 : 動脈硬化の非観血的診断 : マルチスライスCT . 第6回動脈硬化教育フォーラム, 2006 . 2 .
 - 3) 林 宏光 : 大血管の画像診断・CT . 第65回日本医学放射線学会総会, 2006 . 4 .
 - 4) 田島廣之, 村田 智, 村上隆介, 市川和雄, 中澤 賢, 福永 毅, 館野展之, 小野澤志郎 : 静脈血栓塞栓症の診断と治療 肺血栓塞栓症の診断とIVR . 第65回日本医学放射線学会総会, 2006 . 4 .
 - 5) 水村 直 : 脳統計画像解析における技術的な注意点 . MICCS, 2006 . 4 .
 - 6) 林 宏光 : Multislice CT in Cardiac Imaging : 検査の基礎からその特徴を活かした活用法まで . 第1回札幌ハートイメージングクラブ, 2006 . 5 .
 - 7) 田島廣之, 村田 智, 村上隆介, 川俣博志, 市川和雄, 中澤 賢, 福永 毅, 小野澤志郎 : IV 静脈血栓塞栓症のIVR : 急性肺血栓塞栓症 . 第35回日本IVR学会総会, 2006 . 5 .
 - 8) 田島廣之, 南口博紀¹⁾, 山上卓士²⁾ (¹⁾和歌山県立医科大学, ²⁾京都府立医科大学) : IV 静脈血栓塞栓症のIVR . 第35回日本IVR学会総会, 2006 . 5 .

- 9) 林 宏光：マルチスライスCTによる消化器疾患の画像診断：何が、どこまでわかるようになったのか。第401回東京消化器病研究会，2006．7．
- 10) 田島廣之：胃がん検診スキルアップコース．小石川医師会読影会，2006．7．
- 11) 高木 亮：CT/MRによる血管性脳疾患検査について．神戸パイオメディカル・エンジニアリング講座，2006．9．
- 12) 林 宏光：閉塞性動脈硬化症の臨床と必要な画像診断．第9回 Tokyo Heart Imaging Club，2006．10．
- 13) 林 宏光：冠動脈CT検査の進歩と展望．第202回日本循環器病学会関東甲信越地方会，2006．12．
- 14) 田島廣之：肺癌検診2次精検の実際．豊島区医師会胸部読影班研修会，2006．12．
- (4) シンポジウム：
- 1) Tajima H, Murata S, Onozawa S, Nakazawa K, Fukunaga T, Kawamata H, Nakahara M, Takagi R, Hosaka J, Kumazaki T : Hybrid interventional treatment of severe deep venous thrombosis . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2006 . 9 .
- 2) Hosaka J, Hidaka F, Takagi I, Takagi R, Murata S, Tajima H, Kumazaki T : Ultrasound-guided sclerotherapy to occlude insufficient perforating vein . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2006 . 9 .
- 3) Murata S, Tajima H, Nakazawa K, Onozawa S, Uchiyama F, Kumita S, Nomura K : Management of unresectable hepatocellular carcinoma with marked arterio-portal shunts. Effectiveness of transcatheter arterial chemoembolization under balloon occlusion of the corresponding Portal vein . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2006 . 9 .
- 4) Takagi R, Hayashi H, Yoshihara H, Kumita S, Tajima H, Kumazaki T : CT perfusion with permeability surface map in the assessment of glioma . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2006 . 9 .
- 5) Onozawa S, Murata S, Tajima H, Watari J, Uchiyama F, Hidaka F, Hosaka J, Takagi R : Closed renal circuit for ethanol embolization. Preliminary experiment and clinical investigation of renal cell carcinoma . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2006 . 9 .
- 6) Uchiyama F, Murata S, Tajima H, Ichikawa K, Watari J, Onozawa S, Kumita S, Nomura K : Transcatheter oily chemoembolization combined with embolization using degradable starch microspheres in patients with cirrhosis and hepatocellular carcinoma . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2006 . 9 .
- 7) 林 宏光：16スライス心臓CT検査の現状：画像再構成と画像処理．第8回 Tokyo Heart Imaging Club，2006．5．
- 8) 中沢 賢，田島廣之，村田 智，市川和雄，福永 毅，佐藤英尊，小野澤志郎：急性下肢動脈閉塞症に対するステント留置術．第25回日本 Metallic Stents & Grafts研究会，2006．5．
- 9) 篠原義智¹⁾(¹⁾多摩南部地域病院放射線科)：肺野末梢病変に対するアプローチ CTガイド下肺針生検．第29回日本呼吸器内視鏡学会学術集会，2006．6．
- 10) 田島廣之廣之，村田 智，市川和雄，中澤 賢，福永 毅，小野澤志郎，山本 剛¹⁾，田中啓治¹⁾(¹⁾CCU)：深部静脈血栓症に対する大腿静脈アプローチを主体とした血管内治療．第12回日本血管内治療学会，2006．6．
- 11) 内山菜智子：共同開催シンポジウム乳房画像のモニター診断の現状と将来．(社)日本放射線技術学会 (社)日本写真学会 医用画像研究会会長 主催，2006．7．
- 12) 村田 智，田島廣之，中澤 賢，小野澤志郎，汲田伸一郎，田尻 孝¹⁾，山本保博²⁾(¹⁾外科学，²⁾救急医学)：内視鏡的に止血困難な非静脈瘤性消化管出血に対するNBCAを用いた塞栓術の有用性．第43回日本腹部救急医学会総会，2007．3．
- 13) 隈崎達夫：急性腹症：画像診断の進歩．第43回日本腹部救急医学会総会，2007．3．
- 14) 内山菜智子：共同開催シンポジウム乳房画像のモニター診断の現状と将来．(社)日本放射線技術学会，2007．7．

(5) セミナー :

- 1) 汲田伸一郎: PET/CTの心臓領域への応用. 第46回 日本核医学会総会, 2006. 5.
- 2) 篠原義智⁽¹⁾ (多摩南部地域病院放射線科): 病理と生検 CTガイド下肺針生検. 第18回気管支鏡セミナー, 2006. 6.
- 3) 保坂純郎: 下肢静脈瘤診療の最前線: 低侵襲治療法を中心に. 第1回日本IVR学会関東地方会, 2006. 7.
- 4) 林 宏光: ヨード造影剤による腎機能障害: 現状と対策. 第42回日本医学放射線学会秋期臨床大会, 2006. 10.
- 5) 村田 智: 難治性がんに対するIVR, 灌流療法の概念とその応用. 第42回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2006. 10.
- 6) 石原圭一: 外部線源とX線CTの両者を搭載したPET / CTの将来像: 診断精度と検査効率の向上を目指して. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.

(6) 一般講演 :

- 1) Amano Y, Kumazaki T, Suzuki Y¹⁾ (¹⁾ Philips Medical Systems): Pre- and postcontrast Three-dimensional Cardiac Cine MRI using SENSE and k-t BLAST . the 14th annual meeting of ISMRM (Seattle), 2006 . 5 .
- 2) Amano Y, Kumazaki T : Cine Viability Cardiac MRI using Contrast-enhanced 3D Balanced Steady-state Free Precession Imaging . the 14th annual meeting of ISMRM (Seattle), 2006 . 5 .
- 3) Amano Y, Kumazaki T : Differences in Null Points between the Left and Right Ventricles in Contrast-enhanced Inversion-recovery MRI in Patients with Cardiac Diseases : the 14th annual meeting of ISMRM (Seattle), 2006 . 5 .
- 4) Uchiyama N¹⁾, Moriyama Noriyuki ¹⁾, Yamada T²⁾, Ohuchi N³⁾ (¹⁾ 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ²⁾ 東北大学・大学院医学系研究科・腫瘍外科分野, ³⁾ 東北大学・大学院医学系研究科・病態制御学講座・放射線診断学分野): The Impact of Integration of Computer-Aided detection and Human Observers . IWDM2006 (Manchester), 2006 . 6 .
- 5) Uchiyama Nachiko ¹⁾, Moriyama N¹⁾, Kitagawa M¹⁾, Gomi S¹⁾, Nagai Yuichi ²⁾ (¹⁾ 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ²⁾ 国立がんセンター中央病院放射線診断部): Clinical Optimization of Filters in Direct a-Se FFDM (Full Field Digital Mammography) System . IWDM2006 (Manchester), 2006 . 6 .
- 6) Uchiyama N¹⁾, Moriyama Noriyuki ¹⁾, Yamada Takayuki ²⁾, Ohuchi Noriaki ³⁾ (¹⁾ 国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ²⁾ 東北大学・大学院医学系研究科・腫瘍外科分野, ³⁾ 東北大学・大学院医学系研究科・病態制御学講座・放射線診断学分野): The Impact of Integration of Computer-Aided detection and Human Observers . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society 9th Nordic Japan PACS Sweden, (Stockholm), 2006 . 9 .
- 7) Takagi Ryo , Yoshihara H , Hayashi Hiromotsu , Kumita S , Tajima Hiroyuki , Kumazaki T : CT perfusion with permeability surface map in the assessment of glioma scientific papers . SJRS (Stockholm), 2006 . 9 .
- 8) Utiyama F¹⁾, Murata Satoru , Tajima Hiroyuki , Ichikawa Kazuo¹⁾, Watari Jun¹⁾, Onozawa Shiro , Kumita Shinichiro , Nomura Kazuhiro²⁾ (¹⁾ Ebina General Hospital , ²⁾ National Cancer Center Hospital): Transcatheter Oily Chemoembolization Combined with Embolization Using Degradable Starch Microspheres in Patients with Cirrhosis and Hepatocellular Carcinoma . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society · 9th Nordic Japan PACS Symposium (Stockholm), 2006 . 9 .
- 9) Machida M , Uchiyama N , Hamada Y , Moriyama N (¹⁾ Research Center for Cancer Prevention and Screening National Cancer Center): Synchronous position display system in breast ultrasound . The 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2006 . 9 .
- 10) Tajima H : Hybrid interventional treatment of severe deep venous thrombosis . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2006 . 9 .

- 11) Hosaka J : Ultrasound-guided sclero-therapy to occlude insufficient perforating vein . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm) , 2006 . 9 .
- 12) Murata S : Management of unresectable hepatocellular carcinoma with marked arterio-portal shunts. Effectiveness of transcatheter arterial chemoembolization under balloon occlusion of the corresponding Portal vein . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm) , 2006 . 9 .
- 13) Takagi R : CT perfusion with permeability surface map in the assessment of glioma . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm) , 2006 . 9 .
- 14) Onozawa S : Closed renal circuit for ethanol embolization. Preliminary experiment and clinical investigation of renal cell carcinoma . 6th Symposium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm) , 2006 . 9 .
- 15) Uchiyama N¹⁾, Moriyama Noriyuki¹⁾, Kitagawa Mayumi¹⁾, Gomi Shiho¹⁾, Nagai Yuichi²⁾(¹⁾ 国立がんセンターがん予防・検診研究センター , ²⁾ 国立がんセンター中央病院放射線診断部): Clinical Optimization of Filters in Direct a-Se FFDM (Full Field Digital Mammography) System . RSNA2006, (Chicago) , 2006 . 11 .
- 16) Uchiyama N¹⁾, Machida Minoru¹⁾, Hamada Yasushi¹⁾, Moriyama Noriyuki¹⁾(¹⁾ 国立がんセンターがん予防・検診研究センター): Synchronous Position Display System in Breast Ultrasound . RSNA2006, (Chicago) , 2006 . 11 .
- 17) Takagi Ryo , Mizumura Sunao , Yosihara Hisashi , Hayashi H , Kumita S : CT Perfusion and Head/Neck CT Angiography in patients with internal carotid artery occlusion education poster . RSNA (Chicago) , 2006 . 11 .
- 18) Amano Y , Kumazaki T : Cine viability cardiac MR imaging using contrast-enhanced 3D steady-state free precession imaging . 92nd annual meeting of RSNA (Chicago) , 2006 .
- 19) Yanagino Miki¹⁾, Kawai Kenichi¹⁾, Shimizu Akio¹⁾, Kameyama Koji²⁾, Machida Minoru³⁾, Naito Zenya²⁾(¹⁾ Department of Engineering, Soka University, Tokyo, Japan , ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan , ³⁾ Research Center for Cancer Prevention and Screening, National Cancer Center, Tokyo Japan): Characteristics of bovine type IV collagen unfolding under various pH conditions . 5th East Asian Biophysics Symposium and 44th Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (EABS & BSJ 2006)(Okinawa) , 2006 .
- 20) Kawai Kenichi¹⁾, Yanagino Miki¹⁾, Shimizu Akio¹⁾, Kameyama Koji²⁾, Machida Minoru³⁾, Naito Zenya²⁾(¹⁾ Department of Engineering, Soka University, Tokyo, Japan , ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan , ³⁾ Research Center for Cancer Prevention and Screening, National Cancer Center, Tokyo Japan): Structure stability of collagen type IV . 5th East Asian Biophysics Symposium and 44th Annual Meeting of the Biophysical Society of Japan (EABS & BSJ 2006)(Okinawa) , 2006 .
- 21) Machida M , Uchiyama N , Moriyama N (¹⁾ Research Center for Cancer Prevention and Screening): Synchronous position-display system in breast ultrasound . National Cancer Center European Congress of Radiology (Vienna) , 2007 . 3 .
- 22) Murata S , Tajima H , O : Management of unresectable hepatocellular carcinoma with marked arterio-portal shunts : Effectiveness of transcatheter arterial chemoembolization under balloon occlusion of the corresponding portal vein . European Congress of radiology (Vienna) , 2007 . 3 .
- 23) Tajima H , Murata S , Onozawa S , Nakazawa K , Fukunaga T , Sato H , Tateno N , Machida M : Hybrid interventio of severe deep-vein thrombosis . Clot aspiration, mechanical thrombectomy and local fibrinolytic therapy European Congress of radiology (Vienna) , 2007 . 3 .
- 24) Machida M , Uchiyama N , Hamada Y , Moriyama N (¹⁾ Research Center for Cancer Prevention and Screening National Cancer Center): Synchronous position-display system in breast ultrasound . The 6th Sympo-

sium of the Scandinavian Japan Radiological Society (Stockholm), 2007. 9.

- 25) 林 宏光, 日高史貴, 鳥羽正浩, 高木 亮, 隈崎達夫, 佐々木孝, 新田 隆, 落 雅美⁽¹⁾(¹心臓血管外科): MDCTによる左室心筋内脂肪種の評価: 局在診断から質的診断まで. 第16回日本心血管画像動態学会, 2006. 1.
- 26) 林 宏光, 栗林幸夫¹⁾, 陣崎雅弘¹⁾, 天沼 誠²⁾, 飯野美佐子³⁾, 大瀧 誠⁴⁾, 木村文子⁵⁾, 黒木 一典⁶⁾, 小林 泰之⁷⁾, 佐久間亨⁸⁾, 似鳥俊明⁹⁾, 横山健一⁹⁾, 原田潤太¹⁰⁾, 氷見和久¹¹⁾, 星 俊子¹²⁾, 山口敏雄⁶⁾, 山田哲久¹³⁾(¹⁾慶應義塾大学医学部放射線診断科, ²⁾群馬大学医学部附属病院放射線部, ³⁾東海大学医学部基盤診療学系画像診断学, ⁴⁾東海大学医学部八王子病院・放射線科, ⁵⁾埼玉医科大学放射線科, ⁶⁾聖マリアンナ医科大学東横病院放射線科, ⁷⁾聖マリアンナ医科大学放射線医学, ⁸⁾東京慈恵会医科大学放射線医学, ⁹⁾杏林大学医学部放射線医学, ¹⁰⁾東京慈恵会医科大学附属柏病院放射線科, ¹¹⁾日本大学医学部附属板橋病院放射線科, ¹²⁾埼玉県立循環器・呼吸器病センター放射線科, ¹³⁾東京労災病院放射線科): 心臓CT検査の現状: Tokyo Heart Imaging Clubにおけるアンケート調査報告. 第62回心臓血管放射線研究会, 2006. 1.
- 27) 林 宏光, 高木 亮, 高浜克也, 貝津俊英, 清水康弘, 館野展之, 福島善光, 栗林茂彦, 日高史貴, 佐藤英尊, 桐山智成, 箱崎謙太, 隈崎達夫: CEV-CPRを利用した新しい血管狭窄病変の自動診断: Color mapによる定性評価と狭窄部径の定量評価. 第11回3次元CT・MRI研究会, 2006. 2.
- 28) 林 宏光, 栗林幸夫¹⁾(¹⁾慶應義塾大学医学部放射線診断科): 心臓CT検査の現状: Tokyo Heart Imaging Clubにおけるアンケート調査報告. 第65回日本医学放射線学会総会, 2006. 4.
- 29) 青木祐子¹⁾, 村瀬貴之¹⁾, 広瀬繁治¹⁾, 林 宏光, 隈崎達夫(¹⁾日立メディコ アプリケーショングループ): CEV-CPRを用いた血管狭窄診断への新しい展開: Color mapによる定性評価と狭窄部径の定量評価. 第62回日本放射線技術学会, 2006. 4.
- 30) 内山菜智子¹⁾, 黒木聖子¹⁾, 町田 稔¹⁾, 北川まゆみ¹⁾, 五味志穂¹⁾, 村松幸男¹⁾, 森山紀之¹⁾(¹⁾国立がんセンターがん予防・検診研究センター): CRとDRにおけるCDMAMファントムを用いた画質評価の比較. 第65回日本医学放射線学会総会, 2006. 4.
- 31) 北川まゆみ¹⁾, 五味志穂¹⁾, 内山菜智子¹⁾, 永井優一²⁾, 森山紀之¹⁾(¹⁾国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ²⁾国立がんセンター中央病院放射線診断部): 直接型FPDを用いたデジタルマンモグラフィにおけるターゲット/フィルタの検討. 第62回日本放射線技術学会総会, 2006. 4.
- 32) 高木 亮, 水村 直, 林 宏光, 佐藤英尊, 吉原尚志, 隈崎達夫: CTPを用いた内頸動脈閉塞症の脳虚血判定: IMP-SPECTとの比較. 第65回日本医学放射線学会総会, 2006. 4.
- 33) 内山史生, 村田 智, 田島博之, 渡 潤, 小野沢志郎, 隈崎達夫, 坂本篤裕¹⁾, 金 徹¹⁾, 近藤 幸²⁾(¹⁾麻醉科学, ²⁾泌尿器科学): Negative in-out flow rate 骨盤内閉鎖循環下抗癌剤還流療法: Phase 1 study. 第65回日本医学放射線学会総会・学術集会, 2006. 4.
- 34) 町田 稔¹⁾, 亀山孝二²⁾, 清水昭夫³⁾, 田島廣之, 森山紀之¹⁾, 内藤善哉²⁾(¹⁾国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ²⁾日本医科大学病理学, ³⁾創価大学工学部): 光感受性物質による変性IV型コラーゲンに対する作用の検討 病変部間質の評価に対する基礎研究. 第65回日本医学放射線学会総会・学術集会, 2006. 4.
- 35) 北川泰之, 伊藤博元, 澤泉卓哉, 前田昭太郎, 天野康雄: 腱鞘巨細胞腫の術前診断. 第48回日本手の外科学会学術集会, 2006. 4.
- 36) 林 宏光, 栗林幸夫¹⁾(¹⁾慶應義塾大学医学部放射線診断科): 心臓CT検査の現状: Tokyo Heart Imaging Clubにおけるアンケート調査報告. 第65回日本医学放射線学会総会, 2006. 4.
- 37) 青木祐子¹⁾, 村瀬貴之¹⁾, 広瀬繁治¹⁾, 林 宏光, 隈崎達夫(¹⁾日立メディコ アプリケーショングループ): CEV-CPRを用いた血管狭窄診断への新しい展開: Color mapによる定性評価と狭窄部径の定量評価. 第62回日本放射線技術学会, 2006. 4.
- 38) 坪井永保: 慢性呼吸不全と呼吸器感染症「新型インフルエンザについて最近の話題」呼吸器疾患をお持ちの方へ. 足立サンソ友の会, 2006. 4.

- 39) 古川一博¹⁾, 田島廣之¹⁾, 天野康雄¹⁾, 林 宏光¹⁾, 高木 亮¹⁾, 高濱克也¹⁾, 箱崎謙太¹⁾, 桐山智成¹⁾, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 既存のHISおよびPACSに対するRISの導入. 第65回日本医学放射線学会学術集会. 2006. 4, 2006. 4.
- 40) 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之¹⁾, 日高史貴¹⁾, 佐藤英尊¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): エタノール回収下腎塞栓療法における基礎実験. 第65回日本医学放射線学会学術大会, 2006. 4.
- 41) 高木 亮, 水村 直, 林 宏光, 佐藤英尊, 吉原尚志, 隈崎達夫: CTPを用いた内頸動脈閉塞症の脳虚血判定IMP-SPECT との比較. 第65回日本医学放射線学会学術大会, 2006. 4.
- 42) 中澤 賢¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 市川和雄¹⁾, 福永 毅¹⁾, 佐藤英尊¹⁾, 小野澤志郎¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 急性下肢動脈閉塞症に対するStent留置術. 第24回日本Metallic Stents & Grafts研究会, 2006. 4.
- 43) 小野澤志郎¹⁾, 村田 智¹⁾, 田島廣之¹⁾, 日高史貴¹⁾, 佐藤英尊¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): エタノール回収下腎塞栓療法における基礎実験. 第35回日本IVR学会総会, 2006. 5.
- 44) 坪井永保, 吾妻安良太, 工藤翔二: 特発性間質性肺炎患者に対するトレッドミル定速歩行試験の妥当性に関する検討. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 45) 坪井永保: キーパッドカンファレンス7 呼吸リハビリテーション. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 46) 坪井永保: 第3回呼吸ケアカンファレンス 患者指導基礎コース 日常診療における患者の運動指導. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 47) 坪井永保: COPD治療と呼吸リハビリ 運動療法のポイント. 第7回福井COPD研究会, 2006. 6.
- 48) 福永 毅¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 市川和雄¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 佐藤英尊¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 腸骨動脈慢性完全閉塞に対するステント留置術の合併症 血管破裂への対応. 第12回日本血管内治療学会, 2006. 6.
- 49) 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 市川和雄¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 福永 毅¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 山本 剛²⁾, 田中啓治²⁾, 高野照夫²⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター, ²⁾内科・集中治療室): 深部静脈血栓症に対する大腿静脈アプローチを主体とした血管内治療. 第12回日本血管内治療学会, 2006. 6.
- 50) 福永 毅¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 市川和雄¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 佐藤英尊¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 腸骨動脈慢性完全閉塞に対するステント留置術の合併症 血管破裂への対応. 第12回日本血管内治療学会, 2006. 6.
- 51) 野口智子, 古川清憲, 古川恵子, 飯田信也, 岩崎玲子, 田尻 孝¹⁾, 村上隆介, 土屋眞一²⁾, 樋口勝美³⁾(¹⁾日本医科大学乳腺外科学, ²⁾同病理部, ³⁾東京白十字病院 外科): MDCTによる乳癌の拡がり診断と病理組織との対比 有用性と今後の展望. 日本乳癌学会総会, 2006. 6.
- 52) 坪井永保: 在宅酸素療法1. 第16回日本呼吸管理学会学術集会, 2006. 7.
- 53) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 保坂純郎¹⁾, 村上隆介¹⁾, 福永 毅¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 館野展之¹⁾, 佐藤英尊¹⁾, 山本英世¹⁾(¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター, ²⁾循環器内科): 医原性下腹壁動脈損傷に対し, 動脈塞栓術が有用であった1例. 第1回日本IVR学会関東地方会, 2006. 7.
- 54) 高橋かおる, 西村誠一郎, 飯島耕太郎, 宮城由美, 多田敬一郎, 蒔田益次郎, 小口正彦, 山下 孝, 秋山 太, 坂元吾偉, 岩瀬拓士: 乳房温存治療における放射線療法の役割. 第14回日本乳癌学会総会, 2006. 7.
- 55) 蒔田益次郎, 五味直哉, 立川智弘, 武田千幸, 西村誠一郎, 高橋かおる, 多田敬一郎, 宮城由美, 飯島耕太郎, 秋山 太, 山下 孝, 靄富士雄, 岩瀬拓士, 坂元吾偉: 非触知乳癌に対するCT segmentectomy. 第14回日本乳癌学会総会, 2006. 7.
- 56) 荻谷朗子, 蒔田益次郎, 五味直哉, 立川智弘, 武田千幸, 岩瀬拓士, 西村誠一郎, 高橋かおる, 多田敬一郎, 宮城由美, 飯島耕太郎, 高橋俊二, 秋山 太, 山下 孝, 伊藤良則, 坂元吾偉, 靄富士雄: 術前化学療法有効乳癌症例に対するCT segmentectomyの応用. 第14回日本乳癌学会総会, 2006. 7.

- 57) 杉原 勉, 伊藤良則, 徳留なほみ, 高橋俊二, 畠 清彦, 岩瀬拓士, 小口正彦, 山下 孝: 乳房切除後の局所再発に対する治療成績の検討. 第14回日本乳癌学会総会, 2006. 7.
- 58) 大城佳子, 小口正彦, 高木佐矢子, 熊田まどか, 蒔田益次郎, 高橋かおる, 秋山 太, 山下 孝, 岩瀬拓士, 坂元吾偉: 非浸潤性乳管癌断端陽性例に対する乳房温存療法の短期間ケースシリーズ研究. 第14回日本乳癌学会総会, 2006. 7.
- 59) 高木 亮: 脳血管障害: CTによる診断. 神戸バイオメディカルエンジニアリング講演会, 2006. 9.
- 60) 坪井永保: 在宅酸素療法 最新の話. 第10回三浦半島在宅呼吸ケア懇話会, 2006. 9.
- 61) 内山菜智子: デジタルマンモグラフィの読影. 第20回関西乳房画像研究会, 2006. 10.
- 62) 町田 稔¹⁾, 亀山孝二²⁾, 清水昭夫³⁾, 内藤善哉²⁾, 森山紀之¹⁾(¹⁾国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ²⁾日本医科大学病理学, ³⁾創価大学工学部): 間質, 特に基底膜の主成分であるIV型コラーゲンの構造変化とヘマトポルフィリン(HP)の親和性. 第47回日本脈管学会総会, 2006. 10.
- 63) 亀山孝二¹⁾, 町田 稔²⁾, 清水昭夫³⁾, 手塚 潔¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 内藤善哉¹⁾(¹⁾日本医科大学病理学, ²⁾国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ³⁾創価大学工学部): 動脈硬化の粥種破壊に關与する基底膜成分IV型コラーゲンと脂質の会合異常の検討 酸可溶状態モデルの近赤外分光法による解析. 第47回日本脈管学会総会, 2006. 10.
- 64) 町田 稔¹⁾, 亀山孝二²⁾, 清水昭夫³⁾, 内藤善哉²⁾, 森山紀之¹⁾(¹⁾国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ²⁾日本医科大学病理学, ³⁾創価大学工学部): 間質, 特に基底膜の主成分であるIV型コラーゲンの構造変化とヘマトポルフィリン(HP)の親和性. 第47回日本脈管学会総会, 2006. 10.
- 65) 亀山孝二¹⁾, 町田 稔²⁾, 清水昭夫³⁾, 手塚 潔¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 内藤善哉¹⁾(¹⁾日本医科大学病理学教室, ²⁾国立がんセンターがん予防・検診研究センター, ³⁾創価大学工学部): 動脈硬化の粥種破壊に關与する基底膜成分IV型コラーゲンと脂質の会合異常の検討 酸可溶状態モデルの近赤外分光法による解析. 第47回日本脈管学会総会, 2006. 10.
- 66) 桐山智成, 高木 亮, 田島廣之, 館野展之, 日高史貴, 汲田伸一郎: 鈍的外傷による上腸間膜静脈損傷の1例. 第16回救急放射線研究会, 2006. 10.
- 67) 竹間由佳, 箱崎謙太, 趙 圭一, 石原眞木子, 高木 亮, 天野康雄, 林 宏光, 汲田伸一郎: PET健診で発見された早期卵管癌の1例. 第42回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2006. 10.
- 68) 日高史貴¹⁾, 保坂純郎¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター): 下肢静脈瘤の最新治療法 Endovenous laser treatment (EVLT) の治療成績. 第42回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 2006. 10.
- 69) 渡辺英之: マンモ検診-地域・職域における課題-. 日本乳癌健診学会, 2006. 11.
- 70) 村上隆介, 土屋眞一¹⁾, 北野敦子, 高濱克也, 田島廣之, 汲田伸一郎, 小林宏之, 古川清憲²⁾(¹⁾病理部, ²⁾外科学第1): 若年性乳癌に対するマンモグラフィの検討. 第16回日本乳癌検診学会総会, 2006. 11.
- 71) 道本 薫¹⁾, 清水忠夫¹⁾, 平野 明¹⁾, 小川健治¹⁾, 田島廣之, 天神敏博²⁾, 赤須東樹²⁾, 古川清憲²⁾, 矢野侃³⁾(¹⁾東京女子医科大学東医療センター外科, ²⁾外科, ³⁾荒川区医師会): 荒川区における乳癌検診15年の成績. 第16回日本乳癌検診学会総会, 2006. 11.
- 72) 趙 圭一: 心筋ミトコンドリア障害の解析: MIBI clearance. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 73) 水村 直, 相馬 努¹⁾, 福嶋善光, 趙 圭一, 石原眞木子, 鳥羽正浩, 箱崎謙太, 汲田伸一郎(¹⁾DRL): vbSEEを用いた機能・形態画像評価 画像統計解析eZIS, VSRADの比較表示. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 74) 水村 直, 中川原讓二¹⁾, 高橋正昭¹⁾, 趙 圭一, 石原眞木子, 鳥羽正浩, 箱崎謙太, 福嶋善光, 汲田伸一郎(¹⁾中村記念病院脳神経外科): 脳動脈閉塞性疾患における最大値参照法を用いた患側大脳半球の経過観察. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.

- 75) 中嶋憲一¹⁾, 汲田伸一郎, 石田良雄²⁾, 百瀬 満³⁾, 橋本 順⁴⁾, 森田浩一⁵⁾, 滝 淳一⁶⁾, 久保田雅博⁷⁾, 高橋宗尊⁸⁾, 小田川哲郎⁹⁾, 横塚弘一¹⁰⁾, 小川昌美¹¹⁾(¹⁾金沢大学, ²⁾国立循環器病センター, ³⁾東京女子医大, ⁴⁾慶應大学, ⁵⁾北海道大学, ⁶⁾金沢大学, ⁷⁾東芝, ⁸⁾島津製作所, ⁹⁾シーメンス旭, ¹⁰⁾日立, ¹¹⁾GE横河): 日本人における心筋SPECTデータの標準化(2年間). 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 76) 箱崎謙太, 趙 圭一, 鳥羽正浩, 福嶋善光, 水村 直, 汲田伸一郎: PET-CT検査におけるフュージョンプログラム, Syntegraの有用性. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 77) 福嶋善光, 趙 圭一, 鳥羽正浩, 箱崎謙太, 水村 直, 汲田伸一郎: 心臓領域におけるPET-CT装置GEM-NIGXLの臨床使用. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 78) 櫻井 実¹⁾, 須田匡也¹⁾, 趙 圭一, 水村 直, 汲田伸一郎(¹⁾放射線科技師室): コリメータ開口によるボケがSPECT像に及ぼす影響について. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 79) 須田匡也¹⁾, 小野口昌久¹⁾, 櫻井 実²⁾, 浅野恭司²⁾, 趙 圭一, 水村 直, 汲田伸一郎(¹⁾金沢大学, ²⁾日本医科大学放射線科技師室): 高感度クリスタルPETシステムによる肥満患者の画質の検討. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 80) 松田博史¹⁾, 水村 直²⁾, 長尾毅彦²⁾, 黄田常嘉³⁾, 飯塚友道⁴⁾, 根本清貴⁵⁾(¹⁾埼玉医科大, ²⁾都立荏原病院神経内科, ³⁾順天堂大学精神科, ⁴⁾複十字病院, ⁵⁾筑波大学精神科): 関心領域設定によるeZISを用いた早期アルツハイマー病と健常高齢者の脳血流SPECTの自動鑑別. 第46回日本核医学会学術総会, 2006. 11.
- 81) 栗林茂彦, 宮下次廣, 貝津俊英, 汲田伸一郎: 転移性骨腫瘍に対する少分割一回大量線量照射の有用性. 第19回日本放射線腫瘍学会学術大会, 2006. 11.
- 82) 甲斐敏弘^{1,2)}, 猪原則行¹⁾, 蓬原一茂²⁾, 吉川廣和¹⁾, 渡部英之¹⁾(¹⁾大宮共立病院, ²⁾自治医科大学附属大宮医療センター): 人間ドック女性受診者の自己検診講座による意識改革. 平成18年日本乳癌検診学会, 2006. 11.
- 83) 高橋 豊, 隅田伊織, 橋 英伸, 山本時裕, 小塚拓洋, 五味光太郎, 能勢隆之, 伊藤 彬, 山下 孝: 前立腺癌I-125永久挿入治療後の外部照射時のシードによる線量分布攪乱の検討. 第19回日本放射線腫瘍学会学術大会, 2006. 11.
- 84) 小林宏之, 村上隆介, 汲田伸一郎: Rh/Rhを用いたデジタルマンモグラフィにおける異なる病変検出の検証. 日本乳癌検診学会, 2006. 11.
- 85) 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高野仁司²⁾, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾, 中澤 賢, 田島廣之(¹⁾集中治療室, ²⁾循環器内科): 広範性および亜広範性の急性肺塞栓症に対する一時型下大静脈フィルターの有効性. 第13回肺塞栓症研究会・学術大会, 2006. 12.
- 86) 坪井永保: 虎の門病院分院呼吸器講演会「呼吸リハビリテーション そのエビデンスと効果」. 虎の門病院分院, 2007. 1.
- 87) 内山菜智子: デジタルマンモグラフィの臨床診断解析. 第31回神奈川乳房画像研究会, 2007. 3.
- 88) 坪井永保: 会津中央病院講演会「COPDの診断とエビデンスに基づく治療戦略」. 会津中央病院, 2007. 3.
- 89) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 福永 毅¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 佐藤英尊¹⁾, 田尻 孝²⁾, 久志本成樹³⁾, 山本保博³⁾(¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター, ²⁾外科, ³⁾救急医学): NBCAにて止血しえた外傷性肝損傷IIIbの1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 90) 佐藤英尊¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 福永 毅¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 中村慶春²⁾, 内田英二²⁾, 田尻 孝(¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター, ²⁾外科, ³⁾救急医学): PPPD術後吻合部潰瘍性出血に対する緊急TAEの1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 91) 桐山智成, 高木 亮, 田島廣之, 館野展之, 日高史貴, 汲田伸一郎, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 外傷性上腸間膜静脈損傷の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 92) 牧野浩司¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 高橋 健¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 坂東功一¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 田島廣之, 竹田晋浩²⁾, 赤田信二²⁾, 寺嶋克幸²⁾(¹⁾外科, ²⁾附属病院集中治療室): 食道疾患におけるCTガイド下

穿刺ドレナージの有用性．第43回日本腹部救急医学会総会，2007．3．

93) 甲斐敏弘¹⁾，猪原 則¹⁾，山田公雄¹⁾，鈴木 浩¹⁾，高橋政之¹⁾，吉川 廣¹⁾，渡部英之¹⁾，武井 寛幸²⁾，小島 誠人³⁾，蓬原一茂⁴⁾(¹⁾大宮共立病院，²⁾埼玉県立がんセンター 乳腺外科，³⁾濁協医大越谷病院 外科，⁴⁾自治医大大宮医療センター 外科)：マンモグラフィ偽陰性乳癌の3例．第41回大宮医学会総会プログラム，2007．3．

94) 甲斐敏弘¹⁾，蓮見恵彦²⁾，新藤 健²⁾，宇治 元²⁾，菅又徳孝²⁾，須田健夫²⁾，田口 誠²⁾，塚原信吾²⁾，野中達也²⁾，蓮見直彦²⁾，松本雅彦²⁾，水谷一弥²⁾，山田太郎²⁾，湯澤 聡²⁾，渡部英之²⁾，吉川廣和¹⁾，高木俊二¹⁾，岡 淳夫¹⁾，中村 勉²⁾，長谷川利次³⁾，矢島一道⁴⁾(¹⁾大宮医師会乳がん検診読影医，²⁾大宮医師会乳がん検診委員，³⁾大宮医師会市民病院放射線科，⁴⁾大宮医師会検診業務課)：検診報告(乳がん)．平成17年度さいたま市大宮地区乳がん検診結果報告，2007．3．

(7) ポスター：

1) 古川一博¹⁾，田島廣之¹⁾，天野康雄¹⁾，林 宏光¹⁾，高木 亮¹⁾，高濱克也¹⁾，箱崎謙太¹⁾，桐山智成¹⁾，隈崎達夫¹⁾(¹⁾放射線科・ハイテクリサーチセンター)：既存のHISおよびPACSに対するRISの導入．第65回日本医学放射線学会学術集会，2006．4．

2) 趙 圭一，鳥羽正浩，水村 直，福島善光，清水康弘，箱崎謙太，佐藤英尊，石原眞木子，汲田伸一郎：FDG-PETにおけるfast-RAMLA再構成像を用いたモニター診断の有用性．第46回日本核医学会学術総会，2006．11．

3) 小林宏之，村上隆介，汲田伸一郎¹⁾(¹⁾放射線科技師室)：Rh/Rhを用いたデジタルマンモグラフィにおける異なる病変検出の検証．第16回日本乳癌検診学会総会，2006．11．

[武蔵小杉病院放射線科]

研究概要

放射線診断学：

1. 呼吸器疾患に対し，気管支鏡を用いたBAL，肺生検を施行し，画像診断の向上に力を注いでいる．肺切除病理標本とCT画像の比較検討から，詳細な画像所見の分析を試みている．

2. 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし，結核，癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている．肺癌の早期診断および早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している．

3. 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し，より効率の良い，より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である．

4. MRIによる乳腺疾患の質的診断におけるdynamic studyの応用，乳腺の浸潤判定における高分解能MRIの撮像最適化に取り組んでいる．また，高分解能MRIによる膵の微小病変の描出，2次膵管描出の研究，dynamic MRIによる結節性肺病変の質的診断について研究中である．

Interventional Radiology：

1. 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術，経皮的エタノール注入療法を集学的治療に取り組んでいる．

放射線治療学：

1. 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の1つとして積極的に取り組んでいる．

核医学：

1. 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価に取り組んでいる．

2. 脳腫瘍SPECTを用いて腫瘍の局在などの検出率の評価に取り組んでいる．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yamamoto A , Hosoya T¹⁾, Takahashi N²⁾, Iwahara S²⁾, Munakata K²⁾ (¹⁾ Daiichi Radioisotope labs., Ltd , ²⁾ Department of internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi): Quantification of left ventricular regional functions using ECG-gated myocardial perfusion SPECT : Validation of left ventricular systolic functions . Annals of Nuclear Medicine 2006 ; 20 (8) : 449-456 .
- 2) Yamamoto A , Takahashi N¹⁾, Munakata K¹⁾, Hosoya T²⁾, Shiiba M , Okuyama T , Abe K , Kaneshiro T , Tsuruta H , Takama T , Satou M (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital , ²⁾ Daiichi Radioisotope Labs., Ltd): Global and regional evaluation of systolic and diastolic left ventricular temporal parameters using a novel program for ECG-gated myocardial perfusion SPECT : Validation by comparison with gated equilibrium radionuclide angiography and speckle-tracking radial strain from echocardiography . Annals of Nuclear Medicine 2007 ; 21 (2) : 115-121 .

(2) 綜説：

- 1) 佐藤雅史：胸部単純写真の読み方：読影のコツ。診断と治療 2006；94(4)：542-546。
- 2) 佐藤雅史，橘 正剛：読影能力を上げる胸部写真の読み方：「小」の字，「三」の字で視線の動きを法則化。レジデントノート 2006；8(2)：193-197。
- 3) 佐藤雅史，椎葉真人：結節性陰影。画像診断臨時増刊号 胸部単純X線診断をきわめる 2007；27：20-48。

著書

- 1) 佐藤雅史：〔分担〕normal variantsとmimicker達。これだけおさえれば大丈夫：2胸部画像診断の勘どころ(高橋雅士)，2006；pp32-41，メジカルビュー社。

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 佐藤雅史：胸部単純写真の読影，あなたは自信ありますか？。日本呼吸器学会学術講演会，2006。6。

(2) 一般講演：

- 1) Takahashi N¹⁾, Yamamoto A , Miwa Y¹⁾, Kojima M¹⁾, Tezuka S¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Takenaga K¹⁾, Amitani K¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Uchida T¹⁾, Munakata K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : The Relationship between left ventricular dyssynchrony and diastolic dysfunction in hypertension . American Heart Association Scientific Sessions 2006 , 2006 . 11 .
- 2) Takahashi N¹⁾, Yamamoto A , Zhu C¹⁾, Tezuka S¹⁾, Hanaoka D¹⁾, Iwamoto M¹⁾, Ishikawa M¹⁾, Abe J¹⁾, Takenaga K¹⁾, Amitani K¹⁾, Yamaguchi T¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Uchida T¹⁾, Munakata K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : The Relationship between Left Ventricular Systolic Dyssynchrony and Wall Stress in Patients with Hypertension and Preserved Ejection Fraction . The 71st Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2007 . 3 .
- 3) Ishikawa M¹⁾, Yamamoto A , Takahashi N¹⁾, Zhu C¹⁾, Tezuka S¹⁾, Hanaoka D¹⁾, Iwamoto M¹⁾, Abe J¹⁾, Takenaga K¹⁾, Amitani K¹⁾, Yamaguchi T¹⁾, Kawaguchi N¹⁾, Uchida T¹⁾, Munakata K¹⁾ (¹⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashikosugi Hospital) : The Dyssynchrony Assessed by a Novel Program “ cardioGRAF ” for Tc99m-sestamibi-Gated-SPECT in the Development of Heart Failure . The 71st Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society , 2007 . 3 .
- 4) 山本 彰，高橋直人¹⁾，金城忠志，阿部和也，佐藤雅史 (¹⁾ 武蔵小杉病院内科) : 心電図同期SPECTの解析ブ

プログラム cardioGRAF による心不全における左室内同期不全の検討．第 65 回日本医学放射線学会学術集会，2006．4．

- 5) 山本 彰，高橋直人¹⁾，金城忠志，阿部和也，佐藤雅史^(¹ 武蔵小杉病院内科)：同期 SPECT 解析プログラム cardioGRAF におけるフーリエ近似次数の左室機能指標再現性に及ぼす影響．第 65 回日本医学放射線学会学術集会，2006．4．
- 6) 高橋直人¹⁾，山本 彰，石川昌弘¹⁾，竹永清人¹⁾，阿部純子¹⁾，網谷賢一¹⁾，山口朋禎¹⁾，川口直美¹⁾，内田高浩¹⁾，星野公彦¹⁾，宗像一雄¹⁾(¹ 武蔵小杉病院内科)：心電図同期 SPECT の解析プログラム " cardioGRAF " を用いた左室壁運動同期性と年齢の関連についての検討．第 48 回日本老年医学会学術集会，2006．6．
- 7) 荒木久美¹⁾，山賀節子¹⁾，越谷美由紀¹⁾，隠岐和美¹⁾，荒井誠一¹⁾，大塚紀子¹⁾，高久貴子¹⁾，井上雅則¹⁾，新宅孝征¹⁾，勝部康弘¹⁾，山本 彰，高橋直人²⁾，内田高浩²⁾，内田拓実²⁾，宗像一雄²⁾，西島美輝子¹⁾(¹ 武蔵小杉病院中央検査室，²⁾ 同内科)：収縮能が保たれた高血圧患者における拡張機能と BNP との関連：経胸壁心エコーによる検討．第 74 回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 8) 山口朋禎¹⁾，佐藤雅史，宗像一雄¹⁾(¹ 武蔵小杉病院内科)：刺青後に発症したレフグレン症候群の 1 例．第 26 回日本サルコイドーシス/肉芽腫性疾患学会総会，2006．10．

[多摩永山病院放射線科]

研究概要

1. 非イオン性造影剤の腎機能におよぼす影響について検討を継続している。
2. コンピュータを活用した医用画像処理の研究を続けている。
3. 悪性腫瘍に対する IVR による集学的治療，救急患者のカテーテル治療について研究を行っている。
4. 婦人科，整形外科領域における MRI 診断について研究，検討が行われている。
5. CT, MRI を用いた腹部画像診断の適応について研究を行っている。
6. CT における径静脈造影の至適タイミング，方法について研究を行っている。
7. 64 列マルチスライス CT による心疾患の診断について研究を行っている。

[千葉北総病院放射線科]

研究概要

婦人科系の腫瘍について，女性診療科および病理部とのカンファランスを通じて，画像と臨床所見や病理像との比較検討を行っている．特に，子宮のまれな肉腫について，症例を重ねて検討している．

救命救急分野において，救命救急部とのカンファランスを毎週行い，臨床像と画像との対比検討を行っている．腹部救急分野において重要なサインである門脈ガス血症について，症例を積み重ねて検討している．

消化器疾患については，外科・内科・病理部と合同で，術前症例および術後症例についてのカンファランスを行っている．画像と癌の深達度，転移・浸潤所見などについて，手術所見・病理所見と画像所見との比較検討を行っている．

IVR 領域においては，外傷症例，悪性腫瘍，ASO，深部静脈血栓症，透析シャントトラブルなどの多くの症例に対して治療を行い，良好な成績を得ている．

MRI 領域では，シークエンスについての基礎的検討などを行っている．

CT 領域では，64 列マルチスライス CT を用い，冠動脈 CTA について症例を重ねて検討している．

一般撮影領域では，FCR を用いた撮影技術の検討，特に，ノイズ処理技術を用いた低線量撮影の研究を引き続き行っている．尿路撮影などにおいて，通常線量と低線量での撮影の比較検討を行っている．

情報処理・PACS 分野では，画像サーバおよび放射線レポートサーバを構築し，院内のオーダーリング端末にて放

射線レポートおよび画像参照ができるシステムを完成させた。これにより業務の効率化を計ることができ、医療安全にも結びつけることが出来た。今後はさらに学術的な部分での強化をはかる予定である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nakajo H¹⁾, Kumita S¹⁾, Chou K¹⁾, Kumazaki T¹⁾(¹⁾ Dept. of Radiology, Chiba Hokusoh Hospital): Three-dimensional registration of myocardial perfusion SPECT and CT coronary angiography. *Annals of Nuclear Medicine* 2005; 19(3): 207-215.

(2) 綜説：

- 1) 岡田 進：臨床医学の展望：診断および治療上の進歩 臨床放射線医学：診断面。日本医事新報 2006；(4267)：49-50。
- 2) 小島豊之¹⁾, 秋山一義¹⁾, 中條秀信¹⁾, 喜多村孝幸²⁾, 寺本 明²⁾(¹⁾四谷メディカルキューブ 画像診断センター, ²⁾日本医科大学付属病院脳神経外科)：低髄圧症候群(脳脊髄液減少症)に関する最新動向 各専門分野の立場からとらえる“脳脊髄液減少症”“脳脊髄液減少症”：画像診断のポイント。脊椎脊髄ジャーナル 2006；19(5)：334-340。
- 3) 中條秀信, 岡田 進, 汲田伸一郎¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科)：PET 最新的话题 FDG PET/CTによる悪性腫瘍の画像診断：その魅力。Vita 2007；24(1)：54-58。
- 4) 岡田 進：骨盤領域。日本医事新報 2007；(4319)：49-50。

(3) 症例報告：

- 1) Okada S, Kuwako T, Nakajo H, Ishihara M¹⁾, Uchiyama F²⁾, Obo R³⁾, Yokose N⁴⁾, Hamamoto M⁴⁾(¹⁾ Dept. of Radiology, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Radiology, Ebina-Sogo Hospital, ³⁾ Dept. of Internal Medicine, Fuchu-Keijinkai Hospital, ⁴⁾ Dept. of Internal Medicine)：Two cases of subacute combined degeneration：magnetic resonance findings. *J Nippon Med Sch* 2006；73(6)：328-331。
- 2) 佐々木啓成¹⁾, 和田敏史¹⁾, 森谷雅人¹⁾, 水村泰夫¹⁾, 山本啓一郎¹⁾, 鴫田博美²⁾, 土田明彦²⁾, 青木達哉²⁾, 岡田 進(¹⁾西東京中央総合病院消化器科, ²⁾東京医科大学外科学第3講座)：93歳女性に発症し、急激な経過を呈した門脈ガス血症の1例。日本外科系連合学会誌 2006；31(4)：721-723。

著書

- 1) 安田聖栄¹⁾, 幕内博康¹⁾, 中條秀信²⁾(¹⁾東海大学医学部外科学系消化器外科, ²⁾四谷メディカルキューブ 画像診断センター)：〔分担〕臨床編 1. 診断 6) PET。癌移転のメカニズムがよくわかる 肝転移のすべて(門田守人, 松浦 成), 2005；pp185-190, 永井書店。

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 中條秀信¹⁾, 趙 圭一²⁾, 汲田伸一郎²⁾, 安田聖栄¹⁾, 早川弘一¹⁾(¹⁾四谷メディカルキューブ 画像診断センター, ²⁾日本医科大学付属病院放射線科)：アドリアマイシン心不全ラットを用いた Tc 99m sestamibi washoutの検討。Japanese CARDIOLITTE Investigators' Meeting at the 53rd Annual Society of Nuclear Medicine Meeting in San Diego (San Diego, USA), 2006. 6。

(2) 一般講演：

- 1) Yasuda S¹⁾, Ochiai I²⁾, Sarashina G²⁾, Itoh M²⁾, Ohta M²⁾, Akiyama K²⁾, Kojima T²⁾, Nakjoh H²⁾, Makuuchi H¹⁾(¹⁾ Dept. of Surgery, Tokai University School of Medicine, ²⁾ Yotsuya Medical Cube)：Diffuse

high FDG uptake of the stomach : Comparison between PET images and endoscopic findings . The 53rd Annual Society of Nuclear Medicine Meeting in San Diego (San Diego, USA), 2006 . 6 .

2) 中條秀信¹⁾, 汲田伸一郎²⁾, 趙 圭一²⁾, 水村 直²⁾, 鳥羽正浩²⁾, 秋山一義¹⁾, 安田聖栄¹⁾, 隈崎達夫²⁾(¹⁾四谷メディカルキューブ放射線科, ²⁾日本医科大学放射線医学): 心筋血流 SPECT および CT 冠動脈造影の3次元統合 . 第16回医用デジタル動画研究会, 2005 . 10 .

3) 富里謙一¹⁾, 渡辺典男¹⁾, 丸山智之¹⁾, 三輪宗史¹⁾, 仲田佳広¹⁾, 川村義彦¹⁾, 岡田 進²⁾(¹⁾千葉北総病院中央画像検査室): 低線量幼児股関節撮影技術の構築 . 日本放射線技術学会第26回東京部会秋期学術大会, 2006 . 11 .

(3) ポスター :

1) 岡田 進, 桑子智之, 小倉順子, 木島鉄仁, 石原真木子, 川俣博志, 隈崎達夫¹⁾(¹⁾付属病院放射線科): FCR の新しいノイズ抑制処理 (FNC) を用いた, 被曝線量低減に関する検討 . 第65回日本医学放射線学会, 2006 . 4 .

8. 皮膚科学講座

[付属病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚の神経内分泌免疫学
 - ・免疫担当細胞におよぼすCRHの作用メカニズム .
 - ・CRHがおよぼす毛周期への影響 .
 - ・サブスタンスP, NGF, GDNFの皮膚における作用 .
2. 自己免疫性水泡症の発症機序
 - ・免疫担当細胞の動態, 細胞外基質分解酵素 (matrix metalloproteinase) の表現解析 .
3. 皮質抗原の認識機構の解析
4. センチネルリンパ節生検法の応用と開発
5. 蕁麻疹, 接触性皮膚炎の原因抗原の解析
6. メラニン産生の制御機構
7. ウイルス性疣贅におけるテロメース活性に解析
8. 酸化ストレスが炎症病態成立に果たす役割, 新たな治療法の開発
9. 美容皮膚科学
 - ・ケミカルピーリング, 活性型ビタミンC, レチノイン酸, レーザー療法, photodynamictherapyの基礎的研究 .
10. レーザー光を応用した治療・診断の開発
 - ・skin optics, selectiv photothermolysisの理論に基づき, 生体に対する光の反応の臨床応用を目的とする .
11. アトピー性皮膚炎の病態のメカニズム解明と新たな治療法の開発
12. 難治性皮膚疾患 (脱毛症, 痒疹など) に対する治療戦略
 - ・脱毛症に対する免疫療法, 痒疹などに対する紫外線療法 .
13. 皮膚疾患における遺伝子治療の基礎的研究
 - ・幹細胞研究・再生工学を駆使した皮膚再生治療, 表皮遺伝子治療の開発 .
14. 心療内科
 - ・患者医師関係において, 皮膚疾患患者に生じる転移 transference や投影同一視, および医師側に生じる逆転 conufertransference などを利用して行なう心身医学的治療戦略 .

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Kosaka S, Kawana S, Hasan T¹⁾, Ortel B¹⁾ (¹⁾ Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School): Targeting of sebocytes by aminolevulinic acid-dependent photosensitization . Photochem Photobiol 2006 ; 82 (2): 453-457 .
- 2) O'Riordan K¹⁾, Sharlin DS¹⁾, Gross J²⁾, Chang S¹⁾, Errabelli D¹⁾, Akilov OE¹⁾, Kosaka S, Nau GJ³⁾, Hasan T¹⁾ (¹⁾ Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts General Hospital, ²⁾ Cutaneous Biology Research Center, Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, ³⁾ Division of Infectious Diseases, Department of Medicine, Massachusetts General Hospital): Photoinactivation of Mycobacteria in vitro and in a new murine model of localized Mycobacterium bovis BCG-induced granulomatous infection . Antimi-

croB Agents Chemother 2006 ; 50 (5) : 1828-1834 .

- 3) Kosaka S , O'Riordan K¹⁾ , Song Z²⁾ , Sherwood M¹⁾ , Flotte TJ¹⁾ , Foley JW²⁾ , Hasan T¹⁾ (¹⁾ Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School , ²⁾ The Rowland Institute at Harvard) : The role of photosensitizer molecular charge and structure on the efficacy of photodynamic therapy against Leishmania parasites . Chem Biol 2006 ; 13 (8) : 839-847 .
- 4) Omi T , Clement RM¹⁾ (¹⁾ Digital Technium, University of Wales Swansea) : The use of a constant spectrum, uniform temporal profile intense pulsed light source for long-term hair removal in Asia skin . J Cosmetic and Laser Therapy 2006 ; 8 (3) : 138-145 .
- 5) Zhou Z , Kawana S , Aoki E , Katayama M , Nagano M¹⁾ , Suzuki H¹⁾ (¹⁾ Department of Pharmacology, Nippon Medical School) : Dynamic changes in nerve growth factor and substance P in the murine hair cycle induced by depilation . J Dermatol 2006 ; 33 (12) : 833-841 .
- 6) Watanabe A¹⁾ , Kosho T¹⁾ , Wada T¹⁾ , Sakai N , Fujimoto M¹⁾ , Fukushima Y¹⁾ , Shimada T¹⁾ (¹⁾ Division of Clinical Genetics, Nippon Medical School) : Genetic Aspects of the Vascular Type of Ehlers-Danlos Syndrome (vEDS, EDSIV) in Japan . Circ J 2007 ; 71 (2) : 261-265 .
- 7) 川名誠司 : 看護に役立つ ! 人体の神秘の世界へご招待 からだと病気とミクロのはなし (4) 皮膚は人体の偉大なバリア . 看護学雑誌 2006 ; 70 (7) : 588-625 .
- 8) 川名誠司 : 皮膚のCRF-POMC系を介したストレス応答機構 . 日皮会誌 2006 ; 116 (8) : 1177-1185 .
- 9) 秋本眞喜雄¹⁾ , 尾見徳彌 (¹⁾ 関東学院大学工学部) : 高周波直流パルス型イオントフォレーシス装置の開発とその皮膚科学への応用 . 日本美容皮膚科学会雑誌 2006 ; 16 : 37-44 .
- 10) 尾見徳彌 , Clement AM¹⁾ , 川名誠司 (¹⁾ Department of Electrical and Electronic Engineering, Wales University) : 新しいIPLタイプ (iPulse) を用いた光治療の可能性 . 日本美容皮膚科学会雑誌 2006 ; 16 : 32-36 .
- 11) 奥山ます美¹⁾ , 尾見徳彌 (¹⁾ 横浜市) : セルライトに対するマッサージ装置や外用剤による軽減効果の比較 . 日本美容皮膚科学会雑誌 2006 ; 16 : 27-31 .
- 12) 梁 再賦 , 川名誠司 : ストレスによる皮膚マスト細胞の活性化におけるサブスタンスPの役割 . 第15回国際痒みシンポジウムproceeding 2006 ; 41-45 .
- 13) 片山美玲 , 青木見佳子 , 竹内淳子 , 岩切加奈¹⁾ , 川名誠司 (¹⁾ 横浜市) : Transient acantholytic dermatosis の1例 . 臨皮 2006 ; 60 (12) : 1093-1095 .
- 14) 川名誠司 : 最近のアナフィラクトイド紫斑 . 日皮会誌 2006 ; 116 (13) : 1973-1979 .
- 15) 三石 剛 : ウイルス性疣贅の治療 : 現状と今後の展望 . 日皮会誌 2006 ; 116 (13) : 2110-2114 .
- 16) 尾見徳彌 : レーザー・光線機器などの進歩と美容皮膚科の功罪 . 日皮会誌 2006 ; 116 (13) : 2069-2073 .
- 17) 二神綾子 , 川名誠司 : 紅斑症の病理診断学 . Derma 2007 ; 122 : 6-12 .
- 18) 尾見徳彌 : 尋常性疣贅, 伝染性軟属腫の光線治療 . 小児科 2007 ; 48 (1) : 73-79 .
- 19) 石井則久¹⁾ , 竹崎伸一郎 , 他 24 名 (¹⁾ 国立感染症研究所) : 疥癬診療ガイドライン (第2版) . 日皮会誌 2007 ; 117 (1) : 1-14 .

(2) 綜説 :

- 1) 新見やよい , 川名誠司 : 知っておきたい検査とその読み方 免疫蛍光法 (膠原病 , 血管炎などを中心に) . 皮膚臨床 2006 ; 48 (臨時増刊号) : 1411-1416 .

(3) 症例報告 :

- 1) Kato Y , Kushikata Y¹⁾ , Kawana S (¹⁾ Department of Medicine, Fraternity Memorial Hospital) : Superior Vena Cava Syndrome : A Case Report . Cutis 2006 ; 77 (5) : 305-309 .
- 2) Shimoda T , Aoki M , Takezaki S , Futagami A , Inokuchi K¹⁾ , Sugisaki Y²⁾ , Kawana S (¹⁾ Department of Medicine, Nippon Medical School , ²⁾ Department of Surgical Pathology, Nippon Medical School) : A case of

erythrodermic-CTCL . Leuk Lymphoma 2006 ; 47 (8): 1708-1710 .

- 3) Kato Y , Aoki M , Kawana S : Urticarial vasculitis appearing in the progression of systemic sclerosis . J Dermatol 2006 ; 33 (11): 792-797 .
 - 4) Sakai N , Aoki M , Miyazawa S¹⁾ , Akita M , Takezaki S , Kawana S (¹⁾ Department of Electron Microscopy, Kitazato University School of Medicine): A Case of Generalized Argyria Caused by the Use of Silver Protein as a Disinfection Medicine . Acta-Dermato Venereologica 2007 ; 87 (2): 186-187 .
 - 5) 荻田あづさ , 加藤篤衛 , 野呂佐知子 , 片山美玲 , 三石 剛 , 川名誠司 : 周期性血小板減少症に生じた皮下血腫の1例 . 臨皮 2006 ; 60 (4): 382-385 .
 - 6) 高田香織 , 青木見佳子 , 川久保恵 , 竹崎伸一郎 , 石河 晃¹⁾ , 川名誠司 (¹⁾ 慶應義塾大学皮膚科): 単純性表皮水疱症 (Köbner 型) の1例 . 日本小児皮膚科学会雑誌 2006 ; 25 (1): 27-29 .
 - 7) 秋田政彦 , 青木見佳子 , 新見やよい , 川名誠司 : 透析性水疱症の1例 . 皮膚臨床 2006 ; 25 (1): 1143-1145 .
 - 8) 荻田あづさ , 竹崎伸一郎 , 矢部朋子 , 川名誠司 : 腎移植後に発生した乳房 paget 病の1例 . 臨皮 2006 ; 60 (7): 576-578 .
 - 9) 菊地伊豆実 , 田沼弘之 , 森本健介 , 久米 光 , 川名誠司 : 八丈島で感染・発症した *Microsporum gypsum* によるケルスス禿瘡の1例 . 臨皮 2006 ; 60 (8): 736-739 .
 - 10) 荻田あづさ , 二神綾子 , 下田貴子 , 内海甲一¹⁾ , 川名誠司 (¹⁾ 内科学第2): Fabry 病 . 皮膚病診療 2006 ; 28 (9): 1091-1094 .
 - 11) 竹内淳子 , 荻田あづさ , 青木見佳子 , 山田利恵¹⁾ , 川名誠司 (¹⁾ 川崎市): lived recemosa の2例 : macular arteritis との異同について . Visual Dermatol 2006 ; 5 (10): 1032-1035 .
 - 12) 加藤篤衛 , 三石 剛 , 野呂佐知子 , 川名誠司 : 酢酸リュープロレリン皮下注により生じた肉芽腫の1例 . 臨皮 2006 ; 60 (11): 1013-1016 .
 - 13) 小坂素子 , 新見やよい , 齋藤 裕¹⁾ , 川名誠司 (¹⁾ 東京都): 環状丘疹性梅毒疹の1例 . 臨皮 2006 ; 60 (13): 1265-1268 .
 - 14) 又吉武光 , 竹崎伸一郎 , 宮澤七郎¹⁾ , 川名誠司 (¹⁾ 北里大学医学部組織標本・電子顕微鏡センター): 限局性銀皮症 . 皮膚病診療 2007 ; 29 (1): 19-22 .
 - 15) 狩野律子 , 義澤雄介 , 川名誠司 , 津久井拓¹⁾ (¹⁾ 内科学第3): *Helicobacter pylori* 感染症と早期胃癌を合併した蕁麻疹様紅斑の1例 . 西日本皮膚科 2007 ; 69 (1): 8-10 .
 - 16) 荻田あづさ , 青木見佳子 , 川名誠司 , 森山マサミ¹⁾ , 本田光芳¹⁾ , 新井栄一²⁾ (¹⁾ 横浜市 , ²⁾ 埼玉医科大学病理学): 皮膚原発 marginal zone B cell lymphoma の2例 . Skin Cancer 2007 ; 21 (3): 345-349 .
- (4) Letter to the editor :
- 1) Kosaka S , Akilov OE¹⁾ , O'Riordan K¹⁾ , Hasan T¹⁾ (¹⁾ Wellman Center for Photomedicine, Massachusetts General Hospital): A mechanistic study of α -aminolevulinic acid-based photodynamic therapy for cutaneous leishmaniasis . J Invest Dermatol 2007 ; Epub ahead of print .
- (5) 研究報告書 :
- 1) 山岡淳一 , Di Zheng-hong , Wei S , 川名誠司 : 擦過刺激後に誘導されるマウス自己擦過行動における一過性不応状態について . 第 15 回国際痒みシンポジウム proceeding 2006 ; pp25-32 .

著 書

- 1) 川名誠司 : [分担] 5. 脈管系の疾患 1. 脈管系疾患へのアプローチ . 皮膚科学 (片山一朗・土田哲也・橋本隆・古江増隆・渡辺晋一), 2006 ; pp242-243 , 文光堂 .
- 2) 川名誠司 : [分担] 5. 脈管系の疾患 2. 血管炎 . 皮膚科学 (片山一朗・土田哲也・橋本隆・古江増隆・渡辺晋一), 2006 ; pp243-250 , 文光堂 .

- 3) 尾見徳彌, 奥山ます美¹⁾(¹⁾横浜市): [編集] レーザー・ホワイトライトを用いた photorejuvenation . レーザー・ホワイトライトを用いた施術(石橋康正・本田光芳・尾見徳彌・笠井 浩・満田邦彦), 2006 ; pp122-128, ビューティーサイエンス学会 .
- 4) 尾見徳彌: [編集] レーザー・ホワイトライトを用いた hair reduction, hair removal . レーザー・ホワイトライトを用いた施術(石橋康正・本田光芳・尾見徳彌・笠井 浩・満田邦彦), 2006 ; pp114-121, ビューティーサイエンス学会 .
- 5) 三石 剛: [分担] イボの痛くない治し方・疾患II . 皮膚科診療のコツと落とし穴(西岡 清), 2006 ; pp83-85, 中山書店 .
- 6) 義澤雄介: [分担] 8. 皮膚科領域 . MRSA : 基礎・臨床・対策(河野 茂), 2006 ; pp234-241, 医薬ジャーナル社 .
- 7) 川名誠司: [分担] 1. 紫斑 VI 紫斑・血管炎 . 皮膚疾患最新の治療2007-2008(瀧川雅浩・渡辺晋一), 2006 ; pp55-56, 南江堂 .
- 8) 川名誠司: [分担] F. 皮膚の脈管と神経: 第2章 皮膚の構造と機能 . 標準皮膚科学第8版(西川武二), 2007 ; pp19-21, 医学書院 .
- 9) 川名誠司: [分担] 第12章 紫斑 . 標準皮膚科学第8版(西川武二), 2007 ; pp178-188, 医学書院 .

学会発表

(1) 招待講演:

- 1) 尾見徳彌: Phototherapy による acne 治療 . 第24回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2006 . 8 .
- 2) 尾見徳彌: スキンケアから最新光治療まで . 第7回トータルアンチエイジングセミナー, 2006 . 9 .
- 3) 尾見徳彌: ざ瘡治療の最新トレンド: 様々な治療アプローチと選択 . 第4回アンチエイジングセミナー, 2007 . 3 .

(2) 教育講演:

- 1) 川名誠司: 最近のアナフィラクトイド紫斑 . 第105回日皮会総会学術大会, 2006 . 6 .
- 2) 三石 剛: ウイルス性疣贅の治療: 現状と今後の展望 . 第105回日皮会総会学術大会, 2006 . 6 .

(3) セミナー:

- 1) 三石 剛: ウイルス感染症 . 第12回皮膚科感染症夏季セミナー, 2006 . 7 .
- 2) 三石 剛: アトピー性皮膚炎の病態と治療 . 栃木小児アレルギー疾患懇話会, 2006 . 8 .

(4) 一般講演:

- 1) Sakai N, Waterman EA¹⁾, Nguyen NT¹⁾, Horst BAJ¹⁾, Veitch DP¹⁾, Dey CN¹⁾, Ortiz-Urda S¹⁾, Khavari PA¹⁾, Marinkovich MP¹⁾(¹⁾ Epithelial Biology, Stanford University): Laminin-5 Beta 3 Chain Promotes Epidermal Carcinogenesis Through Type VII Collagen Binding and Pi3k Activation . The 67th Annual Meeting, The Society of Investigative Dermatology (Philadelphia, USA), 2006 . 5 .
- 2) Omi T : Ultrastructural changes associated with defferent skin rejuvenation devices . ESLD Annual Scientific Meeting Rhodes 2006 (Capsis, Greece), 2006 . 10 .
- 3) 落合廣武, 新見やよい, 下田貴子, 高田香織, 二神綾子, 川名誠司, 森本泰介¹⁾(¹⁾内科学第1): ミノマイシンによる好酸球性肺炎, 肝機能障害を伴った薬疹の1例 . 第70回日皮会東京支部学術大会, 2006 . 2 .
- 4) 二神綾子, 川名誠司, 萩野まり子¹⁾, 稲見光春¹⁾(¹⁾内科学第3): 異汗性湿疹様皮疹を呈したATLの1例 . 第22回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2006 . 4 .
- 5) 荻田あづさ, 青木見佳子, 川名誠司: 皮膚原発 mariginal zone B cell lymphoma の2例 . 第22回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 2006 . 4 .
- 6) 加藤篤衛, 三浦幹枝¹⁾(¹⁾村山市): neutrophilic dermatosis の1例 . 日皮会山形地方会第334回例会, 2006 . 4 .
- 7) 青木見佳子, 川名誠司, 本田光芳¹⁾, 石河 晃²⁾(¹⁾横浜市): アミロイド沈着を伴った栄養障害型先天性表皮

- 水疱症（前脛骨型）. 第105回日皮会総会学術大会, 2006 . 6 .
- 8) 尾見徳彌: レーザー・光線機器などの進歩と美容皮膚科の功罪 . 第105回日皮会総会学術大会, 2006 . 6 .
- 9) 尾見徳彌: LEDによるacne治療とphotorejuveation . 第105回日皮会総会学術大会, 2006 . 6 .
- 10) 義澤雄介: 小児の円形脱毛症: 思春期および成人期発症との比較 . 第30回日本小児皮膚科学会学術大会, 2006 . 6 .
- 11) 二神綾子, 中田朋子, 川名誠司: 左膝腫瘍: 血管にフィブリノイド壊死を伴う類上皮細胞性肉芽腫 . 第22回皮膚病理組織学会, 2006 . 7 .
- 12) 又吉武光, 山西貴仁, 藤本和久, 二神綾子, 川名誠司: マレイン酸クロルフェニラミンによる固定薬疹の1例 . 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会・合同学術大会, 2006 . 7 .
- 13) 野呂佐知子, 山西貴仁, 藤本和久, 川名誠司: くるみによるoral allergy syndromeの1例 . 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会・合同学術大会, 2006 . 7 .
- 14) 東 直行, 川名誠司: チョコレート中の微量金属による全身型金属アレルギーが疑われた2例 . 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会・合同学術大会, 2006 . 7 .
- 15) 荻田あづさ, 青木見佳子, 川久保恵, 川名誠司: ドルマイコーチ^R軟膏外用による即時型アレルギーの1例 . 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会・合同学術大会, 2006 . 7 .
- 16) 高田香織, 二神綾子, 竹内淳子, 新見やよい, 川名誠司, 長谷哲男¹⁾(¹⁾東京医科大学八王子医療センター皮膚科): Folliculotropic mycosis fungoides の1例 . 日皮会第807回東京支部地方会（合同臨床）, 2006 . 7 .
- 17) 小坂素子, 青木見佳子, 柿栖睦美¹⁾, 手塚信吾¹⁾, 高橋直人¹⁾, 山口朋禎¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 川名誠司(¹⁾武蔵小杉病院内科): 肺病変の急性増悪を伴ったLofgren症候群の1例 . 日皮会第807回東京支部地方会（合同臨床）, 2006 . 7 .
- 18) 野呂佐知子, 三石 剛, 義澤雄介, 森田 孝, 川名誠司: 手背に生じた無色素性悪性黒色腫の1例 . 第22回日本皮膚外科学会総会学術大会, 2006 . 8 .
- 19) 安本美奈子, 下田貴子, 狩野律子, 坪内利江子, 川名誠司: 血管性病変に対するStarluxTMの治療効果 . 第24回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2006 . 8 .
- 20) 奥山ます美¹⁾, 尾見徳彌(¹⁾横浜市): グリコマンナンスポンジによる洗浄の経時的な皮膚変化 . 第24回日本美容皮膚科学会総会学術大会, 2006 . 8 .
- 21) 伊吾田慎一¹⁾, 加藤篤衛, 安達章子²⁾, 菅野敦子²⁾, 百束比古¹⁾(¹⁾日本医科大学形成外科学, ²⁾北村山公立病院): 地域と院内で取り組む褥瘡対策 . 第8回日本褥瘡学会学術集会, 2006 . 9 .
- 22) 加賀美緒, 高田香織, 新見やよい, 川名誠司: 吉草酸酢酸プレドニゾロンによるアレルギー性接触皮膚炎 . 日皮会第808回東京支部地方会, 2006 . 9 .
- 23) 久保田智樹, 坪内利江子, 川名誠司: 本態性血小板増多症に伴った足趾潰瘍の1例 . 日皮会第808回東京支部地方会, 2006 . 9 .
- 24) 熊谷聖代, 下田貴子, 二神綾子, 須藤悦宏¹⁾, 横山宗伯²⁾, 川名誠司(¹⁾整形外科, ²⁾病理学第2): Myxofibrosarcomaの1例 . 日皮会第808回東京支部地方会, 2006 . 9 .
- 25) 落合廣武, 二神綾子, 川名誠司: Cutaneous Plasmacytosisの1例 . 日皮会第808回東京支部地方会, 2006 . 9 .
- 26) 高木佐千代, 天野彰人, 中田朋子, 東 直行, 小鍛治知子¹⁾, 川名誠司(¹⁾久我山病院皮膚科): ウイルス感染症の経過中に発症した薬剤性無顆粒球症の1例 . 日皮会第808回東京支部地方会, 2006 . 9 .
- 27) 池田麻純, 青木見佳子, 川名誠司: Perianal streptococcal dermatitisの1例 . 日皮会第808回東京支部地方会, 2006 . 9 .
- 28) 山岡淳一, イリヌルハリフ, 川名誠司: マウス皮膚擦過刺激は, 一過性に皮膚感覚神経内のSubstance Pを減少させ, 擦過刺激への反応性を減弱する . 第16回国際痒みシンポジウム, 2006 . 11 .
- 29) 狩野律子, 中田朋子, 東 直行: 溶連菌感染症後反応性関節炎(PSRA)の1例 . 日皮会第809回東京支部地方会, 2006 . 11 .

- 30) 天野彰人, 新見やよい, 野呂佐知子, 川名誠司: 胸囲結核の1例. 日皮会第809回東京支部地方会, 2006. 11.
- 31) 森田 孝, 義澤雄介, 野呂佐知子, 川名誠司: 頭部血管肉腫の1例. 日皮会第809回東京支部地方会, 2006. 11.
- 32) 三石 剛, 川名誠司, 金子勝美, 大原國章¹⁾, 加藤俊彦²⁾, 中武真由香³⁾, 山田 修³⁾(¹⁾虎の門病院皮膚科, ²⁾富士バイオメディックス, ³⁾東京女医大総研): 尖圭コンジローマおよびポーエン様丘疹症におけるテロメラーゼ活性およびc-Myc, c-IAP2遺伝子の解析. 第19回日本性感染症学会学術大会, 2006. 12.
- 33) 加藤篤衛, 高橋 光¹⁾, 橋本秀樹²⁾(¹⁾北村山公立病院消化器科, ²⁾東根市): 小腸潰瘍を伴ったアナフィラクトイド紫斑の1例. 日皮会山形地方会第336回例会, 2006. 12.
- 34) 山岡淳一, イリヌルハリフ, 川名誠司: マウスに皮膚擦過刺激を繰り返し与えると自己擦過行動は一過性に減弱する. 日皮会第810回東京支部地方会(研究地方会), 2006. 12.
- 35) 片山美玲, 青木見佳子, 黒澤真澄¹⁾, 川名誠司(¹⁾川崎市): 抗セントロメア抗体高値を伴うsuperficial granulomatous pyodermaと思われる1例. 第30回皮膚脈管膠原病研究会, 2007. 1.
- 36) 池田麻純, 青木見佳子, 片山美玲, 川名誠司: Pagetoid Bowen病の1例. 日皮会第811回東京支部地方会, 2007. 1.
- 37) 中田朋子, 河野美乃里, 川名誠司, 劉 愛民¹⁾, 前田昭太郎²⁾(¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾多摩永山病院病理部): Cellular Angiofibromaが疑われた1例. 第70回日皮会東京支部学術大会, 2007. 2.
- 38) 小金井宏美, 竹内淳子, 久保田智樹, 川名誠司, 河邊京子¹⁾, 水野博司¹⁾, 百束比古¹⁾, 飯田信也²⁾(¹⁾形成外科学, ²⁾外科学第1): Muir-Torri症候群の1例. 第70回日皮会東京支部学術大会, 2007. 2.
- 39) 久保田智樹, 青木見佳子, 荻田あづさ, 川名誠司: 骨化を伴う足趾の皮膚混合腫瘍の1例. 第70回日皮会東京支部学術大会, 2007. 2.
- 40) 狩野律子, 義澤雄介, 川名誠司: 抗甲状腺薬チアマゾールによる薬剤性ANCA関連血管炎. 第8回関東皮膚脈管懇話会, 2007. 3.
- (5) 展示:
- 1) Tachihara R, Kawana S: Tufted angioma successfully treated by ALA-PDT. 26th American Society of Laser Medicine and Surgery (Boston, USA), 2006. 4.
- 2) Omi T, Sato S¹⁾, Hankins RW²⁾, Kawana S, Numano K²⁾(¹⁾Central Institute for Electron Microscopic Research, Nippon Medical School, ²⁾Yokohama): Morphological and Immunological change by LED phototherapy at 630nm. 26th American Society of Laser Medicine and Surgery (Boston, USA), 2006. 4.
- 3) Kawana S, Liang Z, Nagano M¹⁾, Suzuki H¹⁾(¹⁾Department of Pharmacology, Nippon Medical School): Role of substance P in stress-derived degranulation of dermal mast cells in mice. The 67th Annual Meeting, The Society of Investigative Dermatology (Firaderufia, USA), 2006. 5.
- 4) Noro S, Yamazaki N¹⁾, Nakanishi Y²⁾, Yamamoto A¹⁾, Sasajima Y³⁾, Kawana S(¹⁾Dermatology Division, National Cancer Center Hospital, ²⁾Pathology Division, National Cancer Center Research Institute, ³⁾Clinical Laboratory Division, National Cancer Center Hospital): Sentinel lymph node biopsy and pathological examination for malignant melanoma. 5th Biennial international sentinel node society meeting 2006 (Rome, Italy), 2006. 11.
- 5) 高田香織, 金森幸男, 金子勝美, 川名誠司, 飯田和美¹⁾(¹⁾ワクチン療法研究施設): 低濃度DNFBにより生じる接触皮膚炎における所属リンパ節細胞のサイトカイン産生およびredox状態について. 第31回日本研究皮膚科学会, 2006. 5.
- 6) 狩野律子, 新見やよい, 野呂佐知子, 安本美奈子, 落合廣武, 川名誠司: D-ペニシラミンによる薬剤誘発性天疱瘡 内服テストで皮疹再現と抗体価上昇を確認した1例. 第105回日皮会総会学術大会, 2006. 6.
- 7) 片山美玲, 青木見佳子, 川名誠司, 岩切加奈¹⁾(¹⁾横浜市): 粘液水腫性苔癬の1例. 第105回日皮会総会学術大会, 2006. 6.

- 8) 野呂佐知子, 二神綾子, 三石 剛, 川名誠司: Folliculosebaceous cystic hamartoma (FSCH) と色素性母斑の合併例. 第105回日皮会総会学術大会, 2006. 6.
- 9) 河野美乃里, 三石 剛, 川名誠司: HPV-1関連表皮様嚢腫. 第105回日皮会総会学術大会, 2006. 6.
- 10) 山岡淳一, 川名誠司: 皮膚擦過により誘導されるサブスタンスPおよびneutral endopeptidaseの動態. 第31回日本研究皮膚科学会, 2006. 6.
- 11) 中田朋子, 東 直行, 川名誠司: ニューキノロン系抗生剤による薬疹の3例. 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会・合同学術大会, 2006. 7.

[武蔵小杉病院皮膚科]

研究概要

1. 皮膚悪性腫瘍の病理学的診断・研究.
2. センチネルリンパ節生検法の確立と応用.
3. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認と交叉感作, 抗原の検索.
4. 皮膚創傷治癒機転における神経ペプチドの関与: gastrin releasing peptide receptor ノックアウトマウスにおける創傷治癒.

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 片山美玲, 青木見佳子, 竹内淳子¹⁾, 岩切加奈²⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科, ²⁾矢代皮膚科): Transient acantholytic dermatosisの1例. 臨床皮膚科 2006; 60(12): 1093-1095.

(2) 綜説:

- 1) 青木見佳子: 若さを保つためのスキンケア. 産婦人科の実際 2006; 55(12): 2035-2043.

(3) 症例報告:

- 1) Sakai N¹⁾, Aoki M, Miyazawa S²⁾, Akita M, Takezaki S¹⁾, Kawana S¹⁾(¹⁾Department of Dermatology, Nippon Medical School, ²⁾Department of Electron Microscopy, Kitasato University School of Medicine.): A Case of Generalized Argyria Caused by the Use of Silver Protein as a Disinfection Medicine. Acta Dermatovenereologica 2006; 86: 186-187.
- 2) 荻田あづさ, 加藤篤衛¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): 周期性血小板減少症に生じた皮下血腫の1例. 臨床皮膚科 2006; 60(4): 382-383.
- 3) 高田香織, 青木見佳子, 川久保恵, 竹崎伸一郎¹⁾, 石河 晃²⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院皮膚科, ²⁾慶應大学医学部皮膚科学): 単純型表皮水疱症(Köbner型)の1例. 日本小児皮膚科学会誌 2006; 25(1): 27-29.
- 4) 荻田あづさ, 竹崎伸一郎¹⁾, 矢部朋子¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): 腎移植後に発生した乳房 paget 病の1例. 臨床皮膚科 2006; 60(7): 576-578.
- 5) 秋田政彦, 青木見佳子, 新見やよい¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): 透析性水疱症の1例. 皮膚科の臨床 2006; 48(9): 1143-1145.
- 6) 荻田あづさ, 二神綾子¹⁾, 下田貴子¹⁾, 内海甲一²⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科, ²⁾付属病院内科学第2): Fabry病. 皮膚科診療 2006; 28(9): 1091-1094.
- 7) 竹内淳子, 荻田あづさ, 青木見佳子, 山田利恵¹⁾, 川名誠司²⁾(¹⁾りえ皮膚科クリニック, ²⁾日本医科大学付属病院皮膚科): livedo recemosa の2例: macular arteritis との異同について. Visual Dermatology 2006; 5

(10): 1032-1035 .

- 8) 小坂素子, 新見やよい¹⁾, 川名誠司¹⁾, 斉藤 裕²⁾(¹⁾日本医科大学付属病院皮膚科, ²⁾斉藤皮膚科): 環状丘疹性梅毒疹の1例. 臨床皮膚科 2006 ; 60 (13): 1265-1268 .
- 9) 荻田あづさ, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾, 森山マサミ²⁾, 本田光芳³⁾, 新井栄一⁴⁾(¹⁾日本医科大学付属病院皮膚科, ²⁾森山皮膚科, ³⁾ヒロセクリニック, ⁴⁾埼玉医科大学病理学): 皮膚原発 marginal zone B cell lymphoma の2例. Skin Cancer 2007 ; 21 (3): 345-349 .

著 書

- 1) 青木見佳子: [分担] 痒疹. 皮膚疾患 最新の治療 2007-2008 (瀧川雅浩, 渡辺晋一), 2006 ; pp41-42, 南江堂 .

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 荻田あづさ, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): 皮膚原発 marginal zone B cell lymphoma の2例. 第22回日本皮膚悪性腫瘍学会, 2006 . 4 .
- 2) 青木見佳子, 川名誠司¹⁾, 本田光芳²⁾, 石河 晃³⁾(¹⁾日本医科大学付属病院皮膚科, ²⁾ヒロセクリニック, ³⁾慶應義塾大学皮膚科): アミロイド沈着を伴った栄養障害型先天性表皮水疱症 (前脛骨型). 第105回日本皮膚科学会総会, 2006 . 6 .
- 3) 片山美玲, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾, 岩切加奈²⁾(¹⁾日本医科大学付属病院皮膚科, ²⁾矢代皮膚科): 粘液水腫性苔癬の1例. 第105回日本皮膚科学会・総会, 2006 . 6 .
- 4) 小坂素子, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾, 柿栖睦実²⁾, 手塚信吾²⁾, 高橋直人²⁾, 山口朋禎²⁾, 宗像一雄²⁾(¹⁾付属病院皮膚科, ²⁾同内科): 肺病変の急性憎悪を伴った Löfgren 症候群の1例. 日本皮膚科学会合同臨床地方会, 2006 . 7 .
- 5) 荻田あづさ, 青木見佳子, 川久保恵, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): ドルマイコーチ®軟膏外用による即時型アレルギーの1例. 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会合同学術大会, 2006 . 7 .
- 6) 久保田智樹, 立原利江子¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): 本態性血小板増多症に伴った足趾潰瘍の1例. 日本皮膚科学会東京地方会第802回例会, 2006 . 9 .
- 7) 池田麻純, 青木見佳子, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): Perianal streptococcal dermatitis の1例. 日本皮膚科学会第808回東京地方会神奈川地区, 2006 . 9 .
- 8) 片山美玲, 青木見佳子, 黒澤真澄¹⁾, 竹内淳子²⁾, 川名誠司²⁾(¹⁾ますみ皮膚科, ²⁾日本医科大学付属病院皮膚科): 抗セントロメア抗体高値を伴う superficial granulatous pyodema とと思われる1例. 第30回皮膚脈管膠原病研究会, 2007 . 1 .
- 9) 池田麻純, 青木見佳子, 片山美玲, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): Pagetoid Bowen 病の1例. 日本皮膚科学会第811回東京地方会神奈川地区, 2007 . 1 .
- 10) 久保田智樹, 青木見佳子, 荻田あづさ, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): 骨化を伴う足趾の皮膚混合腫瘍の1例. 第70回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2007 . 2 .
- 11) 春原沙織¹⁾, 網谷賢一¹⁾, 南 史郎¹⁾, 宗像一雄¹⁾, 片山美玲, 青木見佳子(¹⁾武蔵小杉病院内科): P-R-34 糖尿病性壊疽・腎症に重症のアレルギー性紫斑病を合併した1例. 第17回臨床内分泌代謝 Update, 2007 . 3 .

[多摩永山病院皮膚科]

研究概要

1. アトピー性皮膚炎の病態におけるケモカイン/サイトカイン発現の解析と治療戦略
2. 薬疹, 接触皮膚炎, 食物アレルギー: 皮膚テストによる原因物質の確認と交差感作, 抗原の検索
3. 皮膚腫瘍, 皮膚悪性腫瘍, 軟部腫瘍の病理学的診断と研究
4. 各種皮膚疾患(血管炎, 円形脱毛症, 蕁麻疹)におけるサイトカイン, ケモカイン発現の解析
5. ケミカルピーリング, イオントフォレーシス, 炭酸ガスレーザー, ハイドロキノン, ビタミンCによる美容的治療

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Watanabe A¹⁾, Kosho T¹⁾, Wada T¹⁾, Sakai N, Fujimoto M¹⁾, Fukushima Y¹⁾, Shimada T¹⁾(¹⁾ Department of Biochemistry and Molecular Biology): Genetic Aspects of the Vascular Type of Ehlers-Danlos Syndrome (vEDS, EDSIV) in Japan. *Circ J* 2007; 71(2): 261-265.
- 2) 東 直行, 篁 武郎¹⁾, 伊吾田慎一²⁾(¹⁾北村山公立病院麻酔科, ²⁾同形成外科): 北村山公立病院における帯状疱疹の統計的観察(第1報): 1997年11月~2005年8月の入院例. *北村山公立病院医学雑誌* 2005; 10(1): 22-26.

(2) 症例報告:

- 1) Sakai N, Aoki M, Miyazawa S, Akita M, Takezaki S, Kawana S: A Case of Generalized Argyria Caused by the Use of Silver Protein as a Disinfection Medicine. *Acta-Dermato Venereol* 2007; 87(2): 186-187.
- 2) 堀内義仁¹⁾, 辻 香²⁾, 長谷哲男²⁾, 稲岡峰幸³⁾, 馬場由佳理⁴⁾, 堀田隆之⁵⁾, 鈴木洋介⁶⁾, 小林容子⁷⁾, 稲積豊子⁸⁾, 五十嵐司, 東 直行, 保坂進一⁹⁾, 渡辺 憲¹⁰⁾, 早川和人¹¹⁾, 塩原哲夫¹¹⁾, 中條知孝¹²⁾(¹⁾災害医療センター皮膚科, ²⁾東京医大八王子医療センター皮膚科, ³⁾公立福生病院皮膚科, ⁴⁾青梅市立病院皮膚科, ⁵⁾公立阿伎留病院皮膚科, ⁶⁾日野市立病院皮膚科, ⁷⁾日野市, ⁸⁾共済立川病院皮膚科, ⁹⁾東久留米市, ¹⁰⁾武蔵野赤十字病院皮膚科, ¹¹⁾杏林大学医学部付属病院皮膚科, ¹²⁾八王子市): 多摩地区における市中型黄色ブドウ球菌の薬剤感受性と伝染性膿痂疹の治療. *日本臨床皮膚科医会雑誌* 2006; 23(6): 575-582.
- 3) 東 直行, 篁 武郎¹⁾, 石田良太²⁾, 尾崎大也²⁾, 上坂真司²⁾, 亀山幹彦³⁾(¹⁾北村山公立病院麻酔科, ²⁾同整形外科, ³⁾同内科): ドクササコ摂取による肢端紅痛症. *皮膚臨床* 2006; 48(12): 1669-1674.
- 4) 東 直行: Sjogren症候群に伴った高グロブリン血症性紫斑の1例. *Visual Dermatology* 2006; 5(12): 1194-1195.
- 5) 狩野律子, 義澤雄介¹⁾, 川名誠司¹⁾, 津久井拓²⁾(¹⁾付属病院皮膚科, ²⁾同内科学第3): *Helicobacter pylori*感染と早期胃癌を合併した蕁麻疹様紅斑の1例. *西日本皮膚科* 2007; 69(1): 8-10.

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 河野美乃里, 東 直行, 三石 剛¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): HPV-1関連表皮様嚢腫. 第105回日本皮膚科学会総会, 2006. 6.
- 2) 斉藤寛幸¹⁾, 門馬文子¹⁾, 林 昌浩¹⁾, 三橋善比古¹⁾, 近藤滋夫¹⁾, 東 直行(¹⁾山形大学皮膚科): KL-6が高値であった皮膚筋炎の1例. 第105回日本皮膚科学会総会, 2006. 6.
- 3) 狩野律子, 新見やよい¹⁾, 野呂佐知子¹⁾, 安本美奈子¹⁾, 落合廣武, 川名誠司¹⁾(¹⁾付属病院皮膚科): D-ペニシラミンによる薬剤誘発性天疱瘡: 内服テストで皮疹再現と抗体価上昇を確認した1例. 第105回日本皮膚科学

会総会，2006．6．

(2) 一般講演：

- 1) Sakai N, Waterman EA¹⁾, Nguyen NT¹⁾, Horst BAJ¹⁾, Veitch DP¹⁾, Dey CN¹⁾, Ortiz-Urda S¹⁾, Khavari PA¹⁾, Marinkovich MP¹⁾(¹⁾ Epithelial Biology, Stanford Univ. Stanford, CA) : Laminin-5 Beta 3 Chain Promotes Epidermal Carcinogenesis Through Type VII Collagen Binding and Pi3k Activation . The 67th Annual Meeting, The Society of Investigative Dermatology (Philadelphia, CA, USA), 2006 . 5 .
- 2) 東 直行, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科) : チョコレート中の微量金属による全身型金属アレルギーが疑われた2例 . 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会合同学術大会, 2006 . 7 .
- 3) 中田朋子, 東 直行, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科) : ニューキノロン系抗生剤による薬疹の3例 . 第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会合同学術大会, 2006 . 7 .
- 4) 安本美奈子¹⁾, 下田貴子¹⁾, 狩野律子, 坪内利江子¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科) : 血管性病変に対するStarluxの治療効果 . 第24回日本皮膚美容学会, 2006 . 8 .
- 5) 高木佐千代, 天野彰人, 中田朋子, 東 直行, 小鍛治知子¹⁾, 川名誠司²⁾(¹⁾ 久我山病院皮膚科, ²⁾ 日本医科大学付属病院皮膚科) : ウイルス感染症の経過中に発症した薬剤性無顆粒球症の1例 . 日皮会第808回東京地方会, 2006 . 9 .
- 6) 落合廣武, 二神綾子¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科) : Cutaneous Plasmacytosisの1例 . 日皮会第808回東京地方会, 2006 . 9 .
- 7) 狩野律子, 中田朋子, 東 直行, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科) : 溶連菌感染症後反応性関節炎 (PSRA) の1例 . 日皮会第809回東京地方会, 2006 . 11 .
- 8) 中田朋子, 東 直行, 河野美乃里¹⁾, 川名誠司¹⁾, 劉 愛民²⁾, 前田昭太郎³⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科, ²⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ³⁾ 多摩永山病院病理部) : Cellular Angiofibromaが疑われた1例 . 日皮会第70回東京支部学術大会, 2007 . 2 .
- 9) 落合廣武, 新見やよい¹⁾, 下田貴子¹⁾, 二神綾子¹⁾, 川名誠司¹⁾, 森本泰介²⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科, ²⁾ 同内科学第4) : ミノマイシンによる好酸球性肺炎, 肝機能障害を伴った薬疹の1例 . 日皮会第70回東京支部学術大会, 2007 . 2 .
- 10) 狩野律子, 義澤雄介¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科) : 抗甲状腺薬チアマゾールによる薬剤性ANCA関連血管炎 . 第8回関東皮膚脈管懇話会, 2007 . 3 .

[千葉北総病院皮膚科]

研究概要

- 1) 薬疹, 接触性皮膚炎, 食物アレルギー : パッチテスト, プリックテスト, チャレンジテスト, 光パッチテストによる原因物質の確認と, 交叉感作, 抗原決定基の検索, アレルギーカードの発行 .
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断, 形成外科学的治療・再建術および病理学的研究 : 特に電顕, 酵素抗体法を用いた研究 .
- 3) 動物性皮膚疾患 : 疥癬, Creeping disease等に対する新しい内服治療法の研究 .
- 4) 褥瘡, 難治性潰瘍 : 新しい素材, 薬剤を用いた保存的, 外科的治療, および糖尿病性壊疽の患者管理と治療法の研究 .
- 5) 皮膚真菌症 : 白癬菌の寄生形態に関する電顕学的研究, 白癬に対する効果的な外用・内服治療法の研究 .
- 6) 水疱症 : 尋常性天疱瘡, 水疱性類天疱瘡に対する, 血漿交換療法を含めた集学的治療法の研究 .

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 藤本和久: 薬疹の診断と治療: 重症型薬疹への対応. 日医大医学会誌 2006; 2(2): 103-107.
- 2) 藤本和久: 薬剤性皮膚障害・薬疹: 重症型薬疹の診断と治療(特集: ここが知りたい他科知識). JOHNS 2007; 23(3): 524-526.

(2) 研究報告書:

- 1) 藤本和久, 山西貴仁, 加藤篤衛, 又吉武光: 痒を伴う皮膚疾患患者に対するエバスタチンの有効性と安全性の検討: 追加服薬による評価. 新薬と臨床 2007; 56(1): pp42-46.

著書

- 1) 藤本和久: [分担] 皮膚感染症・抗菌剤臨床ハンドブック(渡辺 彰), 2006; pp242-251, ヴァン メディカル.

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 又吉武光, 山西貴仁¹⁾, 藤本和久, 二神綾子¹⁾, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科): マレイン酸クロルフェニラミンによる固定薬疹の1例. 第36回日本皮膚アレルギー学会・第31回日本接触皮膚炎学会・合同学術大会, 2006. 7.
- 2) 野呂佐知子¹⁾, 山西貴仁¹⁾, 藤本和久, 川名誠司¹⁾(¹⁾ 付属病院皮膚科): くるみによる Oral Allergy Syndromeの1例. 第36回日本皮膚アレルギー学会・第31回日本接触皮膚炎学会・合同学術大会, 2006. 7.

9. 外科学講座（消化器・一般・乳腺・移植部門）

[付属病院第 1 外科（消化器外科，乳腺外科，一般外科，移植外科）]

研究概要

教室では，消化器・一般・乳腺・移植外科学を中心に臨床医学に直結し，しかも将来につながる研究を目的とし，先端医療を含めた臨床的，基礎的研究を行っている．具体的には，外科腫瘍学を基本に，消化器全般（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝・胆・膵・脾），乳腺，移植に関して，外科的治療を中心とした治療成績の向上のための臨床および基礎的研究を行っている．

1. 鏡視下手術（腹腔鏡・胸腔鏡・内視鏡）を用いた低侵襲手術を導入し，基礎的技術習熟のためのトレーニングシステムの構築およびその実践．
2. 生体肝移植における過小グラフト問題に対して，小腸同時切除が過小グラフトのoutflow blockを解決可能かどうかを実験動物（イヌ）を用いて証明．
3. 門脈圧亢進症による食道，胃静脈瘤の病態生理の解明および新しい治療法の開発．
4. 肝不全に対する高圧酸素療法の有用性を証明すべく，障害肝ラットへの高圧酸素療法の効果を病理組織学的に検索．
5. 腹膜炎，イレウス，急性膵炎などを中心とする急性腹症，腹部救急疾患の病態，とくに細菌性ショック発来機構の解明ならびにイレウスの新しい診断法の確立．
6. 創傷治癒，外科侵襲の基礎及び臨床研究さらには外科感染症対策に関してエビデンスをもとにした治療法・予防法の実践．
7. 乳癌，肝癌および膵癌のFNA細胞診断の向上に努めるべく，手術標本からのFNA細胞診断とともに分子生物学的手法を用いた腫瘍マーカーの同定，定量から組織診断の鑑別への応用．
8. 悪性腫瘍に関して，外科的治療を中心として治療成績の向上，基礎的研究として増殖因子の役割，胃十二指腸疾患におけるヘリコバクタ・ピロリの役割，胃癌発生における遺伝子多型性の意義，肝癌発生の分子生物学的解明，膵癌転移機構の解明，大腸癌発生における細菌性因子の関与の研究など，スタッフの指導のもとに，それぞれのテーマに対し教室員が配属されて積極的に研究が進められている．

研究業績

論文

[2005 年度追加分]

原著：

- 1) Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Suzuki K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Wada K¹⁾, Miyake K¹⁾, Ohashi K²⁾, Shimizu M³⁾, Takahashi H³⁾, Gudis K¹⁾, Kato S, Tsukui T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ : T cells increase with gastric mucosal interleukin (IL) -7, IL-1 , and *Helicobacter pylori* urease specific immunoglobulin levels via CCR2 upregulation in *Helicobacter pylori* gastritis . J Gastroenterol Hepatol 2006 ; 21 (1) : 32-40 .
- 2) 田尻 孝，宮下正夫，柏原 元：外科的侵襲と副腎機能．侵襲と免疫 2006 ; 15 (1) : 24-26 .

綜説：

- 1) 田尻 孝，真々田裕宏：塞栓術で思い出す困難例，困った症例．日門亢会誌 2005 ; 11 (3) : 294-295 .

症例報告：

- 1) 柿沼大輔，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，川野陽一，水口義昭，清水哲也，高橋 翼，石川義典，神田知洋，秋丸琥甫，田尻 孝，村島直哉¹⁾(¹⁾三宿病院消化器科)：門脈肺静脈シャント併存難性食道胃静脈瘤に対し経腹的食道離断術を施行した1例．日門亢会誌 2005 ; 11 (4) : 340-341 .

(1) 原著 :

- 1) Taniai N, Yoshida H, Mamada Y, Matsumoto S, Mizuguchi Y, Suzuki H, Furukawa K, Akimaru K, Tajiri T : Outcome of Surgical Treatment of Synchronous Liver Metastases from Colorectal Cancer . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (2) : 82-88 .
- 2) Taniai N, Yoshida H, Mamada Y, Kawano Y, Mizuguchi Y, Akimaru K, Tajiri T : Is Intraoperative Adjuvant Therapy Effective for Satellite Lesions in Patients undergoing Reduction Surgery for Advanced Hepatocellular Carcinoma? . Hepato-Gastroenterology 2006 ; 53 (68) : 258-261 .
- 3) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Shimizu T, Yokomuro S, Aimoto T, Nakamura Y, Uchida E, Arima Y, Watanabe M¹⁾, Uchida E¹⁾, Tajiri T (¹⁾Uchida Hospital) : One-step palliative treatment method for obstructive jaundice caused by unresectable malignancies by percutaneous transhepatic insertion of an expandable metallic stent . World J Gastroenterol 2006 ; 12 (15) : 2423-2426 .
- 4) Shimizu T, Arima Y, Yokomuro S, Yoshida H, Mamada Y, Nomura T, Taniai N, Aimoto T, Nakamura Y, Mizuguchi Y, Kawahigashi Y, Uchida E, Akimaru K, Tajiri T : Incidental Gallbladder Cancer Diagnosed during and after Laparoscopic Cholecystectomy . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (3) : 136-140 .
- 5) Guo H¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Shinji S, Fujimori S¹⁾, Tanaka S¹⁾, Gudis K¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Furukawa K, Tajiri T, Fukuda Y³⁾, Kishida T¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾3rd Dept. of Internal Medicine , ²⁾Div. of Surgical Pathology , ³⁾Dept. of Pathology) : Cyclooxygenase-2 Expression Correlates With Membrane-Type-1 Matrix Metalloproteinase Expression in Colorectal Cancer Tissue . Dis Colon Rectum 2006 ; 49 (8) : 1184-1192 .
- 6) Hagiwara N, Mechanic LE¹⁾, Trivers GE¹⁾, Cawley HL¹⁾, Taga M²⁾, Bowman ED¹⁾, Kumamoto K¹⁾, He P¹⁾, Bernard M¹⁾, Doja S¹⁾, Miyashita M, Tajiri T, Sasajima K, Nomura T, Makino H, Takahashi K, Hussain SP¹⁾, Harris CC¹⁾(¹⁾Laboratory of Human Carcinogenesis, Center for Cancer Research, National Cancer Institute, NIH, Bethesda, Maryland, USA , ²⁾Dept. of Radiobiology/Molecular Epidemiology, Radiation Effects Research Foundation, Hiroshima, Japan) : Quantitative detection of p53 mutations in plasma DNA from tobacco smokers . Cancer Res 2006 ; 66 (16) : 8309-8317 .
- 7) Kiyama T, Mizutani T, Okuda T, Fujita I, Yamashita N, Ikeda K, Kanno H, Yoshiyuki T, Kato S, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾Center for Gastrointestinal Disease, Musashikosugi Hospital) : Laparoscopic Surgery for Gastric Cancer : 5 years ' Experience . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4) : 214-220 .
- 8) Shinji S, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Tanaka N²⁾, Furukawa K, Suzuki H, Seya T²⁾, Kan H, Tsuruta H, Matsumoto S, Matsuda A, Teranishi N, Ohaki Y³⁾, Tajiri T (¹⁾Dept. of Integrative Pathology , ²⁾Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hospital , ³⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusou Hospital) : Neuroendocrine cell differentiation of poorly differentiated colorectal adenocarcinoma correlates with liver metastasis . International J of Oncology 2006 ; 29 : 357-364 .
- 9) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Katsuno A, Chou K, Kawamoto M, Tajiri T, Naito Z¹⁾(¹⁾Second Dept. of Pathology) : Clinicopathologic Study on Pancreatic Groove Carcinoma . Pancreas 2006 ; 33 (3) : 255-259 .
- 10) Furukawa K, Ito Y¹⁾, Takahashi S¹⁾, Sawaki M²⁾, Mizunuma N¹⁾, Horikoshi N³⁾, Kasumi F⁴⁾, Akiyama F⁵⁾, Sakamoto G⁵⁾, Furukawa K, Tajiri T, Hatake K¹⁾(¹⁾Dept. of Medical Oncology, Cancer Institute Hospital , ²⁾2nd Dept. of Surgery, Nagoya Univ. School of Medicine , ³⁾Dept. of General Medicine, Juntendo Univ. School of Medicine , ⁴⁾Dept. of Breast Oncology, Cancer Institute Hospital , ⁵⁾Dept. of Pathology, Cancer Institute Hospital) : Efficacy and Safety of Combined Trastuzumab and Paclitaxel Therapy as a Second-Line Treatment in Women with Metastatic Breast Cancer : A Single institutional Experience . Breast Cancer 2006 ; 13 (4) : 329-333 .

- 11) Shimizu T , Yokomuro S , Mizuguchi Y , Kawahigashi Y , Arima Y , Taniai N , Mamada Y , Yoshida H , Akimaru K , Tajiri T : Effect of transforming growth factor-beta1 on human intrahepatic cholangiocarcinoma cell growth . World J Gastroenterol 2006 ; 12 (39) : 6316-6324 .
- 12) Goto Y¹⁾ , Terajima K¹⁾ , Tsueshita T¹⁾ , Miyashita M , Horinouchi H¹⁾ , Sakai H¹⁾ , Tsuchida E¹⁾ , Sakamoto A¹⁾ (¹⁾ Dept. of Anesthesiology) : Fluid resuscitation with hemoglobin-vesicle solution does not increase hypoxia or inflammatory responses in moderate hemorrhagic shock . Biomed Res 2006 ; 27 (6) : 283-288 .
- 13) Kato S , Matsukura N , Matsuda N , Tsukada K¹⁾ , Naito Z²⁾ , Tajiri T (¹⁾ Div. of Pathology , ²⁾ Integrative Pathology) : *Helicobacter pylori* eradication therapy modulates acidity and interleukin-1 mRNA levels in un-operated stomach and in remnant stomach after gastrectomy in gastric cancer patients . Aliment Pharmacol Ther 2006 ; 24 (Suppl 4) : 278-284 .
- 14) Miyashita M , Makino H , Katsuta M , Nomura T , Shinji S , Kashiwabara M , Takahashi K , Kudo M¹⁾ , Ishiwata T¹⁾ , Naito Z¹⁾ , Tajiri T (¹⁾ Dept. of Pathology II) : Cyclo-oxygenase-2 Over-expression Is Associated with Human Esophageal Squamous Cell Carcinoma . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 308-313 .
- 15) Seya T¹⁾ , Tanaka N¹⁾ , Shinji S¹⁾ , Yokoi K¹⁾ , Koizumi M¹⁾ , Teranishi N , Yamashita K , Tajiri T , Ishiwata T²⁾ , Naito Z²⁾ (¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hospital , ²⁾ Dept. of Pathology II) : Lumican expression in advanced colorectal cancer with nodal metastasis correlates with poor prognosis . Oncol Rep 2006 ; 16 (6) : 1225-1230 .
- 16) Tatsuguchi A¹⁾ , Kishida T¹⁾ , Fujimori S¹⁾ , Tanaka S¹⁾ , Gudis K¹⁾ , Shinji S , Furukawa K , Tajiri T , Sugisaki Y²⁾ , Fukuda Y³⁾ , Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ 3rd Dept. of Internal Medicine , ²⁾ Div. of Surgical Pathology , ³⁾ Dept. of Pathology) : Differential expression of cyclo-oxygenase-2 and nuclear β -catenin in colorectal cancer tissue . Aliment Pharmacol Ther 2006 ; 24 (Suppl. 4) : 153-159 .
- 17) Yamada S¹⁾ , Matsuhisa T²⁾ , Makonkawkeyoon L³⁾ , Chaidatch S³⁾ , Kato S , Matsukura N (¹⁾ Div. of Gastrointestinal Surgery & Endoscopy, Dept. of Surgery, Faculty of Medicine, Chiang Mai Univ. Thailand , ²⁾ Dept. of Gastrointestinal Endoscopy, Tama-Nagayama Hospital , ³⁾ Dept. of Biochemistry, Faculty of Medicine, Chiang Mai Univ. Thailand) : *Helicobacter pylori* infection in combination with the serum pepsinogen I/II ratio and interleukin-1 β -511 polymorphisms are independent risk factors for gastric cancer in Thais . J Gastroenterology 2006 ; 41 (12) : 1169-1177 .
- 18) Matsutani T , Kang SC¹⁾ , Miyashita M , Sasajima K , Choudhry MA¹⁾ , Bland KI¹⁾ , Chaudry IH¹⁾ (¹⁾ Center for Surgical Research & Dept. of Surgery, Univ. of Alabama, Birmingham, USA) : Liver cytokine production and intercellular adhesion molecule-1 expression following bone fracture, tissue trauma and hemorrhage in middle-aged mice . Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2007 ; 292 (1) : G268-G274 .
- 19) Matsutani T , Kang SC¹⁾ , Miyashita M , Sasajima K , Choudhry MA¹⁾ , Bland KI¹⁾ , Chaudry IH¹⁾ (¹⁾ Center for Surgical Research & Dept. of Surgery, Univ. of Alabama, Birmingham, USA) : Young and middle-age associated differences in cytokeratin expression after bone fracture, tissue trauma, and hemorrhage . Am J Surg 2007 ; 193 (1) : 61-68 .
- 20) Uchida E , Inoue M , Aimoto T , Nakamura Y , Katsuno A , Tajiri T : Preventing Liver Metastasis by Resecting the Primary Pancreatic Carcinoma at an Early Stage of Intrapancreatic Transplantation in Hamsters . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 37-44 .
- 21) 松田明久 , 古川清憲 , 高崎秀明 , 鈴木英之 , 菅 隼人 , 鶴田宏之 , 松本智司 , 進士誠一 , 田尻 孝 : stage IV 大腸癌における予後因子の臨床病理学的検討 . 日消外会誌 2006 ; 39 (5) : 529-535 .
- 22) 飯田信也 , 江上 格¹⁾ , 笹島耕二¹⁾ , 長谷川博一²⁾ , 宮本昌之¹⁾ , 横山 正¹⁾ , 鈴木成治¹⁾ , 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科 , ²⁾ 千葉北総病院外科) : 外来癌化学療法における皮下埋込型中心静脈ポ一

トの有用性と留置手技のコツ．癌と化学療法 2006 ; 33 (5) : 639-643 .

- 23) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 大秋美治²⁾, 山下精彦, 田尻 孝 (¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾同病理部): 大腸癌における Orotate Phosphoribosyl Transferase (OPRT), Dihydropyrimidine Dehydrogenase (DPD), Thymidylate Synthase (TS) 活性と臨床病理学検討．癌と化学療法 2006 ; 33 (6) : 789-793 .
- 24) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 田尻 孝 : 大腸切除術後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的拡張術の検討．J Colon Exam 2006 ; 23 (1) : 21-23 .
- 25) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 田尻 孝 : 特集 消化器癌の予防医学 : 膵臓癌のリスクファクターと早期診断．臨床消化器内科 2006 ; 21 (6) : 711-718 .
- 26) 宮下正夫 : p53血清抗体を用いた癌検診．高崎医学 2006 ; 56 : 61-65 .
- 27) 奥田武志, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 田尻 孝, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾消化器内科): 内視鏡で発見される小さな食道・胃粘膜下腫瘍の実態．新薬と臨牀 2006 ; 55 (8) : 1271-1273 .
- 28) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝 (¹⁾千葉北総病院外科): 5-FU 関連酵素 OPRT, DPD, TS 活性を用いた 5-FU の効果予測 CD-DST による検討．癌と化学療法 2006 ; 33 (11) : 1603-1609 .
- 29) 内田英二, 田尻 孝, 相本隆幸, 中村慶春 : IX 膵臓, 脾臓 5 . 膵管空腸吻合術 : 知っておくべき良性疾患に対する外科的処置および手術．外科 2006 ; 68 (12) : 1634-1637 .
- 30) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松田明久¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 柏原 元¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝, Chaudry IH²⁾ (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾Center for Surgical Research & Dept. of Surgery, Univ. of Alabama at Birmingham): マウス外傷 出血モデルの組織内炎症反応と年齢差．Shock 2006 ; 21 (2) : 61-66 .
- 31) 相本隆幸, 田尻 孝, 内田英二 : 膵頭十二指腸切除術 : 一目でわかる消化器外科主要手術・治療のケア21 . 消化器外科NURSING 2007 ; 12 (1) : 36-39 .
- 32) 山下直行¹⁾, 田尻 孝, 吉田初雄²⁾, 湖山信篤³⁾, 櫻澤信行, 加藤俊二 (¹⁾慈山会坪井病院外科, ²⁾今泉西病院外科, ³⁾北里研究所メディカルセンター病院): 手術手技 : 噴門側胃切除における迷走神経温存胃前壁肖漿膜筋層縦切開噴門形成術．手術 2007 ; 61 (2) : 207-213 .
- 33) 渡辺昌則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 栗原雄司¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌手術侵襲下における外科感染症の検討 : 開胸術と胸腔鏡手術の比較．日本外科感染症学会雑誌 2007 ; 4 (1) : 13-16 .
- 34) 宮下正夫, 赤城一郎, 田尻 孝 : 侵襲に対する生体反応の制御因子 : サイトカイン, ケモカイン．Surgery Frontier 2007 ; 14 (1) : 8-11 .

(2) 総説 :

- 1) Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Tajiri T : New methods for the management of gastric varices . World J Gastroenterol 2006 ; 12 (37) : 5926-5931 .
- 2) Yoshida H, Mamada Y, Tani ai N, Tajiri T : New methods for the management of esophageal varices . World J Gastroenterol 2007 ; 13 (11) : 1641-1645 .
- 3) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 田尻 孝 : 特集・食道静脈瘤治療 選択と手技 : IVRによる治療 経門脈的静脈瘤塞栓術 (PTO, TIO). 消化器の臨牀 2006 ; 9 (4) : 421-425 .
- 4) 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻 孝 (¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾同病理部): Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) の概念の変遷．日医大医会誌 2006 ; 2 (4) : 186-191 .
- 5) 秋谷行宏, 古川清憲 : 腸管麻痺対策．エキスパートナース 2006 ; 22 (12) : 71-74 .

- 6) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 田尻 孝: ICとパス. 日門亢会誌 2006; 12: 161-163.
- 7) 秋谷行宏, 古川清憲: 手術に必要な術前検査と評価: 肺機能, 心電図, 血液・生化学的所見, など. レジデントノート 2006; 8(9): 1225-1230.
- 8) 木山輝郎, 徳永 昭, 田尻 孝: 創傷治癒に關与するサイトカイン, 増殖因子にはどのようなものがあり, それぞれどのような機能を有しているのですか?: 侵襲をめぐるQ & A. Surgery Frontier 2006; 13(4): 112-114.
- 9) 加藤俊二, 菅野仁士, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 松倉則夫, 田尻 孝: 摂食刺激ホルモン・グレリンの胃粘膜内mRNA 発現と個人差 胃切除後残胃の栄養状態および再建術式の評価への応用: 消化器疾患の病態生理 胃・十二指腸潰瘍を中心に. Progress in Medicine 2007; 27(3): 567-570.
- (3) 症例報告:
- 1) Matsuda A, Furukawa K, Takasaki H, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Shinji S, Tajiri T: Preoperative Oral Immune-Enhancing Nutritional Supplementation Corrects Th1/Th2 Imbalance in Patients Undergoing Elective Surgery for Colorectal Cancer. Dis Colon Rectum 2006; 49(4): 507-516.
- 2) Shimizu T, Tajiri T, Akimaru K, Arima Y, Yokomuro S, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Kawahigashi Y, Naito Z¹⁾(¹⁾Dept. of Pathology II): Cholecystitis caused by infiltration of immature myeloid cells. J Nippon Med Sch 2006; 73(2): 97-100.
- 3) Shimizu T, Tajiri T, Akimaru K, Arima Y, Yoshida H, Yokomuro S, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Kawahigashi Y, Naito Z¹⁾(¹⁾Dept. of Pathology II): Combined Neuroendocrine cell carcinoma and adenocarcinoma of the gallbladder. J Nippon Med Sch 2006; 73(2): 101-105.
- 4) Mineta S¹⁾, Shimanuki K¹⁾, Sugiura A¹⁾, Tsuchiya Y¹⁾, Kaneko M¹⁾, Sugiyama Y²⁾, Akimaru K, Tajiri T (¹⁾Dept. of Surgery, Aizu Central Hospital, ²⁾Dept. of Pathology, Aizu Central Hospital): Chronic Anisakiasis of the Ascending Colon Associated with Carcinoma. J Nippon Med Sch 2006; 73(3): 169-174.
- 5) Mineta S¹⁾, Shimanuki K¹⁾, Tsuchiya Y¹⁾, Sugiura A¹⁾, Kaneko M¹⁾, Sugiyama Y¹⁾, Akimaru K, Tajiri T (¹⁾Dept. of Surgery, Aizu Central Hospital): Resection of Asynchronous Quadruple Advanced Colonic Carcinomas Followed by Reconstruction with Ileal Interposition between the Transverse Colon and Rectum. J Nippon Med Sch 2006; 73(3): 149-153.
- 6) Shimizu T, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Matsumoto S, Mizuguchi Y, Yokomuro S, Arima Y, Akimaru K, Tajiri T: Postoperative Bile Leakage Managed Successfully by Intrahepatic Biliary Ablation with Ethanol. World J Gastroenterol 2006; 12(21): 3450-3452.
- 7) Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Shimizu T, Aimoto T, Nakamura Y, Nomura T, Yokomuro S, Arima Y, Uchida E, Misawa H¹⁾, Uchida E¹⁾, Tajiri T (¹⁾Uchida Hospital): Fracture of an Expandable Metallic Stent Placed for Biliary Obstruction due to Common Bile Duct Carcinoma. J Nippon Med Sch 2006; 73(3): 164-168.
- 8) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Katsuno A, Chou K, Tajiri T, Naito Z¹⁾(¹⁾Second Dept. of Pathology): Malignant Afferent Loop Obstruction Following Pancreaticoduodenectomy: Report of Two Cases. J Nippon Med Sch 2006; 73(4): 226-230.
- 9) Aimoto T, Uchida E, Nakamura Y, Katsuno A, Chou K, Tajiri T, Naito Z¹⁾(¹⁾Second Dept. of Pathology): Autoimmune Pancreatitis Associated with Idiopathic Retroperitoneal Fibrosis: A Case Report. J Nippon Med Sch 2006; 73(4): 235-239.
- 10) Ueda J, Yoshida H, Mamada Y, Taniai N, Mizuguchi Y, Shimizu T, Matsumoto S, Kakinuma D, Ishikawa Y, Kanda T, Akimaru K, Teranishi N, Naito Z¹⁾, Tajiri T (¹⁾Dept. of Pathology II): Successful Emergency Enterectomy for Bleeding Ileal Varices in a Patient with Liver Cirrhosis. J Nippon Med Sch

- 2006 ; 73 (4) : 221-225 .
- 11) Matsuda A , Miyashita M , Sasajima K , Nomura T , Makino H , Matsutani T , Katsuno A , Sasaki J , Tajiri T : Boerhaave Syndrome Treated Conservatively Following Early Endoscopic Diagnosis . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 341-345 .
- 12) Miyashita M , Nomura T , Makino H , Hagiwara N , Takahashi K , Sakata Y , Nagata K¹⁾ , Iwakiri K¹⁾ , Tajima H²⁾ , Tajiri T (¹⁾Dept. of Gastroenterology , ²⁾Dept. of Radiology) : Computed Tomography-guided Mediastinal Drainage for Iatrogenic Perforation of the Esophagus . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 337-340 .
- 13) Uchida E , Aimoto T , Nakamura Y , Katsuno A , Chou K , Kawamoto M , Ono S¹⁾ , Ishii N²⁾ , Miyake K¹⁾ , Fujimori S¹⁾ , Sakamoto C¹⁾ , Tajiri T (¹⁾Dept. of Medicine , ²⁾Dept. of Plastic Surgery) : Pancreatic Arteriovenous Malformation Involving Adjacent Duodenum with Gastrointestinal Bleeding . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 346-350 .
- 14) Yokomuro S , Arima Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Kawahigashi Y , Kanda T , Arai M , Uchida E , Akimaru K , Tajiri T : Mucin-producing Bile Duct Carcinoma Arising from Primary Sclerosing Cholangitis . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 61-64 .
- 15) 高橋陽子¹⁾ , 藤森俊二¹⁾ , 江原彰仁¹⁾ , 小林 剛¹⁾ , 関田祥久¹⁾ , 三井啓吾¹⁾ , 瀬尾継彦¹⁾ , 田中 周¹⁾ , 間宮康貴¹⁾ , 辰口篤志¹⁾ , 中塚雄久¹⁾ , 岸田輝幸¹⁾ , 坂本長逸¹⁾ , 真々田裕宏 , 吉田 寛 , 田尻 孝 (¹⁾消化器内科) : 門脈圧亢進症性腸症の1例 . Progress Digest Endosc 2006 ; 68 (2) : 134-135 .
- 16) 千原直人¹⁾ , 尾崎卓司¹⁾ , 坊 英樹¹⁾ , 塩谷 猛¹⁾ , 内藤英二¹⁾ , 渡辺昌則¹⁾ , 徳永 昭¹⁾ , 田尻 孝 : 保存的に治療した十二指腸球部に刺入した爪楊枝の1例 . Progress Digest Endosc 2006 ; 68 (2) : 94-95 .
- 17) 沖野哲也¹⁾ , 古谷政一¹⁾ , 清水康仁¹⁾ , 松田明久¹⁾ , 佐々木順平¹⁾ , 田尻 孝 (¹⁾筑西市民病院外科) : 鈍の外傷による腸間膜損傷を契機に偶然発見された異所性腎の1例 . 日臨外会誌 2006 ; 67 (6) : 231-234 .
- 18) 栗原雄司¹⁾ , 山川達郎¹⁾ , 小峯 修²⁾ , 千原直人²⁾ , 坊 英樹²⁾ , 塩谷 猛²⁾ , 渡辺昌則²⁾ , 田尻 孝 (¹⁾京浜総合病院外科 , ²⁾武蔵小杉病院消化器病センター) : 鏡視下に治療した巨大腹壁癒痕ヘルニアの1例 . 日医大医学会誌 2006 ; 2 (3) : 161-163 .
- 19) 松田 健¹⁾ , 津久井拓¹⁾ , 松久威史¹⁾ , 沖浜裕司¹⁾ , 木村 祐¹⁾ , 江上 格²⁾ , 田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器科 , ²⁾同外科) : 外傷性後腹膜乳糜性リンパ嚢腫の1例 . 日本腹部救急医学会誌 2006 ; 26 (3) : 451-454 .
- 20) 石塚朋樹¹⁾ , 吉安正行¹⁾ , 健¹⁾ , 坂東功一¹⁾ , 吉村和泰¹⁾ , 田尻 孝 (¹⁾博慈会記念総合病院外科) : CPT-11 + TS-1 併用化学療法が有効であった肝・肺・リンパ節転移再発結腸癌の1例 . 癌と化学療法 2006 ; 33 (6) : 821-824 .
- 21) 白川 毅¹⁾ , 田中宣威¹⁾ , 横井公良¹⁾ , 石川紀行¹⁾ , 瀬谷知子¹⁾ , 堀場光二¹⁾ , 山田岳史¹⁾ , 金沢義一¹⁾ , 大川敬一¹⁾ , 吉岡正人¹⁾ , 大秋美治²⁾ , 徳永 昭³⁾ , 田尻 孝 (¹⁾千葉北総病院外科 , ²⁾同 病理部 , ³⁾武蔵小杉病院消化器病センター) : 経口摂取不能のため腸瘻造設後に TS-1/CDDP 投与を行い根治切除が可能となった高度進行胃癌の1例 . 癌と化学療法 2006 ; 33 (6) : 811-815 .
- 22) 松田明久¹⁾ , 古谷政一¹⁾ , 清水康仁¹⁾ , 沖野哲也¹⁾ , 新井政男¹⁾ , 田尻 孝 (¹⁾筑西市民病院外科) : 内視鏡的乳頭切開術により著明な全身性皮下気腫を呈した1例 . 日臨外会誌 2006 ; 67 (8) : 1958-1962 .
- 23) 柿沼大輔 , 吉田 寛 , 真々田裕宏 , 谷合信彦 , 松本智司 , 水口義昭 , 清水哲也 , 石川義典 , 神田知洋 , 秋丸琥甫 , 田尻 孝 : 部分的脾動脈塞栓術 , 経皮経肝的シャント塞栓術と外科的傍臍静脈結紮術が不成功に終わった特異な門脈大循環シャントの1例 . 肝臓 2006 ; 47 (9) : 441-447 .
- 24) 松谷 毅¹⁾ , 江上 格¹⁾ , 笹島耕二¹⁾ , 鈴木成治¹⁾ , 丸山 弘¹⁾ , 宮本昌之¹⁾ , 横山 正¹⁾ , 田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科) : 切除不能肝・大動脈周囲リンパ節転移巣を伴った大腸癌に対し原発巣切除後に TS-1/CPT-11 併用療法が有効であった1例 . 癌と化学療法 2006 ; 33 (9) : 1337-1340 .

- 25) 奥田武志, 加藤俊二, 木山輝郎, 水谷 崇, 藤田逸郎, 鶴田宏之, 武田守正¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武田内科医院): 難治性胃潰瘍に続発し形成過程を画像で確認した Double Pylorus の1例. 日医大医会誌 2006; 2(4): 213-215.
- 26) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 川本聖郎, 有馬保生, 田尻 孝: 非機能性膵内分泌腫瘍と鑑別困難であった膵内副脾の1例 腹腔鏡下脾温存膵尾部切除術の有用性. 日鏡外会誌 2006; 11(6): 733-738.
- 27) 萩原信敏, 宮下正夫, 山田智彦¹⁾, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, 加藤俊二, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下精彦, 山下直行, 櫻澤信行, 田尻 孝⁽¹⁾ 厚生クリニク): 多発癌様の内視鏡像を呈した胃癌の1例. Progress Digest Endosc 2006; 69(2): 68-69.
- 28) 沖野哲也¹⁾, 古谷政一¹⁾, 清水康仁¹⁾, 松田明久¹⁾, 新井政男¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 筑西市民病院外科): 残胃全摘後の小腸穿孔に対し T-tube 留置が有効であった1例. 日臨外会誌 2007; 68(1): 95-98.
- 29) 高橋由至¹⁾, 田中宣威²⁾, 瀬谷知子²⁾, 寺田淑恵¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 北村山公立病院外科, ²⁾ 千葉北総病院外科): 外陰部に拡がった肛門周囲 Paget 病の1例. 日臨外会誌 2007; 68(1): 151-155.
- 30) 山村 進¹⁾, 小林 匡¹⁾, 小林正昭¹⁾, 藤田逸郎, 横室茂樹, 中村慶春, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝⁽¹⁾ 小林病院外科): 腸石による輸入脚閉塞症の1例. 日消外会誌 2007; 40(1): 97-100.
- 31) 川野陽一, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾ 同病理部): C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法著効12年後に発症した破裂肝細胞癌の1切除例. 肝臓 2007; 48(2): 48-56.

(4) Abstracts :

- 1) Mizuguchi Y, Yokomuro S, Mishima T¹⁾, Arima Y, Shimizu T, Kawahigashi Y, Takizawa T¹⁾, Tajiri T⁽¹⁾ Dept. of Molecular Anatomy & Functional Morphology): Therapeutic Use of Short Hairpin RNA in Acute Liver Failure : 2006th Encouragement Award's Memorial Lecture . J Nippon Med Sch 2007 ; 74(1): 74-76 .
- 2) Shinji S¹⁾, Naito Z²⁾, Ishiwata T²⁾, Nakazawa N²⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Koizumi M¹⁾, Teranishi N, Ohaki Y³⁾, Tajiri T⁽¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba-Hokusou Hospital , ²⁾ Dept. of Pathology II , ³⁾ Dept. of Pathology, Chiba Hokusou Hospital): Pathological and Biomolecular Analyses of Colorectal Endocrine Carcinoma : Alumni Association Medical Research Fund Prize Memorial Lecture . J Nippon Med Sch 2007 ; 74(1): 87-88 .
- 3) Shinji S¹⁾, Naito Z²⁾, Ishiwata T²⁾, Tanaka N¹⁾, Furukawa K, Suzuki H, Kan H, Tsuruta H, Matsumoto S, Matsuda A, Teranishi N, Tajiri T⁽¹⁾ Dept. of Surgery, Chiba Hokusou Hosp. , ²⁾ Dept. of Pathology II): Clinical and Biological Significance of Lymph Node Micrometastasis in Colorectal Cancer . J Nippon Med Sch 2007 ; 74(1): 77-80 .

著 書

- 1) Yoshida H, Mamada Y, Tani N, Mizuguchi Y, Shimizu T, Nakamura Y, Aimoto T, Uchida E, Tajiri T : [分担] Regional therapy of pancreatic cancer . Regional Cancer Therapy (Edited by : Schlag PM, Stein U), 2007 ; pp303-312 , Humana Press .
- 2) 古川清憲, 田尻 孝 : [分担] II. 術後感染治療のための抗菌薬の使い方 遠隔部位感染 D. 腸炎 : 第1部 抗菌薬使用法の基本 . 周術期感染対策マニュアル (編集 炭山嘉伸), 2006 ; pp42-46 , 南江堂 .
- 3) 鶴田宏之, 古川清憲, 田尻 孝 : [分担] 4 . イレウス ; 2 腸疾患 . 消化器外科学レビュー2006 : 最新主要文献と解説 (炭山嘉伸, 門田守人, 跡見 裕), 2006 ; pp52-56 , 総合医学社 .
- 4) 古川清憲, 飯田信也, 田尻 孝 : [分担] 第10章 術前・術後管理およびフォローアップ : 1 . 術前・術後の管理 . 乳腺疾患の臨床 (監修 : 坂元吾偉, 野口昌邦 編集 : 稲治英生, 平岡真寛, 黒住昌史, 伊藤良則),

2006 ; pp350-355 , 金原出版株式会社 .

- 5) 谷合信彦, 田尻 孝 : [分担] 第8章 臓器移植 . 新体系看護学 別巻5 : 臨床外科看護学 (編集 : 渡邊五朗・宗村美江子), 2007 ; pp365-377 , メヂカルフレンド社 .
- 6) 鶴田宏之, 田尻 孝 : [分担] 16 イレウス b. 成人の場合 . 消化器疾患最新の治療 2007-2008 (編集 : 菅野健太郎 , 上西紀夫 , 井廻道夫), 2007 ; pp236-238 , 南江堂 .

学会発表

[2005 年度追加分]

一般講演 :

- 1) 吉野雅則¹⁾, 石渡俊行²⁾, 松信哲朗¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 松本光司³⁾, 内藤善哉²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター , ²⁾ 病理学第2 , ³⁾ 武蔵小杉病院病理部): 食道癌における Keratinocyte growth factor receptor (KGFR) の発現と局在 . 第106回日本外科学会定期学術集会 , 2006 . 3 .

(1) 会長講演 :

- 1) 田尻 孝 : 腹部救急疾患としての門脈圧亢進症 とくに食道胃静脈瘤治療について . 第43回日本腹部救急医学会総会 , 2007 . 3 .

(2) 特別講演 :

- 1) 田尻 孝 : 門脈圧亢進症に対する IVR . 第19回東北食道・胃静脈瘤硬化療法研究会吾妻シンポジウム , 2006 . 9 .

(3) 教育講演 :

- 1) Yoshida H : Esophageal Varices (EVL/EIS)(Endoscopic Techniques) . 17th APASL Conference (Kyoto, Japan), 2007 . 3 .

(4) シンポジウム :

- 1) Tajiri T , Arima Y , Yokomuro S , Uchida E , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Nakamura Y , Yamashita K : Evaluation of preoperative splenic artery embolization (SAE) for laparoscopic splenectomy for idiopathic thrombocytopenic purpura (ITP)(Minimally invasive surgery for solid organs) . The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2006 (Seoul, Korea), 2006 . 10 .
- 2) 田尻 孝 , 有馬保生 , 横室茂樹 , 清水哲也 : 腹腔鏡下胆嚢摘出術の術中・術後に診断された胆嚢癌症例の検討 (胆摘後に偶然発見された胆嚢癌に対する追加切除の適応と予後) . 第18回日本肝胆膵外科関連会議 , 2006 . 5 .
- 3) 坊 英樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 内視鏡所見 , 胆汁逆流測定および24時間pHモニタリングによる胃切除後GERDの検討 . 第38回胃病態機能研究会 , 2006 . 7 .
- 4) 松田範子 , 加藤俊二 , 真々田裕宏 , 谷合信彦 , 吉田 寛 , 秋丸琥甫 , 松倉則夫 , 内藤善哉¹⁾, 徳永 昭²⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 病理学第2 , ²⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 肝再生および残肝再発における COX-2 , HGF , VEGF , Hypoxia inducible factor-1 (HIF-1) の役割と肝繊維化および病理学的腫瘍血管因子との関連 ラット障害肝における HIF の誘導モデル (消化器癌の発生と抑制 動物モデルから) . 第17回日本消化器癌発生学会総会 , 2006 . 9 .
- 5) 加藤俊二 , 松倉則夫 , 田尻 孝 : 背景胃粘膜の違いと発癌関連サイトカイン遺伝子発現の個体差からみた胃発癌リスクの個別評価 胃粘膜切除 (ESD) 後や胃切除後残胃の適正な内視鏡スクリーニング法を目指して . 第72回日本消化器内視鏡学会総会 , 2006 . 10 .
- 6) 渡辺昌則¹⁾, 望月 徹²⁾, 塙 秀暁¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター ,

2) 同救命救急センター): 外科周術期管理における ICT の役割 術後感染対策を中心に (ICT (感染制御チーム) の役割と展望). 第 68 回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .

- 7) 健¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 西 佳史¹⁾, 小田昌子²⁾, 市川由紀子²⁾, 氏家宏美²⁾, 田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾同看護部): 当院における腹腔鏡下胆嚢摘出術に対するクリニカルパスの評価と問題点 (消化器疾患クリニカルパス 2). 第 26 回多摩消化器シンポジウム, 2007 . 2 .

(5) パネルディスカッション :

- 1) 吉田 寛, 真々田裕宏, 田尻 孝 : 食道静脈瘤に対する EVL の新しい工夫 (食道静脈瘤治療における EVL の役割 硬化療法は不要か?). 第 71 回日本消化器内視鏡学会総会, 2006 . 5 .
- 2) 山下直行, 櫻澤信行¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾慈山会坪井病院外科): 手術, ESD 症例からみた胃 SM 1 癌の適正治療 (胃 SM 1 癌をどう治療するか?). 第 71 回日本消化器内視鏡学会総会, 2006 . 5 .
- 3) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝 : 腹腔鏡下尾側膵切除術の有用性 (膵疾患に対する内視鏡的治療・腹腔鏡治療の適応と限界). 第 37 回日本膵臓学会大会, 2006 . 6 .
- 4) 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 消化管狭窄に対する内視鏡治療の問題点 . 第 82 回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006 . 6 .
- 5) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 菅野仁士, 谷 杏彌, 田尻 孝 : 食事摂取・投与熱量調査からみた消化器外科における栄養管理の特徴 . 第 61 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006 . 7 .
- 6) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 石川義典, 神田知洋, 松本智司, 秋丸琥甫, 田尻 孝 : 当科における門脈圧亢進症に対する PSE, 脾摘の位置付け (PSE vs 脾摘術). 第 13 回日本門脈圧亢進症学会総会, 2006 . 9 .
- 7) 横室茂樹, 有馬保生, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 新井政男, 神田知洋, 田尻 孝 : PTGBD は是か非か? . 第 42 回日本胆道学会学術集会, 2006 . 9 .
- 8) 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝, 有馬保生, 赤須東樹¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 石川久美¹⁾, 清水一雄¹⁾ (¹⁾内分泌外科): 腹腔鏡下尾側膵切除術の導入に当たって腹腔鏡下副腎摘除術の習得 (他科との連携: ここまでできる内視鏡外科: 各科の技術を習得する). 第 19 回日本内視鏡外科学会総会, 2006 . 12 .
- 9) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 石川義典, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝 : 当科における胃・食道静脈瘤破裂の急性期治療 (門脈圧亢進症の診断治療). 第 43 回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .
- 10) 宮本昌之¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 西 佳史¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 当科における急性胆のう炎症例に対する鏡視下手術の適応とその手術手技 (腹部救急における鏡視下手術・適応と限界-1). 第 43 回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .
- 11) 村田 智¹⁾, 田島廣之¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 田尻 孝, 山本保博²⁾ (¹⁾放射線科ハイテクリサーチセンター, ²⁾救急医学): 内視鏡的止血困難な非静脈瘤性消化管出血症例に対する N-butyl Cyanoacrylate (NBCA) を用いた塞栓術の有用性 (腹部実質臓器損傷の治療戦略-手術か, IVR か, 保存的治療か?). 第 43 回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .
- 12) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 加藤俊二, 田尻 孝 : 食事摂取・投与熱量調査からみた腹部救急疾患での栄養管理の必要性 (腹部救急領域における栄養管理). 第 43 回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .

(6) ワークショップ :

- 1) 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 藤本和輝, 秋丸琥甫, 田尻

孝：肝性脳症に対する傍臍静脈閉鎖術の検討（若手医師のための症例検討（診断及び治療）あなたならどうする）. 第13回日本門脈圧亢進症学会総会, 2006 . 9 .

- 2) 加藤俊二, 松倉則夫, 山下直行, 松田範子, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾病理学第2): *H. pylori*感染による粘膜性状 (Sydney System Score) や, ペプシノーゲン法による胃癌リスク評価とリスクマーカーとしての胃粘膜サイトカイン遺伝子発現との関連 (ピロリ菌と胃癌). 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006 . 9 .
 - 3) 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 柏原 元, 勝田美和子, 赤城一郎, 田尻 孝: 食道扁平上皮癌における Akt, Mdm2 の発現 (食道癌の分子機構). 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006 . 9 .
 - 4) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 田尻 孝: 食道扁平上皮癌における PIK3CA 遺伝子発現の意義 (食道癌の分子機構). 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006 . 9 .
 - 5) 渡辺昌則¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 石渡俊行²⁾, 内藤善哉²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾病理学第2): 消化管癌における Keratinocyte growth factor receptor (KGFR) と ligands の役割 (消化器癌の分子機構). 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006 . 9 .
 - 6) 坊 英樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 増田剛太郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝⁽¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 若年者胃癌; *Helicobacter Pylori*感染と関連し CYP2E1 とは関連しない (ピロリ菌と胃癌). 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006 . 9 .
 - 7) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 田尻 孝, 勝田美和子¹⁾, 内藤善哉²⁾ (¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾病理学第2): 食道扁平上皮癌の発癌における Von Hippel Lindau (VHL) 遺伝子蛋白と hypoxia inducible factor (HIF) 1- 遺伝子蛋白の発現 (消化器癌の進展とバイオマーカー). 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006 . 9 .
 - 8) 柿沼大輔, 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 秋丸琥甫, 内田英二, 相本隆幸, 村田 智¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾ (¹⁾放射線医学): 当科における肝胆膵領域緊急 IVR の成績 (腹部外科領域における IVR の応用と最近の進歩). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
 - 9) 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 笹島耕二¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 胸部中部下部食道癌に対する胸腔内吻合術後の逆流性食道炎とバレット食道 (食道癌再建術式に関する諸問題). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
 - 10) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 幽門輪温存瘻頭十二指腸切除術後の早期合併症に対する J-VAC ドレナージシステムと PEG-kit の有用性 (肝胆膵領域手術における合併症予防対策と治療). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
- (7) サージカルフォーラム:
- 1) 加藤俊二, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下直行¹⁾, 水谷 崇²⁾, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 徳永 昭³⁾, 田尻 孝⁽¹⁾慈山会坪井病院外科, ²⁾日本医科大学多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ³⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 癌性腹膜炎による消化管閉塞症状緩和における Palliation 手術および PTEG の有用性と消化器外科医の積極的関与 (緩和医療1). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
 - 2) 山下直行¹⁾, 加藤俊二, 櫻澤信行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 渡邊睦弥¹⁾, 井上達哉¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 吉田初雄²⁾, 湖山信篤³⁾, 木山輝郎, 宮下正夫, 田尻 孝⁽¹⁾慈山会坪井病院外科, ²⁾今泉西病院外科, ³⁾北里研究所メディカルセンター病院健康管理センター): 胃癌手術における迷走神経温存は噴門側切除で有効である (胃機能温存術2). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
 - 3) 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 渡邊睦弥¹⁾, 井上達哉¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 加藤俊二, 木山輝郎, 宮下正夫, 田尻 孝⁽¹⁾慈山会坪井病院外科): 進行胃癌に対する術前化学療法の適応 (胃癌化学療法1). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .

- 4) 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 野口智子, 藤本和輝, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝切除術創部に対する最新の戦略 皮膚縫合および創部管理 (創傷治療3). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
- 5) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 中村慶春, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 当院における緩和医療の現状と問題点 (緩和医療2). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
- 6) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 松本智司, 中村慶春, 坂東功一, 柿沼大輔, 水口義昭, 石川義典, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 再発肝細胞癌症例に対する肝切除術の成績 (再発肝癌2). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
- 7) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 高橋 健, 赤城一郎, 山下精彦, 田尻 孝, 大川敬一¹⁾, 堀場光二¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 田中宣威¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): 副作用が少なく, 効果的な neoadjuvant CRT と今後の展望 (当科における食道癌集学的治療の戦略)(食道癌治療3). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
- 8) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 加藤俊二, 田尻 孝: 栄養管理実施における栄養サポートチームの役割 (NST5). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
- 9) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷毅¹⁾, 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾同消化器科): mFOLFOX 6 法による外来通院化学療法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討 (外来化学療法5). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .
- (8) 一般講演:
- 1) Takahashi K , Miyashita M , Makino H , Nomura T , Sasajima K , Yamashita K , Tajiri T : Expression of Akt and Mdm2 in esophageal squamous cell carcinoma . 97th Annual Meeting of American Association for Cancer Research (Washington, USA), 2006 . 4 .
- 2) Hagiwara N , Mechanic L¹⁾ , Trivers GE¹⁾ , Taga M¹⁾ , Bowman E¹⁾ , Kumamoto K¹⁾ , He P¹⁾ , Bernard M¹⁾ , Miyashita M , Tajiri T , Sasajima K , Nomura T , Makino H , Takahashi K , Akagi I , Hussain SP¹⁾ , Harris CC¹⁾ (¹⁾Laboratory of Human Carcinogenesis, National Cancer Institute, NIH, USA): Quantative and highly sensitive mutation load assay for analyzing p53 mutations at codons 248 and 249 in plasma DNA . 97th Annual Meeting of American Association of Cancer Research (Washington, DC, USA), 2006 . 4 .
- 3) Makino H , Miyashita M , Nomura T , Yamashita K , Takahashi K , Akagi I , Sasajima K , Tajiri T : Collagen gel droplet embedded culture drug sensitivity test (CD-DST) for esophageal cancer . 97th Annual Meeting of American Association of Cancer Research (Washington, DC, USA), 2006 . 4 .
- 4) Miyashita M , Takahashi K , Makino H , Nomura T , Nishi K , Adachi K , Sasajima K , Yamashita K , Niimi A , Maeda J , Yamashita K , Tajiri T : Serum p53 antibody as a biomarker for the screening of individuals with cancer risk .97th Annual Meeting of American Association of Cancer Research(Washington, DC, USA), 2006 . 4 .
- 5) Matsutani T¹⁾ , Miyashita M , Sasajima K¹⁾ , Maruyama H¹⁾ , Miyamoto M¹⁾ , Yokoyama T¹⁾ , Suzuki S¹⁾ , Matsuda A¹⁾ , Kashiwabara M¹⁾ , Takeda S²⁾ , Terajima K²⁾ , Sakamoto A²⁾ , Tajiri T (¹⁾Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital , ²⁾Dept. of Anesthesiology): Gender Difference in Circulating Cytokine Levels Following Major Surgery . 29th Annual Conference on Shock (Colorado, USA), 2006 . 6 .
- 6) Kato S , Matsukura N , Matsuda N , Naito Z¹⁾ , Tajiri T (¹⁾Dept. of Pathology): Corralation of mRNA gene expressions for cancer related cytokines with histological assessments by Updated Sydney System and serum assessments by Pepsinogen method with/without *H. pylori* infection in un-operated or resected stomach . 4th International Society of Gastroenterological Carcinogenesis Conference (Honolulu, Hawaii), 2006 . 8 .
- 7) Makino H , Miyashita M , Katsuta M , Nomura T , Hagiwara N , Takahashi K , Naito Z¹⁾ , Tajiri T

- (¹) Dept. of Pathology): Over-expression of angiogenesis markers in lower esophageal ADCs and SCCs . 4th International Society of Gastroenterological Carcinogenesis Conference (Honolulu, Hawaii), 2006 . 8 .
- 8) Horiba K¹), Tanaka N¹), Seya T¹), Shinji S¹), Ohaki Y²), Yamashita K¹), Tajiri T (¹) Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hosp. , ²) Dept. of Pathology, -do-): Matrix Metalloproteinases (MMP-2, MMP-9) And Their Tissue Inhibitors (TIMP-1, TIMP-2) In The Patients With Crohn's Disease . 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006 . 10 .
- 9) Katsuta M¹), Miyashita M , Makino H , Nomura T , Shinji S¹), Yamashita K , Ohkawa K¹), Seya T¹), Tanaka N¹), Ishiwata T²), Naito Z²), Tajiri T (¹) Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hosp. , ²) Dept. of Pathology II): Correlation Of Hypoxia Inducible Factor-1 With Lymphatic Metastasis Via Vascular Endothelial Growth Factor-C In Human Esophageal Cancer . 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006 . 10 .
- 10) Seya T¹), Tanaka N¹), Yokoi K¹), Ishikawa N¹), Horiba K¹), Kanazawa Y¹), Yamada T¹), Koizumi M¹), Shinji S¹), Katsuta M¹), Yamashita K¹), Ohaki Y²), Tajiri T (¹) Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hosp. , ²) Dept. of Pathology, -do-): Reduced Expression Of Type IV Collagen In Colorectal Cancer Correlates With Its Liver Metastasis Compared With Emmprin And Matrix Metalloproteinase-9 Expression . 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006 . 10 .
- 11) Tanaka N¹), Seya T¹), Shinji S¹), Yokoi K¹), Ishikawa N¹), Horiba K¹), Kanazawa Y¹), Yamada T¹), Koizumi M¹), Yamashita K¹), Ohaki Y²), Tajiri T (¹) Dept. of Surgery, Chiba Hokusoh Hosp. , ²) Dept. of Pathology, -do-): Recurrence Risk Factor After Curative Surgery For Advanced Rectal Cancer (PT3 Cases) . 14th United European Gastroenterology Week (Berlin, Germany), 2006 . 10 .
- 12) Bando K , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Matsumoto S , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Ueda J , Nakamura Y , Nomura T , Akimaru K , Shimizu K , Tajiri T : Spurt Bleeding from a Calcificated Gastrointestinal Stromal Tumor in the Stomach . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .
- 13) Kanda T , Tajiri T , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Kawano Y , Mizuguchi Y , Shimizu T , Takahashi T , Yokomuro S , Arima Y , Akimaru K , Kumazaki T¹) (¹) Dept. of Radiology): Hepatic Pseudoaneurysm Ruptured into the Jejunal Limb after Hepatectomy for the Treatment of Gall Bladder Carcinoma . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .
- 14) Mizuguchi Y , Yokomuro S , Shimizu T , Kawahigashi Y , Arai M , Kanda T , Arima Y , Tajiri T : Autocrine Growth by TGF Beta 1 in Human Intrahepatic Bile Duct Carcinoma Cell Line HuCC-T . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .
- 15) Taniai N , Yoshida H , Mamada Y , Matsumoto S , Bando K , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Ueda J , Nakamura Y , Nomura T , Akimaru K , Shimizu K , Tajiri T : Surgical Treatment for Better Prognosis of patients with Liver Metastases from Colorectal Cancer . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .
- 16) Ueda J , Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Mizuguchi Y , Shimizu T , Matsumoto S , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Akimaru K , Teranishi N , Naito Z¹), Tajiri T (¹) Dept. of Integrative Pathology): Successful Emergency Enterectomy for Bleeding Ileal Varices in a Patient with liver Cirrhosis . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .
- 17) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Matsumoto S , Bando K , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Ueda J , Nakamura Y , Nomura T , Akimaru K , Shimizu K , Tajiri T : A Randomized Control Trial of Bi-monthly Versus Bi-weekly Endoscopic Variceal Ligation of Esophageal Varices . The 35th World

Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .

- 18) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Bando K , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Ueda J , Nakamura Y , Arima Y , Yokomuro S , Uchida E , Shimizu K , Tajiri T : One-step Palliative Treatment Method for Obstructive Jaundice Caused by Unresectable Malignancies by Percutaneous Transhepatic Insertion of an Expandable Metallic Stent . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .
- 19) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Bando K , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Ueda J , Nakamura Y , Arima Y , Yokomuro S , Akimaru K , Shimizu K , Tajiri T : Fracture of an Expandable Metallic Stent Placed for Biliary Obstruction Due to Common Bile Duct Carcinoma . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .
- 20) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Matsumoto S , Bando K , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Ueda J , Nakamura Y , Nomura T , Akimaru K , Shimizu K , Tajiri T : Fixation of the Greater Omentum for Prevention of Delayed Gastric Emptying after Left-sided Hepatectomy : A Randomized Controlled Trial . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Pattaya, Thailand), 2006 . 10 .
- 21) Matsutani T¹⁾, Sasajima K¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Mizutani T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Suzuki S¹⁾, Yanagi K¹⁾, Matsuda A¹⁾, Kashiwabara M¹⁾, Tajiri T (¹⁾Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital): Laparoscopic treatment of patients with symptomatic multiple liver cysts and cholecystolithiasis ; report of four cases . The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2006 (Seoul, Korea), 2006 . 10 .
- 22) Miyamoto M¹⁾, Sasajima K¹⁾, Mizutani T¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Matsutani T¹⁾, Yanagi K¹⁾, Matsuda A¹⁾, Kashiwabara M¹⁾, Nishi Y¹⁾, Tajiri T (¹⁾Dept. of Surgery, Tama Nagayama Hospital): An efficacy of laparoscopic radiofrequency ablation from the point of view of prevention from the recurrence . The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2006 (Seoul, Korea), 2006 . 10 .
- 23) Nomura T , Miyashita M , Makino H , Maruyama H , Takahashi K , Akagi I , Nakamizo M¹⁾, Yokoshima K¹⁾, Sasajima K , Tajiri T (¹⁾Dept. of Otolaryngology): Utility of a transhiatal esophagectomy and extended gastric tube for reconstruction after surgery for cancer of the cervical esophagus or hypopharynx . The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2006 (Seoul, Korea), 2006 . 10 .
- 24) Watanabe M¹⁾, Maejima K¹⁾, Matsunobu T¹⁾, Komine O¹⁾, Mizutani S¹⁾, Yoshino M¹⁾, Bo H¹⁾, Shioya T¹⁾, Ogata M¹⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾Institute of Gastroenterology, Musashikosugi Hospital): The comparison of postoperative infection between VATS esophagectomy and open surgery for esophageal cancer . The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2006 (Seoul, Korea), 2006 . 10 .
- 25) Mizutani S¹⁾, Shioya T¹⁾, Maejima K¹⁾, Bo H¹⁾, Hoshino A¹⁾, Ogata M¹⁾, Watanabe M¹⁾, Shibuya T²⁾, Tokunaga A¹⁾, Tajiri T (¹⁾Institute of Gastroenterology, Musashikosugi Hospital , ²⁾Omiya Medical Association Hospital): Significance of Gastrectomy as Palliative Surgery for Gastric Carcinoma with Pyloric Stenosis . ISDS (Rome, Italy), 2006 . 12 .
- 26) Kanno H , Kiyama T , Okuda T , Fujita I , Tani A , Tajiri T : Changes In Blood Sugar Levels and Insulin Secretion After Laparoscopy-assisted Distal Gastrectomy For Gastric Cancer . The Annual Conference Of The American Society For Parenteral And Enteral Nutrition (Phoenix, USA), 2007 . 1 .
- 27) Matsuda N , Kato S , Mamada Y , Taniai N , Yoshida H , Akimaru K , Matsukura N , Naito Z¹⁾, Tajiri T (¹⁾Dept. of Pathology II): Evaluation of Chemokine mRNA Expression of HCC and its Suitable Treatments . 17th APASL Conference (Kyoto, Japan), 2007 . 3 .
- 28) Yoshida H , Mamada Y , Taniai N , Matsumoto S , Bando K , Mizuguchi Y , Shimizu T , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Nakamura Y , Akimaru K , Shimizu K , Tajiri T : Omental Fixation Prevents De-

- layed Gastric Emptying after Left Hepatectomy for Cholangiocarcinoma . 17th APASL Conference (Kyoto, Japan), 2007 . 3 .
- 29) Tani ai N , Yoshida H , Mamada Y , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Akimaru K , Tajiri T : Results and adaptation of hepatectomy for huge hepatocellular carcinoma . First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2007 (Fukuoka, Japan), 2007 . 3 .
- 30) Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Nomura T , Nakamura Y , Okuda T , Kiyama T , Shimizu K , Tajiri T : Afferent loop obstruction treated by percutaneous transhepatic insertion of an expandable metallic stent . First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2007 (Fukuoka, Japan), 2007 . 3 .
- 31) Yoshida H , Mamada Y , Tani ai N , Mizuguchi Y , Kakinuma D , Ishikawa Y , Kanda T , Matsumoto S , Bando K , Akimaru K , Shimizu K , Tajiri T : Long-term results of elective hepatectomy for the treatment of ruptured hepatocellular carcinoma . First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2007 (Fukuoka, Japan), 2007 . 3 .
- 32) Tahara ¹⁾ , Miyake K¹⁾ , Hirai Y¹⁾ , Kurai T¹⁾ , Uchida E , Tajiri T , Shimada T¹⁾ (¹⁾ Dept. of Biochemistry & Molecular Biology, Div. of Gene Therapy Research, Center for Advanced Medical Technology): Adeno-associated viral (AAV) vector-mediated systemic delivery of mda-7/IL24 Inhibits tumor growth by antitumor bystander effect . 第12回日本遺伝子治療学会 , 2006 . 8 .
- 33) 松久威史¹⁾ , 松倉則夫 , 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院消化器科 , ²⁾ 病理学第2): タイ人における生検部位別 *Helicobacter pylori* 陽性率の検討 日本人との比較 . 第92回日本消化器病学会総会 , 2006 . 4 .
- 34) 渡邊秀裕¹⁾ , 江上 格¹⁾ , 笹島耕二¹⁾ , 宮本昌之¹⁾ , 鈴木成治¹⁾ , 横山 正¹⁾ , 丸山 弘¹⁾ , 長澤重直¹⁾ , 松谷毅¹⁾ , 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 年齢による胃癌治療成績 . 第92回日本消化器病学会総会 , 2006 . 4 .
- 35) 林 良紀¹⁾ , 岩切勝彦¹⁾ , 琴寄 誠²⁾ , 田中由理子¹⁾ , 川見典之¹⁾ , 川上明彦¹⁾ , 坂本長逸¹⁾ , 野村 務 , 牧野浩司 , 宮下正夫 , 田尻 孝 (¹⁾ 内科学第3 , ²⁾ 千葉北総病院内科): アカラシア症例におけるバルーン拡張術有効例の特徴 . 第92回日本消化器病学会総会 , 2006 . 4 .
- 36) 鈴木成治¹⁾ , 笹島耕二¹⁾ , 渡邊秀裕¹⁾ , 宮本昌之¹⁾ , 横山 正¹⁾ , 丸山 弘¹⁾ , 松谷 毅¹⁾ , 長澤重直¹⁾ , 石塚朋樹¹⁾ , 富樫晃祥¹⁾ , 松久威史²⁾ , 松田 健²⁾ , 水谷 崇²⁾ , 津久井拓²⁾ , 細根 勝³⁾ , 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科 , ²⁾ 同消化器科 , ³⁾ 同病理部): 分子標的療法を導入した切除不能・術後再発 GIST・EGIST 症例と MAGE-Afamily 蛋白発現の関連について . 第92回日本消化器病学会総会 , 2006 . 4 .
- 37) 松信哲朗¹⁾ , 石渡俊行²⁾ , 藤原ゆり²⁾ , 川本聖郎 , 張 一光 , 寺西宣央 , 工藤光洋²⁾ , 喬 炎²⁾ , 恩田宗彦²⁾ , 吉野雅則¹⁾ , 渡辺昌則¹⁾ , 松本光司³⁾ , 徳永 昭¹⁾ , 田尻 孝 , 内藤善哉²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター , ²⁾ 病理学第2 , ³⁾ 武蔵小杉病院病理部): Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) と KGF の胃癌における役割の検討 . 第95回日本病理学会総会 , 2006 . 4 .
- 38) 吉田 寛 , 真々田裕宏 , 谷合信彦 , 水口義昭 , 清水哲也 , 柿沼大輔 , 川東 豊 , 石川義典 , 神田知洋 , 松本智司 , 横室茂樹 , 秋丸城甫 , 田尻 孝 : 大網固定による胆管癌に対するリンパ節郭清併施肝左葉切除後の delayed gastric emptying の予防 . 第18回日本肝胆膵外科関連会議 , 2006 . 5 .
- 39) 宮本昌之¹⁾ , 江上 格¹⁾ , 笹島耕二¹⁾ , 渡邊秀裕¹⁾ , 水谷 崇¹⁾ , 横山 正¹⁾ , 鈴木成治¹⁾ , 丸山 弘¹⁾ , 松谷毅¹⁾ , 長澤重直¹⁾ , 石塚朋樹¹⁾ , 二見良平¹⁾ , 増田剛太郎¹⁾ , 富樫晃祥¹⁾ , 勝田美和子¹⁾ , 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 肝癌ラジオ波凝固療法 (RFA) 各アプローチ間における再発形式の比較検討 . 第18回日本肝胆膵外科関連会議 , 2006 . 5 .
- 40) 中村慶春 , 田尻 孝 , 有馬保生 , 横室茂樹 , 相本隆幸 , 勝野 暁 , 張 一光 , 川本聖郎 , 神田知洋 , 吉田 寛 , 真々田裕宏 , 谷合信彦 , 内田英二 : 先天性胆道拡張症に対して腹腔鏡補助下手術を施行した1例 . 第18回日本

肝胆膵外科関連会議，2006．5．

- 41) 中村慶春，内田英二，相本隆幸，勝野 暁，張 一光，川本聖郎，谷合信彦，吉田 寛，横室茂樹，有馬保生，田尻 孝：腹腔鏡下尾側膵切除術と同時に他の腹腔鏡下手術を施行した3症例．第18回日本肝胆膵外科関連会議，2006．5．
- 42) 中村慶春，内田英二，相本隆幸，勝野 暁，張 一光，川本聖郎，谷合信彦，真々田裕宏，吉田 寛，横室茂樹，有馬保生，田尻 孝：腹腔鏡補助下膵体尾部切除術を施行した巨大膵嚢胞性腫瘍の1例．第18回日本肝胆膵外科関連会議，2006．5．
- 43) 松谷 毅¹⁾，笹島耕二¹⁾，丸山 弘¹⁾，宮本昌之¹⁾，横山 正¹⁾，鈴木成治¹⁾，松田明久¹⁾，柏原 元¹⁾，宮下正夫，田尻 孝（¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科）：卵巣摘出術後マウスを用いたTrauma-Hemorrhage後の組織中サイトカイン値と年齢差の関係．第21回日本Shock学会総会，2006．5．
- 44) 赤城一郎，宮下正夫，野村 務，牧野浩司，松谷 毅，萩原信敏，高橋 健，谷 杏彌，竹田晋浩¹⁾，寺嶋克幸¹⁾，田尻 孝（¹⁾麻酔科学）：SIRSの重症度と手術前後の血清TGF- β ，VEGFの関係．第21回日本Shock学会総会，2006．5．
- 45) 横山滋彦¹⁾，羽尾邦彦¹⁾，廣井 信¹⁾，重原健吾¹⁾，田尻 孝（¹⁾横須賀市立うわまち病院外科）：Lost tube stentによる胆道内瘻術．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 46) 柿沼大輔，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，松本智司，坂東功一，水口義昭，石川義典，神田知洋，秋丸琥甫，田尻 孝：PSE，PTOと外科的傍膵静脈結紮術を併用した特異な門脈大循環シャントの1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 47) 吉村和泰¹⁾，吉安正行¹⁾，池田研吾¹⁾，杉浦 篤¹⁾，佐々木順平¹⁾，梅岡克哉²⁾，立山幸次郎²⁾，谷合信彦（¹⁾博慈会記念総合病院外科，²⁾同脳神経外科）：転移巣の組織型が変化した上行結腸癌の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 48) 工藤秀徳¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，瀬谷知子¹⁾，堀場光二¹⁾，金沢義一¹⁾，大川敬一¹⁾，山田岳史¹⁾，白川 毅¹⁾，金子昌裕¹⁾，吉岡正人¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，勝田美和子¹⁾，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科）：上行結腸腺扁平上皮癌の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 49) 山村 進¹⁾，小林 匡¹⁾，小林正昭¹⁾，田尻 孝，内田英二，相本隆幸，横室茂樹，藤田逸郎，中村慶春（¹⁾小林病院）：胃切除術後，胆嚢摘出術後に生じた腸石による輸入脚閉塞症の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 50) 勝部乙大¹⁾，金沢義一¹⁾，吉岡正人¹⁾，瀬谷知子¹⁾，横井公良¹⁾，山下精彦，田中宣威¹⁾，横山真也²⁾，畑 典武²⁾，琴寄 誠³⁾，岸田輝幸³⁾，水野杏一³⁾，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科，²⁾同集中治療室，³⁾同内科）：アメーバ性肝膿瘍に合併した脳膿瘍の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 51) 勝野 暁，相本隆幸，鶴田宏之，菅野仁士，田尻 孝，京野昭二¹⁾，山初順一¹⁾（¹⁾泉中央病院）：多彩な病態と特異な経過を示した潰瘍合併胃癌の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 52) 小林 匡¹⁾，山村 進¹⁾，小林正昭¹⁾，藤田逸郎，横室茂樹，中村慶春，相本隆幸，内田英二，田尻 孝（¹⁾小林病院）：特発性食道粘膜下化血腫の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 53) 松田 健¹⁾，水谷 崇¹⁾，柏原 元¹⁾，富樫晃祥¹⁾，津久井拓²⁾，松久威史²⁾，木村 祐²⁾，林 良紀²⁾，江上格¹⁾，笹島耕二¹⁾，田尻 孝，坂本長逸³⁾（¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科，²⁾同消化器科，³⁾消化器内科）：潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着除去療法を検討．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 54) 新井政男¹⁾，古谷政一¹⁾，清水康仁¹⁾，沖野哲也¹⁾，田尻 孝（¹⁾筑西市民病院外科）：PTCDカテーテルの断裂により肝内遺残となった1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 55) 瀬戸路子¹⁾，水谷 聡¹⁾，塩谷 猛¹⁾，尾形昌男¹⁾，渡辺昌則¹⁾，徳永 昭¹⁾，柳本邦雄²⁾，松本光司²⁾，田尻 孝（¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター，²⁾同病理部）：子宮留膿腫および子宮腫瘍として発見された上部直腸癌の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．

- 56) 西 佳史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 胆管細胞癌切除標本内に日本住血吸虫症の虫卵を認めた1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 57) 川見典之¹⁾, 田中由理子²⁾, 林 良紀²⁾, 琴寄 誠²⁾, 岩切勝彦²⁾, 坂本長逸²⁾, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫, 田尻 孝, 福島 浩³⁾(¹⁾三菱重工大倉山病院内科, ²⁾日本医科大学付属病院消化器内科, ³⁾国保旭中央病院内科): 20年の経過にて診断し得た Vigorous achalasia の1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 58) 土肥輝之, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 谷 杏彌, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 嚢胞内に出血を伴った肝嚢胞腺癌の1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 59) 堀場光二¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾千葉北総病院外科): 十二指腸ポリープ癌の1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 60) 健¹⁾, 吉安正行¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 坂東功一¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 笹島耕二²⁾, 宮本昌之²⁾, 水谷 崇²⁾, 横山 正²⁾, 丸山 弘²⁾, 松谷 毅²⁾, 石塚朋樹²⁾, 富樫晃祥²⁾, 松田明久²⁾, 柏原 元²⁾, 西 佳史²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾博慈会記念総合病院外科, ²⁾日本医科大学多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 入院加療中に肛門外脱出をきたしたS状結腸癌の1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 61) 加藤俊二, 山下直行, 池田研吾, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 松倉則夫, 田尻 孝: 早期胃癌治療後の残胃の癌発生に対する *H. pylori* 術前除菌治療後内視鏡スクリーニングの意義. 第71回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 5.
- 62) 山下直行, 櫻澤信行¹⁾, 大島和彦²⁾, 江角浩安³⁾, 田尻 孝⁽¹⁾慈山会坪井病院外科, ²⁾おおとり診療所, ³⁾国立がんセンター研究所支所): Sporadic Colorectal Cancr の疾患マーカーとしての aberrant crypt foci (ACF). 第71回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 5.
- 63) 二見良平¹⁾, 島貴公義¹⁾, 李 栄浩¹⁾, 岩館 学¹⁾, 山初和也¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾会津中央病院外科): 魚骨による小腸穿孔を合併した閉鎖孔ヘルニアの1例. 第151回東北外科集談会, 2006. 6.
- 64) 奥田武志, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝: 再発胃癌患者の姑息手術の意義について. 第15回日本癌病態治療研究会, 2006. 6.
- 65) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 増田剛太郎, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): ヘリコバクター・ピロリ関連胃炎として「鳥肌胃炎」の意義. 第15回日本癌病態治療研究会, 2006. 6.
- 66) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝³⁾, 田尻 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾同 消化器科, ³⁾同病理部): アポトーシス関連蛋白発現及び MIB-1 index からみた胃原発 Diffuse large B cell lymphoma の診断・治療に関する検討 (第2報). 第15回日本癌病態治療研究会, 2006. 6.
- 67) 中溝宗永¹⁾, 横島一彦¹⁾, 島田健一¹⁾, 斎藤明彦¹⁾, 酒主敦子¹⁾, 稲井俊太¹⁾, 粉川隆行¹⁾, 八木聰明¹⁾, 牧野浩司, 野村 務, 宮下正夫⁽¹⁾耳鼻咽喉科学): 下咽頭, 食道同時再建における再建術式の検討 胃管, 延長胃管, 遊離空腸+胃管の比較. 第30回日本頭頸部癌学会, 2006. 6.
- 68) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 中村慶春, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 横室茂樹, 有馬保生, 内田英二, 野村 務, 清水一雄, 田尻 孝: 切除不能悪性胆道狭窄に対する1期的経皮経肝的 Expandable Metallic Stent 挿入の検討. 第31回日本外科系連合学会学術集会, 2006. 6.
- 69) 渡邊秀裕¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 田尻

- 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 大腸癌イレウスの治療(術前減圧法の評価). 第31回日本外科学系連合学会学術集会, 2006. 6.
- 70) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 進行膵癌におけるゲムシタピン(GEM)/カベシタピン(CAP)併用療法の検討. 第37回日本膵臓学会大会, 2006. 6.
- 71) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理学第2): 超音波造影剤レボピストR胆管内注入による術中膵内胆管の同定と膵生検. 第37回日本膵臓学会大会, 2006. 6.
- 72) 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 柏原 元, 勝田美和子, 赤城一郎, 田尻 孝: 食道癌術後再発の指標としてのp53血清抗体, SCC, CEAの検討. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 73) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 二見良平¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科,²⁾同病理部): 粘膜下腫瘍様の発育を示した食道未分化癌の1例. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 74) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝: 術前化学療法が無効で治療後に扁平上皮癌と診断された食道小細胞癌の1例. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 75) 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 佐藤花代子²⁾, 稲木敏一郎²⁾, 大島正行³⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター,²⁾同麻酔科,³⁾順天堂大学麻酔科): 食道癌術後高ビリルビン血症予防に関する塩酸Olprinone投与の検討. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 76) 萩原信敏, 宮下正夫, 笹島耕二, 野村 務, 牧野浩司, 松谷 毅, 二見良平, 柏原 元, 勝田美和子, 高橋 健, 赤城一郎, 山下精彦, 田尻 孝: いわゆる食道癌肉腫の1例. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 77) 柏原 元¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 宮下正夫, 牧野浩司, 小野寺浩之¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾神栖済生会病院外科): 術後乳糜胸と縫合不全を併発し胸管結紮術および大網充填術が奏効した食道癌の1例. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 78) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 柏原 元¹⁾, 勝田美和子²⁾, 二見良平, 山下精彦, 田尻 孝, 丸山 弘³⁾, 笹島耕二³⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科,²⁾千葉北総病院外科,³⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 食道・胃接合部癌, 腹部食道癌の至適術式とリンパ節郭清. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 79) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘¹⁾, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 笹島耕二¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 気管分岐部および主気管支下リンパ節転移が予後におよぼす影響の検討. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 80) 松田範子, 秋丸琥甫, 木山輝郎, 徳永 昭¹⁾, 吉村成子²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター,²⁾吉村せいこクリニック): 日本医科大学における高胃酸素治療の現状. 第6回日本高気圧環境医学会関東地方会総会, 2006. 6.
- 81) 高田英志, 中村慶春, 内田英二, 有馬保生, 横室茂樹, 宮下正夫, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 膵・胆管合流異常に合併した胆嚢adenomyomatosisの1例. 第801回外科集談会, 2006. 6.
- 82) 三浦克洋¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 松本光司²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター,²⁾同病理部): 骨盤腔内後腹膜に発生した巨大神経鞘腫の1例. 第801回外科集談会, 2006. 6.
- 83) 萩原信敏¹⁾, 宮下正夫, 山田智彦²⁾, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, 加藤俊二, 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 山下精彦, 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾慈山会坪井病院外科,²⁾厚生クリニック): 多発癌様の内視鏡像を呈した胃癌の1例. 第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 6.

- 84) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): StageIII乳癌術後のびまん性肝転移に対しDocetaxel動注/Capecitabine+MPA 併用が劇的に奏効している1例. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 85) 岩崎玲子, 土屋眞一¹⁾, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 野口智子, 樋口勝美²⁾, 田尻 孝 (¹⁾日本医科大学病理部, ²⁾東京白十字病院外科): 乳腺穿刺吸引細胞診の“検体不適正率”減少の工夫とその解析. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 86) 宮田広樹¹⁾, 西澤光代¹⁾, 飯田信也, 古川恵子, 腹子あきこ²⁾, 若林恵子²⁾, 古賀美帆²⁾, 片山志郎¹⁾, 菊池有道¹⁾, 古川清憲, 田尻 孝 (¹⁾薬剤部, ²⁾看護部): Pamidronate短時間投与の副作用評価. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 87) 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 樋口勝美¹⁾, 土屋眞一²⁾, 田尻 孝 (¹⁾東京白十字病院外科, ²⁾日本医科大学病理部): 局所進行乳癌に対するAC (E) followed by taxan 術前化学療法の成績. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 88) 飯田信也, 古川清憲, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 樋口勝美¹⁾, 土屋眞一²⁾, 田尻 孝 (¹⁾東京白十字病院外科, ²⁾日本医科大学病理部): 乳癌手術におけるドレーン留置期間の検討. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 89) 樋口勝美¹⁾, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 土屋眞一²⁾, 田尻 孝 (¹⁾東京白十字病院外科, ²⁾日本医科大学病理部): 当科における色素法センチネルリンパ節生検の成績. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 90) 北野敦子, 古川清憲, 飯田信也, 古川恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 樋口勝美¹⁾, 土屋眞一²⁾, 田尻 孝 (¹⁾東京白十字病院外科, ²⁾日本医科大学病理部): 石灰化を有し, 臨床的に癌との診断が困難だった多発性Ductal adenomaの1例. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 91) 野口智子, 古川清憲, 古川恵子, 飯田信也, 岩崎玲子, 村上隆介¹⁾, 土屋眞一²⁾, 田尻 孝, 樋口勝美³⁾ (¹⁾日本医科大学放射線科, ²⁾同病理部, ³⁾東京白十字病院外科): MDCTによる乳癌の拡がり診断と病理組織との対比 有用性と今後の展望. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 92) 坂田義則, 萩原信敏, 牧野浩司, 野村 務, 赤城一郎, 高橋 健, 神田知洋, 川東 豊, 勝野 暁, 清水哲也, 中村慶春, 横室茂樹, 藤田逸郎, 宮下正夫, 田尻 孝: 重症依存疾患の治療の後, 胃癌手術を施行した1例. 第290回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 7.
- 93) 小川ゆかり¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 阿部和也²⁾, 金城志志²⁾, 田尻 孝 (¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾同放射線科): 腹痛で発症した多発性肝動脈瘤に対して動脈塞栓術を施行した1症例. 第290回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 7.
- 94) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 田尻 孝: 食道類基底細胞癌の1手術例. 第290回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 7.
- 95) 村木 輝¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 柳本邦雄²⁾, 松本光司²⁾, 田尻 孝 (¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾同病理部): 下部胆管扁平上皮癌の1例. 第290回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 7.
- 96) 埴 秀暁¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田中 周²⁾, 坂本長逸²⁾, 松本光司³⁾, 田尻 孝 (¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾消化器内科, ³⁾武蔵小杉病院病理部): 術前にダブルバルーン内視鏡を施行した小腸GISTの1例. 第290回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 7.
- 97) 渡辺昌則¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 胃全摘後縫合不全から発症した多臓器不全に対して集学的治療が奏効した1例. 第30回神奈川県胃癌治療研究会, 2006. 7.
- 98) 坊 英樹¹⁾, 前島頭太郎¹⁾, 増田剛太郎, 小峯 修¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾武

- 蔵小杉病院消化器病センター): 鳥肌胃炎と若年者胃癌との関係. 第38回胃病態機能研究会, 2006. 7.
- 99) 小林和陽¹⁾, 石川富男¹⁾, 三枝英人²⁾, 木山輝郎^{(¹⁾ 栄養科, ^(²⁾ 耳鼻咽喉科)): 胃切除後の必要エネルギー量の検討: Harris-Benedict 式と携帯型カロリーメーターによる消費熱量の比較. 第43回日本外科代謝栄養学会, 2006. 7.}
- 100) 菅野仁士, 木山輝郎, 加藤俊二, 奥田武志, 藤田逸郎, 吉行俊郎, 田尻 孝: 胃癌に対する胃切除術後のインスリン分泌量および血糖値の変動. 第43回日本外科代謝栄養学会, 2006. 7.
- 101) 木山輝郎, 奥田武志, 藤田逸郎, 菅野仁士, 谷 杏彌, 加藤俊二, 吉行俊郎, 水谷 崇, 田尻 孝: 食事摂取・投与熱量調査からみた栄養管理の必要性. 第43回日本外科代謝栄養学会, 2006. 7.
- 102) 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝^(¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)): 手術治療を要した大腸憩室症の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 103) 奥田武志, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 田尻 孝, 徳永 昭¹⁾(^(¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)): 幽門狭窄合併症胃癌の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 104) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳健¹⁾, 田尻 孝^(¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科)): 長期経過が得られた若年女性3症例からみたStageⅤスキルス胃癌の治療戦略の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 105) 沖野哲也¹⁾, 清水康仁¹⁾, 松田明久, 新井政男¹⁾, 古谷政一¹⁾, 田尻 孝^(¹⁾ 筑西市民病院外科)): 残胃全摘後の空腸穿孔に対し T-tube 留置が有効であった1例. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 106) 加藤俊二, 松倉則夫, 藤田逸郎, 高田英志, 池田研吾, 山下直行, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 田尻 孝: 十二指腸潰瘍穿孔の大網充填術後の治療: *H. pylori* 除菌を含む治療指針の確立と個別化治療. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 107) 吉田初雄¹⁾, 山下直行²⁾, 櫻澤信行²⁾, 前澤勝美²⁾, 渡邊陸弥²⁾, 田尻 孝, 湖山信篤³⁾, 岩波 洋²⁾(^{(¹⁾ 今泉西病院外科, ^{(²⁾ 慈山会坪井病院外科, ^(³⁾ 北里研究所メディカルセンター病院)): 早期胃癌患者は肺癌死のリスクが胃癌死と同等である. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.}}
- 108) 吉野雅則¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 田尻 孝^(¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター)): 大腸癌治癒切除後CEA上昇を契機としてFDG-PET によって発見された再発腫瘍の1例. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 109) 宮下正夫, 勝田美和子, 高橋 健, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, Poirier MC¹⁾(^(¹⁾ Laboratory of cellular Carcinogenesis & Tumor Promotion, N. C. I., USA)): 食道癌の polycyclic aromatic hydrocarbon-DNA adducts の半定量的免疫組織化学的検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 110) 宮本昌之¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 田尻 孝^(¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科)): 肝癌ラジオ波凝固療法(RFA)における再発症例の検討 転移性肝癌を中心に. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 111) 高橋 健, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 柏原 元, 勝田美和子, 赤城一郎, 田尻 孝: 食道扁平上皮癌における癌遺伝子 Akt, Mdm2 発現の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 112) 山下直行¹⁾, 加藤俊二, 櫻澤信行¹⁾, 前澤勝美¹⁾, 渡邊陸弥¹⁾, 吉田初雄²⁾, 湖山信篤³⁾, 木山輝郎, 宮下正夫, 田尻 孝^{(¹⁾ 慈山会坪井病院外科, ^{(²⁾ 今泉西病院外科, ^(³⁾ 北里研究所メディカルセンター病院健康管理センター)): 胃癌手術における迷走神経温存の残胃環境, 栄養状態の改善. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.}}
- 113) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝^(¹⁾ 千葉北総病院外科)): 大腸癌における CPT-11, 5FU の効果と TS 活性の関係. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.

- 114) 秋谷行宏, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 寺西宣央, 藤田俊郎, 田尻 孝: 小腸リンパ管腫の1例. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 115) 小泉正樹¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 救急外来における消化器画像診断 on call CT の有用性. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 116) 小泉正樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 李 栄浩, 藤田 逸郎, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 胃切除後のGERDと胆汁逆流およびpH. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 117) 小峯 修¹⁾, 田中洋一²⁾, 川島吉之²⁾, 吉川朱実²⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 埼玉 県立がんセンター消化器外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター): 胸腔鏡補助下食道癌根治術 の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 118) 松田明久, 古川清憲, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 田尻 孝: 免疫学的 パラメーターを用いた術後感染性合併症の発症予測. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 119) 新井政男¹⁾, 古谷政一¹⁾, 清水康仁¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 松田明久¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 筑西市民病院外科): 黄色肉芽 種性胆嚢炎により胆管(Bs)狭窄をきたした1例. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 120) 水谷 聡¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 瀬戸路子¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渋谷哲男³⁾, 松本光司²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 同病理部, ³⁾ 大宮医師会市民病院): 下部胆管原発小細胞 癌の1例. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 121) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝: 大腸切除術後に生じた吻合部狭窄に対する内視鏡的拡張術の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総 会, 2006. 7.
- 122) 菅野仁士, 木山輝郎, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇¹⁾, 吉行俊郎, 加藤俊二, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院消 化器・一般・乳腺外科): 胃切除周術期における糖代謝 到達経路によるインスリン分泌量と血糖値変動. 第61 回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 123) 赤城一郎, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 萩原信敏, 高橋 健, 山下精彦, 田尻 孝: SIRS の重症度と手 術前後の血清 TGF- β , VEGF の関係. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 124) 前澤勝美¹⁾, 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 渡邊陸弥¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 慈山会坪井病院外科): 進行胃癌に対する術 前化学療法への適応. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 125) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 幽門輪温存臍頭十二指腸切除術 後の早期合併症とその対策 J-VAC ドレーンとPEGkitの有用性. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 126) 大川敬一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 宮下正夫, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 野村 務, 牧野浩司, 山下精彦, 田尻 孝⁽¹⁾ 千葉北総病院外科): 当科における食道扁平上皮癌に対するCDGP, 5-FU 併用術前放射線化学療法 の治療成績. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 127) 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 稲木敏一郎²⁾, 大島正行³⁾, 徳 永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 同麻酔科, ³⁾ 順天堂大学麻酔科): 食 道癌手術における塩酸オルプリン投与と術後血清ビリルビン値の推移. 第61回日本消化器外科学会定期学術 総会, 2006. 7.
- 128) 藤田逸郎, 加藤俊二, 池田研吾, 山下直行, 奥田武志, 水谷 崇¹⁾, 木山輝郎, 徳永 昭²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 多 摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 進行胃癌治療におけるS-1単剤と輸 液療法室を利用した外来化学療法の現状と問題点. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 129) 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 中村慶春, 張 一光, 川本聖郎, 田原一郎, 田尻 孝, 平井幸彦¹⁾, 島田

- 隆¹⁾(¹生化学第2): 膵癌研究におけるハムスター実験モデルの有用性 肝転移への応用. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 130) 萩原信敏, 宮下正夫, 田尻 孝, 笹島耕二¹⁾, 野村 務, 牧野浩司, 二見良平, 高橋 健, 赤城一郎, Harris C²⁾(¹多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²Laboratory of Human Carcinogenesis, NCI, NIH, USA): 食道癌患者の血清 DNA 中の p53 変異の同定. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 131) 尾形昌男¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 網倉克己²⁾, 坂本裕彦²⁾, 田中洋一²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝(¹日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²埼玉県立がんセンター消化器外科): 切除した転移性膵癌の1例: 右腎癌術後6年目に発症した膵転移と慢性骨髄性白血病の合併. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 132) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝(¹武蔵小杉病院消化器病センター): 胃出血性潰瘍病変における生検の重要性. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 133) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 勝田美和子¹⁾, 柏原 元²⁾, 高橋 健, 田尻 孝, 内藤善哉³⁾, 赤城一郎, 笹島耕二²⁾(¹千葉北総病院外科, ²多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ³病理学第2): 炎症に関連する下部食道癌における血管新生関連蛋白, 特に p53, VEGF 発現と消化器発癌. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 134) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 萩原信敏, 高橋 健, 丸山 弘¹⁾, 田尻 孝, 笹島耕二¹⁾, 横島一彦²⁾, 中溝宗永²⁾(¹多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²頭頸部外科): 頸部食道癌, 下咽頭癌に対する縦隔鏡補助下食道切除術と延長胃管による再建の有用性. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 135) 鈴木英之, 古川清憲, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 松田明久, 進士誠一, 寺西宣央, 田尻 孝: ストーマ脱出に対する非開腹・皮膚切開を伴わない腸管切除法. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 136) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓²⁾, 田尻 孝(¹多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²同消化器科): 外来通院にて mFOLFOX6 療法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 137) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 進士誠一, 松田明久, 寺西宣央, 佐々木順平, 田尻 孝: 当科における下部直腸癌に対する術前化学放射線療法. 第65回大腸癌研究会, 2006. 7.
- 138) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 石川義典, 神田知洋: 左胃静脈を介する胃腎シャントの1例. 第13回日本門脈圧亢進症学会総会, 2006. 9.
- 139) 藤本和輝, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 秋丸琥甫, 田尻 孝: A-P シャントの治療に難渋した肝癌合併肝硬変の1切除例. 第13回日本門脈圧亢進症学会総会, 2006. 9.
- 140) 菅 隼人, 古川清憲, 鈴木英之, 田尻 孝: 内視鏡的吻合部拡張術を行い, QOL の改善が得られた直腸癌術後の1症例. 第24回日本大腸検査学会総会, 2006. 9.
- 141) 新井政男¹⁾, 古谷政一¹⁾, 清水康仁¹⁾, 沖野哲也¹⁾, 松田明久¹⁾, 田尻 孝(¹筑西市民病院外科): 内視鏡的乳頭切開術 (EST) により著明な全身性皮下気腫を呈した1例. 第42回日本胆道学会学術集会, 2006. 9.
- 142) 神田知洋, 横室茂樹, 水口義昭, 清水哲也, 川東 豊, 新井政男, 藤田俊郎, 有馬保生, 田尻 孝: Lap-C+ERCP にて CBDS 除石に成功した1症例. 第42回日本胆道学会学術集会, 2006. 9.
- 143) 水口義昭, 横室茂樹, 有馬保生, 清水哲也, 川東 豊, 神田知洋, 新井政男, 藤田俊郎, 田尻 孝: 肝内胆管癌におけるサイトカイン TGFβ のシグナル伝達異常の検討. 第42回日本胆道学会学術集会, 2006. 9.
- 144) 清水哲也¹⁾, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 有馬保生, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝(¹北村山公立病院外科): 肝内胆管癌細胞株 HuCCT1, MEC, HuH28 における TGF- 1, IL-6 の相互作用と細胞増殖に対する影響. 第42回日本胆道学会学術集会, 2006. 9.
- 145) 中村慶春, 有馬保生, 内田英二, 相本隆幸, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 川本聖郎, 田尻

- 孝：膵・胆管合流異常に合併した胆嚢 adenomyomatosis 症例の検討．第42回日本胆道学会学術集会，2006．9．
- 146) 藤田俊郎，有馬保生，横室茂樹，水口義昭，清水哲也，川東 豊，新井政男，神田知洋，田尻 孝：原発性硬化性胆管炎（PSC）経過中に粘液産生胆管癌を合併し肝拡大左葉切除術を施行した1例．第42回日本胆道学会学術集会，2006．9．
- 147) 金沢義一¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，瀬谷知子¹⁾，山田岳史¹⁾，工藤秀徳¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，山下精彦，大秋美治²⁾（¹⁾千葉北総病院外科，²⁾同病理部）：大腸 sm 癌における内視鏡的切除症例の再検討．第61回日本大腸肛門病学会総会，2006．9．
- 148) 山田岳史¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，瀬谷知子¹⁾，金沢義一¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，山下精彦，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科）：大腸癌における 5FU/CPT-11 併用療法：CD-DST を用いた検討．第61回日本大腸肛門病学会総会，2006．9．
- 149) 進士誠一¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，瀬谷知子¹⁾，金沢義一¹⁾，山田岳史¹⁾，工藤秀徳¹⁾，小泉岐博¹⁾，大秋美治²⁾，山下精彦，田尻 孝（¹⁾千葉北総病院外科，²⁾同病理部）：小腸穿孔により汎発性腹膜炎を呈したクローン病の1例．第61回日本大腸肛門病学会総会，2006．9．
- 150) 菅 隼人，古川清憲，鈴木英之，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，進士誠一，松田明久，寺西宣央，佐々木順平，田尻 孝：下部直腸癌に対する術前化学放射線療法の検討．第61回日本大腸肛門病学会総会，2006．9．
- 151) 菅野仁士，古川清憲，鈴木英之，坂東功一，秋谷行宏，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，飯田信也，田尻 孝：小腸鏡にて術前診断し腹腔鏡補助下に切除した原発性空腸癌の1例．第61回日本大腸肛門病学会総会，2006．9．
- 152) 瀬谷知子¹⁾，田中宣威¹⁾，横井公良¹⁾，石川紀行¹⁾，金沢義一¹⁾，山田岳史¹⁾，工藤秀徳¹⁾，小泉岐博¹⁾，進士誠一¹⁾，田尻 孝，山下精彦，大秋美治²⁾（¹⁾千葉北総病院外科，²⁾同病理部）：当科で経験した痔瘻癌の2例．第61回日本大腸肛門病学会総会，2006．9．
- 153) 鈴木英之，古川清憲，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，進士誠一，松田明久，寺西宣央，佐々木順平，田尻 孝：進行大腸癌に対する腹腔鏡手術選択基準．第61回日本大腸肛門病学会総会，2006．9．
- 154) 加藤俊二，松倉則夫，山下直行，松田範子，藤田逸郎，奥田武志，木山輝郎，内藤善哉¹⁾，田尻 孝（¹⁾病理学第2）：胃粘膜切除ESD後や残胃の適正な内視鏡スクリーニング：背景粘膜や発癌サイトカイン遺伝子発現の個体差と胃発癌リスクの個別評価．第65回日本癌学会学術総会，2006．9．
- 155) 山下直行¹⁾，加藤俊二，櫻澤信行¹⁾，萩原信敏¹⁾，木山輝郎，宮下正夫，田尻 孝（¹⁾慈山会坪井病院外科）：胃癌手術における迷走神経温存の残胃環境に対する効果．第65回日本癌学会学術総会，2006．9．
- 156) 寺西宣央，内藤善哉¹⁾，石渡俊行¹⁾，田中宣威²⁾，古川清憲，鈴木英之，瀬谷知子²⁾，進士誠一，勝田美和子，張 一光，川本聖郎，藤原ゆり¹⁾，田尻 孝（¹⁾病理学第2，²⁾千葉北総病院外科）：大腸癌組織における新生血管マーカーとしてのnestinの検討．第65回日本癌学会学術総会，2006．9．
- 157) 松谷 毅¹⁾，笹島耕二¹⁾，丸山 弘¹⁾，鈴木成治¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，宮本昌之¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，柳健¹⁾，松田明久¹⁾，柏原 元¹⁾，二見良平¹⁾，田尻 孝（¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科）：進行・再発食道癌に対するsecond-lineとしてのDocetaxel + 5-FU + CDDP併用療法の検討．第65回日本癌学会学術総会，2006．9．
- 158) 松田範子，加藤俊二，真々田裕宏，谷合信彦，吉田 寛，秋丸琥甫，内藤善哉¹⁾，松倉則夫，田尻 孝（¹⁾病理学第2）：肝組織内COX-2，HGF，VEGF，HIF-1 mRNA発現からみた肝癌治療法選択の妥当性．第65回日本癌学会学術総会，2006．9．
- 159) 赤城一郎，宮下正夫，牧野浩司，野村 務，萩原信敏，高橋 健，田尻 孝：食道扁平上皮癌におけるPIK3CA発現の意義．第65回日本癌学会学術総会，2006．9．
- 160) 川本聖郎，石渡俊行¹⁾，内田英二，相本隆幸，中村慶春，勝野 暁，張 一光，進士誠一，寺西宣央，藤原ゆり¹⁾，内藤善哉¹⁾，田尻 孝（¹⁾病理学第2）：膵癌におけるnestinの発現とその役割．第65回日本癌学会学術

総会, 2006 . 9 .

- 161) 増田剛太郎, 徳永 昭¹⁾, 富樫晃祥, 白川 毅²⁾, 木山輝郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 千葉北総病院外科): 若年者胃癌; *Helicobacter Pylori* 感染と関連しCYP2E1とは関連しない. 第65回日本癌学会学術総会, 2006 . 9 .
- 162) 張 一光, 石渡俊行¹⁾, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 寺西宣央, 川本聖郎, 中澤南堂¹⁾, 工藤光洋¹⁾, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学第2): ヒト膀胱におけるKGF/KGFR, VEGFの発現と臨床病理学的及び肝転移に関する検討. 第65回日本癌学会学術総会, 2006 . 9 .
- 163) 田原一郎¹⁾, 三宅弘一¹⁾, 平井幸彦¹⁾, 倉井年幸¹⁾, 内田英二, 田尻 孝, 島田 隆¹⁾ (¹⁾ 生化学第2): mda-7/IL24を発現するアデノ随伴ウィルスベクターによる全身性癌治療の検討. 第65回日本癌学会学術総会, 2006 . 9 .
- 164) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 張 一光, 川本聖郎, 勝野 暁, 田尻 孝: 動物モデルを用いた膀胱がんの治療実験. 第65回日本癌学会学術総会, 2006 . 9 .
- 165) 萩原信敏, 宮下正夫, 田尻 孝, 笹島耕二¹⁾, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, Mechanic L²⁾, Hussain P²⁾, Harris C²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾ 米国国立癌センターヒト発癌研究所): 血中DNAのcodon 248/249 p53遺伝子変異の同定. 第65回日本癌学会学術総会, 2006 . 9 .
- 166) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 増田剛太郎, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): ヘリコバクター・ピロリ関連胃炎として「鳥肌胃炎」と若年者胃癌との関連. 第65回日本癌学会学術総会, 2006 . 9 .
- 167) 牧野浩司, 宮下正夫, 高橋 健, 野村 務, 萩原信敏, 赤城一郎, 田尻 孝, ガブリエルソンエドワード¹⁾, ジョンストンジェームス¹⁾ (¹⁾ ジョーンズホプキンス大学病理部): 食道扁平上皮癌におけるVon Hippel Lindau (VHL) 遺伝子と蛋白の発現. 第65回日本癌学会学術総会, 2006 . 9 .
- 168) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷毅¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝³⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾ 同消化器科, ³⁾ 同病理部): 胃癌肝転移症例におけるMAGE-A family蛋白発現の検討. 第65回日本癌学会学術総会, 2006 . 9 .
- 169) 向後英樹, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 坂東功一, 佐々木順平, 重原健吾, 寺西宣央, 菅野仁士, 田尻 孝, 田中 周¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): 小腸内視鏡にて診断し, 腹腔鏡手術を施行した小腸異物 (義歯) の1例. 第802回外科集談会, 2006 . 9 .
- 170) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝細胞癌破裂例はT4か?. 第10回日本肝臓学会大会, 2006 . 10 .
- 171) 清水哲也¹⁾, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝 (¹⁾ 北村山公立病院外科): 肝内胆管癌細胞株HuCCCT 1におけるTGF- β 1, IL-6の相互作用と細胞増殖に対する影響に対する検討. 第10回日本肝臓学会大会, 2006 . 10 .
- 172) 谷合信彦, 吉田 寛, 真々田裕宏, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 最大径10cm以上の巨大肝細胞癌に対する肝切除成績と適応. 第10回日本肝臓学会大会, 2006 . 10 .
- 173) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌遠隔転移 (肝・肺) に対するDCF療法の1奏効例. 第39回神奈川県消化器病医学会総会, 2006 . 10 .
- 174) 岡崎大武¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 大川敬一¹⁾, 白川毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻 孝, 山下精彦 (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 同病理部): TS-1/CDDPによる化学療法にてCRを得た食道浸潤進行胃癌の1例. 第44回日本癌治療学会総会, 2006 . 10 .
- 175) 金沢義一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 山下精彦¹⁾, 進士誠一¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻

- 孝⁽¹⁾千葉北総病院外科,⁽²⁾同病理部): 進行胃癌における DPD, TS 発現と予後との関連. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 176) 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 加藤俊二, 吉田初雄²⁾, 湖山信篤³⁾, 前澤勝美¹⁾, 渡邊陸哉¹⁾, 井上達哉¹⁾, 岩波洋¹⁾, 齋藤行世⁴⁾, 木山輝郎, 宮下正夫, 田尻 孝⁽¹⁾慈山会坪井病院外科,⁽²⁾今泉西病院外科,⁽³⁾北里研究所メディカルセンター病院健康管理センター,⁽⁴⁾慈山会坪井病院内科): 上部(U限局)胃癌に対する噴門側切除を主とした適正治療 診断と治療 (ESD, 胃切除範囲, 神経温存, 再建)の注意点. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 177) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝⁽¹⁾千葉北総病院外科): CD-DST を用いた大腸癌に対する5FUの効果予測: 5FUは時間依存性が濃度依存性か?. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 178) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷毅¹⁾, 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科,⁽²⁾同消化器科): mFOLFOX6法を導入した進行・再発大腸癌肝転移症例の検討. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 179) 永嶋裕司¹⁾, 小野田正美¹⁾, 建持岳史¹⁾, 篠原正夫²⁾, 横山滋彦³⁾, 吉田 寛, 田尻 孝⁽¹⁾聖ヨゼフ病院内科,⁽²⁾東邦大医療センター大森病院消化器内科,⁽³⁾横須賀市立うまち病院外科): 肝膿瘍との鑑別に難渋した炎症性偽腫瘍の1例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 180) 加藤俊二, 松倉則夫, 山下直行, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 田尻 孝: 摂食刺激ホルモングレリンの胃粘膜組織内 mRNA 発現の個体差とその誘導の可能性: *H. pylori*除菌および漢方の効果. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 181) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 横室茂樹, 中村慶春, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 10Fr BLAKE Silicone Drain 先端を使用した肝切除時肝管空腸吻合部 internal stent の有用性. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 182) 坂東功一, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 菅野仁士, 古谷政一¹⁾, 清水康仁¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾筑西市民病院外科): 同時性肝転移を伴った上行結腸原発と考えられる悪性繊維性組織球腫(MFH)の1切除例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 183) 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 前澤勝美¹⁾, 吉田初雄²⁾, 湖山信篤³⁾, 加藤俊二, 木山輝郎, 安藤真弘⁴⁾, 齋藤行世⁴⁾, 和知栄子⁵⁾, 田尻 孝⁽¹⁾慈山会坪井病院外科,⁽²⁾今泉西病院外科,⁽³⁾北里研究所メディカルセンター病院健康管理センター,⁽⁴⁾慈山会坪井病院内科,⁽⁵⁾同病理科): 扁平上皮癌併存の印環細胞癌の再発(縦郭, 髄膜)に集学的治療の効果があつた胃癌の1例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 184) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝⁽¹⁾千葉北総病院外科): 5FU関連酵素 OORT, DPD, TS の大腸癌予後に与える影響. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 185) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 潰瘍性大腸炎に合併した再発直腸癌に対し m-FOLFOX6 療法が奏効した1例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 186) 松本智司, 坂東功一, 鈴木英之, 菅 隼人, 鶴田宏之, 秋谷行宏, 寺西宣央, 飯田信也, 菅野仁士, 古川清憲, 田尻 孝: 内性子宮内膜症を認めず, イレウスを呈した腸子宮内膜症の2例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 187) 真々田裕宏, 吉田 寛, 谷合信彦, 高橋 翼, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 田尻 孝, 内藤善

- 哉¹⁾(¹病理学第2): 門脈の不整な分枝異常に伴う門脈圧亢進症の1例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 188) 石川義典, 松本智司, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 古川清憲, 田尻 孝: 肝転移後に AFP を産生したS状結腸癌の1例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 189) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 水瀬 学, 川東 豊, 横室茂樹, 田尻 孝: 超音波造影剤レボピスト胆管内投与ガイド下による新しい術中臍生検とその有用性. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 190) 谷 杏彌, 吉田 寛, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 坂東功一, 石川義典, 神田知洋, 中村慶春, 田尻 孝: 嚢胞内出血による貧血で発見された肝嚢胞腺癌の1例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 191) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 野村 務, 吉田 寛, 横室茂樹, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下尾側臍切除術. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 192) 張 一光, 石渡俊行¹⁾, 中澤南堂¹⁾, 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 寺西宣央, 川本聖郎, 田尻 孝, 内藤善哉¹⁾(¹病理学第2): ヒト臍癌静脈侵襲におけるKGF, KGFRとVEGFの関与. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 193) 坊 英樹¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 増田剛太郎, 小峯 修¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝(¹武蔵小杉病院消化器病センター): 鳥肌胃炎と若年者胃癌との関係. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 194) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 田尻 孝(¹多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²同消化器科): mFOLFOX6 法から他Regimenに移行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 195) 奥田武志, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 田尻 孝, 三宅一昌¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹付属病院消化器内科): 内視鏡で偶然発見される小さな食道・胃粘膜下腫瘍の検討. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 196) 三浦克洋¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝: 出血性胃潰瘍における*H. pylori*菌およびNSAIDsの関連. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 197) 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 前澤勝美¹⁾, 齋藤行世²⁾, 加藤俊二, 木山輝郎, 田尻 孝(¹慈山会坪井病院外科, ²同内科): 噴門側胃切除後の残胃癌の検討. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 198) 松久威史¹⁾, 松倉則夫, 山田宣孝²⁾, 上村直実³⁾(¹多摩永山病院消化器科, ²病理学第2, ³国立国際医療センター消化器科): HM-CAP, JHM-CAP によるアジア人, アフリカ人の *Helicobacter pylori* 抗体陽性率の比較. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 199) 中村慶春, 田尻 孝, 有馬保生, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 野村 務, 吉田 寛, 横室茂樹, 真々田裕宏, 内田英二(¹武蔵小杉病院消化器病センター): 先天性胆道拡張症に対して腹腔鏡補助下手術を施行した1例. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 200) 峯田 章¹⁾, 山本一仁¹⁾, 寺田淑恵¹⁾, 福原宗久¹⁾, 清水哲也¹⁾, 木内博之¹⁾, 田尻 孝(¹北村山公立病院外科): 十二指腸憩室出血の1例報告および本邦報告例の検討. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 201) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 萩原信敏, 田尻 孝, 高橋 健, 赤城一郎, 岩切勝彦¹⁾, 林 良紀²⁾, 坂東健史³⁾, 和田雅世³⁾, 寺本 忠³⁾(¹日本医科大学付属病院消化器内科, ²同多摩永山病院消化器内科, ³町田胃腸病院外科): 食道疾患診療における細径及び経鼻内視鏡における有用性. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 202) 菅野仁士, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 神田知洋, 坂東功一, 秋谷行宏, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 田尻 孝: 消化管穿孔術後に発症した真菌性腹膜炎の1例. 第19回日本外科感染症学会総会, 2006. 11.

- 203) 本間英恵: 多発性肝嚢胞に肝細胞癌が合併した1切除例. 第34回肝癌症例検討会, 2006. 11.
- 204) 坊 英樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 腹腔鏡補助下胃切除術後の残胃について. 第36回胃外科・術後障害研究会, 2006. 11.
- 205) 坊 英樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 腫瘍径2.5cmの胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下切除の試み. 第36回胃外科・術後障害研究会, 2006. 11.
- 206) 松田範子, 秋丸琥甫, 木山輝郎, 徳永 昭¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 吉村成子²⁾, 坂本篤裕³⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 吉村せいこクリニック, ³⁾ ME部): 当施設における高気圧酸素治療の現況. 第41回日本高気圧環境・潜水医学会学術総会, 2006. 11.
- 207) 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 村木 輝¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渋谷哲男²⁾, 徳永 昭¹⁾, 柳本邦雄³⁾, 松本光司³⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 大宮医師会市民病院外科, ³⁾ 武蔵小杉病院病理部): 当科における腓体尾部腫瘍の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 208) 奥田武志, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 田尻 孝: 若年者小腸腸間膜デスマイド腫瘍の2例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 209) 吉野雅則¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 柳本邦雄²⁾, 松本光司²⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 同病理部): 巨大腓リンパ管腫の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 210) 五十嵐健人¹⁾, 中村慶春, 赤須東樹¹⁾, 田中久美¹⁾, 野村 務, 内田英二, 有馬保生, 高崎秀明²⁾, 田尻 孝, 清水一雄¹⁾ (日本医科大学外科学(内分泌・心臓血管・呼吸器部門), ²⁾ 神栖済生会病院外科): 当科における副腎病変に対する内視鏡手術の現状. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 211) 高尾嘉宗, 萩原信敏, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 高橋 健, 赤城一郎, 坂田義則, 田尻 孝: 術後合併症管理に難渋した高齢者胃潰瘍穿孔の1手術例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 212) 坂東功一, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 秋谷行宏, 菅野仁士, 坂本長逸¹⁾, 小林 剛¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (付属病院消化器内科): ダブルバルーン小腸内視鏡にて術前診断し腹腔鏡補助下手術にて切除した小腸腫瘍の5例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 213) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科): 大腸癌におけるOPRT, DPD, TS活性と臨床病理学的検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 214) 秋谷行宏, 古川清憲, 鈴木英之, 飯田信也, 鶴田宏之, 菅 隼人, 松本智司, 坂東功一, 寺西宣央, 赤城一郎, 菅野仁士, 田尻 孝: 直腸GISTに対する術前化学療法. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 215) 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 食道癌・胃癌手術における術後早期経腸栄養法の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 216) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 柳健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 二見良平¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 進行・再発食道癌に対するDocetaxel + 5-FU + CDDP併用療法の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 217) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 柳健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 卵巣摘出術を施行した雌マウスでTrauma-Hemorrhage後のサイトカインと年齢・性ホルモンの関連. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

- 218) 松田明久¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 柏原 元¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 術前診断し腹腔鏡補助下に切除しえた多発回腸脂肪腫による腸重積症の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 219) 杉浦 篤¹⁾, 吉安正行¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 池田研吾¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾博慈会記念総合病院外科): 手術を施行した成人臍ヘルニアの5例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 220) 赤城一郎, 宮下正夫, 牧野浩司, 野村 務, 萩原信敏, 高橋 健, 坂田義則, 田尻 孝, 宮下次廣¹⁾(¹⁾放射線医学): リピオドールによるリンパ管造影が有効であった食道癌術後乳び胸の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 221) 中村慶春, 有馬保生, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 上田純志, 田尻 孝: 先天性胆道拡張症に対して腹腔鏡補助下手術を施行した1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 222) 渡邊秀裕¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 定型手術が標準とされる T2 T3 胃癌症例の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 223) 内田英二, 相本隆幸, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 裁判所判例から見た医療訴訟 特に外科関連疾患について. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 224) 二宮理貴¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 松本光司²⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾同 病理部): 突発性脾破裂の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 225) 柏原 元¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 左鼠径ヘルニア嵌頓にて緊急手術を施行した成人 Cornelia de Lange 症候群の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 226) 飯田信也, 古川清憲, 柳原恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 土屋眞一¹⁾, 樋口勝美²⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院病理部, ²⁾東京白十字病院外科): 当科における乳癌のセンチネルリンパ節生検の成績. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 227) 牧野浩司, 宮下正夫, 野村 務, 高橋 健, 赤城一郎, 田尻 孝, 山下精彦, 大川敬一¹⁾, 堀場光二¹⁾, 田中宣威¹⁾(¹⁾千葉北総病院外科): ケント・ブーメラン・リトラクターセットを用いた腹部・頸部鎖骨同時牽引下, 腹部操作と同時施行可能な頸部側からの食道癌の頸部・反回神経周囲リンパ節郭清. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 228) 野村 務, 宮下正夫, 牧野浩司, 丸山 弘¹⁾, 萩原信敏, 高橋 健, 赤城一郎, 横島一彦²⁾, 中溝宗永²⁾, 笹島耕二¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝¹⁾(¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 頸部食道癌, 下咽頭癌に対する術式としての縦隔鏡補助下食道切除術と延長胃管作製. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 229) 石川義典, 谷合信彦, 神田知洋, 柿沼大輔, 水口義昭, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝: 症例報告. 第6回肝胆膵 Forum in Tokyo, 2006. 11.
- 230) 寺嶋克幸¹⁾, 杖下隆哉¹⁾, 宮下正夫, 坂本篤裕¹⁾(¹⁾麻醉科学): Hemoglobin-Vesicle 溶液の出血性ショックに対する効果と安全性. 第13回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2006. 12.
- 231) 水口義昭, 横室茂樹, 有馬保生, 清水哲也, 川東 豊, 神田知洋, 新井政男, 藤田俊郎, 宮下正夫, 吉田 寛, 田尻 孝: microRNAomeによるHBV HCCの網羅的解析. 第13回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2006. 12.
- 232) 清水哲也¹⁾, 横室茂樹, 水口義昭, 川東 豊, 神田知洋, 有馬保生, 谷合信彦, 真々田裕宏, 吉田 寛, 秋丸琥甫, 田尻 孝¹⁾(¹⁾北村山公立病院外科): 肝内胆管癌細胞株 HuCCT1 における TGF- β 1 の細胞増殖に対す

- る影響と IL-6 の発現の意義．第 13 回外科侵襲とサイトカイン研究会，2006．12．
- 233) 横山 正¹⁾，笹島耕二¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，宮本昌之¹⁾，水谷 崇¹⁾，丸山 弘¹⁾，鈴木成治¹⁾，松谷 毅¹⁾，土屋喜一¹⁾， 健¹⁾，松田明久¹⁾，柏原 元¹⁾，西 佳史¹⁾，田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): Trastuzumab 中心の化療後に腹腔鏡下肝切除術および RFA で disease free となった乳癌肝転移の 1 例．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 234) 横室茂樹，清水哲也，有馬保生，水口義昭，川東 豊，神田知洋，中村慶春，田尻 孝：腹腔鏡下胆嚢摘出術により診断された胆嚢癌症例の検討．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 235) 宮本昌之¹⁾，笹島耕二¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，松田 健¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，鈴木成治¹⁾，松谷毅¹⁾，土屋喜一¹⁾， 健¹⁾，松田明久¹⁾，柏原 元¹⁾，西 佳史¹⁾，田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 高度胆嚢炎合併症例に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の手上的工夫．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 236) 坂東功一，古川清憲，内田英二，有馬保生，鈴木英之，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，中村慶春，秋谷行宏，菅野仁士，田尻 孝：腹腔鏡下横行結腸切除，臍体尾部脾合併切除，肝部分切除術を施行した 1 例．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 237) 松谷 毅¹⁾，笹島耕二¹⁾，宮本昌之¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，鈴木成治¹⁾，土屋喜一¹⁾， 健¹⁾，松田明久¹⁾，柏原 元¹⁾，水谷 崇¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 有症状の巨大肝嚢胞と胆嚢結石に対し腹腔鏡手術を施行した 4 例の検討．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 238) 神田知洋，横室茂樹，中村慶春，水口義昭，清水哲也，川東 豊，新井政男，有馬保生，田尻 孝：内視鏡によるドレナージが困難な AOSC に対して術中内視鏡的逆行性胆管ドレナージが有用であった 1 症例．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 239) 菅野仁士，古川清憲，鈴木英之，坂東功一，秋谷行宏，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，飯田信也，田尻 孝：腹腔鏡下盲腸部分切除を行った虫垂粘液嚢胞腺腫の 1 例．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 240) 中村慶春，内田英二，相本隆幸，勝野 暁，張 一光，川本聖郎，野村 務，松本智司，横室茂樹，有馬保生，谷合信彦，吉田 寛，田尻 孝：腹腔鏡下胆嚢摘出術と同時に切除した左後腹膜腫瘍の 1 例．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 241) 中村慶春，内田英二，田尻 孝：腹腔鏡下尾側脾切除術．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 242) 平田知己¹⁾，小泉 潔¹⁾，揖斐孝之¹⁾，山岸茂樹¹⁾，吉野直之¹⁾，窪倉浩俊¹⁾，三上 巖¹⁾，清水一雄²⁾，田尻 孝 (¹⁾付属病院呼吸器外科，²⁾同甲状腺外科): VATS lobectomy の縦隔郭清の技術向上をめざして．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 243) 牧野浩司，宮下正夫，野村 務，萩原信敏，高橋 健，赤城一郎，田尻 孝，横島一彦¹⁾，中溝宗永¹⁾，笹島耕二²⁾，大川敬一³⁾ (¹⁾耳鼻咽喉科・頭頸部外科，²⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科，³⁾千葉北総病院外科): 食道癌の縦隔鏡補助下手術の適応．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 244) 木山輝郎，奥田武志，藤田逸郎，吉行俊郎，菅野仁士，谷 杏彌，加藤俊二，田尻 孝：胃癌に対する腹腔鏡補助下幽門側胃切除の検討．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 245) 野村 務，宮下正夫，牧野浩司，萩原信敏，高橋 健，赤城一郎，有馬保生，鈴木英之，木山輝郎，横室茂樹，中村慶春，田尻 孝：当施設における胸腔鏡補助下食道切除術の導入：用手補助と胸腔内吻合．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 246) 揖斐孝之¹⁾，小泉 潔¹⁾，平田知己¹⁾，山岸茂樹¹⁾，吉野直之¹⁾，窪倉浩俊¹⁾，三上 巖¹⁾，久吉隆郎²⁾，清水一雄¹⁾，田尻 孝 (¹⁾日本医科大学呼吸器外科，²⁾永寿会三鷹中央病院呼吸器科): 気腹操作により胸腔鏡下横隔膜縫縮術を施行した Hepatic Hydrothorax の 1 手術例．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 247) 鈴木英之，古川清憲，菅 隼人，鶴田宏之，松本智司，秋谷行宏，進士誠一，松田明久，寺西宣央，佐々木順平，田尻 孝：進行大腸癌に対する腹腔鏡手術適応．第 19 回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．

- 248) 坊 英樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における腹腔鏡補助下幽門側胃切除術. 第31回神奈川胃癌治療研究会, 2006. 12.
- 249) 飯田信也, 古川清憲, 柳原恵子, 岩崎玲子, 野口智子, 土屋眞一¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 病理部): 原発性乳癌術後40年目に局所再発をきたし, アロマトーゼ・インヒビターにて臨床的CRが得られた1例. 第3回日本乳癌学会関東地方会, 2006. 12.
- 250) 大矢昭仁¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下切除の試み. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 251) 中村慶春, 松本智司, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 鈴木英之, 横室茂樹, 野村 務, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下尾側膵切除術. 第15回クリニカル・ビデオフォーラム, 2007. 2.
- 252) 坂田義則, 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 松本智司, 坂東功一, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 切除標本を用いた肝切除シミュレーションシステムの信頼性の検討. 第26回日本画像医学会, 2007. 2.
- 253) 遠藤勇気¹⁾, 小峯 修¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 埜 秀暁¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 十二指腸傷乳頭憩室が原因と思われた急性閉塞性化膿性胆管炎の1例. 第293回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 2.
- 254) 上田達夫, 奥田武志, 菅野仁士, 藤田逸郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 田尻 孝, 田中 周¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (1) 付属病院消化器内科): 小腸内視鏡にて粘膜下腫瘍様形態を示したMeckel憩室内翻症の1例. 第293回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 2.
- 255) 新井洋紀¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 健¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 柏原 元¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 内田英二, 田尻 孝⁽¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 超高齢者男性の膵体尾部粘液産性嚢胞腺癌 (MCC) の1切除例. 第293回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 2.
- 256) 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 星野有哉¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における肝膿瘍の臨床的検討. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 257) 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 大川敬一¹⁾, 大秋美治²⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 同病理部): 成人男性に発症し, 下血にて発見された縦隔原発転移性小腸絨毛癌の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 258) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷谷信彦, 水口義昭, 柿沼大輔, 石川義典, 神田知洋, 坂東功一, 中村慶春, 奥田武志, 木山輝郎, 田尻 孝: 胃癌術後再発による輸入脚閉塞症に対する経皮経肝的ドレナージ・ステント挿入. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 259) 近藤恭司¹⁾, 三浦克洋¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 千原直人¹⁾, 小峯 修¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝⁽¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 出血性胃十二指腸潰瘍の検討: 原因 (NSIDs, *H. pylori* 菌), 内視鏡所見および治療法. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 260) 高橋 健, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 坂東功一, 古川清憲, 田尻 孝: 食道癌手術後に腸管壊死を伴う虚血性腸炎を併発し小腸切除を施行した1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 261) 佐藤英尊¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 福永 毅¹⁾, 小野澤志郎¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾, 中村慶春, 内田英二, 田尻 孝⁽¹⁾ 放射線医学): PPPD術後吻合部潰瘍出血に対する緊急TAEの1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 262) 秋谷行宏, 古川清憲, 鈴木英之, 松本智司, 鶴田宏之, 菅 隼人, 飯田信也, 寺西宣央, 佐々木順平, 重原健吾, 坂田義則, 田尻 孝: 外科的切除を行った急性出血性直腸潰瘍の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 263) 秋谷麻衣¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川

- 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 田尻 孝, 大秋美治²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾同病理部): 急性虫垂炎との鑑別が困難であった小児卵巣茎捻転の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 264) 松信哲朗¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝(¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 抗血小板薬中止が一因と考えられる胃癌術後肺動脈血栓症の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 265) 水谷 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 星野有哉¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 渋谷哲男²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝(¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾大宮医師会市民病院): 急性胆管炎に対する当院での対応と治療成績. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 266) 菅野仁士, 古川清憲, 鈴木英之, 坂東功一, 佐々木順平, 寺西宣央, 秋谷行宏, 菅 隼人, 鶴田宏之, 松本智司, 飯田信也, 田尻 孝: 化学療法施行後に消化管穿孔を繰り返した小腸悪性リンパ腫の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 267) 清水哲也¹⁾, 山本一仁¹⁾, 峯田 章¹⁾, 福原宗久¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 木内博之¹⁾, 滝沢隆雄¹⁾, 田尻 孝(¹⁾北村山公立病院外科): 再発右閉鎖孔ヘルニアの1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 268) 西 佳史¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 田尻 孝(¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 複数個の磁石による腸管多発穿孔の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 269) 前島顕太郎¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 尾崎卓司¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小山雅章¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝(¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 下部消化管出血に対する緊急大腸内視鏡検査の意義. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 270) 谷 杏彌¹⁾, 吉安正行¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 池田研吾¹⁾, 杉浦 篤¹⁾, 田尻 孝(¹⁾博慈会記念総合病院外科): 保存的に治療し, メッシュによる根治術が可能であった閉鎖孔ヘルニア嵌頓の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 271) 萩原信敏¹⁾, 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝(¹⁾慈山会坪井病院外科): 術後管理に難渋した, 骨盤腔内便大量流出を認めた特発性直腸穿孔の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 272) 柏原 元¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 西 佳史¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 前田昭太郎²⁾, 田尻 孝(¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾同病理部): 高度貧血で発症した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 273) 塙 秀暁¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝(¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 当科における成人鼠径ヘルニア嵌頓症例の臨床的検討. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 274) 飯田信也, 古川清憲, 鈴木英之, 杉崎祐一¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 田尻 孝(¹⁾病理学第2): 小児S状結腸腸間膜嚢腫の1切除例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 275) 牧野浩司, 田尻 孝, 宮下正夫, 野村 務, 高橋 健, 萩原信敏, 坂東功一, 赤城一郎, 田島廣之¹⁾, 竹田晋浩²⁾, 赤田信二²⁾, 寺嶋克幸²⁾(¹⁾放射線医学, ²⁾付属病院集中治療室): 食道疾患におけるCTガイド下穿刺ドレナージの有用性. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 276) 山田岳史¹⁾, 堀場光二¹⁾, 田尻 孝(¹⁾千葉北総病院外科): 癌性疼痛に対するオキシコドン導入パスの有用性. 第5回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2007. 3.
- 277) 奥田武志, 菅野仁士, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 田尻 孝: 胃GISTに対する外科手術の検討: 腹腔鏡手術の安全性と工夫. 第79回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 278) 近藤恭司¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝: 腫瘍径2.5cmの胃粘膜腫瘍に対する腹腔鏡下切除の試み. 第79回日本胃癌学会総会, 2007. 3.

- 279) 金沢義一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 白川 毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 大川敬一¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科): stageIV 胃癌における TS および DPDmRNA 発現の検討. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 280) 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 宮下正夫, 加藤俊二, 木山輝郎, 田尻 孝¹⁾ (慈山会坪井病院外科): 胃癌取扱い規約第 13 版に対する提案: 一臨床医の疑問. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 281) 山下直行¹⁾, 櫻澤信行¹⁾, 萩原信行¹⁾, 岩波 洋¹⁾, 宮下正夫, 加藤俊二, 木山輝郎, 田尻 孝¹⁾ (慈山会坪井病院外科): 進行胃癌に対する TS-1+CDDP による術前化学療法の適応: StageIV での比較. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 282) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 金沢義一¹⁾, 大川敬一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科): 胃癌に対する Paclitaxel の効果: 濃度依存性が時間依存性か?. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 283) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 土屋喜一¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): Tailored TS-1+CPT-11 併用療法にて肝転移・腹膜播種が CR となった StageIV 胃癌の 1 例. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 284) 前島顕太郎¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 小峯 修¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 高齢者 (70 歳以上) 胃癌症例の検討. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 285) 坊 英樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小峯 修¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 腹腔鏡補助下胃切除後の残胃について. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 286) 坊 英樹¹⁾, 近藤恭司¹⁾, 小峯 修¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 田尻 孝, 渡辺昌則¹⁾, 徳永 昭¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター): 腫瘍径 2.5cm の胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下切除の試み. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 287) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 飯田信也, 佐藤雄一²⁾, 田尻 孝¹⁾ (日本医科大学多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾ 北里大学医療衛生学部遺伝子検査学): 胃癌組織における MAGE-A10mRNA・蛋白発現の検討とその臨床応用について. 第 79 回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 288) 高田英志, 宮下正夫, 野村 務, 牧野浩司, 坂東功一, 高橋 健, 赤城一郎, 田尻 孝, 岩切勝彦¹⁾ (消化器内科): 2 次性アカラシアを来した食道胃接合部癌の 1 例. 第 804 回外科集談会, 2007. 3.
- 289) 中田亮輔¹⁾, 野村 聡¹⁾, 豊田哲顕¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 松信哲朗¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 柳本邦雄²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 同病理部): 大腸リンパ管腫の 1 例. 第 804 回外科集談会, 2007. 3.

(9) Freshman Award :

- 1) 岩崎玲子, 古川清憲, 飯田信也, 柳原恵子, 野口智子, 樋口勝美¹⁾, 土屋眞一²⁾, 田尻 孝¹⁾ (東京白十字病院外科, ²⁾ 日本医科大学病理部): Diabetic mastopathy の 1 例: 画像・病理像・IDDM との関連性について (乳腺 3). 第 68 回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 2) 岩本美樹¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝: 胃二重癌に合併した迷入膵の 1 切除例 (胃・十二指腸 (悪性) 2). 第 68 回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 3) 近藤恭司¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 柳本邦雄²⁾, 松本光司²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝¹⁾ (武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾ 同病理部): 腹壁に穿通し皮下膿瘍にて発症診断された横行結腸癌の 1 例 (大腸・肛門 (悪性) 1). 第 68 回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 4) 勝部乙大¹⁾, 金沢義一¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 白川毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 金子昌裕¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 大秋美治²⁾, 山下精彦, 田尻 孝¹⁾ (千葉北総病院外科, ²⁾ 同

病理部): 遺残虫垂炎を原因とする後腹膜血腫の1例(大腸・肛門(良性)1). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

5) 上田純志, 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 松本智司, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 脾静脈閉塞により側副血行路の発達した脾粘液性嚢胞腺腫に対し腹腔鏡下尾側脾切除術を施行した1例(胆道・脾4). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

6) 村木 輝¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 渋谷哲男²⁾, 柳本邦雄³⁾, 松本光司³⁾, 田尻 孝 (¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾大宮医師会市民病院外科, ³⁾武蔵小杉病院病理部): 下部胆管扁平上皮癌の1例(胆道・脾1). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

7) 藤本和輝, 真々田裕宏, 鈴木英之, 吉田 寛, 石川義典, 谷 杏彌, 古川清憲, 田尻 孝: 内視鏡検査による術前診断にて腹腔鏡補助下に切除した小腸癌の1例(小腸5). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

8) 野口智子, 古川清憲, 飯田信也, 柳原恵子, 岩崎玲子, 谷 杏彌, 土屋眞一¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾病理部): 葉状腫瘍とDCISが併存した1例(乳腺3). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

(10) ビデオサージカルフォーラム:

1) 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 水口義昭, 柿沼大輔, 川東 豊, 石川義典, 神田知洋, 横室茂樹, 有馬保生, 中村慶春, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 10Fr BLAKE Silicone Drain 先端を使用した肝切除時肝管空腸吻合部 internal stent の検討(胆膵吻合1). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

2) 水谷 聡¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 二宮理貴¹⁾, 佐藤精一¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 渋谷哲男²⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾大宮医師会市民病院外科): 簡便, 確実, 安全な膵・空腸吻合の試み(胆膵吻合4). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

(11) ビデオセッション:

1) 宮本昌之¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 長澤重直¹⁾, 二見良平¹⁾, 増田剛太郎¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 当科における総胆管結石症に対する治療戦略(総胆管結石). 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 2006. 5.

2) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 横室茂樹, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: 腹腔鏡下尾側脾切除術. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.

3) 中村慶春, 内田英二, 相本隆幸, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 谷合信彦, 吉田 寛, 有馬保生, 田尻 孝: Miles 手術後に出現した膵嚢胞性腫瘍と左副腎腫瘍に対し腹腔鏡下に尾側脾切除術と左副腎切除術を同時に施行した1例(肝・胆・脾3). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

(12) ミニシンポジウム:

1) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 宮下正夫, 田尻 孝 (¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 食道癌手術侵襲後の炎症性メディエーターの変動と Gender difference. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.

(13) 教育企画:

1) 重原健吾, 田尻 孝: 当直医, さあどうする?. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.

(14) 合同シンポジウム:

1) 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 松本智司, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 神田知洋, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 大建中湯による肝切除後の腸管運動改善効果 X線不透過性マーカーを用いた客観的評価(2術後の腸管運動および腸管血流等に及ぼすTJ-100大建中湯の効果). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

(15) 若手ビデオ:

1) 石川義典, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 坂東功一, 水口義昭, 柿沼大輔, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 肝切除

における新しい助手の役割 肝切除100症例の経験から（若手外科医によるビデオセッション）. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .

(16) 主題:

- 1) 柿沼大輔, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 秋丸琥甫, 田尻 孝: 胃・食道静脈瘤破裂の急性期治療の標準化. 第1回静脈瘤治療標準化研究会, 2006 . 5 .

(17) 主題演題:

- 1) 近藤恭司¹⁾, 前島顕太郎¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 小峯 修¹⁾, 千原直人¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 塩谷 猛¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 徳永昭¹⁾, 藤田逸郎, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 内視鏡所見, 胆汁逆流測定および24時間pHモニタリングによる胃切除後GERDの検討 (胃病態機能からみた新しいGERD治療戦略). 第38回胃病態機能研究会, 2006 . 7 .

(18) 生涯忘れ得ないこの1例:

- 1) 塩田吉宣¹⁾, 佐久間隆¹⁾, 長谷川博一¹⁾, 堀 雅晴¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 塩田病院外科): SLE に合併した孤立性内腸骨動脈瘤破裂の1治療例 (6 小児・他). 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .
- 2) 小野澤志郎¹⁾, 田島廣之¹⁾, 村田 智¹⁾, 福永 毅¹⁾, 中澤 賢¹⁾, 佐藤英尊¹⁾, 田尻 孝, 久志本成樹²⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾ 放射線医学, ²⁾ 救急医学): NBCA にて止血しえた外傷性肝損傷IIIbの1例 (4 肝・胆・膵). 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .

(19) 要望演題:

- 1) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 柳健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 江上 格¹⁾, 内田英二, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 当施設における膵腸吻合の縫合不全に対する予防と対策 経肝的膵管外瘻の利点と欠点を中心に (膵消化管吻合合併症 2). 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 2006 . 5 .
- 2) 相本隆幸, 内田英二, 中村慶春, 勝野 暁, 張 一光, 川本聖郎, 田尻 孝: 空腔腸縫合不全 (soft pancreas 症例) の治療における J-VAC ドレーンの有用性 (膵消化管吻合合併症 1). 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 2006 . 5 .
- 3) 奥田武志, 藤田逸郎, 水谷 崇, 木山輝郎, 加藤俊二, 吉行俊郎, 田尻 孝: 再発GISTの治療戦略 (GIST の治療戦略). 第15回日本癌病態治療研究会, 2006 . 6 .
- 4) 横山 正¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 柳健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 長期継続と高い認容性の得られる通院化学療法を目指して (Tumor dormancy からみた治療戦略). 第15回日本癌病態治療研究会, 2006 . 6 .
- 5) 小泉岐博¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 進士誠一¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 千葉北総病院外科): 左側大腸癌イレウスに対する術前腸管減圧法の検討 (イレウス). 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .
- 6) 加藤俊二, 藤田逸郎, 奥田武志, 菅野仁士, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院消化器病センター): 癌性腹膜炎再発が予想される進行胃癌の集学的治療; アジュバントから再発の緩和手術およびPTEGの併用 (腹膜播種に対する治療). 第79回日本胃癌学会総会, 2007 . 3 .

[多摩永山病院外科 (消化器外科・乳腺外科・一般外科)]

研究概要

「研究体制とその現状」

研究目的：臨床上の疑問点をテーマとし臨床研究で得られた結果をフィードバックさせ、治療成績の向上を目指す。
研究体制：消化器系臓器別に上部消化管，下部消化管，肝・胆・膵の3領域における病態生理，臨床病理的研究を行う体制をとっている。研究課題は，癌に関連するものが多い。手術手技，腹腔鏡下手術など外科特有のものもある。
研究者は，自分の診療における専門領域に関する研究課題を見出しテーマとしている。

研究材料，方法：診療業務から得た臨床データ，血液，組織，臓器等を材料としている。病理組織学的方法を用いる場合には，当院病理部との共同研究となる。分子生物学的方法を用いる場合は，武蔵小杉病院・老人病研究所の協力，文部科学省，厚生労働省の科学研究補助金による研究，多施設共同研究，日本がん臨床試験推進機構主導の臨床試験にも参画している。

研究結果の公表：各医学会地方会，総会，多摩地域の研究会で発表する。あるいは，原著，症例報告，著書等に論文として公表する。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Zheng R, Pan G, Thobe BM, Choudhry MA, Matsutani T, Samy TSA, Kang S-C, Bland KI, Chaudry IH : MyD88 and Src are differentially regulated in Kupffer cells of males and proestrus females following hypoxia . Mol Med 2006 ; 12 : 65-73 .
- 2) Matsutani T, Kang SC, Miyashita M, Sasajima K, Choudhry MA, Bland KI, Chaudry IH : Young and middle age associated differences in lung inflammatory response following bone fracture, tissue trauma and hemorrhage . Am J Surg 2007 ; 193 : 61-68 .
- 3) 松谷 毅，江上 格，笹島耕二，鈴木成治，丸山 弘，宮本昌之，横山 正，田尻 孝：切除不能肝・大動脈周囲リンパ節転移を伴った大腸癌に対し TS-1/CPT-11 併用療法が有効であった1例。癌と化学療法 2006 ; 33 (9) : 1337-1340 .
- 4) 松谷 毅，笹島耕二，丸山 弘，松田明久，宮本昌之，横山 正，鈴木成治，柏原 元，宮下正夫¹⁾，田尻 孝¹⁾，Chaudry IH (¹⁾ 外科学第1) : マウス外傷出血モデルの組織内炎症反応と年齢差の関係。日本 Shock 学会雑誌 2006 ; 21 (2) : 61-66 .
- 5) 宮本昌之，江上 格，笹島耕二，渡邊秀裕，横山 正，鈴木成治，丸山 弘，長澤重直，松谷 毅，二見良平，川野陽一，増田剛太郎，富樫章祥，勝田美和子：腹腔鏡下総胆管切石術 (Lap. CBDE) における手技上の進歩とその意義。多摩消化器シンポジウム誌 2006 ; 20 : 22-25 .
- 6) Matsutani T, Kang SC, Miyashita M, Sasajima K, Choudhry MA, Bland KI, Chaudry IH : Liver cytokine production and intercellular adhesion molecule-1 expression following bone fracture, tissue trauma and hemorrhage in middle aged mice . Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2007 ; 292 : 268-274 .

(2) 症例報告：

- 1) Matsuda A, Miyashita M, Sasajima K, Nomura T, Makino H, Matsutani T, Katsuno A, Sasaki J, Tajiri T : Boerhaave syndrome treated conservatively following early endoscopic diagnosis . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 341-345 .

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 松田明久, 柏原 元, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 食道癌手術侵襲後の炎症性メディエータの変動とGender difference. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 2) 健, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 渡邊秀裕, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 土屋喜一, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 小田昌子¹⁾, 市川由紀子¹⁾, 氏家宏美¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院看護部, ²⁾外科学第1): 当院における腹腔鏡下胆嚢摘出術に対するクリニカルパスの評価と問題点. 第26回多摩消化器シンポジウム, 2007. 2.
- 3) 鈴木成治: mFOLFOX6法による進行再発: 切除不能大腸癌症例に対する全身化学療法: がん診療連携拠点病院としての取り組み. 多摩エルプラットシンポジウム, 2007. 2.

(2) 一般講演:

- 1) Matsutani T, Miyashita M¹⁾, Sasajima K, Maruyama H, Miyamoto T, Yokoyama T, Suzuki S, Matsuda A, Kashiwabara M, Takeda S²⁾, Terajima K²⁾, Sakamoto A²⁾, Tajiri T¹⁾(¹⁾Dept. Surgery, for Organ Function and Biological Regulation, ²⁾Anesthesiology, Nippon Medical School Hospital): Gender difference in circulating cytokine levels following major surgery. 29th Annual conference on shock (Colorado), 2006. 6.
- 2) Miyamoto M, Sasajima K, Mizutani T, Yokoyama T, Maruyama H, Matsutani T, Yanagi K, Mtsuda A, Kashiwabara M, Nishi Y, Tajiri T¹⁾(¹⁾First Dept. of Surgery, Nippon Medical School): An efficacy of laparoscopic radiofrequency ablation from the point of view of prevention from the recurrence. The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2006 (Seoul), 2006. 10.
- 3) Matsutani T, Sasajima K, Miyamoto M, Yokoyama T, Mizutani T, Maruyama H, Suzuki S, Yanagi K, Matsuda A, Kashiwabara M, Tajiri T¹⁾(¹⁾First Dept. of Surgery, Nippon Medical School): Laparoscopic treatment of patients with symptomatic multiple cysts and cholecystolithiasis: Report of four cases. The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2006 (Seoul), 2006. 10.
- 4) Yokoyama T, Sasajima K, Miyamoto M, Matsutani T, Yanagi K, Aimoto T¹⁾, Uchida E¹⁾, Tajiri T¹⁾(¹⁾Dept. Surgery, for Organ Function and Biological Regulation): A trial of gemcitabine (GEM) and capecitabine (CAP) combination chemotherapy (GEM/CAP) for unresectable advanced pancreatic cancer in our institution. First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association (Fukuoka), 2007. 3.
- 5) 渡邊秀裕, 江上 格¹⁾, 笹島耕二, 宮本昌之, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 長澤重直, 松谷 毅, 田尻 孝²⁾(¹⁾鶴巻温泉病院, ²⁾日本医科大学外科学第1): 年齢による胃癌治療成績. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 6) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 石塚朋樹, 富樫章祥, 松久威史¹⁾, 松田 健, 水谷 崇, 津久井拓¹⁾, 細根 勝²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾同病理部, ³⁾外科学第1): 分子標的療法を導入した切除不能・術後再発GIST・EGIST症例とMAGE-A family蛋白発現の関連について. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 7) 横山 正, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 石塚朋樹, 健, 富樫晃祥, 松田明久, 江上 格, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾臓器病態制御外科学): 当施設における膵腸吻合の縫合不全に対する予防と対策: 経肝膵管外瘻の利点と欠点を中心に. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 2006. 5.
- 8) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 二見良平, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 勝田美和子, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 当科における総胆管結石症に対する治療戦略(総胆管結石). 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 2006. 5.

- 9) 宮本昌之, 江上 格, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 長澤重直, 石塚朋樹, 二見良平, 増田剛太郎, 富樫晃祥, 勝田美和子, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 肝癌ラジオ波凝固療法 (RFA) 各アプローチ間における再発形式の比較検討. 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 2006. 5.
- 10) 松田 健, 水谷 崇, 柏原 元, 富樫晃祥, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 木村 祐¹⁾, 林 良紀¹⁾, 江上 格, 笹島耕二, 田尻 孝²⁾, 坂本長逸³⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾外科学第1, ³⁾内科学第3): 潰瘍性大腸炎に対する顆粒球吸着除去療法の検討. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 11) 健, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 石塚朋樹, 富樫晃祥, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 吉安正行¹⁾, 吉村和泰¹⁾, 坂東功一¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾博慈会記念総合病院, ²⁾日本医科大学臓器病態制御外科学): 入院加療中に肛門外脱出をきたしたS状結腸癌の1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 12) 西 佳史, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 渡邊秀裕, 水谷 崇, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 石塚朋樹, 健, 富樫晃祥, 松田明久, 柏原 元, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 胆管細胞癌切除標本内に日本住血吸虫症の虫卵を認めた1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 5.
- 13) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 松田明久, 柏原 元, 宮下正夫¹⁾, 田尻孝¹⁾(¹⁾臓器病態制御外科学): 卵巣摘出術後マウスを用いたTrauma-Hemorrhage後の組織中サイトカイン値と年齢差の関係. 第21回日本Shock学会総会, 2006. 5.
- 14) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 松田 健, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 細根 勝²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾同病理部, ³⁾外科学第1): アポトーシス関連蛋白発現及びMIB-1 index からみた胃原発 Diffuse large B cell lymphomaの診断・治療に関する検討. 第15回日本癌病態治療研究会, 2006. 6.
- 15) 渡邊秀裕, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 大腸癌イレウスの治療 (術前減圧法の評価). 第31回日本外科系連合学会学術集会, 2006. 6.
- 16) 横山 正, 笹島耕二, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 松谷 毅, 石塚朋樹, 健, 富樫晃祥, 松田明久, 柏原 元, 相本隆幸¹⁾, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾臓器病態制御外科学): 進行膵癌におけるゲムシタピン (GEM) /カペシタピン (CAP) 併用療法の検討. 第37回日本膵臓学会大会, 2006. 6.
- 17) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 二見良平, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 粘膜下腫瘍様の発育を示した食道未分化癌の1例. 第60回日本食道学会学術集会, 2006. 6.
- 18) 横山 正, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 松谷 毅, 石塚朋樹, 健, 富樫晃祥, 松田明久, 柏原 元, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 長期継続と高い認容性の得られる通院化学療法を目指して (Tumordormancyからみた治療戦略). 第15回日本癌病態治療研究会, 2006. 6.
- 19) 横山 正, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 石塚朋樹, 古川清憲¹⁾, 田尻孝¹⁾(¹⁾臓器病態制御外科学): StageIII 乳癌術後のびまん性肝移転に対しDocetaxel動注/Capecitabine+MPA併用が劇的に奏功している1例. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 20) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 石塚朋樹, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 肝癌ラジオ波凝固療法 (RFA) における再発症例の検討: 転移性肝癌を中心に. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 21) 横山 正, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 健, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 長期経過から得られた若年女性3症例からみたStageIV スキルス胃癌の治療戦略の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 22) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 松谷 毅, 津久井拓¹⁾, 田尻孝²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾外科学第1): 外来通院にてmFORFOX6療法を施行せた進行・再発大腸癌症例の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.

- 23) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 松田 健, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 細根 勝²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾同病理部, ³⁾外科学第1): 胃癌肝転移症例における MAGE-A family 蛋白発現の検討. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 24) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 健, 松田明久, 柏原 元, 二見良平, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 進行・再発食道癌に対する second-line としての Docetaxel+5-FU+CDDP 併用療法の検討. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 25) 西 佳史, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 松田 健, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 健, 松田明久: 十二指腸水平脚に穿孔をきたした小腸異物(磁石)の1例. 第73回城西外科研研究会プログラム, 2006. 9.
- 26) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 松田明久, 柏原 元, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾外科学第1): mFOLFOX6法から他Regimenに移行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 27) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 鈴木成治, 宮本昌之, 横山 正, 石塚朋樹, 健, 富樫晃祥, 松田明久, 柏原 元, 水谷 崇, 渡邊秀裕, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 潰瘍性大腸炎に合併した再発直腸癌に対し mFOLFOX6療法が奏功した1例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 28) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 松田 健, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 松谷 毅, 健, 松田明久, 柏原 元, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾外科学第1): mFOLFOX6法を導入した進行・再発大腸癌肝転移症例の検討. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 29) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 石塚朋樹, 健, 富樫晃祥, 松田明久, 柏原 元, 渡邊秀裕, 宮下正夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 卵巣摘出後を施行した雌マウスで Trauma-Hemorrhage後のサイトカインと年齢・性ホルモンの関係. 日本臨床外科学会, 2006. 11.
- 30) 松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 石塚朋樹, 健, 富樫晃祥, 松田明久, 柏原 元, 二見良平, 渡邊秀裕, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 進行・再発食道癌に対する Docetaxel + 5-FU + CDDP 併用療法の検討. 日本臨床外科学会, 2006. 11.
- 31) 松田明久, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 松田 健, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 丸山 弘, 松谷 毅, 石塚朋樹, 健, 富樫晃祥, 柏原 元, 田尻 孝¹⁾(¹⁾臓器病態制御外科学): 術前診断し腹腔鏡補助下に切除しえた多発回腸脂肪腫による腸重積症の1例. 日本臨床外科学会, 2006. 11.
- 32) 渡邊秀裕, 笹島耕二, 松田 健, 宮本昌之, 水谷 崇, 鈴木成治, 横山 正, 丸山 弘, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 定型手術が標準とされる T2T3胃癌症例の検討. 日本臨床外科学会, 2006. 11.
- 33) 鈴木成治, 笹島耕二, 丸山 弘, 渡邊秀裕, 松田 健, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 松谷 毅, 健, 松田明久, 柏原 元, 津久井拓¹⁾, 松久威史¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科, ²⁾外科学第1): mFOLFOX6法による外来通院化学療法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討. 日本臨床外科学会, 2006. 11.
- 34) 柏原 元, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 松田 健, 宮本昌之, 水谷 崇, 鈴木成治, 丸山 弘, 横山 正, 松谷 毅, 石塚朋樹, 健, 松田明久, 西 佳史, 田尻 孝¹⁾(¹⁾臓器病態制御外科学): 左鼠径ヘルニア嵌頓にて緊急手術を施行した成人Cornelia de Lange症候群の1例. 日本臨床外科学会, 2006. 11.
- 35) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 松田 健, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 健, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 高度胆嚢炎合併症例に対する腹腔鏡下胆嚢摘出後の手技上の工夫. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 2006. 12.
- 36) 横山 正, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 健, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 田尻 孝¹⁾(¹⁾臓器病態制御外科学): Trastuzumab 中心の化療後に腹腔鏡下肝切除術およびRFAでdisease freeとなった乳癌肝転移の1例. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 2006. 12.
- 37) 松谷 毅, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 土屋喜一, 健, 松田明久, 柏原 元,

水谷 崇, 渡邊秀裕, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 有症状の巨大肝嚢胞と胆嚢結石に対し腹腔鏡手術を施行した4例の検討. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 2006. 12.

- 38) 新井洋紀, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 健, 渡邊秀裕, 水谷 崇, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 柏原 元, 松田明久, 西 佳史, 内田英二¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 超高齢者男性の腓体尾部粘液産性嚢胞腺癌(MCC)の1切除例. 第293回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 2.
- 39) 柏原 元, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 健, 松田明久, 西 佳史: 貧血を契起に発見された黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第74回城西外科研究会, 2007. 2.
- 40) 松谷 毅, 笹島耕二, 鈴木成治, 水谷 崇, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 横山 正, 丸山 弘, 土屋喜一, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): Tailored TS-I+CPT-11併用療法にて肝転移・腹膜播種がCRとなったStageIV胃癌の1例. 第79回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 41) 鈴木成治, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 松谷 毅, 飯田信也¹⁾, 佐藤雄一¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾北里大学医療衛生学部遺伝子検査学, ²⁾日本医科大学外科学第1): 胃癌組織におけるMAGE-A10 mRNA・蛋白発現の検討とその臨床応用について. 第79回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 42) 宮本昌之, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 松田 健, 水谷 崇, 横山 正, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 健, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 当科における急性胆のう炎症例に対する鏡視下手術の適応とその手術手技. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 43) 西 佳史, 笹島耕二, 宮本昌之, 丸山 弘, 水谷 崇, 横山 正, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 健, 松田明久, 柏原 元, 渡邊秀裕, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 複数個の磁石による腸管多発穿孔の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 44) 柏原 元, 笹島耕二, 宮本昌之, 横山 正, 水谷 崇, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 健, 松田明久, 西 佳史, 渡邊秀裕, 前田昭太郎¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾外科学第1): 高度貧血で発症した黄色肉芽腫性胆嚢炎の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.

(3) 研究会:

- 1) 横山 正, 笹島耕二, 渡邊秀裕, 宮本昌之, 水谷 崇, 丸山 弘, 鈴木成治, 松谷 毅, 土屋喜一, 健, 松田明久, 柏原 元, 西 佳史: 当施設における膵腸吻合の工夫: 縫合不全対策としての経肝的膵管外瘻の利点と欠点を中心に. 第7回多摩消化器手術手技研究会, 2007. 3.

[千葉北総病院外科]

研究概要

消化器外科および一般外科領域における, 基礎的ならびに臨床的研究を行い, その成果を学会および学会誌等で報告している. 開院以来, 外来・入院患者数の増加とともに年間手術件数も増加し, 地域における基幹病院としての役割を果たしている. 院内においては内科, 放射線科, 病理との合同カンファランスを行い, 診断・外科的治療の質の向上を図っている.

1. 進行食道癌, 胃癌, 大腸癌をはじめとする消化器癌に対する外科的治療とともに化学療法による集学的治療を行い, 患者の延命とQOLの向上を図り良好な成績を得ている.
2. 消化器疾患に対する内視鏡的治療, とくに早期胃癌, 早期大腸癌に対するEMR, 胆道疾患に対する内視鏡的治療, 閉塞性黄疸あるいは癌再発に伴う消化管狭窄に対する内視鏡的ステント挿入等, 内視鏡的治療を行っている.
3. 腹腔鏡下手術については胆嚢摘出術のみならず, 早期胃癌, 早期大腸癌, また進行癌にも適応拡大し, 手技の改良とともに低侵襲手術の導入を積極的に行っている.
4. 乳癌症例の増加に伴い手術例数の増加, 適応に準じた縮小手術の積極的な導入, 進行乳癌に対する化学内分泌療

法により乳癌患者のQOLの向上に努めている。

5. 消化器癌を中心として病理学的・分子生物学的手法を用いた癌の生物学的特性に関する研究を行い，国際学会をはじめとした学会発表とともに内外の学会誌，専門誌へ発表している。

研究業績

論文

〔2005年度追加分〕

原著：

- 1) Shinji S, Tajiri T¹⁾, Ishiwata T²⁾, Seya T, Tanaka N, Naito Z²⁾ (¹⁾Dept. of SurgeryI, ²⁾Dept. of PathologyII): Different expression levels of lumican in human carcinoid tumor and neuroendocrine cell carcinoma. International Journal of Oncology 2005 ; 26 (4): 873-880 .
- 2) Fujimori S¹⁾, Kishida T¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Sekita Y¹⁾, Seo T¹⁾, Nagata K¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Gudis K¹⁾, Yokoi K, Tanaka N, Yamashita K²⁾, Tajiri T²⁾, Ohaki Y³⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾Third Dept. of Internal Medicine, ²⁾Dept. of SurgeryI, ³⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital): *Helicobacter Pylori* infection increases the risk of colorectal adenoma and adenocarcinoma, especially in women. Journal of Gastroenterology 2005 ; 40 (9): 887-893 .
- 3) Shinji S, Naito Z¹⁾, Ishiwata S²⁾, Ishiwata T¹⁾, Tanaka N, Furukawa K³⁾, Suzuki H³⁾, Seya T, Matsuda A³⁾, Katsuta M, Tajiri T³⁾ (¹⁾Dept. of Integrative Pathology, ²⁾Faculty of Pharmaceutical Sciences, Kinki Univ., ³⁾Dept. of SurgeryI): Ubiquitin-specific protease 14 expression in colorectal cancer is associated with liver and lymph node metastases. Oncology Reports 2006 ; 15 (3): 539-543 .

(1) 原著：

- 1) Shinji S, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Tanaka N, Furukawa K²⁾, Suzuki H²⁾, Seya T, Kan H²⁾, Tsuruta H²⁾, Matsumoto S²⁾, Matsuda A²⁾, Teranishi N²⁾, Ohaki Y³⁾, Tajiri T²⁾ (¹⁾Dept. of PathologyII, ²⁾Dept. of SurgeryI, ³⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital): Neuroendocrine cell differentiation of poorly differentiated colorectal adenocarcinoma correlates with liver metastasis. International Journal of Oncology 2006 ; 29 (2): 357-364 .
- 2) Guo H¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Shinji S, Fujimori S¹⁾, Tanaka S¹⁾, Gudis K¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Furukawa K³⁾, Tajiri T³⁾, Fukuda Y⁴⁾, Kishida T¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾Third Dept. of Internal Medicine, ²⁾Division of Surgical Pathology, ³⁾Dept. of SurgeryI, ⁴⁾Dept. of Pathology): Cyclooxygenase-2 Expression Correlates With Membrane-Type-1 Matrix Metalloproteinase Expression in Colorectal Cancer Tissue. Diseases of the Colon & Rectum 2006 ; 49 (8): 1184-1192 .
- 3) Miyashita M¹⁾, Makino H¹⁾, Katsuta M, Nomura T¹⁾, Shinji S, Kashiwabara M¹⁾, Takahashi K¹⁾, Kudo M²⁾, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T¹⁾ (¹⁾Dept. of SurgeryI, ²⁾Dept. of PathologyII): Cyclo-oxygenase-2 Over-expression Is Associated with Human Esophageal Squamous Cell Carcinoma. J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6): 308-313 .
- 4) Tatsuguchi A¹⁾, Kishida T¹⁾, Fujimori S¹⁾, Tanaka S¹⁾, Gudis K¹⁾, Shinji S, Furukawa K²⁾, Tajiri T²⁾, Sugisaki Y³⁾, Fukuda Y⁴⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾Third Dept. of Internal Medicine, ²⁾Dept. of SurgeryI, ³⁾Division of Surgical Pathology, ⁴⁾Dept. of Pathology): Differential expression of cyclo-oxygenase-2 and nuclear β -catenin in colorectal cancer tissue. Alimentary Pharmacology & Therapeutics 2006 ; 24 (s4): 153-159 .

- 5) Seya T, Tanaka N, Shinji S, Yokoi K, Koizumi M, Teranishi N¹⁾, Yamashita K¹⁾, Tajiri T¹⁾, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾(¹⁾Dept. of SurgeryI, (²⁾Dept. of PathologyII): Lumican expression in advanced colorectal cancer with nodal metastasis correlates with poor prognosis. *Oncology Reports* 2006; 16 (6): 1225-1230.
- 6) Shinji S, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Tanaka N, Furukawa K²⁾, Suzuki H²⁾, Kan H²⁾, Tsuruta H²⁾, Matsumoto S²⁾, Matsuda A²⁾, Teranishi N²⁾, Tajiri T²⁾(¹⁾Dept. of PathologyII, (²⁾Dept. of SurgeryI): Clinical and Biological Significance of Lymph Node Micrometastasis in Colorectal Cancer. *J Nippon Med Sch* 2007; 74 (1): 77-80.
- 7) Shinji S, Naito Z¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Nakazawa N¹⁾, Tanaka N, Yokoi K, Seya T, Kanazawa Y, Yamada T, Takahashi Y, Koizumi M, Teranishi N²⁾, Ohaki Y³⁾, Tajiri T²⁾(¹⁾Dept. of PathologyII, (²⁾Dept. of SurgeryI, (³⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital): Pathological and Biomolecular Analyses of Colorectal Endocrine Carcinoma. *J Nippon Med Sch* 2007; 74 (1): 87-88.
- 8) Teranishi N¹⁾, Naito Z²⁾, Ishiwata T²⁾, Tanaka N, Furukawa K¹⁾, Seya T, Shinji S, Tajiri T¹⁾(¹⁾Dept. of SurgeryI, (²⁾Dept. of PathologyII): Identification of neovasculature using nestin in colorectal cancer. *International Journal of oncology* 2007; 30 (3): 593-603.
- 9) 松田明久¹⁾, 古川清憲¹⁾, 高崎秀明¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 進士誠一, 田尻孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): stageIV大腸癌における予後因子の臨床病理学的検討. *日本消化器外科学会雑誌* 2006; 39 (5): 529-535.
- 10) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 白川 毅, 大川敬一, 小泉岐博, 大秋美治¹⁾, 山下精彦²⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, (²⁾大学院臓器病態制御外科学): 大腸癌における Orotate Phosphoribosyl Transferase (OPRT), Dihydropyrimidine Dehydrogenase (DPD), Thymidylate Synthase (TS) 活性と臨床病理学検討. *癌と化学療法* 2006; 33 (6): 789-793.
- 11) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 大川敬一, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 進士誠一, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 5-FU関連酵素 OPRT, DPD, TS活性を用いた5-FUの効果予測: CD-DSTによる検討. *癌と化学療法* 2006; 33 (11): 1603-1609.
- (2) 綜説:
- 1) 横井公良, 田中宣威, 石川紀行, 瀬谷知子, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, (²⁾大学院臓器病態制御外科学): Gastrointestinal Stromal Tumor (GIST) の概念の変遷. *日医大医学会誌* 2006; 2 (4): 186-191.
- (3) 症例報告:
- 1) Matsuda A¹⁾, Furukawa K¹⁾, Takasaki H¹⁾, Suzuki H¹⁾, Kan H¹⁾, Tsuruta H¹⁾, Shinji S, Tajiri T¹⁾(¹⁾Dept. of SurgeryI): Preoperative Oral Immune-Enhancing Nutritional Supplementation Corrects Th1/Th2 Imbalance in Patients Undergoing Elective Surgery for Colorectal Cancer. *Diseases of the Colon & Rectum* 2006; 49 (4): 507-516.
- 2) Asano T¹⁾, Seya T, Tanaka N, Ohaki Y²⁾, Fujino O¹⁾(¹⁾Dept. of Pediatrics, Chiba Hokusoh Hospital, (²⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital): A 13-year-old girl with a Preoperatively Diagnosed Solid Cystic Tumor of the Pancreas. *J Nippon Med Sch* 2006; 73 (4): 231-234.
- 3) 白川 毅, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 山田岳史, 金沢義一, 大川敬一, 吉岡正人, 大秋美治¹⁾, 徳永 昭²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, (²⁾武蔵小杉病院消化器病センター, (³⁾大学院臓器病態制御外科学): 経口摂取不能のため腸瘻造設後に TS-1/CDDP投与を行い根治切除が可能となった高度進行胃癌の1例. *癌と化学療法* 2006; 33 (6): 811-815.

- 4) 高橋由至¹⁾, 田中宣威, 瀬谷知子, 寺田淑恵¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾北村山公立病院外科, ²⁾日本医科大学大学院臓器病態制御外科学): 外陰部に拡がった肛門周囲Paget病の1例. 日本臨床外科学会雑誌 2007; 68(1): 151-155.

学会発表

(1) ワークショップ:

- 1) 高橋 健¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 柏原 元¹⁾, 勝田美和子, 赤城一郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 食道扁平上皮癌における Akt, Mdm2 の発現 (食道癌の分子機構). 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006. 9.
- 2) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 勝田美和子, 内藤善哉²⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学, ²⁾病理学第2): 食道扁平上皮癌の発癌における Von Hippel Lindau (VHL) 遺伝子蛋白と hypoxia inducible factor (HIF) 1- 遺伝子蛋白の発現 (消化器癌の進展とバイオマーカー). 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006. 9.

(2) サージカルフォーラム:

- 1) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 大川敬一, 堀場光二, 勝田美和子, 田中宣威(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 副作用が少なく, 効果的な neoadjuvant CRT と今後の展望 (当科における食道癌集学的治療の戦略)(食道癌治療3). 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.

(3) 一般講演:

- 1) Tanaka N, Seya T, Shinji S, Yokoi K, Ishikawa N, Horiba K, Kanazawa Y, Yamada T, Koizumi M, Yamashita K, Ohaki Y¹⁾, Tajiri T²⁾(¹⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Dept. of Surgery): Recurrence Risk Factor after Curative Surgery for Advanced Rectal Cancer (PT3 Cases). 14th United European Gastroenterology Week (Berlin Germany), 2006. 10.
- 2) Seya T, Tanaka N, Yokoi K, Ishikawa N, Horiba K, Kanazawa Y, Yamada T, Koizumi M, Shinji S, Katsuta M, Yamashita K, Ohaki Y¹⁾, Tajiri T²⁾(¹⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Dept. of Surgery): Reduced Expression of Type IV Collagen in Colorectal Cancer Correlates with its Liver Metastasis Compared with Emmpin and Matrix Metalloproteinase-9 Expression. 14th United European Gastroenterology Week (Berlin Germany), 2006. 10.
- 3) Horiba K, Tanaka N, Seya T, Shinji S, Ohaki Y¹⁾, Yamashita K, Tajiri T²⁾(¹⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Dept. of Surgery): Matrix Metalloproteinases (MMP-2, MMP-9) and Their Tissue Inhibitors (TIMP-1, TIMP-2) in the Patients with Crohn's Disease. 14th United European Gastroenterology Week (Berlin Germany), 2006. 10.
- 4) Shinji S, Tanaka N, Seya T, Yokoi K, Ishikawa N, Horiba K, Kanazawa Y, Yamada T, Shirakawa T, Ohkawa K, Kudo H, Koizumi M, Yoshioka M, Katsuta M, Teranishi N¹⁾, Yamashita K¹⁾, Ohaki Y²⁾, Ishiwata T, Naito Z³⁾, Tajiri T¹⁾(¹⁾Dept. of Surgery, ²⁾Dept. of Pathology, Chiba Hokusoh Hospital, ³⁾Dept. of PathologyII): Neuroendocrine Cell Differentiation of Poorly Differentiated Colorectal Adenocarcinoma Correlates with Liver Metastasis. 14th United European Gastroenterology Week (Berlin Germany), 2006. 10.
- 5) Katsuta M, Miyashita M¹⁾, Makino H¹⁾, Nomura T¹⁾, Shinji S, Yamashita K¹⁾, Ohkawa K, Seya T, Tanaka N, Ishiwata T²⁾, Naito Z²⁾, Tajiri T¹⁾(¹⁾Dept. of Surgery, ²⁾Dept. of PathologyII): Correlation of Hypoxia Inducible Factor-1alpha with Lymphatic Metastasis via Vascular Endothelial Growth Factor-C in Human Esophageal Cancer. 14th United European Gastroenterology Week (Berlin Germany), 2006. 10.
- 6) 工藤秀徳, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 大川敬一, 山田岳史, 白川 毅, 金子昌裕, 吉岡正人, 小泉岐博, 進士誠一, 勝田美和子, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 上行結腸腺扁平上皮癌

- の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 7) 堀場光二，田中宣威，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，金沢義一，山田岳史，白川 毅，大川敬一，金子昌裕，工藤秀徳，吉岡正人，小泉岐博，進士誠一，勝田美和子，田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 十二指腸ポリープ癌の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
 - 8) 勝部乙大，金沢義一，吉岡正人，瀬谷知子，横井公良，横山真也¹⁾，畑 典武¹⁾，琴寄 誠²⁾，岸田輝幸²⁾，水野杏一²⁾，山下精彦，田中宣威，田尻 孝³⁾(¹⁾千葉北総病院集中治療室，²⁾同内科，³⁾外科学第1): アメーバ性肝膿腫に合併した脳膿瘍の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
 - 9) 宮本昌之¹⁾，江上 格¹⁾，笹島耕二¹⁾，渡邊秀裕¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，鈴木成治¹⁾，丸山 弘¹⁾，松谷毅¹⁾，長澤重直¹⁾，石塚朋樹¹⁾，二見良平¹⁾，増田剛太郎¹⁾，富樫晃祥¹⁾，勝田美和子，田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科，²⁾大学院臓器病態制御外科学): 肝癌ラジオ波凝固療法(RFA)各アプローチ間における再発形式の比較検討．第18回日本肝胆膵外科関連会議，2006．5．
 - 10) 高橋 健¹⁾，宮下正夫¹⁾，牧野浩司¹⁾，野村 務¹⁾，萩原信敏¹⁾，柏原 元¹⁾，勝田美和子，赤城一郎¹⁾，田尻孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 食道癌術後再発の指標としてのp53血清抗体，SCC，CEAの検討．第60回日本食道学会学術集会，2006．6．
 - 11) 萩原信敏¹⁾，宮下正夫¹⁾，笹島耕二¹⁾，野村 務¹⁾，牧野浩司¹⁾，松谷 毅¹⁾，二見良平¹⁾，柏原 元¹⁾，勝田美和子，高橋 健¹⁾，赤城一郎¹⁾，山下精彦¹⁾，田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): いわゆる食道癌肉腫の1例．第60回日本食道学会学術集会，2006．6．
 - 12) 牧野浩司¹⁾，宮下正夫¹⁾，野村 務¹⁾，萩原信敏¹⁾，高橋 健¹⁾，赤城一郎¹⁾，柏原 元²⁾，勝田美和子，二見良平¹⁾，山下精彦¹⁾，田尻 孝¹⁾，丸山 弘³⁾，笹島耕二³⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学，²⁾多摩永山病院消化器科，³⁾同消化器・一般・乳腺外科): 食道・胃接合部癌，腹部食道癌の至適術式とリンパ節郭清．第60回日本食道学会学術集会，2006．6．
 - 13) 進士恵美，田中宣威，瀬谷知子，横井公良，石川紀行，堀場光二，金沢義一，大川敬一，白川 毅，山田岳史，工藤秀徳，小泉岐博，吉岡正人，進士誠一，勝田美和子，大秋美治¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部): 胃カルチノイドの1例．第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2006．6．
 - 14) 山田岳史，田中宣威，益田律子¹⁾，三浦剛史²⁾，古山めぐみ³⁾，藤岡久恵³⁾，吉澤一巳⁴⁾，木本陶子⁴⁾(¹⁾千葉北総病院麻酔科，²⁾同泌尿器科，³⁾同看護部，⁴⁾同薬剤部): 緩和ケアにおける知識と意識：現状調査と現状分析をもとに実施した学習会の評価-疼痛アセスメントと薬物治療．第11回日本緩和医療学会総会，2006．6．
 - 15) 平田貴和子¹⁾，遠藤 操¹⁾，増淵美恵子¹⁾，古山めぐみ¹⁾，藤岡久恵¹⁾，益田律子²⁾，三浦剛史³⁾，山田岳史，吉澤一巳⁴⁾，木本陶子⁴⁾(¹⁾千葉北総病院看護部，²⁾同麻酔科，³⁾同泌尿器科，⁴⁾同薬剤部): チーム医療に必要なもの アンケート調査からの検討．第11回日本緩和医療学会総会，2006．6．
 - 16) 吉澤一巳¹⁾，木本陶子¹⁾，福田恵子¹⁾，古山めぐみ²⁾，藤岡久恵²⁾，山田岳史，三浦剛史³⁾，益田律子⁴⁾(¹⁾千葉北総病院薬剤部，²⁾同看護部，³⁾同泌尿器科，⁴⁾同麻酔科): Pain Management Team 活動報告(第4報): アンケート調査に基づくチーム活動の評価．第11回日本緩和医療学会総会，2006．6．
 - 17) 大川敬一，田中宣威，宮下正夫¹⁾，瀬谷知子，堀場光二，勝田美和子，野村 務¹⁾，牧野浩司¹⁾，山下精彦¹⁾，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 当科における食道扁平上皮癌に対するCDGP，5-FU併用術前放射線化学療法の治療成績．第61回日本消化器外科学会定期学術総会，2006．7．
 - 18) 山田岳史，田中宣威，横井公良，石川紀行，瀬谷知子，金沢義一，白川 毅，小泉岐博，山下精彦¹⁾，田尻孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 大腸癌におけるCPT-11，5FUの効果とTS活性の関係．第61回日本消化器外科学会定期学術総会，2006．7．
 - 19) 高橋 健¹⁾，宮下正夫¹⁾，牧野浩司¹⁾，野村 務¹⁾，萩原信敏¹⁾，柏原 元¹⁾，勝田美和子，赤城一郎¹⁾，田尻孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 食道扁平上皮癌における癌遺伝子Akt，Mdm2発現の検討．第61回日本消化器外科学会定期学術総会，2006．7．

- 20) 宮下正夫¹⁾, 勝田美和子, 高橋 健¹⁾, 牧野浩司¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, Poirier M. C²⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学, ²⁾Laboratory of Cellular Carcinogenesis and Tumor Promotion, n. c. i, u. s. a): 食道癌の polycyclic aromatic hydrocarbon-DNA adducts の半定量的免疫組織化学的検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 21) 鈴木英之¹⁾, 古川清憲¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 松田明久¹⁾, 進士誠一, 寺西宣央¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): ストーマ脱出に対する非開腹・皮膚切開を伴わない腸管切除法. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 22) 松田明久¹⁾, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 免疫学的パラメーターを用いた術後感染性合併症の発症予測. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 23) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 勝田美和子, 柏原 元²⁾, 高橋 健¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 内藤善哉³⁾, 赤城一郎¹⁾, 笹島耕二²⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学, ²⁾多摩永山病院外科, ³⁾病理学第2): 炎症に関連する下部食道癌における血管新生関連蛋白, 特に p53, VEGF 発現と消化器発癌. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 24) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 当科における下部直腸癌に対する術前化学放射線療法. 第65回大腸癌研究会, 2006. 7.
- 25) 住吉宏樹, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 山田岳史, 大川敬一, 金子昌裕, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小泉岐博, 進士誠一, 勝田美和子: 3回目の再発を来した小腸GISTの1例. 潰瘍病態研究会第15回フォーラム, 2006. 8.
- 26) 進士誠一, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 工藤秀徳, 小泉岐博, 大秋美治¹⁾, 山下精彦²⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾大学院臓器病態制御外科学): 小腸穿孔により汎発性腹膜炎を呈したクローン病の1例. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 27) 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 金沢義一, 山田岳史, 工藤秀徳, 小泉岐博, 進士誠一, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦¹⁾, 大秋美治²⁾(¹⁾外科学第1, ²⁾千葉北総病院病理部): 当科で経験した痔瘻癌の2例. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 28) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 金沢義一, 小泉岐博, 進士誠一, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科): 大腸癌における5FU/CPT-11併用療法: CD-DSTを用いた検討. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 29) 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 山田岳史, 工藤秀徳, 小泉岐博, 進士誠一, 山下精彦, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾外科学第1): 大腸sm癌における内視鏡的切除症例の再検討. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 30) 菅 隼人¹⁾, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 下部直腸癌に対する術前化学放射線療法の検討. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 31) 鈴木英之¹⁾, 古川清憲¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術選択基準. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 32) 寺西宣央¹⁾, 内藤善哉²⁾, 石渡俊行²⁾, 田中宣威, 古川清憲¹⁾, 鈴木英之¹⁾, 瀬谷知子, 進士誠一, 勝田美和子, 張 一光¹⁾, 川本聖郎¹⁾, 藤原ゆり²⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学, ²⁾病理学第2): 大腸癌組織における新生血管マーカーとしてのnestinの検討. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 33) 川本聖郎¹⁾, 石渡俊行²⁾, 内田英二¹⁾, 相本隆幸¹⁾, 中村慶春¹⁾, 勝野 暁¹⁾, 張 一光¹⁾, 進士誠一, 寺西宣

- 央¹⁾, 藤原ゆり²⁾, 内藤善哉²⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学,²⁾病理学第2): 膵癌における nestin の発現とその役割. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 34) 増田剛太郎¹⁾, 徳永 昭²⁾, 富樫晃祥¹⁾, 白川 毅, 木山輝郎¹⁾, 加藤俊二¹⁾, 松倉則夫¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 坊英樹²⁾, 渡辺昌則²⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学,²⁾武蔵小杉病院消化器病センター): 若年者胃癌: *Helicobacter Pylori*感染と関連しCYP2E1とは関連しない. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 35) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 大川敬一, 金子昌裕, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 山下精彦, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 5FU関連酵素OPRT, DPD, TSの大腸癌予後に与える影響. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 36) 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 山田岳史, 山下精彦, 進士誠一, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院病理部,²⁾外科学第1): 進行胃癌におけるDPD, TS発現と予後との関連. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 37) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 進士誠一, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): CD-DSTを用いた大腸癌に対する5FUの効果予測: 5FUは時間依存性が濃度依存性か?. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 38) 岡崎大武, 瀬谷知子, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 堀場光二, 金沢義一, 大川敬一, 白川 毅, 山田岳史, 小泉岐博, 吉岡正人, 工藤秀徳, 進士誠一, 勝田美和子, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝²⁾, 山下精彦(¹⁾千葉北総病院病理部,²⁾大学院臓器病態制御外科学): TS-1/CDDPによる化学療法にてCRを得た食道浸潤進行胃癌の1例. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 39) 武元浩新¹⁾, 近藤 建²⁾, 加藤健志³⁾, 片岡政人²⁾, 富永春海⁴⁾, 岩本慈能⁵⁾, 藤田秀人⁶⁾, 堤 莊一⁷⁾, 山田岳史, 三嶋秀行⁸⁾, 坂本純一⁹⁾(¹⁾市立堺病院外科,²⁾名古屋医療センター外科,³⁾箕面市立病院外科,⁴⁾呉医療センター外科,⁵⁾関西医科大学外科,⁶⁾金沢大学医学部消化器外科,⁷⁾群馬大学大学院病態総合外科学,⁸⁾大阪医療センター外科,⁹⁾京都大学大学院医学研究科): 転移性大腸癌に対するmFOLFOX6の多施設第II相臨床試験(SWIFT2). 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 40) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 白川 毅, 大川敬一, 金子昌裕, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小泉岐博, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 大腸癌におけるOPRT, DPD, TS活性と臨床病理学的検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 41) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 山下精彦¹⁾, 大川敬一, 堀場光二, 田中宣威(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): ケント・ブーメラン・リトラクターセットを用いた腹部・頸部鎖骨同時牽引下, 腹部操作と同時施行可能な頸部側からの食道癌の頸部・反回神経周囲リンパ節郭清. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 42) 牧野浩司¹⁾, 宮下正夫¹⁾, 野村 務¹⁾, 萩原信敏¹⁾, 高橋 健¹⁾, 赤城一郎¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 横島一彦²⁾, 中溝宗永²⁾, 笹島耕二³⁾, 大川敬一(¹⁾外科学第1,²⁾付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科,³⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科): 食道癌の縦隔鏡補助手術の適応. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 2006. 12.
- 43) 鈴木英之¹⁾, 古川清憲¹⁾, 菅 隼人¹⁾, 鶴田宏之¹⁾, 松本智司¹⁾, 秋谷行宏¹⁾, 進士誠一, 松田明久¹⁾, 寺西宣央¹⁾, 佐々木順平¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 進行大腸癌に対する腹腔鏡手術適応. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 2006. 12.
- 44) 山田岳史, 益田律子¹⁾, 三浦剛史²⁾, 古山 恵³⁾, 吉澤一巳⁴⁾, 木本陶子⁴⁾, 田中宣威(¹⁾千葉北総病院麻酔科,²⁾同泌尿器科,³⁾同看護部,⁴⁾同薬剤部): 胃癌終末期患者における予後予測. 第7回千葉緩和医療研究会, 2007. 2.
- 45) 岩本美樹, 田中宣威, 山田岳史, 益田律子¹⁾, 三浦剛史²⁾, 古山 恵³⁾, 吉澤一巳⁴⁾, 木本陶子⁴⁾(¹⁾千葉北総病院麻酔科,²⁾同泌尿器科,³⁾同看護部,⁴⁾同薬剤部): 緩和医療における研修医の知識. 第7回千葉緩和医療研究会, 2007. 2.

- 46) 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 白川 毅, 山田岳史, 大川敬一, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): stageIV胃癌におけるTSおよびDPDmRNA発現の検討. 第79回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 47) 山田岳史, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 金沢義一, 大川敬一, 白川 毅, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 胃癌に対するPaclitaxelの効果: 濃度依存性か時間依存性か?. 第79回日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 48) 横井公良, 田中宣威, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 大川敬一, 大秋美治¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾外科学第1): 成人男性に発症し, 下血にて発見された縦隔原発転移性小腸絨毛癌の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 49) 秋谷麻衣, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 金子昌裕, 小泉岐博, 田尻 孝¹⁾, 大秋美治²⁾(¹⁾外科学第1, ²⁾千葉北総病院病理部): 急性虫垂炎との鑑別が困難であった小児卵巣捻転の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 50) 松野邦彦, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小泉岐博, 進士誠一, 勝田美和子, 住吉宏樹, 岩本美樹: 大量下血にて発症した空腸悪性リンパ腫の1切除例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 51) 山田岳史, 堀場光二, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 癌性疼痛に対するオキシコンチン導入パスの有用性. 第5回日本臨床腫瘍学会学術集会, 2007. 3.
- (4) Freshman Award:
- 1) 岩本美樹, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 工藤秀徳, 吉岡正人, 小泉岐博, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 胃二重瘻に合併した迷入瘻の1切除例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 2) 勝部乙大, 金沢義一, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 山田岳史, 白川 毅, 大川敬一, 金子昌裕, 工藤秀徳, 大秋美治¹⁾, 山下精彦, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾外科学第1): 遺残虫垂炎を原因とする後腹膜血腫の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- (5) ビデオセッション:
- 1) 宮本昌之¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷毅¹⁾, 長澤重直¹⁾, 二見良平¹⁾, 増田剛太郎¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 勝田美和子, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器・一般・乳腺外科, ²⁾大学院臓器病態制御外科学): 当科における総胆管結石症に対する治療戦略(総胆管結石). 第18回日本肝胆膵外科関連会議, 2006. 5.
- (6) 指定講演(1):
- 1) 白川 毅, 田中宣威, 横井公良, 石川紀行, 瀬谷知子, 堀場光二, 金沢義一, 山田岳史, 大川敬一, 金子昌裕, 工藤秀徳, 小泉岐博, 吉岡正人, 進士誠一, 勝田美和子, 大秋美治¹⁾(¹⁾千葉北総病院病理部): 術前化学療法を行った高度進行胃癌症例の検討. 第24回千葉胃癌研究会, 2006. 5.
- (7) 要望演題:
- 1) 小泉岐博, 田中宣威, 横井公良, 瀬谷知子, 金沢義一, 山田岳史, 進士誠一, 田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院臓器病態制御外科学): 左側大腸癌イレウスに対する術前腸管減圧法の検討. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.

10. 外科学講座（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）

[付属病院第 2 外科（内分泌外科，心臓血管外科，呼吸器外科）・
千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科]

研究概要

外科学当講座は付属病院外科，武蔵小杉病院，武蔵小杉病院消化器病センター，千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科・多摩永山病院呼吸器外科の各施設において教育，研究，診療を担っている．

付属病院外科では，以下の項目を重点的に研究している．

- (1) 心臓血管外科部門では，冠動脈バイパス術・後天性弁膜疾患・先天性心疾患・胸部および腹部大動脈瘤・末梢血管疾患・不整脈等年間600例以上の手術を行っている．虚血性心疾患外科治療，心房細動を中心とした不整脈外科，心筋保護法，小児開心術術式等に関する研究を主体としている．胸部大動脈瘤手術成績や末梢血行再建術式に関する研究にも積極的に取り組んでいる．
- (2) 呼吸器外科領域では，肺癌外科治療を中心に年間約200例の手術を施行している．肺癌では1994年より低侵襲性手術である胸腔鏡補助手術を他に先駆けて導入し高齢者，低身体機能を有する予備力低下症例に応用し良好な結果をあげ，国内外で評価を受けている．併せて分子生物学，遺伝子解析による肺癌に対するオーダーメイド治療などの研究に国内外で従事している．さらに肺縦隔良性疾患，多汗症などの機能的疾患には胸腔鏡下手術による短期入院での治療を実施し，社会的に貢献している．
- (3) 内分泌外科領域では，甲状腺，副甲状腺，副腎および乳腺疾患を対象に年間200例以上の手術を行っている．1998年からは内視鏡下手術として，副腎はもとより甲状腺，副甲状腺腫瘍摘出術に新しい術式のVideo-assisted neck surgery（VANS法）を国内外で最も早く取り組み，高度先進医療として国から認められている．全国各地からの紹介患者も多く，また，海外からの評価も高く，国際学会での発表，ライブ手術も頻回に行っている．さらには，遺伝子学を中心に基礎研究も積極的に行っている．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Takashi U¹⁾, Akira M¹⁾, Kazuo S¹⁾, Chisato T¹⁾, Yuuki T¹⁾, Yasuhiro I¹⁾, Akihiro M¹⁾, Kaoru K¹⁾, Fumio M¹⁾, Nobuyuki A²⁾, Kanji K¹⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Kuma Hospital, ²⁾ Department of Internal Medicine, Kuma Hospital): A Prophylactic Infusion of Calcium Solution Reduces the Risk of Symptomatic Hypocalcemia in Patients after Total Thyroidectomy . World Journal of Surgery 2006 ; 30 (3): 304-308 .
- 2) 山内仁紫，保坂純郎¹⁾，大森裕也，丸山雄二，石井庸介，別所竜蔵，落 雅美，清水一雄 (¹⁾ 放射線医学): 各種SEPS術式の紹介と手術適応 . 日本内視鏡外科学会雑誌 2006 ; 11 (3): 243-248 .
- 3) Sakamoto S, Yamauchi S¹⁾, Yamashita H²⁾, Imura H, Maruyama Y, Ogasawara H, Hatori N, Shimizu K (¹⁾ Dept. of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. of Cardiovascular Surgery, Toho University): Intraoperative mapping of the right atrial free wall during sinus rhythm : variety of activation patterns and incidence of postoperative atrial fibrillation. . Eur J Cardiothorac Surg 2006 ; 30 (1): 132-139 .
- 4) Okamoto J, Okamoto T¹⁾, Fukuyama Y¹⁾, Ushijima C¹⁾, Yamaguchi M¹⁾, Ichinose Y¹⁾ (¹⁾ Department of Thoracic Oncology, National Kyushu Cancer Center): The use of a water seal to manage air leaks after a pulmonary lobectomy : a retrospective study . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2006 ; 12 (4): 242-244 .

- 5) Okamoto J, Onda M¹⁾, Hirata T, Miyamoto S¹⁾, Akaishi J¹⁾, Mikami I, Hirai K, Haraguchi S, Koizumi K, Shimizu K (¹⁾Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School): Dissimilarity in gene expression profiles of lung adenocarcinoma in Japanese men and women . *Gend Med* 2006 ; 3 (3): 223-235 .
- 6) Akaishi J, Onda M¹⁾, Okamoto J¹⁾, Miyamoto S¹⁾, Nagahama M²⁾, Ito K²⁾, Yoshida A³⁾, Shimizu K (¹⁾Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School , ²⁾Dept. of Surgery, Ito Hospital , ³⁾Dept. of Surgery, Kanagawa Prefectural Cancer Center): Down-regulation of transcription elongation factor A (SII) like 4 (TCEAL4) in anaplastic thyroid cancer . *BMC cancer* 2006 ; 1 (6): 260-267 .
- 7) Akaishi J, Onda M¹⁾, Asaska S¹⁾, Okamoto J¹⁾, Miyamoto S¹⁾, Nagahama M²⁾, Ito K²⁾, Kawanami O³⁾, Shimizu K (¹⁾Dept. of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School , ²⁾Dept. of Surgery, Ito Hospital , ³⁾Dept. of Molecular Pathology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School): Growth-suppressive function of phosphatidylethanolamine-binding protein in anaplastic thyroid cancer . *Anti-cancer Res* 2006 ; 26 (6): 4437-4442 .
- 8) Gaynor SL¹⁾, Byrd GD¹⁾, Diodato MD¹⁾, Ishii Y, Lee AM¹⁾, Prasad SM¹⁾, Gopal J¹⁾, Schuessler RB¹⁾, Damiano RJ Jr¹⁾ (¹⁾Washington University School of Medicine) : Microwave ablation for atrial fibrillation : Dose response curves in the cardioplegia-arrested and beating heart . *Ann Thorac Surg* 2006 ; 81 : 72-77 .
- 9) Ishii Y, Kronengold RT¹⁾, Virmani R¹⁾, Rivera EA¹⁾, Goldman SM¹⁾, Prechtel EJ¹⁾, Schuessler RB¹⁾, Damiano RJ Jr¹⁾ (¹⁾Washington University School of Medicine) : Novel bioengineered small caliber vascular graft with excellent one-month patency . *Ann Thorac Surg* 2007 ; 83 : 517-525 .
- 10) 長嶺義哲¹⁾, 鳥羽博明¹⁾, 藤谷健二¹⁾, 村山良太¹⁾, 宮里恵子¹⁾, 蔵下 要¹⁾, 亀山眞一郎¹⁾, 伊志嶺朝成¹⁾, 古波倉史子¹⁾, 新里誠一郎¹⁾, 福本泰三²⁾, 北川 亘, 清水一雄 (¹⁾浦添総合病院外科, ²⁾同呼吸器外科): VANS (Video-Assisted Neck Surgery) 内視鏡補助下甲状腺手術17例の経験 . *沖縄医学会雑誌* 2005 ; 44 (2): 72-76 .
- 11) 清水一雄 : 内視鏡下手術 : 癌に対する低侵襲ならびに機能温存・再建手術 . 「外科」 2006 ; 68 (1): 1-6 .
- 12) 五十嵐健人, 清水一雄 : 甲状腺良性疾患の手術 . *手術* 2006 ; 60 (10): 1413-1417 .
- 13) Maruyama Y, Ochi M, Kambe M, Fujii M, Miyagi Y, Ishii Y, Yamada K, Bessho R, Shimizu K : Surgical strategy for redo off-pump coronary artery bypass grafting to avoid re-mediansternotomy . *J Jpn Coron Assoc* 2006 ; 12 : 183-187 .
- 14) 藤井正大, 落 雅美, 栗田二郎, 神戸 将, 山下裕正, 丸山雄二, 大森裕也, 宮城泰雄, 石井庸介, 山田研一, 別所竜蔵, 菅野重人, 清水一雄 : Off-pump CABG における動脈グラフトによる多枝血行再建術の戦略 . *冠疾患学会誌* 2006 ; 12 (3): 179-182 .
- 15) 浅川一恵¹⁾, 川本雅司^{1,2)}, 村瀬幸宏¹⁾, 横山宗伯^{1,3,4)}, 杉崎祐一¹⁾, 清水一雄 (¹⁾日本医科大学付属病院病理部, ²⁾同病理学第1, ³⁾同病理学第2, ⁴⁾東京警察病院病理部): 明瞭な核内封入体を認めた腎癌甲状腺転移の1例 . *日本臨床細胞学会雑誌* 2007 ; 46 (1): 39-42 .
- 16) 浅川一恵¹⁾, 川本雅司^{1,2)}, 村瀬幸宏¹⁾, 横山宗伯^{1,3,4)}, 杉崎祐一¹⁾, 清水一雄 (¹⁾日本医科大学付属病院病理部, ²⁾同病理学第1, ³⁾同病理学第2, ⁴⁾東京警察病院病理部): 明瞭な核内封入体を認めた腎癌甲状腺転移の1例 . *日本臨床細胞学会雑誌* 2007 ; 46 (1): 39-42 .
- 17) 五十嵐健人, 石川久美, 赤須東樹, 清水一雄 : バセドウ病に甲状腺髄様癌を合併した1例について . *日医大医学会誌* 2007 ; 3 (1): 39-43 .
- 18) 清水一雄 : クッシング症候群 . *経静脈治療「オーダーマニュアル」* 2007 ; 12 : 301-305 .
- 19) 窪倉浩俊^{1,2)}, 吉野直之^{1,2)}, 山内茂生¹⁾, 日野光紀²⁾, 小泉 潔, 清水一雄 (¹⁾千葉北総病院胸部外科, ²⁾同呼吸器センター): 当院における自然気胸に対する胸腔鏡下手術40例の検討 . *日医大医学会誌* 2007 ; 第3巻(第1号): 11-19 .

(2) 綜説：

- 1) Koizumi K : Current surgical strategies for lung cancer with a focus on open thoracotomy and video-assisted thoracic surgery . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (3) : 116-121 .
- 2) 清水一雄：内分泌症候群 その他の内分泌疾患を含めて．別冊日本臨床 新領域別症候群シリーズ 2006 ; 1 : 298-302 .
- 3) 清水一雄：甲状腺内視鏡手術の有用性と限界：甲状腺，副甲状腺，副腎の外科 最新の諸問題．「外科」2006 ; 68 (7) : 777-782 .
- 4) 岡田大輔，小泉 潔：心臓手術と特発性間質性肺炎．日本集中治療医学会雑誌 2006 ; 13 (3) : 203-206 .
- 5) 岡本淳一，赤石純子¹⁾，音田正光¹⁾(¹⁾老人病研究所分子生物学部門)：最近における癌遺伝子・抑制遺伝子の研究-乳癌-遺伝子発現からみた乳癌予後予測マーカー．Biotherapy 2006 ; 20 (5) : 491-497 .
- 6) 清水一雄：内視鏡下甲状腺手術．臨床外科 2006 ; (11) : 459-466 .
- 7) 落 雅美：胸部外科 Up to Date 2006 Session 「冠動脈」「CABG に於けるグラフト選択」．第 59 回日本胸部外科学会定期学術集会 Postgraduate Course 2006 ; 10-19 .
- 8) 小泉 潔：胸腔鏡手術の低侵襲性と術後の呼吸器合併症．胸部外科 2006 ; 59 : 760-767 .
- 9) 清水一雄，亀山香織¹⁾(¹⁾慶応義塾大学医学部病理診断部)：腫瘍外科治療の最前線 稀な組織型の甲状腺腫瘍．外科治療 2007 ; 96 : 424-429 .

(3) その他：

- 1) 小泉 潔：座談会 胸腔鏡の呼吸器疾患患者診断と治療への応用．呼吸 2006 ; 25 : 666-681 .
- 2) 小泉 潔：肺機能温存に苦労した日々．胸部外科 2007 ; 60 : 116-116 .

(4) 症例報告：

- 1) Yoshino N¹⁾ , Yamauchi S¹⁾ , Hino M²⁾ , Ohaki Y³⁾ , Koizumi K⁴⁾ , Shimizu K⁴⁾ (¹⁾ Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ³⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ⁴⁾ Department of Surgery II, Nippon Medical School) : Metastatic Thoracic Lymph Node Carcinoma of Unknown Origin On Which We Performed Two Kinds of Immunohistochemical Examinations . Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2006 ; 12 (4) : 283-286 .
- 2) Yoshino N¹⁾ , Hirotohi K¹⁾ , Yamauchi S¹⁾ , Ohaki Y²⁾ , Kiyoshi K³⁾ , Shimizu K³⁾ (¹⁾ Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ³⁾ Division of Thoracic Surgery, Department of Surgery, Nippon Medical School) : Mucinous carcinoma identified as lung metastasis from an early rectal cancer with submucosal invasion by immunohistochemical detection of villin . The Japanese Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2006 ; 54 (8) : 328-331 .
- 3) Nakayama K , Okada D , Koizumi K , Shimizu K : Excision of Extramedullary Plasmacytoma in the Hilar Lymph Node . JJLC 2006 ; 46 (6) : 723-726 .
- 4) Yoshino N¹⁾ , Yamauchi S¹⁾ , Akimoto M²⁾ , Hisayoshi T³⁾ , Koizumi K⁴⁾ , Shimizu K⁴⁾ (¹⁾ Department of Thoracic Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾ Department of Plastic Surgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ³⁾ Department of Surgery, Tohoku Rosai Hospital , ⁴⁾ Division of Thoracic Surgery, Department of Surgery, Nippon Medical School) : A Case Report on a Full-Thickness Chest Wall Reconstruction with Polypropylene Mesh and Stainless Steel Mesh Concurrently Using a Transverse Rectus Abdominis Myocutaneous Flap . Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery 2006 ; 12 (6) : 445-448 .
- 5) Maruyama Y , Ochi M , Bessho R , Yamada K , Ishii Y , Fujii M , Tamura K¹⁾ , Shimizu K (¹⁾ Department

of Pathology, Nippon Medical School): Rupture of a normal-sized, non-dissected distal aortic arch in a Marfan patient . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2006 ; 12 : 438-440 .

6) Sakamoto S , Yamauchi S¹⁾ , Yamashita H²⁾ , Imura H , Maruyama Y , Ochi M , Shimizu K (¹⁾ Dept. of Thoracic and Cardiovascular Surgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School , ²⁾ Dept. of Cardiovascular Surgery, Toho University): Repair of an abdominal aortic aneurysm with a remarkably dilated meandering artery . Surg Today 2007 ; 37 (2): 133-136 .

7) 中山景介, 岡田大輔, 小泉 潔, 川口吉洋¹⁾, 清水一雄 (¹⁾ 会津中央病院総合診療科): 脊椎カリエスを伴う縦隔リンパ節結核腫 . 胸部外科 2006 ; 59 (9): 826-830 .

8) 藤井正大, 落 雅美, 神戸 将, 丸山雄二, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 山内仁紫, 清水一雄, 小川俊一¹⁾ (¹⁾ 小児科学): 川崎病罹患後の巨大冠動脈瘤に対し redo-OPCAB を要した 1 例 . 冠疾患学会誌 2006 ; 12 (3): 196-198 .

9) 中山景介, 岡田大輔, 小泉 潔, 清水一雄 : 経過中に縮小した胸壁奇形腫を胸腔鏡補助下に摘出した 1 例 . JSES 2007 ; 12 (1): 99-103 .

(5) Photogravure :

1) Akasu H , Igarashi T , Tanaka K , Shimizu K : Photodynamic Identification of Human Parathyroid Grands with 5-aminolevelinic Acid . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (5): 246-247 .

(6) 特集・分担 :

1) 赤須東樹 : 研修医のための診断・治療マニュアル/甲状腺疾患 良性結節性甲状腺腫 . 内分泌外科 2006 ; 23 (3): 143-146 .

(7) 研究速報 :

1) 赤須東樹, 五十嵐健人, 石川久美, 清水一雄 : 内分泌頸部外科手術における低侵襲性の追求 . 外科治療 , 2007 ; 96 (1): 73-75 .

(8) 研究報告書 :

1) 北村惣一郎¹⁾, 落 雅美 (¹⁾ 国立循環器病センター): 循環器病の診断と治療に関するガイドライン 虚血性心疾患に対するバイパスグラフトと手術術式の選択ガイドライン . Circulation Journal 2006 ; 70 : pp1477-1568 .

著 書

1) Ochi M : [共著] XIII Quality control of arterial grafting : Early Detection of graft patency and flow. Flow capacity of arterial grafts : Internal thoracic artery, gastroepiploic artery and other grafts . " Arterial Grafting for Coronary Artery Bypass Surgery " (Guo-Wei He), 2006 ; pp279-283 , Springer .

2) Ishii Y , Cox JL¹⁾ , Damiano RJ Jr¹⁾ (¹⁾ Washington University School of Medicine): [分担] Surgery for Arrhythmias . Surgery for congenital heart defects (3rd Edition) (J. Stark), 2006 ; pp619-633 , John Wiley & Sons, Ltd. London .

3) 石井庸介, 新田 隆 : [分担] 外科手術における不整脈治療 . エキスパートをめざす循環器診療 シリーズ No. 2 不整脈 (井上 博), 2006 ; pp128-136 , 南江堂 .

4) 石井庸介, 新田 隆 : [分担] 心房細動と外科手術 . 新・心臓病診療プラクティス (吉川純一), 2006 ; pp279-283 , 文光堂 .

5) 石井庸介, 新田 隆 : [分担] 心房細動の病態と治療 外科治療 . Medical Technology , 2006 ; pp1048-1053 , 医師薬出版株式会社 .

6) 石井庸介 : [翻訳] ペーシング不全 . イラストで学ぶ心臓ペースメーカー , 2006 ; pp179-189 , 医学書院 .

7) 平田知己, 小泉 潔 : [共著] 胸腔鏡下縦隔リンパ節生検 . 胸部外科 , 2007 ; pp193-193 , 南江堂 .

8) 別所竜蔵 : [分担] ICD の原理と構造 . インフォームドコンセントのための図説シリーズ , 心臓ペースメーカー

- ー・植込み型除細動器(改訂版)(田中茂夫), 2007; pp60-63, 医薬ジャーナル社.
- 9) 別所竜蔵: [分担] ICDの種類. インフォームドコンセントのための図説シリーズ, 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器(改訂版)(田中茂夫), 2007; pp70-73, 医薬ジャーナル社.
- 10) 別所竜蔵: [分担] ICD 植込み術式. インフォームドコンセントのための図説シリーズ, 心臓ペースメーカー・植込み型除細動器(改訂版)(田中茂夫), 2007; pp74-77, 医薬ジャーナル社.
- 11) 別所竜蔵: [分担] ペーシング閾値の決定~リード固定. イラストで学ぶ心臓ペースメーカー, Step by Step (庄田守男, 小林義典, 新田 隆), 2007; pp28-36, 医学書院.
- 12) 清水一雄: [共著] 甲状腺. 第101回医師国家試験問題解説書(医師国家試験問題解説書編集委員会), 2007; 医学評論社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Nitta T : Surgery for Atrial Fibrillation . 66th Scientific Meeting of the Taiwan Surgical Association (Kaohsiung, Taiwan ROC), 2007 . 3 .
- 2) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 第17回滋賀手術手技研究会, 2006 . 7 .
- 3) 新田 隆: 心房細動治療の最近の動向. 第3回信州ライブデモンストレーション研究会, 2006 . 9 .
- 4) 新田 隆: 心房細動の治療: 最近の動向. 第4回能登地域医療研究会学術講演会, 2006 . 10 .
- 5) 新田 隆: 心臓血管手術後の心房細動: 最近の動向. 宮城心臓血管外科不整脈治療懇話会, 2006 . 11 .
- 6) 小泉 潔: 肺癌外科治療の今昔. 第18回大分内視鏡外科手術研究会, 2006 .
- 7) 小泉 潔: 肺癌外科治療について. 第9回癌治療懇話会, 2006 .
- 8) 石井庸介: 先天性心疾患術後 Incisional Atrial Reentrant Tachyarrhythmia は予防できるか? 心房切開線峡部の伝導特性の解明から. 第18回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会学術集会, 2007 . 1 .
- 9) 小泉 潔: VATS lobectomy と術後合併症. 第5回術後合併症研究会, 2007 . 2 .
- 10) 小泉 潔: VATS lobectomy と術後合併症. 岩手県立病院医学会, 2007 . 2 .

(2) 招待講演:

- 1) 新田 隆: 心房細動の外科治療. 第5回心臓病最新治療講演会, 2006 . 4 .
- 2) 新田 隆: 心房細動の最近の治療. 第5回三鷹診連携会, 2006 . 11 .
- 3) 別所竜蔵: 大動脈解離・瘤に対するハイブリッド治療. 第40回千駄木脈管カンファランス, 2007 . 1 .

(3) 教育講演:

- 1) 新田 隆: Postgraduate Course : 心房細動の治療. 第59回日本胸部外科学会総会, 2006 . 10 .
- 2) 落 雅美: 胸部外科 Up to Date2006 Session 「冠動脈」CABG に於けるグラフト選択. 第59回日本胸部外科学会総会 Postgraduate Course , 2006 . 10 .
- 3) 新田 隆: 心房細動手術の現状と将来の展望. 第58回日本循環器学会中国地方会, 2006 . 11 .
- 4) 新田 隆: 不整脈外科治療の進歩. 第202回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006 . 12 .
- 5) 新田 隆: 不整脈の外科治療. 第17回日本心臓病学会教育セミナー アドバンス・コース「インターベンション最前線」, 2007 . 3 .

(4) シンポジウム:

- 1) Shimizu K : Video Assisted Endoscopic Thyroid and Parathyroid Surgery . 10th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (Hong Kong), 2006 . 3 .
- 2) 山形基夫¹⁾, 丹黒 章²⁾, 清水一雄 (¹⁾ 日本大学外科学, ²⁾ 徳島大学食道・乳腺甲状腺外科): 乳腺内視鏡手術における技術認定について. 日本内視鏡外科学会技術認定制度 現状, 問題点と今後の展望, 2006 . 1 .
- 3) 新田 隆, 栗田二郎, 神戸 将, 丸山雄二, 大森裕也, 宮城泰雄, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人,

山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 清水一雄: 心房細動手術無効例, 再発例の検討. 第36回日本心臓血管外科学会総会, 2006. 4.

- 4) 平田知己, 山岸茂樹, 川島徹生, 平井恭二, 小泉 潔, 清水一雄: IP合併肺癌の術後急性増悪におけるリスクファクターの解析 (呼吸器合併症を有する肺癌の治療 SY7-4). 第106回日本外科学会総会, 2006. 4.
- 5) 新田 隆, 栗田二郎, 神戸 将, 丸山雄二, 大森裕也, 宮城泰雄, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 清水一雄: 慢性心房細動の電気生理学的機序. 第21回日本不整脈学会学術大会, 2006. 7.
- 6) 菅野重人, 別役徹生¹⁾, 新田 隆, 宮城泰雄, 大森裕也, 石井庸介, 藤井正大, 檜山和弘, 神戸 将, 栗田二郎, 別所竜蔵, 矢島俊巳, 落 雅美, 清水一雄 (¹⁾北海道大学循環病態内科学): 心筋Gap JunctionにおけるConnexin43の発現異常と周術期不整脈. 第21回日本不整脈学会学術大会, 2006. 7.
- 7) Shimizu K: Recently Developed New Technology for Thyroid/Parathyroid Surgery. 第30回日本頭頸部癌学会サテライト・シンポジウム, 2007. 6.

(5) パネルディスカッション:

- 1) Nitta T: What is minimally invasive AFib surgery? How the minimally invasive AF surgery should be. 5th International Society for Minimally Invasive Cardiothoracic Surgery (San Francisco, CA)(San Francisco, CA), 2006. 6.
- 2) 新田 隆: 孤立性心房細動に外科治療を行うか. 第21回日本不整脈学会学術大会, 2006. 7.
- 3) 石井庸介, 新田 隆, 栗田二郎, 神戸 将, 丸山雄二, 大森裕也, 藤井正大, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄: 心房中隔欠損症に合併する心房細動の電気生理学的機序. 第21回日本不整脈学会学術大会, 2006. 7.
- 4) 新田 隆, 栗田二郎, 神戸 将, 丸山雄二, 大森裕也, 宮城泰雄, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 山内仁紫, 矢島俊巳, 落 雅美, 清水一雄: アブレーションデバイスを用いた心房細動手術の有効性. 第44回日本人工臓器学会大会, 2006. 11.
- 5) 藤井正大, 栗田二郎, 神戸 将, 檜山和弘, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄: 当施設における開心術後Surgical Site Infection 予防対策. 第19回日本外科感染症学会総会, 2006. 11.

(6) セミナー:

- 1) 平田知己, 揖斐孝之, 山岸茂樹, 吉野直之, 窪倉浩俊, 三上 巖, 小泉 潔, 清水一雄, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 胸腔鏡下縫縮術を施行したHepatic Hydrothoraxの2例. 第16回呼吸器外科冬季学術集会・スノーサイドミーティング, 2007. 1.

(7) ワークショップ:

- 1) Shimizu K: Video Assisted Endoscopic Thyroidectomy. 10th Congress of the Asian Association of Endocrine Surgeons (Hong Kong), 2006. 3.
- 2) 赤須東樹, 五十嵐健人, 石川久美, 清水一雄: 5-ALAを用いた原発性副甲状腺機能亢進症に対する術中光線学的病変同定の意義. 第39回日本甲状腺外科学会学術集会, 2006. 10.

(8) 一般講演:

- 1) 石井律子^{1,3)}, 北川 亘¹⁾, 伊藤公一¹⁾, 亀山香織²⁾, 高橋真帆¹⁾, 矢野由希子¹⁾, 大桑恵子¹⁾, 平川昭平¹⁾, 渋谷 洋¹⁾, 長浜充次¹⁾, 杉野公則¹⁾, 清水一雄³⁾, 伊藤國彦¹⁾(¹⁾伊藤病院, ²⁾慶應病院病理, ³⁾日本医科大学内分分泌外科): Squamous cell carcinoma of the thyroid. 18th Annual Congress of Asia-Pacific Endocrine Conference (Shemriup, Cambodia), 2006. 2.
- 2) Nitta T, Ishii Y, Bessho R, Fujii M, Ohmori H, Kambe M, Kurita J, Ochi M, Shimizu K: Atrial Fibrillation Associated with an Atrial Septal Defect: The Mechanism and Optimal Lesion Set for Ablation. 27th Heart Rhythm Society (Boston, MA), 2006. 5.
- 3) Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Nitta T, Maruyama M¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Horie T¹⁾, Taniguchi H¹⁾, Ueno A¹⁾,

- Tateoka K¹⁾, Okazaki R¹⁾, Hayashi M¹⁾, Ishii Y¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾(¹⁾ First Department of Medicine, Nippon Medical School): The Mechanisms and Radiofrequency Catheter Ablation of Atrial Tachycardia Following Surgery for Atrial Fibrillation . 27th Heart Rhythm Society (Boston, MA), 2006 . 5 .
- 4) Ohmori H , Nitta T , Bessho R , Ishii Y , Fujii M , Maruyama Y , Kanbe M , Ochi M , Shimizu K : Electrophysiological Mechanism of Atrial Fibrillation in a Novel Experimental Model of the Left Atrial Volume Load . Heart Rhythm Society (Boston, USA), 2006 . 5 .
- 5) Abe H¹⁾, Nitta T , Horie S¹⁾, Kurita T²⁾, Kobayashi Y³⁾, Hayakawa H⁴⁾(¹⁾ University of Occupational and Environmental Health , ²⁾ National Cardiovascular Center , ³⁾ First Department of Medicine, Nippon Medical School , ⁴⁾ Japanese Heart Rhythm Society): Retirement from work after implantation of ICD among Japanese workers . *Cardiostim* 2006 (Nice, France), 2006 . 6 .
- 6) Fujii M , Kurita J , Kambe M , Ishii Y , Bessho R , Yamauchi H , Ochi M , Shimizu K : Surgical treatment for coronary artery aneurysm in Kawasaki disease . The 14th Annual Meeting of the Asian Society for Cardiovascular Surgery (Osaka), 2006 . 6 .
- 7) Fujii M , Kambe M , Maruyama Y , Nishina D , Bessho R , Ochi M , Shimizu K , Chambers DJ¹⁾(¹⁾ St Thomas Hospital): Myocardial protection and esmolol in blood perfused rat hearts . 26th International Society for Heart Research-European Section meeting (Tromso, Norway), 2006 . 6 .
- 8) Nitta T , Ishii Y , Bessho R , Fujii M , Ohmori H , Kambe M , Kurita J , Ochi M , Shimizu K : Use of alternative ablation devices does not undermine the efficacy of AF surgery . 19th World Society of Cardio-Thoracic Surgeons (WSCTS) Japan Chapter Annual Meeting (Kanazawa, Japan), 2006 . 7 .
- 9) Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Bando K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Kanda T¹⁾, Ueda J¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Nomura T¹⁾, Akimaru K¹⁾, Shimizu K , Tajiri T¹⁾(¹⁾ Department of Surgery (Divisions of Gas-troenterology, General, Breast and Transplant)): Fixation of the Greater Omentum for Prevention of Delayed Gastric Emptying after Left-sided Hepatectomy : A Randomized Controlled Trial . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Thailand), 2006 . 10 .
- 10) Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Bando K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Kanda T¹⁾, Ueda J¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Nomura T¹⁾, Akimaru K¹⁾, Shimizu K , Tajiri T¹⁾(¹⁾ Department of Surgery (Divisions of Gas-troenterology, General, Breast and Transplant)): A Randomized Control Trial of Bi-monthly Versus Bi-weekly Endoscopic Variceal Ligation of Esophageal Varices . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Thailand), 2006 . 10 .
- 11) Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Bando K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Kanda T¹⁾, Ueda J¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Arima Y¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Uchida E¹⁾, Shimizu K , Tajiri T¹⁾(¹⁾ Department of Surgery (Divisions of Gas-troenterology, General, Breast and Transplant)): One-step Palliative Treatment Method for Obstructive Jaundice Caused by Unresectable Malignancies, by Percutaneous Transhepatic Insertion of an Expandable Metallic Stent . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Thailand), 2006 . 10 .
- 12) Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Bando K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Kanda T¹⁾, Ueda J¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Arima Y¹⁾, Yokomuro S¹⁾, Akimaru K¹⁾, Shimizu K (¹⁾ Department of Surgery (Divisions of Gas-troenterology, General, Breast and Transplant)): Fracture of an Expandable Metallic Stent Placed for Biliary Obstruction Due to Common Bile Duct Carcinoma . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Thailand), 2006 . 10 .
- 13) Bando K¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Ueda J¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Nomura T¹⁾,

- Akimaru K¹⁾, Shimizu K, Tajiri T¹⁾(¹) Department of Surgery (Divisions of Gas-troenterology, General, Breast and Transplant)) Spurt Bleeding from a Calcificated Gastrointestinal Stro-mal Tumor in the Stomach . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Thailand), 2006 . 10 .
- 14) Taniai N¹⁾, Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Bando K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Kanda T¹⁾, Ueda J¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Nomura T¹⁾, Akimaru K¹⁾, Shimizu K (¹) Department of Surgery (Divisions of Gas-troenterology, General, Breast and Transplant)): Surgical Treatment for Better Prognosis of Patients with Liver Metastases from Colorectal Cancer . The 35th World Congress of the International College of Surgeons (Thailand), 2006 . 10 .
- 15) Hirata T, Koizumi K, Ibi T, Takeuchi S, Nakajima Y, Yamgishi S, Yoshino N, Kubokura H, Mikami I, Hirai K, Shimizu K : Surgical treatment of Lung Cancer Combined with Interstitial Pneumonia : Effect of Surgical Approach on Postoperative Acute exacerbation . The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia 2006 (Korea), 2006 . 10 .
- 16) Kanno S, Betsuyaku T¹⁾, Nitta T, Miyagi Y, Ohmori H, Ochi M, Shimizu K, Saffitz JE²⁾(¹) Hokkaido University, ²⁾ Harvard Medical School): Gap Junction Remodeling and Ventricular Arrhythmias in Cx43-deficient Mice with Myocardial Infarction . International Conference for Physiological and Pathological Importance of Gap Junctions (Tokyo), 2006 . 11 .
- 17) Asimaki A¹⁾, Hames-Yamada K²⁾, McKenna William J¹⁾, Saffitz Jeffrey E²⁾(¹) The Heart Hospital, London, United Kingdom, ²⁾ Beth Israel Deaconess Medical Center / Harvard Medical School, Boston, MA): A Novel Mutation in Plakoglobin Blocks Up-Regulation of Intercellular Junction Proteins in Response to Mechanical Load . AHA Science Session 2006 (Chicago, USA), 2006 . 11 .
- 18) Ishii Y, Nitta T, Bessho R, Fujii M, Ohmori H, Kambe M, Kurita J, Ochi M, Shimizu K : Importance of intraoperative verification of conduction block to avoid surgical failure in atrial fibrillation surgery . Society of Thoracic Surgeons (San Diego, USA), 2007 . 1 .
- 19) Fujii M, Miyagi Y, Hinokiyama K, Ishii Y, Bessho R, Nitta T, Ochi M, Shimizu K : Effect of Polymorphonuclear Elastase Inhibitor on Acute Lung Injury after Cardiopulmonary Bypass : Evaluation with Bronchoscopic Microsampling . 43rd Annual Meeting of the Society of Thoracic Surgeons (San Diego, USA), 2007 . 1 .
- 20) Masu T, Akasu H, Ishikawa K, Igarashi T, Shimizu K : A clinical experience of parathyroid carcinoma . The 18th Annual Meeting of ASIA-PACIFIC ENDOCRINE CONFERENCE (Sliem Reap, Cambodia), 2007 . 2 .
- 21) Igarashi T, Kumi I, Akasu H, Shimizu K : Comparative Study on Immunologic Changes during Thyroidectomy between Video Assisted Neck Surgery (VANS) and Conventional Neck Surgery . The 18th Annual Meeting of Asia-Pacific Endocrine Conference (Sliem Reap, Cambodia), 2007 . 2 .
- 22) Horie T¹⁾, Atarashi H¹⁾, Miyauchi Y¹⁾, Kobayashi Y¹⁾, Murata H¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Okazaki R¹⁾, Ueno A¹⁾, Taniguchi H¹⁾, Hirasawa Y¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Maruyama M¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾, Ohmori H¹⁾, Nitta T (¹) Nippon Medical School First Department of Medicine): Post-operative Atrial Tachycardia Following Mitral Surgery via the Superior Transseptal Approach . 第71回日本循環器学会学術集会, 2007 . 3 .
- 23) Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Nomura T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Okuda T¹⁾, Kiyama T¹⁾, Shimizu K, Tajiri T¹⁾(¹) Department of Surgery (Divisions of Gas-troenterology, General, Breast and Transplant)): Afferent loop Istruction treated by per-cutaneous transhepatic insertion of an expandable metallic stent . First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, 2007 . 3 .
- 24) Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Bando K¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Shimizu T¹⁾, Kakinu-

- ma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Kanda T¹⁾, Nakamura Y¹⁾, Akimaru K¹⁾, Shimizu K, Tajiri T¹⁾(¹⁾ Department of Surgery (Divisions of Gas-troenterology, General, Breast and Transplant)): Omental Fixation Prevents Delayed Gastric Emptying after Left Hepatectomy for Cholangiocarcinoma . 17th APASL Conference “ Viral Hepatitis and Hepatocellular Carcinoma in Asia ”, 2007 . 3 .
- 25) Yoshida H¹⁾, Mamada Y¹⁾, Taniai N¹⁾, Mizuguchi Y¹⁾, Kakinuma D¹⁾, Ishikawa Y¹⁾, Kanda T¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Bando K¹⁾, Akimaru K¹⁾, Shimizu K, Tajiri T¹⁾(¹⁾ Department of Surgery (Divisiona of Gastroenterology, General, Breast and Transplant)): Long-term results of elective hepatectomy for the treatment of ruptured hepato-cellular carcinoma . First Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association , 2007 . 3 .
- 26) 栗田二郎, 別所竜蔵, 石井庸介, 藤井正大, 丸山雄二, 神戸 将, 松山孝義, 落 雅美, 清水一雄: Drug Eluting Stent時代のCABG: 80歳以上超高齢者に対するOPCABの意義. 第20回心臓血管外科ウィンターセミナー, 2006 . 1 .
- 27) 大森裕也, 新田 隆, 矢島俊巳, 菅野重人, 別所竜蔵, 石井庸介, 藤井正大, 丸山雄二, 神戸 将, 落 雅美, 清水一雄: 孤立性心房細動に対する術中マッピング所見. 第36回日本心臓血管外科学会総会, 2006 . 4 .
- 28) 吉野直之¹⁾, 揖斐孝之¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 三上 徹¹⁾, 平井恭二¹⁾, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾, 大秋美治²⁾(¹⁾ 付属病院外科学, ²⁾ 千葉北総病院病理部): CD5, CD99を用いた免疫組織化学染色にて診断された若年者 Type B3 thimic epithelial tumor の1例. 第8回文京区呼吸器外科研究会, 2006 . 4 .
- 29) 菅野重人, 新田 隆, 佐々木孝, 宮城泰雄, 大森裕也, 石井庸介, 藤井正大, 丸山雄二, 神戸 将, 別所竜蔵, 落 雅美, 清水一雄: Connexin43を指標とする心筋傷害治療へのアプローチ. 第106回日本外科学会定期学術集会, 2006 . 4 .
- 30) 佐々木孝, 高橋幸宏¹⁾, 安藤 誠¹⁾, 和田直樹¹⁾, 村田将光¹⁾, 尾澤直美¹⁾, 朴 仁三²⁾, 菊池利夫¹⁾(¹⁾ 榊原記念病院外科, ²⁾ 同小児科): HLHSおよびその類似疾患に対する両側PABの成績と注意点. 第33回日本心臓血管外科学会総会, 2006 . 4 .
- 31) 川瀬康裕, 下川智樹¹⁾, 加瀬川均¹⁾, 文元建宇¹⁾, 宝来哲也¹⁾, 竹内 晋¹⁾, 西村健二¹⁾, 堀内和隆¹⁾, 高梨秀一郎¹⁾(¹⁾ 榊原記念病院外科): 大動脈弁位感染性心内膜炎の手術成績の検討. 第36回日本心臓血管外科学会総会, 2006 . 4 .
- 32) 渡邊秀裕¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 長澤重直¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 田尻孝²⁾(¹⁾ 多摩永山病院消化器・乳腺・一般外科, ²⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 年齢による胃癌治療成績. 第92回日本消化器病学会総会, 2006 . 4 .
- 33) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 長澤重直¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松久威史²⁾, 松田 健²⁾, 水谷 崇²⁾, 津久井拓²⁾, 細根 勝³⁾, 田尻 孝⁴⁾(¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器科, ³⁾ 同病理部, ⁴⁾ 外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 分子標的療法を導入した切除不能・術後再発GIST・EGIST症例とMAGE-A family蛋白発現の関連について. 第92回日本消化器病学会総会, 2006 . 4 .
- 34) 岩崎雄樹¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 小林義典¹⁾, 林 明聡¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 村田宏史¹⁾, 上野 亮¹⁾, 平澤康宏¹⁾, 淀川顕司¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 新田 隆 (¹⁾ 内科学第1): 心内膜切除後の心外膜側残存心筋と心室瘤内残存心筋を含むマクロリエンリー性心筋梗塞後心室頻拍の1例. 第36回臨床電気生理研究会, 2006 . 5 .
- 35) 平田知己, 竹内真吾, 斉藤祐二, 山岸茂樹, 川島徹生, 片山博徳¹⁾, 前田正太郎¹⁾, 小泉 潔, 清水一雄 (¹⁾ 多摩永山病院病理部): 術前未確定診断の肺腫瘍に対する術中迅速細胞診の有用性. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 2006 . 5 .
- 36) 窪倉浩俊¹⁾, 山内茂生¹⁾, 吉野直之¹⁾, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾(¹⁾ 千葉北総病院胸部外科): 胸腔鏡下気胸手術の術後再発症例の検討. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 2006 . 5 .

- 37) 栗田二郎, 落 雅美, 矢島俊巳, 神戸 将, 丸山雄二, 大森裕也, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 清水一雄: 末梢血管に生じた巨大動脈瘤の2症例. 第34回日本血管外科学会総会, 2006. 5.
- 38) 赤須東樹, 田中久美, 五十嵐健人, 清水一雄: カメラ担当者からみた Video-assisted Neck Surgery (VANS) 法における術野確保の工夫. 第18回日本内分泌外科学会, 2006. 5.
- 39) 軸園智雄¹⁾, 小林 薫²⁾, 藪田智範²⁾, 井上博之²⁾, 東山卓也²⁾, 高村勇貴²⁾, 伊藤康弘²⁾, 廣川満良²⁾, 宮 章博²⁾, 松塚文夫²⁾, 清水一雄¹⁾, 宮内 昭²⁾(¹⁾日本医科大学外科学・内分泌外科, ²⁾隈病院): 甲状腺癌における CyclinD1 での dual stain (IHC法とFISH法). 第18回内分泌外科学会, 2006. 5.
- 40) 石井律子^{1,3)}, 亀山香織²⁾, 高橋真帆¹⁾, 佐々木裕三¹⁾, 矢野由希子¹⁾, 大桑恵子¹⁾, 平川昭平¹⁾, 渋谷 洋¹⁾, 長浜充次¹⁾, 清水一雄³⁾, 杉野公則¹⁾, 伊藤公一¹⁾, 伊藤國彦¹⁾(¹⁾伊藤病院, ²⁾慶応大学病院病理, ³⁾日本医科大学内分泌外科): 非常に稀な甲状腺孤在性線維性腫瘍 (Solitary Fibrous tumor) の1例. 第18回内分泌外科学会, 2006. 5.
- 41) 五十嵐健人, 北川 亘¹⁾, 赤須東樹, 石川久美, 杉野公則¹⁾, 伊藤公一¹⁾, 清水一雄 (¹⁾伊藤病院外科): 内視鏡補助下甲状腺・副甲状腺手術 (VANS法) の現状と将来. 第18回内分泌外科学会, 2006. 5.
- 42) 平田知己, 竹内真吾, 斎藤祐二, 山岸茂樹, 川島徹生, 片山博徳¹⁾, 細根 勝¹⁾, 前田正太郎¹⁾, 小泉 潔, 清水一雄 (¹⁾多摩永山病院病理部): 術前未確定診断の肺腫瘍に対する胸腔鏡下術中迅速細胞診の有用性. 第47回日本臨床細胞学会, 2006. 6.
- 43) 栗田二郎, 落 雅美, 別所竜蔵, 石井庸介, 藤井正大, 檜山和弘, 宮城泰雄, 丸山雄二, 神戸 将, 清水一雄: 選択的脳灌流法にて malperfusion を起こした慢性大動脈解離の1例 左総頸動脈の慢性解離症例をどうするか. 心臓血管外科火曜会, 2006. 6.
- 44) Kurita J, Ochi M, Kambe M, Hinokiyama K, Fujii M, Ishii Y, Bessho R, Yamauchi H, Shimizu K: Surgical treatment for a coronary artery aneurysms in kawasaki disease. World Society of Cardiothoracic Surgeons -Japan Chapter-19th Annual Meeting, 2006. 6.
- 45) 米澤美令, 赤須東樹, 若山久仁子, 田中久美, 五十嵐健人, 清水一雄: たこつぼ型心筋症を合併した褐色細胞腫の2例. 第801回外科集談会, 2006. 6.
- 46) 軸園智雄¹⁾, 小林 薫²⁾, 太田 寿²⁾, 森田新二²⁾, 清水一雄¹⁾, 宮内 昭²⁾(¹⁾日本医科大学外科学・内分泌外科, ²⁾隈病院): 穿刺吸引細胞診が原因と思われる甲状腺乳頭癌再発を2回繰り返した1例. 第16回日本乳腺甲状腺超音波診断会議, 2006. 6.
- 47) 佐々木孝, 高橋幸宏¹⁾, 安藤 誠¹⁾, 和田直樹¹⁾, 宝来哲也¹⁾, 川瀬康裕¹⁾, 朴 仁三²⁾, 菊池利夫¹⁾(¹⁾榊原記念病院外科, ²⁾同小児科): DORV, AA, hypoplastic A Ao に対する二心室修復術. 第138回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2006. 6.
- 48) 齋藤祐二¹⁾, 谷村繁雄¹⁾(¹⁾JA 神奈川県厚生連相模原協同病院呼吸器外科): 悪性間葉腫の両側縦隔再発に対し二期的手術を施行した1例. 第138回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2006. 6.
- 49) 渡邊秀裕¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器・乳腺・一般外科, ²⁾外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): 大腸癌イレウスの治療 (術前減圧法の評価). 第31回日本外科系連合学術集会, 2006. 6.
- 50) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松田 健²⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝³⁾, 田尻 孝⁴⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾同病理部, ⁴⁾外科学 (消化器・一般・乳腺・移植部門)): アポトーシス関連蛋白発現及び MIB-1 index からみた胃原発 Diffuse large B cell lymphoma の診断・治療に関する検討 (第2報). 第15回日本癌病態治療研究会, 2006. 6.
- 51) 間瀬大司¹⁾, 神戸 将, 丸山雄二, 大森裕也, 宮城泰雄, 藤井正大, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 矢島俊巳, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄 (¹⁾疼痛制御麻酔科学分野): リードトラブルを原因とする ICD 不適切作動例の検討. 第21回日本不整脈学会学術大会, 2006. 7.

- 52) 山内仁紫, 藤井正大, 丸山雄二, 大森裕也, 石井庸介, 別所竜蔵, 池上 英¹⁾, 小川俊一¹⁾, 落 雅美, 清水一雄⁽¹⁾ (小児科学): 重症川崎病冠動脈病変の外科治療. 第42回日本小児循環器学会総会, 2006. 7.
- 53) Kambe M, Bessho R, Fujii M, Ochi M, Shimizu K: Sivelestatの心筋保護効果. 第59回日本胸部外科学会総会, 2006. 7.
- 54) 軸菌智雄¹⁾, 天神敏博¹⁾, 赤石純子¹⁾, 石井律子¹⁾, 田中久美¹⁾, 五十嵐健人¹⁾, 赤須東樹¹⁾, 宮内 昭¹⁾, 清水一雄²⁾ (日本医科大学外科学・内分泌外科, ²⁾隈病院): 培養癌細胞を用いたCyclinD1の遺伝子増幅と蛋白発現の関係. 第16回日本サイトメトリー学会, 2006. 7.
- 55) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓²⁾, 田尻 孝³⁾ (多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 外来通院にてmFOLFOX6療法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 56) 石井庸介, Kronengold RT¹⁾, Virmani R²⁾, Goldman SM Prechtel EJ¹⁾, Rivera EA²⁾, Damiano RJ J³⁾, 落雅美, 清水一雄⁽¹⁾ Kensey Nash Corporation, ²⁾American Registry of Pathology, ³⁾Washington University): A novel bio-engineered small caliber vascular graft incorporating sirolimus for coronary artery bypass grafting. 第11回冠動脈外科学会学術大会, 2006. 7.
- 57) 藤井正大, 落 雅美, 栗田二郎, 神戸 将, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 清水一雄: 冠動脈バイパス術を施行した慢性透析患者の予後の検討 OPCABは予後を改善させたか?. 第11回日本冠動脈外科学会学術大会, 2006. 7.
- 58) 小原賢司¹⁾, 平澤泰宏¹⁾, 岩崎雄樹¹⁾, 村井綱児¹⁾, 神谷仁孝¹⁾, 吉川雅智¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 高野照夫¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 谷口宏史¹⁾, 上野 亮¹⁾, 岡崎玲子¹⁾, 村田広茂¹⁾, 山本哲平¹⁾, 小林義典¹⁾, 新田 隆, 副島京子²⁾, 谷本耕司郎²⁾ (日本医科大学内科学第1, ²⁾慶応義塾大学循環器内科): 薬剤抵抗性難治性心室頻拍に対しカテーテルアブレーションおよび開胸クライオアブレーションが奏効した1例. 第201回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006. 9.
- 59) 檜山和弘, 山内仁紫, 落 雅美, 別所竜蔵, 石井庸介, 藤井正大, 大森裕也, 丸山雄二, 神戸 将, 栗田二郎, 清水一雄: 小児の閉塞性肥大型心筋症に対して心筋切開切除と僧帽弁置換術を同時施行した1例. 第139回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2006. 9.
- 60) 佐々木孝, 高橋幸宏¹⁾, 安藤 誠¹⁾, 和田直樹¹⁾, 村田将光¹⁾, 尾澤直美¹⁾, 朴 仁三²⁾, 菊池利夫¹⁾ (神原記念病院外科, ²⁾同小児科): 総動脈幹症 (Van Praagh A3) に対するBentall+Rastelli術. 第139回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2006. 9.
- 61) 川瀬康裕, 高橋幸宏¹⁾, 安藤 誠¹⁾, 和田直樹¹⁾, 佐々木孝¹⁾, 宝来哲也¹⁾, 朴 仁三²⁾, 菊池利夫¹⁾ (神原記念病院外科, ²⁾同小児科): Jatene術後急性期に虚血性変化を来し再手術及び左心バイパス補助により救命し得た1例. 第139回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2006. 9.
- 62) 谷村繁雄¹⁾, 齋藤祐二¹⁾, 中島由貴¹⁾, 小泉 潔, 清水一雄⁽¹⁾ (多摩永山病院呼吸器外科): 月経随伴性気胸の病態・治療と今後の対応. 第10回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会, 2006. 9.
- 63) 谷村繁雄¹⁾, 小泉 潔, 清水一雄⁽¹⁾ (多摩永山病院呼吸器外科): 脳転移で発症した胸腺癌の1例. 第139回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2006. 9.
- 64) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝³⁾, 田尻 孝⁴⁾ (多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾同病理部, ⁴⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 胃癌肝転移症例におけるMAGE-A family蛋白発現の検討. 第65回日本癌学会学術総会, 2006. 9.
- 65) 小泉 潔: ハンズオンセンター「胸腔鏡手術」. 第59回日本胸部外科学会総会, 2006. 10.
- 66) 小泉 潔: Experiences of surgical treatment on lung cancer combined with interstitial pneumonia. The 2nd

Russia-Japanese International Conference on Lung Cancer, 2006. 10.

- 67) 柘 卓史, 赤須東樹, 石川久美, 五十嵐健人, 清水一雄: 副甲状腺癌の臨床経験. 第39回日本甲状腺外科学会学術集会, 2006. 10.
- 68) 軸藺智雄¹⁾, 小林 薫²⁾, 藪田智範²⁾, 井上博之²⁾, 東山卓也²⁾, 高村勇貴²⁾, 伊藤康弘²⁾, 廣川満良²⁾, 宮 章博²⁾, 松塚文夫²⁾, 清水一雄¹⁾, 宮内 昭²⁾(¹⁾日本医科大学付属病院内分泌外科, ²⁾隈病院): 慢性甲状腺炎のために手術を必要とした症例の検討. 第39回日本甲状腺外科学会学術集会, 2006. 10.
- 69) 川瀬康裕, 下川智樹¹⁾, 堀内和隆¹⁾, 文元建宇¹⁾, 尾澤直美¹⁾, 佐々木孝¹⁾, 竹内 晋¹⁾, 西村健二¹⁾, 村田将光¹⁾, 関 宏¹⁾, 真鍋 晋¹⁾, 高梨秀一郎¹⁾(¹⁾榊原記念病院外科): Outcome of AF Surgery with Bipolar Radiofrequency Energy Device. 第59回日本胸部外科学会総会, 2006. 10.
- 70) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): mFOLFOX6法を導入した進行・再発大腸癌肝転移症例の検討. 第44回日本癌治療学会総会学術集会, 2006. 10.
- 71) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): mFOLFOX6法から他Regimenに移行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第48回日本消化器病学会大会(DDW), 2006. 10.
- 72) 石井庸介, 新田 隆, 別所竜蔵, 藤井正大, 大森裕也, 丸山雄二, 神戸 将, 栗田二郎, 落 雅美, 清水一雄: アブレーションデバイスをを用いた心房細動手術は標準術式となりうるか?. 第59回日本胸部外科学会総会, 2006. 10.
- 73) 藤井正大, 栗田二郎, 神戸 将, 山下裕正, 丸山雄二, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 新田 隆, 落 雅美, 清水一雄: 当施設における開心術後Surgical Site Infection予防対策: SSI 0%を目指して. 第59回日本胸部外科学会総会, 2006. 10.
- 74) 栗田二郎, 落 雅美, 丸山雄二, 藤井正大, 檜山和弘, 石井庸介, 別所竜蔵, 菅野重人, 清水一雄: 右下肢動脈閉塞に対して大伏在静脈を用いたDistal Bypassと再生医療を併用した1症例. 第14回日本血管外科学会関東甲信越地方会, 2006. 11.
- 75) 赤須東樹, 五十嵐健人, 石川久美, 清水一雄: 副甲状腺癌の臨床経験と病理学的検討. 第10回日本内分泌病理学会総会, 2006. 11.
- 76) 赤須東樹, 田中久美, 五十嵐健人, 清水一雄: 副甲状腺機能亢進症における術中シンチグラフィ, 光線力学的病変同定併用の有用性. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 77) 軸藺智雄¹⁾, 廣川満良²⁾, 前川観世子²⁾, 隈 晴二²⁾, 網野信行²⁾, 清水一雄¹⁾, 宮内 昭²⁾(¹⁾日本医科大学付属病院内分泌外科, ²⁾隈病院): 術前診断が困難であった甲状腺内埋没副甲状腺腫瘍の症例検討. 第45回日本臨床細胞学会秋期大会, 2006. 11.
- 78) 五十嵐健人, 中村慶春¹⁾, 赤須東樹, 石川久美, 野村 務¹⁾, 内田英二¹⁾, 有馬保生¹⁾, 高崎秀明²⁾, 田尻 孝¹⁾, 清水一雄(¹⁾日本医科大学外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門), ²⁾神栖済生会病院外科): 当科における副腎病変に対する内視鏡手術の現状. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 79) 渡邊秀裕¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院消化器・乳腺・一般外科, ²⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): 定型手術が標準とされるT2・T3胃癌症例の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 80) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 柳健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓²⁾, 松久威史²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)): mFOLFOX6法による外来通院化学療法を施行した進行・再発

大腸癌症例の検討．第68回日本臨床外科学会総会，2006．11．

- 81) 平田知己，小泉 潔，揖斐孝之，山岸茂樹，吉野直之，窪倉浩俊，三上 巖，清水一雄，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学): VATS Lobectomyにおける縦隔郭清の技術向上を目指して．第19回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．
- 82) 平田知己，小泉 潔，山岸茂樹，吉野直之，窪倉浩俊，三上 巖，川本雅司¹⁾，清水一雄(¹⁾病理学第1): 化学・放射線療法後に切除した胸腺癌の1例．第140回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2006．12．
- 83) 窪倉浩俊，小泉 潔，原田明希摩，揖斐孝之，吉野直之，山岸茂樹，三上 巖，平田知己，清水一雄: 肺癌細胞におけるCD40, CD40Ligandの分子生物学的機序の解明．第47回日本肺癌学会総会，2006．12．
- 84) 檜山和弘，山内仁紫，落 雅美，別所竜蔵，石井庸介，藤井正大，神戸 将，栗田二郎，揖斐孝之，清水一雄: 胎児エコーで心タンポナーデと診断され緊急帝王切開を行い心膜開窓術が有効であった心臓腫．第140回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2006．12．
- 85) 赤須東樹，石川久美，五十嵐健人，清水一雄: Video-assisted Neck Surgery (VANS)法における効果的で簡便なスコープ操作．第10回内視鏡下内分泌手術研究会，2006．12．
- 86) 吉野直之¹⁾，山岸茂樹¹⁾，窪倉浩俊¹⁾，三上 巖¹⁾，小泉 潔¹⁾，清水一雄¹⁾，原口秀司²⁾，平田知己³⁾，平井恭二⁴⁾(¹⁾外科学，²⁾武蔵小杉病院外科心臓血管外科，³⁾多摩永山病院呼吸器外科，⁴⁾千葉北総病院胸部心臓血管呼吸器外科): 肺腺癌におけるMoesinの発現の検討とその分子生物学的意義．第47回日本肺癌学会総会，2006．12．
- 87) 五十嵐健人，赤須東樹，石川久美，清水一雄: 甲状腺内視鏡手術における手術侵襲マーカー検索の試み．第10回内視鏡下内分泌手術研究会，2006．12．
- 88) 中山景介，岡田大輔，小泉 潔，木下裕康，榎本 豊，清水一雄: 気管分岐部癌と胃癌の同時性重複癌の1例．第46回日本肺癌学会総会，2006．12．
- 89) 藤井正大，落 雅美，栗田二郎，神戸 将，大森裕也，檜山和弘，宮城泰雄，石井庸介，別所竜蔵，菅野重人，清水一雄: 冠血行再建術後Surgical Site Infectionの危険因子の検討．第20回日本冠疾患学会学術集会，2006．12．
- 90) 山本哲平¹⁾，宮内靖史¹⁾，小林義典¹⁾，丸山光紀¹⁾，谷口宏史¹⁾，館岡克彦¹⁾，上野 亮¹⁾，岡崎怜子¹⁾，村田広茂¹⁾，新田 隆，新 博次¹⁾，小川 剛²⁾(¹⁾日本医科大学付属病院内科学第1，²⁾博慈会記念病院): CARTOシステムガイドに至適ペーシング部位を同定し恒久的生理的ペーシングを施行し得た特発性部分的心房静止の1例．第19回臨床不整脈研究会，2007．1．
- 91) 大場良輔，落 雅美，山内仁紫，別所竜蔵，石井庸介，藤井正大，神戸 将，栗田二郎，清水一雄: 94歳の大動脈弁狭窄症に対する大動脈弁置換術．第141回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2007．2．
- 92) 佐々木孝，高橋幸宏¹⁾，安藤 誠¹⁾，和田直樹¹⁾，川瀬康裕¹⁾，朴 仁三²⁾，菊池利夫¹⁾(¹⁾榊原記念病院外科，²⁾同小児科): 小児心臓外科における小口径弁付き導管の検討．第37回日本心臓血管外科学会総会，2007．2．
- 93) 川瀬康裕，安藤 誠¹⁾，佐々木孝¹⁾，和田直樹¹⁾，西山光則²⁾，朴 仁三²⁾，高橋幸宏¹⁾(¹⁾榊原記念病院外科，²⁾同小児科): 心房中隔欠損症のカテーテル治療時にdeviceの脱落を認め外科的除去が必要となった1例．第141回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，2007．2．
- 94) 石井庸介，新田 隆，別所竜蔵，藤井正大，檜山和弘，大森裕也，神戸 将，栗田二郎，落 雅美，清水一雄: 心房細動手術の現況と将来: 簡略化への警鐘．第37回日本心臓血管外科学会総会，2007．2．
- 95) 藤井正大，落 雅美，栗田二郎，神戸 将，大森裕也，檜山和弘，宮城泰雄，石井庸介，別所竜蔵，菅野重人，新田 隆，清水一雄: 多枝血行再建術における右胃大網動脈の活用法．第37回日本心臓血管外科学会総会，2007．2．
- 96) 赤須東樹，五十嵐健人，石川久美，清水一雄: 前頸部の解剖学的特徴に合わせたVANS法の効果的はスコープ操作．第19回吊り上げ法手術研究会，2007．3．
- 97) 吉野直之¹⁾，山岸茂樹¹⁾，窪倉浩俊¹⁾，三上 巖¹⁾，平田知己¹⁾，小泉 潔¹⁾，川本雅司²⁾，清水一雄¹⁾(¹⁾外科学，²⁾病理部): 原発巣不明縦隔リンパ節転移肺癌との関連が示唆された黒色表皮腫の1例．第148回日本肺癌

学会関東部会，2007．3．

98) 中山景介，岡田大輔，小泉 潔，清水一雄：ステロイドパルス療法と放射線治療が奏効した浸潤型胸腺腫の1例．第5回日本臨床腫瘍学会総会，2007．3．

99) 鈴木成治¹⁾，笹島耕二¹⁾，渡辺秀裕¹⁾，宮本昌一¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，丸山 弘¹⁾，松谷 毅¹⁾，土屋喜一¹⁾，津久井拓²⁾，松久威史²⁾，細根 勝³⁾，飯田信也⁴⁾，佐藤雄一⁵⁾，田尻 孝⁴⁾(¹⁾日本医科大学多摩永山病院外科，²⁾同消化器科，³⁾同病理部，⁴⁾外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)，⁵⁾北里大学医療衛生学部遺伝子検査学教室)：胃癌組織におけるMAGE-A10 mRNA・蛋白発現の検討とその臨床応用について．第79回日本胃癌学会総会，2007．3．

100) 清水一雄：パセドウ病に対する再発を起こさない内視鏡補助下手術の検討．第19回日本内視鏡外科学会，2007．12．

(9) ポスター発表：

1) 石井律子^{1,3)}，杉野公則¹⁾，亀山香織²⁾，高橋真帆¹⁾，矢野由希子¹⁾，佐々木裕三¹⁾，大桑恵子¹⁾，平川昭平¹⁾，渋谷 洋¹⁾，長浜充次¹⁾，清水一雄³⁾，伊藤公一¹⁾，伊藤國彦¹⁾(¹⁾伊藤病院，²⁾慶應病院，³⁾日本医科大学内分分泌外科)：Squamous cell carcinoma of the thyroid．Asia Endocrine Surgery (Hong Kong)，2006．3．

(10) 会長要望演題：

1) 藤井正大，栗田二郎，神戸 将，大森裕也，石井庸介，別所竜蔵，菅野重人，新田 隆，落 雅美，清水一雄：ブロッカーによるCABG術後の心房細動予防の検討 OPCAB術直後における超短時間作用型ブロッカーの有効性．第11回日本冠動脈外科学会学術大会，2006．7．

(11) 研究会：

1) 平田知己，竹内真吾，榎本 豊，山岸茂樹，川島徹生，平井恭二，小泉 潔，清水一雄：胸腔鏡手術における縦隔郭清の教室での経験．第8回胸骨正中経路肺癌手術懇話会，2006．4．

(12) 東葛心臓血管外科研究会：

1) 渡邊嘉之¹⁾，山内茂生¹⁾，山田研一¹⁾，岩城秀行¹⁾(¹⁾千葉北総病院胸部心臓血管・呼吸器外科)：急性大動脈解離；上行置換と弓部置換との間に死亡率の差はあるのか．東葛心臓血管外科研究会，2006．6．

[武蔵小杉病院外科 (外科 ， 心臓血管外科)]

研究概要

心臓血管外科領域，呼吸器外科領域，乳腺・甲状腺内分泌外科領域の研究を中心としている．

1) 心臓血管外科領域：開診術周術期における各種薬剤の薬理効果，および有効な心筋保護の確立について取り組んでいる．OPCABを中心とした低侵襲心臓手術法などの手術手技や大動脈外科手術時における補助循環法の研究を行っている．また，高齢者の心大血管症例の術前・術後合併症の管理・治療法について検討し，成績の向上を計っている．末梢動脈・静脈疾患に対する低侵襲診断・治療についても研究中である．

2) 呼吸器外科領域：肺腺腫を除く縦隔腫瘍，転移性肺腫瘍，自然気胸に対してほぼ全例に胸腔鏡下に摘出を試み，肺癌に対しても症例を選んで行っている．特に肺癌症例での胸腔鏡のメリット，デメリットを評価している．また，再発肺癌や2次肺癌の外科治療にも積極的に取り組んでいる．集学的治療にも積極的に取り組んでいる．基礎的研究は肺ブラ・ブレブの病理学的検討を継続的に行っている．

3) 乳腺・甲状腺内分泌外科領域：診断では，MRIを中心とした微細画像診断により，癌の進展形態を評価し，手術方針の決定に役立っている．手術では，乳腺内視鏡手術を中心にし，鏡視下乳房温存手術，乳頭・皮膚保存乳腺全摘術，胸筋温存乳房切除術を行い，センチネルリンパ節生検を行って検証を進めている．化学療法は，外来通院投与を中心に積極的に行い，QOLを高めるよう努力している．また，タキサン系薬剤の化学療法やハーセプチンの抗体療法についての有効性をアボトーシス・サイトカインのレベルで検討する．

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Yamashita K, Shimizu K¹⁾(¹⁾外科学第2): Endoscopic video-assisted breast surgery : Procedures and short-term results . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4): 193-202 .
- 2) Haraguchi S, Koizumi K¹⁾, Hioki M), Hirata T¹⁾, Hirai K¹⁾, Mikami I¹⁾, Kubokura H¹⁾, Enomoto Y¹⁾, Kinoshita H, Shimizu K¹⁾(¹⁾外科学第2): Analysis of risk factors for postpneumonectomy bronchopleural fistulas in patients with lung cancer . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6): 314-319 .
- 3) Yamashita K, Shimizu K¹⁾(¹⁾外科学第2): Video ssisted breast surgery : Reconstruction of more than 33% resected breast . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6): 320-327 .
- 4) Haraguchi S, Hioki M, Koizumi K¹⁾, Hisayoshi T²⁾, Akiyama H¹⁾, Hirai K¹⁾, Mikami I¹⁾, Kubokura H¹⁾, Shimizu K¹⁾(¹⁾日本医科大学外科学第2, ²⁾三鷹中央病院): Characteristics by gender in multiple primary malignancies associated with lung cancer . Respiration 2007 ; 74 : 192-195 .

(2) 症例報告 :

- 1) Haraguchi S, Hioki M, Hisayoshi T¹⁾, Yamashita Y, Sato M²⁾, Koizumi K³⁾, Shimizu K³⁾(¹⁾三鷹中央病院, ²⁾日本医科大学武蔵小杉病院放射線科, ³⁾同外科学第2): Enucleation of esophageal leiomyoma with azygos continuation of the inferior vena cava : Report of a case . Surgery Today 2006 ; 36 (8): 722-726 .

学会発表

(1) シンポジウム :

- 1) 山下浩二 : 「専門領域を超えて」乳腺内視鏡手術VABSの治療成績の検討 . 第19回吊り上げ法手術研究会, 2007 . 3 .

(2) ワークショップ :

- 1) Yamashita K, Shimizu K¹⁾(¹⁾外科学第2): Video-assisted breast surgery : Reconstruction of more than half resected breast . GasLESS 2006 International (Seoul, Korea), 2006 . 10 .
- 2) 山下浩二, 宅島美奈, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 乳腺内視鏡手術VABSによる術前化学療法後の乳房温存療法 . 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006 . 7 .
- 3) 山下浩二, 宅島美奈, 原口秀司, 織井恒安, 山下康夫, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 「進行期乳癌に対する治療戦略」進行乳癌に対する術前化学療法による鏡視下乳房温存術VABSの適応 . 第68回日本臨床外科学会総会, 2006 . 11 .

(3) 一般講演 :

- 1) Yamashita K, Hioki M, Haraguchi S, Shimizu K¹⁾(¹⁾外科学第2): Video-assisted breast surgery (VABS): Reconstruction for more than half resection of the breast . 52nd Annual Congress of the Japan Section of the International College of Surgeons (Tokyo, Japan), 2006 . 6 .
- 2) Yamashita K : Video-assisted breast surgery and sentinel lymph node biopsy guided by 3D-CT lymphography . 10th World Congress of Endoscopic Surgery (Berlin, Germany), 2006 . 9 .
- 3) Yamashita K : Indication of video-assisted breast surgery to preoperative systemic therapy for advanced breast cancer . The Congress of Endoscopic & Laparoscopic Surgeons of Asia (Seoul, Korea), 2006 . 10 .
- 4) Yamashita K, Takushima M, Hioki M, Shimizu K¹⁾(¹⁾外科学第2): Treatment results of inflammatory breast cancer . 18th Annual Congress of Asia-Pacific Endocrine Conference (APEC)(Shiemriup, Cambogia), 2007 . 2 .
- 5) 織井恒安, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 小笠原英継, 山下浩二, 家所良夫, 日置正文, 清水一

- 雄¹⁾(¹⁾外科学第2): A型大動脈解離における脳保護としての選択的脳灌流+arch first法の妥当性. 第36回日本心臓血管外科学会, 2006. 4.
- 6) 原口秀司, 日置正文, 山下浩二, 山下康夫, 宅島美奈, 遠藤直哉, 小泉 潔¹⁾, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 原発性自然気胸において術後再発率は低下したか? 臍側胸膜の補強方法と意義について. 第23回日本呼吸器外科学会総会, 2006. 5.
- 7) 宅島美奈, 遠藤直哉, 川村 純, 山下康夫, 織井恒安, 山下浩二, 原口秀司, 家所良夫, 日置正文: 真性浅側頭動脈瘤の1例. 第34回日本血管外科学会総会, 2006. 5.
- 8) 山下浩二, 宅島美奈, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): Safety cut of mammary gland by traction method with supportive thread. 第19回乳腺内視鏡手術研究会, 2006. 7.
- 9) 保科淑子, 織井恒安, 富田剛志, 遠藤直哉, 宅島美奈, 木下裕康, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 細菌性心内膜炎術後遠隔期に細菌性大腿動脈瘤を生じた1例. 第802回外科集談会, 2006. 9.
- 10) 原口秀司, 小泉 潔¹⁾, 日置正文, 平田知己¹⁾, 平井恭二¹⁾, 三上 巖¹⁾, 窪倉浩敏¹⁾, 吉野直之¹⁾, 岡田大輔¹⁾, 川島徹夫¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 肺癌重複癌例の臨床背景の検討: 肺癌単独例との差について. 第65回日本肺学会学術総会, 2006. 9.
- 11) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 宅島美奈, 木下裕康, 山下康夫, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文: 多発性骨髄腫を伴った急性A型解離の1例. 第139回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 2006. 9.
- 12) 木下裕康, 原口秀司, 遠藤直哉, 山下浩二, 織井恒安, 宅島美奈, 保科淑子, 富田剛志, 松本光司¹⁾, 柳本邦雄¹⁾, 日置正文, 清水一雄²⁾(¹⁾武蔵小杉病院病理部, ²⁾外科学第2): 胸腺発生多計型脂肪肉腫の1例. 第802回外科集談会, 2006. 9.
- 13) 原口秀司, 小泉 潔¹⁾, 平田知己¹⁾, 平井恭二¹⁾, 三上 巖¹⁾, 窪倉浩敏¹⁾, 山岸茂樹¹⁾, 川島徹夫¹⁾, 木下裕康, 吉野直之¹⁾, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 肺摘除術後気管支断端瘻の危険因子の再検討. 第47回日本肺癌学会総会, 2006. 10.
- 14) 山下浩二, 宅島美奈, 原口秀司, 織井恒安, 山下康夫, 遠藤直哉, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): DCISなどの早期多発乳癌に対する乳腺内視鏡手術および同時再建法の応用と治療成績. 第44回日本癌治療学会総会, 2006. 10.
- 15) 山下浩二, 宅島美奈, 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 織井恒安, 木下裕康, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 原発性副甲状腺機能亢進症と乳癌と腹部大動脈瘤の合併. 第39回日本甲状腺外科学会学術集会, 2006. 10.
- 16) 織井恒安, 遠藤直哉, 宅島美奈, 川村 純, 山下康夫, 小笠原英継, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 高齢者における後腹膜到達法による腹部大動脈瘤手術成績の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 17) 遠藤直哉, 織井恒安, 富田剛志, 保科淑子, 宅島美奈, 木下裕康, 山下康夫, 山下浩二, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 両側総腸骨動脈瘤に対し後腹膜アプローチによりYグラフト置換術を施行した1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 18) 富田剛志, 遠藤直哉, 保科淑子, 宅島美奈, 岩城秀行, 織井恒安, 家所良夫, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): A型解離術後遠隔期の下肢バイパスグラフト感染の1治療例. 第14回日本心臓血管外科学会関東甲信越地方会, 2006. 11.
- 19) 山下浩二, 宅島美奈, 山下康夫, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 乳腺内視鏡手術VABS 150例の長期治療成績の検討. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 2006. 12.
- 20) 山下浩二, 宅島美奈, 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 木下裕康, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文, 清水一雄¹⁾(¹⁾外科学第2): 皮膚潰瘍形成の局所進行乳癌に対する治療成績. 第3回日本乳癌学会関東地方会, 2006. 12.
- 21) 宅島美奈, 山下浩二, 保科淑子, 富田剛志, 遠藤直哉, 木下裕康, 岩城秀行, 織井恒安, 原口秀司, 日置正文: 巨大良性腫瘍に対する乳腺内視鏡手術の1例. 第19回吊り上げ法手術研究会, 2007. 3.

11. 脳神経外科学講座

[付属病院脳神経外科]

研究概要

平成18年度当教室における論文業績は英文31編、和文14編の計45編であった。英文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍18編、他の脳腫瘍2件、脳血管障害3件、脊髄3編、外傷3編、その他2編であり、基礎的研究8編、臨床的研究23編であった。一方、和文論文の分野別内訳は、下垂体腫瘍8編、他の脳腫瘍3編、脳血管障害3編であり、これらは臨床的研究のみであった。これに、分担著書として和文33編が加わる。学会発表は232回あり、国内国際学会は31回であった。一方、研究補助金に関しては、文部科学省科学研究費を7件、厚生労働省科学研究費を2件取得している。

当教室の基礎的な研究グループは、下垂体、悪性脳腫瘍、血管障害、神経外傷の4つに分かれている。また、治療を主体とした横断的なグループとしては、血管内治療、神経内視鏡、バイパス手術や脊髄・脊椎等のグループが活動している。下垂体腫瘍は教室最大のテーマであるため、研究者も多く基礎の教室や老人病研究所、さらには他の大学との関連が深く、従って業績も最も多い。この分野は引き続き、本邦をリードする基礎および臨床的研究業績を重ねていきたい。他の脳腫瘍については、教室で永年取り組んできた悪性脳腫瘍の化学療法の基礎的、臨床的研究に加えて、症例報告がいくつかみられた。一方、脳血管障害や神経外傷は臨床面での活動は盛んであるが、業績、特に英文論文業績が不十分であるといわざるを得ない。

さらに、少数ではあるが日常臨床の知見をまとめて報告している教室員もあり、症例報告を含めて臨床的研究についても進めていく予定である。また、最近脊髄グループの活躍が目立っている。

脳神経外科という極めて多忙な診療活動をかかえながらも教室員には年1編以上の論文投稿（審査有のもの）と助教以上には科研費応募を義務としている。平成16年から実施された卒後臨床研修制度のため2年間はいわゆる入局がない状況の下、教室員は診療、研究、教育上の活動にかなりの制限を受けている。この2年間に受けたダメージは大きい、数年かけて回復していきたいと考えている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Chihara K¹⁾, Kato Y²⁾, Kohno H³⁾, Takano K⁴⁾, Tanaka T⁵⁾, Teramoto A, Shimatsu A⁶⁾ (¹⁾ Division of Endocrinology, Metabolism, Hematology and Oncology, Department of Clinical Molecular Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine, ²⁾ Division of Endocrinology, Metabolism, Hematology and Oncology, Shimane University, ³⁾ Department of Endocrinology and Metabolism, Fukuoka Children's Hospital, ⁴⁾ Department of Internal Medicine 2, Tokyo Women's Medical University School of Medicine, ⁵⁾ Division of Endocrinology and Metabolism, National Center for Child Health and Development, ⁶⁾ Clinical Research Center for Endocrine and Metabolic Disease, Kyoto Medical Center): Efficacy and safety of growth hormone (GH) in the treatment of adult Japanese patients with GH deficiency : A randomised, placebo-controlled study . Growth Horm IGF Res 2006 ; 16 (2): 132-142 .
- 2) Wang N¹⁾, Sugama S¹⁾, Conti B²⁾, Teramoto A, Shibasaki T¹⁾ (¹⁾ Department of Physiology, Nippon Medical School, ²⁾ Harold L. Dorris Neurological Research Center, Molecular and Integrative Neuroscience Department, The Scripps Research Institute): Interleukin-18 mRNA expression in the rat pituitary gland . J Neuroimmunol 2006 ; 173 (1-2): 117-125 .
- 3) Matsuno A¹⁾, Mizutani A, Takekoshi S, Itoh J²⁾, Okinaga H³⁾, Nishina Y³⁾, Takano K, Nagashima T⁴⁾,

- Osamura RY⁵), Teramoto A (¹) Department of Neurosurgery, Teikyo University Ichihara Hospital , ²) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo , ³) Department of Nephrology and Endocrinology, University of Tokyo Faculty of Medicine , ⁴) Department of Obstetrics and Gynecology, Keio University School of Medicine , ⁵) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine): Analyses of the mechanism of intracellular transport and secretion of pituitary hormone, with an insight of the subcellular localization of pituitary hormone and its mRNA . *Brain Tumor Pathol* 2006 ; 23 (1): 1-5 .
- 4) Hanew K ¹) , Tachibana K²) , Yokoya S , Fujieda K³) , Tanaka T⁴) , Igarashi Y⁵) , Shimatsu A⁶) , Tanaka H⁷) , Tanizawa T⁸) , Teramoto A , Nishi Y⁹) , Hasegawa Y¹⁰) , Hizuka N¹¹) , Hirano T¹²) , Fujita K¹³) (¹) Second Department of Internal Medicine, Tohoku University School of Medicine , ²) Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Osaka University , ³) Department of Pediatrics, Asahikawa Medical College , ⁴) Department of Anesthesia, Fujimura Hospital , ⁵) Niigata University Graduate School of Medical and Dental Sciences , ⁶) National Hospital Organization Kyoto Medical Center , ⁷) Division of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Kobe University Graduate School of Medicine. , ⁸) Kochi National College of Technology , ⁹) Totoku Electric Co., Ltd., R & D Center , ¹⁰) Department of Respiratory Medicine, Clinical Oncology Medicine, Osaka City General Hospital , ¹¹) Department of Medicine, Institute of Clinical Endocrinology, Tokyo Women's Medical University ¹²) First Department of Internal Medicine, Showa University School of Medicine ¹³) Department of Otolaryngology, Ehime University School of Medicine): Clinical characteristics, etiologies and pathophysiology of patients with severe short stature with severe GH deficiency : questionnaire study on the data registered with the foundation for growth science . *Endocr J* 2006 ; 53 (2): 259-265 .
- 5) Saito N¹) , Yamazaki M¹) , Kobayashi S²) , Teramoto A (¹) Department of Neurosurgery, Nagareyama Central Hospital , ²) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital): Resection of arteriovenous malformation in a patient with hemophilia type A . *Neurol Med Chir* 2006 ; 46 (4): 191-193 .
- 6) Tamaki T¹) , Node Y¹) , Yamamoto Y²) , Teramoto A (¹) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital , ²) Department of Emergency and Critical Care Medicine): Cardiopulmonary hemodynamic changes during acute subdural hematoma evacuation . *Neurol Med Chir* 2006 ; 46 (5): 219-224 .
- 7) Yoshida D¹) , Kim K²) , Noha M³) , Teramoto A (¹) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital , ²) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , ³) Department of Neurosurgery, Okinawa Red Cross Hospital): Anti-apoptotic action by hypoxia inducible factor 1-alpha in human pituitary adenoma cell line, HP-75 in hypoxic condition . *J Neurooncol* 2006 ; 78 (3): 217-225 .
- 8) Tamaki T¹) , Saito N¹) , Node Y¹) , Sawada K¹) , Teramoto A (¹) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama nagayama Hospital): Internal carotid artery stenosis due to atherosclerotic plaque damage after whiplash injury . *J Nippon Med Sch* 2006 ; 73 (3): 154-157 .
- 9) Weber F¹) , Shen L¹) , Fukino K , Patocs A¹) , Mutter GL¹) , Caldes T¹) , Eng C¹) (¹) Genomic Medicine Institute and Lerner Research Institute, Cleveland Clinic Foundation): Total-genome analysis of BRCA1/2-related invasive carcinomas of the breast identifies tumor stroma as potential landscaper for neoplastic initiation . *Am J Hum Genet* 2006 ; 78 (6): 961-972 .
- 10) Taoda T¹) , Hara Y¹) , Takekoshi S²) , Itoh J³) , Teramoto A , Osamura RY²) , Tagawa M⁴) (¹) Division of Veterinary Surgery, Nippon Veterinary and Animal Science University , ²) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , ³) Graduate School of Agricultural and Life Sciences, The University of Tokyo ,

- 4) Department of Cardiology, Nagaoka Chuo General Hospital): Effect of mitotane on pituitary corticotrophs in clinically normal dogs . *Am J Vet Res* 2006 ; 67 (8) : 1385-1394 .
- 11) Oyama K¹⁾, Yamada S¹⁾, Usui M¹⁾, Kovacs K¹⁾ : Sellar neuroblastoma mimicking pituitary adenoma . *Pituitary* 2006 ; 8 (2) : 109-114 .
- 12) Morimoto D , Yoshida D , Noha M¹⁾, Suzuki M , Osamura RY²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Okinawa Red Cross Hospital , ²⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : Phosphorylation of cAMP response element binding protein (CREB) as a marker of hypoxia in pituitary adenoma . *J Neurooncol* 2006 ; 79 (2) : 143-150 .
- 13) Terao K , Kikuchi N¹⁾, Sato T²⁾, Teramoto A , Fujiki M³⁾, Dobashi T⁴⁾ (¹⁾ Division of Respiratory Medicine, Institute of Clinical Medicine, University of Tsukuba , ²⁾ Division of Oral Health Sciences, Graduate School, Tokyo Medical and Dental University , ³⁾ Department of Veterinary Surgery, Kagoshima University , ⁴⁾ Departments of Biological and Chemical Engineering and Physics, Faculty of Engineering, Gunma University) : Circular dichroism of optically active poly (dialkylsilane) aggregates in microcapsules . *Langmuir* 2006 ; 22 (19) : 7975-7980 .
- 14) Yoshida D¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital) : Enhancement of pituitary adenoma cell invasion and adhesion is mediated by discoidin domain receptor-1 . *J Neurooncol* 2006 ; 79 (3) : 324-331 .
- 15) Katsuno M¹⁾, Yokota H²⁾, Yamamoto Y³⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurology, Nagoya University Graduate School of Medicine , ²⁾ Department of Ophthalmology, Asahikawa Medical College , ³⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Increased regional interleukin-4 during the acute stage of severe intracranial disorders . *Neurol Med Chir* 2006 ; 46 (10) : 471-474 .
- 16) Sanno N¹⁾, Tahara S , Takei M , Teramoto A (¹⁾ Sanno Clinic) : Effect of Octreotide in headache associated with acromegaly . *Growth hormone & IGF Research* 2006 ; 16 (2) : S53 .
- 17) Oyama K¹⁾, Yamada S¹⁾, Hukuhara N¹⁾, Hiramatsu R¹⁾, Taguchi M¹⁾, Yazawa M¹⁾, Matsuda A¹⁾, Ohmura E¹⁾, Imai Y¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital) : FSH-producing macroadenoma associated in a patient with Cushing's disease . *Neuro Endocrinol Lett* 2006 ; 27 (6) : 733-736 .
- 18) Node Y¹⁾, Tamaki T¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama nagayama Hospital) : Clinical Features in the patients with Platform Accident in Tokyo . *Minimally Invasive Neurosurgery and Multidisciplinary Neurotraumatology* 2006 ; 391-396 .
- 19) Ishii Y , Suzuki M , Takekoshi S¹⁾, Egashira N¹⁾, Yamazaki M , Miyai S¹⁾, Sanno N²⁾, Teramoto A , Osamura RY¹⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, Japan , ²⁾ Sanno Clinic) : Immunonegative "null cell" adenomas and gonadotropin (Gn) subunit (SUs) immunopositive adenomas share frequent expression of multiple transcription factors . *Endocr Pathol* 2006 ; 17 (1) : 35-44 .
- 20) Minematsu T¹⁾, Suzuki M , Sanno N , Takekoshi S , Teramoto A , Osamura RY²⁾ (¹⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , ²⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine) : PTTG overexpression is correlated with angiogenesis in human pituitary adenomas . *Endocr Pathol* 2006 ; 17 (2) : 143-153 .
- 21) Suzuki M¹⁾, Minematsu T²⁾, Oyama K , Tahara S , Miyai S²⁾, Sanno N³⁾, Osamura RY²⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Biology, Faculty of Science, Shizuoka University , ²⁾ Department of Pathology, Tokai University School of Medicine , ³⁾ 山王クリニック) : Expression of proliferation markers in human pituitary incidentalomas . *Endocr Pathol* 2006 ; 17 (3) : 263-275 .
- 22) Bao Y , Yoshida D¹⁾, Morimoto D²⁾, Teramoto A (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科 , ²⁾ 千葉北総病院脳神経外

- 科): Expression of laminin beta2 : a novel marker of hypoxia in pituitary adeno . Endocr Pathol 2006 ; 17 (3): 251-261 .
- 23) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Sugawara A²⁾, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital , ²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital): Anterior decompression via a wide transvertebral approach and a ceramic insert in a patient with cervical degenerative disease . Surg Neurol 2007 ; 62 (2): 127-133 .
- 24) Yamaguchi F , Takahashi H¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Photodiagnosis for frameless stereotactic biopsy of brain tumor . Photodiagnosis and Photodynamic Therapy 2007 ; 4 (1): 71-75 .
- 25) 山崎道生, 寺本 明: 性腺刺激ホルモン分泌下垂体腺腫 . 日本臨床 2006 ; 64 (4): 189-193 .
- 26) 杉山 誠¹⁾, 寺本 明(¹⁾ 東日本循環器病院脳神経センター脳神経外科): Nelson 症候群 . 日本臨床 2006 ; Suppl (1): 119-121 .
- 27) 寺本 明: Cushing 病 . 日本臨床 2006 ; Suppl (1): 115-118 .
- 28) 竹井麻生, 長村義之¹⁾(¹⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 下垂体内ガングリオサイトーマ . 日本臨床 2006 ; Suppl (1): 162-166 .
- 29) 大山健一¹⁾, 山田正三¹⁾, 福原紀章¹⁾, 甲賀智之¹⁾, 田口 学¹⁾, 竹下 章¹⁾, 竹内靖博¹⁾(¹⁾ 虎の門病院下垂体外科): 当院内内分泌センターにおける先端巨大症の治療成績 . 日本内分泌会誌 2006 ; 82 (Suppl): 103-105 .
- 30) 大山健一¹⁾, 山田正三¹⁾, 福原紀章¹⁾, 甲賀智之¹⁾, 田口 学¹⁾, 竹下 章¹⁾, 竹内靖博¹⁾, 佐野壽昭¹⁾(¹⁾ 虎の門病院下垂体外科): Pituitary adenoma-adenohypophyseal neuronal choristoma (PANCH) の1例 . 日本内分泌会誌 2006 ; 82 (Suppl): 16-17 .
- 31) 山口文雄, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明(¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 5-ALA 蛍光ガイド下摘出術 . 脳と神経 2006 ; 58 (12): 1027-1033 .
- 32) 高橋 弘¹⁾, 寺本 明(¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 脳血管障害; 脳出血, 脳梗塞 . 成人病と生活習慣病 2006 ; 36 (12): 1475-1478 .
- 33) 山口文雄, 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 小島豊之²⁾, 寺本 明(¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ画像診断センター脳神経外科): 脳腫瘍手術における白質線維モニタリング . Neuro Oncology 2007 ; 16 (1): 36-38 .
- 34) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明(¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 脳血栓症における頸部動脈硬化とPWV . Arterial Stiffness 2007 ; 11 : 72-73 .
- (2) 綜説:
- 1) 高橋 弘¹⁾(¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): Journal and book review ; Neuroimaging-detected late transient treatment-induced lesions in pediatric patients with brain tumors . 小児の脳神経 2006 ; 31 (4): 3332-3337 .
- 2) 大山健一¹⁾, 寺本 明(¹⁾ 虎の門病院下垂体外科): 下垂体偶発腫 . 日本臨床 2006 ; Suppl (1): 167-171 .
- 3) 大山健一¹⁾, 山王なほ子²⁾, 田原重志, 寺本 明(¹⁾ 虎の門病院下垂体外科, ²⁾ 山王クリニック): 無症候性下垂体腫瘍 . Medical Science Digest 2006 ; 132 (8): 312-313 .
- 4) 吉田陽一¹⁾(¹⁾ 荏原病院): 脳動静脈奇形 . 小児内科 2006 ; 38 (増刊号): 682-683 .
- (3) 症例報告:
- 1) Miyamoto M¹⁾, Kim K²⁾, Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾, Isu T¹⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital , ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital): Utility of preoperative magnetic resonance imaging myelography for identifying dural defects in patients with spinal extradural arachnoid cysts . Neurosurgery 2006 ; 59 (4): 941-941 .
- 2) Kim K¹⁾, Isu T²⁾, Matsumoto R²⁾, Isobe M²⁾, Kogure K¹⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical

School Chiba Hokuso Hospital, ²⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital): Surgical pitfalls of an ultrasonic bone curette (SONOPET) in spinal surgery. Neurosurgery 2006; 59 (Suppl): 390-393.

著書

- 1) 野手洋治¹⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): [分担] 脳膿瘍, 肺動静脈瘤. Clinical Neuroscience, 2006; pp477-478, 中外医学社.
- 2) 山王直子¹⁾, 田原重志, 寺本 明(¹⁾山王クリニック): [分担] その他の補助検査法 内分泌検査. 脳神経外科学大系第2巻 検査・診断法(山浦 晶総編集), 2006; pp433-439, 中山書店.
- 3) 福地孝明¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): [自著] Stroke Care Unit (SCU)の現状と将来の展望. 日集中医誌, 2006; pp411-416, 日本集中治療学会.
- 4) 玉置智規¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz Reversible posterior leukoencephalopathy syndrome (RPLS). Clinical Neuroscience, 2006; pp601-602, 中外医学社.
- 5) 喜多村孝幸: [自著] 脳脊髄液減少症: 疾患概念と病態に関する最新知見. 脊椎脊髄ジャーナル, 2006; pp322-328, 三輪書店.
- 6) 小島豊之¹⁾, 秋山一義¹⁾, 中条秀信¹⁾, 喜多村孝幸, 寺本 明(¹⁾四谷メディカルキューブ画像診断センター): [共著] 脳脊髄液減少症: 画像診断のポイント. 脊椎脊髄ジャーナル, 2006; pp334-340, 三輪書店.
- 7) 浜西千秋¹⁾, 篠永正道²⁾, 土井 浩³⁾, 喜多村孝幸(¹⁾近畿大学医学部整形外科, ²⁾国際医療福祉大学附属熱海病院脳神経外科, ³⁾財団法人東京都保健医療公社荏原病院脳神経外科): [座談会] 低髄液圧症候群(脳脊髄液減少症)は本当に外傷により発生するのか?. 脊椎脊髄ジャーナル, 2006; pp386-395, 三輪書店.
- 8) 寺本 明: [雑文] 神経内視鏡手術の現状. 日医ニュース, 2006; pp4-4, 日本医師会.
- 9) 足立好司: [分担] Neuroimaging Quiz 結核腫. Clinical Neuroscience, 2006; pp705-706, 中外医学社.
- 10) 寺本 明: [自著] 手術療法. インフォームドコンセントのための図解シリーズ 先端巨大症(千原和夫編集), 2006; pp30-35, 医薬ジャーナル社.
- 11) 戸田茂樹: [分担] Neuroimaging Quiz 環軸椎脱臼 atlanto-axial dislocation (AAD), basilar impression. Clinical Neuroscience, 2006; pp827-828, 中外医学社.
- 12) 寺本 明, 栗本真紀子¹⁾(¹⁾東京女子医科大学第二内科): [対談] 日常診療から見つけるアクロメガリー(先端巨大症). 日本医事新報, 2006; ppC1-C3, 日本医事新報社.
- 13) 寺本 明, 山田和雄¹⁾(¹⁾名古屋市立大学脳神経外科): [対談] 私の手術論. 脳神経外科速報, 2006; pp685-692, メディカ出版.
- 14) 大山健一¹⁾, 田原重志, 山王なほ子²⁾, 寺本 明(¹⁾虎ノ門病院, ²⁾山王クリニック): [自著] 無症候性下垂体腫瘍. Medical Science Digest, 2006; pp312-313, ニュー・サイエンス社.
- 15) 高橋 弘¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz 脳梗塞を伴う成人もやもや病. Clinical Neuroscience, 2006; pp1055-1056, 中外医学社.
- 16) 吉田大蔵¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz 慢性硬膜下血腫術後の中脳出血. Clinical Neuroscience, 2006; pp1167-1168, 中外医学社.
- 17) 山王直子¹⁾(¹⁾山王クリニック): [分担] 下垂体疾患. 内科学XII内分泌疾患(8)(金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男総編集), 2006; pp2123-2125, 医学書院.
- 18) 玉置智規¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz MTXによる播種性壊死性脳症. Clinical Neuroscience, 2006; pp1276-1278, 中外医学社.
- 19) 寺本 明: [監修] 成人成長ホルモン分泌不全症の臨床(千原和夫, 寺本 明, 藤枝憲二監修), 2006; メディカルレビュー社.
- 20) 寺本 明: [自著] 経蝶形骨下垂体手術のコツとピットフォール. 脳腫瘍の外科 脳腫瘍手術の進歩と限界(田

- 淵和雄編集), 2006 ; pp180-184 , メディカ出版 .
- 21) 高橋 弘¹⁾, 山口文雄, 寺本 明 (¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): [分担] 小児悪性グリオーマの治療戦略 特
にテント上と脳幹部について . 脳腫瘍の外科 (田淵和雄編集), 2006 ; pp78-83 , メディカ出版 .
 - 22) 寺本 明 : [雑文] 慢性硬膜下血腫 . 暮しと健康 , 2006 ; pp79-79 , 保健同人社 .
 - 23) 寺本 明 : [自著] 下垂体腫瘍の概念・定義 . 最新医学別冊 新しい診断と治療の ABC 43 / 内分泌3 機能性下
垂体腫瘍 (千原和夫編集), 2006 ; pp9-14 , 最新医学社 .
 - 24) 寺本 明 : [自著] 脳下垂体腫瘍の治療戦略 . Clinical Neuroscience , 2006 ; pp1376-1378 , 中外医学社 .
 - 25) 江頭 登¹⁾, 竹井麻生, 長村義之¹⁾ (¹⁾ 東海大学基盤診療学系病理診断学): [共著] 下垂体腺腫と転写因子 .
最新医学 別冊 新しい診断と治療の ABC 43 / 内分泌3 機能性下垂体腫瘍 , 2006 ; pp30-37 , 最新医学社 .
 - 26) 志村俊郎¹⁾, 唐沢信安, 石川康悦, 寺本 明 (¹⁾ 教育推進室): [共著] 野口英世と済生学舎で同級であった石
川康悦医師の残した写真と試験問題について . 日本医史学雑誌 , 2006 ; pp82-83 , 日本医科大学 .
 - 27) 寺本 明 : [編集] 特集 : 下垂体腫瘍の診断と治療 最近の動向 . Medical Science Digest (寺本 明編集),
2007 ; ニュー・サイエンス社 .
 - 28) 寺本 明 : [自著] 下垂体腫瘍の診断と治療 総論にかえて . Medical Science Digest , 2007 ; pp652-653 , ニュ
ー・サイエンス社 .
 - 29) 田原重志 : [自著] 成人成長ホルモン分泌不全症の治療 . Medical Science Digest , 2007 ; pp681-685 , ニュ
ー・サイエンス社 .
 - 30) 田原重志, 石井雄道, 喜多村孝幸, 寺本 明 : [自著] 内視鏡下経蝶形骨手術の進歩 . Medical Science Digest ,
2007 ; pp671-675 , ニュー・サイエンス社 .
 - 31) 山王直子¹⁾, 田原重志, 寺本 明 (¹⁾ 山王クリニック): [自著] 下垂体腫瘍の診断と外科的治療 : 最新の進歩 .
Annual Review 糖尿病・代謝・内分泌 (金澤泰徳編集), 2007 ; pp169-177 , 中外医学社 .
 - 32) 寺本 明 : [エッセイ] 経鼻的下垂体手術の歴史 . Blanca Diosa , 2007 ; ZLA ベーリング株式会社 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Shimura T , Teramoto A , Yoshimura A : Lecture evaluation by students at a private medical school in
Japan . The 12th International Ottawa Conference on Clinical Competence (New York, USA), 2006 . 5 .
- 2) Teramoto A : Recent Management of Pituitary Adenomas . The 40th Anniversary Meeting of the Relation-
ship between Chiang Mai University and Nippon Medical School (Chiangmai, Thai), 2006 . 7 .
- 3) Teramoto A : Endoscopic pituitary surgery . The 40th Anniversary Meeting of the Relationship between
Chiang Mai University and Nippon Medical School (Chiangmai, Thai), 2006 . 7 .
- 4) Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Modern
therapeutic strategies for malignant glioma . The 40th Anniversary Meeting of the Relationship between Chi-
ang Mai University and Nippon Medical School (Chiangmai, Thai), 2006 . 7 .
- 5) Takahashi H¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Usefulness
of NMR based metabolomics for the prognostic factor of meningioma . 2006 Conference of Asia Acade-
mic Neurosurgeons (Shanghai, China), 2006 . 11 .
- 6) 寺本 明 : 脳のホルモンとその病気 . 第1回脳神経市民公開講座 , 2006 . 5 .
- 7) 寺本 明 : 成人GHDを来たす脳外科疾患 . Lilly International Web Conference 「成人成長ホルモン分泌不全
症治療における治療連携」 , 2006 . 6 .
- 8) 寺本 明 : 脳下垂体の病気及び , アクロメガリーの説明 . 市民公開講座 脳下垂体の病気とアクロメガリーの
治療のいま , 2006 . 6 .

- 9) 寺本 明：下垂体疾患における成長ホルモン分泌不全症．成人成長ホルモン分泌不全症治療講演会，2006．9．
- 10) 寺本 明：経蝶形骨下垂体手術1,800例における合併症．第100回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会，2006．9．
- 11) 寺本 明：下垂体腫瘍の治療 最近の話題．第101回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会，2006．11．
- 12) 高橋 弘¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科)：NMRメタボロミクスは良性脳腫瘍の悪性化を予測できる．第2回日本医科大学医用磁気共鳴施設公開セミナー，2007．2．
- (2) 教育講演：
- 1) 寺本 明：下垂体外科の今日的意義．第33回日本神経内分泌学会学術集会，2006．10．
- 2) 小南修史¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：硬膜AVFに対するNBCA塞栓術．第22回日本脳神経血管内治療学会総会，2006．11．
- (3) 基調講演：
- 1) 寺本 明：下垂体疾患における成長ホルモン分泌不全症．「成人成長ホルモン分泌不全症治療」適応症追加報告会，2006．7．
- 2) 寺本 明：下垂体疾患における成長ホルモン分泌不全症．「成人成長ホルモン分泌不全症治療」適応症追加報告会，2006．10．
- 3) 田原重志，喜多村孝幸，石井雄道，竹井麻生，山王直子，小島豊之¹⁾，寺本 明(¹⁾四谷メディカルキューブ画像診断センター)：下垂体腫瘍に対する内視鏡下経鼻的手術の治療成績と合併症 顕微鏡手術と比較して．第65回日本脳神経外科学会総会，2006．10．
- (4) シンポジウム：
- 1) 水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：Basilar bifurcation aneurysmに対するanterior temporal approachのapproach sideの選択．第15回脳神経外科手術と機器学会，2006．4．
- 2) 寺本 明：感情障害と認知障害．第15回日本脳ドック学会総会，2006．6．
- 3) 山口文雄，小島豊之¹⁾，高橋 弘²⁾，寺本 明(¹⁾四谷メディカルキューブ脳神経外科，²⁾日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科)：ニューロナビゲーターの限界と有効的利用 グリオーマ手術における問題点と対処法．第65回日本脳神経外科学会総会，2006．10．
- 4) 喜多村孝幸，田原重志，寺本 明：神経内視鏡手術におけるビデオスコープの出現とその有用性．第65回日本脳神経外科学会総会，2006．10．
- 5) 吉田大蔵¹⁾，寺本 明(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科)：下垂体腺腫におけるDiscoidin domain receptor 1 (DDR1)発現の腫瘍浸潤における生物学的意義に関する研究．第10回日本内分泌病理学会学術総会，2006．11．
- 6) 竹井麻生，梶谷華子¹⁾，江頭 登¹⁾，鈴木雅規，石井雄道，田原重志，竹腰 進¹⁾，寺本 明，長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部基盤診療学系病理診断学)：下垂体GH産生腺腫におけるソマトスタチンレセプター(SSTRs)の検出とOctreotideによる治療効果についての分子病理学的検討．第10回日本内分泌病理学会学術総会，2006．11．
- 7) 田原重志，喜多村孝幸，石井雄道，竹井麻生，寺本 明：Balancing point setterを用いた内視鏡下経鼻経蝶形骨手術．第13回日本神経内視鏡学会，2006．11．
- 8) 喜多村孝幸，田原重志，石井雄道，寺本 明：新たな軟性鏡(ビデオスコープ)の有用性．第13回日本神経内視鏡学会，2006．11．
- 9) 大山健一¹⁾，山田正三¹⁾，福原紀章²⁾，甲賀智之²⁾，中富浩文²⁾，臼井雅昭²⁾(¹⁾虎の門病院間脳下垂体外科，²⁾同脳神経外科)：巨大下垂体腺腫に対する内視鏡単独拡大経蝶形骨洞手術．第13回日本神経内視鏡学会，2006．11．
- 10) 喜多村孝幸：低髄液圧性頭痛の診断と治療の問題点．第34回日本頭痛学会総会，2006．11．

- 11) 山口文雄, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ (武蔵小杉病院脳神経外科): 錐体路近傍腫瘍手術におけるモニタリングの問題点と対処法. 第11回日本脳腫瘍の外科学会, 2006. 12.
- 12) 喜多村孝幸: 「脳脊髄液減少症」の診断基準. 日本賠償科学会第49回研究会, 2006. 12.
- (5) セミナー:
- 1) 寺本 明: 私の手術器具セットアップ 下垂体腫瘍. 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006. 4.
 - 2) 戸田茂樹: m-cage SRの臨床報告. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
 - 3) 喜多村孝幸: 第7回神戸頭痛セミナー. 第7回神戸頭痛セミナー, 2006. 7.
 - 4) 渡邊 玲¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): condylar confluenceのdural AVF3例. 第7回脳神経血管内治療琉球セミナー, 2006. 7.
 - 5) 金 景成¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): クモ膜下出血を来した頸椎硬膜動静脈瘻の1例. 第82回東葉臨床医学セミナー, 2006. 7.
 - 6) 喜多村孝幸: 頭痛治療のトピックス. 日本ペインクリニック学会第40回大会ランチョンセミナー5, 2006. 7.
 - 7) 山王直子¹⁾(¹⁾ 山王クリニック): メタボリックシンドロームは誰にでも克服できる. 横須賀法人会婦人部会特別セミナー, 2006. 8.
 - 8) 寺本 明: 成人GHDの治療. 第40回日本小児内分泌学会学術集会ランチョンセミナー, 2006. 9.
 - 9) 田原重志: 内視鏡下経鼻蝶形骨手術の基本手技. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
 - 10) 渡邊 玲¹⁾, 小南修史¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 会心の一撃: 急性硬膜下血腫で発症したAVMの1例. 第20回西関東Neuro IVR セミナー, 2006. 12.
 - 11) 寺本 明: 下垂体腫瘍治療の現状と今後の課題. 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会イブニングセミナー, 2007. 2.
 - 12) 寺本 明: 成人GHDを満たす脳外科疾患. 脳研セミナー, 2007. 3.
- (6) ワークショップ:
- 1) 渡邊 玲¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): t-PA治療症例の現状および傾向. 第25回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2006. 8.
 - 2) 齊藤寛浩¹⁾, 佐藤 章¹⁾, 梅岡 克哉, 酒井直之, 寺本 明⁽¹⁾ 埼玉医科大学脳神経外科脳卒中センター): アテローム血栓症に対する急性期血行再建術perfusionCTの活用. 第25回The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2006. 8.
- (7) 海外留学者講演:
- 1) 吹野晃一¹⁾(¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): Combined total genome loss-of-heterozygosity scan of breast cancer stroma and epithelium reveals multiplicity of stromal targets. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- (8) 一般講演:
- 1) Yamaguchi F, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Intraoperative mapping of pyramidal tract utilizing new bipolar electrode NY Tract Finder. The 74th American Association of Neurological Surgeons Annual Meeting (San Francisco, USA), 2006. 4.
 - 2) Yoshida D¹⁾, Morimoto D, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Cell Invasion and Adhesion of Pituitary Adenoma Cell Mediated by Discoidin Domain Receptor-1 to Matrix Metalloproteinase-2 and -9 pathway. The 74th American Association of Neurological Surgeons Annual Meeting (San Francisco, USA), 2006. 4.
 - 3) Kitamura T, Sato S, Teramoto A: An assessment of support tool for migraine treatment, fame (Formula assessment for migraineurs). The 8th European Headache Federation Congress (Valencia, Spain), 2006. 4.
 - 4) Kitamura T: An assessment of support tool for migraine treatment, fame (Formula assessment for migraineurs). Practical Courses on Neuroendoscopy and Neuronavigation (Hannover, Germany), 2006. 5.

- 5) Mishina M¹⁾, Ishii K²⁾, Kitamura S³⁾, Kimura Y²⁾, Naganawa M²⁾, Hashimoto M²⁾, Suzuki M²⁾, Oda K²⁾, Hamamoto M³⁾, Kobayashi S¹⁾, Katayama Y³⁾, Ishiwata K²⁾(¹⁾Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Distribution of adenosine A2A receptors in de novo Parkinson's disease using TMSX PET ?a preliminary study?. Targeting Adenosine A2A Receptors in Parkinson's Disease and other CNS Disorders (Boston, USA), 2006 . 5 .
- 6) Oyama K¹⁾, Yamada S¹⁾, Koga T, Hukuhara N, Taguchi M, Takeshita A, Takeuchi Y (¹⁾Department of Neurosurgery, Toranomon Hospital): The surgical outcome of 306 acromegalies in our endocrine center . 88th Annual Meeting of the Endocrine Society (Boston, USA), 2006 . 6 .
- 7) Mishina M¹⁾, Ishii K²⁾, Kitamura S³⁾, K1 S¹⁾, Ishiwata K²⁾, Katayama Y³⁾(¹⁾Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Relationship between drawing function and cerebral metabolism of glucose in Alzheimer's disease . The 12th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Florence, Italy), 2006 . 6 .
- 8) Takei M¹⁾, Suzuki M, Kajiya H¹⁾, Minematsu T¹⁾, Egashira N¹⁾, Tahara S, Takekoshi S¹⁾, Sannno N²⁾, Teramoto A, Osamura RY¹⁾(¹⁾Department of Pathology Tokai University School of Medicine): Somatostatin receptor 2A (SSTR2A) in clinically non-functioning pituitary adenoma as a possible target for Octreotide treatment . The 89th Annual Meeting of the Endocrine Society (ENDO2006), 2006 . 6 .
- 9) Mishina M¹⁾, Ishii K²⁾, Kitamura S³⁾, Kobayashi S¹⁾, Ishiwata K²⁾, Katayama S³⁾(¹⁾Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba-Hokusoh Hospital, ²⁾Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, ³⁾The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Drawing task in ADAS-cog and MMSE : A FDG PET study . The 10th International Conference on Alzheimer's Disease and Related Disorders (Madrid, Spain), 2006 . 7 .
- 10) Takumi I¹⁾, Mizunari T¹⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾Department of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital): Dissecting PICA Aneurysm Presenting with SAH Right After Anti-coagulant And Anti-platelet Therapy against Ischemic Event . The 21th Japan Neurosurgery English Forum (Ibaraki, Japan), 2006 . 7 .
- 11) Tamaki T¹⁾, Node Y¹⁾, Teramoto A (¹⁾Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital): Paramedian suboccipital mini-craniectomy for evacuation of spontaneous cerebellar hemorrhage . The 8th Korean and Japanese Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (Sendai, Japan), 2006 . 8 .
- 12) Kominami S¹⁾, Yoshida Y, Fuse A²⁾, Kobayashi S¹⁾, Teramoto A (¹⁾Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital, ²⁾Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School): Alternative approaches for dural arteriovenous fistulae . The 8th Korean and Japanese Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (Sendai, Japan), 2006 . 8 .
- 13) Takei M, Kajiya H¹⁾, Minematsu T¹⁾, Egashira N¹⁾, Tahara S, Takekoshi S¹⁾, Sannno Naoko ²⁾, Teramoto A, Osamura RY¹⁾(¹⁾Department of Pathology Tokai University School of Medicine, ²⁾Sanno Clinic): SSTR2A is expressed in clinically non-functioning pituitary adenomas . The seventh Joint Meeting-The Japan Society of Histochemistry and Cytochemistry and The Histochemical Society, 2006 . 8 .
- 14) Adachi K, Yamaguchi F, Takahashi H¹⁾, Teramoto A (¹⁾Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): SEGA with rapid growth in a relatively short period . The 34th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery (Taipei, Taiwan), 2006 . 9 .
- 15) Mishina M¹⁾, Ishii K¹⁾, Kitamura S²⁾, Kimura Y³⁾, Naganawa M²⁾, Hashimoto M²⁾, Suzuki M²⁾, Oda K²⁾,

- Hamamoto M²⁾, Kobayashi S¹⁾, Katayama Y³⁾, Ishiwata K²⁾ (¹⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , ³⁾ The Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Relationship between dopamine D2 and adenosine A2A receptors in drug naive Parkinson's disease using TMSX PET . 10th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders of the Movement Disorder Society (Kyoto, Japan), 2006 . 10 .
- 16) Yamaguchi F , Takahashi H¹⁾ , Kojima T , Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Preservation of motor function by intraoperative detection of pyramidal tract . The 56th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons (Chicago, USA), 2006 . 10 .
- 17) Takahashi H¹⁾ , Kouno J , Yamaguchi F , Adachi K , Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Comprehensive gene expression analysis of human malignant glioma using cDNA microarray for therapeutic strategy with interferon . The 56th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons (Chicago, USA), 2006 . 10 .
- 18) Teramoto A : Recent Progress of Endoscopic Pituitary Surgery . 2006 Conference of Asian Academic Neurosurgeons (Shanghai, China), 2006 . 11 .
- 19) Sanno N¹⁾ , Tahara S , Takei M , Teramoto A (¹⁾ Sanno Clinic): Effect of octreotide in headache associated with acromegaly . The 3rd International Congress of the GRS and the IGF Society (Kobe, Japan), 2006 . 11 .
- 20) Takahashi H¹⁾ , Hirakawa K , Uekusa K , Fukino K¹⁾ , Yamaguchi F , Adachi K , Ohno Y , Teramoto A , Yuta K (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Usefulness of NMR based metabolomics for the prognostic factor of meningioma . The 5th International Congress on Meningiomas and Cerebral Venous System (Yamanashi, Japan), 2006 . 11 .
- 21) Teramoto A : Endoscopic Transsphenoidal Pituitary Surgery . The 12th ASEAN Congress of Neurological Surgeons , 2006 . 12 .
- 22) Tahara S , Ishii Y , Takei M , Kitamura T , Sanno N , Teramoto A : Endoscopic endonasal transsphenoidal surgery for thyrotropin-secreting pituitary adenomas . The 18th Annual Congress of Asia-Pacific Endocrine Conference (Siem Reap, Cambodia), 2007 . 2 .
- 23) Takei M , Suzuki M , Kajiya H¹⁾ , Miyakoshi T¹⁾ , Egashira N¹⁾ , Takekoshi S¹⁾ , Ishii Y , Tahara S , Osamura RY¹⁾ , Teramoto A (¹⁾ Department of Pathology Tokai University School of Medicine): Expression of sstrs in tsh-producing pituitary adenomas . The 18th Annual Congress of Asia-Pacific Endocrine Conference (Siem Reap, Cambodia), 2007 . 2 .
- 24) Kim K¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Chiba Hokusoh Hospital, Nippon Medical School): The cervical anterior fusion by Williams-Isu method that use bioabsorptive screws . The 6th Biennial Meeting of Korea-Japan Conference on Spinal Surgery (Busan, Korea), 2007 . 3 .
- 25) Takei M , Suzuki M , Sanno N¹⁾ , Teramoto A , Osamura YR²⁾ (¹⁾ Sanno Clinic , ²⁾ Department of Pathology Tokai University School of Medicine): Clinicopathological study of the Crooke's cell in pituitary corticotroph cell adenomas . United States and Canadian Academy of Pathology Annual Meeting , 2007 . 3 .
- 26) Takei M , Suzuki M , Sanno N¹⁾ , Teramoto A , Osamura YR²⁾ (¹⁾ Sanno Clinic , ²⁾ Department of Pathology Tokai University School of Medicine): Clinical and morphological characteristics of functioning pituitary microadenomas and macroadenomas : Analysis of large series . United States and Canadian Academy of Pathology Annual Meeting , 2007 . 3 .
- 27) 田原重志 , 喜多村孝幸 , 石井雄道 , 竹井麻生 , 寺本 明 : 内視鏡下経鼻蝶形骨手術におけるバルンシングボイントセッターの使用経験 . 第15回脳神経外科手術と機器学会 , 2006 . 4 .

- 28) 喜多村孝幸, 田原重志, 寺本 明: 脳室内腫瘍に対する神経内視鏡手術の有用性とその発展. 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006. 4.
- 29) 山口文雄, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): 新しい白質電気刺激双極電極を用いた術中錐体路モニタリング. 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006. 4.
- 30) 木暮一成¹⁾, 高安正和²⁾, 小林士郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 太組一朗¹⁾, 金 景成¹⁾, 井須豊彦³⁾, 湧井健治⁴⁾, 寺本明⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 岡崎市民病院脳神経外科, ³⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉脳神経外科病院脳神経外科): 低侵襲かつ安全な前方到達法 高安式脊椎レトラクターを用いて. 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006. 4.
- 31) 戸田茂樹, 高山泰広¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 高度救命救急センター): Biopex-Rをcage内に充填させ使用する頸椎前方固定術の応用について. 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006. 4.
- 32) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 鞍結節髄膜腫に対するinter-hemispheric approachとその展開. 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006. 4.
- 33) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明, 上山博康²⁾ ⁽¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科): High flow bypassの術後合併症とその予後. 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006. 4.
- 34) 金 景成¹⁾, 野村竜太郎²⁾, 瀧藤健太²⁾, 水成隆之²⁾, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 釧路病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): くも膜下出血にて発症した上位頸椎部硬膜動静脈瘤の1例. 第26回東北海道脊髄疾患研究会, 2006. 4.
- 35) 山口文雄, 小島豊之¹⁾, 足立好司, 高橋 弘²⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 四谷メディカルキューブ画像診断センター脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科): 脳腫瘍手術における白質線維モニタリング. 第31回ニューロ・オンコロジーの会, 2006. 4.
- 36) 石井雄道, 田原重志, 竹井麻生, 寺本 明: Xanthogranuloma of the sellar regionの小児例. 第31回ニューロ・オンコロジーの会, 2006. 4.
- 37) 江頭 登¹⁾, 竹井麻生, 山王なほ子²⁾, 寺本 明, 長村 義之¹⁾ ⁽¹⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学, ²⁾ 山王クリニック): ヒト下垂体における転写因子FOXL2発現の解析. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 4.
- 38) 竹井麻生, 鈴木雅規, 石井雄道, 田原重志, 江頭 登¹⁾, 峰松健史¹⁾, 竹腰 進¹⁾, 長村義之¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 下垂体腺腫におけるSSTRの発現に関する解析 Octreotide投与例も含め. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 4.
- 39) 山本修三, 足立好司, 村井保夫, 戸田茂樹, 寺本 明: くも膜下出血で発症したC1 schwannomaの1例. 第99回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会, 2006. 4.
- 40) 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 山田 明¹⁾, 土屋雅人¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): Reversible posterior leukoencephalopathy syndromeの1例. 第99回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会, 2006. 4.
- 41) 野村竜太郎¹⁾, 金 景成¹⁾, 水成隆之¹⁾, 寺尾 健¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳内出血で発症した腫瘍性脳動脈瘤の1例. 第99回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会, 2006. 4.
- 42) 小林士郎¹⁾ ⁽¹⁾ 千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳神経外科の最新治療について. 平成17年度日本医科大学同窓会千葉支部総会講演会, 2006. 4.
- 43) 高橋 弘¹⁾, 森本大二郎¹⁾, 勝野 亮¹⁾, 吹野晃一¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 山本 彰⁽¹⁾ 武蔵小杉病院脳神経外科): Fusion Viwerを用いたlomazenilの有用性. 第18回神奈川PET・SPECT研究会, 2006. 5.
- 44) 木暮一成¹⁾, 戸田茂樹⁽¹⁾ 多摩永山病院脳神経外科): 脊髄腫瘍に対する低侵襲手術 SONOPETおよびPAL-Iの有用性と問題点. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.

- 45) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症の再手術例に関する検討. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 46) 戸田茂樹, 高山泰広¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾高度救命救急センター): 椎体除去術後前方固定術の工夫 cage, セラミック, plateの使用. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 47) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾釧路労災病院脳神経外科): 頸椎固定術後頸椎アライメントに関する検討. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 48) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎¹⁾, 金 景成¹⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾釧路労災病院脳神経外科): 変形性頸椎症に対する Williams-Isu法の導入と有用性. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 49) 井須豊彦¹⁾, 磯部正則¹⁾, 松本亮司¹⁾, 金 景成²⁾, 木暮一成²⁾(¹⁾釧路労災病院脳神経外科, ²⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症に対する棘突起経路による腰椎後方除圧術の手術手技. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 50) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 宮本倫行²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾釧路労災病院脳神経外科): far-out syndromeの1例. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 51) 井須豊彦¹⁾, 金 景成²⁾, 磯部正則¹⁾, 松本亮司¹⁾, 木暮一成²⁾(¹⁾釧路労災病院脳神経外科, ²⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 長期成績からみた自家椎体使用による頸椎前方固定術の手術適応. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 52) 足立好司, 山口文雄, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科): 比較的短期間に増大した上衣下巨細胞性星細胞腫の2手術例. 第34回日本小児神経外科学会, 2006. 5.
- 53) 清水達也¹⁾, 高玉 真¹⁾, 内藤 功¹⁾, 松本正弘²⁾, 小南修史³⁾(¹⁾老年病研究所附属病院脳神経外科, ²⁾館林厚生病院脳神経外科, ³⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 小脳テント硬膜動静脈瘤の1例. 第38回北関東頭頸部血管内手術懇話会, 2006. 5.
- 54) 三品雅洋¹⁾, 石井賢二¹⁾, 北村 伸²⁾, 石渡喜一¹⁾, 小林士郎³⁾, 片山泰朗²⁾(¹⁾東京都老人総合研究所ポジトロン医学研究グループ, ²⁾日本医科大学内科学第2, ³⁾同千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): アルツハイマー病における描画機能と脳ブドウ糖代謝の関係. 第47回日本神経学会総会, 2006. 5.
- 55) 熊谷智昭¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 武井健吉²⁾, 福地孝明¹⁾, 水成隆之⁴⁾, 松本 尚³⁾, 益子邦洋³⁾, 小林士郎⁴⁾, 片山泰朗¹⁾, 赫 彰郎⁴⁾(¹⁾内科学第2, ²⁾千葉北総病院救命救急センター, ³⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳神経センターにおけるドクターヘリ利用状況. 第47回日本神経学会総会, 2006. 5.
- 56) 金 景成¹⁾, 瀧健太¹⁾, 野村竜太郎¹⁾, 寺尾 健¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 太組一朗¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 小南修史¹⁾, 福地孝明¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 外転神経麻痺にて発症した頭蓋底部病変の1例. 第50回千葉北総神経放射線研究会, 2006. 5.
- 57) 瀧健太¹⁾, 野村竜太郎¹⁾, 寺尾 健¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 金 景成¹⁾, 太組一朗¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 小南修史¹⁾, 福地孝明¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 視野障害, 物忘れを主訴に来院した53歳, 女性. 第50回千葉北総神経放射線研究会, 2006. 5.
- 58) 瀧健太¹⁾, 野村竜太郎¹⁾, 寺尾 健¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 金 景成¹⁾, 太組一朗¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 小南修史¹⁾, 福地孝明¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): リスクファクターがなく左上小脳動脈領域に脳梗塞を発症した症例. 第50回千葉北総神経放射線研究会, 2006. 5.
- 59) 田原重志: 非機能的腺腫からGH産生腺腫への移行症例. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 5.
- 60) 山王直子¹⁾, 田原重志, 寺本 明¹⁾(¹⁾山王クリニック): 先端巨大症患者の慢性頭痛とOctreotide治療. 第79

回日本内分泌学会学術総会，2006．5．

- 61) 大山健一¹⁾，山田正三¹⁾，福原紀章²⁾，甲賀智之²⁾，田口 学²⁾，竹下 章²⁾，竹内靖博²⁾(¹⁾虎の門病院間脳下垂体外科，²⁾同内分泌センター内分泌代謝科)：当院内分泌センターにおける先端巨大症の治療成．第79回日本内分泌学会学術総会，2006．5．
- 62) 大山健一¹⁾，山田正三¹⁾，平松里佳子，田口 学²⁾，福原紀章²⁾，竹下 章²⁾，竹内靖博²⁾，秋山紀子，矢澤麻佐子，大村栄治，今井康雄，河津捷二，秋山紀子，矢澤麻佐子，大村栄治，今井康雄，河津捷二(¹⁾虎の門病院間脳下垂体外科，²⁾同内分泌センター内分泌代謝科)：診断，治療に苦慮した非機能性 macroadenoma を合併した ACTH 産生微小腺腫(クッシング病)の1例．第79回日本内分泌学会学術総会，2006．5．
- 63) 竹井麻生，鈴木雅規，江頭 登¹⁾，梶谷華子¹⁾，田原重志，山王なほ子²⁾，寺本 明，長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部基盤診療学系病理診断学，²⁾山王クリニック)：下垂体腺腫における microadenoma, macroadenoma の病理学的比較検討．第95回日本病理学会総会，2006．5．
- 64) 饒波正博¹⁾，平田雅文²⁾，中根 一²⁾，中山比登志²⁾，水口國雄³⁾(¹⁾沖縄赤十字病院脳神経外科，²⁾帝京大学医学部付属溝口病院脳神経外科，³⁾同臨床病理部)：著明な perivascular pseudorosette formation を見た悪性神経膠腫の1例：astroblastoma? or glioblastoma?．第24回日本脳腫瘍病理学会，2006．6．
- 65) 木暮一成¹⁾，太組一朗²⁾，水成隆之²⁾，小林士郎²⁾，寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科，²⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：時間的空間的多発の経過をとる anaplastic meningioma の1例．第24回日本脳腫瘍病理学会，2006．6．
- 66) 太組一朗¹⁾，水谷暢秀²⁾，木暮一成³⁾，小林士郎¹⁾，森 修⁴⁾，寺本 明(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾静岡厚生病院脳神経外科，³⁾日本医科大学多摩永山病院脳神経外科，⁴⁾同千葉北総病院病理部)：てんかん重積に至った天幕上 neuroenteric cyst の1例．第24回日本脳腫瘍病理学会，2006．6．
- 67) 饒波正博¹⁾，宮城智央¹⁾，金城竜也²⁾，笠井直人¹⁾，高良英一¹⁾(¹⁾沖縄赤十字病院脳神経外科，²⁾琉球大学医学部付属病院脳神経外科)：脳転移を来した副腎皮質癌の1例．第24回日本脳腫瘍病理学会，2006．6．
- 68) 足立好司，高橋 弘¹⁾，寺本 明(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科)：短期間に増大した放射線誘発性 atypical meningioma ．第24回日本脳腫瘍病理学会，2006．6．
- 69) 小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：外傷性頸動脈解離の2症例．第51回関東脳神経外科懇話会，2006．6．
- 70) 金 景成¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：ありそうでなかなかないクモ膜下出血の1例．第63回東葛脳神経外科カンファレンス，2006．6．
- 71) 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：危険な頭痛・珍しい頭痛・面白い頭 脳外科医の視点から．第7回千葉頭痛研究会，2006．6．
- 72) 金 景成¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：頸椎前方固定術後固定椎角に関する検討．第7回東北北海道脳神経外科研究会，2006．6．
- 73) 金 景成¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：頸椎部硬膜動静脈瘤の1例．第10回 Water Front Neurosurgical Conference，2006．7．
- 74) 木暮一成¹⁾，戸田茂樹，寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科)：当科における前方除圧固定術の variation と indication Titanium cage fixation と Williams-Isu method ．第10回 Water Front Neurosurgical Conference，2006．7．
- 75) 岡田知弥子¹⁾，八木沢奨¹⁾，加藤香織¹⁾，伊藤朋子¹⁾，佐々木優子¹⁾，野口 素¹⁾，水成隆之²⁾(¹⁾千葉北総病院看護部，²⁾同脳神経センター)：りんごを用いた排便コントロールの試み．第15回日本意識障害学会，2006．7．
- 76) 村井保夫，水成隆之¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科)：鞍結節髄膜腫に対する inter-hemispheric approach の限界と対策．第18回日本頭蓋底外科学会，2006．7．
- 77) 太組一朗¹⁾，秋元正宇²⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明，百束比古³⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳

- 神経外科,²⁾同形成外科,³⁾形成外科学): Free muscle flapによる頭蓋底再建の治療経験. 第18回日本頭蓋底外科学会, 2006. 7.
- 78) 三品雅洋¹⁾, 石井賢二²⁾, 北村 伸³⁾, 木村裕一²⁾, 長縄美香²⁾, 織田圭一²⁾, 橋本昌也²⁾, 濱本 真³⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗³⁾, 石渡喜一²⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,²⁾東京都老人総合研究所ボジロン医学研究グループ,³⁾内科学第2): 未治療パーキンソン病におけるドパミントランスポーター・ドパミンD2受容体分布の左右差とアデノシンA2A受容体分布の関係:[C-11]TMSX PETを用いた検討. 第6回パーキンソン病フォーラム, 2006. 8.
- 79) 戸田茂樹, 木暮一成¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): スクエア形ケージのいい点・悪い点 シリンダ型ケージに比して. 東京脊髄倶楽部, 2006. 8.
- 80) 高橋 弘¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科): ここまできた脳卒中と脳腫瘍の診断・治療. 同窓会福島県支部総会, 2006. 8.
- 81) 江頭 登¹⁾, 竹井麻生, 山王なほ子²⁾, 寺本 明, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部基盤診療学系病理診断学,²⁾山王クリニック): ヒト下垂体における転写因子FOXL2の発現解析. 日本下垂体研究会第21回学術集会, 2006. 8.
- 82) 鈴木雅規¹⁾, 木暮一成¹⁾, 土屋雅人¹⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 急な呂律障害で発症した頭蓋底陥入症の1例. 第100回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会, 2006. 9.
- 83) 纈纈健太¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 治療に難渋した脳底動脈巨大血栓化動脈瘤の1例. 第100回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会, 2006. 9.
- 84) 吉田陽一, 戸田茂樹, 小南修史¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Myelopathyにて発症した骨盤内動静脈奇形の1例. 第100回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会, 2006. 9.
- 85) 野村竜太郎¹⁾, 小南修史¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 急性硬膜下血腫で発症した脳動静脈奇形の1例. 第20回千葉県重症患者管理研究会, 2006. 9.
- 86) 寺尾 健¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 高度の石灰化を伴った頸動脈狭窄症の1例. 第64回東葛脳神経外科カンファレンス, 2006. 9.
- 87) 吉村明修¹⁾, 志村俊郎¹⁾, 阿曾亮子¹⁾, 儀我真理子²⁾, 瀧澤俊広³⁾, 明樂重夫⁴⁾, 寺本 明(¹⁾教育推進室,²⁾数学,³⁾解剖学第1,⁴⁾産婦人科学): 学生による授業評価の妥当性・信頼性に関する研究. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 88) 玉置智規¹⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 脳梗塞とCEA. 2006年度第2回永山病院看護部研修会, 2006. 10.
- 89) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾釧路労災病院脳神経外科,²⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎・頸髄疾患における脊髓造影検査の必要性に関する検討. 第27回東北海道脊髄疾患研究会, 2006. 10.
- 90) 大山健一¹⁾, 山田正三¹⁾, 田口 学²⁾, 竹下 章²⁾, 竹内靖博²⁾, 山瀬裕美¹⁾(¹⁾虎の門病院内分泌センター間脳下垂体外科,²⁾同内分泌センター間脳下垂体外科): 術前オクトレオチド使用先端巨大症の解析. 第2回アクロメガリーフォーラム, 2006. 10.
- 91) 石井雄道: 術後にacromegaly様の内分泌所見を呈したTSH産生腺腫の1例. 第2回アクロメガリーフォーラム, 2006. 10.
- 92) 竹井麻生, 鈴木雅規, 田原重志, 梶谷華子¹⁾, 江頭 登¹⁾, 竹腰 進¹⁾, 寺本 明, 長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 妊婦にoctreotide徐放性製剤を投与した末端肥大症の1症例. 第2回アクロメガリーフォーラム, 2006. 10.
- 93) 齊藤寛浩¹⁾, 佐藤 章¹⁾, 杉山達也¹⁾, 伏原豪司¹⁾, 石原正一郎¹⁾, 山根文孝¹⁾, 神山信也¹⁾, 石原秀章¹⁾(¹⁾埼玉医科大学脳神経外科脳卒中センター): 進行性脳梗塞に対する急性期外科治療perfusionCTの活用. 第2回西埼玉脳神経外科懇話会, 2006. 10.

- 94) 小南修史¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 吉田陽一, 布施 明²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾高度救命救急センター): 脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術の適応と長期成績. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 95) 戸田茂樹, 高山泰広¹⁾, 木暮一成²⁾, 金 景成²⁾, 寺本 明 (¹⁾高度救命救急センター, ²⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Cage内にBiopex-Rを充填した頸椎前方固定術時の工夫 cage, セラミック, plateの使用. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 96) 大山健一¹⁾, 山田正三¹⁾, 福原紀章²⁾, 甲賀智之²⁾, 中富浩文²⁾, 臼井雅昭²⁾ (¹⁾虎の門病院間脳下垂体外科, ²⁾同脳神経外科): 術前オクトレオチド使用先端巨大症の解析. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 97) 山王直子¹⁾, 竹井麻生, 田原重志, 寺本 明 (¹⁾山王クリニック): 先端巨大症患者の慢性頭痛とoctreotide治療. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 98) 石井雄道, 田原重志, 竹井麻生, 寺本 明: ラトケ嚢胞自験50例の検討. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 99) 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 上山博康²⁾, 寺本 明 (¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾旭川赤十字病院脳神経外科): RA graftを併用した治療困難な内頸動脈瘤の長期予後. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 100) 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 内頸動脈大型 (巨大) もしくは血栓化動脈瘤に対する治療法の選択. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 101) 山田昌興¹⁾, 政平訓貴¹⁾, 中里松義¹⁾, 豊永晋一¹⁾, 中林博道¹⁾, 朴 啓彰¹⁾, 清水恵司¹⁾ (¹⁾高知大学医学部脳神経外科): 特発性正常圧水頭症に対する術前および術後のECD-SPECTによる脳血流評価の検討. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 102) 木暮一成¹⁾, 戸田茂樹, 金 景成²⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 小林士郎²⁾, 赤石江太郎³⁾, 原田俊一³⁾, 湧井健治³⁾, 太組一朗²⁾, 井須豊彦⁴⁾, 寺本 明 (¹⁾日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾同千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ³⁾千葉脳神経外科病院脳神経外科, ⁴⁾釧路労災病院脳神経外科): 変形性頸椎症に対する前方除圧固定術のvariation Williams-Isu法とチタンケージの手術適応. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 103) 金 景成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 菅原 淳²⁾, 松本亮司²⁾, 磯部正則²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明 (¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾釧路労災病院脳神経外科): 頸椎固定術後固定椎角と頸椎アライメントに関する検討. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 104) 高橋 弘¹⁾, 平川慶子²⁾, 植草協子²⁾, 吹野晃一¹⁾, 山口文雄, 足立好司, 大野曜吉²⁾, 寺本 明, 湯田浩太郎³⁾ (¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾法医学・NMR研究施設, ³⁾富士通バイオIT事業開発本部): 髄膜腫の予後判定におけるNMRメタボロミクス (メタボローム解析) の有用性. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 105) 玉置智規¹⁾, 斉藤寛浩²⁾, 野手洋治¹⁾, 酒井直之, 立山幸次郎, 寺本 明 (¹⁾日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾埼玉医科大学脳神経外科): 自験例におけるCEA時のパッチグラフトの検討. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 106) 北川 亮, 喜多村孝幸, 戸田茂樹, 佐藤 俊, 寺本 明: 脳脊髄液減少症の診断とその問題点. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 107) 竹井麻生, 石井雄道, 田原重志, 梶谷華子¹⁾, 竹腰 進¹⁾, 山王なほ子, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): 下垂体 corticotroph cell adenomaにおけるCrooke変性の病理学的検討. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 108) 足立好司, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明 (¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科): Interleukin 12とinterleukin 18による抗グリオーマ活性の解析. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.

- 109) 志村俊郎¹⁾, 寺本 明, 足立好司, 吉村明修¹⁾, 阿曾亮子¹⁾(¹⁾教育推進室): 脳神経外科疾患における simulation 医学教育の意義. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 110) 吉田陽一, 小南修史¹⁾, 金澤隆三郎, 渡邊 玲¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 破裂椎骨動脈解離に対する血管内手術の治療戦略. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 111) 野手洋治¹⁾, 玉置智規¹⁾, 木暮一成¹⁾, 鈴木雅規¹⁾, 土屋雅人¹⁾, 寺本 明(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 血小板マイクロパーティクルは脳血栓症患者を減少するための極めて有用なマーカーになり得る. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 112) 齊藤寛浩¹⁾, 佐藤 章¹⁾, 松谷雅生¹⁾, 酒井直之, 梅岡克哉, 寺本 明(¹⁾埼玉医科大学脳神経外科脳卒中センター): 難治性脳血管攣縮に対するミルリノン髄注療法の有用性 perfusionCT による検討. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 113) 梅岡克哉, 村井保夫, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): CT での血腫分布と脳血管撮影における脳動脈瘤部位が一致せず診断に苦慮したくも膜下出血の検討. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 114) 横田裕行¹⁾, 高山泰広¹⁾, 渥美生弘¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 山本保博¹⁾, 小林士郎²⁾, 寺本明(¹⁾高度救命救急センター, ²⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 受傷急性期の分子マーカーからみた頭部外傷の形態把握と予後予測 脳血管内皮障害と凝固線溶異常の見地から. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 115) 松野 彰¹⁾, 中島美智¹⁾, 田原重志, 寺本 明, 長村義之²⁾(¹⁾帝京大学医学部市原病院脳神経外科, ²⁾東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): GH産生下垂体腺腫におけるオクトレオチドによるGHの低下と増殖能との相関. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 116) 猪鹿倉恭子¹⁾, 中江竜太¹⁾, 鈴木紀成²⁾, 横田裕行¹⁾, 高橋 弘²⁾, 黒川 顕¹⁾, 寺本 明, 山本保博¹⁾(¹⁾高度救命救急センター, ²⁾武蔵小杉病院脳神経外科): 外傷性1次性脳幹損傷による眼球運動障害の検討 脚間槽血腫の診断的意義について. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 117) Yamaguchi F, Asakura T, Takahashi H¹⁾, Teramoto A(¹⁾Department of Neurosurgery, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital): Sonochemical therapy using 5-ALA for glioma. 第5回日本5-ALA研究会, 2006. 11.
- 118) 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳卒中にならないために. 香取市市民公開講座, 2006. 11.
- 119) 村井保夫, 寺本 明, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 内頸動脈病変に対するRAグラフト術後合併症とその原因の検討. 第101回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会, 2006. 11.
- 120) 渡邊 玲¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 寺尾 健¹⁾, 瀧澤健太¹⁾, 村井保夫, 寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 椎骨動脈解離に対してバイパス術と血管内治療を併用した1症例. 第101回社団法人日本脳神経外科学会関東支部地方会, 2006. 11.
- 121) 大山健一¹⁾, 山田正三¹⁾, 福原紀章¹⁾, 甲賀智之¹⁾, 田口 学²⁾, 竹下 章²⁾, 竹内靖博²⁾, 井下尚子³⁾, 大橋健一³⁾, 佐野壽昭⁴⁾(¹⁾虎の門病院内分泌センター間脳下垂体外科, ²⁾同内分泌センター内分泌代謝科, ³⁾同内分泌センター病理部, ⁴⁾徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部人体病理学): 甲状腺濾胞癌からの転移性下垂体腫瘍の1例. 第10回日本内分泌病理学会学術総会, 2006. 11.
- 122) 玉置智規¹⁾(¹⁾多摩永山病院脳神経外科): 日本医科大学多摩永山病院における髄膜腫の検討. 第12回千駄木ニューロカンファレンス, 2006. 11.
- 123) 宮田美穂¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 太組一朗²⁾, 岡 敏行¹⁾, 井内亜美¹⁾, 百束比古³⁾(¹⁾千葉北総病院形成外科, ²⁾形成外科・美容外科, ³⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 眼窩底骨折に対するナビゲーションシステ

- ムの有用性．第16回日本シュミレーション外科学会，2006．11．
- 124) 福地孝明¹⁾，三品雅洋¹⁾，水成隆之¹⁾，小南修史¹⁾，渡辺 玲¹⁾，寺尾 健¹⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗²⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾内科学第2): 当センターにて経験した rt-PA 7 症例の報告．第18回日本脳循環代謝学会総会，2006．11．
- 125) 渡辺 玲¹⁾，小南修史¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): NBCA を用いた塞栓術のみで，ナイダスが消失した脳動静脈奇形の検討．第22回日本脳神経血管内治療学会，2006．11．
- 126) 吉田陽一，小南修史¹⁾，金澤隆三郎，渡辺 玲¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Myelopathy にて発症した骨盤内動静脈奇形の1例．第22回日本脳神経血管内治療学会総会，2006．11．
- 127) 小南修史¹⁾，渡辺 玲¹⁾，吉田陽一，布施 明²⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾高度救命救急センター): 経静脈的塞栓が困難な硬膜 AVF の治療 NBCA を用いた経動脈的塞栓．第22回日本脳神経血管内治療学会総会，2006．11．
- 128) 金澤隆三郎¹⁾，山崎道生¹⁾，寺本 明(¹⁾目白第二病院脳神経外科): 当施設における脳梗塞の原因と治療-200 例のまとめ．第22回日本脳神経血管内治療学会総会，2006．11．
- 129) 太組一朗¹⁾，秋元正宇²⁾，岡 敏行²⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明，百束比古³⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾同形成外科，³⁾形成外科学): 小児頭蓋骨形成における自家骨移植の再検討．第24回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会，2006．11．
- 130) 山王直子¹⁾(¹⁾山王クリニック): 女性の片頭痛と低血圧．第34回日本頭痛学会総会，2006．11．
- 131) 山王直子¹⁾，田原重志，寺本 明(¹⁾山王クリニック): 先端巨大症患者の慢性頭痛．第34回日本頭痛学会総会，2006．11．
- 132) 山口文雄: Minimally invasive subcortical mapping for glioma surgery．第37回千葉神経外科研究会，2006．11．
- 133) 金 景成¹⁾，井須豊彦²⁾，菅原 淳²⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾釧路労災病院脳神経外科): 頸椎前方固定術後アライメント悪化を術前に予測できるか 固定椎角に主眼を置いて．第41回日本脊髄障害医学会，2006．11．
- 134) 三品雅洋¹⁾，石井賢二²⁾，北村 伸³⁾，木村裕一²⁾，長縄美香²⁾，橋本昌也²⁾，鈴木正彦²⁾，織田圭一²⁾，小林士郎¹⁾，片山泰朗³⁾，石渡喜一¹⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ，³⁾日本医科大学内科学第2): [11C]TMSX PET を用いた未治療パーキンソン病におけるアデノシン A2A 受容体結合能: a preliminary study．第46回日本核医学会学術総会，2006．11．
- 135) 太組一朗¹⁾，小林士郎¹⁾，田原重志，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 髄液瘻で発症したアクロメガリーの1症例．第4回千葉下垂体疾患研究会，2006．11．
- 136) 高橋 弘¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科): 悪性脳腫瘍の克服を目指して．中原区市民公開講座，2006．11．
- 137) 山王直子¹⁾(¹⁾山王クリニック): 明日から実践できるアンチエイジング．東海大学同窓会東京ブロック南部支部会講演会，2006．11．
- 138) 小林士郎¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳卒中にならないために．平成18年度成田法人会青年部・女性部会合同講演会，2006．11．
- 139) 太組一朗¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳血管障害．北総救命会 救急症候・病態生理学講義，2006．11．
- 140) 村井保夫，水成隆之¹⁾，足立好司，寺本 明(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Interhemispheric approach にて摘出した鞍結節髄膜腫症例の神経学的予後．第11回日本脳腫瘍の外科学会，2006．12．
- 141) 山田昌興¹⁾，政平訓貴¹⁾，豊永晋一¹⁾，中林博道¹⁾，朴 啓彰¹⁾，清水恵司¹⁾(¹⁾高知大学医学部脳神経外科): ニューロナビゲーションシステムを用いた後頭蓋窩腫瘍摘出術．第11回日本脳腫瘍の外科学会，2006．12．
- 142) 小南修史¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 血管内治療の1例．第12回房総脳神経血管内治療カンファレンス，2006．12．

- 143) 喜多村孝幸, 田原重志, 石井雄道, 寺本 明: 脳神経外科における内視鏡手術の安全性と質の向上. 第19回日本内視鏡外科学会総会, 2006. 12.
- 144) 竹井麻生, 石井雄道, 田原重志, 高橋 弘¹⁾, 長村義之²⁾, 寺本 明 (¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): Maffucci 症候群に合併した下垂体腺腫の1例. 第32回ニューロ・オンコロジーの会, 2006. 12.
- 145) 山王直子¹⁾ (¹⁾山王クリニック): その不調, ホルモンのせいかも. 下垂体患者の会 公開講座, 2007. 1.
- 146) 寺本 明: 下垂体機能に障害が起きると. 下垂体患者の会 公開講座, 2007. 1.
- 147) 鈴木雅規, 田原重志, 石井雄道, 竹井麻生, 寺本 明, 長村義之¹⁾ (¹⁾東海大学医学部基盤診断系病理診断学): Pituitary incidentalomaにおける増殖因子の発現. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業間脳下垂体機能障害調査研究班平成18年度班会議, 2007. 1.
- 148) 長村義之¹⁾, 竹腰 進¹⁾, 江頭 登¹⁾, 梶谷華子¹⁾, 宮腰隆史¹⁾, 竹井麻生, 峰松健夫²⁾ (¹⁾東海大学医学部基盤診断系病理診断学, ²⁾農業生物資源研究所遺伝子組換え家畜研究センター): 下垂体腫瘍形質転換遺伝子 (PTTG) による腫瘍形成機構の解明. 厚生労働省難治性疾患克服研究事業間脳下垂体機能障害調査研究班平成18年度班会議, 2007. 1.
- 149) 村井保夫, 寺本 明, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 高山泰広²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 横田裕行²⁾, 山本保博²⁾ (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²⁾高度救命救急センター): 非穿通性外傷による外傷性脳血管障害症例の検討. 第12回脳神経外科救急学会, 2007. 1.
- 150) 金 景成¹⁾ (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): Bow hunter syndromeの1例. 第1回房総脊髄手術手技研究会, 2007. 1.
- 151) Hu S¹⁾, Yoshida D, Teramoto A (¹⁾ Department of Neurosurgery, the Second Affiliated Hospital of Harbin Medical University): Microsurgical Approach with photodynamic therapy for malignant gliomas. 第3回日本脳神経外科光線力学研究会, 2007. 2.
- 152) 寺本 明: 下垂体疾患における成長ホルモン分泌不全症. 成人成長ホルモン分泌不全症の治療講演会, 2007. 2.
- 153) 田原重志, 喜多村孝幸, 石井雄道, 竹井麻生, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾東海大学医学部基盤診断系病理診断学): Pituitary microadenomaに対する内視鏡下経鼻の手術の治療成績と合併症. 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2007. 2.
- 154) 山王直子¹⁾, 田原重志, 竹井麻生, 石井雄道, 寺本 明 (¹⁾山王クリニック): GH産生下垂体腫瘍に対する薬物療法の問題点 Octreotide徐放製剤 (LAR) を中心に. 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2007. 2.
- 155) 大山健一¹⁾, 山田正三¹⁾, 福原紀章²⁾, 甲賀智之²⁾, 中富浩文²⁾, 臼井雅昭²⁾, 田口 学²⁾, 竹下 章³⁾, 竹内靖博³⁾ (¹⁾虎の門病院内分泌センター間脳下垂体外科, ²⁾同脳神経外科, ³⁾同内分泌センター内分泌代謝科): 巨大下垂体腺腫に対する内視鏡単独拡大蝶形骨洞手術. 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2007. 2.
- 156) 石井雄道, 竹井麻生, 田原重志, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾東海大学医学部基盤診断系病理診断学): Maffucci 症候群に合併した下垂体腺腫の1例. 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2007. 2.
- 157) 竹井麻生, 鈴木雅規, 梶谷華子¹⁾, 宮腰隆史¹⁾, 江頭 登¹⁾, 石井雄道, 田原重志, 山王なほ子, 竹腰 進¹⁾, 長村義之¹⁾, 寺本 明 (¹⁾東海大学医学部基盤診断系病理診断学): 非機能的下垂体腺腫におけるSomatostatin receptor subtypeの発現に関する臨床病理学的検討. 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2007. 2.
- 158) 吉田大蔵¹⁾, 野村竜太郎, Hu S, 寺本 明 (¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科): 下垂体腺腫細胞HP-75のRECK発現の細胞浸潤における意義. 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2007. 2.
- 159) 戸田茂樹: 頸椎cage (m-cage) による前方固定. cage内: 自家骨vsバイオペックス. 第30回日本脳神経CI学会総会, 2007. 2.
- 160) 梅岡克哉: CTの血腫分布と脳血管撮影での脳動脈瘤部位が一致せず診断に苦慮したくも膜下出血の検討. 第30回日本脳神経CI学会総会, 2007. 2.

- 161) 金 景成¹⁾, 瀧藤健太¹⁾, 野村竜太郎¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明^(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 頸椎黄色靭帯骨化症の1例. 第30回日本脳神経CI学会総会, 2007. 2.
- 162) 山口文雄, 朝倉隆之, 高橋 弘¹⁾, 寺本 明^(¹武蔵小杉病院脳神経外科): グリオーマに対する5-ALAを用いたSonochemical Therapyの試み. 第3回日本脳神経外科光線力学研究会, 2007. 2.
- 163) 勝野 亮¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 出血発症の両側性椎骨動脈解離性動脈瘤の1例. 第65回東葛脳神経外科カンファレンス, 2007. 2.
- 164) 瀧藤健太¹⁾(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): もやもや病の1例. 第8回脳卒中勉強会, 2007. 2.
- 165) 小南修史¹⁾(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 液体塞栓物質を用いた脳血管内治療. 釧路脳神経外科懇話会, 2007. 3.
- 166) 金 景成¹⁾(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): スーパーフィクソープを用いたWilliams-Isu法による頸椎前方固定術. 釧路脳神経外科懇話会, 2007. 3.
- 167) 竹井麻生, 鈴木雅規, 山崎道生, 石井雄道, 田原重志, 山王なほ子¹⁾, 寺本 明, 長村義之²⁾(¹山王クリニック, ²東海大学医学部基盤診断系病理診断学): ACTH産生下垂体腺腫corticotroph cell adenomaにおけるSSTRの発現検討. 第18回CRH-ACTH研究会, 2007. 3.
- 168) 鈴木雅規¹⁾, 土屋雅人¹⁾, 木暮一成¹⁾, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 寺本 明^(¹多摩永山病院脳神経外科): 遅発性に再発を来した成人後頭葉円蓋部クモ膜嚢胞の1例. 第20回日本老年脳神経外科学会, 2007. 3.
- 169) 村井保夫, 寺本 明, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 高山泰広²⁾, 佐藤秀貴²⁾, 横田裕行²⁾, 山本保博²⁾(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²高度救命救急センター): 非穿通性外傷による脳血管障害例の治療経験. 第30回日本神経外傷学会, 2007. 3.
- 170) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 小川太志¹⁾, 桑本健太郎¹⁾, 大貫隆広¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 米花伸彦¹⁾, 山本保博²⁾, 横田裕行²⁾(¹日本医科大学付属病院高度救命救急センター, ²川口市立医療センター救命救急センター): 外傷性脳血管障害の治療戦略. 第30回日本神経外傷学会, 2007. 3.
- 171) 勝野 亮¹⁾, 横田裕行²⁾, 小林士郎²⁾, 寺本 明^(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²高度救命救急センター): 外傷性動眼神経麻痺を呈した2症例. 第30回日本神経外傷学会, 2007. 3.
- 172) 玉置智規¹⁾, 齊藤寛浩³⁾, 鈴木紀成²⁾, 立山幸次郎, 野手洋治¹⁾, 寺本 明^(¹日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²同武蔵小杉病院脳神経外科, ³埼玉医科大学脳神経外科): 自験例におけるCEA時のパッチグラフの検討. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 173) 三品雅洋¹⁾, 太組一朗¹⁾, 小南修史¹⁾, 福地孝明¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗²⁾(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²内科学(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)): 気候と脳梗塞発症の関係. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 174) 太組一朗¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明^(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 気候とくも膜下出血発症の関係. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 175) 福地孝明¹⁾, 三品雅洋¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗²⁾(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²内科学(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)): 当センターで経験したrt-PA投与症例11例の報告. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 176) 吉田陽一, 小南修史¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明^(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 破裂椎骨動脈解離に泰対する治療戦略. 第36回日本脳卒中の外科学会, 2007. 3.
- 177) 村井保夫, 寺本 明, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 上山博康²⁾(¹日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²旭川赤十字病院脳神経外科): 視機能障害にて発症した大型内頸動脈瘤の機能予後 RAGを用いて治療した症例の検討. 第36回日本脳卒中の外科学会, 2007. 3.
- 178) 小南修史¹⁾, 渡邊 玲¹⁾, 吉田陽一, 布施 明²⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明^(¹千葉北総病院脳神経センター脳神経外科, ²高度救命救急センター): 脳出血で発症した硬膜AVFの診断と血管内治療. 第36回日本脳卒中の外

科学会，2007．3．

- 179) 水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，小南修史¹⁾，渡邊 玲¹⁾，村井保夫，鈴木紀成²⁾，梅岡克哉，寺尾 健，寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾武蔵小杉病院脳神経外科): 内頸動脈大型 (巨大) 動脈瘤に用いる手術手技の選択．第36回日本脳卒中の外科学会，2007．3．
- 180) 渡邊 玲¹⁾，小南修史¹⁾，寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 血管内塞栓術のみで消失した脳動静脈奇形の検討．第36回日本脳卒中の外科学会，2007．3．
- 181) 勝野 亮¹⁾，森本大二郎¹⁾，吹野晃一²⁾，鈴木紀成²⁾，高橋 弘²⁾，水成隆之¹⁾，寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾武蔵小杉病院脳神経外科): 椎骨動脈解離性動脈瘤術後，対側に解離性動脈瘤が生じた1症例．第36回日本脳卒中の外科学会，2007．3．
- 182) 森本大二郎¹⁾，金 景成¹⁾，野村竜太郎¹⁾，寺尾 健¹⁾，渡邊 玲¹⁾，小南修史¹⁾，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): 脳内出血で発症した破裂腫瘍性脳動脈瘤の1例．第36回日本脳卒中の外科学会，2007．3．
- 183) 梅岡克哉，水成隆之¹⁾，村井保夫，鈴木紀成²⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明 (¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科，²⁾武蔵小杉病院脳神経外科): CT所見と脳血管撮影所見の違いにより治療に苦慮したくも膜下出血症例の検討．第36回日本脳卒中の外科学会，2007．3．
- 184) 竹井麻生，鈴木雅規，江頭 登¹⁾，梶谷華子¹⁾，田原重志，山王なほ子²⁾，寺本 明，長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部基盤診断系病理診断学，²⁾山王クリニック): 下垂体GH産生腺腫のOctreotide感受性に関する臨床病理学的検討．第96回日本病理学会総会，2007．3．
- 185) 竹井麻生，鈴木雅規，梶谷 華子¹⁾，石井 雄道，田原重志，寺本 明，長村義之¹⁾(¹⁾東海大学医学部基盤診断系病理診断学): 身体所見に乏しく，GHが比較的低値であったMacro GH産生下垂体腺腫の1例．第17回臨床内分泌up date，2007．

(9) ビデオ：

- 1) 戸田茂樹：頭蓋内に伸展した頸椎1番から発症した神経鞘腫の1例．The 3rd Neurosurgical Video Conference，2007．2．

(10) ビデオ発表：

- 1) 金 景成¹⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター脳神経外科): ときどきの二年生．第17回脊髄疾患VTR技術研究会，2006．12．

(11) 研究奨励賞受賞講演：

- 1) 竹井麻生，鈴木雅規，田原重志，山王なほ子¹⁾，長村義之²⁾，寺本 明 (¹⁾山王クリニック，²⁾東海大学医学部基盤診断系病理診断学): 下垂体非機能性腺腫におけるSomatostatin receptor subtypeの発現，解析．第17回日本間脳下垂体腫瘍学会，2007．2．

[武蔵小杉病院脳神経外科]

研究概要

武蔵小杉病院脳神経外科は，付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら，脳腫瘍・脳血管障害・神経外傷・中枢神経系奇形・機能的脳疾患 (顔面痙攣，三叉神経痛など) とあらゆる脳神経系疾患の外科的治療を行っている．特に脳腫瘍に関しては，従来摘出困難と思われてきた脳幹部などの腫瘍に対しても積極的に手術療法を施行して予後の改善を目指し，悪性脳腫瘍に対しては手術後の補助療法としてQOLを重視した新しい化学療法を施行し，良好な結果を収めてきている．また，虚血性脳卒中の急性期治療 (tPA療法) を施行する神奈川県内の拠点病院となっていることから，脳卒中を初めとする救急疾患の治療にも最近は力を注いでいる．小児疾患に関しても，腫瘍性疾患の治療を主体に行っているが，もやもや病を初めとする血管性病変や中枢神経系奇形に対しても積極的に治療に取り組んで

いる。

これらの疾患に対する臨床的研究としては、脳血管障害や頭部外傷において、脳血流測定法などで脳循環を詳細に測定することにより、非観血的に正確な病態把握を行う研究。悪性腫瘍において、多くの基礎的データに基づいて特異的・非特異的免疫療法を組み合わせる臨床的に応用する研究。これらを最近の臨床的研究のメインテーマとして行っている。また、分子生物学的手法を用いた基礎的研究も盛んで、脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる遺伝子のcDNAマイクロアレイ解析やメタボローム解析による研究、腫瘍血管新生抑制に関する基礎的研究、癌抑制遺伝子を用いた遺伝子療法の研究などが盛んに行われており、毎年国内外に確実に発表が行われている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yokota T¹⁾, Kouno J, Adachi K²⁾, Takahashi H, Teramoto A²⁾, Matsumoto K, Sugisaki Y²⁾, Onda M¹⁾, Tsunoda T¹⁾(¹⁾老人病研究所生化学,²⁾附属病院脳神経外科): Identification of histological markers for malignant glioma by genome-wide expression analysis : dynein, -PIX and sorcin . Acta Neuropathol 2006 ; 111 (1): 29-38 .
- 2) Yoshida D , Kim K¹⁾, Noha M²⁾, Teramoto A³⁾(¹⁾日本医科大学千葉北総病院脳神経センター脳神経外科,²⁾帝京大学,³⁾日本医科大学附属病院脳神経外科): Anti-apoptotic action by hypoxia inducible factor 1-alpha in human pituitary adenoma cell line, HP-75 in hypoxic condition . J Neurooncol 2006 ; 78 (3): 217-225 .
- 3) Yoshida D , Teramoto A¹⁾(¹⁾附属病院脳神経外科): Enhancement of pituitary adenoma cell invasion and adhesion is mediated by discoidin domain receptor-1 . J Neurooncol 2006 ; 79 (3): 324-331 .
- 4) Morimoto D , Yoshida D , Noha M¹⁾, Suzuki M²⁾, Osamura RY³⁾, Teramoto A²⁾(¹⁾帝京大学,²⁾日本医科大学附属病院脳神経外科,³⁾東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): Phosphorylation of cAMP response element binding protein (CREB) as a marker of hypoxia in pituitary adenoma . J Neurooncol 2006 ; 79 (2): 143-150 .
- 5) Bao Y¹⁾, Yoshida D , Morimoto D , Teramoto A¹⁾(¹⁾附属病院脳神経外科): Expression of laminin beta2 : a novel marker of hypoxia in pituitary adenomas . Endocr Pathol 2006 ; 17 (3): 251-261 .
- 6) 吉田大蔵：慢性硬膜下血腫術後の中脳出血 . Clinical Neurosci 2006 ; 24 (10): 2006-2010 .
- 7) 山口文雄¹⁾, 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 小島豊之²⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾附属病院脳神経外科,²⁾四谷メディカルキューブ脳神経外科): 脳腫瘍手術における白質線維モニタリング . Neuro-Oncol 2006 ; 16 (1): 36-38 .
- 8) 高橋 弘：脳梗塞を伴う成人もやもや病の1例 . Clinical Neurosci 2006 ; 24 (9): 1055-1056 .
- 9) 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾附属病院脳神経外科): 脳血管障害；脳出血，脳梗塞 . 成人病と生活習慣病 2006 ; 36 (12): 1475-1478 .
- 10) 山口文雄, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾附属病院脳神経外科): グリオーマ 最近の治療 5-ALA 蛍光ガイド下摘出術 . 脳神経 2006 ; 58 (12): 1027-1033 .

(2) 綜説：

- 1) 高橋 弘：Journal and book review ; Neuroimaging-detected late transient treatment-induced lesions in pediatric patients with brain tumors . 小児の脳神経 2006 ; 31 (4): 332-3337 .

著書

- 1) 高橋 弘, 山口文雄¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾附属病院脳神経外科): [分担] 小児悪性グリオーマの治療戦略 特にテント上と脳幹部について . 脳腫瘍の外科 脳腫瘍手術の進歩と限界 (田淵和雄 編), 2006 ; pp78-83 , メディカ出版 .

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Takahashi H: Modern therapeutic strategies for malignant glioma. The 40th Anniversary Meeting of the Relationship between Chiang Mai University and Nippon Medical School (Chiang Mai), 2006. 7.
- 2) Takahashi H: Usefulness of NMR based metabolomics for the prognostic factor of meningioma. 2006 Conference of Asia Academic Neurosurgeons (Shanghai), 2006. 11.
- 3) 高橋 弘: ここまできた脳卒中と脳腫瘍の診断・治療. 同窓会福島県支部総会, 2006. 8.
- 4) 高橋 弘: 悪性脳腫瘍の克服を目指して. 中原区市民公開講座, 2006. 11.
- 5) 高橋 弘: NMRメタボロミクスは良性脳腫瘍の悪性化を予測できる. 第2回日本医科大学医用磁気共鳴施設公開セミナー, 2007. 2.

(2) 一般講演:

- 1) Yoshida D, Morimoto D, Teramoto A¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): Cell Invasion and Adhesion of Pituitary Adenoma Cell Mediated by Discoidin Domain Receptor-1 to Matrix Metalloproteinase-2 and -9 pathway. 2006 AANS Annual Meeting (San Francisco), 2006. 4.
- 2) 高橋 弘, 森本大二郎, 勝野 亮, 吹野晃一, 鈴木紀成, 山本 彰: Fusion Viwerを用いたIomazenilの有効性. 第18回神奈川PET・SPECT研究会, 2006. 5.
- 3) 足立好司¹⁾, 山口文雄¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 比較的短期間に増大した上衣巨細胞性星細胞種の2手術例. 第34回日本小児神経外科学会, 2006. 5.
- 4) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 短期間に増大した放射線誘発性atypical meningioma. 第24回日本脳腫瘍病理学会, 2006. 6.
- 5) 高橋 弘, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 吹野晃一, 山口文雄²⁾, 足立好司²⁾, 大野曜吉¹⁾, 寺本 明²⁾, 湯田浩太郎³⁾(¹⁾ 日本医科大学法医学, ²⁾ 同付属病院脳神経外科, ³⁾ 富士通バイオIT事業開発本部): 髄膜腫の予後判定におけるNMRメタボロミクス(メタボローム解析)の有効性. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 6) 足立好司¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): interleukin 12とinterleukin 18による抗グリオーマ活性の解析. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 7) 山口文雄¹⁾, 小島豊之²⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 四谷メディカルキューブ脳神経外科): ニューロナビゲーターの限界と有効的利用 グリオーマ手術における問題点と対処法. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 8) 猪鹿倉恭子¹⁾, 中江竜太¹⁾, 鈴木紀成, 横田裕行²⁾, 高橋 弘, 黒川 顕¹⁾, 寺本 明³⁾, 山本保博²⁾(¹⁾ 武蔵小杉病院救急救命センター, ²⁾ 付属病院高度救命救急センター, ³⁾ 同脳神経外科): 外傷性1次性脳幹損傷による眼球運動障害の検討 脚間槽血腫の診断的意義について. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 9) 吉田大蔵, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 下垂体腺腫におけるDiscoidin Domain Receptor 1 (DDR1)の腫瘍浸潤における生物学的意義に関する研究. 第10回日本内分泌病理学会総会, 2006. 10.
- 10) 竹井麻生¹⁾, 石井雄道¹⁾, 田原重志¹⁾, 高橋 弘, 長村義之²⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 日本医科大学付属病院脳神経外科, ²⁾ 東海大学医学部基盤診療学系病理診断学): Maffucci症候群に合併した下垂体腺腫の1例. 第32回ニューロ・オンコロジーの会, 2006. 12.
- 11) 山口文雄¹⁾, 高橋 弘, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 錐体路近傍腫瘍手術におけるモニタリングの問題点と対処法. 第11回日本脳腫瘍の外科学会, 2006. 12.
- 12) 吉田大蔵, 野村竜太郎, Hu Shaoshan¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): 下垂体腺腫細胞HP-75のRECK発現の細胞浸潤における意義. 第17回日本間脳下垂体腫瘍学会, 2007. 2.

(3) 一般演題:

- 1) Yamaguchi F¹⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): Intraoperative mapping of pyrami-

- dal tract utilizing new bipolar electrode NY Tract Finder . The 74th Annual Meeting of the American Association of Neurological Surgeons (San Francisco), 2006 . 4 .
- 2) Adachi K¹⁾, Yamaguchi F¹⁾, Takahashi H, Teramoto A¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): SEGA with rapid growth in a relatively short period . 34th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery (Taipei), 2006 . 9 .
- 3) Takahashi H, Kouno J, Yamaguchi F¹⁾, Adachi K¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): Comprehensive gene expression analysis of human malignant glioma using cDNA microarray for therapeutic strategy with interferon . The 56th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons (Chicago), 2006 . 10 .
- 4) Yamaguchi F¹⁾, Takahashi H, Kojima T¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾ 付属病院脳神経外科): Prevention of motor function by intraoperative detection of pyramidal tract . The 56th Annual Meeting of the American Congress of Neurological Surgeons (Chicago), 2006 . 10 .
- 5) Takahashi H, Hirakawa K¹⁾, Uekusa K¹⁾, Fukino K, Yamaguchi F²⁾, Adachi K²⁾, Ohno Y¹⁾, Teramoto A²⁾, Yuta K³⁾(¹⁾ 日本医科大学法医学, ²⁾ 同付属病院脳神経外科, ³⁾ 富士通パイオIT事業開発本部): Usefulness of NMR based metabolomics for the prognostic factor of meningioma . 5th International Congress on Meningiomas and Cerebral Venous System (Fujiyoshida City), 2006 . 11 .

[多摩永山病院脳神経外科]

研究概要

多摩永山病院脳神経外科は日本脳神経外科専門医訓練施設として付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら以下の研究を行っている。これらは全てハイレベルの受診者満足度を目的とした観点からの研究と考えている。

多摩地区は高齢者人口が増加の一途をたどり、それに伴い虚血性脳血管障害症例が急増している。それゆえ、上記疾患に対する研究を第一とした。すなわち、内頸動脈狭窄症に対しては外科的治療戦略のさらなる改善・工夫についての研究を行った。また、脳梗塞急性期症例に対し、最も重要な要因のひとつである血小板機能の病態解明について、従来にはなかった最新の研究が可能となり目下進行中である。そして近々その報告ができると確信している。なお、3D-CTAなどの画像検査・頸動脈エコー・PWV・経頭蓋超音波ドプラー検査および電気生理学的検査（ABR, SEP）等を駆使し、臨床研究の一助としている。

特にPWVおよび頸動脈エコーについては、脳梗塞予防・再発防止の観点からも研究を行っている。

次に、いわゆる無症候性疾患、特に高齢者の脳腫瘍・未破裂脳動脈瘤および脊椎・脊髄疾患などに対しては、QOLを第一とした手術法についての改良研究を行った。なお、従来摘出困難とされていた頭蓋底腫瘍に対しては、予後改善目的に手術法の検討のみならず手術器具の開発研究も行っている。

なお、当教室の主体の1つである脳下垂体腺腫、および悪性脳腫瘍については、付属病院他専門スタッフの協力を得て、脳神経外科学教室共通のプロトコールに従い治療・研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Tamaki T, Saito N, Node Y, Sawada K, Teramoto A¹⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery of Nippon Medical School): Internal carotid Artery Stenosis Due to Atherosclerotic Plaque Damage after Whiplash Injury . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (3): 154-157 .
- 2) Suzuki M, Minematsu T¹⁾, Oyama K²⁾, Tahara S³⁾, Miyai S¹⁾, Sanno N⁴⁾, Osamura RY¹⁾, Teramoto A³⁾

- (¹) Department of Pathology, Tokai University School of Medicine, (²) Toranomon Hospital, (³) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, (⁴) Sanno Clinic): Expression of proliferation markers in human pituitary incidentalomas. *Endocrine Pathology* 2006; 17 (3): 263-275.
- 3) Tamaki T, Node Y, Yamamoto Y, Teramoto A¹⁾(¹) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Cardiopulmonary hemodynamic changes during acute subdural hematoma evacuation. *Neurologia medico-chirurgica* 2007; 46: 219-225.
- 4) 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明¹⁾(¹) 付属病院脳神経外科): 脳血栓症における頸部動脈硬化とPWV. *Arterial Stiffness* 2006; 72-73.

著書

- 1) 野手洋治: [分担] Neuroimaging Quiz: 脳膿瘍, 肺動静脈瘻. *Clin Neurosci*, 2006; pp477-478, 中外医学社.
- 2) 玉置智規, 寺本 明¹⁾(¹) 付属病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz: Reversible posterior leukoencephalopathy syndrome (RPLS). *Clin Neurosci*, 2006; pp601-602, 中外医学社.
- 3) 玉置智規, 寺本 明¹⁾(¹) 多摩永山病院脳神経外科): [分担] Neuroimaging Quiz: MTXによる播種性壊死性脳症 disseminated necrotizing encephalopathy (DNE). *Clin Neurosci*, 2006; pp1277-1278, 中外医学社.
- 4) 野手洋治, 寺本 明¹⁾: [分担] 水頭症. *臨床神経学・高次脳機能障害学*, 2006; pp157-158, 医学書院.
- 5) 野手洋治, 寺本 明¹⁾(¹) 付属病院脳神経外科): [分担] 外傷. *臨床神経学・高次脳機能障害学*, 2007; pp148-156, 医学書院.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 野手洋治: 脳血栓症における血小板活性化最新モニタリング. 日本医科大学町田市同窓会, 2006. 4.
- 2) 野手洋治: 脳血栓症における血小板マイクロパーティクルの検討. 日本医科大学八王子同窓会, 2006. 7.

(2) 一般講演:

- 1) Tamaki T, Node Y, Teramoto A (¹) Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Paramedian suboccipital mini-craniectomy for evacuation of spontaneous cerebellar hemorrhage. The 8th Korean and Japanese Friendship Conference on Surgery for Cerebral Stroke (Sendai, Japan), 2006. 8.
- 2) 鈴木雅規, 土屋雅人, 木暮一成, 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明¹⁾(¹) 脳神経外科学): 遅発性に再発を来した成人後頭葉円蓋部クモ膜嚢胞の1例. 第20回日本老年脳神経外科学会, 2006. 3.
- 3) 木暮一成, 高安正和¹⁾, 小林士郎²⁾, 太組一朗²⁾, 金 景成²⁾, 井須豊彦³⁾, 涌井健治⁴⁾, 寺本 明⁵⁾(¹) 岡崎市民病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター, ³⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ⁴⁾ 千葉脳神経外科病院脳神経外科, ⁵⁾ 日本医科大学脳神経外科学): 低侵襲かつ安全な前方到達法 高安式脊椎レトラクターを用いて. 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006. 4.
- 4) 玉置智規, 野手洋治, 山田 明, 土屋雅人, 鈴木雅規, 寺本 明¹⁾(¹) 脳神経外科): Reversible Posterior leukoencephalopathy syndromeの1例. 第99回日本脳神経外科関東地方会, 2006. 4.
- 5) 木暮一成, 戸田茂樹¹⁾(¹) 付属病院脳神経外科): 脊髄腫瘍に対する低侵襲手術 SONOPET および PAL-I の有用性と問題点. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 6) 木暮一成, 伊須豊彦¹⁾, 小林士郎²⁾, 金 景成²⁾(¹) 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学千葉北総病院脳神経センター): 変形性頸椎症に対する Williams-Isu 法の導入と有用性. 第21回日本脊髄外科学会, 2006. 5.
- 7) 木暮一成, 戸田茂樹¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹) 日本医科大学脳神経外科学): 当科における前方除圧固定術の variation と indication Titanium cage fixation と Williams-Isu method'. 第10回 Water Front Neurosurgical Conference, 2006. 7.

- 8) 鈴木雅規, 木暮一成, 土屋雅人, 玉置智規, 野手洋治, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 急性の呂律障害で発症した頭蓋底陥入症の1例. 第101回日本脳神経外科学会関東地方会, 2006. 9.
- 9) 野手洋治, 玉置智規, 木暮一成, 鈴木雅規, 土屋雅人, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 血小板マイクロパーティクルは脳血栓患者を減少するための極めて有用なマーカーになり得る. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 10) 玉置智規, 齊藤寛浩¹⁾, 鈴木紀成²⁾, 立山幸次郎³⁾, 野手洋治, 寺本 明⁴⁾(¹⁾埼玉医科大学脳神経外科, ²⁾日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾博慈会記念総合病院脳神経外科, ⁴⁾日本医科大学脳神経外科学): 自験例におけるCEA時のパッチグラフトの検討. 第65回社団法人日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 11) 玉置智規: 脳梗塞とCEA. 第2回永山病院看護部研修会, 2006. 10.
- 12) 木暮一成, 戸田茂樹¹⁾, 金 景成²⁾, 玉置智規, 野手洋治, 小林士郎²⁾, 赤石江太郎³⁾, 原田俊一³⁾, 湧井健治³⁾, 太組一朗²⁾, 伊須豊彦⁴⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾日本医科大学脳神経外科, ²⁾同千葉北総病院脳神経センター, ³⁾千葉脳神経外科病院脳神経外科, ⁴⁾釧路労災病院脳神経外科): 変形性頸椎症に対する前方除圧固定術のvariation Williams-lsu法とチタンケージの手術適応. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 13) 野手洋治, 玉置智規, 寺本 明¹⁾(¹⁾付属病院脳神経外科): 血小板マイクロパーティクル測定は脳血栓症のリスクを低下させる有用なマーカーと考える. 第12回日本脳神経外科救急学会, 2007. 1.
- 14) 野手洋治: 脳血栓症に対する血小板マイクロパーティクル測定は極めて有用である. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 15) 玉置智規, 齊藤寛浩¹⁾, 鈴木紀成²⁾, 立山幸次郎³⁾, 野手洋治, 寺本 明⁴⁾(¹⁾埼玉医科大学脳神経外科, ²⁾日本医科大学武蔵小杉病院脳神経外科, ³⁾博慈会記念総合病院脳神経外科, ⁴⁾日本医科大学付属病院脳神経外科): 自験例におけるCEA時のパッチグラフトの検討. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 16) 木暮一成, 太組一朗¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明²⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経センター, ²⁾日本医科大学脳神経外科学): 時間的空間的多発の経過をとるanaplastic meningiomaの1例. 第24回日本脳腫瘍病理学会, 2006. 6.

[千葉北総病院脳神経外科]

研究概要

開設13年が経過した千葉北総病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら、脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、脳代謝、脳血管内手術、脊髄脊椎外科、機能的脳神経外科および形成外科的脳神経外科を中心とした臨床的および基礎的研究を行った。Stroke Care Unit (SCU) および、脳卒中ホットラインも順調に稼動しており、千葉県北部における基幹施設としての責務を果たした。

- 1) 脳血管障害: 気候と脳梗塞発症およびくも膜下出血発症の関係を調査した。当センターにて経験したrt-PA連続20症例の報告を行った。外科的にはRAgraftを併用した治療困難な内頸動脈瘤の長期予後を調査した。また、内頸動脈大型(巨大)もしくは血栓化動脈瘤に対する治療法の選択基準を発表した。
- 2) 頭部外傷: 受傷急性期の分子マーカーからみた頭部外傷の形態把握と予後予測を行った。
- 3) 脳腫瘍: 髄液漏で発症したアクロメガリーの検討を行った。脳下垂体腺腫形成におけるPTTG (pituitary tumor-transformin gene) の役割に関する研究を継続した。
- 4) 脳代謝: アルツハイマー病における描画機能と脳ブドウ糖代謝の関係を報告した。未治療パーキンソン病におけるアデノシンA2A受容体結合能について検討した。
- 5) 脳血管内手術: 脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術の適応と長期成績を論じた。
- 6) 脊髄脊椎外科: 頸椎固定術後固定椎角と頸椎アライメントに関する検討を加えた。
- 7) 機能的脳神経外科: てんかん重積に至った天幕上 neuroenteric cyst の検討を行った。

8) 形成外科的脳神経外科：新たに Costemic Neurosurgery を開設した．この分野において free muscle flap による頭蓋底再建の有用性を述べると共に，小児頭蓋骨形成術における自家骨移植の再検討を行った．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Yoshida D¹⁾, Kim K, Noha M¹⁾, Teramoto A¹⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Anti-Apoptotic Action by Hypoxia Inducible Factor 1 Alpha in Human Pituitary Adenoma Cell Line, HP-75 in Hypoxic Condition . J Neurooncol 2006 ; 78 (3): 217-225 .
- 2) Katsuno M¹⁾, Yokota H¹⁾, Yamamoto Y¹⁾, Teramoto A²⁾(¹⁾ Department of Emergency and Critical Care, Nippon Medical School ,²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Increased regional interleukin-4 during the acute stage of severe intracranial disorders . Neurol Med Chir (Tokyo) 2006 ; 46 : 471-475 .
- 3) Kim K , Isu T¹⁾, Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾, Kogure K (¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, Kushiro): Surgical pitfalls of an ultrasonic bone curette (SONOPET) in spinal surgery . Neurosurgery 2006 ; 59 : 390-393 .
- 4) Miyamoto M¹⁾, Kim K , Matsumoto R¹⁾, Isobe M¹⁾, Isu T¹⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Kushiro Rosai Hospital, Kushiro): Utility of preoperative magnetic resonance imaging myelography for identifying dural defects in patients with spinal extradural arachnoid cysts . Neurosurgery 2006 ; 59 (4) .
- 5) 金 景成 , 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾(¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科): 腰部脊柱管狭窄症に対する再手術例の検討 . 脊髄外科 2006 ; 105-112 .
- 6) 福地孝明 , 三品雅洋 , 小林士郎 : Stroke Care Unit (SCU) の現状と将来に展望 . 日本集中治療医学会 2006 ; 411-416 .

(2) 症例報告：

- 1) Kim K , Mizunari T , Mizutani N , Kobayashi S , Takizawa K¹⁾, Kamiyama H¹⁾, Murai Y²⁾, Teramoto A²⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Asahikawa Red-cross Hospital, Hokkaido, Japan , ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan): : Giant intracranial aneurysm of the anterior communicating artery treated by direct Surgery using A3-A3 side-to-side anastomosis and A3-RA graft-STA anastomosis . Acta Neurochir (Wien) 2006 ; 148 : 353-357 .
- 2) Saito N¹⁾, Yamazaki M¹⁾, Kobayashi S , Teramoto A²⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Nagareyama Central Hospital, Nagareyama, Chiba ; , ²⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Tokyo): Resection of arteriovenous malformation in a patient with hemophilia type A . Neurol Med Chir (Tokyo) 2006 ; 46 : 191-193 .
- 3) 金 景成 , 井須豊彦¹⁾, 松本亮司¹⁾, 宮本倫行¹⁾, 磯部正則¹⁾(¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科): Far-out syndrome の 1 例 . 脳神経外科 2006 ; 313-317 .

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：脳神経外科の最新治療について．平成 17 年度日本医科大学同窓会千葉支部総会講演会，2006 . 4 .
- 2) 小林士郎：「危険な頭痛・珍しい頭痛・面白い頭」脳外科医の視点から．第 7 回千葉頭痛研究会，2006 . 4 .
- 3) 小林士郎：脳卒中にならないために．第 1 回八千代市脳卒中市民公開講座，2006 . 6 .
- 4) 小林士郎：脳卒中にならないために．平成 18 年度 (社) 成田法人会青年部・女性部会合同講演会，2006 . 11 .

- 5) 小林士郎：脳卒中にならないために．香取市市民公開講座，2006．11．
- 6) 太組一郎：脳血管障害．北総救命会 救急症候・病態生理学講義，2006．11．
- 7) 三品雅弘：アデノシン A2A 受容体とパーキンソン病．第10回Neurology SPECT 定量検討会，2006．11．
- 8) 小南修史：液体塞栓物質を用いた脳血管内治療．釧路脳神経外科懇話会，2007．3．

(2) 教育講演：

- 1) 小南修史：硬膜 AVF に対する NBCA 塞栓術．第22回日本脳神経血管内治療学会，2006．11．

(3) セミナー：

- 1) 金 景成：クモ膜下出血を来たした頸椎硬膜動静脈瘻の1例．第82回東葉臨床医学セミナー，2006．6．
- 2) 渡辺 玲：condylarconfluence の dural AVF3例．第7回脳神経血管内治療琉球セミナー，2006．7．
- 3) 金 景成：クモ膜下出血を来たした頸椎硬膜動静脈瘻の1例．第82回東葉臨床医学セミナー，2006．7．
- 4) 金 景成：頸椎部硬膜動静脈ろうの1例．第10回 Water Front Neurosurgical Conference，2006．7．
- 5) 三品雅洋：tPA の使用経験．第8回脳卒中勉強会，2007．2．
- 6) 竈藤健太：もやもや病の1例．第8回脳卒中勉強会，2007．2．

(4) 一般講演：

- 1) Mishina M , Ishii K¹⁾ , Kitamura S³⁾ , Kimura Y¹⁾ , Naganawa M⁶⁾ , Hashimoto M⁴⁾ , Suzuki M⁴⁾ , Oda K¹⁾ , Hamamoto M²⁾ , Kobayashi S , Katayama Y¹⁾ , Ishiwata K¹⁾ (¹⁾Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , ²⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ³⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital , ⁴⁾ Department of Neurology, The Jikei University School of Medicine, Department of Internal Medicine , ⁵⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ⁶⁾ JSPS Research Fellow, Japan Society for the Promotion of Science.) : Distribution of adenosine A2A receptors in de novo Parkinson's disease using TMSX PET -a preliminary study-. Targeting Adenosine A2A Receptors in Parkinson's Disease and other CNS Disorders (Boston) , 2006 . 5 .
- 2) Mishina M , Ishii K¹⁾ , Kitamura S²⁾ , Kobayashi S , Iwashita K¹⁾ , Katayama Y²⁾ (¹⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , ²⁾ Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Relationship between drawing function and cerebral metabolism of glucose in Alzheimer's disease . 12th Annual Meeting of the Organization for Human Brain Mapping (Florence) , 2006 . 6 .
- 3) Mishina M , Ishii K¹⁾ , Kitamura S²⁾ , Kobayashi S , Ishiwata K¹⁾ , Katayama Y²⁾ (¹⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , ²⁾ Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Drawing task in ADAS-cog and MMSE : A FDG PET study . The 10th International Conference on Alzheimer's Disease and Related Disorders (Madrid) , 2006 . 7 .
- 4) Kominami S , Yoshida Y¹⁾ , Fuse A²⁾ , Kobayashi S , Teramoto A¹⁾ (¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School, Department of Critical Care Medicine, Nippon Medical School) : Alternative approaches for dural arteriovenous fistulae . The 8th Korean and Japanese Friendship Conference on Surgery (Sendai) , 2006 . 8 .
- 5) Mishina M , Ishii K¹⁾ , Kitamura S⁴⁾ , Kimura Y²⁾ , Naganawa M⁷⁾ , Hashimoto M⁵⁾ , Suzuki M⁵⁾ , Oda K²⁾ , Hamamoto M⁶⁾ , Kobayashi S , Katayama Y³⁾ , Ishiwata K²⁾ (¹⁾ Neurological Institute, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology , ³⁾ Second Department of Internal Medicine, Nippon Medical School , ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Musashi Kosugi Hospital , ⁵⁾ Department of Neurology, Jikei University School of Medicine , ⁶⁾ Department of Internal Medicine, Nippon Medical School Chiba Hokusoh Hospital , ⁷⁾ JSPS Research Fellow, Japan Society for the Promotion of Science) : Relationship between dopamine D2 and adenosine A2A receptors in drug naive Parkinson's disease using TMSX PET . The Movement Disorder Society's 10th In-

- ternational Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Kyoto), 2006 . 11 .
- 6) Suzuki M¹⁾, Hashimoto M²⁾, Mishina M, Kawasaki K²⁾, Inoue K¹⁾, Ishii K²⁾(¹⁾ Department of Neurology, Jikei University School of Medicine, ²⁾ Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology): Imaging of the dopaminergic system in Lewy body disease with PET . The Movement Disorder Society's 10th International Congress of Parkinson's Disease and Movement Disorders (Kyoto), 2006 . 11 .
 - 7) Kim K : The cervical anterior fusion by Williams-Isu method that use bioabsorptive screws . The 6th Biennial Meeting of Korea-Japan Conference on Spinal Surgery (Busan, Korea), 2007 . 3 .
 - 8) 福地孝明, 三品雅洋, 水成隆之, 小南修史, 渡辺 玲, 寺尾 健, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾(¹⁾ 日本医科大学内科学第2): 当センターにて経験した rt-PA 7症例の報告 . 第18回日本脳循環代謝学会総会, 2006 . 11 .
 - 9) Takumi I, Mizunari T, Kobayashi S, Teramoto A¹⁾(¹⁾ Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): Dissecting PICA Aneurysm Presenting with SAH Right After Anti-coagulant And Anti-platelet Therapy against Ischemic Event . 第21回日本脳神経外科国際学会フォーラム, 2006 . 7 .
 - 10) 金 景成 : スーパーフィクソープを用いた Williams-Isu法による頸椎前方固定術 . 釧路脳神経外科懇話会, 2006 . 3 .
 - 11) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 脳神経外科学): Basilar bifurcation aneurysm に対する anteriortemporal approach sideの選択 . 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006 . 4 .
 - 12) 金 景成, 野村竜太郎, 瀧藤健太, 水成隆之, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 脳神経外科学): くも膜下出血にて発症した上位頸椎部硬膜動静脈ろうの1例 . 第26回東北北海道脊髄疾患研究会, 2006 . 4 .
 - 13) 木暮一成, 高安正和¹⁾, 小林士郎, 水成隆之, 太組一朗, 金 景成, 井須豊彦²⁾, 湧井健治³⁾, 寺本 明⁴⁾(¹⁾ 岡崎市民病院脳神経外科, ²⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ³⁾ 日本医科大学千葉脳神経外科病院脳神経外科, ⁴⁾ 同脳神経外科学): 低侵襲かつ安全な前方到達法 高安式脊椎レトラクターを用いて . 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006 . 4 .
 - 14) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾, 上山博康²⁾(¹⁾ 日本医科大学脳神経外科学, ²⁾ 旭川赤十字病院脳神経外科学): High flow bypassの術後合併症とその予後 . 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006 . 4 .
 - 15) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 脳神経外科学): 鞍結節髄膜腫に対する interhemispheric approachとその展開 . 第15回脳神経外科手術と機器学会, 2006 . 4 .
 - 16) 野村竜太郎, 金 景成, 水成隆之, 寺尾 健, 渡辺 玲, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾ 脳神経外科学): 脳出血で発症した腫瘍性脳動脈瘤の1例 . 第99回日本脳神経外科学会関東地方会, 2006 . 4 .
 - 17) 金 景成, 瀧藤健太, 野村竜太郎, 寺尾 健, 渡辺 玲, 太組一朗, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 外転神経麻痺にて発症した頭蓋底部病変の1例 . 第50回千葉北総神経放射線研究会, 2006 . 5 .
 - 18) 瀧藤健太, 野村竜太郎, 寺尾 健, 渡辺 玲, 金 景成, 太組一朗, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: 視野障害, 物忘れを主訴に来院した53歳, 女性 . 第50回千葉北総神経放射線研究会, 2006 . 5 .
 - 19) 瀧藤健太, 野村竜太郎, 寺尾 健, 渡辺 玲, 金 景成, 太組一朗, 三品雅洋, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎: リスクファクターがなく左上小脳動脈領域に脳梗塞を発症した症例 . 第50回千葉北総神経放射線研究会, 2006 . 5 .
 - 20) 清水立矢¹⁾, 高玉 真¹⁾, 内藤 功¹⁾, 松本正弘²⁾, 小南修史(¹⁾ 老年病研究所附属病院脳神経外科, ²⁾ 館林厚生病院脳神経外科): 小脳テント硬膜動静脈瘤の1例 . 第38回北関東頭頸部血管内手術懇話会, 2006 . 5 .
 - 21) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾(¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科学): 頸椎固定術後頸椎アライメントに関する検討 . 第21回日本脊髄外科学会, 2006 . 5 .
 - 22) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾(¹⁾ 釧路労災病院脳神経外科, ²⁾ 日本医科大学脳神経外科学): 腰部脊柱管狭窄症の再手術例に関する検討 . 第21回日本脊髄外科学会,

2006 . 5 .

- 23) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾(¹⁾釧路労災病院脳神経外科, ²⁾日本医科大学脳神経外科学): far-out syndromeの1例. 第21回日本脊髄外科学会, 2006 . 5 .
- 24) 井須豊彦¹⁾, 磯部正則¹⁾, 松本亮司¹⁾, 金 景成, 木暮一成: 腰部脊柱管狭窄症に対する棘突起經由による腰椎後方除圧術の手術手技. 第21回日本脊髄外科学会, 2006 . 5 .
- 25) 井須豊彦¹⁾, 金 景成, 磯部正則¹⁾, 松本亮司¹⁾, 木暮一成: 長期成績からみた自家椎体使用による頸椎前方固定術の手術適応. 第21回日本脊髄外科学会, 2006 . 5 .
- 26) 木暮一成¹⁾, 井須豊彦²⁾, 小林士郎, 金 景成(¹⁾日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾釧路労災病院脳神経外科): 変形性頸椎症に対するWilliams-Isu法の導入と有用性. 第21回日本脊髄外科学会, 2006 . 5 .
- 27) 三品雅洋, 石井賢二¹⁾, 北村 伸²⁾, 石渡喜一¹⁾, 小林士郎, 片山泰朗³⁾(¹⁾東京都老人総合研究所ポジットロン医学研究グループ, ²⁾日本医科大学武蔵小杉病院内科, ³⁾同内科学第2): アルツハイマー病における描画機能と脳ブドウ糖代謝の関係. 第47回日本神経学会総会, 2006 . 5 .
- 28) 熊谷智昭¹⁾, 三品雅洋, 武井健吉²⁾, 福地孝明, 水成隆之, 松本 尚²⁾, 益子邦洋²⁾, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾, 赫 彰郎¹⁾(¹⁾日本医科大学内科学第2, ²⁾同千葉北総病院救命救急センター): 脳神経センターにおけるドクターヘリ利用状況. 第47回日本神経学会総会, 2006 . 5 .
- 29) 三谷和子¹⁾, 石井賢二²⁾, 三品雅洋(¹⁾東京都老人医療センター神経内科, ²⁾東京都老人総合研究所ポジットロン医学研究グループ): 痴呆を伴うパーキンソン病における黒質線条体ドパミン系機能. 第47回日本神経学会総会, 2006 . 5 .
- 30) 橋本昌也¹⁾, 川崎敬一²⁾, 鈴木正彦²⁾, 井上聖啓¹⁾, 三谷和子²⁾, 三品雅洋, 織田圭一²⁾, 木村裕一²⁾, 石渡喜一²⁾, 石井賢二²⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学神経内科, ²⁾東京都老人研究所ポジットロン医学研究グループ): 多系統萎縮症における黒質線条体ドパミン機能障害の検討. 第47回日本神経学会総会, 2006 . 5 .
- 31) 金 景成: ありそうでなかなかないクモ膜下出血の1例. 第63回東葛脳神経外科カンファレンス, 2006 . 6 .
- 32) 金 景成: 頸椎前方固定術後固定椎角に関する検討. 第7回東北北海道脳神経外科研究会, 2006 . 6 .
- 33) 小南修史, 小林士郎: 外傷性頸動脈解離の2症例. 第51回関東脳神経外科懇話会, 2006 . 6 .
- 34) 太組一朗, 水谷腸秀¹⁾, 木暮一成²⁾, 小林士郎, 森 修³⁾, 寺本 明⁴⁾(¹⁾静岡厚生病院脳神経外科, ²⁾日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ³⁾同千葉北総病院病理部, ⁴⁾同脳神経外科学): てんかん重積に至った天幕上Neuroenteric cystの1例. 第24回日本脳腫瘍病理学会, 2006 . 6 .
- 35) 雨宮志門¹⁾, 濱本 真¹⁾, 三品雅洋, 西山 穰¹⁾, 片山泰朗²⁾(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾内科学第2): 広範なMRI拡散強調画像異常を呈し, 123I-iomazenil-SPECTが有用であった78歳女性てんかん重責発作の1例. 第177回日本神経学会関東地方会, 2006 . 6 .
- 36) 金 景成, 野村竜太郎, 瀧藤健太, 水成隆之, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 頸椎部硬膜動静脈ろうの1例. 第10回Water Front Neurosurgical Conference, 2006 . 7 .
- 37) 岡田知弥子¹⁾, 八木沢奨¹⁾, 加藤香織¹⁾, 伊藤朋子¹⁾, 佐々木優子¹⁾, 野口 素¹⁾, 水成隆之(¹⁾千葉北総病院看護部): りんごを用いた排便コントロールの試み. 第15回日本意識障害学会, 2006 . 7 .
- 38) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明²⁾, 百束比古³⁾(¹⁾千葉北総病院形成外科, ²⁾脳神経外科学, ³⁾形成外科学): Free muscle flapによる頭蓋底再建の治療経験. 第18回日本頭蓋底外科学会, 2006 . 7 .
- 39) 三品雅洋, 石井賢二¹⁾, 北村 伸³⁾, 木村裕一¹⁾, 長縄美香¹⁾, 織田圭一¹⁾, 橋本昌也⁵⁾, 濱本 真⁴⁾, 小林士郎, 片山泰朗²⁾, 石渡喜一¹⁾(¹⁾東京都老人総合研究所ポジットロン医学研究グループ, ²⁾日本医科大学内科学第2, ³⁾同武蔵小杉病院内科, ⁴⁾同千葉北総病院内科, ⁵⁾東京慈恵会医科大学神経内科): 未治療パーキンソン病におけるドパミントランスポーター・ドパミンD2受容体分布の左右差とアデノシンA2A受容体分布の関係: [C-11]TMSX PETを用いた検討. 第6回パーキンソン病フォーラム, 2006 . 8 .
- 40) 渡辺 玲, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): t-PA治療症例の現状および傾向. 第25回

The Mt. Fuji Workshop on CVD, 2006 . 8 .

- 41) 野村竜太郎, 小南修史, 水成隆之, 小林士郎: 急性硬膜下血腫で発症した脳動静脈奇形の1例. 第20回千葉県重症患者管理研究会, 2006 . 9 .
- 42) 瀧藤健太, 水成隆之, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 治療に難渋した脳底動脈巨大血栓化動脈瘤の1例. 第100回日本脳神経外科学会関東地方会, 2006 . 9 .
- 43) 寺尾 健, 小林士郎: 高度の石灰化を伴った頸動脈狭窄症の1例. 第64回東葛脳神経外科カンファレンス, 2006 . 9 .
- 44) 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 内頸動脈大型(巨大)もしくは血栓化動脈瘤に対する治療法の選択. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006 . 10 .
- 45) 小南修史, 渡辺 玲, 吉田陽一¹⁾, 布施 明²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学, ²⁾救急医学): 脳動静脈奇形に対するNBCAを用いた塞栓術の適応と長期成績. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006 . 10 .
- 46) 木暮一成¹⁾, 戸田茂樹²⁾, 金 景成, 玉置智規¹⁾, 野手洋治¹⁾, 小林士郎, 赤石江太郎³⁾, 原田俊一³⁾, 湧井健治³⁾, 太組一朗, 井須豊彦⁴⁾, 寺本 明²⁾(¹⁾日本医科大学多摩永山病院脳神経外科, ²⁾同脳神経外科学, ³⁾千葉脳神経外科病院脳神経外科, ⁴⁾釧路労災病院脳神経外科): 変形性頸椎症に対する前方除圧固定術のvariation Williams-lsu法とチタンケージの手術適応. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006 . 10 .
- 47) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 松本亮司¹⁾, 磯部正則¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾(¹⁾釧路労災病院脳神経外科, ²⁾日本医科大学脳神経外科学): 頸椎固定術後固定椎角と頸椎アライメントに関する検討. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006 . 10, 2006 . 10 .
- 48) 村井保夫¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 上山博康²⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾日本医科大学脳神経外科学, ²⁾旭川赤十字病院脳神経外科): RA graftを併用した治療困難な内頸動脈瘤の長期予後. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006 . 10 .
- 49) 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 磯部正則¹⁾, 松本亮司¹⁾, 茂木洋晃¹⁾, 金 景成(¹⁾釧路労災病院脳神経外科): 患者アンケートによる頸椎変性疾患の長期手術成績. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006 . 10 .
- 50) 横田裕行¹⁾, 高山泰広¹⁾, 渥美生弘¹⁾, 荒木 尚¹⁾, 佐藤秀貴¹⁾, 布施 明¹⁾, 山本保博¹⁾, 小林士郎, 寺本明²⁾(¹⁾救急医学, ²⁾脳神経外科学): 受傷急性期の分子マーカーからみた頭部外傷の形態把握と予後予測 脳血管内皮障害と凝固線溶異常の見地から. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006 . 10 .
- 51) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾(¹⁾釧路労災病院脳神経外科, ²⁾日本医科大学脳神経外科): 頸椎・頸髄疾患における脊髄造影検査の必要性に関する検討. 第27回東北海道脊髄疾患研究会, 2006 . 10 .
- 52) 金 景成, 井須豊彦¹⁾, 菅原 淳¹⁾, 小林士郎, 寺本 明²⁾(¹⁾釧路労災病院脳神経外科, ²⁾日本医科大学脳神経外科学): 頸椎前方固定術後アライメント悪化を術前に予測できるか 固定椎角に主眼を置いて. 第41回日本脊髄障害医学会, 2006 . 11 .
- 53) 三品雅洋, 石井賢二¹⁾, 北村 伸³⁾, 木村裕一¹⁾, 長縄美香¹⁾, 橋本昌也⁴⁾, 鈴木正彦⁴⁾, 織田圭一¹⁾, 小林士郎, 片山泰朗²⁾, 石渡喜一¹⁾(¹⁾東京都老人総合研究所ボジトロン医学研究グループ, ²⁾日本医科大学内科学第2, ³⁾日本医科大学武蔵小杉病院内科, ⁴⁾東京慈恵会医科大学神経内科): [11C]TMSX PETを用いた未治療パーキンソン病におけるアデノシンA2A受容体結合能: a preliminary study. 第46回日本核医学会学術総会, 2006 . 11 .
- 54) 宮宮 志門¹⁾, 濱本 真¹⁾, 三品雅洋, 西山 穰²⁾, 有井一正²⁾, 片山泰朗²⁾(¹⁾千葉北総病院内科, ²⁾内科学第2): 広範囲の123I-iomazenilの可塑性取り込み低下を認めたてんかん重責発作の1例. 第18回日本脳循環代謝学会総会, 2006 . 11 .
- 55) 宮田美穂¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 太組一朗, 岡 敏行¹⁾, 井内亜美¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾千葉北総病院形成外科, ²⁾付属病院形成外科・美容外科): 眼窩底骨折に対するナビゲーションシステムの有用性. 第16回日本シュミレーション外科学会, 2006 . 11 .

- 56) 太組一朗, 秋元正宇¹⁾, 岡 敏行¹⁾, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明²⁾, 百束比古³⁾(¹⁾千葉北総病院形成外科, ²⁾脳神経外科学, ³⁾形成外科学): 小児頭蓋骨形成における自家骨移植の再検討. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 2006. 11.
- 57) 宮田美穂¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 太組一朗, 岡 敏行¹⁾, 井内亜美¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾千葉北総病院形成外科, ²⁾形成外科学): ナビゲーションシステムを用いた眼窩底骨折の治療経験. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会総会・学術集会, 2006. 11.
- 58) 小南修史, 渡辺 玲, 吉田陽一¹⁾, 布施 明²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学, ²⁾救命救急センター): 経静脈的塞栓が困難な硬膜 AVF の治療-NBCA を用いた経動脈的塞栓. 第22回日本脳神経血管内治療学会, 2006. 11.
- 59) 渡辺 玲, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): NBCA を用いた塞栓術のみで, ナイダスが消失した脳動静脈奇形の検討. 第22回日本脳神経血管内治療学会, 2006. 11.
- 60) 吉田陽一¹⁾, 小南修史, 金澤隆三郎¹⁾, 渡辺 玲, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): Myelopathy にて発症した骨盤内動静脈奇形の1例. 第22回日本脳神経血管内治療学会, 2006. 11.
- 61) 太組一朗, 小林士郎, 田原重志¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 髄液瘻で発症したアクロメガリーの1症例. 第4回千葉下垂体疾患研究会, 2006. 11.
- 62) 渡辺 玲, 水成隆之, 小南修史, 寺尾 健, 纈纈健太, 村井保夫¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 椎骨動脈解離に対してバイパス術と血管内治療を併用した1症例. 第101回日本脳神経外科学会関東支部会, 2006. 11.
- 63) 村井保夫¹⁾, 寺本 明¹⁾, 水成隆之, 小林士郎(¹⁾脳神経外科学): 内頸動脈病変に対するRA グラフトー術後合併症とその原因の検討. 第101回日本脳神経外科学会関東支部会, 2006. 11.
- 64) 小南修史: 血管内治療の1例. 第12回房総脳神経血管内治療カンファレンス, 2006. 12.
- 65) 渡辺 玲, 小南修史: 会心の一撃: 急性硬膜下血腫で発症したAVMの1例. 第20回西関東 Neuro IVR セミナー, 2006. 12.
- 66) 金 景成: どきどきの二年生. 第17回脊髄疾患VTR技術研究会, 2006. 12.
- 67) 金 景成, 纈纈健太, 野村竜太郎, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 頸椎黄色靭帯骨化症の1例. 第30回日本脳神経CI学会総会, 2007. 2.
- 68) 勝野 亮, 水成隆之, 小林士郎: 出血発症の両側性椎骨動脈解離性動脈瘤の1例. 第65回東葛脳神経外科カンファレンス, 2007. 2.
- 69) 三品雅洋, 太組一朗, 小南修史, 福地孝明, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾(¹⁾内科学(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)): 気候と脳梗塞発症の関係. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 70) 太組一朗, 三品雅洋, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 気候とくも膜下出血発症の関係. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 71) 福地孝明, 三品雅洋, 水成隆之, 小林士郎, 片山泰朗¹⁾(¹⁾内科学(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)): 当センターで経験したrt-PA投与症例11例の報告. 第32回日本脳卒中学会総会, 2007. 3.
- 72) 小南修史, 渡辺 玲, 吉田陽一¹⁾, 布施 明²⁾, 小林士郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学, ²⁾高度救命救急センター): 脳出血で発症した硬膜 AVF の診断と血管内治療. 第36回日本脳卒中の外科学会, 2007. 3.
- 73) 水成隆之, 小林士郎, 小南修史, 渡辺 玲, 村井保夫¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 梅岡克哉¹⁾, 寺尾 健¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 内頸動脈大型(巨大)動脈瘤に用いる手術手技の選択. 第36回日本脳卒中の外科学会, 2007. 3.
- 74) 渡辺 玲, 小南修史, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 血管内塞栓術のみで消失した脳動静脈奇形の検討. 第36回日本脳卒中の外科学会, 2007. 3.
- 75) 勝野 亮, 森本大二郎, 吹野晃一¹⁾, 鈴木紀成¹⁾, 高橋 弘¹⁾, 水成隆之, 寺本 明²⁾(¹⁾武蔵小杉病院脳神経外科, ²⁾脳神経外科学): 椎骨動脈解離性動脈瘤術後, 対側に解離性動脈瘤が生じた1症例. 第36回日本脳卒

中の外科学会，2007．3．

- 76) 森本大二郎，金 景成，野村竜太郎，寺尾 健，渡辺 玲，小南修史，水成隆之，小林士郎，寺本 明¹⁾
(¹⁾脳神経外科学): 脳内出血で発症した破裂腫瘍性脳動脈瘤の1例．第36回日本脳卒中の外科学会，2007．3．
- 77) 梅岡克哉¹⁾，水成隆之，村井保夫¹⁾，鈴木紀成²⁾，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学，²⁾武蔵小杉病院脳
神経外科): CT所見と脳血管撮影所見に違いにより治療に苦慮したくも膜下出血症例の検討．第36回日本脳卒
中の外科学会，2007．3．
- 78) 吉田陽一¹⁾，小南修史，渡辺 玲，小林士郎，寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 破裂椎骨動脈解離に対する治療
戦略．第36回日本脳卒中の外科学会，2007．3．
- 79) 村井保夫¹⁾，寺本 明¹⁾，水成隆之，小林士郎，上山博康²⁾(¹⁾日本医科大学脳神経外科学，²⁾旭川赤十字病院
脳神経外科): 視機能障害にて発症した大型内頸動脈瘤の機能予後 RAGを用いて治療した症例の検討．第36回
日本脳卒中の外科学会，2007．3．

12．整形外科学講座

[付属病院整形外科・武蔵小杉病院整形外科・多摩永山病院整形外科・
千葉北総病院整形外科]

研究概要

整形外科学教室の平成18年度の研究は、臨床的研究において脊椎部、肩・肘・股・膝関節部、手の外科、足の外科、骨・軟部腫瘍などを対象とした疾患ならびに外傷に対する系統的臨床研究報告を行った。部位別にみると、脊椎では頸・腰椎部疾患の診断・治療、手術手技、手の外科では手関節周辺骨折、末梢神経・腱の障害に対する治療および手術法の開発、肩関節障害に対する手術的治療の新知見などを発表した。骨軟部腫瘍に対する診断、治療法における新知見を報告している。

基礎的研究では、留学先との共同研究である手の指関節を支持する靭帯の3次元的な構造と機能の解明に対する研究成果を学会、誌上で報告した。またヒト骨髄ES細胞を2次培養後の細胞増殖に関する研究成果を報告した。

学会発表は量、質ともに向上し、国際学会の発表頻度が増加して発表の場の広がりをみせ、シンポジウム、招待・研修・一般講演などが積極的に行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kitagawa Y¹⁾, Ek ET¹⁾, Choong PF¹⁾ (¹⁾ Dept. of Orthopaedics, St Vincent Hospital Melbourne): Pelvic reconstruction using saddle prosthesis following limb salvage operation for periacetabular tumour . J Orthop Surg. 2006 ; 14 (2): 155-162 .
- 2) Sawaizumi T , Nanno M¹⁾, Ito H : De Quervain's disease : efficacy of intra-sheath triamcinolone injection . Int Orthop. 2006 ; 31 (2): 265-268 .
- 3) Nanno M , Buford WL¹⁾, Patterson RM¹⁾, Andersen CR¹⁾, Viegas SF¹⁾ (¹⁾ University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation): Three-dimensional Analysis of the Ligamentous Attachments of the First Carpometacarpal Joint . Journal of Hand Surgery 2006 ; 31A (7): 1160-1170 .
- 4) Hayashi O , Sawaizumi T , Nambu A , Ito H : Closed Radial Wedge Osteotomy for Preiser's Disease : a case report . The Journal of Hand surgery 2006 ; 31 (7): 1154-1156 .
- 5) Nanno M , Buford WL¹⁾, Patterson RM¹⁾, Andersen CR¹⁾, Viegas SF¹⁾ (¹⁾ University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation): Three-dimensional Analysis of the Ligamentous Attachments of the Second through Fifth Carpometacarpal Joints . Clinical Anatomy 2006 ; 20 : 1-15 .
- 6) Nanno M , Patterson RM¹⁾, Viegas SF¹⁾ (¹⁾ University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation): Three-dimensional imaging of the carpal ligaments . Hand Clinics 2006 ; 22 (4): 399-412 .
- 7) Imaeda T¹⁾, Toh S²⁾, Wada T³⁾, Uchiyama S⁴⁾, Okinaga S⁵⁾, Kusunose K⁶⁾, Sawaizumi T (¹⁾ Department of Public Health, Fujita Health University School of Medicine , ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University School of Medicine , ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Sapporo Medical University School of Medicine , ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery Shinshu University School of Medicine , ⁵⁾ Tokyo

Teishin Hospital , ⁶⁾ Tokyo Rosai Hospital): Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand Version of the Quick Disability of the Arm, Shoulder, and Hand (quickDASH-JSSH) questionnaire . J Orthop Sci. 2006 ; 11 (3): 248-253 .

- 8) Imaeda T¹⁾, Uchiyama S²⁾, Toh S³⁾, Wada T⁴⁾, Okinaga S⁵⁾, Sawaizumi T (¹⁾ Department of Public Health, Fujita Health University School of Medicine , ²⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Shinshu University School of Medicine , ³⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Hirosaki University School of Medicine , ⁴⁾ Department of Orthopaedic Surgery, Sapporo Medical University School of Medicine , ⁵⁾ Tokyo Teishin Hospital): Validation of the Japanese Society for Surgery of the Hand version of the Carpal Tunnel Syndrome Instrument . J Orthop Sci. 2007 ; 12 (1): 14-21 .
 - 9) Osahune T¹⁾, Nitsyboshi M¹⁾, Ito T¹⁾, Aoki S¹⁾, Ehara T¹⁾, Hashiguchi H, Minami K (¹⁾ Nippon Sport Science University): Analysis of Bacterial Flora in Dohyo Soil . Environmental Health and Preventive Medicine 2007 ; 12 (1): 11-16 .
 - 10) 橋口 宏, 伊藤博元, 江川慶長: 肩腱板不全断裂に対する保存的治療に影響を及ぼす因子の検討 . 肩関節 2006 ; 30 (3): 485-488 .
 - 11) 澤泉卓哉, 南野光彦, 飯澤典茂, 須藤悦宏, 伊藤博元: 粉碎骨折橈骨頭・頸部骨折の治療成績の検討 . 日本肘関節学会雑誌 2006 ; 13 (2): 23-24 .
 - 12) 堀口 元, 澤泉卓哉, 青木孝文, 南野光彦, 伊藤博元: 生体内吸収性ポリ-L 乳酸接合材を使用した Sauve-Kapandji法の治療成績 . 日本手の外科学会誌 2006 ; 23 (5): 672-675 .
 - 13) 橋口 宏, 伊藤博元: 上腕骨大結節変形治療によるインピンジメント症候群に対する鏡視下肩峰下除圧術の治療成績 . 関節鏡 2007 ; 32 (1): 23-27 .
 - 14) 橋口 宏, 伊藤博元: 腱板不全断裂の保存的治療に影響を及ぼす因子の検討 . 臨床整形外科 2007 ; 42 (3): 231-234 .
 - 15) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 伊藤博元: 橈骨遠位端骨折に対するオリーブワイヤーによる小骨片整復固定を併用した non-bridging 創外固定法 . 日創外固定会誌 2007 ; 18 : 107-111 .
- (2) 綜説 :
- 1) 南野光彦, 澤泉卓哉, 青木孝文, 伊藤博元: 手根管症候群の治療の実際 II. 検査診断 電気生理: 順行性感覚神経インテグレーション法による診断 . 関節外科 2006 ; 25 (3): 272-277 .
 - 2) 大場俊二¹⁾, 南 和文, 伊藤博元 (¹⁾ 大場整形外科): 成長期の脊椎・下肢スポーツ外傷と障害の対応, 成長期腰椎分離症 (腰椎疲労骨折) の発生頻度, 診断と治療 . 骨・関節・靭帯 2006 ; 19 (4): 283-293 .
 - 3) 橋口 宏, 伊藤博元: 肩のリハビリテーション . リウマチ科 2006 ; 36 (2): 137-142 .
 - 4) 青木孝文, 今野俊介, 南野光彦, 伊藤博元: 手関節部絞扼神経障害 . 骨・関節・靭帯 2006 ; 19 (10): 933-938 .
 - 5) 澤泉卓哉: 手関節周辺部の疼痛に対する診断と治療法: 見逃されやすい手根骨骨折: 診断と治療の実際 . 骨・関節・靭帯 2006 ; 19 (10): 897-905 .
 - 6) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 小児上肢骨折診断と治療: 小児上腕骨顆上骨折の保存的療法 . 骨・関節・靭帯 2006 ; 19 (11): 981-988 .
 - 7) 南 和文: 特集 成長期におけるスポーツ傷害, 野球 . 小児科 2006 ; 47 (13): 1969-1978 .
 - 8) 宮本雅史: 急性腰痛症の診療ガイドライン: 海外の現状と課題 . 日本整形外科看護研究会誌 2006 ; 1 : 18-20 .
 - 9) 伊藤博元: 「運動器不安定症」の概念・診断法 . 臨床スポーツ医学 2006 ; 23 (10): 1279-1281 .
 - 10) 澤泉卓哉: ばね指 (弾撥指) の診断と治療 . 痛みと臨床 2006 ; 16 : 45-50 .
 - 11) 澤泉卓哉, 林 央介, 伊藤博元: 手指末節骨の骨延長: 治療成績と問題点 . 整・災外 2006 ; 49 : 51-58 .
 - 12) 南野光彦, 澤泉卓哉, 青木孝文, 伊藤博元: 検査診断. 電気生理: 順行性感覚神経インテグレーション法による診断 . 特

集 手根管症候群の治療の実際. 関節外科 2006 ; 25 (3): 32-37 .

13) 伊藤博元 : 運動器不安定症の概念 . 整形災害外科 2007 ; 50 (1): 5-9 .

(3) 症例報告 :

1) Nanno M , Sawaizumi T , Ito H : Transverse divergent dislocation of the elbow with ipsilateral distal radius fracture in a child . J Orthop Trauma 2007 ; 21 (2): 145-149 .

2) 林 央介 , 飯澤典茂 , 角田 隆 , 伊藤博元 : 肩甲骨胸郭面下角に発生した外骨腫の1例 . 関東整形災害外科学会雑誌 2006 ; 37 (3): 91-96 .

3) 林 央介 , 澤泉卓哉 , 齋藤 善 , 堀口 元 , 伊藤博元 : 軸圧骨折の合併を疑わせた月状骨体部横断骨折の1例 . 整形・災害外科 2006 ; 49 (11): 1347-1350 .

(4) 追加分原著 :

1) Ek ET¹⁾ , Ojaimi J¹⁾ , Kitagawa Y¹⁾ , Choong PF¹⁾ (¹⁾ Dept. of Orthopaedics, St Vincent Hospital Melbourne): Does the degree of intratumoural microvessel density and VEGF expression have prognostic significance in osteosarcoma? . Oncol Rep 2006 ; 16 (1): 17-23 .

2) EK ET¹⁾ , Ojaimi J¹⁾ , Kitagawa Y¹⁾ , Choong PF¹⁾ (¹⁾ Dept. of Orthopaedics, St Vincent Hospital Melbourne): Outcome of patients with osteosarcoma over 40 years of age : Is angiogenesis a marker of survival . Int Semin Surg Oncol 2006 ; 3 : 7-7 .

3) Thai DM¹⁾ , Kitagawa Y¹⁾ , Choong PF¹⁾ (¹⁾ Dept. of Orthopaedics, St Vincent Hospital Melbourne): Outcome of surgical management of bony metastases to the humerus and shoulder girdle : a retrospective analysis of 93 patients . Int Semin Surg Oncol 2006 ; 3 : 5-5 .

4) 齋藤 善¹⁾ , 澤泉卓哉 , 堀口 元 , 伊藤博元 (¹⁾ 大洗海岸病院): 当施設における日帰り手の外科手術 : 開始後1年間の現状について . 日本手の外科学会雑誌 2005 ; 22 (4): 504-506 .

著 書

1) Nanno M , Patterson RM¹⁾ , Viegas SF¹⁾ (¹⁾ The University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation): [分担] Carpal Ligament Anatomy and Biomechanics . Wrist and Elbow Arthroscopy and Reconstruction. A master skills publication. (Trumble TE, Bufdoff JE (Ed.) , 2006 ; pp1-16 , American Society for Surgery of the Hand .

2) 青木孝文 : [分担] 脛骨天蓋骨折 : ダブルプレートを用いた整復固定 . 足の外科の要点と盲点 , 2006 ; 文光堂 .

3) 伊藤博元 : [分担] 肩関節および肩甲帯の発生 , 解剖 , 機能 . 図説 , 新肩の臨床 , 2006 ; pp2-16 , メジカルビュー社 .

4) 河路秀巳 : [分担] 大腿骨頸部骨折 . 今日の治療指針2007年版 , 2007 ; pp764-765 , 医学書院 .

5) 宮本雅史 : [分担] 頸椎症性脊髄症 , 頸椎症性神経根症のMRI診断 . 図解よくわかる整形外科MRI診断実践マニュアル 第1版 (伊藤博元編) , 2007 ; pp10-22 , 全日本病院出版社 .

6) 澤泉卓哉 , 伊藤博元 : [分担] 手舟状骨骨折・骨壊死のMRI . 図解よくわかる整形外科MRI診断実践マニュアル 第1版 (伊藤博元編) , 2007 ; pp156-163 , 全日本病院出版会 .

7) 森 淳 : [分担] 膝関節正常MRI像と膝靭帯損傷のMRI診断 . 図解よくわかる整形外科MRI診断実践マニュアル 第1版 (伊藤博元編) , 2007 ; pp196-204 , 全日本病院出版会 .

学会発表

(1) 招待講演 :

1) Sawaizumi T : Vasclarized second metacarpal base bone graft for scaphoid nonunion . The 8th annual scientific meeting of Ho Chi Minh City hand surgery society (Ho Chi Minh) , 2007 . 3 .

(2) 教育講演：

- 1) 宮本雅史：物理療法．第29回理学療法指導講習会，2006．4．
- 2) 森 淳：運動と年齢；整形外科系．平成18年度東京都医師会健康スポーツ医学講習会，2006．5．
- 3) 伊藤博元：スポーツによる肩関節外傷・障害の診療ポイント．第4回 福岡スポーツ研究会，2006．6．
- 4) 伊藤博元：内科臨床医が知って役立つ肩・腰・膝疾患の診断・治療のポイント．朝日現代医学セミナー，2006．7．
- 5) 澤泉卓哉：上肢の骨折：私の工夫．弘前大学医学部整形外科月例会，2006．9．
- 6) 宮本雅史：物理療法．運動器リハビリテーションセラピスト研修会，2006．10．
- 7) 伊藤博元：疾患別リハビリテーション．運動器リハビリテーションセラピスト研修会，2006．10．
- 8) 伊藤博元：VDT作業による筋骨格系障害防止．安全衛生技術研修，2006．10．
- 9) 伊藤博元：医療者と患者を支える診療ガイドライン・腰痛．第5回 EBM研究フォーラム，2006．10．
- 10) 伊藤博元：疾患別リハビリテーション．第29回理学療法指導者講習会，2006．10．
- 11) 澤泉卓哉：中手骨基部からの骨移植 その手技とpitfall．第33回日本マイクロサージャリー学会，2006．10．
- 12) 成田哲也：運動のためのメディカルチェック 整形外科系．平成18年度日本体育協会公認スポーツドクター養成講習会，2006．11．
- 13) 伊藤博元：職場における頸肩腕症候群・五十肩対策．第2回産業保険特定科目専門研修会，2006．11．
- 14) 伊藤博元：肩関節外傷，スポーツ障害の診断・治療ポイント．山梨手の外科研究会，2006．11．
- 15) 澤泉卓哉：舟状骨偽関節に対する手術：血管柄付き骨移植術は難しくない．第7回熊本骨折セミナー，2007．1．
- 16) 伊藤博元：外傷後，術後のリハビリテーション．日本整形外科学会運動器リハビリテーション医師研修会，2007．2．

(3) シンポジウム：

- 1) Ito H：Clinical outcome on shoulder prosthesis over 10 years follow-up．The 15th Japan-Taiwan Orthopaedic Symposium (Taichung)，2006．4．
- 2) Aoki T，Horiguchi G：A study of intrinsic muscle activities in carpal tunnel syndrome．The 15th Taiwan-Japan Orthopaedic Symposium (Tainan, Taiwan)，2006．4．
- 3) 伊藤博元，星野雄¹⁾，岩谷 力²⁾(¹⁾自治医科大学整形外科，²⁾国立身体障害者リハビリテーションセンター)：運動器リハビリテーション研修制度について．第79回 日本整形外科学術総会，2006．5．

(4) パネルディスカッション：

- 1) 橋口 宏，伊藤博元：上腕骨近位部骨折に対するNeer分類およびAO分類．第33回日本肩関節学会，2006．9．
- 2) 飯澤典茂，橋口 宏，堀口 元，植松卓哉，伊藤博元：Neer分類3・4 part上腕骨近位端骨折における成績不良因子の検討．第33回日本肩関節学会，2006．9．
- 3) 宮本雅史：日本整形外科学会腰痛評価質問票における重症度スコアの設定と年代別評価について．第14回日本腰痛学会，2006．11．
- 4) 河路秀巳，玉井健介，堀口 元，松井秀平，伊藤博元：全身状態不良の大腿骨頸部骨折の非手術例の検討．第47回関東整形災害外科学会，2007．3．
- 5) 宮本雅史，元文芳和，今野俊介，中嶋祐作，小寺訓江，松井秀平，伊藤博元：棘突起縦割式脊柱管拡大術におけるC7棘突起縦割と頸部愁訴との関連について．第47回関東整形災害外科学会，2007．3．
- 6) 澤泉卓哉，南野光彦¹⁾，堀口 元，萩原祐介，松井秀平，伊藤博元(¹⁾武蔵小杉病院)：AO分類C3橈骨遠位端骨折に対する手術的治療：non-bridging型創外固定とロッキングプレート固定の比較．第47回関東整形災害外科学会，2007．3．

(5) 一般講演：

- 1) Oota N¹⁾，Ito H(¹⁾Mitsubishi Heavy Industries, LTD. Hospital)：Improving Compliance and Persistence with Drug Therapies for Osteoporosis．33th European Symposium on Calcified Tissue (Prague, Czech)，

2006 . 5 .

- 2) Nanno M , Buford WL¹⁾ , Patterson RM¹⁾ , Andersen CR¹⁾ , Viegas SF¹⁾ (¹⁾ University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation): Three-Dimensional Analysis of Ligamentous Attachments of the Carpometacarpal joints . The 61th Annual Meeting of the American Society for Surgery of the Hand, (Washington DC, USA), 2006 . 9 .
- 3) Aoki T , Konno S , Horiguchi G , Yoshizawa T , Nanno M , Ito H : Sensory Conduction study of carpal tunnel syndrome with inching technique . The 28th International Congress of Clinical Neurophysiology (Edinburgh, Scotland), 2006 . 9 .
- 4) Takuya U , Makino A , Matsui S , Sawaizumi T , Ito H : Non-bridging type external fixation for digits . The 2nd meeting of Japanese-Italian Combined Meeting of Hand Club (Mirano), 2006 . 10 .
- 5) Tanaka Y , Sawaizumi T , Hattori M¹⁾ , Ito H (¹⁾ Tama Nagayama Hospital): Stabilization of the proximal ulnar stump in the Sauve-Kapandji procedure : a comparison between non-stabilizing and stabilizing groups . The 2nd meeting of Japanese-Italian Combined Meeting of Hand Club (Mirano), 2006 . 10 .
- 6) Jin H¹⁾ , Yukawa M¹⁾ , Toh S¹⁾ , Sawaizumi T (¹⁾ Department of Orthopaedic Surgery Hirosaki University School of Medicine): Ulnarization as a new treatment for radial club hand : A case report . The 44th Annual meeting of the Italian Society for Surgery of the Hand (Mirano), 2006 . 10 .
- 7) Nanno M , Viegas SF¹⁾ , Sawaizumi T , Ito H (¹⁾ University of Texas Medical Branch at Galveston Department of Orthopaedics and Rehabilitation): Three-Dimensional Analysis of Ligamentous Attachments of the second through fifth Carpometacarpal joints . The 6th Congress of Asia Pacific Federation of Societies for Surgery of the Hand, (Bangkok, Thailand), 2006 . 11 .
- 8) Sawaizumi T , Nanno M , Ito H : Non-bridging type external fixation for the fracture of the distal radius using Olive-wire to reduce small fragments . The 6th Asian-Pacific federation of society for surgery of the hand (Bangkok), 2006 . 11 .
- 9) Hashiguchi H , Ito H , Egawa Y : Factors influencing the outcome of nonsurgical treatment for partial-thickness rotator cuff tears . 74th Annual Meeting of AAOS (American Academy of Orthopaedic Surgeons) (San Diego, CA), 2007 . 2 .
- 10) Nanno M , Sawaizumi T , Ito H : Three-Dimensional Analysis of Ligamentous Attachments of the Capitate and the Hamate . The 10th Congress of the International Federation of Societies for Surgery of the Hand, (IFSSH World Hand Congress) (Sydney, Australia), 2007 . 3 .
- 11) Kitagawa Y , Kuriyama N , Kim R , Tanaka Y , Sudo E , Sawaizumi T , Maeda S¹⁾ , Ito H (¹⁾ Division of Pathology, Tama Nagayama Hospital): Lipoma of the finger with large bone erosion . The 10th Triennial Congress of International Federation of Societies for Surgery of the Hand (Sydney, Australia), 2007 . 3 .
- 12) Sawaizumi T , Nanno M , Ito H : Intrathecal steroid injection for de Quervain's disease : A prospective comparison between triamcinolone and betamethasone . The 10th congress of the international federation of societies for surgery of the hand (Sydney), 2007 . 3 .
- 13) 青木孝文 , 堀口 元 , 林 央介 , 中嶋祐作 , 伊藤博元 : 脛骨骨端線損傷により生じた内反変形をイリザロフ法で矯正治療した1例 . 第44回関東整形災害外科学会 , 2006 . 3 .
- 14) 青木孝文 , 堀口 元 , 澤泉卓哉 , 伊藤博元 : 肘部管症候群での知覚性インチング法による波形分析と臨床症状との関連について . 第49回日本手の外科学会 , 2006 . 4 .
- 15) 北川泰之 , 伊藤博元 , 澤泉卓哉 , 前田昭太郎¹⁾ , 天野康雄¹⁾ (¹⁾ 付属病院放射線科): 腱鞘巨細胞腫の術前診断 . 第49回日本手の外科学会 , 2006 . 4 .
- 16) 北川泰之 , 伊藤博元 , 澤泉卓哉 , 角田 隆 , 横山宗伯¹⁾ (¹⁾ 東京警察病院): 腱鞘巨細胞腫の治療成績と再発因

子．第49回日本手の外科学会，2006．4．

- 17) 今野俊介，宮本雅史，元文芳和，青木孝文，中嶋祐作，伊藤博元：頸部脊髄症病態評価のための経頭蓋磁気刺激運動誘発電位と下肢刺激短潜時体性感覚誘発電位との中枢伝導時間算出の試み．第35回日本脊椎脊髄病学会，2006．4．
- 18) 澤泉卓哉，南野光彦，栗山直之，堀口 元，伊藤博元：Sauve-Kapandji法における尺骨近位断端部痛に対する尺骨近位断端制動術の検討：第2報．第49回日本手の外科学会学術集会，2006．4．
- 19) 内山茂晴¹⁾，今枝敏彦²⁾，楠瀬浩一³⁾，澤泉卓哉，藤 哲⁴⁾(¹⁾信州大学医学部運動機能学，²⁾藤田保健衛生大学公衆衛生学，³⁾東京労災病院，⁴⁾弘前大学医学部整形外科学)：手根管症候群におけるQUL(CTSI, DASH, SH-36)と理学検査の反応性の比較．第49回日本手の外科学会学術集会，2006．4．
- 20) 宮本雅史：棘突起縦割式脊柱管拡大術におけるC7棘突起縦割と頸部愁訴との関連：C6棘突起の形態的特徴に注目して．第35回日本脊椎脊髄病学会，2006．4．
- 21) 橋口 宏，伊藤博元，南 和文，中嶋隆夫，江川慶長，村重良一：肩腱板不全断裂の保存的治療に影響を及ぼす因子の検討．第79回日本整形外科学会学術総会，2006．5．
- 22) 橋口 宏，伊藤博元，南 和文，大場俊二¹⁾，中嶋隆夫，江川慶長，村重良一(¹⁾大場整形外科クリニック)：メディカルチェックからみたリトルリーグショルダーの発症要因．第79回日本整形外科学会学術総会，2006．5．
- 23) 玉井健介，河路秀巳，牧野 晃，植松卓哉，伊藤博元：変形性股関節症のタイプにより人工関節置換術の待機がソケット設置に与える影響は異なる．第79回日本整形外科学会学術集会，2006．5．
- 24) 元文芳和，宮本雅史，今野俊介，中嶋祐作，田口和宏，伊藤博元：外来診療における腰痛の実態調査：推移と心理状態．第79回日本整形外科学会学術総会，2006．5．
- 25) 武本俊彦¹⁾，南部昭彦¹⁾，河路秀巳，玉井健介，伊藤博元(¹⁾三宿病院)：大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折9例の臨床的検討：急速性破壊性股関節症との関連について．第79回日本整形外科学会学術総会，2006．5．
- 26) 今野俊介，宮本雅史，元文芳和，青木孝文，中嶋祐作，伊藤博元：脊椎疾患における脛骨神経刺激短潜時体性感覚誘発電位中枢伝導時間の検討．第79回日本整形外科学会総会，2006．5．
- 27) 橋口 宏，伊藤博元，南 和文，中嶋隆夫，江川慶長，村重良一：上腕骨大結節骨折変形治療によるインピンジメント症候群に対する鏡視下肩峰下除圧術の治療成績．第32回日本関節鏡学会，2006．6．
- 28) 橋口 宏，伊藤博元，大場俊二¹⁾，南 和文，中嶋隆夫，江川慶長(¹⁾大場整形外科クリニック)：肩関節上方関節唇損傷に対する保存療法の治療成績．第32回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会，2006．6．
- 29) 森 淳，成田哲也，飯澤典茂，高松 眞，伊藤博元：Augmentation法(1ルート)による膝前十字靭帯再建術．第31回日本膝関節学会，2006．6．
- 30) 青木孝文，須藤悦宏，堀口 元，牧野 晃，伊藤博元：先天性内反足に対する保存療法の工夫について．第31回日本足の外科学会，2006．6．
- 31) 江川慶長，南 和文，橋口 宏，中嶋隆夫，村重良一，伊藤博元：膝自家骨軟骨移植術におけるドナー部位のMRIによる術後変化の検討．第1回JOSKAS，2006．6．
- 32) 花岡央泰，成田哲也，赤石文洋，丸山晴久，萬歳祐子，須藤賢太郎，伊藤博元：早期スポーツ復帰を目的として遠位脛腓関節固定にTension Band Wiring法を用いた足関節脱臼骨折の一治療経験．第32回日本整形外科学スポーツ医学会学術集会，2006．6．
- 33) 林 幹彦，北川泰之，栗山直之，田中陽子，金 竜，藤井信人，伊藤博元：悪性グロームス腫瘍の1例．第629回整形外科集談会東京地方会，2006．6．
- 34) 橋口 宏，伊藤博元：上腕骨骨幹部骨折に対する髓内固定法およびプレート固定法の検討．第32回日本骨折治療学会，2006．7．
- 35) 林 央介，澤泉卓哉，飯澤典茂，齋藤 善¹⁾，堀口 元，伊藤博元(¹⁾大洗海岸病院)：橈骨遠位端骨折の治療成績評価法に関する検討．第32回骨折治療学会，2006．7．

- 36) 北川泰之, 伊藤博元, EK ET¹⁾, Choong PF¹⁾ (¹⁾Dept. of Orthopaedics, St Vincent Hospital Melbourne): Saddle Prosthesisを用いた骨盤白蓋周辺原発性悪性腫瘍切除後の再建. 第39回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会, 2006. 7.
- 37) 村重 良一, 南 和文, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 江川慶長, 伊藤博元: 大腿骨転子部骨折に対する髓内釘型hip screw systemの合併症の検討. 第32回日本骨折治療学会, 2006. 7.
- 38) 中嶋隆夫, 南 和文: ペディクルスクリュー挿入操作がDVT発生に影響を与えているのか?: 我われの周術期DVT対策の紹介も含めて. 第10回国際脊柱再建セミナー, 2006. 7.
- 39) 中嶋祐作, 宮本雅史, 元文芳和, 今野俊介, 小寺訓江, 松井秀平, 伊藤博元: 胸腰椎移行部黄色靭帯骨化症(OYL)の手術治療成績の検討: 当該椎間板の変性との関連性について. 第55回東日本整形災害外科学会, 2006. 9.
- 40) 橋口 宏, 伊藤博元: 肩腱板不全断裂に対する鏡視下手術の治療成績. 第33回日本肩関節学会, 2006. 9.
- 41) 吉田真一¹⁾, 橋口 宏, 泉川幸恵¹⁾, 小塚和豊¹⁾ (¹⁾千葉北総病院リハビリテーション科): 肩腱板断裂に対する運動正確性の検討. 第3回肩の運動機能研究会, 2006. 9.
- 42) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 青木孝文, 中嶋祐作, 小寺訓江, 松井秀平, 伊藤博元: 脊椎疾患における下肢刺激性感覚誘発電位の検討. 第55回東日本整形災害外科学会, 2006. 9.
- 43) 河路秀巳, 玉井健介, 小林俊之¹⁾, 小寺訓江, 伊藤博元 (¹⁾奥多摩病院): 大腿骨頸基部骨折に対する髓内釘型内固定材(IMHS)による治療成績. 第33回日本股関節学会, 2006. 10.
- 44) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 第1手根中手関節靭帯の3次元解析による解剖学的研究. 第21回日本整形外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 45) 玉井健介, 河路秀巳, 小寺訓江, 植松卓哉, 伊藤博元: 股関節裂隙が急速に狭小化した症例の検討. 第33回日本股関節学会, 2006. 10.
- 46) 松井秀平, 澤泉卓哉, 堀口 元, 牧野 晃, 伊藤博元: 小指MP関節包の断裂の1例. 関東整形災害外科学会月例会 第636回整形外科集談会東京地方会, 2006. 11.
- 47) 武本俊彦¹⁾, 南部昭彦¹⁾ (¹⁾三宿病院): 大腿骨頭軟骨下脆弱性骨折12例の臨床的検討: 急速破壊性股関節症との関連性について. 第6回世田谷区医師会学会, 2006. 11.
- 48) 青木孝文, 今野俊介, 宮本雅史, 伊藤博元: 腰痛に対する簡便な運動療法の試み. 第14回日本腰痛学会, 2006. 11.
- 49) 青木孝文, 今野俊介, 堀口 元, 吉澤隆明, 小寺訓江, 伊藤博元: 知覚性インチング法からみた手根管症候群と肘部管症候群の違い. 第36回日本臨床神経生理学学会, 2006. 11.
- 50) 今野俊介, 青木孝文, 宮本雅史, 元文芳和, 中嶋祐作, 小寺訓江, 伊藤博元, 中村和江¹⁾, 青木 亘¹⁾, 宗像祐美子¹⁾ (¹⁾日本医科大学生理機能センター): 下肢刺激短潜時性感覚誘発電位の脊椎手術前と術中との変化の検討. 第36回日本臨床神経生理学学会, 2006. 11.
- 51) 今野俊介, 宮本雅史, 元文芳和, 中嶋祐作, 小寺訓江, 松井秀平, 伊藤博元: 年齢の異なる対象群における腰痛評価指標への応答に関する検討. 第14回日本腰痛学会, 2006. 11.
- 52) 大場俊二¹⁾, 南 和文, 伊藤博元 (¹⁾大場整形外科): 腰椎疲労骨折の早期診断と早期スポーツ復帰. 第17回日本臨床スポーツ医学会学術集会, 2006. 11.
- 53) 南 和文, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 江川慶長, 村重良一: 股関節形成術に使用する補填材の工夫. 第6回千葉股関節研究会, 2006. 11.
- 54) 萩原祐介, 玉井健介, 堀口 元, 伊藤博元: 脛骨遠位部脆弱性骨折の1例. 関東整形災害外科学会月例会 第637回整形外科集談会東京地方会, 2006. 12.
- 55) 丸山晴久, 橋口 宏, 中嶋隆夫, 江川慶長, 南 和文, 大秋美治¹⁾, 伊藤博元 (¹⁾千葉北総病院病理部): 示指爪床に発生したsolitary fibrous tumorの1例. 関東整形災害外科学会月例会 第637回整形外科集談会東京地方会, 2006. 12.

- 56) 南野光彦, 澤泉卓哉, 伊藤博元: 第1手根中手関節靭帯の3次元運動解析. 第21回東日本手の外科研究会, 2007. 1.
- 57) 澤泉卓哉, 南野光彦, 堀口 元, 萩原祐介, 松井秀平, 伊藤博元: 橈骨遠位端関節内骨折にnon-bridging型創外固定: 小骨片整復固定の工夫. 第21回東日本手の外科研究会, 2007. 1.
- 58) 松井秀平, 澤泉卓哉, 林 央介, 牧野 晃, 堀口 元, 伊藤博元: tumorous calcinosisによる手根管症候群の3例. 第21回東日本手の外科研究会, 2007. 1.
- 59) 今野俊介, 青木孝文, 江川慶長, 堀口 元, 吉澤隆明, 伊藤博元, 中村和江¹⁾, 青木 亘¹⁾, 宗像祐美子¹⁾ (¹⁾生理機能センター): 上肢誘発F波のパラメータ判読評価に関する検討. 第28回脊髄機能診断研究会, 2007. 2.
- 60) 澤泉卓哉, 南野光彦, 林 央介, 堀口 元, 伊藤博元: 上腕骨外顆骨折: 手術侵入法と遺残変形に関する検討. 第19回日本肘関節学会, 2007. 2.
- 61) 中嶋隆夫, 丸山晴久, 江川慶長, 村重良一, 橋口 宏, 南 和文: 脊椎短縮術後に発生したARDS (成人呼吸促迫症候群) の1例. 第8回ちば脊椎カンファレンス, 2007. 2.
- 62) 橋口 宏, 伊藤博元: 肩関節成長期スポーツ障害の予防と治療. 第47回関東整形災害外科学会, 2007. 3.
- 63) 堀口 元, 成田哲也, 南野光彦, 赤石文洋, 高松 眞, 萬歳祐子, 伊藤博元: 空手のキック動作で生じた長母趾伸筋腱皮下断裂の1例. 第47回関東整形災害外科学会, 2007. 3.
- 64) 林 央介, 勝部好裕¹⁾, 廣瀬志弘¹⁾, 伊藤博元, 大串 始¹⁾ (¹⁾産業技術総合研究所 セルエンジニアリング研究部門組織・再生工学研究グループ): 骨再生医療へ向けた間葉系細胞の 初期培養の検討. 第6回日本再生医療学会, 2007. 3.
- 65) 元文芳和, 宮本雅史, 今野俊介, 中嶋祐作, 小寺訓江, 伊藤博元, : 化膿性脊椎炎の病態と治療. 第47回関東整形災害外科学会, 2007. 3.
- 66) 中嶋隆夫, 丸山晴久, 江川慶長, 村重良一, 橋口 宏, 南 和文, 家田俊也¹⁾, 宮本雅史, 伊藤博元, (¹⁾大洗海岸病院): 脊椎手術周術期における抗凝固療法の検討. 第47回関東整形災害外科学会, 2007. 3.

13. 産婦人科学講座

[付属病院女性診療科・産科]

研究概要

周産期医学，婦人科腫瘍学，生殖内分泌医学，手術学の各部門でそれぞれ精力的に行われた。

周産期医学領域では，妊娠中の母児間のアルブミン輸送における胎盤の役割を解明した。また，妊娠高血圧症群妊婦における生理的，病理的意義につき，プロテオミクス，ジェノミクスの手法を用いて解析された。

婦人科腫瘍学では，神奈川県立がんセンターとの共同研究として子宮体癌325例を詳細に解析し，病理組織学的にどの因子が予後に重要であるかを検討した。また，卵巣腫瘍患者における血管新生抑制因子の発現，特に血中エンドスタチン測定の意味などが検討された。

生殖医学部門では，不育症治療における種々の抗リン脂質抗体の意義，治療法の検討が行われた。また，子宮外妊娠における術後の血中hCG減衰曲線の解析がなされた。さらに，プロテオミクス技術を用いて子宮内膜症患者に特有な蛋白発現パターンの研究が進行している。

手術学部門では，子宮頸癌に対する広汎性子宮全摘術における神経温存術式の確立を進めている。また，卵巣腫瘍摘出術，筋腫核出術，単純子宮摘出術等に対しての腹腔鏡下手術の適応拡大とその有用性などが検討された。

以上各分野において積極的，独創的な研究がなされている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Mori M¹⁾, Ishikawa G, Takeshita T, Goto T¹⁾, Robinson JM¹⁾, Takizawa T¹⁾ (¹⁾ Dept. Molecular Anatomy, Nippon Medical School): Ultrahigh-resolution immunofluorescence microscopy using ultrathin cryosections: subcellular distribution of caveolin-1alpha and CD31 in human placental endothelial cells. J Electron Microsc (Tokyo) 2006; 55 (2): 107-112.
- 2) Nishi Y, Takeshita T: Asherman syndrome. Nippon Rinsho 2006; 28: 418-421.
- 3) Nakai A, Yoshida A, Yamaguchi S, Kawabata I, Hayashi M, Yokota A, Isozaki T, Takeshita T: Incidence and risk factors for severe perineal laceration after vaginal delivery in Japanese patients. Arch Gynecol Obstet 2006; 274 (4): 222-226.
- 4) Kobayashi H, Pian-Smith M¹⁾, Sato M, Sawa R, Takeshita T, Raemer D¹⁾ (¹⁾ Harvard Univ.): A cross-cultural survey of residents' perceived barriers in questioning/challenging authority. Qual Saf Health Care 2006; 15 (4): 277-283.
- 5) Kawabata I, Nakai A, Takeshita T: Prediction of HELLP syndrome with assessment of maternal dual hepatic blood supply by using Doppler ultrasound. Arch Gynecol Obstet 2006; 274 (5): 303-309.
- 6) Wei J, Satomi M, Negishi Y, Matsumura Y, Miura A, Nishi Y, Asakura H, Takeshita T: Effect of sera on the adhesion of natural killer cells to the endothelium in severe pre-eclampsia. J Obstet. Gynaecol. Res. 2006; 32 (5): 443-448.
- 7) Miyake H, Nakai A, Shimada T, Takeshita T: Effect of first-trimester ultrasound examination for chromosomal aberrations in women undergoing amniocentesis. J Nippon Med Sch 2006; 73 (5): 271-276.
- 8) Mine K, Katayama A, Matsumura T, Nishino T, Kuwabara Y, Ishikawa G, Murata T, Sawa R, Otsubo Y, Shin S, Takeshita T: Proteoma Analysis of Human Placentae: Pre-eclampsia versus Normal Pregnant-

cy . Placenta 2006 .

- 9) Mori M¹⁾, Ishikawa G, Luo S, Mishima T, Goto T, Robinson JM¹⁾, Matsubara S¹⁾, Takeshita T, Kataoka H, Takizawa T²⁾ (¹⁾ Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical School, ²⁾ Dept. Molecular Anatomy, Nippon Medical School): The cytotrophoblast layer of human chorionic villi becomes thinner but maintains its structural integrity during gestation . Biol Reprod 2007 ; 76 (1): 164-172 .
- 10) Mishima T¹⁾, Kurasawa G¹⁾, Ishikawa G, Mori M¹⁾, Kawahigashi Y¹⁾, Ishikawa T¹⁾, Luo SS¹⁾, Takizawa T¹⁾, Goto T¹⁾, Matsubara S¹⁾, Takeshita T, Robinson JM¹⁾, Takizawa T¹⁾, Dept. of Molecular Anatomy, Nippon Medical School : Endothelial expression of Fc gamma receptor IIb in the full-term human placenta . Placenta 2007 ; 28 (2): 170-174 .
- 11) Okino K, Nagai H, Nakayama H, Doi D, Yoneyama K, Konishi H, Takeshita T : Inactivation of Crk SH3 domain-binding guanine nucleotide-releasing factor (C3G) in cervical squamous cell carcinoma . Int J Gynecol Cancer 2006 ; 16 (2): 763-771 .
- 12) 菊池英美, 磯 太一, 三浦 敦, 大内 望, 石川 源, 澤倫太郎, 竹下俊行, 岩崎雄樹, 村井綱児, 高野照夫, 原 啓子, 金子朋広, 片山泰朗: 血漿交換が有効であったHELLP症候群の1例 . 日医大医会誌 2006 ; 2 (4): 261-261 .
- 13) 明樂重夫, 阿部 崇, 根岸靖幸, 黒瀬圭輔, 西 弥生, 竹下俊行: 子宮外妊娠に対する卵管温存手術 . 産婦人科の世界 2006 ; 58 (4): 361-367 .
- 14) 竹下俊行: 女性診療科外来プラクティス IV 不妊・避妊・不育症外来 不育症の治療 . 臨床婦人科産科 2006 ; 60 (4): 526-529 .
- 15) 阿部 崇, 土居大祐, 西 弥生, 品川寿弥, 米山剛一, 竹下俊行: 子宮頸部明細胞腺癌の1例 . 日産婦東京地方部会誌 2006 ; 55 (1): 15-18 .
- 16) 石川 源, 土居大祐, 梶川 望, 菊池英美, 弘末卓也, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行: 大量腹水を呈し甲状腺成分を伴った成熟嚢胞性奇形種の1例 . 日産婦東京地方部会誌 2006 ; 55 (2): 187-191 .
- 17) 三浦 敦, 米山剛一, 明樂重夫, 竹下俊行: 卵巣癌直腸浸潤が疑われた深部子宮内膜症を伴った偽嚢胞の1例 . エンドメトリオーシス研究会誌 2006 ; 27 : 87-90 .
- 18) 三浦 敦, 米山剛一, 黒瀬圭輔, 弘末卓也, 大内 望, 菊池英美, 土居大祐, 竹下俊行: タモキシフェン内服後に発症した子宮体部漿液性腺癌の1例 . 日産婦東京会誌 2006 ; 55 (3): 352-356 .
- 19) 竹下俊行: 各種感染症の母子感染予防婦人科学会雑誌 . 日本産科婦人科学会雑誌 2006 ; 58 (9): 416-422 .
- 20) 竹下俊行: 高いレベルのエビデンスに基づく習慣流産 不育症のスクリーニング検査 . 産婦人科の実際 2006 ; 55 (9): 1337-1343 .
- 21) 澤倫太郎: 新しい臨床手技コードこそ医療制度改革の本質 . 日本産科婦人科学会雑誌 2006 ; 56 (9): 229-237 .
- 22) 竹下俊行: 産婦人科でのスクリーニングの実際 I 産科 II 流産のスクリーニング . 産婦人科の実際 2006 ; 55 (11): 1622-1627 .
- 23) 柏田 建, 米山剛一, 市川雅男, 菊池英美, 大内 望, 土居大祐, 竹下俊行, 福永 毅¹⁾, 田島廣之¹⁾ (¹⁾ 放射線医学): 子宮体癌術後に発症した治療に難渋した下肢深部静脈血栓症の1例 . 日産婦東京地方部会誌 2006 ; 55 (4): 471-475 .
- 24) 野口 肇, 西村和彦, 河合尚基, 岡野匡雄: 巨大後腹膜漿液性嚢腫の1例 . 日本外科系連合学会誌 2006 ; 31 : 740-743 .
- 25) 澤倫太郎: 妊娠悪阻の輸液管理 . レジデントノート 2006 ; 18 (19): 1428-1430 .
- 26) 峯 克也, 明樂重夫, 中井晶子, 阿部 崇, 西 弥生, 齋藤生朗¹⁾, 太田雄治郎²⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 多摩南部地域病院検査科, ²⁾ 同婦人科): 嚢胞性病変を示したRecto-vaginal endometriosis type3型の2症例 . エンドメト

リオーシス研究会誌 2006 ; 27 : 93-96 .

- 27) 明樂重夫, 阿部 崇, 根岸靖幸, 竹下俊行: 卵管妊娠における腹腔鏡手術: その適応と要約. 産婦人科の実際 2007 ; 56 (1): 17-24 .
- 28) 里見操緒, 磯 太一, 山口 暁¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 山口病院): 各種感染症の母子感染予防. 産婦人科治療 2007 ; 94 (2): 222-230 .
- 29) 米山剛一, 菊池芙美, 里見操緒, 大内 望, 根岸靖幸, 市川雅男, 三浦 敦, 土居大祐, 竹下俊行: 子宮体癌の合併がみられたポリープ状異型腺筋腫の1例. 日産婦東京地方部会誌 2007 ; 56 (1): 76-79 .
- 30) 鈴木俊治¹⁾, 松橋智彦, 根岸靖幸, 永山千晶¹⁾, 三浦直美, 村田知昭¹⁾ (¹⁾ 葛飾赤十字産院): 当科における臍帯異常と妊娠予後の検討. 日医大医会誌 2007 ; 20-24 .
- 31) 明樂重夫: 婦人科領域における腹腔鏡手術の現況と将来展望. 医学のあゆみ 2007 ; 220 (8): 633-638 .

著 書

- 1) 明樂重夫: [分担] 日本産科婦人科内視鏡学会技術認定制度. 産科婦人科の最新医療, 2006 ; pp325-329, 先端医療技術研究所 .
- 2) 明樂重夫: [自著] 産婦人科 基礎編. 腹腔鏡手術スキルアップシリーズ, 2006 ; ベクトル・コア社 .
- 3) 澤倫太郎, 土居丈朗, 阿部重夫: [共著] 医療百論2006. 医療百論2006, 2006 ; 東京法規出版 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 明樂重夫: クリニカルカンファランス, 内視鏡手術のトレーニングと教育: 技術認定制度におけるトレーニングプログラム. 第58回日本産科婦人科学会, 2006 . 4 .
- 2) 竹下俊行: 内視鏡手術: 今, 何が問題か. 日産婦千葉地方部会, 2006 . 6 .
- 3) 明樂重夫: 特別企画, 内視鏡外科診療ガイドラインの発刊にむけて: 産婦人科領域, 子宮外妊娠. 第19回日本内視鏡外科学会, 2006 . 12 .

(2) 招待講演 :

- 1) 竹下俊行: 抗リン脂質抗体症候群とアスピリン・ヘパリン療法. 多摩産婦人科臨床研究会, 2007 . 2 .

(3) 教育講演 :

- 1) 米山剛一, 小西英喜, 黒瀬圭輔, 土居大祐, 竹下俊行, 藤田和之¹⁾, 田中憲一¹⁾, 児玉省二²⁾, 中山裕樹³⁾, 青木陽一⁴⁾ (¹⁾ 新潟大学産科婦人科, ²⁾ 新潟県立がんセンター新潟病院婦人科, ³⁾ 神奈川県立がんセンター婦人科, ⁴⁾ 琉球大学産婦人科): 上皮性卵巣癌の初回治療としての Tj biweekly (Paclitaxel/Carboplatin 隔週投与) 療法の多施設共同研究. 第40回日本婦人科腫瘍学会, 2006 . 7 .
- 2) 峯 克也, 明樂重夫, 根岸靖幸, 阿部 崇, 西 弥生, 桑原慶充, 市川雅男, 石川 源, 竹下俊行: ヴァーチャルリアリティトレーニングシュミュレーター (LapSim3. 0) による腹腔鏡技術評価システム構築の試み. 第19回日本内視鏡外科学会, 2006 . 12 .
- 3) 桑原慶充, 石川 源, 峯 克也, 市川雅男, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡手術マニュアルの導入および評価. 第19回日本内視鏡外科学会, 2006 . 12 .

(4) シンポジウム :

- 1) Akira S : Ectopic Pregnancy -Early detection and prevention of persistent ectopic pregnancy after laparoscopic linear salpingostomy in tubal pregnancy-. 16th Annual congress of International Society for Gynecologic Endoscopy (Osaka, Japan), 2007 . 3 .
- 2) Kuwabara Y , Akira S , Mine K , Inagawa T , Satimi M , Ichikawa M , Miura A , Takeshita T : Evaluation of gassless laparoscopically assisted surgery using unique intra-abdominal fan retractor system and abdominal

wall sealing device . APAGE International Workshop, 8th Annual Meetings of the Asia-Pacific Association of Gynecologic Endoscopy & Minimally Invasive Therapy (Osaka, Japan), 2007 . 3 .

- 3) 明樂重夫：技術認定制度におけるトレーニングプログラム（内視鏡手術のトレーニングと教育）. 第58回日本産科婦人科学会，2006 . 4 .
 - 4) 澤倫太郎：新しい臨床手技コード導入こそ医療制度改革の本質（産科医と医療制度を考える）. 第58回日本産科婦人科学会，2006 . 4 .
 - 5) 中山裕樹¹⁾，井畑 穰¹⁾，三田俊二¹⁾，小野瀬亮¹⁾，加藤久盛¹⁾，山田 隆，黒瀬圭輔，佐治晴哉²⁾，杉浦 賢²⁾，太田雄治郎³⁾（¹⁾神奈川県立がんセンター婦人科，²⁾横浜市立大学産婦人科，³⁾多摩南部地域病院婦人科）：子宮体癌Ⅱ期の治療に関する検討：とくに腔切除長との関連について . 日本婦人科腫瘍学会，2006 . 7 .
 - 6) 明樂重夫：腹腔鏡手術のガイドライン：子宮外妊娠 . 第46回日本産科婦人科内視鏡学会，2006 . 8 .
 - 7) 明樂重夫：内視鏡下手術と手術室の未来 今，腹腔鏡手術室に求められているものは：よりスムーズな連携をめざして . 第28回日本手術医学会，2006 . 11 .
 - 8) 明樂重夫：腹腔鏡下手術における低侵襲と機能温存の追求：腹腔鏡下卵管保存手術 . 第29回日本産婦人科手術学会，2006 . 11 .
 - 9) 明樂重夫：医育機関におけるトレーニングプログラムの構築技術認定取得を視野に入れて . 第19回日本内視鏡外科学会，2006 . 12 .
 - 10) 明樂重夫：内視鏡外科手術の教育と評価 医育機関におけるトレーニングプログラムの構築：技術認定取得を視野に入れて . 第19回日本内視鏡外科学会，2006 . 12 .
 - 11) 明樂重夫，峯 克也，桑原慶充，三浦 敦，竹下俊行：難治性子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減療法長期連用投与をめざして . 第28回エンドメトリオーシス研究会，2007 . 1 .
 - 12) 峯 克也，明樂重夫，根岸靖幸，阿部 崇，桑原慶充，市川雅男，石川 源，竹下俊行：ヴァーチャル・リアリティ・シミュレーターを導入した腹腔鏡術前教育 . 日本腹部救急医学会，2007 . 1 .
 - 13) 里見操緒，明樂重夫，竹下俊行：充実性卵巣腫瘍に対する2孔式の有用性 . 第19回吊り上げ法手術研究会，2007 . 3 .
 - 14) 明樂重夫：専門領域を越えて：吊り上げとミニラパの接点：婦人科領域における腹壁吊り上げ法腹腔鏡補助下手術：領域を越えて . 第19回吊り上げ法手術研究会，2007 . 3 .
 - 15) 明樂重夫：婦人科領域における腹壁吊り上げ法腹腔鏡補助下手術領域を超えて . 第19回吊り上げ法手術研究会，2007 . 3 .
- (5) セミナー：
- 1) 竹下俊行：各種感染症の母子感染予防 . 第58回日本産科婦人科学会，2006 . 4 .
- (6) ワークショップ：
- 1) 土居大祐，黒瀬圭輔，米山剛一，竹下俊行，松原美幸¹⁾，渡會泰彦¹⁾，中山裕樹²⁾（¹⁾日本医科大学付属病院病理部，²⁾神奈川県立がんセンター）：卵巣悪性腫瘍における細胞診の意義 . 第47回日本臨床細胞学会（春期大会），2006 . 6 .
 - 2) 小野瀬亮¹⁾，加藤久盛¹⁾，井畑 穰¹⁾，三田俊二¹⁾，山田 隆，黒瀬圭輔，佐治晴哉²⁾，杉浦 賢²⁾，太田雄治郎³⁾，中山裕樹¹⁾（¹⁾神奈川県立がんセンター婦人科，²⁾横浜市立大学産婦人科，³⁾多摩南部地域病院）：婦人科領域の小細胞癌の細胞像と鑑別診断 . 日本臨床細胞学会秋期大会，2006 . 11 .
 - 3) 峯 克也，明樂重夫，阿部 崇，桑原慶充，里見操緒，近藤幸尋¹⁾，竹下俊行（¹⁾泌尿器科学）：腹腔鏡にて摘出し得た膀胱子宮内膜症の1例 . 第28回エンドメトリオーシス研究会，2007 . 1 .
- (7) 一般講演：
- 1) Takizawa T¹⁾，Mori M¹⁾，Ishikawa G，Takeshita T，Goto T¹⁾，Robinson JM²⁾（¹⁾Dept. of Molecular Anatomy, Nippon Medical School）：Comparison of the z-axis resolutions achieved by immunofluorescence micro-

- scopic imaging of tissue sections of different thicknesses : usefulness of ultrathin cryosections for ultrahigh-resolution immunofluorescence microscopy P09 . 第7回 日米合同組織細胞化学会議 (アメリカ合衆国), 2006 . 8 .
- 2) Mine K , Katayama A¹⁾, Mateumura T¹⁾, Nishino T¹⁾, Kuwabara Y , Ishikawa G , M : Comparison of Pre-Clampsia with Normal Pregnancy with a Novel Proteome Analysis . 12th International Federation of Placenta Associations Meeting (12th IFPA Meeting)(Kobe, Japan), 2006 . 9 .
 - 3) Ishikawa G , Isozaki T , Mori M¹⁾, Matsubara S¹⁾, Robinson J. M¹⁾, Takeshita T , Takizawa T^{2,3)} (¹⁾Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical school , ²⁾Dept. of Molecular Anatomy, Nippon Medical School): Analysis of the Distribution and Expression of Albumin in the First-Trimester Human Placenta . 12th International Federation of Placenta Associations Meeting (12th IFPA Meeting) (Kobe, Japan), 2006 . 9 .
 - 4) Mine K , Katayama A¹⁾, Mateumura T¹⁾, Nishino T¹⁾, Kuwabara Y , Ishikawa G , Murata T , Sawa R , Isozaki T , Otsubo Y²⁾, Shin S³⁾, Takeshita T (¹⁾Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Nippon Medical school , ²⁾Omiya Chuo Sogo Hospital , ³⁾Japanese Red Cross Katsushika Maternity Hospital): Comparison of Pre-Clampsia with Normal Pregnancy with a Novel Proteome Analysis . 12th International Federation of Placenta Associations Meeting (12th IFPA Meeting)(Kobe, Japan), 2006 . 9 .
 - 5) Doi D , Konishi H , Yoneyama K , Yahata T , Fujita K , Nakayama H , Kodama S , Aoki Y , Asakura H , Takeshita T : Biweekly paclitaxel/carboplatin (TC) combination chemotherapy is highly active and well-tolerated treatment in first line chemotherapy for ovarian cancer . 11th biennial meeting International Gynecologic Cancer Society (Santa Monica, USA), 2006 . 10 .
 - 6) Kurose K , Hayashi M , Yamada T , Watanabe M , Doi D , Yoneyama K , Konishi H , Kamoi S , Akira T , Takeshita T : Analysis of the cases which were performed laparoscopic surgery by diagnosis of benign ovarian cysts, and were proved that they are malignant tumors . . 11th biennial meeting International Gynecologic Cancer Society (Santa Monica, USA), 2006 . 10 .
 - 7) Yoneyama K , Kurose K , Miura A , Satomi M , Kikuchi F , Kajikawa N , Doi D , Yamada T , Konishi H , Kamoi S , Takeshita T : Serum vascular endothelial growth factor levels in patients with ovarian tumors . 11th biennial meeting International Gynecologic Cancer Society (Santa Monica, USA), 2006 . 10 .
 - 8) Ichikawa M , Kuwabara Y , Satomi M , Ishikawa G , Yoneyama K , Akira S , Takeshita T : Efficacy of MRI in differentiating the malignancy from wature cystic teratoma in the preoperative diagnosis for laparoscopic surgery . 16th Annual Congress of International Society for Gynecologic Endoscopy (Osaka, Japan), 2007 . 3 .
 - 9) Ichikawa M , Kuwabara Y , Satomi M , Ishikawa G , Yoneyama K , Akira S , Takeshita T : Effectiveness of MRI in differentiating the malignancy form benign ovarian teraroma in laoaroscopic surgery . 16th Annual Congress of International Society for Gynecologic Endoscopy (Osaka, Japan), 2007 . 3 .
 - 10) 藤江裕美 , 小西英喜 , 深見武彦 , 松村好克 , 西田直子 , 松島 隆 , 可世木久幸 , 朝倉啓文 , 竹下俊行 : エタノールパッチテストを用いたPaclitaxelによるアルコール副障害発生予知の検討 . 第58回日本産科婦人科学会 , 2006 . 4 .
 - 11) 石川 源 , 竹下俊行 , 松原茂樹¹⁾, 瀧澤俊広²⁾(¹⁾自治医大 , ²⁾日本医科大学解剖学第1): ヒト初期胎盤絨毛におけるアルブミンの局在解析 . 第58回日本産科婦人科学会 , 2006 . 4 .
 - 12) 瀧澤俊広¹⁾, 石川 源 , 松原茂樹²⁾, 竹下俊行 (¹⁾日本医科大学解剖学第1 , ²⁾自治医大): ヒト正常胎盤絨毛の栄養膜細胞層に関する構造解析 : 特にその連続性について . 第58回日本産科婦人科学会 , 2006 . 4 .
 - 13) 富山僚子 , 西 弥生 , 阿部 崇 , 立山尚子 , 館岡佐知 , 明樂重夫 , 佐藤嘉兵¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾日大生物資源): マウス体外成熟卵子における雌雄前核形成からみた受精の進行についての検討 . 第58回日本産科婦人科学会 , 2006 . 4 .

- 14) 林 昌子, 中井章人, 山口 暁, 川端伊久乃, 山田浩子, 奥田直貴, 横田明重, 竹下俊行: 経膈分娩後の高度会陰裂傷発生の関するリスク因子の検討. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 15) 西 弥生, 阿部 崇, 舘岡佐知, 立山尚子, 明樂重夫, 竹下俊行: 再発性子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減療法についての検討: 点鼻法と皮下投与法を比較して. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 16) 土居大祐, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊行: 再発卵巣癌の組織型別再発様式の検討. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 17) 鴨井青龍, 印出佑介, 松橋智彦, 五十嵐美和, 里見操緒, 荏原弘光, 渡辺美千明, 土居大祐, 米山剛一, 小西英喜, 河村 堯, 竹下俊行: 若年性子宮体癌に対する高用量MPA療法: 投与開始後4週間後の生検組織にみられる腫瘍細胞の膨大化は治療効果予知因子になりえるか. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 18) 松村好克, 倉品隆平, 深見武彦, 西田直子, 藤江裕美, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 手術・検査用デジタルビデオ軟性子宮鏡の開発. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 19) 磯崎太一, 品川寿弥, 林 昌子, 八木幸恵, 八木修立郎, 西 弥生, 村田知明, 根本将之, 石川 源, 澤倫太郎, 竹下俊行: 常位胎盤早期剥離に関する臨床的検討: 特に絨毛膜下血腫合併の有無による予後について. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 20) 川端伊久乃, 中井章人, 三宅秀彦, 谷内良成, 山本晃人, 横田明重, 竹下俊行: 切迫早産患者における早産予知マーカー: 頸管粘液中顆粒球エラスターゼは独立した早産予知マーカーになるか. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 21) 深見武彦, 倉品隆平, 藤江裕美, 松村好克, 西田直子, 沖野恵子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 切迫早産例における早産マーカー: 経膈超音波法による子宮頸管腺領域像消失は独立した早産予知マーカーか. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 22) 永野玲子¹⁾, 林 瑞成¹⁾, 中井章人, 竹下俊行, 若麻績佳樹¹⁾(¹⁾東京都立墨東病院産科): 妊娠30週未満の帝王切開における被膜児娩出法の検討. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 23) 谷内良成, 中井章人, 奥田直貴, 中井昌子, 横田明重, 竹下俊行: 妊娠ラットの子宮胎盤循環不全に対するアスピリンの効果. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 24) 立山尚子, 弘末卓也, 舘岡佐知, 富山僚子, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行: 不育症スクリーニングはいつから始めるか?: 既往流産回数による異常所見陽性率の検討. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 25) 渡辺美千明, 明樂重夫, 松橋智彦, 五十嵐建治, 里見操緒, 荏原弘光, 阿部 崇, 西 弥生, 黒瀬圭輔, 河村 堯, 竹下俊行: 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術は医育機関における標準術式になりうるか: 研修医による手術成績から. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 26) 米山剛一, 黒瀬圭輔, 三浦 敦, 阿部 崇, 石川 源, 石川温子, 土居大祐, 小西英喜, 鴨井青龍, 竹下俊行: 卵巣腫瘍症例血清中の血管新生抑制因子エンドスタチン値の検討. 第58回日本産科婦人科学会, 2006. 4.
- 27) 三浦 敦, 米山剛一, 黒瀬圭輔, 弘末卓也, 梶川 望, 菊池英美, 土居大祐, 竹下俊行: タモキシフェン内服後に発症した子宮体部漿液性腺癌の1例. 第338回日産婦東京地方部会, 2006. 5.
- 28) 明樂重夫, 竹下俊行: 成長ホルモンの卵巣機能に及ぼす効果. 第6回日本抗加齢医学会, 2006. 5.
- 29) 根岸靖幸, 倉品隆平, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行: 妊娠中の腹腔鏡は安全か: 吊り上げ法を用いた腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術の術後成績. 第17回吊り上げ法手術研究会, 2006. 6.
- 30) 小野瀬亮¹⁾, 三田俊二¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 井畑 穰¹⁾, 山田 隆, 土居大祐, 佐治晴哉²⁾, 杉浦 賢²⁾, 林 宏行¹⁾, 中山裕樹¹⁾(¹⁾神奈川県立がんセンター, ²⁾横浜市立大学産婦人科): 卵巣悪性中胚葉性混合腫瘍の2例. 第47回日本臨床細胞学会(春期大会), 2006. 6.
- 31) 中山裕樹¹⁾, 井畑 穰¹⁾, 三田俊二¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 山田 隆, 土居大祐, 佐治晴哉²⁾, 杉浦 賢²⁾, 太田雄治郎³⁾(¹⁾神奈川県立がんセンター, ²⁾横浜市立大学産婦人科, ³⁾多摩南部地域病院): 頸部微小浸潤癌の細胞像. 日本臨床細胞学会総会, 2006. 6.

- 32) 富山僚子, 西 弥生, 阿部 崇, 峯 克也, 明樂重夫, 佐藤嘉兵¹⁾, 竹下俊行 (¹⁾ 日本大学大学院生物資源科学研究科): Oosight™ Imaging System を用いた体外成熟卵子の評価 . 第24回日本ヒト細胞学会, 2006 . 7 .
- 33) 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 三田俊二¹⁾, 井畑 穰¹⁾, 山田 隆, 土居大祐, 佐治晴哉²⁾, 杉浦 賢²⁾, 中山裕樹¹⁾ (¹⁾ 神奈川県立がんセンター, ²⁾ 横浜市立大学産婦人科): 卵巣悪性中胚葉性混合腫瘍の臨床病理学的検討 . 第40回日本婦人科腫瘍学会, 2006 . 7 .
- 34) 石川 源, 土居大祐, 石川温子, 黒瀬圭輔, 磯 太一, 米山剛一, 竹下俊行: 卵巣甲状腺腫における血清学的特徴 . 第40回日本婦人科腫瘍学会, 2006 . 7 .
- 35) 根岸靖幸, 磯 太一, 石川 源, 阿部 崇, 弘末卓也, 品川寿弥, 竹下俊行: 血小板減少を呈した病態の鑑別 . 第42回日本周産期・新生児医学会, 2006 . 7 .
- 36) 磯 太一, 根岸靖幸, 阿部 崇, 弘末卓也, 石川 源, 品川寿弥, 澤倫太郎, 竹下俊行: 常位胎盤早期剥離に関する検討 早期診断のために . 第42回日本周産期・新生児医学会, 2006 . 7 .
- 37) 高橋 肇, 河合尚基, 桑島豊彦, 川瀬里衣子: 新生児GBSスクリーニングの有用性についての検討 . 第42回日本周産期・新生児医学会, 2006 . 7 .
- 38) 中山裕樹¹⁾, 井畑 穰¹⁾, 三田俊二¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 山田 隆, 土居大祐, 佐治晴哉²⁾, 杉浦 賢²⁾, 太田雄治郎³⁾ (¹⁾ 神奈川県立がんセンター, ²⁾ 横浜市立大学産婦人科, ³⁾ 東京都多摩南部病院婦人科): 頸部微小浸潤腺癌の細胞像 . 第47回日本臨床細胞学会 (春期大会), 2006 . 7 .
- 39) 太田雄治郎¹⁾, 中井晶子, 峯 克也 (¹⁾ 多摩南部地域病院): Chemo-radiation が奏功した卵巣原発carcinosarcomaの1例 . 日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2006 . 7 .
- 40) 峯 克也, 明樂重夫, 根岸靖幸, 阿部 崇, 西 弥生, 石川 源, 竹下俊行: ヴァーチャルリアリティ内視鏡手術トレーニングシュミレーター (LapSim3. 0R) を導入した研修プログラムの構築 . 第46回日本産科婦人科内視鏡学会, 2006 . 8 .
- 41) 根岸靖幸, 吉田有里, 林 昌子, 阿部 崇, 西 弥生, 里見操緒, 市川雅男, 三浦 敦, 明樂重夫, 竹下俊行: 子宮奇形に対する腹腔鏡下手術 . 日本産科婦人科内視鏡学会, 2006 . 8 .
- 42) 横田和美¹⁾, 田村美貴¹⁾, 長田 理²⁾, 石川 源, 加藤理絵¹⁾, 魚川礼子¹⁾, 照井克生¹⁾, 宮尾秀樹³⁾ (¹⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 総合周産期母子医療センター 産科麻酔科, ²⁾ 東京警察病院 麻酔科, ³⁾ 埼玉医科大学総合医療センター 麻酔科): F-4 先天性横隔膜ヘルニアの帝王切開におけるプロポフォルの母児血中濃度: シミュレーションとの比較 . 第12回日本小児麻酔学会, 2006 . 9 .
- 43) 富山僚子, 西 弥生, 阿部 崇, 峯 克也, 明樂重夫, 竹下俊行, 佐藤嘉兵¹⁾ (¹⁾ 日本大学生物資源科学部動物細胞学研究室): マウスを用いた体外成熟卵子の受精能に関する検討 . 第24回日本受精着床学会, 2006 . 9 .
- 44) 峯 克也, 立山尚子, 弘末卓也, 大内 望, 菊池芙美, 富山僚子, 明樂重夫, 竹下俊行: 原因疾患から見た続発性習慣流産の病態 . 第24回日本受精着床学会, 2006 . 9 .
- 45) 西 弥生, 阿部 崇, 峯 克也, 立山尚子, 平泉良枝, 明樂重夫, 竹下俊行: 当科におけるPOF症例の検討 . 第24回日本受精着床学会, 2006 . 9 .
- 46) 阿部 崇, 西 弥生, 峯 克也, 大内 望, 石川 源, 品川寿弥, 澤倫太郎, 磯 太一, 明樂重夫, 竹下俊行: 閉経後卵子提供を受け帝王切開時ショックとなった1例 . 第24回日本受精着床学会, 2006 . 9 .
- 47) 柏田 建, 米山剛一, 市川雅男, 菊池芙美, 大内 望, 土居大祐, 福永 毅¹⁾, 田島廣之¹⁾ (¹⁾ 放射線医学): 子宮体癌術後に発症した治療に難渋した下肢深部静脈血栓の1例 . 第339回日産婦東京地方部会, 2006 . 9 .
- 48) 菊池芙美, 磯 太一, 三浦 敦, 大内 望, 石川 源, 澤倫太郎, 竹下俊行, 岩 雄樹¹⁾, 村井綱児¹⁾, 高野照夫¹⁾, 原 啓子²⁾, 金子朋広²⁾, 片山泰朗²⁾ (¹⁾ 内科学 (循環器・肝臓・老年・総合病態部門), ²⁾ 内科学 (神経・腎臓・膠原病リウマチ部門): 血漿交換が有効であったHELLP症候群の1例 . 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
- 49) 大内 望, 石川 源, 土居大祐, 石川温子, 根岸靖幸, 弘末卓也, 三浦 敦, 黒瀬圭輔, 米山剛一, 竹下俊

- 行：卵巢甲状腺腫における血清サイログロブリン値変化．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 50) 石川 源：腫瘍血管に特異的に認められる vesiculo-vacuolar organelle 構造に関する機能ゲノム解析．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 51) 吉田有里，松島 隆，小西英喜，佐藤杏月，中井晶子，渋井庸子，松村好克，西田直子，金 栄淳，深見武彦，可世木久幸，朝倉啓文，竹下俊行：バルトリン腺嚢胞と思われた外陰エボクリン腺癌の1例．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 52) 佐藤杏月，深見武彦，西田直子，松村好克，倉品隆平，松島 隆，小西英喜，朝倉啓文，竹下俊行：下大静脈フィルターを留置し分娩管理を行った下肢深部静脈血栓症合併妊娠の2症例．第74回日本医大医学会，2006．9．
- 53) 林 昌子，川端伊久乃，山田 隆，三宅秀彦，横田明重，中井章人，三浦 敦，品川寿弥，土居大祐，竹下俊行：治療方針に苦慮した妊娠合併子宮頸部浸潤癌の1例．第74回日本医科大学医学会，2006．9．
- 54) 奥田直貴，山田浩子，山本晃人，露木佳子，横田明重，中井章人，竹下俊行：反復子宮筋腫核出術後妊娠30週で子宮破裂を発症するも，母児ともに救命し得た1例．第74回日本医科大学医学会，2006．9．
- 55) 横田和美¹⁾，田村美貴¹⁾，長田 理²⁾，石川 源，加藤理絵¹⁾，魚川礼子¹⁾，照井克生¹⁾，宮尾秀樹³⁾(¹⁾埼玉医科大学総合医療センター総合周産期母子医療センター産科麻酔科，²⁾東京警察病院麻酔科，³⁾埼玉医科大学総合医療センター麻酔科)：先天性横隔膜ヘルニアの帝王切開におけるプロポフォールの母児血中濃度：シミュレーションとの比較．日本小児麻酔学会第12回大会，2006．9．
- 56) 菊池芙美，米山剛一，三浦 敦，里見操緒，大内 望，根岸靖幸，弘末卓也，市川雅男，土居大祐，竹下俊行：子宮体癌と共存したポリープ状異型腺筋腫症例．第112回日産婦 関東連合地方部会，2006．10．
- 57) 米山剛一，西 弥生，菊池芙美，三浦 敦，石川温子，里見操緒，根岸靖幸，大内 望，土居大祐，竹下俊行：子宮体癌の鑑別疾患としてのポリープ状異型腺筋腫の臨床病理学的検討．第112回日産婦 関東連合地方部会，2006．10．
- 58) 永山千晶¹⁾，峯 伸也¹⁾，中川道子，三浦直美，村田知昭¹⁾，鈴木俊治¹⁾(¹⁾葛飾赤十字産院)：胎盤付着部位による常位胎盤早期剥離の診断・予後の違いの検討．第112回日産婦関東連合地方部会，2006．10．
- 59) 永山千晶¹⁾，大内 望，松橋智彦，三浦直美，木下和哉¹⁾，渡邊秀樹¹⁾，村田知昭¹⁾，鈴木俊治¹⁾(¹⁾葛飾赤十字産院)：予期せぬ急産(車中分娩，自宅分娩など)に関する検討．第23回江戸川区/江東・千葉西ブロック産婦人科医会合同卒後研修会，2006．10．
- 60) 石川 源：産婦人科領域の麻酔法．第324回足立区産婦人科医会学術講演会，2006．10．
- 61) 八幡哲郎，藤田和之，青木陽一，米山剛一，土居大祐，小西英喜，朝倉啓文，松島 隆，児玉省二，本間 滋，加藤久盛¹⁾，中山裕樹¹⁾，竹下俊行，田中憲一²⁾(¹⁾神奈川県立がんセンター，²⁾新潟大学産婦人科)：上皮性卵巢癌に対するTJ biweekly (Paclitaxel Carboplatin 隔週投与方法)に関する多施設共同研究．第44回日本癌治療学会，2006．10．
- 62) 米山剛一，黒瀬圭輔，土居大祐，小西英喜，鴨井青龍，竹下俊行：卵巢腫瘍患者血清中のエンドスタチン値の検討．第65回日本癌学会，2006．10．
- 63) 高橋 肇，河合尚基，桑島豊彦，川瀬里衣子：新生児B群溶連菌(GBS)スクリーニングの有用性についての検討．第23回江戸川区/江東・千葉西ブロック産婦人科医会，2006．11．
- 64) 富山僚子，西 弥生，阿部 崇，峯 克也，明樂重夫，竹下俊行，佐藤嘉兵¹⁾(¹⁾日本大学大学院生物資源研究科)：Oosight™ Imaging Systemを用いたマウスIVM卵子の非侵略的評価．第51回日本生殖医学会，2006．11．
- 65) 峯 克也，立山尚子，富山僚子，西 弥生，阿部 崇，明樂重夫，竹下俊行：夫リンパ免疫療法後一定期間以上不妊となった症例の臨床的検討．第51回日本生殖医学会，2006．11．
- 66) 市川雅男，桑原慶充，米山剛一，明樂重夫，竹下俊行：当科における卵巢奇形腫の腹腔鏡手術術式決定におけるMRI画像の有効性についての検討．第19回日本内視鏡外科学会，2006．12．
- 67) 桑原慶充，峯 克也，阿部 崇，富山僚子，西 弥生，明樂重夫，竹下俊行：卵巢周期における

CXCR4/CXCL12シグナリングの発現調節および機能解析．第21回 日本生殖免疫学会，2006．12．

- 68) 米山剛一，里見操緒，菊池芙美，大内 望，根岸靖幸，市川雅男，三浦 敦，土居大祐，竹下俊行：子宮体癌の合併がみられたポリープ状異型腺筋腫の1例．第340回日産婦東京地方部会，2006．12．
- 69) 稲川智子，奥田直貴，大屋敦子，三宅秀彦，横田明重，中井章人，石野神小織¹⁾，中野渡雄一¹⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター)：妊娠35週で初診後に妊娠高血圧症候群による重症の肺水腫を発症した1例．第340回日産婦東京地方部会，2006．12．
- 70) 明樂重夫，峯 克也，桑原慶充，三浦 敦，竹下俊行：子宮腺筋症の新しい治療および治療の工夫 難治性子宮腺筋症に対するGnRHアゴニスト漸減療法：長期連用投与をめざして．第28回エンドメトリオーシス研究会，2007．1．
- 71) 河合尚基，川瀬里衣子，桑島豊彦，渋井庸子：チョコレート嚢腫と鑑別が困難であった境界悪性腫瘍の1例．第1回城東産婦人科病診連携研究会，2007．2．
- 72) 永山 千晶¹⁾，渡邊秀樹¹⁾，大内 望，松橋智彦，三浦直美，木下和哉¹⁾，村田知昭¹⁾，鈴木俊治¹⁾(¹⁾葛飾赤十字産院)：正常分娩の3時間後に自然気胸を発症した1例．第341回日産婦東京地方部会，2007．2．
- 73) 阿部裕子，峯 克也，明樂重夫，阿部 崇，桑原慶充，里見操緒，竹下俊行，近藤幸尋¹⁾(¹⁾泌尿器科学)：腹腔鏡が診断・治療に有効であった膀胱子宮内膜症の1例．第341回日産婦東京地方部会，2007．2．
- 74) 里見操緒：吊り上げ式腹腔鏡における2孔式の有用性．第47回日本産科婦人科内視鏡学会，2007．3．
- 75) 根岸靖幸，阿部 崇，石川 源，明樂重夫，竹下俊行：当科における子宮外妊娠に対する腹腔鏡手術の現状 如何に適応を拡大してきたか．腹部救急外科学会，2007．3．

[武蔵小杉病院女性診療科・産科]

研究概要

1. 超音波診断学 妊娠初期胎児および周産期における，胎治超音波診断に加え，1) 常位胎盤早期剥離における早期超音波像の研究．2) 超音波画像から見た前置胎盤の出血量の予測．3) 子宮頸管無力症における超音波画像の変化．4) 妊娠初期胎嚢像の3次元超音波断層像の研究．
2. 産婦人科内視鏡学 新しい内視鏡治療器具の開発や，内視鏡手術による卵管通水と子宮内膜症と不妊症の関連の研究等が行われている．
3. 婦人科腫瘍 抗癌剤タキソールの臨床研究施設であり，副作用の解説，研究発表を行っている．子宮頸管におけるHPV typing による追跡調査を継続して．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Wei J, Satomi M, Negisi Y, Matsumura Y, Miura A, Nishi Y, Asakura H, Takeshita T : Effect of sera on the adhesion of natural killer cells to the endometrium in severe pre-eclampsia . *Jobstet Gynecol Res* 2006 ; 32 (4) : 443-448 .
- 2) 鈴木俊二¹⁾，村田知昭¹⁾，竹内 務¹⁾，澤倫太郎¹⁾，品川久弥¹⁾，磯 太一¹⁾，竹下俊行，朝倉啓文，窪谷 潔¹⁾，米山芳雄 (¹⁾ 付属病院女性診療科・産科)：変動一過性 脈出現時の母体酸素投与に関する検討．周産期学シンポジウム No24，母体胎児新生児の心肺機能低下時の反応と対応 2006；4(4)：33-39．
- 3) 磯 太一¹⁾，朝倉啓文，竹下俊行 (¹⁾産婦人科学)：腹式帝王切開時における考察，子宮下部横切開の位置は妥当か？：癒着全治胎盤防止の為の切開．産婦人科実際 2006；55(7)：1139-1142．
- 4) 小島三貴子，沖野恵子，倉品隆平，藤江裕美，松島 隆，深見武彦，小西英喜，可世木久幸，朝倉啓文：脳梗

塞合併妊娠の1例．日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌 2006；42(2)：23-26．

5) 可世木久幸：中高年女性の代謝．産婦実際 2006；55(12)：2031-2033．

6) 奥田美加¹⁾，安藤紀子¹⁾，石川浩史¹⁾，井槌慎一郎¹⁾，内田能安¹⁾，小川公一¹⁾，斎藤圭介¹⁾，松島 隆，丸山浩之¹⁾，望月純子¹⁾，関 賢一¹⁾，朝倉啓文，東條龍太郎¹⁾，平原史樹¹⁾，八十島唯一¹⁾(¹⁾神奈川県産科婦人科異常分娩・先天異常対策部)：先天性風疹症候群発生予防のためのアンケート調査報告．日本産科婦人科学会神奈川地方部会誌 2007；43(2)：60-65．

(2) 綜説：

1) 朝倉啓文，橋本武夫¹⁾(¹⁾聖マリアンナ医科大学病院産婦人科)：シンポジウム4「chronic NICU 長期入院児ケアの行方」座長のまとめ．日本周産期・新生児医学会雑誌 2006；42(4)：810-811．

2) 朝倉啓文：我が国における周産期死亡，妊産婦死亡の現状．周産期医学 2006；36(7)：799-803．

3) 朝倉啓文：回旋異常．周産期医学 2006；36(8)：273-275．

4) 朝倉啓文：骨盤位分娩と帝王切開．産科と婦人科 2007；74(2)：125-131．

5) 朝倉啓文，矢澤珪二郎¹⁾(¹⁾米国ハワイ大学)：米国ハワイ州におけるオープンシステム：日本との比較．臨床産婦人科 2007；61(3)：254-257．

著 書

1) 朝倉啓文：〔分担〕自律神経．妊娠・分娩・産褥の生理(寺尾俊彦)，2006；pp79-85，メディカルビュー．

2) 朝倉啓文：〔分担〕産褥感染症．産科出血・産科ショック(山口 徹，北原光夫，福井次夫)，2006；pp931-932，医学書院．

3) 可世木久幸：〔分担〕産婦人科における効果的研修のコンセプト．臨床研修し同意のためのポケットマニュアル2006(畑尾正彦)，2006；pp50-53，羊土社．

4) 朝倉啓文：〔分担〕子宮内胎児発育遅延の管理．産婦人科ローテートマニュアル(朝倉啓文，小西郁生，末岡浩志，田中忠雄，堤 治)，2006；pp112-123，医学書院．

5) 可世木久幸：〔分担〕子宮鏡検査・手術の実際．完璧！産婦人科ローテート・マニュアル(朝倉啓文，小西郁生，末岡浩志，田中忠夫，堤 治)，2006；pp258-262，金原出版(株)．

6) 朝倉啓文：〔分担〕早産のリスクファクター．早産 最新の知見と取り扱い(佐藤和雄)，2007；pp218-223，メディカルビュー．

学会発表

(1) 特別講演：

1) 朝倉啓文：本邦の周産期医療を取り巻く環境．平成17年度高知県産婦人科医師会，日産婦学会地方部会総会，2006．5．

2) 可世木久幸：女性の加齢と代謝．川崎市産婦人科医会学術講演会，2006．7．

3) 可世木久幸：女性の加齢と代謝：加齢と肥満．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．

4) 朝倉啓文：正期産仮死児と胎児脳障害について．日産婦学会千葉地方部会，2007．2．

(2) 教育講演：

1) 可世木久幸：技術認定制度およびガイドライン作成に関する(悩ましい)諸問題．第8回東海産科婦人科内視鏡懇話会，2006．9．

(3) シンポジウム：

1) Kaseki H, Nishida N, Matsubara N¹⁾, Fukami T, Matsushima T, Valle R²⁾(¹⁾飯田市立病院 産婦人科，²⁾Dept Ob/Gyn, North-Western University Hospital, Chicago, Illinois, USA)：How to avoid complications on hysteroscopic surgery．The 8th Asian Pacific association of Gynecologic Endoscopy (Osaka)，2007．3．

- 2) Kaseki H, Matsubara N¹⁾, Nishida N, Fukami T, Matsushima T, Valle V²⁾(¹⁾飯田市立病院 産婦人科, ²⁾Dept. Ob/Gyn, North-Western University Hospital, Chicago, Illinois, USA): Development of equipments for safe hysteroscopic surgery. Stress free operative hysteroscope - FDVOHS. The 16th International Society of Gynecologic Endoscopy (Osaka), 2007. 3.

(4) 一般講演:

- 1) Nishida N, K, Youngsoon, Nakai Masako, Ushigome K¹⁾, Asakura Hirobumi, Takeshita T, Kaseki H (¹⁾昭和女子大学大学院 生活機構研究科): Is BMI interrelated to Aging?. Asian-Pacific Federation of Menopausal Society (Taipei), 2007. 3.
- 2) Nishida N, Power GG¹⁾, Yoneyama Y²⁾, Sawa R²⁾, Asakura H, Takeshita T (¹⁾LOMALINDA, ²⁾付属病院女性診療科・産科): The role of prostanoids in the regulation of the fetal cerebral blood flow during normoxia and hypoxia. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 2006. 4.
- 3) 深見武彦, 倉品隆平, 藤江裕美, 松村好克, 西田直子, 沖野恵子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 切迫早産例における早産マーカー: 経膈超音波法による子宮頸管腺領域像消失は独立した早産予知マーカーか. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 2006. 4.
- 4) 松村好克, 倉品隆平, 深見武彦, 西田直子, 藤江裕美, 渋井庸子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 手術・検査用デジタルビデオ軟性子宮鏡の開発. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 2006. 4.
- 5) 藤江裕美, 小西英喜, 深見武彦, 松村好克, 西田直子, 松島 隆, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: エタノールパッチテストを用いたPaclitaxelによるアルコール副障害発生予知の検討. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 2006. 4.
- 6) 浜之上はるか¹⁾, 住吉好雄¹⁾, 山中美智子¹⁾, 高橋恒男¹⁾, 朝倉啓文, 木下勝之²⁾, 坂本正一²⁾, 平原史樹¹⁾(¹⁾横浜市立大学病院産婦人科, ²⁾日本産婦人科医会): 不妊症, 生殖補助医療により出生した先天異常症例の検討. 第58回日本産科婦人科学会学術講演会, 2006. 4.
- 7) 松村好克, 深見武彦, 倉品隆平, 西田直子, 藤江裕美, 渋井庸子, 松島 隆, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 双胎妊娠の早期予知における経膈超音波による子宮頸管観察の意義. 第111回日産婦学会関東連合地方部会, 2006. 6.
- 8) 山中美智子¹⁾, 住吉好雄¹⁾, 朝倉啓文, 鈴木俊二¹⁾, 塚原有巳¹⁾, 宮城悦子¹⁾, 木下勝之¹⁾, 坂本正一¹⁾, 平原史樹¹⁾(¹⁾日本産婦人科医会): 先天異常モニタリングからみた死産例の検討. 第46回日本先天異常学会, 2006. 6.
- 9) 平原史樹¹⁾, 住吉好雄¹⁾, 山中美智子¹⁾, 朝倉啓文, 鈴木俊二¹⁾, 塚原有巳¹⁾, 宮城悦子¹⁾, 木下勝之¹⁾, 坂本正一¹⁾(¹⁾日本産婦人科医会): 不妊治療, 生殖補助医療にみられた先天医療症例の検討. 第46回日本先天異常学会, 2006. 6.
- 10) 柿栖睦実, 松島 隆, 佐藤杏月, 松村好克, 深見武彦, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文: 臍帯仮性嚢胞の1例. 第374回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2006. 7.
- 11) 奥田美加¹⁾, 安藤紀子¹⁾, 石川浩史¹⁾, 井槌慎一郎¹⁾, 内田能安¹⁾, 小川公一¹⁾, 斎藤圭介¹⁾, 松島 隆, 丸山浩之¹⁾, 望月純子¹⁾, 関 賢一¹⁾, 朝倉啓文, 東條龍太郎¹⁾, 平原史樹¹⁾, 八十島唯一¹⁾(¹⁾神奈川県産婦人科医会異常分娩・先天異常対策部): 先天性風疹症候群発症予防のためのアンケート調査報告. 第374回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2006. 7.
- 12) 深見武彦, 朝倉啓文, 松島 隆, 渋井庸子, 藤江裕美, 小西英喜, 竹下俊行: 切迫早産例における早産予知マーカーとしての頸管腺領域像消失の臨床的意義. 第24回日本周産期・新生児医学会総会, 2006. 7.
- 13) 西澤善樹¹⁾, 浅井牧子¹⁾, 藤田武久¹⁾, 小西英喜, 朝倉啓文(¹⁾武蔵小杉病院小児科): 正規産児における新生児一過性たこ呼吸による入院率 帝王切開予定日の設定. 第42回日本周産期・新生児医学会総会, 2006. 7.
- 14) 浅井牧子¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 藤田武久¹⁾, 小西英喜, 朝倉啓文(¹⁾武蔵小杉病院小児科): 正規産児における胎便吸引症候群(MAS)症例の治療法とその予後. 第42回日本周産期・新生児医学会総会, 2006. 7.

- 15) 深見武彦, 朝倉啓文, 松島 隆, 渋井庸子, 藤江裕美, 小西英喜, 竹下俊行: 切迫早産例における早産予知マーカーとしての頸管腺領域像消失の臨床的意義. 第42回日本周産期・新生児医学会総会, 2006. 7.
- 16) 小野瀬亮¹⁾, 雨宮 清¹⁾, 和泉 滋¹⁾, 今井一夫¹⁾, 入江 宏¹⁾, 木村昭裕¹⁾, 久布白兼行¹⁾, 小西英喜, 小林陽一¹⁾, 佐治晴哉¹⁾, 角田新平¹⁾, 宮城悦子¹⁾, 村松俊成¹⁾, 横山和彦¹⁾, 後藤忠雄¹⁾(¹⁾神奈川県産科婦人科医会): 平成17年度神奈川県産科婦人科医会悪性腫瘍登録集計報告. 第374回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2006. 7.
- 17) 中井晶子, 可世木久幸, 松島 隆, 深見武彦, 朝倉啓文, 竹下俊行: 手術・検査用デジタルビデオ軟性子宮鏡(FDVOHS)の開発: 第4報. 第46回日本産科婦人科内視鏡学会, 2006. 7.
- 18) 西田直子, 松島 隆, 可世木久幸, 深見武彦, 小西英喜, 朝倉啓文, 竹下俊行: GnRHa投与下の子宮内膜症性のう胞における腹腔鏡下 腫蒸散術との再発率, 妊娠率についての検討. 第46回日本産婦人科内視鏡学会, 2006. 8.
- 19) 菊岡良考¹⁾, 松島 隆, 佐藤杏月, 松村好克, 深見武彦, 小西英喜, 可世木久幸, 朝倉啓文(¹⁾研修医): 20代の悪性卵巣腫瘍の2例. 第375回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2006. 9.
- 20) 吉田有里, 松島 隆, 小西英喜, 佐藤杏月, 中井晶子, 渋井庸子, 松村好克, 西田直子, 金 栄淳, 深見武彦, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: パルトリン腺嚢胞と思われた外陰エクリン腺癌の1例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 21) 佐藤杏月, 深見武彦, 西田直子, 松村好克, 倉品隆平, 松島 隆, 小西英喜, 朝倉啓文, 竹下俊行: 下大静脈フィルターを留置し分娩管理を行った下股深部静脈血栓症合併妊娠の二症例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 22) 吉田有里, 松島 隆, 小西英喜, 佐藤杏月, 中井晶子, 松村好克, 西田直子, 金 栄淳, 深見武彦, 可世木久幸, 朝倉啓文, 竹下俊行: 外陰部に発生したエクリン腺癌の1例. 第112回日本産科婦人科学会関東連合, 2006. 10.
- 23) 川端伊久乃¹⁾, 稲川智子¹⁾, 三宅秀彦¹⁾, 関口敦子¹⁾, 横田明重¹⁾, 朝倉啓文, 越野立夫, 中井章人¹⁾, 竹下俊行(¹⁾多摩永山病院女性診療科・産科): 妊娠中の睡眠障害と運動との関係. 第20回女性スポーツ医学研究会, 2006. 12.
- 24) 吉田有里, 柿栖睦実, 佐藤杏月, 中井晶子, 西田直子, 金 栄淳, 深見武彦, 松島 隆, 土居大祐, 可世木久幸, 朝倉啓文: 卵巣平滑筋腫の1例. 第377回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 2007. 3.

[多摩永山病院女性診療科・産科]

研究概要

本年度の当教室の研究内容は以下の如くである.

(1) 妊婦とスポーツ

妊婦スポーツの安全性や効果について, 身体的および精神的側面から幅広く研究を行っている. 身体面では, 活性酸素や抗酸化物質の測定によるトレーニング効果の評価や超音波パルスドプラを用いた運動中の母児の血行動態変化, 心機能変化の評価をはじめ, スポーツが妊娠, 分娩に与える影響予後を広範囲に調査している. また, 産褥期の子宮復古, 母乳栄養の確立に関しても, 興味深い成績をあげつつある.

(2) 出生前診断

羊水・絨毛染色体検査, 超音波診断等を中心に検討を行っている.

(3) 周産期領域

臨床面では, 妊娠高血圧症候群, 子宮内胎児発育遅延に対し, 超音波断層装置, 生化学検査などを用いその病態生理の解明を行っている. 超音波断層装置による母体腎, 肝臓の観察では, 新たな視点から, 妊娠高血圧症候群に関する有益なデータが集積しつつある. また, 胎児, 新生児低酸素脳症に関する動物実験を行い, 脳内のエネルギー代謝

やミトコンドリア機能と虚血灌流傷害の関係を検討している。

研究業績

論文

〔2005年度追加分〕

原著：

- 1) 山本晃人, 三宅秀彦, 山田浩子, 川端伊久乃, 山田 隆, 横田明重, 中井章人: 子癇発作の画像診断の検討: reversible posterior leukoencephalopathy syndrome をきたした子癇症例の経験より. 日産婦東京会誌 2006; 55 (1): 83-86.

(1) 原著：

- 1) Nakai A, Yoshida A, Yamaguchi S¹⁾, Kawabata I, Hayashi M, Yokota A, Isozaki T, Takeshita T (¹⁾Yamaguchi Hospital): Incidence and risk factors for severe perineal laceration after vaginal delivery in Japanese patients. Arch Gynecol Obstet 2006; 274 (4): 222-226.
- 2) Kawabata I, Nakai A, Takeshita T: Prediction of HELLP syndrome with assessment of maternal dual hepatic blood supply by using Doppler ultrasound. Arch Gynecol Obstet 2006; 274 (5): 303-309.
- 3) Nakai A^{1,2)}, Aketa M^{1,3)}, Kawabata I²⁾ (¹⁾Department of Injury Prevention and Quality Management, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ²⁾Department of Obstetrics and Gynecology, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School, ³⁾Nursing Department, Tama Nagayama Hospital, Nippon Medical School): Incidence and risk factors for inpatient falls in an academic acute-care hospital. J Nippon Med Sch 2006; 73 (5): 265-270.
- 4) Miyake H¹⁾, Nakai A¹⁾, Shimada T²⁾, Takeshita T¹⁾ (¹⁾Department of Female Reproductive and Developmental Medicine, Nippon Medical School Graduate School of Medicine, ²⁾Molecular and Medical Genetics, Nippon Medical School Graduate School of Medicine): Effect of first-trimester ultrasound examination for chromosomal aberrations in women undergoing. J Nippon Med Sch 2006; 73 (5): 271-276.
- 5) 林 昌子, 三宅秀彦, 山本晃人, 山田浩子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 谷内良成, 山田 隆, 横田明重, 中井章人: 当科における妊産婦健康審査未受診症例の検討. 日産婦東京会誌 2006; 55 (2): 158-161.
- 6) 山田 隆, 奥田直貴, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 術式の工夫・産科手術: 前置癒着胎盤に対する cesarean hysterectomy の工夫. 産婦人科手術 2006; 17: 115-121.
- 7) 吉田温子¹⁾, 尾山裕美¹⁾, 竹内千恵美¹⁾, 酒井和子¹⁾, 川端伊久乃, 中井章人 (¹⁾日本医科大学多摩永山病院周産期棟): 高度会陰裂傷発生に対するリスク因子の検討. 母性衛生 2006; 47 (2): 365-371.
- 8) 三宅秀彦, 山本晃人, 林 昌子, 奥田直貴, 川端伊久乃, 山田 隆, 谷内良成, 露木佳子, 横田明重, 中井章人: 子宮頸管縫縮術症例の予後因子についての検討. 日産婦東京会誌 2006; 55 (3): 340-343.
- 9) 大屋敦子, 村主明彦¹⁾, 石野尚吾¹⁾, 花輪壽彦¹⁾, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人 (¹⁾北里研究所東洋医学総合研究所): 月経前症候群の漢方治療についての検討. 日産婦東京会誌 2006; 55 (4): 525-528.
- 10) 三宅秀彦, 川端伊久乃, 中井章人, 竹下俊行: 妊娠高血圧症候群と関連する諸疾患: HELLP 症候群と母体循環変化. 妊高誌 2006; 14: 27-31.
- 11) 川端伊久乃, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 当科における妊娠高血圧症候群眼底所見の検討. 妊高誌 2006; 14: 110-111.
- 12) 稲川智子, 奥田直貴, 大屋敦子, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 石野神小織¹⁾, 中野渡雄一¹⁾ (¹⁾多摩永山病院救命救急センター): 妊娠35週で初診後に妊娠高血圧腎症による重症の肺水腫をきたした1例. 日産婦東京会誌 2007; 56 (1): 18-21.

(2) 綜説：

- 1) 三宅秀彦, 中井章人：特集：産婦人科画像診断の最前線：胎児心機能の超音波診断．産婦人科の世界 2006；58(10)：859-868．
- 2) 山田 隆, 中井章人：I. 産科：8. 胎盤異常のスクリーニング：2) 前置胎盤・前置癒着胎盤．産婦人科の実際 2006；55(11)：1745-1750．
- 3) 三宅秀彦：出生前診断のトピックス．日医大医会誌 2006；2(4)：216-217．
- 4) 山田浩子, 中井章人：周産期の整形外科・形成外科：恥骨離開．周産期医学 2006；36(11)：1393-1395．
- 5) 中井章人：切迫早産：新しい治療戦略とその効果．東京産婦人科医会誌 2007；39：105-108．
- 6) 大屋敦子, 中井章人：特集：産科出血を止める：その予知, 予防と対処法：前置胎盤．産婦人科の実際 2007；56(2)：165-171．
- 7) 横田明重：教訓的症例から学ぶ産婦人科診療のピットフォール・20：切迫早産・常位胎盤早期剥離を疑った子宮破裂の1例．臨婦産 2007；61(3)：319-321．
- 8) 中井章人：画像データの読み方(3)：前置癒着胎盤．周産期医学 2007；37(3)：285-288．

著 書

- 1) 中井章人, 竹下俊行：〔分担〕4. 合併症妊娠：呼吸気疾患．第2版臨床エビデンス産科学(佐藤和雄, 藤本征一郎編集), 2006；pp395-397, メジカルビュー社．
- 2) 竹下俊行, 中井章人：〔分担〕4. 合併症妊娠：消化器疾患(肝・胆・膵)．第2版臨床エビデンス産科学(佐藤和雄, 藤本征一郎編集), 2006；pp398-401, メジカルビュー社．
- 3) 中井章人：〔分担〕I. 妊娠中のプロブレム：(7) 胎盤・臍帯・羊水の異常所見：キーワード：胎盤辺縁剥離．産科臨床ベストプラクティス上級編：誰もが悩む95例の診療指針(岡井崇編集), 2006；pp146-149, 医学書院．
- 4) 三宅秀彦, 中井章人：〔分担〕I. 妊娠中のプロブレム：(7) 胎盤・臍帯・羊水の異常所見：キーワード：臍帯卵膜付着．産科臨床ベストプラクティス上級編：誰もが悩む95例の診療指針(岡井崇編集), 2006；pp150-152, 医学書院．
- 5) 横田明重, 中井章人：〔分担〕I. 妊娠中のプロブレム：(7) 胎盤・臍帯・羊水の異常所見：キーワード：癒着胎盤．産科臨床ベストプラクティス上級編：誰もが悩む95例の診療指針(岡井崇編集), 2006；pp153-155, 医学書院．
- 6) 奥田直貴, 中井章人：〔分担〕産科編：Part II 妊娠中：検査：23胎児血診断．周産期医学必修知識第6版 周産期医学36巻増刊号(周産期医学編集委員会編), 2006；pp69-71, 東京医学社．
- 7) 川端伊久乃, 中井章人：〔分担〕産科編：Part II 妊娠中：異常妊娠：85妊娠中のマイナートラブル．周産期医学必修知識第6版 周産期医学36巻増刊号(周産期医学編集委員会編), 2006；pp234-236, 東京医学社．
- 8) 中井章人, 三宅秀彦：〔分担〕II 早産の診断：絨毛膜炎の診断．早産：最新の知見と取り扱い(佐藤和雄監修, 金山尚裕, 海野信也, 松田義雄, 正岡直樹, 高木健次郎編集), 2007；pp86-91, メジカルビュー社．

学会発表

〔2006年度追加分〕

一般講演：

- 1) 谷内良成, 横田明重, 奥田直貴, 中井章人：GnRHアゴニストの臨床：適応と限界をめぐって：GnRHアゴニストの腫瘍縮小効果と逃げ込み療法の可否．第2回NMS GnRH研究会, 2006．3．

(1) 特別講演：

- 1) 中井章人：周産期医療ステージ(1)：妊娠初期を中心に．産科中小施設研究会, 2006．6．

- 2) 中井章人：周産期医療：妊娠初期を中心に．練馬区産婦人科医会研修会，2006．8．
- 3) 中井章人：周産期医療ステージ（2）：妊娠中期を中心に．産科中小施設研究会，2006．9．
- 4) 中井章人：切迫早産：新しい治療戦略とその効果．第262回東京産婦人科医会臨床研究会，2006．11．
- 5) 中井章人：切迫早産：新しい治療戦略．賛育会病院産婦人科集談会，2006．11．
- 6) 中井章人：産科管理：新しい治療戦略とその効果．SS研究会ニューイヤーセミナー，2007．1．
- 7) 中井章人：セミオープンシステムのための産科健診．第30回多摩産婦人科病診連携懇話会，2007．2．

(2) シンポジウム：

- 1) 中山裕樹¹⁾，井畑 穰¹⁾，三田俊二¹⁾，小野瀬亮¹⁾，加藤久盛¹⁾，山田 隆²⁾，黒瀬圭輔²⁾，太田雄治郎³⁾，佐治晴哉⁴⁾，杉浦 賢⁴⁾（¹⁾神奈川県立がんセンター婦人科，²⁾日本医科大学産婦人科学，³⁾多摩南部地域病院，⁴⁾横浜市立大学産婦人科）：子宮体癌Ⅱ期の治療に関する検討：とくに腔切除長との関連について（子宮癌の手術療法を再考する）．第40回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会，2006．7．
- 2) 三宅秀彦，川端伊久乃，中井章人，竹下俊行：HELLP症候群と母体循環変化（妊娠高血圧症候群とその周辺疾患）．第27回日本妊娠高血圧学会，2006．10．

(3) ワークショップ：

- 1) 三宅秀彦：妊娠末期にみられる産科合併症とCTG：絨毛膜羊膜炎．第28回分娩監視研究会，2006．11．

(4) 一般講演：

- 1) Miyake H, Yokota A, Nakai A, Takeshita T : The impact of first-trimester ultrasonography for chromosome aberrations in Japanese women who underwent amniocentesis . XVIII FiGO World Congress of Gynecology and Obstetrics (Kuala Lumpur, Malaysia), 2006 . 11 .
- 2) Abe T, Negishi Y, Ichikawa M, Akira S, Takeshita T : Laparoscopic metroplasty for the treatment of uterine anomaly with a history of recurrent miscarriage . 16th Annual Congress of International Society for Gynecologic Endoscopy (Osaka, Japan), 2007 . 3 .
- 3) 林 昌子，中井章人，山口 暁¹⁾，川端伊久乃，山田浩子，奥田直貴，横田明重，竹下俊行（¹⁾山口病院）：経膈分娩後の高度陰裂傷発生に関するリスク因子の検討．第58回日本産科婦人科学会学術講演会，2006．4．
- 4) 永野玲子¹⁾，林 瑞成¹⁾，中井章人，竹下俊行，若麻績佳樹¹⁾（¹⁾都立墨東病院周産期）：妊娠30週未満の帝王切開における被膜児娩出法の検討．第58回日本産科婦人科学会学術講演会，2006．4．
- 5) 川端伊久乃，中井章人，三宅秀彦，谷内良成，山本晃人，横田明重，竹下俊行：切迫早産患者における早産予知マーカー：頸管粘液中顆粒球エラスターゼは独立した早産予知マーカーになるか．第58回日本産科婦人科学会学術講演会，2006．4．
- 6) 谷内良成，中井章人，奥田直貴，中井晶子，横田明重，竹下俊行：妊娠ラットの子宮胎盤循環不全に対するアスピリンの効果．第58回日本産科婦人科学会学術講演会，2006．4．
- 7) 磯崎太一，品川寿弥，林 昌子，八木幸恵，八木修一郎，西 弥生，村田知昭，根本将之，石川 源，澤倫太郎，竹下俊行：常位胎盤早期剥離に関する臨床的検討：特に絨毛膜下血腫合併の有無による予後について．第58回日本産科婦人科学会学術講演会，2006．4．
- 8) 三宅秀彦，山本晃人，林 昌子，奥田直貴，川端伊久乃，山田 隆，谷内良成，露木佳子，横田明重，中井章人：子宮頸管縫縮術症例の予後因子についての検討．第338回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2006．5．
- 9) 川端伊久乃，中井章人，林 昌子，三宅秀彦，横田明重，朝倉啓文，竹下俊行：当科における過去5年間の早産治療の変遷と早産率の推移．東京早産予防研究会第6回学術集会，2006．5．
- 10) 三宅秀彦，山田浩子，山本晃人，横田明重，中井章人，五十嵐里砂¹⁾，佐藤久美子¹⁾，尾山裕美¹⁾，吉田温子¹⁾，竹内千恵美¹⁾，島田 隆²⁾（¹⁾多摩永山病院周産期棟，²⁾付属病院遺伝診療科）：妊娠22週以降で診断された羊水過少シークエンスの経験．第30回日本遺伝カウンセリング学会学術集会，2006．5．
- 11) 三宅秀彦，中井章人，谷内良成，横田明重，竹下俊行：頸管粘液中の顆粒球エラスターゼ測定は早産予知に役立つか？．第23回日本産婦人科感染症研究会学術講演会，2006．5．

- 12) 奥田直貴, 山田浩子, 山本晃人, 露木佳子, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 反復子宮筋腫核出術後妊娠30週で子宮破裂を発症した1例. 第111回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2006. 6.
- 13) 川端伊久乃, 林 昌子, 山田 隆, 三浦 敦, 品川寿弥, 土居大祐, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行: 急速な経過をたどった妊娠合併子宮頸部浸潤癌の1例. 第111回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会, 2006. 6.
- 14) 加藤久盛¹⁾, 井畑 穰¹⁾, 三田俊二¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 中山裕樹¹⁾, 山田 隆²⁾, 黒瀬圭輔²⁾, 佐治晴哉³⁾(¹⁾ 神奈川県立がんセンター婦人科, ²⁾ 日本医科大学産婦人科学, ³⁾ 横浜市立大学医学部産婦人科): 初期子宮頸癌に対する光線力学的治療後の細胞所見: 特にHPV持続感染例について. 第47回日本臨床細胞学会総会春季大会, 2006. 6.
- 15) 小野瀬亮¹⁾, 三田俊二¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 井畑 穰¹⁾, 山田 隆²⁾, 土居大祐²⁾, 佐治晴哉³⁾, 杉浦 賢⁴⁾, 林 宏行⁴⁾, 中山裕樹¹⁾(¹⁾ 神奈川県立がんセンター婦人科, ²⁾ 同病理診断科, ³⁾ 日本医科大学産婦人科学, ⁴⁾ 横浜市立大学医学部産婦人科): 卵巣悪性中胚葉性混合腫瘍の2例. 第47回日本臨床細胞学会総会春季大会, 2006. 6.
- 16) 井畑 穰¹⁾, 三田俊二¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 山田 隆³⁾, 佐治晴哉²⁾, 杉浦 賢²⁾, 中山裕樹¹⁾(¹⁾ 神奈川県立がんセンター婦人科, ²⁾ 横浜市立大学医学部産婦人科, ³⁾ 日本医科大学産婦人科学): 当院における子宮頸部腺癌症例の検討. 第47回日本臨床細胞学会総会春季大会, 2006. 6.
- 17) 中山裕樹¹⁾, 井畑 穰¹⁾, 三田俊二¹⁾, 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 山田 隆²⁾, 土居大祐²⁾, 佐治晴哉³⁾, 杉浦賢³⁾, 太田雄治郎⁴⁾(¹⁾ 神奈川県立がんセンター婦人科, ²⁾ 日本医科大学産婦人科学, ³⁾ 横浜市立大学医学部産婦人科学, ⁴⁾ 東京都南部地域病院): 頸部微小浸潤腺癌の細胞像. 第47回日本臨床細胞学会総会春季大会, 2006. 6.
- 18) 川端伊久乃, 中井章人, 三宅秀彦, 谷内良成, 奥田直貴, 横田明重, 竹下俊行: 切迫早産患者における早産予知マーカーの有用性. 第42回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2006. 7.
- 19) 谷内良成, 奥田直貴, 中井晶子, 中井章人, 竹下俊行: 経母体アスピリン投与によるラット胎仔虚血再灌流障害への影響. 第42回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2006. 7.
- 20) 高橋 肇, 山口 暁¹⁾, 山口 稔¹⁾, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行(¹⁾ 山口病院): 新生児B群溶連菌(GBS)スクリーニングの有用性についての検討(第2報). 第42回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2006. 7.
- 21) 永野玲子¹⁾, 西村 力²⁾, 林 瑞成¹⁾, 中井章人, 竹下俊行, 若麻績佳樹¹⁾, 渡辺とよ子²⁾(¹⁾ 都立墨東病院周産期センター産科, ²⁾ 同新生児科): 晩期循環不全と産科的因子の関係. 第42回日本周産期・新生児医学会総会および学術集会, 2006. 7.
- 22) 小野瀬亮¹⁾, 加藤久盛¹⁾, 三田俊二¹⁾, 井畑 穰¹⁾, 山田 隆²⁾, 土居大祐²⁾, 佐治晴哉³⁾, 杉浦 賢³⁾, 中山裕樹¹⁾(¹⁾ 神奈川県立がんセンター婦人科, ²⁾ 日本医科大学産婦人科学, ³⁾ 横浜市立大学医学部産婦人科): 卵巣悪性中胚葉性混合腫瘍の臨床病理的検討. 第40回特定非営利活動法人日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2006. 7.
- 23) 鈴木由美¹⁾, 渡辺裕子¹⁾, 千葉弘子¹⁾, 渡辺 淳¹⁾, 浅野ありさ¹⁾, 右田 真¹⁾, 三宅秀彦, 島田 隆¹⁾(¹⁾ 日本医科大学付属病院遺伝診療科) 日本医科大学付属病院遺伝診療科における来談者の特性と看護支援への課題. 第5回日本遺伝看護学会学術大会, 2006. 9.
- 24) 五十嵐里砂¹⁾, 三宅秀彦, 佐藤久美子¹⁾, 尾山裕美¹⁾, 吉田温子¹⁾, 竹内千恵美¹⁾, 酒井和子¹⁾, 中井章人(¹⁾ 日本医科大学多摩永山病院周産期棟): 胎児の予後不良を診断された妊婦, 家族と助産師の関わり. 第5回日本遺伝看護学会学術大会, 2006. 9.
- 25) 奥田直貴, 山田浩子, 山本晃人, 露木佳子, 横田明重, 中井章人, 竹下俊行¹⁾(¹⁾ 付属病院女性診療科・産科): 反復子宮筋腫核出術後妊娠30週で子宮破裂を発症するも, 母児ともに救命し得た1症例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 26) 林 昌子, 川端伊久乃, 山田 隆, 三宅秀彦, 横田明重, 中井章人, 三浦 敦¹⁾, 品川寿弥¹⁾, 土居大祐¹⁾, 竹下俊行¹⁾(¹⁾ 付属病院女性診療科・産科): 治療方針に苦慮した妊娠合併子宮頸部浸潤癌の1例. 第74回日本医

科大学医学会総会，2006．9．

- 27) 堀川佳津美¹⁾，男鹿宏和¹⁾，村田和也¹⁾，高仲雅子²⁾，青木利恵²⁾，鹿田あき子²⁾，鈴木成治³⁾，横田明重^{(1)多摩永山病院薬剤科，2)同看護部，3)同消化器・乳腺・一般外科}): 輸液療法室における外来通院化学療法：オーダリングシステム未導入における薬剤安全管理．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 28) 高仲雅子¹⁾，青木利恵¹⁾，鹿田あき子¹⁾，堀川佳津美²⁾，男鹿宏和²⁾，村田和也²⁾，鈴木成治³⁾，横田明重^{(1)多摩永山病院看護部，2)同薬剤科，3)同消化器・乳腺・一般外科}): 輸液療法室における外来通院化学療法：QOL向上のための現状把握今後の課題．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 29) 大屋敦子，三宅秀彦，横田明重，中井章人，村主明彦¹⁾，石野尚吾¹⁾，花輪壽彦¹⁾(^{1)北里研究所東洋医学総合研究所}): 月経前症候群の漢方療法についての検討．第339回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2006．9．
- 30) 川端伊久乃，三宅秀彦，横田明重，中井章人，竹下俊行: 当科における妊娠高血圧症候群眼底所見の検討．第27回日本妊娠高血圧学会，2006．10．
- 31) 三宅秀彦，奥田直貴，林 昌子，横田明重，竹下俊行¹⁾，中井章人(^{1)付属病院女性診療科・産科}): 先天性四肢短縮症における胎内発育特性．第112回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会・学術集会，2006．10．
- 32) 稲川智子，奥田直貴，大屋敦子，三宅秀彦，横田明重，中井章人，石野神小織¹⁾，中野渡雄一¹⁾(^{1)多摩永山病院救命救急センター}): 妊娠35週で初診後に妊娠高血圧症候群による重症の肺水腫を発症した1例．第340回日本産科婦人科学会東京地方部会例会，2006．12．
- 33) 川端伊久乃，稲川智子，三宅秀彦，関口敦子，横田明重，朝倉啓文，越野立夫，中井章人，竹下俊行: 妊娠中の睡眠障害と運動との関係．第20回女性スポーツ医学研究会学術集会，2006．12．
- 34) 山本晃人，川端伊久乃，林 昌子，露木佳子，大屋敦子，横田明重，中井章人: 羊水過多症を契機に診断された母体の中枢性尿崩症の1例．第20回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第341回日産婦東京地方部会例会，2007．2．

[千葉北総病院女性診療科・産科]

研究概要

- 1) 婦人科腫瘍: 婦人科腫瘍分野は千葉北総病院女性診療科・産科における診療の中心的な位置を占めている．腫瘍学は症例1例1例の集積が大切であり，症例報告を中心に研究を行っている．また，抗癌剤の効果予知因子の研究の一環として，今回は子宮内膜癌にたいする高用量黄体ホルモン療法における効果予知因子の解明について研究を行った．
- 2) 婦人科内視鏡手術: 腹腔鏡手術の教育システムの確立の必要性が謳われている．特に腹腔鏡下子宮筋腫核出術は子宮壁の修復に正確な縫合結紮を要し，生育機関においては術式と導入方法の工夫が必要とされてきた．これまで腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術を標準術式として導入してきたが，今回，導入における問題点と術式の妥当性について検討を加えた．さらに子宮内膜症や卵巣嚢腫に対する手術，子宮全摘術，および卵管卵管間質部妊娠を含む子宮外妊娠手術および子宮奇形に対する腹腔鏡手術あるいは子宮鏡手術についても症例を重ねている．
- 3) 周産期: ハイリスク妊娠の管理および分娩における問題点について検討し，緊急帝王切開術に対する諸問題を関係各部門と検討，分析した．妊産婦の栄養管理について，具体的に各症例について検討し日本人妊産婦に必要な栄養所要量について研究を行った．

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) 荻原弘光，河村 堯，鴨井青龍，竹下俊行¹⁾(^{1)付属病院女性診療科・産科}): 肥満妊婦とやせ妊婦: そのリスクとケア 体重コントロールの工夫: コンピュータを用いての体重変化曲線．産婦人科の実際 2006 ; 55 (7): 1103-1112．

- 2) 茆原弘光, 朝倉禎史, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾(¹⁾ 付属病院女性診療科・産科): 妊産婦の栄養代謝とアセスメント: 妊産婦の基礎代謝・栄養評価と治療 2007 ; 24 (1): 26-34 .

学会発表

(1) ワークショップ:

- 1) 米山剛一¹⁾, 小西英喜²⁾, 黒瀬圭輔, 土居大祐¹⁾, 竹下俊行¹⁾, 藤田和之³⁾, 田中憲一³⁾, 小玉省二³⁾, 中山裕樹⁴⁾, 青木陽一⁵⁾(¹⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科, ²⁾ 同武蔵小杉病院女性診療科・産科, ³⁾ 新潟県立がんセンター新潟病院婦人科, ⁴⁾ 神奈川県立がんセンター婦人科, ⁵⁾ 琉球大学医学部産婦人科): 上皮性卵巣癌の初回治療としての TJ biweekly (PaclitaxelCarboplatin 隔週投与) 療法の他施設共同研究 . 第40回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2006 . 7 .

(2) 一般講演:

- 1) Kurose K , Hayashi M , Yamada T , Watanabe M , Doi D , Yoneyama K , Konishi H , Kamoi S , Akira S , Takeshita T : Analysis of the Cases Which were Performed Laparoscopic Surgery by Diagnosis of Benign Ovarian Cysts, and were Proved that They are Malignant Tumors . 11th IGCS (international gynecologic cancer society)(Santa Monica, California, USA), 2006 . 10 .
- 2) 鴨井青龍, 印出佑介, 松橋智彦, 五十嵐美和, 里見操緒, 茆原弘光, 渡辺美千明, 土居大祐¹⁾, 米山剛一¹⁾, 小西英喜²⁾, 河村 堯, 竹下俊行¹⁾(¹⁾ 付属病院女性診療科・産科, ²⁾ 武蔵小杉病院女性診療科・産科): 若年性子宮体癌に対する高用量MPA療法において投与開始後4週間後の生検組織にみられる腫瘍細胞の膨大化は治療効果予知因子になりえるか . 第58回日本産科婦人科学会総会・学術講演会, 2006 . 4 .
- 3) 朝倉禎史, 吉田有里, 永野玲子, 五十嵐健治, 星野裕子, 林 瑞成, 若麻績佳樹(¹⁾ 東京都立墨東病院周産期センター産科): 切迫早産に対し塩酸リトドリンの副作用のため塩酸イソクスプリンを使用した4症例 . 第338回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 2006 . 5 .
- 4) 茆原弘光, 五十嵐美和, 里見操緒, 松橋智彦, 印出佑介, 嶺 貴彦, 加藤 建, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 河村 堯, 竹下俊行¹⁾(¹⁾ 付属病院女性診療科・産科): 風疹 Persistent IgM 妊婦の1例 . 第111回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 2006 . 6 .
- 5) 松橋智彦: 子宮体部原発横紋筋肉腫の1例 . 第40回日本婦人科腫瘍学会学術集会, 2006 . 7 .
- 6) 茆原弘光, 河村 堯, 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 五十嵐美和, 印出佑介, 松橋智彦, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾(¹⁾ 付属病院女性診療科・産科): 分娩に伴う正常妊婦の体内水分分布の変化の検討 . 第30回日本産科婦人科栄養代謝研究会, 2006 . 8 .
- 7) 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 松橋智彦, 鴨井青龍, 河村 堯, 阿部 崇, 西 弥生, 明樂重夫, 竹下俊行: 腹腔鏡補助下子宮筋腫核出術は医育機関における標準術式になりうるか: 研修医による手術成績から . 第46回日本産科婦人科内視鏡学会, 2006 . 8 .
- 8) 茆原弘光, 河村 堯, 鴨井青龍, 竹下俊行¹⁾(¹⁾ 付属病院女性診療科・産科): 夕周波数生体電気インピーダンス法による分娩前後の正常妊婦体組成の変化 . 第28回日本臨床栄養学会, 2006 . 9 .
- 9) 河野美貴子, 茆原弘光, 岩本美樹, 菊池英美, 印出佑介, 朝倉禎史, 五十嵐美和, 黒瀬圭輔, 渡辺美千明, 鴨井青龍, 大秋美治¹⁾, 岡田 進²⁾(¹⁾ 千葉北総病院病理部, ²⁾ 千葉北総病院放射線科): 癒着胎盤を合併した分葉胎盤の1例 . 日本産科婦人科学会千葉地方部会, 2007 . 1 .
- 10) 渡辺美千明, 黒瀬圭輔, 印出佑介, 鴨井青龍, 明樂重夫, 竹下俊行: 吊り上げ法による腹腔鏡補助下子宮腺筋症切除術 . 第47回 産科婦人科内視鏡学会, 2007 . 3 .

14 . 耳鼻咽喉科学講座

[付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科]

研究概要

教室の主たる研究領域は、耳科学、めまい平衡医学、聴覚学、免疫・アレルギー学、頭頸部外科学、音声言語医学ならびに嚥下機能に関するものである。また、その研究手法としては、生理学的、形態学的、免疫学的、分子生物的方法が駆使されている。

以下の英文・和文論文、学会発表で示されている通り、基礎的あるいは臨床的研究、症例検討等に関する業績の結果の提示が積極的に国内・国外に示されている。教室の活動も本邦に止まらず、海外へ向けて大いに発展している。また、海外からの研究者も、教室で研究活動に従事している。これらの活動を援助するための、外部からの競争的研究補助金獲得も積極的に行われ、文部科学省研究費補助金や厚生労働省科学研究費をはじめとした研究補助金を多く獲得している。

国際学会や国内学会への参加と、発表も積極的に行われ成果を上げている。本年度は、第107回日本耳鼻咽喉科学会・学術講演会を当教室が担当し（八木聡明会長）、品川の新高輪プリンスホテル国際館パミールで開催した。学会は約4,500人の参加者があり、大きな成果を上げた。本年5月からは、教室の八木が（社）日本耳鼻咽喉科学会の理事長となり、本邦の耳鼻咽喉科の蛇取り役を委嘱された。また、昨年度から始めた日本医科大学・Seoul National University 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 joint meeting の第2回ミーティングがソウルで行われ、両大学の研究等の交流が行われた。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Gotoh M, Okubo K, Okuda M : Inhibitory effects of facemasks and eyeglasses on invasion of pollen particles in the nose and eyes : a clinical study . *Rhinology* 2005 ; 43 : 266-270 .
- 2) R, NG¹⁾, C, CW²⁾, H, PL²⁾, Ikezono T, Krastins B⁴⁾, Kremer H²⁾, Kuo SF¹⁾, Liberman MC⁵⁾, Merchant SN⁵⁾, Nadol JB⁵⁾, Sarracino DA⁴⁾, Verhagen WI⁶⁾, Morton CC¹⁾ (¹⁾ Departments of Pathology, Obstetrics, Gynecology and Reproductive Biology, Brigham and Women's Hospital, Harvard Medical School, Boston, MA, USA , ²⁾ Department of Otorhinolaryngology, Radboud University Medical Center, Nijmegen, The Netherlands , ⁴⁾ Harvard Medical School-Partners Healthcare Center for Genetics and Genomics, Cambridge, MA, USA , ⁵⁾ Department of Otology and Laryngology, Massachusetts Eye and Ear Infirmary, Eaton-Peabody Laboratory, Harvard Medical School Boston, MA, USA and , ⁶⁾ Department of Neurology, Canisius Wilhelmina Hospital, Nijmegen, The Netherlands) : Cochlin immunostaining of inner ear pathologic deposits and proteomic analysis in DFNA9 deafness and vestibular dyssfunction . *Human Molecular Genetics* 2006 ; 15 (7) : 1071-1085 .
- 3) Kokawa T, Saigusa H, Iichirou A, Chinaru M, Kumiko T¹⁾, Yamashita K²⁾, Niimi S³⁾ (¹⁾ 日本医科大学解剖学第2, ²⁾ 同解剖学第1, ³⁾ 国際医療福祉大学言語聴覚障害学科) : Physiological studies for retrusive movements of the human adult tongue . *Journal of Voice* 2006 ; 20 (3) : 414-422 .
- 4) Yagi T, Koizumi Y, Kimura M, Aoyagi M : Pathological localization of so-called posterior canal BPPV . *Auris Nasus Larynx* 2006 ; 33 : 391-395 .

- 5) Okubo K , Gotoh M : Inhibition of the antigen provoked nasal reaction by second-generation antihistamines in patients with Japanese cedar pollinosis . *Allergy International* 2006 ; 55 : 261-269 .
- 6) Valovirta E¹⁾ , Pawankar R (¹ Dept. of Pediatrics, Turku University, Finland): Survey on the impact of comorbid allergic rhinitis in patients with asthma . *BMC Pulm Med* 2006 ; 30 (6): 12-24 .
- 7) Meltzer E , Hamilos D , Hadley J , Lanza DC , Marple BF , Niklas RA , Adinoff AD , Borish L , Fergusson BJ , Pawankar R : Rhinosinusitis : developing guidance for clinical trials . *J Allergy Clin Immunol* 2006 ; 118 (5): 17-61 .
- 8) Meltzer E , Hamilos DL , Hadley JA , Lanza DC , Marple BF , Borish L , Fergusson BJ , Fokkens WJ , Lund VJ , Pawankar R : Rhinosinusitis : Developing guidance for clinical trials . *Otolaryngol Head Neck Surgery* 2006 ; 135 (5): 31-80 .
- 9) Okubo K , Ogino S¹⁾ , Nagakura T²⁾ , Ishikawa T³⁾ (¹ Osaka U. , ²⁾ Yohga Clin , ³⁾ Kumamoto U.): Omalizumab is effective and safe in the treatment of Japanese cedar pollen-induced seasonal allergic rhinitis . *Allergy International* 2006 ; 55 : 379-386 .
- 10) Pawankar R , Bunnag C : Retrospective analysis of Intermittant and persistant rhinitis . *Clinical Allergy* 2007 ; 6 (1): 18-24 .
- 11) Tsunoda K¹⁾ , Ishimoto Shin-ichi¹⁾ , Suzuki M¹⁾ , Hara M¹⁾ , Yamaguchi H¹⁾ , Sugimoto M¹⁾ , Takeuchi S¹⁾ , Nito T²⁾ , Higo R³⁾ , Saigusa H , Tsunoda A⁴⁾ , Tamaya N⁵⁾ (¹ 感覚器病センター , ² 東京大学医学部耳鼻咽喉科 , ³ 東京医科歯科大学耳鼻咽喉科 , ⁴ 国立国際医療センター耳鼻咽喉科): An effective management regimen for laryngeal granuloma caused by gastro-esophageal reflux : Combination therapy with suggestion for lifestyle modifications . *Acta Oto-laryngology* 2007 ; 127 (1): 88-92 .
- 12) Pawankar R : Inflammatory mechanisms in allergic rhinitis . *Curr Opin Allergy Clin Immunol* 2007 ; 7 (1): 1-4 .
- 13) Takizawa R , Pawankar R , Yamagishi S , Takenaka H¹⁾ , Yagi T (¹ Dept. of Otolaryngology, Osaka Med College): Increased expression of HLA-DR and CD86 in nasal epithelial cells in allergic rhinitis : Antigen presentation to T cells and up-regulation by diesel exhaust particles . *Clinical & Experimental Allergy* 2007 ; 37 (3): 420-433 .
- 14) Oyama K¹⁾ , Ikezono T , Tahara S¹⁾ , Shindo S , Kitamura T¹⁾ , Teramoto A¹⁾ (¹ 脳神経外科学): Petous apex cholesterol granuloma treated via the endoscopic transsphenoidal approach . *Acta Neurochir (Wien)* 2007 ; 149 (3): 299-302 .
- 15) 三枝英人 : 小児における逆流による咽喉頭の変化 . *ENTONI* 2006 ; 63 : 47-55 .
- 16) 横島一彦 , 中溝宗永 , 小津千佳 , 稲井俊太 , 島田健一 , 酒主敦子 , 粉川隆行 , 八木聡明 : 下咽頭喉頭全摘出術における副甲状腺機能温存 . *頭頸部外科* 2006 ; 16 (1): 91-95 .
- 17) 三枝英人 , 中村 毅 , 愛野威一郎 , 松岡智治 , 小町太郎 , 粉川隆行 : 小児における胃食道逆流による急性喉頭狭窄症例 . *日本気管食道科学会会報* 2006 ; 57 (3): 288-297 .
- 18) 鈴木俊彦¹⁾ , 田沼久美子²⁾ , 三枝英人 , 浅川光夫²⁾ , 薛 昊罌²⁾ (¹ 医学部学生 , ² 解剖学第2) : 腹腔動脈の破格を認めた1例 . *日医大医学会誌* 2006 ; 2 (3): 164-168 .
- 19) 池園哲郎 : 耳鼻咽喉科救急医療マニュアル 救急疾患の診断と治療 外リンパ瘻 . *JOHNS* 2006 ; 22 (3): 345-350 .
- 20) 池園哲郎 : Dejerine syndrome (延髄傍正中部 syndrome). *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 2006 ; 78 (5): 90-91 .
- 21) 長谷川雅容 , 藤倉輝道¹⁾ , 滝沢竜太 , 小山利香 , 大久保公裕 (¹ 女子医大東医療センター): フルチカゾン点鼻液 50 μ g 「サワイ」 28 噴霧用プロピオン酸フルチカゾン製剤のスギ花粉症に対する臨床効果 . *アレルギー・免疫* 2006 ; 6 : 104-116 .

- 22) 滝沢竜太, 小津千佳, 増野 聡, 杉崎一樹, 中村 毅, 大久保公裕: スギ花粉症患者に対するラマトロパンの安全性. アレルギー・免疫 2006; 13 (10): 92-98.
- 23) 中村 毅, 三枝英人, 愛野威一郎, 松岡智治¹⁾, 新美成二²⁾, 八木聡明⁽¹⁾高島平のど・はな・みみクリニック, ²⁾国際医療福祉大学言語聴覚障害学科): 一側声帯麻痺をきたした Kennedy-Alter-Sung 症候群の1症例とその筋電図所見. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2006; 78 (11): 887-890.
- 24) 渡邊健一, 山内陽子, 山岸茂夫, 木村まき, 山口 智, 青木秀治, 松本光司¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院病理部): 振り子様扁桃の1症例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2006; 78: 937-939.
- 25) 愛野威一郎¹⁾, 三枝英人, 中村 毅, 松岡智治, 小町太郎²⁾, 粉川隆行²⁾(¹⁾東京臨海病院耳鼻咽喉科, ²⁾北村山公立病院耳鼻咽喉科): 特異な嚥下障害を来した統合失調症の1例. 日本耳鼻咽喉科学会会報 2006; 109: 785-788.
- 26) 三枝英人: 喉頭: スポーツと耳鼻咽喉科疾患. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2006; 78 (11): 853-858.
- 27) 藤倉輝道¹⁾, 滝沢竜太, 大西正樹²⁾, 北嶋 整¹⁾, 北嶋俊之³⁾, 空野恵理子⁴⁾, 馬場俊吉⁵⁾(¹⁾東京女子医大東医療センター, ²⁾大西耳鼻咽喉科, ³⁾北嶋医院, ⁴⁾博慈会記念病院, ⁵⁾日本医科大学千葉北総病院耳鼻咽喉科): 鼻アレルギー治療における口腔内崩壊錠の使用意義: エバスチン OD 錠を用いた検討. Progress in Medicine 2006; 26 (11): 147-153.
- 28) 新藤 晋, 池園哲郎: シリーズ/DPCに対応したクリニカルパスの実際: 耳硬化症. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2006; 78 (13): 1067-1076.
- 29) 横島一彦, 中溝宗永, 小津千佳, 稲井俊太, 島田健一, 酒主敦子, 斉藤明彦, 粉川隆行, 八木聡明: 両側頸部郭清術を併施した喉頭・下咽頭癌手術における副甲状腺温存術式の成功率. 頭頸部癌 2006; 32 (4): 515-518.
- 30) 野中 学: 鼻・副鼻腔線維芽細胞の特殊性と慢性副鼻腔炎病態形成への関与. 耳喉頭頸 2006; 78 (13): 1011-1019.
- 31) 小町太郎, 三枝英人, 愛野威一郎, 松岡智治, 粉川隆行, 中村 毅: 声門下狭窄と胃食道逆流の関与について: PPIを中心としたGERDの治療を併用した声門下狭窄の治療成績. 日本気管食道科学会会報 2007; 58 (1): 38-50.
- 32) 富山俊一, 斉藤明彦, 野中 学: 低音障害型感音難聴: 内耳自己抗体陽性1症例の治療経過. Otol Jpn 2007; 17 (1): 26-27.

(2) 綜説:

- 1) Passalacqua G¹⁾, Bousquet PJ²⁾, Carlsen KH, Kemp J, Lockey RF, Niggemann B, Pawankar R, Price D, Bousquet J (¹⁾ University of Genoa, ²⁾ INSERM, Montpellier): ARIA update: I-Systematic review of complementary and alternative medicine for rhinitis and asthma. J Allergy Clin Immunol 2006; 117 (5): 1054-1062.
- 2) Pawankar R: Allergic rhinitis and Asthma: Are they manifestations of one syndrome?. Clin Exp Allergy 2006; 36 (1): 1-4.
- 3) Bousquet J¹⁾, Van Cauwenberge P²⁾, Ait Khaled N³⁾, Bachert C²⁾, Baena-Cagnani C, Bouchard J, Bunag C, Canonica Walter G, Durham S, Pawankar R (¹⁾ INSERM, Montpellier, ²⁾ Ghent University, ³⁾ IU-ATLD): Pharmacologic and anti-IgE treatment of allergic rhinitis ARIA update. Allergy 2006; 61 (9): 1086-1096.
- 4) Pawankar R: Revisiting the link between rhinitis and asthma. Clinical Allergy 2007; 6 (1): 1-6.
- 5) Pawankar R: LTRAs in Allergic Rhinitis and Rhinosinusitis. Allergy Update 2007; 4 (1): 8-15.
- 6) Pawankar R: Mechanisms and efficacy of Anti-IgE therapy in allergic rhinitis and co-morbid asthma. Allergy Update 2007; 4 (1): 26-32.

- 7) Pawankar R : Co-morbidities of allergic rhinitis in children . Advances in Allergy 2007 ; 2 (1) : 24-32 .
 - 8) 中溝宗永, 横島一彦 : 大胸筋皮弁・広背筋皮弁 . MB・ENT 2006 ; 67 : 19-24 .
 - 9) 後藤 穰, 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のかゆみの成因と治療 . アレルギー科 2005 ; 19 (4) : 360-364 .
 - 10) 馬場俊吉 : 真珠腫性中耳炎 open then closed法 . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2005 ; 77 (5) : 99-103 .
 - 11) 馬場俊吉 : 耳鳴治療の最前線 3 . プロスタグランジン . ENTONI 2005 ; 49 : 51-54 .
 - 12) 後藤 穰 : 多因子疾患としてのアレルギーとその予防の戦略 . アレルギー科 2005 ; 20 (2) : 130-137 .
 - 13) 馬場俊吉 : 耳鳴の診断と最新の治療 1 . 千葉県医師会雑誌 2005 ; 57 (9) : 28-28 .
 - 14) 後藤 穰 : 抗アレルギー薬のQOLの評価 . ENTONI 2005 ; 57 : 40-47 .
 - 15) 後藤 穰 : 花粉症の点鼻薬 . Q&Aでわかるアレルギー疾患 2005 ; 1 (3) : 265-267 .
 - 16) 後藤 穰 : スギ花粉症に対するアレルゲン特異的免疫療法の現状と問題点 . アレルギー科 2006 ; 21 (1) : 13-21 .
 - 17) 後藤 穰 : 免疫療法の進歩とエビデンス . アレルギーの臨床 2006 ; 26 (342) : 124-128 .
 - 18) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎の治療 . レジデントノート 2006 ; 7 (11) : 1547-1550 .
 - 19) 後藤 穰 : レーザー治療の効果と注意点 . 治療 2006 ; 88 (2) : 301-306 .
 - 20) 後藤 穰 : 小児花粉症患者の治療 . アレルギーの臨床 2006 ; 26 (343) : 247-248 .
 - 21) 馬場俊吉 : 突発性難聴と平衡機能 . 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2006 ; 78 (3) : 219-224 .
 - 22) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎のQOL . 東京都医師会雑誌 2006 ; 59 (3) : 11-16 .
 - 23) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎の病態と最新治療 . クリニカ 2006 ; 33 : 219-225 .
 - 24) 大久保公裕 : 抗IgE抗体療法 : 基礎から臨床まで . 医学の歩み 2006 ; 216 (5) : 379-382 .
 - 25) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎におけるガイドラインとは . Q&Aでわかるアレルギー疾患 2006 ; 2 (5) : 404-405 .
 - 26) 大久保公裕 : 免疫療法の実践2. 花粉症・アレルギー性鼻炎 . アレルギーの臨床 2006 ; 26 (3) : 194-200 .
 - 27) 大久保公裕 : 小児アレルギー性鼻炎 (花粉症) の現状と治療 . 小児科臨床 2006 ; 59 : 1461-1468 .
 - 28) 大久保公裕 : 小児アレルギー性鼻炎の現状と抗ヒスタミン薬の使用法 . 小児科 2006 ; 47 (8) : 1225-1234 .
 - 29) 大久保公裕 : Hygiene hypothesisに基づいた抗原特異的免疫療法 . Progress in Medicine 2006 ; 26 (8) : 1829-1832 .
 - 30) 大久保公裕 : アレルギー外来の現状2. 耳鼻咽喉科 . 眼科 2006 ; 48 (12) : 1781-1788 .
 - 31) 大久保公裕 : 鼻アレルギーのQOLの評価 . 耳鼻免疫アレルギー 2006 ; 24 (4) : 35-37 .
 - 32) 大久保公裕 : アレルギー性鼻炎に対する新しい薬剤 . アレルギーの臨床 2007 ; 27 (1) : 48-53 .
 - 33) 野中 学 : 好酸球性副鼻腔炎の病態と治療 . 日耳鼻会報 2007 ; 110 (1) : 1-6 .
 - 34) 大久保公裕 : 小児アレルギー性鼻炎に対するステロイド薬の適応 . JOHNS 2007 ; 23 (2) : 191-194 .
 - 35) Pawankar R : Allergic rhinitis and asthma : The link and clinical implications . Allergy From the Nose to the Lung 2007 ; 5 (1) : 14-18 .
- (3) 症例報告 :
- 1) Gotoh M , Okubo K : Sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis . Allergology International 2005 ; 54 : 167-171 .
 - 2) 横山有希子, 三枝英人, 八木聡明, 新美成二¹⁾(¹⁾国際医療福祉大学言語聴覚学科) : 上咽頭癌照射後, 晩期に感音難聴と嚥下障害を発症した1例 . 音声言語学会 2005 ; 46 (3) : 167-173 .
 - 3) 酒主敦子, 野中 学, 福元 晃, Ruby P, 荻原 望, 八木聡明 : 抗ロイコトリエン薬 (Montelukast) が著効した慢性副鼻腔炎症例 . アレルギーの臨床 2005 ; 2 (8) : 646-650 .
- (4) 翻訳 :
- 1) 後藤 穰 : 花粉由来の脂質メディエーターによるヒト末梢血好酸球の遊走と活性化 . 鼻アレルギーフロンティア

2005 ; 5 (1) : 32-33 .

- 2) 後藤 穰 : 皮膚テストと誘発検査で診断した交差反応性のある食物アレルギーに対するカバノキ花粉免疫療法の効果 . 鼻アレルギーフロンティア 2005 ; 5 (2) : 24-25 .
- 3) 後藤 穰 : 間欠性鼻炎における神経ペプチド陽性線維の変化 . アレルギーと神経ペプチド 2006 ; 2 : 20-21 .
- 4) 後藤 穰 : グルココルチコイドは慢性気道炎症モデルにおけるブラディキニン受容体の発現を増強を抑制する . アレルギーと神経ペプチド 2006 ; 2 : 22-23 .

(5) 研究報告書 :

- 1) 渡辺行雄¹⁾, 池園哲郎, 伊藤壽一²⁾, 伊藤八次³⁾, 久保 武⁴⁾, 鈴木 衛⁵⁾, 高橋正紘⁶⁾, 工田昌也⁷⁾, 竹田泰三⁸⁾, 武田憲昭⁹⁾, 古屋信彦¹⁰⁾, 山下裕司¹¹⁾ (¹⁾ 富山医科薬科大学耳鼻科, ²⁾ 京都大学耳鼻科, ³⁾ 岐阜大学耳鼻科, ⁴⁾ 大阪大学耳鼻科, ⁵⁾ 東京医科大学耳鼻科, ⁶⁾ 横浜中央クリニック, ⁷⁾ 広島大学耳鼻科, ⁸⁾ 高知大学耳鼻科, ⁹⁾ 徳島大学耳鼻科, ¹⁰⁾ 群馬大学耳鼻科, ¹¹⁾ 山口大学耳鼻科): 平成18年内リンパ水腫疫学調査 . 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 2007 ; pp130-133 .
- 2) 池園哲郎, 八木聡明 : DFNA9患者組織を用いた発症メカニズムの解明 . 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 2007 ; pp154-156 .
- 3) 新藤 晋, 池園哲郎, 関根久遠, 李 麗淑, 八木聡明 : めまいを主訴とした, アブミ骨外傷による外リンパ瘻 確実例 < 予防的手術の適応を考える > . 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 前庭機能異常に関する調査研究班 2007 ; pp157-160 .
- 4) 池園哲郎 : 内耳プロテオーム解析を応用した外リンパ瘻の新たな診断法の開発治療指針の作成 . 厚生労働省研究費補助会感覚器障害研究事業 2007 ; pp1-8 .

著 書

- 1) Pawankar R : [自著] Allergic rhinitis : Inflammatory mechanisms . Mold Allergy and pathogenesis (VP Kurup), 2006 ; pp1-17 , Research Signpost .
- 2) Pawankar R : [自著] Quality of life in allergic rhinitis patients with and without asthma . Handbook on Allergic rhinitis and Asthma (V Shah), 2006 ; pp12-17 , Mrittika Int .
- 3) Pawankar R : [自著] Evidence-based Management of patients with allergic rhinitis and asthma . Handbook on Allergic rhinitis and Asthma (V Shah), 2006 ; pp18-22 , Mrittika Int .
- 4) Pawankar R : [自著] Epithelial cell-T cell/mast cell interactions in allergic airway disease . Airway Allergy & Infection (Mehra S and Patel N), 2007 ; pp16-28 , Mrittika .
- 5) 中溝宗永 : [分担] 下咽頭癌 . 今日の治療指針 (デスク版 , ポケット版) (山口 徹 , 北原光夫 , 福井次矢), 2007 ; p1058 , 医学書院 .
- 6) Pawankar R , Nonaka M , Lee Kun H , Yagi T : [自著] Role of mast cells and basophils in chronic rhinosinusitis . Monograph on Chronic Rhinosinusitis (D. Hamilos and F. Baroody), 2007 ; pp46-58 , Marcel and Dekker, New York .
- 7) Pawankar R : [自著] Targeting effector cells in allergic airway disease . Update on Allergy (S. Mehta & V Shah), 2007 ; pp18-28 , International Pub .
- 8) 馬場俊吉 : [分担] Approach Series ' 05 耳鼻咽喉科 . 耳鼻咽喉科 (馬場俊吉), 2005 ; 医学評論社 .
- 9) 馬場俊吉 : [分担] 再現医師国家試験問題解説書 一般 / 臨床編 . 再現医師国家試験問題解説書 , 2005 ; 医学評論社 .
- 10) 馬場俊吉 : [分担] 耳鼻咽喉科 . 耳鼻咽喉科 (馬場俊吉), 2005 ; 医学評論社 .
- 11) 馬場俊吉 : [分担] 耳鼻咽喉科口腔系 . 1CBT こあかり オリエンテーション (安田幸雄 松田重之), 2005 ; pp301-310 , 医学評論社 .

- 12) 馬場俊吉：〔分担〕2. CBT こあかり シュミレーション・シュミレーション，2005；医学評論社。
- 13) 馬場俊吉：〔分担〕真珠腫性中耳炎．今日の治療指針 2006，2006；pp1057-1057，医学書院。
- 14) 渡邊健一：〔共著〕De Sanctis-Cacchione syndrome．耳鼻咽喉科・頭頸部外科，2006；pp89-89，医学書院。
- 15) 野中 学：〔分担〕DeMyer syndrome．耳喉頭頸症候群辞典（八木聰明 竹中 洋 吉原俊雄），2006；pp88-88，医学書院。
- 16) 田沼久美子¹⁾，益田律子²⁾，三枝英人（¹⁾解剖学第2，²⁾千葉北総病院麻酔科）：〔監修〕からだの辞典，2006；成美堂出版。
- 17) 三枝英人：〔分担〕声帯運動障害の診断を正しくおこなうためには：内喉頭筋筋電図検査の重要性．耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療の落とし穴 喉頭・咽頭疾患，2006；中山書店。
- 18) 三枝英人：〔分担〕嚥下症を正しく評価し，治療するためには：嚥下透視正面画像の重要性．耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療の落とし穴 喉頭・咽頭疾患，2006；中山書店。
- 19) 大久保公裕：〔分担〕アレルギー性鼻炎の重症度と病型に応じた薬物療法．耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴．鼻・副鼻腔疾患（神崎 仁），2006；pp44-46，中山出版。
- 20) 大久保公裕：〔分担〕鼻涙管閉塞による涙嚢炎の治療．耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴．鼻・副鼻腔疾患（神崎 仁），2006；pp126-127，中山出版。
- 21) 大久保公裕：〔共著〕第4章1花粉症の疫学と発症メカニズム．アレルギー疾患ガイド（アレルギー疾患ガイド編集委員会），2006；pp116-120，中央法規出版。
- 22) 野中 学：〔分担〕顔面骨骨折（鼻骨骨折，眼窩吹き抜け骨折）．今日の治療指針（山口 徹，北原光夫，福井次矢），2007；pp1053-1053，医学書院。
- 23) 大久保公裕：〔分担〕1．花粉症とは 診断と治療．花粉症と周辺アレルギー疾患（斉藤博久），2007；pp2-7，診断と治療社。

学会発表

(1) Gold Medal 受賞講演：

- 1) Yagi T：Importance of 3D Eye Movement Analysis．24th Barnay Society Meeting (Uppsala, Sweden), 2006．6．

(2) 特別講演：

- 1) Pawankar R：Key Note Lecture. Nasal Polyps. What do we know and what are the puzzles．ERS and International Symposium on Allergy & Infection of the Nose (Tampere, Finland), 2006．6．
- 2) Pawankar R：Allergy a systemic disease：Causes to management．Malaysian ORL and MSAI Allergy Symposium (Kuala Lumpur), 2006．7．
- 3) Pawankar R：LTRAs in the management of AR and co-morbid asthma．Malaysian ORL Satellite Symposium (Johor Baru, Malaysia), 2006．7．
- 4) Pawankar R：ARIA-Update．Malaysian ORL Satellite Symposium (Ipoh, Malaysia), 2006．7．
- 5) Pawankar R：Allergy a systemic disease：Causes to management．MSAI World Allergy Day (Kuala Lumpur, Malaysia), 2006．9．
- 6) Pawankar R：DN Shivpuri Oration：Versatile Role of Mast cells in Allergic Airway Disease．Annual Congress of the Indian College of Allergy & Applied Immunology (Jalandhar, India), 2006．12．
- 7) Pawankar R：Multifaceted roles of mast cells and gamma delta T cells in allergic airway disease．11th Asian Research Symposium in Rhinology (Seoul, Korea), 2006．12．
- 8) Pawankar R：Update on the Management of Allergic Rhinitis and Co-morbid Asthma．7th Congress of Indian Academy of Allergy (Kochi, India), 2007．1．

- 9) Pawankar R : Immunotherapy : Mechanisms to efficacy . Allergy and Asthma Symposium (Pune, India), 2007 . 1 .
 - 10) Pawankar R : Allergy a Systemic Disease : Updates from GINA and ARIA in Managing Co-Morbid Asthma and Allergic Rhinitis . 8th Annual Congress of Malaysian Society of Allergy & Immunology (Penang, Malaysia), 2007 . 3 .
 - 11) Pawankar R : Allergy, the Epidemic of the 21st Century : How Serious is it? What are the Solutions? . 8th Annual Congress of Malaysian Society of Allergy & Immunology (Penang, Malaysia), 2007 . 3 .
 - 12) 後藤 穰 : アレルギー性鼻炎の免疫療法 . 福岡地区耳鼻咽喉科専門医会学術講演会 , 2006 . 2 .
 - 13) 島田健一 : 鼻汁好酸球検査およびRAST・RIST検査の実際と意義 . 福岡地区耳鼻咽喉科専門医会学術講演会 , 2006 . 2 .
 - 14) 後藤 穰 : スギ花粉症治療の最新の話 . 富山県耳鼻咽喉科臨床研究会 , 2006 . 3 .
 - 15) 八木聡明 : 日耳鼻の当面する諸問題 . 第55回日耳鼻東北地方部会連合学術講演会 , 2006 . 7 .
 - 16) 三枝英人 : 子供の成長と、胃食道逆流による耳鼻咽喉科症状 . 長崎県耳鼻咽喉科専門医講座 , 2006 . 10 .
 - 17) 八木聡明 : 日本耳鼻咽喉科学会の現状と将来展望 . 第32回中国四国地方部会連合学会 , 2006 . 12 .
 - 18) 三枝英人 : 嚥下障害とその成り立ちを考える . 江戸川区耳鼻咽喉科医会 , 2007 . 2 .
 - 19) 野中 学 : 慢性副鼻腔炎と線維芽細胞 . 第9回京都免疫アレルギー研究会 , 2007 . 2 .
- (3) 招待講演 :
- 1) Nonaka M : Usefulness of a newly developed microdebrider, XPS drill, for endoscopic sinus surgery . 15th international course on endoscopic surgery of the nose and paranasal sinuses (Seoul), 2006 . 4 .
 - 2) 横島一彦 , 中溝宗永 : 頸部郭清術のコツ Level II の郭清 . 第36回頭頸部癌治療カンファレンス , 2006 . 11 .
 - 3) 三枝英人 : Mモードカラードップラー超音波による構音時の舌運動の観察 . 第25回合同医学集団会 , 2006 . 11 .
- (4) 教育講演 :
- 1) 馬場俊吉 : めまいの臨床について . 鎌ヶ谷医師会学術集会 , 2005 . 5 .
 - 2) 後藤 穰 : 花粉症治療の新たな展開 . 日耳鼻千葉地方部会・千葉県耳鼻咽喉科医会学術講演会 , 2005 . 10 .
 - 3) 愛野威一郎 : 病態を考慮した嚥下障害治療とその実際 . 第10回関東嚥下訓練者講習会 , 2006 . 11 .
 - 4) 三枝英人 : ヒトの嚥下とその発達由来をたずねて : 生命形態学による探求の道 . 第30会日本嚥下医学会 , 2007 . 2 .
 - 5) 池園哲郎 : 臨床セミナー 外リンパ腫 . 第107回日本耳鼻咽喉科学会 , 2006 . 5 .
- (5) シンポジウム :
- 1) 三枝英人 : 構音器官の運動性から考える : その評価法と新しいDysarthria治療への可能性 . 第51回日本音言語医学会総会・学術講演会 , 2006 . 10 .
 - 2) Pawankar R : Modern management of Allergic Rhinitis. Year in Review . ERS and International Symposium on Allergy & Infection of the Nose (Tampere, Finland), 2006 . 6 .
 - 3) Pawankar R : LTRAs in the management of AR and co-morbid asthma . ERS and International Symposium on Allergy & Infection of the Nose (Tampere, Finland), 2006 . 6 .
 - 4) Pawankar R : Co-morbidities of Ar, Sinusitis, asthma and OME in children . ERS and International Symposium on Allergy & Infection of the Nose (Tampere, Finland), 2006 . 6 .
 - 5) Pawankar R : Anaphylaxis. Causes and Treatment . Annual Congress of American College of Allergy asthma and Immunology (Philadelphia, USA), 2006 . 11 .
 - 6) Pawankar R : Allergic Rhinitis and its Impact on Asthma . Joint Congress of Korean Allergy Society and World Allergy Organization (Seoul, Korea), 2006 . 11 .
 - 7) Pawankar R : Allergy and Asthma Insights in Asia Pacific . 11th Asian Pacific Symposium on Respiratory

- (Kyoto, Japan), 2006 . 11 .
- 8) Pawankar R : Allergic Rhinitis and Asthma the link and Evidence-based management of allergic rhinitis and co-morbid Asthma . Annual Congress of the Indian College of Allergy & Applied Immunology (Jalandhar, India), 2006 . 12 .
 - 9) Nonaka M , Ogiwara N , Pawankar R , Fukumoto A¹⁾ , Sakanushi A , Yagi T (¹⁾ Higashisaitama sogo Hospital) : IFN- and IL-4 regulate the expression of CC-chemokines (RANTES, MCP-4, TARC) . 11th Asian Research Symposium in Rhinology (Seoul , Korea), 2006 . 12 .
 - 10) Pawankar R : Indications and Safety of intranasal corticosteroids in AR and Rhinosinusitis . Indian Academy of Allergy Satellite Symposium (Bangalore), 2007 . 1 .
 - 11) Pawankar R : Practical aspects on the diagnosis and management of Anaphylaxis . 7th Congress of Indian Academy of Allergy (Kochi, India), 2007 . 1 .
 - 12) Pawankar R : Non-Allergic Rhinitis : Report of the Task Force . 65th Annual Congress of the American Academy of Allergy Asthma & Immunology (San Diego, USA), 2007 . 2 .
 - 13) Pawankar R : Immunomodulation in Immunotherapy . 8th Annual Congress of Malaysian Society of Allergy & Immunology (Penang, Malaysia), 2007 . 3 .
 - 14) Okubo K , Okamoto Y¹⁾ , Masuyama K²⁾ , Fujieda S³⁾ , Okano M⁴⁾ , Yoshida H⁵⁾ , Gotoh M (¹⁾ Chiba U , ²⁾ Yamanashi U , ³⁾ Fukui U , ⁴⁾ Okayama U , ⁵⁾ Dokkyo Med C) : Randomized placebo controlled trial of sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis (Immunotherapy, update and future) . 第18回日本アレルギー学会春季臨床大会 , 2006 . 5 .
 - 15) Pawankar R : APAACI Symposium : Versatile role of mast cells in allergic airway disease . 第23回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 , 2006 . 6 .
 - 16) Pawankar R : International session : Matrix metalloproteinases in allergic airway disease . 第45回日本鼻科学会 , 2006 . 9 .
 - 17) 後藤 穰 , 大久保公裕 , 島田健一 , 奥田 稔 : 花粉症に対する舌下免疫療法・液剤 (耳鼻咽喉科領域における免疫寛容・減感作療法の最前線) . 第55回日本アレルギー学会総会 , 2005 . 10 .
 - 18) 野中 学 : 好酸球性副鼻腔炎の治療 (好酸球性中耳炎・副鼻腔炎の診断と治療) . 第107回日本耳鼻咽喉科学会総会 , 2006 . 5 .
 - 19) 大久保公裕 : 鼻アレルギー・副鼻腔炎の難治化要因とその対策 (アレルギー疾患の難治化要因とその対策) . 第23回日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会 , 2006 . 6 .
 - 20) 大久保公裕 : スギ花粉症と環境 (アレルギー・花粉症・シックハウス症候群) . 衛生薬学・環境トキシコロジーフォーラム2006 , 2006 . 10 .
 - 21) 後藤 穰 , 大久保公裕 , 島田健一 , 奥田 稔 : スギ花粉症に対する舌下免疫療法の2重盲検比較試験 . 第56回日本アレルギー学会 , 2006 . 10 .
 - 22) 大久保公裕 : スギ花粉症に対する舌下免疫療法 (小児アレルギー疾患における免疫調節療法の展望) . 第43回日本小児アレルギー学会 , 2006 . 11 .
 - 23) 大久保公裕 , 後藤 穰 : アレルギー疾患に対する免疫療法 (鼻アレルギー : 病態解明と治療の進歩) . 第56回日本アレルギー学会 , 2006 . 11 .
 - 24) 野中 学 , 福元 晃¹⁾ , 荻原 望 , Pawankar R , 酒主敦子 , 八木聰明 (¹⁾ 東埼玉総合病院耳鼻咽喉科) : Toll like receptor リガンドとIFN- , IL-4 刺激による鼻茸線維芽細胞からのRANTES , MCP-4 産生 . 第56回日本アレルギー学会秋季学術大会 , 2006 . 11 .
- (6) パネルディスカッション :
- 1) Pawankar R : Update on pathomechanisms of nasal polyps and CRS . ERS and International Symposium on

Allergy & Infection of the Nose (Tampere, Finland), 2006 . 6 .

2) 三枝英人：小児におけるGERDによる耳鼻咽喉科領域の症状．第9回胃食道逆流（GERD）と咽喉頭疾患研究会，2006 . 6 .

3) 三枝英人：慢性咳嗽と各科の対応.耳鼻咽喉科．第171回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会学術講演会，2006 . 6 .

(7) セミナー：

1) 後藤 穰：鼻アレルギーの治療戦略 ロイコトリエン受容体拮抗薬を中心に．千葉アレルギー・ロイコトリエン研究会2005，2005 . 6 .

2) 後藤 穰：スギ花粉症における初期療法の検証．第7回 Nasal Allergy Meeting 学術集会，2005 . 12 .

3) 後藤 穰：早めの花粉症対策について．日本アレルギー協会関東支部千葉ブロック東地区 市民公開講座，2006 . 2 .

4) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎（眼科と他科のインタラクション アレルギー炎症 鼻粘膜と結膜の違いを探る）. 第110回日本眼科学会，2006 . 4 .

5) 大久保公裕：小児アレルギー性鼻炎における最近の話題．第39回日本小児呼吸器疾患学会，2006 . 11 .

(8) 一般講演：

1) Yokoshima K , Nakamizo M , Ozu C , Shimada Ken-ichi , Yagi T : Significance of preserving the parathyroid glands in total pharyngo-laryngectomy . The 11th Japa-Korea jyoit meeting of Otorhinolaryngology-Head and neck surgery (Busan Korea), 2006 . 4 .

2) Ikezono T , Shindo S , Ishizaki M , Li L , Tomiyama S , Takumida M , Pawankar R , Watanabe A , Saito A , Yagi T : Expression of cochlin in the vestibular organ of rats . The 11th Japa-Korea jyoit meeting of Otorhinolaryngology-Head and neck surgery (Busan Korea), 2006 . 4 .

3) Pawankar R , Mori S , Ozu C , Takizawa R , Nonaka M , Yagi T : Differential expression of MMP-2 and 9 in nasal polyps and AR . The 11th Japa-Korea jyoit meeting of Otorhinolaryngology-Head and neck surgery (Busan Korea), 2006 . 4 .

4) Aoyagi M , Koizumi Y , Kimura M , Sugizaki K , Yagi T : 3D analysis of ocular counter-rolling using binocular recording camera . 24th Barany international congress (Uppusala, Sweden), 2006 . 6 .

5) Shindo S , Ikezono T , Ishizaki M¹⁾ , Takumida M²⁾ , Pawankar R , Saito A , Yagi T (¹⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School, Tokyo, Japan , ²⁾ Department of otorhinolaryngology, University of Hiroshima, Hiroshima, Japan): Developmental expression of cochlin in the inner ear of the rats . 24th Barany international congress (Uppusala, Sweden), 2006 . 6 .

6) Aoyagi M , Koizumi Y , Kimura M , Sugizaki K , Yagi T : 3D analysis of ocular counter-rolling using binocular recording camera . The 2nd SNU/NMS joint meeting in ORL-HNS (Seoul, Korea), 2006 . 6 .

7) Shindo S , Ikezono T , Li L , Yagi T : Spatiotemporal expression of cochlin in the inner ear of rats . The 2nd SNU/NMS joint meeting in ORL-HNS (Seoul, Korea), 2006 . 6 .

8) Takizawa R , Pawankar R , Yagi T : Respiratory Syncytial Virus (RSV) infection inhibits lung eosinophilia, but induces profound eosinophil degranulation in allergic mice . The 2nd SNU/NMS joint meeting in ORL-HNS (Seoul, Korea), 2006 . 6 .

9) Nakamizo M , Yokoshima K , Shimada Ken-ichi , Ozu C , Yagi T : Mediastinal surgery for head and neck cancer : technique and pitfalls in mediastinal tracheostoma plasty and pharyngo-esophageal reconstruction . The 2nd SNU/NMS joint meeting in ORL-HNS (Seoul, Korea), 2006 . 6 .

10) Tang H¹⁾ , Fujita T¹⁾ , Habe K²⁾ , Okubo K , Hashiguchi K²⁾ , Ishikawa T³⁾ , Okuda M (¹⁾ Shinryo Reinetsu , ²⁾ Tokyo Clinical Pharmacology , ³⁾ Kumamoto U): Development of an artificial exposure chamber system using Japanese cedar pollen . XXV Congress of the European Academy of Allergology and Clinical Immunol-

- ogy (Vienna, Austria), 2006 . 6 .
- 11) Hashiguchi K¹⁾, Tang H²⁾, Fujita T²⁾, Tsubaki S¹⁾, Fujita M¹⁾, Koshino T¹⁾, Suematsu K¹⁾, Okubo K (¹⁾ Tokyo Clin Pharmacology , ²⁾ Shinryo Reinetsu): Preliminary study on Japanese cedar pollinosis in an artificial exposure chamber (OHIO Chamber). XXV Congress of the European Academy of Allergology and Clinical Immunology (Vienna, Austria), 2006 . 6 .
 - 12) Okubo K , Gotoh M , Okamoto Y¹⁾ , Masuyama K²⁾ , Fujieda S³⁾ , Okano M⁴⁾ , Yoshida H⁵⁾ (¹⁾ Chiba U , ²⁾ Yamanashi U , ³⁾ Fukui U , ⁴⁾ Okayama U , ⁵⁾ Dokkyo Med C): Randomized placebo controlled trial of sublingual immunotherapy for Japanese cedar pollinosis . The 11th Japa-Korea joint meeting of Otorhinolaryngology-Head and neck surgery (Usan, Korea), 2006 . 6 .
 - 13) Watanabe Ken-ichi , Shunta I , Jinnouchi K , Yagi T : Age-related apoptotic change in the cochlear lateral wall of mice . Workshop of Inner Ear Biology (Montpellier, France), 2006 . 9 .
 - 14) Pawankar R : RANTES induces mast cell migration in allergic rhinitis . 11th Asian Reserch Symposium in Rhinology (Seoul, Korea), 2006 . 12 .
 - 15) Takizawa R , Pawankar R , Garofalo R (¹⁾ Texas Med Univ, Galveston, USA): Inflammatory gene expression in the airways and severity of illness in respiratory syncytial virus (RSV) infected allergic mice . 11th Asian Reserch Symposium in Rhinology (Seoul, Korea), 2006 . 12 .
 - 16) Ozu C , Pawankar R , Takizawa R , Yamagishi S , Nonaka M , Yagi T : Mechanisms of mast cell migration into the allergic nasal epithelium . 11th Asian Reserch Symposium in Rhinology (Seoul, Korea), 2006 . 12 .
 - 17) Fukumoto A¹⁾ , Nonaka M , Ogihara N , Sakanushi A , Pawankar R , Yagi T (¹⁾ Higashisaitama Sogo Hospital): TARC Production by interleukin-4 and lipopolysaccharide in airway fibroblasts . 11th Asian Research Symposium in Rhinology (Seoul, Korea), 2006 . 12 .
 - 18) 指原紀宏¹⁾, 末木奈津子¹⁾, 池上秀二¹⁾, 竹友直生¹⁾, 山地健人¹⁾, 紀 光助, 後藤 穰, 大久保公裕 (¹⁾ 明治乳業): Lactobacillus gasseri OLL2809 の好酸球増多抑制効果の検討 . 第56回日本アレルギー学会, 2006 . 11 .
 - 19) 後藤 穰, 大久保公裕, 島田健一, 奥田 稔: スギ花粉症に対する舌下免疫療法 . 第24回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 2006 . 3 .
 - 20) 島田健一, 横島一彦, 中溝宗永, 八木聡明: 喉頭癌 stageIV の検討 . 第29回日本頭頸部癌学会, 2005 . 6 .
 - 21) 島田健一, 小津千佳, 粉川隆行, 横島一彦, 中溝宗永, 八木聡明: 早期声門癌放射線治療の救済手術 . 第16回日本頭頸部外科学会, 2006 . 1 .
 - 22) 松田 帆, 後藤 穰, 島田健一, 横山有希子, 酒主敦子, 馬場俊吉: 進行性感音難聴と顔面神経麻痺で発症した髄膜癌腫症の1症例 . 日本耳鼻咽喉科学会千葉県地方部会, 2006 . 1 .
 - 23) 三枝英人, 中村 毅, 愛野威一郎, 小町太郎, 粉川隆行, 松岡智治: 自然発症の披裂軟骨脱臼症例の臨床的検討 . 第18回日本喉頭科学会, 2006 . 4 .
 - 24) 中村 毅, 三枝英人, 中溝宗永, 愛野威一郎, 粉川隆行, 松岡智治: 放射線晩期合併症による進行性嚥下障害の嚥下動態の検討 . 第18回日本喉頭科学会, 2006 . 4 .
 - 25) 島田健一, 中溝宗永, 横島一彦, 小津千佳, 稲井俊太, 酒主敦子, 粉川隆行, 八木聡明: 喉頭扁平上皮癌 Stage IV 症例の検討 . 第107回日本耳鼻咽喉科学会, 2006 . 5 .
 - 26) 橋口一弘¹⁾, 湯 懐鵬²⁾, 藤田俊夫¹⁾, 椿 茂和¹⁾, 藤田雅巳²⁾, 越野 健¹⁾, 末松潔親¹⁾, 大久保公裕 (¹⁾ 東京臨床薬理 , ²⁾ 新菱冷熱): 花粉症調査研究施設 (OHIO Chamber) を使用した花粉症状発現に関する探索的研究 . 第18回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2006 . 5 .
 - 27) 湯 懐鵬¹⁾, 藤田俊夫¹⁾, 波部和弘²⁾, 大久保公裕, 橋口一弘²⁾, 石川 哮³⁾ (¹⁾ 新菱冷熱 , ²⁾ 東京臨床薬理 , ³⁾ 熊本大学): スギ花粉を用いた暴露システムの開発 . 第18回日本アレルギー学会春季臨床大会, 2006 . 5 .
 - 28) 小泉康雄: 第二眼位への眼球運動に回旋運動は伴わないか . 第107回日本耳鼻咽喉科学会, 2006 . 5 .

- 29) 島田健一, 中溝宗永, 横島一彦: 喉頭癌 Stage IV 症例の解析. 第30回日本頭頸部癌学会 Prof. Shaha 講演会, 2006. 6.
- 30) 中溝宗永, 横島一彦, 島田健一, 斉藤明彦, 酒主敦子, 稲井俊太, 粉川隆行, 八木聡明, 牧野浩司¹⁾, 野村務¹⁾, 宮下正夫¹⁾(¹⁾外科学第1): 下咽頭・食道同時再建における再建術式の検討. 第30回日本頭頸部癌学会, 2006. 6.
- 31) 横島一彦, 中溝宗永, 小津千佳, 稲井俊太, 島田健一, 酒主敦子, 斉藤明彦, 粉川隆行, 八木聡明: 両側頸部郭清術を含む喉頭下咽頭癌手術における副甲状腺温存術式の成功率. 第30回日本頭頸部癌学会, 2006. 6.
- 32) 稲井俊太, 中溝宗永, 横島一彦, 島田健一, 斉藤明彦, 小津千佳, 酒主敦子, 粉川隆行, 八木聡明: 下咽頭癌の頸部リンパ節転移からみた治療成績. 第30回日本頭頸部癌学会, 2006. 6.
- 33) 酒主敦子, 中溝宗永, 横島一彦, 小津千佳, 稲井俊太, 島田健一, 斉藤明彦, 粉川隆行, 陣内 賢, 富山俊一, 八木聡明: 耳下腺腫瘍手術症例の検討. 第30回日本頭頸部癌学会, 2006. 6.
- 34) 中澤裕子, 横島一彦, 稲井俊太, 中溝宗永, 八木聡明: 顎下部リンパ節腫脹で発見された進行胃癌の1症例. 第172回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会, 2006. 7.
- 35) 関根久遠, 池園哲郎, 松田 帆, 中澤裕子, 新藤 晋, 李 麗淑, 小泉康雄, 齋藤明彦, 馬場俊吉, 八木聡明: 内リンパ水腫疾患と診断されていた慢性外リンパ瘻の2症例. 第6回耳鳴りと難聴の研究会, 2006. 7.
- 36) 草間 薫, 三枝英人, 中澤裕子, 中村 毅, 愛野威一郎, 小泉康雄, 松岡智治, 劉 愛民, 杉崎祐一: 特発性声帯中央部癒着症の1例. 第172回日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会学術講演会, 2006. 7.
- 37) 渡邊健一, 陣内 賢, 稲井俊太, 大久保公裕, 富山俊一, 八木聡明: 内リンパ水腫モデル動物における蝸牛側壁のアポトーシス. 自律神経研究会, 2006. 8.
- 38) 滝沢竜太, Pawankar R, Garofalo R¹⁾(¹⁾テキサス大小児科): RSウイルス感染アレルギーマウスの病状と気道における炎症性遺伝子発現の検討. 第45回日本鼻科学会, 2006. 9.
- 39) 野中 学, 酒主敦子, 荻原 望, Pawankar R, 福元 晃¹⁾, 八木聡明(¹⁾東埼玉病院): 好酸球性副鼻腔炎に対する抗ロイコトリエン薬とステロイド点鼻の併用効果. 第45回日本鼻科学会, 2006. 9.
- 40) 福元 晃¹⁾, 野中 学, 荻原 望, Pawankar R, 酒主敦子, 八木聡明(¹⁾東埼玉病院): Toll like receptor (TLR) リガンドと IFN- γ , IL-4 刺激による鼻茸線維芽細胞からの RANTES, MCP-4 産生. 第45回日本鼻科学会, 2006. 9.
- 41) 小津千佳, Pawankar R, 山岸茂夫, 滝沢竜太, 野中 学, 八木聡明: アレルギー性鼻炎患者の鼻粘膜上皮層におけるマスト細胞の遊走機序. 第45回日本鼻科学会, 2006. 9.
- 42) 福元 晃¹⁾, 野中 学, 荻原 望, Pawankar R, 酒主敦子, 八木聡明(¹⁾東埼玉総合病院耳鼻咽喉科): Toll like receptor (TLR) リガンドと IFN- γ , IL-4 刺激による鼻茸線維芽細胞からの RANTES, MCP-4 産生. 第45回日本鼻科学会総会, 2006. 9.
- 43) 新藤 晋, 池園哲郎, 稲井俊太, 八木聡明: 迷路気腫を伴った術後性外リンパ瘻の1例. 日本耳科学会, 2006. 10.
- 44) 杉崎一樹, 新藤 晋, 池園 哲郎, 八木聡明: 高度の低天蓋を伴った真珠腫性中耳炎の1例. 第16回日本耳科学会, 2006. 10.
- 45) 島田健一, 中溝宗永, 横島一彦, 粉川隆行, 小津千佳, 愛野威一郎, 三枝英人, 後藤 穰, 八木聡明: 喉頭癌患者の死因についての解析. 第58回日本気管食道科学会, 2006. 10.
- 46) 池園哲郎, 新藤 晋, 相田瑞恵, 李 麗淑, 関根久遠, 稲井俊太, 八木聡明: アブミ骨奇形に伴う小児の変動性難聴. 第16回日本耳科学会, 2006. 10.
- 47) 荒井真木¹⁾, 水田邦博¹⁾, 池園哲郎, 橋本泰幸¹⁾, 岩崎 聡¹⁾, 渡邊高弘¹⁾, 峯田周幸¹⁾(¹⁾浜松医大): Cochlin と Collagen type II のラット半規管での局在. 第16回日本耳科学会, 2006. 10.
- 48) 中村 毅, 三枝英人, 愛野威一郎¹⁾, 小町太郎²⁾, 粉川隆行²⁾, 松岡智治³⁾(¹⁾東京臨海病院耳鼻咽喉科, ²⁾北村山公立病院耳鼻咽喉科, ³⁾高島平のど・はな・みみクリニック): 外転型痙攣性発声障害に芍薬甘草湯が有

- 効であった1例．第22回日本耳鼻咽喉科漢方研究会，2006．10．
- 49) 三枝英人，中村 毅，愛野威一郎，小町太郎，粉川隆行：両側声帯外転障害を来した Creutzfeldt-Jacob disease．第58回日本気管食道科学会，2006．10．
- 50) 渡邊健一，麻生貞光¹⁾，稲井俊太，馬場俊吉，八木聰明^(¹⁾老人病研究所生化学部門)：シスプラチンによる前庭障害とアポトーシスの抑制．第16回日本耳科学会，2006．10．
- 51) 富山俊一：自己免疫病因を示唆した反復する急性低音障害型感音難聴症例．第16回 日本耳科学会，2006．10．
- 52) 野村 務¹⁾，宮下正夫¹⁾，牧野浩司¹⁾，丸山 弘¹⁾，萩原信敏¹⁾，高橋 健¹⁾，赤城一郎¹⁾，横島一彦，中溝宗永，笹島耕二¹⁾，山下精彦¹⁾，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1)：頸部食道癌，下咽頭癌に対する術式としての縦隔鏡補助下食道切除術と延長胃管作製．第68回日本臨床外科学会，2006．11．
- 53) 池園哲郎，新藤 晋，李 麗淑，関根久遠，齋藤明彦，八木聰明：前庭における Cochlin 発現．第65回めまい平衡医学会，2006．11．
- 54) 関根久遠，池園哲郎，李 麗淑，新藤 晋，八木聰明：Cochlin mRNA の解析．第65回めまい平衡医学会，2006．11．
- 55) 須甲松信¹⁾，大田 健²⁾，長谷川真紀³⁾，大久保公裕，海老澤元宏³⁾，朝比奈昭彦³⁾(¹⁾東京芸大保健，²⁾帝京大内科，³⁾相模原病院臨床研究センター)：実地医家向けアレルギー研修会における「アレルギー診療ガイドライン」の認知度と利用度に関する実態調査．第56回日本アレルギー学会，2006．11．
- 56) 小泉康雄，青柳美生，杉崎一樹，八木聰明：高速度カメラシステムによるリスティングの法則の検証．第65回日本めまい平衡医学会，2006．11．
- 57) 萩原 望，小津千佳，齋藤明彦，野中 学，富山俊一：慢性皮膚粘膜カンジダ症の1症例．第174回 日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会，2007．1．
- 58) 中澤裕子，横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，島田健一，粉川隆行，八木聰明：顎下腺神経鞘腫の1例．第17回日本頭頸部外科学会，2007．2．
- 59) 中溝宗永，横島一彦，島田健一，齋藤明彦，稲井俊太，酒主敦子，中澤裕子，八木聰明：下咽頭・頸部食道癌の切除範囲と遊離空腸による再建術式．第17回日本頭頸部外科学会，2007．2．
- 60) 稲井俊太，中溝宗永，横島一彦，島田健一，酒主敦子，粉川隆行，八木聰明：喉頭全摘後の下咽頭狭窄への対応．第17回日本頭頸部外科学会，2007．2．
- 61) 横島一彦，中溝宗永，稲井俊太，島田健一，酒主敦子，齋藤明彦，粉川隆行，八木聰明：喉頭・下咽頭進行癌手術における甲状腺温存の意義．第17回日本頭頸部外科学会，2007．2．
- 62) 中村 毅，三枝英人，愛野威一郎¹⁾，小町太郎，恩田宗彦²⁾，内藤善哉²⁾，八木聰明^(¹⁾東京臨海病院耳鼻咽喉科，²⁾日本医科大学病理学第2)：“バルーンによる食道入口部拡張療法”による食道入口部狭窄を来した1例：誤った治療法の選択は患者を苦しめる．第30回日本嚥下医学会，2007．2．
- 63) 澤谷 篤¹⁾，山本正浩¹⁾，伊藤敬雄¹⁾，大久保善朗¹⁾，三枝英人，中村 毅，愛野威一郎，小町太郎^(¹⁾日本医科大学精神医学)：遅発性ジストニアによる特異な嚥下障害の1例とその治療経験．第30回日本嚥下医学会，2007．2．
- 64) 中村 毅，三枝英人，中溝宗永，松岡智治，小町太郎，粉川隆行，横島一彦，愛野威一郎：上咽頭癌放射線・化学療法後，晩期に発症した末梢知覚が優位に障害された重度嚥下障害の1例．第19回日本喉頭科学会，2007．3．
- 65) 三枝英人，田沼久美子¹⁾，田沼 裕²⁾(¹⁾日本医科大学解剖学第2，²⁾帝京大学解剖学)：咽頭の神経支配についての比較解剖学的研究．第112回日本解剖学会，2007．3．
- 66) 富山俊一，齋藤明彦，萩原 望，小津千佳，野中 学，酒主敦子，島田健一：急性低音障害型感音難聴における68kDa内耳自己抗体の関与．第25回 日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，2007．3．

15．泌尿器科学講座

[付属病院泌尿器科]

研究概要

臨床研究

1. 従来開腹で行っていた手術の全てを腹腔鏡下で行っている。特に、腹腔鏡下前立腺全摘除術は本邦でも先端をいっている。開腹術との比較検討や術後尿失禁を予防するための尖部処理法についての研究を行っている。
2. 前立腺癌診断では、PSA 及びその関連parameterによる早期前立腺癌と良性疾患との血清学的鑑別診断、超音波パワードブラ法、超音波 Fusion 3D 法等の先端画像解析技術を用いた研究を行っている。
3. 前立腺全摘除術から得られた前立腺の全割全包埋標本を作製し、領域別癌の好発部位、進展形式を解析し、見逃しの少ない生検法の開発等、臨床応用している。
4. 局所進行性前立腺癌に対しては、術前ホルモン化学療法を行い、根治の可能性を模索している。
5. 限局性前立腺癌に対する低侵襲治療である密封小線源療法を2006年4月から開始した。
6. 膀胱癌、上部尿路腫瘍、腎癌の治療においては、特に、quality of lifeを重視し、最先端技術を駆使し臓器温存を行っている。

浸潤性膀胱癌に対しては、抗癌剤の動注化学療法や、さらに、放射線医学講座汲田教授との共同研究として行っている「閉鎖循環下抗癌剤灌流療法システム」により膀胱温存を試みている。

小径腎細胞癌に対しては、腹腔鏡下腎部分切除術により、低侵襲に腎温存を行っている。

7. Perfusion CT を世界に先駆け腎癌組織型の術前鑑別診断に対し応用している。
8. 男性学にも力を入れており、勃起機能検査、薬物療法、男性更年期に関する研究を行っている。

基礎研究

1. 癌の「低酸素応答」について、泌尿生殖器腫瘍領域での先駆者的研究。
2. 生体内微量金属メタロチオネインと制癌剤耐性および腎機能保護の研究。
3. 老人病研究所分子生物学部門のご指導のもと、「膀胱癌、前立腺癌における染色体・遺伝子異常の解明」に関する研究。
4. 前立腺炎に対する免疫組織学的研究。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Chen H¹⁾, Tsuboi N, Nishimura T, Saito Y, Kondo Y, Kimura G, Sugisaki yuichi²⁾ (¹⁾ Dept. of Urology, Second Hospital, ²⁾ Division of Surgical Pathology, Nippon Medical School Hospital): Significance of noninvasive diagnosis of prostate cancer with cytologic examination of prostatic fluid. J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (3): 129-135 .

(2) 綜説：

- 1) 木村 剛, 西村泰司：A. 一般臨床検査法．診察法 【陰嚢内容の診察】4. 陰嚢内容の診察のポイントと注意点について教えて下さい．郡健二郎 編．“ここが聞きたい：泌尿器科検査法の理解と実際”．臨床泌尿器科 2006 ; 60 (4): 30-34 .
- 2) 西村泰司, 山本保博¹⁾(¹⁾高度救急救急センター): 救急的尿路造影．外科治療 2006 ; 94 (増刊号): 625-631 .
- 3) 西村泰司：経皮的腎砕石術．臨床泌尿器科 2006 ; 60 (9): 619-624 .

4) 木村 剛：特集 「血尿と泌尿器癌 最近のトピックス」 ひとくちメモ 腎癌の免疫治療の現状と今後．日本医師会雑誌 2007；135(11)：2358-2358．

(3) 症例報告：

- 1) 根本 勺¹⁾，松沢一郎，木村 剛，西村泰司(¹⁾北村山公立病院)：G-CSFおよびPTHrPを産生し下大静脈腫瘍塞栓を合併した腎盂原発扁平上皮癌．日本泌尿器科学会雑誌 2006；97(7)：852-855．
- 2) 富田祐司¹⁾，根本 勺¹⁾(¹⁾北村山公立病院泌尿器科)：肉芽腫性精巣炎の1例．泌尿器科紀要 2006；52(10)：817-818．
- 3) 高橋 亮，木村 剛，松沢一郎，鈴木康友，濱崎 務，齋藤友香，木全亮二，近藤幸尋，吉田和弘，西村泰司：3次内分泌療法の抗アンドロゲン剤として，酢酸クロルマジノンが有効であった進行性前立腺癌の1例．泌尿器外科 2006；19(12)：1463-1468．
- 4) 根本 勺¹⁾，木村 剛，清水宏之²⁾(¹⁾北村山公立病院泌尿器科，²⁾はせがわ病院泌尿器科)：腎温存術後に腎細胞癌の精巣転移および局所再発をきたした von Hippel-LINDAU病の1例．泌尿紀要 2007；53(3)：163-165．
- 5) 根本 勺¹⁾，木村 剛，清水宏之²⁾，浜崎 務，鈴木康友，松沢一郎，秋元成太²⁾，西村泰司(¹⁾北村山公立病院泌尿器科，²⁾はせがわ病院泌尿器科)：北村山公立病院におけるCAB療法の治療成績．泌尿器外科 2007；20(3)：303-307．

著 書

- 1) 西村泰司：尿路結石症診療ガイドライン(2002)．今日の治療方針(山口 徹，北原光夫，福井次矢)，2007；pp1577-1580，医学書院．
- 2) 近藤幸尋，西村泰司：〔分担〕腹腔鏡下前立腺全摘除術．泌尿器疾患治療の新しいストラテジー，2007；pp89-94，メジカルビュー社．

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 木村 剛：PSA eraにおける前立腺細領域別癌の発生頻度，進展形式とその予後．第8回千葉県東葛地区前立腺研究会，2006．6．
- 2) 木村 剛：進行性腎細胞癌に対するサイトカイン療法の現状と今後：IL-2療法を中心として：+分子標的治療 update．第3回広島腎癌免疫療法研究会，2006．6．
- 3) 木村 剛：お父さんのための前立腺のお話：最近おしっこが出にくくありませんか？：前立腺癌の治療．市民公開講座，2006．10．
- 4) 木村 剛：1．前立腺癌の領域別発生頻度，発生部位別進展経路とその予後 2．Stage C前立腺癌に対する術前補助ホルモン化学療法．第16回泌尿器癌懇話会，2007．3．
- 5) 西村泰司：TURPの教育法．福岡県泌尿器科医会，2007．3．

(2) シンポジウム：

- 1) 近藤幸尋，清水宏之¹⁾，沖 守¹⁾，長谷川潤¹⁾，高橋 亮，西村泰司(¹⁾はせがわ病院泌尿器科)：ESWL目的患者における尿路腫瘍合併(ESWLの現状と功罪)．第71回日本泌尿器科学会東部総会，2006．10．

(3) パネルディスカッション：

- 1) 近藤幸尋，松澤一郎，濱崎 務，西村泰司：腹腔鏡下前立腺全摘除術における制癌効果と低侵襲性(骨盤内における内視鏡外科解剖のコンセンサス：外科・泌尿器科・産婦人科)．第19回日本内視鏡外科学会総会，2006．12．

(4) ワークショップ:

- 1) Kondo Y, Hamasaki T, Matsuzawa I, Nishimura T: Laparoscopic Radical Prostatectomy: Outcome of Transperitoneal Approach (Laparoscopic Radical Prostatectomy: Outcome of Each Approach (English Session)). 第94回日本泌尿器科学会総会, 2006. 4.
- 2) 大澤秀一¹⁾, 松沢一郎, 木全亮二, 西村泰司⁽¹⁾平成立石病院泌尿器科): 珊瑚状結石に対するESWL単独治療は積極的治療の第一選択となりうるか?. 第20回日本Endourology&ESWL学会総会, 2006. 10.
- 3) 近藤幸尋, 松沢一郎, 濱崎 務, 鈴木康友, 斎藤友香, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司: 前立腺尖部剥離と尿道進展後の切除による制癌効果と尿禁制を共に備えた腹腔鏡下前立腺全摘除術(腹腔鏡下前立腺全摘除術: 尿禁制と制癌をと共に備えた手術の工夫). 第20回日本Endourology&ESWL学会, 2006. 10.

(5) 一般講演:

- 1) 木村 剛, 木全亮二, 浜崎 務, 鈴木康友, 近藤幸尋, 清水宏之, 斎藤友香, 高橋 亮, 吉田和弘, 西村泰司: 前立腺癌の細領域別発生頻度とその進展形式, 予後. 第95回日本泌尿器科学会総会, 2006. 4.
- 2) 富田祐司¹⁾, 根本 勺¹⁾, 松沢一郎, 清水宏之²⁾, 西村泰司⁽¹⁾北村山公立病院泌尿器科, ²⁾はせがわ病院): 膀胱結石54例の臨床的検討. 第94回日本泌尿器科学会総会, 2006. 4.
- 3) 根本 勺¹⁾, 富田祐司¹⁾, 清水宏之²⁾, 松沢一郎, 西村泰司⁽¹⁾北村山公立病院泌尿器科, ²⁾はせがわ病院): 北村山公立病院における表在性膀胱癌の治療成績. 第234回日本泌尿器科学会東北地方会, 2006. 4.
- 4) 川添 久¹⁾, 内藤 整¹⁾, 柴崎智宏¹⁾, 川村裕子¹⁾, 山辺拓也¹⁾, 大地 宏¹⁾, 梶沼 陽¹⁾, 武藤明紀¹⁾, ピリームウラムジル¹⁾, 加藤智幸¹⁾, 長岡 明¹⁾, 富田義彦¹⁾, 富田祐司²⁾, 根本 勺²⁾(¹⁾山形大学医学部代謝再生制御学講座腎泌尿器外科学分野, ²⁾北村山公立病院泌尿器科): 放射線療法が奏功した後腹膜脂肪肉腫の1例. 第234回日本泌尿器科学会東北地方会, 2006. 4.
- 5) 近藤幸尋, 濱崎 務, 松沢一郎, 鈴木康友, 斎藤友香, 高橋 亮, 木村 剛, 吉田和弘, 西村泰司: 腹腔鏡下前立腺全摘除術における病理学的治療成績向上と尖部処理の工夫. 第94回日本泌尿器科学会総会, 2006. 4.
- 6) 富田祐司¹⁾, 根本 勺¹⁾(¹⁾北村山公立病院泌尿器科): 肉芽腫性精巣炎の1例. 第86回山形泌尿器科研究会, 2006. 6.
- 7) 木村 剛, 木全亮二, 斎藤友香, 高橋 亮, 吉田和弘, 西村泰司: 経直腸的前立腺移行領域生検は癌検出率を改善するか?: Gray zone症例における検討. 第71回日本泌尿器科学会東部総会, 2006. 10.
- 8) 根本 勺¹⁾, 木村 剛, 清水宏之²⁾, 濱崎 務, 鈴木康友, 松沢一郎, 西村泰司, 秋元成太⁽¹⁾北村山公立病院, ²⁾はせがわ病院): 北村山公立病院におけるCAB療法の治療成績. 第71回日本泌尿器科学会東部総会, 2006. 10.
- 9) 木全亮二¹⁾, 富田祐司¹⁾, 根本 勺²⁾(¹⁾北村山公立病院泌尿器科, ²⁾国立病院機構独立行政法人函館病院泌尿器科): ホルモン抵抗性前立腺癌に対する低容量ドセタキセルの高齢者での使用経験. 第87回山形泌尿器科研究会, 2006. 11.
- 10) 鈴木康友, 近藤幸尋, 原俊太郎¹⁾, 丸山隆幸²⁾, 成宮 周³⁾, 工藤一郎¹⁾, 西村泰司⁽¹⁾昭和大学薬学部衛生化学, ²⁾小野薬品工業, ³⁾京都大学医学部薬理学): 膀胱癌の発症・進展におけるプロスタグランジンE2受容体EP1の発現と機能の解析. 第16回泌尿器分子細胞研究会, 2007. 2.

(6) ポスター:

- 1) 鈴木康友: 膀胱癌の発症・進展におけるプロスタグランジンE2受容体EP1の発現と機能の解析. 第16回泌尿器科分子・細胞研究会, 2007. 2.

(7) 展示:

- 1) 大澤秀一¹⁾, 矢野正雄²⁾, 岩村太郎²⁾, 小平裕造²⁾, 星野弘樹²⁾, 猪口正孝³⁾, 西村泰司⁽¹⁾平成立石病院泌尿器科, ²⁾同外科, ³⁾南町田病院外科): 転倒を契機に発症した腎鑄型結石による後腹膜腫瘍. 第31回日本外科学系連合学会, 2006. 6.

[武蔵小杉病院泌尿器科]

研究概要

当科では尿路生殖器腫瘍疾患をはじめ尿路結石，排尿障害を中心に診療・研究を行っているが，特筆すべきものを以下に示す．

1) 浸潤性膀胱癌に対し臨床的には根治的経尿道的腫瘍切除術と骨盤内動脈化学療法を行い，膀胱温存の可能性について検討している．基礎的には表在性膀胱癌の治療・再発予防に用いられる塩酸ピラルピシンの癌細胞内への取り込みの検討より癌と正常組織の内視鏡下鑑別診断に臨床応用している．さらにブタを用いた基礎実験を行い，細径プローブ超音波による膀胱の正常構造を同定し，今までの画像診断では困難であった正確な膀胱癌の深達度診断に応用すると共に，細径プローブ超音波と内視鏡が一体となった超音波膀胱鏡を開発し，臨床応用している．

2) 前立腺癌の正診率を高めるために超音波パワードブラ法を採用している．局所進行性前立腺癌に対しては，ネオアジュバント療法としてホルモンと化学療法を併用し根治性の向上を図っている．基礎的には前立腺操作におけるPSA molecular formの変動を解析し悪性と良性の鑑別が可能か否か検討を加えている．

3) 排尿障害に対して，神経因性膀胱の場合は薬物療法を中心に治療成績を検討している．前立腺肥大症による場合には，重篤合併症をもつ者に対する永久留置型尿道ステントの有用性を検討するとともに，基礎的には経尿道的切除術の際の出血を調べ臨床面での安全性向上に役立てている．

4) 腎結石ならびに尿管結石に対して，体外衝撃波結石破碎術および内視鏡手術による臨床的検討を行っている．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kato T¹⁾, Takagi H¹⁾, Ogaki K, Oba S¹⁾, Umemoto T¹⁾(¹⁾ Department of Cardiovascular Surgery, Shizuoka Medical Center): Giant renal aneurysm with arteriovenous fistula . Heart and vessels 2006 ; 21 (4): 270-272 .
- 2) 内木場拓史：尿道stent in stent . 臨床泌尿器科 2006 ; 60 (5): 339-339 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 新井 悟¹⁾，小黒辰夫¹⁾，内木場拓史，大秋美治¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院病理部)：尿路に発育した肝様腺癌の腫瘍血管の微小・超微形態学的検索．第38回日本臨床分子形態学会総会，2006．9．
- 2) 佐藤三洋，大垣憲司，岡 史篤，堀内和孝：嫌色素腎細胞癌による腎自然破裂の1例．第71回日本泌尿器科学会東部総会，2006．10．

[多摩永山病院泌尿器科]

研究概要

当科は開設して18年になるが研究業績の主なもの次のようなものである．

前立腺肥大症：前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剥離切除術は1984年に開始して以来2000例を超えている．本術式は肥大腺腫を完全に切除ができる唯一の内視鏡手術である．

最近，切除を行わないで生食水を灌流液として使用し，経尿道的に腺腫を剥離し膀胱に脱落させ，これを吸引摘出する経尿道的剥離摘出術を世界に先がけて開始した．この術式を用いたPSAの研究を続けている．

前立腺癌：平岡式経尿道的前立腺剥離切除術（剥離TURP）は内腺と外腺とを確実に区別して組織を得られるとい

う特徴がある。この特徴を生かして、内腺を完全切除したあと、外腺を生検切除する平岡式剥離 TURP 法を開発した。これにより、前立腺癌偶発癌の見落としが一番少ない方法であり、外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。最近では早期前立腺癌に対して、輸血を必要としない会陰式根治的前立腺全摘除術と最近では腹腔鏡下前立腺全摘除術や鏡視下小切開（2～3横指）前立腺全摘除術を施行している。断端陽性例に対しては放射線療法を行っている。

膀胱癌：進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見をわれわれは行っている。最近、治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発と CDDP と放射線照射との併用治療を行っている。

腎細胞癌：腎腫瘍に腎血管動脈造影的に超選択的に腎腫瘍血管を24時間一時的に阻血し、インターフェロンを動注し、腫瘍壊死を起こさせる方法を行っている。3～6ヶ月後に腫瘍核出術、腎部分切除術か腎摘出術を行っている。今までの研究では、9割は阻血治療で腫瘍細胞は完全壊死が得られている。

副腎・腎腫瘍：副腎、腎腫瘍に対して腹腔鏡下摘出手術を行っている。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 平岡保紀：前立腺肥大症。year note 2007 selected articles 2006；833-842。
- 2) 平岡保紀，清水有二，阿部裕行，高橋洋文，岩本和矢，服部智任：前立腺肥大症に対する剥離 TURP による腺腫完全剥離への試み（経尿道的前立腺剥離摘出術：TUDP）Transurethral Detaching Prostatectomy（TUDP）。Jpn. J. Urol. 2007；98（1）：45-46。

著書

- 1) 平岡保紀：〔自著〕前立腺 男なら覚悟したい病気，2006；pp1-228，祥伝社。

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) Hiraoka Y：An improvement of TURP for complete and safe removal of adenoma. 18th Video Urology World Congress（Singapore），2007. 3。

(2) 一般講演：

- 1) 平岡保紀，阿部裕行，清水有二，岩本和矢，高橋洋文，服部智任：前立腺肥大症に対する剥離 TURP による腺腫完全剥離への試み（経尿道的前立腺剥離摘出術：TUDP）。第94回日本泌尿器科学会総会，2006. 4。

16. 眼科学講座

[付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩永山病院眼科]

研究概要

以下のテーマのもと、各スタッフによる研究が展開された。

「白内障手術合併症・角膜創傷治癒に関する基礎研究」(高橋)超音波白内障手術の酸化ストレスに関する研究、感染性眼内炎予防としてのオゾン水応用に関する研究が継続された。「眼免疫・再生医療の基礎研究」(堀)眼組織移植の免疫応答研究が継続され、新規のB7ファミリー分子(B7-H1, B7-H3)の機能解析と、制御性T細胞に関する研究において、それぞれ成果を報告した。あらたに、網膜の再生を目的とし、羊膜由来SP細胞移植の免疫特性の研究を開始した。眼炎症疾患の臨床研究として、眼炎症外来における強膜炎の臨床統計と治療成績の評価を行い、免疫抑制薬の点眼の有用性を示した。「眼内免疫反応の成立過程と免疫反応の修飾」(山木) Vogt-小柳-原田病の研究の他、眼内での抗原提示過程に関与すると考えられる分子群の眼内での発現を検索することにより間接的ではあるが、抗原提示過程を推測する研究に着手した。原田病、病巣部から樹立したT cell lineあるいはT cell cloneの研究ではこれらの細胞が培養網膜色素上皮に対して細胞傷害性を持っていることが示された。「網脈絡膜新生血管病変に対する内科的薬物治療法の開発」(小原澤)マウスモデルを使用して薬物の効果や安全性を調べる実験を継続して行った。「視細胞変性の原因遺伝子解析」(亀谷)網膜色素上皮に特異的発現を示すMfrpを同定したが、このMfrpと同一のmRNA上に転写されるC1qtnf5のコードする蛋白質の相互作用解析が行われた。「眼科領域の変性症の遺伝解析」(平岡)家族性滲出性硝子体網膜症、および重症未熟児網膜症の臨床検体を用いて、遺伝子変異の報告があるノリ工病遺伝子とFrizzled-4 遺伝子の解析を行っている。さらに、角膜変性症についてはTGFBI 遺伝子の解析を可能にした。

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Sato S, Matui H, Sasaki Y, Oharazawa H, Nishimura M, Adachi A, Nakazawa E, Takahashi H: The efficiency of X-ray microanalysis in low-vacuum scanning electron microscope: deposition of calcium on the surface of implanted hydrogel intraocular lens (IOL). *J Submicrosc Cytol Pathol* 2006; 36(1): 1-4.
- 2) Wang M, Yoshida A, Kawashima H, Ishizaki M, Takahashi T, Hori J: Immunogenicity and Antigenicity of allogeneic amniotic epithelial transplants grafted to the cornea, conjunctiva, and anterior chamber. *Invest Ophthalmol Vis Sci* 2006; 47(4): 1522-1532.
- 3) Hiraoka M, Abe A, Lu Y, Yang K, Han X, Gross RW, Shayman JA: Lysosomal phospholipase A2 and phospholipidosis. *Mol Cell Biol* 2006; 26(16): 6139-6148.
- 4) Takahashi H, Suzuki H, Shiwa T, Sakamoto A: Alteration of free radical development in phacoemulsification procedure by ophthalmic viscosurgical devices. *J Cataract Refract Surg* 2006; 32: 1545-1548.
- 5) Suzuki H, Takahashi H, Hori J, Hiraoka M, Igarashi T, Shiwa T: Phacoemulsification associated corneal damage evaluated by corneal volume. *Am J Ophthalmol* 2006; 142(3): 525-528.
- 6) Abe A, Hiraoka M, Shayman JA: Positional specificity of lysosomal phospholipase A2. *J Lipid Res* 2006; 47(10): 2268-2279.
- 7) Osakabe Y^{1,2)}, Yaguchi C, Miyai T²⁾, Miyata K²⁾, Mineo S¹⁾, Nakamura M³⁾, Amano S⁴⁾(¹⁾東京医大,
²⁾宮田眼科病院,³⁾東邦医大,⁴⁾東京大学): Detection of Streptococcus species by polymerase chain reaction in infectious crystalline keratopathy. *Japan Cornea* 2006; 25(10): 1227-1230.

- 8) Hori J, Wang MC, Miyashita M, Tanemoto K, Takahashi T, Takemori T, Okumura K, Yagita H, Azuma M: B7-H1-induced apoptosis as a mechanism of immune privilege of corneal allografts. *J Immunol* 2006; 177 (9): 5928-5935.
- 9) Hori J, Wang MC, Kamiya K, Takahashi H, Sakuragawa N: Immunological Characteristics of Amniotic Epithelium. *Cornea* 2006; 25 (10): 53-58.
- 10) Takahashi H, Igarashi T, Fujimoto C, Ozaki N, Ishizaki M: Immunohistochemical observation of amniotic membrane patching on a corneal alkali burn in vivo. *Jpn J Ophthalmol* 2007; 51: 3-9.
- 11) Mii S, Kim C, Matui H, Oharazawa H, Shiwa T, Takahashi H, Ohara K: Increases in central retinal artery blood flow in human following carotid artery and stellate ganglion irradiation with 0.6-1.6 micron irradiation. *J Nippon Med Sch* 2007; 74 (1): 23-29.
- 12) Oharazawa H, Suzuki H, Shibata K, Yamada Y, Matui H, Shiwa T, Takahashi H, Ohara K: Quantitative analysis for posterior capsule opacification of hydrophobic acrylic intraocular lenses. *J Nippon Med Sch* 2007; 74 (1): 45-49.
- 13) Oharazawa H, Suzuki H, Matsui H, Shiwa T, Takahashi H, Ohara K: Two cases of true exfoliation of lens capsule after cataract surgery. *J Nippon Med Sch* 2007; 74 (1): 55-60.
- 14) 川村邦彦, 堀 純子, 廣瀬敦視, 片桐有葉, 鈴木久晴, 高橋 浩: 鈍的外傷後の角膜多局所における角膜内皮細胞変化を観察した1例. *眼紀* 2006; 57: 119-123.
- 15) 矢口智恵美, 佐々木香¹⁾, 子島良平¹⁾, 宮井尊史¹⁾, 大谷伸一郎¹⁾, 丸山葉子¹⁾, 宮田和典¹⁾(¹⁾明和会 宮田眼科病院): ガチフロキサシンおよびレボフロキサシンの点眼による白内障術期の減菌効果. *あたらしい眼科* 2006; 23 (4): 499-503.
- 16) 川村有葉, 小原澤英彰, 堀 純子, 川村邦彦, 高橋 浩: 植物による遅発性真菌性眼内炎の1症例. *眼科臨床医報* 2006; 100 (7): 507-509.
- 17) 片岡康志¹⁾, 佐々木香¹⁾, 矢口智恵美, 子島良平¹⁾, 宮井尊史¹⁾, 大谷伸一郎¹⁾, 丸山葉子¹⁾, 宮田和典¹⁾(¹⁾明和会 宮田眼科病院): 白内障手術予定患者の結膜嚢内常在菌に対するガチフロキサシンおよびレボフロキサシンの抗菌力. *あたらしい眼科* 2006; 23 (8): 1062-1066.
- 18) 高橋 浩, 東 永子: 角膜穿孔に対する羊膜移植後に再発した角膜ヘルペスの1例. *眼紀* 2006; 57: 683-686.
- 19) 坂元明日香, 中村雅胤, 武藤 栄, 高橋 浩: 培養ヒト角膜上皮細胞における紫外線障害に対するヒアルロン酸の効果. *眼紀* 2006; 57: 734-738.
- 20) 浅井牧子¹⁾, 岡田拓也¹⁾, 初鹿野見春¹⁾, 西澤善樹¹⁾, 藤田武久¹⁾, 勝部康弘¹⁾, 小原澤英彰(¹⁾武蔵小杉病院小児科): 口唇口蓋裂を伴った Aicardi 症候群の1例. *小児科臨床* 2006; 59 (10): 2209-2214.
- 21) 雑賀寿和, 藤岡達彦¹⁾, 小川葉子²⁾, 吉野健一³⁾, 石岡みさき⁴⁾, 黒田章仁⁵⁾, 青木 繁⁶⁾, 大竹博司⁷⁾, 山林茂樹⁸⁾, 越智利行⁹⁾, 二階堂寛俊¹⁰⁾, 広田 篤¹¹⁾, 三井清次郎¹²⁾, 熊野裕司¹³⁾, 林 研¹⁴⁾, 宮田和典¹⁵⁾, 安藤 誠¹⁶⁾(¹⁾藤岡眼科病院, ²⁾慶應義塾大学医学部眼科学教室, ³⁾吉野眼科クリニック, ⁴⁾両国眼科クリニック, ⁵⁾堀之内駅前眼科, ⁶⁾青木眼科, ⁷⁾おおたけ眼科医院つきみ野診療所, ⁸⁾山林眼科, ⁹⁾越智眼科, ¹⁰⁾二階堂眼科, ¹¹⁾広田眼科, ¹²⁾みい眼科, ¹³⁾大島眼科病院, ¹⁴⁾林眼科病院, ¹⁵⁾宮田眼科病院, ¹⁶⁾ダイワ会大和病院眼科): ALO4943A点眼液のアレルギー性結膜炎に対する点眼回数の検討: 1日2回点眼と1日4回点眼の比較. *あたらしい眼科* 2006; 23 (10): 1325-1335.
- 22) 雑賀寿和: 0.1% ALO4943A点眼液のアレルギー性結膜炎を対象とした第III相臨床試験: 0.1% ALO4943A点眼液のアレルギー性結膜炎に対する0.05%フマル酸ケトチフェン点眼液を対照薬とした2重盲検比較試験. *あたらしい眼科* 2006; 23 (10): 1337-1352.
- 23) 森瀬景子¹⁾, 堀 純子, 平岡美紀, 志和利彦, 高橋 浩, 檀 和夫²⁾, 杉崎祐一³⁾(¹⁾金沢文庫病院, ²⁾日本医

科大学内科学第3, ³⁾同中央診療部門病理部): 結膜の Mucosa associated lymphoid tissue リンパ腫の1例. 眼科臨床医報 2006; 100(10): 751-753.

24) 雑賀寿和, 三井清次郎¹⁾, 林 研²⁾(¹⁾みい眼科, ²⁾林眼科病院): 0.1% ALO4943A 点眼液のアレルギー性結膜炎に対する長期投与試験. あたらしい眼科 2006; 23(11): 1501-1510.

(2) 綜説:

- 1) 小原英彰: 眼精疲労. Kaleidoscope 2006; 30: 2-5.
- 2) 堀 純子: 眼科周術期の無菌化療法. 銀海 2006; 197: 18-18.
- 3) 高橋 浩: 特集, 狭隅角眼に対する検査と実際, 狭隅角と角膜障害. 眼科 2007; 49: 51-58.
- 4) 高橋 浩: 酸化ストレスから見た超音波乳化吸引術. 東京都眼科医会報 2007; 198: 2-7.

著 書

- 1) Hori J, Niederkorn JY: [分担] Corneal transplantation and Immune privilege. Immune Response and the Eye II (ed. J. Y. Niederkorn & H. A. Kaplan), 2007; pp290-299, Karger.
- 2) Ng TF, Klassen H, Hori J, Young MJ: [分担] Retinal transplantation. Chemical Immunology and Allergy (ed. J. Y. Niederkorn & H. A. Kaplan), 2007; pp300-316, Karger.
- 3) 高橋 浩: [分担] トライアルレンズフィッティング. オルソケラトロジー (吉野健一監訳), 2006; pp119-149, エルゼビア・ジャパン.
- 4) 高橋 浩: [分担] 角膜の創傷治癒. 眼科プラクティス 13. 角膜外科のエッセンス (坪田一男編集), 2007; pp230-234, 文光堂.
- 5) 堀 純子: [分担] IV. 角膜外科の術後合併症とその対策「角膜移植後の拒絶反応」. 眼科プラクティス 13 角膜外科のエッセンス (坪田一男編集), 2007; pp194-197, 文光堂.
- 6) 堀 純子: [分担] 7. 移植医療「羊膜移植とは?」. 神経眼科とやさしく理解するための視覚と視路のすべて (岩倉雅登, 三村 治編集), 2007; pp222-225, メディカルビュー.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 堀 純子: 眼組織移植と免疫. Ocular Surgery Club, 2006. 5.
- 2) 高橋 浩: 角膜内皮細胞 日常診療に役立つ知識. 千代田区眼科医会勉強会, 2006. 5.
- 3) 高橋 浩: 「浅前房を見たら 角膜内皮細胞に関して知っておきたいこと」. 第478回東京都眼科集談会, 2006. 5.
- 4) 高橋 浩: 超音波乳化吸引術とフリーラジカル. 関西眼疾患研究会, 2006. 6.
- 5) 高橋 浩: 角膜内皮細胞 日常診療に役立つ知識. 川越眼科医会, 2006. 7.
- 6) 高橋 浩: 角膜内皮細胞 日常診療に役立つ知識. 第139回東邦大学眼科学術研究会, 2006. 7.
- 7) 高橋 浩: 角膜内皮細胞 日常診療に役立つ知識. 第486回慈眼会, 2006. 7.
- 8) 高橋 浩: 第3回難儀な手術シリーズ: 屈折矯正術後の白内障手術. 第4回千駄木眼科フォーラム, 2006. 7.
- 9) 高橋 浩: 角膜内皮細胞 日常診療に役立つ知識. 第12回大阪眼科手術シンポジウム, 2006. 9.
- 10) 堀 純子: 羊膜の免疫特権と免疫原性: 移植における拒絶反応のリスク. 第1回羊膜再生医療研究会, 2006. 10.
- 11) 高橋 浩: 角膜内皮細胞 日常診療に役立つ知識. 第1回上越眼科フォーラム学術講演会, 2006. 11.
- 12) 堀 純子: Role of Glucocorticoid-Induced TNF Receptor Ligand in Immune Privilege of Corneal Allografts. Tokyo Ocular immunology meeting, 2006. 12.
- 13) 高橋 浩: 第4回難儀な手術シリーズ: 眼内レンズ落下の1例. 第5回千駄木眼科フォーラム, 2006. 12.
- 14) 高橋 浩: アレルギー性結膜疾患. 第1回アルコンテレフォンカンファランス, 2007. 1.

(2) シンポジウム :

- 1) Hori J : Immune Response after Transplantation of Neural Stem Cells derived from Brain and Amnion. Symposium- Stem cell biology . Asia-ARVO (シンガポール), 2007 . 3 .

(3) セミナー :

- 1) 高橋 浩 : 臨床研究プロトコルを学ぼう . 第30回日本眼科手術学会総会 , 2007 . 1 .
- 2) 大橋裕一¹⁾, 佐々木香る²⁾, 木下 茂³⁾, 井上幸次⁴⁾, 坪田一男⁵⁾, 堀 純子, 加治裕一⁶⁾, 鈴木 崇⁷⁾, 井上智之⁸⁾ (¹⁾ 愛媛大学, ²⁾ 出田眼科病院, ³⁾ 京都府立医科大学, ⁴⁾ 鳥取大学, ⁵⁾ 慶應義塾大学, ⁶⁾ 筑波大学, ⁷⁾ 市立宇和島病院, ⁸⁾ 大阪大学): 行列のできる角膜難治症例相談所 . 第31回角膜カンファレンス , 2007 . 2 .

(4) 一般講演 :

- 1) Ono M , Haida M¹⁾ (¹⁾ 東海大神経内科学): Objective discomfort : non-invasive detection of brain activation of the prefrontal cortex from eye opening in patients with dry eye by near-infrared ray spectroscopy (NIRS) topography . ARVO (USA), 2006 . 4 .
- 2) Hori J , Miyashita M , Takahashi H , Takemori T¹⁾, Yagita H²⁾, Azuma M³⁾ (¹⁾ 国立感染免疫研究所, ²⁾ 順天大・免疫, ³⁾ 東京医歯大分子免疫): B7-H1 mediated protection of corneal endothelial cells from killing by allo-reactive T cells in vitro . ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (USA), 2006 . 5 .
- 3) Miyashita M , Kitahara Y , Takahashi H , Takemori T¹⁾, Hori J (¹⁾ 国立感染免疫研究所): Phenotypic Analysis of Bone Marrow Cells in Corneal Grafts and Secondary Lymphoid Organs After Corneal Transplantation in Mice . ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (USA), 2006 . 5 .
- 4) Kitahara Y , Miyashita M , Takahashi H , Kobayashi M¹⁾, Sakuragawa N¹⁾, Hori J (¹⁾ 北里大学): Humoral Immunity in Xenogeneic Subretinal Transplantation of Human Amnion Mesenchyme Cell-Derived Neural Progenitors . ARVO (Association for research in vision and ophthalmology) (USA), 2006 . 5 .
- 5) Hiraoka M , Abe A¹⁾, shayman JA¹⁾ (¹⁾ ミシガン大学): "A role for lysosomal phospholipase A2 (LPLA2) in phospholipidosis induced by cationic amphiphilic drugs (CADs)" . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (京都), 2006 . 6 .
- 6) Abe A¹⁾, Hiraoka M , Shayman JA¹⁾ (¹⁾ ミシガン大学): Esterification of lipophilic alcohols by lysosomal phospholipase A2 (LPLA2) . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (京都), 2006 . 6 .
- 7) Hiraoka M , Abe A¹⁾, Shayman JA¹⁾ (¹⁾ ミシガン大学): Deficiency of lysosomal phospholipase A2 and phospholipidosis in mice . FEBS Special Meeting / European Lipidomics Initiative, The Netherlands (オランダ), 2006 . 10 .
- 8) 鈴木久晴, 松井洋法, 佐藤 茂¹⁾, 村野奈緒, 小原澤英彰, 佐々木喜広¹⁾, 安達彰子¹⁾, 高橋 浩 (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設): オゾンによる角膜内皮障害の超微形態学的観察 . 第110回日本眼科学会総会 , 2006 . 4 .
- 9) 堀 純子, 宮下 恵, 高橋 浩, 竹森利忠¹⁾, 東みゆき²⁾ (¹⁾ 国立感染免疫研究所, ²⁾ 東京医歯大分子免疫): ヒトおよびマウス角膜における Programmed Death Ligand 1 の発現と役割 . 第110回日本眼科学会総会 , 2006 . 4 .
- 10) 宮下 恵, 堀 純子, 北原由紀, 高橋 浩 : 角膜移植後の角膜および2次リンパ器官における骨髄由来細胞の経時変化 . 第110回日本眼科学会総会 , 2006 . 4 .
- 11) 北原由紀, 堀 純子, 宮下 恵, 高橋 浩, 小林 護¹⁾, 桜川宣男¹⁾ (¹⁾ 北里大学): 羊膜由来神経前駆細胞の網膜下異種移植における液性免疫応答 . 第110回日本眼科学会総会 , 2006 . 4 .
- 12) 小野眞史 : ドライアイとは . 第1回ドライマウス研究会福岡サテライト講習会 , 2006 . 5 .
- 13) 矢口智恵美, 中原正彰¹⁾, 芹沢純也¹⁾, 片岡康志¹⁾, 宮田和典¹⁾ (¹⁾ 宮田眼科病院): 径瞳孔温熱療法が著効した von Hoppel-Lindau 病の1例 . 第76回九州眼科学会 , 2006 . 5 .
- 14) 小野眞史 : 長期経過で治療法により緩解, 増悪を繰り返したアトピー性角結膜炎の1例 . COST , 2006 . 6 .

- 15) 小野眞史：ドライアイとは．第1回ドライマウス研究会札幌サテライト講習会，2006．6．
- 16) 出江 紳一¹⁾，鈴鴨よしみ²⁾，道又 顕¹⁾，萱間真美³⁾，林亜希子³⁾，安藤 潔⁴⁾，小野眞史，浅井 篤²⁾，福原俊一²⁾(¹⁾東北大学，²⁾京都大学，³⁾聖路加病院，⁴⁾東海大)：脊髄小脳変性症患者に対するテレコーチング介入の機能に関する質的分析．第43回日本リハビリテーション医学会学術集会，2006．6．
- 17) 西嶋一智¹⁾，近藤健男¹⁾，新藤恵一郎¹⁾，杉山 謙¹⁾，古澤義人¹⁾，森 隆行¹⁾，小野眞史，出江紳一¹⁾(¹⁾東北大)：光トポグラフィーを用いた嚙下困難感の評価の試み．第43回日本リハビリテーション医学会学術集会，2006．6．
- 18) 堀 純子，宮下 恵，高橋 浩，竹森利忠¹⁾，東みゆき²⁾(¹⁾国立感染症研究所，²⁾東京医歯大分子免疫)：角膜におけるB7-H1関連免疫特権のメカニズム．第40回日本眼炎症学会，2006．7．
- 19) 北原由紀，堀 純子，宮下 恵，高橋 浩，小林 護¹⁾，桜川宣男¹⁾(¹⁾北里大学)：羊膜由来神経前駆細胞移植による網膜再生と宿主応答．第40回日本眼炎症学会，2006．7．
- 20) 松井洋法，鈴木久晴，佐藤 茂¹⁾，村野奈緒，小原澤英彰，佐々木喜広¹⁾，安達彰子¹⁾，高橋 浩(¹⁾日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設)：オゾンによる角膜内皮細胞障害の超微形態的観察．第38回日本臨床分子形態学会総会，2006．9．
- 21) 小野眞史：ドライアイとは．第10回ドライマウス研究会講習会，2006．10．
- 22) 松井洋法，志和利彦，秋山和英¹⁾，小原澤英彰(¹⁾野田病院眼科)：結膜遊離弁を用いた翼状片手術．第5回Bay Ophthalmic Surgical Seminar，2006．10．
- 23) 鈴木久晴，大木孝太郎¹⁾，志和利彦，高橋 浩(¹⁾大木眼科)：角膜体積を用いた，白内障手術による中央部と全体の角膜侵襲評価法．第60回日本臨床眼科学会，2006．10．
- 24) 柴田桂子，小野眞史，鈴木久晴，志和利彦，高橋 浩：シャインブルーク画像を用いた涙膜水層分布解析の試み，第2報：盗水効果の描出．第60回日本臨床眼科学会，2006．10．
- 25) 小野眞史，灰田宗孝¹⁾(¹⁾東海大神経内科学)：機能的近赤外線分光法(fNIRS)を用いた眼瞼痙攣時不快の直接検出．第60回日本臨床眼科学会，2006．10．
- 26) 五十嵐勉，藤田美穂，倉井年幸，坂根 学¹⁾，吉野慎一¹⁾(¹⁾付属病院リウマチ科)：ドライアイの重症度とリウマチの重症度との相関関係．第60回日本臨床眼科学会，2006．10．
- 27) 矢口智恵美，五十嵐勉，小野眞史，禰津直久，高橋 浩：2種の屈折矯正手術後の白内障手術で眼内レンズ度数決定が困難であった1例．第60回日本臨床眼科学会，2006．10．
- 28) 小野眞史：2006年改定 最新版診断基準とup to dateな 治療法およびそのこつ．第60回日本臨床眼科学会，2006．10．
- 29) 河上花子，堀 純子，平岡美紀，高橋 浩：日本医科大学における内眼炎の臨床統計．第60回日本臨床眼科学会，2006．10．
- 30) 高橋永幸，鈴木久晴，志和利彦，塚田玲子，吉津哲茂，山下 博，川村邦彦，高橋 浩：角膜体積を用いた，極小切開白内障手術の切開創の評価．第30回日本眼科手術学会総会，2007．1．
- 31) 堀 純子，王 明聡，谷口ヒロ子，北原由紀，高橋 浩，大島正道¹⁾，東みゆき²⁾(¹⁾国立感染症研免疫，²⁾東京医歯大分子免疫)：角膜移植におけるGlucocorticoid-Induced TNF Receptor Ligandと制御性T細胞の役割．第23回角膜移植学会，2007．2．
- 32) 倉井年幸，鈴木久晴¹⁾，大木孝太郎²⁾，志和利彦，矢口智恵美，高橋 浩(¹⁾神栖済生会病院，²⁾大木眼科)：角膜体積を用いた，白内障手術後の角膜内皮機能評価法．第31回角膜カンファランス・第23回日本角膜移植学会，2007．2．
- 33) 鈴木久晴¹⁾，堀 純子，川村邦彦，柴田桂子，高橋 浩(¹⁾神栖済生会病院)：鈍的外傷後の角膜多局所における内皮細胞変化の長期的観察．第31回角膜カンファランス・第23回日本角膜移植学会，2007．2．
- 34) 北原由紀，堀 純子，王 明聡，谷口ヒロ子，大島正道¹⁾，八木田秀雄²⁾(¹⁾国立感染症研究所，²⁾順天大・

- 免疫): 角膜移植の生着における B7-H3 の役割. 第 31 回角膜カンファランス・第 23 回日本角膜移植学会, 2007. 2.
- 35) 小野真史, 高橋 浩: 大脳近赤外線分光法を用いた風負荷試験時眼不快の検出. 第 31 回角膜カンファランス・第 23 回日本角膜移植学会, 2007. 2.
- 36) 鈴木久晴, 大木孝太郎¹⁾, 志和利彦, 高橋 浩, 高橋圭三²⁾(¹⁾大木眼科, ²⁾たかはし眼科): 角膜体積を用いた, 白内障手術による角膜侵襲の新評価. 第 21 回日本眼内レンズ屈折矯正手術学会, 2007. 6.

[千葉北総病院眼科]

研究業績

論文

(1) 症例報告:

- 1) 廣瀬敦視, 神元亜季子, 亀谷修平, 後藤陽子, 山木邦比古, 高橋 浩: 脳血管撮影後に発症した網膜動脈分枝閉塞症の 1 例. 眼科臨床医報 2007 ; 101 (1): 12-14.

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 廣瀬敦視, 田嶋友子, 亀谷修平, 後藤陽子, 山木邦比古, 高橋 浩: 脳血管撮影後に発症した網膜動脈分枝閉塞症の 1 例. 第 60 回日本臨床眼科学会, 2006. 10.

17. 麻酔科学講座

[付属病院麻酔科]

研究概要

本講座の研究は、臨床における周術期管理、集中治療、疼痛管理、安全対策を基盤にしたものであり、特に重症患者管理を念頭に置いたショックの病態解明と対策、慢性痛一掃を目指した神経因性疼痛の解明、麻酔薬の機序解明から新たな麻酔薬の開発をメインテーマとして臨床・基礎研究を行っている。以下に本年度の主な研究を示す。

臨床研究：1) 周術期炎症反応の対策, 2) 術後痛対策, 3) 周術期心保護, 4) 安全機器対策, 5) 集中治療における安全対策, 6) 人工呼吸, 7) 重症患者麻酔, 8) シュミレーション教育, 9) 新たな疼痛治療法の開発

基礎研究：1) 麻酔薬・麻酔法の違いによる体内遺伝子発現の変動, 2) 灌流心による各種保護薬による心保護効果の解明, 3) 呼吸中枢の電気生理学的検討, 4) 人工酸素運搬体の臨床応用に向けた検討, 5) ニューロパーシックペインの機序と対策, 6) ショック時のイクス学的解析, 7) 人工呼吸による生理学的変化, 8) 心血管作動薬の副次的作用の検討等。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Hongo T, Kitamura A, Yokozuka M, Kim C, Sakamoto A : An epidural initial dose is unnecessary in combined spinal epidural anesthesia for caesarean section . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (2) : 70-74 .
- 2) Nakanishi K, Takeda S¹⁾, Sakamoto A, Kitamura A (¹⁾ 付属病院集中治療室) : Effects of ulinastatin treatment on the cardiopulmonary bypass-induced hemodynamic instability and pulmonary dysfunction . Critical Care Medicine 2006 ; 34 (5) : 1351-1357 .
- 3) Suzuki M¹⁾, Haraguchi S²⁾, Sugimoto K¹⁾, Kikutani T¹⁾, Shimada Y¹⁾, Sakamoto A (¹⁾ 武蔵小杉病院麻酔科, ²⁾ 同外科) : Low-dose intravenous ketamine potentiates epidural analgesia after thoracotomy . Anesthesiology 2006 ; 105 (1) : 111-119 .
- 4) Takahashi H¹⁾, Suzuki H¹⁾, Shiwa T¹⁾, Sakamoto A (¹⁾ 付属病院眼科) : Altered development of free radical development by ophthalmicviscosurgical devices in pharmacoemulsification . J Cataract Refract Surg 2006 ; 32 (9) : 1545-1548 .
- 5) Goto Y, Terajima K, Tsueshita T, Miyashita M¹⁾, Horinouchi H²⁾, Sakai H³⁾, Tsuchida E³⁾, Sakamoto A (¹⁾ 日本医科大学外科学第1, ²⁾ 慶応義塾大学外科, ³⁾ 早稲田大学理工学部) : Fluid resuscitation with hemoglobin-vesicle solution does not increase hypoxia or inflammatory responses in moderate hemorrhagic shock . Biomedical Research 2006 ; 27 (6) : 283-288 .
- 6) Kashimoto S¹⁾, Seki M²⁾, Ishiguro T²⁾, Yoshioka Y³⁾, Nagata O⁴⁾, Nishimura K⁵⁾, Kikuchi T⁵⁾, Yamada T⁶⁾, Iwase M⁴⁾, Omi A⁷⁾, Honda O⁸⁾, Sakamoto A, Ogihara Y⁷⁾, Fujimoto K⁹⁾, Kato J¹⁰⁾, Nomura M⁴⁾, Takeda J⁶⁾ (¹⁾ 山梨大学, ²⁾ 癌研病院, ³⁾ 都立豊島病院, ⁴⁾ 東京女子医科大学, ⁵⁾ 順天堂大学, ⁶⁾ 慶應大学, ⁷⁾ 東京医科大学, ⁸⁾ 国立がんセンター, ⁹⁾ 横浜市立大学, ¹⁰⁾ 日本大学) : Nicorandil decreases cardiac events during and after noncardiac surgery . Journal of Clinical Anesthesia 2007 ; 19 (1) : 44-48 .
- 7) Mii S, Kim C, Matsui H¹⁾, Oharazawa H¹⁾, Shiwa T¹⁾, Takahashi H¹⁾, Sakamoto A (¹⁾ 付属病院眼科) : Increases in central retinal artery blood flow in humans following carotid artery and stellate ganglion irradiation with 0.6 to 1.6 microm irradiation . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 23-29 .

- 8) 竹田晋浩¹⁾, 赤田信二¹⁾, 寺嶋克幸, 鈴木規仁, 青戸泰二¹⁾, 山本保博²⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾ 付属病院集中治療室, ²⁾ 救急医学): 非侵襲的陽圧換気によるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌検出頻度減少の効果. 日本集中治療医学会雑誌 2007 ; 14 (1): 91-92 .

(2) 綜説 :

- 1) 竹田晋浩 : BiPAP ; 人工呼吸の換気モード . 呼吸器ケア 2006 ; 5 (5): 79-84 .
- 2) 坂本篤裕 : 麻酔と術後長期予後 . 日本外科系連合学会誌 2006 ; 31 (2): 260-261 .
- 3) 竹田晋浩 : NPPV 療法中の合併症とその対策 ; 今日のNPPV 療法 . 呼吸器科 2006 ; 10 (6): 509-512 .
- 4) 坂本篤裕 : 周術期循環管理とエビデンス . 循環制御 2006 ; 27 (2): 93-94 .
- 5) 坂本篤裕 : 肥満妊婦とやせ妊婦 . 麻酔時の注意点 . 産婦人科の実際 2006 ; 55 (7): 1079-1085 .
- 6) 竹田晋浩 : NPPV を行う人工呼吸器および回路 : 人工呼吸関連の機器4 . 呼吸器ケア 2006 ; (夏季増刊号): 58-65 .
- 7) 寺嶋克幸, 坂本篤裕 : 呼吸器疾患の新治療 : デクスメドミジン . 呼吸 2006 ; 25 (9): 882-889 .
- 8) 寺嶋克幸, 杖下隆哉, 坂本篤裕 : 周術期 / 救急領域の赤血球輸血と人工酸素運搬体の展望 : Hemoglobin Vesicles の可能性 . 日本血液代替物学会誌「人工血液」 2006 ; 14 (3): 71-78 .
- 9) 坂本篤裕 : 麻酔管理と長期予後 . 麻酔 2006 ; 55 (9): 1077-1077 .
- 10) 中西一浩, 竹田晋浩¹⁾, 本郷 卓¹⁾, 金 徹, 寺嶋克幸, 河原裕泰, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 杖下隆哉, 赤田信二¹⁾, 幸田修典, 三井誠司, 小林克也, 佐藤千代, 竹森 健, 安藤岳史, 中里桂子, 吉田結富子, 古市昌之, 守真 輝, 横塚 基, 山梨義高, 岡部 格, 白川 真, 西原富次郎, 伊藤公亮, 小野顕人, 川口宏志, 坪光祥晃, 中谷英彦, 佐藤 研, 川田亜紀子, 鈴木康之, 間瀬大司, 坂本篤裕 (¹⁾ 付属病院集中治療室): 麻酔科領域における超音波エコーの活用 : 神経ブロックと血管穿刺 . 臨床麻酔 2006 ; 30 (9): 1877-1882 .
- 11) 竹田晋浩 : NPPV の実際 ; 効果の評価 ; 非侵襲的人工呼吸 Q&A . 救急・集中治療 2006 ; 18 (10): 12-14 .
- 12) 竹田晋浩 : 急性期のNPPV ; 急性肺水腫 非侵襲的人工呼吸 Q&A . 救急・集中治療 2006 ; 18 (10): 50-55 .
- 13) 竹田晋浩 : どんな患者さんにどの機種を使うのか ; 必ずできる , Q&A で理解するNPPV の導入と患者ケア . 呼吸器ケア 2006 ; 4 (11): 1154-1161 .
- 14) 赤田信二, 竹田晋浩 : 人工呼吸法 . 呼吸器ケアエッセンス 2006 ; 52-63 .
- 15) 竹田晋浩 : 急性心原性肺水腫に対するNPPV 療法 . Therapeutic research 2007 ; 28 (1): 60-66 .
- 16) 赤田信二, 坂本篤裕 : ER における鎮痛 , 鎮静法の必要性和方法 . 救急医学 2007 ; 31 (1): 27-31 .
- 17) 竹田晋浩 : Dexmedetomidine , 呼吸管理への応用 . Anesthesia 21 century 2007 ; 9 (1): 11-16 .
- 18) 金 徹 : こんな時どうする ? 患者急変対応 Q&A : 不整脈・心停止 . オペナーシング 2007 ; 22 (3): 35-37 .
- 19) 金 徹 : こんな時どうする ? 患者急変対応 Q&A : 電解質異常 . オペナーシング 2007 ; 22 (3): 38-40 .
- 20) 金 徹 : こんな時どうする ? 患者急変対応 Q&A : 異常高血圧 . オペナーシング 2007 ; 22 (3): 41-42 .
- 21) 金 徹 : こんな時どうする ? 患者急変対応 Q&A : 異常低血圧 . オペナーシング 2007 ; 22 (3): 43-45 .
- 22) 坂本篤裕 : ショックの患者管理に必要な基本的モニターは何ですか ? . ナーシングケア Q&A : モニタリング 2007 ; (15): 93-95 .
- 23) 坂本篤裕 : 中枢温と末梢温の温度較差は何を意味するのですか ? . ナーシングケア Q&A : モニタリング 2007 ; (15): 132-134 .
- 24) 寺嶋克幸 : 尿量をモニタリングすると何がわかるのですか ? . ナーシングケア Q&A : モニタリング 2007 ; (15): 135-137 .
- 25) 寺嶋克幸 : 肺切除手術の術中・術後にはどんなモニターが必要ですか ? . ナーシングケア Q&A : モニタリング 2007 ; (15): 152-154 .
- 26) 坂本篤裕 : 消化管粘膜 pH (pHi) モニターで何がわかるのですか ? . ナーシングケア Q&A : モニタリング 2007 ; (15): 170-171 .

- 27) 金 徹：バイタルサインはこう読む！．看護技術 2007；53（3）：11-16．
- 28) 寺嶋克幸：小児，高齢者，脳血管障害患者のバイタルサイン測定とその読み方．看護技術 2007；53（3）：17-21．
- 29) 寺嶋克幸，竹田晋浩，坂本篤裕：麻酔科医としての 2アゴニストを知る： 2アゴニストの臨床的展開 ICU における展開．日本臨床麻酔学会誌 2007；27（2）：117-124．

(3) 症例報告：

- 1) Terajima K, Takeda S¹⁾, Tani ai N²⁾, Tanaka K¹⁾, Oda Y³⁾, Asada A³⁾, Sakamoto A (¹⁾日本医科大学付属病院集中治療室, ²⁾同外科学第1, ³⁾大阪市立大学麻酔科): Repeated dexmedetomidine infusions, a post-operative living-donor liver transplantation patient . Journal of Anesthesia 2006；20（3）：234-236．
- 2) Terajima K, Suzuki R¹⁾, Sugamuma R¹⁾, Sakamoto A (¹⁾国立福島医療センター婦人科): Non-invasive positive pressure ventilation and subarachnoidal blockade for Caesarean section in a parturient with pulmonary oedema . Acta Anaesthesiol Scand 2006；50（10）：1307-1308．
- 3) Yamamoto T¹⁾, Terajima K, Kato K¹⁾, Iwasaki Y¹⁾, Miyagi Y¹⁾, Sato N¹⁾, Takeda S¹⁾, Tanaka K¹⁾, Takano T²⁾(¹⁾付属病院集中治療室, ²⁾内科学第1): Transient leukocytopenia associated with a steep surge of pro-inflammatory cytokines in a patient with severe cardiogenic pulmonary edema . J Internal Medicine 2006；45（20）：1153-1155．
- 4) 吉田結富子，寺嶋克幸，伊藤公亮，山梨義高，横塚 基，竹森 健，三井誠司，佐藤千代，中西一浩，坂本篤裕：麻酔導入時の経食道心エコーによって術式が変更された外傷性大動脈損傷の1症例．循環制御 2006；27（4）：362-365．
- 5) 四維東州，結城禎一¹⁾(¹⁾三井記念病院麻酔科): 術前検査で困った症例（その2）たまたま見つかった発作性心房細動：全身に影響の少ない麻酔法で前立腺生検を施行し，その後に内科的管理．LiSA 2006；13（12）：1140-1143．
- 6) 古市昌之，佐藤千代，川口宏志，岸川洋昭，金 徹，坂本篤裕：頸椎前方固定術後の骨棘による気管膜様部突出で生じた挿管困難の1例．日本臨床麻酔学会雑誌 2007；27（1）：61-65．

著 書

- 1) 竹田晋浩：〔分担〕急性心原性肺水腫．NPPV（非侵襲的陽圧換気療法）ガイドライン（日本呼吸器学会），2006；pp49-52，日本呼吸器学会．
- 2) 竹田晋浩：〔分担〕NPPVを行う人工呼吸器および回路．呼吸管理器械マスターブック（今中秀光），2006；pp34-40，メディカ出版．
- 3) 坂本篤裕：〔編集〕こんな時どうするME機器のトラブル対処法，2006；真興交易医書出版部．
- 4) 坂本篤裕：〔分担〕医療機器（ME機器）と安全管理．こんな時どうするME機器のトラブル対処法（坂本篤裕編集），2006；pp11-15，真興交易医書出版部．
- 5) 金 徹，吉田 晃¹⁾(¹⁾付属病院ME部): 〔分担〕急性期の血液浄化療法．こんな時どうするME機器のトラブル対処法（坂本篤裕編集），2006；pp16-45，真興交易医書出版部．
- 6) 寺嶋克幸，山口敏明¹⁾(¹⁾付属病院ME部): 〔分担〕補助循環と機器．こんな時どうするME機器のトラブル対処法（坂本篤裕編集），2006；pp46-73，真興交易医書出版部．
- 7) 竹田晋浩，野口裕幸¹⁾(¹⁾付属病院ME部): 〔分担〕人工呼吸器．こんな時どうするME機器のトラブル対処法（坂本篤裕編集），2006；pp74-92，真興交易医書出版部．
- 8) 中西一浩，青木郁香¹⁾(¹⁾付属病院ME部): 〔分担〕生体情報モニター．こんな時どうするME機器のトラブル対処法（坂本篤裕編集），2006；pp94-114，真興交易医書出版部．
- 9) 中西一浩，鈴木健一¹⁾(¹⁾付属病院ME部): 〔分担〕ペースメーカー．こんな時どうするME機器のトラブル

対処法(坂本篤裕編集), 2006; pp115-147, 真興交易医書出版部.

- 10) 寺嶋克幸, 鈴木健一¹⁾(¹⁾付属病院 ME 部): [分担] 除細動器. こんな時どうする ME 機器のトラブル対処法(坂本篤裕編集), 2006; pp148-171, 真興交易医書出版部.
- 11) 金 徹, 原 正高¹⁾(¹⁾付属病院 ME 部): [分担] 輸液ポンプ・シリンジポンプ. こんな時どうする ME 機器のトラブル対処法(坂本篤裕編集), 2006; pp172-194, 真興交易医書出版部.
- 12) 竹田晋浩: [分担] 周術期の人工呼吸管理の要点. 周術期の呼吸管理(西野 卓), 2006; pp79-93, 克誠堂出版.
- 13) 坂本篤裕: [分担] Q34-37. 水・電解質がわかる輸液ケア Q&A(飯野靖彦編集), 2006; pp74-82, 中山書店.
- 14) 竹田晋浩: [共著] 急性期 NPPV の適応と限界, 心原性肺水腫に対する NPPV, ALI/ARDS に対する NPPV. 急性期 NPPV 実践マニュアル(竹田晋浩), 2006; pp2-3, メディカルレビュー社.
- 15) 竹田晋浩: [共著] 急性期 NPPV の適応と限界, 心原性肺水腫に対する NPPV, ALI/ARDS に対する NPPV. 急性期 NPPV 実践マニュアル(竹田晋浩), 2006; pp10-11, メディカルレビュー社.
- 16) 竹田晋浩: [共著] 急性期 NPPV の適応と限界, 心原性肺水腫に対する NPPV, ALI/ARDS に対する NPPV. 急性期 NPPV 実践マニュアル(竹田晋浩), 2006; pp28-29, メディカルレビュー社.
- 17) 坂本篤裕: [分担] 胃管挿入. 麻酔手技上達のコツ(岩崎 寛, 野口隆之, 福田和彦編集), 2006; pp36-41, 南江堂.
- 18) 坂本篤裕: [分担] 心血管作動薬. 麻酔科レビュー 2007(天羽敬祐監修), 2007; pp18-23, 総合医学社.
- 19) 竹田晋浩: [分担] 麻酔科医と救急医療. 麻酔科学レビュー 2007(天羽啓介), 2007; pp207-212, 総合医学社.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 坂本篤裕: 短時間作用型 1 遮断薬の現状と新たな適応. 岐阜周術期循環管理研究会, 2006. 1.
- 2) 坂本篤裕: 周術期と 遮断薬 術中から周術期管理へ. 第 17 回静岡県麻酔科医会総会, 2006. 6.
- 3) 坂本篤裕: 周術期と 遮断薬 術中から周術期管理へ. 和歌山循環管理セミナー 2006, 2006. 6.
- 4) 坂本篤裕: 周術期と 遮断薬 術中から周術期管理へ. 第 8 回神奈川臨床麻酔セミナー, 2006. 6.
- 5) 坂本篤裕: 周術期管理における 1 遮断薬. 滋賀周術期フォーラム 2006, 2006. 10.
- 6) 坂本篤裕: 周術期管理における 遮断薬の実際. 文京臨床麻酔学術講演会, 2006. 11.
- 7) 坂本篤裕: 周術期管理における短時間作用型 1 遮断薬の役割. 信州麻酔懇話会, 2006. 11.
- 8) 坂本篤裕: 周術期と 遮断薬 術中から周術期管理へ. 旭川全身管理研究会, 2006. 12.
- 9) 坂本篤裕: 周術期管理における短時間作用型 1 遮断薬の役割. 石川県周術期管理研究会, 2007. 2.

(2) 教育講演:

- 1) 中西一浩: 周術期における心収縮・拡張機能の変動: 組織ドップラー法を用いた心機能評価. 日本麻酔科学会 東京・関東甲信越地方会第 46 回合同学術集会, 2006. 9.
- 2) 竹田晋浩: 周術期の NPPV. 第 6 回 NPPV 研究会, 2006. 12.

(3) シンポジウム:

- 1) 竹田晋浩: ARDS の臨床: ARDS 診断基準の問題点. 第 46 回日本呼吸器学会学術集会, 2006. 6.
- 2) 杖下隆哉, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: HbV による輸液蘇生: 肺への影響. 第 13 回日本血液代謝物学会年次大会, 2006. 8.
- 3) 竹田晋浩: 周術期のモニタリング管理とリスクマネジメント; 肺動脈カテーテルの挿入・留置に関する問題点と工夫. 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第 46 回合同学術集会, 2006. 9.
- 4) 竹田晋浩: ALI/ARDS に対する NPPV の有効性. 第 34 回日本集中治療医学会学術集会, 2007. 3.

(4) セミナー:

- 1) Sakamoto A: Perioperative use of ultra short acting b-blocker; Landiolol comes on the field. The 21st Sci-

entific Meeting of the International Society of Hypertension (Fukuoka), 2006. 10.

- 2) 坂本篤裕: 周術期管理における 1 遮断薬 現況と未来. 第 11 回日本心臓血管麻酔学会, 2006. 9.
- 3) 金 徹: 補助循環作動時の麻酔科医の役割 (臨床教育セミナー). 日本臨床麻酔学会第 26 回大会, 2006. 10.
- 4) 坂本篤裕: 周術期管理における短時間作用型 1 遮断薬の役割. 第 59 回日本胸部外科学会定期学術集会, 2006. 10.
- 5) 白川 真, 中西一浩, 竹森 健, 小林克也, 幸田修典, 三井誠司, 杖下隆哉, 鈴木規仁, 河原裕泰, 寺嶋克幸, 金 徹, 竹田晋浩, 坂本篤裕: off pump CABG に対して hANP は有効であるか?. 周術期心不全カンファレンス, 2006. 11.
- 6) 坂本篤裕: 高齢者における 遮断薬の有用性. 第 19 回日本老年麻酔学会, 2007. 2.
- 7) 坂本篤裕: Short acting blocker の新たな展開. 第 71 回日本循環器病学会総会・学術集会, 2007. 3.

(5) 一般講演:

- 1) 鈴木規仁, 河原裕泰, 岸川洋昭, 小林克也, 三井誠司, 竹森 健, 坂本篤裕: Off-pump CABG における動脈圧波形による心拍出量連続モニターの使用経験. 日本臨床モニター学会第 17 回総会, 2006. 4.
- 2) 鈴木規仁, 竹田晋浩¹⁾, 赤田信二¹⁾, 寺嶋克幸, 中西一浩, 本郷 卓¹⁾, 田中啓治¹⁾, 井上哲夫²⁾, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院集中治療室, ²⁾千葉北総病院麻酔科): 非侵襲的陽圧換気 (NPPV) 施行時の鎮静: デクスメトミジンの効果. 日本呼吸療法医学会第 28 回学術総会, 2006. 5.
- 3) 杖下隆哉, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: 人工赤血球による生体反応はどこまで許容できるか?. 第 21 回日本 shock 学会, 2006. 5.
- 4) 中里桂子, 佐藤千代, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: ASA physical status 3E 以上の緊急手術患者における予後予測因子の統計学的検討. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 5) 小林克也, 竹森 健, 中里桂子, 吉田結富子, 三井誠司, 坂本篤裕: セボフルランはラットにおけるサーカディアンリズム遺伝子の発現に影響を及ぼす. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 6) 中西一浩, 竹田晋浩, 金 徹, 寺嶋克幸, 北村 晶, 坂本篤裕: 人工心肺下心臓手術の術後心筋マーカー流出に關する因子は何か?: 多変量解析による検討. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 7) 佐藤千代, 坂井 敦¹⁾, 鈴木秀典¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾薬理学): 局所麻酔薬による硬膜外ブロックの有用性の検討 慢性絞扼性傷害モデルラットを用いて Efficacy of epidural block using local anesthetics in a rat model of neuropathin pain. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 8) 鈴木規仁, 坂本篤裕, 河原裕泰, 小林克也, 三井誠司: 心臓手術における動脈圧波形による心拍出量測定 (FloTrac センサー) の検討. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 9) 幸田修典, 竹田晋浩, 赤田信二, 幸田真理子, 坂本篤裕: 新生ラット脳幹脊髓標本においてカンナビノイドは呼吸抑制を来さずにピククリンにより誘発された痙攣を抑制する. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 10) 寺嶋克幸, 杖下隆哉, 坂本篤裕: ウサギ出血性モデルに対する人工酸素運搬体-HbV-の影響. 日本麻酔科学会第 53 回大会, 2006. 6.
- 11) 赤田信二, 竹田晋浩, 坂本篤裕: ウサギ頸動脈小体における Vecuronium, propofol の影響. 日本麻酔科学会第 53 回大会, 2006. 6.
- 12) 岸川洋昭, 坂本篤裕, 小林克也, 竹森 健: デクスメトミジンのヒト好中球アポトーシスへの影響. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 13) 杖下隆哉, 山梨義高, 三井誠司, 寺嶋克幸, 坂本篤裕: 人工赤血球の安全性に関する研究. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 14) 岡部 格, 金 徹, 山梨義高, 坂本篤裕: 腹腔鏡下前立腺全摘術と開腹前立腺全摘術の出血量の差に基づく麻酔管理方法の検討. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.
- 15) 金 徹, 吉田結富子, 坂本篤裕: modified electroconvulsive therapy (mECT) の循環動態への影響. 日本麻酔科学会第 53 回学術集会, 2006. 6.

- 16) 岡部 格, 金 徹, 山梨義高, 坂本篤裕: 腹腔鏡下前立腺全摘術と開腹前立腺全摘術の出血量の差に基づく麻酔管理方法の検討. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 17) 中西一浩, 竹田晋浩¹⁾, 金 徹, 寺嶋克幸, 北村 晶, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院集中治療室): 人工心肺下心臓手術の術後心筋マーカー流出に關与する因子は何か?: 多変量解析による検討. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 18) 竹田晋浩, 赤田信二, 本郷 卓, 鈴木規仁, 中西一浩, 坂本篤裕: 術後呼吸不全に対する非侵襲的陽圧換気 (NPPV) の有効性. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 19) 守 真輝, 鈴木規仁, 坂本篤裕: 緊急眼科手術において予期せぬ心停止を認めた症例の術前術後評価. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 20) 加藤信也¹⁾, 益田律子¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾千葉北総病院麻酔科): 星状神経節への局所麻酔薬注入および直流通電療法が著効を示した帯状疱疹痛患者1症例. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 21) 輪嶋善一郎¹⁾, 志賀俊哉¹⁾, 今永和幸¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾千葉北総病院麻酔科): ヒトにおいてランジオリールはセボフルランのMACを低下させるか?. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 22) 斉藤 剛¹⁾, 輪嶋善一郎¹⁾, 志賀俊哉¹⁾, 今永和幸¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾千葉北総病院麻酔科): ランジオリールの投与により vital capacity rapid inhalation induction による意識消失時間を短縮させる. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 23) 安藤岳史, 北村 晶, 鈴木規仁, 山梨義高, 岡部 格, 坂本篤裕: 腹腔鏡下手術時における BIS 値と術後嘔気との関連. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 24) 山梨義高, 北村 晶, 安藤岳史, 三井誠司, 鈴木規仁, 坂本篤裕: TURおよびレゼクトスコープ手術における血漿浸透圧と血漿膠質浸透圧の変動について. 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 25) 横塚 基, 河原裕泰, 北村 晶, 中西一浩, 坂本篤裕: 右後頭部痛により発症した悪性リンパ腫の1症例. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 2006. 7.
- 26) 岡部 格, 河原裕泰, 坂本篤裕: 肢端紅痛症に対する交感神経ブロックの効果について. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 2006. 7.
- 27) 小倉 明¹⁾, 吉河達祐¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾千葉北総病院麻酔科): 穿刺部位の違いによる硬膜外カテーテル挿入時の Paresthesia の頻度について. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 2006. 7.
- 28) 加藤信也¹⁾, 益田律子¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾千葉北総病院麻酔科): 星状神経節への直流通電および局所麻酔薬注入療法が奏功した帯状疱疹後神経痛患者2症例. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 2006. 7.
- 29) 輪嶋善一郎¹⁾, 益田律子¹⁾, 志賀俊哉¹⁾, 今永和幸¹⁾, 斉藤 剛¹⁾, 井上哲夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾千葉北総病院麻酔科): 持続硬膜外麻酔・ブロックに起因する硬膜外膿瘍の発生頻度. 日本ペインクリニック学会第40回大会, 2006. 7.
- 30) 中里桂子, 竹田晋浩, 赤田信二, 本郷 卓, 吉田結富子, 守 真輝, 宮城泰雄¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院集中治療室): 子宮内膜そう爬術に伴う子宮穿孔と同時に小腸潰瘍穿孔を起こし, 急性腹膜炎から敗血症に至った1症例. 第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2006. 8.
- 31) 佐藤千代, 河原裕泰, 坂本篤裕: 幻視痛に対するエルシトニンの効果. 第5回文京緩和医療研究会, 2006. 8.
- 32) 中里桂子, 金 徹, 寺嶋克幸, 小野寺英貴, 赤田信二, 本郷 卓, 中西一浩, 竹田晋浩, 坂本篤裕: 集中治療室滞在日数に影響する因子としてのデクスメドミジンの検討. 第13回日本静脈麻酔研究会, 2006. 9.
- 33) 寺嶋克幸, 小野寺英貴, 竹田晋浩, 坂本篤裕: オフポンプ冠動脈再建術後のランジオリールとデクスメドミジンの効果. 第13回日本静脈麻酔研究会, 2006. 9.
- 34) 船木孝則, 乾 恵輔, 本間英恵, 春日裕介, 渡辺 悠, 福井めぐみ, 米澤美令, 小野修一, 寺嶋克幸, 金 徹, 岸川洋昭, 鈴木規仁, 杖下隆哉, 三井誠司, 幸田修典, 小林克也, 川口宏志, 坪光祥晃, 中西一浩, 坂本篤裕: 研修医のターゲットコントロールインフュージョンによる完全静脈麻酔法は麻酔の質を変えない. 第13回

日本静脈麻酔研究会，2006．9．

- 35) 岸川洋昭，寺嶋克幸，坂本篤裕：デクスメドミジンのヒト好中球アポトーシスへの影響．第13回日本静脈麻酔研究会，2006．9．
- 36) 守 真輝，竹田晋浩：非侵襲的陽圧換気（NPPV）施工時の鎮静；デクスメドミジンの効果．第13回日本静脈麻酔研究会，2006．9．
- 37) 中里桂子，寺嶋克幸，金 徹，中西一浩，赤田信二，本郷 卓，竹田晋浩，坂本篤裕：F回路内の2重構造が麻酔器側で破綻したことにより生じた高二酸化炭素血症の1例．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 38) 中西一浩，竹田晋浩，金 徹，岸川洋昭，幸田修典，白川 真，坂本篤裕：Pringle's maneuverを用いる肝切除術における心拡張機能の変動：組織ドップラー法を用いた心機能評価．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 39) 幸田修典，幸田真理子，佐藤千代，藤谷 仁，杖下隆哉，岸川洋昭，鈴木規仁，坂本篤裕：肺腫瘍のラジオ波焼却術における硬膜外ブロックの有用性．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 40) 吉田結富子，中里桂子，守 真輝，赤田信二，河原裕泰，本郷 卓，竹田晋浩，坂本篤裕：Dexmedetomidineを用いて良好な鎮静が得られた小児の開心術症例．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 41) 寺嶋克幸，岸川洋昭，坂本篤裕：肺水腫を伴う帝王切開に対するNPPVと脊椎麻酔．臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 42) 岸川洋昭，坂本篤裕，金 徹，寺嶋克幸，幸田修典：間質性肺炎合併呼吸器手術の麻酔経験．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 43) 杖下隆哉，寺嶋克幸，坂本篤裕：透析患者のoff pump冠動脈バイパス術の周術期管理．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 44) 中里桂子，寺嶋克幸，金 徹，中西一浩，赤田信二¹⁾，本郷 卓¹⁾，竹田晋浩¹⁾，坂本篤裕¹⁾（¹⁾付属病院集中治療室）：F回路内の2重構造が麻酔器側で破綻したことにより生じた高二酸化炭素血症の1例．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 45) 中西一浩，竹田晋浩¹⁾，金 徹，岸川洋昭，幸田修典，白川 真，坂本篤裕¹⁾（¹⁾付属病院集中治療室）：Pringle's maneuverを用いる肝切除術における心拡張機能の変動：組織ドップラー法を用いた心機能評価．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 46) 川口宏志，寺嶋克幸，金 徹，坂本篤裕：慢性関節リウマチ患者に対する気管挿管の2症例．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 47) 岸川洋昭，坂本篤裕，金 徹，寺嶋克幸，幸田修典：間質性肺炎合併呼吸器外科手術の麻酔経験．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 48) 坪光 晃，金 徹，西原富次郎，安藤岳史，杖下隆哉，河原裕泰，中西一浩，坂本篤裕：セボフルランが有効であった喉頭痙攣の1症例．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 49) 古市昌之，杖下隆哉，坪光 晃，小野顕人，坂本篤裕：経食道心エコープローブ挿入後に生じた披裂軟骨脱臼の1例．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 50) 寺嶋克幸，岸川洋昭，坂本篤裕：低酸素症を伴う帝王切開患者への非侵襲的陽圧呼吸法の応用．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 51) 安藤岳史，岡部 格，寺嶋克幸，坂本篤裕：静脈ライン確保時における8%リドカインによる表面麻酔の有用性の検討．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 52) 小倉 明¹⁾，吉河達祐¹⁾，井上哲夫¹⁾，坂本篤裕¹⁾（¹⁾千葉北総病院麻酔科）：腰部硬膜外穿刺時における正中法と傍正中法の比較．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．
- 53) 大江裕美子¹⁾，稲木敏一郎¹⁾，横山健至¹⁾，北村 晶¹⁾，島田洋一¹⁾，坂本篤裕¹⁾（¹⁾武蔵小杉病院麻酔科）：電気メスの使用により消毒薬に引火，リネンが炎上し火傷を負わせてしまった1症例．日本臨床麻酔学会第26回大会，2006．10．

- 54) 幸田真理子¹⁾, 古市昌之, 西川晃司¹⁾, 幸田修典, 山田光輝¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾多摩永山病院麻酔科): 腹部大動脈完全閉塞による Leriche 症候群を合併した胃全摘術の麻酔経験 . 日本臨床麻酔学会第 26 回大会, 2006 . 10 .
- 55) 佐藤花代子¹⁾, 稲木敏一郎¹⁾, 横山健至¹⁾, 大江裕美子¹⁾, 島田洋一¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾武蔵小杉病院麻酔科): 広範囲ラジオ波焼灼が原因と思われた覚醒遅延の 1 症例 . 日本臨床麻酔学会第 26 回大会, 2006 . 10 .
- 56) 中里桂子, 竹田晋浩, 赤田信二, 本郷 卓, 吉田結富子, 守 真輝, 宮城泰雄¹⁾, 中西一浩, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院集中治療室): 消化管穿孔に対して PMX-DHP が著効した 2 症例 . 第 19 回日本外科感染症学会, 2006 . 11 .
- 57) 山本 剛¹⁾, 佐藤直樹¹⁾, 田中啓治¹⁾, 青木 聡²⁾, 小林義典²⁾, 高山守正²⁾, 高野照夫²⁾, 吉田竜介³⁾, 山本博保³⁾, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院集中治療室, ²⁾付属病院内科学第 1, ³⁾付属病院救急医学): AED が作動しなかった院内心室細動の 2 例とそのメカニズム . 第 34 回日本救急医学会総会, 2006 . 11 .
- 58) 寺嶋克幸, 杖下隆哉, 宮下正夫¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院外科学第 1): Hemoglobin-vesicle 溶液の出血性ショックに対する効果と安全性 . 第 13 回外科侵襲とサイトカイン研究会, 2006 . 12 .
- 59) 中里桂子, 竹田晋浩¹⁾, 吉田結富子, 守 真輝, 赤田信二¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 本郷 卓¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院集中治療室): 陽・陰圧体外式人工呼吸器 (RTXR) を併用し改善した誤嚥性肺炎の 1 例 . 第 34 回日本集中治療医学会学術集会, 2007 . 3 .
- 60) 吉田結富子, 中里桂子, 守 真輝, 赤田信二¹⁾, 宮城泰雄¹⁾, 本郷 卓¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 大井良之²⁾, 坂本篤裕, 田中啓治¹⁾ (¹⁾付属病院集中治療室, ²⁾日本大学歯学部麻酔科): 開胸術後の心房細動に及ぼす landiolol の効果 . 第 34 回日本集中治療医学会学術集会, 2007 . 3 .
- 61) 赤田信二, 寺嶋克幸¹⁾, 竹田晋浩¹⁾, 田中啓治¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院集中治療室): 非侵襲的陽圧換気施行患者におけるデクスメトミジンの鎮静効果 . 第 34 回日本集中治療医学会学術集会, 2007 . 3 .
- 62) 岸川洋昭, 小林克也, 竹森 健, 幸田修典, 岡部 格, 川口宏志, 坪光 晃, 坂本篤裕 : デクスメトミジンはヒト好中球スーパーオキシド産生量をアポトーシスにより低下させる . 第 34 回日本集中治療医学会学術集会, 2007 . 3 .
- 63) 守 真輝, 中里桂子, 吉田結富子, 宮城泰雄¹⁾, 本郷 卓¹⁾, 金 徹, 中西一浩, 竹田晋浩¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院集中治療室): 左鎖骨下アプローチにて透析用カテーテル挿入時に鎖骨下動脈を貫通して大動脈弓部に誤挿入した 1 症例 . 第 34 回日本集中治療医学会学術集会, 2007 . 3 .
- 64) 野口裕幸¹⁾, 青木郁香¹⁾, 山口敏明¹⁾, 原 正高¹⁾, 坂本篤裕 (¹⁾付属病院 ME 部): 新規輸液ポンプ導入に関する検討 . 第 34 回日本集中治療医学会学術集会, 2007 . 3 .

[武蔵小杉病院麻酔科]

研究概要

当施設では、産科麻酔、術後鎮痛、循環動態、ペインクリニック領域を主に研究している。

1. 産科麻酔

- (1) 帝王切開術中に用いる子宮収縮薬であるエルゴメトリンとオキシトシンが胸部硬膜外圧に与える影響。
- (2) 仰臥位低血圧症候群と硬膜外圧、下肢静脈圧の変動。
- (3) 子宮収縮薬による出血量の差異。
- (4) 妊婦の感覚閾値の上昇とプロゲステロン値との関連。
- (5) 母子のきずなが希薄になりがちな帝王切開でカンガルーケアを導入したが、その問題点。
- (6) 帝王切開術後硬膜外鎮痛の安静時起立への影響。以上について検討した。

2. 術後鎮痛

- (1) ケタミンは、硬膜外モルヒネ/ブピバカインによる鎮痛を増強するが、その血中濃度について検討した。
- (2) ロピバカイン硬膜外持続投与における有用性を検討した。

3. 循環動態

- (1) ランジオロールの系時的血行動態の変化について検討した。
- (2) 高齢者における砕石位からの体位復帰にともなう血圧変動について検討した。

4. ペインクリニック

- (1) 当施設では積極的にエピドラスコピーを導入している。癒着性硬膜外炎症例におけるエピドラスコピーの診断・治療での有用性、また日本整形外科学会の腰痛スコアからみたエピドラスコピーの有効性を多施設で検討した。
- (2) 外来での腰部硬膜外ブロック後の重心動揺を検討し、安全に帰宅できるように必要な観察時間を検討した。

腹腔鏡下子宮筋腫核出術では、生理食塩液を使用するため出血量の算定が困難であるが、ヘモキューを用いた出血量の算定について検討した。また、医育機関と一般病院での手術症例と麻酔法の変遷、体腔内異物遺残防止対策と麻酔法について検討した。さらに当院での赤血球製剤の使用状況を検討した。

症例報告では、脳死ドナーの麻酔管理、深部静脈血栓に対する下大静脈フィルター留置症例の麻酔管理について報告した。

研究業績

論文

(1) 研究報告書：

- 1) Suzuki M, Haraguti S¹⁾, Sugimoto K²⁾, Kikutani T, Shimada Y, Sakamoto A³⁾(¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院外科,²⁾東戸塚記念病院麻酔科,³⁾日本医科大学付属病院麻酔科): Low-dose Intravenous Ketamine Potentiates Epidural Analgesia after Thoracotomy. *Anesthesiology* 2006 ; 1 (105): pp111-119 .

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 島田洋一：無痛分娩．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 2) 島田洋一：産科麻酔と医療訴訟．分娩と麻酔，2006．12．

(2) 一般講演：

- 1) Suzuki M, Yokoyama K, Sato K, Kitamura A, Shimada Y : Factors Associated with Acute Blood Pressure Drop upon Repositioning from the Lithotomy Position . *ASA (Chicago)*, 2006 . 10 .
- 2) 鈴木万三, 佐藤花代子, 稲木敏一郎, 横山健至, 丸茂穂積, 島田洋一：高齢者における砕石位からの体位復帰にともなう血圧変動に影響する因子の検討．日本麻酔科学会第53回学術集会，2006．6．
- 3) 島田洋一, 井梅和美¹⁾, 井上雅則¹⁾, 花出 豊¹⁾, 新竹孝征¹⁾, 勝部康弘¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院中央検査室): 当日直時の輸血業務の現状．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 4) 稲木敏一郎, 大江裕美子, 佐藤花代子, 北村 晶, 島田洋一：術前に肺梗塞を繰り返して発症した，先天性AT-TIII欠乏症患者の麻酔．日本臨床麻酔学会，2006．10．
- 5) 大江裕美子, 稲木敏一郎, 横山健至, 北村 晶, 島田洋一, 坂本篤裕¹⁾(¹⁾付属病院麻酔科): 電気メスの使用により消毒薬に引火，リネンが炎上し火傷を負わせてしまった1症例．日本臨床麻酔学会，2006．10．
- 6) 佐藤花代子, 稲木敏一郎, 横山健至, 大江裕美子, 島田洋一, 坂本篤裕¹⁾(¹⁾付属病院麻酔科): 広範囲ラジオ波焼灼が原因と思われた覚醒遅延の1症例．日本臨床麻酔学会，2006．10．
- 7) 村瀬熱紀, 稲木敏一郎, 大江裕美子, 横山健至, 北村 晶, 島田洋一：Broncho-cath 接続部の機械的閉塞による換気不全を生じた分離肺換気症例．日本臨床麻酔学会，2006．10．
- 8) 杉本季久造¹⁾, 望月 功¹⁾, 横尾香代子²⁾, 小河原美代子²⁾, 島田洋一 (¹⁾東戸塚記念病院, ²⁾日本医科大学武蔵小杉病院看護部中央手術室): 一般病院における並列麻酔について．日本手術医学会，2006．11．

[多摩永山病院麻酔科]

研究概要

本年度もペインクリニック領域において、治療困難な痛みに対する新しい神経ブロックについて思案、検討した。特に筋膜痛症候群と顎関節症を対象にしたブロックに重点を置き、基礎的研究を継続して行っている。さらに難治性疼痛に対しエピドラスコピー、神経根ブロック、高周波熱凝固、硬膜外への脊髄刺激電極の植え込みを施行するなど、積極的な治療を行うようになった。

手術室においては、既存の喉頭鏡の欠点を改め、新たな喉頭鏡の開発を行った。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Kobayashi N, Yamamoto Y : Halothane reduce hypoxic ventilatory depression thorough TASK-1 K channel, and not Kv or BK channel . ASA annual meeting (Chicago, USA), 2006 . 10 .
- 2) 今井洋史, 西川晃司, 飯野 治, 山田光輝 : 先天性多発性関節拘縮症 (AMC) による側彎症を合併した妊婦の麻酔経験 . 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006 . 6 .
- 3) 今井洋史, 幸田真理子, 小林德行, 西川晃司, 石原之法 : 高炭酸ガス血症により脳波エントロピー値が低下したと考えられた1例 . 日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006 . 6 .
- 4) 西川晃司, 山田光輝 : 先天性筋緊張性ジストロフィー患者の麻酔経験 . 日本麻酔科学会東京・関東甲信越支部第46回合同学術集会, 2006 . 9 .
- 5) 幸田真理子, 古市昌之¹⁾, 西川晃司, 幸田修典¹⁾, 山田光輝, 坂本篤裕¹⁾(¹⁾麻酔科学) : 腹部大動脈完全閉塞によるLeriche症候群を合併した胃全摘術の麻酔経験 . 日本臨床麻酔学会第26回大会, 2006 . 10 .

[千葉北総病院麻酔科]

研究概要

“ 外科侵襲に対する生態防御反応の調整・抑止 ”, “ 硬膜外麻酔・脊髄くも膜下麻酔の生体への影響および管理法・手技 ”, “ 気道の評価法 ” などをテーマとした臨床研究が継続されている。

本年度も、手術室、病室、外来(ペインクリニック)など日常的な臨床現場におけるより安全で有効な実践手技; マグネシウム, 遮断薬, カルペリチドなど各種薬物が麻酔中の循環動態および気道抵抗に及ぼす影響についての検証; 薬物の新たな薬理効果と臨床応用に関する研究; 緩和医療における薬物動態の検討; 疼痛における東洋医学効能など, 多岐に亘る研究が行われた。新たな薬物の生体環境に及ぼす役割など基礎的研究のほか, 患者の苦痛の除去, QOLの改善はもとより, 医師側の治療への協力・助力となる方向での手技的配慮などを主題とした研究が中心となった。鎮痛法(術後鎮痛, 難治性疼痛, 脊髄くも膜下麻酔, 神経ブロック)の向上に向けた研究は今後も継続して行うことにしている。

気道評価法, 新たな薬剤の循環および気道への影響, モニタリング, 区域麻酔に関して新たな知見が得られつつある。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Wajima Zen'ichiro, Shiga T, Imanaga K, Inoue T, Ogawa R¹⁾(¹⁾Department of Anaesthesiology) : Effect

of prophylactic bronchodilator treatment with i. v. carperitide on airway resistance and lung compliance after tracheal intubation . Br J Anaesth 2006 ; 96 (5): 660-664 .

- 2) Shiga T¹⁾, Wajima Z, Apfel CC²⁾, Inoue T, Oe Y¹⁾(¹⁾ Department of Anesthesiology, Toho University Ohashi Medical Center , ²⁾ Department of Anesthesia and Preoperative Care, University of California at San Francisco): Diagnostic accuracy of transesophageal echocardiography, helical computed tomography, and magnetic resonance imaging for suspected thoracic aortic dissection : systematic review and meta-analysis . Arch Intern Med 2006 ; 166 (13): 1350-1356 .

(2) 総説 :

- 1) 輪嶋善一郎 : 硬膜外麻酔, 脊髄くも膜下麻酔における感染症合併症と予防法, 発生後の治療法について . 臨床麻酔 2006 ; 30 (3): 559-561 .
- 2) 益田律子 : 硬膜外鎮痛 (がん性疼痛管理) . ペインクリニック別冊春号 2006 ; 27 (春): S168-S179 .
- 3) 益田律子, 田沼久美子¹⁾(¹⁾解剖学第2) : 神経ブロックの最前線 : 神経ブロックに役立つ新しい解剖学的知見 . ペインクリニック 2006 ; 27 (6): 691-703 .
- 4) 輪嶋善一郎 : 遮断薬の臨床応用の将来的可能性 . 日本臨床麻酔学会誌 2006 ; 26 (4): 398-403 .
- 5) 輪嶋善一郎 : 遮断薬の鎮静・鎮痛・麻酔補助作用 . 臨床麻酔 2006 ; 30 (10): 1515-1520 .
- 6) 益田律子 : 麻酔科医とオピオイド (緩和医療・ペインクリニック領域におけるオピオイド) . 日本臨床麻酔学会誌 2006 ; 26 (11): 646-653 .
- 7) 益田律子 : 中枢神経軸における疼痛治療のリスクマネジメント : 近年の話題 . ペインクリニック 2006 ; 27 (11): 1419-1431 .
- 8) 井上哲夫 : 気道確保困難時に役立つ器具・方法 : 徹底分析シリーズ : 気道確保のストラテジー . LiSA 2007 ; 14 (1): 40-41 .
- 9) 井上哲夫 : 外傷の麻酔 ; 胸部外傷 (特集 : 救急医のための麻酔知識) . 救急医学 2007 ; 31 (1): 89-92 .
- 10) 益田律子 : くも膜下鎮痛法 . 痛みと臨床 2007 ; 17 (1): 83-87 .
- 11) 井上哲夫 : ショック係数 (shock index), ショックスコア (shock score) (特集 : 指標と数値算出法, 定義と使い方) . 救急医学 2007 ; 31 (3): 266-266 .

(3) 症例報告 :

- 1) 輪嶋善一郎, 益田律子, 志賀俊哉, 今永和幸¹⁾, 井上哲夫, 坂本篤裕²⁾(¹⁾昭和大学横浜市北部病院麻酔科, ²⁾日本医科大学付属病院麻酔科) : 頭部三点固定時に生じた連発する上室性期外収縮に対するエスモロールの効果 . 日本臨床麻酔学会誌 2006 ; 26 (2): 203-205 .
- 2) 斎藤 剛, 輪嶋善一郎, 加藤信也, 設楽敏朗, 井上哲夫, 小川 龍¹⁾(¹⁾付属病院麻酔科) : 挿管困難が予想された前縦靱帯骨化症合併患者の麻酔管理 . 麻酔 2006 ; 55 (10): 1257-1259 .

著 書

- 1) 井上哲夫 : [分担] 脊椎麻酔 Q22 . これだけは知っておきたい手術室ナースング Q&A (天羽敬祐, 川村隆枝編集), 2006 ; pp48-49, 総合医学社 .
- 2) 井上哲夫 : [分担] 術中管理 Q74 . これだけは知っておきたい手術室ナースング (天羽敬祐, 川村隆枝編集), 2006 ; pp160-161, 総合医学社 .
- 3) 井上哲夫 : [分担] 手術終了時と術後処置 Q82 . これだけは知っておきたい手術室ナースング Q&A (天羽敬祐, 川村隆枝編集), 2006 ; pp179-180, 総合医学社 .
- 4) 益田律子 : [分担] 脊髄くも膜下麻酔で麻酔レベルを決定する因子について . これだけは知っておきたい手術室ナースング Q & A (天羽敬祐, 川村隆枝編集), 2006 ; pp50-51, 総合医学社 .
- 5) 益田律子 : [分担] 脊髄くも膜下麻酔中の主な合併症とその処置について . これだけは知っておきたい手術室

- ナーシングQ & A (天羽敬祐, 川村隆枝編集), 2006; pp60-61, 総合医学社.
- 6) 井上哲夫: [分担] 危機管理・麻酔の安全: 気道管理のストラテジー. JSA リフレッシャーコース2002 2004 (社団法人日本麻酔科学会教育委員会・安全委員会編), 2006; pp66-73, メディカル・サイエンス・インターナショナル.
- 7) 田沼久美子¹⁾, 益田律子, 三枝英人²⁾(¹⁾解剖学第2, ²⁾附属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科): [共著] からだの事典 (田沼久美子, 益田律子, 三枝英人監修), 2006; pp92-185, 成美堂出版.
- 8) 井上哲夫: [分担] 気道確保に欠かせないスキル. 手術に欠かせない臨床麻酔のスキル 各科手術の麻酔に役立つ最新のワザと知恵 (古河義久編集), 2007; pp25-32, 真興交易医書出版部.

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 加藤信也: 疼痛機序判別法としてのドラッグチャレンジテスト. 日本良導絡自律神経学会, 2006. 9.

(2) 教育講演:

- 1) 井上哲夫: 手術の安全と麻酔について. 第28回日本麻酔・薬理学会市民公開講座, 2006. 6.
- 2) 益田律子: 安全な神経ブロックに必要なエビデンス. 第40回日本ペインクリニック学会大会, 2006. 7.
- 3) 益田律子: 硬膜外腔, くも膜下腔, 脊髄の解剖. 平成18年度東京麻酔専門医会リフレッシャーコース, 2006. 7.

(3) シンポジウム:

- 1) 輪嶋善一郎: 安全な硬膜外穿刺法 (安全な硬膜外麻酔). 第12回硬膜外麻酔研究会, 2006. 2.
- 2) 益田律子: オピオイドの臨床: 最近の話題「術後鎮痛とオピオイド」. 第27回鎮痛薬・オピオイドペプチドシンポジウム, 2006. 9.
- 3) 益田律子: 高齢者の麻酔に欠かせないスキル「術後鎮痛」. 第19回日本老年麻酔学会, 2007. 2.

(4) パネルディスカッション:

- 1) 輪嶋善一郎, 志賀俊哉¹⁾, 今永和幸²⁾, 井上哲夫, 坂本篤裕³⁾(¹⁾東邦大学大橋医療センター麻酔科, ²⁾昭和大学横浜市北部病院麻酔科, ³⁾日本医科大学付属病院麻酔科): ヒトにおいてランジオロールはセボフルランのMACを低下させるか?. 第53回日本麻酔科学会学術集会, 2006. 6.
- 2) 斎藤 剛, 輪嶋善一郎, 志賀俊哉¹⁾, 今永和幸²⁾, 井上哲夫, 坂本篤裕³⁾(¹⁾東邦大学大橋医療センター麻酔科, ²⁾昭和大学横浜市北部病院麻酔科, ³⁾日本医科大学付属病院麻酔科): ランジオロールの投与により vital capacity rapid inhalation induction による意識消失時間を短縮させる. 第53回日本麻酔科学会学術集会, 2006. 6.
- 3) 輪嶋善一郎, 益田律子, 志賀俊哉¹⁾, 今永和幸²⁾, 斎藤 剛, 井上哲夫, 坂本篤裕³⁾(¹⁾東邦大学大橋医療センター麻酔科, ²⁾昭和大学横浜市北部病院麻酔科, ³⁾日本医科大学付属病院麻酔科): 持続硬膜外麻酔・ブロックに起因する硬膜外膿瘍の発生頻度 (徹底討論). 第40回日本ペインクリニック学会大会, 2006. 7.

(5) 一般講演:

- 1) Masuda R, Tanuma K¹⁾, Tanuma Y²⁾, Inoue T (¹⁾Department of 2nd Anatomy, Nippon Medical School, ²⁾Department of Anatomy, Teikyo University): Meningeal Structures of Cervicothoracic Subarachnoid Space. XXV Annual European Society of Regional Anaesthesia Congress (Monte Carlo), 2006. 9.
- 2) Wajima Zen'ichiro, Shiga T¹⁾, Imanaga K²⁾, Inoue T, Sakamoto A³⁾(¹⁾Department of Anesthesiology, Toho University Ohashi Medical Center, ²⁾Department of Anesthesia, Showa University Northern Yokohama Hospital, ³⁾Department of Anesthesiology, Nippon Medical School): Intravenous Landiolol, a Novel -Adrenergic Blocker, Reduces MAC of Sevoflurane in Human Adults. American Society of Anesthesiologists 2006 Annual Meeting (Chicago), 2006. 10.
- 3) Imanaga K¹⁾, Wajima Zen'ichiro, Shiga T²⁾, Inoue T, Sakamoto A³⁾(¹⁾Department of Anesthesia, Showa University Northern Yokohama Hospital, ²⁾Department of Anesthesiology, Toho University Ohashi Medical

- Center , ³⁾ Department of Anesthesiology, Nippon Medical School): Landiolol Shortens the Time to Loss of Consciousness by Vital Capacity Rapid Inhalation Induction . American Society of Anesthesiologists 2006 Annual Meeting (Chicago), 2006 . 10 .
- 4) Shiga T¹⁾, Wajima Zen'ichiro , Apfel CC²⁾, Inoue T , Ohe Y¹⁾(¹⁾ Department of Anesthesiology, Toho University Ohashi Medical Center , ²⁾ Department of Anesthesia and Preoperative Care, University of California at San Francisco): Diagnostic Accuracy of TEE, Helical CT and MRI in Suspected Thoracic Aortic Dissection : Meta-Analysis . American Society of Anesthesiologists 2006 Annual Meeting (Chicago), 2006 . 10 .
- 5) Ogura A , Yoshikawa T , Inoue T , Sakamoto A¹⁾(¹⁾ Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Incidence of Transient Paresthesia During Epidural Catheter Placement . American Society of Anesthesiologists 2006 Annual Meeting (Chicago), 2006 . 10 .
- 6) Ogura A , Saito T , Yoshikawa T¹⁾, Inoue T , Sakamoto A²⁾(¹⁾ Dept. of Anesthesiology, National Tochigi Hospital , ²⁾ Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School): Clinical Comparison between Midline and Paramedian Approaches for Epidural Catheter Placement . NYSSA 60th PostGraduate Assembly(New York), 2006 . 12 .
- 7) 後藤真弓 , 朽方規喜¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院救命救急センター): 光学式喉頭鏡 TruviewEVO2の使用経験 . 第34回日本救急医学会総会・学術集会 , 2006 . 5 .
- 8) 加藤信也 , 益田律子 , 井上哲夫 , 坂本篤裕¹⁾(¹⁾ 付属病院麻酔科): 星状神経節への局所麻酔薬注入および直流通電療法が著効した帯状疱疹疼痛患者1症例 . 第53回日本麻酔科学会学術集会 , 2006 . 6 .
- 9) 益田律子 , 井上哲夫 , 加藤信也 , 後藤真弓 : 帝王切開術におけるフェンタニル添加が高比重ブピバカイン脊髄くも膜下麻酔の無痛域・心拍数・呼吸に及ぼす影響 : 第2報 . 第53回日本麻酔科学会学術集会 , 2006 . 6 .
- 10) 後藤真弓 , 井上哲夫 : 甲状腺疾患患者の喉頭展開に対する頸部レントゲンからのアプローチ . 第53回日本麻酔科学会学術集会 , 2006 . 6 .
- 11) 小倉 明 , 吉河達祐¹⁾(¹⁾ 国立病院機構栃木病院麻酔科): 挿入時に合併症を起こさない理想的な硬膜外カテーテルとは ? . 第53回日本麻酔科学会学術集会 , 2006 . 6 .
- 12) 益田律子 , 加藤信也 , 輪嶋善一郎 , 井上哲夫 , 瀬谷知子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院外科): 遠隔部位の脊椎転移痛に脊髄くも膜下鎮痛法が奏功した2症例 . 第40回日本ペインクリニック学会大会 , 2006 . 7 .
- 13) 加藤信也 , 益田律子 , 井上哲夫 , 坂本篤裕¹⁾(¹⁾ 付属病院麻酔科): 星状神経節への直流通電および局所麻酔薬注入療法が奏功した帯状疱疹後神経痛患者2症例 . 第40回日本ペインクリニック学会大会 , 2006 . 7 .
- 14) 小倉 明 , 井上哲夫 , 坂本篤裕¹⁾(¹⁾ 付属病院麻酔科): 穿刺部位の違いによる硬膜外カテーテル挿入時のparesthesiaの頻度について . 第40回日本ペインクリニック学会大会 , 2006 . 7 .
- 15) 小倉 明 , 吉河達祐¹⁾, 井上哲夫 , 坂本篤裕²⁾(¹⁾ 国立病院機構栃木病院麻酔科 , ²⁾ 日本医科大学付属病院麻酔科): 腰部硬膜外穿刺時における正中法と旁正中法の比較 (第3報) . 第26回臨床麻酔学会 , 2006 . 10 .

18．救急医学講座

[付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩 永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック]

研究概要

救急医学教室では、外傷、整形外科、脳外科、熱傷、中毒、災害、病態整理、基礎研究などの分野について研究を行っている。

外傷に関しては、治療に対する我々の治療戦略の一部を原著論文と症例報告を通じて欧文で行った。これらの論文を通じて気管損傷、肝損傷、腹部に対するOpen management後の腹壁ヘルニアに対して国際的にわれわれの治療戦略を示すことができ、高い評価を得た。

整形外科領域に関しては、難治性の四肢骨折への最小侵襲プレート固定手術、高齢者の骨盤骨折などについて研究を行い、発表した。

脳外科領域に関しては、文部科学省科学研究費の助成をうけ、重症頭蓋内疾患、脳死患者における誘発電位測定の意義を明らかにした。また、動物実験により虚血脳におけるアスコルビンラジカルの作用や意義をMRSを用いて明らかにした。

熱傷に関しては、気道熱傷に対する持続的一酸化炭素モニター、高齢者熱傷、肺水分量のモニターを行い、フィルム療法法の検討等を行った。

中毒については、胃内視鏡を利用した胃洗浄について報告し、日本中毒学会で表彰を受けた。また、三環系抗うつ薬服用患者の心電図変化と血中濃度との関係を報告した。

災害に関しては、救急医療体制、災害医療に関わる厚生労働科学研究費補助金を受け研究を実施した。テーマは、メディカルコントロール体制、災害時医療体制、テロに対する医療体制であった。

病態生理については、日本救急医学会よりの急性期DIC診断基準の作成に加わり、新しいDIC治療開始基準を発表し、日本血栓止血学会よりDIC治療ガイドラインの提唱を行った。

基礎研究としては、救急医学教室の主研究課題を「ショックに続発する多臓器障害の機序解明」と据え、研究を行っている。テーマは、脂質メディエータ、NMRメタボロミクスを用いたショック時における組織代謝の変化の解析等であった。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Masuno T, Moore Ernest E, Cheng Aaron M, Sarin Eric L, Banerjee A : Bioactivity of postshock mesenteric lymph depends on the depth and duration of hemorrhagic shock . Shock 2006 ; 26 (3): 285-289 .
- 2) Yoshida R, Aiboshi J, Koike K, Sato N, Yamamoto Y : Serum Interleukin-18 Concentrations in Burn Patients . JMAJ (Japan Medical association Journal) 2006 ; 49 (2): 55-61 .
- 3) Cheng Aaron M, Moore Ernest E, Masuno T, Escobar Guillermo A, Sarin Eric L, Johnson Jeffrey L, Eckels P, Banerjee A : Normal mesenteric lymph blunts the pulmonary inflammatory response to endotoxin . Journal of Surgical Research 2006 ; 136 (2): 166-171 .
- 4) Katsuno M, Yokota H, Yamamoto Y, Teramoto A : Increased regional interleukin-4 during the acute stage of severe intracranial disorders . Neurol Med Chir (Tokyo) 2006 ; 46 (10): 471-475 .
- 5) 渥美生弘, 戸田茂樹¹⁾, 朝倉隆之¹⁾, 池田幸穂²⁾, 横田裕行, 寺本 明¹⁾, 山本保博 (¹⁾ 日本医科大学脳神経外

科学, ²⁾東京医科大学八王子医療センター脳神経外科学): Extracellular Ascorbic Acid Radical Formation During Cerebral Ischemia-reperfusion Utilizing 4-vessel Occlusion In Rats . 日本救急医学会雑誌 2006 ; 17 (11): 803-809 .

- 6) Kushimoto S , Yamamoto Y , Aiboshi J , Ogawa F , Koido Y , Yoshida R , Kawai M : Usefulness of the bilateral anterior rectus abdominis sheath turnover flap method for early fascial closure in patients requiring open abdominal management . World J Surg 2007 ; 31 (1): 2-8 .
- 7) 柴田泰史 , 久志本成樹 , 飯野幸永 , 山本保博 : 急性期患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白値と骨格筋傷害の関連性について . 医学検査 2006 ; 55 : 998-1002 .
- 8) 久志本成樹 , 小井土雄一 , 川井 真 , 横田裕行 , 吉田竜介 , 山本保博 : ステロイド投与症例における細菌感染症重症度診断の指標としてのプロカルシトニン測定の有用性 . バイオメディカル 2006 ; 16 : 115-121 .
- 9) 小井土雄一 : どうしたら従来型の主治医制でやれるか . ER Magazine 2006 ; 3 (5): 408-412 .
- 10) 宮内雅人 : 治療に難渋した A 型劇症肝炎の 1 例 . 日本救急医学会関東地方会雑誌 2006 ; 27 (44): 56-57 .
- 11) 久志本成樹 , 相星淳一 , 新井正徳 , 原田尚重 , 磯部将人 , 田邊晴山 , 宮内雅人 , 雨森俊介 , 尾本健一郎 , 小川太志 , 増野智彦 , 小井土雄一 , 吉田竜介 , 横田裕行 , 山本保博 : Open abdomen に対する早期閉創・閉腹における両側腹直筋鞘前葉反転法の有用性 . 日腹部救急医学会誌 2007 ; 27 (1): 27-35 .

(2) 綜説 :

- 1) Moore Ernest E , Cheng Aaron M , Moore Hunter B , Masuno T , Johnson Jeffrey L : Hemoglobin-based oxygen carriers in trauma care : scientific rationale for the US multicenter prehospital trial . World J Surg 2006 ; 30 (7): 1247-1257 .
- 2) Yasuhiro Y : Disaster Management in the Acute Phase . Japan Medical Association Journal-50th Anniversary Special Edition 2007 ; 50 (1): 72-79 .
- 3) 吉田竜介 , 山本保博 , 寺田泰蔵 : 東京都における事後検証の現状と問題点 . 救急医療ジャーナル 2006 ; 78 (14): 6-10 .
- 4) 川井 真 : 顔面骨・頸部外傷 . 救急救命士標準テキスト 2006 ; 7 : 829-833 .
- 5) 川井 真 : 脊椎・脊髄外傷 . 救急救命士標準テキスト 2006 ; 7 : 834-839 .
- 6) 小倉裕司 , 遠藤重厚 , 丸藤 哲 , 池田寿昭 , 石倉宏恭 , 射場敏明 , 上山昌史 , 江口 豊 , 大友康裕 , 岡本好司 , 久志本成樹 , 小関一英 , 齋藤大蔵 , 真弓俊彦 , 村田厚夫 : 第 3 章 2 国際血栓止血学会 (ISTH) overt DIC 診断基準との比較 . 救急医学 2006 ; (30): 489-494 .
- 7) 布施 明 : ガス壊疽 . 日本医師会雑誌 2006 ; 135 (1): S246-S247 .
- 8) 吉田竜介 , 寺田泰蔵 , 山本保博 : 一般市民とメディカルコントロールのかかわり . 救急医学 2006 ; 30 (4): 471-474 .
- 9) 西村泰司¹⁾ , 山本保博 (¹⁾泌尿器科学): 救急的尿路造影 . 外科治療 2006 増刊 「 外科救急処置アトラス 」 2006 ; 94 (増刊): 271-277 .
- 10) 久志本成樹 , 射場敏明¹⁾ , 齋藤大蔵¹⁾ , 遠藤重厚¹⁾ , 丸藤 哲¹⁾ , 池田寿昭¹⁾ , 石倉宏恭¹⁾ , 上山昌史¹⁾ , 江口豊¹⁾ , 大友康裕¹⁾ , 岡本好司¹⁾ , 小倉裕司¹⁾ , 小関一英¹⁾ , 真弓俊彦¹⁾ , 村田厚夫¹⁾ (¹⁾日本救急医学会 DIC 特別委員会): 分子マーカー . 救急医学 2006 ; 30 (5): 607-609 .
- 11) 久志本成樹 : 穿通性腹部外傷患者への予防的抗菌薬投与の指針 . 救急・集中治療 2006 ; 18 (5, 6): 612-613 .
- 12) 堤 晴彦¹⁾ , 横田裕行 , 奥寺 敬²⁾ , 奥地一夫³⁾ , 鈴木伸行⁴⁾ , 秋山浩利⁵⁾ (¹⁾埼玉医科大学総合医療センター高度救命救急センター , ²⁾富山大学救急・災害医学 , ³⁾奈良県立医科大学高度救命救急センター , ⁴⁾豊橋市民病院救命救急センター , ⁵⁾川越地区消防局): 意識障害に対するプレホスピルケアの標準化 . 臨床内科 (特集) 神経救急 : 意識障害は怖くない 2006 ; 97 (5): 860-864 .
- 13) 久志本成樹 : X 線画像と CT 画像につよくなる . Expert Nurse 2006 ; 22 (7): 27-74 .

- 14) 射場敏明¹⁾, 久志本成樹⁽¹⁾ (順天堂大学浦安病院外科): 生理的プロテアーゼインヒビター・血栓止血誌 2006; 17(3): 314-319.
- 15) 山本保博: 救急医学と救急医療. 日本医師会雑誌「実践救急医療」 2006; 135(特別号(1)): s30-s33.
- 16) 川井 真, 島本 実, 小川太志, 山本保博: 熱傷・化学損傷. 日本医師会雑誌「実践救急医療」 2006; 135(特別号(1)): s248-s251.
- 17) 平間久雄, 山本保博: 刺咬症. 日本医師会雑誌「実践救急医療」 2006; 135(特別号(1)): s252-s253.
- 18) 山本保博, 久志本成樹: Fulminant fat embolism syndromeに対するPCPSの適応は待ったなし. 日集中医誌 2006; 13(4): 403-404.
- 19) 横田裕行: 臓器提供側からみた脳死下臓器提供の問題点, 脳死移植と社会. 総合臨床 2006; 55(8): 2092-2097.
- 20) 横田裕行: 脳死下臓器提供と臓器提供施設 脳死判定を含めて. 外科治療 2006; 94(1): 6-12.
- 21) 山本保博: 溺水, 切り傷, 擦り傷, 骨折, 虫刺され, 熱中症. ホスピタウン 2006; 14(7): 18-21.
- 22) 横田裕行: 海外医療援助 スリランカ津波災害から学ぶもの. 防衛衛生 2006; 53: 23-32.
- 23) 朝倉英策¹⁾, 久志本成樹⁽¹⁾ (金沢大学): DICの病態定義, 感染症と非感染症. 血栓止血誌 2006; 17(3): 284-293.
- 24) 久志本成樹, 小井土雄一, 田邊晴山: 腹直筋鞘前葉反転法. 泌尿器外科 2006; 19: 1181-1187.
- 25) 田邊晴山, 坂本和嘉子, 久志本成樹: 肝細胞癌破裂. 早期診断法と初期治療. 救急医学 2006; 30: 1505-1509.
- 26) 久志本成樹, 山本保博: 外傷性ショック. 成人病と生活習慣病 2006; 36(10): 109-1214.
- 27) 遠藤重厚, 丸藤 哲, 池田寿昭, 石倉宏恭, 射場敏明, 上山昌史, 江口 豊, 大友康裕, 岡本好司, 小倉裕司, 久志本成樹, 小関一英, 齋藤大蔵, 真弓俊彦, 村田厚夫: 日本救急医学会による急性期DIC診断基準作成にあたって. 救急医学 2006; (30): 1574-1575.
- 28) 近藤久禎: わが国の災害医療体制. 月間薬事 2006; 48(13): 27-36.
- 29) 金子純也, 横田裕行: 症候別 患者さんを上手に診るコツ 第8回 痙攣. junior 2006; (485): 25-30.
- 30) 山本保博: 1次救命処置について (Basic life support using AED). 皮膚と美容 2006; 38(4): 206-214.
- 31) 上野幸廣¹⁾, 阪本雄一郎¹⁾, 松本 尚¹⁾, 原 義明¹⁾, 朽方規喜¹⁾, 武井健吉¹⁾, 富田祥輝¹⁾, 益子邦洋¹⁾, 山本保博⁽¹⁾ (千葉北総病院救命救急センター): 救命救急センター専従医による上部消化管出血に対する治療成績についての検討. 日本臨床救急医学会雑誌 2006; 9(6): 444-449.
- 32) 山本保博: 薬剤師に対する期待. 月刊薬事 2006; 48(13): 19-20.
- 33) 吉田竜介: 市民に対する新ガイドライン指導上のポイント. プレホスピタル・ケア 2007; 20(2): 9-16.
- 34) 久志本成樹: 新しいDIC治療薬: 生理的プロテアーゼインヒビター. 治療学 2007; 41(3): 315-317.
- 35) 久志本成樹: Fibrinogen, AT-III. 救急医学 2007; 31(3): 300-301.
- 36) 山本保博: とっさのときの救急法. NHKほっとモーニング 2007; 65-72.
- 37) 金子 剛, 横田裕行: 脳死判定の実際. 指標と数値算法 2007; 31: 286-287.
- (3) 症例報告:
- 1) Kushimoto S, Koido Y, Omoto K, Aiboshi J, Ogawa F, Yoshida R, Yamamoto Y: Immediate postoperative angiographic embolization after damage control surgery for liver injury: report of a case. Surg Today 2006; 36(7): 566-569.
- 2) Kushimoto S, Shibata Y, Koido Y, Kawai M, Yokota H, Yamamoto Y: The usefulness of procalcitonin measurement for assessing the severity of bacterial infection in patients requiring corticosteroid therapy. J Nippon Med Sch 2006; 73: 354-356.
- 3) Matsumoto H, Mashiko K, Hara Y, Takuhiro K, Kamikawa Y, Sakamoto Y, Morita R, Hirose A, Mochizuki T, Yamamoto Y: 'Pipe Organ'-Like Retroperitoneal Drainage After Tile's C Open Pelvic Frac-

ture . The Journal of Trauma Injury, and Critical Care 2006 ; 60 (6): 1347-1349 .

- 4) Kushimoto S , Nakano K , Aiboshi J , Takayama Y , Hanada Y , Koido Y , Ueda Y , Yamamoto Y : Bronchofiberscopic diagnosis of bronchial disruption and pneumonectomy using a percutaneous cardio-pulmonary bypass system . J Trauma 2007 ; 62 (1): 247-251 .
- 5) 中江竜太, 渥美生弘, 久志本成樹, 小井土雄一, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: 早期より左側頭葉底部に異常信号域を認めた一酸化炭素中毒の1例. 中毒研究 2006 ; 19 (3): 273-278 .
- 6) 中江竜太, 渥美生弘, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 脳動脈瘤破裂との鑑別が困難であった外傷性クモ膜下出血の1例. 日本救急医学会関東地方会雑誌 2006 ; 27 (44): 108-109 .
- 7) 田邊晴山, 小川太志, 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博: 急性肺動脈血栓栓症による心停止に対してPCPSを導入し救命しえた1例. Therapeutic Research 2007 ; 3 (3): 375-379 .
- 8) 高山泰広: 第37回過大侵襲研究会 最優秀演題 広範囲デブリードメントを必要としたガス壊疽の1症例. Therapeutic Research 2007 ; 28 (3): 389-392 .

(4) 編集:

- 1) 山本保博: 日本医師会雑誌「実践救急医療」. 日本医師会雑誌「実践救急医療」 2006 ; 135 (特別号 (1)) .

(5) 臨床医からの質問に答える:

- 1) 柴田泰史¹⁾, 久志本成樹 (¹⁾ 付属病院中央検査部): 重症感染症に対してステロイドを投与した場合, 炎症マーカーは何がよいのですか? . 検査と技術 2006 ; 34 (8): 756-759 .

(6) 研究報告書:

- 1) 柴田泰史¹⁾, 久志本成樹, 飯野幸永¹⁾, 山本保博, 里村克章²⁾ (¹⁾ 付属病院中央検査部, ²⁾ 内科学第1): 急性期患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白値と骨格筋傷害の関連性について. 医学検査 2006 ; 55 (9): pp998-1002 .
- 2) 横田裕行: 自動体外式除細動 (AED) を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究. 平成18年度厚生労働省科学研究費補助金循環器等生活習慣疾病対策総合研究事業「自動体外式除細動 (AED) を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究」研究報告書 2007 .
- 3) 横田裕行: ポテンシャルドナーを増やすための電気生理学的検査を用いた脳死判定に関する研究. 平成16年度～18年度文部科学省科学研究費補助金 (萌芽研究) 「ポテンシャルドナーを増やすための電気生理学的検査を用いた脳死判定に関する研究」研究報告書 2007 .
- 4) 山本保博: 平成18年度厚生労働省科学研究費補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業「メディカルコントロール体制の充実強化に関する研究」平成18年度総括・分担研究報告書. 平成18年度厚生労働省科学研究費補助金医療安全・医療技術評価総合研究事業「メディカルコントロール体制の充実強化に関する研究」平成18年度総括・分担研究報告書 2007 .
- 5) 横田裕行, 重村朋子: 臓器移植の社会基盤整備に関する研究～脳死臓器提供を承諾した家族の心情と臓器移植コーディネータによる家族ケアに関する経年的調査研究. 平成18年度厚生労働省科学研究費補助金ヒトゲノム・再生医療等研究事業「臓器移植の社会基盤整備に関する研究～脳死臓器提供を承諾した家族の心情と臓器移植コーディネータによる家族ケアに関する経年的調査研究」脳死患者家族の心理過程に関する研究報告書 2007 .

著 書

- 1) 畝本恭子¹⁾, 横田裕行 (¹⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター): [分担] 外科救急処置アトラス・II. 頭頸部・顔面の術技. 外科治療, 2006 ; pp82-86, 永井書店 .
- 2) 横田裕行: [分担] 外傷. 臨床栄養学管理栄養士合格指導講座演習問題解答・解説集, 2006 ; pp108-108, U-CAN .

- 3) 横田裕行：〔分担〕熱傷．臨床栄養学管理栄養士合格指導講座演習問題解答・解説集，2006；pp128-128，U-CAN．
- 4) 高山泰広：〔総説〕クリティカルケアに必要なモニタリングQ & A 8. 聴性脳幹反応（ABR）．救急・集中治療，2006；pp409-414，総合医学社．
- 5) 久志本成樹，山本保博：〔分担〕肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症の予防対策．救急医学領域．静脈血栓塞栓症ガイドブック（小林隆夫），2006；pp151-171，中外医学社．
- 6) 久志本成樹：〔分担〕緊急止血法．新臨床外科学 第4版（川崎誠治，佐野俊二，名川弘一，野口眞三郎，平田公一），2006；pp281-287，医学書院．
- 7) 山本保博：〔監修〕第29回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第29回救急救命士国家試験問題解答・解説集，2006；へるす出版．
- 8) 荒木 尚，横田裕行：〔分担〕意識障害．現場活動プロトコール，2006；pp43-48，永井書店．
- 9) 横田裕行：〔総説〕軽度低体温療法の実際．Clinical Neuroscience，2006；pp714-715，中外医学社．
- 10) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷．日本医師会雑誌実践救急医療，2006；pp209-214，日本医師会．
- 11) 畝本恭子¹⁾，横田裕行（¹⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター）：〔分担〕ICU管理の実際．ファーマナビゲータ脳卒中編，2006；pp320-325，メディカルレビュー社．
- 12) 宮内雅人：〔総説〕救急画像カンファランスQ & A・8．救急医学（福家伸夫），2006；pp861-863，へるす出版．
- 13) 田邊晴山：〔総説〕インドネシア・ジャワ島中部地震災害（写真提供）．近代消防，2006；pp9-9，近代消防社．
- 14) 宮内雅人：〔共著〕救急画像カンファランスQ & A・9．救急医学（瀧健治），2006；pp995-997，へるす出版．
- 15) 田邊晴山：〔総説〕国際緊急援助隊医療チームの活動報告．近代消防，2006；pp64-67，近代消防社．
- 16) 山本保博：〔監修〕救急医療の基本と実際：臓器別救急疾患．救急医療の基本と実際：臓器別救急疾患（編集：有賀徹），2006；荘道社．
- 17) 宮内雅人：〔総説〕救急画像カンファランスQ & A・10．救急医学（丸藤哲），2006；pp1119-1121，へるす出版．
- 18) 田邊晴山：〔総説〕肝細胞癌破裂（早期診断法と初期治療）．救急医学，2006；pp1505-1509，へるす出版．
- 19) 久志本成樹，松園幸雅¹⁾（¹⁾ 山梨県立中央病院）：〔分担〕脾損傷の分類．臨床に役立つ消化器疾患の診断基準・病型分類・重症度の使い方（棟方昭博，小池和彦，田尻久雄），2006；pp358-362，日本メディカルセンター．
- 20) 中江竜太，横田裕行：〔分担〕脳血管障害．水・電解質がわかる輸液ケアQ & A（飯野靖彦編集），2006；pp142-145，中山書店．
- 21) 横田裕行：〔分担〕救急隊による搬送基準．脳卒中初期診療のために 1SLSコースガイドブック，2006；pp3-10，へるす出版．
- 22) 吉田竜介，山本保博：〔分担〕ショックとはなんですか？．水・電解質がわかる輸液ケアQ & A（編集：飯野靖彦），2006；pp103-105，中山書店．
- 23) 吉田竜介，山本保博：〔分担〕ショックにはどのような輸液をしますか？．水・電解質がわかる輸液ケアQ & A（編集：飯野靖彦），2006；pp106-107，中山書店．
- 24) 辻井厚子，横田 裕行：〔分担〕神経系疾患 構造と判断，観察と判断．救急医療の基本と実際（監修：山本保博，編集：有賀 徹），2006；pp2-8，荘道社．
- 25) 宮内雅人：〔総説〕救急画像カンファランスQ & A・11．救急医学（丹正勝久），2006；pp1583-1586，へるす出版．
- 26) 横田裕行：〔分担〕脳死のメカニズムと脳死判定．第5回JA TCO研修会テキスト，2006；pp72-80，日本移植コーディネーター協議会．
- 27) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷と下垂体機能不全 特に成長ホルモン分泌不全．成長ホルモン分泌不全症の臨床，2006；pp68-69，メディカルレビュー社．
- 28) 渥美生弘，横田裕行：〔共著〕重症頭部外傷における全身管理．救急医学，2006；pp1765-1768，へるす出版．

- 29) 横田裕行：〔分担〕小児・乳児の心肺蘇生．救急隊員・消防職員のための1次救命尾処置テキスト（救急隊員用教本作成小委員会），2006；pp55-73，へるす出版．
- 30) 横田裕行：〔分担〕外傷による心肺停止．救急隊員・消防職員のための1次救命尾処置テキスト（救急隊員用教本作成小委員会），2006；pp106-107，へるす出版．
- 31) 横田裕行：〔分担〕溺水．救急隊員・消防職員のための1次救命尾処置テキスト（救急隊員用教本作成小委員会），2006；pp108-109，へるす出版．
- 32) 横田裕行：〔分担〕低体温症．救急隊員・消防職員のための1次救命尾処置テキスト（救急隊員用教本作成小委員会），2006；pp110-111，へるす出版．
- 33) 横田裕行：〔分担〕急性冠症候群．救急隊員・消防職員のための1次救命尾処置テキスト（救急隊員用教本作成小委員会），2006；pp112-112，へるす出版．
- 34) 横田裕行：〔分担〕脳卒中．救急隊員・消防職員のための1次救命尾処置テキスト（救急隊員用教本作成小委員会），2006；pp113-114，へるす出版．
- 35) 横田裕行：〔分担〕アナフィラキシー．救急隊員・消防職員のための1次救命尾処置テキスト（救急隊員用教本作成小委員会），2006；pp115-116，へるす出版．
- 36) 金子純也，横田裕行：〔分担〕痙攣．Junior 12，2006；pp25-30，日本医事新報社．
- 37) 宮内雅人：〔分担〕救急画像カンファランスQ & A・12．救急医学（北原孝雄），2006；pp1843-1845，へるす出版．
- 38) 近藤久禎：〔分担〕わが国の災害医療体制．災害医療：エマージェンシー・ケア2007年新春増刊（太田宗夫），2007；pp78-96，メディカ出版．
- 39) 久志本成樹：〔分担〕胸部刺創．今日の治療指針2007年版（山口 徹，北原光夫，福井次矢），2007；p39，医学書院．
- 40) 横田裕行：〔分担〕IV. 基礎知識：急性期意識障害の評価．PSLS コースガイドブック，2007；pp67-69，へるす出版．
- 41) 横田裕行：〔分担〕VI. 資料：脳卒中の評価法（ストロークスケール）．PSLS コースガイドブック，2007；pp115-117，へるす出版．
- 42) 横田裕行：〔分担〕IV. 基礎知識：神経症候．PSLS コースガイドブック，2007；pp70-76，へるす出版．
- 43) 宮内雅人：〔分担〕救急画像カンファランスQ & A・13．救急医学（矢野正実），2007；pp114-116，へるす出版．
- 44) 布施 明：〔分担〕くも膜下出血．PSLS コースガイドブック（監修：日本救急医学会），2007；pp127-129，へるす出版．
- 45) 布施 明：〔分担〕脳出血．PSLS コースガイドブック（日本救急医学会），2007；pp129-132，へるす出版．
- 46) 吉田竜介：〔分担〕ガイドライン2005対応．応急手当指導者標準テキスト（応急手当指導者標準テキスト改訂委員会），2007；東京法令出版．
- 47) 久志本成樹：〔分担〕プロカルシトニン．臨床検査データブック（高久史磨，黒川 清，春日雅人，北村 聖），2007；p580，医学書院．
- 48) 宮内雅人：〔分担〕救急画像カンファランスQ & A・14．救急医学（箕輪良行），2007；pp245-246，へるす出版．
- 49) 田邊晴山：〔分担〕DMATにおける携帯心エコーの役割携帯心エコー．携帯心エコー シチュエーション別活用法，2007；pp133-141，中山書店．
- 50) 小井土雄一：〔分担〕消化系疾患．改訂第7版 救急救命士標準テキスト，2007；pp671-688，へるす出版社．
- 51) 吉田竜介：〔分担〕5. 胸骨圧迫 6. 自動心マッサージ器による胸骨圧迫 7. 静脈路確保 8. 薬剤（アドレナリン）の投与．救急救命士標準テキスト，2007；pp362-373，へるす出版．
- 52) 久志本成樹：〔分担〕外傷性ショック．救急救命士標準テキスト．改訂第7版（救急救命士標準テキスト編集委員会），2007；pp803-807，へるす出版．

- 53) 横田裕行：〔分担〕出血性ショック．経静脈治療オーダーマニュアル，2007；pp40-45，メディカルレビュー社．
- 54) 横田裕行：〔編集幹事〕救急救命士標準テキスト上下巻．救急救命士標準テキスト上下巻（編集幹事横田裕行），2007；へるす出版．
- 55) 横田裕行：〔分担〕頭部外傷．救急救命士標準テキスト上下巻，2007；pp819-828，へるす出版．
- 56) 山本保博：〔監修〕BLSインストラクターガイド～応急手当指導員・普及員のために～．BLSインストラクターガイド～応急手当指導員・普及員のために～（第2版）（編集・発行：財団法人東京救急協会），2007；財団法人東京救急協会．
- 57) 山本保博：〔総合監修〕診療科医薬品集：救急治療・薬剤ハンドブック第3版．診療科医薬品集：救急治療・薬剤ハンドブック第3版，2007；じほう．
- 58) 宮内雅人：〔総説〕救急治療・薬剤ハンドブック治療編．救急治療・薬剤ハンドブック（山本保博），2007；pp1-134，じほう．
- 59) 宮内雅人：〔分担〕救急画像カンファランスQ & A・15．救急医学（益子邦洋），2007；pp364-366，へるす出版．

学会発表

(1) 会長講演：

- 1) Yamamoto Y：Challenges and Future Prospects of Disaster Medicine in Japan．The 8th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine（Tokyo），2006．11．

(2) 特別講演：

- 1) 山本保博：NBC災害に対する初期医療対応について：ハブ空港における準備はできているか．成田市消防本部救急業務研修会，2006．4．
- 2) 横田裕行：熱中症の防止対策とAEDについて．平成18年度港区建設業（ゆとり安全推進大会），2006．6．
- 3) 山本保博：世界の大災害における救急医の役割．久留米大学病院高度救命救急センター25周年記念会，2006．6．
- 4) 山本保博：東海，東南海，南海地震災害における初動対応と地域連携．藤田保健衛生大学第11回救命救急センター勉強会，2006．6．
- 5) 山本保博：救急医療・総論．第50回社会保険指導者講習会，2006．8．
- 6) 山本保博：外傷における初期対応．第50回社会保険指導者講習会，2006．8．
- 7) 山本保博：日本の救急医療の課題と展望：病院前における救命処置の普及と救命率の向上策．第30回茨城県救急医学会，2006．9．
- 8) 山本保博：災害への備えと災害時の対策．日本医師会特別市民講座，2006．9．
- 9) 山本保博：ダーウィン医学から考える病気と怪我．会津若松地方広域市町村圏整備組合「救急講演会」，2006．9．
- 10) 山本保博：日本の救急医療の課題と展望．第8回日本救急看護学会学術集会，2006．10．
- 11) 山本保博：日本の救急医療における今後の展望．第30回北海道救急医学会，2006．10．
- 12) 山本保博：メディカルコントロールの役割と必要性．財団法人日本救急医療財団平成18年度メディカルコントロールに係る研修，2006．12．
- 13) 山本保博，吉田竜介：プレホスピタルケアにおける救命率の向上とメディカルコントロール体制．平成18年度北海道医師会救急医療研修会，2007．1．
- 14) 久志本成樹：3例の法的脳死判定に基づく臓器提供施設としての経験から．岡山県臓器移植講演会，2007．3．

(3) 招待講演：

- 1) 横田裕行：患者家族の意思の尊重：臓器提供の経験から．臓器移植に関する研究会，2006．9．
- 2) 横田裕行：救急医療施設からみた脳死下臓器提供時の問題点と解決法．福島県臓器提供協力施設研修会，2006．10．
- 3) 荒木 尚，Rutka T J¹⁾（¹⁾トロント小児病院脳神経外科）：小児急性期神経外傷治療標準化の展望トロント小児病院における神経外傷のチームアプローチ．第30回日本神経外傷学会，2007．3．

- 4) 横田裕行：法的脳死判定を実施する上での注意点．平成18年度日本臓器移植ネットワーク中日本支部「臓器提供に関する懇話会」, 2007．3．
 - 5) 横田裕行：臨床的脳死診断及び法的脳死判定研修会．臨床的脳死診断及び法的脳死判定 概論及び必要とされる知識とは , 2007．3．
 - 6) 横田裕行：脳死下臓器提供の実際．広島県臓器提供施設協議会及び院内コーディネータ研修会, 2007．3．
 - 7) 横田裕行：低体温療法の実際．藤田保健衛生大学救命救急センター講演会, 2007．3．
- (4) 教育講演：
- 1) 山本保博：大規模災害における初期医療対応策．第9回日本臨床救急医学会総会, 2006．5．
 - 2) 横田裕行：とっさのときの救急法：熱中症, 出血のときの対応．第654回日本鍼灸師会, 2006．6．
 - 3) 横田裕行：頭部外傷と脳血管障害．第3回都県コーディネータ勉強会, 2006．9．
 - 4) 横田裕行：本邦における災害医療を学ぶための基礎知識．第34回日本救急医学会総会, 2006．10．
 - 5) 山本保博：新興再興感染症：アウトブレイクと災害医療．東京医科大学八王子医療センター院内講演会, 2006．10．
 - 6) 山本保博：地震災害における初期対応．東京慈恵会医科大学附属柏病院災害医療講演会, 2006．11．
 - 7) 山本保博：救急医療の課題と展望．社会保険指導者講習会の兵庫県医師会における伝達講習会, 2007．2．
 - 8) 山本保博：プレホスピタルケアにおける救急業務の現状と将来．宮城県消防学校研修会, 2007．2．
- (5) 基調講演：
- 1) 山本保博：Disaster Medical Management - just after impact in the acute and subacute phases- . 1st WMA Asian-Pacific Regional Conference (第1回世界医師会アジア-大洋州地域会議, 2006．9．
 - 2) 山本保博：最近の災害傾向を踏まえ災害に対応するために何が必要か．第2回全国消防救助救急研究会, 2007．2．
 - 3) 山本保博：新しい救急蘇生法の指針とAEDの効果．財団法人日本救急医療財団AED普及・啓発シンポジウム, 2007．3．
- (6) シンポジウム：
- 1) 布施 明：外傷外科医を維持するための手術数についての検討．第20回日本外傷学会, 2006．5．
 - 2) 横田裕行, 山本保博：臓器提供施設からみた法律に基づいた脳死判定の現状と問題点．第53回日本麻酔学会, 2006．6．
 - 3) 山本保博：災害後における感染症の実態と対策．日本医科大学医学会第16回公開「シンポジウム」, 2006．6．
 - 4) 久志本成樹, 山本保博：急性期DIC診断基準によるDIC診断は病態により重症度が異なる可能性がある．第21回日本救命医療学会総会, 2006．9．
 - 5) 高山泰広：蘇生後の脳低体温療法AHA2005年ガイドラインにおける心肺蘇生後低体温療法導入の現状．第34回日本集中治療医学会学術集会, 2006．10．
 - 6) 小川太志, 雨森俊介, 宮内雅人, 増野智彦, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 横田裕行, 山本保博：重症敗血症におけるGlucose Controlの有用性と安全性の検討．第34回日本救急医学会総会, 2006．10．
 - 7) 宮内雅人, 二俣 健, 増野智彦, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 山本保博：ラット出血性ショックモデルにおけるマイクロアレイを利用したnon-coding RNAの発現と解析について．第34回日本救急医学会総会, 2006．10．
 - 8) 小井土雄一, 近藤久禎, 久志本成樹, 吉田竜介, 横田裕行, 山本保博：救命救急センターにおける教育の現状と問題点．日本蘇生学会, 2006．11．
 - 9) 久志本成樹：敗血症とその重症度をプロカルシトニンで評価する．第53回日本臨床検査医学会学術集会, 2006．11．
 - 10) 山本保博：救急救命士における今後の展望について．日本蘇生学会第25回大会, 2006．12．
 - 11) 久志本成樹：急性期DIC診断基準の評価：第2回前向き研究の結果. 急性期DIC症例の全体像と病態別特徴．日本血栓止血学会学術標準化委員会シンポジウム, 2007．2．
 - 12) 増野智彦, 小野寺謙吾, 平川慶子, 植草協子, 佐野哲孝, 相星淳一, 小池 薫, 大野曜吉, 山本保博：NMR

- メタボロミクスを用いた出血性ショック後臓器組織代謝の網羅的解析．第34回日本集中治療医学会総会，2007．3．
- 13) 高山泰広，山本保博，横田裕行，吉田竜介，小井土雄一，佐藤秀貴，渥美生弘，鈴木 剛，松本 学，金子純也：AHA2005年ガイドラインにおける心肺蘇生後低体温療法導入後の現状．第34回日本集中治療医学会学術集会，2007．3．
- 14) 小川太志，吉田竜介，雨森俊介，増野智彦，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，横田裕行，山本保博：当院救命救急センターでの感染対策における効果と問題点．第34回日本集中治療医学会学術集会，2007．3．
- 15) 横田裕行，坂本和嘉子，古畑 謙，雨森俊介，増野智彦，宮内雅人，久志本成樹，小井土雄一，山本保博：腹部救急疾患におけるリスクマネジメント．第43回日本腹部救急医学会総会，2007．3．
- (7) パネルディスカッション：
- 1) 布施 明：地方自治体DMAT発足に向けての課題．第20回日本外傷学会，2006．5．
- 2) 渥美生弘，横堀将司，田邊晴山，小川太志，尾本健一郎，荒木 尚，宮内雅人，大泉 旭，久志本成樹，小井土雄一，吉田竜介，川井 真，横田裕行，山本保博：大都市における多数傷病者発生現場での医療活動：Doctor Ambulance (DA) 活動を中心として．第20回日本外傷学会総会，2006．5．
- 3) 近藤久禎：災害派遣医療チーム (DMAT) 活動要領について (災害医療)．日本救急学会総会，2006．10．
- 4) 久志本成樹，池田寿昭¹⁾，射場敬明²⁾ (¹⁾東京医科大学八王子医療センター，²⁾順天堂大学浦安病院外科)：急性期DIC診断基準の評価：第2回前向き研究の結果．急性期DIC症例の全体像と病態別特徴．第34回日本救急医学会総会・学術集会，2006．10．
- 5) 横田裕行，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，吉田竜介，山本保博，芦刈 淳¹⁾，芦刈太郎¹⁾，小中節子¹⁾ (¹⁾日本臓器移植ネットワーク)：脳死下臓器提供施設の負担とその解決策．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 6) 畝本恭子¹⁾，牧 真彦¹⁾，上笹 宙¹⁾，上田康晴¹⁾，直江康孝²⁾，望月 徹¹⁾，二宮宣文²⁾，横田裕行，黒川頭¹⁾，山本保博 (¹⁾武蔵小杉病院救命救急センター，²⁾多摩永山病院救命救急センター)：多発外傷を伴う重症頭部外傷の診療ストラテジーの検討 preventable trauma damageへの模索．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 7) 直江康孝¹⁾，山本保博，横田裕行，畝本恭子²⁾，佐藤秀貴，志賀尚子¹⁾，石之神小織¹⁾，布施 明 (¹⁾多摩永山病院救命救急センター，²⁾武蔵小杉病院救命救急センター)：当施設における急性脳卒中の治療戦略．第34回日本救急医学会総会，2006．11．
- 8) 近藤久禎：AEDの普及啓発について (AEDの現状と問題点)．日本集中治療学会学術集会，2007．3．
- 9) 増野智彦，佐藤格夫，鈴木崇生，佐野哲孝，二俣 健，小野寺謙吾，相星淳一，久志本成樹，山本保博，Moore Ernest E：人工血液は出血性ショックによる酸素負債を効率的に改善し肺障害発生を抑制する．第34回日本集中治療医学会総会，2007．3．
- 10) 近藤久禎，横田裕行，丸川征四郎¹⁾，山本保博 (¹⁾兵庫医科大学災害救急医学)：AEDの普及啓発について．第34回日本集中治療医学会学術集会，2007．3．
- (8) セミナー：
- 1) Oizumi A：Distal Femur Fractures．Masters Fracture Forum (California, USA)，2006．4．
- 2) 久志本成樹：ATとヘパリン．第2回東海DIC up to Date，2006．4．
- 3) 山本保博：AEDを用いた1次救命処置．日本毛髪科学協会第56回全国セミナー，2006．6．
- 4) 山本保博：増大する救急需要をどう考えるか．第15回救急救命士および救急救命士をめざす人の救急医学セミナー，2006．7．
- 5) 久志本成樹：敗血症とその重症度判定の新しいマーカーとしてのプロカルシトニン．第25回日本臨床化学会夏期セミナー，2006．8．
- 6) 横田裕行：交通外傷の理解と看護に必要なアセスメント．看護セミナー，2006．9．
- 7) 大泉 旭：不安定型骨盤骨折の治療 前方固定．EOTS，2007．3．

(9) ワークショップ:

- 1) 小川太志, 吉田竜介, 相星淳一, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: 当院救命救急センターの Infection Control Doctor の役割とその意義. 第9回日本臨床救急医学会総会, 2006. 5.
- 2) 小川太志, 雨森俊介, 田邊晴山, 尾本健一郎, 宮内雅人, 相星淳一, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: 外傷患者における Intensive insulin therapy の感染症に対する有効性評価. 第20回日本外傷学会総会, 2006. 5.
- 3) 横田裕行, 中江竜太, 古畑 謙, 高山泰広, 小川太志, 渥美生弘, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 久志本成樹, 川井 真, 吉田竜介, 山本保博: 頭部外傷の初期治療教育: JATEC の紹介と Doctor Ambulance (DA) の意義. 第20回日本外傷学会総会, 2006. 5.
- 4) 久志本成樹: 敗血症とその重症度判定の新しいマーカーとしてのプロカルシトニン. 平成18年度日本DIC研究会学術研究会, 2006. 8.
- 5) 横田裕行: 法的脳死判定から見た問題点. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 6) 富岡譲二, 近藤久禎, 小井土雄一, 大友康裕, 浅井康文, 山本保博: ワークショップ1 「国際緊急援助隊の活動」国際緊急援助隊の活動: 災害サイクルのすべてにわたるシームレスな援助に向けて. 第12回日本集団災害医学会, 2007. 1.
- 7) 近藤久禎: 広域災害・救急医療情報システム (EMIS) の改定について (災害時の次世代情報・通信管理システム). 日本集団災害医学会総会, 2007. 1.

(10) 一般講演:

- 1) Yoshida R, Hasegawa Eiju, Nakae Ryuta, Kobayashi Masahiko, Yamamoto Y: Is Airway Management with Tracheal Tube on Out-of-Hospital Cardiac Arrest more beneficial than Laryngeal Mask Airway or Esophageal-Tracheal Combitube?. 8th Congress of the European Resuscitation Council (Stavanger, Norway), 2006. 5.
- 2) Masuno T, Moore Ernest E, Damle S, Cheng Aaron M, Kelher M, Silliman Christopher C: Plasma Fraction from Stored Packed Red Blood Cells Induces Acute Lung Injury in an *In vivo* Rodent Two Event Model. 29th Annual Conference on Shock (Denver, Colorado, USA), 2006. 6.
- 3) Ogura H, Gando S, Iba T, Eguchi Y, Ohtomo Y, Okamoto K, Koseki K, Mayumi T, Murata A, Ikeda T, Ishikura H, Ueyama M, Kushimoto S, Saitoh D, Endo S, Shuji S: Sirs-Associated Coagulopathy "Which Organ Is the Target?". The 65th annual meeting of American Association for the Surgery of Trauma, 2006. 9.
- 4) Miyauchi Masato: Differential microRNA expression after hemorrhagic shock in rat liver and lung. functional genomics of critical illness and injury (Washington DC USA), 2006. 11.
- 5) 荒木 尚, 高島伸之助, 高山将広: 小児脊椎脊髄損傷の診断におけるピットフォール. 第29回日本神経外傷学会, 2006. 3.
- 6) 加地正人, 大友康裕, 相星淳一, 庄古知久, 益子邦洋, 山本保博, 辺見 弘, 久志本成樹, 小井土雄一, 本間正人, 朽方規喜: 予後との相関の観点からの大血管損傷分類の問題点. 第20回日本外傷学会, 2006. 5.
- 7) 小井土雄一, 島田 靖, 中田敬司, 中江竜太, 山本保博: 災害時等における救急救命士の効果的な活用について. 第9回日本臨床救急医学会, 2006. 5.
- 8) 柴田泰史¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 久志本成樹²⁾, 山本保博²⁾(¹⁾ 付属病院中央検査部, ²⁾ 救急医学): 重症感染症における血清トロンボポエチン値と炎症性メディエーターとの関連性について. 第55回日本医学検査学会, 2006. 5.
- 9) 久志本成樹, 小井土雄一, 小川太志, 尾本健一郎, 田邊晴山, 吉田竜介, 雨森俊介, 相星淳一, 横田裕行, 山本保博: Damage control surgery と immediate postoperative angioembolization による止血補完を施行した鈍的肝損傷の1例. 第20回日本外傷学会, 2006. 5.

- 10) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, Ruka James T¹⁾, Drake James M¹⁾, Drinks Peter B¹⁾, Humpherys R¹⁾, Blaser S²⁾, Schloff M²⁾ (¹⁾ トロント小児病院脳神経外科, ²⁾ 同神経放射線科): 小児脊椎脊髄損傷の診断におけるピットフォール. 第34回日本小児脳神経外科学会総会, 2006. 5.
- 11) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博: トロント小児病院救急室における脳脊髄外傷の判断と治療. 第9回日本臨床救急医学会総会, 2006. 5.
- 12) 古畑 謙, 尾本健一郎, 渥美生弘, 小川太志, 田邊晴山, 雨森俊介, 小井土雄一, 久志本成樹, 横田裕行, 山本保博: 臍損傷を疑った鈍的外傷による総胆管断裂の1例. 第20回日本外傷学会総会, 2006. 5.
- 13) 田邊晴山, 中江竜太, 渥美生弘, 小川太志, 吉田竜介, 久志本成樹, 小井土雄一, 横田裕行, 山本保博: 止血困難な重症外傷患者に対する遺伝子組み換え活性型凝固第VIII因子の使用経験. 第20回日本外傷学会総会, 2006. 5.
- 14) 宮内雅人, 渥美生弘, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: MRIにて特異な所見を認めた絞頸による無酸素脳症の1例. 第20回日本外傷学会総会, 2006. 5.
- 15) 小井土雄一: スマトラ沖地震津波災害における国際緊急援助隊の活動 スリランカ津波災害から学ぶもの. 浜松市医師会学術講演会, 2006. 6.
- 16) 荒木 尚, 中江竜太, 高山将広, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 当センターにおける小児虐待3例の診断経験. 第20回日本神経救急学会, 2006. 6.
- 17) 玉井勇人, 荒木 尚, 中江竜太, 高山将広, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 頭蓋内出血後に高Na血症と多尿を来し鑑別を要した2例. 第20回日本神経救急学会, 2006. 6.
- 18) 北園雅敏, 高山泰広, 大村真理子, 尾本健一郎, 横田裕行, 山本保博: 脳低体温療法で脳蘇生し得た2症例. 第19回日本脳死・脳蘇生学会, 2006. 6.
- 19) 高山泰広: 蘇生後脳症における脳低体温療法-AHA2005年ガイドライン以降の症例から. 第9回日本脳低体温療法学会, 2006. 7.
- 20) 大泉 旭, 川井 真, 小原良規, 中村嘉宏, 神田倫秀, 原 義明, 山本保博: 大腿骨遠位部関節内骨折 (AO/OTA type C) に対するLCP-DFの使用経験. 第23回日本骨折治療学会, 2006. 7.
- 21) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, Rutka T J¹⁾, Drake M J¹⁾, Hutchison J²⁾ (¹⁾ トロント小児病院脳神経外科, ²⁾ 同集中治療科): トロント小児病院における小児重症頭部外傷への低体温療法. 第9回日本脳低体温療法学会, 2006. 7.
- 22) 宮内雅人, 川井 真, 久志本成樹, 小井土雄一, 平田清貴, 横田裕行, 山本保博: 当院における医薬品大量服用に対する胃内視鏡を利用した胃洗浄の試み. 第28回日本中毒学会総会・学術集会, 2006. 7.
- 23) 猪鹿倉恭子¹⁾, 牧 真彦¹⁾, 上笹 宙¹⁾, 上田康晴¹⁾, 直江康孝²⁾, 望月 徹¹⁾, 横田裕行, 黒川 顕¹⁾, 山本保博 (¹⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター, ²⁾ 多摩永山病院救命救急センター): 他部位外傷を伴う頭部外傷の低体温療法は可能か. 第9回日本脳低体温療法学会, 2006. 7.
- 24) 高山泰広, 渥美生弘, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博, 寺本 明¹⁾ (¹⁾ 脳神経外科学): 蘇生後脳症における脳低体温療法AHA2005年ガイドライン以降の症例から. 第9回日本脳低体温療法学会, 2006. 7.
- 25) 小井土雄一: 災害初動期における医療連携と緊急活動. 日本医師会生涯教育講座, 2006. 8.
- 26) 小井土雄一: AED を用いた1次救命処置による救命率向上策. 第46回栃木県公衆衛生大会, 2006. 9.
- 27) 柴田泰史¹⁾, 日ノ澤進一郎¹⁾, 影山憲貴¹⁾, 鳴海武長¹⁾, 飯野幸永¹⁾, 久志本成樹²⁾, 山本保博²⁾, 里村克章³⁾ (¹⁾ 付属病院中央検査部, ²⁾ 救急医学, ³⁾ 内科学第1): 脳血管障害患者におけるカーディアックリーダーシステムを用いたDダイマー測定の有用性について. 第46回日本臨床化学会年次学術集会, 2006. 9.
- 28) 細矢 慶, 設楽真由美, 古畑 謙, 松本 学, 岡部雅弘, 宮内雅人, 吉田竜介, 山本保博: 鈍的外傷による上腸間膜静脈損傷の1例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 29) 本山正幸, 奥山奈美子, 松本綾乃, 金子純也, 内谷栄一, 雨森俊介, 渥美生弘, 山本保博: 脾ペリオースに

- より特発性脾破裂をきたした骨髓異形成症候群の1例．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 30) 了徳寺剛，四方友美，鈴木 剛，中江竜太，近藤久禎，増野智彦，荒木 尚，山本保博：急性甲状腺炎を伴った非クロストリジウム性ガス壊疽の症例．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 31) 藤本和輝，若山久仁子，坂本和嘉子，高山泰広，小川太志，尾本健一郎，佐藤秀貴，山本保博：高圧酸素療法を施行した一酸化炭素中毒の1症例．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 32) 増野智彦：出血性ショック患者に対する人工血液の有用性．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 33) 久志本成樹，柴田泰史，小井土雄一，川井 真，横田裕行，山本保博：ステロイド投与症例における細菌感染症重症度診断の指標としてのプロカルシトニンの有用性．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 34) 小野寺謙吾，平川慶子¹⁾，相星淳一²⁾，小池 薫³⁾，植草協子¹⁾，有福利紀⁴⁾，湯田浩太郎⁵⁾，大野曜吉¹⁾，山本保博（¹⁾日本医科大学法医学，²⁾東京医科歯科大学救急災害医学講座，³⁾京都大学大学院医学研究科 初期診療・救急医学分野，⁴⁾日本電子データム株式会社，⁵⁾富士通パイオIT事業開発本部）：蘇生輸液による出血性ショック後の腸管組織代謝変化に関する研究：NMRメタボロミクスによる網羅的解析．第34回日本磁気共鳴医学会大会，2006．9．
- 35) 相星淳一，小池 薫，小林哲幸，増野智彦，登坂直規，加地正人，庄古知久，久志本成樹，山本保博，大友康裕：出血性ショック後の腸間膜リンパ液中に存在する脂質メディエーターの検討．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 36) 高山泰広：蘇生後脳症の脳低温療法の現状．第34回日本救急医学会学術集会，2006．10．
- 37) 吉田竜介，中江竜太，山本保博：救命救急センターにおける精神科救急，殊に急性医薬品中毒の現状と問題点（1995年度との比較検討）．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 38) 吉田竜介，山本保博：Quality Assurance（質の管理）における事後検証制度の位置付け．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 39) 吉田竜介，山本保博：BLS（Basic Life Support）における気道異物除去法の変遷と今後の日本における応用．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 40) 高山泰広，鈴木 剛，金子純也，松本 学，渥美生弘，荒木 尚，佐藤秀貴，小井土雄一，吉田竜介，横田裕行，山本保博：AHA2005年ガイドラインにおける心肺蘇生後低体温療法導入後の現状．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 41) 雨森俊介，古畑 謙，坂本和嘉子，遠藤広史，小川太志，増野智彦，久志本成樹，小井土雄一，山本保博：来院時出血性ショックを呈した多発外傷患者に対する治療戦略および予後の検討：初期輸液反応性に基づいて．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 42) 坂本和嘉子，田辺晴山，松本 学，中江竜太，小川太志，増野智彦，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，横田裕行，山本保博：救命型救急からER型救急への拡大：大学病院の救命型救急施設の立場から．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 43) 増野智彦，二俣 健，相星淳一，小池 薫，山本保博，Moore Ernest E¹⁾（¹⁾Denver Health Medical Center）：出血性ショック後肺障害に対する腸間膜リンパ液の影響とIIa型ホスホリパーゼA2の関与．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 44) 久志本成樹，小井土雄一，川井 真，雨森俊介，宮内雅人，田邊晴山，増野智彦，小川太志，吉田竜介，横田裕行，山本保博：ショックを伴う腹腔内および後腹膜出血合併例に対する治療：開腹術とIVRをどのように選択するか．第34回日本救急医学会総会・学術集会，2006．10．
- 45) 荒木 尚，高島伸之介，高山泰広，渥美生弘，佐藤秀貴，横田裕行，山本保博，Rutka James T¹⁾，Drake James M¹⁾，Dirks Peter B¹⁾，Humhreys Robin P¹⁾（¹⁾トロント小児病院脳神経外科）：小児頭部外傷静脈洞血栓症における診断と所見．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 46) 小川太志，雨森俊介，田邊晴山，岸本晃男，遠藤広史，吉田竜介，久志本成樹，小井土雄一，川井 真，横田

- 裕行, 山本保博: 救命救急領域での真菌感染症に対するミカファンギンの有効性・安全性の評価. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 47) 田上 隆¹⁾, 久志本成樹, 渥美生弘, 松田 潔²⁾, 宮崎善史²⁾, 大山廉平¹⁾, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 山本保博 (¹⁾ 東京都済生会中央病院, ²⁾ 山梨県立中央病院救命救急センター): 新しい急性肺水腫の定量的な定義および鑑別法の提案. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 48) 佐藤秀貴, 横田裕行, 荒木 尚, 渥美生弘, 高山泰広, 中江竜太, 松本 学, 金子純也, 鈴木 剛, 山本保博: くも膜下出血の治療. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 49) 渥美生弘, 横堀将司, 田邊晴山, 尾本健一郎, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: 大都市における多数傷病者発生現場での医療活動: Doctor Ambulance 活動の経験から. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 50) 小川理郎¹⁾, 久野将宗¹⁾, 中野渡雄一¹⁾, 直江康孝¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 横田裕行, 山本保博 (¹⁾ 多摩永山病院救命救急センター): 胸骨圧迫式心マッサージ中の血圧から見た圧迫回数の再検討. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 51) 尾本健一郎, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 遠藤広志, 神田倫秀, 大村真理子, 古畑 謙, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: 院外心室細動例の当院における3年間の治療成績の検討: 蘇生後低体温法のプロトコールの導入を踏まえて. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 52) 荒木 尚, 高島伸之介, 高山泰広, 渥美生弘, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博, Rutka James T¹⁾, Drake James M¹⁾, Dirks Peter B¹⁾, Humhreys Robin P¹⁾, Biastser S¹⁾, Schoff M¹⁾ (¹⁾ トロント小児病院脳神経外科): 小児頸椎髄損傷の診断と治療におけるICUの教育的役割: トロント小児病院の臨床経験から. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 53) 横田裕行¹⁾, 有賀 徹¹⁾, 石松紳一¹⁾, 木下順弘¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 島崎修次¹⁾, 田中秀治¹⁾, 布施 明¹⁾, 箕輪良行¹⁾ (¹⁾ 日本救急医学会救急医療における終末期医療のあり方に関する特別委員会): 救急医療における終末期医療のあり方に関する特別委員会: アンケート調査の結果から. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 54) 小井土雄一, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 中田敬司, 島田 靖, 近藤久禎, 佐藤秀貴, 岸本晃男¹⁾, 山本保博 (¹⁾ 松江病院): イラク救急医療の再興にむけての救急医療研修の試み. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
- 55) 猪鹿倉恭子¹⁾, 中江竜太¹⁾, 鈴木紀成²⁾, 横田裕行, 高橋 弘²⁾, 黒川 顕¹⁾, 寺本 明²⁾, 山本保博 (¹⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター, ²⁾ 脳神経外科学): 外傷性1次性脳幹損傷による眼球運動障害の検討: 脚間槽血腫の診断的意義について. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 56) 渥美生弘, 横田裕行, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 高山泰広, 松本 学, 金子純也, 鈴木 剛, 中江竜太, 山本保博: Triple H療法の評価: 連続心拍出量測定装置(PiCCO)を用いて. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006. 10.
- 57) 小井土雄一: 災害時における病院の役割. 第5回いわき救急医療研究会, 2006. 11.
- 58) 横田裕行, 有賀 徹¹⁾, 石松紳一²⁾, 木下順弘³⁾, 黒川 顕⁴⁾, 島崎修次⁵⁾, 田中秀治⁶⁾, 布施 明, 箕輪良行⁷⁾ (¹⁾ 昭和大学救急医学, ²⁾ 聖路加国際病院救命救急センター, ³⁾ 熊本大学救急医学, ⁴⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院救命救急センター, ⁵⁾ 杏林大学救急医学, ⁶⁾ 国士舘大学, ⁷⁾ 聖マリアンナ医科大学救急医学): 救急医療における終末期医療のあり方に関する委員会特別委員会のアンケート集計結果から. 第34回日本救急医学会, 2006. 11.
- 59) 布施 明: 自治体DMATの隊員養成研修についての検討. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 11.
- 60) 雨森俊介, 坂本和嘉子, 田邊晴山, 尾本健一郎, 宮内雅人, 久志本成樹, 川井 真, 山本保博: 腹腔内出血と後腹膜出血合併例2例へのアプローチの違い. 外傷症例検討会, 2006. 11.
- 61) 中江竜太, 尾本健一郎, 雨森俊介, 山本昌督, 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博: 他院虫垂炎術後小腸修復部より縫合不全となり, 腹膜炎・創し開・多発小腸瘻・MOFにて紹介, 長期集中治療, 再建に難渋した1例.

第38回過大侵襲研究会, 2006. 11.

- 62) 尾本健一郎, 久志本成樹, 小井土雄一, 吉田竜介, 遠藤広史, 神田倫秀, 大村真理子, 古畑 謙, 横田裕行, 川井 真, 山本保博: 院外心室細動例の当施設における3年間の治療成績の検討: 蘇生後低体温治療法のプロトコルの導入をふまえて. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 11.
- 63) 佐藤秀貴, 横田裕行, 荒木 尚, 渥美生弘, 高山泰広, 中江竜太, 鈴木 剛, 松本 学, 金子純也, 山本保博: 急性脳卒中. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 11.
- 64) 小川かおり, 相星淳一, 小池 薫, 増野智彦, 山本保博, 小林哲幸: ラット出血性ショックモデルにおけるリンパ液中の脂質メディエーター解析. 日本分子生物学会, 2006. 12.
- 65) 大友康裕, 吉岡敏治, 明石真言, 岡部信彦, 小井土雄一, 奥村 徹, 郡山一明, 島田 靖, 近藤久禎, 山本保博: NBCテロ共通の病院対応のための標準的研修コースの開発. 第12回日本集団災害医学会, 2007. 1.
- 66) 小井土雄一, 近藤久禎, 二宮宣文, 横田裕行, 山本保博: イラク国の救急医療再興のための救急医療マネジメントシステム研修. 第12回日本集団災害医学会, 2007. 1.
- 67) 高山泰広: 外傷性脳血管障害の急性期治療戦略. 第12回日本脳神経外科救急学会, 2007. 1.
- 68) 竹内純平, 雨森俊介, 山本保博: 広範囲熱傷により Abdominal Compartment Syndrome をきたした1例. 日本熱傷学会関東地方会, 2007. 1.
- 69) 佐藤秀貴, 高山泰広, 横田裕行, 渥美生弘, 荒木 尚, 村井保夫¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 外傷性内頸動脈瘤の1例. 第12回日本脳神経外科救急学会, 2007. 1.
- 70) 佐藤秀貴, 横田裕行, 小井土雄一, 増野智彦, 近藤久禎, 中江竜太, 山本保博, 二宮宣文¹⁾, 原田尚重²⁾, 山口孝治³⁾(¹⁾日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, ²⁾武蔵野赤十字病院救命救急センター, ³⁾フジ虎ノ門病院外傷外科): 富士スピードウェイでの救護活動. 第12回日本集団災害医学会総会, 2007. 1.
- 71) 村井保夫¹⁾, 寺本 明¹⁾, 水成隆之²⁾, 小南修史²⁾, 小林士郎²⁾, 高山泰広, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博(¹⁾脳神経外科学, ²⁾千葉北総病院脳神経外科): 非穿通性外傷による外傷性脳血管障害例の検討. 第12回日本脳神経外科救急学会, 2007. 1.
- 72) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 小井土雄一, 桑本健太郎¹⁾, 大貫隆広¹⁾, 山本保博, 横田裕行, 寺本 明²⁾, 村井保夫²⁾(¹⁾川口市立医療センター救命救急センター, ²⁾日本医科大学脳神経外科学): 外傷性脳血管障害の急性期治療戦略. 第12回日本脳神経外科救急学会, 2007. 1.
- 73) 佐藤秀貴, 横田裕行, 高山泰広, 渥美生弘, 荒木 尚, 山本保博: 外傷性内頸動脈解離の1治療例. 第12回日本脳神経外科救急学会, 2007. 1.
- 74) 宮内雅人: 著明な心電図異常をきたした三環系抗うつ薬による中毒の1例. 第21回日本中毒学会東日本地方会, 2007. 1.
- 75) 渥美生弘, 横田裕行, 佐藤秀貴, 布施 明, 荒木 尚, 金子純也, 鈴木 剛, 中江竜太, 山本保博: SAH後の輸液管理: 連続心拍出量測定装置(PiCCO)を用いて. 第11回CCM輸液, 栄養研究会, 2007. 2.
- 76) 金子純也, 渥美生弘, 荒木 尚, 布施 明, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博: 急性硬膜下血腫, 脳内出血で発症した前大脳動脈遠位部動脈瘤破裂の1例. 第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 77) 坂本和嘉子, 渥美生弘, 雨森俊介, 近藤久禎, 山本昌督, 宮内雅人, 小井土雄一, 山本保博: 直腸静脈瘤破裂により出血性ショックを呈した1例. 第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 78) 古畑 謙, 鈴木 剛, 荒木 尚, 増野智彦, 久志本成樹, 小井土雄一, 山本保博: 甲状腺動脈損傷による大量血胸の1例. 第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 79) 伊藤雅之, 佐藤格夫, 神田倫秀, 大泉 旭, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: 頸髄硬膜外血腫の1例. 第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 80) 中江竜太, 田辺晴山, 牧 真彦, 尾本健一郎, 上田康晴, 畝本恭子, 久志本成樹, 黒川 顕, 山本保博: 他院虫垂炎術後, 長期open abdomen管理を要し, 創部再建に難渋した1例. 第57回日本救急医学会関東地方会,

2007 . 2 .

- 81) 増野智彦: NMR メタボロミクスを用いた出血性ショック後臓器組織代謝の網羅的解析. 第2回日本医科大学医用磁気共鳴分析施設公開セミナー, 2007 . 2 .
- 82) 神田倫秀, 伊藤雅之, 鈴木崇生, 大泉 旭, 吉田竜介, 川井 真, 山本保博: 遅発性に発症した大腿コンパートメント症候群の1例. 第57回日本救急医学会関東地方会, 2007 . 2 .
- 83) 久志本成樹, 柴田泰史, 横田裕行, 小井土雄一, 山本保博: 重症敗血症症例における血漿BNPレベルの変動には全身性炎症反応が関与する. 第34回日本集中治療医学会学術集会, 2007 . 3 .
- 84) 村井保夫¹⁾, 寺本 明¹⁾, 水成隆之¹⁾, 小南修史¹⁾, 小林士郎¹⁾, 高山泰広, 佐藤秀貴, 横田裕行, 山本保博(¹⁾脳神経外科学): 非穿通性外傷による脳血管障害症例の急性期治療経験. 第30回日本神経外傷学会, 2007 . 3 .
- 85) 高山泰広¹⁾, 小関一英¹⁾, 小井土雄一, 小川太志¹⁾, 桑本健太郎¹⁾, 大貫隆広¹⁾, 加茂 潤¹⁾, 米花伸彦¹⁾, 山本保博, 横田裕行(¹⁾川口市立医療センター救命救急センター): 外傷性脳血管損傷の急性期治療戦略. 第30回日本神経外傷学会, 2007 . 3 .
- 86) 荒木 尚, 横田裕行, 山本保博, Rutka James T¹⁾(¹⁾The Hospital for Sick Children): 本邦における児童虐待診断の組織的問題点: トロント小児病院との比較: 得意に神経外傷の見地から. 第30回日本神経外傷学会, 2007 . 3 .
- 87) 畠本恭子¹⁾, 中江竜太, 鈴木 剛, 渥美生弘, 横田裕行, 黒川 顕¹⁾, 山本保博(¹⁾武蔵小杉病院救命救急センター): 3次救急施設における急性期頸椎頸髄損傷の分析: 他部位合併損傷例を中心として. 第30回日本神経外傷学会, 2007 . 3 .
- 88) 勝野 亮¹⁾, 横田裕行, 小林士郎¹⁾, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 外傷性動眼神経麻痺を来した2例. 第30回日本神経外傷学会, 2007 . 3 .
- 89) 久志本成樹, 相星淳一¹⁾, 加茂 潤²⁾, 小井土雄一, 横田裕行, 川井 真, 吉田竜介, 山本保博(¹⁾東京医科歯科大学災害救急医学, ²⁾川口市立医療センター救命救急センター): 30日間のopen abdominal managementを要し, 両側腹直筋鞘前葉反転法にて一期的筋膜閉鎖を施行した小児多発外傷の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .
- 90) 坂本和嘉子, 増野智彦, 小川太志, 雨森俊介, 田邊晴山, 佐藤格夫, 尾本健一郎, 宮内雅人, 吉田竜介, 久志本成樹, 川井 真, 横田裕行, 山本保博: マルチスライスCTが有用であった横隔膜破裂の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007 . 3 .
- 91) 佐藤秀貴, 横田裕行, 高山泰広, 桑本健太郎, 山本修三, 山本保博: くも膜下出血患者における脳脊髄液中S-100 蛋白の測定: 機能予後の予測. 第36回日本脳卒中の外科学会, 2007 . 3 .
- 92) 宮内雅人: 医薬品大量服用における胃内視鏡所見. 第43回日本腹部救急医学会, 2007 . 3 .
- (11) フォーラム:
- 1) 山本保博: 忍び寄る災害: NBC・爆発物テロ. 全日本病院協会主催10回地域防災緊急医療ネットワーク・フォーラム, 2007 . 3 .
- (12) ポスター:
- 1) 横田裕行, 高山泰広, 渥美生弘, 荒木 尚, 佐藤秀貴, 布施 明, 久志本成樹, 山本保博, 小林士郎¹⁾, 寺本明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 受傷急性期の分子マーカーからみた頭部外傷の形態把握と予後予測: 脳血管内皮障害と凝固線溶異常の見地から. 第65回日本脳神経外科学会総会, 2006 . 10 .
- (13) 研究会:
- 1) 高山泰広, 荒木 尚, 尾本健一郎, 久志本成樹, 小井土雄一, 川井 真, 横田裕行, 吉田竜介, 山本保博: 広範囲でブリードマンを必要としたガス壊疽の1例. 第37回過大侵襲研究会, 2006 . 4 .
- (14) 講義:
- 1) 山本保博: 災害対応各論(医療活動). 人と防災未来センター「災害対策専門研修」(平成18年度春期), 2006 . 6 .

- 2) 山本保博：進化の歪みから考える救命医療．救急救命東京研修所講義，2006．6．
 - 3) 山本保博：災害対応各論（医療活動）災害現場の医療活動体制について．人と防災未来センター「災害対策専門研修」（平成18年度秋期），2006．10．
 - 4) 山本保博：地震災害における初動対応．山口大学医学部平成18年度救急・集中治療医学「災害医療」講義，2006．12．
 - 5) 山本保博：進化の歪みから考える救命医療．救急救命東京研修所講義，2006．12．
- (15) 特別発言：
- 1) 横田裕行：救急における終末期医療を考える．第9回日本臨床救急医学会総会，2006．5．
- (16) 要望講演：診療と研究のトピックス：
- 1) 増野智彦，佐藤格夫，相星淳一，久志本成樹，小井土雄一，横田裕行，山本保博，Moore Ernest E¹⁾(¹⁾コ罗拉ド大学)：出血性ショック患者に対する人工血液の有用性．第43回日本腹部救急医学会総会，2007．3．

[武蔵小杉病院救命救急センター]

研究概要

当科に導入されている患者情報システム（電子カルテ）による重症度モニタリングに関連する研究，他科との協調・協力型体制など救急医療の方向性に関する研究，重症頭部外傷・蘇生後脳症に対する軽度脳低体温療法の有用性の研究は引き続きなされている．さらに，他科と協力して行うDamage Control Surgeryの推進，顔面外傷診断に於ける3D-CT scanの有用性の検討，呼吸不全患者に対するNPPV（Non-invasive Positive Pressure Ventilation）導入と腹臥位による呼吸理学療法の有用性の検討，全身性炎症反応症候群に伴う急性肺障害（ALI/ARDS）のCT gradeを用いた病態調査と研究，各種薬剤のTDMの解析に関する研究も成されている．WHONETというmicrobiology laboratory database software導入による当院のantibiogramの瞬時算出による抗菌薬適正使用の検討や院内耐性菌のlocal factorの検討，グラム染色の積極的活用とその画像のコンピューター解析による診療と教育への応用など，救急医学及び集中治療学と病院感染管理に於ける集学的研究が展開されている．

研究業績

論文

- (1) 原著：
- 1) 上田康晴：シーン別呼吸器救急への対応：2．気道の異常．呼吸器ケア 2006．
 - 2) 黒川 顯：救急医療を考える：明るい未来を拓くために今．日本救急医学会雑誌 2006；17：656-703．
 - 3) 畝本恭子：医療サイドから救急救命士（救急隊）に望むこと．エマージェンシー・ケア 2006；19（11）：16-21．
 - 4) 上田康晴，野口周作¹⁾，牧 真彦，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，黒川 顯（¹⁾武蔵小杉病院薬剤部）：Teicoplanin高用量投与の有用性と血中濃度．日本化学療法学会雑誌 2007；55（1）．
 - 5) 上田康晴：脊髄損傷における人工呼吸器のweaning．CLINICAL REHABILITATION 2007；16（3）．
- (2) 綜説：
- 1) 黒川 顯：カテーテル/ドレーン管理の最新トレンド：深部体温測定用カテーテル．看護技術 2006；52：38-39．
 - 2) 酒井行直¹⁾，大野 大¹⁾，大塚智之¹⁾，村澤恒男¹⁾，黒川 顯（¹⁾武蔵小杉病院内科）：術後期：外傷（脳症患者を含む）に対する血液浄化．救急・集中治療 2006；18：164-168．
 - 3) 畝本恭子：脳出血の重症度指標．救急医学 2007；31（3）：284-285．
- (3) 症例報告：
- 1) 上田康晴：急性期におけるNPPV療法の現状と今後．HOTWAVE 2006；16．
 - 2) 上田康晴，牧 真彦，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，黒川 顯：胸部外傷後に肺血栓塞栓症と脊髄梗塞を合

併した1例．バイオメディカル 2006；16：47-56．

- 3) 唐木千晶, 上田康晴, 牧 真彦, 上笹 宙, 望月 徹, 畝本恭子, 黒川 顯: 抜管時に塩酸デクスメトミジンが有効であった重症2症例．日本臨床救急医学会誌 2006；9(5)．

著 書

- 1) 黒川 顯:〔分担〕第29回救急救命士国家試験問題解答・解説集．第29回救急救命士国家試験問題解答・解説集, 2006；pp3-15, へるす出版．
- 2) 黒川 顯:〔分担〕シアン中毒．今日の治療指針(2007年版), 2007；pp119-120, 医学書院．
- 3) 畝本恭子:〔分担〕腰椎穿刺・髄液採取法．今日の治療指針(2007年版), 2007；pp102-103, 医学書院．
- 4) 望月 徹, 黒川 顯:〔共著〕最小発育阻止濃度(MIC), 最小殺菌濃度(MBC)．救急医学 指標と数値算出法 定義と使い方, 2007；pp316-316, へるす出版．
- 5) 望月 徹, 宮内雅人¹⁾, 牧野俊郎²⁾, 平田清貴³⁾(¹⁾救急医学,²⁾成田国際空港クリニック,³⁾付属病院薬剤部):〔共著〕診療科医薬品集 救急治療・薬剤ハンドブック 第3版．診療科医薬品集 救急治療・薬剤ハンドブック 第3版, 2007；株式会社じほう．

学会発表

〔2005年度追加分〕

ワークショップ:

- 1) 猪鹿倉恭子, 牧 真彦, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 横田裕行¹⁾, 黒川 顯, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 多発外傷を伴う重症頭部外傷の予後不良因子．第29回日本神経外傷学会, 2006．3．

一般講演:

- 1) 畝本恭子, 横田裕行¹⁾, 黒川 顯, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 管理に難渋した脳低温療法後Lance-Adams症候群の1例．第18回日本脳死脳蘇生学会, 2005．6．
- 2) 畝本恭子, 唐木千晶, 牧 真彦, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 黒川 顯, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 蘇生後脳症に対する脳低温療法の適応と限界．第33回日本救急医学会総会, 2005．10．
- 3) 猪鹿倉恭子, 直江康孝¹⁾, 志賀尚子¹⁾, 鈴木紀成²⁾, 二宮宣文¹⁾, 横田裕行³⁾, 高橋 弘²⁾, 黒川 顯, 山本保博³⁾, 寺本 明⁴⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター,²⁾武蔵小杉病院脳神経外科,³⁾救急医学,⁴⁾付属病院脳神経外科): 多発外傷を伴う頭部外傷症例に対する救急体制．第64回日本脳神経外科学会総会, 2005．10．
- 4) 猪鹿倉恭子, 牧 真彦, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 横田裕行¹⁾, 黒川 顯, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 脳ヘルニアを来たしながら短時間に自然消失した小児急性硬膜下血腫の1例．第29回日本神経外傷学会, 2006．3．

(1) シンポジウム:

- 1) 畝本恭子, 牧 真彦, 上笹 宙, 上田康晴, 望月 徹, 直江康孝¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 横田裕行²⁾, 黒川 顯, 山本保博²⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター,²⁾救急医学): 多発外傷を伴う重症頭部外傷の診療ストラテジーの検討: preventable brain damageへの模索．第34回日本救急医学会総会, 2006．11．

(2) セミナー:

- 1) 上田康晴: 急性期におけるNPPV療法の現状と今後について．第16回日本呼吸管理学会総会, 2007．7．

(3) ワークショップ:

- 1) 黒川 顯, 畝本恭子, 望月 徹, 上田康晴, 上笹 宙, 牧 真彦: 救急医の役割．第34回日本救急医学会総会, 2006．10．

(4) 一般講演:

- 1) 上笹 宙, 黒川 顯, 畝本恭子, 望月 徹, 上田康晴, 牧 真彦: 劇的な経過で多臓器不全に至った急性肺障

- 害の1例．第9回日本臨床救急医学会総会，2006．5．
- 2) 上田康晴：胸部外傷後に肺血栓塞栓症&脊髄梗塞を合併した1症例．第53回日本麻酔学会総会，2006．6．
- 3) 猪鹿倉（畝本）恭子，牧 真彦，上笹 宙，上田康晴，直江康孝¹⁾，望月 徹，横田裕行²⁾，黒川 顯，山本保博²⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター，²⁾救急医学)：多発外傷を伴う頭部外傷における脳低温療法の是非．第9回日本脳低温療法学会，2006．7．
- 4) 猪鹿倉（畝本）恭子，中江竜太¹⁾，鈴木紀成²⁾，横田裕行¹⁾，黒川 顯，寺本 明²⁾，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学，²⁾武蔵小杉病院脳神経外科)：外傷性一次性脳幹損傷による眼球運動障害の検討：脚間槽血腫の診断的意義について．第65回日本脳神経外科学会総会，2006．10．
- 5) 上田康晴，野口周作¹⁾，牧 真彦，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，黒川 顯(¹⁾武蔵小杉病院薬剤部)：TDMの重要性について．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 6) 上田康晴，牧 真彦，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，黒川 顯：急性呼吸不全の治療戦略について．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 7) 上田康晴，野口周作¹⁾，牧 真彦，菊池広子，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，黒川 顯(¹⁾武蔵小杉病院薬剤部)：広範囲熱傷患者のMRSA感染症におけるTEICトラフ値について．第15回日本熱傷学会関東地方会，2007．1．
- 8) 古畑 謙¹⁾，上田康晴，牧 真彦，加地正人²⁾，菊池広子，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，黒川 顯(¹⁾日本医科大学救急医学，²⁾東京医科歯科大学医学部付属病院救命救急センター)：腹部銃創を伴った覚醒剤中毒患者に対しdexmedetomidine（プレセデックス）を使用した1例．第57回日本救急医学会関東地方会，2007．2．
- 9) 猪鹿倉恭子，中江竜太¹⁾，鈴木 剛¹⁾，渥美生弘¹⁾，横田裕行¹⁾，黒川 顯，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：三次救急施設における急性脊椎脊髄損傷の分析．第30回日本神経外傷学会，2007．3．
- 10) 望月 徹，黒川 顯，牧 真彦，上笹 宙：開創ドレナージ腔からの持続する病原菌侵入により菌血症治療に難渋した急性虫垂炎術後小腸瘻の1例．第43回日本腹部救急医学会総会，2007．3．
- 11) 上田康晴：外傷・熱傷・中毒患者のfluid resuscitationの考え方：ハンプを用いて．第2回hANP Forum in Fujigaoka，2007．3．
- 12) 上田康晴：重症MRSA感染症へのテイコプラニン（TEIC）投与方法について．神奈川MRSA感染症研究会，2007．3．
- (5) ポスター：
- 1) 牧 真彦，上田康晴，上笹 宙，望月 徹，畝本恭子，黒川 顯：淡水溺水後に発症した急性呼吸窮迫症候群（ARDS）に対しシベスタットナトリウムが奏功した2例．第34回日本救急医学会総会，2006．10．
- 2) 望月 徹，牧 真彦，上笹 宙，畝本恭子，上田康晴，黒川 顯，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：救急現場の感染症初期治療に於いて臨床医自ら行う塗抹検査の有用性：染色所見による起因菌診断基準と塗抹検査の限界，診断の質を保障する工夫．第34回日本救急医学会総会，2006．11．

[多摩永山病院救命救急センター]

研究概要

当施設では多摩地区の3次救急医療施設として多発外傷，頭部外傷，虚血性心疾患，整形外科外傷，脳血管障害，熱傷，薬物中毒，災害医療と多岐にわたる患者に対してそれぞれの分野での専門医を中心に自己完結的に診療にあたるとともに，併せて各分野での臨床研究を行っている．頭部外傷に対する軽度低体温療法，脳梗塞超急性期に対するt-PAの投与，多発外傷に対するダメージコントロール，病院前から継続して行われる救急医療システムによって救命し得た患者の蘇生後低体温療法にも積極的に取り組んでおり症例を重ねている．臨床研究のほか基礎実験も継続して行っており，エンドトキシン血症に対するPMX，各種薬剤の有効性について研究を行っている．また，災害医療に関しても海外への派遣に積極的に参加している．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Shiga N, Nemoto K, Shimada Y, Nakanowatari Y, Ninomiya N, Yamamoto Y : Elimination of 2-arachidonylglycerol action by direct hemoperfusion through fibers Immobilizing polymyxin B : An experimental study in conscious guinea pigs . Therapeutic Apheresis and Dialysis 2006 ; 10 (6): 504-509 .
- 2) Kaji M , Nemoto K , Kubota M , Ninomiya N , Katayama H , Maeda S : Preventive effects of sivelestat sodium hydrate on lipopolysaccharide- induced intestinal paralysis in conscious guinea pigs . J. Jap. Assoc. Acute Medicine 2006 ; 17 (12): 845-853 .
- 3) Okumura T , Ninomiya N , Okada M (¹ Saga Medical school , ³ Seireihamamatsu General Hospital) : Air Medical Transport in Japan . Principles and Derection of Air Medical transport Section VIII : International 2006 ; 76 : 643-646 .
- 4) 久保田稔 , 二宮宣文 , 直江康孝 , 志賀尚子 , 中野渡雄一 , 久野将宗 , 小柳正雄 , 原 俊輔 , 山本修三 , 加地正人 (¹ 多摩永山病院中央検査室) : 重症意識障害例の予後予測における電気生理学検査の有用性 . 日本臨床救急医学会誌 2006 ; 9 (4): 344-347 .

(2) 綜説：

- 1) 二宮宣文 : 冬に起きやすい疾病への対応 . てあて 2006 ; (38): 2-3 .
- 2) 二宮宣文 : 高齢者のために必要な旅行医学 . 成人病と習慣病 2006 ; 36 (8): 853-856 .
- 3) 二宮宣文 : 急性アルコール中毒の対応について . てあて 2006 ; (39): 2-3 .
- 4) 二宮宣文 : 海・山で必要な応急手の知識 . てあて 2006 ; (40): 2-3 .
- 5) 二宮宣文 : 高齢者のてあて . てあて 2006 ; (41): 2-3 .

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Shimada Y : Collaboration in Medical Disaster Relieves Between Japanese NGO and Government . The 8th Asia Pacific Conference on Disaster Medicine , 2006 . 11 .

(2) パネルディスカッション：

- 1) 塩埜正己¹⁾ , 二宮宣文 , 島崎栄二²⁾ , 田中秀治²⁾ (¹ 日本医科大学多摩永山病院看護部 , ² 国士館大学) : 救急救命士養成課程病院実習教育プログラムへの提言 救急救命士が担う教育内容とその対策 . 第8回日本救急看護学会学術集会 , 2006 . 4 .
- 2) 直江康孝 , 山本保博 , 横田裕行 , 畝本恭子 , 佐藤秀貴 , 志賀尚子 , 石之神小織 , 布施 明 , 山本修三 : 当施設における急性脳卒中の治療戦略 . 第34回日本救急医学会総会 , 2006 . 10 .

(3) 一般講演：

- 1) 中野渡雄一 , 根本香代 , 志賀尚子 , 島田 靖 , 久保田稔 , 二宮宣文 , 山本保博 : エンドトキシン誘発モルモットイレウスモデルにおけるポリキシミンB固定化カラム (PMX) 血流灌流およびnafamostat mesilateの効果 . 第10回エンドトキシン血症救命治療研究会 , 2006 . 2 .
- 2) 二宮宣文 : 自爆テロにおける緊急患者搬送とボールベアリング爆弾外傷の治療 . 第11回日本集団災害医学会総会 , 2006 . 2 .
- 3) 久野将宗 , 稲垣栄次 , 原 俊輔 , 小柳正雄 , 島田 靖 , 中野渡雄一 , 志賀尚子 , 直江康孝 , 加地正人 , 二宮宣文 : 当院において蘇生後に低体温療法を施行した症例に対する検討 . 第9回日本臨床救急医学会総会 , 2006 . 5 .
- 4) 二宮宣文 , 島田 靖 , 久野将宗 , 山本保博 : 2006年1月の成田空港雪害から学ぶ . 第34回日本救急医学会総会 , 2006 . 10 .

- 5) 中野渡雄一, 根本香代, 志賀尚子, 島田 靖, 久保田稔, 二宮宣文, 山本保博: 実験的エンドトキシン血症に対するPMX DHPおよびnafamostat mesilateの効果. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
 - 6) 小川理郎, 久野将宗, 中野渡雄一, 直江康孝, 二宮宣文, 横田裕行, 山本保博: 胸骨圧迫式心臓マッサージ中の血圧からみた圧迫回数の再検討. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
 - 7) 富岡譲二, 島田 靖, 杉本勝彦, 中尾博之, 松阪正訓, 中村雅彦, 近藤久禎, 二宮宣文, 鷓飼 卓, 山本保博 (¹ 特定非営利活動法人災害人道医療支援会): 国際緊急医療援助におけるGO NGO連携の試み HuMAの活動を通じて. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.
 - 8) 石丸直樹, 二宮宣文, 直江康孝, 中野渡雄一, 石之神小織, 諸江雄太, 島田 靖, 原 俊輔, 久野将宗, 横堀将司, 稲垣栄次: シートベルト外傷の3例 シートベルトは本当に安全なのか?. 第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
 - 9) 稲垣栄次, 石丸直樹, 久野将宗, 原 俊輔, 諸江雄太, 石之神小織, 中野渡雄一, 直江康孝, 二宮宣文: TAEにより救命し得た小脳出血の1例. 第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
 - 10) 久野将宗, 中野渡雄一, 島田 靖, 直江康孝, 二宮宣文, 久保田稔: CPA 蘇生後にSSEPを施行した症例に関する検討. 第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
 - 11) 稲垣栄次, 二宮宣文, 直江康孝, 中野渡雄一, 石之神小織, 諸江雄太, 原 俊輔, 久野将宗, 石丸直樹: 気腫性膀胱炎の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- (4) ポスター:
- 1) 島田 靖, 根本香代, 久保田稔, 二宮宣文, 山本保博: エンドトキシン血症モデルに対するオセルタミピルの有効性. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 10.

[千葉北総病院救命救急センター]

研究概要

当施設は千葉県北総地域の基幹救急医療施設として平成6年1月に開設した。その後、平成8年11月に千葉県の基幹災害医療センターに、また平成9年1月に千葉県で最初の日本救急医学会指導医指定施設に認可された。平成11年4月には県内8施設目の救命救急センターに認定され、各種学会・研究会において活発な活動を行っている。平成13年10月からは、厚生労働省事業である千葉県ドクターヘリ事業の基地病院として、千葉県及び茨城県南部で発生した、脳卒中、急性冠症候群、急性大動脈疾患、重症外傷など、ありとあらゆる重症患者に最適の初期治療を提供し、目覚しい治療効果を挙げている。

研究テーマは、救急医療システム特に外傷診療システムのあり方に関する研究、ヘリコプターを活用した救命救急医療のもたらす医学的効果についての研究、災害医療システムの研究と開発、新たな小児重症救急医療システムの構築に関する研究、多発外傷や重症骨盤骨折の病態生理の解明に関する研究ならびに新たな診断・治療手法の開発のための研究、最重症外傷患者に対するDamage Controlの効果に関する研究、敗血症・多臓器不全の病態解明、敗血症性多臓器不全に対する血液浄化療法の効果に関する研究と新しい血液浄化法の開発に向けた研究、心肺機能不全例に対する経皮的な心肺補助装置(PCPS)の効果に関する研究、シミュレーションモデルを用いた救急医学教育の開発に関する研究、救命士等の質の向上を目指すためのメディカルコントロールに関する研究等、多岐に渡っており、これらの研究成果を国内ばかりでなく、国際学会で発表し、また英文雑誌に掲載するなどして、内外に情報発信した。

特筆すべきは、当施設が平成13年度から先駆的に取り組んできた、ドクターヘリの医学的効果に関する研究の成果が社会的に認知され、平成19年1月の第166通常国会において、「救急医療用ヘリコプターを用いた救急医療の確保に関する特別措置法案」として結実し、ドクターヘリが全国配備される基盤が確立したことである。

研究業績

論文

[2006 年度追加分]

綜説：

- 1) 朽方規喜, 益子邦洋: 心嚢穿刺, 心 開窓法. 救急医学 2006 ; 30 (3): 290-292 .

研究報告書：

- 1) 長江啓泰¹⁾, 石井隆之¹⁾, 伊藤勝利¹⁾, 岩崎泰彦¹⁾, 岡 邦彦¹⁾, 桜井 実¹⁾, 薩摩一彦¹⁾, 戸澤秀実¹⁾, 西本良典¹⁾, 本田克也¹⁾, 牧下 寛¹⁾, 益子邦洋, 米澤英樹²⁾, 和迎健二²⁾, 久保田秀暢²⁾, 木内信仁 (¹⁾ 車両安全に係る調査分析検討会, ²⁾ 国土交通省自動車交通局技術安全部技術企画課): 平成 17 年度 人体傷害データベース構築に係る分析報告書. 国土交通省自動車交通局 受託研究報告書 2006 ; pp1-139 .

(1) 原著：

- 1) Makino T¹⁾, Asano Y¹⁾, Hata N²⁾, Mashiko K, Yamamoto Y³⁾ (¹⁾ Nippon Medical School Narita Airport Clinic, ²⁾ Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital, ³⁾ Nippon Medical School Main Hospital): Narita Airport and Emergency Medical Care . 日本航空医療学会雑誌 2006 ; 7 (1): 39-45 .
- 2) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 富田祥輝, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学): 重症肝損傷に対する救急室開腹手術の意義. 日本臨床救急医学会雑誌 2006 ; 9 (6): 428-432 .
- 3) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学): 血漿中 plasminogen activator inhibitor type-1 (PAI-1) 値からみた polymyxin-B immobilized fiber column direct hemoperfusion (PMX-DHP) 施行時間の検討. エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2006 ; 10 (1): 69-73 .
- 4) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 朽方規喜, 山本保博¹⁾ (¹⁾ 救急医学): IIIb 型臍損傷に対する damage control surgery と臍頭十二指腸切除術の意義. 日本臨床外科学会雑誌 2007 ; 68 (1): 18-22 .
- 5) 金子 洋¹⁾, 中川 隆¹⁾, 松本 尚 (¹⁾ JPTECTM 協議会東海甲信支部): 試験結果から分析した JPTECTM における問題点. 日本臨床救急医学会雑誌 2007 ; 10 : 1-8 .

(2) 綜説：

- 1) 益子邦洋: 救急ヘリ導入促進法案, 通常国会で審議大詰め. アスカ21 2007 ; 16 (1): 10-11 .
- 2) 益子邦洋: 事後検証のさらなる改善へ向けて. 救急医療ジャーナル 2006 ; 14 (2): 1-1 .
- 3) 益子邦洋: 交通事故による死亡と後遺症の更なる削減に向けて; 外傷診療体制の整備を促進せよ. アスカ21 2006 ; 15 (2): 10-11 .
- 4) 松本 尚, 益子邦洋: わが国のメディカルコントロールの歩み. 救急医学 2006 ; 30 (4): 375-377 .
- 5) 益子邦洋: ドクターヘリの役割とその有効性. 日本病院会雑誌 2006 ; 53 (5): 66-75 .
- 6) 武井健吉: 小児外傷の特殊性. 小児科診療 2006 ; 69 (5): 726-731 .
- 7) 阪本雄一郎, 益子邦洋: 病院前における多発外傷. 救急医学 2006 ; 30 (5): 541-546 .
- 8) 益子邦洋: 臓器・器官9. 顔面・頸部. プレホスピタル・ケア 2006 ; 19 (3): 52-57 .
- 9) 益子邦洋: 気道内異物. 日本医師会雑誌 2006 ; 135 (特別号 (1)): s258-s259 .
- 10) 松本 尚: MC 協議会における MC 体制の検証・今後の課題について. プレホスピタル・ケア 2006 ; 19 (3): 12-16 .
- 11) 朽方規喜: 解離性大動脈破裂. 救急医学 2006 ; 30 (6): 678-680 .
- 12) 益子邦洋: 心肺蘇生法の新しい潮流. アスカ21 2006 ; 15 (3): 10-11 .
- 13) 朽方規喜, 益子邦洋: 肺挫傷の治療指針. 救急・集中治療 2006 ; 18 (5・6): 584-586 .
- 14) 武井健吉: 小児外傷の初期対応; 問診・身体所見から重症例を見極める. Nikkei Medical 2006 ; 159-161 .

- 15) 原 義明：トリアージの考え方．呼吸器科 2006；10(2)：147-154．
- 16) 益子邦洋：メディカルコントロールの現状と問題点．日本病院会雑誌 2006；53(9)：58-77．
- 17) 益子邦洋：わが国の外傷診療体制は今のままで良いのか？；千葉県調査で明らかになった現状と課題．アスカ 21 2006；15(4)：10-11．
- 18) 金丸勝弘，益子邦洋：病院前救護医療における搬送システムの現状と将来（ドクターカーならびにドクターヘリについて）．医科機器学 2007；77(3)：119-127．
- 19) 益子邦洋：第1章 日本医科大学千葉北総病院ドクターヘリ導入までの道程．千葉県ドクターヘリ事業報告書；5年間の軌跡 2007；1-4．
- 20) 阪本雄一郎，益子邦洋：Damage control surgery (DCS) の指標．救急医学 2007；31(3)：337-337．
- 21) 松本 尚，益子邦洋：急性膵炎の重症度指標．救急医学 2007；31(3)：356-357．
- 22) 石塚裕昭¹⁾，松本 尚，中西加寿也²⁾(¹⁾印旛地域救急業務メディカルコントロール協議会事務局，²⁾成田赤十字病院救命救急センター)：メディカルコントロールのための予算確保に向けた消防の取り組み．救急医学 2007；30(4)：453-456．
- (3) 症例報告：
- 1) 上野幸廣，阪本雄一郎，原 義明，松本 尚，益子邦洋，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：誤飲による消化管異物22例の検討．日本救急医学会関東地方会雑誌 2006；27：26-28．
- (4) Case Report：
- 1) Matsumoto H, Mashiko K, Hara Y, Takuhiro K, Kamikawa Y, Sakamoto Y, Morita R, Astushi H, Mochizuki T, Yamamoto Y¹⁾(¹⁾Department of Emergency Critical Care Medicine, Nippon Medical School)：Pipe Organ'-Like Retroperitoneal Drainage After Tile's C Open Pelvic Fracture．The Journal of TRAUMA 2006；60(6)：1347-1349．
- 2) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Takei K, Ueno Y, Tomita Y, Yamamoto Y¹⁾(¹⁾Department of Emergency and critical Care Medicine, Nippon Medical School)：Effect of Direct Hemoperfusion With a Polymyxin B Immobilized Fiber Column on High Mobility Group Box-1 (HMGB-1) in Severe Septic Shock：Report of a Case．ASAIO Journal 2006；52：e37-e39．
- (5) Case Snippet：
- 1) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Kutsukata N, Yamamoto Y¹⁾(¹⁾Department of Emergency Critical Care Medicine, Nippon Medical School)：Gastric pneumatosis and portal venous gas in superior mesenteric artery syndrome．Indian Journal of Gastroenterology 2006；25(5)：263-267．
- (6) エディトリアル：
- 1) 益子邦洋：編集にあたって．救急医学 2007；31(3)：249-249．
- (7) 研究資料：
- 1) 林 宗貴¹⁾，有賀 徹²⁾，明石勝也³⁾，伊藤弘人⁴⁾，井上徹英⁵⁾，伊良部徳次⁶⁾，梅里良正⁷⁾，木村昭夫⁸⁾，鈴木 荘太郎⁹⁾，瀬戸屋雄太郎⁴⁾，前田幸宏⁷⁾，益子邦洋，山本修三¹⁰⁾(¹⁾関東労災病院救急部，²⁾昭和大学医学部救急医学，³⁾聖マリアンナ医科大学救急医学，⁴⁾国立精神・神経センター精神保健研究所，⁵⁾浦添総合病院救急部，⁶⁾国保旭中央病院救命救急センター，⁷⁾日本大学医学部社会医学講座医療管理部門，⁸⁾国際医療センター救急部，⁹⁾東邦大学医学部病院管理学研究室，¹⁰⁾社団法人日本病院会)：救急医療における診療の質の評価手法に関する研究．病院管理 2007；44(1)：19-29．
- (8) 調査・報告：
- 1) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，武井健吉，富田祥輝，齋藤伸行，八木貴典，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：交通事故死減少に対するJPTEC普及の効果および今後の展開．日本臨床救急医学会雑誌 2006；9(6)：433-437．

(9) 臨床経験：

- 1) 上野幸廣, 阪本雄一郎, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 富田祥輝, 益子邦洋, 山本保博¹⁾(¹⁾救急医学): 救命救急センター専従医による上部消化管出血に対する治療成績についての検討. 日本臨床救急医学会雑誌 2006 ; 9 (6): 444-449 .

(10) 研究報告書：

- 1) 益子邦洋：分担研究 ドクターヘリの実態と評価に関する研究．平成17年度厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）新たな救急医療施設のあり方と病院前救護体制の評価に関する研究（主任研究者 小濱啓次） 2006 .
- 2) 鈴木春男¹⁾, 榛澤芳雄¹⁾, 益子邦洋, 安井一彦¹⁾, 大橋秀幸¹⁾, 泉 達也¹⁾, 小瀧和三¹⁾, 伊豆敬治郎¹⁾, 浮嶋有造¹⁾, 時田幸子¹⁾, 成毛一雄¹⁾, 高橋 健¹⁾, 伊藤博訓¹⁾, 杉本健治¹⁾, 佐藤謙二¹⁾, 渡邊隆浩¹⁾, 塚本勝身¹⁾, 小林安久¹⁾, 嶋 克己¹⁾(¹⁾千葉県交通事故調査委員会): 交通事故死者数の削減を目的とした重点的交通事故ミクログ調査の意義に関する研究．平成17年 財団法人三井住友海上福祉財団助成研究 2006 ; pp1-35 .
- 3) 山口拓洋¹⁾, 益子邦洋 (¹⁾東京大学大学院医学系研究科生物統計学): 外傷患者及び交通事故患者におけるドクターヘリの効果評価に関する研究．平成18年度消防防災科学技術研究推進制度：交通事故被害者におけるドクターヘリの効果評価報告書 2007 ; pp1-1 .

著 書

- 1) 益子邦洋：〔総説〕Chapter II 特定非営利活動法人救急ヘリ病院ネットワーク（HEM-Net）の活動．プレホスピタルMOOK シリーズ3エアレスキュー・ドクターカー（監修／石原 晋・益子邦洋 編集責任／石原 晋・益子邦洋），2006 ; pp103-113, 永井書店 .
- 2) 松本 尚：〔分担〕Chapter I 救急現場への医師要請．プレホスピタルMOOK シリーズ3エアレスキュー・ドクターカー（監修／石原 晋・益子邦洋 編集責任／石原 晋・益子邦洋），2006 ; pp159-166, 永井書店 .
- 3) 原 義明：〔翻訳〕1章 重症患者の管理．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp2-3, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 4) 原 義明：〔翻訳〕2章 クリティカルケアのモニタリング．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp4-5, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 5) 原 義明：〔翻訳〕3章 酸素運搬．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp6-7, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 6) 原 義明：〔翻訳〕4章 ショック．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp8-9, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 7) 原 義明：〔翻訳〕5章 循環補助：輸液と強心薬．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp10-11, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 8) 原 義明：〔翻訳〕6章 酸素化障害と酸素療法．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp12-13, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 9) 原 義明：〔翻訳〕7章 気道管理．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp14-14, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 10) 原 義明：〔翻訳〕8章 非侵襲的人工換気．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp15-15, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 11) 原 義明：〔翻訳〕9章 気管挿管．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp16-17, メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 12) 阪本雄一郎：〔翻訳〕30章 急性腎不全：病態生理と臨床的側面．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006 ; pp58-59, メディカル・サイエンス・インターナショナル .

- 13) 武井健吉：〔翻訳〕37章 意識障害，昏睡，てんかん重積状態．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp72-73，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 14) 松本 尚：〔翻訳〕44章 外傷．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp84-85，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 15) 石原 晋，益子邦洋：〔監修・編集〕プレホスピタルMOOK シリーズ1 現場活動プロトコール（監修／石原 晋・益子邦洋 編集責任／石原 晋・益子邦洋），2006；pp1-2，永井書店．
- 16) 松本 尚：〔分担〕外傷．プレホスピタルMOOK シリーズ1 現場活動プロトコール（監修／石原 晋・益子邦洋 編集責任／石原 晋・益子邦洋），2006；pp132-136，永井書店．
- 17) 阪本雄一郎：〔翻訳〕31章 急性腎不全：管理と透析．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp60-61，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 18) 阪本雄一郎：〔翻訳〕32章 糖尿病性緊急症．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp62-63，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 19) 阪本雄一郎：〔翻訳〕33章 内分泌緊急症．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp64-65，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 20) 阪本雄一郎：〔翻訳〕34章 消化管出血．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp66-67，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 21) 阪本雄一郎：〔翻訳〕35章 急性肝不全．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp68-69，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 22) 阪本雄一郎：〔翻訳〕36章 急性膵炎．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp70-71，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 23) 武井健吉：〔翻訳〕38章 神経緊急症：脳卒中．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp74-74，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 24) 武井健吉：〔翻訳〕39章 神経緊急症：感染症．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp75-75，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 25) 武井健吉：〔翻訳〕40章 神経筋疾患．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp76-77，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 26) 武井健吉：〔翻訳〕41章 輸血と血液凝固異常．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp78-79，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 27) 武井健吉：〔翻訳〕42章 薬物過量と薬物中毒．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp80-81，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 28) 武井健吉：〔翻訳〕43章 免疫不全状態の患者．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp82-83，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 29) 松本 尚：〔翻訳〕45章 頭部外傷．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp86-87，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 30) 松本 尚：〔翻訳〕46章 胸部外傷．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp88-89，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 31) 松本 尚：〔翻訳〕47章 急性腹症．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp90-91，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 32) 松本 尚：〔翻訳〕49章 熱傷，中毒性物質吸引，電撃症．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp94-95，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 33) 富田祥輝：〔翻訳〕序文．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；ppiv-iv，メディカル・サイエンス・インターナショナル．

- 34) 富田祥輝：〔翻訳〕単位・記号・略語．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；ppvi-xii，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 35) 富田祥輝：〔翻訳〕付録：抗不整脈薬．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp96-96，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 36) 松本 尚：〔翻訳〕48章 産科救急．一目でわかるクリティカルケア（監訳 益子邦洋），2006；pp92-93，メディカル・サイエンス・インターナショナル．
- 37) 石原 晋，益子邦洋：〔監修・編集〕プレホスピタルMOOK シリーズ2 現場活動プロトコール（監修／石原 晋・益子邦洋 編集責任／石原 晋・益子邦洋），2006；pp1-1，永井書店．
- 38) 益子邦洋：〔分担〕心臓と血管の外傷．内科学（総編集 金澤一郎 北原光夫 山口 徹 小俣政男），2006；pp882-885，医学書院．
- 39) 益子邦洋：〔分担〕外傷センター設立構想．工学技術者と医療従事者のためのインパクトバイオメカニクス；交通事故で人はどのようにして怪我するのか？（企画／編集（社）自動車技術会，インパクトバイオメカニクス部門委員会），2006；pp190-193，社団法人 自動車技術会．
- 40) 益子邦洋：〔分担〕交通事故・傷害の実態と救急医療体制．工学技術者と医療従事者のためのインパクトバイオメカニクス；交通事故で人はどのようにして怪我するのか？（企画／編集（社）自動車技術会，インパクトバイオメカニクス部門委員会），2006；pp26-29，社団法人 自動車技術会．
- 41) 益子邦洋：〔監修・編集〕プレホスピタルMOOK シリーズ3 エアレスキュー・ドクターカー（監修／石原 晋・益子邦洋 編集責任／石原 晋・益子邦洋），2007；pp1-213，永井書店．
- 42) 松本 尚：〔分担〕多発外傷．今日の治療指針2007年版〔ポケット版〕（総編集 山口 徹 北原光夫 福井次矢），2007；pp33-34，医学書院．
- 43) 益子邦洋：〔分担〕腹部大血管損傷．今日の治療指針2007年版（volume49）（総編集 山口 徹 北原光夫 福井次矢），2007；pp51-52，医学書院．
- 44) 原 義明：〔分担〕動脈穿刺・カテーテル留置法，観血的血圧測定法．今日の治療指針2007年版〔ポケット版〕（総編集 山口 徹 北原光夫 福井次矢），2007；pp82-83，医学書院．
- 45) 上野幸廣，益子邦洋：〔分担〕溺水．呼吸器疾患最新の治療（編集 工藤翔二 中田紘一郎 貫和敏博），2007；pp191-192，南江堂．
- 46) 肥田誠治¹⁾，益子邦洋（¹⁾新潟大学救急部）：〔分担〕熱傷性ショック．経静脈治療オーダーマニュアル，2007；pp58-63，メディカルレビュー社．
- 47) 益子邦洋：〔分担〕局所所見の観察．救急救命士標準テキスト，2007；pp297-305，へるす出版．
- 48) 益子邦洋：〔分担〕全身所見の観察．救急救命士標準テキスト，2007；pp281-296，へるす出版．
- 49) 松本 尚：〔分担〕病院前救護体制（プレホスピタルケア）．救急救命士標準テキスト（編集 救急救命士標準テキスト編集委員会），2007；pp246-252，へるす出版．
- 50) 石川雅健¹⁾，坂本哲也¹⁾，鈴木啓司¹⁾，根本 学¹⁾，益子邦洋，松本 尚，石川隆之¹⁾，横山雅之¹⁾，塩津文夫²⁾，松野明彦²⁾，山際芳夫²⁾，岡本 綾²⁾，吉田英司²⁾（¹⁾交通事故現場における応急救護処置マニュアル検討委員会，²⁾日本交通福祉協会）：〔共著〕交通事故現場における応急救護処置マニュアル，2007；pp1-89，日本交通福祉協会．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 益子邦洋：重度外傷・熱傷治療における薬物療法．中小病院委員会研修会，2006．5．
- 2) 益子邦洋：肝外傷の治療戦略．第1回秋田県腹部救急研究会，2006．7．
- 3) 益子邦洋：心肺蘇生法の新しい流れ；2005ガイドラインを中心に．第57回印旛市郡内科医会，2006．9．

- 4) 益子邦洋：日本の救急医療．第3回筑西市民病院学会，2006．12．
- 5) 益子邦洋：外傷治療におけるJPTEC（外傷病院前救護）の役割．半田市立半田病院学術講演会，2007．2．
- 6) 松本 尚：大規模災害時におけるトリアージ．千葉県歯科医師会救護医療講習会，2007．3．

(2) 教育講演：

- 1) 益子邦洋：外傷システム構築におけるJPTEC™の役割．第9回日本臨床救急医学会総会，2006．5．

(3) シンポジウム：

- 1) 横田順一郎¹⁾，坂本哲也²⁾，益子邦洋，伊藤 靖³⁾，岡田芳明⁴⁾，木下順弘⁵⁾，中野 実⁶⁾，西山謹吾⁷⁾，松田 潔⁸⁾，森野一真⁹⁾，山村 仁¹⁰⁾(¹⁾市立境病院，²⁾帝京大医学部救急医学，³⁾札幌医科大学高度救命救急センター，⁴⁾防衛医科大学校救急部，⁵⁾熊本大学医学部救急医学，⁶⁾前橋赤十字病院高度救命救急センター，⁷⁾高知赤十字病院救命救急センター，⁸⁾山梨県立中央病院救命救急センター，⁹⁾山形県立中央病院救命救急センター，¹⁰⁾大阪府立泉州救命救急センター)：メディカルコントロール体制における検証の評価に関する研究：アンケート調査からの分析．第9回日本臨床救急医学会総会，2006．5．
- 2) 松本 尚，益子邦洋，阪本雄一郎，原 義明，朽方規喜，富田祥輝，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：外傷診療の充実には症例の集約化が不可欠である．第20回日本外傷学会，2006．5．
- 3) 大友康裕¹⁾，島崎修次²⁾，辺見 弘³⁾，益子邦洋，小関一英⁴⁾，横田順一郎⁵⁾，山口芳裕²⁾(¹⁾東京医科歯科大学救急災害医学，²⁾杏林大学救急医学，³⁾国立病院機構災害医療センター，⁴⁾川口市立医療センター救命救急センター，⁵⁾市立堺病院)：外傷診療指定救命救急センターの施設要件：「救命救急センターにおける避け得た外傷死の実態とその要因調査のための研究班」．第20回日本外傷学会，2006．5．
- 4) 武井健吉，清水直樹¹⁾，松本 尚，嶺 貴彦，佐二木由起，八木貴典，齋藤伸行，富田祥輝，金丸勝弘，阪本雄一郎，朽方規喜，原 義明，益子邦洋：ドクターヘリの活用による小児救急医療体制の新たな展開．第13回日本航空医療学会総会，2006．11．
- 5) 松本 尚：地域MC協議会の実情；各プロトコルを踏まえて．第15回全国救急隊員シンポジウム，2007．1．
- 6) 益子邦洋，阪本雄一郎：外傷登録データから見た高齢者事故の特徴．妊婦・幼児・子供と高齢者の交通安全，2007．2．
- 7) 阪本雄一郎，益子邦洋，小幡 徹¹⁾，松本 尚，原 義明，朽方規喜，武井健吉，金丸勝弘，富田祥輝，山本保博²⁾(¹⁾東京慈恵会医科大学DNA医学研究所 分子細胞生物学研究部，²⁾日本医科大学救急医学)：anandamide，2-AG値からみた敗血症性ショック症例におけるPMX-DHP後のPMMA-CHDFの有用性についての検討．第34回日本集中治療医学会学術集会，2007．3．

(4) パネルディスカッション：

- 1) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，山本保博¹⁾，須藤和義²⁾，桧垣勝美³⁾，鈴木 等⁴⁾(¹⁾日本医科大学救急医学，²⁾佐倉市八街市酒々井町消防組合消防本部，³⁾成田市消防本部，⁴⁾印西地区消防組合消防本部)：JPTEC普及による交通事故死減少に対する効果および今後の展開について．第9回日本臨床救急医学会総会，2006．5．
- 2) 朽方規喜，益子邦洋，松本 尚，原 義明，阪本雄一郎，武井健吉，上野幸廣，富田祥輝，山本保博¹⁾(¹⁾日本医科大学救急医学)：胸部外傷（肺・胸郭損傷）の治療戦略．第20回日本外傷学会，2006．5．
- 3) 松本 尚，益子邦洋，原 義明，朽方規喜，阪本雄一郎，武井健吉，富田祥輝，齋藤伸行，八木貴典，佐二木由起，嶺 貴彦：損傷部位の組み合わせによる多発外傷の治療方針．第34回日本救急医学会総会，2006．8．
- 4) 武井健吉，清水直樹¹⁾，松本 尚，原 義明，朽方規喜，阪本雄一郎，富田祥輝，齋藤伸行，八木貴典，佐二木由起，嶺 貴彦，益子邦洋，山本保博²⁾(¹⁾国立成育医療センター手術集中治療部，²⁾日本医科大学救急医学)：救命センターPICUは救急の最前線基地として機能すべきである．第34回日本救急医学会総会，2006．8．
- 5) 阪本雄一郎，益子邦洋，松本 尚，原 義明，朽方規喜，武井健吉，富田祥輝，小幡 徹¹⁾，山本保博(¹⁾東京慈恵医科大学DNA医学研究所分子細胞生物学研究部，²⁾日本医科大学救急医学)：各種，メディエーター

(anandamide, 2-AG, HMGB-1, PAI-1等)値の変動からみた敗血症性ショック症例におけるPMX-DHPの効果判定についての検討. 第11回エンドトキシン血症救命治療研究会, 2007. 2.

- 6) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 佐二木由起, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾(¹救急医学): 肝損傷の治療戦略についての検討. 第43回日本腹部救急医学総会, 2007. 3.

(5) ワークショップ:

- 1) 武井健吉, 益子邦洋, 松本 尚, 朽方規喜, 原 義明, 阪本雄一郎, 上野幸廣, 富田祥輝, 山本保博¹⁾(¹救急医学): 救命救急センターと小児専門医療施設の連携による広域小児三次救急医療システム. 第9回日本臨床救急医学会総会, 2006. 5.
- 2) 益子邦洋: 胸郭損傷分類改訂案. 第20回日本外傷学会, 2006. 5.
- 3) 益子邦洋: 横隔膜損傷分類改訂案. 第20回日本外傷学会, 2006. 5.
- 4) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 佐二木由起, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾(¹救急医学): 敗血症ショック症例における polymyxin B-immobilized fiber column-Direct hemoperfusion (PMX-DHP) 施行後の収縮期血圧上昇と血清 high mobility group box-1 (HMGB-1) 値との関連についての検討. 第17回日本急性血液浄化学会学術集会, 2006. 10.

(6) 一般講演:

- 1) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 阪本雄一郎, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝: 外科的血栓除去術が極めて有効であった急性深部静脈血栓症の1例. 第9回千葉県救急医療研究会, 2006. 4.
- 2) 熊谷智昭^{1,2)}, 三品雅洋^{1,2)}, 武井健吉, 福地孝明^{1,2)}, 水成隆之¹⁾, 松本 尚, 益子邦洋, 小林士郎¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 赫 彰郎¹⁾(¹千葉北総病院脳神経センター, ²⁾内科学第2): 脳神経センターにおけるドクターヘリ利用状況. 第47回日本神経学会総会, 2006. 5.
- 3) 齋藤伸行, 濱邊祐一¹⁾, 久保一郎²⁾(¹東京都立墨東病院, ²⁾東京都立墨東病院循環器科): 2枝同時閉塞による急性心筋梗塞の1例. 第9回日本臨床救急医学会総会, 2006. 5.
- 4) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 上野幸廣, 富田祥輝, 山本保博¹⁾(¹日本医科大学救急医学): 外傷学会肝損傷分類と転帰, 解剖学的重症度との関連についての検討. 第20回日本外傷学会, 2006. 5.
- 5) 加地正人¹⁾, 大友康裕¹⁾, 相星淳一¹⁾, 庄古知久¹⁾, 益子邦洋, 山本保博²⁾, 辺見 弘³⁾, 久志本成樹²⁾, 小井土雄一²⁾, 本間正人³⁾, 朽方規喜(¹東京医科歯科大学救急災害医学, ²⁾日本医科大学救急医学, ³⁾国立病院機構災害医療センター救命救急センター): 予後との関連の観点からの大血管損傷分類の問題点. 第20回日本外傷学会, 2006. 5.
- 6) 嶺 貴彦, 松本 尚, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 武井健吉, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 佐二木由起, 安藤友一, 益子邦洋: 続発性肺化膿症・敗血症性ショックに対して, 肺部分切除・胸腔洗浄術が奏功した1例. 第2回千葉重症感染症研究会, 2006. 6.
- 7) 阪本雄一郎: 外傷患者におけるSIRS項目と臓器障害の関連性について. 千葉県北総地区 急性肺障害セミナー, 2006. 6.
- 8) 松本 尚: 肺部分切除(ダメージコントロール). 第6回外傷外科手術手技研究会, 2006. 7.
- 9) 松本 尚, 益子邦洋, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 佐二木由起, 嶺 貴彦: 局地型災害対応DMATの編成・訓練と課題. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 8.
- 10) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 阪本雄一郎, 武井健吉, 富田祥輝, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾(¹日本医科大学救急医学): 当センターにおけるPCPS使用状況と外傷におけるPCPSの有用性について. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 8.
- 11) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 小幡 徹¹⁾, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 富田祥輝, 山本保博¹⁾

- (¹)東京慈恵医科大学DNA医学研究所分子細胞生物学研究部,²)日本医科大学救急医学): HMGB-1, AEA, 2AG, PAI-1値の血中濃度変化からみたPMX-DHPのメディエーター除去効果に対する検討。第34回日本救急医学会総会, 2006. 8.
- 12) 後藤真弓¹⁾, 朽方規喜(¹)日本医科大学千葉北総病院麻酔科): 光学式喉頭鏡 TruviewEVO₂の使用経験。第34回日本救急医学会総会, 2006. 8.
- 13) 益子邦洋: 救急医療におけるドクターヘリの役割とその有効性。平成18年度救急医療週間大阪集会, 2006. 9.
- 14) 八木貴典, 嶺 貴彦, 佐二木由起, 齋藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原義明, 松本 尚, 益子邦洋: 股関節離断が有効であった非クロストリジウム性ガス壊疽の1例。第20回千葉県重症患者管理研究会, 2006. 9.
- 15) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 佐二木由起, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾(¹)救急医学): 外傷症例におけるSIRS判定と臓器障害の関連性についての検討。第21回日本救命医療学会総会, 2006. 9.
- 16) 武井健吉, 八木貴典, 嶺 貴彦, 齋藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本尚, 益子邦洋: ドクターヘリによる重症小児のPICU集約について。第172回日本小児科学会千葉地方会, 2006. 9.
- 17) 齋藤伸行, 嶺 貴彦, 佐二木由起, 八木貴典, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原義明, 松本 尚, 益子邦洋: 外傷患者における来院時血糖は予後因子となりうるか。第7回千葉CCM輸液・栄養研究会, 2006. 10.
- 18) 原 義明, 嶺 貴彦, 八木貴典, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 富田祥輝, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 松本尚, 益子邦洋: Drヘリ搬送における広域メディカルコントロール体制の必要性。第13回日本航空医療学会総会, 2006. 11.
- 19) 武井健吉, 清水直樹¹⁾, 松本 尚, 嶺 貴彦, 佐二木由起, 八木貴典, 齋藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 益子邦洋: ヘリコプター搬送; 医師の立場から。第14回小児集中治療ワークショップ, 2006. 11.
- 20) 八木貴典, 嶺 貴彦, 齋藤伸行, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本尚, 益子邦洋: IIIa型肝損傷に合併した仮性動脈瘤に対しTAEが奏功した1小児例。第18回千葉Critical Care Medicine研究会, 2006. 11.
- 21) 金丸勝弘, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 阪本雄一郎, 武井健吉, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 嶺 貴彦, 黒柳美里, 山下太郎, 久保祐子, 益子邦洋: 「血小板減少型」マムシ咬傷の1例。第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 22) 齋藤伸行, 嶺 貴彦, 八木貴典, 富田祥輝, 金丸勝弘, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本尚, 益子邦洋: 受傷メカニズムからみた電撃傷2例。第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 23) 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾(¹)日本医科大学救急医学): DPC (Diagnosis Procedure Combination) からみた外傷患者におけるAISコーディングの重要性についての検討。第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 24) 嶺 貴彦, 松本 尚, 阪本雄一郎, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 齋藤伸行, 八木貴典, 益子邦洋: Paraneumonic Effusionの治療戦略に関する検討。第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 25) 八木貴典, 嶺 貴彦, 齋藤伸行, 金丸勝弘, 富田祥輝, 武井健吉, 阪本雄一郎, 朽方規喜, 原 義明, 松本尚, 益子邦洋: IIIa型肝損傷に合併した仮性動脈瘤に対しTAEが奏功した1小児例。第57回日本救急医学会関東地方会, 2007. 2.
- 26) 朽方規喜, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 阪本雄一郎, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 八木貴典, 嶺 貴彦, 山本保博¹⁾(¹)救急医学): 上腸間膜動脈血栓症に対して右胃大網動脈バイパスで血行再建術を施行した1例。第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.

(7) ポスター :

- 1) Sakamoto Y, Mashiko K, Matsumoto H, Hara Y, Yamamoto Y¹⁾(¹⁾ Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School): Relationship between presence of serum high-mobility-group box protein 1 and injury severity score in trauma patients. 27th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, 2007. 3.
- 2) Sakamoto Y, Mashiko K, Obata T¹⁾, Yamamoto Y²⁾(¹⁾ Department of Molecular Cell Biology, Institute of DNA Medicine, Jikei University School of Medicine, ²⁾ Department of Emergency Medicine, Nippon Medical School): Mechanism and effectiveness of polymyxin B-immobilized fiber columns for removing mediators (anandamide, 2-AG, HMGB-1, PAI-1 and protein C) in septic shock patients. 27th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, 2007. 3.
- 3) 武井健吉, 清水直樹¹⁾, 椎間優子¹⁾, 小原崇一郎¹⁾, 中川 聡¹⁾, 阪井裕一¹⁾, 宮坂勝之¹⁾(¹⁾ 国立成育医療センター): 小児医療施設と救命救急センターの連携による広域小児三次救急医療システム. 第109回日本小児科学会, 2006. 4.
- 4) 富田祥輝, 原 義明, 川井 真¹⁾, 大泉 旭¹⁾(¹⁾ 日本医科大学救急医学): 下腿における骨折部位とコンパートメント症候群発生率との関係. 第79回日本整形外科学会学術総会, 2006. 5.
- 5) 齊藤伸行, 濱邊祐一¹⁾(¹⁾ 東京都立墨東病院): Hypercapnic coma 症例に対する NPPV の効果. 社団法人日本麻酔科学会第53回学術集会, 2006. 6.
- 6) 富田祥輝, 原 義明, 川井 真¹⁾, 大泉 旭¹⁾(¹⁾ 救急医学): 出血性ショックに陥った安定型骨盤骨折症例の検討. 第32回日本骨折治療学会, 2006. 7.
- 7) 益子邦洋, 阪本雄一郎, 有賀 徹¹⁾, 坂本哲也¹⁾, 大友康裕¹⁾, 北野光秀¹⁾, 井口浩一¹⁾, 鈴木春男²⁾, 伊藤文夫²⁾, 榛澤芳雄²⁾, 大橋秀幸²⁾(¹⁾ 千葉県交通事故調査委員会第三者評価委員会, ²⁾ 千葉県交通事故調査委員会): 交通事故死亡例の Peer Review で明らかになった Preventable Trauma Death の現状と外傷診療体制の課題. 第34回日本救急医学会総会, 2006. 8.
- 8) 嶺 貴彦, 阪本雄一郎, 益子邦洋, 松本 尚, 原 義明, 朽方規喜, 武井健吉, 金丸勝弘, 富田祥輝, 八木貴典: 頭部 AIS 5 以上の重症頭部外傷を合併する多発外傷症例の転帰に関する検討. 第34回日本集中治療医学会学術集会, 2007. 3.

(8) 症例検討 :

- 1) 益子邦洋: 症例検討 (6) 胸部外傷. 3学会合同呼吸療法認定士認定制度 10周年記念講演会, 2006. 4.

[成田国際空港クリニック]

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Makino T, Asano Y, Eshi M, Murakoshi H, Ichikawa K, Tajima H, Okada S, Kumita S, Yamamoto Y: Assessment and Diagnostic Imaging of Body Packers. Japanese Society of Travel Medicine 2006; 4 (1): 111-120.

(2) 綜説 :

- 1) 牧野俊郎: 実践 救急医療 第IV章 主な救急疾患 肺梗塞 (エコノミークラス症候群を含めて). 日本医師会雑誌 2006; 135 (1): S321-S322.
- 2) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 恵志正輝, 村越秀光, 畑 典武, 今泉孝敬, 山本保博: 航空機に起因した肺血栓塞栓症

の検討. THERAPEUTIC RESEARCH 2006 ; 27 (6): 979-981 .

3) 牧野俊郎: いわゆるエコノミークラス症候群. 総合臨牀 2006 ; 55 (7): 1810-1812 .

4) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 飯島勝利, 山本保博: 成田空港での外国人医療. 治療 (J. Therap) 2006 ; 88 (9): 2346-2350 .

5) 牧野俊郎: 成田空港におけるいわゆるエコノミークラス症候群の現状. 臨床検査 2006 ; 50 (11): 1277-1280 .

6) 浅野悦洋, 飯島勝利, 恵志正輝, 牧野俊郎: 国際空港クリニックにおける医療費. 日本航空医療学会誌 2006 ; 7 (2): 2-4 .

著 書

1) 山本保博¹⁾, 黒川 顕¹⁾, 牧野俊郎¹⁾, 小山 敦²⁾, 吉田竜介¹⁾, 富岡譲二³⁾, 小川理朗⁴⁾ (¹⁾ 日本医科大学救急医学, ²⁾ いわき市立総合磐城共立病院救命救急センター, ³⁾ 福岡和白病院 ER, ⁴⁾ 救急救命東京研修所): [分担] 第29回救急救命士国家試験問題解答・解説集. 第29回救急救命士国家試験問題解答集・解説集 (山本保博), 2006 ; へるす出版 .

学会発表

(1) パネルディスカッション :

1) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 飯島勝利, 山本保博: 成田空港とNBCテロ災害対策. 第34回日本救急医学会総会, 2006 . 11 .

(2) 一般講演 :

1) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 飯島勝利, 山本保博: 航空機に起因する肺血栓塞栓症. 第34回日本救急医学会総会, 2006 . 11 .

2) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 村越秀光, 益子邦洋, 山本保博: 成田空港における外国人に対する医療と死亡例の検討. 第52回日本宇宙航空環境医学会総会, 2006 . 11 .

3) 牧野俊郎, 浅野悦洋, 飯島勝利, 村越秀光, 恵志正輝, 岡田 進, 市川和雄, 隈崎達夫, 益子邦洋, 山本保博: 当空港クリニックにおけるBody Packersの現状と画像診断. 第52回日本宇宙航空環境医学会総会, 2006 . 11 .

4) 村越秀光, 恵志正輝, 浅野悦洋, 岩瀬龍之, 牧野俊郎: 空港クリニックにおける空港勤務者, 客室乗務員の疾病動向. 第52回日本宇宙航空環境医学会総会, 2006 . 11 .

5) 浅野悦洋, 飯島勝利, 村越秀光, 岩瀬龍之, 牧野俊郎: 自由診療における旅行者, 乗務員に対する医療費の検討. 第52回日本宇宙航空環境医学会総会, 2006 . 11 .

19．形成外科学講座

[付属病院形成外科・美容外科]

研究概要

本年度は以下のような活発な研究活動を主に行った．その概要を箇条書きにする．

1．基礎的研究活動

脂肪組織幹細胞による組織工学・再生医療

生体充填用異物の化学的解析

超薄皮弁の血管解剖

2．臨床的研究活動

広範囲熱傷再建外科

ケロイドの集学的治療

美容レーザー・光治療

美容用充填異物後遺症・人アジュバント病

3．海外学会活動

第8回日韓形成外科学会（濟州島） 5題（1題シンポジウム）

第1回プロペラ皮弁ワークショップ（インド・シェンナイ）3題（3題招待講演）

第16回日中形成外科学会（ハルビン）9題（1題特別講演）

第10回国際穿通枝皮弁学会（アンカラ）3題（1題招待講演）

第28回トルコ形成外科学会（アンカラ）2題（2題招待講演）

第10回東洋美容外科学会（上海）7題

第4回国際脂肪学会（ボストン）4題

4．英文原著24編

5．和文著書1冊

6．国内研究会の立ち上げ

第1回癬痕・ケロイド治療研究会（大宮）

7．顕彰

ベトナム国厚生大臣顕彰 百束比古 青木 律

8．科学研究費補助金取得 7題（教室全体）

研究業績

論文

(1)原著：

1) Wang CM¹⁾, Hyakusoku H, Nakazawa N²⁾ (¹⁾Plastic Surgery Hospital, Chinese Academy of Medical Science and Peking Union Medical College, ²⁾ Department of Pathology, Nippon Medical School): Investigation of P53 Polymorphism for Genetic Predisposition of Keloid and Hypertrophic Scar . Chinese Journal of Plastic Surgery 2005 ; 21 (1): 32-35 .

2) Wang CM¹⁾, Jia CH¹⁾, Zhang L¹⁾, Cao R¹⁾, Xiaoyan LV¹⁾, Yang LI¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾Plastic Surgery Hospital, Chinese Academy of Medical Sciences and Peking Union Medical College): Bioinformatics Analysis of Genes Involved in Keloids . Journal of Plastic Reconstructive Surgery 2005 ; 2 (3): 132-136 .

- 3) Akimoto M¹⁾, Hyakusoku H, Itoh T²⁾(¹⁾Chiba Hokusou Hospital, ²⁾Center of Information Science): Undermining necrosis in pressure sore will extend with oblique load : mechanical analysis using finite element model . Jpn. J. Simulation Surgery 2005 ; 13 (4): 15-20 .
- 4) Yang L¹⁾, Wang CM¹⁾, Cao R¹⁾, Yin Y¹⁾, Xiaoyan LV¹⁾, Nakazawa N¹⁾, Ishiwata T¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾The Research Center of Plastic Surgery Hospital, Chinese Academy of Medical Sciences and Peking Union Medical College): Decorin and Lumican Expressions in Keloid Fibroblastic Cells in Vitro . Chinese Journal of Aesthetic Medicine 2006 ; 15 (3): 230-233 .
- 5) Yin L¹⁾, Wang CH¹⁾, Ren M¹⁾, Fan J¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾Plastic Surgery Hospital, CAMS, PUMC): 6 Cases of Excision of Wide Scar in the Chest Combining with Breast Plastic Surgery . Chinese Journal of Plastic Surgery 2006 ; 22 (2): 157-158 .
- 6) Akimoto M¹⁾, Kuroda S¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾Chiba Hokusou Hospital): Use of calcium phosphate bone paste for deformity of post cranial trauma . Craniofacial Surgery 2006 ; 11 (3): 367-368 .
- 7) Ogawa R, Hyakusoku H : Treatment of Pressure Ulcers using Isodine Sugar Paste . Dermatology 2006 ; 212 (2): 146-147 .
- 8) Fujimura J¹⁾, Shima Y¹⁾, Arai H¹⁾, Ogawa R, Fukunaga Y¹⁾(¹⁾Pediatrics): Management of asuprasellar arachnoid cyst identified using prenatal sonography . Journal of Clinical Ultrasound 2006 ; 34 (1): 92-94 .
- 9) Ogawa R, Hyakusoku H : Does Egyptian foot present an increased risk of ingrown toenail? . Plast Reconstr Surg 2006 ; 117 (6): 2111-2112 .
- 10) Lu F¹⁾, Gao JH¹⁾, Ogawa R, Hyakusoku H (¹⁾Nan-Fang Medical University): Preexpanded distant "super-thin" intercostal perforator flaps for facial reconstruction without the need for microsurgery . J Plast Reconstr Aesthet Surg 2006 ; 59 (11): 1203-1208 .
- 11) Aoki R, Pennington DG¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Royal Prince Alfred Hospital): Flap-in-flap method for enhancing the advancement of V-Y flap . J Plast Reconstr Aesthet Surg 2006 ; 59 (6): 653-657 .
- 12) Kawahara S, Hyakusoku H, Ogawa R, Ohkubo S, Igarashi H¹⁾, Hirakawa K²⁾(¹⁾2nd Internal Medicine, ²⁾Legal Medicine): Clinical Imaging Diagnosis of Implant Materials for Breast Augmentation . Ann Plast Surg 2006 ; 57 (1): 6-12 .
- 13) Uysal AC, Lu F, Mizuno H, Ogawa R, Vinh VQ, Sano K, Hyakusoku H : Defining vascular supply and territory of thinned perforator flaps : part I. Anterolateral thigh perforator flap . Plast Reconstr Surg 2006 ; 118 (1): 288-289 .
- 14) Ogawa R, Murakami M¹⁾, Vinh VQ, Hyakusoku H (¹⁾Musashikosugi Hospital): Clinical and anatomical study of superficial cervical artery flaps : retrospective study of reconstructions with 41 flaps and the feasibility of harvesting them as perforator flap . Plast Reconstr Surg 2006 ; 118 (1): 95-101 .
- 15) Oki K, Hyakusoku H, Aoki R, Murakami M²⁾, Oki K¹⁾(¹⁾Aizu Chuou Hospital, ²⁾Musashikosugi Hospital): Fixation of intracapsular fractures of the condylar head with bioabsorbable screws . Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 2006 ; 40 (4): 244-248 .
- 16) Hyakusoku H, Iwakiri I, Murakami M, Ogawa R : Central axis flap methods . Burns 2006 ; 32 (7): 891-896 .
- 17) Lu F¹⁾, Gao JH¹⁾, Ogawa R, Mizuno H, Hyakusoku H (¹⁾Nan-Fang Medical University): Adipose tissues differentiated by adipose-derived stem cells harvested from transgenic mice . Chin J Traumatol 2006 ; 9 (6): 358-363 .
- 18) Sano K, Hyakusoku H : Does a bone deformity of the distal phalanx undergo remodeling after removal of a

congenital ectopic nail? : A case with periodic radiographic follow-up . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6) : 332-336 .

- 19) Hyakusoku H , Chin T : Usefulness of the Nipple-Suspension Piercing Device After Correction of Inverted Nipples . Aesthetic Plast Surg 2006 ; 30 (4) : 396-398 .
 - 20) Futagami A¹⁾ , Aoki M , Iwakiri I , Hyakusoku H , Kawamoto M¹⁾ , Kawana S¹⁾ (¹⁾ Department of Dermatology) : Infantile hemangiopericytoma : case report and literature review . Pediatr Dermatol 2006 ; 23 (4) : 335-337 .
 - 21) Sano K , Aoki R , Koike S , Hyakusoku H : Delayed extended "midthenar" flap for reconstruction of total fingertip avulsion injury and a proposal of ideal postoperative immobilization for a palmar flap . Ann Plast Surg 2007 ; 58 (1) : 116-119 .
 - 22) Ogawa R , Aoki S , Aoki M , Oki K , Hyakusoku H : Three-dimensional external wire frame fixation of digital skin graft . Plast Reconstr Surg 2007 ; 119 (1) : 440-442 .
 - 23) Vinh VQ¹⁾ , Ogawa R , Van Anh T , Hyakusoku H (¹⁾ National Institute of Burns, Vietnam) : Reconstruction of neck scar contractures using supraclavicular flaps : retrospective study of 30 cases . Plast Reconstr Surg 2007 ; 119 (1) : 130-135 .
 - 24) Lu F¹⁾ , Gao J¹⁾ , Ogawa R , Hyakusoku H (¹⁾ Nan-fang Medical University) : Variations in gap junctional intercellular communication and connexin expression in fibroblasts derived from keloid and hypertrophic scars . Plast Reconstr Surg 2007 ; 119 (3) : 844-851 .
 - 25) 藤本啓志¹⁾ , 宮本正章¹⁾ , 山本照代¹⁾ , 水野博司 , 小池幸子 , 高野照夫¹⁾ (¹⁾ 内科学第1) : 医療用ウジを用いた多剤耐性緑膿菌 (MRDP) 感染糖尿病壊疽の治療 . 糖尿病 2006 ; 49 (4) : 517-521 .
 - 26) 土佐眞美子¹⁾ , 村上正洋¹⁾ , 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : BCG接種部に発生したケロイドの臨床的検討 . 日形会誌 2006 ; 26 (6) : 359-364 .
 - 27) 藤村樹里¹⁾ , 小川 令 , 福永慶隆¹⁾ , 鈴木秀典²⁾ (¹⁾ 小児科学 , ²⁾ 薬理学) : 脂肪組織由来幹細胞の神経分化誘導 . 分子脳血管病誌 2006 ; 5 (4) : 421-428 .
 - 28) 小川 令 , 水野博司 , 藤村樹里¹⁾ , 飛田護邦 , 糸井由里恵 , 鈴木秀典¹⁾ , 島田 隆²⁾ , 百束比古 (¹⁾ 小児科学 , ²⁾ 生科学第2) : 脂肪組織由来幹細胞を用いた治療戦略 . 形成外科 2006 ; 49 (10) : 1113-1123 .
 - 29) 青木雅代¹⁾ , 佐野和史 , 赤石諭史 , 岩切 致²⁾ , 百束比古 (¹⁾ 東戸塚病院外科 , ²⁾ 武蔵小杉病院形成外科) : 遊離広背筋皮弁を用いて再建した上肢重度熱傷褥瘡の治療経験 . 褥瘡会誌 2006 ; 8 (4) : 586-590 .
 - 30) 水野博司 , 赤石諭史 , 小池幸子 , 百束比古 , 宮本正章¹⁾ (¹⁾ 内科学第1) : 虚血性難治性皮膚潰瘍に対する骨髓単核球導入コラーゲンマトリックスの臨床応用 . 日形会誌 2006 ; 26 (11) : 726-732 .
 - 31) 河原理子¹⁾ , 百束比古 , 平川慶子²⁾ , 大野曜吉²⁾ (¹⁾ 神栖済生会病院形成外科 , ²⁾ 法医学NMR研究施設) : NMR分光法を用いた美容医療材料および生体内埋入異物の化学分析 . 日美外報 2006 ; 28 (4) : 46-50 .
 - 32) 百束比古 , 小川 令 , 奥田貴久 : 異物や自家脂肪による障害 : その検査と画像診断 . 日美外報 2006 ; 28 (4) : 36-45 .
 - 33) 青木伸峰 , 水野博司 , 小池幸子 , 百束比古 : Blue toe症候群をきたしたコレステロール結晶塞栓症の治療経験 . 日形会誌 2007 ; 27 (1) : 1-6 .
- (2) 綜説 :
- 1) 水野博司 : 脂肪由来幹細胞を利用した脂肪組織再生 . 医学のあゆみ 2006 ; 218 (9) : 808-809 .
 - 2) 百束比古 : 組織工学と遊離血管束移植 . 日医大医会誌 2006 ; 73 (3) : 124-124 .
 - 3) 百束比古 , 小川 令 : 凍傷 (しもやけ) . 形成外科 2006 ; 49 (増刊号) : 25-29 .
 - 4) 青木 律 : 炎症後色素沈着の治療 . 形成外科 2007 ; 50 (1) : 63-70 .

(3) 症例報告：

- 1) 久保一人, 百束比古: 外陰部に発生した基底細胞癌の1例. 形成外科 2006 ; 49 (2): 223-225 .
- 2) 魯 峰, 小川 令, 青木伸峰, 大木更一郎, 百束比古, 植草協子¹⁾, 平川慶子¹⁾, 大野曜吉¹⁾, 下池田勇一²⁾ (¹⁾日本医科大学法医学, ²⁾日本電子): テフロンによる隆鼻術によって異物反応を生じた症例の検討. 日美外報 2006 ; 28 (1): 32-35 .
- 3) 大木琴美, 大木更一郎, 村上正洋, 百束比古: 頭蓋骨より発生した巨大な軟骨腫の1例. 日形会誌 2006 ; 6 (7): 457-461 .
- 4) 橋田絵里香, 佐野和史, 青木伸峰, 百束比古: 仙骨部褥瘡よりフルニエ壊疽に進展し死亡にいたった1例. 褥瘡会誌 2006 ; 8 (4): 600-604 .
- 5) 青木伸峰, 小川 令, 大木更一郎, 百束比古: 小範囲下腿潰瘍への植皮後に toxic shock syndrome を生じたと考えられた1症例. 形成外科 2006 ; 49 (11): 1261-1266 .
- 6) 平本剛士¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 大木琴美¹⁾, 村上正洋²⁾, 百束比古 (¹⁾会津中央病院形成外科, ²⁾武蔵小杉病院形成外科): 成人の比較的小範囲な熱傷創より重篤・遷延化した toxic shock syndrome の1例. 熱傷 2007 ; 33 (1): 43-51 .

著 書

- 1) Ogawa R, Hyakusoku H, Murakami M, Gao JH : [分担] Clinical and Basic Research on Occipito-Dorsal Flaps . Year Book of Plastic and Aesthetic Surgery 2006 , 2006 ; pp194-195 , Elsevier, Philadelphia .
- 2) Ogawa R, Fujimura J¹⁾, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T²⁾ (¹⁾Pediatrics , ²⁾Biochemistry and Molecular biology): [分担] Tissue Engineering Using Adipose-Derived Stem Cells Harvested From GFP Transgenic Animals, . New Developments in Stem Cell Research (Grier EV), 2007 ; pp149-172 , Grier EV : Nova Science Publishers, New York .
- 3) 青木 律: [分担] レーザー・ホワイトライト施術とのコンビネーション施術. レーザー・ホワイトライト施術とのコンビネーション施術 (1) ボトックス, Dermabrasion 看護師, コ・メディカルのためのレーザー・ホワイトライトを用いた施術 (ビューティーサイエンス学会), 2006 ; pp140-147 , 国際商業出版 .
- 4) 小川 令: [分担] ケロイドの電子線治療. 「医療の読売」がおくる生活の質を支える医療新事情: いざというとき役に立つ最先端医療 (読売新聞医療情報部), 2006 ; pp184-187 , 技術評論社 .
- 5) 百束比古, 小川 令: [編著] アトラス, きずのきれいな治し方. アトラス, きずのきれいな治し方, 2006 ; pp1-146 , 全日本病院出版会 .
- 6) 小川 令: [分担] 創傷の種類と治り方. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古, 小川 令), 2006 ; pp1-11 , 全日本病院出版会 .
- 7) 百束比古: [分担] 手術による方法. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古, 小川 令), 2006 ; pp21-25 , 全日本病院出版会 .
- 8) 佐野和史: [分担] 指のきずの治療と管理. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古, 小川 令), 2006 ; pp38-42 , 全日本出版会 .
- 9) 大木更一郎, 伊吾田慎一¹⁾ (¹⁾北村山公立病院形成外科): [分担] 褥瘡に対する手術の実際. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古, 小川 令), 2006 ; pp86-91 , 全日本出版会 .
- 10) 水野博司: [分担] 下腿潰瘍・壊疽. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古, 小川 令), 2006 ; pp99-109 , 全日本出版会 .
- 11) 小川 令: [分担] ケロイドと肥厚性瘢痕. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古, 小川 令), 2006 ; pp117-129 , 全日本病院出版会 .
- 12) 大木更一郎: [分担] きずから発生する重篤な疾患について. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古,

- 小川 令), 2006 ; pp130-132, 全日本病院出版会 .
- 13) 青木 律 : [分担] スキンケアの実際 . アトラス , きずのきれいな治し方 (百束比古 , 小川 令) , 2006 ; pp133-138, 全日本病院出版会 .
- 14) 青木 律 , かづきれいこ : [分担] きずあとのリハビリテーション . アトラス , きずのきれいな治し方 (百束比古 , 小川 令) , 2006 ; pp139-146, 全日本病院出版会 .
- 15) 大木更一郎 , 伊吾田慎一⁽¹⁾北村山公立病院形成外科) : [分担] 手術の具体的な方法 . アトラス・きずのきれいな治し方 (百束比古 , 小川 令) , 2006 ; pp86-92, 全日本病院出版会 .
- 16) 百束比古 : [分担] 熱傷・癍痕・癍痕拘縮 . アトラス・きずのきれいな治し方 (百束比古 , 小川 令) , 2006 ; pp110-116, 全日本病院出版会 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) Hyakusoku H : Burn reconstructive surgery using perforator augmented flaps and perforator pedicled flaps . 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin, China) , 2006 . 8 .
- 2) 百束比古 : 私の形成外科30年の軌跡 皮弁外科の革新と生体埋入異物の診療など . 第11回山形形成外科懇話会 , 2006 . 7 .
- 3) 水野博司 : 脂肪組織幹細胞の基礎と臨床 . 第17回東北大学形成外科同門研究会 , 2007 . 2 .

(2) 招待講演 :

- 1) Hyakusoku H , Ogawa R , Iwakiri I , Murakami M : The Central Axis Flap Method Including the Propeller Flap Method . The 1st National Workshop On Propeller Flap (Chennai, India) , 2006 . 8 .
- 2) Ogawa R , Hyakusoku H , Ishii N : Future Prospects and Indications of the Propeller Flap Method . The 1st National Workshop On Propeller Flap (Chennai, India) , 2006 . 8 .
- 3) Hyakusoku H , Ogawa R : Burn Reconstructive Surgery : Presentation of Our Original Procedures . The 1st National Workshop On Propeller Flap (Chennai, India) , 2006 . 8 .
- 4) Hyakusoku H : The concept of superthin and supercharged perforator flaps . 10th International Course on Perforator Flaps (Ankara, Turkey) , 2006 . 9 .
- 5) Mizuno H : Adipose-derived stem cells in the field of regenerative medicine . 28th Turkish Society of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery Annual Congress (Ankara, Turkey) , 2006 . 9 .
- 6) Mizuno H , Hyakusoku H : The concept of the super-thin flap and its clinical case . 28th Turkish Society of Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery Annual Congress (Ankara, Turkey) , 2006 . 9 .
- 7) 小川 令 : ケロイド・肥厚性癍痕の病態とその霊長類モデルの重要性 . 霊長類医科学セミナー , 2006 . 10 .

(3) シンポジウム :

- 1) 水野博司 , 百束比古 , 宮本正章¹⁾ , 高野照夫¹⁾ , 黒柳能光²⁾ (¹⁾日本医科大学内科学第1 , ²⁾北里大学人工皮膚研究開発センター) : 細胞治療を駆使した重症虚血性難治性潰瘍の治療成績 . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
- 2) 水野博司 : 脂肪組織由来幹細胞による組織再生 . 第27回日本炎症再生医学会 , 2006 . 7 .
- 3) 宮本正章¹⁾ , 水野博司 , 百束比古 , 高木 元¹⁾ , 太良修平¹⁾ , 多川政弘²⁾ , 田畑泰彦³⁾ , 高野照夫¹⁾ (¹⁾日本医科大学内科学第1 , ²⁾日本獣医生命科学大学獣医外科 , ³⁾京都大学再生医学研究所) : 重症難治性虚血肢に対する総合的治療戦略 . 第15回日本形成外科学会基礎学術集会 , 2006 . 10 .
- 4) 大木更一郎 , 村上正洋 , 青木 律 , 百束比古 : 多発性顔面骨折に対する治療戦略 : LeFort III型骨折に対する頬骨蝶形骨縫合固定法 . 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会 , 2006 . 11 .
- 5) 水野博司 : 美容医療における再生医学の応用 . 第9回日本抗加齢美容医療学会 , 2007 . 3 .

(4) パネルディスカッション :

- 1) Aoki R , Sugino H¹⁾ , Hyakusoku H (¹⁾ Aoyama elle clinic): Management of post-inflammatory pigmentation after facial resurfacing . 8th Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Jeju City) , 2006 . 6 .

(5) セミナー :

- 1) Ogawa R , Hyakusoku H , Ishii N : Operative session : The Super-thin Flap . The 1st National Workshop On Propeller Flap (Chennai, India) , 2006 . 8 .
- 2) Ogawa R , Hyakusoku H , Ishii N : Operative session : The Propeller Flap . The 1st National Workshop On Propeller Flap (Chennai, India) , 2006 . 8 .
- 3) Ogawa R , Hyakusoku H , Ishii N : Operative session : The Square Flap . The 1st National Workshop On Propeller Flap (Chennai, India) , 2006 . 8 .
- 4) 青木 律 : レーザーによる癬痕治療の可能性 . 第1回癬痕・ケロイド治療研究会 , 2006 . 9 .
- 5) 大木更一郎 , 百束比古 : ケアシート「PUP」褥瘡予防効果について : 外科サイドからの検討 . 第8回日本褥瘡学会 , 2006 . 9 .

(6) 一般講演 :

- 1) Uysal CA , Mizuno H , Lu F , Ogawa R , Hyakusoku H : The effect of stem cells on skin graft to flap pre-fabrication in rat model . 51st Annual Meeting of the Plastic Surgery Research Council (Dana Point) , 2006 . 5 .
- 2) Ogawa R , Taguchi K , Migita M , Hyakusoku H , Shimada T : The Role of Bone Marrow-Derived Cell in Bone Fracture Repaire . The 51st Plastic Surgery Research Council (Dana Point) , 2006 . 5 .
- 3) Koike S , Aoki R , Ogawa R , Akaishi S , Hyakusoku H : An experimental study and clinical use of TitanR . 8th Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Jeju City) , 2006 . 6 .
- 4) Akaishi S , Aoki R , Hyakusoku H : Flap-in-flap method for enhancing the advancement of a V-Y flap . 8th Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Jeju City) , 2006 . 6 .
- 5) Hyakusoku H , Mizuno H , Murakami M , Aoki R , Sano K , Ogawa R , Gao J-H (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nangfang Medical University): Burn reconstructive surgery using perforator augmented flaps and perforator pedicled flaps . The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin (China)) , 2006 . 8 .
- 6) Gao J-H¹⁾ , Ogawa R , Hyakusoku H , Le F¹⁾ , Hu ZQ¹⁾ , Jang P¹⁾ , Yan L¹⁾ , Feng C¹⁾ (¹⁾ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nangfang Medical University): Reconstruction of face and neck scars using expanded "super-thin flaps" . The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin (China)) , 2006 . 8 .
- 7) Ono S , Hyakusoku H , Ogawa R , Okuda S , Nomoto S , Hirakawa K (¹⁾ Department of Legal Medicine): Medical problems of non-absorbable material injections for cosmetic purpose-discussion about their complications and scientific analysis of materials . The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin (China)) , 2006 . 8 .
- 8) Ono S , Ogawa R , Murakami M , Oki K , Akaishi S , Uysal CA , Hyakusoku H : Superficial Cervical Artery Perforator (SCAP) Flap . 10th International Course on Perforator Flaps (Ankara, Turkey) , 2006 . 9 .
- 9) Kobe K , Ogawa R , Vinh VQ , Uysal CA , Hyakusoku H , Tanuma K¹⁾ (¹⁾ Department of Anatomy): Anatomical Study of Perforators in Cervical Area and Clinical Study of Cervico-Pectoral (CP) " Super-thin flaps " using the Perforators . 10th International Course on Perforator Flaps (Ankara, Turkey) , 2006 . 9 .
- 10) Ogawa R¹⁾ , Ono S , Fujimura J , Mizuno H , Hyakusoku H (¹⁾ Department of Pediatrics): Cardiomyocyte differentiation using adipose-derived stem cells. The 4th International Fat Applied Technology Society . Baton Rouge , 2006 . 10 .

- 11) Fujimura J¹⁾, Ogawa R, Sugihara H¹⁾, Mizuno H, Hyakusoku H, Shimada T¹⁾, Suzuki H¹⁾(¹⁾ Department of Pediatrics): Characterization of adipose-derived stem cells using Hoechst staining. The 4th International Fat Applied Technology Society (Baton Rough), 2006. 10.
- 12) Fujimura J¹⁾, Ogawa R, Hirakawa K²⁾, Uekusa K²⁾, Yuta K³⁾, Mizuno H, Ohno Y (¹⁾ Department of Pediatrics, Nippon Medical School, ²⁾ Department of Legal Medicine, Nippon Medical School, ³⁾ 富士通バイオIT事業開発本部): Metabolic analysis of adipose-derived stem cells and bone marrow mesenchymal stem cells using NMR-based metabolomics. The 4th International Fat Applied Technology Society (Baton Rough), 2006. 10.
- 13) Mizuno H, Uysal CA, Lu F, Ogawa R, Hyakusoku H: Angiogenic potential of adipose-derived stem cells in murine flap model. The 4th International Fat Applied Technology Society (Baton Rough), 2006. 10.
- 14) Ono S, Ogawa R, Okuda T, Ishii N, Nomoto S, Aoki R, Hyakusoku H: Cases with severe complications after non-absorbable material injection into the face. 10th Oriental Society of Aesthetic Surgery (上海), 2006. 11.
- 15) Ishii N, Mizuno H, Hyakusoku H: Late complication of autologous fat injection for augmentation mammoplasty. 10th Oriental Society of Aesthetic Surgery (上海), 2006. 11.
- 16) 飛田護邦, 水野博司, 小川 令, 百束比古: 脂肪組織由来間葉系幹細胞とPRPを併用した歯周組織再生. 第49回春期日本歯周病学会学術大会, 2006. 4.
- 17) 百束比古, 青木 律, 村上正洋, 小川 令, 高 建華¹⁾(¹⁾中国南方医科大学): 皮弁外科におけるマイクロサージャリーの応用と長期結果. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 18) 秋元正宇¹⁾, 百束比古(¹⁾千葉北総病院形成外科): 正方弁法による耳垂裂形成術とそのシミュレーション. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 19) 奥田貴久, 百束比古, 小川 令, 河原理子¹⁾, 平川慶子²⁾(¹⁾神栖済生会病院, ²⁾日本医科大学法医学NMR研究施設): 埋入異物の臨床像と化学分析(1. シリコン系物質について). 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 20) 奥田貴久, 百束比古, 小川 令, 河原理子¹⁾, 平川慶子²⁾(¹⁾神栖済生会病院, ²⁾日本医科大学法医学NMR研究施設): 埋入異物の臨床像と化学分析(2. ハイドロジェル系物質について). 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 21) 野本俊一, 百束比古, 岩切 致¹⁾, 青木 律, 平川慶子²⁾(¹⁾武蔵小杉病院形成外科, ²⁾法医学NMR研究施設): 最近増加している美容外科後遺症. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 22) 岩切 致¹⁾, 大木更一郎, 百束比古, 島本 実²⁾, 村上正洋¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院形成外科, ²⁾救命救急センター): 日本医科大学付属病院における褥瘡の統計と対策について 褥瘡対策チーム4年間の歩み. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 23) 郭 金, 小川 令, 王 春梅¹⁾, 水野博司, 百束比古(¹⁾中国協和医科大学医学科学院形成外科): Expanderを駆使した瘢痕拘縮形成術(1. 顔面頸部). 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 24) 水野博司, 百束比古, 岩切 致¹⁾, 野本俊一, 村上正洋¹⁾, 利根川均²⁾(¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, ²⁾博慈会記念総合病院): 腓腹神経温存型 distally based sural flap. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 25) 青木 律, 赤石諭史, 小池幸子, 奥田貴史, 江浦重義: 大学病院における美容外科の現況と展望および存在意義と可能性. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 26) 赤石諭史, 小川 令: 当科における耳部ケロイドの治療成績. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 27) 大木更一郎, 百束比古, 小川 令, 小池幸子, 青木伸峰: 上口唇全層欠損に対する一期的再建法の考案. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
- 28) 植草協子¹⁾, 平川慶子¹⁾, 下池田勇一²⁾, 奥田貴久, 小川 令, 河原理子, 百束比古, 崔 播来¹⁾, 大野曜吉¹⁾(¹⁾日本医科大学法医学NMR研究施設, ²⁾日本電子): 海外施術後本学にて摘出した体内埋入物質の成分分析例. 第90次日本法医学会, 2006. 4.

- 29) 百束比古, 小川 令: 開胸開腹術後ケロイドの予防と治療: 術後電子線照射療法を含めて. 第31回日本外科系連合学会, 2006. 6.
- 30) 小川 令, 百束比古, 青木 律, 佐野和史, 青木雅代, 小野真平: 胸部外科術後難治性潰瘍に対する再建法の検討. 第31回日本外科系連合学会, 2006. 6.
- 31) 郭 金, 小川 令, 水野博司, 河邊京子, 百束比古, 王 春梅¹⁾, 高 建華²⁾(¹⁾中国協和医科大学医学科学院形成外科, ²⁾南方医大形成外科): 熱傷再建における超薄皮弁とエクспанダーの利用. 第31回日本外科系連合学会, 2006. 6.
- 32) 大木更一郎, 小川 令, 百束比古, 大木琴美¹⁾, 村上正洋¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院形成外科): 比較的小範囲の熱傷創より生じた Toxic shock syndrome の2例. 第32回日本熱傷学会, 2006. 6.
- 33) 水野博司, 百束比古, 赤石諭史, 岩切 致¹⁾, 野本俊一, 大木更一郎(¹⁾武蔵小杉病院形成外科): パキスタンでの化学損傷後頸部手背瘢痕拘縮に対するCP皮弁, ICP皮弁による同時再建. 第32回日本熱傷学会, 2006. 6.
- 34) 村上正洋¹⁾, 百束比古, 小川 令, 青木伸峰, 陳 貴史²⁾(¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, ²⁾国立がんセンター東病院頭頸部外科): 下部茎CP皮弁による簡便な熱傷頸部瘢痕拘縮再建. 第32回日本熱傷学会, 2006. 6.
- 35) 郭 金, 小川 令, 水野博司, 百束比古, 王 春梅¹⁾, 高 建華²⁾(¹⁾中国協和医科大学医学科学院形成外科, ²⁾中国南方医大形成外科): 熱傷再建におけるエクспанダーの利用. 第32回日本熱傷学会, 2006. 6.
- 36) 小川 令, 村上正洋¹⁾, 百束比古(¹⁾武蔵小杉病院形成外科): ワイヤフレームを用いた植皮術の検討. 第32回日本熱傷学会, 2006. 6.
- 37) 大木琴美¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 村上正洋¹⁾, 青木見佳子²⁾, 百束比古(¹⁾武蔵小杉病院形成外科, ²⁾同皮膚科): 左足背部に発生した cellular fibrous histiocytoma の1例. 第246回日本形成外科学会東京地方会, 2006. 7.
- 38) 小野真平, 青木 律, 奥田貴久, 百束比古: cellular fibrous histiocytoma の1例. 第246回日本形成外科学会東京地方会, 2006. 7.
- 39) 中村 敏¹⁾, 百束比古(¹⁾井上眼科医病院): 治療が遅れた異物肉芽腫Δ埋没法重瞼術の晩期合併症. 第96回日本美容外科学会学術集会, 2006. 7.
- 40) 石井暢明, 赤石諭史, 野本俊一, 奥田貴久, 青木 律, 百束比古: 脂肪注入による豊胸術後多発性腫瘤を形成し乳癌との鑑別を要した1例. 第96回日本美容外科学会学術集会, 2006. 7.
- 41) 土佐眞美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 清水 一²⁾, 村上正洋¹⁾, 川並汪一²⁾, 百束比古(¹⁾武蔵小杉病院形成外科, ²⁾老人病研究所): 病理部門ケロイド発生におけるIL-6シグナル伝達経路の解析. 第1回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2006. 9.
- 42) 小川 令, 赤石諭史, 栗林茂彦¹⁾, 館野 温¹⁾, 宮下次廣¹⁾, 百束比古(¹⁾放射線医学): 日本医科大学付属病院におけるケロイド術後電子線治療の工夫と長期成績. 第1回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2006. 9.
- 43) 土佐眞美子¹⁾, 山本 彰²⁾, 岩切 致¹⁾, 大木琴美¹⁾, 梅澤裕巳¹⁾, 村上正洋¹⁾, 佐藤雅史²⁾, 百束比古(¹⁾武蔵小杉病院形成外科, ²⁾同放射線科): 日本医科大学武蔵小杉病院におけるケロイドに対する術後電子線治療の長期成績. 第1回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2006. 9.
- 44) 小野真平, 小川 令, 百束比古: 肩甲部に発生した Chronic Expanding Hematoma の1例. 第247回日本形成外科学会 東京地方会, 2006. 9.
- 45) 秋元正宇¹⁾, 百束比古(¹⁾千葉北総病院形成外科): ポケットの開放は褥瘡の拡大を抑止するか? 有限要素法による解析から. 第8回日本褥瘡学会, 2006. 9.
- 46) 大木更一郎, 野本俊一, 百束比古, 稲田浩美¹⁾, 三原恵理¹⁾(¹⁾看護部): 褥瘡ズレ予防に対するポリエチレンジェルシートの有用性の検討. 第8回日本褥瘡学会, 2006. 9.
- 47) 飛田護邦, 水野博司, 小川 令, 百束比古: 脂肪組織由来幹細胞を用いた歯周組織再生. 第9回日本組織工学会, 2006. 9.
- 48) 魯 峰, 水野博司, Uysal CA, 小川 令, 百束比古: 脂肪組織由来幹細胞による皮弁生着領域の延長. 第9回

日本組織工学会, 2006 . 9 .

- 49) Uysal CA, 水野博司, 魯 峰, 小川 令, 百束比古: Prefabricated flap作成時における脂肪組織および骨髄由来幹細胞の有用性. 第9回日本組織工学会, 2006 . 9 .
- 50) 宮本正章¹⁾, 高木 元¹⁾, 太良修平¹⁾, 加藤浩司¹⁾, 高野仁司¹⁾, 安武正弘¹⁾, 高野照夫¹⁾, 水野博司, 田畑泰彦²⁾, 小守 忍³⁾, 多川政弘³⁾, 工藤圭介³⁾(¹⁾日本医科大学内科学第1, ²⁾京都大学再生医学研究所, ³⁾日本獣医生命科学大学): 自己骨髄幹細胞および徐放性b-FGFハイドロゲル浸透人工真皮による組織再生療法. 第9回日本組織工学会, 2006 . 9 .
- 51) Uysal Cagri A, 水野博司, 飛田護邦, 小川 令, 百束比古: 皮弁虚血再還流に及ぼす脂肪組織由来幹細胞の影響. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 52) 南部正樹¹⁾, 水野博司, 岩切 致²⁾, 山本直人¹⁾, 東 隆一¹⁾, 加藤摩衣¹⁾, 滝川恵美¹⁾, 清沢智晴¹⁾(¹⁾防衛医科大学校形成外科, ²⁾日本医科大学武蔵小杉病院形成外科): マイトマイシンCを用いたラット皮膚難治性潰瘍モデル. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 53) 小川 令, 藤村樹里¹⁾, 平川慶子²⁾, 植草協子²⁾, 湯田浩太郎²⁾, 水野博司, 百束比古(¹⁾日本医科大学小児科, ²⁾NMR研究施設, ³⁾富士通バイオIT事業開発本部): NMRメタボロミクスによる脂肪組織由来幹細胞と骨髄間葉系幹細胞の代謝像の分析. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 54) 小川 令, 藤村樹里¹⁾, 杉原秀光²⁾, 水野博司, 鈴木秀典³⁾, 島田 隆⁴⁾, 百束比古(¹⁾日本医科大学小児科, ²⁾日本化薬医薬研究所, ³⁾日本医科大学薬理学, ⁴⁾同生化学第2): Hoechst 染色による脂肪組織由来幹細胞の解析. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 55) 水野博司, 魯 峰, Uysal CA, 小川 令, 百束比古: 脂肪由来幹細胞を用いた皮弁生着域延長効果に関する研究. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 56) Uysal CA, 水野博司, 魯 峰, 小川 令, 百束比古: 体性幹細胞を利用したPrefabricated flap作成期間短縮効果について. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 57) 大木琴美¹⁾, 村上正洋¹⁾, 田沼久美子²⁾, 百束比古(¹⁾武蔵小杉病院形成外科, ²⁾解剖学第2): 狭茎胸部肋間穿通枝皮弁についての血管解剖学的検討. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 58) 青木伸峰, 田沼久美子¹⁾, 利根川均²⁾, 百束比古(¹⁾日本医科大学解剖学第2, ²⁾博慈会記念総合病院形成外科): 動脈造影と組織所見を併用した腓腹皮弁の血行に対する1考察. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 59) 大木更一郎, 小川 令, 水野博司, 百束比古: 血管束移植を用いた生体内小口径血管再生の試み; 日本白色兔を用いて. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 60) 秋元正宇¹⁾, 大木更一郎, 百束比古(¹⁾千葉北総病院形成外科): 有限要素法によるシミュレーションから. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 61) 小野真平, 小川 令, 水野博司, 百束比古, 島田 隆¹⁾(¹⁾生化学第2): GFPトランスジェニックマウス脂肪組織由来幹細胞を用いた心筋細胞の再生. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 62) 土佐真美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 清水 一²⁾, 村上正洋¹⁾, 川並汪一²⁾, 百束比古(¹⁾武蔵小杉病院形成外科, ²⁾老人病研究所病理部門): ケロイドの新治療法としての光線力学療法の可能性に関する研究第1報: コラーゲン代謝の作用に関する検討. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 63) 石井暢明, 野本俊一, 小野真平, 小川 令, 水野博司, 村上正洋, 青木 律, 百束比古: 累積する脂肪注入による豊胸術後遺症症例について. 第29回日本美容外科学会, 2006 . 10 .
- 64) 野本俊一, 青木 律, 石井暢明, 小野真平, 百束比古: 陰茎注入異物を除去した後SEPA flapを用いて再建した経験. 第29回日本美容外科学会, 2006 . 10 .
- 65) 小野真平, 小川 令, 奥田貴久, 平川慶子¹⁾, 百束比古(¹⁾法医学NMR研究施設): 治療に難渋している顔面注入異物の1例. 第29回日本美容外科学会, 2006 . 10 .

- 66) 杉野宏子¹⁾, 青木 律⁽¹⁾ 青山エルクリニック): フォスファチジルコリンによる脂肪融解注射の経験. 第29回日本美容外科学会, 2006. 10.
- 67) 野本俊一, 石井暢明, 小野真平, 奥田貴久, 小川 令, 水野博司, 青木 律, 百束比古: 美容外科後遺症に対するわれわれの診察・治療方針. 第29回日本美容外科学会, 2006. 10.
- 68) かづきれいこ, 青木 律, 百束比古: リストカット患者のメイクアップについて. 第29回日本美容外科学会, 2006. 10.
- 69) 小池幸子, 青木 律, 百束比古: いちご状血管腫の皮膚病変に対する治療法の1例. 第29回日本美容外科学会, 2006. 10.
- 70) 奥田貴久, 百束比古, 河原理子, 野本俊一, 佐藤和夫, 小川 令, 小野真平, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 大野曜吉¹⁾(¹⁾法医学NMR研究施設): 液体法を用いたNuclear Magnetic Resonance法による顔面注入用のポリアクリルアミド含有製品の成分分析. 第29回日本美容外科学会, 2006. 10.
- 71) 石井暢明, 青木 律, 野本俊一, 百束比古: 異物埋入注入患者の自己抗体異常値について. 第29回日本美容外科学会, 2006. 10.
- 72) 野本俊一, 青木 律, 百束比古: 第1第2鰓弓症候群の下口唇非対称に対するボツリヌス菌毒素の効果. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006. 11.
- 73) 太組一郎¹⁾, 秋元正宇²⁾, 岡 敏行²⁾, 水成隆之¹⁾, 小林土郎¹⁾, 寺本 明¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 脳神経外科学,²⁾ 千葉北総病院形成外科): 小児頭蓋骨形成における自家骨移植の検討. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006. 11.
- 74) 小野真平, 小川 令, 大木更一郎, 小池幸子, 百束比古: 正方弁法 (Square flap method) を用いて形成した巨口症の2症例. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006. 11.
- 75) 石井暢明, 小野真平, 野本俊一, 小川 令, 百束比古: 非吸収性異物の顔面注入による障害. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006. 11.
- 76) 秋元正宇¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科): 各種耳垂裂形成術のシミュレーションによる比較. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006. 11.
- 77) 河邊京子, 水野博司, 赤石諭史, 小川 令, 小野真平, 百束比古: Secondary vascularized hairy flapによる対側眉毛再建. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006. 11.
- 78) 宮田美穂¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 太組一郎²⁾, 岡 敏行¹⁾, 井内垂美¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科,²⁾ 同脳神経外科): ナビゲーションシステムを用いた眼窩底骨折の治療経験. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006. 11.
- 79) 赤石諭史, 秋元正宇¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科): 有限要素法によるケロイドの伸展形式の検討. 日本シミュレーション外科学会, 2006. 11.
- 80) 秋元正宇¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科): 壊死組織除去が褥瘡の応力分布に及ぼす影響. 日本シミュレーション外科学会, 2006. 11.
- 81) 宮田美穂¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 太組一郎²⁾, 岡 敏行¹⁾, 井内垂美¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科,²⁾ 同脳神経外科): 眼窩底骨折に対するナビゲーションシステムの有用性. 日本シミュレーション外科学会, 2006. 11.
- 82) 小野真平, 小川 令, 青木 律, 百束比古, 三橋 清¹⁾(¹⁾ マリンクリニック): 免疫不全症が原因と考えられた両足趾の同時多発性verruccous carcinomasaの1例. 第248回日本形成外科学会東京地方会, 2006. 12.
- 83) 小野真平, 小川 令, 百束比古: Submentary Artery Perforator (SMAP) flapによる上口唇再建を行った1例. 第248回日本形成外科学会東京地方会, 2006. 12.
- 84) 南部正樹¹⁾, 石原雅之²⁾, 水野博司, 山本直人¹⁾, 東 隆一¹⁾, 柳林 聡¹⁾, 清澤智晴¹⁾(¹⁾ 防衛医大形成外科,²⁾ 同医療工学): 脂肪組織由来細胞を用いた難治性潰瘍治療の開発. 第36回日本創傷治療学会, 2006. 12.
- 85) 土佐眞美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 川並汪一²⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科,²⁾ 老人病研究所病理部門): ケロイド新治療としての光線力学療法の検討. 第36回日本創傷治療学会, 2006. 12.

- 86) 赤石諭史, 秋元正宇¹⁾, 百束比古 (¹⁾千葉北総病院形成外科): 有限要素法による新しい作用機序の解明. 第36回日本創傷治癒学会, 2006. 12.
- 87) 河邊京子, 赤石諭史, 秋元正宇¹⁾, 小川 令, 百束比古 (¹⁾千葉北総病院形成外科): 耳部ケロイドの統計と発生・伸展機序に関する考察. 第36回日本創傷治癒学会, 2006. 12.
- 88) 青木伸峰, 村上正洋¹⁾, 中村 敏²⁾, 百束比古, 山本保博³⁾(¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院形成外科, ²⁾井上眼科, ³⁾日本医科大学付属病院高度救命救急センター): より早期の移送が可能であったらより多くの機能温存が期待できたモンゴル小児熱傷の1例. 第15回日本熱傷学会関東地方会, 2007. 1.
- 89) 小川 令, 小野真平, 百束比古: 植皮術に有用な5つのアイデア. 第12回形成外科手術手技研究会, 2007. 2.
- 90) 小川 令, 赤石諭史, 栗林茂彦¹⁾, 宮下次廣¹⁾, 百束比古 (¹⁾放射線医学): ケロイドに対する手術後放射線療法. 第13回ケロイド肥厚性癬痕研究会, 2007. 3.
- 91) 小野真平, 小川 令, 藤村樹里¹⁾, 百束比古 (¹⁾小児科学): 羊膜破裂シークエンスの1治療例. 第249回日本形成外科学会東京地方会, 2007. 3.
- 92) Uysal CA, 水野博司, 百束比古: 筋肉創傷治癒における幹細胞の影響. 第6回日本再生医療学会, 2007. 3.
- 93) 飛田護邦, 水野博司, Uysal CA, 百束比古: 脂肪由来間葉系幹細胞によるイヌ歯周組織再生. 第6回日本再生医療学会, 2007. 3.
- 94) Uysal CA, 水野博司, 百束比古: 筋肉創傷治癒における幹細胞の有用性. 第6回日本再生医療学会, 2007. 3.
- (7) ポスター:
- 1) Mizuno H, Hyakusoku H, Miyamoto M¹⁾, Takano T¹⁾(¹⁾1st Department of Internal Medicine): Combination cell therapy using autologous bone marrow cells and allogeneic dermal fibroblasts for the treatment of ischemic intractable foot ulcers. 1st Regenerate World Congress on Tissue Engineering and regenerative Medicine (Pittsburgh), 2006. 4.
- 2) Itoi Y, Mizuno H, Hyakusoku H: Suitable scaffold for adipose tissue engineering using adipose-derived stem cells. 1st Regenerate World Congress on Tissue Engineering and regenerative Medicine (Pittsburgh), 2006. 4.
- 3) Tobita M, Mizuno H, Ogawa R, Hyakusoku H: Periodontal tissue regeneration using Adipose-Derived Stem Cells. 1st Regenerate World Congress on Tissue Engineering and regenerative Medicine (Pittsburgh), 2006. 4.
- 4) Uysal CA, Mizuno H, Ogawa R, Lu F, Hyakusoku H: The effect of stem cells on skin graft to flap pre-fabrication in rat model. 1st Regenerate World Congress on Tissue Engineering and regenerative Medicine (Pittsburgh), 2006. 4.
- 5) Mizuno H, Tobita M, Ogawa R, Itoi Y, Hyakusoku H: Therapeutic approach for alveolar bone and periodontal tissue regeneration by adipose-derived stem cells. 51st Annual Meeting of the Plastic Surgery Research Council (Dana Point), 2006. 5.
- 6) Hyakusoku H, Aoki R, Nomoto S, Okuda T: Complications of an augmentation of non-absorbable fillers for cosmetic purpose. 8th Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Jeju City), 2006. 6.
- 7) Hyakusoku H, Aoki R, Ogawa R, Gao J-H (¹⁾Nang-fang Medical University): My burn reconstructive surgery including the superthin flaps. 8th Korea-Japan Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Jeju City), 2006. 6.
- 8) Hashimoto S, Hyakusoku H, Ogawa R, Akaishi S, Nomoto S: : Novel surgical methods for keloids and hypertrophic scars. The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin (China)), 2006. 8.
- 9) Hyakusoku H, Ogawa R, Mizuno H, Ono S, Hirakawa K¹⁾(¹⁾Department of Legal Medicine): Complication of autologous fat Injection for breast augmentation. The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic

- Surgery (Harbin (China)), 2006 . 8 .
- 10) Akaishi S , Ogawa R , Miyashita T (¹ Department of Radiation Oncology): Investigation into the optimal dose of postoperative electron-beam irradiation for keloids and hypertrophic scars . The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin (China)), 2006 . 8 .
 - 11) Gao X¹⁾ , Wang C¹⁾ , Hyakusoku H , Mizuno H , Ogawa R (¹ Plastic Surgery Hospital of Peking Union Medical College): Expanded skin flaps for resurfacing facial scars . The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin (China)), 2006 . 8 .
 - 12) Lu F¹⁾ , Mizuno H , Uysal CA , Cai XB¹⁾ , Ogawa R , Hyakusoku H (¹ Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nangfang Medical University): Improved viability of random skin flaps through the use of adipose derived stem cells . The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin (China)), 2006 . 8 .
 - 13) Hyakusoku H , Aoki R , Nomoto S , Okuda T : Complication of non-absorbable fillers for cosmetic purpose . 10th Oriental Society of Aesthetic Surgery (上海), 2006 . 11 .
 - 14) Umezawa H , Akaishi S , Ogawa R , Nomoto S , Aoki R , Hyakusoku H : Management of keloid after piercing post-surgical electron beam irradiation and simultaneous re-piercing . 10th Oriental Society of Aesthetic Surgery (上海), 2006 . 11 .
 - 15) Hyakusoku H , Okuda T , Kawahara S , Hirakawa K¹⁾ (¹ Legal Medicine): Complication of non-absorbable fillers for cosmetic purpose . 10th Oriental Society of Aesthetic Surgery (上海), 2006 . 11 .
 - 16) Okuda T , Hyakusoku H , Hirakawa K¹⁾ , Uekusa K¹⁾ , Ohno Y¹⁾ (¹ Legal Medicine): Chemical analysis of polyacrylamide gel for facial contouring by liquid state NMR . 10th Oriental Society of Aesthetic Surgery (上海), 2006 . 11 .
 - 17) Hyakusoku H , Okuda T , Kawahara S , Hirakawa K¹⁾ (¹ Legal Medicine): Picture diagnosis based on chemical analysis of mammary implant . 10th Oriental Society of Aesthetic Surgery (上海), 2006 . 11 .
 - 18) 内谷栄一¹⁾ , 大木琴美¹⁾ , 土佐真美子¹⁾ , 村上正洋¹⁾ , 野本俊一 , 岩切 致¹⁾ , 百束比古 , 利根川均²⁾ (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科 , ²⁾ 博慈会記念総合病院): 顆粒細胞腫の2例 . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
 - 19) 青木伸峰 , 橋田絵理香 , 佐野和史 , 杉崎一樹¹⁾ , 横島一彦¹⁾ , 中溝宗長¹⁾ , 百束比古 (¹ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科): 再発を繰り返した頬部筋上皮腫の1例 . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
 - 20) 野本俊一 , 百束比古 , 岩切 致¹⁾ , 小川 令 (¹ 武蔵小杉病院形成外科): ケロイド切除に (hemi) small wave incision を用いた症例の検討 . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
 - 21) 小池幸子 , 小川 令 , 青木 律 , 百束比古 : 自傷後癬痕に対するメイクアップセラピー . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
 - 22) 土佐真美子¹⁾ , 村上正洋¹⁾ , 百束比古 (¹ 武蔵小杉病院形成外科): 予防接種に発生したケロイドの検討 ケロイド長径の経時的変化について . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
 - 23) 村上正洋¹⁾ , 岡 敏行²⁾ , 百束比古 (¹ 日本医科大学武蔵小杉病院形成外科 , ²⁾ 筑西市民病院): 治療経過中に von Willebrand 病が判明した仙骨部褥瘡患者の治療経験 . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
 - 24) 橋田絵理香 , 佐野和史 , 青木伸峰 , 百束比古 : 仙骨部褥瘡よりフルニエ壊疽様病態に伸展し死亡に至った1例 . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
 - 25) 小川 令 , 青木雅代 , 百束比古 , 村上正洋 , 青木 律 : 頭部難治性潰瘍症例における術式選択の検討 . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
 - 26) 郭 金 , 小川 令 , 王 春梅¹⁾ , 百束比古 , 水野博司 (¹ 中国協和医科大学医学科学院形成外科): Expander を駆使した癬痕拘縮形成術 (2 . 手その他) . 第49回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .

- 27) 大木琴美¹⁾, 大木更一郎, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 指 (趾) 粘液嚢腫摘出部欠損に対する人工真皮の使用経験 . 第 49 回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
- 28) 青木雅代, 小川 令, 百束比古, 赤石諭史, 水野博司, 青木 律 : 心臓外科手術後の胸壁再建における術式選択の検討 . 第 49 回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
- 29) 野本俊一, 百束比古, 小川 令, 奥田貴久 : 乳房に埋入されたシリコンバッグの外殻の帰趨 . 第 49 回日本形成外科学会 , 2006 . 4 .
- 30) かづきれいこ, 青木 律, 百束比古 : Scar management としてのメイクアップセラピーの意義 . 第 1 回瘢痕・ケロイド治療研究会 , 2006 . 9 .
- 31) 小川 令, 野本俊一, 赤石諭史, 小野真平, 石井暢明, 河邊京子, 百束比古 : 肥厚性瘢痕・ケロイドに対する外科的治療の工夫 . 第 1 回瘢痕・ケロイド治療研究会 , 2006 . 9 .
- 32) 土佐眞美子¹⁾, 岩切 致¹⁾, 大木琴美¹⁾, 梅澤裕巳¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 帝王切開後の肥厚性瘢痕およびケロイドの検討 . 第 1 回瘢痕・ケロイド治療研究会 , 2006 . 9 .
- 33) 赤石諭史, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 秋元正宇²⁾, 小川 令, 百束比古 (¹⁾ 法医学 NMR 研究室 , ²⁾ 千葉北総病院形成外科): ケロイド・肥厚性瘢痕に対するシリコンジェルシートの作用機序に関する考察 . 第 1 回瘢痕・ケロイド治療研究会 , 2006 . 9 .
- 34) 赤石諭史, 秋元正宇¹⁾, 小川 令, 百束比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科): ケロイドの伸展形式についての考察 . 第 1 回瘢痕・ケロイド治療研究会 , 2006 . 9 .
- 35) 赤石諭史, 秋元正宇¹⁾, 小川 令, 百束比古 (¹⁾ 千葉北総病院形成外科): 耳部ケロイドの発生・伸展機序とその治療 . 第 1 回瘢痕・ケロイド治療研究会 , 2006 . 9 .
- 36) 藤村樹里¹⁾, 小川 令, 百束比古, 鈴木秀典²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院小児科 , ²⁾ 薬理学): 脂肪組織由来幹細胞を用いた神経細胞への分化誘導 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 37) 小川 令, 藤村樹里¹⁾, 水野博司, 飛田護邦, 糸井由利恵, 小野真平, 百束比古, 島田 隆²⁾ (¹⁾ 小児科学 , ²⁾ 生化学第 2): 脂肪組織由来幹細胞を用いた治療戦略 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 38) 飛田護邦, 水野博司, 百束比古 : Collagen sponge を用いた脂肪組織由来幹細胞による軟骨再生 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 39) 小池幸子, 青木 律, 百束比古 : 自傷後瘢痕に対するメイクアップセラピー . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 40) 青木 律, 小池幸子, 赤石諭史, 野本俊一, 江浦重義, 石井暢明, 百束比古 : レーザーによる scar management . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 41) 野本俊一, 小野真平, 石井暢明, 奥田貴久, 小川 令, 水野博司, 青木 律, 百束比古 : 美容外科後遺症患者に対するわれわれの診察・治療方針 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 42) 赤石諭史, 小川 令, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 秋元正宇²⁾ (¹⁾ 法医学 , ²⁾ 千葉北総病院形成外科): ケロイド・肥厚性瘢痕に対するシリコンジェルシートの作用機序に関する考察 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 43) 水野博司, 赤石諭史, 河邊京子, 百束比古 : Free TRAM or DIEP flap を用いたより質の高い乳房再建術を行う工夫 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 44) 奥田貴久, 小野真平, 小川 令, 百束比古, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 大野曜吉¹⁾ (¹⁾ 法医学): 豊胸術で使用される補填材料の MRI 画像と MRS 法による成分分析 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 45) 石井暢明, 赤石諭史, 野本俊一, 奥田貴久, 小川 令, 青木 律, 百束比古 : 乳房脂肪注入後の乳癌と鑑別困難な多発性腫瘍形成の危険性 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .
- 46) 百束比古, 青木 律, 水野博司, 小川 令, 奥田貴久, 野本俊一, 小野真平, 石井暢明 : 脂肪注入による豊胸術の術後障害 . 第 74 回日本医科大学医学会総会 , 2006 . 9 .

- 47) 大木更一郎, 青木伸峰, 小川 令, 百束比古: 上口唇全層欠損に対する下口唇島状皮弁による一期的再建法. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 48) 小野真平, 小川 令, 大木更一郎, 小池幸子, 百束比古: 口唇再建における術式選択の検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 49) 河邊京子, 水野博司, 赤石諭史, 小川 令, 小野真平, 百束比古: Secondary vascularized hairy flapによる反対側眉毛再建. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 50) 村上正洋¹⁾, 土佐眞美子¹⁾, 百束比古, 小川 令⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 顔面頸部に用いた各種単茎真皮下血管網皮弁の着着範囲の検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 51) 梅澤裕巳¹⁾, 村上正洋¹⁾, 百束比古, 小川 令, 青木伸峰⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): Inferior-pedicled cervico-pectoral flap. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 52) 青木伸峰, 百束比古, 田沼久美子¹⁾, 利根川均²⁾⁽¹⁾ 日本医科大学解剖学第2, ²⁾ 博慈会記念総合病院形成外科): 動脈造影と組織所見を併用した腓腹皮弁の決行に対する1考察. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 53) 江浦重義, 小川 令, 青木雅代, 赤石諭史, 水野博司, 青木 律, 百束比古: 心臓外科手術後の胸壁再建における術式選択の検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 54) 土佐眞美子¹⁾, ガジザデモハマッド²⁾, 清水 一²⁾, 村上正洋¹⁾, 川並汪一²⁾, 百束比古⁽¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 老人病研究所病理学部門): 抗IL-6受容体抗体によるケロイド由来線維芽細胞の増殖抑制効果の検討. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 55) 小川 令, 藤村樹里¹⁾, 水野博司, 福永慶隆¹⁾, 鈴木秀典²⁾, 百束比古⁽¹⁾ 小児科学, ²⁾ 薬理学): タイムラプス顕微鏡を用いた脂肪組織由来幹細胞の神経系細胞への分化誘導の観察. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 56) 秋元正宇¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科): 褥瘡ポケットの開放が応力分布に及ぼす影響. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 57) 平本剛士¹⁾, 秋元正宇¹⁾, 百束比古⁽¹⁾ 千葉北総病院形成外科): CTをトレースした有限要素シミュレーションのための仙骨部褥瘡発生モデル. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 58) 奥田貴久, 百束比古, 佐藤和夫, 小川 令, 平川慶子¹⁾, 植草協子¹⁾, 大野曜吉¹⁾, 鴨 修²⁾⁽¹⁾ 日本医科大学法医学NMR研究施設, ²⁾ 日本電子): NMR法によるシリコンバッグプロステシスの外殻の成分分析. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 59) 藤村樹里¹⁾, 小川 令, 杉原秀光²⁾, 水野博司, 福永慶隆¹⁾, 鈴木秀典³⁾⁽¹⁾ 日本医科大学小児科学, ²⁾ 日本化薬, ³⁾ 日本医科大学薬理学): Hoechst33342染色を用いた脂肪組織由来幹細胞同定の試み. 第6回日本再生医療学会, 2007. 3.
- 60) 藤村樹里¹⁾, 小川 令, 平川慶子²⁾, 植草協子²⁾, 湯田浩太郎³⁾, 水野博司, 大野曜吉²⁾, 福永慶隆¹⁾⁽¹⁾ 日本医科大学小児科学, ²⁾ 同法医学NMR研究施設, ³⁾ 富士通バイオIT事業関連開発本部): 核磁気共鳴法を用いたメタボロミクスによる脂肪由来幹細胞の代謝解析. 第6回日本再生医療学会, 2007. 3.
- 61) 水野博司, 魯 峰, Uysal CA, 小川 令, 百束比古: 脂肪由来幹細胞は皮弁血流を改善する. 第6回日本再生医療学会, 2007. 3.
- 62) 飛田護邦, 水野博司, Uysal CA, 系井由里恵, 小川 令, 百束比古: 脂肪由来間葉系幹細胞によるラット歯周組織再生: 骨髄由来間葉系幹細胞との比較. 第6回日本再生医療学会, 2007. 3.
- 63) 南部正樹¹⁾, 石原雅之²⁾, 水野博司, 山本直人¹⁾, 柳林 聡¹⁾, 東 隆一¹⁾, 高瀬凡平²⁾, 服部秀美²⁾, 中村伸吾²⁾, 清澤智晴¹⁾⁽¹⁾ 防衛医科大学校形成外科, ²⁾ 同防衛研究センター): 脂肪組織由来幹細胞とコラーゲンスポンジを利用した新しい慢性創傷の治療. 第6回日本再生医療学会総会, 2007. 3.
- (8) 主題演題:
- 1) 大木更一郎, 小川 令, 水野博司, 百束比古: 血管束モデルを用いた生体内血管再生に向けて. 第33回日本マ

イクロサージャリー学会, 2006 . 10 .

- 2) 青木伸峰, 百束比古, 水野博司, 岩切 致, 利根川均¹⁾, 田沼久美子²⁾(¹⁾博慈会記念総合病院形成外科,
²⁾日本医科大学解剖学第2): 遠位茎腓腹皮弁における腓腹神経温存の解剖学的検討 . 第33回日本マイクロサージャリー学会, 2006 . 10 .
- 3) 小野真平, 小川 令, 大木更一郎, 村上正洋¹⁾, 百束比古(¹⁾武蔵小杉病院形成外科): Superficial Cervical Artery Perforator (SCAP) super-thin flap . 第33回日本マイクロサージャリー学会, 2006 . 10 .
- 4) 佐野和史, 奥田貴久, 青木 律, 百束比古: 遊離皮弁による頭蓋再建失敗後新たな遊離皮弁を頸部血管に吻合するための外側大腿回旋動脈下行枝血管移植の有用性 . 第33回日本マイクロサージャリー学会, 2006 . 10 .

[武蔵小杉病院形成外科]

研究概要

臨床: ケロイドや肥厚性癬痕の治療において, 術後療法の best protocol 作成へ向けた取り組みを行った (最適な電子照線量の調整, シリコンクッションなどの利用). また, 予防および早期発見に主眼を置いた新たなコンセプトである scar control 外来を開設し, 現在, 産婦人科の患者さまを中心に術後早期から癬痕の診察を行っている. 早期発見によって術後の肥厚性癬痕予防およびケロイドの早期治療が可能となった. さらに, 昨年開始したにきびケロイドに対しての光線力学療法を継続するとともに, あらたに褥瘡や下腿潰瘍などの難治性潰瘍に対し光線療法を始め成果を得ている .

基礎: 解剖学第二講座のもと, 前胸部から腹部の皮下血管網を造影することで, 肋間動脈穿通枝と深下腹壁動脈穿通枝のネットワークを確認した. このことから Pectoral intercostal perforator flap の血行動態および安全な生着範囲を解明した. また, 老人病研究所病理部門のもと, ケロイド発生と IL-6 シグナル伝達経路とのかわりを明らかにし, 現在, 臨床応用に向けての研究を継続している .

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Ogawa R, Murakami M, Vinh VQ, Hyakusoku H: Clinical and anatomical study of superficial cervical artery flaps: retrospective study of reconstructions with 41 flaps and the feasibility of harvesting them as perforator flap . Plast Reconstr Surg 2006 ; 118 (1): 95-101 .
- 2) Oki K¹⁾, Hyakusoku H, Aoki R, Murakami M, Oki K¹⁾(¹⁾Aizu Chuo Hospital): Fixation of intracapsular fractures of the condylar head with bioabsorbable screws . Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 2006 ; 40 (4): 244-248 .
- 3) Hyakusoku H, Iwakiri I, Murakami M: Central axis flap methods . Burns 2006 ; 32 (7): 891-896 .
- 4) Gazizadeh M¹⁾, Tosa M, Shimizu H¹⁾, Hyakusoku H, Kawanami O¹⁾(¹⁾Molecular Pathology, Institute of Gerontology): Functional implications of the IL-6 signaling pathway in keloid pathogenesis . J Invest Dermatol 2007 ; 127 (1): 98-105 .
- 5) 土佐真美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): BCG 接種部に発生したケロイドの臨床的検討 . 日形会誌 2006 ; 26 (6): 359-364 .

(2) 症例報告:

- 1) Futagami A¹⁾, Aoki M, Iwakiri I, Hyakusoku H, Kawamoto M¹⁾, Kawana S¹⁾(¹⁾Department of Dermatology): Infantile hemangiopericytoma - case report and literature review . Pediatr Dermatol 2006 ; 23 (4): 335-337 .

- 2) 大木琴美, 大木更一郎¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 頭蓋骨より発生した巨大な軟骨腫の1例. 日形会誌 2006 ; 6 (7): 457-461 .
- 3) 青木雅代¹⁾, 佐野和史²⁾, 赤石諭史²⁾, 岩切 致, 百束比古²⁾(¹⁾東戸塚記念病院外科, ²⁾日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 遊離広背筋皮弁を用いて再建した上肢重度熱傷の治療経験. 褥瘡会誌 2006 ; 8 (4): 586-590 .
- 4) 平本剛士¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 大木琴美¹⁾, 村上正洋, 百束比古²⁾(¹⁾会津中央病院形成外科, ²⁾日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 成人の比較的小範囲な熱傷創より重篤・遷延化した toxic shock syndrome の1例. 熱傷 2007 ; 33 (1): 57-65 .

著 書

- 1) 稲田浩美¹⁾, 村上正洋 (¹⁾付属病院看護部): [分担] 褥瘡の特徴と考え方 褥瘡の分類法. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古 小川 令), 2006 ; pp53-58, 全日本出版会 .
- 2) 岩切 致: [分担] めずらしい部位の褥瘡と治し方 こんなところの褥瘡はどうするか. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古 小川 令), 2006 ; pp80-82, 全日本病院出版会 .
- 3) 村上正洋: [分担] 褥瘡に対する手術の考え方 手術したほうが良い褥瘡. アトラス, きずのきれいな治し方 (百束比古 小川 令), 2006 ; pp82-85, 全日本病院出版会 .

学会発表

(1) 招待講演 :

- 1) Hyakusoku H, Ogawa R, Iwakiri I, Murakami M : The central axis flap method including the propeller flap method . The 1st National Workshop On Propeller Flap (Chennai, India), 2006 . 8 .

(2) シンポジウム :

- 1) 大木更一郎¹⁾, 村上正洋, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 多発性顔面骨骨折に対する治療戦略 : LeFort III型骨折に対する頬骨蝶形骨縫合固定法 . 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006 . 11 .

(3) 一般講演 :

- 1) Hyakusoku H, Mizuno H, Murakami M, Aoki R, Sano K, Ogawa R, Gao J-H¹⁾(¹⁾Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nangfang Medical University): Burn reconstructive surgery using perforator augmented flaps and perforator pedicled flaps . The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin, China), 2006 . 8 .
- 2) Umezawa H, Akaishi S, Ogawa R, Wang C¹⁾, Hyakusoku H (¹⁾Beijin Union Medical Collage): Management of keloid ater piercing : Post-surgical electron beam irradiation and simultaneous re-piercing . The 16th China-Japan Joint Meeting on Plastic Surgery (Harbin, China), 2006 . 8 .
- 3) Ono S, Ogawa R, Murakami M, Oki K, Akaishi S, Uysal CA, Hyakusoku H : Superficial cervical artery perforator (SCAP) flap . The 10th International Course on Perforator Flaps (Ankara, Turkey), 2006 . 9 .
- 4) 岩切 致, 大木更一郎¹⁾, 百束比古¹⁾, 島本 実²⁾, 村上正洋 (¹⁾付属病院形成外科・美容外科, ²⁾同高度救命救急センター): 日本医科大学付属病院における褥瘡の統計と対策について 褥瘡対策チーム4年間の歩み . 第49回日本形成外科学会, 2006 . 4 .
- 5) 水野博司¹⁾, 百束比古¹⁾, 岩切 致, 野本俊一¹⁾, 村上正洋, 利根川均²⁾(¹⁾日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾博慈会記念総合病院形成外科美容外科): 腓腹神経温存型 distally based sural flap . 第49回日本形成外科学会, 2006 . 4 .
- 6) 大木更一郎¹⁾, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾, 大木琴美, 村上正洋 (¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 比較的小範囲の熱傷創より生じた Toxic shock syndrome の2例 . 第32回日本熱傷学会, 2006 . 6 .

- 7) 村上正洋, 百束比古¹⁾, 小川 令¹⁾, 青木伸峰¹⁾, 陳 貴史²⁾(¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 国立がんセンター東病院頭頸部外科): 下部茎CP皮弁による簡便な熱傷頸部瘢痕拘縮再建. 第32回日本熱傷学会, 2006. 6.
- 8) 小川 令¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾(¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ワイヤーフレームを用いた植皮術の検討. 第32回日本熱傷学会, 2006. 6.
- 9) 大木琴美, 土佐眞美子, 村上正洋, 青木見佳子¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾ 武蔵小杉病院皮膚科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 左足背部に発生した cellular fibrous histiocytoma の1例. 第246回日本形成外科学会東京地方会, 2006. 7.
- 10) 土佐眞美子, ガジザデモハマッド¹⁾, 清水 一¹⁾, 村上正洋, 川並汪一¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾ 老人病研究所病理部門, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 病理部門ケロイド発生における IL 6シグナル伝達経路の解析. 第1回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2006. 9.
- 11) 土佐眞美子, 山本 彰¹⁾, 岩切 致, 大木琴美, 梅澤裕己, 村上正洋, 佐藤雅史¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾ 武蔵小杉病院放射線科, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 日本医科大学武蔵小杉病院におけるケロイドに対する術後電子線治療の長期成績. 第1回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2006. 9.
- 12) 南部正樹¹⁾, 水野博司²⁾, 岩切 致, 山本直人¹⁾, 東 隆一¹⁾, 加藤摩衣¹⁾, 滝川恵美¹⁾, 清沢智晴¹⁾(¹⁾ 防衛医科大学校形成外科, ²⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): マイトマイシンCを用いたラット皮膚難治性潰瘍モデル. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 13) 大木琴美, 村上正洋, 田沼久美子²⁾, 百束比古¹⁾(¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 解剖学第2): 狭茎胸部肋間穿通枝皮弁についての血管解剖学的検討. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 14) 土佐眞美子, ガジザデモハマッド¹⁾, 清水 一¹⁾, 村上正洋, 川並汪一¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾ 老人病研究所病理部門, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ケロイドの新治療法としての光線力学療法の可能性に関する研究第1報: コラーゲン代謝の作用に関する検討. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 15) 村上正洋, 秋元正宇¹⁾(¹⁾ 千葉北総病院形成外科): 円形皮膚欠損閉鎖により生じるドッグイヤー発生の有限要素法によるシミュレーション. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- 16) 石井暢明¹⁾, 野本俊一¹⁾, 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 水野博司¹⁾, 村上正洋, 青木 律¹⁾, 百束比古¹⁾(¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 累積する脂肪注入による豊胸術後遺症症例について. 第29回日本美容外科学会, 2006. 10.
- 17) 村上正洋, 百束比古¹⁾, 小川 令¹⁾, 大木琴美, 陳 貴史²⁾, 赤石諭史¹⁾, 高 建華³⁾(¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 国立がんセンター東病院頭頸部外科, ³⁾ 中国南方医科大学形成外科): 各種単茎真皮下血管網皮弁の生着範囲の検討. 第33回日本マイクロサージャリー学会, 2006. 10.
- 18) 大木琴美, 村上正洋, 土佐眞美子, 岩切 致, 梅澤裕己: 眼瞼マイボーム腺癌に対する map biopsy の試み. 第24回日本頭蓋顎顔面外科学会, 2006. 11.
- 19) 土佐眞美子, ガジザデモハマッド¹⁾, 川並汪一¹⁾, 村上正洋, 百束比古²⁾(¹⁾ 老人病研究所病理部門, ²⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ケロイド新治療としての光線力学療法の検討. 第36回日本創傷治癒学会, 2006. 12.
- 20) 青木伸峰¹⁾, 村上正洋, 中村 敏²⁾, 百束比古¹⁾, 山本保博³⁾(¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 井上眼科, ³⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター): より早期の移送が可能であったらより多くの機能温存が期待できたモンゴル小児熱傷の1例. 第15回日本熱傷学会関東地方会, 2007. 1.
- 21) 大木琴美, 村上正洋, 土佐眞美子, 岩切 致, 梅澤裕己: 眼瞼マイボーム腺癌に対し我々の行っている治療上の工夫点について. 第18回眼瞼・義眼床手術研究会, 2007. 2.
- (4) ポスター:
- 1) 内谷栄一, 大木琴美, 土佐眞美子, 村上正洋, 野本俊一¹⁾, 岩切 致, 百束比古¹⁾, 利根川均²⁾(¹⁾ 日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 博慈会記念総合病院形成外科美容外科): 顆粒細胞腫の2例報告. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.

- 2) 土佐眞美子, 村上正洋, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 予防接種に発生したケロイドの検討: ケロイド長径の経時的变化について. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
 - 3) 村上正洋, 岡 敏行¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾筑西市民病院形成外科, ²⁾日本医科大学付属病院形成外科・美容外科): 治療経過中に von Willebrand病が判明した仙骨部褥瘡患者の治療経験. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
 - 4) 小川 令¹⁾, 青木雅代¹⁾, 百束比古¹⁾, 村上正洋, 青木 律¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 頭部難治性潰瘍症例における術式選択の検討. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
 - 5) 大木琴美, 大木更一郎¹⁾, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 指(趾)粘液囊腫摘出部欠損に対する人工真皮の使用経験. 第49回日本形成外科学会, 2006. 4.
 - 6) 土佐眞美子, 岩切 致, 大木琴美, 梅澤裕巳, 村上正洋, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 帝王切開後の肥厚性瘢痕およびケロイドの検討. 第1回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2006. 9.
 - 7) 村上正洋, 土佐眞美子, 百束比古¹⁾, 小川 令¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): 顔面頸部に用いた各種単茎真皮下血管網皮弁の生着範囲の検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
 - 8) 梅澤裕巳, 村上正洋, 百束比古¹⁾, 小川 令¹⁾, 青木伸峰¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): Inferior-pedicated cervico-pectoral flap. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
 - 9) 土佐眞美子, ガジザデモハマッド¹⁾, 清水 一¹⁾, 村上正洋, 川並汪一¹⁾, 百束比古²⁾(¹⁾老人病研究所病理部門, ²⁾付属病院形成外科・美容外科): 抗IL-6受容体抗体によるケロイド由来線維芽細胞の増殖抑制効果の検討. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 10.
- (5) 主題演題:
- 1) 青木伸峰¹⁾, 百束比古¹⁾, 水野博司¹⁾, 岩切 致, 利根川均²⁾, 田沼久美子³⁾(¹⁾日本医科大学付属病院形成外科・美容外科, ²⁾博慈会記念総合病院形成外科美容外科, ³⁾日本医科大学解剖学第2): 遠位茎腓腹皮弁における腓腹神経温存の解剖学的検討. 第33回日本マイクロサージャリー学会, 2006. 10.
 - 2) 小野真平¹⁾, 小川 令¹⁾, 大木更一郎¹⁾, 村上正洋, 百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科): Superficial Cervical Artery Perforator (SCAP) super-thin flap. 第33回日本マイクロサージャリー学会, 2006. 10.

[千葉北総病院形成外科]

研究概要

主に皮膚手術シミュレーションの研究, 褥瘡の発生機序コンピュータシミュレーションの研究, 頭蓋顔面外科領域における小児の頭蓋再建術の研究に成果があった.

- 1) 皮膚手術シミュレーションの研究: 様々な皮膚形成術をモデル化し, 手術シミュレーションを行う. 皮膚形成術により発生する皮膚の進展, 圧縮変形, 応力, ひずみなどを解析しその構造力学的挙動を解明する. 皮弁形成術のデザインは熟練医の経験と勘によることが多かった. これを客観的に示し, 誰にでもできるようにするために, 皮膚形成術の従来法を構造力学的に評価する. これらの結果から, 新しい, より合理的で, 誰にでも可能な手術法を開発することができる.
- 2) 褥瘡発生機序の研究: 褥瘡モデルを作成し, 様々な力学的条件からその発生機序を解明する. これらの結果から, 褥瘡発生予防効果の高い体位の考案. 褥瘡発生予防のための新しい器具の開発. 褥瘡再発防止効果の高い新しい手術法の開発. 等が期待できる.
- 3) シミュレーションによる皮膚形成術の教材作成: 皮膚形成術の皮膚の変形, 内部応力の発生などを3次元グラフィックスで表示し, 視覚的に理解できる教材を作成する. 皮膚形成術は, 医学生, 研修医といった初学者には非常に理解し難いものである. 皮膚形成術の手術シミュレーションを3次元的なアニメーションで, 同時に力学的な特性も併せて表示することで, 皮膚形成術の術式, 特徴, 適応などを初学者にも用意に理解させることができる.
- 4) 頭蓋顔面外科領域の再建では, 小児の場合には自家組織による再建が必要となる. しかしながら, 再建に利用

できる組織量は限られており、再建法に工夫を要する。われわれは肋骨をによるフレームを用いることによって効果的に小児の頭蓋を再建することを可能とした。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Akimoto M, Hyakusoku H¹⁾, Ito T²⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 情報科学センター): Undermining necrosis in pressure sore will extend with oblique load : mechanical analysis using simple finite element model . Journal of Japan Society of Simulation Surgery 2006 ; 13 (3): 95-100 .

(2) 症例報告：

- 1) Yoshino N¹⁾, Yamauchi S¹⁾, Akimoto M, Hisayoshi T²⁾, Koizumi K³⁾, Shimizu K³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院 胸部外科, ²⁾ Department of Surgery, Tohoku Rosai Hospital, ³⁾ 付属病院外科学第2): A case report on a full-thickness chest wall reconstruction with polypropylene mesh and stainless steel mesh concurrently using a transverse rectus abdominis myocutaneous flap . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2006 ; 12 (6): 445-448 .

著書

- 1) 秋元正宇：〔分担〕7D ポケット形成の原因と治し方 ポケットの新しい理論。アトラスきずのきれいな治し方 (百束比古・小川 令), 2006 ; pp75-79, 全日本病院出版会。
- 2) 秋元正宇：〔分担〕8放射線潰瘍 放射線のできた潰瘍はなぜ治りにくいか。アトラスきずのきれいな治し方 (百束比古・小川 令), 2006 ; pp93-98, 全日本病院出版会。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 正方弁による耳垂裂形成術とそのシミュレーション . 第49回日本形成外科学会総会・学術集会, 2006 . 4 .
- 2) 太組一郎¹⁾, 秋元正宇, 水成隆之¹⁾, 小林士郎¹⁾, 寺本 明²⁾, 百束比古³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院脳神経外科, ²⁾ 付属病院脳神経外科, ³⁾ 付属病院形成外科・美容外科): Free muscle flap による頭蓋底再建の治療経験 . 第18回日本頭蓋底外科学会, 2006 . 7 .
- 3) 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ポケットの開放は褥瘡の拡大を抑止するか? : 有限要素法による解析から . 第8回日本褥瘡学会, 2006 . 9 .
- 4) 赤石諭史¹⁾, 平川慶子²⁾, 植草協子²⁾, 秋元正宇, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科, ²⁾ 法医学): ケロイド・肥厚性瘢痕に対するシリコンジェルシートの作用機序に関する考察 . 第1回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2006 . 9 .
- 5) 赤石諭史¹⁾, 秋元正宇, 小川 令¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): ケロイドの伸展形式についての考察 . 第1回瘢痕・ケロイド治療研究会, 2006 . 9 .
- 6) 秋元正宇, 大木更一郎¹⁾, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 褥瘡予防シートは有用か? : 有限要素法によるシミュレーションから . 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 7) 平本剛士, 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): CT をトレースした有限要素シミュレーションのための仙骨褥瘡発生モデル . 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 8) 秋元正宇, 百束比古¹⁾ (¹⁾ 付属病院形成外科・美容外科): 褥瘡ポケットの開放が応力分布に及ぼす影響 : 有限要素法によるシミュレーションから . 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006 . 10 .
- 9) 村上正洋¹⁾, 秋元正宇 (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科): 円形皮膚欠損閉鎖により生じるドッグイヤー発生の有限要

素法によるシミュレーション．第15日本形成外科学会基礎学術集会，2006．10．

- 10) 赤石諭史¹⁾，秋元正宇，百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科)：有限要素法による新しい作用機序の解明．第36回 創傷治療学会，2006．10．
- 11) 秋元正宇，百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科)：壊死組織除去が褥瘡の応力分布に及ぼす影響：有限要素法によるシミュレーションから．第16回日本シミュレーション外科学会，2006．11．
- 12) 秋元正宇，百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科)：局所皮弁の延長効果の比較：有限要素法によるシミュレーションから．第16回日本シミュレーション外科学会，2006．11．
- 13) 宮田美穂，秋元正宇，太組一朗¹⁾，岡 敏行，井内亜美，百束比古²⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経外科，²⁾付属病院形成外科・美容外科)：眼窩底骨折に対するナビゲーションシステムの有用性．第16回日本シミュレーション外科学会，2006．11．
- 14) 秋元正宇，百束比古¹⁾(¹⁾付属病院形成外科・美容外科)：各種耳垂裂形成術のシミュレーションによる比較．第24回日本顎顔面外科学会，2006．11．
- 15) 赤石諭史，秋元正宇，太組一朗¹⁾，岡 敏行，井内亜美，百束比古²⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経外科，²⁾付属病院形成外科・美容外科)：有限要素法によるケロイドの伸展形式の検討．第16回日本シミュレーション外科学会，2006．11．
- 16) 太組一朗¹⁾，秋元正宇，岡 敏行，水成隆之¹⁾，小林士郎¹⁾，寺本 明²⁾，百束比古³⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経外科，²⁾付属病院脳神経外科，³⁾付属病院形成外科・美容外科)：小児頭蓋骨形成における自家骨移植の再検討．第24回日本顎顔面外科学会，2006．11．
- 17) 宮田美穂，秋元正宇，太組一朗¹⁾，岡 敏行，井内亜美，百束比古²⁾(¹⁾千葉北総病院脳神経外科，²⁾付属病院形成外科・美容外科)：ナビゲーションシステムを用いた眼窩底骨折の治療経験．第24回日本顎顔面外科学会，2006．11．

付属病院付置施設等

[付属病院遺伝診療科]

研究概要

遺伝子医療部門が大学病院を中心に全国的に立ち上がる新しい時代の遺伝子医学に対応するため、日本医科大学付属病院では平成15年5月から独立した遺伝診療科として外来診療を行っている。平成16年には、私立大学として初めて臨床遺伝専門医研修施設として認定され、現在も学内外から研修医が集まっている。

平成18年12月までに先天性代謝異常症、家族性腫瘍、染色体異常症など多彩な分野にわたるのべ150件（新患）の症例について外来診療を行った。外来は臨床遺伝専門医、看護師のチームで担当している。症例毎の診療方針や倫理的問題点は、外来担当者以外に、臨床医、研究者、臨床心理士が参加する月1回の遺伝診療カンファレンスで検討されている。外来では、これらの議論を踏まえ遺伝子研究も含めた最先端の医学的進歩について情報提供を行うとともに、本人の状況に最大限配慮した遺伝カウンセリングを行っている。遺伝子検査についてはハイテクリサーチセンターと共同で低ホスファターゼ症、血管型Ehlers-Danlos症候群、Gaucher病をはじめとしたライソゾーム病などについての遺伝子診断法を独自に確立し、他施設からの依頼にも応じている。特に、高度の倫理的な検討が必要な出生前遺伝子診断や家族性腫瘍の発症前診断は倫理委員会との連携をとり施行した。

遺伝診療は、新しい医学領域であるが、既に厚生労働省から臨床遺伝専門医の標榜が認められている。本学では基礎医学研究者、臨床医、看護師が密接に連携して、遺伝と遺伝病に対する様々な問題を解決できる独自の遺伝診療体制を確立している。平成18年9月には、三上ちづ子付属病院副院長（看護部長）を大会長として第5回日本遺伝看護学会を開催した。このことは、日本医科大学遺伝診療科が対外的にも周知されてきた成果と考え、今後もわが国の遺伝医療の一角を担うと共に、日本医科大学を代表する診療科として発展させていきたい。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Watanabe A¹⁾, Kosho T²⁾, Wada T²⁾, Sakai N³⁾, Fujimoto M⁴⁾, Fukushima Y²⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学生化学第2, ²⁾ 信州大学付属病院遺伝子診療部, ³⁾ 日本医科大学付属病院皮膚科, ⁴⁾ 自治医科大学皮膚科): Genetic aspects of the vascular type of Ehlers-Danlos syndrome (vEDS, EDSIV) in Japan . Circ J 2007 ; 71 (2): 261-265 .

(2) 症例報告：

- 1) Miyake H¹⁾, Nakai A¹⁾, Shimada T, Takeshita T²⁾ (¹⁾ 多摩永山病院女性診療科・産科, ²⁾ 付属病院女性診療科・産科): Effect of first-trimester ultrasound examination for chromosomal aberrations in women undergoing amniocentesis . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (5): 271-276 .
- 2) Watanabe A¹⁾, Yamamasu S²⁾, Shinagawa T³⁾, Suzuki Y, Miyake H, Takeshita T³⁾, Orimo H¹⁾, Shimada T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学生化学第2, ²⁾ 大阪市立大学産婦人科, ³⁾ 日本医科大学付属病院女性診療科・産科): Prenatal genetic diagnosis of severe perinatal (lethal) hypophosphatasia . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1): 65-69 .

著書

- 1) 渡邊 淳：〔分担〕Ehlers-Danlos 症候群．今日の小児治療指針 第14版（大関武彦，横田俊一郎，古川 漸編），2006；pp149-150，医学書院．

- 2) 渡邊 淳：〔分担〕Ehlers-Danlos 症候群の遺伝診療とその課題．遺伝診療をとりまく社会（吉田雅幸，小笹由香），2007；pp69-77，ブレーン出版．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 鈴木由美，渡邊 淳，三宅秀彦，伊藤 博¹⁾，岡野喜史¹⁾，島田 隆⁽¹⁾ 東邦大学医療センター大森病院循環器センター内科)：無症候で見つかった多発性動脈瘤の遺伝カウンセリング．第30回日本遺伝カウンセリング学会，2006．5．
- 2) 三宅秀彦¹⁾，山田浩子¹⁾，山本晃人¹⁾，横田明重¹⁾，中井章人¹⁾，五十嵐里砂²⁾，佐藤久美子²⁾，尾山裕美²⁾，吉田温子²⁾，竹内千恵美²⁾，島田 隆⁽¹⁾ 多摩永山病院女性診療科・産科，²⁾ 同周産期病棟)：妊娠22週以降で診断された羊水過少シークエンスの経験．第30回日本遺伝カウンセリング学会，2006．5．
- 3) 渡邊 淳，浅野ありさ，三宅秀彦，右田 真，島田 隆：医学部における臨床遺伝教育 日本医科大学の試み．第30回日本遺伝カウンセリング学会，2006．5．
- 4) 渡邊 淳，鈴木由美，前田美穂¹⁾，及川眞一²⁾，須磨崎亮³⁾，小林圭子⁴⁾，島田 隆⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科，²⁾ 同内分泌代謝科，³⁾ 筑波大学小児科)：シトルリン血症の遺伝カウンセリング 未発症で同定された成人II型シトルリン血症のケースを通して．第30回日本遺伝カウンセリング学会，2006．5．
- 5) 渡邊 淳，島田 隆：医学教育における患者会講演導入の試み．第38回日本医学教育学会，2006．7．
- 6) 鈴木由美，渡辺裕子，千葉弘子，渡辺 淳，浅野ありさ，右田 真，三宅秀彦，島田 隆：日本医科大学付属病院遺伝診療科における来談者の特性と看護支援への課題．第5回日本遺伝看護学会，2006．9．
- 7) 高橋美穂子¹⁾，田中浩子¹⁾，遠藤明日美¹⁾，中島瑞恵¹⁾，島 義雄¹⁾，原田知子¹⁾，安斉由衣²⁾，鈴木由美，右田 真⁽¹⁾ 葛飾赤十字産院，²⁾ 日本医科大学付属病院看護部)：筋緊張性ジストロフィー症の家族とのかかわり．第5回日本遺伝看護学会，2006．9．
- 8) 渡邊 淳，島田 隆：遺伝子倫理や遺伝医療をどのように 医学教育に取り入れるか 日本医科大学の試み．第25回日本医学哲学・倫理学会大会，2006．9．
- 9) 渡邊 淳，桑原健太郎¹⁾，右田 真，渡辺裕子，藤野 修，福永慶 ，山田裕一²⁾，島田 隆⁽¹⁾ 日本医科大学付属病院小児科，²⁾ 愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所)：レット症候群様症状を伴いサブテロメア染色体異常を呈した一男児例．第29回日本小児遺伝学会，2006．10．
- 10) 渡邊 淳，島田 隆：血管型Ehlers-Danlos症候群を巡る遺伝診療の課題．第1回日本臨床遺伝研究会，2006．10．

[付属病院集中治療室]

研究概要

国立循環器病センターを中心に始まったアスピリンレジスタンスの実態ならびにその遺伝子背景に関する研究に参加，今年も急性冠症候群の症例を登録，追跡している．カルペリチドの急性腎不全を対象とした臨床前期第二相試験，デクスメドミジンによる術後管理の有効性を検討する第IV相無作為化実薬対照比較試験も実施した．現在，致死的不整脈に対する塩酸ニフェカルトの有効性を検討する多施設共同前向き研究，クリアクターの急性肺塞栓症に対する薬物動態の検討試験が進行中である．さらに，本邦初の急性心不全に対する多施設共同疫学観察研究（AT-TEND Regisry），BNP注射薬であるネシリチドの急性心不全患者を対象とした第II相臨床試験，抗Xa阻害薬であるフォンダパリヌクスの急性肺血栓塞栓症に対する臨床試験も近々開始予定である．

論文では，非侵襲的陽圧換気によるMRSA検出頻度減少の効果，動脈圧受容器反射によるPDEIII阻害薬の効果予測，大動脈バルーンポンピングへの止血デバイスの応用，非ST上昇型急性冠症候群におけるBNP上昇の関連因子など，多くの臨床研究および症例報告が発表された．多忙な集中治療の業務に追われるなか，スタッフの努力の成果である．

また、BSL 学生による症例報告 “ 多発性嚢胞腎に合併した急性大動脈解離の3例 ” が日本医科大学医学会雑誌に掲載された。

研究業績

論文

(1) 原著 :

- 1) Sato N¹⁾, Yamamoto T¹⁾, Akutsu K¹⁾, Fujita N²⁾, Asai K²⁾, Takayama M²⁾, Takano T²⁾, Tanaka K¹⁾ (¹⁾ Intensive and Cardiac Care Unit , ²⁾ First Department of Internal Medicine): Arterial Baroreflex Sensitivity is a Good Predictor of Inotropic Responses to a Phosphodiesterase Inhibitor in Human Heart Failure. . Clinical Cardiology 2006 ; 29 (6): 263-267 .
- 2) Kato K , Sato N , Yamamoto T , Fujita N , Miyagi Y , Tanaka K , Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine): Initial experience of removal of intra-aortic balloon pumps with Angio-seal . Journal of Invasive Cardiology 2006 ; 18 (3): 130-132 .
- 3) Kato K , Sato N , Fujita N , Yamamoto T , Iwasaki Y , Yodogawa K , Takayama M¹⁾, Tanaka K , Teruo T¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine): Combination therapy with percutaneous coronary intervention and percutaneous aortic valvuloplasty under mechanical support for an elderly patient with cardiogenic shock . Journal of Nippon Medical School 2006 ; 73 (3): 158-163 .
- 4) Kamiya M , Nakagomi A¹⁾, Tokita Y¹⁾, Yasutake Masahiro¹⁾, Kusama Y¹⁾, Takayama M¹⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ 内科学第1): Type I CD36 deficiency associated with metabolic syndrome and vasospastic angina : A case report . Journal of Cardiology 2006 ; 48 (1): 41-44 .
- 5) Yamamoto T , Sato N , Yasutake M , Takagi H , Morita N , Akutsu K , Fujii M , Fujita N , Tanaka K , Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine): B-type natriuretic peptide as an integrated risk marker in non-ST elevation acute coronary syndromes . International Journal of Cardiology 2006 ; 111 (2): 224-230 .
- 6) Yamamoto T , Terajima K , Kato K , Iwasaki Y , Miyagi Y , Sato N , Takeda S , Tanaka K , Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine): Transient leukocytopenia associated with a steep surge of pro-inflammatory cytokines in a patient with severe cardiogenic pulmonary edema. . Internal Medicine 2006 ; 45 (20): 1153-1155 .
- 7) Iwasaki Y , Yamashita T , Sekiguchi A , Hatano S , Sagara K , Iinuma H , Fu LT , Kobayashi Y¹⁾, Katoh T¹⁾, Takano T¹⁾ (¹⁾ First Department of Internal Medicine): A method for the simultaneous analysis of mRNA levels of multiple cardiac ion channels with a multi-probe RNase protection assay . Europace 2006 ; 8 (11): 1011-1015 .
- 8) 佐藤直樹 , 山本 剛 , 岩崎雄樹 , 平澤泰宏 , 加藤浩司 , 吉川雅智 , 田中啓治 , 野照夫¹⁾ (¹⁾ 内科学第1): 腎保護効果からみたナトリウム利尿ペプチドとフロセミド併用療法の問題点 . ICUとCCU 2006 ; 30 (9): 651-656 .
- 9) 竹田晋浩¹⁾, 赤田信二¹⁾, 寺嶋克幸¹⁾, 鈴木規仁¹⁾, 青戸泰二²⁾, 山本保博³⁾, 田中啓治 , 坂本篤裕¹⁾ (¹⁾ 麻酔科学 , ²⁾ 付属病院中央検査部 , ³⁾ 救急医学): 非侵襲的陽圧換気によるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌検出頻度減少の効果 . 日集中医誌 2007 ; 14 (1): 91-92 .
- 10) 中村有紀¹⁾, 四倉寛子²⁾, 加藤雅彦¹⁾, 中田 淳 , 田中啓治 , 林 宏光³⁾ (¹⁾ 日本医科大学研修医 , ²⁾ 藤沢市民病院研修医 , ³⁾ 日本医科大学放射線医学): 多発性嚢胞腎に合併した急性大動脈解離の3例 . 日医大医学会誌 2007 ; 3 (1): 25-29 .

(2) 綜説：

- 1) 加藤浩司：患者管理上に留意点 1) 集中治療における循環管理 (特集：集中治療領域における安全管理). ICUとCCU 2006 ; 30 (6) : 431-438 .
- 2) 加藤浩司, 高山守正¹⁾(¹⁾内科学第1): 頸脈の緊急処置指針 (救急・集中治療ガイドライン最新の診療指針). 救急・集中治療 2006 ; 18 (5・6) : 691-693 .
- 3) 山本 剛, 野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): 診断・治療法の進歩 (特集：急性冠症候群). 日本臨床 2006 ; 64 (4) : 617-623 .
- 4) 竹田晋浩：BiPAP；人工呼吸の換気モード．呼吸器ケア 2006 ; 5 (5) : 79-84 .
- 5) 山本 剛, 新真理子, 小串聡子, 村井綱児, 吉川雅智, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司¹⁾, 高山守正¹⁾, 野照夫¹⁾, 中澤 賢²⁾, 田島廣之²⁾, 隈崎達夫²⁾, 神谷仁孝³⁾(¹⁾日本医科大学内科学第1, ²⁾同放射線医学, ³⁾稲田登戸病院循環器科): 肺癌様の腫瘤陰影を呈した肺梗塞の1例. Therapeutic Research 2006 ; 27 (6) : 1017-1019 .
- 6) 山本 剛：術中発症肺血栓塞栓症の治療：経カテーテル治療 (特集：周術期肺血栓塞栓症). 臨床麻酔 2006 ; 30 (6) : 967-972 .
- 7) 竹田晋浩：NPPV療法中の合併症とその対策；特集：今日のNPPV療法．呼吸器科 2006 ; 10 (6) : 509-512 .
- 8) 山本 剛, 野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): 内科的 (潜在的) 危険因子を識る (特集：急性肺血栓塞栓症；その診断から治療へ). Heart View 2006 ; 10 (7) : 708-710 .
- 9) 山本 剛, 田中啓治：急性冠症候群の治療指針 (救急・集中治療ガイドライン：最新の診療指針). 救急・集中治療 2006 ; 18 (5-6) : 708-710 .
- 10) 岩崎雄樹¹⁾(¹⁾内科学第1): 心室頻拍・心室細動の急性期薬物治療……理論に乗っ取った使用法 (特集：心室頻拍・心室細動). ICUとCCU 2006 ; 30 (7) : 487-492 .
- 11) 竹田晋浩：どんな患者さんにどの機種を使うのか；必ずできる，Q&Aで理解するNPPVの導入と患者ケア．呼吸器ケア 2006 ; 3 (2) : 50-55 .
- 12) 竹田晋浩：NPPVを行う人工呼吸器および回路．呼吸管理機器マイノートブック．呼吸器ケア夏季増刊 2006 ; 10 (7) : 14-19 .
- 13) 山本 剛：大動脈疾患救急ネットワークの構築．ICUとCCU 2006 ; 30 (10) : 885-887 .
- 14) 竹田晋浩：NPPVの実際：効果の評価；非侵襲的人工呼吸Q&A．救急・集中治療 2006 ; 18 (10) : 8-10 .
- 15) 竹田晋浩：急性期のNPPV：急性肺水腫．非侵襲的人工呼吸Q&A．救急・集中治療 2006 ; 18 (10) : 22-26 .
- 16) 岩崎雄樹¹⁾, 加藤貴雄¹⁾(¹⁾内科学第1): 集中治療における不整脈の管理・監視 (モニター) と予測・予防・治療-II. 速やかに治療すべき不整脈 3. 危険な心室性期外収縮と心室頻拍. ICUとCCU 2007 ; 31 (1) : 55-59 .
- 17) 竹田晋浩：急性心原性肺水腫に対するNPPV療法. Therapeutic research 2007 ; 28 (1) : 60-66 .
- 18) 竹田晋浩, 寺嶋克幸：Dexmedetomidine, 呼吸管理への応用. Anesthesia 21 century 2007 ; 9 (1) : 11-16 .
- 19) 中田 淳, 佐藤直樹：失神を主訴として来院した慢性透析患者. Medical Practice 2007 ; 24 (5) : 926-932 .

著 書

- 1) 山本 剛, 田中啓治：〔分担〕II肺血栓塞栓症5-2鑑別診断 急性大動脈解離．静脈血栓塞栓症ガイドブック, 2006 ; pp65-71, 中外医学社 .
- 2) 竹田晋浩：〔分担〕NPPVを行う人工呼吸器および回路．呼吸管理機器マスターブック (今中秀光), 2006 ; pp34-40, メディカ出版 .
- 3) 竹田晋浩：〔分担〕急性心原性肺水腫．NPPV (非侵襲的陽圧換気療法) ガイドライン (日本呼吸器学会), 2006 ; pp25-29, 日本呼吸器学会 .
- 4) 竹田晋浩：〔分担〕周術期の人工呼吸管理の要点．周術期の呼吸管理 (西野 卓), 2006 ; pp251-260, 克誠堂

出版 .

- 5) 竹田晋浩 : [分担] 人工呼吸器 . こんな時どうする ME 機器のトラブル対処法 (坂本篤裕), 2006 ; pp50-58 , 真興交易医書出版部 .
- 6) 竹田晋浩 : [共著] 急性期 NPPV の適応と限界 , 心原性肺水腫に対する NPPV , ALI/ARDS に対する NPPV . 急性期 NPPV 実践マニュアル (竹田晋浩), 2006 ; pp8-12 , メディカルレビュー社 .
- 7) 竹田晋浩 : [分担] 麻酔科医と救急医療 . 麻酔科学レビュー 2007 (天羽啓介), 2007 ; pp211-215 , 総合医学社 .
- 8) 村川裕二¹⁾ , 岩崎雄樹²⁾ , 加藤武史^{3,4)} (¹⁾ 帝京大学医学部附属溝口病院第四内科教授 , ²⁾ 日本医科大学内科学第 1 , ³⁾ 金沢大学医学部附属病院循環器内科 , ⁴⁾ (財) 心臓血管研究所) : [共著] 循環器病態学ファイル : 循環器臨床のセンスを身につける . 循環器病態学ファイル : 循環器臨床のセンスを身につける , 2007 ; メディカル・サイエンス・インターナショナル .
- 9) 岩崎雄樹 : [自著] セカンドオピニオン実践ガイド 実地診療にも役立つ病期・病態別治療指針 : 頻脈性不整脈 . Medical Practice , 2007 ; pp264-274 , 文光堂 .

学会発表

(1) 教育講演 :

- 1) 山本 剛 : 重症急性肺塞栓症に対するカテーテルインターベンション . 第 3 回徳島肺塞栓症研究会 , 2006 . 9 .
- 2) 竹田晋浩 : 周術期の NPPV . 第 6 回 NPPV 研究会 , 2006 . 12 .

(2) シンポジウム :

- 1) 山本 剛 , 佐藤直樹 , 田中啓治 , 高山守正¹⁾ , 野照夫¹⁾ , 中澤 賢²⁾ , 田島廣之²⁾ , 隈崎達夫²⁾ (¹⁾ 内科学第 1 , ²⁾ 放射線医学) : 急性広範性 , 亜広範性肺塞栓症に対する一時型下大静脈フィルターの有用性 . 第 26 回日本静脈学会総会 . シンポジウム , 2006 . 6 .
- 2) 竹田晋浩 : ARDS の臨床 : ARDS 診断基準の問題点 . 第 46 回日本呼吸器学会学術集会 , 2006 . 6 .
- 3) 竹田晋浩 : 周術期のモニタリング管理とリスクマネジメント : 肺動脈カテーテルの挿入・留置に関する問題点と工夫 . 日本麻酔科学会東京関東甲信越支部第 46 回合同学術集会 , 2006 . 9 .
- 4) 山本 剛 : 肺塞栓症に対する血栓溶解療法とカテーテルインターベンション . 第 9 回日本栓子検出と治療学会 , 2006 . 11 .
- 5) 山本 剛 , 佐藤直樹 , 田中啓治 , 高野仁司¹⁾ , 高山守正¹⁾ , 野照夫¹⁾ , 中澤 賢²⁾ , 田島廣之²⁾ (¹⁾ 内科学第 1 , ²⁾ 放射線医学) : 広範性および亜広範性の急性肺塞栓症に対する一時型下大静脈フィルターの有効性 . 第 13 回肺塞栓症研究会学術集会 , 2006 . 12 .
- 6) 山本 剛 : CCU における至適ヘモグロビン値 . 第 22 回体液・代謝管理研究会 , 2007 . 1 .
- 7) 竹田晋浩 : ALI/ARDS に対する NPPV の有効性 . 第 34 回日本集中治療医学会学術集会 , 2007 . 3 .

(3) 一般講演 :

- 1) Iwasaki Y¹⁾ , Yamashita T²⁾ , Sekiguchi A²⁾ , Hatano S²⁾ , Sagara Ko-ichi²⁾ , Iinuma H²⁾ , Tadanori A²⁾ , Fu Long-tai²⁾ , Kobayashi Y¹⁾ , Katoh T¹⁾ , Takano T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学第 1 , ²⁾ 心臓血管研究所) : Glucocorticoid Induces Atrial Arrhythmogenesis via Modification of Ion Channel Gene Expression in Rats . The 2nd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium , 2007 . 1 .
- 2) Iwasaki Y , Yamashita T²⁾ , Sekiguchi A²⁾ , Tsuneda T²⁾ , Kato T²⁾ , Miyauchi Y¹⁾ , Kobayashi Y¹⁾ , Katoh T¹⁾ , Takano T¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学内科学第 1 , ²⁾ 心臓血管研究所) : Long-term Treatment with Olmesartan Reduced Aging-Related Interstitial Fibrosis of Rat Atria Inhomogeneously . The 2nd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Tokyo) , 2007 . 1 .
- 3) Iwasaki Y , Miyauchi Y , Hirasawa Y , Yodogawa Kenji , Katoh K , Yamamoto T , Naoki S , Tanaka Keiji , Kobayashi Y , Katoh T , Takano T (¹⁾ 内科学第 1) : Characteristics of Premature Ventricular Contractions

Initiating Ventricular Tachyarrhythmia in Patients with Ischemic Heart Disease as Revealed by 12-Lead ECG Monitoring . The 2nd Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium (Tokyo), 2007 . 1 .

- 4) Kamiya M , Asai K¹⁾ , Shirakabe A¹⁾ , Murai K , Sasaki A¹⁾ , Fukumoto Y¹⁾ , Sato N , Seino Y¹⁾ , Takano T¹⁾ (¹⁾内科学第1) : Ovariectomy did not affect left ventricular hypertrophy, but caused more severe diastolic heart failure in mice with chronic α -adrenergic receptor stimulation . The 1st International Congress of Cardiomyopathies and Heart Failure , 2007 . 3 .
- 5) Nakata J , Sato N , Takayama M¹⁾ , Tanaka K , Takano T¹⁾ (¹⁾First Internal med, NMS) : Importance of appropriate pad positioning of AED . 第71回日本循環器学会総会 , 2007 . 3 .
- 6) 神谷仁孝, 佐藤直樹, 山本 剛, 岩崎雄樹, 加藤浩司, 平澤泰宏, 吉川雅智, 村井綱児, 野照夫¹⁾, 田中啓治 (¹⁾内科学第1) : 急性心不全における腎尿細管障害マーカー測定の意味 . 第34回日本集中医療医学会学術集会 , 2006 . 3 .
- 7) 岩崎雄樹¹⁾, 小林義典¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 山下武志²⁾, 関口昭子²⁾ (¹⁾日本医科大学内科学第1, ²⁾心臓血管研究所) : 心房細動発症に関連する肺静脈・左心房の分子生物学的・組織学的基盤 . 心電学会・日本不整脈学会 , 2006 . 6 .
- 8) 関口昭子, 山下武志, 加藤武史, 相良耕一, 飯沼宏之, 傳 隆泰, 相澤忠範, 岩崎雄樹, 大塚 (¹⁾内科学第1) : ラット心房高頻度刺激による心房内皮障害に対する pravastatin の予防効果 : 心房細動 endocardial remodeling とスタチンの pleiotropic effects . 心電学会・日本不整脈学会 , 2006 . 6 .
- 9) 中田 淳, 岩崎雄樹, 古川雅智, 村井綱児, 神谷仁孝, 加藤浩司, 平澤泰宏, 赤田信二, 宮城泰雄, 山本 剛, 本郷 卓, 佐藤直樹, 竹田普浩, 田中啓治, 野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1) : 重症誤えん性肺炎を契機に白血球減少をきたし同時に著明な高サイトカイン血症が認められステロイドが有効であった2症例 . 第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会 , 2006 . 8 .
- 10) 山本 剛, 村井綱児, 神谷仁孝, 吉川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 田島廣之¹⁾, 野照夫²⁾ (¹⁾放射線医学, ²⁾内科学第1) : 急性広範性および亜広範性肺塞栓症に対する一時型下大静脈フィルターの有効性 . 第54回日本心臓病学会学術集会 , 2006 . 9 .
- 11) 小原賢司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 村井綱児, 神谷仁孝, 吉川雅智, 加藤浩司, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中 啓治, 野照夫¹⁾, 宮内靖史¹⁾, 丸山光紀¹⁾, 谷口宏史¹⁾, 上野 亮¹⁾, 岡崎玲子¹⁾, 村田広茂¹⁾, 山本哲平¹⁾, 小林義典¹⁾, 新田 隆²⁾, 副島京子³⁾, 谷本耕司郎³⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院内科学第1, ²⁾同外科学第2, ³⁾慶應義塾大学附属病院循環器内科) : 薬剤抵抗性難治性心室頻拍に対しカテーテルアブレーションおよび開胸クライオアブレーションが奏効した1例 . 第201回日本循環器学会関東甲信越地方会 , 2006 . 10 .
- 12) 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 青木 聡¹⁾, 小林義典¹⁾, 高山守正¹⁾, 野照夫¹⁾, 吉田竜介²⁾, 山本保博²⁾, 坂本篤裕³⁾ (¹⁾内科学第1, ²⁾救急医学, ³⁾麻酔科学・ME部) : AED が作動しなかった院内心室細動の2例とそのメカニズム . 第34回日本救急医学会総会・学術集会 , 2006 . 11 .
- 13) 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 高野仁司¹⁾, 高山守正¹⁾, 野照夫¹⁾, 中澤 賢²⁾, 田島廣之²⁾ (¹⁾内科学第1, ²⁾放射線医学) : モンテプラゼによる血栓溶解療法 : 当院における初期成績 . 第13回肺塞栓症研究会学術集会 , 2006 . 12 .
- 14) 岩崎雄樹, 吉川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 小林義典¹⁾, 加藤貴雄¹⁾, 野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1) : 当院集中治療室における抗不整脈薬の使用状況 . 第34回日本集中治療医学会学術集会 , 2007 . 1 .
- 15) 村井綱児, 岩崎雄樹, 神谷仁孝, 吉川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓治, 野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1) : 集学的な循環器治療によって救命しえた Electrical Storm の1例 . 第34回日本集中治療医学会学術集会 , 2007 . 1 .
- 16) 中田 淳, 岩崎雄樹, 古川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 村井綱児, 神谷仁孝, 山本 剛, 佐藤直樹, 田中啓

治：意識障害で当院救命救急センターに搬送され、心電図でST上昇を認めた症例．第203回日本循環器学会関東甲信越地方会，2007．2．

(4) ポスター：

- 1) Kamiya M, Sato N, Yamamoto T, Iwasaki Y, Hirasawa Y, Kato K, Yoshikawa M, Murai K, Takano T¹⁾, Tanaka T⁽¹⁾ (内科学第1): Management of cardiorenal syndrome in acute heart failure with A-type natriuretic peptide-prospective study compared to conventional therapy．第71回日本循環器学会学術集会，2006．3．
- 2) Yamamoto T, Murai K, Kamiya M, Yoshikawa M, Kato K, Hirasawa Y, Iwasaki Y, Sato N, Tanaka K, Tajima H¹⁾, Takano T²⁾ (¹⁾ Department of Radiology, ²⁾ First Department of Internal Medicine): Thrombolysis with a novel modified t-PA, monteplase, in combination with catheter intervention for high-risk patients with acute pulmonary embolism．第71回日本循環器学会学術集会，2007．3．
- 3) 中田 淳, 淀川顯司, 佐藤直樹, 山本 剛, 岩崎雄樹, 平澤泰宏, 加藤浩司, 古川雅智, 神谷仁孝, 村井綱児, 田中啓治, 野照夫¹⁾ (¹⁾ 内科学第1): 慢性透析患者で大動脈狭窄が比較的短期間で進行し心不全を発症した症例．第10回日本心不全学会学術集会，2006．10．
- 4) 山本 剛, 中田 淳, 神谷仁孝, 村井綱児, 吉川雅智, 加藤浩司, 平澤泰宏, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 田中啓治, 田島廣之¹⁾, 高山守正²⁾, 野照夫²⁾ (¹⁾ 放射線医学, ²⁾ 内科学第1): 急性肺塞栓症に対するカテーテルインターベンションの治療成績．第26回東京CCU研究会，2006．12．
- 5) 山本 剛, 岩崎雄樹, 佐藤直樹, 竹田晋浩, 田中啓治, 高山守正¹⁾, 安武正弘¹⁾, 清野精彦¹⁾, 野照夫¹⁾, 田島廣之²⁾ (¹⁾ 内科学第1, ²⁾ 放射線医学): 血栓溶解療法が相対的に禁忌な重症急性肺塞栓症に対する血栓溶解薬投与法の検討．第34回日本集中治療医学会学術集会，2007．3．

[付属病院病理部]

研究概要

スタッフは専任病理医3名，技師11名，事務担当1名に加え，病理学教室と共同で日常診断業務（病理組織診断・細胞診断・剖検診断）を遂行する過程の中にテーマを見出す努力をしている．

研究対象臓器は乳腺をはじめとして甲状腺・心臓・腎生検含む泌尿器領域・婦人科領域などと多岐に渡っている．

乳癌学会においては多くの臨床医が土屋の指導の下に発表を行った．この中にはすでに40回を超えている月例乳腺カンファレンスにて検討した症例も含まれ，継続したカンファレンスの成果ともいえます．

日本臨床細胞学会では乳腺について土屋と細胞検査士が中心になり発表した．

両学会共に一般演題に加えワークショップおよびパネルディスカッションなど学会に対する貢献度も一段と増した活躍もみられ，大学病院としての使命を果たしていると考えられる．

また乳腺細胞診に関する原著論文1篇，また田村准教授の指導を受けた学生および本校を卒業した後も研究を続けている医師らによる症例報告論文も掲載され継続した学生および卒業生の活躍が本年度も続いている．

さらに国際胎盤学会での酵素抗体法に関する技師による英語発表も実現した．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Saito T¹⁾, Tamura K, Uchida D¹⁾, Saito T¹⁾, Togashi M²⁾, Nitta T¹⁾, Sugisaki Y : Histopathological features of the resected left atrial appendage as predictors of recurrence after surgery for atrial fibrillation in valvular heart disease . Circ J 2006 ; 71 : 70-78 .
- 2) Tamura K, Murakami M¹⁾, Washizu M¹⁾ : Healing of wound suture on mitral valve : An experimental

study . Gen Thocac Cardiovasc Surg 2007 ; 55 (3) : 98-104 .

- 3) 永井祥子, 土屋眞一, 佐藤春明, 横山宗伯¹⁾, 田村浩一, 杉崎祐一 (¹⁾東京警察病院病理部): 男性乳腺に発生した Invasive micropapillary carcinoma の1例 . 日本臨床細胞学会雑誌 2006 ; 45 (4) : 259-262 .
- 4) 土屋眞一 : 針生検の報告様式ガイドライン . 臨床外科 2006 ; 61 : 301-304 .
- 5) 土屋眞一 : 乳腺細胞診の見方・考え方 . 福岡県病理・細胞学術研修会誌 2006 ; 11 : 31-46 .
- 6) 山田理恵子, 芳賀俊介, 土屋眞一 : 梗塞壊死をきたした乳腺充実腺管癌の1例 . 乳癌の臨床 2006 ; 21 : 110-114 .
- 7) 永井祥子, 土屋眞一, 佐藤春明 : 男性乳腺に発生した Invasive micropapillary carcinoma の1例 . 日本臨床細胞学会雑誌 2006 ; 45 : 259-262 .
- 8) 草間 律, 高山文吉, 土屋眞一 : 乳腺 MRI における粘液癌の組織型推定 : 組織像を対比した検討から . 乳癌の臨床 2006 ; 21 : 539-546 .
- 9) 土屋眞一 : 針生検細胞診 : 臨床病理学的位置付けと新しい報告様式 . 臨床検査 2007 ; 51 : 48-54 .

(2) 綜説 :

- 1) Maruyama Y¹⁾, Ochi M¹⁾, Bessho R¹⁾, Yamada K¹⁾, Fujii M¹⁾, Tamura K, Shimizu K¹⁾ (¹⁾病理学第1): Rupture of a normal-sized, non-dissected distal aortic arch in a Marfan patient . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2006 ; 12 (43) : 80-40 .
- 2) 田村浩一 : 病理学がおもしろくなるさまざまな取り組み : 「病理と臨床」連載 学生諸君, いま病理がおもしろいぞ 病理学自主学習のススメ . 病理と臨床 2006 ; 24 (6) : 636-643 .
- 3) 田村浩一 : 病理診療外来 . Animus 2006 ; 218 (7 . 8) : 707-712 .
- 4) 田村浩一 : 病理のセカンドオピニオン : その意義と問題点 . 医学のあゆみ 2006 ; 218 (7 . 8) : 707-712 .
- 5) 緒方清行¹⁾, 水越元気¹⁾, 田村浩一, 加藤貴雄¹⁾, 岸田 浩¹⁾, 清野精彦¹⁾, 駒場祐一¹⁾, 吉村明修¹⁾, 福間長知¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 福田 悠²⁾, 坂本静樹¹⁾, 津久井拓¹⁾, 本間 博¹⁾, 刃刀しのぶ²⁾, 弦間昭彦, 藤野鉄平 (¹⁾内科学第1, ²⁾病理学第1): Conference Room : 感染性心内膜炎の発症後, 脳梗塞を合併し, びまん性肺胞傷害にて死亡した1例 . 内科 2006 ; 98 (2) : 357-368 .
- 6) 田村浩一 : リレー連載 新医師臨床研修制度における指導ガイドライン試行版の活用 : 「臨床病理検討会 (CPC) レポート」のポイント : 日本医科大学付属病院のCPC研修への取り組み . Attending Eye 2006 ; 2 (4) : 34-41 .
- 7) 坂本静樹¹⁾, 竹内純子¹⁾, 塚田克也, 猪口孝一¹⁾, 北村光信¹⁾, 白杵二郎¹⁾, 田村浩一, 内藤善哉²⁾, 藤田和恵¹⁾, 工藤翔二¹⁾, 片山泰朗³⁾, 辰口篤志¹⁾, 福間長知¹⁾, 中山智子⁴⁾, 川本雅司⁴⁾, 勝又俊弥, 杉崎祐一 (¹⁾内科学第1, ²⁾病理学第2, ³⁾内科学第2, ⁴⁾病理学第1): Conference Room : 膿胸関連リンパ腫の1例 . 内科 2006 ; 96 (6) : 1091-1102 .

(3) 症例報告 :

- 1) 小澤明子¹⁾, 水谷康彦¹⁾, 秋元直彦¹⁾, 北嶋俊寛¹⁾, 横澤裕美¹⁾, 田村浩一, 杉崎祐一, 新田 隆²⁾, 岡崎怜子³⁾, 清野精彦³⁾ (¹⁾医学部学生, ²⁾外科学第2, ³⁾内科学第1): 心房細動根治術で切除された左心耳組織所見から心臓サルコイドーシスの診断に至った1例 . 診断病理 2006 ; 23 (3) : 208-211 .

著 書

- 1) 土屋眞一 : [分担] 乳腺の組織型診断とその病態 . 乳腺の組織型診断とその病態 (坂本吾偉), 2006 ; pp186-189, じほう .
- 2) 土屋眞一 : [共著] 画像と組織像の完全対比 . 臨床と病理のための乳腺 MRI アトラス (隈崎達夫), 2006 ; 医療科学社 .
- 3) 土屋眞一 : [分担] 乳腺疾患の臨床 . 乳腺疾患の臨床 (坂本吾偉, 野口昌邦), 2006 ; pp186-189, 金原出版 .

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 土屋眞一：乳腺領域における新しい組織学的分類：第16版乳癌取り扱い規約原案から。第5回熊本乳腺診断勉強会，2006.4.
- 2) 田村浩一：「血管を知る！診る！守る！」目で見える動脈硬化とその疾患。城南地区学術講演会，2006.7.
- 3) 土屋眞一：乳腺細胞診の見方・考え方。第23回日本臨床細胞学会京都支部学術集会，2006.7.
- 4) 土屋眞一：乳腺病理診断の見方・考え方。東北信乳腺カンファレンス，2006.10.
- 5) 土屋眞一：乳腺の病理と画像。第14回北乳会，2006.10.
- 6) 土屋眞一：乳腺細胞診の見方・考え方。第24回日本臨床細胞学会青森県支部総会，2007.3.
- 7) 土屋眞一：画像と病理のコラボレーション。第21回神奈川乳腺疾患検討会，2007.3.

(2) 招待講演：

- 1) 土屋眞一：初期・早期乳がんスクリーニングに必要な知識：超音波。第3回産婦人科乳房画像研究会，2007.1.

(3) 教育講演：

- 1) 土屋眞一：乳腺細胞診の報告様式：その現状と問題点。第45回日本臨床細胞学会秋季大会，2006.11.

(4) シンポジウム：

- 1) 土屋眞一：乳腺疾患の組織型診断とその病態。第14回日本乳癌学会学術総会，2006.7.
- 2) 土屋眞一：乳癌の発生と早期癌をめぐる諸問題。ヒト乳癌の微細構造 細胞診，画像所見との接点。第38回日本臨床分子形態学会総会，2006.9.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 高山文吉¹⁾，草間 律²⁾，土屋眞一，藤森 実³⁾(¹⁾長野厚生連安曇野総合病院，²⁾北信総合病院乳腺外科，³⁾信大病院乳腺内分泌外科)：category3の石灰化に対するMRMの有用性の検討。第14回日本乳癌学会学術総会，2006.7.
- 2) 野口智子¹⁾，古川清憲¹⁾，古川恵子¹⁾，飯田信也¹⁾，岩崎玲子¹⁾，村上隆介²⁾，土屋眞一，田尻 孝¹⁾，樋口勝美³⁾(¹⁾日本医科大学乳腺外科，²⁾同放射線科，³⁾東京白十字病院外科)：MDCTによる乳癌の拡がり診断と病理組織との対比有用性と今後の展望。第14回日本乳癌学会学術総会，2006.7.
- 3) 山田理恵子¹⁾，芳賀駿介¹⁾，加藤博之¹⁾，坂本輝彦¹⁾，岩田好隆¹⁾，佐久間浩¹⁾，上野恵子²⁾，松波克弘³⁾，宮崎正二郎³⁾，飯田富雄⁴⁾(¹⁾東京女子医科大学東医療センター検査科，²⁾同東医療センター放射線科，³⁾谷津保健病院，⁴⁾南千住病院)：乳癌の術式決定に対するMDCの斜冠状断MPR像の有用性に関する研究。第14回日本乳癌学会学術総会，2006.7.
- 4) 望月靖弘¹⁾，伊藤研一¹⁾，原田道彦¹⁾，坂井威彦¹⁾，前野一真¹⁾，浜 善久¹⁾，藤森 実¹⁾，土屋眞一(¹⁾信州大学医学部付属病院乳腺内分泌外科)：乳癌におけるGalNac-T3発現の検討。第14回日本乳癌学会学術総会，2006.7.
- 5) 飯田信也¹⁾，古川清憲¹⁾，古川恵子¹⁾，岩崎玲子¹⁾，野口智子¹⁾，樋口勝美²⁾，土屋眞一，田尻 孝¹⁾(¹⁾日本医科大学外科学第1，²⁾東京白十字病院)：乳癌手術におけるドレーン留置期間の検討。第14回日本乳癌学会学術総会，2006.7.
- 6) 古川清憲¹⁾，飯田信也¹⁾，古川恵子¹⁾，岩崎玲子¹⁾，野口智子¹⁾，樋口勝美²⁾，土屋眞一，田尻 孝¹⁾(¹⁾日本医科大学外科，²⁾東京白十字病院)：局所進行乳癌に対するAC(E) followed by taxan術前化学療法の成績。第14回日本乳癌学会学術総会，2006.7.
- 7) 坂井威彦¹⁾，伊藤研一¹⁾，原田道彦¹⁾，前野一真¹⁾，望月靖弘¹⁾，浜 善久¹⁾，藤森 実¹⁾，高山文吉²⁾(¹⁾信州大学乳腺・内分泌外科，²⁾安曇総合病院放射線科)：画像診断と針生検にてgranulomatous lobular mastitis (GLM)と診断しMRIにて治療経過を追うことができた1例。第14回日本乳癌学会学術総会，2006.7.
- 8) 木根淵康平¹⁾，松宮彰彦¹⁾，高 用茂¹⁾，渡辺 糺¹⁾，真田 裕¹⁾，土屋眞一(¹⁾昭和大学藤が丘病院)：鑑別

に苦慮した結節性紅斑を合併した肉芽腫性乳腺炎の1例．第14回日本乳癌学会学術総会，2006．7．

- 9) 北野敦子¹⁾，古川清憲¹⁾，飯田信也¹⁾，古川恵子¹⁾，岩崎玲子¹⁾，野口智子¹⁾，樋口勝美¹⁾，土屋眞一，田尻孝¹⁾(¹⁾日本医科大学外科学第1，²⁾東京白十字病院)：石灰化を有し，臨床的に癌との診断が困難だった多発性Ductal adenomaの1例．第14回日本乳癌学会学術総会，2006．7．
- 10) 葉山綾子，佐竹あかね，土屋眞一，内藤善哉，横山宗伯，田村浩一，杉崎祐一：乳腺穿刺細胞診報告様式の検討(2)：検体不適について．第45回日本臨床細胞学会秋季大会，2006．11．
- 11) 鈴木義孝¹⁾，宮坂真木¹⁾，石井恵子²⁾，土屋眞一(¹⁾健康保険岡谷塩嶺病院，²⁾信州大学医学部臨床検査医学)：“骨・軟骨化生を伴う癌”および“基質産生癌”が並存した乳腺化生癌の1例．第45回日本臨床細胞学会秋季大会，2006．11．
- 12) 永井祥子，土屋眞一，横山宗伯¹⁾，内藤善哉²⁾，田村浩一，杉崎祐一(¹⁾東京警察病院病理部，²⁾日本医科大学病理学第2)：非定型的な腫瘤像を形成した乳腺metaplastic carcinomaの細胞像．第45回日本臨床細胞学会秋季大会，2006．11．
- 13) 浅川一枝，川本雅司，横山宗伯¹⁾，土屋眞一，杉崎祐一(¹⁾東京警察病院病理部)：尿細胞診における良性・悪性不一致例の検討と解析．第45回日本臨床細胞学会秋季大会，2006．11．
- 14) 松原美幸，土屋眞一，川本雅司：臨床的に悪性が疑われたDiabetic mastopathyの1例．第45回日本臨床細胞学会秋季大会，2006．11．

(6) セミナー：

- 1) 土屋眞一：乳腺疾患の細胞診．第7回札幌臨床検査技師検査セミナー，2007．2．
- 2) 土屋眞一：乳腺，体腔液，卵巣の細胞診．2007年度日本病理学会細胞診講習会，2007．3．

(7) ワークショップ：

- 1) Namimatsu S, Sugisaki Y, Ghazizadeh M¹⁾(¹⁾Department of Molecular Pathology, Institute of Gerontology)：Presentation of a novel method of antigen retrieval using Citraconic anhydride for immunohistochemical staining．The 12th International Federation of Placenta Assosications Meeting (Kobe Japan)，2006．9．
- 2) 土屋眞一：画像所見(MRI)と細胞診とのコラボレーション．第47回日本臨床細胞学会総会(春期大会)，2006．6．
- 3) 松原美幸，横山宗伯¹⁾，土屋眞一(¹⁾東京警察病院病理部)：粘液性背景をともなう各科領域の腫瘍：鑑別診断上の問題点「軟部」．第47回日本臨床細胞学会総会(春期大会)，2006．6．
- 4) 土居大祐¹⁾，黒瀬圭輔¹⁾，米山剛一¹⁾，竹下俊行¹⁾，松原美幸，渡會泰彦，中山裕樹²⁾(¹⁾日本医科大学産婦人科学，²⁾神奈川県立がんセンター婦人科)：卵巣悪性腫瘍における細胞診の意義．第47回日本臨床細胞学会総会(春期大会)，2006．6．
- 5) 飯田信也¹⁾，古川清憲¹⁾，古川恵子¹⁾，岩崎玲子¹⁾，野口智子¹⁾，樋口勝美²⁾，土屋眞一，田尻孝¹⁾(¹⁾日本医科大学外科学第1，²⁾東京白十字病院)：乳癌手術におけるドレーン留置期間の検討．第14回日本乳癌学会学術総会，2006．7．

(8) 一般講演：

- 1) Mii A¹⁾，Shimizu A¹⁾，Masuda Y¹⁾，Fujita E¹⁾，Takano H¹⁾，Ishizaki M¹⁾，Iino Y²⁾，Katayama Y²⁾，Sugisaki Y，Fukuda Y¹⁾(¹⁾病理学第1，²⁾内科学第2)：Renoprotective effect of angiotensin II receptor blockade (ARB) in the active glomerular lesions in mesangioproliferative glomerulonephritis (GN)．Renal Weeks 2006 (American Society of Nephrology)(San Diego, USA)，2006．11．
- 2) Mii A¹⁾，Shimizu A¹⁾，Masuda Y¹⁾，Fujita E¹⁾，Ishizaki M¹⁾，Iino Y²⁾，Katayama Y²⁾，Fukuda Y¹⁾，Sugisaki Y(¹⁾病理学第1，²⁾内科学第2)：Glomerular capillary injury in the endocapillary proliferative lesions in various glomerulonephritis (GN)．Renal Weeks 2006 (American Society of Nephrology)(San Diego, USA)，2006．11．

- 3) Fujita E¹⁾, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Mii A¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Iino Y²⁾, Katayama Y²⁾, Fukuda Y¹⁾, Sugisaki Y (¹⁾病理学第1, ²⁾内科学第2): Endothelial cell injury contributes to the formation and development of extracapillary lesions in crescentic glomerulonephritis . Renal Week 2006 (American Society of Nephrology) San Diego, USA (San Diego, USA), 2006 . 11 .
- 4) Takano H¹⁾, Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Mii A¹⁾, Fujita E¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Iino Y²⁾, Katayama Y²⁾, Fukuda Y¹⁾, Sugisaki Y (¹⁾病理学第1, ²⁾内科学第2): Endothelial cell injury in the acute active and chronic progressive lesion in IgA nephropathy . Renal Week 2006 (American Society of Nephrology)(San Diego, USA), 2006 . 11 .
- 5) Shimizu A¹⁾, Masuda Y¹⁾, Mii A¹⁾, Fujita E¹⁾, Takano H¹⁾, Ishizaki M¹⁾, Sugisaki Y, Fukuda Y¹⁾(¹⁾病理学第1): Inhibitor of matrix metalloproteinases reduces ischemia reperfusion tubular injury in a mouse model of ischemia renal injury . Renal Week 2006 (American Society of Nephrology) San Diego, USA (San Diego, USA), 2006 . 11 .
- 6) Liu AM¹⁾, Maeda S²⁾, Katayama H²⁾, Naito Z³⁾, Sugisaki Y (¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾多摩永山病院病理部, ³⁾病理学第2): A definitive diagnosis of malignant mesothelioma based on body fluid cytology, combined immunocytochemistry and electron microscopy . United States and Canadian Academy of Pathology (San Diego (USA)), 2007 . 3 .
- 7) Hosone M¹⁾, Liu AM²⁾, Maeda S¹⁾, Katayama H¹⁾, Sugisaki Y, Naito Z³⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾中央電子顕微鏡研究施設, ³⁾病理学第2): An electronmicroscopic analysis of a newly described plasmacytoid dendritic cell tumor- " CD4+/CD56+hematodermic neoplasm " . United States and Canadian Academy of Pathology (San Diego (USA)), 2007 . 3 .
- 8) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 杉崎祐一, 田村浩一, 松本光司²⁾, 柳本邦雄²⁾, 大秋美治³⁾, 新井 悟³⁾, 福田悠⁴⁾, 内藤善哉⁵⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾武蔵小杉病院病理部, ³⁾千葉北総病院病理部, ⁴⁾病理学第1, ⁵⁾病理学第2): 体腔液細胞診でいかに中皮腫の確定診断をすべきか . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
- 9) 中山智子¹⁾, 田村浩一, 塚田克也, 福田 悠¹⁾, 杉崎祐一 (¹⁾病理学第1): 陳旧性中膜内血腫による動脈瘤を認めた肥大型心筋症の1例 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
- 10) 富樫真由子¹⁾, 田村浩一, 新田 隆¹⁾, 石崎正通¹⁾, 福田 悠¹⁾, 杉崎祐一 (¹⁾病理学第1): 心臓弁膜の myxomatous change に対する matrix metalloproteinases (MMPs) とその inhibitor (TIMPs) の役割 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
- 11) 秋元直彦¹⁾, 北嶋俊寛¹⁾, 小澤明子¹⁾, 水谷康彦¹⁾, 田村浩一, 杉崎祐一 (¹⁾内科学第1): 冠静脈うっ血が心筋組織に及ぼす影響について . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
- 12) 水谷康彦¹⁾, 小澤明子¹⁾, 北嶋俊寛¹⁾, 秋元直彦¹⁾, 横澤裕美, 岡崎怜子¹⁾, 清野精彦¹⁾, 新田 隆¹⁾, 塚田克也, 田村浩一, 杉崎祐一: 心筋生検によるサルコイドーシスの診断について . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
- 13) 佐野夏帆¹⁾, 土屋真一: 乳腺嚢胞性病変の画像と病理 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
- 14) 藤原ゆり¹⁾, 寺嶋一夫²⁾, 片野晴隆³⁾, 横島一彦⁴⁾, 中溝宗永⁴⁾, 劉 愛民⁵⁾, 横山宗伯⁶⁾, 恩田宗彦¹⁾, 石渡俊行¹⁾, 八木聡明⁴⁾, 杉崎祐一, 内藤善哉¹⁾(¹⁾日本医科大学病理学第2, ²⁾東京医科歯科大学大学院医学部ウイルス制御分野, ³⁾国立感染症研究所感染病理部, ⁴⁾日本医科大学付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科, ⁵⁾日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設, ⁶⁾東京警察病院病理部): 濾胞樹状細胞肉腫に認めた MTRs と ER の意義 . 第95回日本病理学会総会, 2006 . 4 .
- 15) 高野秀樹¹⁾, 清水 章¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 益田幸成¹⁾, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一, 福田 悠¹⁾(¹⁾病理学第1): CD34免疫染色による糸球体毛細血管傷害の同定 . 第95回病理学会総会, 2006 . 4 .
- 16) 喬 炎¹⁾, 杉崎祐一, 大秋美治²⁾, 藤原ゆみ¹⁾, 藤原宗彦³⁾, 横山宗伯⁴⁾, 海津聖彦³⁾, 前田美穂⁴⁾, 福永慶隆³⁾, 川本雅司⁵⁾, 内藤善哉¹⁾(¹⁾日本医科大学病理学第2, ²⁾同千葉北総病院病理部, ³⁾同小児科学, ⁴⁾東京警察病

- 院病理部, ⁵⁾日本医科大学病理学第1): 新生児に発生した Langerhans cell histiocytosis (LCH) の一剖検例. 第95回日本病理学会総会, 2006. 5.
- 17) 葉山綾子, 佐竹あかね, 土屋眞一, 内藤善哉, 横山宗伯, 田村浩一, 杉崎祐一: 乳腺細胞診報告様式の検討(1): 検体不適正について. 第47回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2006. 6.
- 18) 渡會泰彦, 土屋眞一, 横山宗伯, 田村浩一, 内藤善哉, 杉崎祐一: 乳腺細胞診報告様式(2): 「悪性の疑い」非浸潤性乳管癌の検討. 第47回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2006. 6.
- 19) 村瀬幸宏, 川本雅司, 清水一雄¹⁾, 田村浩一, 土屋眞一, 杉崎祐一(¹⁾外科学第2): 著明な乳頭状構造を示した腺腫様甲状腺腫の1例. 第47回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2006. 6.
- 20) 貴原正明¹⁾, 伊藤信夫²⁾, 西尾昌晃¹⁾, 北原新一¹⁾, 金井信一郎²⁾, 新宮聖士³⁾, 千賀 脩³⁾, 土屋眞一, 北村隆司⁴⁾, 光谷俊幸⁴⁾(¹⁾飯田市立病院臨床検査科, ²⁾同臨床病理科, ³⁾同外科, ⁴⁾昭和大学藤が丘病院病理部): 甲状腺CASTLE (Cartinoma showing thymus-like differentiation) の1例. 第47回日本臨床細胞学会総会(春期大会), 2006. 6.
- 21) 益田幸成¹⁾, 清水 章¹⁾, 石崎正通¹⁾, 杉崎祐一(¹⁾病理学第1): 腎内リンパ流および間質圧変化のメサンギウム流路に及ぼす影響. 第49回日本腎臓学会学術総会, 2006. 6.
- 22) 三井亜希子¹⁾, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 藤田恵美子¹⁾, 高野秀樹¹⁾, 石崎正通¹⁾, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗²⁾, 杉崎祐一(¹⁾病理学第1, ²⁾内科学第2): 管内増殖性病変と糸球体内皮細胞傷害(CD34免疫染色を用いた検討). 第49回日本腎臓学会学術総会, 2006. 6.
- 23) 藤田恵美子¹⁾, 清水 章¹⁾, 益田幸成¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 高野秀樹¹⁾, 石崎正通¹⁾, 飯野靖彦²⁾, 片山泰朗²⁾, 杉崎祐一(¹⁾病理学第1, ²⁾内科学第2): 管外増殖性病変における糸球体内皮細胞傷害(CD34免疫染色を用いた検討). 第49回日本腎臓学会学術総会, 2006. 6.
- 24) 藤田恵美子¹⁾, 清水 章¹⁾, 三井亜希子¹⁾, 高野秀樹¹⁾, 藤田有子²⁾, 金子朋広²⁾, 飯野靖彦²⁾, 益田幸成¹⁾, 石崎正通¹⁾, 福田 悠¹⁾, 杉崎祐一(¹⁾病理学第1, ²⁾内科学第2): 腎機能低下を認めた尿細管性アシドーシスの1例. 第95回病理学会総会, 2006. 6.
- 25) 岩崎玲子¹⁾, 土屋眞一, 古川清憲¹⁾, 飯田信也¹⁾, 古川恵子¹⁾, 野口智子¹⁾, 樋口勝美²⁾, 田尻 孝¹⁾(¹⁾日本医科大学外科学第1, ²⁾東京白十字病院): 乳腺穿刺吸引細胞診の“検体不適正率”減少の工夫とその解析. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 26) 唐木芳昭¹⁾, 高田全希¹⁾, 大西雄太郎¹⁾, 土屋眞一(¹⁾千曲中央病院外科): 両側乳癌の検討. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 27) 樋口勝美¹⁾, 古川清憲¹⁾, 飯田信也¹⁾, 古川恵子¹⁾, 岩崎玲子¹⁾, 野口智子¹⁾, 土屋眞一, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 当科における色素法センチネルリンパ節生検の成績. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 28) 草間 律¹⁾, 伊藤勅子¹⁾, 高山文吉²⁾, 土屋眞一(¹⁾北信総合病院外科, ²⁾安曇総合病院放射線科): 線維腺腫のMRI診断: 乳腺症型線維腺腫を中心に. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 29) 鈴木一成¹⁾, 堀田正啓¹⁾, 松村典昭¹⁾, 鈴木達也¹⁾, 中野博司¹⁾, 大庭建三¹⁾, 永山 寛¹⁾, 片山泰朗¹⁾, 田村浩一, 杉崎祐一, 横尾英明(¹⁾内科学第2): プリオン蛋白遺伝子codon180の点変異(V180I)とcodon129の正常多型を認めたCreutzfeldt-Jacob病(CJD)の1例. 第84回関東神経病理懇話会, 2006. 7.
- 30) 岩崎玲子¹⁾, 土屋眞一(¹⁾外科学第1): 乳腺腺氏吸引細胞診の“検体不適正率”減少の工夫とその解析. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 31) 唐木芳昭¹⁾, 土屋眞一(¹⁾千曲中央病院外科): 両側乳癌の検討. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 32) 樋口勝美¹⁾, 土屋眞一(¹⁾東京白十字病院外科): 両側乳癌の検討. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 33) 草間 律¹⁾, 土屋眞一(¹⁾北信総合病院外科): 線維腺腫のMRI像: 乳腺型線維腺腫を中心に. 第14回日本乳癌学会学術総会, 2006. 7.
- 34) 高山文吉¹⁾, 土屋眞一(¹⁾安曇総合病院外科): category3の石灰化に対するMRMの有用性の検討. 第14回日

本乳癌学会学術総会，2006．7．

- 35) 野口智子¹⁾，土屋眞一⁽¹⁾ 外科学第1)：MDCTによる乳癌の拡がり診断と病理組織との対比 有用性と今後の展望．第14回日本乳癌学会学術総会，2006．7．
- 36) 山田理恵子¹⁾，土屋眞一⁽¹⁾ 東京女子医科大学東医療センター検査科)：乳癌の術式決定に対するMDCTの斜冠状断MPR像の有用性に関する研究．第14回日本乳癌学会学術総会，2006．7．
- 37) 佐藤 茂¹⁾，柳原 剛²⁾，安達彰子¹⁾，佐佐木喜広¹⁾，杉崎祐一⁽¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設，²⁾ 付属病院小児科)：タコ足細胞に出現するI型 autophagy は予後不良の指標となりえるか．第38回日本臨床分子形態学会，2006．9．
- 38) 劉 愛民¹⁾，前田昭太郎²⁾，細根 勝²⁾，片山博徳²⁾，東 敬子²⁾，内藤善哉³⁾，杉崎祐一⁽¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設，²⁾ 多摩永山病院病理部，³⁾ 病理学第2)：電顕検索の併用が中皮腫の確定診断に有用であった4症例．第38回日本臨床分子形態学会，2006．9．
- 39) 佐佐木喜広¹⁾，佐藤 茂¹⁾，野呂瀬嘉彦²⁾，安達彰子¹⁾，杉崎祐一⁽¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設，²⁾ 微生物学・免疫学)：サイトスピン法による微量遊離細胞の電顕観察．第38回日本臨床分子形態学会，2006．9．
- 40) 土屋眞一：nyuusennbyouri 診断の見方・考え方．東北信乳腺カンファランス，2006．10．
- 41) 上田佳恵¹⁾，木嶋祥一郎¹⁾，藤田恵美子¹⁾，三井亜希子¹⁾，金子朋広¹⁾，内海甲一¹⁾，清水 章²⁾，杉崎祐一，飯野靖彦¹⁾，片山泰朗¹⁾(¹⁾ 内科学第1，²⁾ 病理学第1)：心移植後に慢性腎臓病を合併した1例．第36回日本腎臓学会東部学術大会，2006．11．
- 42) 藤田恵美子¹⁾，清水 章¹⁾，三井亜希子¹⁾，高野秀樹¹⁾，鎌田有子²⁾，金子朋広²⁾，飯野靖彦²⁾，益田幸成¹⁾，石崎正通¹⁾，杉崎祐一⁽¹⁾ 病理学第1，²⁾ 内科学第2)：末期腎不全に至った低カリウム性遠位尿細管性アシドーシスの1例．第36回日本腎臓学会東部学術大会，2006．11．
- 43) 鎌田有子¹⁾，金子朋広¹⁾，内海甲一¹⁾，高田大輔¹⁾，木嶋祥一郎¹⁾，上田佳恵¹⁾，藤田恵美子²⁾，三井亜希子²⁾，清水 章²⁾，杉崎祐一，葉山修陽¹⁾，飯野靖彦¹⁾，片山泰朗¹⁾(¹⁾ 内科学第2，²⁾ 病理学第1)：自己免疫性膵炎治療後に発症した尿細管間質性腎炎の1例．第36回日本腎臓学会東部学術大会，2006．11．
- 44) 高野秀樹¹⁾，清水 章¹⁾，益田幸成¹⁾，藤田恵美子¹⁾，三井亜希子¹⁾，石崎正通¹⁾，飯野靖彦²⁾，片山泰朗²⁾，杉崎祐一⁽¹⁾ 病理学第1，²⁾ 内科学第2)：IgA腎症における糸球体内皮細胞傷害(CD34免疫染色を用いた検討)．第49回日本腎臓学会学術総会，2006．11．
- 45) 横澤裕美¹⁾，田村浩一，浅川一枝，並松茂樹，塚田克也，杉崎祐一⁽¹⁾ 日本医科大学学生)：子宮頸部CIN病変におけるD2-40発現の検討．第96回日本病理学会総会，2007．3．
- 46) 水谷康彦¹⁾，田村浩一，秋元直彦¹⁾，富樫由美子²⁾，浅川一枝，並松茂樹，杉崎祐一⁽¹⁾ 日本医科大学学生，²⁾ 同病理学第1)：各種心臓弁膜疾患における心臓弁膜内リンパ管の動向．第96回日本病理学会総会，2007．3．
- 47) 土屋眞一：非浸潤性乳管癌の超音波診断読影方法のコツ．第10回日本産婦人科乳癌学会，2007．3．
- 48) 高野秀樹¹⁾，清水 章¹⁾，益田幸成¹⁾，三井亜希子¹⁾，藤田恵美子¹⁾，飯野靖彦²⁾，片山泰朗²⁾，石崎正通¹⁾，杉崎祐一，福田 悠¹⁾(¹⁾ 病理学第1，²⁾ 内科学第2)：糸球体毛細血管網傷害からみたIgA腎症．第96回日本病理学会総会，2007．3．
- 49) 三井亜希子¹⁾，清水 章¹⁾，益田幸成¹⁾，藤田恵美子¹⁾，高野秀樹¹⁾，石崎正通¹⁾，飯野靖彦²⁾，片山泰朗²⁾，杉崎祐一，福田 悠¹⁾(¹⁾ 病理学第1，²⁾ 内科学第2)：管内増殖性病変における糸球体内皮細胞傷害の検討．第96回日本病理学会総会，2007．3．
- 50) 藤田恵美子¹⁾，清水 章¹⁾，益田幸成¹⁾，三井亜希子¹⁾，高野秀樹¹⁾，石崎正通¹⁾，飯野靖彦²⁾，片山泰朗²⁾，杉崎祐一⁽¹⁾ 病理学第1，²⁾ 内科学第2)：管外増殖性腎炎の壊死性病変の形成や糸球体硬化の進展と糸球体毛細血管網傷害．第96回日本病理学会総会，2007．3．

(9) 研究会：

- 1) 草間 律¹⁾，高山文吉²⁾，土屋眞一⁽¹⁾ 北信総合病院外科，²⁾ 安曇総合病院放射線科)：乳腺MRIにおける粘液

癌の組織型推定：MRIと組織像を対比した検討から．第15回日本乳癌画像研究会，2006．2．

[付属病院中央検査部]

研究概要

年々厳しくなる医療経済において，検査の設備投資はより困難な状況になりつつある．その状況下の中で，当中央検査部は臨床サイドのニーズを的確に捉えながら，診療や治療に必要な不可欠な検査情報を効率よく正確かつ迅速に提供する事を心がけるとともに検査を通じて患者様に貢献できるよう常に努力している．その一方では日々進歩している臨床検査分野において，最新の知識や技術を吸収すべく多方面にわたりたえず取り組み，日常の検査業務に多くの成果を還元している．今年度における各分野の主な取り組み内容は下記のとおりである．

1) 輸血副作用の報告状況 2) 尿検査機器の性能評価や異常発色の解析 3) 脂質抗体試薬とガラス板法の不一致解析やHIV抗原抗体同時測定の有用性 4) 関節リウマチにおけるMMP-3測定の有用性 5) 血糖測定におけるSMBG機器とPOCT機器の検討やLabospect008による梅毒の測定評価 6) 分析機器の静電容量型センサーと流路系の関連性 7) C. dubliniensis分離状況やMGITによるNocardia属とTsukamurella属の鑑別法 8) 急性期患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白値と骨格筋傷害の関連性

研究業績

論文

(1) 研究：

1) 柴田泰史，久志本成樹¹⁾，飯野幸永，山本保博¹⁾，里村克章²⁾(¹⁾救急医学，²⁾内科学第1)：急性期患者における血清心臓由来脂肪酸結合蛋白値と骨格筋傷害の関連性について．医学検査 2006；55(9)：998-1002．

(2) 臨床医からの質問に答える：

1) 柴田泰史，久志本成樹¹⁾(¹⁾救急医学)：重症感染症に対してステロイドを投与した場合，炎症マーカーは何がよいのですか？．検査と技術 2006；34(8)：756-759．

学会発表

(1) パネルディスカッション：

1) 亀山澄子，小川早恵子，植田貴子，福田高久，飯野幸永，田近賢二¹⁾，里村克章²⁾(¹⁾付属病院輸血部，²⁾内科学第1)：輸血部に報告された輸血副作用の状況について．第74回日本医科大学医学学会，2006．9．

2) 久志本成樹¹⁾，柴田泰史，小井土雄一¹⁾，川井 真¹⁾，横田裕行¹⁾，山本保博¹⁾(¹⁾救急医学)：ステロイド投与症例における細菌感染重症度診断の指標としてのプロカルシトニンの有用性．第74回日本医科大学医学学会，2006．9．

3) 三橋 太，小林紘士，高木 豊，飯野幸永，里村克章¹⁾(¹⁾内科学第1)：当施設における尿定性検査異常発色の出現率とその解析．第74回日本医科大学医学学会，2006．9．

4) 小相澤美香，橋本政子，金子幸江，南 良子，飯野幸永，里村克章¹⁾(¹⁾内科学第1)：脂質抗体測定試薬「メディエースRPR」とガラス板法の不一致解析．第74回日本医科大学医学学会，2006．9．

5) 小林紘士，三橋 太，高木 豊，飯野幸永，里村克章¹⁾(¹⁾内科学第1)：全自動尿中有形成分分析装置の比較検討．第74回日本医科大学医学学会，2006．9．

6) 堤 章江，橋本政子，式田竜司，田島克美，飯野幸永，里村克章¹⁾(¹⁾内科学第1)：FEIA法を原理とするBNP測定の基礎的検討．第74回日本医科大学医学学会，2006．9．

7) 高木 豊，小林紘士，三橋 太，飯野幸永，里村克章¹⁾(¹⁾内科学第1)：分析機器の液面センサーにおける静電容量と流路系の関連性．第74回日本医科大学医学学会，2006．9．

- 8) 渡部明子, 園部一成, 青砥泰二, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): 当院にける *C. dubliniensis* の分離状況の検討. 第8回真菌症フォーラム, 2007. 2.
- (2) 一般講演:
- 1) 園部一成, 飯野幸永: MGIT での検出による *Nocardia* 属と *Tsukamurella* 属の鑑別法. 第55回日本医学検査学会, 2006. 5.
 - 2) 柴田泰史, 飯野幸永, 久志本成樹¹⁾, 山本保博¹⁾(¹救急医学): 重症感染症における血清トロンボポエチン値と炎症性メディエーターとの関連性について. 第55回日本医学検査学会, 2006. 5.
 - 3) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永, 久志本成樹¹⁾, 山本保博¹⁾, 里村克章²⁾(¹救急医学, ²⁾内科学第1): 脳血管障害患者におけるカーディアックリーダーシステムを用いたDダイマー測定の有用性について. 第46回日本臨床化学学会年次学術集会, 2006. 9.
 - 4) 影山憲貴, 小林紘士, 鳴海武長, 柴田泰史, 三橋 太, 高木 豊, 中村祐三, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): ラッセクス免疫比濁法による MMP-3 の基礎的評価 関節リウマチにおける MMP-3 測定の有用性. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.
 - 5) 橋本政子, 堤 章江, 小相澤美香, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): アキシム HIV Ag/Ab コンボアッセイ・ダイナパック使用の意義 HIV 抗原抗体同時測定の有用性を示した2例. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.
 - 6) 三橋 太, 小林紘士, 影山憲貴, 高木 豊, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): US-3100R における異常発色出現率とその解析. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.
 - 7) 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 影山憲貴, 鳴海武長, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): カーディアックリーダーシステムにおけるDダイマー測定の有用性と問題点について. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.
 - 8) 小林紘士, 影山憲貴, 三橋 太, 高木 豊, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): 全自動尿中有形成分分析装置 AUTION IQ の評価. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.
 - 9) 日ノ澤進一郎, 鳴海武長, 柴田泰史, 橋本政子, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): Labospect008 による「アキュラスオートTP抗体(梅毒)」の評価. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.
 - 10) 鳴海武長, 影山憲貴, 柴田泰史, 日ノ澤進一郎, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): 血糖測定における SMBG 機器と POCT 機器に関する検討. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.
 - 11) 高木 豊, 影山憲貴, 三橋 太, 小林紘士, 飯野幸永, 里村克章¹⁾(¹内科学第1): 自動分析機器における静電容量型液面センサーの電圧解析による流路系プロセスの把握. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.
 - 12) 久志本成樹¹⁾, 柴田泰史, 横田裕行¹⁾, 小井土雄一¹⁾, 山本保博¹⁾(¹救急医学): 重症敗血症症例における血漿BNPレベルの変動には全身性炎症反応が関与する. 第34回日本集中治療医学会学術集会, 2007. 3.

[付属病院薬剤部]

研究概要

平成18年度の研究業績は、学会発表12題、論文10題、著書3冊であった。研究の概要はがん専門薬剤師の育成に関わる教育的な内容のものが多く、次いで緩和医療、褥瘡、中毒、などである。現在、当院はがん専門薬剤師の教育指定病院であり、関東一円より数多くの研修生が訪れ学んでいる。このため、18年度は特に今までわれわれが持っていたスキルやノウハウを論文などの形で数多く発表したことで日医大を全国に知らしめることができ、日医大がこの分野でリーダー的な存在であることを実証することができたと思える。

また、18年度では褥瘡における実験的なアプローチにも着手し、新たに考案した実験的褥瘡モデルを用いた治療効果比較も行い、この分野におけるトピックス的話題をもたせられた。われわれの研究は即臨床に結びつくものが多く、その影響力は私立医大の中では群を抜いていると自負する。今後もこのような形で積極的に活動し、臨床にそして教

育に貢献していきたいと考える。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kawakami Y¹⁾, Matsumoto Y²⁾, Hirata K, Hashimoto K¹⁾, Kuwabara K¹⁾, Fujita T¹⁾, Fujino O¹⁾ (¹⁾ Department of Pediatrics, ²⁾ Department of Clinical Pharmacokinetics, College of Pharmacy, Nihon University): Treatment with flunitrazepam of continuous spikes and waves during slow wave sleep (CSWS) in children . Seizure 2007 ; 16 (2): 190-192 .
- 2) 伊勢雄也, 菅谷量俊, 高田未来, 内田 亨, 大下順子, 川田桂子, 中嶋基広, 片山志郎, 菊池有道, 小森邦子¹⁾, 千田英理子¹⁾, 長谷川幸子²⁾ (¹⁾ 付属病院看護部, ²⁾ 同安全管理部): 日本医科大学付属病院における持参薬チェック業務並びに医療費の節減効果 . 日病薬誌 2006 ; 42 : 667-669 .

(2) 綜説：

- 1) 伊勢雄也：当院における持参薬管理業務 . 薬事新報 2006 ; (2413): 300-303 .
- 2) 平田清貴, 菊池有道：救急医療への薬剤師の関与：救急・集中治療領域における薬剤師業務 . 薬事新報 2006 ; (2453): 1336-1341 .

著書

- 1) 片山志郎：〔共著〕外来がん化学療法と期待される薬剤師 . がん専門薬剤師 vol. 1, 2006 ; pp2-3, じほう .
- 2) 片山志郎：〔自著〕がん専門薬剤師の育成とその役割 . Evidence Oriented Chemotherapy No. 20, 2006 ; トーレラザールコミュニケーションズ .
- 3) 片山志郎：シリーズ がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割：がん専門薬剤師の育成 vol. 46 No. 2 . 医薬の門, 2006 ; pp91-94, 医薬の門社 .
- 4) 片山志郎：シリーズ がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割：がん専門薬剤師に必要な乳がん薬物療法の知識とガイドライン (1) vol. 46 No. 3 . 医薬の門, 2006 ; pp168-173, 医薬の門社 .
- 5) 片山志郎：シリーズ がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割：がん専門薬剤師に必要な乳がん薬物療法の知識とガイドライン (2) vol. 46 No. 4 . 医薬の門, 2006 ; pp289-295, 医薬の門社 .
- 6) 片山志郎：特集 生活習慣病と海外旅行「がん疼痛緩和治療患者へのアドバイス」 No. 682 . 実験と治療, 2006 ; pp141-146 .
- 7) 片山志郎：特集 チーム医療で進める癌治療 がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割 VOL. 33 . 癌と化学療法, 2006 ; pp1575-1578, 癌と化学療法社 .
- 8) 片山志郎：シリーズ がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割：がん専門薬剤師に必要な悪性リンパ腫薬物療法の知識 vol. 46 No. 5 . 医薬の門, 2006 ; pp390-395, 医薬の門社 .
- 9) 宮田広樹：シリーズ がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割 外来がん化学療法と専任スタッフとしての薬剤師 vol. 46 No. 2 . 医薬の門, 2006 ; pp95-97, 医薬の門社 .
- 10) 宮田広樹：シリーズ がん化学療法における「がん専門薬剤師」の役割 がん専門薬剤師に必要な大腸がん (結腸がん) 化学療法の知識 vol. 46 No. 3 . 医薬の門, 2006 ; pp175-179, 医薬の門社 .
- 11) 平田清貴, 宮内雅人, 望月 徹：救急治療・薬剤ハンドブック第三版 (平田清貴, 山本保博, 黒川 顕, 菊池有道), 2007 ; じほう .
- 12) 平田清貴, 相川直樹ほか：改訂第七版 救命救命士標準テキスト, 2007 ; ヘルス出版 .

学会発表

(1) セミナー :

- 1) 伊勢雄也 : 医療用麻薬の安全性とその使い方 最新の基礎研究情報を evidence として . 第 40 回日本ペインクリニック学会 , 2006 . 7 .

(2) 一般講演 :

- 1) 宮田広樹 , 西澤光代 , 飯田信也¹⁾ , 古川恵子¹⁾ , 腹子あきこ²⁾ , 若林恵子²⁾ , 古賀美帆²⁾ , 片山志郎 , 菊池有道 , 古川清憲¹⁾ , 田尻 孝¹⁾ (¹⁾ 外科学第 1 , ²⁾ 看護部) : Pamidronate 短時間投与の副作用評価 . 第 14 回日本乳癌学会学術総会 , 2006 . 7 .
- 2) 宮内雅人¹⁾ , 平田清貴 , 横田裕行¹⁾ , 山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院高度救命救急センター) : 当院における医薬品大量服用に対する胃内視鏡を利用した胃洗浄の試み . 第 28 回日本中毒学会総会 , 2006 . 7 .
- 3) 小原綾子¹⁾ , 伊勢雄也 , 片山志郎 , 菊池有道 , 佐伯 剛¹⁾ , 高橋瑞穂¹⁾ , 定本清美¹⁾ (¹⁾ 東邦大学) : 入院患者への服薬介助に関する調査研究 . 第 16 回日本医療薬学会年会 , 2006 . 9 .
- 4) 宮田広樹 , 片山志郎 , 西澤光代 , 本城和義 , 輪湖哲也 , 腹子あきこ¹⁾ , 若林恵子¹⁾ , 古賀美帆¹⁾ , 菊池有道 , 弦間昭彦²⁾ (¹⁾ 看護部 , ²⁾ 呼吸器内科) : オーダリングシステムを利用した外来がん化学療法の安全性確保とその評価 . 第 16 回日本医療薬学会年会 , 2006 . 9 .
- 5) 加藤あゆみ , 飯田信也¹⁾ , 片山志郎 , 宮田広樹 , 渡邊暁洋 , 菊池有道 (¹⁾ 外科学第 1) : 神経障害性疼痛に対する薬剤師の処方介入 : リドカイン投与による著効例 . 第 16 回日本医療薬学会年会 , 2006 . 9 .
- 6) 野村久祥¹⁾ , 谷古宇秀²⁾ , 井上忠夫³⁾ , 木津純子⁴⁾ , 片山志郎 , 宮田広樹 , 清水久範⁵⁾ , 渡辺和美⁶⁾ , 長谷部忍⁷⁾ , 長谷川久巳⁸⁾ , 金井久子⁹⁾ , 中堂園百恵¹⁰⁾ : がん治療における健康食品の取り扱いアンケート結果報告 . 第 16 回日本医療薬学会年会 , 2006 . 9 .
- 7) 島崎麻智子 , 伊勢雄也 , 下川陽子¹⁾ , 近藤誠一¹⁾ , 瀬尾 誠 , 小坂好男 , 片山志郎 , 菊池有道 (¹⁾ 城西大学薬学部) : 褥瘡・皮膚潰瘍治療剤フィブラストスプレーの治療効果に影響する因子の解析 . 第 16 回日本医療薬学会年会 , 2006 . 9 .
- 8) 青山隆彦¹⁾ , 平田清貴 , 松本宜明¹⁾ , 清水万紀子²⁾ , 井原智子²⁾ , 菊池有道 , 山本保博³⁾ (¹⁾ 日本大学薬学部臨床薬剤学研究室 , ²⁾ 昭和薬科大学薬物動態学研究室 , ³⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター) : 低体温療法施行患者におけるミダゾラムの検証 . 第 21 回日本薬物動態学会年会 , 2006 . 11 .
- 9) 平田清貴 , 平田理恵¹⁾ , 青山隆彦³⁾ , 小川太志²⁾ , 松本宜明³⁾ , 井原智子¹⁾ , 山 浩史¹⁾ , 菊池有道 , 山本保博²⁾ (¹⁾ 昭和薬科大学薬物動態学研究室 , ²⁾ 日本医科大学付属病院高度救命救急センター , ³⁾ 日本大学薬学部臨床薬剤学研究室) : ミカファンギンの体内動態に与える CHDF の影響 . 第 27 回日本臨床薬理学会 , 2006 . 11 .
- 10) 坂本和嘉子¹⁾ , 平田清貴 , 宮内雅人¹⁾ , 小井土雄一¹⁾ , 横田裕行¹⁾ , 川井 真¹⁾ , 山本保博¹⁾ (¹⁾ 付属病院請高度救命救急センター) : 著名な心電図異常をきたした三環系抗うつ薬による中毒の 1 例 . 第 21 回日本中毒学会東日本地方会 , 2007 . 1 .
- 11) 島崎麻智子 , 瀬尾 誠 , 小坂好男 , 片山志郎 , 菊池有道 : 実験的熱傷潰瘍モデルを用いた治療薬塗布量による治療効果比較 . 第 127 年会日本薬学会 , 2007 . 3 .

[付属病院生理機能センター]

研究概要

現在の医療形態は、医師とパラメディカル・スタッフから成り立っている。とりわけ生理機能検査は医師と検査技師との関係が密でなければならず、院内における位置付けは非常に重要なものとなっている。検査技師個々の質が検査データに反映されるので、学会発表や各種講習会の参加などで専門知識と技術を日々研鑽しチーム医療の一員として貢献している。

今年度の主な業績は、耳鼻咽喉科領域では両側前庭機能高度低下を示した非常にまれな症例について、カロリックテストをターゲットにして回復過程を追跡した。心肺機能情報モニタリング領域では睡眠時無呼吸症候群（Sleep Apnea Syndrome：SAS）の標準的評価法である終夜睡眠ポリグラフィー（Polysomnography：PSG）に代わるものとして携帯型呼吸モニターの問題点と可能性について検討した。心エコーでは冠攣縮性狭心症や関節リウマチ患者に対するドブタミン負荷の有用性を検討した。また、局所心筋strain波形から収縮早期の心筋伸展（L）と収縮後期から収縮期後の心筋収縮（S）の比（L/Sratio）を求め、心筋虚血とこの比の推移を観察し、その意義を検討した。心臓リハビリテーション領域では、運動負荷中のパラメーターとして非侵襲的な経皮的炭酸ガス分圧（PtcCO₂）測定装置に注目し、運動負荷時にPtCO₂が動脈血炭酸ガス分圧（PaCO₂）の代用として利用可能か検討した。さらに軽症心筋梗塞患者の抑うつが自律神経機能および酸化ストレスに及ぼす影響など、ユニークな着眼点で検討を行い、本邦をリードしている。

このように前年度から継続して行われているものからアカデミックなものまで幅広く行われ、今後も新たな展開が期待される。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Ohno T¹⁾, Honma H, Takayama M¹⁾, Munakata K¹⁾, Takano T¹⁾, Matsuzaki T (¹⁾1st Department of Internal Medicine): Utility of combined assessment of coronary flow velocity and myocardial perfusion during low-dose dobutamine stress echocardiography in the detection of left anterior coronary artery disease. J Echocardiogr 2006 ; 69-77 .

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Fujimoto H¹⁾, Ohno T¹⁾, Higashi H¹⁾, Matsuzaki T, Honma H, Takano T¹⁾(¹⁾1st Department of Internal Medicine): Developing Atrial Fibrillation during Dobutamine Stress Echocardiography and Maintaining Sinus Rhythm. World Federation for Ultrasound in Medicine and Biology (Seoul, Korea), 2006 . 5 .
- 2) 藤本啓志¹⁾, 大野忠明¹⁾, 川中秀和¹⁾, 東 春香¹⁾, 安武ひろ子¹⁾, 伊藤恵子¹⁾, 松崎つや子, 本間 博, 野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): 冠攣縮性狭心症に対するドブタミン負荷心エコーの検討. 第17回日本心エコー図学会学術集会, 2006 . 4 .
- 3) 安武ひろ子¹⁾, 大野忠明¹⁾, 藤本啓志¹⁾, 東 春香¹⁾, 松崎つや子, 伊藤恵子¹⁾, 本間 博, 野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): 関節リウマチ患者におけるドブタミン負荷心臓超音波検査の有用性. 第79回日本超音波医学会学術集会, 2006 . 5 .
- 4) 菅谷寿理, 福間長知¹⁾, 本間 博, 齋藤公一, 加藤貴雄¹⁾, 野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): 睡眠時無呼吸症候群診療における携帯型呼吸モニターの問題点と可能性について. 第26回ホルター心電図研究会, 2006 . 6 .
- 5) 加藤政利, 福間長智¹⁾, 菅谷寿理, 和泉有妃子, 竹田裕子, 青木 亘, 吉岡英美, 會田智弘, 齋藤公一, 加藤和代¹⁾, 土田貴也¹⁾, 馬淵浩輔¹⁾, 本間 博, 野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): 運動負荷中の経皮的炭酸ガス分圧の意義. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
- 6) 松崎つや子, 関野玲子, 見友友子, 田尾清一, 水瀬 学, 中村利枝, 齋藤公一, 本間 博, 藤本啓志¹⁾, 東春香¹⁾, 大野忠明¹⁾, 野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): ドブタミン負荷心エコーによる心筋虚血誘発時の収縮期strainパターン, 特に収縮早期の心筋進展の意義. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
- 7) 平野美子, 菅谷寿理, 福間長知¹⁾, 加藤政利, 佐々木裕古, 宗方祐美子, 佐藤淳子, 齋藤公一, 牛島明子¹⁾, 真鍋宏美¹⁾, 加藤祐子¹⁾, 愛須紀子¹⁾, 本間 博, 野照夫¹⁾(¹⁾内科学第1): 日本医科大学における心筋梗塞

患者に対する心臓リハビリテーション．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．

- 8) 宗方祐美子，中村利枝，青木 亘，菅谷寿理，齋藤公一，本間 博，今野俊介¹⁾，元文芳和¹⁾，宮本雅史¹⁾ (¹⁾整形外科学): 脊椎・脊髄手術における高電圧経頭蓋刺激による運動誘発電位モニターについて刺激電極の検討．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 9) 加藤政利，福間長知¹⁾，菅谷寿理，牛島明子¹⁾，真鍋宏美¹⁾，加藤裕子¹⁾，愛須紀子¹⁾，齋藤公一，本間 博，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): 運動負荷中に測定された経皮炭酸ガス分圧変動の意義．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 10) 菅谷寿理，福間長知¹⁾，加藤政利，加藤和代¹⁾，土田貴也¹⁾，馬淵浩輔¹⁾，齋藤公一，本間 博，岸田 浩¹⁾，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): 軽症心筋梗塞患者における抑うつが自律神経機能および酸化ストレスに及ぼす影響．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 11) 松崎つや子，本間 博，藤本啓志¹⁾，東 春香¹⁾，安武ひろ子¹⁾，横島友子¹⁾，伊藤恵子¹⁾，大野忠明¹⁾，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): ドブタミン負荷による心筋虚血誘発時の収縮期 stain パターン，特に収縮早期の心筋伸展の意義．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 12) 大野忠明¹⁾，藤本啓志¹⁾，東 春香¹⁾，安武ひろ子¹⁾，横島友子¹⁾，福間祐美子¹⁾，伊藤恵子¹⁾，松崎つや子，本間 博，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): ドブタミン心エコー中に出現する心房細動に対するアンジオテンシン II 受容体拮抗薬の検討．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 13) 野原秀明，加藤政利，緒方たつ子，齋藤公一，本間 博，中澤裕子¹⁾，新藤 晋¹⁾，池園哲郎¹⁾，八木聡明¹⁾ (¹⁾耳鼻咽喉科学・頭頸部外科学): 両側前庭機能高度障害症例．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 14) 福間長知¹⁾，菅谷寿理，加藤和代¹⁾，牛島明子¹⁾，真鍋宏美¹⁾，加藤祐子¹⁾，愛須紀子¹⁾，土田貴也¹⁾，馬淵浩輔¹⁾，宮武佳子¹⁾，岸田 浩¹⁾，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): 心筋梗塞後の酸化ストレスが増大した状況におけるアスコルビン酸摂取とPentosidine増加の関係．第54回日本心臓病学会学術集会，2006．9．
- 15) 加藤政利，福間長知¹⁾，菅谷寿理，牛島明子¹⁾，加藤祐子¹⁾，愛須紀子¹⁾，齋藤公一，本間 博，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): 安静及び運動負荷時の過換気負荷に対する経皮炭酸ガス分圧の変化．第43回日本臨床生理学会，2006．11．
- 16) 菅谷寿理，福間長知¹⁾，加藤政利，真鍋宏美¹⁾，加藤和代¹⁾，土田貴也¹⁾，馬淵浩輔¹⁾，齋藤公一，本間 博，清野精彦¹⁾，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): 睡眠時無呼吸症候群における経皮炭酸ガス分圧測定の有用性．第43回日本臨床生理学会，2006．11．
- 17) 菅谷寿理，福間長知¹⁾，加藤政利，会田智弘，佐藤淳子，平野美子，齋藤公一，牛島明子¹⁾，加藤和代¹⁾，加藤祐子¹⁾，愛須紀子¹⁾，土田貴也¹⁾，本間 博，岸田 浩¹⁾，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): 軽症心筋梗塞例の抑うつと予後規定因子の関係．第20回日本冠疾患学会，2006．12．
- 18) 加藤政利，福間長知¹⁾，菅谷寿理，平野美子，牛島明子¹⁾，加藤祐子¹⁾，愛須紀子¹⁾，齋藤公一，本間 博，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): 運動負荷時と過換気負荷時における経皮的炭酸ガス分圧の意義．第71回日本循環器学会，2007．3．
- 19) 菅谷寿理，福間長知¹⁾，加藤政利，加藤和代¹⁾，土田貴也¹⁾，齋藤公一，本間 博，岸田 浩¹⁾，清野精彦¹⁾，野照夫¹⁾ (¹⁾内科学第1): 経皮炭酸ガス分圧連続測定による閉塞型睡眠時無呼吸発作の検出．第71回日本循環器学会，2007．3．

[付属病院看護部]

研究概要

2006年度付属病院看護部では，様々な看護領域から学会発表や論文・著書の執筆などが行われた．

- 1) 糖尿病看護領域では，一般看護師の糖尿病患者に対する認識と感情を明らかにした．また，認定看護師が心疾患

- を持つ糖尿病患者に対して血糖パターンマネジメントを助言することのメリットを明らかにし、国際学会で報告した。
- 2) 泌尿器科看護領域では、根治的前立腺全摘術後の尿失禁の影響について経時的に明らかにした。
- 3) 整形外科看護領域では、看護計画の開示や看護用具の開発について報告した。
- 4) 遺伝看護領域では、当院遺伝診療科における来談者や看護支援の特徴を明らかにした。また、日本遺伝看護学会を主宰し、シンポジストや事例などを報告した。
- 5) 救急救命領域では、当院の病院前除染の看護上の問題点や看護師の感染防止の認識に影響する要因について明らかにした。また、事例検討として慢性呼吸不全患者の呼吸困難に対するリラクゼーション方法の検討や熱傷患者創部汚染予防の検討、基礎的な研究として気管チューブの分泌物の下気道垂れ込み率の検討を報告した。
- 6) その他看護教育の領域から呼吸理学療法教育方法について報告した。

著書・論文として日本クリティカルケア看護学会誌に原著論文が2編、救急看護QUESTION BOXの分担執筆、看護技術、臨床看護、BRAIN NURSING、OPE nursingへの執筆を行った。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 伊藤憲明, 寺町優子¹⁾(¹⁾東京女子医科大学大学院看護学研究科クリティカルケア看護学): 急性憎悪の回復期にある慢性閉塞性肺疾患患者の全介助入浴に伴うpressure rate product及び呼吸機能の変化。日本クリティカルケア看護学会誌 2006 ; 2 (2): 60-70 .
- 2) 榊 由里: 救命救急センター入院患者の家族システムの健康に関する記述的研究。日本クリティカルケア看護学会誌 2006 ; 1 (3): 60-70 .

(2) 綜説：

- 1) 伊藤博希: PCPS (経皮的心肺補助循環法) と看護。看護技術 2006 ; 52 (6): 1-5 .
- 2) 穂山真理, 関根典子, 大西樹里: 検査 (検体の採取)(第1特集 再チェック! 基本手技20)。臨床看護 2006 ; 32 (7): 989-995 .
- 3) 木野毅彦: 東京DMATの現状と課題: 訓練と活動の実際。臨床看護 2006 ; 32 (11): 1953-1957 .
- 4) 倉藤晶子: 胸腔鏡下肺上葉切除術を受ける患者の呼吸合併症を予防するための看護(ケースで学ぶ手術患者のアセスメントとケア)。OPE nursing 2007 ; 22 (1): 28-37 .
- 5) 千葉弘子: 多尿と下垂体腫瘍術後(目のつけどころ・勤どころ症状・病態別の観察・アセスメントと看護診断)。BRAIN NURSING 2007 ; 23 (2): 40-43 .
- 6) 尾ヶ井一美, 堀内ひとみ: 脳梗塞(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 22-23 .
- 7) 大久保利恵: 心不全(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 24-25 .
- 8) 佐々木友子: 心臓病手術後(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 26-27 .
- 9) 宮脇里枝, 下村 梢: 肺炎(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 28-29 .
- 10) 岡村由美子: COPD(慢性閉塞性肺疾患)(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 30-31 .
- 11) 渡邊通枝: 急性肺障害(ALI)/急性呼吸窮迫症候群(ARDS)(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 32-33 .
- 12) 佐々真理子: 食道がん術後(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 34-35 .
- 13) 竹内幸子: 急性膵炎(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 36-37 .
- 14) 宮崎史江: 糖尿病性昏睡(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 38-39 .
- 15) 小松ひろみ, 佐藤トキ子, 早坂百合子: 甲状腺クリーゼ(患者の病態からバイタルサインを読む!)。看護技術 2007 ; 53 (3): 40-41 .

- 16) 井手口和代：多発外傷（患者の病態からバイタルサインを読む！）. 看護技術 2007；53（3）：42-43.
- 17) 瀧川真朱美：熱傷（患者の病態からバイタルサインを読む！）. 看護技術 2007；53（3）：44-45.
- 18) 西宮直美：妊娠高血圧症候群（PIH）（患者の病態からバイタルサインを読む！）. 看護技術 2007；53（3）：46-47.

著書

- 1) 早坂百合子：〔分担〕急変・救急時のフィジカルアセスメントにはどのような特性がありますか？. 救急看護 QUESTION BOX2 救急実践に生きるアセスメント（中村恵子・中村美鈴・渡辺淑子），2006；pp48-49，中山書店.
- 2) 早坂百合子：〔分担〕臨床的脳死状態の患者の家族に対してどのような家族が必要ですか？. 救急看護 QUESTION BOX7 救急患者・家族への倫理的・全人的ケア（中村恵子・片岡秋子・森田孝子），2007；pp64-65，中山書店.
- 3) 早坂百合子：〔分担〕救急患者の観察技術を磨くにはどのようなことに注意すればよいですか？. 救急看護 QUESTION BOX2 救急実践に生きるアセスメント（中村恵子・中村美鈴・渡辺淑子），2006；pp76-77，中山書店.

学会発表

（1）シンポジウム：

- 1) 尾ヶ井一美：一般病棟看護師の立場から（遺伝診療における関連職種との協働）. 第5回日本遺伝看護学会，2006.9.
- 2) 伊藤博希：救急看護・重症集中ケア認定看護師間のコラボレーションについて考える. 第57回日本救急医学会関東地方会，2007.2.

（2）一般講演：

- 1) 鈴木由美，渡邊 淳¹⁾，三宅秀彦¹⁾，伊藤 博²⁾，岡野喜史²⁾，島田 隆¹⁾（¹⁾日本医科大学付属病院遺伝診療科，²⁾東邦大学医療センター大森病院循環器センター内科）：無症候で見つかった多発性動脈瘤の遺伝カウンセリング. 第30回日本遺伝カウンセリング学会，2006.5.
- 2) 片岡 操，佐藤憲明，小森邦子，木野毅彦，瀬戸利昌，伊与恭子，伊藤博希，軽部 厚，渡邊通枝，虎岩祐子：看護師における呼吸理学療法の実践スキル習得とその評価 ベッドサイドティーチングを採用して. 第16回日本呼吸管理学会，2006.7.
- 3) 渡邊恭子，古山景子：糖尿病看護に関する卒後教育の学習経験が少ない看護師が抱く糖尿病患者に対する認識と感情. 第11回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，2006.9.
- 4) 森田智子，渡邊恭子，古山景子：セルフケア能力が著しく低下している30歳代透析患者とパートナーへの支援. 第11回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，2006.9.
- 5) 安部節美：根治的前立腺全摘術後の尿失禁による身体的・社会的・精神的影響の経時的変化. 第13回日本排尿機能学会，2006.9.
- 6) 藤田聖司，横山 香，吉田安代，野村沙希，渡邊真理子，丸山祥子：肩関節脱臼の看護計画の開示を試みての1考察. 第3回肩の運動機能研究会，2006.9.
- 7) 鈴木由美，渡辺裕子，千葉弘子，渡辺 淳¹⁾，浅野ありさ¹⁾，右田 真¹⁾，三宅秀彦¹⁾，島田 隆¹⁾（¹⁾付属病院遺伝診療科）：日本医科大学付属病院遺伝診療科における来談者の特性と看護支援への課題. 第5回日本遺伝看護学会，2006.9.
- 8) 高橋美穂子¹⁾，田中浩子¹⁾，遠藤明日美¹⁾，中島瑞恵¹⁾，島 義雄¹⁾，原田知子¹⁾，安斉由衣，鈴木由美，右田真²⁾（¹⁾葛飾赤十字産院，²⁾日本医科大学付属病院遺伝診療科）：筋緊張性ジストロフィー症の家族とのかかわ

り。第5回日本遺伝看護学会，2006．9．

9) 山田亜矢子，瀧川真朱美，鈴木秀樹，背戸陽子，田中 茜，菊間好美，西野明子，谷保久美子，金濱英介，佐藤憲明，早坂百合子：広範囲熱傷患者の排便管理に専用シリコンチューブを用いた創部汚染予防を試みた経験．第8回日本救急看護学会学術集会，2006．10．

10) 小島一郎，木野毅彦，萩原潤子，武正泰子，早坂百合子：当院における病院前除染訓練の看護上の問題点．第8回日本救急看護学会学術集会，2006．10．

11) 中川仁美，竹原典子，横田亜希子，斉藤貴司，彌永美樹，白川睦美，奥山広也，森山郁子，末永泰子，二村芽久美，佐藤憲明，早坂百合子：当高度救命救急センターで勤務する看護師の感染防止の認識に影響を及ぼす要因．第8回日本救急看護学会学術集会，2006．10．

12) 山 朋子，鈴木ちはる，下餅原幸子，門馬奈津美，樋口香澄，丸山祥子：股関節手術後の患者を対象にした車椅子乗車での内転防止枕を作成して．東京都看護協会看護研究学会，2006．11．

13) 森 力哉：慢性呼吸不全患者の呼吸困難に対する頸部温電法のリラクゼーション効果：ホットパックを用いたパニックコントロールの1事例検討．第57回日本救急医学会関東地方会，2007．2．

14) 佐山有香，高橋聡子，佐藤隆平，岩瀬加代子，北條真紀，伊藤博希，木野毅彦，佐藤憲明，早坂百合子：気管チューブとカフの形状の違いによる分泌物の下気道垂れ込み率の検討．第34回日本集中治療医学会学術集会，2007．3．

(3) ポスター：

1) Keiko F¹⁾，Kyoko W¹⁾，Shuji K²⁾，Nobuhiko F²⁾，Takuya O²⁾，Kotoko T²⁾，Masaaki M²⁾，Masao O²⁾ (¹⁾Nursing Department of Nippon Medical School Hospital，²⁾Internal Medicine of Nippon Medical School)：Benefit of blood glucose “ pattern management ” by certified expert nurse as advisory staff in the treatment of diabetic patients with cardiac complications．19th World Diabetes Congress，2006．12．

(4) 交流集会：

1) 古山景子，久保田睦子¹⁾，渡邊恭子，山地陽子²⁾，菅原和美³⁾，井上公子⁴⁾，馬場千恵子⁵⁾，瀬戸奈津子⁶⁾ (¹⁾北海道大学病院，²⁾東京厚生年金病院，³⁾川崎社会保険病院，⁴⁾医療法人西陣健康会堀川病院クリニックほりかわ，⁵⁾自治医科大学附属病院，⁶⁾日本看護協会)：「血糖パターンマネジメント」技術をマスターしよう！．第11回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，2006．9．

[付属病院放射線科技師室]

研究概要

放射線科技術部門は，診療用画像検査全般および放射線治療を扱う部門である．一般撮影，CT，RI，MRI，血管撮影および放射線治療部門に関する研究を日常的に行っている．

一般撮影部門では，今年度もデジタルマンモグラフィーの臨床評価，最適管電圧の検討を中心とした研究を行った．特に，異なる性状を想定した病変の検出能の差が撮像条件によりどのように変化するかを中心に検討を行った．

RI部門は，健診医療センターに設置されたPET装置を用いて，高感度検出器搭載型PETシステムにおける，高集積部からの散乱線による画質への影響について検討を行った．また，肥満患者の画質改善の検討を行った．

MRI部門は，前年に引き続き造影剤を用いない血管描出について見当を行い，今まで描出が難しかった鎖骨下動脈の描出に関してまとめた．昨年末に導入した3T-MRI装置を用いた頭部検査の有用性をまとめた．また，最近注目されている磁化率強調画像に関してシンポジウムで報告した．

放射線科技術部門は，診療用画像検査全般を扱う部門であり，それぞれの部門ごとに毎年の研究テーマを決め，「正確な画像診断」を行うことが可能となる「よりよい画像データ」を各診療科に提供できるように研究に取り組んでいる．

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 土橋俊男, 新田武史, 松村善雄: 3D-TOF の応用: 鎖骨下動脈の臨床応用. Rad Fan 2006 ; 4 (5): 31-33 .
- 2) 小林宏之, 村上隆介¹⁾, 黒田大介, 増山桂一, 土橋俊男, 汲田伸一郎¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科): マンモグラフィ6年の使用経験と今後の期待. INNERVISION 2007 ; 22 (2): 78-80 .
- 3) 土橋俊男, 松村善雄, 松本 剛, 新田武史: MRI 検査上級者への道 (頭部領域編): 専門病院の実際. Rad Fan 2007 ; 5 (4): 36-41 .

著書

- 1) 土橋俊男: [分担] II-10 MRA . 超実践マニュアル MRI (小倉明夫, 土橋俊男, 船橋正夫), 2006 ; pp289-319, 医療科学社 .

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 土橋俊男: MRI の脂肪抑制技術. 道南放射線画像技術フォーラム, 2006 . 11 .

(2) 教育講演:

- 1) 土橋俊男: MRI の基礎. 日本放射線技師会, 2006 . 10 .

(3) シンポジウム:

- 1) 土橋俊男: 3T を用いた頭部 MRI BOLD venography を中心に. Parallel Imaging Symposium Tokyo, 2007 . 3 .

(4) パネルディスカッション:

- 1) 小林宏之, 村上隆介¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾(¹⁾ 付属病院放射線科): Rh/Rh を用いたデジタルマンモグラフィの異なる病変検出の検証. 日本乳癌検診学会, 2006 . 11 .

(5) セミナー:

- 1) 土橋俊男: MRI の特徴と基本原理. 神奈川県中央技師会, 2006 . 6 .
- 2) 土橋俊男: MRI の基礎: 生涯学習セミナー MRI. 日本放射線技師会, 2006 . 8 .
- 3) 小林宏之: デジタルマンモグラフィシステムの基本的物理特性: マンモグラフィ・モニター診断セミナー. GE ソフトコピーリーディングセミナー, 2006 . 9 .
- 4) 土橋俊男: MRI 概論: MR seminar (MRI 装置の安全管理と画質評価のためのセミナー). 日本放射線技術学会, 2006 . 10 .
- 5) 土橋俊男: SNR, CNR の測定法: MR seminar (MRI 装置の安全管理と画質評価のためのセミナー). 日本放射線技術学会, 2006 . 10 .
- 6) 土橋俊男: 体幹部領域の MRI 検査: MRI 入門講座. 日本磁気共鳴医学会, 2006 . 10 .
- 7) 土橋俊男: k-space からみた pulse sequence ・撮像技術. MR 研究会, 2007 . 1 .
- 8) 土橋俊男: 体幹部領域の MRI 検査: MRI 入門講座. 日本磁気共鳴医学会, 2007 . 2 .

(6) 一般講演:

- 1) 須田匡也, 桜井 実¹⁾, 浅野恭二, 石原圭一²⁾, 水村 直²⁾, 汲田伸一郎²⁾, 小野口昌久³⁾(¹⁾ 日本医科大学健診医療センター, ²⁾ 同付属病院放射線科, ³⁾ 金沢大学大学院医学系研究科): 高感度クリスタルPET システムによる肥満患者の画質の検討. 日本核医学会総会, 2006 . 11 .
- 2) 今井 広¹⁾, 宮地利明²⁾, 小倉明夫³⁾, 土井 司⁴⁾, 土橋俊男, 町田好男⁵⁾(¹⁾ 安城構成病院. 放射線技術科, ²⁾ 金沢大学大学院・医学研究科・保健学専攻, ³⁾ 京都市立病院・放射線科, ⁴⁾ 奈良県立医科大学付属病院・中央放射線部, ⁵⁾ 東芝メディカルシステムズ(株)・MRI 開発部): Parallel MRI における画像 SNR 評価法の検

討．日本放射線技術学会，2006．4．

- 3) 佐藤吉海¹⁾，藤田 功¹⁾，三橋則行¹⁾，打田隆夫¹⁾，土橋俊男，宮田知子²⁾，貴種慎一²⁾(¹⁾さいたま市立病院，²⁾東芝メディカルシステムズ(株))：水選択励起法を併用した頭部3D-TOF法の有用性．日本放射線技術学会，2006．4．
- 4) 田代順也，赤坂晃彦，安部 勉，杉本早苗，佐々木禎之，斉藤久美子：FPDによる3次元血管撮影：基礎的検討．医用デジタル動画像研究会，2006．9．
- 5) 小林宏之，黒田大介，増山桂一，大湾朝仁，土橋俊男：Rh/Rhを用いたデジタルマンモグラフィの異なる病変検出の検証．日本放射線技術学会，2006．10．
- 6) 須田匡也，桜井 実¹⁾，上森真里子¹⁾，浅野恭二，金谷浩司¹⁾，榎 利夫，土橋俊男，小野口昌久²⁾(¹⁾日本医科大学健診医療センター，²⁾金沢大学大学院医学系研究科)：高感度検出器搭載型PETシステムにおける，高集積部からの散乱線による画質の検討．日本放射線技術学会，2006．10．

(7) フォーラム：

- 1) 大湾朝仁，原科悟史：アナログX線TV装置使用施設における不変性試験(医用画像部門における品質維持の評価および日常試験第2-9部)．日本放射線技術学会，2006．4．

[付属病院 部]

研究概要

現代医療はME機器なくして成り立たない．ME部は生命維持管理装置をはじめとするME機器及びその周辺機器の操作，保守点検，管理を研究テーマとしている．

臨床工学技士の業務として<手術室業務><血液浄化業務><高気圧酸素業務><救命救急・集中治療室業務><中央管理業務>の5つに大きく分けられるが，その各分野で「臨床技術提供」，「保守管理」，「教育」を担っており病院スタッフのみならず学生に対しても同様に研修を実施している．また，新しいME機器の選定や配置管理も検討し，使用方法等のオリエンテーションを院内で積極的に行っており，高度医療に伴うME機器の安全管理を中心に，機器の性能・機能評価や臨床評価も行っている．また技術の向上のため国内外の学会に積極的に参加している．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 野口裕幸：人工呼吸器のアラームがわかるQ&A．看護技術 2006；第52(7)：584-589．
- 2) 野口裕幸：酸素ボンベと関連機器 酸素流量計・減圧弁など．呼吸器ケア2006夏季増刊 2006；(通刊42)：221-229．
- 3) 野口裕幸：スペシャリストに聞く呼吸療法 保守点検から臨床へ・・・ICUを中心に．日本臨床工学技士会誌 2006；(28)：46-48．
- 4) 野口裕幸：特集 呼吸ケアは誰が担うべきか？ 臨床工学技士の立場から．人工呼吸 2006；第23(第2)：161-166．
- 5) 野口裕幸：人工呼吸器の管理とモニタリング．ハートナーシング 2006；第19(第12)：95-101．
- 6) 野口裕幸，深澤伸慈：ネブライザー療法効果と手技の根拠．エキスパートナース 2007；第23(第3)：34-64．

著書

- 1) 野口裕幸：〔分担〕人工呼吸器使用時のリスクマネジメント．呼吸アセスメント 呼吸ケアのためのチーム医療実践ガイド，2006；pp182-191，株式会社メディカルビュー社．

- 2) 野口裕幸, 竹田晋浩¹⁾(¹⁾麻酔科学): [分担]人工呼吸器. こんな時どうする ME 機器のトラブル対処法 (坂本篤裕), 2006; pp74-92, 真興交易株式会社医書出版部 (東京).
- 3) 青木郁香, 中西一浩¹⁾(¹⁾麻酔科学): [分担]生体情報モニター. こんな時どうする ME 機器のトラブル対応法 (坂本篤裕), 2006; pp93-114, 真興交易株式会社医書出版部 (東京).
- 4) 青木郁香: [分担]医療機器の管理. こんな時どうする ME 機器のトラブル対応法 (坂本篤裕), 2006; pp195-202, 真興交易株式会社医書出版部 (東京).
- 5) 原 正高: [分担]輸液ポンプ・シリンジポンプ. こんな時どうする ME 機器のトラブル対処法 (坂本篤裕), 2006; pp172-194, 真興交易株式会社医書出版部 (東京).
- 6) 吉田 晃: [分担]急性の血液浄化療法. こんな時どうする ME 機器のトラブル対処法 (坂本篤裕), 2006; pp16-42, 真興交易株式会社医書出版部 (東京).
- 7) 鈴木健一: [分担]ペースメーカー. こんな時どうする ME 機器のトラブル対処法 (坂本篤裕), 2006; pp115-147, 真興交易株式会社医書出版部 (東京).
- 8) 鈴木健一: [分担]除細動器. こんな時どうする ME 機器のトラブル対処法 (坂本篤裕), 2006; pp148-171, 真興交易株式会社医書出版部 (東京).

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 野口裕幸: 閉鎖式輸液システムの感染管理上の選択基準と輸液ポンプの問題. 第22回日本環境感染学会, 2007. 2.

(2) パネルディスカッション:

- 1) 青木郁香: 専門業務を業務指針へ反映させるために専門業務の問題点と業務指針改定に望むこと 呼吸療法の分野において. 第16回日本臨床工学会, 2006. 6.
- 2) 青木郁香: チーム医療としてのNPPV 各医療現場からの報告 臨床工学技士に何ができるか 当院の現状を踏まえて. 第6回急性期NPPV研究会, 2006. 12.
- 3) 野口裕幸: メンテナンスのスペシャリストに迫る スペシャリストに聞く 人工呼吸器の保守点検・管理, 修理. 日本医工学治療学会 第23回学術大会, 2007. 2.

(3) セミナー:

- 1) 野口裕幸: 輸液セット・輸液ポンプの今後の課題. 第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 2006. 8.

(4) ワークショップ:

- 1) 野口裕幸: スペシャリストに聞く呼吸療法 保守点検から臨床へ・・・ICUを中心に. 第16回日本臨床工学会, 2006. 6.

(5) 一般講演:

- 1) 月川一彦, 鈴木健一, 山口敏明, 坂本篤裕: FlowTracSensorとVigileoMonitorの使用経験. 第14回東京都臨床工学技士会学術大会, 2006. 4.
- 2) 土屋直俊, 原 正高, 青木郁香, 三宅直樹, 野口裕幸, 吉田 晃: CHDF (持続緩徐式血液濾過透析)の手技の統一化を目指して. 第14回東京都臨床工学技士会・学術大会, 2006. 5.
- 3) 原 正高, 土屋直俊, 青木郁香, 三宅直樹, 野口裕幸, 山口敏明, 吉田 晃, 坂本篤裕: 輸液・シリンジポンプの終業点検におけるチェックリストの有用性について. 第16回日本臨床工学会, 2006. 6.
- 4) 松田範子, 秋丸琥甫¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 森山雄吉¹⁾, 吉村成子¹⁾, 坂本篤裕, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 当施設における高気圧酸素療法の現況. 日本高気圧環境・潜水医学会, 2006. 11.
- 5) 野口裕幸: 新規輸液ポンプ導入に関する検討. 第34回日本集中治療医学会学術集会, 2007. 3.

[ワクチン療法研究施設]

研究概要

当研究施設は、1972年の開設以来、丸山千里先生が開発されたSSM（人型結核菌体抽出物質：いわゆる丸山ワクチン）による癌の免疫療法を研究の中心課題としている。SSMの治験登録患者は、2007年3月31日現在、375,911名を数えるに至り、依然として多数の新規患者の紹介を受けている。最近は、新患・再来・郵送申込を含めると多い日には400名以上の患者を迎えている。この数字からも、SSMは有償治験薬という形で供給されているにもかかわらず、実際には治療薬として使用されていることを考慮し、主治医からの経過報告をもとに画一的使用方法に限定せず各患者について個別に使用方法を検討している。これらの研究の結果、基本投与方法であるSSM-A・SSM-Bの交互隔日法から、A単独隔日・B単独隔日・AB交互連日・A単独連日などに変更することで、化学療法・放射線療法などの副作用軽減に加え、一般状態が改善される症例のあることなどが判明しつつある。SSM使用患者は、多くがSSM開始時点で進行期癌であったにもかかわらず、良好な一般状態（Performance Status）を維持しつつ長期延命の報告がみられることは、SSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果と考えられる。

現在は、SSMの使用状況・成績についての検討・報告に加え、SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifier（BRM）としての作用ならびに癌免疫療法としての作用について、特に進行期癌患者におけるQuality of Life（QOL）向上と延命効果の立場から、当研究施設ならではの膨大な症例数をもとにした臨床生命表による検討、SSMの作用が有効に発揮される背景要因の検討などを行っている。また、他療法との関連やSSMの経口投与の可能性および癌予防への応用についても検討を重ねている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 岩城弘子，飯田和美，永積 惇，遠藤雄三¹⁾(¹⁾浜松医科大学第一病理)：丸山ワクチン（SSM）10年以上使用の進行胃癌症例の報告：2004-2005年カルテに限定。日本医事新報 2006；(4291)：67-72。
- 2) 岩城弘子，飯田和美，永積 惇，遠藤雄三¹⁾(¹⁾浜松医科大学第一病理)：丸山ワクチン（SSM）10年以上使用の進行大腸癌（III，IV期）症例の報告：2004-2005年カルテに限定。日本医事新報 2006；(4314)：63-68。

[健診医療センター]

研究概要

当健診医療センターにおいては、目下、18F-FDGを用いたPET検査をPET-CT機2台を使用して行っております。正確な画像を得るために、各種パラメーターの検証、画像再構成法の検討、アーチファクトへの対応としては、CTによる吸収補正がどの程度関わっているのかを検証し、今後の検査に役立つよう研究を行っています。また、高感度のPET-CT装置の導入により、術者の被ばくが低減されたことの検証を行いました。

RI部門と共同で、コリメーターによるボケがどの程度のものなのか、ファントムを作成し実測を行い、それが、実際の画像にどの程度の影響を与えているものなのか研究を行いました。

研究業績

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 櫻井 実：PETを育てる Eminence . 第23回日本核医学技術学会 関東地方会，2006 . 5 .

2) 櫻井 実: 臨床画像を見直す(核医学). 日本放射線技術学会東京部会 第7回技術シンポジウム, 2006. 10.

(2) 一般講演:

1) 金谷浩司, 櫻井 実, 榎 利夫¹⁾, 浅野恭司¹⁾, 須田匡也¹⁾(¹⁾ 附属病院放射線科): コリメーターの幾何学的開口がSPECTに及ぼす影響について. 第62回春季放射線技術学会総会, 2006. 4.

2) 櫻井 実, 上森真里子, 金谷浩司, 須田匡也¹⁾, 浅野恭司¹⁾, 吉田伸二郎¹⁾, 榎 利夫¹⁾, 土橋俊男¹⁾(¹⁾ 附属病院放射線科): CTによる吸収補正を利用したPET画像における体内金属の影響と補正効果について. 第34回日本放射線技術学会 秋季学術大会, 2006. 10.

3) 上森真里子, 櫻井 実, 金谷浩司, 須田匡也¹⁾, 吉田伸二郎¹⁾, 榎 利夫¹⁾, 土橋俊男¹⁾(¹⁾ 附属病院放射線科): 高感度システム搭載PET-CT装置における医療従事者の被ばく低減に関する考察. 第34回日本放射線技術学会 秋季学術大会, 2006. 10.

4) 櫻井 実, 須田匡也¹⁾, 趙 圭一¹⁾, 水村 直¹⁾, 汲田伸一郎¹⁾(¹⁾ 放射線医学): コリメーター開口によるボケがSPECT画像に及ぼす影響について. 第46回日本核医学会総会, 2006. 11.

21. 武蔵小杉病院付置施設等

[武蔵小杉病院消化器病センター]

研究概要

消化器病センターは消化器外科医，内科医により構成され，消化器疾患全般の診断から治療まで一貫した幅広い診療および研究を行っている．研究概要としては，消化器疾患関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めている．

【悪性疾患】

1. 食道癌放射線感受性に関する基礎研究（老人病研究所との共同研究）
2. 胃癌，大腸癌における増殖因子に関する臨床病理学的研究，分子標的治療の基礎的研究
3. 肝細胞癌，膵癌の発癌に関連した遺伝子解析による基礎的研究（老人病研究所との共同研究）
4. 消化器癌の集学的治療，抗癌剤感受性試験による個別化を含めた胃癌，大腸癌化学療法確立
5. 進行膵・胆道癌に対する，血管合併切除を伴う拡大手術および術後化学療法による予後改善の追求
6. 肝臓癌に対する集学的治療
7. 消化器癌に対する低侵襲手術（腹腔鏡補助下胃切除術，腹腔鏡補助下大腸切除術，胸腔鏡補助下食道切除術）の技術改良と標準化
8. 早期癌に対する内視鏡治療（EMR・ESD）
9. IVRを応用した消化管，胆道，血管内ステント治療
10. 閉塞性黄疸に対する減黄術（PTCD，内視鏡的ステント）

【緊急疾患】

1. イレウスの保存的・外科的治療，病態解析，新しい診断と治療の開発
2. 上部消化管出血に対する内視鏡治療，臨床的研究
3. 上部消化管穿孔に対する大網充填術の臨床的・基礎的研究
4. 重症急性膵炎に対する集学的治療による予後改善の追求

【良性疾患】

1. 胃十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* の臨床的・基礎的研究
2. 胆道結石に対する内視鏡的治療（EST+EPBD）・腹腔鏡手術（腹腔鏡下胆嚢摘出術・総胆管載石術）の技術改良と標準化
3. 創傷治癒，外科侵襲に関する基礎研究

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) 渡辺昌則，前島顕太郎，小泉正樹，小峯 修，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，栗原雄司，徳永 昭，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 食道癌手術侵襲下における外科感染症の検討：開胸術と胸腔鏡手術の比較．日本外科感染症学会雑誌 2007；4(1): 13-16．

(2) 症例報告：

- 1) 栗原雄司¹⁾，山川達郎¹⁾，小峯 修，千原直人，坊 英樹，塩谷 猛，渡辺昌則，田尻 孝²⁾(¹⁾京浜総合病院 外科，²⁾大学院医学研究科臓器病態制御外科学): 鏡視下に治療した巨大腹壁癭痕ヘルニアの1例．日医大医学会誌 2006；2(3): 161-163．

- 2) 吉野雅則, 水谷 聡, 尾形昌男, 埴 秀暁, 近藤恭司, 前島顕太郎, 松信哲朗, 小峯 修, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭: 家族性大腸腺腫症 (FAP) の3症例: Three cases of familial adenomatous polyposis (FAP). *Progress of Digestive Endoscopy* 2006 ; 69 (2) : 94-95 .
- 3) 千原直人, 尾崎卓司, 坊 英樹, 塩谷 猛, 内藤英二, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾ 付属病院病態制御外科): 保存的に治療した十二指腸球部に刺入した爪楊枝の1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2006 ; 68 (2) .
- 4) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭, 森 秀樹¹⁾(¹⁾ 日下部病院外科): *H. Pylori*除菌により消失した残胃の胃 MALT リンパ腫の1例. *Progress of Digestive Endoscopy* 2006 ; 68 (2) : 96-97 .

(3) 研究報告書:

- 1) 松倉則夫¹⁾, 加藤俊二²⁾, 落合正宏³⁾, 徳永 昭 (¹⁾松倉中央クリニック, ²⁾日本医科大学大学院医学研究科臓器病態制御外科学, ³⁾藤田保健衛生大学医学部消化器外科): *Helicobacter Pylori*に起因しないとされる良性胃粘膜病変, *Helicobacter Pylori*に起因しないとされる胃粘膜病変の形態 残胃炎. *胃と腸* 2006 ; 41 (7) : pp1053-1059 .
- 2) 木山輝郎¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾ 外科学第1): 侵襲をめぐるQ&A サイトカイン Q13 創傷治癒に関するサイトカイン, 増殖因子にはどのようなものがあり, それぞれどのような機能を有しているのですか. *Surg Front* 2006 ; 13 (4) : pp442-444 .

著 書

- 1) 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 安部 仁¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 小泉正樹, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾(¹⁾ 埼玉県立がんセンター消化器外科): [共著]【食道癌に対する Less invasive surgery の工夫 開胸手術と鏡視下手術】鏡視下手術 (VATS) VATSにおける剥離・切離・結紮. *消化器外科* (岩井壽夫), 2007 ; へるす出版 .

学会発表

(1) シンポジウム:

- 1) 坊 英樹, 近藤恭司, 松信哲朗, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾ 外科学第1): 内視鏡所見, 胆汁逆流測定および24時間pHモニタリングによる胃切除後GERDの検討. 第38回胃病態機能研究会, 2006 . 7 .
- 2) 渡辺昌則, 望月 徹¹⁾, 埴 秀暁, 前島顕太郎, 松信哲朗, 小泉正樹, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝 (¹⁾ 武蔵小杉病院救命救急センター, ²⁾ 外科学第1): 外科周術期管理におけるICTの役割: 術後感染対策を中心に. 第68回日本臨床外科学会, 2006 . 11 .
- 3) 坊 英樹, 近藤恭司, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾ 外科学第1): 腹腔鏡補助下胃切除後の残胃について. 第36回胃外科・術後障害研究会, 2006 . 11 .

(2) パネルディスカッション:

- 1) 渡辺昌則, 小峯 修, 前島顕太郎, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾ 外科学第1): 消化管狭窄に対する内視鏡治療の問題点. 第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006 . 6 .

(3) ワークショップ:

- 1) 渡辺昌則, 松信哲朗, 吉野雅則, 前島顕太郎, 小峯 修, 水谷 聡, 坊 英樹, 石渡俊行¹⁾, 内藤善哉¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾ 病理学第2, ²⁾ 外科学第1): 消化管癌におけるKeratinocyte growth factor receptor (KGFR) と ligands の役割. 第17回日本消化器癌発生学会総会, 2006 . 9 .
- 2) 水谷 聡, 塩谷 猛, 南部弘太郎, 星野有哉, 前島顕太郎, 二宮理貴, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾ 大宮医師会市民病院, ²⁾ 日本医科大学外科学第1): 簡単, 确实, 安全な膵 空腸吻合

の試み．第68回日本臨床外科学会，2006．11．

- 3) 坊 英樹，近藤恭司，小峯 修，渡辺昌則，徳永 昭，増田剛太郎¹⁾，木山輝郎¹⁾，加藤俊二¹⁾，松倉則夫¹⁾，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 若年者胃癌: *Helicobacter Pylori*感染と関連しCYP2E1とは関連しない(主題)．第17回日本消化器癌発生学会総会，2006．9．14．

(4) 一般講演：

- 1) 張 一光^{1,2)}，石渡俊行²⁾，内田英二¹⁾，相本隆幸¹⁾，中村慶春¹⁾，横山宗伯¹⁾，恩田宗彦²⁾，工藤光洋²⁾，喬炎²⁾，藤原ゆり²⁾，松信哲朗²⁾，寺西宣央^{1,2)}，田尻 孝¹⁾，内藤善哉²⁾(¹⁾大学院医学研究科臓器病態制御外科学，²⁾同統御機構病理学): ヒト膵癌におけるKGF/KGFR, VEGFの発現と肝転移に関する検討．第95回日本病理学会総会，2006．4．
- 2) 埜 秀暁，塩谷 猛，佐藤精一，水谷 聡，小峯 修，吉野雅則，坊 英樹，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 当科における成人鼠径ヘルニア嵌頓症例の臨床的検討．第43回日本腹部救急医学会総会，2007．3．
- 3) Chihara N, Ogata M, Matsunobu T, Koizumi M, Watanabe M, Tokunaga A : A Case of Intra-abdominal Tumor-Pancreatic endocrine tumor arising from ectopic pancreas-diagnosed with difficulties . WFUMB 2006 (seoul), 2006 . 5 .
- 4) Watanabe M, Maejima K, Matsunobu T, Komine O, Mizutani S, Yoshino M, Bo H, Shioya T, Ogata M, Tokunaga A, Tajiri T¹⁾(¹⁾Department of Surgery): The Comparison of Postoperative Infection Between Vats Esophagectomy and Open Surgery for Esophageal Cancer . Endoscopic Laparoscopic Surgery of Asia, 2006 (Seoul), 2006 . 10 .
- 5) Mizutani S, Shioya T, Maejima K, Bo H, Hoshino A, Ogata M, Watanabe M, Shibuya T¹⁾, Tokunaga A, Tajiri T²⁾(¹⁾Omiya Medical Association Hospital, ²⁾Department of Surgery, Nippon Medical School): Significance of Gastrectomy as Palliative Surgery for Gastric Carcinoma with Pyloric Stenosis . ISDS (Rome), 2006 . 12 .
- 6) 吉野雅則，南部弘太郎，小泉正樹，水谷 聡，塩谷 猛，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 大腸癌治癒切除後CEA上昇を契機としてFDG PETによって発見された再発腫瘍の1例．第61回日本消化器外科学会定期学術総会，2006．7．
- 7) 寺西宣央^{1,2)}，田中宣威¹⁾，古川清憲¹⁾，鈴木英之¹⁾，瀬谷知子¹⁾，菅 隼人¹⁾，鶴田宏之¹⁾，松本智司¹⁾，進士誠一^{1,2)}，張 一光^{1,2)}，川本聖郎^{1,2)}，松信哲朗¹⁾，藤原ゆり²⁾，喬 炎²⁾，工藤光洋²⁾，恩田宗彦²⁾，横山宗伯²⁾，石渡俊行²⁾，内藤善哉²⁾，田尻 孝¹⁾(¹⁾大学院医学研究科臓器病態制御外科学，²⁾同統御機構病理学): 大腸癌組織におけるnestinによる新生血管の評価と予後の検討．第95回日本病理学会総会，2006．4．
- 8) 松信哲朗^{1,2)}，石渡俊行¹⁾，藤原ゆり¹⁾，川本聖郎^{1,2)}，張 一光^{1,2)}，寺西宣央^{1,2)}，工藤光洋¹⁾，喬 炎¹⁾，恩田宗彦¹⁾，吉野雅則¹⁾，渡辺昌則，松本光司³⁾，徳永 昭¹⁾，田尻 孝²⁾，内藤善哉¹⁾(¹⁾大学院医学研究科統御機構病理学，²⁾同臓器病態制御外科学，³⁾武蔵小杉病院病理部): Keratinocyte Growth Factor Receptor (KGFR) とKGFの胃癌における役割の検討．第95日本病理学会総会，2006．4．
- 9) 望月 徹¹⁾，鈴木憲康²⁾，坂倉剛志²⁾，渡辺昌則(¹⁾武蔵小杉病院救命救急センター，²⁾同中央検査室): ICDが当院救急医療現場で行った感染対策業務と検討すべき課題．第80回日本感染症学会総会，2006．4．
- 10) 小川ゆかり，二宮理貴，水谷 聡，南部弘太郎，塩谷 猛，徳永 昭，阿部和也¹⁾，金城志志¹⁾，田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院放射線科，²⁾外科学第1): 腹痛で発症した多発性肝動脈瘤に対して動脈塞栓術を施行した1症例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 11) 星野有哉，渋谷哲男¹⁾，青笹季文¹⁾，山田太郎¹⁾，徳永 昭(¹⁾大宮医師会市民病院外科): 大腸癌術後1年目に孤立性脾転移を来した1例．日本消化器病学会関東支部第289回支部例会，2006．5．
- 12) 埜 秀暁，坊 英樹，塩谷 猛，渡辺昌則，徳永 昭，初鹿野見春¹⁾，勝部康弘(¹⁾武蔵小杉病院小児科):

- H. pylori*陽性小児十二指腸潰瘍の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 13) 吉野雅則，水谷 聡，尾形昌男，前島顕太郎，小峯 修，坊 英樹，塩谷 猛，渡辺昌則，徳永 昭：家族性大腸腺腫症（FAP）の2症例．第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2006．6．
- 14) 佐藤精一，二宮理貴，前島顕太郎，小峯 修，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，塩谷 猛，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，松本光司¹⁾(¹武蔵小杉病院病理部)：術前冠状断CTにて虫垂嵌頓が疑われた再発鼠径ヘルニアの1例．第801回外科集談会，2006．6．
- 15) 星野有哉，渋谷哲男¹⁾，山田太郎¹⁾，青笹季文¹⁾，徳永 昭(¹大宮医師会市民病院外科)：経カテーテル動脈塞栓術（TAE）により止血し得た術後急性出血性直腸潰瘍の1例．第31回日本外科系連合学会学術集会，2006．6．
- 16) 前島顕太郎，渡辺昌則，小峯 修，坊 英樹，塩谷 猛，尾形昌男，松本光司¹⁾，徳永 昭(¹武蔵小杉病院病理部)：G-CSF産生食道癌肉腫の1例．第60回 日本食道学会，2006．6．
- 17) 二宮理貴，水谷 聡，塩谷 猛，渡辺昌則，徳永 昭：当科におけるサンドスタチンの使用経験：印象的な3例について．第2回横浜消化管サポートタイプケア講演会，2006．6．
- 18) 坊 英樹，前島顕太郎，小峯 修，渡辺昌則，徳永 昭，増田剛太郎¹⁾，田尻 孝¹⁾(¹外科学第1)：ヘリコバクター・ピロリ関連胃炎として「鳥肌胃炎」の意義．第15回日本癌病態治療研究会，2006．6．
- 19) 塩谷 猛，水谷 聡，小峯 修，坊 英樹，南部弘太郎，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝¹⁾(¹外科学第1)：手術治療を要した大腸憩室症の検討．第61回日本消化器外科学会定期学術総会，2006．7．
- 20) 吉野雅則，前島顕太郎，小泉正樹，水谷 聡，坊 英樹，塩谷 猛，尾形昌男，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝¹⁾(¹大学院医学研究科臓器病態制御外科学)：大腸癌治療切除後CEA上昇を契機としてFDG-PETによって発見された再発腫瘍の1例．第61回日本消化器外科学会定期学術総会，2006．7．
- 21) 近藤恭司，坊 英樹，前島顕太郎，増田剛太郎¹⁾，小峯 修，塩谷 猛，渡辺昌則，徳永 昭，田尻 孝¹⁾(¹外科学第1)：鳥肌胃炎と若年者胃癌との関係．第38回胃病態機能研究会，2006．7．
- 22) 戸塚 統¹⁾，吉川朱実¹⁾，浅香晋一¹⁾，尾形英生¹⁾，倉林 誠¹⁾，岡田洋次郎¹⁾，小泉正樹，川島吉之¹⁾，田中洋一¹⁾(¹埼玉県立がんセンター消化器外科)：食道癌術後急性期におけるエラスポールの有用性．第61回日本消化器外科学会定期学術集会，2006．7．
- 23) 小泉正樹，佐藤精一，二宮理貴，近藤恭司，尾崎卓司，三浦克洋，前島顕太郎，尾形昌男，徳永 昭，田尻 孝¹⁾(¹外科学第1)：救急外来における消化器画像診断on call CTの有用性．第61回日本消化器外科学会定期学術集会，2006．7．
- 24) 小泉正樹，近藤恭司，前島顕太郎，千原直人，坊 英樹，渡辺昌則，徳永 昭，李 栄浩¹⁾，藤田逸郎¹⁾，田尻 孝¹⁾(¹外科学第1)：胃切除後のGERDと胆汁逆流およびpH．第61回日本消化器外科学会定期学術集会，2006．7．
- 25) 小峯 修，田中洋一¹⁾，川島吉之¹⁾，吉川朱実¹⁾，坊 英樹，渡辺雅則，徳永 昭，田尻 孝²⁾(¹埼玉県立がんセンター消化器外科，²⁾日本医科大学外科学第1)：胸腔鏡補助下食道癌根治術の検討．第61回日本消化器外科学会定期学術集会，2006．7．
- 26) 水谷 聡，塩谷 猛，南部弘太郎，前島顕太郎，尾形昌男，渡辺昌則，柳本邦雄¹⁾，松本光司¹⁾，渋谷哲男²⁾，徳永 昭，田尻 孝³⁾(¹日本医科大学武蔵小杉病院病理部，²⁾大宮医師会市民病院，³⁾日本医科大学外科学第1)：下部胆管小細胞癌の1例．第61回日本消化器外科学会，2006．7．
- 27) 前島顕太郎，渡辺昌則，塙 秀暁，佐藤精一，三浦克洋，松信哲朗，小峯 修，坊 英樹，塩谷 猛，尾形昌男，徳永 昭：当科における進行再発胃癌に対するTS-1療法の有害事象とその対策．第30回神奈川胃癌治療研究会，2006．7．
- 28) 渡辺昌則，小峯 修，前島顕太郎，水谷 聡，吉野雅則，坊 英樹，稲木敏一郎¹⁾，佐藤花代子¹⁾，徳永 昭，田尻 孝²⁾(¹武蔵小杉病院麻酔科，²⁾外科学第1)：食道癌手術における塩酸オルプリノン投与と術後血清ビリルビン値の推移．第61回日本消化器外科学会総会，2006．7．

- 29) 渡辺昌則, 小峯 修, 二宮理貴, 佐藤精一, 前島顕太郎, 水谷 聡, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 稲木敏一郎¹⁾, 佐藤花代子¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院麻醉科, ²⁾外科学第1): 食道癌術後高ビリルビン血症予防に対する塩酸Olprinone投与の検討. 第60回日本食道学会総会, 2006. 7.
- 30) 渡辺昌則, 佐藤精一, 三浦克洋, 前島顕太郎, 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 坊 英樹, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 胃全摘後縫合不全から発症した多臓器不全に対して集学的治療が奏功した1例. 第30回神奈川県胃癌治療研究会, 2006. 7.
- 31) 埴 秀暁, 小峯 修, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田中 周¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 松本光司²⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾内科学第3, ²⁾武蔵小杉病院病理部, ³⁾外科学第1): 術前にダブルバルーン内視鏡を施行した小腸GISTの1例. 第290回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 7.
- 32) 尾形昌男, 小泉正樹, 小峯 修, 網倉克己¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾埼玉がんセンター消化器外科, ²⁾日本医科大学外科学第1): 切除した転移性膵癌の1例: 右腎癌術後6年目に発生した膵転移と慢性骨髄性白血病の合併. 第61回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006. 7.
- 33) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 胃出血性潰瘍病変における生検の重要性. 第61回日本消化器外科学会定期学術集会, 2006. 7.
- 34) 近藤恭司, 坊 英樹, 松信哲朗, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭¹⁾(¹⁾外科学第1): 内視鏡所見, 胆汁逆流測定及び24時間pHモニタリングによる胃切除後GERDの検討. 第38回胃病態機能研究会, 2006. 10.
- 35) 三浦克洋, 二宮理貴, 佐藤精一, 近藤恭司, 尾崎卓司, 前島顕太郎, 千原直人, 小峯 修, 坊 英樹, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 出血性胃潰瘍における *H. pylori* 菌およびNSAIDsの関連. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 36) 小峯 修, 渡辺昌則, 坊 英樹, 佐藤精一, 三浦克洋, 吉野雅則, 水谷 聡, 南部弘太郎, 塩谷 猛, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 食道癌・胃癌手術における術後早期経腸栄養法の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 10.
- 37) 小峯 修, 渡辺昌則, 前島顕太郎, 松信哲朗, 坊 英樹, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 食道癌遠隔転移(肝・肺)に対するDCF療法の1奏功例. 第39回神奈川県消化器病医学会総会, 2006. 10.
- 38) 松田範子¹⁾, 秋丸琥甫¹⁾, 木山輝郎¹⁾, 吉村成子¹⁾, 田尻 孝¹⁾, 坂本篤裕²⁾, 徳永 昭, 森山雄吉(¹⁾外科学第1, ²⁾付属病院ME部): 当施設における高気圧酸素治療の現状. 日本高気圧環境・潜水医学学会, 2006. 10.
- 39) 瀬戸路子, 水谷 聡, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 柳本邦雄¹⁾, 松本光司¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院病理部, ²⁾外科学第1): 子宮留膿腫および子宮腫瘍として発見された上部直腸癌の1例. 第289回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 10.
- 40) 塩谷 猛, 水谷 聡, 南部弘太郎, 村木 輝, 二宮理貴, 前島顕太郎, 吉野雅則, 徳永 昭, 渋谷哲男, 柳本邦雄¹⁾, 松本光司¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院病理部, ²⁾外科学第1): 当科における腓体尾部腫瘍の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 41) 吉野雅則, 塩谷 猛, 水谷 聡, 二宮理貴, 前島顕太郎, 小峯 修, 南部弘太郎, 尾形昌男, 柳本邦雄¹⁾, 松本光司¹⁾, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院病理部, ²⁾外科学第1): 巨大水リンパ管腫の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 42) 近藤恭司, 塩谷 猛, 水谷 聡, 吉野雅則, 尾形昌男, 柳本邦雄¹⁾, 松本光司¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院病理部, ²⁾外科学第1): 腹壁に穿通し皮下膿瘍にて発症診断された横行結腸癌の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 43) 近藤恭司, 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 腫瘍径2-5cmの胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下切除の試み. 第36回胃外科・術後障害研究会, 2006. 11.
- 44) 戸塚 統¹⁾, 吉川朱実¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 尾形英生¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 岡田洋次郎¹⁾, 小泉正樹¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 川島吉之¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 黒住昌史²⁾, 田中洋一¹⁾(¹⁾埼玉県立がんセンター消化器外科,

- 2) 同病理部): 頸部食道腺癌の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 45) 星野有哉, 渋谷哲男¹⁾, 青笹季文¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 山田太郎¹⁾, 徳永 昭⁽¹⁾ (大宮医師会市民病院外科): 進行結腸・直腸がんに対するオキサロプラチン/5-FU/ロイコボリン療法の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 46) 青笹季文¹⁾, 星野有哉, 渡邊善正¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渋谷哲男¹⁾ (大宮市医師会市民病院外科): メッシュにより感染を起こし小腸切除を要した2症例. 第19回日本外科感染症学会, 2006. 11.
- 47) 川島吉之¹⁾, 田中洋一¹⁾, 黒住昌史²⁾, 倉林 誠¹⁾, 清水 尚¹⁾, 小泉正樹, 安部 仁¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾ (埼玉県立がんセンター消化器外科): 食道類基底細胞癌症例の臨床病理. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 48) 村木 輝, 塩谷 猛, 水谷 聡, 前島顕太郎, 南部弘太郎, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男, 柳本邦雄¹⁾, 松本光司¹⁾, 田尻 孝²⁾ (武蔵小杉病院病理部, ²⁾ 外科学第1): 下部胆管扁平上皮癌の1例. 第68回日本臨床外科学会, 2006. 11.
- 49) 田中洋一¹⁾, 川島吉之¹⁾, 安部 仁¹⁾, 岡田洋次郎¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 尾形英生¹⁾, 小泉正樹, 清水 尚¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 網倉克己¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾ (埼玉県立がんセンター消化器外科): 胸壁前空腸挙上 roux en Y 吻合法による食道再建症例の検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 50) 二宮理貴, 佐藤精一, 三浦克洋, 前島顕太郎, 水谷 聡, 南部弘太郎, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 松本光司¹⁾, 田尻 孝²⁾ (付属病院病理部, ²⁾ 外科学第1): 特発性脾破裂の1例. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 51) 尾形英生¹⁾, 八岡利昌¹⁾, 浅香晋一¹⁾, 岡田洋次郎¹⁾, 小泉正樹, 清水 尚¹⁾, 倉林 誠¹⁾, 安部 仁¹⁾, 網倉克己¹⁾, 川島吉之¹⁾, 西村洋治¹⁾, 坂本裕彦¹⁾, 田中洋一¹⁾ (埼玉県立がんセンター消化器外科): 大腸癌に合併した消化器以外の他臓器重複癌の臨床病理学的検討. 第68回日本臨床外科学会総会, 2006. 11.
- 52) 一色彩子, 吉野雅則, 尾形昌男, 塙 秀暁, 前島顕太郎, 坊 英樹, 小山雅章, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭: 小腸(十二指腸)GISTの3例. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 53) 花岡大資¹⁾, 南部弘太郎, 水谷 聡, 南 史朗¹⁾, 宗像一雄¹⁾ (武蔵小杉病院内科): 糖尿病の急性増悪で発症し自然寛解した自己免疫性膵炎の1例. 日本内分泌学会, 2006. 12.
- 54) 吉野雅則, 吉野雅武¹⁾, 小山雅章, 前島顕太郎, 松信哲朗, 小峯 修, 水谷 聡, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭⁽¹⁾ (吉野医院): 経鼻内視鏡の有効性と問題点. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 55) 栗原雄司¹⁾, 永井孝三¹⁾, 山川達郎¹⁾, 徳永 昭: 胃潰瘍穿孔を呈した巨大胃石の1例. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 56) 山門 進¹⁾, 川見典之¹⁾, 桑名壮太郎¹⁾, 南部弘太郎, 小川ゆかり, 徳永 昭⁽¹⁾ (三菱重工大倉山病院内科): 巨大胃粘膜下腫瘍が契機で診断できた膵体尾部癌の1例. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 57) 前島顕太郎, 松信哲朗, 水谷 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (外科学第1): 高齢者(70歳以上)胃癌手術の検討. 第31回神奈川胃癌治療研究会, 2006. 12.
- 58) 大矢昭仁, 坊 英樹, 松信哲朗, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (外科学第1): 胃粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡下切除の試み. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 59) 坊 英樹, 近藤恭司, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (外科学第1): 当科における腹腔鏡補助下幽門側胃切除術. 第31回神奈川胃癌治療研究会, 2006. 12.
- 60) 坊 英樹, 前島顕太郎, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (外科学第1): 大腸リンパ管腫の1例. 第802回外科集談会, 2006. 7. 13.
- 61) 坊 英樹, 前島顕太郎, 増田剛太郎¹⁾, 小峯 修, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾ (外科学第1): ヘリコバクター・ピロリ関連胃炎として「鳥肌胃炎」と若年者胃癌との関連. 第65回日本癌学会, 2006. 9. 29.

- 62) 坊 英樹, 前島顕太郎, 増田剛太郎¹⁾, 小峯 修, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 鳥肌胃炎と若年者胃癌との関係. 第14回DDW 日本消化器病学会, 2006. 10. 11.
- 63) 遠藤勇気, 小峯 修, 塩谷 猛, 水谷 聡, 塙 秀暁, 吉野雅則, 坊 英樹, 星野有哉, 尾形昌男, 徳永 昭, 田尻 孝(¹⁾外科学第1): 十二指腸傍乳頭憩室が原因と思われた急性閉塞性化膿性胆管炎の1例. 第293回日本消化器病学会関東支部例会, 2007. 2.
- 64) 近藤恭司, 尾形昌男, 中田亮輔, 二宮理貴, 前島顕太郎, 吉野雅則, 水谷 聡, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭: リンパ管腫の2例. 第9回SDDM, 2007. 2.
- 65) 栗原雄司, 山川達郎¹⁾(¹⁾京浜総合病院外科): 当院におけるDirect kugel patchによる成人鼠径ヘルニア修復術の検討. 第24回川崎市医師会医学会, 2007. 2.
- 66) 前島顕太郎, 近藤恭司, 松信哲朗, 水谷 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 高齢者(80歳以上)消化管癌症例における手術適応と術後合併症の検討. 第3回 日本消化管学会総会, 2007. 2.
- 67) 塙 秀暁, 尾形昌男, 二宮理貴, 三浦克洋, 小泉正樹, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭: 慢性関節リウマチでステロイド及びNSAID長期投与中の患者に見られた大腸狭窄の1例. 第3回日本消化管学会総会学術集会, 2007. 2.
- 68) 尾崎卓司¹⁾, 尾形昌男, 千原直人, 吉野雅則, 水谷 聡, 南部弘太郎, 栗原雄司, 塩谷 猛, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 便潜血反応陽性にて紹介された患者に対する全大腸内視鏡検査の成績と治療内容の解析. 第3回日本消化管学会総会学術集会, 2007. 2.
- 69) 近藤恭司, 坊 英樹, 小峯 修, 前島顕太郎, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 腫瘍系2.5cmの胃粘膜腫瘍に対する腹腔鏡下切除の試み. 第79回胃癌学会総会, 2007. 3.
- 70) 松信哲朗¹⁾, 渡辺昌則¹⁾, 小峯 修¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 坊 英樹¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾外科学第1): 抗血小板薬中止が一因と考えられる胃癌術後肺動脈血栓症の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 71) 水谷 聡, 前島顕太郎, 塩谷 猛, 松信哲朗, 南部弘太郎, 星野有哉, 尾形昌男, 渡辺昌則, 渋谷哲男¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾大宮医師会市民病院, ²⁾日本医科大学外科学第1): 急性胆肝炎に対する当院での対応と治療成績. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 72) 星野有哉, 徳永 昭, 渋谷哲男¹⁾, 南部弘太郎¹⁾, 渡邊善正¹⁾, 青笹季文¹⁾, 山田太郎¹⁾(¹⁾大宮医師会市民病院外科): 経カテーテル動脈塞栓術(TAE)により止血し得た術後急性出血性直腸潰瘍の1例. 第43回日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 73) 千原直人, 徳永 昭, 杠葉 良, 水谷 聡, 尾形昌男, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾, 西本 徹³⁾, 柴田建治³⁾(¹⁾日本医科大学付属病院臓器病態制御外科, ²⁾同老人病研究所生化学部門, ³⁾BML総合研究所): S-1, FORFOXを擬したin vitro感受性試験(CD-DST法)とミトコンドリアDNA変異: 大腸癌細胞株を用いた検討. 第40回制癌剤適応研究会, 2007. 3.
- 74) 前島顕太郎, 近藤恭司, 松信哲朗, 水谷 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 高齢者(70歳以上)胃癌症例の検討. 第79回 日本胃癌学会総会, 2007. 3.
- 75) 前島顕太郎, 近藤恭司, 尾崎卓司, 松信哲朗, 水谷 聡, 小峯 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 小山雅章, 塩谷 猛, 尾形昌男, 渡辺昌則, 徳永 昭, 田尻 孝¹⁾(¹⁾外科学第1): 下部消化管出血に対する緊急大腸内視鏡検査の意義. 第43回 日本腹部救急医学会総会, 2007. 3.
- 76) 中田亮輔, 野村 聡, 豊田哲鎬, 二宮理貴, 松信哲朗, 吉野雅則, 渡辺昌則, 柳本邦雄¹⁾, 徳永 昭, 田尻 孝²⁾(¹⁾武蔵小杉病院病理部, ²⁾外科学第1): 大腸リンパ管腫の1例. 第804回外科集談会, 2007. 3.
- 77) 杠葉 良, 徳永 昭, 千原直人, 水谷 聡, 吉野雅則, 田尻 孝¹⁾, 麻生定光²⁾, 太田成男²⁾, 西本 徹³⁾, 柴

田建治³⁾(¹⁾日本医科大学付属臓器病態制御外科,²⁾同老人病研究所生化学部門,³⁾BML総合研究所):大腸癌におけるS-1感受性を擬したCD-DST法とミトコンドリアDNAの変異.第40回制癌剤適応研究会,2007.3.78)坊英樹,近藤恭司,前島顕太郎,小峯修,渡辺昌則,徳永昭,田尻孝¹⁾(¹⁾外科学第1):腹腔鏡補助下胃切除術後の残胃について.第79回日本胃癌学会,2007.3.2.

[武蔵小杉病院中央検査室]

研究概要

当検査室は常に迅速とより精度の高いデータの提供を主眼に運営している.本年9月からは,院内オーダリングシステムの構築に伴いデータのリアルタイム報告や,緊密でより多くの情報の共有化が実現すると共に,受付業務の簡素化により採血待ち時間が短縮し,患者クレームも激減した.また,精度については,外部精度管理において好成績を得ることができた.一方日常業務においては甲状腺エコーの全科実施,重心動揺計導入による眩暈関連検査の充実も図れた.近年,検査室の置かれている状況は厳しく技術員の高齢化や,常に求められるコストダウンなど問題も多い.

今後は現況を踏まえ測定機器の集約化,より精度の高い検査法への転換を進め,余力を生み出すことによりさらなるステップアップを目指したい.

研究業績

学会発表

(1) パネルディスカッション:

- 1) 荒木久美,西島美輝子,山賀節子,越谷美由紀,隠岐和美,荒井誠一,大塚紀子,高久貴子,井上雅則,新宅孝征,勝部康弘,高橋直人¹⁾,竹永清人¹⁾,川口直美¹⁾,内田高浩¹⁾,内田拓実¹⁾,山本 彰²⁾,宗像一雄¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院内科,²⁾同放射線科):収縮能が保たれた高血圧患者における拡張機能とBNPとの関連:経胸壁心エコーによる検討.第74回日本医科大学医学会総会,2006.9.
- 2) 井梅和美,井上雅則,花出 豊,新宅孝征,勝部康弘,島田洋一¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院麻酔科):当日直時の輸血業務の現状.第74回日本医科大学医学会総会,2006.9.
- 3) 浅井逸子,小伊藤保雄,野本恵子,新宅孝征,勝部康弘:検診における血清ペプシノーゲン検査の有用性について.第74回日本医科大学医学会総会,2006.9.

[武蔵小杉病院薬剤科]

研究概要

平成18年度は,薬学実務面と教育面において大きな変革があった.まず薬学実務面では,院外処方箋において主治医が「代替調剤可」欄に署名することにより,院外薬局での先発薬から後発薬への変更が可能,すなわち「代替調剤」が解禁になった.一方薬学教育面では,従来の薬剤師の主業務であった調剤業務から臨床薬剤業務へのスイッチに伴う薬科大学の6年制が始動した年でもあった.当院においては内服薬の入院処方オーダリングおよび注射薬処方のオーダリングが9月から始まり,2月からは外来患者の癌化学療法を実施する輸液療法室が開設した.これにより抗癌剤の安全かつ無菌的調整を行う輸液調整室が薬剤科内に設置され,抗癌剤のミキシングを開始することになった.さらに癌疼痛緩和チーム,褥創対策チーム,感染コントロールチーム,栄養サポートチームと薬剤師が医療チームに参加・活動することが浸透し,当薬剤科の業務が目まぐるしく変化し始めた年でもあった.そのような時期において研究面で,当薬剤科では薬物と食品との相互作用に関して医療従事者がどの程度熟知しているかを多施設間で調査し考察を行った.また,救急救命センターではMRSA感染症の治療薬であるteicoplanin(Tagocid)の高用量投与の有

用性に関する研究に参加した。そして以前より導入し定着しつつある内服調剤での簡易懸濁法に関して、調剤業務の効率化を検討し、さらに病棟における医師・看護師の簡易懸濁法に対する意識調査を行い考察した。教育関連では日本病院薬剤師会が平成18年8月に発刊した「病院薬剤業務 実務実習指導要綱」の分担執筆を手掛け、今後の薬学生における病院薬剤業務の実務実習指導に貢献することができた。

研究業績

論文

(1) 症例報告：

- 1) 上田康晴¹⁾、野口周作、牧 真彦¹⁾、上笹 宙¹⁾、望月 徹¹⁾、畝本恭子¹⁾、黒川 顯¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院救命救急センター)：Teicoplanin 高用量投与の有用性と血中濃度。日本化学療法学会雑誌 2007；55(1)：8-16。

著書

- 1) 明石貴雄¹⁾、野口周作、他(¹⁾東京医科大学病院薬剤部)：〔分担〕第3章-1 医療機関における医薬品情報管理業務 第3章-2 情報提供(評価・加工・提供)。病院薬剤業務 実務実習指導要綱(監修 日本病院薬剤師会 編集 日本病院薬剤師会薬学教育委員会)，2006；pp117-126，(株)じほう。

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 花田真紀¹⁾、河野博充¹⁾、阿部 博²⁾、池田 勉³⁾、伊藤淳雄、鷺見正宏⁴⁾、関根寿一⁵⁾、依田啓司⁶⁾、小坂好男⁷⁾、佐川賢一⁸⁾、柳川忠二⁹⁾、柴田徹一¹⁰⁾(¹⁾帝京大学医学部附属溝口病院薬剤部、²⁾東日本循環器病院薬剤科、³⁾済生会若草病院薬剤部、⁴⁾昭和大学藤が丘病院薬剤部、⁵⁾横浜総合病院薬剤科、⁶⁾国際親善総合病院薬剤部、⁷⁾日本医科大学付属病院薬剤部、⁸⁾東京女子医科大学病院薬剤部、⁹⁾東邦大学薬学部、¹⁰⁾日本薬科大学薬学部)：医療従事者の健康食品に関する意識調査と医薬品相互作用への一考察。第16回日本医療薬学会年会，2006。9。
- 2) 野口周作、渋谷正則、島田慰彦、片岡博邦、上田康晴¹⁾、望月 徹¹⁾、畝本恭子¹⁾、黒川 顯¹⁾(¹⁾武蔵小杉病院救命救急センター)：救急救命医療におけるテイコプラニン(TEIC)高用量投与の検討。第16回日本医療薬学会年会，2006。9。
- 3) 此松晶子、野口周作、渋谷正則、島田慰彦、片岡博邦：簡易懸濁法導入による調剤業務効率化と医師・看護師の意識調査。日本薬学会第127年会，2007。3。

[武蔵小杉病院看護部]

研究概要

1. セルフケアの確立ができていなかった独居男性に関わり、看護介入して深く関わりを持った結果、患者に行動変化がみられた。
2. 女性1型糖尿病患者が青年期に直面する苦悩の様相。
3. 手術介助手技を術識別に分類し評価することで、スタッフの教育に役立てる。
4. 安価のゲルマットを作成し使用することで、手術中の褥瘡予防に効果が見られるか検討する。
5. 当院において母乳栄養の確立を希望する者も年々増加傾向にあるが、関心の強くない患者も存在している。当院では、幾通りかの授乳方法を提示、選択、実施。その後アンケートを行い授乳・育児に対する満足度を調査した：入院中から退院後1週間と、1ヶ月、6～7ヵ月後。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 望月瑠美，瀧 知美：セルフケア不足にあった独居男性の行動変化．第10回日本糖尿病教育看護学会学術集会，2006．9．
- 2) 金子佳世：女性1型糖尿病患者が青年期に直面する苦悩の様相．第10回日本糖尿病教育看護学会学術集会，2006．9．
- 3) 馬上春子，玉置悦子，横尾香代子，小河原美代子，島田洋一：手術介助教育に術識別難易度別評価表を使用し
ての一考案．第28回日本手術医学会総会，2006．10．
- 4) 横尾香代子，小河原美代子：ゲルマット使用にする褥瘡予防の一考案．第20回手術看護学会年次大会，2006．10．
- 5) 石井陽子，西尾麻衣子，大沢いずみ，森岡邦栄，小河原美代子，朝倉啓文：頻回授乳を実施した母親の母乳栄
養に対する満足度：個別性を考慮して．第47回日本母性衛生学会学術集会，2006．11．

[武蔵小杉病院放射線科技師室]

研究概要

放射線技術部門における主な研究目的は放射線医学の進歩のなかで新しい撮影法（撮像法）および撮影技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し，新撮影法の実現を追っている．

また日常の放射線科における機器の安全管理，精度管理を実施し各種検査における臨床との関わりを把握し日々，研究を進めている．

MRI 検査部門は，撮像法を組み合わせることにより検査時間の短縮と画質を向上させる研究を行った．強制反転（driven inversion：DI）パルスを用いる方法でT1強調画像とT2強調画像を1度の撮像で同時に収集する方法の検討を行い，臨床的有用な手法として評価された．

研究業績

論 文

(1) 原著：

- 1) 黒瀬厚成，高橋 徹，大石妙枝¹⁾，石川亮宏²⁾（¹⁾ 島津メディカルシステムズ株式会社技術本部，²⁾ 株式会社島津製作所医用機器事業部）：強制反転法を用いたT1強調画像とT2強調画像同時収集法の基礎的検討．日本放射線技術学会誌 2006；62（11）：1551-1559．

22. 多摩永山病院付置施設等

[多摩永山病院消化器科]

研究概要

当科は消化器全般の疾患を診療の対象とし、幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指すとともに、消化器疾患に関する研究を行っている。診療ならびに研究活動を以下に述べる。

1) 日常診療では、地域中核病院でもある当院の性格を活かし、消化管出血や閉塞性黄疸など多くの救急患者を受け入れるとともに、上部および下部消化管の内視鏡検査など検査診断技術の向上に努めている。また、各種消化器疾患について内視鏡を用いた治療と臨床研究を行っている。

2) C型慢性肝炎に対するインターフェロン、リバビリンによる治療効果、肝細胞癌に対する治療について検討し症例を蓄積中である。

3) 炎症性腸疾患の診断と治療について、とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法（5-ASA 注腸療法など）を中心とした臨床研究を続けている。また、潰瘍性大腸炎に対する白血球（顆粒球）吸着療法の症例を蓄積している。

4) *Helicobacter pylori* 感染と胃病変・胃外病変との関連性、*Helicobacter pylori* の2次除菌、3次除菌、GERD (Gastroesophageal Reflux Disease), FD (Functional Dyspepsia), IBS (Irritable Bowel Syndrome) などについての臨床研究を継続している。

5) 中国、ベトナム、タイ、ネパール、ミャンマー、インド、韓国における *Helicobacter pylori* 感染・胃十二指腸疾患・背景胃粘膜の相違を現地で内視鏡検査を行うことにより調査している。

6) 逆流性食道炎、胃潰瘍の発生病機序に関して、病態生理の基礎および臨床研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

1) Tanaka S¹⁾, Mitsui K, Shirakawa K²⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Nakamura T²⁾, Hayashi Y³⁾, Jakazoe M⁴⁾, Sakamoto C¹⁾, Terano A²⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine, ²⁾ Department of Endoscopy, Dokkyo University School of Medicine, ³⁾ Department of Internal Medicine, Division of Gastroenterology, Jichi Medical School, ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Social Insurance Chuo General Hospital): Successful retrieval of video capsule endoscopy retrained at ileal stenosis of Crohn's disease using double-balloon endoscopy. J Gastroenterol Hepatol 2006 ; 21 (5) : 922-923 .

2) Matsuhisa T¹⁾, Kawai T^{1,2)}, Masaoka T^{1,3)}, Suzuki H^{1,4)}, Ito M^{1,5)}, Kawamura Y^{1,6)}, Tokunaga K^{1,7)}, Suzuki M^{1,8)}, Mine T^{1,9)}, Takahashi Shin-ichi^{1,7)}, Sakaki N^{1,10)} (¹⁾ Tokyo Hp Study Group, ²⁾ Department of Endoscopy Center, Tokyo Medical University, ³⁾ Department of Emergency Medicine, School of Medicine, Keio University, ⁴⁾ Department of Internal Medicine, School of Medicine, Keio University, ⁵⁾ Yotsuya Medical Cube, ⁶⁾ Himedic Clinic Dia, ⁷⁾ Third Department of Internal Medicine, Kyorin University, School of Medicine, ⁸⁾ Department of Internal Medicine, National Hospital Organization Tokyo Medical Center, ⁹⁾ Division of Gastroenterology and Hepatology, Department of Internal Medicine, University of Tokai School of Medicine, ¹⁰⁾ Department of Internal Medicine, Metropolitan Bokutoh Hospital): Efficacy of metronidazole as a second-line drug for the treatment of *Helicobacter pylori* infection in the Japanese population : a multicenter study in the Tokyo metropolitan area. Helicobacter 2006 ; 11 (6) : 152-158 .

3) Nagata K¹⁾, Wada K¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Futagami S¹⁾, Gudis K¹⁾, Miyake K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾

- (¹) Department of Gastroenterology): Heregulin-alpha and heregulin-beta expression is linked to a COX-2-PGE2 pathway in human gastric fibroblasts . Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol 2006 ; 290 (6): G1243-1251 .
- 4) Iwakiri K¹), Tanaka Y¹), Kawami N¹), Kotoyori M²), Hayashi Y , Kawakami A¹), Makino H³), Nomura T³), Miyashita M³), Takubo K⁴), Sakamoto C¹) (¹) Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²) Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital , ³) Department of Surgery , ⁴) Human Tissue Research Group, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology): Esophageal motility and gastric acid secretion in patients with Barrett's esophagus . Esophagus 2006 ; 3 (7): 151-154 .
- 5) Sakamoto C¹), Sugano K²), Ota S³), Sakaki N⁴), Takahashi S⁵), Yoshida Y⁶), Tsukui T, Osawa H²), Sakurai Y⁷), Yoshino J⁸), Mizokami Y⁹), Mine T¹⁰), Arakawa T¹¹), Kuwayama H¹²), Saigenji K¹³), Yakabi K¹⁴), Chiba T¹⁵), Shimosegawa T¹⁶), Sheehan JE¹⁷), Prez-Gutthann S¹⁸), Yamaguchi T¹⁹), Kaufman DW¹⁷), Sato T^{20,21}), Kubota K^{20,21}), Terano A²²) (¹) Division of Gastroenterology, Internal Medicine, Nippon Medical School , ²) Jichi Medical School , ³) Saitama Medical School , ⁴) Tokyo Metropolitan Bokutoh Hospital , ⁵) Kyorin University School of Medicine , ⁶) Jichi Medical School Omiya Medical School , ⁷) Kanto Medical School NTT EC , ⁸) Fujita Health University Bambuntane Hotokukai Hospital , ⁹) Tokyo Medical University Kasumigaura Hospital , ¹⁰) Tokai University School of Medicine , ¹¹) Osaka City University Medical School , ¹²) University Hospital at Koshigaya, Dokkyo University School of Medicine , ¹³) Kitasato University East Hospital , ¹⁴) Teikyo University School of Medicine Ichigaya Hospital , ¹⁵) Graduate School of Medicine, Kyoto University , ¹⁶) Graduate School of Medicine, Tohoku University , ¹⁷) Slone Epidemiology Center, Boston University , ¹⁸) Pfizer Worldwide Development , ¹⁹) School of Health Science and Nursing, University of Tokyo , ²⁰) Faculty of Medicine, University of Tokyo , ²¹) Drug Safety Research Unit Japan , ²²) Dokkyo University School of Medicine): Case-control study on the association of upper gastrointestinal bleeding and nonsteroidal anti-inflammatory drugs in Japan . Eur J Clin Pharmacol 2006 ; 62 (9): 765-772 .
- 6) Yamada S¹), Matsuhisa T , Makonkawkeyoon L¹), Chaidatch S¹), Kato S²), Matsukura N²) (¹) Department of Surgery, Chiang Mai University , ²) Department of Surgery): *Helicobacter pylori* infection in combination with the serum pepsinogen I/II ratio and interleukin-1 -511 polymorphisms are independent risk factors for gastric cancer in Thai . J Gastroenterol 2006 ; 41 (12): 1169-1177 .
- 7) Tanaka J¹), Ohkusa T²), Yokoyama T³), Matsuhisa T, Kawai T⁴), Hashimoto H⁵), Tomita T¹), Hori K¹), Nakajima K¹), Matsumoto T¹), Miwa H¹) (¹) Department of Internal Medicine, Hyogo College of Medicine , ²) Department of Internal Medicine, Juntendo University , ³) Department of Technology Assessment and Biostatistics, National Institute of Public Health , ⁴) Department of Endoscopy Center, Tokyo Medical University , ⁵) JR Tokyo General Hospital): Host serological response to *Helicobacter pylori* after successful eradication : long-term follow-up in patients with cured and persistent infection . Aliment Pharmacol Ther 2006 ; 24 (Suppl 4): 239-248 .
- 8) Futagami S¹), Hiratsuka T¹), Shindo T¹), Hamamoto T¹), Ueki N¹), Suzuki K¹), Kusunoki M¹), Wada K¹), Miyake K¹), Ohashi K²), Gudis K¹), Tsukui T, Sakamoto C¹) (¹) Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²) Clinical Pharmacology): *Helicobacter pylori* infection induces accumulation of Vdelta 1 T cells via CCR2 upregulation . Aliment Pharmacol Ther 2006 ; 24 (Suppl 4): 8-15 .
- 9) Futagami S¹), Suzuki K¹), Hiratsuka T¹), Shindo T¹), Hamamoto T¹), Tatsuguchi A¹), Ueki N¹), Shinji Y¹), Kusunoki M¹), Wada K¹), Miyake K¹), Gudis Katya¹), Tsukui T, Sakamoto C¹) (¹) Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Cercoxib Inhibits Cdx2 Expression and Prevents Gastric Cancer in *Helicobacter Pylori*-infected Mongolian Gerbils . Digestion 2007 ; 74 (3-4): 187-198 .

- 10) 進藤智隆¹⁾, 二神生爾¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): Functional dyspepsia 患者における '13' C acetate 呼吸試験法を用いた胃排出能の検討. 日本臨床生理学会雑誌 2006 ; 36 (3): 149-153 .
- 11) 松久威史, 津久井拓: *Helicobacter pylori*除菌治療に伴う血清抗体価の経時的観察. 消化器内視鏡の進歩 2006 ; 69 (2): 31-36 .

(2) 綜説:

- 1) Futagami S¹⁾, Suzuki K¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾(¹⁾Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Chemopreventive effect of cercecoxib in gastric cancer. Inflammopharmacology 2007 ; 15 (1): 1-4 .
- 2) 岩切勝彦¹⁾, 田中由理子¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠²⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科, ²⁾千葉北総病院内科): 食道運動機能からみたNERDの病態. 消化器科 2006 ; 43 (4): 202-205 .
- 3) 岩切勝彦¹⁾, 林 良紀, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): NERDの病因解析, 治療のための新しい試み. Mebio 2006 ; 23 (7): 128-135 .
- 4) 三井啓吾, 田中 周¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): OGIBの診断と治療. 内視鏡治療のup-to-date 2006 ; 7 (7): 1112-1115 .
- 5) 松久威史, 津久井拓: 疾患における *H. pylori*の関与と除菌効果 十二指腸潰瘍 *Helicobacter pylori*関連疾患と最新のエビデンス. EBM ジャーナル 2006 ; 7 (5): 710-714 .
- 6) 津久井拓: VEGFのシグナル伝達: シグナル伝達を理解するために必要な知識 第11回 No. 22. 分子消化器病 2006 ; 3 (3): 266-271 .
- 7) 松久威史, 津久井拓: 各科領域における腫瘍マーカーの評価 消化管. 医学と薬学 2006 ; 56 (6): 822-827 .
- 8) 小林 剛¹⁾, 田中 周¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 江原章仁¹⁾, 三井啓吾, 瀬尾継彦¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 小腸内視鏡の基本. 臨床消化器内科 2007 ; 22 (2): 267-271 .

(3) 研究報告書:

- 1) 松久威史: タイ・ネパール王国への内視鏡技術移転およびその精度管理手法開発に関する研究 胃炎の違いに関する検討を含む. 平成17年度厚生労働省国際医療協力研究委託費研究報告集 2006 ; pp94-95 .

(4) 症例報告:

- 1) 緒方清行¹⁾, 水越元気²⁾, 田村浩一³⁾, 加藤貴雄⁴⁾, 岸田 浩⁴⁾, 清野精彦⁴⁾, 駒場祐一²⁾, 吉村明修⁵⁾, 福間長知⁴⁾, 工藤翔二⁵⁾, 福田 悠⁶⁾, 坂本静樹²⁾, 津久井拓, 本間 博⁴⁾, 刃刀しのぶ⁶⁾, 弦間昭彦⁵⁾, 藤野鉄平²⁾(¹⁾血液内科, ²⁾神経内科, ³⁾病理部, ⁴⁾循環器内科, ⁵⁾呼吸器内科, ⁶⁾病理学第1): 感染性心内膜炎の発症後, 脳梗塞を合併しびまん性肺胞障害にて死亡した1例. 内科 2006 ; 98 (2): 357-368 .
- 2) 松下洋子¹⁾, 吉澤徹哉¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 斉藤浩一¹⁾, 佐野弘仁, 百名祐介²⁾, 大倉史典²⁾, 永井俊彦¹⁾(¹⁾東京都多摩北部医療センター消化器科, ²⁾東京都多摩北部医療センター外科): 早期胃癌EMR後の遺残再発に対し長期観察を行い得た5症例. 多摩消化器シンポジウム誌 2006 ; 5-11 .
- 3) 高橋陽子¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 関田祥久¹⁾, 三井啓吾, 瀬尾継彦¹⁾, 田中 周¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾, 真々田裕宏³⁾, 吉田 寛³⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾消化器内科, ³⁾千葉北総病院内科, ³⁾外科学第1): 門脈圧亢進性腸症の1例. Prog. Dig. Endosc. 2006 ; 68 : 134-135 .
- 4) 江原彰仁¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 三井啓吾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 目で見る症例: 小腸癌. 内科 2007 ; 99 : 129-133 .

学会発表

(1) 特別講演:

- 1) Matsuhisa T, Miki M¹⁾, Miki N, Sakamoto Y, Kido T, Mitani T, Yamada S²⁾(¹⁾Department of Surgery,

2) Department of Surgery, Chiang Mai University, Kingdom of Thailand): International review of *Helicobacter pylori* infection and comparison of gastric mucosa between Japanese and other Asian populations. *Helicobacter pylori* Symposium in Yangon (Yangon, Myanmar), 2006. 12.

2) 松久威史: アジア, アフリカにおける *Helicobacter pylori* 感染, 背景胃粘膜の観察. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.

3) 松久威史: 上腹部症状に対する新たな治療戦略を考える. ACID Meeting 2006, 2006. 9.

4) 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 山田祐希江¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 基調講演: 当院における DBE の現状, OGIB を中心に. 第6回大腸画像アカデミー (CIA), 2007. 1.

(2) シンポジウム:

1) 川上浩平^{1,2)}, 河合 隆^{1,3)}, 鈴木秀和^{1,4)}, 永原章仁^{1,5)}, 徳永健吾^{1,6)}, 松久威史¹⁾, 鈴木雅之^{1,7)}, 高橋信一^{1,6)}, 榎 伸廣^{1,8)}, 大草敏史^{1,5)}(¹⁾東京 Hp 研究会, ²⁾東京医科大学消化器内科, ³⁾東京医科大学内視鏡センター, ⁴⁾慶應義塾大学消化器内科, ⁵⁾順天堂大学消化器内科, ⁶⁾杏林大学第3内科, ⁷⁾東京医療センター消化器科, ⁸⁾東京都立墨東病院内科): 3剤療法による *Helicobacter pylori* 除菌率の経年的推移: 東京都内多施設における共同調査結果から. 第12回日本ヘリコバクター学会, 2006. 6.

2) 藤森俊二¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 三井啓吾, 永田和弘¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 関田祥久¹⁾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 岸田輝幸¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 原因不明消化管出血の診断, 治療の検討. 第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 6.

3) 江原彰仁¹⁾, 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 小林 剛¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明³⁾, 永田和弘¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾日本医科大学消化器内科, ²⁾日本医科大学千葉北総病院内科, ³⁾西部地域病院): 小腸内視鏡検査のルーチン化に向けて. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.

4) 二神生爾¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 進藤智孝¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, Gudis K¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 選択的 COX-2 阻害剤 cercecoxib を用いた *H. pylori* 感染胃癌モデルにおける腸上皮化生および胃癌発生抑制の検討. 第3回日本消化管学会総会, 2007. 2.

(3) パネルディスカッション:

1) 小林 剛¹⁾, 田中 周¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾¹⁾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明³⁾, 永田和弘¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科, ²⁾千葉北総病院内科, ³⁾東京都多摩北部医療センター消化器科): 小腸狭窄に対する内視鏡的アプローチ. 第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 6.

2) 江原彰仁¹⁾, 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 小林 剛¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明¹⁾, 永田和弘¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科, ²⁾千葉北総病院内科): 小腸内視鏡検査のルーチン化に向けて. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.

3) 松久威史: 実地診療における *H. pylori* 除菌療法の注意点 高齢者の除菌治療はどうするか?. 第8回東京 *Helicobacter* カンファレンス, 2007. 2.

(4) ワークショップ:

1) Kobayashi T¹⁾, Tanaka S¹⁾, Mitsui K, Tatsuguchi A¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Seo T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y¹⁾, Fujimori S¹⁾, Kishida T¹⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Usefulness of double-balloon endoscopy for diagnosis and treatment of the post-operative gastrointestinal tract. The 5th Japan - Korea Joint Symposium on Gastrointestinal Endoscopy (Tokyo, Japan), 2006. 5.

2) Tanaka S¹⁾, Mitsui K, Kobayashi T¹⁾, Ehara A¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾消化器内科): Current Status of DBE "Indication, Choice of the insertion route, sedation, complication and Technical matter". 1st International

Workshop on Double-Balloon Endoscopy , 2006 . 8 .

- 3) 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 術後消化管に対する内視鏡診断と治療: 術後腸管に対するダブルバルーン内視鏡の有用性 . 第71回日本消化器内視鏡学会総会, 2006 . 5 .
- 4) 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡の比較: 原因不明の消化管出血症例を中心に . 第24回日本大腸検査法学会総会, 2006 . 6 .
- 5) 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): ダブルバルーン内視鏡検査普及のための工夫 . 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006 . 10 .

(5) 一般講演 :

- 1) Tanaka S¹⁾, Mitsui K, Tatsuguchi A¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Seo T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y²⁾, Fujimori S¹⁾, Kishida T³⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Gastroenterology, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital): Double-Balloon Endoscopy for the Treatment of Small Intestinal Diseases . 2006 The American Society of Gastrointestinal Endoscopy Meeting (Los Angeles, USA), 2006 . 5 .
- 2) Tanaka S¹⁾, Mitsui K, Tatsuguchi A¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Seo T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y¹⁾, Fujimori S¹⁾, Kishida T²⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Usefulness of Double-Balloon Endoscopy for Diagnosis and Treatment of the Post-operative Gastrointestinal Tract . 2006 The American Society of Gastrointestinal Endoscopy Meeting (Los Angeles, USA), 2006 . 5 .
- 3) Mitsui K, Tanaka S¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Sekita Y²⁾, Seo T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Fujimori S¹⁾, Kishida T²⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital): Impact of Double-Balloon Endoscopy on Clinical Management of Obscure Gastrointestinal Bleeding . The 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles, USA), 2006 . 5 .
- 4) Mitsui K, Tanaka S¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Sekita Y²⁾, Seo T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Fujimori S¹⁾, Kishida T²⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital): Double-Balloon Endoscopy for Small Intestinal Diseases- Experience of 200 Consecutive Examinations . 2006 The American Society of Gastrointestinal Endoscopy Meeting (Los Angeles, USA), 2006 . 5 .
- 5) Seo T¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Wada K¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Mitsui K, Nagata K¹⁾, Tanaka S¹⁾, Fujimori S¹⁾, Gudis K¹⁾, Shinji S²⁾, Tajiri T³⁾, Kishida T⁴⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Surgery, Chiba Hokuso Hospital , ³⁾ Department of Surgery , ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital): Clinical Significance of Prostaglandin E Synthase Expression in Colorectal Cancer . Digestive Disease week and The 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles, USA), 2006 . 5 .
- 6) Iwakiri K¹⁾, Kotoyori M¹⁾, Hayashi Y, Tanaka Y¹⁾, Kawami N¹⁾, Sakamoto C¹⁾, Holloway RH²⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Royal Adelaide Hospital): Control of Transient Lower Esophageal Sphincter Relaxations (TLESRs) and Reflux By a Histamine H2 Receptor Antagonist (H2RA) Nizatidine in Healthy Subjects . Digestive Disease Week and The 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles), 2006 . 5 .
- 7) Miyake K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Suzuki K¹⁾, Shinji Y¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Nishigaki H¹⁾, Futagami S¹⁾, Wada K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Nakajima A²⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Joint Disease and Rheumatism): Concomitant Bis-

phosphonate Use Tends to Peptic Ulcer Formation in Rheumatoid Arthritis Patients Taking Long-Term Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs . Digestive Disease week and The 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles), 2006 . 5 .

- 8) Iwakiri K¹⁾, Hayashi Y, Kotoyori M²⁾, Kawami N¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Kawakami A¹⁾, Sakamoto C¹⁾, Hol-loway RH³⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ 千葉北総病院内科 , ³⁾ Royal Adelaide Hos-pital): Pattern of Acid Reflux During Transient Lower Esophageal Sphincter Relaxations (TLESRs) Differ Among Patients with Mild and Severe Reflux Esophagitis and Healthy Subjects . Digestive Disease week and The 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles), 2006 . 5 .
- 9) Hiratsuka T¹⁾, Futagami S¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Suzuki K¹⁾, Shinji Y¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Wada K¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Gudis K¹⁾, Miyake K¹⁾, Tsukui T, Iwakiri K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Correlation of Plasma Ghrelin Levels and Delayed Gastric Emptying Time in FD Patients with Loss of Emptiness Feeling . Digestive Disease Week and 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles), 2006 . 5 .
- 10) Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Suzuki K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Wada K¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Takahashi H²⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroen-terology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Immunology & Microbiology): *Helicobacter Pylori* Infection In-duces Accumulation of V β 1 T Cells Via CCR2 Upregulation . Digestive Disease Week and 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles), 2006 . 5 .
- 11) Iwakiri K¹⁾, Hayashi Y, Kotoyori M²⁾, Kawami N¹⁾, Tanaka Y¹⁾, Kawakami A¹⁾, Sakamoto C¹⁾, Hol-loway RH³⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Internal Medicine Chiba Hokuso Hospital , ³⁾ Royal Adelaide Hospital): Pattern of Acid Reflux During Transient Lower Esophageal Sphincter Relaxations (TLESRs) Differ Among Patients with Mild and Severe Reflux Esophagitis and Healthy Subjects . . Digestive Disease Week and 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles), 2006 . 5 .
- 12) Shindo T¹⁾, Futagami S¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Shinji Y¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Wada K¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Iwakiri K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology): Compari-son of Gastric Emptying Time and Plasma Ghrelin Levels in Patients with Functional Dysphagia and Non-E-ro-sive Reflux Disease . Digestive Disease Week and 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles), 2006 . 5 .
- 13) Miyake K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Suzuki K¹⁾, Shinji Y¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Nishigaki H¹⁾, Futagami S¹⁾, Wada K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterolo-gy, Internal Medicine): Concomitant Bisphosphonate Use Tends to Peptic Ulcer Formation in Rheumatoid Arthritis Patients Taking Long-Term Non-Steroidal Anti-Inflammatory Drugs . Digestive Disease Week and 107th Annual Meeting of the American Gastroenterological Association (Los Angeles, USA), 2006 . 5 .
- 14) Fujimori S¹⁾, Seo T¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Mitsui K, Yozezawa M¹⁾, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Sekita Y²⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y¹⁾, Kishida T²⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterolo-gy, Internal Medicine , ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital): Capsule endoscopy can guide use of the double-balloon endoscopy for optimal diagnosis and treatment of obscure gastrointestinal bleeding . The 5th International Conference on Capsule Endoscopy (ICCE) (Paris, France), 2006 . 6 .
- 15) Futagami S¹⁾, Suzuki K¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Ueki N¹⁾, Shinji Y¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Wada K¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾: (¹⁾ Division of Gastroen-terology, Internal Medicine): Chemoprevention of gastric cancer by cecorexib in *H. pylori*-infected Mongolian

- gerbils . 12th International conference on ulcer research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR (Osaka), 2006 . 7 .
- 16) Miyake K¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Ueki N¹⁾, Shinji Y¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Futagami S¹⁾, Wada K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine): The preventive effect by regular or half-dose, not high-dose histamine-H2 receptor antagonists for NSAID- associated peptic ulcers in Japanese patients with rheumatoid arthritis . 12th International conference on ulcer research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR2006 (Osaka, Japan), 2006 . 7 .
- 17) Futagami S¹⁾, Suzuki K¹⁾, Hiratsuka T¹⁾, Shindo T¹⁾, Hamamoto T¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Ueki N¹⁾, Shinji Y¹⁾, Kusunoki M¹⁾, Wada K¹⁾, Miyake K¹⁾, Gudis K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾:(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Correlation of plasma ghrelin levels and delayed gastric emptying time in FD patients with loss of emptiness feeling . 12th International conference on ulcer research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR (Osaka, Japan), 2006 . 7 .
- 18) Fujimori S¹⁾, Seo T¹⁾, Gudis K¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Mitsui K, Tanaka S¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Sekita Y²⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y³⁾, Kishida T²⁾, Ohaki Y⁴⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital , ³⁾ Department of Gastroenterology, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital , ⁴⁾ Department of Pathology, Chiba Hokuso Hospital): Double-balloon endoscopy preceded capsule endoscopy for optimal diagnosis and treatment of obscure gastrointestinal bleeding . 12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR (Osaka, Japan), 2006 . 7 .
- 19) Tanaka S¹⁾, Mitsui K, Tatsuguchi A¹⁾, Ehara A¹⁾, Kobayashi T¹⁾, Seo T¹⁾, Yonezawa M¹⁾, Nagata K¹⁾, Shibata Y²⁾, Fujimori S¹⁾, Kishida T³⁾, Gudis K¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine , ²⁾ Department of Gastroenterology, Tokyo Metropolitan Tama Geriatric Hospital , ³⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital): Double-Balloon Endoscopy for the Treatment of Small Intestinal Diseases . 12th International Conference on Ulcer Research (ICUR) & GI Satellite of IUPHAR 2006 (Osaka, Japan), 2006 . 7 .
- 20) Nagata K¹⁾, Wada K¹⁾, Tatsuguchi A¹⁾, Futagami S¹⁾, Gudis K¹⁾, Miyake K¹⁾, Tsukui T, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Heregulin-alpha and heregulin-beta expression is linked to a COX-2-PGE2 pathway in human gastric fibroblasts . The 16th International Symposium on Regulatory Peptides (PEGPEP ' 06)(Hakone, Japan), 2006 . 8 .
- 21) Yamada S¹⁾, Matsuhisa T, Makonkawkeon L¹⁾, Matsumoto K²⁾, Miyashita M²⁾, Miki M²⁾(¹⁾ Department of Surgery, Chiang Mai University, Kingdom of Thailand , ²⁾ Department of Surgery): *Helicobacter pylori* related to low pepsinogen I/II ratio promote chronic gastritis . 30th Annual Scientific Meeting on Mahidol's Day (ChiangMai, Thailand), 2006 . 9 .
- 22) Narahara Y¹⁾, Kanazawa H¹⁾, Osada Y¹⁾, Taki Y¹⁾, Kimura Y , Atsukawa M¹⁾, Katakura T¹⁾, Kidokoro H¹⁾, Harimoto H¹⁾, Fukuda T¹⁾, Matsushita Y¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Sakamoto C¹⁾(¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Effects of Terlipressin on Hepatic and Renal Artery Hemodynamics in Patients with Cirrhosis . The 57th Annual Meeting of The American Association for the Study of Liver Disease (Boston, USA), 2006 . 10 .
- 23) Yamada S¹⁾, Matsuhisa T, Makonkawkeyoon L¹⁾, Miki M²⁾, Matsumoto M²⁾, Miyashita M²⁾, Yoshida M³⁾, Azuma T³⁾(¹⁾ Department of Surgery, Chiang Mai University, Kingdom of Thailand , ²⁾ Department of Surgery , ³⁾ Department of Internal Medicine, Kobe University): IL-8 gene expression related to CagA, and low pepsinogen I/II ratio promote chronic gastritis as a gastric cancer risk . 6th Western Pacific *Helicobacter* Congress 2006 (Bangkok, Thailand), 2006 . 11 .

- 24) Matsuhisa T, Matsukura N¹⁾, Yamada N²⁾, Uemura N³⁾ (¹⁾ Department of Surgery, ²⁾ Department of pathology, ³⁾ Department of Endoscopy, International Medical Center of Japan): *Helicobacter pylori* infection in Asian and African population by serum antibody method using HM-CAP and JHM-CAP. The 5th Japan-China-Korea Joint Conference on Helicobacter Infection, 2007. 2.
- 25) Narahara Y¹⁾, Kanazawa H¹⁾, Osada Y¹⁾, Taki Y¹⁾, Kimura Y, Atsukawa M¹⁾, Katakura T¹⁾, Kidokoro H¹⁾, Harimoto H¹⁾, Fukuda T¹⁾, Matsushita Y¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine): Effects of thelipressin on hepatic and renal artery. The 17th Annual Conference of the Asian Pacific Association for the study of Liver Disease (Fukuoka, Japan), 2007. 3.
- 26) Kanazawa H¹⁾, Kidokoro H¹⁾, Mizukuchi J¹⁾, Harimoto H¹⁾, Fukuda K¹⁾, Katakura T¹⁾, Atsukawa M¹⁾, Taki Y¹⁾, Kimura Y, Narahara Y¹⁾, Mamiya Y¹⁾, Osada Y¹⁾, Nakatsuka K¹⁾, Sakamoto C¹⁾ (¹⁾ Division of Gastroenterology, Internal Medicine): The Long-term outcome of TIPS in Patients with hepatocellular Carcinoma. The 17th Annual Conference of the Asian Pacific Association for the study of Liver Disease (Fukuoka, Japan), 2007. 3.
- 27) 松久威史, 松倉則夫¹⁾, 山田宣孝²⁾ (¹⁾ 日本医科大学第1外科, 松倉中央クリニック, ²⁾ 日本医科大学病理学第2): タイ人における生検部位別 *Helicobacter pylori* 陽性率の検討: 日本人との比較. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 28) 藤森俊二¹⁾, 関田祥久¹⁾, 篠沢 功²⁾, 琴寄 誠¹⁾, 吉澤雅史²⁾, 岸田輝幸²⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛²⁾, 瀬尾継彦²⁾, 三井啓吾, 米澤真興²⁾, 永田和弘²⁾, 柴田喜明³⁾, 田中 周²⁾, 辰口篤志²⁾, 坂本長逸²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 消化器内科): 血清葉酸値は大腸腺腫を有する男性で低値を示す. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 29) 三井啓吾, 田中 周¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明³⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 日本医科大学消化器内科, ²⁾ 同千葉北総病院内科, ³⁾ 東京都多摩北部医療センター消化器科): 原因不明の消化管出血における小腸内視鏡検査陰性症例の検討. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 30) 林 良紀, 岩切勝彦¹⁾, 琴寄 誠²⁾, 田中由理子¹⁾, 川見典之¹⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科): アカラシア症例におけるバルーン拡張術有効例の特徴. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 31) 滝 保彦¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 城所秀子¹⁾, 水口淳子¹⁾, 張本滉智¹⁾, 福田 健¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 木村祐, 榎原義之¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): 蛋白尿を伴う慢性腎不全および難治性腹水を合併した肝硬変に対しTIPSを施行した2例. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 32) 榎原義之¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 福田 健¹⁾, 張本滉智¹⁾, 城所秀子¹⁾, 水口淳子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 滝 保彦¹⁾, 木村 祐, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): Terlipressinによる肝硬変の全身および肝, 腎血行動態の変化. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 33) 琴寄 誠¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 林 良紀, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): 逆流性食道炎患者と健康者での一過性LES弛緩 (TLESR) 時の空気逆流パターンの違い. 第92回日本消化器病学会総会, 2006. 4.
- 34) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 長澤重直¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松久威史, 松田 健¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 津久井拓, 細根 勝²⁾, 田尻 孝³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同病理部, ³⁾ 付属病院外科): 分子標的療法を導入した切除不能・術後再発GIST・EGIST症例とMAGE-A family蛋白発現の関連について. 第92回日本消化器病学会, 2006. 4.
- 35) 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進士陽子¹⁾, 和田謙¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 岩切勝彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾ 消化器内科): FD (functional dyspepsia) 患者に対

- する¹³C-acetateを用いた胃排出能の検討．第92回日本消化器病学会総会，2006．4．
- 36) 高橋陽子¹⁾，藤森俊二¹⁾，江原彰仁¹⁾，小林 剛¹⁾，関田祥久²⁾，瀬尾継彦¹⁾，三井啓吾，永田和弘¹⁾，米澤真興¹⁾，柴田喜明³⁾，田中 周¹⁾，辰口篤志¹⁾，山門 進¹⁾，吉田 豊¹⁾，岸田輝幸²⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院消化器内科，²⁾同千葉北総病院内科，³⁾東京都多摩北部医療センター消化器科): カプセル内視鏡で診断し，ダブルバルーン内視鏡で確認し得た小腸膜様狭窄の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 37) 瀬尾継彦¹⁾，藤森俊二¹⁾，江原彰仁¹⁾，小林 剛¹⁾，関田祥久²⁾，三井啓吾，米澤真興¹⁾，永田和弘¹⁾，柴田喜明³⁾，田中 周¹⁾，辰口篤志¹⁾，岸田輝幸²⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院消化器内科，²⁾同千葉北総病院内科，³⁾東京都多摩北部医療センター消化器科): 当院におけるカプセル内視鏡の有用性とダブルバルーン内視鏡とのコラボレーション．第71回日本消化器内視鏡学会総会，2006．5．
- 38) 藤森俊二¹⁾，瀬尾継彦¹⁾，江原彰仁¹⁾，小林 剛¹⁾，関田祥久²⁾，三井啓吾，米澤真興¹⁾，永田和弘¹⁾，柴田喜明³⁾，田中 周¹⁾，辰口篤志¹⁾，岸田輝幸²⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科，²⁾千葉北総内科): カプセル内視鏡で確定診断可能な疾患の模索．第71回日本消化器内視鏡学会総会，2006．5．
- 39) 榎原義之¹⁾，金沢秀典¹⁾，福田 健¹⁾，張本滉智¹⁾，水口淳子¹⁾，城所秀子¹⁾，片倉玲樹¹⁾，厚川正則¹⁾，滝 保彦¹⁾，木村 祐，間宮康貴¹⁾，長田祐二¹⁾，中塚雄久¹⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 肝硬変の全身および肝，腎血行動態へ及ぼす terlipressin の影響．第42回日本肝臓学会総会，2006．5．
- 40) 厚川正則¹⁾，中塚雄久¹⁾，片倉玲樹¹⁾，張本滉智¹⁾，津久井拓，金沢秀典¹⁾，高橋秀実²⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科，²⁾微生物学・免疫学): Rivabirinが慢性C型肝炎患者CD4陽性細胞表面の補助刺激Ligand分子発現に及ぼす影響とTh1/2バランス変動の関連．第42回日本肝臓学会総会，2006．5．
- 41) 松下洋子¹⁾，福田 健¹⁾，長田祐二¹⁾，張本滉智¹⁾，城所秀子¹⁾，片倉玲樹¹⁾，厚川正則¹⁾，滝 保彦¹⁾，木村祐，間宮康貴¹⁾，中塚雄久¹⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 空腸静脈瘤破裂に対してBROTOが奏効した1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 42) 平塚哲郎¹⁾，二神生爾¹⁾，進藤智隆¹⁾，濱本達彦¹⁾，植木信江¹⁾，鈴木健司¹⁾，楠 正典¹⁾，進士陽子¹⁾，和田謙¹⁾，三宅一昌¹⁾，津久井拓，岩切勝彦¹⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 当科におけるFunctional dyspepsia (FD)患者の検討 抗うつ傾向．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 43) 松久威史，津久井拓: *Helicobacter pylori*除菌治療に伴う血清抗体価の経時的観察．第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2006．6．
- 44) 松久威史，津久井拓: 経時的にみた*Helicobacter pylori*除菌治療後の血清抗体価．第12回日本ヘリコバクター学会，2006．6．
- 45) 松久威史，山田宣孝(¹⁾病理学第2): *Helicobacter pylori*感染診断におけるデタミナーH. ピロリ抗体Jの有用性について．第12回日本ヘリコバクター学会，2006．6．
- 46) 松久威史，松倉則夫¹⁾，山田宣孝²⁾，上村直実³⁾(¹⁾松倉中央クリニック，日本医科大学第1外科，²⁾同病理学第2，³⁾国立国際医療センター内視鏡部): 血清抗体法によるアジア人，アフリカ人の*Helicobacter pylori*感染: HM-CAP，JHM-CAPによる比較．第12回日本ヘリコバクター学会，2006．6．
- 47) 江原彰仁¹⁾，辰口篤志¹⁾，小林 剛¹⁾，関田祥久¹⁾，瀬尾継彦¹⁾，三井啓吾，米澤真興¹⁾，柴田喜明¹⁾，永田和弘¹⁾，田中 周¹⁾，藤森俊二¹⁾，岸田輝幸²⁾，坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): カプセル内視鏡とダブルバルーン内視鏡で診断し得た小腸リンパ管腫の1例．第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会，2006．6．
- 48) 松久威史，松田 健，津久井拓: 老年者消化性潰瘍の観察: 吐下血例について．第48回日本老年医学会学術集会・総会，2006．6．
- 49) 松久威史，高屋善章，津久井拓: 高齢者十二指腸潰瘍の臨床的検討: 当科における1980年代との比較．第9回日本高齢消化器病学会，2006．7．
- 50) 鈴木成治¹⁾，笹島耕二¹⁾，丸山 弘¹⁾，渡辺秀裕¹⁾，宮本昌之¹⁾，水谷 崇¹⁾，横山 正¹⁾，松谷 毅¹⁾，津久井

- 拓, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾付属病院外科): 外来通院にてmFOLFOX6療法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討. 第61回日本消化器外科学会定期学術総会, 2006. 7.
- 51) 二神生爾¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 楠 正典¹⁾, 植木信江¹⁾, 進士陽子¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 選択的COX-2阻害剤cercocoxibを用いた*H. pylori*感染胃癌モデル. 第38回胃病態機能研究会, 2006. 7.
- 52) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 進士陽子¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 和田謙¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 関節リウマチ患者における長期NSAIDs関連消化性潰瘍に対するヒト. 第38回胃病態機能研究会, 2006. 7.
- 53) 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 田中由理子¹⁾, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠¹⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 逆流性食道炎患者の重症度の違いによる一過性LES弛緩時の胃酸逆流. 第48回日本平滑筋学会, 2006. 7.
- 54) 松久威史, 松田 健, 木村 祐, 水谷 崇, 津久井拓: 吐血により発症した消化性潰瘍の年齢層別観察. 潰瘍病態研究会第15回フォーラム, 2006. 8.
- 55) 藤森俊二¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 原因不明消化管出血に対するカプセル内視鏡の有用性. 潰瘍病態研究会第15回フォーラム, 2006. 8.
- 56) 酒井貴史¹⁾, 水谷行伸¹⁾, 手嶋浩恵¹⁾, 林 綾子¹⁾, 佐藤寛之¹⁾, 池野廣幸¹⁾, 草間芳樹²⁾, 木村祐, 松久威史, 津久井拓(¹⁾多摩永山病院生理検査部, ²⁾同内科): パルスドブラ 法を用いた脾静脈門脈血流比と肝の形態的変化のスコア 化についての検討. 日本医科大学学会総会, 2006. 9.
- 57) 藤森俊二¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 緩解期潰瘍性大腸炎のQOLに対するプロバイオティクス, プレバイオティクス, および同時摂取(シンバイオティクス)のランダム化比較試験. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 58) 辰口篤志¹⁾, 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科, ²⁾千葉北総病院内科): 8年にわたる高度な貧血の出血源として同定された空腸Lymphangiomaの1例. 第23回文京消化器内視鏡研究会, 2006. 9.
- 59) 滝 保彦¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 福田 健¹⁾, 張本滉智¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 水口淳子¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 木村 祐, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): TIPSの早期合併症についての検討. 第13回日本門脈圧亢進症学会, 2006. 9.
- 60) 金沢秀典¹⁾, 城所秀子¹⁾, 水口淳子¹⁾, 張本滉智¹⁾, 福田 健¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 滝 保彦¹⁾, 木村祐, 榎原義之¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 肝細胞癌合併肝硬変例におけるTIPSの治療成績. 第13回日本門脈圧亢進症学会, 2006. 9.
- 61) 松久威史, 津久井拓, 山田宣孝¹⁾(¹⁾病理学第2教室): *Helicobacter pylori*感染診断における各種抗体(スマイテスト, HM-CAP, JHM-CAP, Eプレート)の比較. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 62) 松久威史, 松倉則夫¹⁾, 山田宣孝²⁾, 上村直実³⁾(¹⁾松倉中央クリニック, 第1外科, ²⁾病理学第2教室, ³⁾国立国際医療センター内視鏡部): HM-CAP, JHM-CAPによるアジア人, アフリカ人の*Helicobacter pylori*抗体陽性率の比較. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.
- 63) 二神生爾¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 進藤智孝¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 植木信江¹⁾, 進士陽子¹⁾, 楠 正典¹⁾, 篠木啓¹⁾, 和田 謙¹⁾, Katcya G¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 胃癌組織中のMCP-1, CCR2の局在と発現調節の解析. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 64) 植木信江¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 進藤智孝¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 楠 正典¹⁾, 進士陽子¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 和田 謙¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): メトロニダゾールとアモキシシリンを用いた*Helicobacter pylori* 2次除菌におけるクラリスロマイシンの付加的効果の検討. 第48回日本消化器病学会大会, 2006.

10 .

- 65) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 健¹⁾, 富樫晃祥¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 田尻 孝²⁾ (¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾付属病院外科): mFOLFOX6法から他Regimenに移行した進行・再発大腸癌症例の検討 . 第48回日本消化器病学会大会, 2006 . 10 .
- 66) 三井啓吾, 田中 周¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾消化器内科): 小腸内視鏡による小腸GIST症例の検討 . 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006 . 10 .
- 67) 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾消化器内科): 原因不明消化管出血の内視鏡的ストラテジー . 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006 . 10 .
- 68) 藤森俊二¹⁾, 関田祥久²⁾, 篠沢 功¹⁾, 平塚哲朗¹⁾, 琴寄 誠²⁾, 吉沢雅史²⁾, 岸田輝幸²⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明³⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院消化器内科, ²⁾同千葉北総病院内科, ³⁾東京都多摩北部医療センター消化器科): 大腸腺腫の危険性を増加させる血清葉酸濃度 . 第48回日本消化器病学会大会, 2006 . 10 .
- 69) 藤森俊二¹⁾, 関田祥久²⁾, 篠沢 功¹⁾, 平塚哲朗¹⁾, 琴寄 誠²⁾, 吉沢雅史¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明³⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院消化器内科, ²⁾同千葉北総病院内科, ³⁾東京都多摩北部医療センター消化器科): 大腸腺腫の危険性を増加させる血清葉酸濃度 . 第48回日本消化器病学会大会, 2006 . 10 .
- 70) 小林 剛¹⁾, 田中 周¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 関田祥久²⁾, 三井啓吾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明³⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院消化器内科, ²⁾同千葉北総病院内科, ³⁾東京都多摩北部医療センター消化器科): ダブルバルーン内視鏡 (DBE) 偶発症である膵ダメージの検討 : 膵酵素上昇と挿入条件について . 第72回 日本消化器内視鏡学会総会, 2006 . 10 .
- 71) 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾, 田中 周¹⁾, 小林 剛¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明³⁾, 永田和弘¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾日本医科大学付属病院消化器内科, ²⁾同千葉北総病院内科, ³⁾東京都多摩北部医療センター): ダブルバルーン内視鏡による全小腸観察の可否と挿入困難因子の検討 . 第72回 日本消化器内視鏡学会総会, 2006 . 10 .
- 72) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 健¹⁾, 松田明久¹⁾, 柏原 元¹⁾, 石塚朋樹¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 田尻 孝²⁾ (¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾付属病院外科): mFOLFOX6法による外来通院化学療法を施行した進行・再発大腸癌症例の検討 . 日本臨床外科学会, 2006 . 10 .
- 73) 厚川正則¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 張本滉智¹⁾, 福田 健¹⁾, 松下洋子¹⁾, 城所秀子¹⁾, 水口淳子¹⁾, 木村 祐, 滝保彦¹⁾, 榎原義之¹⁾, 長田祐二¹⁾, 金沢秀典¹⁾, 高橋秀実²⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾消化器内科, ²⁾微生物学・免疫学): C型肝炎無症候性キャリアに対するPEG Interferon+Ribavirin併用治療経過中の抹消血中CD4陽性細胞が産生するType1/2サイトカインの変動 . 第10回日本肝臓学会大会, 2006 . 10 .
- 74) 鈴木成治, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 田尻 孝²⁾ (¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾付属病院外科): mFOLFOX6法を導入した進行・再発大腸癌肝転移症例の検討 . 日本癌治療学会, 2006 . 10 .
- 75) 鈴木成治¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 松田 健¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 水谷 崇¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 横山 正¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓, 松久威史, 田尻 孝²⁾ (¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾付属病院外科): 胃癌肝転移症例におけるMAGE-A family 蛋白発現の検討 . 日本癌学会学術総会, 2006 . 10 .
- 76) 金沢秀典¹⁾, 滝 保彦¹⁾, 城所秀子¹⁾, 水口淳子¹⁾, 張本滉智¹⁾, 福田 健¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 木村 祐, 榎原義之¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾ (¹⁾消化器内科): 難治性腹水におけるTIPSと腹水穿刺の治療成績の比較 . 第48回日本消化器病学会大会, 2006 . 10 .

- 77) 城所秀子, 金沢秀典¹⁾, 水口淳子¹⁾, 張本滉智¹⁾, 福田 健¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 滝 保彦¹⁾, 木村 祐, 榎原義之¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): ドップラー超音波検査による propranolol non-responder の検出. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 78) 福田 健, 金沢秀典¹⁾, 城所秀子¹⁾, 水口淳子¹⁾, 張本滉智¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 木村 祐, 榎原義之¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 小腸静脈瘤破裂の2例. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 79) 榎原義之, 金沢秀典¹⁾, 城所秀子¹⁾, 水口淳子¹⁾, 張本滉智¹⁾, 福田 健¹⁾, 片倉玲樹¹⁾, 厚川正則¹⁾, 滝 保彦¹⁾, 木村 祐, 榎原義之¹⁾, 間宮康貴¹⁾, 長田祐二¹⁾, 中塚雄久¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 難治性腹水に対する TIPS の長期治療成績. 第8回肝不全治療研究会, 2006. 10.
- 80) 田中由理子¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠²⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): Nizatidine (NIZ) の一過性 LES 弛緩 (TLESR) に及ぼす影響. 第48回日本消化器病学会大会, 2006. 10.
- 81) 松久威史, 津久井拓: *Helicobacter pylori* 感染別にみた抗壁細胞抗体と背景胃粘膜. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 82) 山田祐希江¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 関田祥久²⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明³⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院消化器内科, ²⁾同千葉北総病院内科, ³⁾東京都多摩北部医療センター消化器内科): カプセル内視鏡, ダブルバルーン内視鏡で術前診断し得た小腸癌の1例. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 83) 高橋陽子¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 関田祥久²⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明²⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): カプセル内視鏡を用いた小腸 GIST 診断経験. 第83回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 12.
- 84) 高橋陽子¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 近藤千紗¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): Crohn 病との鑑別に時間を要した腸結核の1例. 第292回日本消化器病学会関東支部例会, 2006. 12.
- 85) 松久威史, 山田宣孝¹⁾, 岡本富美子²⁾, 岡本明彦²⁾(¹⁾日本医科大学病理学第2教室, ²⁾岡本医院本院): 血液透析患者における背景胃粘膜, ペプシノゲン1/2比, ガストリン値の検討. 第3回日本消化管学会総会学術集会, 2007. 2.
- 86) 藤森俊二¹⁾, 山田祐希江¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 小林 剛¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 米澤真興¹⁾, 永田和弘¹⁾, 柴田喜明³⁾, 田中 周¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): 潰瘍性大腸炎の QOL に対する probiotics, prebiotics, synbiotics のランダム化比較試験. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.
- 87) 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 田中 周¹⁾, 米澤真興¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 小林 剛¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科, ²⁾千葉北総病院内科): 大腸癌におけるシクロオキシゲナーゼ2と膜型マトリックスメタロプロテアーゼ1の発現. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.
- 88) 山田祐希江¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 三井啓吾, 小林 剛¹⁾, 田中 周¹⁾, 関田祥久²⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 米澤真興¹⁾, 柴田喜明³⁾, 永田和弘¹⁾, 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾日本医科大学付属病院消化器内科, ²⁾同千葉北総病院内科, ³⁾東京都多摩北部医療センター消化器科): ダブルバルーン内視鏡による全小腸観察の可否と挿入困難因子の検討. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.
- 89) 川見典之¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 田中由理子¹⁾, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠¹⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾消化器内科): NERD, 逆流性食道炎患者の2次蠕動波を含めた食道運動機能. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.
- 90) 田中由理子¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠²⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾, 野村 務³⁾, 牧野浩司³⁾, 宮下正夫³⁾, 田尻 孝³⁾(¹⁾消化器内科, ²⁾千葉北総病院内科, ³⁾付属病院外科): アカラシア症例におけるバルーン拡張術有効例の特徴. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.

- 91) 辰口篤志¹⁾, 藤森俊二¹⁾, 田中 周¹⁾, 米澤真興¹⁾, 瀬尾継彦¹⁾, 三井啓吾, 小林 剛¹⁾, 江原彰仁¹⁾, 岸田輝幸²⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科): 大腸癌におけるシクロオキシゲナーゼ-2と膜型マトリックスメタロプロテアーゼ1の発現. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.
- 92) 濱本達彦¹⁾, 二神生爾¹⁾, 鈴木健司¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 進藤智孝¹⁾, 楠 正典¹⁾, 植木信江¹⁾, 進士陽子¹⁾, 三宅一昌¹⁾, Katcya G¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾(¹⁾ 消化器内科): 選択的COX-2阻害剤cercecoxibを用いた*H. pylori*感染胃癌モデルにおける胃癌発生抑制とMCP-1, CCR2発現の検討. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.
- 93) 三宅一昌¹⁾, 楠 正典¹⁾, 植木信江¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 進士陽子¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 西垣 均¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾(¹⁾ 消化器内科): 長期NSAIDs使用関節リウマチ患者の消化性潰瘍発症に与えるCOX-2選択性の影響について. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.
- 94) 楠 正典¹⁾, 三宅一昌¹⁾, 進藤智隆¹⁾, 濱本達彦¹⁾, 植木信江¹⁾, 平塚哲郎¹⁾, 二神生爾¹⁾, 津久井拓, 坂本長逸¹⁾(¹⁾ 消化器内科): ESD前後における凝固線溶系の変動について. 第3回日本消化管学会学術集会, 2007. 2.
- 95) 松久威史: *Helicobacter pylori*除菌治療における注意点: 除菌不成功例を含めて. 第1回多摩市消化器疾患懇話会, 2007. 3.
- 96) 田中由理子¹⁾, 岩切勝彦¹⁾, 川見典之¹⁾, 佐野弘仁, 林 良紀, 琴寄 誠²⁾, 川上明彦¹⁾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾ 消化器内科, ²⁾ 千葉北総病院内科): バルーン拡張術が有効であるアカラシアの特徴. 第7回東京UGI研究会, 2007. 3.
- (6) ライブデモ:
- 1) 田中 周¹⁾, 三井啓吾, 坂本長逸¹⁾(¹⁾ 消化器内科): カプセル内視鏡とダブルバルーン小腸内視鏡の比較?原因不明の消化管出血(OGIB)を中心に?. 第72回日本消化器内視鏡学会総会, 2006. 10.

[多摩永山病院病理部]

研究概要

組織培養, 免疫組織化学, 電子顕微鏡部門が充実し, 臨床医の病理部での研究も行なわれるようになり, 研究部門もさらに充実してきた. 現在の主な研究テーマは以下の通りである.

- (1) 臨床に呼応した迅速細胞・組織診断(外来・病棟・術中・剖検時)の確立
- (2) 免疫細胞・組織化学(サイトケラチン7/20/34 E12/35 H11, MIB-1, Napsin A, Villin)を用いた客観的原発巣推定診断・予後診断法の確立
- (3) 乳腺腫瘍
 - 1) 穿刺吸引細胞診材料を用いた予後診断の確立; 細胞転写法を用いてER, PgR, HER2蛋白質, MIB-1指数の他, HER2に関しては蛋白の過剰発現と遺伝子増幅(CISH)の両方を検討する
 - 2) 乳癌における, ホルモンレセプターと細胞骨格, 接着因子の関係および転移性乳癌の臨床病理学的研究; HER2タンパク質と基底膜分解酵素について
- (4) 細胞転写法による中皮腫の免疫細胞学的診断法の確立(特異抗体; カルレチニン, CK5/6, メゾテリン, D2-40, WT1など)
- (5) 骨軟部腫瘍
 - 1) 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立(免疫組織化学, 電顕的検索の併用)
- (6) 子宮癌
 - 1) 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立(免疫組織化学, 電顕的検索の併用): とくにセルブロック法
- (7) リンパ節病変
 - 1) リンパ節病変の迅速診断法の検索, 免疫細胞学的アプローチ
 - 2) リンパ節病変の分子生物学的検索
 - 3) 悪性リンパ腫の細胞診断学

研究業績

論文

(1) 原著:

- 1) Kaji M¹⁾, Nemoto K¹⁾, Kubota M²⁾, Ninomiya N^{1, 3)}, Katayama H, Maeda S, Yamamoto Y¹⁾ (¹⁾ Dept. of Emergency and Critical Care Medicine, NMS, ²⁾ Dept. of Clinical Laboratory, NMS, ³⁾ Emergency Medicine, The George Washington University School of Medicine and Health Sciences, Washington DC, USA): Preventive Effects of Sivelestat Sodium Hydrate on Lipopolysaccharide-induced Intestinal Paralysis in Conscious Guinea Pigs . 日本救急医学会雑誌 2006 ; 17 (12): 845-853 .
- 2) Katayama H, Maeda S, Kudo M¹⁾, Naito Z¹⁾ (¹⁾ Dep. of Pathology, NMS): Basic Examination of *HER2/new* in Breast Carcinoma by chromogenic in Situ Hybridization : Application to Fine-needle Aspiration Cytology Specimens . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (6): 357-359 .
- 3) 片山博徳, 前田昭太郎, 工藤光洋¹⁾, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学第2): 乳癌細胞診標本を用いたCISH法によるHER2/new 遺伝子検出の基礎的検討 . 臨床検査 2007 ; 51 (1): 116-117 .
- 4) 前田昭太郎: 胸腔中皮腫の1例: 体腔液細胞診による中皮腫の確定診断法 . 病理診断講習会ハンドアウト 2007 ; 28-30 .

(2) 綜説:

- 1) 前田昭太郎, 片山博徳, 岩瀬裕美, 細根 勝, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学第2): 中皮腫の臨床病理: 体腔液細胞診によるびまん性悪性中皮腫の確定診断方法を中心に . 診断病理 2006 ; 23 (3): 167-176 .
- 2) 前田昭太郎, 柳田裕美, 片山博徳, 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学第2): 乳腺細胞診の検体処理法 (吹き出し法, 剥がし法, すり合わせ法, 圧挫法, オートスミア法) の検討 . 臨床検査 2007 ; 51 (1): 61-69 .

(3) 症例報告:

- 1) 三田俊二¹⁾, 中井章人¹⁾, 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎 (¹⁾ 多摩永山病院女性診療科・産科): 子宮内膜細胞診で付属器由来の腺癌と推定診断した卵巣類肝細胞癌 (hepatoid carcinoma) の1例 . 日本臨床細胞学会雑誌 2006 ; 45 (5): 299-301 .

学会発表

[2006 年度追加分]

教育講演:

- 1) 細根 勝: リンパ節の細胞診: 穿刺吸引細胞診を中心に . 平成 17 年度第 3 回細胞診従事者講習会, 2006 . 3 .

一般講演:

- 1) Suzuki S¹⁾, Egami K¹⁾, Sasajima K¹⁾, Ghazizadeh M²⁾, Shimizu H²⁾, Watanabe H¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Yokoyama T¹⁾, Maruyama H¹⁾, Matsutani T¹⁾, Nagasawa S¹⁾, Hosone M (¹⁾ Dept. of Surgery, Tamagayama Hospital, NMS, ²⁾ Dept. of Molecular Pathology Inst. of Gerontology, NMS): Relationship between DNA copy number aberrations determined by quantitative microsatellite analysis and alinical outcome in patients with stomach cancer . 6th International Gastric Cancer Congress, 2005 . 5 .
- 2) 鈴木成治¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 長澤重直¹⁾, 松田 健¹⁾, 沖濱裕司²⁾, 細根 勝, 田尻 孝³⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 同消化器科, ³⁾ 外科学第1): 病理所見・臨床経過から見た胃原発GIST症例と他臓器原発症例の比較検討 . 第77回日本胃癌学会総会, 2005 . 5 .
- 3) 鈴木成治¹⁾, 江上 格¹⁾, 劉 愛民²⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡辺秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松久威史³⁾, 松田 健³⁾, 沖濱裕司³⁾, 細根 勝, 前田昭太郎, 田尻 孝⁴⁾ (¹⁾ 多摩永山病院外科, ²⁾ 中央電子顕微鏡研究施設, ³⁾ 多摩永山病院消化器科, ⁴⁾ 外科学第1): 電顕所見から見た消化管及び消化管外原発GIST症例の臨床病理学的検討 . 第105回日本外科学会定期学術集会, 2005 . 5 .

- 4) 川野陽一¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 吉田 寛²⁾, 真々田裕宏²⁾, 谷合信彦²⁾, 秋丸琥甫²⁾, 田尻 孝²⁾, 前田昭太郎 (¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): C型慢性肝炎のインターフェロン療法による持続ウイルス削除 (SVR) 12年後に発生した破裂肝細胞癌を切除し得た1例. 日本肝胆膵外科関連会議, 2005 . 6 .
- 5) 鈴木成治¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 細根勝, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 臨床・病理像から見たGIST及びEGIST症例の診断・治療の問題点. 第60回日本消化器外科学会定期学術総会, 2005 . 7 .
- 6) 鈴木成治¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 松久威史²⁾, 沖濱裕司²⁾, 松田 健²⁾, 細根 勝, 田尻 孝³⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾外科学第1): GISTにおけるMAGE-A family蛋白発現の検討. 第64回日本癌学会学術総会, 2005 . 9 .
- 7) 鈴木成治¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 津久井拓²⁾, 松田 健²⁾, 松久威史²⁾, 細根 勝, 田尻 孝³⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾外科学第1): GIST・EGIST症例における切除不能・術後再発例の検討. 第43回日本癌治療学会総会, 2005 . 10 .
- 8) 鈴木成治¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 長澤重直¹⁾, 松田 健²⁾, 松久威史²⁾, 津久井拓²⁾, 劉 愛民³⁾, 細根 勝, 田尻 孝⁴⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾同消化器科, ³⁾中央電子顕微鏡研究施設, ⁴⁾外科学第1): GANT (Gastro-intestinal autonomic nerve tumor) の臨床病理学的検討. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 11 .
- 9) 富樫晃祥¹⁾, 江上 格¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 渡邊秀裕¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 長澤重直¹⁾, 松谷 毅¹⁾, 川野陽一¹⁾, 二見良平¹⁾, 増田剛太郎¹⁾, 前田昭太郎, 田尻 孝²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 排便時違和感を主訴とした臀部巨大悪性顆粒細胞腫の1手術例. 第67回日本臨床外科学会総会, 2005 . 11 .

(1) 特別講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 中皮腫の細胞診 : 体腔液細胞診による中皮腫の確定診断方法を中心に . 日本病理学会関東支部 第34回学術集会, 2007 . 2 .

(2) 招待講演 :

- 1) Maeda S : Is there still a role for FNA? . 4th Asian Breast Diseases Association Teaching Course (Chiang Mai, Thailand), 2006 . 11 .
- 2) Katayama H, Maeda S, Kudo M, Naito Z : Chromogenic In Situ Hybridization to Detect HER2/new Gene Amplification in Breast Carcinoma Fine-needle cytology specimens . The 13th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytology (Bangkok, Thailand), 2007 . 1 .
- 3) Maeda S : A definitive diagnosis of mesothelioma by body fluid cytology : The utility of cell transfer method and cell block method for immunocytochemical staining . The 13th Thai-Japanese Workshop in Diagnostic Cytology (Bangkok, Thailand), 2007 . 1 .

(3) 教育講演 :

- 1) 前田昭太郎 : 乳腺の病理と細胞診 . 平成18年度細胞検査士養成公開講座, 2006 . 6 .
- 2) 片山博徳, 前田昭太郎 : 乳腺の細胞診 . 平成18年度細胞検査士養成公開講座, 2006 . 6 .
- 3) 前田昭太郎 : 乳腺腫瘍における穿刺吸引細胞診の役割 . 第16回日本乳癌画像研究会, 2007 . 2 .

(4) セミナー :

- 1) 細根 勝 : 胸腺・リンパ節・骨髄 . 第31回細胞診断学セミナー, 2006 . 8 .
- 2) 前田昭太郎 : 骨・軟部・中枢神経 . 第31回細胞診断学セミナー, 2006 . 8 .

(5) ワークショップ :

- 1) Maeda S : Interesting cases FNAC Part 1 . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology (Thailand), 2007 . 3 .
- 2) Maeda S : Interesting cases FNAC Part 2 . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology (Thailand), 2007 . 3 .
- 3) Katayama H , Maeda S : Management of FNAC Specimens . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology (Thailand), 2007 . 3 .
- 4) Maeda S , Katayama H : Multihcader Microscope Session . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology , 2007 . 3 .
- 5) Kudo M¹⁾ , Katayama H (¹⁾ Tokyo Medical University) : Multihcader Microscope Session and Brain Tumor Cytology . The Workshop in diagnostic Multi-organs Fine Needle Aspiration Cytopathology (Thailand), 2007 . 3 .
- 6) 内藤善哉¹⁾ , 石渡俊行¹⁾ , 恩田宗彦¹⁾ , 内田英二²⁾ , 中泉明彦³⁾ , 前田昭太郎 (¹⁾ 日本医科大学病理学第2 , ²⁾ 同外科学 , ³⁾ 大阪府立成人病センター臨床検査科) : 臍臓の細胞診 : 臍疾患の良悪病態診断と治療との関わり . 第96回日本病理学会総会 , 2007 . 3 .

(6) 一般講演 :

- 1) Katayama H , Maeda S , Kudo M , Naito Z : Basic Examination of HER2 Gene in Breast Carcinoma Fine-needle cytology Specimens by Chromogenic In Situ Hybridization . 4th Asian Breast Diseases Association Teaching Course (Chiang Mai, Thailand), 2006 . 11 .
- 2) Hosone Masaru , Maeda S , Sugisaki Y , Naito Z : Eahp Workshop on Small B-Cell Lymphomas in Lymph Nodes, Bone Marrow and Spleen : Case Presentation IV . XIII. Meeting of the European Association for Haematopathology (Vienna, Austria), 2006 . 12 .
- 3) Liu A , Maeda S , Hosone M , Katayama H , Azuma K , Naito Z¹⁾ , Sugisaki Y¹⁾ (¹⁾ Pathology) : A Definitive Diagnosis of Malignant Mesothelioma Based on Body Fluid Cytology Combined Immunocytochemistry and Electron Microscopy . 96th United States and Canadian Academy of Pathology (USCAP) Annual Meeting (San Diego), 2007 . 3 .
- 4) Hosone M , Liu A , Maeda S , Katayama H , Naito Z : An Electronmicroscopic Analysis of a Newly Described Plasmacytoid Dendritic Cell Tumor : CD4+/CD56+Hematodermic Neoplasm . 96th United States and Canadian Academy of Pathology (USCAP) Annual Meeting (San Diego), 2007 . 3 .
- 5) 前田昭太郎 , 細根 勝 , 杉崎祐一¹⁾ , 田村浩一¹⁾ , 松本光司²⁾ , 柳本邦雄²⁾ , 大秋美治³⁾ , 新井 悟³⁾ , 福田悠⁴⁾ , 内藤善哉⁴⁾ (¹⁾ 付属病院病理部 , ²⁾ 武蔵小杉病院病理部 , ³⁾ 千葉北総病院病理部 , ⁴⁾ 病理学第2) : 体腔液細胞診でいかに中皮腫の確定診断をすべきか . 第95回日本病理学会総会 , 2006 . 4 .
- 6) 細根 勝 , 杉崎祐一¹⁾ , 劉 愛民¹⁾ , 片山博徳 , 前田昭太郎 , 内藤善哉²⁾ (¹⁾ 中央電子顕微鏡研究施設 , ²⁾ 病理学第2) : CD7+ and CD56+ Myeloid/NK cell Precursor Acute Leukemia と考えられる1例 . 第95回日本病理学会総会 , 2006 . 4 .
- 7) 片山博徳 , 前田昭太郎 , 内藤善哉¹⁾ (¹⁾ 病理学第2) : Liberate Antibody Binding Solution を用いた抗原賦活化の検討 . 第95回日本病理学会総会 , 2006 . 4 .
- 8) 河合俊明¹⁾ , 中西邦昭¹⁾ , 鳥潟親雄¹⁾ , 高川 清²⁾ , 羽場礼次³⁾ , 林 一彦⁴⁾ , 河内香江⁵⁾ , 野澤昭典⁵⁾ , 中谷行雄⁶⁾ , 前田昭太郎 , 河原邦光⁷⁾ , 蛇沢 晶⁸⁾ , 伊藤以知郎⁹⁾ , 亀谷 徹⁹⁾ (¹⁾ 防衛医科大学校病理 , ²⁾ 黒部市民病院臨床検査科病理 , ³⁾ 香川大学医学部病理部 , ⁴⁾ 鳥取大学医学部病理 , ⁵⁾ 横浜市大医学部市民総合医療センター病理部 , ⁶⁾ 千葉大学医学部病理 , ⁷⁾ 大阪府立呼吸器アレルギー医療センター臨床病理 , ⁸⁾ 東京病院臨床検査科 , ⁹⁾ 静岡県立静岡がんセンター病理診断科) : 稀な悪性中皮腫 (MM) の検討 . 第95回日本病理学会総会 ,

2006 . 4 .

- 9) 松谷 毅¹⁾, 笹島耕二¹⁾, 丸山 弘¹⁾, 二見良平¹⁾, 宮本昌之¹⁾, 横山 正¹⁾, 鈴木成治¹⁾, 前田昭太郎, 田尻孝²⁾(¹⁾多摩永山病院外科, ²⁾外科学第1): 粘膜下腫瘍様の発育を示した食道未分化癌の1例. 第60回日本食道学会学術集会, 2006 . 6 .
- 10) 岩瀬裕美, 前田昭太郎, 片山博徳, 磯部宏昭, 柳田裕美, 日吾美栄子, 平田知己¹⁾, 木村 祐²⁾, 内藤善哉³⁾(¹⁾多摩永山病院呼吸器外科, ²⁾同消化器科, ³⁾病理学第2): 体腔液細胞診で確定診断した中皮腫の2症例細胞転写法の有用性. 第47回日本臨床細胞学会総会, 2006 . 6 .
- 11) 清水秀樹¹⁾, 森 修¹⁾, 大秋美治¹⁾, 小黑辰夫¹⁾, 前田昭太郎, 内藤善哉²⁾(¹⁾千葉北総病院病理部, ²⁾病理学第2): 脳腫瘍圧挫標本における反応性変化の細胞像. 第47回日本臨床細胞学会総会, 2006 . 6 .
- 12) 平田知己¹⁾, 山岸茂樹^{1,2)}, 川島徹生^{1,2)}, 片山博徳, 細根 勝, 前田昭太郎, 小泉 潔²⁾, 清水一雄²⁾(¹⁾多摩永山病院呼吸器外科, ²⁾付属病院外科学第2): 術前未確定診断の肺腫瘍に対する胸腔鏡下術中迅速FNACの有用性. 第47回日本臨床細胞学会総会, 2006 . 6 .
- 13) 細根 勝, 前田昭太郎, 杉崎祐一¹⁾, 内藤善哉²⁾(¹⁾付属病院病理部, ²⁾病理学第2): 皮膚リンパ腫の1例. 日本病理学会関東支部 第31回学術集会, 2006 . 6 .
- 14) 劉 愛民¹⁾, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 内藤善哉²⁾, 杉崎祐一¹⁾(¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾病理学第2): 電顕検索の併用が中皮腫の確定診断に有用であった4症例. 第38回日本臨床分子形態学会総会, 2006 . 9 .
- 15) 鈴木香奈芽, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 岩瀬裕美, 劉 愛民¹⁾, 内藤善哉²⁾(¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾病理学第2): 体腔液細胞診で確定診断した腹膜中皮腫の1例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
- 16) 片山博徳, 前田昭太郎, 工藤光洋¹⁾, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理学第2): 乳癌細胞診標本におけるChromogenic In Situ Hybridization法を用いたHER2遺伝子検出の基礎的検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006 . 9 .
- 17) 鈴木香奈芽, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 東 敬子, 岩瀬裕美, 劉 愛民¹⁾, 内藤善哉²⁾(¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾病理学第2): 腹膜悪性中皮腫の1例: 細胞転写法の有用性. 第20回日本臨床細胞学会関東連合学術集会, 2006 . 9 .
- 18) 片山博徳, 前田昭太郎: 中皮腫の1例. 第20回日本臨床細胞学会関東連合学術集会, 2006 . 9 .
- 19) 細根 勝, 前田昭太郎, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理学第2): 卵巣嚢腫切除の際, 偶然発見された回腸漿膜面発生・高分化型乳頭状中皮腫(WDPM)と考えられる1例. 日本病理学会関東支部 第34回学術集会, 2007 . 2 .
- 20) 前田昭太郎, 片山博徳, 岩瀬裕美, 細根 勝, 内藤善哉¹⁾(¹⁾病理学第2): 胸腔中皮腫の1例: 体腔液細胞診による中皮腫の確定診断法. 第96回日本病理学会総会, 2007 . 3 .
- 21) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 劉 愛民¹⁾, 内藤善哉²⁾(¹⁾中央電子顕微鏡研究施設, ²⁾病理学第2): 無治療で経過中に白血化したplasmacytoid dendritic cell tumor: "blastic NK-cell lymphoma"の1例. 第96回日本病理学会総会, 2007 . 3 .

[多摩永山病院中央検査室]

研究概要

当検査室における主な研究目的は, 臨床検査学の進歩のなかで, 新しい検査法および検査技術を検討するとともに臨床への応用と意義を考察し, 新検査法の実現を追っている. また, 日常の臨床検査全体の精度管理, 検査方法および迅速測定を実施し, 各種の検査における臨床との関連を見つつ, 質の向上と検査測定法の確立を目指している.

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kaji M¹⁾, Nemoto K¹⁾, Kubota M, Ninomiya N^{1,3)}, Katayama H²⁾, Maeda S²⁾, Yamamoto Y¹⁾(¹⁾ Department of Emergency and Critical Care Medicine, ²⁾ Department of Pathology, ³⁾ Emergency Medicine, The George Washington University School of Medicine and Health Sciences): Preventive Effects of Sivelestat Sodium Hydrate on Lipopolysaccharide-induced Intestinal Paralysis Conscious Guinea Pigs. JJAAM 2006; 17(12): 845-853.
- 2) 久保田稔, 直江康孝¹⁾, 志賀尚子¹⁾, 中野渡雄一¹⁾, 久野将宗¹⁾, 小柳正雄¹⁾, 原 俊輔¹⁾, 山本修三¹⁾, 加地正人¹⁾, 二宮宣文¹⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター): 重症意識障害例の予後予測における電気生理学検査の有用性. 日本臨床救急医学会雑誌 2006; 9(4): 344-347.

(2) 綜説：

- 1) 吉田輝彦：臨床工学士が臨床で活躍するための学会認定制度：複数の専門認定士を取得した臨床工学士の体験談. クリニカルエンジニアリング 2006; 17(7): 713-716.

(3) 研究報告書：

- 1) 渡部百合子, 本江美香, 浅井信治, 恩田怜子, 池野廣幸, 草間芳樹：全自動尿分析装置「US-3100R」の基礎的検討. 医療と検査機器・試薬 2007; 30(1): pp103-111.

学会発表

(1) パネルディスカッション：

- 1) 佐々木友里, 井上 淳, 下村由紀, 佐藤知枝, 榎本純子, 池野廣幸, 草間芳樹：遠心不要の血清分離真空採血管「TUBE21-S」の有用性. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 2) 本江美香, 渡部百合子, 浅井信治, 恩田怜子, 池野廣幸, 草間芳樹：全自動尿分析装置「US-3100R」による尿中ビリルビンの検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 3) 鈴木美子, 成定朋美, 杉原秀人, 高須佳奈子, 池野廣幸, 草間芳樹：当院における過去3年間の *Streptococcus pneumoniae* の検出状況と薬剤感受性試験について. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 4) 藤木直美, 四田千穂美, 廣川尚美, 相澤泰与, 久保田久子, 菊地英子, 池野廣幸, 草間芳樹, 新 博次¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科・循環器内科): 入浴中に記録可能なホルター心電計 FM-180 における検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 5) 四田千穂美, 廣川尚美, 相澤泰与, 藤木直美, 久保田久子, 菊地英子, 池野廣幸, 草間芳樹, 新 博次¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科・循環器内科): 血圧脈波検査装置 HEM-9000AI の基礎的検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 6) 手嶋浩恵, 酒井貴史, 水谷行伸, 林 綾子, 佐藤寛之, 池野廣幸, 草間芳樹¹⁾, 新 博次¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科・循環器内科): 頸動脈エコーを用いたスティフネスパラメーター 値の検討：特に動脈硬化性疾患について. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 7) 酒井貴史, 水谷行伸, 手嶋浩恵, 林 綾子, 佐藤寛之, 池野廣幸, 草間芳樹, 木村 祐¹⁾, 松久威史¹⁾, 津久井拓¹⁾(¹⁾多摩永山病院消化器科): パルスドプラ法を用いた脾静脈門脈比と肝の形態的变化のスコア化についての検討. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 8) 島田 靖¹⁾, 根本香代¹⁾, 久保田稔, 二宮宣文¹⁾, 山本保博²⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター, ²⁾救急医学): エンドトキシン血症モデルに対するオセルタミピルの有用性. 第34回日本救急医学会総会・学術集会, 2006. 10.

(2) 一般講演：

- 1) 渡部百合子, 本江美香, 浅井信治, 恩田怜子, 池野廣幸, 草間芳樹：全自動尿分析装置「US-3100R」の基礎的検討．第43回関東甲信地区医学検査学会, 2006．9．
- 2) 中野渡雄一¹⁾, 根本香代¹⁾, 志賀尚子¹⁾, 島田 靖¹⁾, 久保田稔, 二宮宣文¹⁾, 山本保博²⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター, ²⁾救急医学)：実験的エンドトキシン血症に対する PMX-DHP および nafamostat mesilate の効果．第34回日本救急医学会総会・学術集会, 2006．10．
- 3) 久野将宗¹⁾, 中野渡雄一¹⁾, 島田 靖¹⁾, 直江康孝¹⁾, 二宮宣文¹⁾, 久保田稔(¹⁾多摩永山病院救命救急センター)：CPA 蘇生後に SSEP を施行した症例に関する検討．第57回日本救急医学会関東地方会, 2007．2．

[多摩永山病院薬剤科]

研究概要

近年, 病院は患者に最適な医療を実施するため, 医師, 看護師また薬剤師等のパラメディカルなどそれぞれの専門性を生かしたチーム医療が大きく取り上げられている．現在, がん領域, 緩和領域, 感染領域, 褥瘡領域, 輸液栄養領域などさまざまな医療チームができつつある．そのような状況下, 薬剤師は薬物の適正使用に関してその職能を充分発揮することが求められている．当薬剤科としましては, チーム医療への参加を積極的に勧めており, その中からチーム医療への薬剤師の取り組み, またその役割をがん領域, 褥瘡領域において研究, 発表した．

さらに外来患者に対し当院内科, 薬科大学と共同で, また近隣調剤薬局と連携し薬物適正使用, QOL の向上を目的に研究もしており, その成果を発表した．

今後, 薬剤師がチーム医療への参加し, さらに薬剤師職能を充分発揮できるよう, また患者への安全性の確保, QOL の向上および薬物の適正使用を目指しさらなる努力したいと考えている．

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Kazuya M, Toshiya H¹⁾, Kimihiko T¹⁾, Koji O²⁾, Shuichi H³⁾, Hidemi I¹⁾(¹⁾Department of Molecular and Cellular Pathophysiology, Showa Pharmaceutical University, ²⁾Internal Medicine, Fukui Chuo Clinic, ³⁾Department of Clinical Biochemistry, Kagawa Nutrition University)：Verotoxin-1 stimulation of macrophage-like THP-1 cells up-regulates tissue factor expression through activation of c-Yes tyrosine kinase：Possible signal transduction in tissue factor up-regulation．Biochim Biophys Acta 2006；1762(9)：835-843．

著書

- 1) 稲葉育広, 岩野倫明¹⁾(¹⁾昭和大学藤が丘病院)：〔共著〕注射剤の混合業務．病院薬剤業務実務実習指導要綱(日本病院薬剤師会・日本病院薬剤師会薬学教育委員会), 2006；pp66-70, じほう．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 飯久保尚¹⁾, 原田幸一郎¹⁾, 阿部宏子¹⁾, 植松和子¹⁾, 江刺家雅子¹⁾, 奥山 清¹⁾, 小原 淳¹⁾, 金子 健¹⁾, 亀山明美, 木村高久¹⁾, 小林 仁¹⁾, 駒井昌子¹⁾, 坂本康典¹⁾, 濱 敏弘¹⁾, 林 昌洋¹⁾, 船木文子, 堀江智子, 若林進, 渡部一宏(¹⁾東京都病院薬剤師会医薬情報部会)：電子カルテシステムにおける相互作用チェックの実態調査．第9回日本医薬品情報学会総会学術大会, 2006．7．
- 2) 加藤浩子, 亀山明美, 村田和也：自己血糖測定に関する当院薬剤科の取り組み．日本病院薬剤師会第36回関東

ブロック学術大会，2006．8．

- 3) 堀川佳津美，男鹿宏和，村田和也，高仲雅子¹⁾，青木利恵¹⁾，鹿田あき子¹⁾，鈴木成治²⁾，横田明重³⁾(¹⁾多摩永山病院看護部，²⁾同外科，³⁾同女性診療科・産科): 輸液療法室における外来通院化学療法：オーダーリングシステム未導入における薬剤安全管理．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 4) 高仲雅子¹⁾，青木利恵¹⁾，鹿田あき子¹⁾，堀川佳津美，男鹿宏和，村田和也，鈴木成治²⁾，横田明重³⁾(¹⁾多摩永山病院看護部，²⁾同外科，³⁾同女性診療科・産科): 輸液療法室における外来通院化学療法：QOL 向上のための把握と今後の課題．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 5) 下平秀夫¹⁾，茂木 徹¹⁾，阿部宏子²⁾，奥山 清²⁾，村田和也，戸塚淳逸²⁾(¹⁾八王子薬剤センター薬局，²⁾多摩薬業連携協議会): 多摩地区での薬業連携とお薬手帳の活用．第16回日本医療薬学会年会，2006．9．
- 6) 亀山明美，村田和也，小谷英太郎¹⁾，田寺 長¹⁾，草間芳樹¹⁾，新 博次¹⁾，北山由里香²⁾，岩崎梨沙²⁾，高頭文隆²⁾，吉川佳奈³⁾，荒井宏昭⁴⁾，佐々木敬子⁵⁾，大川玲子⁶⁾(¹⁾日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科，²⁾ミネ薬局永山駅前タワー店，³⁾ミネ薬局中野坂上店，⁴⁾龍生堂薬局永山店，⁵⁾なのはな薬局，⁶⁾マルベリー薬局): 薬業連携による吸入指導試験のシステム構築．第39回日本薬剤師会学術大会，2006．10．
- 7) 高頭文隆¹⁾，北山由里香¹⁾，岩崎梨沙¹⁾，吉川佳奈²⁾，亀山明美，村田和也，小谷英太郎³⁾，田寺 長³⁾，草間芳樹³⁾，新 博次³⁾，荒井宏昭⁴⁾，佐々木敬子⁵⁾，大川玲子⁶⁾(¹⁾ミネ薬局永山駅前タワー店，²⁾ミネ薬局中野坂上店，³⁾日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科，⁴⁾龍生堂薬局永山店，⁵⁾なのはな薬局，⁶⁾マルベリー薬局): 薬業連携の実際 吸入指導調査実施における考察．第39回日本薬剤師会学術大会，2006．10．
- 8) 亀山明美，村田和也，小谷英太郎¹⁾，田寺 長¹⁾，草間芳樹¹⁾，新 博次¹⁾，高頭文隆²⁾，荒井宏昭³⁾，佐々木敬子⁴⁾，大川玲子⁵⁾(¹⁾日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科，²⁾ミネ薬局永山駅前タワー店，³⁾龍生堂薬局永山店，⁴⁾なのはな薬局，⁵⁾マルベリー薬局): 日本医科大学多摩永山病院における吸入指導の実態調査：メブチンクリックヘラーとエロゾル製剤との比較．第56回日本アレルギー学会総会，2006．11．
- 9) 小園幸輝¹⁾，高坂 聡²⁾，西澤健司¹⁾，市川雅彦³⁾，菊池憲和⁴⁾，小林秀樹⁵⁾，嶋村弘史⁶⁾，渡邊暁洋⁷⁾，村田和也，渡邊 徹⁸⁾，伊藤明彦⁹⁾(¹⁾東邦大学医療センター大森病院薬剤部，²⁾東京医科大学八王子医療センター薬剤部，³⁾立川病院薬剤部，⁴⁾日本大学医学部附属板橋病院薬剤部，⁵⁾東邦大学医療センター大橋病院薬剤部，⁶⁾昭和大学病院薬剤部，⁷⁾日本医科大学付属病院薬剤部，⁸⁾癌研究会 有明病院薬剤部，⁹⁾明治薬科大学治療評価学): 東京都病院薬剤師会での輸液・栄養領域専門薬剤師育成への取り組み．第22回日本静脈経腸栄養学会，2007．2．
- 10) 池田美奈子¹⁾，亀山明美，村田和也，小谷英太郎²⁾，草間芳樹²⁾，新 博次²⁾，緒方宏泰¹⁾(¹⁾明治薬科大学大学院臨床薬学専攻，²⁾日本医科大学多摩永山病院内科・循環器内科): 心不全患者におけるアルデステロン拮抗薬服用による高K血症発現時期の検討．第71回日本循環器学会総会学術大会，2007．3．
- 11) 堀川佳津美，男鹿宏和，村田和也，高仲雅子¹⁾，青木利恵¹⁾，春日日登美¹⁾，鈴木成治²⁾，横田明重³⁾(¹⁾多摩永山病院看護部，²⁾同外科，³⁾同女性診療科・産科): オーダーリングシステム未導入時の外来化学療法における薬剤安全管理の構築．日本薬学会第127年会，2007．3．
- 12) 高坂 聡¹⁾，小園幸輝²⁾，西澤健司²⁾，市川雅彦³⁾，菊池憲和⁴⁾，小林秀樹⁵⁾，嶋村弘史⁶⁾，渡邊暁洋⁷⁾，村田和也，渡邊 徹⁸⁾，伊藤明彦⁹⁾(¹⁾東京医科大学八王子医療センター薬剤部，²⁾東邦大学医療センター大森病院薬剤部，³⁾立川病院薬剤部，⁴⁾日本大学医学部附属板橋病院薬剤部，⁵⁾東邦大学医療センター大橋病院薬剤部，⁶⁾昭和大学病院薬剤部，⁷⁾日本医科大学付属病院薬剤部，⁸⁾癌研究会 有明病院薬剤部，⁹⁾明治薬科大学治療評価学): 東京都病院薬剤師会での輸液・栄養領域専門薬剤師育成への取り組み．日本薬学会第127年会，2007．3．
- 13) 中嶋基広，村田和也: 褥瘡対策委員会における薬剤師の役割．日本薬学会第127年会，2007．3．

[多摩永山病院看護部]

研究概要

2006年度の看護研究学会発表は成人看護学，母性看護学，小児看護学，救急看護学，看護教育学等の領域から演題が出題されており，演題内容は看護技術の再考，患者の自己管理への援助，周産期看護，看護師の継続教育や救命救急士の教育に関するものとなっている．また，これらの演題は数年にわたり継続して探求しているものもあり，研究内容も充実したものとなった．さらに，今年度から認定看護師が積極的に研究に取り組んでおり，学会発表に至った者，論文執筆中の者と，活躍が次年度につながることを期待する．

研究業績

学会発表

[2005 年度追加分]

一般講演：

- 1) 吉田温子，酒井和子，竹内千恵美，三宅秀彦¹⁾，横田明重¹⁾，中井章人¹⁾(¹⁾多摩永山病院女性診療科・産科)：高度会陰裂傷発生に対するリスク因子の検討．第46回日本母性衛生学会総会，2005．10．

(1) シンポジウム：

- 1) 塩津正己，二宮宣文¹⁾，島崎栄二²⁾，田中秀治²⁾(¹⁾多摩永山病院救命救急センター，²⁾国士舘大学大学院救急救命システムコース)：救急救命士養成課程病院実習教育プログラムへの提案：救急救命士が担う教育内容とその対策．第8回日本救急看護学会学術集会，2006．10．

(2) 一般講演：

- 1) 野村知子，池尻由香，古川敦子：効果的に軟膏を除去する方法の検討：オリーブオイルの使用法の工夫．第37回日本看護学会 看護総合，2006．7．
- 2) 窪ちなつ，久保睦子，阪井裕子，菅原洋子：受持ち看護師としての情報収集の視点の変化：2年の月日を経て．第37回日本看護学会 看護教育，2006．8．
- 3) 矢倉ひとみ，高井亜紀，黒石多佳子：床上安静を強いられる整形外科患者の安静を守るという理解への影響．第37回日本看護学会 成人看護II，2006．9．
- 4) 五十嵐里砂，三宅秀彦¹⁾，佐藤久美子²⁾，尾山裕美，吉田温子，竹内千恵美，酒井和子，中井章人¹⁾(¹⁾多摩永山病院女性診療科・産科)：胎児の予後不良を診断された妊婦，家族と助産師の関わり．第5回日本遺伝看護学会，2006．9．
- 5) 竹山聡美，小谷英太郎¹⁾(¹⁾多摩永山病院内科・循環器内科)：糖尿病専門医がいない施設での療養指導の実際．第11回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，2006．9．
- 6) 飯田美佐子，大谷明子¹⁾，竹埜弥生²⁾，原田浩見³⁾，松田佳美⁴⁾，森加苗愛⁵⁾(¹⁾岩手県立磐井病院，²⁾東京労災病院，³⁾東急病院，⁴⁾財団法人積善会十全総合病院，⁵⁾日本看護協会看護研修学校)：企業での糖尿病初期教育を通して糖尿病ケアシステムの課題を考える．第11回日本糖尿病教育・看護学会学術集会，2006．9．
- 7) 永瀬亜希子，小林美貴：超音波断層法による分娩中の児頭回旋評価に関する検討：内診所見との比較検討．第47回日本母性衛生学会総会・学術集会，2006．11．
- 8) 村上真未子，岩瀬絵利子，石川秀一，緋田雅美：新人看護師支援への取り組み：fish 哲学を取り入れて．第57回日本救急医学会関東地方会，2007．2．

[多摩永山病院放射線科技師室]

研究概要

1. 医師の放射線に対するアンケート調査と院内における放射線防護

医師の養成過程における放射線防護教育の現状と、放射線に対するアンケート調査を行い、院内の放射線防護のあり方について検討する。

2. 放射線被ばくに対する意識調査

放射線診療は現代医療の中でなくてはならない重要な位置を占めているが、医療従事者の教育機関における放射線教育は十分とは言えず、何らかの不安を抱えているケースも見られる。放射線診療に携わる医療従事者の放射線に対する意識調査を行い、医療従事者に必要な放射線教育について考察する。

3. 医師の放射線に対するアンケート調査と院内における放射線防護

医師の養成過程における放射線防護教育の現状と、放射線に対するアンケート調査を行い、院内の放射線防護のあり方について検討する。

4. 放射線検査における介助者の被曝線量測定

放射線検査時に患者の安全確保や体位保持のため医療従事者や患者家族などの一般の人が患者の介助をする場合がある。医師、診療放射線技師、看護師などの医療従事者が職業上受ける被曝は職業被曝として法的規制があり線量限度が存在する。しかし一般の人が介助者として受ける被曝は、医療被曝に分類され線量限度などの法的規制がない。そこで介助する機会の多い撮影部位について介助の状態をシミュレーションして介助者の被曝線量を測定し介助者の被曝低減の資料とする。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 笹沼和智，濱口雄慈，森 克彦：医療被ばく説明用ポケット資料の作成．日本放射線技術学会 東京部会 春季学術大会，2006．5．
- 2) 笹沼和智，濱口雄慈，森 克彦：The nurse's radiation protection education．日本放射線技師会 全国放射線技師総合学術大会，2006．10．
- 3) 笹沼和智，濱口雄慈，森 克彦：医師の放射線に対するアンケート調査と院内における放射線防護．日本放射線技術学会 秋季学術大会，2006．10．
- 4) 高橋克幸，笹沼和智，織田 宏，濱口雄慈，森 克彦：放射線検査における介助者の被曝線量測定．日本放射線技術学会 秋季学術大会，2006．10．

23．千葉北総病院付置施設等

[千葉北総病院内科]

研究概要

内科各領域を網羅する臨床的研究を積極的に行っている。そのため、研究も心臓、肝臓、神経、腎臓、消化器、内分泌および呼吸器疾患と新たに血液内科が加わりほぼ内科領域全般を網羅している。

循環器領域では虚血性心疾患症例を多く有することから経皮的冠動脈インターベンション（PCI）および関連領域で積極的に研究を行っている。とくに血管内視鏡やOCTなど新しい診断技術を駆使し冠動脈プラークや血栓の形成機序解明に取り組んでいる。また、不整脈では電気生理学的検査やカテーテルアブレーションを行っている。心不全では睡眠時無呼吸との問題を研究している。

肝臓では、肝機能障害の患者に対し、各肝炎ウイルスマーカーの測定、画像診断および肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。肝癌に対してはPEIT、R-FA、TAEなどの診療を行い、治療効果を検討している。

神経では、脳梗塞・パーキンソン病に対する医師主導の治験に参加。自主研究としては各種神経マーカーの測定を行っている。

腎臓では、蛋白尿から、急性、慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断、医療を行っている。特に慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では、大腸癌と血液疾患の関連、食道蠕動異常と胸部症状との関連、ヘリコバクターピロリ除菌による胃、十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

甲状腺癌におけるサイログロブリンと糖鎖の役割、甲状腺機能亢進症の診断における核医学検査の有用性について研究している。

呼吸器では、肺癌に対する集学的療法、および各種間質性肺炎での気管支肺胞洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析による診断を行っている。

血液では各種貧血、血小板減少症、造血器腫瘍（急性白血病を除く）などの臨床的研究を行っている。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Seimiya K, Inami S, Takano M, Ohba T, Sakai S, Takano T, Mizuno K : Significance of Plaque Disruption Sites in Acute Coronary Syndrome . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (3) : 141-148 .
- 2) Nakamura H¹⁾, Arakawa K¹⁾, Itakura H¹⁾, Kitabatake A¹⁾, Goto Y¹⁾, Toyota T¹⁾, Nakaya N¹⁾, Nishimoto S¹⁾, Muranaka M¹⁾, Yamamoto A¹⁾, Mizuno K, Ohashi Y¹⁾, MEGA Study G (¹⁾ MEGAstudyGroup) : Primary prevention of cardiovascular disease with pravastatin in Japan (MEGA Study) : a prospective randomised controlled trial . The Lancet 2006 ; 368 (Sept. 30) : 1155-1163 .
- 3) Takano M, Ohba T, Inami S, Seimiya K, Sakai S, Mizuno K : Angioscopic differences in neointimal coverage and in persistence of thrombus between sirolimus-eluting stents after a 6-months implantation . Eur. Heart J 2006 ; 27 : 2189-2195 .
- 4) Mizuno K, The Japanese Coronary Artery Disease (JCAD) Study I : Current Status of the Background of Patients With Coronary Artery Disease in Japan . Circulation Journal 2006 ; 70 (10) : 1256-1262 .
- 5) Takano M, Mizuno K : Late coronary thrombosis in a sirolimus-eluting stent due to the lack of neointimal cov-

erage . European Heart Journal 2007 ; Vol. 27 (No. 10): 1133 .

(2) 綜説 :

- 1) 木股仲恒¹⁾, 高野雅充, 酒井俊太, 水野杏一 (¹⁾内科学第1): 血管内視鏡 . 循環器科 2006 ; 59 (Suppl3): 351-357 .
- 2) 水野杏一 : 不安定プラークの画像評価 . BIO Clinica 2006 ; 21 (6): 52-58 .
- 3) 水野杏一 : Mega study から何を学び, 今後どう臨床にいかすか : エビデンスから日療診療へ サブ解析を含めて . 大阪ハートクラブ 2006 ; 30 (1): 22-23 .
- 4) 水野杏一 : 冠動脈局所病変 : 基礎から臨床へ : 血管内視鏡 : 不安定プラークの同定を目指して . 虚血性心疾患 2006 ; 3 (10): 1727-1731 .
- 5) 水野杏一, 酒井俊太 : 血管内視鏡 . Heart View 2006 ; 10 : 170-171 .
- 6) 内藤博昭¹⁾, 由谷親夫²⁾, 橋本弘行³⁾, 内山真一郎⁴⁾, 水野杏一, 栗林幸夫⁵⁾, 椎名 毅⁶⁾, 中谷 敏⁷⁾, 玉木長良⁸⁾, 福地一樹⁹⁾ (¹⁾国立循環器病センター放射線部門, ²⁾岡山理大理, ³⁾国立病院機構大阪医療センター, ⁴⁾東京女子医大医神経内科, ⁵⁾慶応大学医放射線診断科, ⁶⁾筑波大学大学院システム情報工学研究科, ⁷⁾国立循環器病センター内科心臓血管部門, ⁸⁾北大大学院医学研究科核医学分野, ⁹⁾静岡県総合病院循環器科): 不安定プラークの機能画像診断 . 循環器病研究の進歩 2006 ; XXVII (1): 9-16 .
- 7) 水野杏一 : 試験組織とその機能 . Progress in Medicine 2006 ; 2006 (増刊): 20-23 .
- 8) 水野杏一 : 血管内視鏡検査 . 循環器病の救急診療マニュアル 2007 ; 2 : 127-135 .
- 9) 水野杏一, 宮本倫聡 : 我が国で Revised ATPIII を適応できるか . Heart View 2007 ; 3 : 26-29 .

(3) 症例報告 :

- 1) Yokose N, Shioi Y¹⁾, Sugisaki Y²⁾, Ohaki Y, Ogata K¹⁾, Dan K¹⁾ (¹⁾付属病院血液内科, ²⁾同病理): CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma with an unusual phenotype : cytoplasmic CD20 (+), surface CD20 (-). Leuk Lymphoma 2006 ; (47): 1415-1417 .
- 2) Yokose N, Dan K¹⁾ (¹⁾付属病院血液内科): Pasteurella multocida sepsis, due to a scratch from a pet cat, in a post-chemotherapy neutropenic patient with non-Hodgkin lymphoma . Int J Hematol. 2007 ; 85 : 146-148 .

(4) 研究報告書 :

- 1) Okada S¹⁾, Kuwako T, Nakajo H, Ishihara M, Uchiyama F, Obo R, Yokose N, Hamamoto M (¹⁾千葉北総病院放射線科): Two Cases of Subacute Combined Degeneration : Magnetic Resonance Findings . J Nippon Med Sch 2006 ; (73): pp328-331 .

著 書

- 1) 水野杏一, 大國真一¹⁾ (¹⁾大國医院): [共著] 心血管内視鏡造影 . 内科学I (金澤一郎, 北原光夫, 山口 徹, 小俣政男), 2006 ; pp635-643, 医学書院 .
- 2) Hino M¹⁾, Kobayashi K^{2,3)}, Yoshimura A⁴⁾, Takeda Y⁵⁾, Hisakatu S⁶⁾, Yoneda S²⁾, Gemma A⁴⁾, Moriya H⁷⁾, Kudih S⁴⁾ (¹⁾Division of Internal Medicine, Chiba-Hokusou Hospital of Nippon Medical School, ²⁾Respiratory Section, Saitama Cancer Center, ³⁾Department of Respiratory Medicine, Saitama Medical School, ⁴⁾Department of fourth Internal Medicine, Nippon Medical School, ⁵⁾Department of Respiratory Medicine, International Medical Center of Japan, ⁶⁾Respiratory Section, Hakujuikai Memorial Hospital, ⁷⁾Department of Radiology, Fukushima Medical University, THE EAST JAPAN CHESTERS GROUP (EJCG): [自著] Weekly Administration of Irinotecan (CPT-11) plus Cisplatin for Non-small Cell Lung Cancer . ANTI-CANCER RESEARCH, 2006 ; pp4697-4704, ANTI-CANCER RESEARCH .
- 3) 木股仲恒¹⁾, 高野雅充, 酒井俊太, 水野杏一 (¹⁾内科学第1): [共著] 血管内視鏡 . "動脈硬化の診断マーカー - 検査と意義「循環器科」", 2006 ; pp351-357, 科学評論社 .

- 4) 水野杏一：〔翻訳〕血管内視鏡．カテーテルインターベンション（光藤和明），2006；pp218-221，メディカルビュー．
- 5) 水野杏一：〔自著〕"血管内視鏡による冠動脈病変診断の進歩とその限界"．"冠動脈疾患のNew Concept"（堀正二，山口 徹），2006；pp92-96，中山書店．
- 6) 水野杏一，村上大介：〔共著〕血管内視鏡．動脈硬化診療マニュアル（齋藤 康，山田信博），2006；pp94-98，南江堂．
- 7) 水野杏一：〔自著〕冠動脈血管内視鏡．内科学I（金澤一郎，北原光夫，山口 徹，小俣政男），2006；pp935-937，医学書院．
- 8) 水野杏一，小川 紅：〔共著〕スタチンによる1次予防．循環器（山口 徹，高本眞一，中澤 誠，小室一成），2007；pp121-126，中外医学社．

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 大野則彦：不整脈非薬物療法（カテーテルアブレーション）．第7回印旛循環器カンファランス，2006．5．
- 2) 雪吹周生：メタボリックシンドロームと動脈硬化指標．第7回印旛循環器カンファランス，2006．5．
- 3) 水野杏一：Angioscopy．第15回日本心血管インターベンション学会，2006．6．
- 4) 水野杏一：Mega studyから何を学び，今後どう臨床にいかすか：エビデンスから日療診療へ：サブ解析を含めて．大阪ハートクラブ，2006．6．
- 5) 水野杏一：睡眠時無呼吸症候群と心血管系の病気．第19回健康セミナー，2006．11．

(2) シンポジウム：

- 1) 山本真功，村上大介，田近研一郎，徳山権一，稲見茂信，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳，酒井俊太，水野杏一：ペアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の新生内膜被覆ならびに血栓残存の差：血管内視鏡による検討．第47回日本脈管学会，2006．10．
- 2) 山本真功，水野杏一，富田和憲，村上大介，田近研一郎，徳山権一，稲見茂信，清宮康嗣，高野雅充，大場崇芳：ペアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の新生内膜被覆の差：血管内視鏡による検討．第12回日本血管内治療学会，2006．6．
- 3) 水野杏一，高野雅充，清宮康嗣，岡松健太郎，大場崇芳，雪吹周生，稲見茂信，徳山権一，山本真功，田近研一郎：血管内視鏡による評価．第38回日本動脈硬化学会，2006．7．

(3) パネルディスカッション：

- 1) Hata Y¹⁾，Seino Y²⁾，Tsutamoto T³⁾，K⁴⁾，Hiramitsu S⁵⁾，Yoshikawa T⁶⁾，Yokoyama H⁷⁾，Tanaka K⁸⁾，Mizuno K，Nejima J⁹⁾，Kinoshita M¹⁰⁾（¹⁾ Department of Intensive Care Unit, Chiba-Hokusoh Hospital Nippon Medical School，²⁾ The First Department of Internal Medicine, Nippon Medical School，³⁾ Department of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Shiga University of Medical Science，⁴⁾ Department of Cardiology and Pneumology, Dokkyo University School of Medicine，⁵⁾ Department of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine，⁶⁾ Cardiopulmonary Division, Department of Medicine, Keio University School of Medicine，⁷⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Shizuoka National Hospital，⁸⁾ Department of Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School，⁹⁾ Department of Internal Medicine, Tsurumi University School of Dental Science，¹⁰⁾ Kusatsu General Hospital): Effects of Carperitide (hANP) Treatment on Long-Term Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure．American Heart Association Scientific Sessions 2006 (Chicago, USA)，2006．11．
- 2) 山岸正和¹⁾，廣 高史²⁾，小宮山伸之³⁾，高山忠輝⁴⁾，浦澤一史⁵⁾，森井 功⁶⁾，細川博昭⁷⁾，角辻 暁⁸⁾（¹⁾ 金沢大学循環器内科，²⁾ 山口大学循環器内科，³⁾ 埼玉医科大学循環器内科，⁴⁾ 日本大学循環器内科，⁵⁾ 北海道大

学循環器内科，⁶⁾ 国立循環器病センター心臓血管内科，⁷⁾ 豊橋医療センター循環器内科，⁸⁾ りんくう総合医療センター)：冠動脈不安定粥腫の同定に関する多施設共同研究．日本心臓病学会，2006．9．

- 3) 大場崇芳，酒井俊太，山本真功，真功和憲，村上大介，徳山権一，稲見茂信，清宮康嗣，高野雅充，横山真也¹⁾，畑 典武¹⁾，水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院集中治療室)：急性冠症候群に対する血管内視鏡所見による治療戦略．第47回日本脈管学会，2006．10．

(4) セミナー：

- 1) 江本直也：甲状腺中毒症の鑑別診断と治療．第39回日本甲状腺外科学会学術集会，2006．10．

(5) ランチョンセミナー：

- 1) 水野杏一：我が国の高脂血症の1次予防．日本心臓病学会，2006．9．

(6) 一般講演：

- 1) Emoto N, Ishizaki N, Kunii Y : Difficulty of diagnosis in patients with transient hyperthyroxinemia . The Endocrine society ' s 88th annual meeting (Boston, USA) , 2006 . 6 .
- 2) Mizuno K , Nakamura H²⁾ , MEGA Study G, Nippon Medical School Chiba Hokusoh H, Mitsukoshi Health and welfare F (¹⁾ MEGA Study Group , ²⁾ Mitsukoshi Health and welfare Foundation) : Management of Elevated Cholesterol in the Primary Prevention Group of Adult Japanese (MEGA) Study-Main Results and Sub Analysis- . Asian Pacific Perspectives , 2006 . 7 .
- 3) 清宮康嗣，高野雅充，宮本倫聡，山本真功，小川 紅，村上大介，田近研一郎，淀川顕司，徳山権一，稲見茂信，大野則彦，大場崇芳，雪吹周生，水野杏一：非責任血管における破綻プラークの経時的変化．第20回日本心臓血管内視鏡学会，2006．10．
- 4) 秋山 豪：健診を契機に発見された Large coronary-pulmonary artery fistula の1例．第38回千葉冠動脈疾患研究会，2006．5．
- 5) 勝部乙大，金澤義一，吉岡正人，瀬谷知子，横井公良，横山真也¹⁾，畑 典武¹⁾，琴寄 誠，岸田輝幸，水野杏一，山下精彦，田中宣威，田尻 孝²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院集中治療室，²⁾ 外科学第1) : アメーバ性肝膿瘍に合併した脳膿瘍の1例．第289回日本消化器病学会関東支部例会，2006．5．
- 6) 石崎 晃，江本直也：甲状腺中毒症の鑑別診断における99mTcO-甲状腺取り込み率測定の限界．第79回日本内分泌学会学術総会，2006．5．
- 7) 楠 裕司¹⁾，小野 靖¹⁾，上田有香¹⁾，田中庸介¹⁾，小俣雅稔¹⁾，上原隆志¹⁾，吉野直之¹⁾，窪倉浩俊¹⁾，日野光紀¹⁾，大秋美治²⁾，工藤翔二³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院呼吸器センター，²⁾ 同病理部，³⁾ 内科学第4) : PET 陽性所見にて開胸肺生検を行い COP と診断された1例．日本呼吸器学会関東地方会，2006．5．
- 8) 村上大介，高野雅充，横瀬知人，大場嵩芳，水野杏一：Coronary lumen loss caused by Sirolimus Eluting Stent Fracture can occur within w weeks after its implantation . 第15回日本心血管インターベンション学会，2006．6．
- 9) 日野光紀¹⁾，上原隆志²⁾，小野 靖¹⁾，田中庸介¹⁾，小俣雅稔¹⁾，上田有香¹⁾，楠 裕司¹⁾，工藤翔二³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院呼吸器センター，²⁾ 同呼吸器院内感染対策委員会，³⁾ 内科学第4) : OP219 結核病棟を持たない一般病院における抗菌検出状況と結核院内感染対策について．第46回日本呼吸器学会学術講演会，2006．6．
- 10) 進士恵美，横山真也，河野美貴子，鈴木雄一郎，小林宣明，清宮康嗣，高野雅光，荒井 悟，大秋美治，雪吹周生，今泉孝啓，畑 典武，水野杏一：広範囲腸管壊死の1死亡例．第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，2006．8．
- 11) 小林理恵¹⁾，野本剛史¹⁾，水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院中央検査室)：腎細胞ガンとの鑑別困難であった腎血管筋脂肪腫の1例．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 12) 石橋里子¹⁾，野本剛史¹⁾，水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院中央検査室)：心電図検査実施時，患者自身から得られる情報収集の重要性について．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．

- 13) 木村裕子¹⁾, 野本剛史¹⁾, 水野杏一⁽¹⁾ (千葉北総病院中央検査室): 術前心機能精査に経胸壁心エコー図検査が有用だった1例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 14) 雪吹周生, 栗矢勝宏¹⁾, 大塚敏昭²⁾, 小谷英太郎³⁾, 田寺 長³⁾, 草間芳樹³⁾, 新 博次³⁾, 森川正子⁴⁾, 寺澤孝明⁴⁾ (1) 東京薬科大学薬学部総合医療薬学, 2) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, 3) 同多摩永山病院内科・循環器内科, 4) 東京薬科大学薬学部総合医療薬学): 高血圧患者の認知機能に影響する因子・アンギオテンシン受容体拮抗薬とカルシウム拮抗薬併用の意義. 日本心臓病学会, 2006. 9.
- 15) 雪吹周生, 安掛美紀¹⁾, 大塚俊昭²⁾, 小谷英太郎³⁾, 田寺 長³⁾, 草間芳樹³⁾, 新 博次³⁾, 森川正子⁴⁾, 寺澤孝明⁴⁾ (1) 東京薬科大学薬学部総合医療薬学, 2) 日本医科大学衛生学・公衆衛生学, 3) 同多摩永山病院内科・循環器内科, 4) 京薬科大学薬学部総合医療薬学): 軽症糖尿病患者における Pioglitazone の心肥大退縮効果は血中 Adiponectin 値に関係する. 日本心臓病学会, 2006. 9.
- 16) 秋山 豪, 大場崇芳, 横瀬知人¹⁾, 進士恵美¹⁾, 宮本倫聡, 山本真功, 富田和憲, 小川 紅, 村上大介, 淀川顕司, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 高野雅光, 大野則彦, 雪吹周生, 畑 典武, 水野杏一, (1) 千葉北総病院集中治療室): 健診を契機に発見された巨大な管動脈 肺動脈瘤の1例. 第201回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006. 9.
- 17) 山本真功, 岡崎大武, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 横山真也¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 水野杏一 (1) 千葉北総病院集中治療室): ペアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の血栓残存の差: 血管内視鏡による検討. 第20回日本心臓血管内視鏡学会, 2006. 10.
- 18) 岡松健太郎, 稲見茂信, 横山真也¹⁾, 高野雅充, 清宮康嗣, 大場崇芳, 田近研一郎, 雪吹周生, 水野杏一 (1) 千葉北総病院集中治療室): Silent Plaque と Culprit Plaque Rupture の血管内視鏡による比較. 第20回日本心臓血管内視鏡学会, 2006. 10.
- 19) 岡崎大武, 山本真功, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 横山真也¹⁾, 酒井俊太, 水野杏一 (1) 千葉北総病院集中治療室): 遅発性血栓を血管内視鏡にて観察しえた2例: 血管内視鏡所見からの遅発性血栓症発症の考察. 第20回日本心臓血管内視鏡学会, 2006. 10.
- 20) 村上大介, 高野雅充, 山本真功, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 清宮康嗣, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一: ペアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の新生内膜被覆の差. 第20回日本心臓血管内視鏡学会, 2006. 10.
- 21) 中山修一¹⁾, 須賀絵里子¹⁾, 岩崎岳洋¹⁾, 水野杏一, 荒井恒憲¹⁾ (1) 慶應義塾大学大学院理工学研究科基礎理工学専攻): Ho : YAGレーザー誘起水蒸気気泡による血管内視鏡視野確保法・3. 第20回日本心臓血管内視鏡学会, 2006. 10.
- 22) 横瀬紀夫, 大秋美治, 檀 和夫¹⁾ (1) 付属病院血液内科): 末血で染色体異常を認め clonal な増殖が疑われる T細胞増多症を伴った T-cell rich B-cell lymphoma (TCRLBCL). 第68回日本血液学会・第48回日本臨床血液学会合同総会, 2006. 10.
- 23) 淀川顕司, 大野則彦, 雪吹周生, 水野杏一, 清野精彦¹⁾, 小原俊彦¹⁾, 高山英男¹⁾, 小林義典¹⁾, 加藤真雄¹⁾, 高野照夫¹⁾, 新 博次²⁾ (1) 内科学第1, 2) 多摩永山病院内科): 肺サルコイドーシス患者における潜在性心筋障害の早期診断. 第13回心不全と不整脈フォーラム, 2006. 11.
- 24) 山本真功, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顕司, 徳山権一, 稲見茂信, 高野雅充, 清宮康嗣, 大野則彦: 血管内視鏡を用いたステント血栓症の検討. 第29回循環器合同カンファランス, 2006. 11.
- 25) 山本真功, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松健太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一: チクロピジン内服中にペアメタルステント留置43ヶ月後の遅発性血栓症を血管内視鏡にて観察しえた1例. 第202回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2006. 12.
- 26) 田近研一郎, 山本真功, 村上大介, 稲見茂信, 岡松健太郎, 徳山権一, 淀川顕司, 清宮康嗣, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一, 小谷一夫: プラークの色調とMDA-LDLの関係. 第20回日本冠疾患学

会, 2006 . 12 .

- 27) 清宮康嗣, 高野雅充, 宮本倫聡, 山本真功, 小川 紅, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顯司, 徳山権一, 稲見茂信, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一: 非責任血管における破綻プラークの経時的变化 (血管内視鏡による観察). 第20回日本冠疾患学会, 2006 . 12 .

(7) Case-based Educational Courses :

- 1) Mizuno K : Comparison of culprit and non-culprit lesions in patients with multiple plaque rupture and acute coronary syndromes . Complex Catheter Therapeutics 2006 (Kobe), 2006 . 9 .

(8) Poster Session English :

- 1) Yodogawa K , Seino Y¹⁾ , Ohara T¹⁾ , Takayama H¹⁾ , Ohno N , Ibuki C , Kobayashi Y¹⁾ , Mizuno K , Katoh T , Takao T¹⁾ (¹⁾ First Dept. of Internal Medicine): Therapeutic Monitoring of Corticosteroids in Patients with Cardiac Sarcoidosis : Application of Signal Averaged Electrocardiography . 第71回日本循環器学会 (The 71th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society) (Kobe), 2006 . 3 .
- 2) Yodogawa K , Ohara T¹⁾ , Morita N¹⁾ , Takayama H¹⁾ , Ohno N , Miyauchi Y¹⁾ , Ibuki C , Kobayashi Y¹⁾ , Mizuno Kyoichi , Katoh T¹⁾ , Takano T¹⁾ (¹⁾ First Dept. of Internal Medicine): Detection of Latent Conduction Abnormalities in Right Ventricular Outflow Tract Tachycardia Using High Resolution Electrocardiogram . 第71回日本循環器学会 (The 71th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society) (Kobe), 2006 . 3 .
- 3) Yamamoto M , Murakami D , Tajika K , Tokuyama K , Inami S , Seimiya K , Takano M , Ohba T , Ibuki C , Mizuno K : Angioscopic Differences in Neointimal Coverage and in Thrombus Persistence between Sirolimus-Eluting Stent and Bare Metal Stent after a 6-month implantation . 第71回日本循環器学会 (The 71th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society), 2006 . 3 .
- 4) Murakami D , Yamamoto M , Tajika K , Inami S , Okamatsu K , Seimiya K , Takano M , Ohba T , Ibuki C , Mizuno K : Incomplete Neointimal Coverage of Sirolimus-Eluting Stent 3 Months after Implantation : Evaluation by Optical Coherence Tomography . 第71回日本循環器学会 (The 71th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society), 2006 . 3 .
- 5) Terashima M¹⁾ , Akasaka T²⁾ , Hayashi T³⁾ , Mizuno K , Muramatsu T⁴⁾ , Masato N⁵⁾ , Nakamura S²⁾ , Saitoh S⁶⁾ , Suzuki T¹⁾ , Takayama T⁶⁾ , Junichi J²⁾ , Yamaguchi T²⁾ (¹⁾ Dept. of Cardiology, Toyohashi Heart Center , ²⁾ Toranomon Hospital , ³⁾ Dept. of Cardiology, Kinki University School of Medicine , ⁴⁾ Dept. of Cardiology, Kawasaki Medica School Hospital , ⁵⁾ Dept. of Tokyo University Ohashi Medical Center , ⁶⁾ Dept. of Advanced Medical Science, Nihon University School of Medicine): Identification of Vascular Responses to Coronary Stenting by Optical Coherence Tomography : a Sub-analysis from the Japan Multi-center Safety Trial . 第71回日本循環器学会 (The 71th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society), 2006 . 3 .
- 6) Kenichiro T , Yamamoto M , Murakami D , Inami S , Seimiya K , Okamatsu K , Takano M , Ohba Takayoshi , Ibuki C , Mizuno K : Malondialdehyde-modified LDL (MDA-LDL) is a Novel Marker as Instability of Coronary Plaque : Angioscopic Analysis . 第71回日本循環器学会 (The 71th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society), 2006 . 3 .
- 7) Yamamoto M , Okamatsu K , Yokoyama S , Inami S , Takano M , Seimiya K , Ohno N , Ohba T , Tokuyama K , Tajika K , Hata N¹⁾ , Mizuno K (¹⁾ Hokusho CCU): Delayed Neointimal Coverage of Sirolimus-Eluting Stent and Lesion Characteristics : A Study with Serial Coronary Angioscopy . 第71回日本循環器学会 (The 71th Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society), 2006 . 3 .

(9) ポスター：

- 1) 田中庸介, 日野光紀, 上田有香, 上原隆志, 小俣雅稔, 小野 靖, 森川哲行¹⁾, 武内浩一郎¹⁾, 工藤翔二²⁾
(¹⁾ 横浜労災病院呼吸器科, ²⁾ 日本医科大学付属病院内科学第4): PP231 Systemic effects of COPD に於ける COPD 患者でみられる肺循環障害の位置づけの検討. 日本呼吸器学会総会, 2006. 6.
- 2) 小俣雅稔, 楠 裕司, 上田有香, 上原隆志, 田中庸介, 小野 靖, 日野光紀, 工藤翔二¹⁾, 木田厚瑞¹⁾ (¹⁾ 内科学第4): PP219 COPD の重症度と気道閉塞可逆性試験の関連性に関する研究. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 3) 北村和広¹⁾, 安藤真弘¹⁾, 小斉平聖治²⁾, 野呂林太郎²⁾, 峯岸裕司²⁾, 奈良道哉²⁾, 岡野哲也²⁾, 清家正博²⁾, 野村浩一郎³⁾, 弦間昭彦²⁾, 吉村明修²⁾, 日野光紀⁴⁾, 工藤翔二²⁾ (¹⁾ 慈山会医学研究所付属坪井病院内科, ²⁾ 日本医科大学内科学第4, ³⁾ 静岡医療センター呼吸器科, ⁴⁾ 日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター): PP342 進展型小細胞癌, 癌性胸膜炎合併限局型小型細胞癌に対するカルボプラチン+エトポシドと分割シスプラチン+塩酸イリノテカン交替化学療法第二相試験. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 4) 上原隆志, 日野光紀, 小野 靖, 小俣雅稔, 田中庸介, 工藤翔二²⁾ (¹⁾ 内科学第4): PP385 教育病院における待期的気管支鏡検査の診断的有用性. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 5) 稲見茂信, 宮本倫聡, 山本真功, 小川 紅, 村上大介, 田近研一郎, 淀川顕司, 徳山権一, 清宮康嗣, 高野雅充, 大野則彦, 大場崇芳, 雪吹周生, 水野杏一: 血漿中のCRPは黄色プラークで吸収されるか?. 第20回日本心臓血管内視鏡学会, 2006. 10.
- 6) 山本真功, 岡崎大武, 宮本倫聡, 村上大介, 田近研一郎, 徳山権一, 稲見茂信, 岡松太郎, 清宮康嗣, 高野雅充, 大場崇芳, 横山真也¹⁾, 酒井俊太, 水野杏一 (¹⁾ 千葉北総病院集中治療室): 薬剤溶出性ステント留置後3ヶ月後にストラット周囲から張り出した構造物: Optical Coherence Tomography と血管内視鏡所見の対比. 第20回日本心臓血管内視鏡学会, 2006. 10.

(10) ポスターディスカッション：

- 1) 藤川文字¹⁾, 滝口裕一¹⁾, 水野里子¹⁾, 黒須克志¹⁾, 笠原靖紀¹⁾, 潤間隆宏²⁾, 日野光紀⁶⁾, 新島真文³⁾, 鈴木公典⁴⁾, 長尾啓一⁵⁾, 巽浩一郎¹⁾, 栗山喬之¹⁾ (¹⁾ 千葉大学呼吸器内科, ²⁾ 最成病院, ³⁾ 成田日本赤十字病院, ⁴⁾ 千葉県民保健予防財団, ⁵⁾ 千葉大学総合安全衛生管理機構, ⁶⁾ 日本医科大学千葉北総病院): PD10 間接レントゲン検診にて発見されずCT肺腫検診にて発見された肺腫の検討. 題46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.
- 2) 杣 知行^{1, 2, 3)}, 日野光紀¹⁾, 木田厚瑞²⁾, 工藤翔二²⁾ (¹⁾ 日本医科大学千葉北総病院呼吸器センター, ²⁾ 同内科学第4, ³⁾ 埼玉医科大学総合医療センター呼吸器内科): PD56 急性喘息発作患者に対するnon-invasive positive pressure ventilation (NPPV) による治療効果に関する研究. 第46回日本呼吸器学会学術講演会, 2006. 6.

[千葉北総病院集中治療室]

研究概要

千葉北総病院集中治療室では救急ならびに重症循環器疾患を主体に臨床研究を重ねている。

昨年度から継続している研究課題は、1) 急性冠症候群におけるカテーテル治療成績の向上に係わる、血管内視鏡ならびに超音波検査所見の有用性の検討。2) 急性心筋梗塞の予後推定に関する冠動脈血流評価の意義についての研究。3) 急性大動脈解離の短期ならびに長期予後に関する研究。4) 全身性炎症反応症候群ならびに多臓器不全に対する急性血液浄化療法の有用性についての研究。5) 重症疾患におけるサイトカインの関与についての研究。6) 体液サイトカインと循環器疾患についての研究。7) 循環器疾患における各種薬物療法の有用性に関する研究。各々の課題について、日本循環器学会、日本集中治療医学会、米国内臓協会年次集会、日本心臓血管インターベンション学会、日

本心臓病学会などで発表した。とりわけ米国心臓協会年次集会での発表は、国内10施設の共同研究の代表者として、重症心不全患者の予後改善につながる治療の報告であった。

発表に至らなかった課題についても、来年度以降の発表に向けデータ収集と解析を行っている。

平成19年度は、上記課題の継続・向上に加え、1)集中治療を必要とする重症患者のモニタリングについての研究、2)冠動脈再灌流傷害についての研究、3)うっ血性心不全の病態と予後推測に関わる研究についての臨床研究を行う。

集中治療室は院内全ての診療科の患者様を管理することも少なくないため、内科、外科、救命救急センターなどとの共同研究や症例報告も業績に含まれる。今後も、これら共同研究・症例報告についても業績数が増えるように努力したいと思う。

平成18年度は業績伸び悩みの感が否めませんでしたので、平成19年度は少しでも挽回できることを目標にする。

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) Hata N : Air Ambulance System and AMI . Advances in Heart Disease (International Academy of Cardiology) 2006 ; 347-350 .
- 2) 横山真也, 品田卓郎, 椎葉邦人, 鈴木雄一朗, 白壁章宏, 今泉孝敬, 畑 典武 : PMX DHP療法の効果, 導入時期についての検討 . エンドトキシン血症救命治療研究会誌 2006 ; 10 (1) : 237-240 .

(2) 綜説：

- 1) Hata N : エコノミークラス症候群 (深部静脈血栓症) . medical forum CHUGAI 2007 ; 11 (1) : 31-31 .

著書

- 1) 畑 典武 : [分担] 急性冠症候群 . 一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編 , 益子邦洋監訳) , 2006 ; pp34-35 , メディカルサイエンスインターナショナル .
- 2) 畑 典武 : [分担] 不整脈 . 一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編 , 益子邦洋監訳) , 2006 ; pp36-37 , メディカルサイエンスインターナショナル .
- 3) 畑 典武 : [分担] 心不全と肺水腫 . 一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編 , 益子邦洋監訳) , 2006 ; pp38-39 , メディカルサイエンスインターナショナル .
- 4) 畑 典武 : [分担] 心肺蘇生 . 一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編 , 益子邦洋監訳) , 2006 ; pp40-41 , メディカルサイエンスインターナショナル .
- 5) 畑 典武 : [分担] 心臓緊急症 . 一目でわかるクリティカルケア (Richard Leach 編 , 益子邦洋監訳) , 2006 ; pp42-43 , メディカルサイエンスインターナショナル .

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 畑 典武 : 1次救急処置ならびにAEDの使用 . 三郡医師会航空機対策協議会研修会 , 2007 . 2 .

(2) パネルディスカッション：

- 1) 大場崇芳¹⁾, 酒井俊太¹⁾, 山本真功¹⁾, 富田和憲¹⁾, 村上大介¹⁾, 徳山権一¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 高野雅充¹⁾, 横山真也, 畑 典武, 水野杏一¹⁾ (¹⁾千葉北総病院内科) : 急性冠症候群に対する血管内視鏡所見による治療戦略 . 第47回日本脈管学会総会 , 2006 . 10 .

(3) 一般講演：

- 1) Hata N , Seino Y¹⁾ , Tsutamoto T²⁾ , Kaneko N³⁾ , Hiramitsu S⁴⁾ , Yoshikawa T⁵⁾ , Yokoyama H⁶⁾ , Tanaka K⁷⁾ , Mizuno K⁸⁾ , Nejima J⁹⁾ , Kinoshita M¹⁰⁾ (¹⁾ The First Department of Internal Medicine, Nippon Med-

- ical School , ²⁾ Department of Cardiovascular and Respiratory Medicine, Shiga University of Medical Science , ³⁾ Department of Cardiology and Pneumology, Dokkyo University School of Medicine , ⁴⁾ Department of Internal Medicine, Fujita Health University School of Medicine , ⁵⁾ Cardiopulmonary Division, Department of Medicine, Keio University School of Medicine , ⁶⁾ Department of Cardiovascular Medicine, Shizuoka National Hospital, Shizuoka , ⁷⁾ Intensive and Coronary Care Unit, Nippon Medical School , ⁸⁾ Department of Cardiovascular Center, Chiba-Hokusoh Hospital, Nippon Medical School , ⁹⁾ Department of Internal Medicine, Tsu-rumi University School of Dental Science , ¹⁰⁾ Kusatsu General Hospital): Effects of Carperitide on Cardiore-nal Protection and Prognosis in Patients with Acute Decompensated Heart Failure. PROTECT Study . 2006 AHA Scientific Session (Chicago) , 2006 . 11 .
- 2) Shirakabe A , Yokoyama S , Okazaki H , Kikuchi A , Kobayashi N , Shiiba K , Shinada T , Imaizumi T , Hata N : Dignostic Score of Acute Aortic Dissection at Emergency Room . 第71回日本循環器学会学術集会 , 2007 . 3 .
- 3) Yamamoto M¹⁾ , Okamatsu K¹⁾ , Yokoyama S , Inami S¹⁾ , Takano M¹⁾ , Seimiya K¹⁾ , Ohba T¹⁾ , Tokuyama K¹⁾ , Tajika K¹⁾ , Hata N , Mizuno K¹⁾ (¹⁾ Cardiovascular Center, Chiba Hokusoh Hospital): Delayed Neoin-timal Coverage of Sirolimus-Eluting Stents and Lesion Characteristics : A Study with Serial Coronary An-gioscopy . 第71回日本循環器学会学術集会 , 2007 . 3 .
- 4) 鈴木雄一朗 , 横山真也 , 白壁章宏 , 椎葉邦人 , 品田卓郎 , 今泉孝敬 , 畑 典武 : 人工呼吸管理下で帰国した下腿壊死を伴う急性心筋梗塞に対し3枝完全血行再建 , 動脈血栓除去 , 下肢切断術を施行した1例 . 第28回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会 , 2006 . 5 .
- 5) 勝部乙大¹⁾ , 金澤義一¹⁾ , 瀬谷知子¹⁾ , 横井公良¹⁾ , 横山真也 , 畑 典武 , 琴寄 誠²⁾ , 岸田輝幸²⁾ , 水野杏一²⁾ , 山下精彦¹⁾ , 田中宣威¹⁾ , 田尻 孝³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科 , ²⁾ 同内科 , ³⁾ 外科学第1): アメーバ性肝膿瘍に合併した脳膿瘍の1例 . 第289回日本消化器病学会関東支部例会 , 2006 . 5 .
- 6) 進士恵美 , 横山真也 , 河野美貴子 , 鈴木雄一朗 , 小林宣明 , 清宮康嗣¹⁾ , 高野雅充¹⁾ , 新井 悟²⁾ , 大秋美治²⁾ , 雪吹周生¹⁾ , 今泉孝敬 , 畑 典武 , 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科 , ²⁾ 同病理部): 広範囲腸管壊死の1死亡例 . 第15回日本集中治療医学会関東甲信越地方会 , 2006 . 8 .
- 7) 秋山 豪¹⁾ , 大場崇芳¹⁾ , 廣瀬知人¹⁾ , 進士恵美¹⁾ , 宮本倫聡¹⁾ , 山本真功¹⁾ , 富田和憲¹⁾ , 小川 紅¹⁾ , 村上大介¹⁾ , 淀川顕司¹⁾ , 徳山権一¹⁾ , 稲見茂信¹⁾ , 清宮康嗣¹⁾ , 高野雅充¹⁾ , 大野則彦¹⁾ , 雪吹周生¹⁾ , 畑 典武 , 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科): 健診を契機に発見された巨大な冠動脈 肺動脈瘤の1例 . 第201回日本循環器学会関東甲信越地方会 , 2006 . 9 .
- 8) 進士恵美 , 横山真也 , 外岡美香 , 國保倫子 , 菊池有史 , 白壁章宏 , 小林宣明 , 鈴木雄一朗 , 品田卓郎 , 畑 典武 : 急性広範囲腸管壊死の1例 . 第20回千葉県重症患者管理研究会 , 2006 . 9 .
- 9) 白壁章宏 , 横山真也 , 岡崎大武 , 一木邦彦 , 鈴木雄一朗 , 椎葉邦人 , 品田卓郎 , 今泉孝敬 , 畑 典武 : 急性大動脈解離の初診時スコアリング . 日本心臓病学会 , 2006 . 9 .
- 10) 山本真功¹⁾ , 岡崎大武¹⁾ , 宮本倫聡¹⁾ , 村上大介¹⁾ , 田近研一郎¹⁾ , 徳山権一¹⁾ , 稲見茂信¹⁾ , 岡松健太郎¹⁾ , 清宮康嗣¹⁾ , 高野雅充¹⁾ , 大場崇芳¹⁾ , 横山真也 , 酒井俊太¹⁾ , 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科): ペアメタルステントと薬剤溶出性ステント留置後の血栓残存の差 : 血管内視鏡による検討 . 第20回日本心臓血管内視鏡学会学術研究集会 , 2006 . 10 .
- 11) 岡松健太郎¹⁾ , 稲見茂信¹⁾ , 横山真也 , 高野雅充¹⁾ , 清宮康嗣¹⁾ , 大場崇芳¹⁾ , 田近研一郎¹⁾ , 雪吹周生¹⁾ , 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科): Silent Plaque Rupture と Culprit Plaque Rupture の血管内視鏡による比較 . 第20回日本心臓血管内視鏡学会学術研究集会 , 2006 . 10 .
- 12) 岡崎大武¹⁾ , 山本真功¹⁾ , 宮本倫聡¹⁾ , 村上大介¹⁾ , 田近研一郎¹⁾ , 徳山権一¹⁾ , 稲見茂信¹⁾ , 岡松健太郎¹⁾ , 清宮康嗣¹⁾ , 高野雅充¹⁾ , 大場崇芳¹⁾ , 横山真也 , 酒井俊太¹⁾ , 水野杏一¹⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科): 遅発性血栓症

を血管内視鏡にて観察しえた2例：冠動脈エコーによる冠血流速波形での検討．第20回日本心臓血管内視鏡学会学術研究集会，2006．10．

- 13) 山本真功¹⁾，岡崎大武¹⁾，宮本倫聡¹⁾，村上大介¹⁾，田近研一郎¹⁾，徳山権一¹⁾，稲見茂信¹⁾，岡松健太郎¹⁾，清宮康嗣¹⁾，高野雅充¹⁾，大場崇芳¹⁾，横山真也，酒井俊太¹⁾，水野杏一¹⁾(¹⁾千葉北総病院内科)：薬剤溶出性ステント留置3ヵ月後にストラット周囲から張り出した構造物：Optical Coherence Tomography と血管内視鏡所見との対比．第20回日本心臓血管内視鏡学会学術研究集会，2006．10．
- 14) 小林宣明，横山真也，菊池有史，白壁章宏，鈴木雄一朗，品田卓郎，畑 典武：ショック状態を呈した梗塞後心膜炎の1例．第202回日本循環器学会関東甲信越地方会，2006．12．
- 15) 白壁章宏，畑 典武，横山真也，品田卓郎，鈴木雄一朗，小林宣明，菊池有史：胸水中のサイトカインの臨床的意義についての検討．第34回日本集中治療医学会学術集会，2007．3．

[千葉北総病院リハビリテーション科]

研究概要

1. 筋電信号記録と電気刺激の2つの機能を同一の表面電極で兼用できる2チャンネルポータブル電気刺激装置を使用し，麻痺筋から記録された筋電積分値に比例して増幅された電気刺激を与えることによって，さらに筋収縮を促すパワーアシストタイプの機能的電気刺激効果を検討している．脳卒中片麻痺患者の麻痺側手根伸筋と総指伸筋において，手関節伸展，手指伸展促通と物品把持移動からなる訓練を施行し，訓練前後での手関節，手指関節の可動域，被験筋の root mean square (RMS)，巧緻性の変化を計測パラメータとしている．手指関節可動域，手根伸筋のRMS，巧緻動作の改善が認められた．筋電比例式電気刺激は，きめ細かな筋収縮を促通し巧緻動作訓練も可能な利点があり，筋収縮の筋固有感覚が入力刺激となって感覚運動統合の再構築を促す可能性が推察される．また，光トポグラフィーを用いて機能的電気刺激が脳循環に与える影響を検討する．
2. 48チャンネル光トポグラフィーを用いて，脳卒中急性期の座位，立位などの基本動作訓練が脳循環に与える影響を検討し，急性期脳卒中リハビリテーションの安全性と有用性を検討する．
3. 脳の可塑性を検討する基礎的検討として，124チャンネルの脳磁図を用いて手指・手関節運動時の脳神経活動の局在，運動準備電位との関連を検討する．
4. 回復期～慢性期の脳卒中片麻痺患者の麻痺側下肢のうっ血および深部下肢静脈血栓症について調査し，脳梗塞患者のDVT合併頻度，それらの危険因子および血栓予防薬との関係について検討する．

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) Hara Y, Muraoka Y¹⁾(¹⁾ Faculty of Rehabilitation School of Health Sciences, Fujita Health University) : Power-assisted functional electrical stimulation home program to improve hemiparetic upper extremity function. . International FES society 2006 ; 11 (1): 199-201 .
- 2) Hara Y, Ogawa S, Muraoka Y¹⁾(¹⁾ Faculty of Rehabilitation School of Health Sciences, Fujita Health University) : Hybrid Power-Assisted Functional Electrical Stimulation to Improve Hemiparetic Upper Extremity Function . American Journal of Physical Medicine & Rehabilitation 2006 ; 85 (12): 977-985 .
- 3) 小川真司，原 行弘，有田元英¹⁾，高橋 修²⁾，里宇明元³⁾(¹⁾有田内科整形リハビリクリニック，²⁾市川市リハビリテーション病院，³⁾慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室) : Miller Fisher Syndromeにおける経頭蓋磁気刺激を使用した中枢伝導時間について．末梢神経 2006 ; 17 (2): 249-252 .

著書

- 1) 原 行弘：〔共著〕外傷後のリハビリテーション：多発外傷．NEW MOOK 整形外科：特集リハビリテーション（越智隆弘・菊地臣一），2007；pp258-264，金原出版．

学会発表

(1) 招待講演：

- 1) 原 行弘：脳卒中リハビリテーションのピットフォールと新しい治療戦略．第1回 Tokyo Stroke Management Forum，2006．12．

(2) 一般講演：

- 1) Hara Y, Muraoka Y¹⁾ (¹⁾ Faculty of Rehabilitation School of Health Sciences, Fujita Health University): Effect of Power-Assisted Functional Electrical Stimulation on Hemiparetic Upper Extremity Function . 11th Annual Conference of the International FES Society (Zao), 2006 . 9 .
- 2) 原 行弘，小川真司，辻内和人：回復期 慢性期の脳梗塞例に合併する下肢深部静脈血栓症と抗血栓薬．第43回日本リハビリテーション医学会学術集会，2006．6．
- 3) 原 行弘，小川真司，辻内和人，村岡慶裕¹⁾ (¹⁾ 藤田保健衛生大学衛生学部): パラメーター記憶機能付パワーアシスト TES 新型器による片麻痺上肢促通ホームプログラム (第2報) ．第43回日本リハビリテーション医学会学術集会，2006．6．
- 4) 小川真司，原 行弘，辻内和人，高橋正憲¹⁾，里宇明元²⁾ (¹⁾ 東京歯科大学市川総合病院，²⁾ 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室): 脳磁図を用いた随意運動後の大脳皮質感覚野反応の定量化について．第43回日本リハビリテーション医学会学術集会，2006．6．
- 5) 小川真司，原 行弘，有田元英¹⁾，高橋 修²⁾，里宇明元³⁾ (¹⁾ 有田内科整形リハビリクリニック，²⁾ 市川市リハビリテーション病院，³⁾ 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室): Miller Fisher Syndrome における経頭蓋磁気刺激を使用した中枢伝導時間について．第17回日本末梢神経学会学術集会，2006．8．
- 6) 原 行弘，清水喜由¹⁾，小塚和豊，江崎泰秀¹⁾，上倉直美¹⁾，高橋加津恵¹⁾ (¹⁾ 航空フォーラム): 空港バリアフリーをめざした高齢者・障害者支援活動．第52回日本宇宙航空環境医学会大会，2006．11．
- 7) 原 行弘，小川真司，辻内和人：排便障害に対する肛門括約筋筋電図バイオフィードバック療法．第36回日本臨床神経生理学会学術大会，2006．11．
- 8) 小川真司，原 行弘，田中慶太¹⁾，高橋正憲²⁾，里宇明元³⁾ (¹⁾ 東京電機大学先端工学研究所，²⁾ 東京歯科大学市川総合病院，³⁾ 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室): 運動様式の違いによる運動誘発磁場の脳皮質運動野と感覚野の反応の相違について．第36回日本臨床神経生理学会学術大会，2006．11．
- 9) 小川真司，原 行弘，田中慶太¹⁾，高橋正憲²⁾，里宇明元³⁾ (¹⁾ 東京電機大学先端工学研究所，²⁾ 東京歯科大学市川総合病院，³⁾ 慶應義塾大学医学部リハビリテーション医学教室): 運動様式の違いによる運動誘発磁場の脳皮質運動野と感覚野の反応の相違について．第7回脳磁場ニューロイメージング，2006．12．
- 10) 原 行弘，小川真司，辻内和人：回復期 慢性期の脳梗塞例に合併する下肢深部静脈血栓症と抗血栓薬．第35回日本脳卒中学会総会，2007．3．

[千葉北総病院病理部]

研究概要

臨床各科との連携のもと，臨床病理学的検討を継続，実施した．

1) 乳腺腫瘍

乳癌症例を中心に，組織学的，細胞診断学的，免疫組織学的，電子顕微鏡検索を継続中である．

2) 泌尿生殖器腫瘍

子宮、卵巣などの女性生殖器及び腎尿路系に発生する腫瘍性病変の形態学的、細胞生物学的特性につき、臨床的、画像診断学的所見を合わせ検索を進行中である。

3) 消化管腫瘍

大腸癌、GIST、EBウイルス関連胃癌などの消化管腫瘍に関する臨床病理学的検討を進行中である。特に、GISTに関してはc-kit遺伝子の検索を、また、胃癌症例については、EBER in situ hybridizationの実施を含めた症例の解析を進行中である。

4) 脳腫瘍圧挫細胞診検体の検討：迅速診断に供される脳腫瘍症例に対し、圧挫細胞診標本を用いた腫瘍圧挫細胞診の検討を継続中である。

5) 神経変性疾患：アルツハイマー病を中心とする中枢神経変性疾患の病態および発症機構の解析を第二内科、第二病理などとの共同研究として継続中である。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Uemura R¹⁾, Tanabe J¹⁾, Yokoyama H¹⁾, Ohaki Y (¹⁾Department of Internal Medicine, Nippon Medical School): Impact of histological plaque characteristics on intravascular ultrasound parameters at culprit lesions in coronary artery disease . Int Heart J 2006 ; 47 (5) : 683-693 .
- 2) Shinji S¹⁾, Naito Z²⁾, Ishiwata T²⁾, Nakazawa N²⁾, Tanaka N¹⁾, Yokoi K¹⁾, Seya T¹⁾, Kanazawa Y¹⁾, Yamada T¹⁾, Takahashi Y¹⁾, Koizumi M , Teranishi N , Ohaki Y , Tajiri T (¹⁾Department of Surgery, Chiba-Hokuso hospital, Nippon Medical School , ²⁾Department of Pathology, Nippon Medical School , ³⁾Department of Surgery for Organ Function and Biological Regulation (Department of Surgery I), Graduate School of Medicine, Nippon Medical School): Pathological and biomolecular analyses of colorectal endocrine carcinoma . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1) : 87-88 .
- 3) 山田岳史¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 白川 毅¹⁾, 大川敬一¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 大秋美治, 山下精彦¹⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾付属病院外科学): 大腸直腸癌における5-FU関連酵素 OPRT, DPD, TSの活性と臨床病理学的因子との関連性の検討 . 癌と化学療法 2006 ; 33 (6) : 789-793 .

(2) 綜説：

- 1) 横井公良¹⁾, 田中宣威¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 大秋美治, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾付属病院外科学): Gastrointestinal stromal tumor (GIST) の概念の変遷 . 日本医科大学医学会雑誌 2006 ; 2 (4) : 186-191 .

(3) 症例報告：

- 1) Yokose N¹⁾, Shioi Y²⁾, Sugisaki Y³⁾, Ohaki Y , Ogata K²⁾, Dan K²⁾(¹⁾Department of Internal Medicine, Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾Third Department of Internal Medicine , ³⁾Department of Surgical Pathology): CD5-positive diffuse large B-cell lymphoma with an unusual phenotype : Cytoplasmic CD20 (+), surface CD20 (-). Leukemia & Lymphoma 2006 ; 47 (7) : 1415-1417 .
- 2) Asano T¹⁾, Seya T²⁾, Tanaka N²⁾, Ohaki Y , Fujino O¹⁾(¹⁾Department of Pediatrics, Chiba Hokusoh Hospital , ²⁾Department of Surgery, Chiba Hokusoh Hospital): A 13-year-old girl with a Preoperatively Diagnosed Solid Cystic Tumor of the Pancreas . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4) : 231-234 .
- 3) Shinji S^{1,2)}, Naito Z²⁾, Ishiwata T²⁾, Tanaka N³⁾, Furukawa K¹⁾, Suzuki H¹⁾, Seya T³⁾, Kan H¹⁾, Tsuruta H¹⁾, Matsumoto S¹⁾, Matsuda A¹⁾, Teranishi N^{1,2)}, Ohaki Y , Tajiri T¹⁾(¹⁾Department of Surgery for

Organ Function and Biological Regulation (Department of Surgery I) Graduate School of Medicine, Nippon Medical School , ²⁾ Department of Integrative Pathology (Department of Pathology II), Graduate School of Medicine, Nippon Medical School , ³⁾ Department of Surgery): Neuroendocrine cell differentiation of poorly differentiated colorectal adenocarcinoma correlates with liver metastasis . Int j Oncol 2006 ; 29 (2) : 357-364 .

- 4) Yoshino N¹⁾, Kubokura H¹⁾, Yamauchi S¹⁾, Ohaki Y, Koizumi K²⁾, Shimizu K²⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Chiba Hokuso Hospital , ²⁾ Department of Surgery, Graduate School of Medicine): Mucinous carcinoma identified as lung metastasis from an early rectal cancer with submucosal invasion by immunohistochemical detection of villin . Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2006 ; 54 (8) : 328-331 .
- 5) Yoshino N¹⁾, Yamauchi S¹⁾, Hino M²⁾, Ohaki Y, Koizumi K³⁾, Shimizu K³⁾ (¹⁾ Department of Surgery, Chiba Hokuso Hospital , ²⁾ Department of Internal Medicine, Chiba Hokuso Hospital , ³⁾ Department of Surgery, Graduate School of Medicine): Metastatic thoracic lymph node carcinoma of unknown origin on which we performed two kinds of immunohistochemical examinations . Ann Thorac Cardiovasc Surg 2006 ; 12 (4) : 283-286 .
- 6) 茆原弘光¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 損斐孝之¹⁾, 松野邦彦¹⁾, 松崎智彦¹⁾, 印出佑介¹⁾, 五十嵐美和¹⁾, 里見操緒¹⁾, 渡辺美千明¹⁾, 河村 堯¹⁾, 竹下俊行²⁾, 大秋美治, 岡田 進³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院女性診療科産科, ²⁾ 付属病院女性診療科産科, ³⁾ 千葉北総病院放射線科): 卵巣悪性腫瘍を強く疑った卵巣硬化性間質性腫瘍の1例 . 日本産科婦人科学会 関東連合地方部会会報 2006 ; 43 (1) : 63-70 .
- 7) 白川 毅¹⁾, 田中宣威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 堀場光二¹⁾, 山田岳史¹⁾, 金沢義一¹⁾, 大川敬一¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 大秋美治, 徳永 昭²⁾, 田尻 孝²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院外科, ²⁾ 付属病院外科): A case of advanced gastric cancer successfully treated by TS-1 and CDDP after jejunostomy . 癌と化学療法 2006 ; 33 (6) : 811-815 .

学会発表

[2005 年度追加分]

一般講演 :

- 1) 上田有香¹⁾, 田中庸介¹⁾, 小野 靖¹⁾, 日野光紀¹⁾, 秋谷麻衣¹⁾, 大岩健満¹⁾, 上原隆志¹⁾, 小俣雅稔¹⁾, 吉野直之²⁾, 窪倉浩俊²⁾, 大秋美治, 工藤翔二³⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 同呼吸器外科, ³⁾ 付属病院内科): 数年来の咯血を繰り返した肺底区動脈大動脈起始異常症の1症例の検討 . 第113回日本呼吸器内視鏡学会関東支部会, 2005 . 6 .
- 2) 松村好克¹⁾, 鴨井青龍¹⁾, 里見 操¹⁾, 黒瀬圭輔¹⁾, 渡辺美千明¹⁾, 土居大祐²⁾, 米山剛一²⁾, 河村 堯¹⁾, 竹下俊行²⁾, 大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院女性診療科, ²⁾ 付属病院女性診療科): 扁平上皮癌を主体とした卵巣腫瘍の1例 . 第38回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 2005 . 7 .
- 3) 横瀬紀夫¹⁾, 大秋美治, 杉崎祐一²⁾, 塩井由美子¹⁾, 緒方清行¹⁾, 壇 和夫²⁾ (¹⁾ 千葉北総病院内科, ²⁾ 付属病院内科): 細胞内CD20陽性, 細胞表面CD20陰性を示したCD5陽性びまん性大細胞型B細胞リンパ腫 . 第67回日本血液学会総会, 第47回日本臨床血液学会合同総会, 2005 . 9 .
- 4) 田近研一郎¹⁾, 西城由之¹⁾, 安藤友一¹⁾, 秋谷麻衣¹⁾, 山本真功¹⁾, 木股仲恒¹⁾, 富田和憲¹⁾, 村上大介¹⁾, 小川紅¹⁾, 徳山権一¹⁾, 稲見茂信¹⁾, 高野雅充¹⁾, 清宮康嗣¹⁾, 大場崇芳¹⁾, 川口直美¹⁾, 野村敦宣 奥村 敏 水野杏一 横瀬紀夫 新井 悟 大秋美治 (¹⁾ 千葉北総病院内科): 4弁の疣贅と複数の左右短絡を認めた感染性心内膜炎の1例 . 第197回日本循環器学会関東甲信越地方会, 2005 . 10 .

(1) 一般講演:

- 1) 前田昭太郎¹⁾, 細根 勝¹⁾, 杉崎祐一²⁾, 田村浩一²⁾, 松本光司³⁾, 柳本邦雄³⁾, 大秋美治, 新井 悟, 福田悠⁴⁾, 内藤善哉⁵⁾(¹⁾多摩永山病院病理部, ²⁾附属病院病理部, ³⁾武蔵小杉病院病理部, ⁴⁾病理学第1, ⁵⁾病理学第2): 体腔液細胞診でいかに中皮腫の確定診断をすべきか. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 2) 喬 炎^{1,2)}, 杉崎祐一²⁾, 大秋美治, 藤原ゆり¹⁾, 恩田宗彦¹⁾, 横山宗伯³⁾, 海津聖彦⁴⁾, 前田美穂⁴⁾, 福永慶隆⁴⁾, 川本雅司⁵⁾, 内藤善哉¹⁾(¹⁾日本医科大学病理学第2, ²⁾日本医科大学附属病院病理部, ³⁾東京警察病院病理部, ⁴⁾日本医科大学附属病院小児科, ⁵⁾日本医科大学病理学第1): 新生児に発症した Langerhans cell histiocytosis (LCH) の一部検例. 第95回日本病理学会総会, 2006. 4.
- 3) 進士恵美¹⁾, 田中宜威¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 堀場光二¹⁾, 金沢義一¹⁾, 大川敬一¹⁾, 白川毅¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 吉岡正人¹⁾, 進士誠一¹⁾, 勝田美和子¹⁾, 大秋美治(¹⁾千葉北総病院外科): 胃カルチノイドの1例. 第82回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 2006. 6.
- 4) 相馬廣明¹⁾, 大澤洋之¹⁾, 小黑辰夫, 吉浜 勲²⁾, 藤田浩司³⁾, 峯尾松一郎³⁾, 工藤玄恵³⁾, 占部 智⁴⁾, 工藤美樹⁴⁾(¹⁾埼玉医科大学産婦人科, ²⁾東京医科大学電子顕微鏡室, ³⁾東京医科大学病理学, ⁴⁾広島大学産婦人科): 絨毛性疾患およびその類縁疾患絨毛の超微構造上の差異. 第38回日本臨床分子形態学会 総会ならびに学術集会, 2006. 9.
- 5) 新井 悟, 小黑辰夫, 内木場拓史¹⁾, 大秋美治(¹⁾武蔵小杉病院泌尿器科): 尿路に発育した肝様腺癌の腫瘍血管の微小・超微形態学的検索. 第38回日本臨床分子形態学会 総会ならびに学術集会, 2006. 9.
- 6) 瀬谷知子¹⁾, 田中宜威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 田尻 孝²⁾, 山下精彦²⁾, 大秋美治(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾外科学第1): 当科で経験した痔瘻癌の2例. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 7) 進士誠一¹⁾, 田中宜威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 金沢義一¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 大秋美治, 山下精彦²⁾, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾大学院医学研究科臓器病態制御外科学): 小腸穿孔により汎発性腹膜炎を呈したクローン病の1例. 第61回日本大腸肛門病学会総会, 2006. 9.
- 8) 金沢義一¹⁾, 田中宜威¹⁾, 横井公良¹⁾, 石川紀行¹⁾, 瀬谷知子¹⁾, 山田岳史¹⁾, 工藤秀徳¹⁾, 小泉岐博¹⁾, 進士誠一¹⁾, 山下精彦¹⁾, 大秋美治, 田尻 孝²⁾(¹⁾千葉北総病院外科, ²⁾外科学第1): 大腸sm癌における内視鏡的切除症例の再検討. 第61回日本大腸肛門病学会, 2006. 9.

[千葉北総病院中央検査室]

研究概要

今年度における当検査室の活動状況は例年同様に極めて多岐に渡り, 各領域ごとに幅広く取り組み, その上で深層部への追試検討を慎重に加えた業績が特徴的であった. 中でも学術的内容として1) 輸血検査分野では緊急輸血時のマイクロタイピングシステムの構築, 2) 微生物検査分野では多剤耐性菌の動向追跡, 3) 生理学検査分野では術前時の経胸壁心エコー・腎血管筋脂肪腫等で鑑別診断の難易度が高い症例の解析 医療情報収集による検査対応の重要性, 4) 総合分析分野では診療報酬に基づく収支効率の改善方法, 成田国際空港クリニックにおける臨床検査体制の構築, 5) 管理分野では臨床検査における学会用の医療安全管理指針の策定・個人情報保護対策の充実, 特にピ・タ・F・ドラッカ-理論を規範とした知識労働者の存在, 社会・組織における人材育成とマネジメント理論, 構造化分析による業務改善の試みのほか, これからの検査室運営での戦略・戦術的な工夫, 6) その他では微生物分野における院内感染対策への情報協力, 生理学検査の一環として聴力測定技術者講習会への活動協力, (社)東京都医師会精度管理事業への運営協力等, 限られた人員と厳しい環境下において本年度も活発な活動が行われた.

研究業績

論文

(1) 総説:

- 1) 町田幸雄: ピーター・F・ドラッカーに学ぶ(1): 知識労働者『臨床検査技師』. 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2006; 14.
- 2) 町田幸雄: ピーター・F・ドラッカーに学ぶ(2): 知識社会とマネジメント. 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2006; 15.
- 3) 野本剛史: 臨床検査室の存在が問われるマネジメント. 臨床検査 2006; 50(8): 942-942.
- 4) 町田幸雄: ピーター・F・ドラッカーに学ぶ(3): 組織とは. 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2006; 6.
- 5) 町田幸雄: ピーター・F・ドラッカーに学ぶ(4): 自分の強みを生かせ. 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2006; 7.
- 6) 町田幸雄: 文化としての倫理: 情報倫理. 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2006; 7.
- 7) 町田幸雄: これからの検査室運営(1): 戦略・戦術って何?(1). 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2007; 9.
- 8) 町田幸雄: これからの検査室運営(2): 戦略・戦術って何?(2). 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2007; 10.
- 9) 町田幸雄: これからの検査室運営(3): 検査室の管理運営って?. 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2007; 11.
- 10) 町田幸雄: これからの検査室運営(4): 検査室のマネジメントって?. 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2007; 12.
- 11) 町田幸雄: これからの検査室運営(5): 強みは何?. 日本臨床衛生検査技師会編 JAMT 2007; 13.

(2) 研究報告書:

- 1) 稲川美実, 石渡統夫, 野本剛史, 水野杏一: 緊急輸血時におけるマイクロタイピングシステムの有用性. 機器・試薬 2006; 29(3): pp239-243.
- 2) 町田幸雄: 構造化分析(モデル化)による業務改善の試み. 医学検査 2007; 56(1): pp24-27.

(3) 症例報告:

- 1) 小林理恵, 町田幸雄: 腹部超音波検査の基本手技: 腎細胞ガンとの鑑別が困難であった腎血管筋脂肪腫の症例. 医学検査 2006; 55(12): 50-51.

著書

- 1) 町田幸雄: [自著] 医療安全管理指針.(社)日本臨床衛生検査技師会編, 2007; (社)日本臨床衛生検査技師会.

学会発表

(1) 教育講演:

- 1) 町田幸雄: 臨床検査部門における個人情報保護対策. 平成18年度山形県病院協議会臨床検査専門部会研修会, 2006. 6.

(2) ワークショップ:

- 1) 町田幸雄: 破壊と創造 これからの検査室運営. 第6回札幌臨床検査フォーラム, 2007. 1.
- 2) 町田幸雄: 医療安全管理指針策定について. 平成18年度医療安全管理対策研修会, 2007. 3.

(3) 一般講演:

- 1) 野本剛史, 町田幸雄, 石渡統夫, 亀山雅弥: 臨床検査室の質的向上と収支効率の改善. 第55回日本医学検査学会, 2006. 5.

- 2) 下照子, 岡本直人, 武井恵理子, 海老沢有介, 野本剛史, 水野杏一: 当院における耐性菌検出状況. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 3) 木村裕子, 亀山雅弥, 野本剛史, 水野杏一: 術前心機能検査に経胸壁心エコー図検査が有用であった1例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 4) 小林理恵, 亀山雅弥, 野本剛史, 水野杏一: 術腎細胞ガンとの鑑別が困難であった腎血管筋脂肪腫の1例. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 5) 石橋里子, 亀山雅弥, 野本剛史, 水野杏一: 心電図検査実施時, 患者自身から得られる情報収集の重要性について. 第74回日本医科大学医学会総会, 2006. 9.
- 6) 野本剛史, 町田幸雄, 石渡統夫, 亀山雅弥: 成田国際空港クリニックにおける臨床検査体制の構築. 日本臨床検査自動化学会第38回大会, 2006. 10.

[千葉北総病院薬剤科]

研究概要

医療の質と安全が問われる昨今, チームに参画して行う場面が多くなりました. まだ若いチームは今後の活躍に期待するところであるが, 数年経過した緩和ケアチームにおいては, 今までの活動を振り返り, 現状把握と問題点を抽出し今後の課題とするなど評価を報告しております. 「医薬品の客観的評価」もほかの多数の施設と共同で継続して行い, 18年度においても研究発表できました. 院内においても安全対策の一環で禁忌薬剤登録を情報共有すべくオーダリングにリンクする方策をまとめました. 大きな話題となった「後発医薬品」においても, 処方せん様式の変更への対応, DPC導入施設としてそれらを選定する際の問題点などをまとめ報告してきました.

多種の業務を行い, それらを研究成果としてまとめきれない分野もありましたが, それを今後の課題として精進して行きたいと思っております.

研究業績

論文

(1) 綜説:

- 1) 浜田康次: 腎機能障害と酸分泌抑制薬. 月刊薬事 2006; 48(4): 573-576.
- 2) 浜田康次: 腎機能障害と酸分泌抑制薬. 薬局 2006; 57(4): 104-106.
- 3) 浜田康次: ライフスタイルドラッグ. レシピ 2006; 5(2): 180-181.
- 4) 浜田康次: SPコード. 日本病院薬剤師会雑誌 2006; 42(6): 807-807.
- 5) 中山 健: 講演会・研修会に積極的な参加を. 千葉県病薬会報 2006; (153): 1-1.
- 6) 浜田康次: SWOT(スウォット)分析. 日本病院薬剤師会雑誌 2006; 42(8): 1136-1136.
- 7) 浜田康次: MRが生んだ名薬(排尿障害治療剤). レシピ 2006; 5(4): 382-383.
- 8) 浜田康次: 抗菌薬サークル図, 連載を始めるにあたって. 月刊薬事 2006; 48(9): 113-118.
- 9) 浜田康次: 抗菌薬サークル図, I経口ペニシリン系薬. 月刊薬事 2006; 48(9): 付録.
- 10) 浜田康次: 抗菌薬サークル図, II注射用ペニシリン系薬. 月刊薬事 2006; 48(10): 付録.
- 11) 浜田康次: 抗菌薬サークル図, III第12世代経口セフェム系薬. 月刊薬事 2006; 48(11): 付録.
- 12) 浜田康次: 3Rの原則. 日本病院薬剤師会雑誌 2006; 42(11): 1509-1509.
- 13) 浜田康次: 妊婦と薬物療法(風邪・便秘). 看護 2006; 58(14): 136-148.
- 14) 浜田康次: 小児と薬物療法(発熱). 看護 2006; 58(14): 149-160.
- 15) 浜田康次: 抗菌薬サークル図, IV第12世代注射用セフェム薬. 月刊薬事 2006; 48(12): 付録.
- 16) 浜田康次: 80対20の法則. 日本病院薬剤師会雑誌 2006; 42(12): 1617-1617.

- 17) 浜田康次：脳のなかのブラックボックス（抗うつ薬）. レシピ 2007；6（1）：64-65．
- 18) 浜田康次：抗菌薬サークル図，Ⅴ第3世代注射用セフェム薬．月刊薬事 2007；49（1）：付録．
- 19) 浜田康次：抗菌薬サークル図，Ⅵカルバペネム系薬．月刊薬事 2007；49（2）：付録．
- 20) 浜田康次：抗菌薬サークル図，Ⅶマクロライド系薬．月刊薬事 2007；49（3）：付録．

著 書

- 1) 朝長文彌¹⁾，浜田康次（¹⁾北里大学）：〔分担〕わかりやすい薬剤情報提供のための写真付/服薬指導CD-ROM < 18版 >，2006；じほう．
- 2) 浜田康次：〔分担〕社会における薬剤師の役割．病院薬剤業務・実務実習指導要綱（日本病院薬剤師会），2006；pp222-225，じほう．
- 3) 實川東洋：〔分担〕無菌製剤調製の実際．病院薬剤業務・実務実習指導要綱（日本病院薬剤師会），2006；pp184-187，じほう．
- 4) 大野博司¹⁾，浜田康次（¹⁾洛和会音羽病院）：〔分担〕【付録】抗菌薬サークル図．感染症入門レクチャーノート，2006；pp256-266，医学書院．
- 5) 浜田康次：〔監修〕スラスラわかる薬のメカニズム，2006；医学芸術社．
- 6) 浜田康次：〔監修〕看護のためのクスリ・薬理ガイドブック，2007；医学芸術社．

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) 浜田康次：抗菌薬サークル図．病薬アワー，2007．3．

(2) 一般講演：

- 1) Shigeo Y¹⁾，Tatsuo C¹⁾，Kaori harada²⁾，Kouji hamada²⁾，Keiko F²⁾（¹⁾Toho University）：Gender-specific Lipid-lowering Effect of Pravastatin and Atorvastatin．FIP（Salvador（Brazil）），2006．8．
- 2) 吉澤一巳，木本陶子，福田恵子，益田律子¹⁾（¹⁾麻酔科）：Pain Management Team活動報告（第4報）アンケート調査に基づくチーム活動の評価．第11回日本緩和医療学会，2006．6．
- 3) 金澤洋祐¹⁾，津田麻記絵¹⁾，星 憲司¹⁾，川上準子¹⁾，岩谷香寿美¹⁾，中村 仁¹⁾，佐藤憲一¹⁾，浜田康次（¹⁾東北薬科大学）：抗菌薬サークル図とSOMマップを用いた解析．医薬品情報学会，2006．7．
- 4) 奥田龍三¹⁾，相良由里子，伊藤義樹，中山 健（¹⁾柏市立病院）：医薬品の客観的評価の試みVIII 薬剤3種について．第36回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会，2006．8．
- 5) 岩本美樹¹⁾，吉澤一巳，木本陶子（¹⁾外科）：緩和医療における研修医の知識．千葉緩和医療研究会，2007．2．
- 6) 原田光枝，原田香里，浜田康次，福田恵子：オーダリングシステムの構築（第4報）禁忌薬剤登録依頼票の作成とその有用性．日本薬学会第127年会，2007．3．
- 7) 原田香里，里中康子，浜田康次，福田恵子：後発医薬品の選定時における問題点．日本薬学会第127年会，2007．3．
- 8) 岩田香寿美¹⁾，菊池雄太¹⁾，川上準子¹⁾，星 憲司¹⁾，佐藤憲一¹⁾，林誠一郎²⁾，浜田康次（¹⁾東北薬科大学，²⁾日本薬剤師会）：抗アレルギー薬副作用情報のSOMマップを用いたビジュアル化と解析．日本薬学会第127年会，2007．3．
- 9) 金澤洋祐¹⁾，川村薊那¹⁾，川上準子¹⁾，星 憲司¹⁾，岩谷香寿美¹⁾，佐藤 涉¹⁾，佐藤憲一¹⁾，浜田康次（¹⁾東北薬科大学）：抗菌薬副作用情報のSOMを用いたビジュアル化と解析．日本薬学会第127年会，2007．3．
- 10) 森本数子¹⁾，江原由里子，伊藤義樹，中山 健（¹⁾勝田台病院）：医薬品の客観的評価の試みVII 3種類の薬剤を対象として．千葉県病院薬剤師会第22回研究発表会，2007．3．
- 11) 嶋田修治¹⁾，中山 健（¹⁾東京理科大学）：大学と地域病院薬剤師との連携 薬剤師基礎実務研修プログラムの

開催：日本薬学会第127年会，2007．3．

[千葉北総病院中央画像検査室]

研究概要

中央画像検査室では診療用画像検査全般を取り扱う部門であることから，それぞれの画像検査についての研究を進めている．

一般撮影部門ではCRの画像処理パラメータの条件に関する研究から医療被曝の軽減および画質の向上について各診療科との連携において行っている．

透視撮影部門では上部消化管造影法や心因性嚥下障害の診断技術について各診療科との連携を行っている．

MRI検査部門では基礎臨床における研究を継続して行っている．基礎検討としてはmultiple overlapping thin slab法による頭部血管画像の画質の向上化，B-PAS法による椎骨脳底動脈撮像についての報告が行われた．臨床面では多発性硬化症の頭部MRI T1強調像における脱髄斑の信号変化とコントラストなど多岐にわたる研究を進めている．

RI検査部門ではSPECTにおける心筋に関する検討や循環器系の研究は継続的に進めていて，脳神経系についても行っている．

放射線治療部門では放射線治療計画におけるウエッジ使用時の線量分布と放射線治療計画装置による治療計画の精度について検討を行っている．

CT検査部門では3D-CTの信頼性の向上についての検討を継続して進めている．

研究業績

学会発表

(1) 特別講演：

1) 川村義彦：骨・関節単純撮影を熱く語る集い．三重県放射線技師会，2006．10．

(2) 招待講演：

1) 川村義彦：整形外科領域の撮影技術．中華医学会撮影技術学会第14次全国学術大会（貴陽市，中華人民共和国），2006．9．

(3) シンポジウム：

1) 丸山智之：臨床画像を見直す 単純撮影の立場から．日本放射線技術学会東京部会 第7回技術シンポジウム，2006．9．

(4) セミナー：

1) 阿部雅志：椎骨脳底動脈解離に対するBPASとMRAのfusion．第21回 西関東Neuro IVR セミナー，2007．3．

(5) 一般講演：

1) 加藤文司，結城聖子，渡辺典男，川村義彦：multiple overlapping thin slab法の頭部血管描出能．日本放射線技術学会 第62回総会学術大会，2006．4．

2) 加藤文司，仲田佳宏，阿部雅志，渡辺典男，川村義彦：Fast Recovery FSEを用いたB-PAS法による椎骨脳底動脈撮像．日本放射線技術学会 第62回総会学術大会，2006．4．

3) 丸山智之，渡辺典男，富里謙一，仲田佳宏，川村義彦：高S/N撮影システムの検討．日本放射線技術学会 第62回総会学術大会，2006．4．

4) 加藤文司，阿部雅志，仲田佳宏，結城聖子，渡辺典男，川村義彦：多発性硬化症の頭部MRI T1強調像における脱髄斑の信号変化とコントラスト．日本放射線技術学会 第60回東京部会春期学術大会，2006．5．

- 5) 富里謙一, 丸山智之, 渡辺典男, 今井 豪, 阿部雅志, 川村義彦, 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): 胸骨側面像のDigital技術を応用した撮影systemの構築. 日本放射線技術学会 第60回東京部会春期学術大会, 2006. 5.
- 6) 加藤丈司, 阿部雅志, 仲田佳宏, 結城聖子, 渡辺典男, 川村義彦: High-b value腰椎拡散強調画像の基礎的検討. 日本放射線技術学会 第34回秋期学術大会, 2006. 10.
- 7) 阿部雅志, 加藤丈司, 理崎貴博, 三輪宗史, 渡辺典男, 川村義彦: BPASを用いた椎骨脳底動脈解離に対する撮像法の検討. 日本放射線技術学会 第34回秋期学術大会, 2006. 10.
- 8) 丸山智之, 渡辺典男, 富里謙一, 仲田佳宏, 川村義彦: Digital技術を応用した撮影システムの構築: 胸骨側面撮影の検討. 日本放射線技術学会 第34回秋季学術大会, 2006. 10.
- 9) 富里謙一, 渡辺典男, 丸山智之, 三輪宗史, 仲田佳宏, 川村義彦, 岡田 進¹⁾(¹⁾千葉北総病院放射線科): 低線量幼児股関節撮影技術の構築. 日本放射線技術学会 第27回東京部会秋期学術大会, 2006. 11.

(6) フォーラム:

- 1) 松丸和弘: 胸部CT 正常像と異常像. フォーシーズンズフォーラム, 2006. 5.
- 2) 丸山智之: 股関節疾患に於けるインプラントと撮影技術: 股関節術後を考慮した撮影技術. 日本放射線技術学会東京部会 第121回技術フォーラム, 2006. 10.
- 3) 松丸和弘: 日立CTにおける胸部領域・肝臓領域. 第4回千葉放射線技術フォーラム, 2006. 12.
- 4) 中野 徹: 腹部CT: 肝, 胆, 脾領域. フォーシーズンズフォーラム, 2007. 2.

[千葉北総病院歯科]

研究概要

当歯科では, 歯科治療における歯周治療への応用として, 歯周組織再生療法における各種移植材を用いての基礎的研究および臨床の効果について研究.

歯科インプラント治療の臨床の効果について研究.

有病者における口腔衛生管理に対する臨床的效果について研究.

また, 2006年10月特定非営利活動法人日本歯周病学会 研修施設として認定を取得しましたので, 歯周治療を専門的に取り扱うに十分な技量と倫理観を有する歯科医師を育成し, 「歯周病専門医」の研修施設として従事していく共に歯周病治療における研究を行う予定である.

研究業績

著 書

- 1) 鴨井久一¹⁾, 鴨井久博, 久野彰子¹⁾(¹⁾日本歯科大学): [共著] 新・臨床に役立つすぐれモノ 歯周ポケット用電動歯ブラシツインベッカーII. DENTAL DIAMOND, 2006; pp144-148, デンタルダイヤモンド社.
- 2) 鴨井久博: [分担] 正しい歯ブラシ習慣と口腔清掃を身につける. いまからはじめる口腔ケア(鴨井久一, 宮田 隆), 2007; pp114-115, 学建書院.
- 3) 鴨井久博: [分担] 美味しく食べるには口腔ケアが大切. いまからはじめる口腔ケア(鴨井久一, 宮田 隆), 2007; pp116-117, 学建書院.
- 4) 鴨井久博: [分担] 歯ブラシや近代的な道具を使いこなす. いまからはじめる口腔ケア(鴨井久一, 宮田 隆), 2007; pp118-121, 学建書院.

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 小倉喜一郎, 鴨井久博, 鴨井久一¹⁾(¹⁾日本歯科大学): 臼歯部歯肉退縮に対して根面被覆術を行った1症例. 第49回春季歯周病学会学術大会, 2006. 4.
- 2) 榎本慶子, 鴨井久博, 小島 武¹⁾, 西澤 聡²⁾, 鴨井久一³⁾(¹⁾小島歯科医院, ²⁾西澤歯科医院, ³⁾日本歯科大学): 縦運動型電動歯ブラシに臨床評価について. 第49回秋季歯周病学会学術大会, 2006. 10.

[千葉北総病院看護部]

研究概要

本年の院内での研究発表は、以下の9演題であった。内容的には、日々の看護において、臨床の場での患者・家族に対する看護の質の向上を目指すものであった。

<テーマ>

- 1) 「心臓リハビリテーションを受けた患者への入院期間の変化についての考察」
～心臓リハビリテーションプログラムの見直しに向けて～
- 2) 「当院における母親学級改善の取り組み」
～母親のニーズおよび医療機関の役割を踏まえたプログラム創り～
- 3) 「フェイススケールを用いたうつ状態にある患者の理解」
- 4) 「りんごを用いた排便コントロール」
- 5) 「ターミナル期における家族ケアに対する4階西病棟看護師の意識とケアの現状調査」
- 6) 「インフォームドコンセントの手段として用いた看護計画の開示方法」
～よりよい方法の検討～
- 7) 「排痰法が人工呼吸器管理下にある急性心疾患患者の循環動態に及ぼす影響」
- 8) 「幼児期後期の入院患児の家族付き添いに対する児・母・看護師にとっての意義」
- 9) 「神経難病入院患者に対する、清潔ケアを通じた看護師の行動の様相と患者の思い」
～パートナーシップ構成要件を用いた分析～

院外発表は9演題が行われた。1)～2)は、四病院看護継続教育において1年間受講し、その成果として各専門領域で研究発表を行った。

- 1) 肺癌患者のセルフヘルプ・グループ形成過程と患者交流が及ぼす相互作用
～患者当事者が入院中に形成したグループの実態～
- 2) 器械出し看護師の手術進行状況に応じた行動とその獲得過程
- 3) 一人で眼科外来に通院する老年患者の看護支援
- 4) りんごを用いた排便コントロールの試み
- 5) ストレスが増大し自己管理が困難となっていた患者へのアプローチを振り返る
- 6) 本院における過去5年間の褥瘡発生率の推移
- 7) 落雷現場活動での経験からフライトナースの役割を検討する
- 8) 妊婦が夫に求める情緒的サポート
- 9) 看護師の看取りへのイメージ

研究業績

論文

(1) 綜説：

- 1) 松本喜久枝，神志那みどり，高橋三保子，工藤幸恵：一人で眼科外来に通院する老年患者の受診行動と期待する支援内容．第37回日本看護学会論文集 老年看護 2007；94-96．
- 2) 始関千加子：肺癌患者のセルフヘルプ・グループ形成過程と患者交流が及ぼす相互作用；患者当事者が入院中に形成したグループの実態．第37回日本看護学会論文集 成人看護II 2007；198-200．

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 岡田知弥子，八木沢奨，加藤香織，伊藤朋子，佐々木優子，野口 素，水成隆之（¹）千葉北総病院脳神経外科）：りんごを用いた排便コントロールの試み．第15回日本意識障害学会，2006．7．
- 2) 岩橋美奈子：ストレスが増大し自己管理が困難となっていた患者へのアプローチを振り返る．第1回千葉県糖尿病看護研究会，2006．7．
- 3) 菅原光子：本院における過去5年間の褥瘡発生率の推移．第8回日本褥瘡学会，2006．9．
- 4) 松本喜久枝：一人で眼科外来に通院する老年患者の看護支援．第37回日本看護学会 老年看護，2006．9．
- 5) 始関千加子：肺癌患者のセルフヘルプ・グループ形成過程と患者交流が及ぼす相互作用；患者当事者が入院中に形成したグループの実態．第37回日本看護学会 成人看護II，2006．9．
- 6) 太田充美，浦辺憲一：器械出し看護師の手術進行状況に応じた行動とその獲得過程．第20回日本手術看護学会総会，2006．10．
- 7) 伊藤美樹子，大森章代，後藤誠子：落雷現場活動での経験からフライトナースの役割を検討する．航空医療学会，2006．11．
- 8) 曲山絵理：妊婦が夫に求める情緒的サポート．第47回日本母性衛生学会総会 学術集会プログラム，2006．11．
- 9) 平田貴和子：看護師の看取りへのイメージ．第7回千葉緩和医療研究会，2007．2．

〔 4 〕 付 置 研 究 施 設

1. 老人病研究所

[病理学部門]

研究概要

研究成果としては、昨年度に引き続き1)ケロイド癩痕中の線維芽細胞がIL-6を放出した後、どのようなシグナルの伝達を受け持つかについて検討し、昨年同様J Invest Dermatolに報告した。この論文は同雑誌のReviewer commentaryに取り上げられ高い評価を得ることができた。2)間質性肺炎のcapillary remodelingの論文が掲載された。usual interstitial pneumonia (UIP)とnonspecific interstitial pneumonia (NSIP)との間に3次元、質的に大きな特徴的变化があることを見出した。3)LPSによる急性肺傷害を作成した実験の継続：老研生化学部門の作成したFNKタンパクが用量依存性に組織損傷を抑制し治療効果を示すことを昨年の成果の上にさらに分析を重ねた。その結果FNKタンパクは好中球浸潤の抑制はせず、また酵素作用を低下させることが無い事実を明確にした。しかし組織細胞である血管内皮と上皮のアポトーシスを抑制する機能が勝ることで血管透過性を低下させたと見なすことができた。(ハルビン医科大学 Zhang Lei)。これらの結果は現在原著論文として準備中である。

その他、当研究室の主幹清水 一が第47回日本肺癌学会総会において、met AP2の肺癌における機能を研究した結果が「優秀ポスター」として表彰をうけた。

研究業績

論文

(1)原著：

- 1) Fujiwara M, Ghazizade M, Kawanami O : Potential role of the Slit/Robo signal pathway in angiogenesis . Vasc Med 2006 ; 11 (2) : 115-121 .
- 2) Sato S, Kitamura H, Adachi A, Sasaki Y, Ghazizadeh M : Two types of autophagy by the podocytes in renal biopsy specimens : ultrastructural study . J Submicrosc Cytol Pathol 2006 ; 38 (2-3) : 107-114 .
- 3) Ishizaki M, Ishiwata T, Tamura N, Ghazizadeh M, Kitamura H, Sugisaki Y, Yanmanaka N, Naito Z, Fukuda Y : Expression of nestin in rat and human glomerular podocytes . J Submicrosc Cytol Pathol 2006 ; 38 (2-3) : 115-124 .
- 4) Tachihara A, Jin E, Matsuoka T, Ghazizadeh M, Yoshino S¹⁾, Takemura T²⁾, D Travis W³⁾, Kawanami O (¹⁾Department of Joint Disease and Rheumatism, Nippon Medical School, Graduate School of Medicine, ²⁾Department of Surgical Pathology, Japan Red Cross Hospital Center, ³⁾Department of Pathology, Memorial Sloan-Kettering Cancer Center) : Critical roles of capillary endothelial cells for alveolar remodeling in non-specific and usual interstitial pneumonias . J Nippon Med Sch 2006 ; 73 (4) : 203-213 .
- 5) Akaishi J¹⁾, Onda M¹⁾, Asaka S¹⁾, Okamoto J¹⁾, Miyamoto S¹⁾, Nagahata M¹⁾, Ito K²⁾, Kawamami O, Simizu K³⁾(¹⁾Department of Molecular Biology, Institute of Gerontology, Nippon Medical School, ²⁾Department of Surgery, Ito Hospital, Tokyo, Japan, ³⁾Department of Second Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Growth-suppressive function of phosphatidylethanolamine-binding protein in anaplastic thyroid cancer . Anticancer Res 2006 ; 26 (6B) : 4437-4442 .
- 6) Ghazizadeh M, Tosa M¹⁾, Simizu H, Hyakusoku H²⁾, Kawanami O (¹⁾Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School Second Hospital, Kawasaki, Japan, ²⁾Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Nippon Medical School, Tokyo, Japan) : Functional Implications of the IL-6 Signaling Pathway in Keloid Pathogenesis . J Invest Dermatol 2007 ; 127 (1) : 98-105 .

(2) 綜説：

- 1) Ghazizadeh M : Essential role of IL-6 signaling pathway in keloid pathogenesises . J Nippon Med Sch 2007 ; 74 (1): 11-22 .

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) Ghazizadeh M : Advances in molecular mechanisms of keloid pathogenesis . 第17回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会，2006 . 11 .

(2) 一般講演：

- 1) 清水 一，ガジザデ モハマッド，土佐眞美子¹⁾，枝川聖子，百束比古¹⁾，川並汪一^{(1) 形成外科学}): The role of Wnt signal pathway in keloid pathogenesis . 第70回日本皮膚科学会東部支部学術大会，2006 . 10 .
- 2) ガジザデ モハマッド，清水 一，土佐眞美子¹⁾，枝川聖子，井上京子²⁾，百束比古¹⁾，川並汪一^{(1) 形成外科学，²⁾ 中央電子顕微鏡研究施設}): Activation of IL-6 signal pathway in keloid pathogenesis . 第70回日本皮膚科学会東部支部学術大会，2006 . 10 .
- 3) 蘇 新明，金 恩京，谷内七三子，ガジザデ モハマッド，張 磊，藤原正和，大田 健¹⁾，川並汪一^{(1) 帝京大学医学部内科学}): Airway vascular remodeling in a murine model of bronchial asthma . 第17回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会，2006 . 11 .
- 4) 張 磊，麻生定光¹⁾，蘇 新明，金 恩京，ガジザデ モハマッド，藤原正和，太田成男¹⁾，川並汪一^{(1) 老人病研究所生化学部門}): Protective effects of anti-apoptotic FNK protein in lipopolysaccharide-induced acute lung injury in rats . 第17回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会，2006 . 11 .
- 5) Su X , Taniuchi N , Jin E , Fujiwara M , Zhang L , Ghazizadeh M , Tashimo M¹⁾ , Yamashita N²⁾ , Ohta S¹⁾ , Kawanami O ^(1) Dept. of Medicine, Teikyo Univ Sch of Medecine , ²⁾ Musashino Univ.): Airway vascular remodeling in a murine model of bronchial asthma . 第10回アレルギー気道上皮細胞研究会，2006 . 12 .
- 6) Zhang L , Chen H , Jin Z , Su X , Jin E , Fujiwara M , Asoh S¹⁾ , Ghazizadeh M , Ohta S¹⁾ , Kawanami O ^(1) Dept. of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Gerontology, NMS): Protective effects of anti-apoptotic FNK protein in lipopolysaccharide-induced acute lung injury in rats . 第10回アレルギー気道上皮細胞研究会，2006 . 12 .
- 7) ガジザデ モハマッド，清水 一，山岸茂樹¹⁾，清水一雄¹⁾，杉崎祐一²⁾，川並汪一^{(1) 外科学第2，²⁾ 付属病院病理部}): Prognostic role of MetAP2 expression in human lung adenocarcinomas . 第47回日本肺癌学会総会，2006 . 12 .
- 8) 清水 一，ガジザデ モハマッド，山岸茂樹¹⁾，枝川聖子，川並汪一^{(1) 外科学第2}): The expression and function of Met AP2 in human non-small cell cancers . 第47回日本肺癌学会総会，2006 . 12 .
- 9) Su X , Taniuchi N , Jin E , Fujiwara M , Zhang L , Ghazizadeh M , Tashimo H¹⁾ , Yamashita N²⁾ , Ohta K¹⁾ , Kawanami O ^(1) Dept. of Medicine, Teikyo Univ Sch of Medecine , ²⁾ Musashino Univ.): Airway vascular remodeling in a murine model of bronchial asthma . 第14回日本血管生物医学会，2006 . 12 .
- 10) Zhang L , Chen H , Jin Z , Su X , Jin E , Fujiwara M , Asoh S¹⁾ , Ghazizadeh M , Ohta S¹⁾ ^(1) Dept. of Biochemistry and Cell Biology, Institute of Gerontology, NMS): Protective effects of anti-apoptotic FNK protein in lipopolysaccharide-induced acute lung injury of rats . 第14回日本血管生物医学会，2006 . 12 .
- 11) 清水 一，ガジザデ モハマッド，川並汪一：放射線照射後の食道扁平上皮癌における Methionine aminopeptidase2 (MetAP2) の発現抑制について . 第17回がんの転移と浸潤性増殖に関する研究会，2006 . 6 .
- 12) 山岸茂樹¹⁾，ガジザデ モハマッド，小泉 潔¹⁾，清水一雄¹⁾，川並汪一^{(1) 外科学第2}): Expression of methionine aminopeptidase-2 in pulmonary adenocarcinoma . 第46回日本呼吸器学会総会，2006 . 6 .

- 13) 土佐眞美子, ガジザデ モハマッド, 村上正洋¹⁾, 川並汪一, 百束比古²⁾ (¹⁾ 武蔵小杉病院形成外科, ²⁾ 付属病院形成外科): 抗IL-6受容体抗体によるケロイド由来繊維芽細胞の増殖抑制効果の検討. 第15回日本形成外科学会基礎学術集会, 2006. 6.
- 14) 藤原正和, 川並汪一: 太い血管と細い血管のin vitroでの形成とその形成機構. 14回日本血管生物医学会, 2006. 12.
- 15) 岡田欣晃^{1, 2)}, 矢野喜一郎²⁾, Enjing J, Shu-Ching S²⁾, Katherine S²⁾, 南 敬³⁾, Peter O²⁾, William A²⁾ (¹⁾ 大阪大学大学院薬学研究科蛋白情報解析学分野, ²⁾ ベスイスラエルディーコネスメディカルセンター/ハーバード大学医学部, ³⁾ 東京大学先端科学技術研究センターシステム生物学): 血管内皮細胞特異的に発現するRobo4の発現調節機構の解析. 第14回日本血管生物医学会, 2006. 12.

[生化学部門]

研究概要

「生命の基本原則を知ることによって、病気の原因がわかり治療法や予防法がわかる。逆に、病気を見ることによって、生命の基本原則がみえてくる。」のポリシーで、医学への貢献をめざしている。

研究テーマは、(1) ミトコンドリアをターゲットとした細胞死抑制強化蛋白質を用いた蛋白質導入治療法の開発、(2) 脳神経変性疾患や老化におけるミトコンドリアと酸化ストレスの役割、(3) ミトコンドリア遺伝子の体細胞変異と癌、老化、疾患の関連、(4) ミトコンドリアと核のクロストークの分子機構、(5) ミトコンドリア脳筋症の分子機構と治療法の開発、(6) ミトコンドリアと細胞分化との関連である。

ミトコンドリアと疾患の関連研究では、国際的に評価されており Oncogene と J. Alzheimer's dis. のミトコンドリア特集号に、太田が執筆した総説が掲載された。

今年は蛋白質導入治療法の開発について4報を論文発表、5報が投稿中か準備中である。

さらに2005年1月から始めた「水素分子の生体における効果」の研究が大きく進展した。この成果第1弾の論文は、Nature Medicineの2007年6月に掲載予定である。

ありふれた水素分子に、還元力がある事は知られているが、安定した分子であるため容易に他の物質と反応するとは考えられてなかった。しかし、Cell-free系・培養系で、ヒドロキシルラジカルを選択的に消去し、酸化ストレスから細胞と組織を防御、さらに動物実験で脳梗塞治療に極めて効果的であることを見いだした。

学会活動では、12月14-16日に横浜情報文化センターで第6回日本ミトコンドリア学会年会を主催、先行して12日は、Finlandの研究者達と終日ミトコンドリア研究の討論、13日に International Symposium on Mitochondria - Basic aspects and diseases を開催した。

研究業績

論文

(1) 原著：

- 1) Nagai S, Asoh S, Kobayashi Y, Shidara Y¹⁾, Mori T²⁾, Suzuki M³⁾, Moriyama Y⁴⁾, Ohta S (¹⁾Dept. Pathol., Tokyo Women's Med. Univ., Sch. Med., ²⁾ Saitama Med. Sch., ³⁾ Div. Transgenic Technol. Ctr. for Animal Resources and Development, Kumamoto Univ., ⁴⁾ Ctr. for Digestive Disease Musashikosugi Hosp.): Protection of hepatic cells from apoptosis induced by ischemia/reperfusion injury by protein therapeutics. Hepatol Res 2007 ; 37 (2): 133-142 .
- 2) Tara S¹⁾, Miyamoto M¹⁾, Asoh S, Ishii N, Yasutake M¹⁾, Takagi G¹⁾, Takano T¹⁾, Ohta S (¹⁾Dept. Internal Med.): Transduction of the anti-apoptotic PTD-FNK protein improves the efficiency of transplantation of bone marrow mononuclear cells. J Mol Cell Cardiol 2007 ; 42 (3): 489-497 .
- 3) Arakawa M, Yasutake M¹⁾, Asoh S, Miyamoto M¹⁾, Takano T¹⁾, Ohta S (¹⁾Dept. Internal. Med.): Transduction of anti-cell death protein FNK protects isolated rat hearts from myocardial infarction induced by ischemia/reperfusion. Life Sci 2007 ; 80 (22): 2076-2084 .
- 4) Kashio A¹⁾, Sakamoto T¹⁾, Suzukawa K¹⁾, Asoh S, Ohta S, Yamaosoba T¹⁾ (¹⁾Dept. Otolaryngol. Head Neck Surgery, Univ. Tokyo): A protein derived from the fusion of TAT peptide and FNK, a BCL-x (L) derivative, prevents cochlear hair cell death from aminoglycoside ototoxicity in vivo. J Neurosci Res 2007 ; 85 (7): 1403-1412 .
- 5) Ohsawa I, Ishikawa M, Takahashi K, Watanabe M¹⁾, Nishimaki K, Yamagata K, Katsura K-1¹⁾, Katayama Y¹⁾, Asoh S, Ohta S (¹⁾Dept. Internal. Med.): Molecular hydrogen acts as a therapeutic antioxidant through the selective reduction of cytotoxic oxygen radicals. Nat Med 2007 ; 13 (6): 688-694 .

(2) 綜説 :

- 1) Ohsawa I , Ohta S : Dysfunction of mitochondria and oxidative stress in pathogenesis of Alzheimer's disease : On defects in the cytochrome c oxidase complex and aldehyde detoxification . J Alzheimer's Disease 2006 ; 9 (2): 155-166 .
- 2) Ohta S : Contribution of somatic mutations in the mitochondrial genome to the development of cancer and tolerance against anticancer drugs . Oncogene 2006 ; 25 (34): 4768-4776 .
- 3) 太田成男 , 麻生定光 : 細胞死抑制活性強化蛋白質 FNK の作製とその応用 . 炎症と免疫 2006 ; 14 (3): 26-32 .
- 4) 太田成男 : ミトコンドリアの遺伝学 . 臨床神経科学 2006 ; 24 (6): 630-632 .
- 5) 太田成男 : ミトコンドリア遺伝子変異による腫瘍形成亢進効果 . 細胞 The CELL 2006 ; 38 (8): 8-10 .
- 6) 太田成男 : お酒の遺伝子とアルツハイマー病 . アニムス 2006 ; 11 (4): 52-56 .

(3) 研究報告書 :

- 1) 太田成男 : トランスジェニックマウスを用いたミトコンドリア酸化ストレスの抑制によるアルツハイマー病予防・治療法の開発 . 厚生労働省総合研究報告書 2007 .

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 太田成男 : ミトコンドリアから広がる事業の可能性 . 第7回川崎ライフサイエンスセミナー , 2006 . 6 .
- 2) 太田成男 : ミトコンドリアから発せられる活性酸素の消去 . 第11回酸素ダイナミクス研究会 , 2006 . 9 .
- 3) 太田成男 : ミトコンドリアはどこまで病氣と健康に関与するか? . 第6回日本ミトコンドリア学会年会 , 2006 . 12 .
- 4) 太田成男 : 細胞死抑制活性強化タンパク質を用いたタンパク質導入治療法の開発 . 第8回創薬ビジョンシンポジウム (日本薬学会) , 2007 . 1 .

(2) シンポジウム :

- 1) Ohta S : Alleviation of chemotherapeutic side effects by selective TAT-mediated delivery of an anti-cell death protein . International mini Symposium-Membrane-permeable peptides : Chemistry, biology and therapeutic applications (Kyoto) , 2006 . 11 .

(3) 一般講演 :

- 1) Asoh S , Mori T¹⁾ , Watanabe K-¹²⁾ , Yamagata K , Nishimaki K , Yagi T²⁾ , Ohta S (¹⁾ Saitama Med. Ctr. /Sch. , ²⁾ Dept. ORL, 2nd Nippon Med. Sch. Hosp.): Anti-apoptotic protein FNK debilitates side effects of anti-cancer drugs without inhibiting their anti-cancer activity. . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (Kyoto) , 2006 . 6 .
- 2) Ohsawa I , Nishimaki K , Muramaki Y , Suzuki Y , Ishikawa M , Ohta S : Neurodegeneration in mice expressing a dominant negative form of mitochondrial aldehyde dehydrogenase . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (Kyoto) , 2006 . 6 .
- 3) Ohsawa I : Role of Mitochondrial aldehyde dehydrogenase in the onset of Alzheimer's Disease . The 10th International Conference on Alzheimer's Disease and Related Disorders (Madrid Spain) , 2006 . 7 .
- 4) 太田成男 , 宮戸靖幸 , 宮本哲也 , 島内 香 : 癌細胞におけるミトコンドリア DNA 変異によって抗癌剤誘導アポトーシスは抑制される . 第15回アポトーシス研究会学術集会 , 2006 . 7 .
- 5) 麻生定光 , 渡邊健一¹⁾ , 森 隆²⁾ , 山縣久美 , 西槇貴代美 , 八木聡明¹⁾ , 太田成男 (¹⁾ 日本医科大学武蔵小杉病院耳鼻咽喉科 , ²⁾ 埼玉医科大学総合医療センター): 細胞死抑制活性強化蛋白質 FNK は抗癌剤の抗癌活性を抑制することなくその副作用を軽減・抑制する . 第15回アポトーシス研究会学術集会 , 2006 . 7 .
- 6) 大澤郁朗 , 西槇貴代美 , 村上弥生 , 鈴木吉彦 , 石川正洋 , 太田成男 : Brain degeneration and decline in spatial

- cognitive ability in ALDH2-deficient mice . 第25回日本認知症学会学術集会 , 2006 . 10 .
- 7) 村上弥生, 大澤郁朗, 笠原 忠¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ (共立薬科大学・生化学): Detoxification of 4-hydroxy-2-nonenal by ABAD . 第25回日本認知症学会学術集会 , 2006 . 10 .
 - 8) 大澤郁朗, 石川正洋, 高橋久美子, 渡邊めぐみ¹⁾, 西槇貴代美, 山縣久美, 桂研一郎¹⁾, 麻生定光, 太田成男⁽¹⁾ (内科学第2): ヒドロキシルラジカルの選択的消去による細胞死抑制 . 第6回日本ミトコンドリア学会年会 , 2006 . 12 .
 - 9) 西槇貴代美, 大澤郁朗, 村上弥生, 石川正洋, 太田成男: アルデヒド脱水素酵素2欠損マウスの加齢に伴う認知能力低下と脳の変性 . 第6回日本ミトコンドリア学会年会 , 2006 . 12 .
 - 10) 村上弥生, 大澤郁朗, 笠原 忠¹⁾, 太田成男⁽¹⁾ (共立薬科大学・生化学): ミトコンドリアに局在するアミロイド 結合アルコール脱水素酵素のアルデヒド障害に対する細胞保護効果 . 第6回日本ミトコンドリア学会年会 , 2006 . 12 .
 - 11) 千原直人¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 杠葉 良¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 尾形昌男¹⁾, 田尻 孝²⁾, 麻生定光, 太田成男, 西本 徹³⁾, 柴田健治³⁾ (¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾同臓器病態制御外科, ³⁾BML 総合研究所): S-1, FOLFOX を擬した in vitro 感受性試験 (CD-DST 法) とミトコンドリアDNA 変異Δ大腸癌細胞株を用いた検討 . 第40回制癌剤適応研究会 , 2006 . 12 .
 - 12) 杠葉 良¹⁾, 徳永 昭¹⁾, 千原直人¹⁾, 水谷 聡¹⁾, 吉野雅則¹⁾, 田尻 孝²⁾, 麻生定光, 太田成男, 西本 徹³⁾, 柴田健治³⁾ (¹⁾日本医科大学武蔵小杉病院消化器病センター, ²⁾同臓器病態制御外科, ³⁾BML 総合研究所): 大腸癌におけるS-1感受性を擬したCD-DST 法とミトコンドリアDNA の変異 . 第40回制癌剤適応研究会 , 2006 . 12 .

[免疫部門]

研究概要

われわれは、代表的な癌抑制因子p53がどのような機構で癌化を抑制しているのかを、明らかにすることを目的に研究を行っている。今年度の最も重要な成果として以下の研究を挙げる。癌細胞は、解糖系をその主なエネルギー源として使用している。この為、好氣的な条件でも酸素消費を伴うミトコンドリアでのエネルギー産生経路を用いずに、グルコースの取り込みを亢進させて解糖経路で得られるATPをエネルギー源として使用している。この現象は、1920年代頃から研究されており、Warburg効果と呼ばれている。実際、癌細胞でのグルコース取り込みの増加を基に、PET解析を行って癌組織を可視化して診断に応用することが広くなされている。われわれは、転写因子NF- κ Bの活性がp53欠損細胞や変異体p53を発現する正常細胞で亢進していることを見いだした。p53欠損細胞は癌遺伝子を単独で遺伝子導入するのみでトランスフォームし腫瘍形成能を獲得する、p53欠損細胞にNF- κ B/p65を同時に欠損させると、このトランスフォーム能がほとんど無くなることを見出した。さらに、glucose transporterであるGLUT3の発現がNF- κ Bによって誘導されること癌遺伝子rasでトランスフォームしたp53欠損細胞ではglucoseの取込み及び消費、ATPの産生が亢進していること、これらの現象がp65の発現を抑制すると見られなくなることを明らかにした。更に、rasによるp53欠損細胞のトランスフォーム能がGLUT3の発現を抑制すると低下することを明らかにし、この機構にNF- κ BによるGLUT3の発現誘導が関わる事を見いだした。これらの結果から、癌細胞での代謝経路の変化には、p53-NF- κ B-グルコース代謝という新たな制御経路を介して行われており、これが癌化に重要であるという新たな発見をおこなっており、現在論文を投稿している。

研究業績

論文

(1) 総説：

- 1) 田中信之：エピジェネティクスと癌。実験医学 増刊 「分子メカニズムから解き明かす疾患のサイエンス」 2006；24(10)。

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Abe Y, Oda-Sato E, Tobiume K, Kawachi K, Okamoto K¹⁾, Taya Y¹⁾, Tanaka N (¹⁾National Cancer Center Research Institute): The negative regulation of p53 by Hedgehog signaling . 97th AACR Annual Meeting 2006 (Washington DC, USA), 2006 . 4 .
- 2) Kawachi K, Nobuyuki T : Deregulation of NF- κ B caused by loss-of-function of p53 play an important role in oncogenesis . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (Kyoto), 2006 . 6 .
- 3) Abe Y, Tobiume K, Tanaka N : p53-dependent suppression of hedgehog signaling in breast cancer cell lines . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (Kyoto), 2006 . 6 .
- 4) Nakajima W, Tanaka N : Analysis of molecular mechanisms of Bax activation in response to apoptotic stimuli . 20th IUBMB International Congress of Biochemistry and Molecular Biology and 11th FAOBMB Congress (Kyoto), 2006 . 6 .
- 5) 川内敬子, 荒木啓吾, 田中信之 : p53欠損による新規NF- κ Bの活性化機構。日本分子生物学会2006フォーラム, 2006 . 12 .
- 6) 上原郁野, 佐藤(織田)恵理, 川内敬子, 田中信之 : DNA 損傷刺激によってp53欠損細胞特異的に誘導される

インターフェロン誘導遺伝子群の機能解析．日本分子生物学会2006フォーラム，2006．12．

- 7) 中嶋 亘：BH3-only 因子による Bax の活性化機構の解析．第15回日本アポトーシス研究会学術集会，2006．7．
- 8) 中嶋 亘，田中信之：BH3-only 因子による Bcl-2 サブファミリー分子と Bax の活性化機構の解析．日本分子生物学会2006フォーラム，2006．12．
- 9) 佐藤（織田）恵理，上原郁野，安藤 大，小野寺恵吾，阿部芳憲，八木修立郎，田中信之：p53 の新規誘導遺伝子の機能解析．日本分子生物学会2006フォーラム，2006．12．
- 10) 荒木啓吾，川内敬子，田中信之：NF-kappaB negatively regulates cell proliferation via a pRb-independent．日本分子生物学会2006フォーラム，2006．12．

[疫学部門]

研究概要

生体の個体としての機能とその制御機構の解明を目指し、ホルモンを対象として生理学的研究を行う。

I. 成長ホルモン (GH) の分泌調節機構と生理作用

下垂体からのGH分泌パターンは超日リズムを形成するが、そのリズム形成機構については全く不明である。また、GHは末梢の細胞で諸種の生理作用を持つが、詳細は十分に解明されていない。研究の目的は、GH分泌における超日リズムの発現機構と意義を解明し、GHの生理作用を解明することにある。本年度は、GHと小胞体ストレスとの関連を想定して検討をし、小胞体ストレスを解消するメカニズムである unfolded protein response の枢軸となる転写因子 XBP1 の遺伝子発現がGHによって誘導されることを見いだした。スプライシングされた活性型の発現を認めたとことから、GHが小胞体ストレス解消における意義を検討中である。

II. 三量体G蛋白質を介するシグナル伝達機構のダイナミクス

三量体G蛋白質は生体膜インターフェイスにおいて、分子スイッチとしてGDP結合型またはGTP結合型をサイクルし2つの異なるコンフォーメーションをとることで、新たな分子間相互作用を形成しシグナルをダイナミックに伝達する。三量体G蛋白質を介するシグナルが悪性腫瘍や糖尿病等の生活習慣病と関係し、創薬のターゲットにもなっている。私達は、三量体G蛋白質とその結合分子の相互作用を反応速度論的・熱力学的に解析し、シグナル活性化機構の新しい解釈に成功した。この様な分子間相互作用の定量的なアプローチは新しい方法であり、創薬におけるスクリーニングのハイスループットにも貢献すると考えている。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Suzuki N, Minami S, Kozasa T¹⁾ (¹⁾ University of Illinois College of Medicine): A cooperative regulation by both the RGS and DH/PH domains of leukemia-associated RhoGEF of G₁₃-mediated signaling pathway. 20th IUBUM (国際生化学・分子生物学会議)(京都), 2006. 6.
- 2) 中田朋子, 時田玲子, 鈴木信周, 今城俊浩, 南 史朗: 成長ホルモンによる XBP1 遺伝子発現誘導についての検討. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 5.
- 3) 鈴木信周, 時田玲子, 今城俊浩, 南 史朗: 神経幹細胞分化における, IGF-1とG12/13蛋白共役型受容体を介したシグナルの役割. 第79回日本内分泌学会学術総会, 2006. 5.
- 4) 花岡大資, 南部弘太郎, 水谷 聡, 南 史朗, 宗像一雄: 糖尿病の急性増悪で発症し自然寛解した自己免疫性膵炎の1例. 第17回臨床内分泌代謝 Update, 2007. 3.
- 5) 春原沙織, 網谷賢一, 能登雅明, 片山美玲, 青木見佳子, 南 史朗, 宗像一雄: 糖尿病性壊疽・腎症に重症のアレルギー性紫斑病を合併した1例. 第17回臨床内分泌代謝 Update, 2007. 3.

[分子生物学部門]

研究概要

1. マクロファージに存在するスカベンジャーレセプターは、酸化LDLを取り込む重要な鍵となる受容体である。当研究室はスカベンジャーレセプタータイプAのSRCRドメインより新規遺伝子をクローニングし、それがトリプシンファミリーのセリンプロテアーゼである neurotrypsin と類似の構造を持つ遺伝子であることを見出した。この新規遺伝子は種々の正常組織で発現が認められており、その全長と機能的意義について解析を行っている。また種々の成熟細胞や未分化細胞における遺伝子の発現量を比較し、機能面での研究や同蛋白のポリクロナール抗体を作製し、細胞組織における局在部位の検討を行い、分子病理学的方面からの研究も進めている。
2. 天然の生物資源に存在する様々な生理学的活性を有する物質についてその機能や代謝等の研究を分子・細胞・個体レベルで行い、医療や機能性食品等の開発に応用することを目的として、現在褐藻類の中に含まれる Fucoidan と呼ばれる酸性多糖類に注目している。Fucoidan の医療領域での機能性研究は国内外で進んでいる。現在報告されている生理活性は、抗腫瘍、免疫賦活作用、抗アレルギー作用、肝機能上昇、抗ピロリ菌など多方面に渡る。当研究室は、この Fucoidan の生体内における新たな生理活性作用として動脈硬化症に対する予防や抑制機能について分子生物学的手法や実験動物を用いて遺伝子・蛋白レベルで解析し、医療領域での有用性について研究している。
3. 梶田技術員は消化管の器官形成・再生機構に関する分子レベルでの研究を、生物学教室・長谷部講師、岡教授との共同で進めている。小腸上皮のアポトーシスが細胞外マトリックスによっていかに制御されるかを解明していくため、機能が未知の MMP 遺伝子に注目し、実験動物の小腸における MMP 遺伝子の発現を *in situ hybridization* 法により解析している。

[生体応答学部門]

研究概要

I. ラットにおける高血圧メカニズムの解析で、慶応義塾大学医学部腎臓内科と共同研究している。とくに自律神経の関連から検討している。従来は予想されていても実証できなかった自律神経の1Hz以下の揺らぎに高血圧、腎血流に関わる成分があることを発見し、その成果はCirculationに掲載された。これを指標として降圧剤の交感神経への関与を検討中である。また、糖尿病ラットモデルでもその血行動態を検討中である。

II. 正常な心拍変動に1/fゆらぎがみられるが、心筋梗塞後の患者ではこの傾きが急峻になると突然死を起こしやすいことが分かっている。しかし、その機序は不明であった。これを実験データとカオス理論から明らかにし、Phys. Rev. Eに掲載された。そして、心拍変動の1/fゆらぎを再現する電気回路モデルを考案して論文に掲載された。現在この電気回路の臨床応用をめざしている。これにより正常状態でみられる、交感神経活動の長時間周期を人工的に心臓ペースメーカーで再現することが可能になるかもしれない。

III. 企業・日本医科大学共同研究(代表者:内科学第一加藤貴雄教授)「自動車運転中の心血管イベント・心臓性突然死の予知・予防に関する研究」に分担者として参画している。自動車運転中の死亡事故の5%以上は心臓性突然死によると推定されているので、この予知・予防は社会的急務である。いままでの研究を社会に生かすためにぜひ実現させたい。

IV. 観測された現象が低次元カオスであるかを判定する数値計算プログラムをすでに論文として発表しているが、もっと簡単に幾何学的に判定するプログラムを開発し投稿中である。これが可能になれば、その現象をモデルとして記述可能になり現象の振る舞いを予想できるようになる。

研究業績

学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 滝本千恵¹⁾, 熊谷裕生¹⁾, 大波敏子¹⁾, 佐方克史¹⁾, 飯ヶ谷嘉門¹⁾, 猿田享男¹⁾, 伊藤 裕¹⁾, 大坂元久⁽¹⁾ 慶応義塾大学医学部内科学): 高血圧を伴う糖尿病ラットにおける循環調節の線形性・非線形性の変化と、カンデサルタンおよびアムロジピンの効果。第27回日本循環制御医学会, 2006. 5.
- 2) 滝本千恵¹⁾, 熊谷裕生¹⁾, 大波敏子¹⁾, 佐方克史¹⁾, 飯ヶ谷嘉門¹⁾, 猿田享男¹⁾, 伊藤 裕¹⁾, 大坂元久⁽¹⁾ 慶応義塾大学医学部内科学): 糖尿病ラットにおいて、カンデサルタン経口投与は交感神経活動を抑制し、循環調節の非線形性を亢進させる。第4回交感神経とアンジオテンシンII研究会, 2006. 7.

〔 5 〕 そ の 他

1. 教育推進室

研究概要

教育推進室は、平成14年4月発足以来5年が経過し、本学における医学教育の改革、拡充、充実とともにその研究および業務内容は拡大し多岐にわたっている。

今年度は、Faculty Development (FD)の一環として、引き続き第3回新任・昇任教員のためのFDワークショップ、第14回医学教育のためのFDワークショップを開催した。

教育推進室では、定例教育推進室会議、授業評価委員会、クリニカル・シミュレーション・ラボ運営委員会、模擬患者養成委員会を主催し、また医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会を補佐し幅広い教育活動を展開している。

学生による授業評価は、来年度からの携帯電話による授業評価に向けて、授業評価の目的・対象を明確にした上で、新たな実施方法の検討、授業評価報告書の発行等を決定し、学生による授業評価の信頼性を検討する研究を実施した。

開設後2年目を迎えたクリニカル・シミュレーション・ラボでは、基本臨床実習コースに新たに「C. S. Lab.における臨床技能実習」を導入し、臨床実習に入る学生の臨床技能の習得に努めた。引き続き本学独自の模擬患者を養成し、基本臨床実習コースにおける「症候から考える」、「総合病態を考える」、OSCE（態度・技能を評価するための客観的臨床能力試験）、卒業前Advanced OSCEに加えて、新入生の医療面接、研修医オリエンテーション、教員のFDワークショップ等にも導入し臨床医学教育への活用を実行した。医学英語推進委員会、臨床配属運営委員会を通じ、本学の医学英語教育の普及・整備、学生の臨床研究への参加に協力した。

また、医学教育の進歩・変化に即応するため、学外における医学教育に関するワークショップおよびセミナーに参加し新しい教育技法の理解、習得に努めている。

学内の医学教育への具体的な活動内容については以下に列記する。

- (1) カリキュラム、特に臨床系コース講義の評価と有機的な調整
- (2) 医師国家試験対策
- (3) 総合試験制度の確立と運用
- (4) モデル・コア・カリキュラムと共用試験への対応
- (5) シミュレーション医学教育の普及
- (6) 模擬患者参加型の双方向的医学教育
- (7) 医学教育に関する講演会の主催等のFD活動
- (8) 学長、教育推進室主催の医学教育セミナーの共催、学内講演会と公開討論会の企画・立案
- (9) 学生教育委員会との教育カンファランス
- (10) 「みんなで学ぼう救急救命」実行委員会主催の心肺蘇生法講習会の後援

研究業績

論文

[2004 年度追加分]

研究報告書：

- 1) 吉村明修, 矢野 侃¹⁾(¹⁾荒川区がん予防セ): 革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究: CT肺がん検診有効性コホート研究・喀痰細胞診有効性症例対照研究 都市部での住民対象CT検診の感度分析. 革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究: CT肺がん検診有効性コホート研究・喀痰細胞診有効性症例対照研究 平成16年度 総括・分担研究報告書 2005; pp51-57.

(1) 原著 :

- 1) Orimo H¹⁾, Shimura T, Shimada T¹⁾(¹⁾ Department of Biochemistry Molecular Biology): Nutrition education in medical schools in Japan : results from a questionnaire survey . Asia Pac J Clin Nutr 2006 ; 15 (3): 323-328 .
- 2) Okano T¹⁾, Gemma A¹⁾, Hosoya Y¹⁾, Hosomi Y¹⁾, Nara M¹⁾, Kokubo Y¹⁾, Yoshimura A, Shibuya M¹⁾, Nagashima M¹⁾, Harris CC¹⁾, Kudoh S¹⁾ : Alterations in novel candidate tumor suppressor genes, ING1 and ING2 in human lung cancer . Oncol Rep 2006 ; 15 (3) : 545-549 .
- 3) Gemma A¹⁾, Li C¹⁾, Sugiyama Y¹⁾, Matsuda K¹⁾, Seike Y¹⁾, Kosaihiira S¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Noro R¹⁾, Nara M¹⁾, Seike M¹⁾, Yoshimura A, Shionoya A¹⁾, Kawakami A¹⁾, Ogawa N¹⁾, Uesaka H¹⁾, Kudoh S¹⁾ : Anticancer drug clustering in lung cancer based on gene expression profiles and sensitivity database . BMC Cancer 2006 ; 6 : 174-174 .
- 4) Katakami N¹⁾, Takiguchi Y²⁾, Yoshimori K³⁾, Isobe H⁴⁾, Bessho A⁵⁾, Yoshimura A, Niitani H⁶⁾(¹⁾ Kobe City General Hosp. , ²⁾ Div. Pulmonary Med. Chiba Univ. Hosp. , ³⁾ Div. Pulmonary Med. Anti-Tuberculosis Assoc. Fukujiji Hosp. , ⁴⁾ Div. Pulmonary Med. Hokkaido Cancer Center , ⁵⁾ Div. Pulmonary Med. Shikoku Cancer Center , ⁶⁾ The Tokyo Operative Oncology Group) : Docetaxel in combination with either cisplatin or gemcitabine in unresectable non-small cell lung carcinoma : a randomized phase II study by the Japan lung cancer cooperative clinical study group . J Thorac Oncol 2006 ; 1 (5) : 447-453 .
- 5) Gemma A¹⁾, Seike M¹⁾, Kosaihiira S¹⁾, Minegishi Y¹⁾, Noro R¹⁾, Nara Y¹⁾, Hosomi Y¹⁾, Okano T¹⁾, Kokubo Y¹⁾, Yoshimura A, Shibuya M¹⁾, Kudoh S¹⁾(¹⁾4th Dept. Intern. Med.) : Phase I/II study of paclitaxel + carboplatin for refractory or recurrent non-small cell lung cancer . Anticancer Res 2006 ; 26 (4B) : 3083-3087 .
- 6) Hino M¹⁾, Kobayashi K²⁾, Yoshimura A, Takeda Y³⁾, Hisakatsu S⁴⁾, Yoneda S²⁾, Gemma A⁵⁾, Moriya H⁶⁾, Kudoh S⁵⁾(¹⁾ Div. Int. Med. Chiba-Hokuso Hosp. Nippon Med. School , ²⁾ Resp. Section Saitama Cancer Center , ³⁾ Dep. Resp. Med. International Med. Center of Japan , ⁴⁾ Resp. Section Hakujuikai Memorial Hosp. , ⁵⁾ 4th Dept. Intern. Med. , ⁶⁾ Dept. Radiology Fukushima Med. Univ.) : Weekly administration of irinotecan (CPT-11) plus cisplatin for non-small cell lung cancer . Anticancer Res 2006 ; 26 : 4697-4704 .
- 7) 志村俊郎, 寺本 明¹⁾(¹⁾脳神経外科学): 日本医科大学教育推進室 . 医学教育 2006 ; 37 (1) : 62-63 .
- 8) 工藤翔二¹⁾, 吉村明修 (¹⁾内科学第4): 抗癌剤による肺障害: その現状と問題点 . 癌と化学療法 2006 ; 33 (7) : 881-886 .
- 9) 後藤 忠¹⁾, 石川朋子¹⁾, 羅 善順¹⁾, 森 美貴¹⁾, 瀧澤敬美¹⁾, 志村俊郎, 瀧澤俊広¹⁾ : 日本医科大学における分子解剖学の学生による授業評価 アンケート調査から . 解剖誌 2006 ; 81 : 89-94 .
- 10) 志村俊郎, 寺本 明¹⁾, 高橋秀実²⁾(¹⁾脳神経外科学, ²⁾微生物・免疫学): 日本医科大学教育委員会 . 医学教育 2007 ; 38 (1) : 53-54 .

(2) その他 :

- 1) 志村俊郎 : 第26回国内医科大学視察と討論の会報告書 . 財団法人医学教育振興財団 2006 ; 1 (1) : 1-1 .
- 2) 志村俊郎, 唐沢信安¹⁾, 石川康悦²⁾, 寺本 明³⁾(¹⁾唐沢医院, ²⁾石川医院, ³⁾日本医科大学脳神経外科学): 「野口英世」と済生学舎で同級であった石川東悦医師の残した写真と試験問題について . 日本医史学雑誌 2006 ; 52 (1) : 82-83 .
- 3) 志村俊郎, 唐沢信安¹⁾, 殿崎正明²⁾, 岩崎 一³⁾, 寺本 明⁴⁾(¹⁾唐沢医院, ²⁾日本医科大学図書館, ³⁾岩崎医院, ⁴⁾日本医科大学脳神経外科学): 野口英世の左手の「わが国初の有茎皮弁移植術」 . 日本医史学雑誌 2007 ; 53 (1) : 112-113 .

(3) 研究報告書：

- 1) 吉村明修, 矢野 侃¹⁾(¹⁾荒川区がん予防セ): 革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究: CT肺がん検診有効性コホート研究・喀痰細胞診有効性症例対照研究 都市部での住民対象CT検診の感度分析. 革新的な診断技術を用いたこれからの肺がん検診手法の確立に関する研究: CT肺がん検診有効性コホート研究・喀痰細胞診有効性症例対照研究 平成17年度 総括・分担研究報告 2006; pp34-36.
- 2) 阿曾亮子, 志村俊郎, 吉村明修, 八木正敏, C. S. Lab. 運営委員会: 日本医科大学クリニカル・シミュレーション・ラボにおける利用促進の取組み. 新しい医学教育の流れ'06夏 第21回医学教育セミナーとワークショップの記録 2007; pp172-176.

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 志村俊郎: 一学年や学部を超えて互いに教えて学ぶ医学教育 T/Each other programs 1. 入学時の基本的救命手技履修と救急蘇生講習会への sub-instructor としての参加 2. 上級生が教員と共に指導する Clinical Simulation Laboratory 実習. 特色 GP (2006年採択) 公開フォーラム, 2007. 2.

(2) シンポジウム：

- 1) 吉村明修: 「肺癌の分子標的薬-臨床におけるその後の展開-」4. 分子標的薬の副作用とその対策. 第46回日本呼吸器学会学術集会, 2006. 6.
- 2) 吉村明修: 「呼吸器病学をいかに教育するか」1. 学部教育. 第46回日本呼吸器学会学術集会, 2006. 6.
- 3) 志村俊郎: 「よりよい医学教育に向けての新たな視点 reflectionの位置づけ」シミュレーション医学教育における self-directed learning. 第38回日本医学教育学会大会, 2006. 7.

(3) 一般講演：

- 1) Shimura T, Takayanagi K¹⁾(¹⁾Dept. Health Services Administration): Standard Patients (SPs) Program in Medical Education Can Be Mutually Beneficial. 12th International Ottawa Conference on Clinical Competence (New York), 2006. 5.
- 2) Shimura T, Teramoto A¹⁾, Yoshimura A (¹⁾Dept. Neurosurgery): Lecture Evaluation by Students at a Private Medical School in Japan. 12th International Ottawa Conference on Clinical Competence (New York), 2006. 5.
- 3) 志村俊郎, 吉村明修, 阿曾亮子, 高柳和江¹⁾, 加藤貴雄²⁾, 清野精彦²⁾, 飯野靖彦³⁾, 寺本 明⁴⁾(¹⁾医療管理学, ²⁾内科学第1, ³⁾内科学第2, ⁴⁾脳神経外科学): 市民が自発的に模擬患者として参加する学生・研修医との双方向的な医学教育. 第38回日本医学教育学会大会, 2006. 7.
- 4) 柳生久永¹⁾, 松岡 健²⁾, 壇原 高³⁾, 吉村明修, 工藤翔二⁴⁾(¹⁾東京医大 霞ヶ浦病院 総合診療部, ²⁾東京医大 内科学第五, ³⁾順天堂大 総合診療科, ⁴⁾日本医科大学内科学第4): 日本呼吸器学会認定施設における卒業臨床研修教育の現状について. 第38回日本医学教育学会大会, 2006. 7.
- 5) 吉村明修, 志村俊郎, 阿曾亮子, 国信浩洋¹⁾, 瀧澤俊広²⁾, 明樂重夫³⁾, 寺本 明⁴⁾(¹⁾ドイツ語, ²⁾解剖学第1, ³⁾産婦人科学, ⁴⁾脳神経外科学): 学生による授業評価の妥当性・信頼性に関する研究. 第38回日本医学教育学会大会, 2006. 7.
- 6) 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎, 瀧澤俊広¹⁾, 国信浩洋²⁾, 儀我真理子³⁾, 明樂重夫⁴⁾, 伊藤高司⁵⁾, 八木正敏(¹⁾解剖学第1, ²⁾ドイツ語, ³⁾数学, ⁴⁾産婦人科学, ⁵⁾情報科学センター): 日本医科大学における授業評価アンケートの実施状況と授業改善. 第38回日本医学教育学会大会, 2006. 7.
- 7) 阿曾亮子, 志村俊郎, 吉村明修, 八木正敏, C. S. Lab. 運営委員会: 日本医科大学クリニカル・シミュレーション・ラボにおける利用促進の取組み. 第1回モデル&シミュレーション医学教育研究会, 2006. 8.
- 8) 阿曾亮子, 吉村明修, 志村俊郎: クリニカル・シミュレーション・ラボ開設後1年間の運営状況と利用促進に

ついて．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．

- 9) 吉村明修，志村俊郎，阿曾亮子，儀我真理子¹⁾，瀧澤俊広²⁾，明樂重夫³⁾，寺本 明⁴⁾(¹⁾数学，²⁾解剖学第1，³⁾産婦人科学，⁴⁾脳神経外科学): 学生による授業評価の妥当性・信頼性に関する研究．第74回日本医科大学医学会総会，2006．9．
- 10) 吉村明修，志村俊郎，阿曾亮子，八木正敏，C. S. Lab. 運営委員会：日本医科大学クリニカル・シミュレーション・ラボにおける利用促進の取組 第2報．第2回モデル&シミュレーション医学教育研究会，2007．1．
- 11) 中山富雄¹⁾，鈴木隆一郎¹⁾，曾根脩輔²⁾，長尾啓一³⁾，望月輝一⁴⁾，吉村明修，新妻伸二⁵⁾，西井研治⁶⁾，中川徹⁷⁾，岡本直幸⁸⁾(¹⁾大阪府成人病セ，²⁾長野県厚生連 安曇総合病院，³⁾千葉大 保健管理セ，⁴⁾愛媛大 医 放射線医学，⁵⁾新潟県労働衛生医学協 プラーク健康増進セ，⁶⁾岡山県健康づくり財団病院，⁷⁾日立健康管理セ，⁸⁾神奈川県がんセ 研): 低線量CTを用いた肺がん検診の有効性評価研究班の進捗状況．第14回日本CT検診学会学術集会，2007．2．
- 12) 阿曾亮子，吉村明修，志村俊郎，高柳和江¹⁾(¹⁾医療管理学): 医学生との医療面接授業に参加するボランティアSPの意識調査．日本薬学会第127年会，2007．3．

付 表

各種研究費補助金・研究助成金交付状況

1. 平成 18 年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	研究代表者	所属・職	決定額： 千円	研究課題
特定領域研究		佐久間康夫	システム生理学・医学研究科(基礎医学)・教授	24,000	ラット脳の性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析
"		田中 信之	遺伝子制御学・医学研究科(老人病研究所)・教授	19,600	核内癌抑制因子による遺伝子発現制御システムの解析
"		太田 成男	細胞生物学・医学研究科(老人病研究所)・教授	5,400	発がん時におけるミトコンドリア遺伝子体細胞変異の蓄積によるがん増殖促進機構
萌芽研究		右田 真	小児科学・付属病院助教授	700	造血幹細胞の生着のメカニズムの解明
"		横田 裕行	救急医学・付属病院助教授	500	ポテンシャルドナーを増やすための電気生理学的検査を用いた脳死判定に関する研究
"		高柳 和江	医療管理学・基礎医学・助教授	200	医療安全を加味した医師の臨床判断教育と評価のためのシミュレーションツールの開発
"		瀧澤 敬美	解剖学第一・基礎医学・助手	1,300	精巣形成過程における生殖細胞に特異的なマイクロ RNA の同定と発現解析
"		佐久間康夫	システム生理学・医学研究科(基礎医学)・教授	1,800	神経活動依存的逆行性標識による性腺刺激ホルモン排卵性大量分泌中枢の特定
"		羅 善順	解剖学第一・基礎医学・助手	1,900	妊娠における免疫抑制型 Fc 受容体の調節機構の解析：自己免疫疾患合併症の病態解明
"		石川 源	産婦人科学・付属病院助手	1,800	胎盤機能不全に対する胎児型 Fc 受容体を利用した新治療法開発のための萌芽研究
"		八木 聡明	頭頸部・感覚器科学・医学研究科(付属病院)・教授	1,600	前庭感覚器障害克服のための人工前庭器開発
"		百束 比古	形態機能再生再建医学(形成外科学)・医学研究科(付属病院)・教授	2,300	緑色脂肪トランスジェニックマウスの開発
若手研究(B)		西川 純恵	英語学・基礎科学・講師	400	対照修辞学に立脚した日本人向け英文ライティング教授法とモデル教材開発のための研究
"		松村 智裕	生化学第一・基礎医学・助手	1,100	モリブデン酵素の活性化を調節する新規タンパク質の反応機構
"		上村 尚美	生化学部門・老人病研究所・助手	1,100	核遺伝子産物 MIDAS によるミトコンドリア増殖機構の解明
"		中山 智子	病理学第一・基礎医学・助手	500	特発性間質性肺炎における転写因子 foxF1 と MMP/TIMP の検討
"		根本 崇宏	生理学第二・基礎医学・助手	600	神経性食欲不振症における中枢神経系機能異常への神経細胞オートファジー関与の解明
"		舘野 周	精神医学・付属病院助手	700	PET・SPECT を用いたうつ病の認知機能及び末梢性ベンゾジアゼピン受容体の研究
"		大森 裕也	外科学(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院助手	500	光学的マッピングを用いた左心房容量負荷心房細胞モデルの電気生理学的検討

"	佐藤(織田) 恵理	免疫部門・老人病研究所・講師	1,700	細胞周期破綻時の p53 によるアポトーシス誘導機構の解析
"	田村 秀樹	内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院助手	1,500	新規ストレス関連ペプチドによる成長ホルモンの分泌調節
"	浅井 牧子	小児科学・武蔵小杉病院助手	1,100	移植骨髄由来心筋細胞は正常心筋細胞の機能を有するか? イオンチャネルからの検討
"	池田裕美子	薬理学・基礎医学・助手	1,400	機能的 MRI を用いた統合失調症の聴覚性注意機能ネットワーク障害解明に関する研究
"	眞野あすか	生理学第二・基礎医学・助手	1,100	不安反応における CRF ファミリーペプチド / 受容体とニューロステロイドの役割の解明
"	一宮 哲哉	精神医学・付属病院助手	1,300	PET を用いた抗うつ薬の脳内ノルエピネフリントランスporter 占有に関する研究
"	三嶋 拓也	機能形態学・医学研究科(基礎医学)・ポスドクター	900	肝胆道系癌細胞に特異的な microRNA の同定と発現プロファイル解析
"	森 美貴	解剖学第一・基礎医学・助手	1,300	新規ラングハンス細胞特異抗体による胎盤関門機能の解析
"	横山有希子	耳鼻咽喉科学・千葉北総病院助手	1,300	好酸球性中耳炎での好酸球遊走と好酸球性炎症の維持における肥満細胞の新たな役割
"	小川 令	形成外科学・付属病院講師	800	脂肪組織由来幹細胞を用いた造血管再生
"	石橋 宰	解剖学第一・基礎医学・講師	1,200	石灰化能の異なる株細胞群を用いる石灰化制御に関する研究
"	若林あや子	微生物学・免疫学・基礎医学・助手	1,000	飲水中残留塩素による卵白アルブミン特異的免疫反応の誘導: 塩素と食物アレルギー
"	坂井 敦	薬理学・基礎医学・助手	1,500	神経因性疼痛に対して NCAM が担う役割の解析による治療薬の探索
"	三宅 紀子	生化学第二・基礎医学・技術主査補	1,800	リソゾーム病の神経病変を標的とした新規遺伝子治療の開発
"	初鹿野見春	小児科学・武蔵小杉病院助手	1,400	酸素による動脈管収縮メカニズムの解明 プロテインチップシステムを用いて
"	二神 綾子	皮膚科学・付属病院講師	1,600	パルスダイレーザーによるケロイド抑制効果の病態解明
"	八幡 憲明	薬理学・基礎医学・助手	2,300	うつ病患者の脳機能解明とこれに抗うつ薬がもたらす作用に関する機能的 MRI 研究
"	水口 義昭	外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院助手	1,900	RNA 干渉法での癌関連遺伝子群ダブルノックダウンによる胆道癌遺伝子治療
"	川島 徹生	外科学(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・千葉北総病院助手	1,400	肺癌患者における CD1 脂質抗原提示系の役割
"	新藤 晋	耳鼻咽喉科学・付属病院助手	1,400	内耳発達過程における Cochlin の発現 Spatiotemporal な検討
"	齋藤 明彦	耳鼻咽喉科学・多摩永山病院助手	1,400	遺伝性難聴の原因遺伝子 COCH の機能解明
"	野本 俊一	形成外科学・付属病院助手	2,000	脂肪組織由来幹細胞から再生した組織の皮弁移植

基盤研究(A)	一般	西野 武士	医科生物化学・医学研究科(基礎医学)・教授	10,500	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質揺らぎの解明
基盤研究(B)	一般	大久保善朗	精神・行動医学・医学研究科(付属病院)・教授	2,700	統合失調症の進行性憎悪過程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究
"	"	八木 聡明	頭頸部・感覚器科学・医学研究科(付属病院)・教授	1,300	前庭性眼振はリストニングの法則に従うか
"	"	田中 信之	遺伝子制御学・医学研究科(老人病研究所)・教授	4,300	癌抑制転写因子 p53 によるアポトーシスの制御を介した癌抑制機構の解析
"	"	太田 成男	細胞生物学・医学研究科(老人病研究所)・教授	3,500	細胞死抑制強化蛋白質の細胞内導入による脳梗塞治療法の開発
"	"	瀧澤 俊広	機能形態学・医学研究科(基礎医学)・教授	2,700	胎盤における IgG 輸送の鍵となる型 Fc 受容体を含む新しい細胞内小器官の解析
"	"	島田 隆	分子遺伝医学・医学研究科(基礎医学)・教授	3,700	遺伝性神経変性疾患に対する非侵襲的遺伝子治療法の開発(BBB を超えられるか?)
"	"	百束 比古	形態機能再生再建医学(形成外科学)・医学研究科(付属病院)・教授	3,800	脂肪組織幹細胞による生体内3次元組織再生 大動物を用いた前臨床研究
"	"	佐久間康夫	システム生理学・医学研究科(基礎医学)・教授	3,800	個体発生の途上における細胞内イオン環境の変化を介する脳の性分化
"	"	田尻 孝	臓器病態制御外科学・医学研究科(付属病院)・教授	10,200	肝炎, 肝硬変, 肝臓における網羅的 microRNA プロファイルと機能的 RNA 探索
"	"	寺本 明	神経病態解析学・医学研究科(付属病院)・教授	6,400	下垂体腺腫の細胞浸潤に関する分子形態学的研究
基盤研究(C)	一般	高市 眞一	生物学・基礎科学・助教	900	カロテノイド成分・遺伝子から見た光合成細菌からシアノバクテリアへの進化
"	"	木山 裕子	生理学第一・基礎医学・講師	800	ゲノム構築から捉えた発生段階特異的ヒト・グロビン鎖合成スイッチング機構の解析
"	"	折笠千登世	生理学第一・基礎医学・助手	900	脳部位特異的に発現するエストロゲン受容体サブタイプの遺伝子発現制御と機能
"	"	鈴木 秀典	神経情報科学・医学研究科(基礎医学)・教授	700	新規気分障害治療薬開発を志向した霊長類中枢タキキニン作動性神経伝達に関する研究
"	"	川田 智之	環境医学・医学研究科(基礎医学)・教授	200	携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究
"	"	仁平 信	法医学・基礎医学・助教	900	アルコール・覚醒剤複合中毒における死後経過時間と薬物濃度の関連
"	"	鈴木 成治	外科学(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・多摩永山病院助手	900	胃癌組織の定量的 PCR 法を用いた特定分子標的領域 DNA コピー数の迅速定量法の開発
"	"	吉田 寛	外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院助教	600	肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝線維化および再生に及ぼす影響
"	"	菅野 重人	外科学(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院講師	700	虚血心筋における不整脈発生のメカニズム

"	"	輪島善一郎	麻酔科学・千葉北総病院講師	500	喫煙者・慢性閉塞性肺疾患に対する至適麻酔法の検討 周術期予後を改善させるために
"	"	岩切 致	形成外科学・武蔵小杉病院助手	700	脂肪組織幹細胞移植による難治性皮膚潰瘍の治療法の開発
"	"	濱田 知宏	生理学第一・基礎医学・助手	700	可視化エストロゲン感受性ニューロンを用いたエストロゲン多機能性の解明
"	"	洲鎌 秀永	生理学第二・基礎医学・講師	1,700	ストレスは退行性神経疾患を促進する？
"	"	山本 直之	解剖学第二・基礎医学・講師	800	神経修飾系として働く終神経のGnRH細胞群の入出力回路とその進化
"	"	大澤 郁朗	生化学部門・老人病研究所・講師	1,200	エネルギー代謝低下による神経細胞終末分化促進機構の解明
"	"	三上 俊夫	スポーツ科学・基礎科学・助教授	1,000	慢性的な精神ストレスによる脳神経細胞死に対して身体運動は抑制効果を持つか否か
"	"	岡 敦子	生物学・基礎科学・教授	500	両生類消化管をモデルとした器官再構築機構の形態学的解析
"	"	二神 生爾	内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門）・付属病院助手	1,100	T細胞により誘導される腸管上皮細胞由来PGE2によるAPE発現制御の解析
"	"	麻生 定光	生化学部門・老人病研究所・助教授	1,100	細胞死抑制活性強化蛋白質の細胞内導入治療法による肝組織変性の抑制
"	"	吾妻安良太	内科学（呼吸器・感染・腫瘍部門）・付属病院助教授	1,100	日本人特有の急性肺障害と薬剤性肺障害の素因解明に関する基礎的研究
"	"	三品 雅洋	脳神経センター（内科学講座（神経・腎臓・膠原病リウマチ部門））・千葉北総病院助手	800	アデノシン受容体PETによるパーキンソン病の病態解明とテラーメイド医療への応用
"	"	芝崎 保	生体統御科学・医学研究科（基礎医学）・教授	800	グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンの体脂肪蓄積作用機構の解明
"	"	亀谷 純	病態制御腫瘍内科学・医学研究科（付属病院）・特別研究生	1,700	肥満における成長ホルモン分泌障害機序の解明
"	"	檀 和夫	病態制御腫瘍内科学・医学研究科（付属病院）・教授	900	MLL/AF4遺伝子の癌化能と分子標的薬の基礎実験
"	"	緒方 清行	内科学（血液・消化器・内分泌代謝部門）・付属病院教授	1,000	CD45陰性造血細胞（CD45 ⁻ CD34 ⁺ CD38 ⁻ Lin ⁻ 細胞）の解析
"	"	伊藤 敬雄	精神医学・付属病院講師	800	中高年うつ病における自殺企図の生物学的要因に関する脳画像研究
"	"	林 宏光	放射線医学・付属病院助教授	600	異種造影剤の同時投与による腎機能障害：正常および糖尿病性腎症ラットを用いた検討
"	"	保坂 純郎	放射線医学・付属病院講師	1,000	静脈内レーザー照射の慢性期作用の解明と下肢静脈瘤に対する日帰り根治法の確立
"	"	天神 敏博	外科学（内分泌・心臓血管・呼吸器部門）・付属病院講師	900	リアルタイムPCRとFCMによる乳癌リンパ節癌微小転移の自動診断と予後の観察

"	"	松谷 毅	外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院助手	1,100	外科手術における免疫反応の性差とDHEAの関連に関する研究
"	"	内藤 善哉	統御機構病理学・医学研究科(基礎医学)・教授	1,300	膵癌 膵炎におけるlumicanの細胞増殖分化に及ぼす役割
"	"	吉田 大蔵	脳神経外科学・武蔵小杉病院助教授	900	低酸素関連転写因子を介した下垂体腺腫の浸潤の機序に関する分子生物学的研究
"	"	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・多摩永山病院教授	1,200	実験的自己免疫性迷路炎モデルにおける内耳特異的抗体の機能解析
"	"	野中 学	耳鼻咽喉科学・多摩永山病院講師	1,100	cDNA マイクロアレイを用いた鼻副鼻腔線維芽細胞活性化分子機構の解明
"	"	滝沢 竜太	耳鼻咽喉科学・付属病院助手	1,000	RS ウィルス感染アレルギーマウスの気道における好酸球脱顆粒機序の解明
"	"	亀谷 修平	眼科学・千葉北総病院助手	1,100	視細胞変性疾患の原因となるRPE 特異的蛋白質の機能および相互作用解析
"	"	堀 純子	眼科学・付属病院助教授	1,500	眼の免疫特権機構の解明と角膜移植後拒絶反応の制御
"	"	水野 博司	形成外科学・付属病院助教授	1,100	脂肪組織幹細胞による歯周組織の再生 根治的歯周病治療法の開発に向けて
"	"	原 行弘	リハビリテーション科・千葉北総病院助教授	2,500	パラメーター記憶機能付パワーアシスト型機能的電気刺激によるリハビリテーション
"	"	西野 朋子	生化学第一・基礎医学・講師	1,900	活性酸素種を大量に産生する変異キサンチン酸化酵素を用いたレドックス制御機構の解明
"	"	近藤 保彦	生理学第一・基礎医学・講師	900	ラットの雌性性指向性決定の神経機序
"	"	加藤 昌克	生理学第一・基礎医学・助教授	1,800	卵巣由来プロジェスチンによるゴナドトロピン放出ホルモンニューロンの機能調節
"	"	岡本 研	生化学第一・基礎医学・助教授	1,500	蛋白質のX線結晶構造に基づく創薬のための分子基盤研究
"	"	埴 秀樹	生化学第二・基礎医学・助手	1,800	レトロウイルスによる原癌遺伝子活性化の定量法を新規開発し安全なベクターを開発する
"	"	若山 葉子	衛生学・公衆衛生学・基礎医学・講師	1,600	凍結保存血清を用いた肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察
"	"	坂本 長逸	内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院教授	2,200	腸上皮化生進展と胃癌発症過程におけるCOX2の役割とCOX2阻害剤の効果
"	"	高橋 秀実	生体防御医学・医学研究科(基礎医学)・教授	1,300	ピロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化と自己免疫疾患の誘発
"	"	工藤 翔二	呼吸器感染腫瘍内科学・医学研究科(付属病院)・教授	2,000	肺の慢性上皮傷害病態における発癌分子機構の解明とその制御
"	"	阿部 信二	内科学(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院講師	700	造血幹/前駆細胞の肺障害における役割並びに治療法応用への基礎的検討

"	"	福田 悠	解析人体病理学・医学研究科(基礎医学)・教授	1,300	各種間質性肺炎における血管, リンパ管の新生とその機序
"	"	片山 泰朗	神経・腎病態内科学・医学研究科(付属病院)・教授	2,100	新規脳保護薬による脳虚血後の神経再生の増強効果のメカニズムの解明
"	"	及川 眞一	内科学(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院教授	1,300	酸化ストレスに対する生体応答としての動脈硬化初期病変形成能と治療法の開発
"	"	藤野 修	小児科学・千葉北総病院教授	1,700	インフルエンザ脳症・脳炎患児の脳脊髄液中の発現蛋白におけるプロテオミクス解析
"	"	三宅 弘一	生化学第二・基礎医学・講師	1,800	ダイヤモンド・ブラックファン貧血の分子機序の解明と遺伝子治療の開発
"	"	下田 健吾	精神医学・付属病院講師	1,400	拡散テンソル解析を用いた老年期うつ病の認知症移行予測因子の同定
"	"	田島 廣之	放射線医学・付属病院教授	1,700	重症静脈血栓塞栓症に対するハイブリッドIVRシステムの基礎・臨床応用に関する研究
"	"	村田 智	放射線医学・付属病院講師	2,100	難治性がんに対する革新的ドラッグデリバリーシステムの開発
"	"	秋丸 琥甫	外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院教授	1,400	肝切後門脈圧上昇に対する小腸切除量の検討 過小グラフト対策法確立を目指して
"	"	内田 英二	外科学(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院助教授	600	リアルタイム in vivo イメージングシステムを用いた新しい膵癌実験モデル
"	"	石渡 俊行	病理学第二・基礎医学・助教授	1,600	Lumican の細胞増殖因子制御による膵臓癌増殖抑制効果の検討
"	"	工藤 光洋	病理学第二・基礎医学・助手	1,700	膵内の膵幹細胞の分離同定とその応用
"	"	新田 隆	外科学(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院教授	2,400	左心房容量負荷モデルにおいて肺静脈隔離が心房細動の発生と維持に及ぼす影響
"	"	坂本 篤裕	疼痛制御麻酔科学・医学研究科(付属病院)・教授	2,400	麻酔薬・麻酔法が体内遺伝子発現に及ぼす影響
"	"	石川 朋子	解剖学第一・基礎医学・助手	2,100	RNAi ノックダウン法による雄性生殖細胞特異的分子 TEX101 の機能解析
"	"	清水 章	病理学第一・基礎医学・助教授	2,000	自然抗原ノックアウトミニプタからヒヒへの異種移植臓器廃絶の機序の解明と, その制御
"	"	Ruby Pawankar	耳鼻咽喉科学・付属病院助教授	2,100	好酸球性副鼻腔炎やアスピリン喘息を伴う鼻茸における肥満細胞の新たな役割
"	"	三枝 英人	耳鼻咽喉科学・付属病院講師	1,300	ヒトにおける舌の反射性運動の発現と, その新しい臨床応用についての基礎的研究
"	"	後藤 穰	耳鼻咽喉科学・千葉北総病院講師	1,600	舌下免疫療法の効果発現メカニズムを検討する
"	"	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・付属病院講師	1,500	外リンパ蛋白の網羅的ディファレンシャル解析による治療ターゲット蛋白の同定
"	"	平岡 美紀	眼科学・付属病院助手	1,500	未熟児網膜症における遺伝子要因の解析とシグナル伝達系への関与

"	"	山木邦比古	眼科学・千葉北総病院助教授	2,700	原田病特異的免疫反応に基づく診断と治療法開発に向けた研究
"	"	土佐真美子	形成外科学・武蔵小杉病院助手	1,500	IL-6 シグナル制御によるケロイドの新しい分子治療の確立と発症機序の解明
"	"	岩崎 俊雄	生化学第一・基礎医学・講師	1,600	超好熱菌の複合金属酵素のナノアッセムブリー機構解析

2. 平成 18 年度科学研究費補助金研究分担の採択・交付状況

研究分担者・所属	研究種目	研究代表者・所属	研究課題名
1 太田 成男 細胞生物学	特定領域研究	林 純一 筑波大学大学院生命 環境科学研究科	ミトコンドリア tRNA 遺伝子突然変異 導入マウスの病態解析と遺伝子治療
2 佐藤 茂 中央電子顕微 鏡研究施設	基盤研究 (B)	木口 憲爾 信州大学繊維学部	重イオンマイクロビーム利用による昆 虫の生体損傷修理機構の解析
3 増野 智彦 救急医学	基盤研究 (B)	小池 薫 京都大学大学院医学 研究科	多臓器不全発生に関する脂質メディ エーターと脳障害発症メカニズムの解明
			補助金合計額 5,900,000 円

3. 平成 18 年度各種補助金の交付状況一覧〔内訳〕

単位：千円

項 目	平成 18 年度		
	本学負担額	補助金額	総事業費
私立大学教育研究高度化推進特別補助（文部科学省執行分）			
大学院高度化推進特別経費			
1 大学院整備重点化経費			
教育研究拠点大学院重点経費		255,282	255,282
研究科特別経費			
研究科分	32,609	27,391	60,000
学生分	12,609	10,591	23,200
2 ティーチング・アシスタント経費	4,457	3,743	8,200
学術研究推進特別経費			
1 学術研究高度化推進経費			
ハイテク・リサーチ・センター経費	44,600	44,600	89,200
2 リサーチ・アシスタント，ポスト・ドクター等経費			
リサーチ・アシスタント，ポストドクター	55,110	46,290	101,400
大学教育高度化推進特別経費			
1 教育・学習方法等改善支援経費			
教育・学習方法等改善支援分	6,147	5,022	11,169
2 多元的評価支援経費	489	822	1,311
高度情報化推進特別経費			
1 教育学術情報ネットワーク	46,709	39,169	85,878
2 教育学術コンテンツ			
教育研究用ソフトウェア	6,502	4,748	11,250
3 教育研究情報利用経費	24,304	18,808	43,112
合計	233,536	456,466	690,002
私立大学等経常費補助金特別補助（私立学校振興・共済事業団執行分）			
個性化推進特別経費			
1 学習方法の改善			
大学院基盤整備経費			
大学院基盤整備経費		101,710	101,710
研究支援分		21,372	21,372
研究支援分（研究施設分）		6,370	6,370
少人数教育の推進		6,000	
インターンシップの推進		3,000	
2 学習機会の多様化			
外国人留学生の受入れ		1,572	1,572
研究施設・設備等運営費			
研究施設	25,677	25,600	51,277
大型設備等	10,225	9,600	19,825
合計	35,902	175,224	202,126
私立学校等における施設・装置・設備関係補助（文部科学省）			
1 教育研究装置整備費補助			
教育装置	26,103	26,102	52,205
2 研究設備	3,790	7,570	11,360
合計	29,893	33,672	63,565

4. 平成18年度補助・委託一覧

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
岡 敦子	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金	両生類消化管をモデルとした器官再構築機構の形態学的解析	岡 敦子	
高市 真一	自然科学・生物学	代表	科学研究費補助金	カロテノイド成分・遺伝子から見た光合成細菌からシアノバクテリアへの進化	高市 真一	
高市 真一	自然科学・生物学	分担	(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構	小規模利水地点における分散型水質管理を目的とした重金属換出用微生物センサーの開発	前田 勇	宇都宮大学・農
西川 純恵	外国語・英語	代表	科学研究費補助金	対象修辞学に立脚した日本人向け英文ライティング教授法とモデル教材開発のための研究	西川 純恵	
三上 俊夫	スポーツ科学	代表	科学研究費補助金	慢性的な精神ストレスによる脳神経細胞死に対して身体運動は抑制効果を持つか否か	三上 俊夫	
瀧澤 俊広	解剖学第一	代表	科学研究費補助金	胎盤におけるIgG輸送の鍵となるII型Fc受容体を含む新しい細胞内小器官の解析	瀧澤 俊広	
瀧澤 敬美	解剖学第一	代表	科学研究費補助金	精巢形成過程における生殖細胞に特異的なマイクロRNAの同定と発現解析	瀧澤 敬美	
三嶋 拓也	解剖学第一	代表	科学研究費補助金	肝胆道系癌細胞に特異的なmicroRNAの同定と発現プロファイル解析	三嶋 拓也	
石川 朋子	解剖学第一	代表	科学研究費補助金	RNAiノックダウン法による雄性生殖細胞特異的分子TEX101の機能解析	石川 朋子	
森 美貴	解剖学第一	代表	科学研究費補助金	新規ラングハンス細胞特異抗体による胎盤関門機能の解析	森 美貴	
羅 善順	解剖学第一	代表	科学研究費補助金	妊娠における免疫抑制型Fc受容体の調節機構の解析：自己免疫疾患合併症の病態解明	羅 善順	
石橋 宰	解剖学第一	代表	科学研究費補助金	石灰化能の異なる株細胞群を用いる石灰化制御に関する研究	石橋 宰	
小澤 一史	解剖学第二	代表	赤枝医学研究財団助成金	新規生理活性ペプチドkisspeptinによる思春期発動と性機能調節の神経制御への役割および思春期前後に生じる性機能障害との関連に関する分子神経形態学的研究	小澤 一史	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
佐久間康夫	生理学第一	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	ラットの性分化の際にエストロゲンにより駆動される制御分子の同定と機能解析	佐久間康夫	
佐久間康夫	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)	個体発生の途上における細胞内イオン環境の変化を介する脳の性分化	佐久間康夫	
佐久間康夫	生理学第一	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	神経活動依存的逆行性標識による性腺刺激ホルモン排出大量分泌中枢の特定	佐久間康夫	
加藤 昌克	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	卵巣由来プロジェクチンによるゴナドトロピン放出ホルモンニューロンの機能調節	加藤 昌克	
木山 裕子	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ゲノム構築から捉えた発生段階特異的ヒト・グロビン鎖合成スイッチング機構の解析	木山 裕子	
近藤 保彦	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ラットの雌性性指向性決定の神経機序	近藤 保彦	
折笠千登世	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	脳部位特異的に発現するエストロゲン受容体サブタイプの遺伝子発現制御と機能	折笠千登世	
大西 知宏	生理学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	可視化エストロジェン感受性ニューロン機能性の解明	大西 知宏	
根本 崇宏	生理学第二	代表	平成16年度科学研究費補助金若手研究(B)	神経性食欲不振症における中枢神経系機能異常への神経細胞オートファジーの関与の解明	根本 崇宏	
根本 崇宏	生理学第二	代表	平成17年度科学研究費補助金若手研究(B)	神経性食欲不振症における中枢神経系機能異常への神経細胞オートファジーの関与の解明	根本 崇宏	
根本 崇宏	生理学第二	代表	平成18年度科学研究費補助金若手研究(B)	神経性食欲不振症における中枢神経系機能異常への神経細胞オートファジーの関与の解明	根本 崇宏	
芝崎 保	生理学第二	代表	平成16年度科学研究費補助金基盤研究(C)	GH分泌惹起物質受容体発現抑制トランスジェニックラットを用いた同受容体の機能解明	芝崎 保	
芝崎 保	生理学第二	代表	平成17年度科学研究費補助金基盤研究(C)	グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンの体脂肪蓄積作用機序の解明	芝崎 保	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
芝崎 保	生理学第二	代表	平成18年度科学研究費補助金基盤研究(C)	グレリン受容体発現抑制遺伝子改変ラットを用いたグレリンの脂肪蓄積作用機序の解明	芝崎 保	
芝崎 保	生理学第二	主任	平成16年度厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業	中枢性摂食異常症に関する調査研究	芝崎 保	
芝崎 保	生理学第二	主任	平成17年度厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業	中枢性摂食異常症に関する調査研究	芝崎 保	
芝崎 保	生理学第二	主任	平成18年度厚生労働省科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業	中枢性摂食異常症に関する調査研究	芝崎 保	
芝崎 保	生理学第二	分担	平成17年度厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業	ソマトロースに対するグレリンの臨床応用と基盤的研究	寒川 賢治	国立循環器病センター
芝崎 保	生理学第二	分担	平成18年度厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業	ソマトロースに対するグレリンの臨床応用と基盤的研究	寒川 賢治	国立循環器病センター
芝崎 保	生理学第二	分担	平成16年度厚生労働省科学研究費補助金長寿科学総合研究事業	高齢者のソマトロースとエネルギー代謝に及ぼす新規ホルモングレリンの役割と臨床応用	寒川 賢治	国立循環器病センター
眞野あすか	生理学第二	代表	平成16年度科学研究費補助金若手研究(B)	不安調節機構におけるニューロステロイド及び不安関連ペプチドの役割の解析	眞野あすか	
眞野あすか	生理学第二	代表	平成17年度科学研究費補助金若手研究(B)	不安反応におけるCRFファミリーペプチド/受容体とニューロステロイドの役割の解明	眞野あすか	
眞野あすか	生理学第二	代表	平成18年度科学研究費補助金若手研究(B)	不安反応におけるCRFファミリーペプチド/受容体とニューロステロイドの役割の解明	眞野あすか	
洲鎌 秀永	生理学第二	代表	平成17年度科学研究費補助金基盤(C)	ストレスは退行性神経疾患を促進する？	洲鎌 秀永	
洲鎌 秀永	生理学第二	代表	平成18年度科学研究費補助金基盤(C)	ストレスは退行性神経疾患を促進する？	洲鎌 秀永	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
芝崎 保	生理学第二	代表	平成16年度財団法人喫煙科学研究財団	ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討	芝崎 保	
芝崎 保	生理学第二	代表	平成17年度財団法人喫煙科学研究財団	ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討	芝崎 保	
芝崎 保	生理学第二	代表	平成18年度財団法人喫煙科学研究財団	ニコチンのエネルギー貯蔵抑制作用機序に関する検討	芝崎 保	
眞野あすか	生理学第二	代表	平成16年度財団法人成長科学協会	中枢神経系および末梢組織のグレリンおよびその受容体のエネルギー代謝調節機構における役割の解析	眞野あすか	
眞野あすか	生理学第二	代表	平成17年度財団法人成長科学協会	エネルギー代謝調節機構におけるグレリンおよびその受容体の機能の解明	眞野あすか	
眞野あすか	生理学第二	代表	平成18年度財団法人成長科学協会	加齢に伴う体脂肪蓄積機序における成長ホルモンとグレリンの役割に関する解析	眞野あすか	
西野 武士, 岡本 研, 松村 智裕, 菊地 浩人	生化学第一	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(A)	モリブデン金属酵素の微細構造と水酸化反応機構・蛋白質揺らぎの解明	西野 武士	
岡本 研	生化学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	蛋白質のX線結晶構造に基づく創薬のための分子基盤研究	岡本 研	
西野 朋子	生化学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	活性酸素種を大量に産生する変異キサンチン酸化酵素を用いたレドックス制御機構の解明	西野 朋子	
松村 智裕	生化学第一	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	モリブデン酵素の活性化を調節する新規タンパク質の反応機構	松村 智裕	
岩崎 俊雄	生化学第一	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	超好熱菌の複合金属酵素のナノアッセムブリー機構解析	岩崎 俊雄	
西野 武士, 岡本 研, 西野 朋子, 阿部 靖子, 松村 智裕, 片山 草輝, 山 映, 草野 輝男, 川口 裕子	生化学第一	代表 分担	タンパク質3000プロジェクト	「タンパク質の個別的解析プログラム(発生・分化とDNAの複製・修復)」(創薬情報およびヒトタンパク質試料の提供)	西野 武士	
鈴木 秀典	薬理学	代表	科学研究費補助金	新規気分障害治療薬開発を志向した中枢タキキニン作用性神経伝達に関する研究	鈴木 秀典	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
池田裕美子	薬理学	代表	科学研究費補助金	機能的MRIを用いた統合失調症の聴覚性注意機能ネットワーク障害の解明に関する研究	池田裕美子	
八幡 憲明	薬理学	代表	科学研究費補助金	うつ病患者的脳機能解明とこれに抗うつ薬がもたらす作用に関する機能的MRI研究	八幡 憲明	
坂井 敦	薬理学	代表	科学研究費補助金	神経因性疼痛に対してNCAMが担う役割の解析による治療薬の探索	坂井 敦	
鈴木 秀典	薬理学	分担	科学研究費補助金	統合失調症の進行性増悪過程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究	大久保善朗	精神医学
齋藤 文仁	薬理学	分担	科学研究費補助金	抑制性シナプス制御機構の解明と創薬基盤の探索	小西 史朗	徳島文理大学
小林 克典	薬理学	代表	The International Human Frontier Science Program Organization	Environmental regulation of the brain function via the hippocampal mossy fibers	小林 克典	
鈴木 秀典	薬理学	代表	「日本オリンピック委員会/日本コカ・コーラ」スポンサー科学研究基金」アケアス基金	競技能力向上に向け知性薬が及ぼす影響に関する脳機能画像研究	鈴木 秀典	
中山 智子	病理学第一	代表	科学研究費補助金	間質性肺炎肺組織における転写因子 foxF1 と MMP/TIMP の検討	中山 智子	
福田 悠 石通 正通, 中山 智子	病理学第一	代表 分担	科学研究費補助金	各種間質性肺炎における血管、リンパ管の新生とその制御	福田 悠	
福田 悠	病理学第一	分担	厚生労働省科学研究費補助金「難治性疾患克服研究事業」	(特定疾患調査研究分野)びまん性肺疾患に関する調査研究	貫和 敏博	東北大学加齢医学研究所
清水 章, 益田 幸成, 石崎 正通, 杉崎 祐一	病理学第一	主任 分担	厚生労働省科学研究費補助金	自燃抗原ノックアウトミニニブタからヒトへの異種移植臓器廃絶の機序の解明と、その制御	清水 章	
石渡 俊行	病理学第二	代表	科学研究費補助金	Lumicanの細胞増殖因子制御による膀胱癌増殖抑制効果の検討	石渡 俊行	
内藤 善哉	病理学第二	代表	科学研究費補助金	膵癌、膵炎におけるlumicanの細胞増殖分化に及ぼす役割	内藤 善哉	
工藤 光洋	病理学第二	代表	科学研究費補助金	膵内の膵幹細胞の分離同定とその応用	工藤 光洋	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
若林あや子	微生物学・免疫学	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	飲水中残留塩素による卵白アルブミン特異的免疫反応の誘導：塩素と食物アレルギー	若林あや子	
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	平成16年度厚生労働省科学研究費補助金 エイズ対策研究事業	粘膜組織における感染伝播とCTLを主体とした感染制御の解明	佐多徹太郎	国立感染症研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	平成17年度厚生労働省科学研究費補助金 エイズ対策研究事業	粘膜組織における感染伝播とCTLを主体とした感染制御の解明	佐多徹太郎	国立感染症研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	平成17年度厚生労働省科学研究費補助金 国際医学協力研究事業	HIV感染症における免疫応答の解析とその臨床応用に関する研究	山本 直樹	国立感染症研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	平成18年度厚生労働省科学研究費補助金 国際医学協力研究事業	HIV感染症における免疫応答の解析とその臨床応用に関する研究	山本 直樹	国立感染症研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	平成18年度厚生労働省科学研究費補助金 エイズ対策研究事業	粘膜組織におけるHIVの感染拡大および制御機構の解明	山本 直樹	東京医科歯科大学
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	平成18年度厚生労働省科学研究費補助金 新興再興感染症研究事業	HIV感染予防における経粘膜ワクチンの開発	廣井 隆親	東京都臨床医学総合研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	平成16年度日米医学協力学術研究会研究助成	Transmission of macrophage-tropic HIV-1 by breast milk macrophages via DC-SIGN	木村 哲	国立国際医療センター
高橋 秀実	微生物学・免疫学	分担	平成16年度科学研究費補助金 特定領域研究	HIV感染細胞を制御する細胞性免疫の解明とその賦活法の開発	永井 美之	理化学研究所
高橋 秀実	微生物学・免疫学	代表	平成18年度科学研究費補助金 基礎研究(C)	ヒロリ菌ウレアーゼによるB-1細胞活性化と自己免疫疾患の誘発	高橋 秀実	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
川田智之, 稲垣弘文, 若山葉子, 李英姫, 勝又聖夫, 李卿	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	携帯型体動検出器を用いた老人ホーム入所者の睡眠に関する研究	川田 智之	
若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 川田智之, 李卿	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	ライフスタイルと末梢血ゲノムDNA安定性との関連性に係わる予防医学的追跡研究	呂 玉泉	大阪大学医学部
若山葉子, 勝又聖夫, 川田智之, 川田智之, 李卿	衛生学・公衆衛生学	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	凍結保存血清を用いた肝炎流行地域住民の病因と病態との長期的観察	若山 葉子	
川田智之, 李卿	衛生学・公衆衛生学	代表	農林水産省高度化学事業研究	森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明	川田 智之	
李英姫	衛生学・公衆衛生学	代表	農林水産省高度化学事業研究	森林系環境要素がもたらす人の生理的効果の解明	李 卿	
李英姫	衛生学・公衆衛生学	分担	環境再生保全機構	気管支ぜん息の発症リスク低減に関わる因子の検索と管理・指導への応用に関する調査研究	滝澤 始	帝京大学第四内科
高柳和江	医療管理学	分担	長寿社会福祉基金助成金事業	認知症高齢者を抱える家族への支援事業	八代 富子	NPO21世紀癒しの国のアリス
長谷川敏彦, 長谷川友紀, 平尾智広, 河原和夫, 松田晋哉, 木嶋恭一, 工藤裕子, 吉田忠彦	医療管理学	主任 分担	厚生労働省科学研究費補助金	政府の役割と質・安全・公平からみた地域医療システム運営の評価手法と改善誘因の研究報告書	長谷川敏彦	
長谷川敏彦, 西岡清久, 井武澤昭純, 齋藤英彦, 石川功, 飯田修平, 尾智平, 長谷川友紀, 辻典明, 佐藤敏彦	医療管理学	主任 分担	厚生労働省科学研究費補助金	臨床指標を用いた医療の質向上に関する国際共同研究	長谷川敏彦	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
長谷川敏彦, 清水孝夫, 船田雅彦, 石川憲一郎, 種田憲一, 平尾智知子, 児玉	医療管理学	主任分担	厚生労働省科学研究費補助金	日本の医師需給の実証的調査研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦, 平尾智広, 長谷川友紀, 佐藤敏彦, 松本邦愛	医療管理学	主任分担	厚生労働省科学研究費補助金	長寿科学の推進に係るグラントデザインに関する研究	長谷川敏彦	
長谷川敏彦, 純, 武澤智広, 平尾智広, 長谷川友紀, 濱島ちと, 堀口裕正, 井村健司, 山田義浩, 池山晴一, 山下	医療管理学	主任分担	厚生労働省科学研究費補助金	公的がん専門医療機関の機能と経営の評価に関する研究	長谷川敏彦	
高柳和江	医療管理学	代表	平成18年度科学研究費補助金	医療安全の認識および臨床医コンピテンシーを基盤とした臨床判断評価を実現する, ディシジョン・メイキング・シミュレーションツールの開発	高柳和江	
高柳和江	医療管理学	代表	平成18年度フランク・スベッド・メデイカルホームケア研究助成財団	エンパワーメント患者プログラム構築のための研究	高柳和江	
佐藤茂	基礎医学共同研究利用施設・中央電子顕微鏡研究施設	分担	科学研究費補助金	重イオンマイクロビーム利用による昆虫の生体損傷修復機構の解析	木口憲爾	信州大学
広畑泰久	基礎医学共同研究利用施設・中央電子顕微鏡研究施設	代表	三菱化学技術研究センター	医学生物系試料の電子顕微鏡観察における前処理技術	広畑泰久	
伊藤高司	基礎医学共同研究利用施設・情報科学センター	分担	厚生労働省科学研究費補助金	難治性疾患に関する有効な治療法選択等のための情報収集体制の構築に関する研究	工藤翔二	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)
加藤貴雄	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院第1内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	分担	厚生労働省科学研究費補助金	医薬品医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業	上田慶一	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
宮本 正章	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	分担	厚生労働省科学研究費補助金	骨髄幹細胞移植による難治性血管炎への血管再生医療に関する多施設共同研究	池田 宇一	信州大学
宮本 正章	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	分担	厚生労働省科学研究費補助金	難治性血管炎に関する調査研究	尾崎 承一	聖マリアンナ医科大学
高野 照夫	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	独立行政法人 理化学研究所	全ゲノム領域を対象としたSNP解析による不安定狭心症感受性遺伝子の探索	高野 照夫	
加藤 貴雄	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	社団法人 日本医師会	治験の実施に関する研究(塩酸ペプリジル)	加藤 貴雄	
加藤 貴雄	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	トヨタ自動車株式会社, ソニー	自動車運転中の心血管イベント・心臓性突然死の予知・予防を行う技術の開発とその事業化に関する共同研究	加藤 貴雄	
宮内 靖史	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	財団法人 喫煙科学研究財団	ニコチン慢性投与が心房細動発生とその解剖学的 substrate に及ぼす影響	宮内 靖史	
大庭 建三	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	分担	厚生労働省科学研究費補助金 長寿科学総合研究事業	高齢者糖尿病に対する総合診療体制確立のための総合的研究 無作為比較研究(J-EDIT)を中心に	井藤 英喜	東京都老人医療センター
大庭 建三	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	分担	公益信託日本動脈硬化予防研究基金	高齢者高血圧コホート研究; 高血圧患者における年齢階層と動脈硬化度, 高血圧合併症との関連臨床コホート研究(J-CHEARS)	大内 耐義	東京大学加齢医学
鈴木 達也	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病器内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	代表	日本医科大学同窓会 研究助成金	高コレステロール血症を有する2型糖尿病患者におけるコレステミドの血糖低下および抗肥満作用について	鈴木 達也	
新 博次	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・多摩永山病院内科, 循環器内科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	無症候群 Brugada 症候群の予後多施設共同継続研究)	鎌倉 史郎	国立循環器病センター
新 博次	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・多摩永山病院内科, 循環器内科	分担	2005年度厚生労働省科学研究費補助金	無症候性 Brugada 症候群の予後多施設共同継続研究)	鎌倉 史郎	国立循環器病センター

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
新 博次	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・多摩永山病院内科, 循環器内科	代表	社団法人 日本医師会	【2005年度追加分】治療の実施に関する研究(塩酸ペリジル)	新 博次	
新 博次	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・多摩永山病院内科, 循環器内科	代表	社団法人 日本医師会	治療の実施に関する研究(塩酸ペリジル)	新 博次	
三品 雅洋	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院第2内科(神経内科, 腎臓内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	アデノシン受容体PETによるパーキンソン病の病態解明とテラノマイド医療への応用	三品 雅洋	
片山 泰朗	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院第2内科(神経内科, 腎臓内科)	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	新規脳保護薬による脳虚血後の神経再生の増強効果のメカニズムの解明	片山 泰朗	
中島 敦夫	内科学講座(神経・腎臓・膠原病リウマチ部門)・付属病院リウマチ科	分担	厚生労働省科学研究費補助金免疫アレルギー研究事業	関節リウマチ治療における新規生物製剤の治療方針の作成及びその検証に関する研究	宮坂 信之	東京医科歯科大学
及川 眞一	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	分担	厚生労働省科学研究費補助金	高齢者糖尿病病に対する総合診療体制確立のための総合的・無作為比較研究(J-EDIT)を中心に	井藤 英喜	東京都老人医療センター
及川 眞一	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	分担	厚生労働省科学研究費補助金	糖尿病における血管合併症の発症予防と進展抑制に関する研究(JDCStudy)	山田 信博	筑波大学大学院人間総合科学研究科
及川 眞一	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	分担	厚生労働省科学研究費補助金	原発性高脂血症に関する調査研究	山田 信博	筑波大学大学院人間総合科学研究科
及川 眞一	内科学講座(血液・消化器・内分泌代謝部門)・付属病院第3内科(血液内科, 内分泌代謝内科, 消化器内科)	代表	科学研究費補助金	酸化ストレスに対する生体応答としての動脈硬化初期病変形成能と治療法の開発	及川 眞一	
伊藤 敬雄	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	自殺企図の美態と予防介入に関する研究	保坂 隆	東海大学医学部基礎診療学系
伊藤 敬雄, 大久保善朗, 須原哲也	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表 分担	科学研究費補助金	中高年うつ病における自殺企図の生物学的要因に関する脳画像研究	伊藤 敬雄	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
周 健吾	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	科学研究費補助金	脳機能イメージングを用いた口腔内慢性疼痛の新しい診断法と治療効果の客観的評価	荻部 洋行	日本歯科大学歯学部
周 健吾	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金	PET・SPECTを用いたうつ病の認知機能及び末梢性ベンゾジアゼピン受容体の研究	周 健吾	
下田 真人、大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表 分担	科学研究費補助金	拡散テンソル解析を用いた老年期うつ病の認知症以降予測因子の同定	下田 健吾	
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	科学研究費補助金	統合失調症の進行性増悪過程に関する脳形態および脳機能画像を用いた前方視研究	大久保善朗	
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	自殺関連うつ対策戦略研究	高橋 清久	財団法人精神・神経科学振興財団
大久保善朗	精神医学・付属病院精神神経科・多摩永山病院精神神経科・千葉北総病院メンタルヘルス科	代表	先進医薬研究振興財団	複数トレーサーによる各種抗うつ薬の作用機序に関するPET研究	大久保善朗	
藤野 修	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金	平成18年度 インフルエンザ脳症・脳炎患児の脳脊髄液中の発現蛋白におけるプロテオミクス解析	藤野 修	
初鹿野見春	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金	酸素による動脈管収縮メカニズムの解明 プロテインチンアップシテムを用いて	初鹿野見春	
浅井 牧子	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	代表	科学研究費補助金	移植骨髄由来心筋細胞は正常心筋細胞の機能を有するか？イオンチャンネルからの検討	浅井 牧子	
前田 美穂	小児科学・付属病院小児科・武蔵小杉病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	小児がん克服者のQOLと予後の把握および追跡システムの確立に関する研究	岡村 純	九州がんセンター

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
林 宏光	放射線医学・付属病院放射線科・放射線治療科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	異種造影剤の同時投与による腎機能障害：正常および糖尿病腎症ラットを用いた検討	林 宏光	
吉田 寛 田尻 孝 秋丸 琥甫 真々田裕宏 信彦	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	肝組織遺伝子解析からみた脾静脈血行動態の肝繊維化および再生に及ぼす影響	吉田 寛	
松谷 毅 笹島 耕二	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	外科手術における免疫反応の性差とDHEAの関連に関する研究	松谷 毅	
加藤 俊二	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	分担	平成18年度厚生労働省科学研究費補助金	進行胃癌に対する漢方治療の有効性	太田恵一朗	筑波大学 消化器外科
田尻 孝 秋丸 琥甫 有馬 保生 吉田 寛 横室 茂樹	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表 分担	科学研究費補助金 基盤研究(C)	マウスTGF- β 1欠損による慢性肝障害の遺伝子治療	田尻 孝	
木山 輝郎	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	分担	平成17年度厚生労働省科学研究費補助金医療技術評価研究事業	諸外国における院内感染対策の応用に関する研究	芳賀 克夫	国立病院機構熊本医療センター
吉田 寛 真々田裕宏	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表 分担	平成18年度内視鏡医学研究振興財団	食道胃静脈腫瘍破裂の危険因子の検討と低侵襲治療の開発	吉田 寛	
進士 誠一	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表	平成17年度丸山記念研究助成金	大腸癌リンパ節転移機構の解析 isolated tumor cellからmicrometastasis形成過程における癌細胞形質発現の変化	進士 誠一	
進士 誠一	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	代表	平成17年度日本医科大学同窓会医学研究助成金	消化管神経内分泌細胞癌の分子病理学的解析および治療に関する研究	進士 誠一	
松倉 則夫	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	分担	厚生労働省がん研究助成金(15-5)	発がん機序に基づいた胃がんの予防に関する研究	齊藤 大三	国立がんセンター中央病院内視鏡部

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
松谷 毅	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院外科(消化器外科・乳腺外科・一般外科)	代表	科学研究費補助金	外科手術における免疫反応の性差とDHEAの関連に関する研究	松谷 毅	
鈴木 成治	外科学講座(消化器・一般・乳腺・移植部門)・多摩永山病院外科(消化器外科・乳腺外科・一般外科)	代表	科学研究費補助金	胃癌組織の定量的PCR法を用いた特定分子標的領域DNAコヒーターの迅速定量化の開発	鈴木 成治	
進士 誠一	外科学第一・千葉北総病院外科	代表	平成17年度丸山記念研究助成金	大腸癌リンパ節転移機構の解析isolated tumor cellからmicrometastasisそしてovert lymph node metastasis形成過程における癌細胞形質発現の変化	進士 誠一	
進士 誠一	外科学第一・千葉北総病院外科	代表	平成17年度日本医科大学同窓会医学研究助成金	消化管神経内分泌細胞癌の分子病理学的解析および治療に関する研究	進士 誠一	
鈴木 成治	外科学講座(内分泌・心臓血管・呼吸器部門)・付属病院第2外科(内分泌外科,心臓血管外科,呼吸器外科)・千葉北総病院胸部・心臓血管・呼吸器外科	代表	科学研究費補助金	胃癌組織の定量的PCR法を用いた特定分子標的領域DNAコヒーターの迅速定量化の開発	鈴木 成治	
寺本 明	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金	下垂体腺腫の細胞浸潤に関する分子形態学的研究	寺本 明	
吉田 大蔵	脳神経外科学・付属病院脳神経外科	代表	科学研究費補助金	低酸素転写因子を介した下垂体腺腫の浸潤の機序に関する分子生物学的研究	吉田 大蔵	
吉田 大蔵, 寺本 明	脳神経外科学・武蔵小杉病院脳神経外科	代表 分担	科学研究費補助金	低酸素転写因子を介した下垂体腺腫の浸潤の機序に関する分子生物学的研究(継続)	吉田 大蔵	
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	主任	厚生労働省科学研究費補助金	リアルタイムモニタリング飛散数と現状の治療によるQOLの関連性の評価研究と花粉症根治療法の開発	大久保公裕	
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩永山病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	ガイドライン普及のための対策とそれに伴うQOLの向上に関する研究	須甲 松信	東京藝術大学保健センター

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	小児アレルギー性鼻炎の成人への移行を阻止するための治療法の確立に関する研究	岡本 美孝	千葉大学耳鼻咽喉科頭頸部腫瘍科
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科学研究費補助金	スギ花粉症およびダニアレルギーに対する新しい免疫療法の開発	阪口 雅弘	千葉大学耳鼻咽喉科頭頸部腫瘍科
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	東京都花粉症対策事業	スギ花粉エキスによる舌下減感作療法の臨床研究	廣井 隆親	東京都総合臨床研究所
滝沢 竜太	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金	RSウイルス感染アレルギーマウスの好酸球脱顆粒機序の解明	滝沢 竜太	
三枝 英人	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金	ヒトにおける舌の反射性運動の発現と、その新しい臨床応用についての基礎的研究	三枝 英人	
新藤 晋	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	科学研究費補助金	内耳発達過程における cochlin の発現：spatiotemporal な検討	新藤 晋	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	文部科学省科学研究費補助金 基盤研究 (C)	内耳蛋白の網羅的ディファレンシャル解析による治療ターゲット蛋白の同定	池園 哲郎	
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	代表	厚生労働省科学研究費補助金 感覚器障害研究事業	内耳プロテオーム解析を応用した外リンパ瘻の新たな診断法の開発・治療指針の作成	池園 哲郎	

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北総病院耳鼻咽喉科・千葉北総病院耳鼻咽喉科	分担	厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服事業	メニエール病と COCH 遺伝子	竹田 泰三	高知大学耳鼻咽喉科
大久保公裕 後藤 穰	耳鼻咽喉科学・付属病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科・武蔵小杉病院耳鼻咽喉科・多摩北総病院耳鼻咽喉科	主任分担	厚生労働省科学研究費補助金	リアルタイムモニター飛散数と現状の治療による QOL の関連性の評価研究と花粉症根治療法の開発	大久保公裕	
平岡 東	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科・多摩北総病院眼科	代表分担	科学研究費補助金	未熟児網膜症における遺伝子要因の解析とシグナル伝達系への関与	平岡 美紀	
堀 純子 北原 由紀	眼科学・付属病院眼科・武蔵小杉病院眼科	代表分担	科学研究費補助金	眼の免疫特権機構の解明と角膜移植後拒絶反応の制御	堀 純子	
坂本 篤裕	麻醉科学・付属病院麻醉科	代表	科学研究費補助金 基礎研究(C)	麻醉薬・麻酔法が体内遺伝子発現に及ぼす影響	坂本 篤裕	
坂本 篤裕	麻醉科学・付属病院麻醉科	分担	厚生労働省科研究費補助金	血液製剤安定確保のための人工酸素運搬体を用いた救急医療への応用に関する研究	四津 良平	慶應義塾大学医学部
布施 明	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩北総病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科研究費補助金	脳死者の発生等に関する研究	有賀 徹	昭和大学医学部
増野 智彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩北総病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	科学研究費補助金	多臓器不全発生に關与する脂質メタボリックシンドロームの解明	小池 薫	京都大学
増野 智彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩北総病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	科学研究費補助金	出血性ショックに続発する多臓器障害に対する代用血液および保存血の影響	相星 淳一	東京医科歯科大学
増野 智彦	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命救急センター・多摩北総病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	学術研究振興資金	NMR メタボローム解析技術を用いた疾患解明システム：臨床応用を目指して	大野 曜吉	法医学

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
山本 保博	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	主任	厚生労働省科学研究費補助金 医療安全・医療技術評価総合研究事業	メデイカルコントロール体制の充実に関する研究	山本 保博	
山本 保博	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金 医療安全・医療技術評価総合研究事業	予口に対する医療体制の充実及び評価の研究	大友 康裕	東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科救急災害医学
山本 保博	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業	生物予口に使用される可能性の高い細菌・ウイルス等による感染症の蔓延防止、予防、診断、治療に関する研究	佐多徹太郎	国立感染症研究所感染病理部
宮内 雅人	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金	精神科病棟における患者像と医療内容に関する研究	保坂 隆	東海大学精神医学
横田 裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	代表	科学研究費補助金 萌芽研究	研究「ポテンシャルドナーを増やすための電気生理学的検査を用いた脳死判定に関する研究」	横田 裕行	
横田 裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金 循環器疾患等生活習慣疾病対策総合研究	自動体外式除細動器(AED)を用いた心疾患の救命率向上のための体制の構築に関する研究(H18 心筋01)	丸川征一郎	兵庫医科大学救急災害医学
横田 裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金 ヒトゲノム・再生医療等研究事業	救急医療における脳死患者の対応法の啓発セミナー	島崎 修次	杏林大学医学部救急医学
横田 裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金 ヒトゲノム・再生医療等研究事業	脳死患者家族の心理過程についての探索的研究	小中 節子	日本臓器移植ネットワーク

研究者	所属	代表分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
横田 裕行	救急医学・付属病院高度救命救急センター・武蔵小杉病院救命センター・多摩永山病院救命救急センター・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金 厚生労働科学特別研究	脳死者の発生等に関する研究：アンケート調査の実施，文献等のまとめ	有賀 徹	昭和大学医学部救急医学
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	分担	厚生労働省科学研究費補助金	トクターヘーリの実態と評価に関する研究	小濱 啓次	川崎医科大学名誉教授
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表	財団法人三井住友海上福祉財団	交通事故死傷者数の削減を目的とした重点的交通事故ミク口調査の意義に関する研究	益子 邦洋	
益子 邦洋	救急医学・千葉北総病院救命救急センター	代表	救急振興財団	救急隊員に対する内科的疾患向け教育コースと情報伝達能力向上のための教育教材の開発	益子 邦洋	
牧野 俊郎	救急医学・成田国際空港クリニック	分担	厚生労働省科学研究費補助金	NBC災害・テロ対応のシミュレーションと標準対応に関する研究	山本 保博	救急医学
原 行弘	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	パラメーター記憶機能付パワーアシスト型機能的電気刺激によるリハビリテーション	原 行弘	
原 行弘	千葉北総病院付置施設等・千葉北総病院リハビリテーション科	代表	平成18年度教育研究用ソフトウェア高度情報化推進特別研究費	脳磁図，脳電図解析用ソフトウェア BESA	原 行弘	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 特定領域研究	発がん時におけるミトコンドリア遺伝子体細胞変異の蓄積によるがん増殖促進機構	太田 成男	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	主任	厚生労働省科学研究費補助金 長寿科学総合事業	トランスジェニックマウスを用いたミトコンドリア酸化ストレスの抑制によるアルツハイマー病予防・治療法の開発	太田 成男	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究(B)	細胞死抑制強化蛋白質の細胞内導入による脳梗塞治療法の開発	太田 成男	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	文部科学省大学院整備重点化経費	ミトコンドリア遺伝子変異による抗癌剤への耐性獲得の分子機構	太田 成男	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	文部科学省特別研究員奨励費	老年病および生活習慣病におけるミトコンドリアからの活性酸素の放出機構	太田 成男	
麻生 定光	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	細胞死抑制活性強化蛋白質の細胞内導入治療法による肝組織変性の抑制	麻生 定光	

研究者	所属	代表 分担	補助・委託元	研究課題名	代表研究者	代表研究者所属
大澤 郁朗	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 基盤研究(C)	エノルギー代謝低下による神経細胞終末分化促進機構の解明	大澤 郁朗	
上村 尚美	老人病研究所・生化学部門	代表	科学研究費補助金 若手研究(B)	核遺伝子産物MIDASによるミトコンドリア増殖機構の解明	上村 尚美	
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	科学研究費補助金 特定領域研究	ミトコンドリアtRNA遺伝子突然変異導入マウスの病態解析と遺伝子治療	林 純一	筑波大学生物科学系
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省 精神・ 神経疾患研究委託事業	筋ジストロフィーおよびその関連する疾患の病態生理の解明と治療薬物の開発に関する研究	清水 輝夫	帝京大学神経内科
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	分担	厚生労働省 長寿医療研究委託事業	高齢者の認知機能障害に関する遺伝子多型の検討	下方 浩史	国立長寿医療センター 研究所 疫学研究部
太田 成男	老人病研究所・生化学部門	代表	ブルー・マーキョ ブルー	株式会社 ブルー・マーキョリで開発した中性含酸素水の生理作用の解明とその応用開発	太田 成男	

5. 平成18年度学術賞受賞一覧

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
清水 章	病理学第一	個人	学術研究賞	慢性糸球体腎炎の遷延と毛細血管網の修復不全, および, 七の積極的な治療	日本病理学会	2006	11
李 卿	衛生学・公衆衛生学	個人	日本産業衛生学会奨励賞	有機リン農薬による免疫毒性のメカニズム	日本産業衛生学会	2006	5
李 卿	衛生学・公衆衛生学	個人	平成18年度日本医学科大学医学会奨学賞	有機リン農薬による免疫毒性の新しい機序	日本医科大学医学会	2006	9
淀川顕司	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院第1内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	個人	第10回日本心不全学会学術集會 YIA 優秀研究賞	Non-invasive detection of latent cardiac sarcoidosis using signal averaged electrocardiogram	日本心不全学会	2006	10
高野仁司	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院第1内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	個人	TCT Scholarship	Successful Balloon Valvuloplasty in Conjunction with Intra-Aortic Balloon Pumping in an Octogenarian who Developed Cardiogenic Shock due to Severe Aortic Valve Stenosis	Transcatheter Cardiovascular Therapeutics	2006	10
高野仁司	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院第1内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	個人	AHA Clinical Science Award	Reduced Coronary Flow Reserve is a Predictor of Cardiac Events in Patients with Non-Ischemic Cardiomyopathy as well as in those with Cardiac Amyloidosis	American Heart Association	2006	11

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
岩崎雄樹	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院第1内科(一般内科, 循環器内科, 肝臓内科)	個人	Best Poster Award	Glucocorticoid Induces Atrial Arrhythmogenesis via Modification of Ion Channel Gene Expression in Rats	Asia-Pacific Atrial Fibrillation Symposium	2006	11
鈴木一成, 小原信, 猪狩吉雅, 松村典昭, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 田村浩一 ¹⁾ , 横尾英明 ²⁾	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・付属病院老人科	グループ	第44回日本老年医学会東甲信越地方会優秀演題賞	プリオン蛋白遺伝子codon180の点変異(V180I)とcodon129の正常多型を認めたCreutzfeldt-Jacob病(CDJ)の1例	日本老年医学会 東甲信越支部	2006	9
堀江 格	内科学講座(循環器・肝臓・老年・総合病態部門)・多摩永山病院内科, 循環器内科	個人	第11回日本心電学会学術奨励賞	Adenosine-sensitive atrial tachycardia originating from the proximal coronary sinus	日本心電学会	2006	7
岡野哲也, 工藤翔二, 弦間昭彦	内科学講座(呼吸器・感染・腫瘍部門)・付属病院呼吸器内科	グループ	平成18年度丸山記念研究助成金	肺がんの血清プロテオーム解析 発癌と喫煙に関するタンパク質発現プロファイル	日本医科大学	2006	8
林 宏光, 日高史貴, 鳥羽正浩, 高木 亮, 隈崎達夫, 佐々木孝 ¹⁾ , 新田 隆 ¹⁾ , 落 雅美 ¹⁾	放射線医学・付属病院放射線科・放射線治療科	グループ	芸術賞 (Best Presentation Award)	MDCTによる左室心筋内脂肪種の評価: 局在診断から質的診断まで	第16回日本心血管画像動態学会	2006	1
林 宏光, 栗林幸夫 ¹⁾	放射線医学・付属病院放射線科・放射線治療科	グループ	金賞	心臓CT検査の現状: Tokyo Heart Imaging Clubにおけるアンケート調査報告	第65回日本医学放射線学会	2006	4
進士誠一	外科学第一・付属病院第1外科(消化器外科, 乳癌外科, 移植外科, 一般外科)	個人	平成17年度丸山記念研究助成金	大腸癌リンパ節転移機構の解析 isolated tumor cell から micrometastasis そして overt lymph node metastasis 形成過程における癌細胞形質発現の変化	日本医科大学	2005	7

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
水口義昭	付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	個人	平成18年度日本医科大学医学会奨学賞	RNA干渉分子による急性・慢性肝炎肝硬変症治療薬創薬	日本医科大学医学部	2006	9
進士誠一	付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	個人	同窓会医学研究助成金	消化管神経内分泌細胞癌の分子病理学的解析および治療に関する研究	日本医科大学同窓会	2006	5
松谷 毅	付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	個人	第21回日本Shock学会会長賞	卵巣摘出術後マウスを用いたTrauma-Hemorrhage後の組織中サイトカイン値と年齢差の関係	日本 Shock 学会	2006	5
Katsuta M	付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	個人	Young Investing Award	Correlation of hypoxia inducible factor-1 with lymphatic metastasis via vascular endothelial growth factor-C in human esophageal cancer	14th United European Gastroenterology Week	2006	10
Yoshida H	付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	個人	研究奨励賞	Long-term results of partial splenic artery embolization as supplemental treatment for hepatic encephalopathy associated with portal-systemic shunts. 他3編	日本医科大学助講会	2006	12
Mizuguchi Y	付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	個人	研究奨励賞	Short hairpin RNA modulates transforming growth factor signaling in life-threatening liver failure in mice	日本医科大学助講会	2006	12
吉田 寛	付属病院第1外科(消化器外科, 乳腺外科, 移植外科, 一般外科)	個人	日本医科大学賞	食道胃静脈腫に対する新しい手術療法, 内視鏡治療の開発	日本医科大学	2007	3

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
松谷 毅, 笹島耕二, 丸山 弘, 宮本昌之, 横山 正, 鈴木成治, 松田明久, 柏原 元, 宮下正夫 ⁽¹⁾ , 田尻 孝 ⁽¹⁾ 進士誠一	多摩永山病院外科 (消化器外科・乳腺外 科・一般外科) 外科学第一・千葉北 総病院外科	グループ	第21回日本 Shock 学会 会長賞 平成17年度丸山記 念研究助成金	卵巣摘出術後マウス を用いた Trauma- Hemorrhage 後の組 織中サイトカイン値 と年齢差の関係 大腸癌リンパ節転移 機構の解析 isolated tumor cell から micrometastasis そして overt lymph node metastasis 形 成過程における癌細 胞形質発現の変化	日本 Shock 学会 日本医科大学	2006 2005	5 7
進士誠一	外科学第一・千葉北 総病院外科	個人	医学研究助成金	消化管神経内分泌細 胞癌の分子病理学的 解析および治療に関 する研究	日本医科大学同窓 会	2006	5
石井庸介	付属病院第2外科(内 分泌外科, 心臓血管 外科, 呼吸器外科)・ 千葉北総病院胸部・ 心臓血管・呼吸器外 科	個人	第18年度日本医師 会医学研究助成費	心臓手術後心房細動 に対する遺伝子治療	日本医師会	2006	11
石井庸介	付属病院第2外科(内 分泌外科, 心臓血管 外科, 呼吸器外科)・ 千葉北総病院胸部・ 心臓血管・呼吸器外 科	個人	第18年度東京都医 師会医学研究助成費	心臓手術後心房細動 に対する遺伝子治療	東京都医師会	2007	3
田原重志	脳神経外科学・付属 病院脳神経外科	個人	優秀演題賞	内分泌学的治療が得 られた神経下垂体部 に接した ACTH 産 生下垂体腫瘍による Cushing 病の1例	第7回日本内分泌 学会関東甲信越支 部学術集会	2007	2
Nanno M	整形外科学・付属病 院整形外科・武蔵小 杉病院整形外科・多 摩永山病院整形外 科・千葉北総病院整 形外科	個人	Best Scientific Con- tinent (The Scientific Exhibit session)	Three-Dimensional Analysis of Liga- mentous Attach- ments of the Car- pometacarpal joints	61st Annual meeting of the American Society for Surgery of the Hand	2006	9

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
Pawankar R	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・武蔵小杉 病院耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻咽喉 科・千葉北総病院耳 鼻咽喉科	個人	ACAAI Interna- tional Distinguished Fellow Award	International contri- bution to the field of Allergy	American College of Al- lergy Asthma and Immunology	2006	11
Pawankar R	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・武蔵小杉 病院耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻咽喉 科・千葉北総病院耳 鼻咽喉科	個人	DN Shivpuri Ora- tion Award	Scientific contribution on pathomechanisms of allergic rhinitis	India	2006	12
Pawankar R	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・武蔵小杉 病院耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻咽喉 科・千葉北総病院耳 鼻咽喉科	個人	IAA Achievement Award	Immune mecha- nisms and immuno- modulation of aller- gic diseases	Indian Academy of Allergy Asthma	2007	1
平岡保紀	泌尿器科学・多摩永 山病院泌尿器科	個人	日本泌尿器科学会総 会賞	前立腺肥大症に対す る剥離TURPによる 腺腫完全剥離への試 み（経尿道的前立腺 剥離摘出術：TUDP）	日本泌尿器科学会	2007	4
堀 純子	眼科学・付属病院眼 科・武蔵小杉病院眼 科・多摩永山病院眼 科	個人	眼炎症学会学術奨励 賞	眼瞼連組織（角膜， 網膜，神経幹細胞） の移植における免疫 特権の解析	第40回日本眼炎 症学会	2006	7
寺嶋克幸，岸川洋昭， 坂本篤裕	麻酔科学・付属病院 麻酔科	グループ	グッドブレゼンター シヨン賞	肺水腫を併う帝王切 開に対するNPPVと 脊椎麻酔	日本臨床麻酔学会	2006	10
中西一浩，竹田豊浩， 金 徹，岸川洋昭， 幸田修典，白川 真， 坂本篤裕	麻酔科学・付属病院 麻酔科	グループ	グッドブレゼンター シヨン賞	Pringle's maneuver を用いる肝切除術に おける心拡張機能の 変動；組織ドップ ラー法を用いた心機 能評価	日本臨床麻酔学会	2006	10

受賞者	所属	受賞者区分	受賞学術賞名	受賞研究名・論文	授賞団体	年	月
宮内雅人	救急医学・付属病院 高度救命救急セン ター・武蔵小杉病院 救命センター・多摩 永山病院救命救急セ ンター・成田国際空 港クリニック 付属病院付置施設 等・付属病院中央検 査部	個人	丸茂救急医学研究振 興基金	ラット出血性シヨツ クモモデルにおける肝 臓のマイクログRNA 発現解析	公益信託丸茂救急 医学研究振興基金 運営委員会	2006	10
木 豊	付属病院付置施設 等・付属病院中央検 査部	個人	平成18年度丸茂手木 優秀演題賞	自動分析機器におけ る静電容量型液面セ ンサーの電圧変化解 析による流路系プロ セスの把握	日本臨床検査自動 化学会	2006	10
片山博徳，前田昭太郎， 工藤光洋，内藤善哉	多摩永山病院付置施設 等・多摩永山病院 病理部	グループ	平成18年度第74回 日本医科大学医学会 総会優秀演題賞	乳癌細胞診標本にお ける Chromogenic In Situ Hybridization 法 を用いた HER2 遺伝 子検出の基礎的検討	日本医科大学医学 会	2006	9
Katayama H, Maeda S, Kudo M, Naito Z	多摩永山病院付置施設 等・多摩永山病院 病理部	グループ	第13回日・タイ細胞 診ワーグシヨツプ ポスター賞1位	Chromogenic In Situ Hybridization to Detect HER2/ new Gene Amplifi- cation in Breast Carcinoma Fine-nee- dle cytology speci- mens	日本臨床細胞学 会，タイ細胞学会	2007	1
富里謙一	千葉北総病院付置施設 等・千葉北総病院 中央画像検査室	個人	学術奨励賞	胸骨側面像の Digital技術を応用 した撮影systemの 構築	日本放射線技術学 会 東京部会	2007	1
清水 一	老人病研究所・病理 部門	個人	第47回日本肺癌学 会総会「優秀ポス ター演題」	The expression and function of Met AP2 in human non- small cell cancers	日本肺癌学会	2006	12

6. 平成18年度知的財産一覧（特許権）

発明者	所属	発明の名称	出願番号 (出願日)	公開番号 (公開日)	特許番号 (登録日)	出願人
高市真一	自然科学・生物学	新規微生物，および新規 規カ口テノイドの製造 方法	特願 2006 161867			独立行政法人製品評価技 術基盤機構，学校法人日 本医科大学
水口義昭，三嶋拓也， 横室茂樹，田尻 孝， 瀧澤俊宏	付属病院第1外科(消化器 外科，乳腺外科，移植外 科，一般外科)	ヒトチトミミジル酸合成酵 素に対するRNAとして作 用するRNA配列	特願 2004 068081			学校法人日本医科大学
水口義昭，三嶋拓也， 横室茂樹，田尻 孝， 瀧澤俊宏	付属病院第1外科(消化器 外科，乳腺外科，移植外 科，一般外科)	TGF 1レセプターII 型に対するRNAIとして 作用するRNA配列	特願 2004 068151			学校法人日本医科大学
大久保公裕	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・武蔵小杉 病院耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻咽喉 科・千葉北総病院耳 鼻咽喉科	スギ花粉症の診断方法	2006 288853			
池園哲郎，八木聰明， 大森 彬	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・武蔵小杉 病院耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻咽喉 科・千葉北総病院耳 鼻咽喉科	外リンパ嚢の検出方法	特願 2003 182860			学校法人日本医科大学， 三菱化学（株）
加藤政利，新藤 晋， 野原泰明，池園哲郎， 八木聰明	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・武蔵小杉 病院耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻咽喉 科・千葉北総病院耳 鼻咽喉科	眼振誘発装置	特願 2005 179515			学校法人日本医科大学
池園哲郎，八木聰明	耳鼻咽喉科学・付属 病院耳鼻咽喉科・頭 頸部外科・武蔵小杉 病院耳鼻咽喉科・多 摩永山病院耳鼻咽喉 科・千葉北総病院耳 鼻咽喉科	耳治療用成型物	2006 356080			学校法人日本医科大学， 高研（株）
並松茂樹	付属病院付置施設 等・付属病院病理部	抗原賦活化法及びその 抗原賦活剤	特願 2001 160424		2006/4/28	並松茂樹

あ と が き

この第53巻が講師以上に配布されてきた「日本医科大学研究業績年報」の掉尾を飾ることとなる。半世紀以上にわたって発刊され本学の研究活動の周知と客観的評価の資料としての使命を果たしてきたが、電子化の時代を迎え、現在入力中の第54巻は配布を研究単位に限ることとなった。将来はWeb上で何処からも、誰でも検索参照できる独自のデータベースに発展する予定である。データの入力では学内各位のご負担も軽減されることになる。これまでのご協力を感謝すると共に、文部科学省や私学振興事業団などへの助成の申請や専門医申請などの際の書類の作成に活用して下さいようお願い申し上げる。これまでの「研究業績年報」も逐次電子化が進んでおり、将来的には図書館の協力も得て論文本体にリンクした巨大な電子空間になることが期待される。独自のデータベースの構築は、特に学術発表が複数の言語で行われる本邦では、研究活動全般の把握に有効である。一方で公開は研究活動の評価、ひいては日本医科大学の社会的評価がより厳しい目に晒されることになる。試みに現在世界最大の商用データベースの一つで、日本語の論文も一部含むScopusで調べると、1993年以來の16年間に日本医科大学から発表された論文数は5991編、被引用頻度の高い15位までの計80編の論文は合計7460回引用されていた。たまたま必要があって調べた東京近郊の公立大学医学部の同時期の論文数は3272編、被引用回数は8911回である。総論文数では本学がはるかに上回っているが、研究に与えたインパクトでは同程度ということになる。被引用回数は研究分野の研究者の数や話題性など、研究の価値とは異なるさまざまな要因に依存するので、短兵急な判断は慎むべきであるが、本学の今後の課題は発表論文の数を維持しつつ、評価の高い国際的学術誌への発表に努めることであろう。他方日本国内の学会誌は質の良い論文の確保に苦勞している実情がある。平成8年以來、「研究業績年報」の末尾には、文部科学省科学研究費補助金を始め、公的資金による助成金の取得実績が掲載されており、これについても公開されることになる。国民の税金から支出されて行った研究の成果が、欧米の雑誌の隆盛に手を貸すことについては批判の声があることも事実で、現在日本生理学会英文誌の編集委員長を務めている小職も頭を痛めている。国内学会誌の維持は、研究発表の場を確保する点で大きな意味があり、国際的評価を高めるべく各学会で試みが行われている。電子版への移行がこのような試みにも寄与することを信じて、あとがきとしたい。

平成19年12月

研究委員会委員長 佐久間康夫